



Cisco Unified Communications Manager
機能およびサービス ガイド
Cisco Unified Communications Manager
Features and Services Guide

リリース 8.5(1)

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)をご確認ください。

本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。
リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザー側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコシステムズおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコシステムズおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコシステムズまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco および Cisco ロゴは、米国シスコシステムズ社や米国および他の国の関連会社の商標です。シスコの商標の一覧は、www.cisco.com/go/trademarks で参照できます。本書に記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者の財産です。「パートナー」または「partner」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1005R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド

© 2010 Cisco Systems, Inc.

All rights reserved.

Copyright © 2010-2011, シスコシステムズ合同会社.

All rights reserved.



CONTENTS

はじめに xxxvii

CHAPTER 1

割り込みとプライバシー	1-1
割り込みの設定チェックリスト	1-2
プライバシーおよび Privacy on Hold の設定チェックリスト	1-4
割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold の概要	1-6
割り込み	1-6
ワンボタン割り込み / C 割り込み	1-7
ビルトイン会議を使用した割り込み：ワンボタン割り込み機能または [割り込み] ソフトキー	1-8
共有会議を使用した割り込み：ワンボタン C 割り込み機能または [C 割込] ソフトキー	1-10
割り込みの電話機表示メッセージ	1-10
パーティ参加トーンと割り込み、C 割り込み、またはワンボタン割り込み	1-10
プライバシー	1-11
Privacy on Hold	1-12
割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold のシステム要件	1-12
割り込みおよびプライバシーをサポートするデバイス	1-13
インタラクションおよび制限事項	1-14
インタラクション	1-14
割り込みと C 割り込み	1-14
割り込みとコール パーク	1-14
割り込みと参加	1-14
PLAR に対する割り込み、C 割り込み、およびワンボタン割り込みのサポート	1-15
制限事項	1-16
割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold のインストールとアクティブ化	1-17
ビルトイン会議ブリッジでの割り込みのアクティブ化	1-18
共有会議ブリッジでの C 割り込みのアクティブ化	1-18
プライバシーのアクティブ化	1-18
Privacy on Hold のアクティブ化	1-18
割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold の設定	1-18
割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold 用のサービス パラメータの設定	1-19
関連項目	1-20

CHAPTER 2

折返し	2-1
折返しの設定チェックリスト	2-1
折返しの概要	2-3
折返しの動作について	2-3
折返しの中断 / 再開機能	2-6
折返しのシステム要件	2-6
インタラクションおよび制限事項	2-7
SIP を実行する電話機での折返し通知に関する追加情報	2-8
自動転送機能、即時転送機能、およびボイスメール システム機能との機能インタラクション	2-8
折返しのインストールとアクティブ化	2-9
[折返し] ソフトキーの設定	2-9
CallBack ソフトキーを含むソフトキー テンプレートの作成	2-9
共通デバイス設定での CallBack ソフトキー テンプレートの構成	2-11
電話機の設定における CallBack ソフトキー テンプレートの追加	2-11
折返し機能ボタンの設定	2-12
折返し機能ボタン用の電話ボタン テンプレートの作成	2-12
電話の設定での折返し電話ボタン テンプレートの追加	2-13
折返しのサービス パラメータの設定	2-13
ユーザに対する折返しの情報の提供	2-13
折返しのトラブルシューティング	2-13
関連項目	2-14

CHAPTER 3

コール制御ディスカバリ	3-1
コール制御ディスカバリの設定チェックリスト	3-2
Cisco Unified Communications Manager のコール制御ディスカバリの概要	3-5
コール制御ディスカバリの概要	3-5
コール制御ディスカバリ機能のコンポーネント	3-6
コール制御ディスカバリの用語	3-7
コール制御ディスカバリ アドバタイジング サービス	3-9
コール制御ディスカバリ要求サービス	3-11
SAF フォワーダ	3-14
コール制御ディスカバリのシステム要件	3-17
インタラクションおよび制限事項	3-17
コール制御ディスカバリのインストールとアクティブ化	3-19
コール制御ディスカバリの設定	3-19
コール制御ディスカバリの設定に関する考慮事項	3-20
コール制御ディスカバリの機能パラメータ	3-24
SAF セキュリティ プロファイルの設定項目	3-26

SAF フォワーダの設定項目	3-27
ホステッド DN グループの設定項目	3-31
ホステッド DN パターンの設定項目	3-32
CCD アドバタイジング サービスの設定項目	3-34
コール制御ディスカバリのパーティションの設定項目	3-36
CCD 要求サービスの設定項目	3-37
ブロックされた学習パターンの設定項目	3-40
コール制御ディスカバリの設定レコードの検索	3-42
コール制御ディスカバリの設定（手順）	3-44
SAF 対応トランクの設定	3-46
ホステッド DN グループに属するホステッド DN パターンの識別	3-46
コール制御ディスカバリの設定レコードの削除	3-46
エンド ユーザへの情報の提供	3-47
コール制御ディスカバリのトラブルシューティング	3-47
関連項目	3-47

CHAPTER 4

Call Display Restrictions 機能	4-1
Call Display Restrictions の設定チェックリスト	4-1
Call Display Restrictions 機能について	4-2
Call Display Restrictions 機能の概要	4-3
Call Display Restrictions の有効化	4-3
Call Display Restrictions のシステム要件	4-4
Call Display Restrictions を使用する場合のシナリオ	4-4
インタラクション	4-5
コール パーク	4-5
会議リスト	4-6
会議とボイスメール	4-6
エクステンション モビリティ	4-6
Call Display Restrictions の設定	4-7
トランスレーション パターンのパラメータ設定	4-7
電話の設定	4-9
設定例	4-9
パーティション	4-10
コーリング サーチ スペース	4-10
デバイスとゲートウェイ	4-11
トランスレーション パターン	4-11
コール パーク	4-14
コール フローの例	4-14
接続先番号の表示制限に関するサービス パラメータの設定	4-15
関連項目	4-15

CHAPTER 5

コール パークとダイレクト コール パーク	5-1
コール パークの設定チェックリスト	5-2
ダイレクト コール パークの設定チェックリスト	5-3
コール パークの概要	5-5
コール パークのシステム要件	5-8
インタラクションおよび制限事項	5-8
インタラクション	5-8
CTI アプリケーション	5-9
保留音	5-9
ルート プラン レポート	5-9
コーリング サーチ スペースとパーティション	5-9
即時転送	5-9
割り込み	5-9
ダイレクト コール パーク	5-10
Q.SIG クラスタ間トランク	5-10
制限事項	5-10
コール パークのインストールとアクティブ化	5-11
コール パークの設定	5-11
コール パークのサービス パラメータの設定	5-11
コール パーク番号の検索	5-12
コール パーク番号の設定	5-13
コール パークの設定項目	5-13
コール パーク番号の削除	5-15
Cisco Unified IP Phone 8961、9951、および 9971 のパーク モニタリング	5-16
パーク モニタリングのサービス パラメータの設定	5-16
[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウでのパーク モニタリング パラメータの設定	5-18
[ハントパイロットの設定 (Hunt Pilot Configuration)] ウィンドウでのパーク モニタリング パラメータの設定	5-19
ダイレクト コール パークの概要	5-19
ダイレクト コール パークのシステム要件	5-20
インタラクションおよび制限事項	5-21
インタラクション	5-21
保留音	5-21
ルート プラン レポート	5-21
コーリング サーチ スペースとパーティション	5-21
即時転送	5-22
割り込み	5-22
コール パーク	5-22
制限事項	5-22

ダイレクトコールパークのインストールとアクティブ化	5-23
ダイレクトコールパークの設定	5-23
ダイレクトコールパークのサービスパラメータの設定	5-24
ダイレクトコールパーク番号の検索	5-24
ダイレクトコールパーク番号の設定	5-25
ダイレクトコールパークの設定項目	5-26
BLF/ダイレクトコールパークボタンの設定	5-28
BLF/ダイレクトコールパークの設定項目	5-28
ダイレクトコールパークとその影響を受けるデバイスの同期	5-29
ダイレクトコールパーク番号の削除	5-30
Cisco Unified IP Phone (SIP) の処理されたダイレクトコールパーク	5-30
関連項目	5-31

CHAPTER 6

コールピックアップ	6-1
コールピックアップおよびグループコールピックアップの設定チェックリスト	6-1
他グループコールピックアップの設定チェックリスト	6-4
ダイレクトコールピックアップの設定チェックリスト	6-6
BLFコールピックアップの設定チェックリスト	6-8
コールピックアップの概要	6-11
コールピックアップ	6-12
グループコールピックアップ	6-12
他グループコールピックアップ	6-13
ダイレクトコールピックアップ	6-13
ダイレクトコールピックアップの例	6-14
BLFコールピックアップ	6-17
BLFコールピックアップの例	6-18
自動コールピックアップ	6-19
応答なし時のコールピックアップ	6-20
ビジー時のコールピックアップ	6-20
帯域幅不足時のコールピックアップ	6-20
ハントリストでのコールピックアップ機能の使用	6-20
パーティションによりアクセスを制限するコールピックアップ機能の使用	6-23
コールピックアップ通知	6-23
コールピックアップのシステム要件	6-24
インタラクションおよび制限事項	6-25
インタラクション	6-26
ルートプランレポート	6-26
コーリングサーチスペースとパーティション	6-26
Time of Day	6-26
コールアカウンティング	6-26

依存関係レコード	6-27
制限事項	6-27
コール ピックアップのインストールとアクティブ化	6-28
コール ピックアップ機能の設定	6-28
コール ピックアップのサービス パラメータの設定	6-28
コール ピックアップ グループの設定	6-29
コール ピックアップ グループの検索	6-29
コール ピックアップ グループの設定	6-30
コール ピックアップ グループの設定項目	6-31
コール ピックアップ グループの削除	6-34
他グループ コール ピックアップのピックアップ グループの定義	6-35
電話番号へのコール ピックアップ グループの割り当て	6-36
ハント パイロットへのコール ピックアップ グループの割り当て	6-36
関連項目	6-37

CHAPTER 7

コール スロットリングおよび Code Yellow 状態	7-1
コール スロットリングの概要	7-1
コール スロットリングのトラブルシューティング	7-3
関連項目	7-3

CHAPTER 8

発信側の正規化	8-1
発信側の正規化の設定チェックリスト	8-1
発信側の正規化の概要	8-4
発信側番号のグローバル化	8-5
発信側番号のローカライズ	8-8
グローバル発信側番号と対応するローカル番号のマッピング	8-9
システム要件	8-11
インタラクションおよび制限事項	8-11
インタラクション	8-11
転送されたコールの発信側番号のグローバル化およびローカライズ	8-11
自動転送されたコールの発信側番号のグローバル化およびローカライズ	8-12
一括管理ツール	8-12
呼詳細レコード	8-12
Cisco Unified Communications Manager Assistant	8-12
Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting	8-13
Cisco Unity/Cisco Unity Connection	8-13
Cisco エクステンション モビリティ	8-13
デバイス モビリティ	8-13
制限事項	8-14
発信側の正規化のインストールとアクティブ化	8-15

発信側の正規化の設定	8-15
発信側の正規化のサービス パラメータの設定	8-16
発呼側番号タイプの設定	8-18
[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定	8-20
発信側番号をローカライズするための発呼側トランスフォーメーション コーリングサーチ スペース (CSS) の適用	8-28
エンド ユーザへの情報の提供	8-29
関連項目	8-29

CHAPTER 9

Cisco エクステンション モビリティ	9-1
Cisco エクステンション モビリティの設定チェックリスト	9-2
Cisco エクステンション モビリティの概要	9-5
デバイス プロファイルについて	9-6
ユーザのデバイス プロファイル	9-6
デフォルトのデバイス プロファイル	9-6
Cisco エクステンション モビリティの概要	9-6
ログインおよびログアウトの動作	9-9
ログインのコール フロー	9-10
ログアウトのコール フロー	9-11
エクステンション モビリティ等価機能	9-12
Cisco エクステンション モビリティのシステム要件	9-14
インタラクションおよび制限事項	9-15
インタラクション	9-15
同じサーバ上で動作する Cisco Unified Communications Manager サービス一括管理ツール	9-15
Cisco Unified Communications Manager Assistant	9-15
Call Display Restrictions 機能	9-16
インターコム	9-16
インターネット プロトコル バージョン 6 (IPv6)	9-16
制限事項	9-17
Cisco エクステンション モビリティの初回のインストール	9-18
Cisco エクステンション モビリティの設定	9-18
設定のガイドライン	9-18
設定の例 1	9-19
設定の例 2	9-19
Cisco エクステンション モビリティ サービスの追加	9-20
サービス パラメータの設定	9-21
Cisco エクステンション モビリティ サービス パラメータの比較	9-26
各 Cisco Unified IP Phone タイプのデフォルト デバイス プロファイルの作成	9-27

ユーザのデバイス プロファイルの作成	9-30
ユーザへのユーザ デバイス プロファイルの関連付け	9-33
Cisco エクステンション モビリティへの Cisco Unified IP Phone の登録	9-34
Change Credential IP Phone サービスの設定	9-36
Cisco エクステンション モビリティ ユーザへの情報の提供	9-37
関連項目	9-38

CHAPTER 10

Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ	10-1
EMCC の設定チェックリスト	10-2
EMCC の概要	10-13
EMCC と Cisco エクステンション モビリティ	10-14
EMCC ソリューション	10-14
EMCC ログイン	10-16
EMCC ログインの用語	10-16
EMCC ログインの進行	10-17
EMCC でサポートする電話機	10-20
EMCC の設定	10-21
EMCC のアクティブ ログインとリモート ログインの概要	10-21
EMCC コール処理	10-22
EMCC コール処理の概要	10-23
EMCC コール処理の特徴	10-23
EMCC コール処理の要件	10-24
緊急通話の EMCC コール処理	10-24
ローミング用デバイス プールの検索	10-25
ホーム クラスタの位置情報を使用したローミング用デバイス プールの マッチング	10-25
EMCC コール処理の設定	10-26
ホーム クラスタ内の EMCC 電話機とそのローミング用デバイス プールの 一覧表示	10-26
ホーム クラスタ内の EMCC コール処理	10-26
EMCC コール ルーティング	10-27
ホーム クラスタでの訪問先クラスタの緊急事態パターンの設定	10-27
ホーム クラスタの EMCC 訪問先電話機のローカル ルート グループ ルーティング	10-28
EMCC SIP トランクを使用したローカル ルート グループルーティング	10-29
デバイス プロファイル内の EMCC コーリング サーチ スペース	10-29
EMCC 電話機のリージョン設定	10-29
EMCC 電話機の RSVP 設定	10-30
RSVP エージェントベースの CAC 基本コール	10-30
ホーム電話機による RSVP エージェント CAC の保留 / 再開	10-31
訪問先電話機による RSVP エージェント CAC の保留 / 再開	10-32
EMCC コール処理に共通の問題	10-32

EMCC コール処理問題に関するヘルプの入手	10-33
EMCC が設定されている場合の電話機の動作	10-33
WAN ネットワーク障害：設定ファイルを使用できない	10-34
EMCC 障害：登録拒否	10-35
EMCC 障害：ホーム Cisco Unified Communications Manager が使用不能 / 局間障害	10-36
EMCC 障害：ホーム Cisco Unified Communications Manager が使用不能 / クラスタ間障害	10-37
EMCC 障害：ホーム Cisco Unified Communications Manager が使用不能 / クラスタ間障害（訪問先 SRST が存在しない）	10-38
EMCC が設定されている場合の電話機のセキュリティ	10-38
EMCC のシステム要件	10-38
インタラクションおよび制限事項	10-39
EMCC インタラクション	10-39
EMCC の制限事項	10-40
EMCC のインストールとアクティブ化	10-42
EMCC の設定	10-42
EMCC 機能の設定項目の設定	10-42
EMCC クラスタ間サービス プロファイルの設定項目	10-47
リモート クラスタの設定項目	10-48
エンド ユーザへの情報の提供	10-51
EMCC のトラブルシューティング	10-51
Cisco エクステンション モビリティ アプリケーション (EMApp) のエラー コード	10-51
Cisco エクステンション モビリティ サービス (EMService) のエラー コード	10-52
関連項目	10-55

CHAPTER 11

プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant	11-1
プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定チェックリスト	11-2
Cisco Unified Communications Manager Assistant の概要	11-6
Cisco Unified Communications Manager Assistant のアーキテクチャの概要	11-6
Cisco IP Manager Assistant サービス	11-7
アシスタント コンソール インターフェイス	11-9
Cisco Unified IP Phone のインターフェイス	11-10
Cisco Unified Communications Manager Assistant のデータベース アクセス アーキテクチャ	11-10
マネージャのインターフェイス	11-10
アシスタントのインターフェイス	11-11
ソフトキー	11-11
Cisco Unified Communications Manager Assistant の管理用インターフェイス	11-12

プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant のシステム要件	11-12
Cisco Unified Communications Manager Assistant をサポートするデバイス	11-12
インタラクションおよび制限事項	11-13
インタラクション	11-13
一括管理ツール	11-14
発信側の正規化	11-14
エクステンション モビリティ	11-14
インターネット プロトコル バージョン 6 (IPv6)	11-14
レポート ツール	11-15
Multilevel Precedence and Preemption (MLPP)	11-16
Time-of-Day ルーティング	11-16
メッセージ受信インジケータ	11-16
インターコム	11-17
制限事項	11-17
Cisco Unified Communications Manager Assistant のインストールとアクティブ化	11-18
プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定	11-18
プロキシ回線サポートのあるシステムの設定	11-19
Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザード	11-19
コーリング サーチ スペースとパーティション	11-23
Cisco Unified Communications Manager Assistant CTI ルート ポイント	11-25
Cisco Unified Communications Manager Assistant のサービス パラメータの設定	11-25
Cisco Unified Communications Manager Assistant のスケーラビリティのための複数サーバの設定	11-28
セキュリティに関する考慮事項	11-30
Cisco IP Manager Assistant サービスの開始	11-30
Cisco Unified IP Phone サービスの設定	11-30
マネージャおよびアシスタントの電話機の設定	11-31
マネージャの電話機	11-32
アシスタントの電話機	11-33
マネージャおよびアシスタント以外の電話機	11-35
マネージャおよびアシスタントの設定	11-35
プロキシ回線モード用のマネージャの設定とアシスタントの割り当て	11-36
マネージャの Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報の削除	11-38
マネージャの Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定の更新	11-39
アシスタントのプロキシ回線、着信インターコム回線、およびプライマリ回線の設定	11-40
アシスタントの Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報の削除	11-42
アシスタントの Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定の更新	11-42
ダイヤル ルールの設定	11-43

Cisco Unified Communications Manager Assistant のマネージャおよびアシスタントへの 情報提供	11-44
Assistant Console プラグインのインストール	11-44
Assistant Console ダイアログ オプション	11-46
マネージャの設定	11-46
関連項目	11-47

CHAPTER 12

シェアドライン サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant	12-1
シェアドライン サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定 チェックリスト	12-2
Cisco Unified Communications Manager Assistant の概要	12-6
Cisco Unified Communications Manager Assistant のアーキテクチャの概要	12-6
Cisco IP Manager Assistant サービス	12-7
アシスタント コンソール インターフェイス	12-8
Cisco Unified IP Phone のインターフェイス	12-9
Cisco Unified Communications Manager Assistant のデータベース アクセス アーキテク チャ	12-9
マネージャのインターフェイス	12-9
アシスタントのインターフェイス	12-10
ソフトキー	12-10
Cisco Unified Communications Manager Assistant の管理用インターフェイス	12-11
シェアドライン サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の システム要件	12-11
Cisco Unified Communications Manager Assistant をサポートするデバイス	12-11
インタラクションおよび制限事項	12-12
インタラクション	12-12
一括管理ツール	12-12
発信側の正規化	12-13
エクステンション モビリティ	12-13
インターネット プロトコル バージョン 6 (IPv6)	12-13
レポート ツール	12-13
Multilevel Precedence and Preemption (MLPP)	12-15
インターコム	12-15
制限事項	12-15
Cisco Unified Communications Manager Assistant のインストールとアクティブ化	12-16
シェアドライン サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の 設定	12-17
Cisco Unified Communications Manager Assistant のサービス パラメータの設定	12-17
Cisco Unified Communications Manager Assistant のスケーラビリティのための複数 サーバの設定	12-19
セキュリティに関する考慮事項	12-21
Cisco IP Manager Assistant サービスの開始	12-21

マネージャおよびアシスタントの電話機の設定	12-21
マネージャの電話機	12-22
アシスタントの電話機	12-23
マネージャおよびアシスタント以外の電話機	12-23
マネージャおよびアシスタントの設定	12-23
シェアドライン モード用のマネージャの設定とアシスタントの割り当て	12-24
マネージャの Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報の削除	12-26
マネージャの Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定の更新	12-27
アシスタントのシェアドラインと着信インターコム回線の設定	12-27
アシスタントの Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報の削除	12-29
アシスタントの Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定の更新	12-30
ダイヤル ルールの設定	12-31
Cisco Unified Communications Manager Assistant のマネージャおよびアシスタントへの情報提供	12-31
Assistant Console プラグインのインストール	12-31
Assistant Console ダイアログ オプション	12-33
マネージャの設定	12-33
関連項目	12-34

CHAPTER 13

Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant	13-1
Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant の設定チェックリスト	13-2
Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant について	13-3
Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant の概要	13-4
Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant のコンポーネント	13-4
Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant のシステム要件	13-5
Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant のインストール	13-5
Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant および Cisco CRS Engine の設定	13-6
Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant の管理	13-6
関連項目	13-7

CHAPTER 14

Cisco Unified Mobility	14-1
Cisco Unified Mobility の設定チェックリスト	14-3
Cisco Unified Mobility の概要	14-5
定義	14-5
Cisco Unified Mobility 機能のリスト	14-7
Cisco Unified Mobility 機能のその他の利点	14-9
モバイル コネクト	14-9

デスクトップ コール ピックアップ	14-12
携帯電話へのコールの送信	14-12
モバイル ボイス アクセス	14-13
DTMF でのコール中のエンタープライズ機能アクセスのサポート	14-14
2 段階ダイヤリング	14-14
Time-of-Day アクセス	14-14
Time-of-Day アクセスの設定	14-15
Time-of-Day アクセスの特記事項	14-17
DTMF を介したダイレクト コール パーク	14-17
SIP URI ダイヤル	14-19
インテリジェント セッション制御	14-20
セッション ハンドオフ	14-22
Cisco Unified Mobility 機能の使用例	14-24
モバイル コネクトの使用例	14-25
モバイル ボイス アクセスの使用例	14-25
Time-of-Day アクセスの使用例	14-25
DTMF を介したダイレクト コール パークの使用例	14-27
インテリジェント セッション制御の使用例	14-27
セッション ハンドオフの使用例	14-30
インタラクションおよび制限事項	14-32
インタラクション	14-32
制限事項	14-34
システム要件	14-39
Cisco Unified MobilityManager からの移行	14-40
Cisco Unified Mobility の設定	14-40
アクセス リストの設定	14-41
アクセス リストの設定項目	14-41
アクセス リスト メンバの詳細の設定項目	14-43
リモート接続先プロファイルの設定	14-44
リモート接続先プロファイルの設定項目	14-45
電話番号とリモート接続先プロファイルの関連付け	14-49
リモート接続先の設定	14-50
リモート接続先の設定項目	14-50
モバイル ボイス アクセスの電話番号の設定	14-56
モバイル ボイス アクセスの設定項目	14-56
エンタープライズ機能アクセス用のゲートウェイの設定	14-58
システム リモート アクセス用の H.323 または SIP ゲートウェイの設定	14-58
ヘアピンングを使用したシステム リモート アクセス用の H.323 ゲートウェイの設定	14-60
エンタープライズ機能アクセス 2 段階ダイヤリング	14-62
モビリティ エンタープライズ機能設定	14-64
モビリティ エンタープライズ機能設定項目	14-64

ハンドオフ モビリティ設定	14-65
ハンドオフ モビリティ設定項目	14-65
[モビリティプロファイル設定 (Mobility Profile Configuration)]	14-66
モビリティプロファイルの設定値	14-66
モビリティ ソフトキーの設定	14-69
関連項目	14-70

CHAPTER 15

Cisco Unified Mobility Advantage と Cisco Unified Mobile Communicator の統合	15-1
Cisco Unified Mobility と Cisco Unified Mobility Advantage の設定チェックリスト	15-2
Cisco Unified Mobility と Cisco Unified Mobility Advantage の概要	15-4
定義	15-4
Cisco Unified Mobility Advantage 対応の Cisco Unified Mobility 機能のリスト	15-5
Cisco Unified Mobile Communicator	15-6
Cisco Unified Mobile Communicator の設定	15-7
Cisco Unified Mobile Communicator の設定の詳細	15-8
Dial-via-Office リバース コールバック	15-10
Dial-via-Office 転送	15-11
セッション再開	15-15
Cisco Unified Mobility 機能の使用例	15-16
Dial-via-Office リバース コールバックの使用例	15-16
Dial-via-Office 転送の使用例	15-16
S セッション再開の使用例	15-17
インタラクションおよび制限事項	15-18
制限事項	15-18
システム要件	15-19
Cisco Unified Mobility と Cisco Unified Mobility Advantage の設定	15-20
関連項目	15-21

CHAPTER 16

Cisco Mobile VoiP Client	16-1
Cisco Mobile VoiP Client に関する設定	16-2
Cisco Mobile VoiP Client の概要	16-2
定義	16-3
Cisco Mobile VoiP Client 機能の一覧	16-3
プロキシ サーバを必要としない Cisco Unified Communications Manager からモバイルクライアントへの直接接続	16-4
通話料金削減に向けた DVO 最適化設定	16-5
携帯電話からのモバイル コネクトの有効化 / 無効化	16-6
インタラクションおよび制限事項	16-6
システム要件	16-6
Cisco Mobile VoiP Client の設定	16-7

関連項目 16-7

CHAPTER 17

Cisco WebDialer 17-1

Cisco WebDialer の設定チェックリスト 17-1

Cisco WebDialer の概要 17-2

Webdialer サブレット 17-2

Redirector サブレット 17-3

冗長性 17-4

Cisco WebDialer のシステム要件 17-4

インタラクションおよび制限事項 17-5

インタラクション 17-5

制限事項 17-5

Cisco WebDialer のインストールとアクティブ化 17-5

Cisco WebDialer の設定 17-6

Webdialer サブレットの設定 17-6

Webdialer サブレットのサービス パラメータの設定 17-7

[アプリケーションサーバ (Application Server)] ウィンドウでの Cisco WebDialer の設定 17-8

アプリケーション ユーザの設定 17-9

CTI へのセキュアな TLS 接続 17-9

WebDialer の言語の設定 17-10

パーティションのサポート 17-11

Redirector サブレットの設定 (オプション) 17-12

アプリケーションのダイヤル ルールの設定 (オプション) 17-12

Cisco Unified Communications Manager の標準エンド ユーザ グループへのユーザの追加 17-13

プロキシ ユーザの作成 (オプション) 17-13

トレース設定 (オプション) 17-15

関連項目 17-16

CHAPTER 18

クライアント識別コードと強制承認コード 18-1

クライアント識別コードおよび強制承認コードの設定チェックリスト 18-2

クライアント識別コードの概要 18-3

強制承認コードの概要 18-4

インタラクションおよび制限事項 18-4

Cisco 一括管理ツールの使用方法 18-6

CDR Analysis and Reporting の使用方法 18-6

CTI、JTAPI、および TAPI アプリケーションでの FAC/CMC の使用方法 18-6

システム要件 18-7

CMC および FAC のインストール 18-7

クライアント識別コードの設定	18-7	
CMC の設定項目	18-7	
ルート パターンでのクライアント識別コードの有効化		18-9
強制承認コードの設定	18-9	
FAC の設定項目	18-10	
ルート パターンでの強制承認コードの有効化		18-11
ユーザへの情報の提供	18-11	
関連項目	18-12	

CHAPTER 19

カスタム電話呼び出し音	19-1	
カスタム電話呼び出し音の概要	19-1	
設定ファイルのカスタマイズと変更	19-2	
Ringlist.xml ファイル形式の要件	19-2	
カスタム呼び出し音タイプ用の PCM ファイルの要件		19-3
カスタム電話呼び出し音の設定	19-3	
関連項目	19-4	

CHAPTER 20

デバイス モビリティ	20-1	
デバイス モビリティの設定チェックリスト	20-2	
デバイス モビリティの概要	20-3	
デバイス モビリティの動作について	20-4	
デバイス モビリティの動作の概要	20-5	
デバイス モビリティ グループの動作の概要		20-6
ネットワークの検討事項	20-8	
インタラクションおよび制限事項	20-9	
システム要件	20-10	
デバイス モビリティをサポートするデバイス		20-10
デバイス モビリティのインストール	20-11	
デバイス モビリティの設定	20-11	
デバイス モビリティの設定のヒント	20-12	
デバイス モビリティの有効化	20-13	
物理ロケーションの検索	20-14	
物理ロケーションの設定	20-15	
物理ロケーションの設定項目	20-15	
物理ロケーションの削除	20-16	
デバイス モビリティ グループの検索	20-16	
デバイス モビリティ グループの設定	20-18	
デバイス モビリティ グループの設定項目	20-18	
デバイス モビリティ グループの削除	20-19	

デバイス モビリティ情報の検索	20-19
デバイス モビリティ情報の設定	20-21
デバイス モビリティ情報の設定項目	20-21
デバイス モビリティ情報の削除	20-22
デバイス モビリティ用のデバイス プールの設定	20-23
ローミング用デバイス プール パラメータの表示	20-23
関連項目	20-23

CHAPTER 21

サイレント	21-1
サイレントの設定チェックリスト	21-2
サイレントの概要	21-2
着信呼警告の設定	21-3
サイレントのアーキテクチャの概要	21-3
SIP デバイスの DND ステータス通知	21-3
SCCP デバイスの DND ステータス通知	21-3
サイレントのシステム要件	21-4
ソフトウェア要件	21-4
ハードウェア要件	21-4
サイレントをサポートするデバイス	21-4
インタラクションおよび制限事項	21-5
インタラクション	21-5
不在転送	21-5
パーク復帰	21-6
ピックアップ	21-6
保留復帰とインターコム	21-6
MLPP と CER	21-6
折返し	21-6
ピックアップ通知	21-7
ハントリスト	21-7
エクステンション モビリティ	21-7
制限事項	21-7
サイレントのインストールとアクティブ化	21-8
サイレントの設定	21-8
サイレントのサービス パラメータの設定	21-8
DND のソフトキーの設定	21-9
DND ボタンの設定	21-9
DND に関するデバイス パラメータの設定	21-10
共通の電話プロファイルへの DND の追加	21-12
サイレントの使用方法	21-13
サイレント機能の使用方法	21-13

サイレントの使用例	21-13
DND の呼出音オフ オプション	21-13
DND のコール拒否オプション	21-16
サイレントのトラブルシューティング	21-17
基本的な DND に関するトラブルシューティング	21-17
SIP を実行している電話機のトラブルシューティング	21-18
SCCP を実行している電話機のトラブルシューティング	21-18
DND のエラーに関するトラブルシューティング	21-19
関連項目	21-20

CHAPTER 22

外部コール制御	22-1
外部コール制御の設定チェックリスト	22-2
Cisco Unified Communications Manager の外部コール制御の概要	22-5
付加ルート サーバへの Cisco Unified Communications Manager 接続	22-8
外部コール制御プロファイル	22-9
ルーティング ルールの監察者サポート	22-10
ルーティング ルールのアナウンス サポート	22-11
外部コール制御のシステム要件	22-11
インタラクションおよび制限事項	22-11
外部コール制御のインストールおよびアクティブ化	22-14
外部コール制御の設定	22-14
外部コール制御のサービス パラメータ	22-15
外部コール制御プロファイルの設定項目	22-17
外部コール制御プロファイルの設定レコードの検索	22-20
外部コール制御プロファイルの設定	22-21
外部コール制御プロファイルのトランスレーション パターンへの割り当て	22-22
外部コール制御プロファイルの設定レコードの削除	22-22
付加ルート サーバ証明書のインポート	22-23
エクスポート用の Cisco Unified Communications Manager 自己署名証明書の生成	22-24
エンド ユーザへの情報の提供	22-25
外部コール制御のトラブルシューティング	22-25
関連項目	22-25

CHAPTER 23

External Call Transfer Restrictions 機能	23-1
External Call Transfer Restrictions の設定チェックリスト	23-2
External Call Transfer Restrictions の概要	23-3
External Call Transfer Restrictions のシステム要件	23-5
インタラクションおよび制限事項	23-5

インタラクション	23-6
制限事項	23-6
External Call Transfer Restrictions のインストールとアクティブ化	23-6
External Call Transfer Restrictions の設定	23-7
External Call Transfer Restrictions のサービス パラメータの設定	23-7
Call Classification サービス パラメータを使用した転送機能の設定	23-7
Block OffNet to OffNet Transfer サービス パラメータの設定	23-8
ゲートウェイ設定の使用による転送機能の設定	23-8
トランク設定の使用による転送機能の設定	23-8
ルートパターン設定の使用による転送機能の設定	23-9
関連項目	23-10

CHAPTER 24

位置情報およびロケーション伝達	24-1
位置情報の設定チェックリスト	24-2
位置情報フィルタの設定チェックリスト	24-3
ロケーション伝達の設定チェックリスト	24-4
位置情報について	24-6
位置情報の概要	24-6
位置情報の特徴	24-7
共有回線およびルート リストでの位置情報の使用方法	24-8
位置情報の例	24-8
位置情報識別子	24-9
位置情報のインタラクション	24-10
位置情報の設定	24-10
位置情報の検索	24-11
位置情報の設定	24-12
位置情報の削除	24-12
位置情報の設定項目	24-13
位置情報フィルタについて	24-17
位置情報フィルタの設定	24-18
位置情報フィルタの検索	24-18
位置情報フィルタの設定	24-20
位置情報フィルタの削除	24-20
位置情報フィルタの設定項目	24-21
ロケーション伝達について	24-23
SIP トランクおよびクラスタ間トランクの間での位置情報の伝達	24-23
SIP トランクでの位置情報関連のエラー処理	24-24
クラスタ間トランクでの位置情報関連のエラー処理	24-24
受信された位置情報の処理	24-25
コール中に位置情報が変更された場合の機能インタラクション	24-25

ロケーション伝達の設定 24-26

関連項目 24-27

CHAPTER 25

保留復帰 25-1

保留復帰の設定チェックリスト 25-1

Cisco 保留復帰の概要 25-3

Cisco 保留復帰の動作について 25-4

保留復帰のアラート動作 25-4

コールのフォーカス動作 25-5

復帰コールを取得する方法 25-6

タイマーの無効化 25-6

例 25-7

システム要件 25-9

保留復帰をサポートするデバイス 25-9

インタラクションおよび制限事項 25-10

インタラクション 25-10

保留音 25-10

コールパーク 25-10

MLPP 25-11

CTI アプリケーション 25-11

制限事項 25-11

Cisco 保留復帰のインストールとアクティブ化 25-12

Cisco 保留復帰の設定 25-12

[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの保留復帰
タイマー 25-13

コールのフォーカス優先度 25-13

Cisco 保留復帰に関する設定のヒント 25-14

コールのフォーカス優先度の設定 25-15

保留復帰タイマーの設定 25-16

ユーザに対する Cisco 保留復帰の情報の提供 25-17

Cisco 保留復帰のトラブルシューティング 25-17

関連項目 25-18

CHAPTER 26

ホットライン 26-1

ホットラインの設定チェックリスト 26-2

Cisco Unified Communications Manager のホットラインの概要 26-4

電話機のコールと受信の設定項目の設定 26-4

コールのスクリーニングの設定 26-5

コーリングサーチスペースおよびパーティションを使用したコールの
スクリーニングの設定 26-5

発信側番号ルーティングを使用したコールのスクリーニングの設定	26-5
ホットラインのシステム要件	26-7
ホットラインをサポートするデバイス	26-7
ホットラインのインストールとアクティブ化	26-8
ホットラインの設定	26-8
ホットラインのサービス パラメータの設定	26-8
Cisco Unified Communications Manager の管理でのホットラインの設定項目へのアクセス	26-10
ホットラインのトラブルシューティング	26-13
関連項目	26-13

CHAPTER 27

即時転送	27-1
即時転送の設定チェックリスト	27-1
即時転送の概要	27-3
即時転送のシステム要件	27-4
即時転送のコール処理要件	27-4
ソフトキー要件	27-4
着信コールの要件	27-5
発信コールの要件	27-6
即時転送の電話機表示メッセージ	27-6
即時転送の使用	27-6
Use Legacy Immediate Divert サービス パラメータが [True] に設定されている場合の即時転送シナリオ	27-6
Use Legacy Immediate Divert サービス パラメータが [False] に設定されている場合の即時転送シナリオ	27-8
インタラクションおよび制限事項	27-9
インタラクション	27-9
Multilevel Precedence and Preemption (MLPP)	27-9
自動転送	27-9
呼詳細レコード (CDR)	27-9
会議	27-9
ハント リスト	27-10
制限事項	27-10
即時転送のインストールとアクティブ化	27-12
即時転送の設定	27-12
即時転送用のサービス パラメータの設定	27-12
関連項目	27-13

CHAPTER 28

インターコム	28-1
インターコムの設定チェックリスト	28-1

インターコムの概要	28-3	
システム要件	28-4	
Cisco Unified IP Phone のインターコム サポート		28-4
コール状態と回線状態	28-5	
インタラクションおよび制限事項	28-6	
インタラクション	28-6	
一括管理ツール	28-6	
割り込み	28-7	
サイレント (DND; Do Not Disturb)	28-7	
コール保存	28-7	
Cisco Unified Survivable Remote Site Telephony (SRST)		28-7
Cisco Unified Communications Manager Assistant	28-7	
CTI	28-7	
Cisco エクステンション モビリティ	28-7	
インターネット プロトコル バージョン 6 (IPv6)		28-8
制限事項	28-8	
インターコムのインストールとアクティブ化	28-8	
インターコムの設定	28-8	
インターコム パーティションの設定	28-9	
インターコム パーティションの追加	28-10	
インターコム パーティションの検索	28-10	
インターコム パーティションの設定	28-12	
インターコム パーティションの設定値	28-13	
インターコム パーティションと影響を受けるデバイスの同期化		28-15
インターコム パーティションの削除	28-15	
インターコム コーリング サーチ スペースの設定	28-17	
インターコム コーリング サーチ スペースの検索	28-17	
インターコム コーリング サーチ スペースの設定	28-18	
インターコム コーリング サーチ スペースの設定値	28-19	
インターコム コーリング サーチ スペースの削除	28-21	
インターコム トランスレーション パターンの設定	28-22	
インターコム トランスレーション パターンの検索	28-22	
インターコム トランスレーション パターンの設定	28-24	
インターコム トランスレーション パターンの設定値	28-25	
インターコム トランスレーション パターンの削除	28-32	
インターコム電話番号の設定	28-33	
インターコム電話番号の設定の概要	28-33	
インターコム電話番号の検索	28-33	
インターコム電話番号の設定	28-35	
インターコム電話番号の設定値	28-36	
インターコム電話番号と影響を受けるデバイスの同期化		28-42

	インターコム回線とスピードダイヤルの設定	28-42
	インターコムの使用方法	28-43
	ケーススタディ	28-43
	図によるインターコムの説明	28-44
	シナリオ 1	28-44
	シナリオ 2	28-47
	シナリオ 3	28-49
	シナリオ 4	28-51
	シナリオ 5	28-53
	関連項目	28-58
CHAPTER 29	インターネット プロトコルバージョン 6 (IPv6)	29-1
	IPv6 の設定チェックリスト	29-2
	Cisco Unified Communications Manager の IPv6 の概要	29-5
	コンピュータ / テレフォニー インテグレーション (CTI) アプリケーション	29-6
	Cisco Unified Communications Manager	29-6
	Cisco Unified IP Phone	29-9
	DHCPv6	29-12
	DNS	29-12
	ゲートウェイ	29-13
	メディアターミネーションポイント	29-14
	SIP トランク	29-15
	TFTP サーバ	29-16
	IPv6 のシステム要件	29-18
	インタラクションおよび制限事項	29-18
	IPv6 のインストールとアクティブ化	29-23
	IPv6 の設定	29-23
	[イーサネット IPv6(Ethernet IPv6)] ウィンドウでの IPv6 CLI コマンドの実行および IPv6 の設定	29-23
	IPv6 のサービスパラメータとエンタープライズパラメータの設定	29-27
	Cisco Unified Communications Manager の管理ページの IPv6 および IPv4 設定項目へのアクセス	29-29
	エンドユーザへの情報の提供	29-35
	IPv6 のトラブルシューティング	29-35
	関連項目	29-35
CHAPTER 30	ライセンス	30-1
	ライセンスのチェックリスト	30-2
	Cisco UCS B シリーズ ブレードサーバ上の VMware で稼動する Cisco Unified Communications Manager のライセンス	30-3

ライセンスについて	30-3	
ライセンスの用語について	30-4	
ライセンス関連のウィンドウについて	30-5	
ライセンス ファイルの内容について	30-6	
電話機に関するライセンス機能について	30-8	
付加ライセンスの機能について	30-9	
アプリケーションに関するライセンス機能について	30-10	
インタラクションおよび制限事項	30-12	
ライセンスの操作	30-13	
必要なライセンス ユニット数の計算	30-13	
ライセンス ファイルの取得	30-15	
新しい Cisco Unified Communications Manager ノードおよびデバイスのライセンスの取得	30-15	
ソフトウェア機能ライセンスの取得	30-16	
ライセンス マネージャ サービスが動作していることの確認	30-17	
ライセンス ファイルのアップロード	30-18	
ライセンス ユニット レポートの生成	30-19	
ライセンス機能割り当ての設定値	30-20	
ライセンス機能割り当ての検索	30-21	
1人のユーザに対する機能割り当ての設定	30-22	
複数ユーザに対する機能割り当ての設定	30-23	
ライセンスのトラブルシューティング	30-24	
アラーム、アラート、およびライセンス ステータス通知	30-24	
関連項目	30-25	

CHAPTER 31

ローカル ルート グループ	31-1	
ローカル ルート グループの設定チェックリスト	31-2	
ローカル ルート グループの概要	31-4	
ローカル ルート グループ	31-5	
コール中に、プロビジョニングされたルート グループをローカル ルート グループにバインド	31-5	
ローカル ルート グループでのルーティング	31-6	
単純なローカル ルーティング	31-7	
テール エンド ホップ オフ	31-10	
着信側トランスフォーメーション	31-12	
ローカル ルート グループのシステム要件	31-14	
インタラクションおよび制限事項	31-14	
インタラクション	31-14	
サポートされるデバイス	31-14	
自動転送	31-15	
その他の補足サービス	31-15	

ルート プラン レポート	31-16
Cisco Unified Mobility	31-16
制限事項	31-16
混合されたルート リスト	31-16
ローカル ルート グループのインストールとアクティブ化	31-17
ローカル ルート グループの設定	31-17
ローカル ルート グループのサービス パラメータの設定	31-17
関連項目	31-17

CHAPTER 32

論理パーティション	32-1
論理パーティションの設定チェックリスト	32-2
論理パーティションの概要	32-4
インド通信規制の適用	32-6
これまでの経緯	32-7
論理パーティション アーキテクチャの概要	32-8
論理パーティションでの位置情報および位置情報フィルタの使用	32-9
シェアードラインおよびルート リストでの論理パーティション位置情報の使用	32-10
論理パーティションでの位置情報識別子の使用	32-10
論理パーティション用のエンタープライズ パラメータ	32-11
論理パーティション ポリシー	32-12
LPPolicyManager およびポリシー ツリー	32-13
論理パーティション ポリシー検索アルゴリズム	32-16
ポリシー マッチング	32-18
ポリシー拒否の処理	32-19
LPSession インフラストラクチャおよびポリシー チェック	32-19
基本コール用の論理パーティション処理	32-20
論理パーティションと、SIP トランクおよびクラスタ間トランクをまたぐ位置情報伝達とのインタラクション	32-21
取得した位置情報の論理パーティション処理	32-21
論理パーティション機能とコール中位置情報変更とのインタラクション	32-22
ダイナミック SIP トランク	32-22
論理パーティションの SIP トランクまたはクラスタ間トランク設定要件	32-22
論理パーティションのシステム要件	32-23
インタラクションおよび制限事項	32-24
インタラクション	32-24
自動転送	32-25
コール転送	32-26
アドホック会議、参加、回線をまたいで参加 (JAL)	32-28
ミーティング	32-29
コール ピックアップ	32-30
コール パークとダイレクト コール パーク	32-32

Cisco エクステンション モビリティ	32-33
Cisco Unified Mobility	32-34
シェアドライン	32-35
割り込み、C 割り込み、およびリモート再開	32-36
ルート リストおよびハントパイロット	32-37
CTI 処理	32-38
制限	32-39
論理パーティションの設定	32-41
位置情報の設定	32-41
位置情報フィルタの設定	32-42
論理パーティションポリシーの設定	32-42
論理パーティション ポリシーの検索	32-42
論理パーティション ポリシーの設定	32-43
論理パーティション ポリシー レコードの削除	32-44
論理パーティション ポリシー ペア設定の削除	32-45
論理パーティション ポリシー ペア設定の更新	32-45
[論理パーティションポリシーの設定 (Logical Partitioning Policy Configuration)] の設定	32-45
以前のリリースからのアップグレード時の論理パーティション設定	32-50
論理パーティションのトラブルシューティング	32-50
関連項目	32-50

CHAPTER 33

迷惑呼 ID	33-1
迷惑呼 ID の設定チェックリスト	33-1
迷惑呼 ID の概要	33-3
Cisco Unified Communications Manager での迷惑呼 ID 機能の使用	33-3
迷惑呼 ID のシステム要件	33-4
迷惑呼 ID をサポートするデバイス	33-4
インタラクションおよび制限事項	33-5
インタラクション	33-5
電話会議	33-5
エクステンション モビリティ	33-5
呼詳細レコード	33-5
アラーム	33-5
制限事項	33-6
迷惑呼 ID のインストール	33-7
迷惑呼 ID の設定	33-7
迷惑呼 ID のサービス パラメータの設定	33-7
迷惑呼 ID のアラームの設定	33-8
迷惑呼 ID 用のソフトキー テンプレートの追加	33-8

ユーザへの迷惑呼 ID 機能の提供	33-9
ユーザからの迷惑呼 ID 機能の削除	33-10
迷惑呼 ID 用の電話ボタン テンプレートの追加	33-10
ユーザへの迷惑呼 ID 機能の提供	33-11
迷惑呼 ID のトラブルシューティング	33-11
関連項目	33-12

CHAPTER 34

モニタリングと録音	34-1
モニタリングと録音の設定チェックリスト	34-1
モニタリングと録音の概要	34-3
コール モニタリングとコール録音に関する用語	34-3
コール録音の概要	34-4
モニタリングと録音のアーキテクチャ	34-4
コール モニタリングとコール録音をサポートするデバイス	34-6
コール モニタリングの概要	34-8
サイレント モニタリング セッションの呼び出し	34-9
スーパーバイザがモニタリング コールを転送する場合	34-10
エージェントはモニタリング コールを制御できない	34-11
複数のモニタリング セッション	34-12
エージェント コールの割り込みまたはモニタリング	34-13
会議中のエージェントのモニタリング	34-13
エージェントがスーパーバイザと会議を行う場合	34-14
スーパーバイザが別のスーパーバイザと会議を行う場合	34-15
ウィスパー コーチング	34-15
コール録音の概要	34-16
コール録音セッションのフロー	34-17
コール録音のモード	34-17
コール録音用の SIP ヘッダー拡張	34-18
SIP トランク デバイスとしてのレコーダ	34-19
自動コール録音	34-19
ローカル クラスタの遠端側による保留 / 再開	34-21
遠端側による、ローカル クラスタ内の別の遠端側へのコール転送	34-23
近端側による、ローカル クラスタ内の別の近端側へのコール転送	34-25
遠端側による、CFNA が有効になっているユーザへのコール転送	34-28
ローカル クラスタ内の遠端側による会議の作成	34-30
ローカル クラスタ内の近端側による会議の作成	34-32
リモート クラスタ内の遠端側による、リモート クラスタ内の別のユーザへのコール転送	34-34
リモート クラスタ内の遠端側による、CFNA が設定されているリモート クラスタユーザへのコールのブラインド転送	34-36
リモート PBX 内の遠端側による、ローカル クラスタ内の電話機へのコール転送	34-39

リモート PBX の遠端側による、パス置換を使用したローカル電話機へのコール転送	34-41	
遠端側による、DMS ゲートウェイ経由のコール転送	34-43	
携帯電話コールのデスクトップ ピックアップ	34-45	
遠端側による、携帯電話ピックアップのための携帯電話へのコール送信		34-47
リモート クラスタ内の遠端側による会議の作成	34-49	
アプリケーションから呼び出される録音	34-51	
エージェントがコールを保留にすると録音コールは存続しない		34-52
割り込みコールの録音	34-53	
エージェントの会議の録音	34-54	
モニタリングと録音の同時実行	34-55	
モニタリング コールと録音コールのコール特性		34-56
モニタリングと録音の通知トーン	34-56	
再生トーンの動作	34-57	
モニタリング コールと録音コールのコーデック		34-57
録音コールのコーデックの使用制限	34-58	
モニタリングと録音は片方向メディアである		34-58
片方向メディアとファイアウォール	34-58	
モニタリングと録音におけるコール保存	34-59	
コール情報とコール表示	34-59	
アプリケーションへの CTI イベント送信	34-60	
モニタリングと録音のシステム要件	34-60	
CTI 要件	34-60	
ハードウェア要件	34-61	
インタラクションおよび制限事項	34-61	
インタラクション	34-61	
CTI および JTAPI/TSP アプリケーション	34-62	
Cisco Unified Communications Manager の他の機能		34-62
制限事項	34-62	
モニタリングと録音の設定	34-65	
モニタリングまたは録音を可能にするために IP Phone の BIB をオンにする		34-66
モニタリングまたは録音アプリケーションのユーザを追加する	34-67	
モニタリングと録音が可能なグループにユーザを追加する	34-68	
モニタリングまたは録音のトーンを設定する (オプション)	34-69	
モニタリング用コーリング サーチ スペースを設定する	34-70	
ライン アピアランスに対して録音を有効にする	34-71	
録音プロファイルを作成する	34-72	
録音用の SIP プロファイルを作成する (オプション)	34-73	
レコーダをポイントする SIP トランクを作成する	34-74	
レコーダ用のルート パターンを作成する	34-75	
レコーダの冗長性を作成する	34-76	
モニタリングと録音のサービス パラメータの設定	34-76	

通知	34-76
コーデックの使用	34-77
ビルトインブリッジ	34-77
関連項目	34-77

CHAPTER 35

Multilevel Precedence and Preemption	35-1
MLPP の設定チェックリスト	35-2
MLPP の概要	35-4
MLPP の用語	35-5
優先順位	35-6
エクゼクティブ オーバーライド優先レベル	35-7
エクゼクティブ オーバーライド優先コールの設定	35-8
PRI4ESS インターフェイス間のエクゼクティブ オーバーライド優先コール	35-9
DRSN への PRI 4ES UUIE ベースの MLPP インターフェイス	35-9
プリエンブション	35-9
ドメイン	35-10
リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメイン	35-10
リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメイン リスト	35-12
ロケーション ベースの MLPP	35-12
クラスタ間トランク経由の MLPP	35-12
MLPP 優先パターン	35-12
MLPP 表示対応	35-13
優先コールの設定	35-13
Alternate Party Diversion	35-14
MLPP プリエンブション対応	35-16
プリエンブションの受信	35-16
プリエンブション対応	35-16
プリエンブションの詳細	35-17
ユーザ アクセス プリエンブション	35-17
User Access Channel Nonpreemptable	35-18
共通ネットワーク ファシリティ プリエンブション	35-19
ロケーションベースのプリエンブション	35-21
MLPP アナウンス	35-23
Unauthorized Precedence Announcement	35-23
Blocked Precedence Announcement	35-24
Busy Station Not Equipped for Preemption	35-25
クラスタ間トランクを超えたアナウンス	35-25
優先順位パターン用の MLPP 番号計画アクセス制御	35-26
MLPP トランク選択	35-27
MLPP 階層設定	35-30
サービス パラメータの特別なトレース設定	35-31
優先コール用の CDR の録音	35-31

回線機能のインタラクション	35-31
自動転送	35-31
コール転送	35-32
シェアライン	35-32
コール待機	35-32
コール保存	35-33
自動代替ルーティング	35-33
MGCP と PRI プロトコル	35-33
セキュアなエンドポイントとセキュアな通信	35-33
MLPP 優先順位と DSCP 値のマッピング	35-34
MLPP 補足サービス	35-34
複数ライン アピアランスに対する MLPP サポート	35-34
自動転送	35-35
三者通話	35-36
コール転送	35-36
コール ピックアップ	35-37
ハント パイロットとハントリスト	35-37
SCCP ゲートウェイ エンドポイントに対する補足サービス サポート	35-38
Multilevel Precedence and Preemption のシステム要件	35-39
Multilevel Precedence and Preemption をサポートするデバイス	35-39
インタラクションおよび制限事項	35-40
インタラクション	35-41
制限事項	35-41
MLPP のインストールとアクティブ化	35-43
MLPP の設定	35-43
MLPP のエンタープライズ パラメータの設定	35-44
関連項目	35-45

CHAPTER 36

保留音	36-1
保留音の設定チェックリスト	36-2
マルチキャストの設定チェックリスト	36-3
保留音のパフォーマンス監視の設定チェックリスト	36-4
保留音の概要	36-4
保留音の定義	36-4
保留音の特徴	36-6
保留音の機能性	36-7
ユーザ保留の例	36-8
転送保留の例	36-8
コール パークの例	36-8
サポートされている保留音機能	36-8

保留音サーバ	36-11
保留音オーディオ ソース	36-12
オーディオ ソースの作成	36-12
オーディオ ソース ファイルの格納	36-13
オーディオ ソースの管理	36-13
マルチキャストとユニキャストのオーディオ ソース	36-14
H.323 クラスタ間トランク経由のマルチキャスト保留音	36-16
保留音のシステム要件と制限	36-17
保留音のフェールオーバーとフォールバック	36-19
保留音の設定	36-19
保留音オーディオ ソースの設定	36-19
保留音オーディオ ソースの検索	36-20
保留音オーディオ ソースの設定	36-21
保留音オーディオ ソースの削除	36-22
保留音オーディオ ソースの設定項目	36-22
固定保留音オーディオ ソースの設定	36-25
固定保留音 (MOH) オーディオ ソースの設定	36-25
固定保留音 (MOH) オーディオ ソースの削除	36-26
固定保留音 (MOH) オーディオ ソースの設定項目	36-26
保留音サーバ設定	36-27
保留音サーバの検索	36-27
保留音サーバの設定	36-28
保留音サーバのリセットまたは再起動	36-29
保留音サーバの同期化	36-29
保留音サーバの設定項目	36-30
保留音オーディオ ファイル管理の設定	36-34
保留音オーディオ ファイルの表示	36-35
保留音オーディオ ファイルのアップロード	36-35
保留音オーディオ ファイルの削除	36-36
保留音サーバのパフォーマンスの表示	36-37
サービス状態の確認	36-38
関連項目	36-38

CHAPTER 37

プレゼンス	37-1
プレゼンスの設定チェックリスト	37-1
プレゼンスの概要	37-4
プレゼンスと電話機およびトランクの連動について	37-5
プレゼンスとルートリストの連動について	37-7
プレゼンス グループについて	37-8
プレゼンス許可について	37-11

SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースの動作について	37-12
プレゼンスとエクステンション モビリティの連動について	37-13
システム要件	37-13
プレゼンス機能のインタラクションおよび制限事項	37-14
プレゼンスの設定	37-15
プレゼンス サービス パラメータとエンタープライズ パラメータの設定	37-15
SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースの設定と適用	37-16
プレゼンス グループの検索	37-17
プレゼンス グループの設定	37-18
プレゼンス グループの設定項目	37-19
プレゼンス グループの削除	37-20
プレゼンス グループの適用	37-21
プレゼンス グループとプレゼンス許可のヒント	37-22
カスタマイズされた電話ボタン テンプレートでの BLF/ スピード ダイヤル ボタンの設定	37-23
BLF/ スピード ダイヤル ボタンの設定	37-24
BLF/ スピード ダイヤルの設定項目	37-24
関連項目	37-26

CHAPTER 38

品質レポート ツール	38-1
QRT の設定チェックリスト	38-2
品質レポート ツールについて	38-3
QRT のコンポーネント	38-3
QRT アーキテクチャの概要	38-4
Cisco CTIManager インターフェイス (QBEHelper)	38-5
Cisco Unified Communications Manager データベース インターフェイス (DBL ライブラリ)	38-5
スクリーン ヘルパーとディクショナリ	38-5
Redundancy Manager	38-6
DB Change Notifier	38-6
SDI トレースおよびアラーム	38-6
QRT のシステム要件	38-6
Cisco Extended Functions サービスの依存関係	38-7
1 つのクラスタ内に複数の Cisco Extended Functions アプリケーションがある場合	38-8
CTI へのセキュアな TLS 接続	38-8
QRT の使用	38-9
ユーザ インターフェイス	38-10
拡張メニューの選択肢	38-10
問題分類カテゴリと原因コード	38-12

インタラクティブおよび制限事項	38-15
QRT 機能のインストールとアクティブ化	38-16
QRT 機能の設定	38-16
品質ソフトキーを含むソフトキー テンプレートの作成	38-17
共通デバイス設定での QRT ソフトキー テンプレートの構成	38-20
電話機の設定における QRT ソフトキー テンプレートの追加	38-20
Cisco Unified サービスアビリティ機能の設定	38-21
QRT を使用する場合の Cisco Extended Functions サービスのアクティブ化	38-22
QRT のアラームおよびトレースの設定	38-22
QRT の Cisco Extended Functions サービス パラメータの設定	38-24
QRT Viewer の使用	38-26
QRT レポート	38-26
ユーザへの QRT 機能の情報提供	38-31
QRT 機能のトラブルシューティング	38-31
関連項目	38-32

CHAPTER 39

シングル サインオン	39-1
シングル サインオンの設定チェックリスト	39-2
Cisco Unified Communications Manager 用のシングル サインオンの概要	39-3
シングル サインオンのシステム要件	39-3
シングル サインオンのインストールとアクティブ化	39-4
シングル サインオンの設定	39-4
OpenAM の設定	39-4
Cisco Unified Communications Manager への OpenAM 証明書のインポート	39-4
Active Directory および OpenAM への Windows シングル サインオンの設定	39-5
シングル サインオンに対応するためのクライアントのブラウザの設定	39-5
シングル サインオンに対応するための Internet Explorer の設定	39-5
シングル サインオンに対応するための Firefox の設定	39-6
シングル サインオン用の CLI コマンドの実行	39-6
utils sso enable	39-6
utils sso disable	39-7
utils sso status	39-8
関連項目	39-8

INDEX



はじめに

ここでは、このマニュアルの目的、対象読者、構成、および表記法、そして関連資料の入手方法について説明します。



(注)

このマニュアルには、シスコ製品の最新情報が記載されていない可能性があります。次の URL からシスコの製品マニュアルのページにアクセスすることにより、最新資料を入手できます。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/tsd_products_support_series_home.html

この項の構成は、次のとおりです。

- 「目的」 (P.xxxvii)
- 「対象読者」 (P.xxxvii)
- 「マニュアルの構成」 (P.xxxviii)
- 「関連資料」 (P.xl)
- 「表記法」 (P.xl)
- 「マニュアルの入手方法およびテクニカルサポート」 (P.xlii)

目的

『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』では、Cisco Unified Communications Manager (旧称 Cisco Unified CallManager) の機能の理解、インストール、設定、管理、使用、およびトラブルシューティングに必要な情報を提供しています。

対象読者

『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』は、Cisco Unified Communications Manager システムの管理を担当するネットワーク管理者を対象としています。このマニュアルを使用するには、テレフォニーおよび IP ネットワーキングテクノロジーに関する知識が必要です。

マニュアルの構成

次の表は、このマニュアルの構成を示しています。

章	説明
Quality Report Tool	Cisco Unified Communications Manager の割り込み機能とプライベート機能の説明、および設定手順を示しています。
Quality Report Tool	Cisco Call Back の説明、および設定手順を示しています。
Quality Report Tool	コール制御ディスカバリ機能の説明、および設定手順を示しています。
Quality Report Tool	Call Display Restrictions 機能の説明、および設定手順を示しています。
Quality Report Tool	Cisco Unified Communications Manager のコールパーク機能とダイレクト コールパーク機能の説明、および設定手順を示しています。
Quality Report Tool	Cisco Unified Communications Manager のコールピックアップ機能の説明、および設定手順を示しています。
コール スロットリングおよび Code Yellow 状態	コール スロットリング機能の説明、およびその設定に使用するサービスパラメータを示しています。
Quality Report Tool	発信側の正規化の説明を示しています。
Quality Report Tool	Cisco Unified Communications Manager の Cisco エクステンション モビリティの説明、および設定手順を示しています。
Quality Report Tool	Cisco Unified Communications Manager 向け Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ機能の説明、および設定手順を示しています。
Quality Report Tool	プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant (Cisco Unified CM Assistant) の説明、および設定手順を示しています。
Quality Report Tool	シェアドラインサポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant (Cisco Unified CM Assistant) の説明、および設定手順を示しています。
Quality Report Tool	Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant の説明、および設定手順を示しています。
Quality Report Tool	モバイル コネクト機能やモバイル ボイス アクセス機能など、Cisco Unified Mobility の説明および設定情報を示しています。
Quality Report Tool	Cisco Unified Mobility Advantage と Cisco Unified Mobile Communicator を Cisco Unified Communications Manager に統合する処理の説明および設定情報を示しています。
Cisco Mobile VoiP Client	Cisco Unified Communications Manager は、Cisco Mobile VoiP Client を Cisco Unified Communications Manager と直接接続するための特定の機能を備えています。この章では、その機能とそのために必要になる設定について説明します。
Quality Report Tool	Cisco Unified Communications Manager の Cisco WebDialer の説明、および設定手順を示しています。

章	説明
Quality Report Tool	Client Matter Code (CMC; クライアント識別コード) と Forced Authorization Code (FAC; 強制承認コード) の説明、および設定手順を示しています。
Quality Report Tool	Cisco Unified Communications Manager のカスタム電話呼び出し音の説明、および設定手順を示しています。
Quality Report Tool	デバイス モビリティ機能の説明、および設定情報を示しています。
Quality Report Tool	サイレント機能の説明、および設定情報を示しています。
Quality Report Tool	外部コール制御機能の説明および設定情報を示しています。
Quality Report Tool	External Call Transfer Restrictions 機能の説明、および設定手順を示しています。
Quality Report Tool	位置情報、位置情報フィルタ、およびロケーション伝達の説明および設定手順を示します。
Quality Report Tool	保留復帰機能の説明、および設定情報を示しています。
Quality Report Tool	ホットライン機能の説明および設定情報を示しています。
Quality Report Tool	Cisco Unified Communications Manager の即時転送機能の説明、および設定手順を示しています。
Quality Report Tool	Cisco Unified Communications Manager のインターコム機能の説明、および設定情報を示しています。
Quality Report Tool	Cisco Unified Communications Manager の IPv6 サポートおよびネットワークの他のコンポーネントについて説明します。
Quality Report Tool	Cisco Unified Communications Manager でのライセンスの動作の説明および設定情報を示しています。
Quality Report Tool	ローカル ルート グループ機能の説明、および設定手順を示しています。
Quality Report Tool	論理パーティション機能の説明、および設定手順を示しています。
Quality Report Tool	Cisco Unified Communications Manager の迷惑呼 ID 機能の説明、および設定手順を示しています。
Quality Report Tool	コール モニタリング機能とコール録音機能の説明、および設定情報を示しています。
Quality Report Tool	Cisco Unified Communications Manager の Multilevel Precedence and Preemption 機能の説明、および設定手順を示しています。
Quality Report Tool	Cisco Music On Hold (MOH; 保留音) の説明、および設定手順を示しています。
Quality Report Tool	プレゼンス機能の説明、および設定手順を示しています。
Quality Report Tool	Quality Report Tool (QRT; 品質レポート ツール) 機能の説明、および設定手順を示しています。
Quality Report Tool	シングル サインオン機能の説明を示しています。

関連資料

Cisco IP テレフォニー関連のアプリケーションと製品の詳細は、次の資料を参照してください。

- 『*Installing Cisco Unified Communications Manager Release 8.5(1)*』
- 『*Upgrading Cisco Unified Communications Manager Release 8.5(1)*』
- 『*Cisco Unified Communications Manager Documentation Guide*』
- 『*Release Notes for Cisco Unified Communications Manager Release 8.5(1)*』
- 『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』
- 『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』
- 『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』
- 『*Cisco Unified Communications Manager Call Detail Records Administration Guide*』
- 『*Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool Administration Guide*』
- 『*Cisco Unified Communications Manager Troubleshooting Guide*』
- 『*Cisco Unified IP Phone Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』
- 『*Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド*』
- 『*Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド*』
- 『*Cisco Unified Communications Solution Reference Network Design (SRND)*』

表記法

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
太字	コマンドおよびキーワードは 太字 で示しています。
イタリック体	ユーザが値を指定する引数は、 <i>イタリック体</i> で示しています。
[]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{ x y z }	必ずいずれか 1 つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x y z]	いずれか 1 つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
ストリング	引用符を付けない一組の文字。ストリングの前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めてストリングと見なされます。
screen フォント	システムが表示する端末セッションおよび情報は、screen フォントで示しています。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、 太字の screen フォントで示しています。
イタリック体の screen フォント	ユーザが値を指定する引数は、 <i>イタリック体の screen</i> フォントで示しています。
→	例の中で重要な文字を強調しています。

表記法	説明
^	^記号は、Ctrl キーを表します。たとえば、画面に表示される ^D というキーの組み合わせは、Ctrl キーを押しながら D キーを押すことを意味します。
< >	パスワードのように出力されない文字は、かぎカッコ (<>) で囲んで示しています。
[アクション (Action)] > [レポート (Reports)]	Graphical User Interface (GUI; グラフィカル ユーザ インターフェイス) のコマンドパスです。

(注) は、次のように表しています。



(注)

「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。

ワンポイントアドバイスは、次のように表しています。



ワンポイントアドバイス

時間を節約する方法です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

ヒントは、次のように表しています。



ヒント

役立つヒントです。

注意は、次のように表しています。



注意

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

警告は、次のように表しています。



警告

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止策に留意してください。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。



CHAPTER 1

割り込みとプライバシー

ワンボタン割り込み /C 割り込み機能、割り込み機能、プライバシー機能、および Privacy on Hold 機能は相互に作用します。これらの機能はシェアラインだけで機能します。

割り込みは、進行中のコールにユーザを追加します。ソフトキーまたは機能ボタンを押すと、ユーザ（発信側）がシェアライン コール（発信先）に追加され、現在通話中のユーザがビープ音を受信します（設定されている場合）。割り込みは、ビルトイン会議ブリッジと共有会議ブリッジをサポートしています。

ワンボタン割り込み /C 割り込み機能を使用すると、ユーザは、シェアライン ボタンを押すだけでコールに追加されます。ワンボタン割り込み /C 割り込み機能は、ビルトイン会議ブリッジと共有会議ブリッジをサポートしています。

管理者は、プライバシーおよび Privacy on Hold 機能を有効または無効にします。Privacy on Hold をアクティブにするには、デバイスでプライバシーが有効になっている必要があります。ユーザは、プライバシー機能のオンとオフを切り替えます。

管理者は、プライバシー設定を有効または無効にします。プライバシーが有効になっている場合、システムは回線を共有しているすべての電話機からコール情報を削除し、その他のシェアラインがそのコールに割り込めないようにします。プライバシーが無効になっている場合、システムはシェアライン アピランスを持つすべての電話機でコール情報を表示し、その他のシェアラインがそのコールに割り込めるようにします。管理者は、すべてのデバイスについてプライバシーを設定したり、またはデバイスごとにプライバシーを設定したりできます。ユーザは、プライバシー機能のオンとオフを切り替えます。

Privacy on Hold 機能は、シェアラインのプライベート コールが保留状態にあるとき、プライバシーを保持します。Privacy on Hold が有効になっている場合、プライバシーが有効なときにブロックされる発呼者名および発呼番号は、コールが保留にされたときも引き続きブロックされ、システムは他のシェアラインが保留中のコールを再開するのをブロックします。Privacy on Hold が無効になっており、プライベート コールが保留にされた場合、システムは、シェアライン アピランスを持つすべての電話機で発呼者名と発呼番号を表示し、他のシェアラインが保留中のコールを再開するのを許可します。

Privacy on Hold が有効な場合、ユーザは、プライバシーをオンに切り替えることにより、コールの保留中にその機能をアクティブにできます。同様に、ユーザは、コールの保留中にプライバシーをオフに切り替えることにより、Privacy on Hold を非アクティブにできます。Privacy on Hold が無効な場合、プライバシーのオンまたはオフを切り替えても、保留中のコールには影響ありません。

プライバシー コールが保留状態で、同じ電話機で応答された後にオフに切り替えられた場合、システムは、シェアライン アピランスを持つすべての電話機でコール情報を表示しますが、別の電話機が保留中のコールを再開または割り込みできないようにします。

管理者は、すべてのデバイスについて、またはデバイスごとにプライバシーを設定できます。管理者は、クラスタに対して Privacy on Hold を設定します。

この章では、割り込みとプライバシーに関する次の情報を提供します。

- 「割り込みの設定チェックリスト」 (P.1-2)
- 「プライバシーおよび Privacy on Hold の設定チェックリスト」 (P.1-4)
- 「割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold の概要」 (P.1-6)
- 「Privacy on Hold」 (P.1-12)
- 「割り込みおよびプライバシーをサポートするデバイス」 (P.1-13)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.1-14)
- 「割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold のインストールとアクティブ化」 (P.1-17)
- 「割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold の設定」 (P.1-18)
- 「割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold 用のサービス パラメータの設定」 (P.1-19)
- 「関連項目」 (P.1-20)

割り込みの設定チェックリスト

ワンボタン割り込み /C 割り込み機能、割り込み機能、プライバシー機能、および Privacy on Hold 機能は相互に作用します。これらの機能はシェアドラインだけで機能します。

割り込みは、進行中のコールにユーザを追加します。ソフトキーまたは機能ボタンを押すと、ユーザ（発信側）がシェアドライン コール（発信先）に追加され、現在通話中のユーザがビープ音を受信します（設定されている場合）。割り込みは、ビルトイン会議ブリッジと共有会議ブリッジをサポートしています。

ワンボタン割り込み /C 割り込み機能を使用すると、ユーザは、シェアドライン ボタンを押すだけでコールに追加されます。ワンボタン割り込み /C 割り込み機能は、ビルトイン会議ブリッジと共有会議ブリッジをサポートしています。

表 1-1 に、ビルトイン会議ブリッジで割り込み機能を設定する際のチェックリストを示します。表 1-2 に、共有会議ブリッジで割り込み機能を設定する際のチェックリストを示します。プライバシー機能および Privacy on Hold 機能の設定チェックリストについては、表 1-3 を参照してください。割り込み機能の詳細については、「割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold の概要」(P.1-6) および「関連項目」(P.1-20) を参照してください。

表 1-1 ビルトイン会議ブリッジでの割り込みの設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 ビルトイン会議ブリッジを使用して割り込みにアクセスする各デバイスに Standard User または Standard Feature ソフトキー テンプレート (どちらにも [割り込み] ソフトキーが含まれています) を割り当てます。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
ステップ 2 次のオプションの Cisco CallManager サービス パラメータを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> すべてのユーザに対して割り込みを有効にするには、クラスタ全体のサービス パラメータ Builtin Bridge Enable を [On] に設定します。 (注) このパラメータを [Off] にする場合は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] フィールドにより、各電話機に対して割り込みを設定します。 クラスタ全体のサービス パラメータ Party Entrance Tone を [True] に設定します (ビープ音のために必要です) (または、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで電話番号ごとに [パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)] 設定項目を設定します)。 すべてのユーザに対してワンボタン割り込みを有効にするには、Single Button Barge/cBarge Policy を [Barge] に設定します。 (注) このパラメータを [Off] にする場合は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [ワンボタン割り込み (Single Button Barge)] フィールドにより、各電話機に対してワンボタン割り込みを設定します。 電話機が鳴っているときやコールが接続されるときに (割り込み側に呼び出し音の流れます) ユーザがコールに割り込めるようにするには、Allow Barge When Ringing サービス パラメータを [True] に設定します。 	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サーバ上のサービスに対するサービスパラメータの設定」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」 「パーティ参加トーンと割り込み、C 割り込み、またはワンボタン割り込み」(P.1-10) 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話番号の設定値」
ステップ 3 [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで、ビルトイン会議ブリッジ機能で割り込みにアクセスできる各ユーザに対し、[割り込み] ソフトキー テンプレートが割り当てられたデバイスを関連付けます。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザの設定」
ステップ 4 割り込み機能が使用可能であることをユーザに通知します。	ユーザが Cisco Unified IP Phone で割り込みにアクセスする方法については、電話機のマニュアルを参照してください。

■ プライバシーおよび Privacy on Hold の設定チェックリスト

表 1-2 に、共有会議ブリッジで割り込みを設定する際のチェックリストを示します。

表 1-2 共有会議ブリッジ (C 割り込み) での割り込みの設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 C 割り込みを含むソフトキー テンプレートを作成するには、Standard Feature ソフトキー テンプレートのコピーを作成します。このユーザが名前を付けたコピーを変更し、リモートで使用中のコール状態で [選択されたソフトキー (Selected Softkeys、位置順)] リストに [Conference Barge(cBarge)] ソフトキーを追加します。	標準のソフトキー テンプレートのコピーを作成する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミネストレーションガイド』の、非標準ソフトキー テンプレートの追加に関する項を参照してください。 『Cisco Unified Communications Manager アドミネストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
ステップ 2 オプションのクラスタ全体のサービス パラメータ Party Entrance Tone を [True] に設定します (ビープ音のために必要です)。または、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで電話番号ごとに [パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)] 設定項目を設定します。 すべてのユーザに対してワンボタン C 割り込みを有効にするには、Single Button Barge/cBarge Policy を [cBarge] に設定します。 (注) このパラメータを [Off] にする場合は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [ワンボタン割り込み (Single Button Barge)] フィールドにより、各電話機に対してワンボタン C 割り込みを設定します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミネストレーションガイド』の「サーバ上のサービスに対するサービス パラメータの設定」 「パーティ参加トーンと割り込み、C 割り込み、またはワンボタン割り込み」(P.1-10) 『Cisco Unified Communications Manager アドミネストレーションガイド』の「電話番号の設定値」
ステップ 3 [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで、共有会議ブリッジ機能で C 割り込みにアクセスできる各ユーザに対し、[C 割込] ソフトキー テンプレートが割り当てられたデバイスを関連付けます。 電話機のプライバシーを無効にして、C 割り込みを許可します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミネストレーションガイド』の「エンドユーザの設定」
ステップ 4 C 割り込み機能が使用可能であることをユーザに通知します。	ユーザが Cisco Unified IP Phone で C 割り込みにアクセスする方法については、電話機のマニュアルを参照してください。

プライバシーおよび Privacy on Hold の設定チェックリスト

ワンボタン割り込み / C 割り込み機能、割り込み機能、プライバシー機能、および Privacy on Hold 機能は相互に作用します。これらの機能はシェアドラインだけで機能します。

Privacy on Hold 機能は、シェアドラインのプライベート コールが保留状態にあるとき、プライバシーを保持します。Privacy on Hold が有効になっている場合、プライバシーが有効なときにブロックされる発呼者名および発呼番号は、コールが保留にされたときも引き続きブロックされ、システムは他のシェアドラインが保留中のコールを再開するのをブロックします。Privacy on Hold が無効になっており、プライベート コールが保留にされた場合、システムは、シェアドライン アピアランスを持つすべての電話機で発呼者名と発呼番号を表示し、他のシェアドラインが保留中のコールを再開するのを許可します。

管理者は、プライバシー設定を有効または無効にします。プライバシーが有効になっている場合、システムは回線を共有しているすべての電話機からコール情報を削除し、その他のシェアドラインがそのコールに割り込めないようにします。プライバシーが無効になっている場合、システムはシェアドラインアピアランスを持つすべての電話機でコール情報を表示し、その他のシェアドラインがそのコールに割り込めるようにします。管理者は、すべてのデバイスについてプライバシーを設定したり、またはデバイスごとにプライバシーを設定したりできます。ユーザは、プライバシー機能のオンとオフを切り替えます。

Privacy on Hold が有効な場合、ユーザは、プライバシーをオンに切り替えることにより、コールの保留中にその機能をアクティブにできます。同様に、ユーザは、コールの保留中にプライバシーをオフに切り替えることにより、Privacy on Hold を非アクティブにできます。Privacy on Hold が無効な場合、プライバシーのオンまたはオフを切り替えても、保留中のコールには影響ありません。

プライバシー コールが保留状態で、同じ電話機で応答された後にオフに切り替えられた場合、システムは、シェアドラインアピアランスを持つすべての電話機でコール情報を表示しますが、別の電話機が保留中のコールを再開または割り込みできないようにします。

管理者は、すべてのデバイスについて、またはデバイスごとにプライバシーを設定できます。管理者は、クラスタに対して Privacy on Hold を設定します。

表 1-3 に、プライバシー機能を設定する際のチェックリストを示します。表 1-1 に、ビルトイン会議ブリッジで割り込み機能を設定する際のチェックリストを示します。表 1-2 に、共有会議ブリッジで割り込み機能を設定する際のチェックリストを示します。プライバシーの詳細については、「[割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold の概要](#)」(P.1-6) および「[関連項目](#)」(P.1-20) を参照してください。

表 1-3 プライバシーおよび Privacy on Hold 設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
<p>ステップ 1 クラスタ内のすべての電話機でプライバシーへのアクセスが必要な場合は、クラスタ全体のサービス パラメータ Privacy Setting を [True] (デフォルト) のままにし、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [プライバシー (Privacy)] フィールドを [デフォルト (Default)] のままにします。引き続き、次の手順を実行します。</p> <p>クラスタ内の特定の電話機だけでプライバシーへのアクセスが必要な場合は、Privacy Setting サービス パラメータを [False] に設定し、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [プライバシー (Privacy)] フィールドを [オン (On)] に設定します。引き続き、次の手順を実行します。</p>	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サーバ上のサービスに対するサービスパラメータの設定」</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」</p>
<p>ステップ 2 プライバシーのある電話ボタンテンプレートごとに、機能ボタンのいずれかにプライバシーを追加します (電話機モデルの中には、プライバシー ボタンを使用するものもあります)。</p>	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話ボタンテンプレートの設定」</p>
<p>ステップ 3 プライバシーが必要な電話機ユーザごとに、Privacy 機能ボタンを含む電話ボタンテンプレートを選択します。</p>	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」</p>
<p>ステップ 4 [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで、シェアドラインアピアランスに関する情報を表示しないユーザごとに、Privacy 機能ボタンが割り当てられたデバイスを関連付けます。</p>	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザの設定」</p>

表 1-3 プライバシーおよび Privacy on Hold 設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 5 オプションの Privacy on Hold 機能を設定するには、Enforce Privacy Setting on Held Calls サービス パラメータを [True] に設定します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サーバ上のサービスに対するサービスパラメータの設定」
ステップ 6 プライバシー機能と Privacy on Hold 機能（設定されている場合）が使用可能であることをユーザに通知します。	ユーザが Cisco Unified IP Phone でプライバシーにアクセスする方法については、電話機のマニュアルを参照してください。

割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold の概要

次の各項で、割り込みとプライバシーについて説明します。

- 「割り込み」 (P.1-6)
- 「ワンボタン割り込み / C 割り込み」 (P.1-7)
- 「プライバシー」 (P.1-11)
- 「Privacy on Hold」 (P.1-12)

割り込み

割り込みを使用すると、シェアライン上のリモートでアクティブなコールにユーザを追加できます。回線のリモートでアクティブなコールとは、その回線で電話番号を共有する別のデバイスとの間のアクティブな（接続された）コールのことです。割り込みは、この種のリモートで使用中のコールをサポートします。

電話機は次の 2 つの会議モードで割り込みをサポートします。

- 発信先デバイス（割り込まれる電話機）でのビルトイン会議ブリッジ。このモードは [割り込み] ソフトキーを使用します。
- 共有会議ブリッジ。このモードは [C 割込] ソフトキーを使用します。

ユーザがリモートで使用中のコール状態で [割り込み] ソフトキーまたは [C 割込] ソフトキーを押すと、ユーザがコールに追加されてすべての参加者と通話できるようになり、参加者はすべて割り込みビープ音を受信します（設定されている場合）。割り込みが失敗した場合、元のコールとステータスはアクティブなままです。

使用可能な会議ブリッジ（組み込みまたは共有）がない場合、割り込み要求は拒否され、割り込みの発信側のデバイスにメッセージが表示されます。

ワンボタン割り込み / C 割り込み

ワンボタン割り込み / C 割り込み機能を使用すると、ユーザは、リモートでアクティブなコールのシェアドライン ボタンを押すだけで、コールに追加されてすべての参加者と通話できるようになります。参加者はすべて割り込みビープ音を受信します（設定されている場合）。割り込みが失敗した場合、元のコールとステータスはアクティブなままです。

電話機は次の 2 つの会議モードでワンボタン割り込み / C 割り込みをサポートします。

- 発信先デバイス（割り込まれる電話機）でのビルトイン会議ブリッジ。このモードはワンボタン割り込み機能を使用します。
- 共有会議ブリッジ。このモードはワンボタン C 割り込み機能を使用します。

リモートで使用中のコールのシェアドライン ボタンを押すと、そのユーザはコールに追加されてすべての参加者と通話できるようになり、参加者はすべて割り込みビープ音を受信します（設定されている場合）。割り込みが失敗した場合、元のコールとステータスはアクティブなままです。

使用可能な会議ブリッジ（組み込みまたは共有）がない場合、割り込み要求は拒否され、割り込みの発信側のデバイスにメッセージが表示されます。

表 1-4 に、ビルトイン会議ブリッジと共有会議ブリッジでの割り込みの違いを示します。

表 1-4 ビルトイン会議ブリッジと共有会議ブリッジの違い

アクション	[割り込み] ソフトキーまたはワンボタン割り込み機能を使用（発信先デバイスでのビルトイン会議ブリッジ）	[C 割込] ソフトキーまたはワンボタン C 割り込み機能を使用（共有会議ブリッジ）
標準ソフトキー テンプレートにこのソフトキーが含まれている。 (注) ワンボタン割り込み / C 割り込み機能が有効の場合、ソフトキーは使用しません。	はい	いいえ
割り込み設定中にメディアが中断される。	いいえ	はい
設定されている場合は、ユーザが割り込み設定音を受信する。	はい	はい
割り込みの発信側の電話機に名前として表示される内容。	To Barge XXX	To Conference
発信先の電話機に名前として表示される内容。	To/From Other	To Conference
その他発信先の電話機に名前として表示される内容。	To/From Target	To Conference
ブリッジが、すでに割り込まれているコールへの第 2 の割り込み設定をサポートしている。	いいえ	はい

表 1-4 ビルトイン会議ブリッジと共有会議ブリッジの違い (続き)

アクション	[割り込み] ソフトキーまたはワンボタン割り込み機能を使用 (発信先デバイスでのビルトイン会議ブリッジ)	[C 割込] ソフトキーまたはワンボタン C 割り込み機能を使用 (共有会議ブリッジ)
発信側がコールをリリースする。	2 人の元のユーザに対してメディアが中断されない。	ユーザが 2 人だけ残っている場合に共有会議ブリッジをリリースして、残っている両ユーザをポイントツーポイント コールとして再接続するために、メディアが中断される。
発信先がコールをリリースする。	発信側を発信先にポイントツーポイント コールとして再接続するために、メディアが中断される。	ユーザが 2 人だけ残っている場合に共有会議ブリッジをリリースして、残っている両ユーザをポイントツーポイント コールとして再接続するために、メディアが中断される。
もう一方のユーザがコールをリリースする。	3 人のユーザすべてがリリースされる。	ユーザが 2 人だけ残っている場合に共有会議ブリッジをリリースして、残っている両ユーザをポイントツーポイント コールとして再接続するために、メディアが中断される。
発信先がコールを保留にし、直接転送、参加、またはコールパークを実行する。	発信側がリリースされる。	発信側ともう一方のユーザは接続されたままになる。

ビルトイン会議を使用した割り込み：ワンボタン割り込み機能または [割り込み] ソフトキー

ワンボタン割り込み機能または [割り込み] ソフトキーは、リモートで使用中のコール状態だけで使用できます。ビルトイン会議ブリッジは、割り込みの設定時にメディアの中断や元のコールへの表示変更が起こらないので、便利です。



(注)

ワンボタン割り込み機能を使用するには、この機能をデバイスで有効にする必要があります。

割り込みの発信側がコールをリリースすると、割り込みの発信側と発信先の間で割り込みコールがリリースされます。発信先デバイスともう一方のデバイスの間の元のコールはアクティブなままです。残っているすべてのユーザに対して割り込み切断トーン（ビープ音）が再生されます。

発信先デバイスがコールをリリースすると、割り込みの発信側ともう一方のデバイスの間のメディアが一時的に中断され、その後ポイントツーポイント コールとして再接続されます。接続されたデバイスを反映するため、割り込みの発信側のデバイスで表示が変更されます。

もう一方のデバイスがコールをリリースすると、元のコールと割り込みコールの両方がリリースされます。

割り込みの発信側がコールを保留にした場合、発信先デバイスともう一方のデバイスではコールが継続されます。

発信先デバイスがコールを保留または会議の状態にした場合やコールを転送した場合、割り込みの発信側は割り込みコールからリリースされ、元のコールは保留または会議の状態になるか、転送されます。発信先でメディアが再確立されると、割り込みの発信側はコールに再び割り込むことができます。

もう一方のユーザがコールを保留や会議の状態にした場合やコールを転送した場合は、発信先デバイスと割り込みの発信側の両方でコールが継続されます。

ネットワークや Cisco Unified Communications Manager で障害が発生した場合、割り込みコールは（すべてのアクティブなコールと同様に）保持されます。

ほとんどの Cisco Unified IP Phone に、割り込み機能が使用するビルトイン会議ブリッジ機能があります。



(注)

Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 では、2 つのメディア ストリーム暗号化と SRTP ストリームを同時にサポートすることはできません。この条件によって動作が不安定にならないよう、システムでは、デバイスセキュリティモードが [暗号化 (Encrypted)] に設定されたときは、Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 のビルトインブリッジを自動的に使用不可にします。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。

次の設定によって、ビルトイン会議ブリッジが有効または無効になります。

- Cisco Unified Communications Manager のクラスタ全体のサービス パラメータ BuiltIn Bridge Enable をオンまたはオフに設定することによって、ビルトインブリッジを有効または無効にします。
- [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで [ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] ドロップダウンリストボックスを使用することにより ([オン (On)]、[オフ (Off)]、または [デフォルト (Default)] を選択)、各デバイスに対してビルトインブリッジを有効または無効にします。[オン (On)] または [オフ (Off)] に設定すると、BuiltIn Bridge Enable サービス パラメータが上書きされます。デフォルトを選択すると、サービス パラメータの設定が使用されます。



(注)

ビルトインブリッジで割り込みを使用するには、前の項目が有効であること、プライバシーが無効であること、各デバイスに [割り込み] ソフトキーが割り当てられているか、またはワンボタン割り込み機能が有効になっていることを確認します。ビルトインブリッジで割り込みを使用しない場合は、共有会議ブリッジを使用するため、各デバイスに [C 割込] ソフトキーを割り当てるか、ワンボタン C 割り込み機能を有効にします。

詳細については、「[割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold の設定](#)」(P.1-18) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.1-20) を参照してください。

共有会議を使用した割り込み：ワンボタン C 割り込み機能または [C 割込] ソフトキー

ワンボタン C 割り込み機能または [C 割込] ソフトキーは、リモートで使用中のコール状態でだけ使用できます。標準ソフトキー テンプレートには、[C 割込] ソフトキーは含まれていません。[C 割込] ソフトキーを使用するには、管理者がそれをソフトキー テンプレートに追加し、そのソフトキー テンプレートをデバイスに割り当てます。



(注)

ワンボタン C 割り込み機能を使用するには、この機能をデバイスで有効にする必要があります。

[C 割込] ソフトキー（またはシェアライン ボタン）を押すと、共有会議ブリッジが使用可能な場合はそれを使用して割り込みコールが設定されます。元のコールは分割され、会議ブリッジで結合されます。このため、一時的にメディアが中断されます。すべての参加者のコール情報が割り込みに変更されます。

割り込まれたコールは会議コールになり、割り込みの発信先デバイスが会議コントローラになります。これは、会議へのその他のユーザの追加やユーザの切断を実行できます。

いずれかのユーザがコールからリリースされ、会議にユーザが 2 人だけ残った場合、その 2 人のユーザは一時的に中断され、その後ポイントツーポイント コールとして再接続されます。この再接続によって、共有会議リソースがリリースされます。

詳細については、「[割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold の設定](#)」(P.1-18) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.1-20) を参照してください。

割り込みの電話機表示メッセージ

ユーザが SIP デバイスへの割り込みを開始した場合、割り込みの発信側の電話機には「To Barge <表示名> (Shared Line DN)」と表示されます。

ユーザが SCCP デバイスへの割り込みを開始した場合、割り込みの発信側の電話機には「To Barge <表示名>」と表示されます。

パーティ参加トーンと割り込み、C 割り込み、またはワンボタン割り込み

パーティ参加トーン機能を使用すると、基本コールがマルチパーティ コールに変更されたとき、つまり基本コールが割り込みコール、C 割り込みコール、アドホック会議、ミーティング、または参加コールに変更されたときに、電話機でトーンが再生されます。また、ユーザがマルチパーティ コールから退席したときにも別のトーンが再生されます。

制御側デバイス、つまりマルチパーティ コールの発信側がビルトインブリッジを使用している場合、制御側デバイスにパーティ参加トーンを設定すると、すべてのユーザにトーンが再生されます。制御側デバイスがコールから退席すると、Cisco Unified Communications Manager でコール上の別のデバイスがトーンを再生できるかどうかを確認されます。コール上の別のデバイスがトーンを再生できる場合、Cisco Unified Communications Manager によってトーンが再生されます。制御側デバイスがトーンを再生できない場合、パーティ参加トーン機能を有効にしても、Cisco Unified Communications Manager でトーンは再生されません。

割り込みコールが作成された場合、割り込み発信側と回線を共有している割り込み発信先のパーティ参加トーン設定により、Cisco Unified Communications Manager でパーティ参加トーンを再生するかどうかが決まります。

C 割り込みコールが作成された場合、C 割り込み発信側と回線を共有している C 割り込み発信先のパーティ参加トーン設定により、Cisco Unified Communications Manager でパーティ参加トーンを再生するかどうかが決まります。ただし、発信先のコールが同じクラスタ内の既存のアドホック会議の場合、アドホック会議コントローラのパーティ参加トーン設定により、Cisco Unified Communications Manager でトーンを再生するかどうか決まります。

パーティ参加トーン機能を使用するには、デバイスのプライバシー機能をオフにするとともに、マルチパーティ コール制御側デバイスでビルトインブリッジを使用できるようにする必要があります。また、Cisco CallManager サービスおよびクラスタ全体をサポートしている Party Entrance Tone サービス パラメータを設定するか、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウ ([コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)]) で電話番号ごとに [パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)] 設定項目を設定します。サービスパラメータの詳細については、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの疑問符ボタンをクリックしてください。[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウの [パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)] 設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話番号の設定値」を参照してください。

プライバシー

プライバシーを使用すると、同じ回線（電話番号）を共有する電話機のユーザのコールステータス表示機能やコールへの割り込み機能を有効または無効にできます。クラスタ内の各電話機またはすべての電話機でプライバシーを有効または無効にできます。

デフォルトでは、クラスタ内のすべての電話機でプライバシーが有効になっています。すべての電話機でプライバシーを有効にするには、クラスタ全体のサービスパラメータを [True] のままにし、電話機のプライバシー設定をデフォルトのままにします。

特定の電話機にプライバシーへのアクセスを設定するには、次の手順を実行して、プライバシーを有効または無効にします。

- サービスパラメータを設定します。
- 電話機のプライバシー設定を [On] に設定します。
- 電話ボタンテンプレートに Privacy ボタンを追加します。
- Privacy ボタンのある電話ボタンテンプレートを各デバイスに追加します。

プライバシー用に設定したデバイスを Cisco Unified Communications Manager に登録すると、プライバシーを有効にして設定された電話機の機能ボタンにラベルが付けられ、そのステータスがアイコンで示されます。ボタンにランプがある場合は、点灯します。

電話機が着信コールを受信すると、ユーザは Privacy 機能ボタンを押してそのコールをプライベートにします（したがって、シェアラインにコール情報は表示されません）。Privacy 機能ボタンはオンとオフを切り替えることができます。

追加情報

「関連項目」(P.1-20) を参照してください。

Privacy on Hold

Privacy on Hold 機能を使用すると、同じ回線（電話番号）を共有する電話機のユーザのコールステータス表示機能や保留コールへの応答機能を有効または無効にできます。

管理者は、クラスタ内のすべての電話機で Privacy on Hold を有効または無効にできます。Privacy on Hold を有効にするには、その電話機またはすべての電話機でプライバシー機能を有効にする必要もあります。Privacy on Hold を有効にすると、すべてのプライベート コールで Privacy on Hold が自動的にアクティブになります。

デフォルトでは、クラスタ内のすべての電話機で Privacy on Hold が無効になっています。すべての電話機で Privacy on Hold を有効にするには、クラスタ全体のプライバシー サービス パラメータを [True] に設定し、クラスタ全体の Enforce Privacy Setting on Held Calls サービス パラメータを [True] に設定して、電話機のプライバシー設定をデフォルトの設定のままにします。

特定の電話機で Privacy on Hold へのアクセスを設定するには、Enforce Privacy Setting on Held Calls サービス パラメータを [True] に設定し、電話機のプライバシー設定を [True] に設定します。

- Enforce Privacy Setting on Held Calls サービス パラメータを [True] に設定します。
- プライバシー サービス パラメータを設定します。
- 電話機のプライバシー設定を [On] に設定します。
- 電話ボタン テンプレートに Privacy ボタンを追加します。
- Privacy ボタンのある電話ボタン テンプレートを各デバイスに追加します。

Privacy on Hold をアクティブにするには、プライベート コール中にユーザが [保留] ソフトキーまたは保留ボタンを押します。コールに戻るには、ユーザが [復帰] ソフトキーを押します。コールを保留にした電話機には、保留中のコールのステータス インジケータが表示されます。シェアラインでは、プライベートおよび保留中のコールのステータス インジケータが表示されます。

割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold のシステム要件

割り込み機能とプライバシー機能が動作するには、次のソフトウェア コンポーネントが必要です。

- Cisco Unified Communications Manager 5.0 以降

ワンボタン割り込み /C 割り込み機能と Privacy on Hold 機能が動作するには、次のソフトウェア コンポーネントが必要です。

- Cisco Unified Communications Manager 6.1(1) 以降

ワンボタン割り込み /C 割り込み機能か、[割り込み] ソフトキーまたは [C 割込] ソフトキーを使用してどの IP Phone が割り込みをサポートしているかを判断するには、「[割り込みおよびプライバシーをサポートするデバイス](#)」(P.1-13) を参照してください。

どの IP Phone が電話ボタン テンプレートの Privacy ボタンでプライバシーをサポートしているかを判断するには、「[割り込みおよびプライバシーをサポートするデバイス](#)」(P.1-13) を参照してください。



(注)

電話機が Privacy ボタンをサポートしていない場合、デフォルトでは、その電話機のプライバシーは [Off] のままです（その電話機と回線を共有するすべてのデバイスが電話情報を表示します）。

どの IP Phone がビルトイン会議ブリッジ機能をサポートしているかを判断するには、「[割り込みおよびプライバシーをサポートするデバイス](#)」(P.1-13) を参照してください。

割り込みおよびプライバシーをサポートするデバイス

割り込みおよびプライバシーをサポートする IP Phone の詳細なリストを生成するには、Cisco Unified Reporting アプリケーションを使用します。そのためには、次の手順に従います。

1. 次のいずれかの方法を使用して、Cisco Unified Reporting を起動します。

Web アプリケーションへのアクセスを許可されるまで、ユーザの認証には Cisco Tomcat サービスが使用されます。アプリケーションには次の方法でアクセスできます。

- Cisco Unified Communications Manager の管理ページのナビゲーションメニューで [Cisco Unified Reporting] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
 - Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool (RTMT) メニューで [File] > [Cisco Unified Reporting] の順に選択します。
 - `https://<サーバ名または IP アドレス>:8443/cucreports/` と入力し、認証済みのユーザ名とパスワードを入力します。
2. ナビゲーションバーで、[System Reports] をクリックします。
 3. 左側のカラムに表示されたレポートのリストで、[Unified CM Phone Feature List] オプションをクリックします。
 4. [Generate a new report] リンクをクリックして新規レポートを生成するか、または、レポートがすでに存在する場合は、[Unified CM Phone Feature List] リンクをクリックします。
 5. ビルトインブリッジをサポートするすべての IP Phone のレポートを生成するには、対応するドロップダウンリストボックスから次の設定を選択し、[Submit] ボタンをクリックします。

[Product] : [All]

[Feature] : [Built In Bridge]

[List Features] ペインに、ビルトインブリッジ機能をサポートするすべてのデバイスのリストが表示されます。カラムの見出し ([Product] または [Protocol]) の隣にある上下の矢印キーをクリックして、リストをソートできます。

6. プライバシーをサポートするすべてのデバイスのレポートを生成するには、対応するドロップダウンリストボックスから次の設定を選択し、[Submit] ボタンをクリックします。

[Product] : [All]

[Feature] : [Privacy]

[List Features] ペインに、プライバシー機能をサポートするすべてのデバイスのリストが表示されます。カラムの見出し ([Product] または [Protocol]) の隣にある上下の矢印キーをクリックして、リストをソートできます。

7. ワンボタン割り込みをサポートするすべてのデバイスのレポートを生成するには、対応するドロップダウンリストボックスから次の設定を選択し、[Submit] ボタンをクリックします。

[Product] : [All]

[Feature] : [Single Button Barge]

[List Features] ペインに、ワンボタン割り込み機能をサポートするすべてのデバイスのリストが表示されます。カラムの見出し ([Product] または [Protocol]) の隣にある上下の矢印キーをクリックして、リストをソートできます。

Cisco Unified Reporting アプリケーションの詳細については、次の URL の『Cisco Unified Reporting Administration Guide』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html

インタラクションおよび制限事項

次の項では、割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold におけるインタラクションと制限事項について説明します。

- 「インタラクション」 (P.1-14)
- 「制限事項」 (P.1-16)

インタラクション

次の各項では、割り込みとプライバシーが Cisco Unified Communications Manager アプリケーションおよびコール処理と通信する方法について説明します。

- 「割り込みと C 割り込み」 (P.1-14)
- 「割り込みとコール パーク」 (P.1-14)
- 「割り込みと参加」 (P.1-14)
- 「PLAR に対する割り込み、C 割り込み、およびワンボタン割り込みのサポート」 (P.1-15)

割り込みと C 割り込み

[割り込み] ソフトキーまたは [C 割込] ソフトキーのいずれかをソフトキー テンプレートに割り当てることをお勧めします。各デバイスにこれらのソフトキーのいずれかだけを割り当てることにより、ユーザの混乱を避け、パフォーマンスの問題が発生する可能性を防ぎます。



(注) デバイスに対してワンボタン割り込みまたはワンボタン C 割り込みを有効にできます。ただし、両方同時に有効にはできません。

割り込みとコール パーク

発信先がコールをパークした場合は、割り込みの発信側がリリースされるか（ビルトインブリッジを使用している場合）、割り込みの発信側ともう一方のデバイスが接続されたままになります（共有会議を使用している場合）。

割り込みと参加

発信先がコールを別のコールと結合した場合は、割り込みの発信側がリリースされるか（ビルトインブリッジを使用している場合）、割り込みの発信側ともう一方のデバイスが接続されたままになります（共有会議を使用している場合）。

PLAR に対する割り込み、C 割り込み、およびワンボタン割り込みのサポート

割り込み、C 割り込み、またはワンボタン割り込みの発信側は、PLAR 用に設定されている共有回線を介してコールに割り込むことができます。つまり、割り込みの発信先でコール中に PLAR 回線に関連付けられる事前設定番号が使用されている場合、発信側はコールに割り込むことができます。Cisco Unified Communications Manager では、割り込みコールの接続前に PLAR 回線に割り込み呼び出しを送信することはありません。そのため、割り込みは PLAR 接続先の状態に関係なく行われます。

割り込み、C 割り込み、またはワンボタン割り込みを PLAR と連携させるには、「[割り込みの設定チェックリスト](#)」(P.1-2) の説明に従って、割り込み、C 割り込み、またはワンボタン割り込みを設定する必要があります。また、PLAR 接続先 (PLAR 専用の電話番号) の設定も必要です。次の例では、SCCP を実行している電話機および SIP を実行している電話機に対して PLAR 機能を有効にする方法について説明します。

A および A' は、割り込み、C 割り込み、またはワンボタン割り込み用に設定しているシェアードライン デバイスを表します。B1 は、PLAR 接続先の電話番号を表します。SIP を実行している A/A' から PLAR 機能を有効にする方法については、次の例を参照してください。



ヒント

ステップ 1～ステップ 4 は、SCCP を実行している電話機に対して PLAR を設定する場合に適用されます。SIP を実行している電話機に対しては、ステップ 1～ステップ 6 を実行してください。

PLAR の設定例

- ステップ 1** パーティション (P1 など) とコーリング サーチ スペース (CSS1 など) を作成して、CSS1 に P1 を含めます (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [パーティション (Partition)] または [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] を選択します)。
- ステップ 2** コーリング サーチ スペース CSS1 とパーティション P1 を含むトランスレーション パターン (TP1 など) を作成します。ヌルパターン (空白パターン) を作成し、[着信側トランスフォーメーションマスク (Called Party Transformation Mask)] フィールドには必ず B1 PLAR 接続先の電話番号を入力します (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング (Call Routing)] > [トランスレーションパターン (Translation Pattern)] を選択します)。
- ステップ 3** コーリング サーチ スペース CS1 を A または A' に割り当てます (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します)。
- ステップ 4** P1 パーティションを PLAR 接続先 B1 の電話番号に割り当てます (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] を選択します)。
- ステップ 5** SIP を実行している電話機の場合、SIP ダイアル ルールを作成します (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング (Call Routing)] > [ダイアル ルール (Dial Rules)] > [SIP ダイアルルール (SIP Dial Rules)] を選択します。[7940_7960_OTHER] を選択します。パターンの名前 (PLAR1 など) を入力します。[保存 (Save)]、[PLAR の追加 (Add Plar)] の順にクリックします。[保存 (Save)] をクリックします)。
- ステップ 6** SIP を実行している電話機の場合、PLAR 用に作成した SIP ダイアルルール設定を電話機 (この例では A および A') に割り当てます (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。[SIP ダイアルルール (SIP Dial Rules)] ドロップダウン リスト ボックスから SIP ダイアル ルール設定を選択します)。

制限事項

割り込みには、次の制限事項があります。

- 割り込みの発信側は、追加の発信者の会議に参加できません。
- パフォーマンスを強化するには、ビルトインブリッジを無効にするか、シェアドラインアピアランスを持たないデバイスや割り込みを使用しないデバイスでプライバシーをオンにします。
- CTI は、TAPI/JTAPI アプリケーションが呼び出す API を介した割り込みをサポートしていません。CTI は、[割り込み] ソフトキーまたは [C 割込] ソフトキーを使用して IP Phone から割り込みが手動で呼び出された場合に、割り込みのイベントを生成します。
- 割り込みが設定されたユーザに対しては C 割り込みを設定しないことをお勧めします。各ユーザに対して選択する割り込みメソッドは 1 つだけにしてください。
- 元のコールには G.711 コーデックが必要です。G.711 を使用できない場合は、代わりに C 割り込みを使用します。
- [割り込み] ソフトキーを含むソフトキー テンプレートは、すべての IP Phone に割り当てることができます。ただし、割り込み機能をサポートしていない IP Phone もあります。
- 割り込みは、SIP を実行するほとんどの Cisco Unified IP Phone をサポートします。「[割り込みおよびプライバシーをサポートするデバイス](#)」(P.1-13) を参照してください。
- 割り込みに使用された電話機で暗号化が設定されていない場合、ユーザは暗号化されたコールに割り込むことができません。このケースで割り込みが失敗すると、ユーザが割り込みを行った電話機でビジー音が再生されます。

発信側の電話機に暗号化機能が設定されている場合、割り込み発信側は暗号化された電話機からの認証されたコールまたは非セキュア コールに割り込むことができます。割り込みが行われた後で、Cisco Unified Communications Manager はコールを非セキュアに分類します。

発信側の電話機に暗号化機能が設定されている場合、割り込みの発信側は暗号化されたコールに割り込むことができ、電話機にはコール状態が暗号化であることが示されます。

割り込みに使用された電話機が非セキュアである場合でも、ユーザは認証されたコールに割り込むことができます。発信側の電話機がセキュリティをサポートしていない場合でも、認証アイコンはコール内の認証されたデバイス上に継続して表示されます。



ヒント 割り込み機能が必要な場合は C 割り込みを設定できます。ただし、Cisco Unified Communications Manager は自動的にコールを非セキュアに分類します。

- Cisco Unified IP Phone 7960 および 7940 に暗号化機能を設定した場合、暗号化されたこれらのデバイスでは、暗号化されたコールに参加するときに割り込み要求を受け入れることができません。コールが暗号化されている場合、割り込みは失敗します。電話機では、割り込みが失敗したことを示すトーンが再生されます。

次の設定を試みると、Cisco Unified Communications Manager の管理ページにメッセージが表示されます。

- [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、[デバイスセキュリティモード (Device Security Mode)] に [暗号化 (Encrypted)] を選択し (システム デフォルトは [暗号化 (Encrypted)])、[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] 設定に [オン (On)] を設定し (デフォルト設定は [オン (On)])、この特定の設定を作成した後で [挿入 (Insert)] または [更新 (Update)] をクリックする。

- [エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ウィンドウで、Device Security Mode パラメータを更新する。
- [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、Builtin Bridge Enable パラメータを更新する。
- 会議内のシェアドラインユーザの数が、割り込み試行を行っているデバイスの [コール最大数 (Maximum Number of Calls)] 設定の設定値以上の場合、電話機によって制限超過エラーを示すメッセージが表示されます。

プライバシーには、次の制限事項があります。

- パフォーマンスを強化するには、ビルトインブリッジを無効にするか、シェアドラインアピアランスを持たないデバイスや割り込みを使用しないデバイスでプライバシーをオンにします。
- CTI は、TAPI/JTAPI アプリケーションが呼び出す API を介したプライバシーをサポートしていません。CTI は、Privacy 機能ボタンを使用して IP Phone からプライバシーが有効または無効にされた場合に、イベントを生成します。
- プライバシーは、SIP を実行するほとんどの Cisco Unified IP Phone をサポートします。「[割り込みおよびプライバシーをサポートするデバイス](#)」(P.1-13) を参照してください。

ビルトイン会議ブリッジには次の制限事項が適用されます。

- パフォーマンスを強化するには、ビルトインブリッジを無効にするか、シェアドラインアピアランスを持たないデバイスや割り込みを使用しないデバイスでプライバシーをオンにします。
- 発信側はコールのパークやコールの転送を実行できません。また、CTI/JTAPI/TSP インターフェイスを介した機能も使用できません。システムがサポートするのは保留と保留解除だけです。
- ビルトイン会議ブリッジは、SIP を実行するほとんどの Cisco Unified IP Phone をサポートします。「[割り込みおよびプライバシーをサポートするデバイス](#)」(P.1-13) を参照してください。

Privacy on Hold には、次の制限事項があります。

- CTI は、TAPI/JTAPI アプリケーションが呼び出す API を介した Privacy on Hold をサポートしていません。CTI は、プライバシーが有効になっているコールが保留にされ、Privacy 機能ボタンを使用して IP Phone からプライバシーが有効または無効にされた場合に、イベントを生成します。

割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold のインストールとアクティブ化

割り込みシステム機能、プライバシーシステム機能、および Privacy on Hold システム機能は、Cisco Unified Communications Manager ソフトウェアに標準で備わっています。管理者は、システムで使用可能にするため、インストール後にこれらの機能をアクティブにします。次の各項では、これらの機能のアクティブ化について説明します。

- 「[ビルトイン会議ブリッジでの割り込みのアクティブ化](#)」(P.1-18)
- 「[共有会議ブリッジでの C 割り込みのアクティブ化](#)」(P.1-18)
- 「[プライバシーのアクティブ化](#)」(P.1-18)
- 「[Privacy on Hold のアクティブ化](#)」(P.1-18)

ビルトイン会議ブリッジでの割り込みのアクティブ化

ビルトイン会議ブリッジで割り込みをアクティブにするには、ソフトキー テンプレートに [割り込み] ソフトキーを追加し、ソフトキー テンプレートをデバイスに割り当て、**Builtin Bridge Enable** サービス パラメータを [On] に設定し、**Party Entrance Tone** を [True] に設定します。ワンボタン割り込み機能をアクティブにするには、この機能を [デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウで有効にする必要もあります。詳細については、「[割り込みの設定チェックリスト](#)」(P.1-2) を参照してください。



(注)

すべてのユーザに対してビルトイン会議ブリッジで割り込みを設定するには、**Builtin Bridge Enable** サービス パラメータを [On] に設定します。個々のユーザに対してビルトイン会議ブリッジで割り込みを設定するには、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで [ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] フィールドを [オン (On)] に設定します。

共有会議ブリッジでの C 割り込みのアクティブ化

共有会議ブリッジで割り込みをアクティブにするには、ソフトキー テンプレートに [C 割込] ソフトキーを追加し、ソフトキー テンプレートをデバイスに割り当て、**Party Entrance Tone** を [True] に設定します。ワンボタン C 割り込み機能をアクティブにするには、この機能を [デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウで有効にする必要もあります。詳細については、「[割り込みの設定チェックリスト](#)」(P.1-2) を参照してください。

プライバシーのアクティブ化

Privacy Setting サービス パラメータが [True] に設定され、電話機のプライバシー設定がデフォルトの設定になっている場合、システムは自動的に **Cisco Unified Communications Manager** クラスターのプライバシーをアクティブにします。また、電話ボタン テンプレートをデバイスに割り当てる必要があります。詳細については、「[プライバシーおよび Privacy on Hold の設定チェックリスト](#)」(P.1-4) を参照してください。

Privacy on Hold のアクティブ化

Enforce Privacy Setting on Held Calls サービス パラメータが [True] に設定され、電話機にプライバシー機能が設定されている場合、システムは自動的に **Cisco Unified Communications Manager** クラスターの **Privacy on Hold** をアクティブにします。詳細については、「[プライバシーおよび Privacy on Hold の設定チェックリスト](#)」(P.1-4) を参照してください。

割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold の設定

この項の内容は次のとおりです。

- 「[割り込みの設定チェックリスト](#)」(P.1-2)
- 「[プライバシーおよび Privacy on Hold の設定チェックリスト](#)」(P.1-4)
- 「[割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold 用のサービス パラメータの設定](#)」(P.1-19)



ヒント

割り込みまたはプライバシーを設定する前に、「[割り込みの設定チェックリスト](#)」(P.1-2) および「[プライバシーおよび Privacy on Hold の設定チェックリスト](#)」(P.1-4) を参照してください。

割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold 用のサービスパラメータの設定

Cisco Unified Communications Manager には、クラスタ全体のサービスパラメータが 5 つあります。ビルトイン会議ブリッジ機能用の Builtin Bridge Enable、プライバシー機能用の Privacy Setting、Privacy on Hold 機能用の Enforce Privacy Setting on Held Calls 設定、ワンボタン割り込み / C 割り込み機能用の Single Button Barge/cBarge Policy、および割り込み中に再生されるビープ音用の Party Entrance Tone です。

- **Builtin Bridge Enable** : デフォルトでは [Off] に設定されています。このパラメータは、[割り込み] ソフトキーを使用する電話機でビルトイン会議ブリッジ機能を有効または無効にします。このパラメータは、Cisco CallManager サービスが使用されており、割り込みが設定されたクラスタ内の各サーバに対して設定します。[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで [ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] が [オン (On)] に設定された場合、サービスパラメータ設定は上書きされます。
- **Privacy Setting** : デフォルトでは [True] に設定されています。このパラメータは、シェアドラインアピアランスに関する情報を表示しない電話機ユーザに対してプライバシー機能を有効または無効にします。このパラメータは、Cisco CallManager サービスが使用されており、プライバシーが設定されたクラスタ内の各サーバに対して設定します。特定の電話機だけでプライバシー機能が必要な場合は、このサービスパラメータを [False] に設定し、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [プライバシ (Privacy)] フィールドを [オン (On)] に設定します。
[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [プライバシ (Privacy)] フィールドがデフォルトに設定されている場合、電話機は Privacy Setting サービスパラメータの設定を使用します。
- **Enforce Privacy Setting on Held Calls** : デフォルトでは [False] に設定されています。このパラメータは、Privacy on Hold のコールを維持しない電話機ユーザに対して Privacy on Hold 機能を有効または無効にします。このパラメータは、Cisco CallManager サービスが使用されており、プライバシーが設定されたクラスタ内の各サーバに対して設定します。
- **Single Button Barge/cBarge Policy** : デフォルトでは [Off] に設定されています。このパラメータは、回線ボタンを押すだけで割り込みまたは C 割り込みの機能を使用できるように求める電話機ユーザに対して、ワンボタン割り込み / C 割り込み機能を有効または無効にします。このパラメータは、Cisco CallManager サービスが使用されており、プライバシーが設定されたクラスタ内の各サーバに対して設定します。
- **Party Entrance Tone** : デフォルトでは [False] に設定されています。このパラメータは、割り込み中に再生されるビープ音を有効または無効にします。このパラメータは、Cisco CallManager サービスが使用されており、割り込み（ビープ音付き）が設定されたクラスタ内の各サーバに対して設定します。

関連項目

- Cisco Unified IP Phone の管理資料 (Cisco Unified Communications Manager 用)
- Cisco Unified IP Phone のユーザ資料とリリース ノート
- 「割り込みの設定チェックリスト」 (P.1-2)
- 「プライバシーおよび Privacy on Hold の設定チェックリスト」 (P.1-4)
- 「割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold の概要」 (P.1-6)
- 「割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold のシステム要件」 (P.1-12)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.1-14)
- 「割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold のインストールとアクティブ化」 (P.1-17)
- 「割り込み、プライバシー、および Privacy on Hold の設定」 (P.1-18)
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話ボタンテンプレートの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ソフトウェアテンプレートの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サーバ上のサービスに対するサービスパラメータの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話ボタンテンプレートの設定値」
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「Cisco Unified IP Phone」
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「プログラム可能な回線キー」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話番号の設定値」
- 『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』



CHAPTER 2

折返し

この章は、次の内容で構成されています。

- 「折返しの設定チェックリスト」(P.2-1)
- 「折返しの概要」(P.2-3)
- 「折返しの動作について」(P.2-3)
- 「折返しの中断 / 再開機能」(P.2-6)
- 「折返しのシステム要件」(P.2-6)
- 「インタラクションおよび制限事項」(P.2-7)
- 「折返しのインストールとアクティブ化」(P.2-9)
- 「CallBack ソフトキーを含むソフトキー テンプレートの作成」(P.2-9)
- 「ユーザに対する折返しの情報の提供」(P.2-13)
- 「折返しのトラブルシューティング」(P.2-13)
- 「関連項目」(P.2-14)

折返しの設定チェックリスト

折返し機能を使用すると、着信側が応対可能になったときに、Cisco Unified IP Phone で折返し通知を受信できます。自分の電話機と同じ Cisco Unified Communications Manager クラスタ内、または QSIG トランクか QSIG 対応のクラスタ間トランクを経由するリモート PINX にある宛先の電話機に対して折返しをアクティブ化できます。

折返し通知を受信するには、ビジー音または呼び出し音が聞こえているときに [折返し] ソフトキーまたは機能ボタンを押します。ユーザは、リオーダー音が聞こえている間でも、折返しをアクティブ化できます。リオーダー音は、無応答タイマーが時間切れになるとトリガーされます。

■ 折返しの設定チェックリスト

表 2-1 に、折返し機能を設定する手順を示します。折返し機能の詳細については、「折返しの概要」(P.2-3) および「関連項目」(P.2-14) を参照してください。

表 2-1 折返しの設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 電話機のソフトキーおよびメッセージを英語以外の言語で表示する場合、または国に固有のトーンがユーザに聞こえるようにする場合は、ロケールインストーラをインストールしていることを確認します。	『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』
ステップ 2 Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、Standard User ソフトキー テンプレートのコピーを作成し、次の状態に対して CallBack ソフトキーを追加します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ オンフック コール状態 ・ リングアウト コール状態 ・ 接続時（転送打診）コール状態 電話機が機能ボタンとして折返しをサポートする場合は、適用可能な電話ボタン テンプレートのコピーを作成し、折返し機能ボタンを追加します。	「CallBack ソフトキーを含むソフトキー テンプレートの作成」(P.2-9) 「電話ボタン テンプレートの設定」
ステップ 3 Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、新しいソフトキー テンプレートを [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] に追加します。	「共通デバイス設定での CallBack ソフトキー テンプレートの構成」(P.2-11)
ステップ 4 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、次のいずれかの作業を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新しいソフトキー テンプレートまたは電話ボタン テンプレートを含む共通デバイス設定を選択します。 ・ [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] ドロップダウン リスト ボックスから新しいソフトキー テンプレートを選択するか、または [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] ドロップダウン リスト ボックスから新しい電話ボタン テンプレートを選択します。 	「電話機の設定における CallBack ソフトキー テンプレートの追加」(P.2-11) 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話ボタンテンプレートの設定」
ステップ 5 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、Cisco Unified IP Phone に正しいユーザ ロケールが設定されていることを確認します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザのパスワードの変更」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「スピードダイヤル ボタンまたは短縮ダイヤルの設定」 『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』
ステップ 6 デフォルトの設定を使用しない場合は、折返しのサービス パラメータを設定します。	「折返しのサービス パラメータの設定」(P.2-13)
ステップ 7 Cisco Unified サービスアビリティ で Cisco CallManager サービスをアクティブにしたことを確認します。	『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』

折返しの概要

折返し機能を使用すると、着信側が対応可能になったときに、Cisco Unified IP Phone で折返し通知を受信できます。自分の電話機と同じ Cisco Unified Communications Manager クラスタ内、または QSIG トランクか QSIG 対応のクラスタ間トランクを経由するリモート PINX にある宛先の電話機に対して折返しをアクティブ化できます。

折返し通知を受信するには、ビジー音または呼び出し音が聞こえているときに [折返し] ソフトキーまたは機能ボタンを押します。ユーザは、リオーダー音が聞こえている間でも、折返しをアクティブ化できます。リオーダー音は、無応答タイマーが時間切れになるとトリガーされます。

次の項では、折返し機能に関する次の情報について説明します。

- 「折返しの動作について」(P.2-3)
- 「折返しのシステム要件」(P.2-6)
- 「インタラクションおよび制限事項」(P.2-7)
- 「折返しのインストールとアクティブ化」(P.2-9)

折返しの動作について

次の例では、対応不可であった電話機が対応可能になった後に、どのように折返しが動作するかを説明します。

- 「例：ユーザ A が対応不可のユーザ B にコールする。」(P.2-4)
- 「例：ユーザ A がユーザ B に対して折返し機能をアクティブにしたが、ユーザ B が対応可能になったときにユーザ A がビジー状態である。」(P.2-4)
- 「例：ユーザ A がユーザ B にコールする。ユーザ B は、折返しがアクティブになる前に Call Forward No Answer (CFNA; 無応答時転送) をユーザ C に設定している。」(P.2-5)
- 「例：ユーザ A がユーザ B にコールする。ユーザ B は、ユーザ A が折返しをアクティブ化した後に、ユーザ C にコールを転送するように設定している。」(P.2-5)
- 「例：ユーザ A とユーザ C が同時にユーザ B にコールする。」(P.2-5)



(注) 発信側の電話機は、アクティブな折返し要求を 1 つだけサポートできます。着信側の電話機は複数の折返し要求をサポートできます。

折返しは、発信側または着信側の名前または番号については、スペースと 0 ～ 9 までの数字だけをサポートします。折返しを使用する場合、発信側または着信側の名前や番号に # または * (シャープ記号またはアスタリスク) を含めることはできません。



(注) 折返しがアクティブになった後で発信側 (ユーザ A) がリセットされると、折返しは自動的にキャンセルされます。ユーザ A は音声によるアラートを受け取らず、折返し通知画面も表示されません。着信側 (ユーザ B) がリセットされた場合、折返しはキャンセルされません。ユーザ B が対応可能になると、ユーザ A は音声によるアラートを受け取り、折返し通知画面が表示されます。

例：ユーザ A が応対不可のユーザ B にコールする。

ユーザ A が、ユーザ A と同じ Cisco Unified Communications Manager クラスタ、または別のクラスタにいるユーザ B にコールします。ユーザ B がビジーであるか、または応答しないため、ユーザ A は [折返し] ソフトキーを使用して、折返し機能をアクティブにします。次の折返しアクティベーションメッセージがユーザ A の電話機に表示されます。

<ユーザ B の DN> での折返しを有効にします。
 [キャンセル] を押すと無効になります。
 [終了] を押すと終了します。

ユーザ A が [終了] ソフトキーを押します。

ユーザ B が応対可能になると（電話機がビジーからオンフックになるか、またはアイドル状態からオフフックとオンフック サイクルを完了すると）、ユーザ A は音声によるアラートを受け取り、次のメッセージがユーザ A の電話機に表示されます。

<ユーザ B の DN> は応答可能になりました。
 時間 HH:MM YYYY/MM/DD
 [ダイヤル] を押すとコールします。
 [キャンセル] を押すと無効になります。
 [終了] を押すと終了します。

ユーザ A は [終了] ソフトキーを押してから、電話機をオフフックにしてユーザ B の電話番号をダイヤルします。ユーザ B がコールに対応します。ユーザ A とユーザ B が電話機をオンフックにします。

ユーザ A が [折返し] ソフトキーを押すと、ユーザ A の電話機に次のメッセージが表示されます。

<ユーザ B の DN> は応答可能になりました。
 時間 HH:MM YYYY/MM/DD
 [ダイヤル] を押すとコールします。
 [キャンセル] を押すと無効になります。
 [終了] を押すと終了します。



(注)

折返し通知によりアクティブとなった電話番号に手動でダイヤルしても、折返しのステータスには影響がありません。

例：ユーザ A がユーザ B に対して折返し機能をアクティブにしたが、ユーザ B が応対可能になったときにユーザ A がビジー状態である。

ユーザ A はユーザ B にコールします。ユーザ B は応答しません。ユーザ A は [折返し] ソフトキーを使用して、折返し機能をアクティブにします。次の折返しアクティベーションメッセージがユーザ A の電話機に表示されます。

<ユーザ B の DN> での折返しを有効にします。
 [キャンセル] を押すと無効になります。
 [終了] を押すと終了します。

ユーザ A が [終了] ソフトキーを押します。

次にユーザ C がユーザ A にコールし、ユーザ A とユーザ C がアクティブなコールでオンフックになります。ユーザ B が応対可能になった（電話機がビジーからオンフックになるか、アイドル状態からオフフックとオンフック サイクルを完了した）ときに、ユーザ A はまだアクティブなコールに対応しています。ユーザ A は音声によるアラートを受信し、ユーザ A の電話機に次のメッセージが表示されます。

<ユーザ B の DN> は応答可能になりました。
 時間 HH:MM YYYY/MM/DD
 [ダイヤル] を押すとコールします。
 [キャンセル] を押すと無効になります。
 [終了] を押すと終了します。

ユーザ A はアクティブなコールを中断して、次のいずれかの方法でユーザ B に接続できます。

- 通知画面の [ダイヤル] を選択する。ユーザ A がユーザ B にコールしている間、アクティブなコールは自動的に保留になります。
- [終了] ソフトキーを押して通知画面を終了し、アクティブなコールをパーク（または処理）する。アクティブなコールを処理した後、ユーザ A が [折返し] ソフトキーを押し、[ダイヤル] を選択すると、ユーザ B にコールできます。

例：ユーザ A がユーザ B にコールする。ユーザ B は、折返しがアクティブになる前に Call Forward No Answer (CFNA; 無応答時転送) をユーザ C に設定している。

次のシナリオは、無応答時転送に適用されます。

ユーザ B には、無応答時転送が設定されているため、ユーザ A からのコールは、ユーザ C に転送されます。ユーザ A は、ユーザ C がビジーでなければ、折返しを使用してユーザ C に接続し、ユーザ C がビジーであれば、ユーザ B に接続します。

ユーザ B またはユーザ C が応対可能（オンフック）になると、ユーザ A は音声によるアラートを受信し、ユーザ A の電話機にはこれらのユーザが応対可能であることを示すメッセージが表示されます。

例：ユーザ A がユーザ B にコールする。ユーザ B は、ユーザ A が折返しをアクティブ化した後に、ユーザ C にコールを転送するように設定している。

次のシナリオは、Call Forward All (CFA; 不在転送)、Call Forward Busy (CFB; 話中転送)、および無応答時転送をサポートします。

- ユーザ A が、ユーザ A と同じ Cisco Unified Communications Manager クラスタにいるユーザ B にコールします。ユーザ B が応対不可であるため、ユーザ A は折返しをアクティブにします。ユーザ B がユーザ A に対して応対可能になる前に、ユーザ B はコールをユーザ C へ転送するように設定しました。ユーザ A がユーザ B またはユーザ C のどちらかにコールするかは、ユーザ B のコール転送の設定に依存します。
- ユーザ A は別のクラスタに存在するユーザ B にコールします。コールは、QSIG トランクを使用して接続されます。ユーザ B が応対不可であるため、ユーザ A は折返しをアクティブにします。ユーザ B がユーザ A に対して応対可能になる前に、ユーザ B はコールをユーザ C へ転送するように設定しました。次のいずれかのイベントが発生します。
 - Callback Recall Timer (T3) が満了していない場合、ユーザ A は常にユーザ B にコールします。
 - Callback Recall Timer (T3) が満了した後は、ユーザ A がユーザ B またはユーザ C のどちらかにコールするかは、ユーザ B のコール転送の設定に依存します。



ヒント ユーザ B が応対可能であることをシステムがユーザ A に通知すると、タイマーが起動します。割り当てられた時間中にユーザ A がコールし直さなかった場合、システムは折返しをキャンセルします。折返しがキャンセルされた後でも、ユーザ A の電話機には、ユーザ B が応対可能であるというメッセージが表示されます。ユーザ A はユーザ B にダイヤルできます。

例：ユーザ A とユーザ C が同時にユーザ B にコールする。

ユーザ A とユーザ C が同時にユーザ B にコールします。ユーザ B が応対不可であるため、ユーザ A とユーザ C は折返しをアクティブにします。ユーザ A とユーザ C の電話機には、折返しアクティベーションメッセージが表示されます。

ユーザ B が応対可能になると、ユーザ A とユーザ C は両方とも音声によるアラートを受信します。また、両方の電話機にユーザ B が応対可能であるというメッセージが表示されます。ユーザ A またはユーザ C のどちらか先に [ダイヤル] ソフトキーを押した方が、ユーザ B に接続されます。

折返しの中断 / 再開機能

折返しには、折返しを開始したユーザがビジー状態のときに、受信側ユーザが対応可能になって折返し通知を受け取った場合に、コール完了サービスを中断する機能があります。その後、発信側ユーザが対応可能になると、そのユーザのコール完了サービスが再開されます。

発信側ユーザ（ユーザ A）が折返し機能をアクティブにした後、受信側ユーザ（ユーザ B）が対応可能になると、発信側の PINX が Suspend Callback APDU メッセージを送信し、ピアに対しユーザ A が再び対応可能になるまでユーザ B の監視を中断するように指示します。ユーザ A が対応可能になると、発信側 PINX は受信側に Resume APDU メッセージを送信し、ユーザ B の監視を再開するよう指示します。



(注)

折返しでは、クラスタ内およびクラスタ間 QSIG トランクの両方、または QSIG 対応クラスタ間トランクの中断 / 再開折返し通知の開始機能がサポートされています。また、QSIG 対応 H.225 トランクと H.323 ゲートウェイに対する中断 / 再開通知機能もサポートされています。

次の例は、中断 / 再開機能の動作を示しています。

例：ユーザ A は、ユーザ B が対応可能となったときにビジー状態である。

ユーザ A が、ユーザ A と同じ Cisco Unified Communications Manager クラスタ、または別のクラスタにいるユーザ B にコールします。ユーザ B がビジーであるか、または応答しないため、ユーザ A は [折返し] ソフトキーを使用して、折返し機能をアクティブにします。次の折返しアクションメッセージがユーザ A の電話機に表示されます。

<ユーザ B の DN> での折返しを有効にします。
 [キャンセル] を押すと無効になります。
 [終了] を押すと終了します。

ユーザ A が [終了] ソフトキーを押します。

ユーザ A は、ビジー トリガーを 1 に設定しています。

ユーザ A がビジーになります。ユーザ B が対応可能になります。

ユーザ A は音声によるアラートを受け取らず、折返し通知画面も表示されません。

発信側（ユーザ A）が、受信側（ユーザ B）に Suspend Callback APDU メッセージを送信します。

ユーザ A が対応可能になります。発信側が受信側に Resume Callback APDU メッセージを送信します。この処理により、ユーザ B に対する監視が再開されます。

ユーザ B が対応可能になると、ユーザ A は音声によるアラートを受け取り、折返し通知画面が表示されます。

折返しのシステム要件

折返しの動作には、次のソフトウェア コンポーネントが必要です。

- Cisco Unified Communications Manager 5.0 以降
- クラスタ内の少なくとも 1 台のサーバ上で稼動している Cisco CallManager サービス
- Cisco CallManager サービスと同じサーバ上で稼動している Cisco Database Layer Monitor サービス
- Cisco CallManager サービスと同じサーバ上で稼動している Cisco RIS Data Collector サービス
- 英語以外の電話ロケール、または国に固有のトーンを使用する場合は、Cisco Unified Communications Manager Locale Installer
- Microsoft Internet Explorer 7、Microsoft Internet Explorer 8、Firefox 3.x、または Safari 4.x

インタラクションおよび制限事項



(注) 電話機の折返し機能ソフトキー、機能ボタン、およびメッセージを英語以外の言語で表示する場合や、国に固有のトーンがユーザに聞こえるようにする場合は、『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』の説明に従って、ロケールインストーラをインストールします。

表 2-2 [折返し] ソフトキーと折返しボタンを使用する Cisco Unified IP Phone

Cisco Unified IP Phone モデル	[折返し] ソフトキー	折返しボタン
Cisco Unified IP Phone 6900 シリーズ (6901 および 6911 を除く)	X	X
Cisco Unified IP Phone 7900 シリーズ	X	
Cisco Unified IP Phone 8900 シリーズ	X	X
Cisco Unified IP Phone 9900 シリーズ	X	X
Cisco IP Communicator	X	

折返し機能は、Cisco Unified Communications Manager Assistant など、シスコ提供によるアプリケーションで使用できます。

次のデバイスにコールし、これらのデバイス上で折返しをアクティブにできます。

- Cisco Unified IP Phone 6900、7900、8900、および 9900 シリーズ (6901 および 6911 を除く)
- Cisco VGC Phone (Cisco VG248 Gateway を使用)
- Cisco Analog Telephone Adapter (ATA) 186 および 188
- Cisco Unified Communications Manager Release 8.0 以前は、Cisco VG224 エンドポイントのビジー状態の加入者でのみ折返しをサポートしていました。Cisco Unified Communications Manager Release 8.5 以降は、Cisco VG224 エンドポイントの無応答で折返しをサポートします。
- 上記の電話機にコールを転送する CTI ルート ポイント



ヒント

Cisco エクステンション モビリティ ユーザがログインまたはログアウトすると、折返しに関連付けられているアクティブなコールの完了は、自動的にキャンセルされます。電話機で折返しがアクティブにされた後で着信側の電話機がシステムから削除された場合、発信者が [ダイヤル] ソフトキーを押すとリオーダー音が聞こえます。ユーザは折返しをキャンセルまたは再度アクティブにできます。

ボイスメールシステムにすべてのコールを転送する場合は、折返しをアクティブにできません。



(注) SIP トランク経由の折返しはサポートされませんが、QSIG 対応の SIP トランク経由の折返しはサポートされます。

Cisco Unified IP Phone および折返し機能の詳細については、次のサイトで電話機のユーザーマニュアルを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps10326/products_user_guide_list.html

http://www.cisco.com/en/US/products/hw/phones/ps379/products_user_guide_list.html

http://www.cisco.com/en/US/products/ps10451/products_user_guide_list.html

http://www.cisco.com/en/US/products/ps10453/products_user_guide_list.html

SIP を実行する電話機での折返し通知に関する追加情報

SIP を実行する Cisco Unified IP Phone 7960 および 7940 での折返し通知の動作方法は、SCCP を実行する電話機の場合とは異なります。SIP を実行する Cisco Unified IP Phone 7960 および 7940 は、オンフック / オフフック状態での折返し通知機能をサポートしていません。SIP 電話機 7960 および 7940 で回線が使用可能となったことを Cisco Unified Communications Manager が認識する方法は、Cisco Unified Communications Manager がその電話機から受け取る SIP INVITE メッセージを監視することだけです。電話機から SIP INVITE が Cisco Unified Communications Manager に送信され、その電話機がオンフックになると、Cisco Unified Communications Manager は Cisco Unified IP Phone 7960 および 7940 (SIP) のユーザに音声によるアラートを送り、折返し通知画面を表示します。

自動転送機能、即時転送機能、およびボイスメール システム機能との機能インタラクション

次のコール状態は、Cisco Unified Communications Manager の折返し機能が自動転送機能、即時転送機能、およびボイスメール システム機能と通信する際に予想される発信側の動作を示しています。



(注)

Cisco Unified IP Phone 6900、8900、および 9900 は、Immediate Divert (iDivert; 即時転送) と同じように動作する転送機能およびソフトキーを使用します。

着信側 (電話機 B) が、不在転送、話中転送、または無応答時転送を使用して着信コールを転送するか、即時転送を使用してコールをボイスメール システムに転送する場合、発信側 (電話機 A) は、折返し機能に関する次のいずれかの状態になります。

- VM-Connected 状態：コールはボイスメール システムに接続されています。発信側の電話機 (電話機 A) では、[折返し] ソフトキーが非アクティブのままです。
- 元の着信側に関する Ring-Out 状態：着信側のボイスメール プロファイルにはボイスメール パイロットが含まれていません。着信側 (電話機 B) では、[即転送] ソフトキーを押すと、「キーがアクティブではありません」というメッセージが表示されます。発信側 (電話機 A) では、元の着信側 (電話機 B) に対して折返しをアクティブにできる必要があります。
- ボイスメール システム機能と新しい着信側としてのボイスメール パイロット番号に関する Ring-Out 状態：コールに関して、ボイスメール システム障害またはネットワーク障害が発生しています。着信側 (電話機 B) では、[即転送] ソフトキーを押すと、「一時エラー発生」というメッセージが表示されます。コール コンテキストには、ボイスメール パイロット番号が「新しい」着信側として含まれているため、発信側 (電話機 A) では、元の着信側 (電話機 B) に対して折返しをアクティブにすることはできません。
- 通話中のボイスメール ポートと新しい着信側としてのボイスメール パイロット番号に関する Ring-Out 状態：コールに関して、ボイスメール ポートが通話中になっています。着信側 (電話機 B) では、[即転送] ソフトキーを押すと、「話中」というメッセージが表示されま

す。コール コンテキストには、ボイスメールパイロット番号が「新しい」着信側として含まれているため、発信側（電話機 A）では、元の着信側（電話機 B）に対して折返しをアクティブにすることはできません。

詳細については、次の項を参照してください。

- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「電話機能」
- 「即時転送」(P.27-1)

折返しのインストールとアクティブ化

折返し機能は、Cisco Unified Communications Manager をインストールすると自動的にインストールされます。Cisco Unified Communications Manager をインストールした後に、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで折返しを設定する必要があります。この設定により、電話機のユーザは折返し機能を使用できるようになります。

折返し機能は Cisco CallManager サービスに依存するため、Cisco Unified サービスアビリティで Cisco CallManager サービスを必ずアクティブにしてください。

[折返し] ソフトキーの設定

次の項では、折返しの詳細な設定情報について説明します。

- 「CallBack ソフトキーを含むソフトキー テンプレートの作成」(P.2-9)
- 「共通デバイス設定での CallBack ソフトキー テンプレートの構成」(P.2-11)
- 「電話機の設定における CallBack ソフトキー テンプレートの追加」(P.2-11)
- 「折返しのサービス パラメータの設定」(P.2-13)



ヒント

折返し機能を設定する前に、「折返しの設定チェックリスト」(P.2-1) を参照してください。

CallBack ソフトキーを含むソフトキー テンプレートの作成

次の手順に従って、CallBack ソフトキーを含むソフトキー テンプレートを作成します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] を選択します。
[ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ソフトキーテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Softkey Templates)] ウィンドウで、Standard User ソフトキー テンプレートを選択します。
- ステップ 3** [コピー (Copy)] アイコンをクリックします。
[ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウに、新しい情報が表示されます。
- ステップ 4** [ソフトキーテンプレート情報 (Softkey Template Information)] の [名前 (Name)] フィールドに、Standard User for Call Back など、テンプレートの新しい名前を入力します。

- ステップ 5** [保存 (Save)] ボタンをクリックします。
[ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウに、新しい情報が再表示されます。
- ステップ 6** CallBack ソフトキーをテンプレートに追加するには、右上隅の [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスで [ソフトキーレイアウトの設定 (Configure Softkey Layout)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
[ソフトキーレイアウト設定 (Softkey Layout Configuration)] ウィンドウが表示されます。
CallBack ソフトキーは、オンフック、リングアウト、および接続時 (転送打診) の各コール状態に追加する必要があります。
- ステップ 7** CallBack ソフトキーをオンフック コール状態に追加するには、[コールステートの選択 (Select a call state to configure)] ドロップダウンリストボックスから [オンフック (On Hook)] を選択します。
[ソフトキーレイアウト設定 (Softkey Layout Configuration)] ウィンドウが再表示され、[選択されていないソフトキー (Unselected Softkeys)] リストと [選択されたソフトキー (Selected Softkeys、位置順)] リストが表示されます。
- ステップ 8** [選択されていないソフトキー (Unselected Softkeys)] リストで CallBack ソフトキーを選択し、右矢印をクリックして [選択されたソフトキー (Selected Softkeys、位置順)] リストにソフトキーを移動します。
- ステップ 9** [保存 (Save)] ボタンをクリックして保存し、処理を続けます。
- ステップ 10** CallBack ソフトキーをリングアウト コール状態に追加するには、[コールステートの選択 (Select a call state to configure)] ドロップダウンリストボックスから [リングアウト (Ring Out)] を選択します。
[ソフトキーレイアウト設定 (Softkey Layout Configuration)] ウィンドウが再表示され、[選択されていないソフトキー (Unselected Softkeys)] リストと [選択されたソフトキー (Selected Softkeys、位置順)] リストが表示されます。
- ステップ 11** [選択されていないソフトキー (Unselected Softkeys)] リストで CallBack ソフトキーを選択し、右矢印をクリックして [選択されたソフトキー (Selected Softkeys、位置順)] リストにソフトキーを移動します。
- ステップ 12** [保存 (Save)] ボタンをクリックして保存し、処理を続けます。
- ステップ 13** CallBack ソフトキーを接続時 (転送打診) コール状態に追加するには、[コールステートの選択 (Select a call state to configure)] ドロップダウンリストボックスから [接続時 (転送打診) (Connected Transfer)] を選択します。
- ステップ 14** [ソフトキーレイアウト設定 (Softkey Layout Configuration)] ウィンドウが再表示され、[選択されていないソフトキー (Unselected Softkeys)] リストと [選択されたソフトキー (Selected Softkeys、位置順)] リストが表示されます。
- ステップ 15** [選択されていないソフトキー (Unselected Softkeys)] リストで CallBack ソフトキーを選択し、右矢印をクリックして [選択されたソフトキー (Selected Softkeys、位置順)] リストにソフトキーを移動します。
- ステップ 16** [保存 (Save)] ボタンをクリックします。
-

共通デバイス設定での CallBack ソフトキー テンプレートの構成

次の手順に従って、CallBack ソフトキー テンプレートを共通デバイス設定に追加します。折返し機能を持つユーザ用にカスタマイズした共通デバイス設定を作成します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] を選択します。
[共通デバイス設定の検索と一覧表示 (Find and List Common Device Configurations)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] リストに表示された、作成済みのいずれかの共通デバイス設定を選択します。
- ステップ 3** [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] フィールドのドロップダウン リスト ボックスから、CallBack ソフトキーを含むソフトキー テンプレートを選択します (このテンプレートをまだ作成していない場合は、「[CallBack ソフトキーを含むソフトキー テンプレートの作成](#)」(P.2-9) を参照してください)。
- ステップ 4** [保存 (Save)] ボタンをクリックします。

電話機の設定における CallBack ソフトキー テンプレートの追加

次の手順に従って、CallBack ソフトキー テンプレートをユーザごとの電話機に追加します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** ソフトキー テンプレートを追加する電話機を検索します。『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[Cisco Unified IP Phone の設定](#)」を参照してください。
- ステップ 3** 次のいずれかの手順を実行します。
 - [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ドロップダウン リスト ボックスから、新しいソフトキー テンプレートを含む共通デバイス設定を選択します。
 - [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] ドロップダウン リスト ボックスから、CallBack ソフトキーを含む新しいソフトキー テンプレートを選択します。
- ステップ 4** [保存 (Save)] ボタンをクリックします。
[リセット (Reset)] を押して電話機の設定を更新するよう、ダイアログボックスにメッセージが表示されます。

折返し機能ボタンの設定

次の項では、折返しの詳細な設定情報について説明します。

- 「折返し機能ボタン用の電話ボタン テンプレートの作成」(P.2-12)
- 「電話の設定での折返し電話ボタン テンプレートの追加」(P.2-13)



ヒント

折返し機能を設定する前に、「折返しの設定チェックリスト」(P.2-1) を参照してください。

折返し機能ボタン用の電話ボタン テンプレートの作成

次の手順に従って、折返し機能ボタンを含む電話ボタン テンプレートを作成します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] の順に選択します。
[電話ボタンテンプレートの設定 (Phone Button Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [電話ボタンテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Phone Button Templates)] ウィンドウから、折返し機能ボタンを必要とする IP Phone 用の電話ボタン テンプレート（たとえば、標準の 6961 SCCP）を選択します。
- ステップ 3** [コピー (Copy)] アイコンをクリックします。
[電話ボタンテンプレートの設定 (Phone Button Template Configuration)] ウィンドウに、新しい情報が表示されます。
- ステップ 4** [電話ボタン テンプレートの名前 (Phone Button Template Name)] フィールドに、Standard 6961 SCCP for Call Back など、テンプレートの新しい名前を入力します。
- ステップ 5** [保存 (Save)] ボタンをクリックします。
[電話ボタンテンプレートの設定 (Phone Button Template Configuration)] ウィンドウに、新しい情報が再表示されます。
- ステップ 6** 折返し機能ボタンをテンプレートに追加するには、任意の回線ボタン ドロップダウン リスト ボックスを選択し、[折返し (CallBack)] を選択します。
- ステップ 7** [保存 (Save)] ボタンをクリックします。

電話の設定での折返し電話ボタン テンプレートの追加

次の手順に従って、折返し電話ボタン テンプレートをユーザごとの電話機に追加します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 電話ボタンテンプレートを追加する電話機を検索します。『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」を参照してください。
- ステップ 3** [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] ドロップダウン リストで、折返し機能ボタンが含まれている新しい電話ボタンテンプレートを選択します。
- ステップ 4** [保存 (Save)] ボタンをクリックします。
[リセット (Reset)] を押して電話機の設定を更新するよう、ダイアログボックスにメッセージが表示されます。

折返しのサービス パラメータの設定

折返しのサービス パラメータを設定するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] にアクセスします。Cisco CallManager サービスが実行されているサーバを選択してから、Cisco CallManager サービスを選択します。

Cisco Technical Assistance Center の指示があった場合を除き、デフォルトのサービス パラメータ設定の使用をお勧めします。折返しのサービス パラメータには、Callback Enabled Flag、Callback Audio Notification File Name、Connection Proposal Type、Connection Response Type、Call Back Request Protection T1 Timer、Callback Recall T3 Timer、Callback Calling Search Space、No Path Preservation、Set Private Numbering Plan for Callback などがあります。これらのパラメータの詳細については、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの上隅に表示されている疑問符ボタンをクリックします。

ユーザに対する折返しの情報の提供

Web 上で入手可能な Cisco Unified IP Phone のユーザ ガイドに、Cisco Unified IP Phone の折返し機能の使用方法が記載されています。これらのガイドは、Cisco Unified IP Phone 7900 シリーズに用意されている疑問符ボタンのヘルプと併せてお読みください。

折返しのトラブルシューティング

Cisco Unified サービスアビリティ の Trace Configuration および Real-Time Monitoring Tool を使用して、折返しに関する不具合をトラブルシューティングします。『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』および『Cisco Unified Real Time Monitoring Tool Administration Guide』を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.2-14) を参照してください。

関連項目

- 「折返しの設定チェックリスト」(P.2-1)
- 「折返しの概要」(P.2-3)
- 「折返しの動作について」(P.2-3)
- 「折返しの中断 / 再開機能」(P.2-6)
- 「折返しのシステム要件」(P.2-6)
- 「インタラクションおよび制限事項」(P.2-7)
- 「折返しのインストールとアクティブ化」(P.2-9)
- 「[折返し] ソフトキーの設定」(P.2-9)
- 「ユーザに対する折返しの情報の提供」(P.2-13)
- 「折返しのトラブルシューティング」(P.2-13)
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ソフトキーテンプレートの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「デバイスデフォルトの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サービスパラメータの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話ボタンテンプレートの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』
- 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』
- 『Troubleshooting Guide for Cisco Unified Communications Manager』
- 『Cisco Unified IP Phone Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager』
- Cisco Unified Communications Manager 向けの Cisco Unified IP Phone のユーザ ガイド



CHAPTER 3

コール制御ディスカバリ

コール制御ディスカバリ機能は、Service Advertisement Framework (SAF) ネットワーク サービス (シスコ独自のサービス) を利用して、コール間エージェント情報の動的なプロビジョニングを容易にします。SAF ネットワーク サービスの採用により、コール制御ディスカバリ機能では、Cisco Unified Communications Manager は自身を他の重要な属性 (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定される電話番号パターンなど) とともにアドバタイズできます。そのため、同じく SAF ネットワークを使用する他のコール制御エンティティは、アドバタイズされた情報を使用してルーティングの動作を動的に設定し、適合させることができます。同様に、SAF を使用するすべてのエンティティは、所有する電話番号パターンを他の重要な情報とともにアドバタイズします。したがって、他のリモート コール制御エンティティは、その情報を学習してコールのルーティングの動作を適合させることができます。

この章は、次の内容で構成されています。

- 「コール制御ディスカバリの設定チェックリスト」 (P.3-2)
- 「Cisco Unified Communications Manager のコール制御ディスカバリの概要」 (P.3-5)
 - 「コール制御ディスカバリの概要」 (P.3-5)
 - 「コール制御ディスカバリ機能のコンポーネント」 (P.3-6)
- 「コール制御ディスカバリのシステム要件」 (P.3-17)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.3-17)
- 「コール制御ディスカバリのインストールとアクティブ化」 (P.3-19)
- 「コール制御ディスカバリの設定」 (P.3-19)
 - 「コール制御ディスカバリの設定に関する考慮事項」 (P.3-20)
 - 「コール制御ディスカバリの機能パラメータ」 (P.3-24)
 - 「SAF セキュリティ プロファイルの設定項目」 (P.3-26)
 - 「SAF フォワードの設定項目」 (P.3-27)
 - 「ホステッド DN グループの設定項目」 (P.3-31)
 - 「ホステッド DN パターンの設定項目」 (P.3-32)
 - 「CCD アドバタイジング サービスの設定項目」 (P.3-34)
 - 「コール制御ディスカバリのパーティションの設定項目」 (P.3-36)
 - 「CCD 要求サービスの設定項目」 (P.3-37)
 - 「ブロックされた学習パターンの設定項目」 (P.3-40)
 - 「コール制御ディスカバリの設定レコードの検索」 (P.3-42)

■ コール制御ディスカバリの設定チェックリスト

- 「コール制御ディスカバリの設定（手順）」 (P.3-44)
- 「SAF 対応トランクの設定」 (P.3-46)
- 「ホステッド DN グループに属するホステッド DN パターンの識別」 (P.3-46)
- 「コール制御ディスカバリの設定レコードの削除」 (P.3-46)
- 「エンド ユーザへの情報の提供」 (P.3-47)
- 「コール制御ディスカバリのトラブルシューティング」 (P.3-47)
- 「関連項目」 (P.3-47)

コール制御ディスカバリの設定チェックリスト

コール制御ディスカバリ機能は、Service Advertisement Framework (SAF) ネットワーク サービス (シスコ独自のサービス) を利用して、コール間エージェント情報の動的なプロビジョニングを容易にします。SAF ネットワーク サービスの採用により、コール制御ディスカバリ機能では、Cisco Unified Communications Manager は自身を他の重要な属性 (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定される電話番号パターンなど) とともにアドバタイズできます。そのため、同じく SAF ネットワークを使用する他のコール制御エンティティは、アドバタイズされた情報を使用してルーティングの動作を動的に設定し、適合させることができます。同様に、SAF を使用するすべてのエンティティは、所有する電話番号パターンを他の重要な情報とともにアドバタイズします。したがって、他のリモート コール制御エンティティは、その情報を学習してコールのルーティングの動作を適合させることができます。表 3-1 は、ネットワークでコール制御ディスカバリ機能を設定するためのチェックリストです。表 3-1 と「関連項目」 (P.3-47) を併せて参照してください。

表 3-1 コール制御ディスカバリの設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 まだ実行していない場合は、Cisco IOS ルータを SAF フォワーダとして設定します。	Cisco IOS ルータをサポートしているマニュアルを参照してください。たとえば、『Cisco IOS Service Advertisement Framework Configuration Guide』または『Cisco IOS Service Advertisement Framework Command Reference』を参照してください。 Cisco Feature Navigator を使用すると、特定のソフトウェア リリース、機能セット、またはプラットフォームをサポートする Cisco IOS および Catalyst OS ソフトウェア イメージを判別できます。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、 http://www.cisco.com/go/cfn に移動します。

表 3-1 コール制御ディスカバリの設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
<p>ステップ 2 SAF フォワーダの SAF セキュリティ プロファイルを設定します ([拡張機能 (Advanced Features)] > [SAF] > [SAF セキュリティプロファイル (SAF Security Profile)])。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、複数の SAF セキュリティ プロファイルを設定できます。</p> <p>SAF フォワーダ (SAF 用に設定した Cisco IOS ルータ) は、ローカル Cisco Unified Communications Manager クラスタの発行要求およびリモート コール制御エンティティからのサービス アドバタイズメントを処理します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「SAF フォワーダ」 (P.3-14) 「SAF セキュリティ プロファイルの設定項目」 (P.3-26) 「コール制御ディスカバリの設定に関する考慮事項」 (P.3-20)
<p>ステップ 3 Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、SAF フォワーダを設定します ([拡張機能 (Advanced Features)] > [SAF] > [SAF フォワーダ (SAF Forwarder)])。フェールオーバーをサポートするために、プライマリおよびバックアップの SAF フォワーダを設定することをお勧めします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「SAF フォワーダ」 (P.3-14) 「SAF フォワーダの設定項目」 (P.3-27) 「コール制御ディスカバリの設定に関する考慮事項」 (P.3-20)
<p>ステップ 4 SAF 対応の SIP および H.323 クラスタ間 (非ゲートキーパー制御) トランクを設定します ([デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)])。</p> <p>ローカル Cisco Unified Communications Manager クラスタは、CCD 要求サービスに割り当てられている SAF 対応トランクを使用して、発信コールを SAF ネットワークを使用するリモート コール制御エンティティにルーティングします。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager クラスタは、CCD アドバタイジングサービスに割り当てられている SAF 対応トランクをホステッド DN の範囲とともにアドバタイズします。したがって、リモート コール制御エンティティからのユーザが、この Cisco Unified Communications Manager の学習パターンへの着信コールを行うと、この Cisco Unified Communications Manager はこの SAF 対応トランクからの着信コールを受信して、コールを正しい DN にルーティングします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「ホステッド DN パターンと CCD アドバタイジング サービス」 (P.3-10) 「学習パターンと CCD 要求サービス」 (P.3-11) 「SAF 対応トランクの設定」 (P.3-46) 「コール制御ディスカバリの設定に関する考慮事項」 (P.3-20)
<p>ステップ 5 ホステッド DN グループを設定します。ホステッド DN パターンをロケーション別にグループ化することをお勧めします。たとえば、1つの市のさまざまな郵便番号を表すホステッド DN パターンをグループ化できます ([コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [ホステッド DN グループ (Hosted DN Group)])。</p> <p>ホステッド DN グループは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでグループ化したホステッド DN パターンの集合です。ホステッド DN グループを Cisco Unified Communications Manager の管理ページで CCD アドバタイジング サービスに割り当てると、CCD アドバタイジング サービスはホステッド DN グループに含まれるすべてのホステッド DN パターンを発行します。</p> <p>1つのホステッド DN グループは、1つのコール制御ディスカバリ アドバタイジング サービスだけに割り当てることができます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「ホステッド DN パターンと CCD アドバタイジング サービス」 (P.3-10) 「ホステッド DN グループの設定項目」 (P.3-31) 「ホステッド DN グループに属するホステッド DN パターンの識別」 (P.3-46) 「コール制御ディスカバリの設定に関する考慮事項」 (P.3-20)

■ コール制御ディスカバリの設定チェックリスト

表 3-1 コール制御ディスカバリの設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
<p>ステップ 6 ホステッド DN パターンを設定します ([コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [ホステッド DN パターン (Hosted DN Pattern)])。</p> <p>ホステッド Directory Number (DN; 電話番号) パターンは、コール制御エンティティに属する電話番号を表すパターンです。たとえば、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定するホステッド DN パターンは、リモート コール制御エンティティにアドバタイズするローカル Cisco Unified Communications Manager クラスタに属する電話番号の範囲です。CCD アドバタイジング サービスは、ホステッド DN パターンをアクティブな SAF フォワードに発行します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「ホステッド DN パターンと CCD アドバタイジング サービス」 (P.3-10) 「ホステッド DN パターンの設定項目」 (P.3-32) 「コール制御ディスカバリの設定に関する考慮事項」 (P.3-20)
<p>ステップ 7 ローカル Cisco Unified Communications Manager クラスタのホステッド DN を発行するには、コール制御ディスカバリ アドバタイジング サービスを設定します ([コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [アドバタイジングサービス (Advertising Service)])。必要な数の CCD アドバタイジング サービスを設定できます。</p> <p>コール制御ディスカバリ アドバタイジング サービスは Cisco Unified Communications Manager 内にあり、このサービスによってローカル Cisco Unified Communications Manager クラスタはそのホステッド DN および PSTN フェールオーバー設定を、SAF ネットワークを使用するリモート コール制御エンティティにアドバタイズできます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コール制御ディスカバリ アドバタイジング サービス」 (P.3-9) 「CCD アドバタイジング サービスの設定項目」 (P.3-34) 「コール制御ディスカバリの設定に関する考慮事項」 (P.3-20)
<p>ステップ 8 コール制御ディスカバリ専用のパーティションを設定します ([コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [パーティション (Partition)])。</p> <p>このルートパーティションは、すべての学習パターンがルートパーティションの下で番号分析に配置されるように、CCD 要求サービスによって排他的に使用されます。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、パーティションを CCD 要求サービスに割り当てます。</p> <p>ヒント CCD 要求サービスに割り当てるパーティションは、デバイスが学習パターンをコールするために使用できるコーリングサーチスペースに属している必要があります。そのため、デバイスが使用するコーリングサーチスペースにパーティションを割り当てます。パーティションが含まれたコーリングサーチスペースをデバイスに割り当てないと、デバイスは学習パターンをコールできません。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コール制御ディスカバリのパーティションの設定項目」 (P.3-36) 「CCD 要求サービスの設定項目」 (P.3-37) 「コール制御ディスカバリの設定に関する考慮事項」 (P.3-20)

表 3-1 コール制御ディスカバリの設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 9 ローカル Cisco Unified Communications Manager クラスタが SAF ネットワークからのアドバタイズメントを受信できるように、コール制御ディスカバリ要求サービスを1つ設定します ([コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [要求サービス (Requesting Service)])。設定できる CCD 要求サービスは1つだけです。 コール制御ディスカバリ要求サービスはローカル Cisco Unified Communications Manager 内にあり、このサービスによってローカル Cisco Unified Communications Manager は SAF ネットワークを使用するリモート コール制御エンティティからのホステッド DN アドバタイズメントを受信できます。	<ul style="list-style-type: none"> 「コール制御ディスカバリ要求サービス」 (P.3-11) 「CCD 要求サービスの設定項目」 (P.3-37) 「コール制御ディスカバリの設定に関する考慮事項」 (P.3-20)
ステップ 10 まだ実行していない場合は、SAF ネットワークを使用するようにリモート コール制御エンティティを設定します。たとえば、Cisco Unified Communications Manager Express または他の Cisco Unified Communications Manager クラスタを SAF ネットワーク用に設定します。	リモート コール制御エンティティをサポートしているマニュアルを参照してください。Cisco Unified Communications Manager Express のマニュアルなどです。
ステップ 11 コール制御ディスカバリの設定後に、リモート コール制御エンティティがローカル Cisco Unified Communications Manager に送信する学習パターンをブロックできます ([コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [ブロックされた学習パターン (Blocked Learned Patterns)])。	<ul style="list-style-type: none"> 「ホステッド DN パターンと CCD アドバタイジング サービス」 (P.3-10) 「ブロックされた学習パターンの設定項目」 (P.3-40) 「コール制御ディスカバリの設定レコードの削除」 (P.3-46)

Cisco Unified Communications Manager のコール制御ディスカバリの概要

この項は、次の内容で構成されています。

- 「コール制御ディスカバリの概要」 (P.3-5)
- 「コール制御ディスカバリ機能のコンポーネント」 (P.3-6)

コール制御ディスカバリの概要

コール制御ディスカバリ機能は、Service Advertisement Framework (SAF) ネットワーク サービス (シスコ独自のサービス) を利用して、コール間エージェント情報の動的なプロビジョニングを容易にします。SAF ネットワーク サービスの採用により、コール制御ディスカバリ機能では、ローカル Cisco Unified Communications Manager は自身を他の重要な属性 (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定される電話番号パターンなど) とともにアドバタイズできます。そのため、同じく SAF ネットワークを使用する他のコール制御エンティティは、アドバタイズされた情報を使用してルーティングの動作を動的に設定し、適合させることができます。同様に、SAF を使用するすべてのエンティティは、所有する電話番号パターンを他の重要な情報とともにアドバタイズします。したがって、他のリモート コール制御エンティティは、その情報を学習してコールのルーティングの動作を適合させることができます。また、コール制御ディスカバリ機能によって、ネットワークはコール間エージェント通信を有効にするために別のサーバに依存しないで、SAF がサポートされるエンティティ間の通信を容易にすることができます。



ヒント

コール制御ディスカバリ機能によって、冗長 SIP プロキシまたは複雑なゲートキーパーの設定は不要になります。ゲートキーパーの設定では、ネットワーク内のリモート コール制御エンティティのダイヤル プラン解決および到達可能性ステータスが提供されます。

コール制御ディスカバリ機能により、各ローカル Cisco Unified Communications Manager クラスタは次のタスクを実行できます。

- SAF ネットワークとの認証された接続を確立します。
- サーバの IPv4 アドレスまたはホスト名、SAF ネットワークがクラスタに接続するために使用するシグナリング プロトコルおよびポート番号、クラスタに対して Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定される電話番号パターンを提供することによって、クラスタを SAF ネットワークにアダプタイズします。
- SAF ネットワークに登録して、同じく SAF 関連ネットワークを使用する他のリモート コール制御エンティティからの要求を受信します。
- アダプタイズメントから学習した情報を使用して、パターンをマスター ルーティング テーブルに動的に追加します。マスター ルーティング テーブルにより、Cisco Unified Communications Manager は関連付けられている IP アドレスおよびシグナリング プロトコル情報を使用して、これらの接続先へのコールをルーティングおよび設定できます。
- リモート コール制御エンティティへの接続が失われた場合、SAF ネットワークは、学習した情報を IP 到達不能としてマークするように Cisco Unified Communications Manager に通知します。その後、コールは PSTN を経由します。
- 情報のアダプタイズおよび受信の冗長性を提供します。したがって、何らかの理由でサーバがそのプライマリ SAF フォワーダへの接続を失った場合、別のバックアップ SAF ルータを選択して情報をアダプタイズおよび受信できます。

コール制御ディスカバリ機能のコンポーネント

この項は、次の内容で構成されています。

- 「コール制御ディスカバリの用語」 (P.3-7)
- 「コール制御ディスカバリ アダプタイズング サービス」 (P.3-9)
 - 「CCD アダプタイズング サービスと SAF 対応トランク」 (P.3-9)
 - 「ホステッド DN パターンと CCD アダプタイズング サービス」 (P.3-10)
- 「コール制御ディスカバリ要求サービス」 (P.3-11)
 - 「学習パターンと CCD 要求サービス」 (P.3-11)
 - 「CCD 要求サービスと SAF 対応トランク」 (P.3-12)
 - 「ネットワーク取り消しのサポート」 (P.3-14)
- 「SAF フォワーダ」 (P.3-14)



ヒント

コール制御ディスカバリ機能ではすべてのコンポーネントが連携して動作するため、すべての項を確認して機能の動作を理解してください。

コール制御ディスカバリの用語

表 3-2 に、コール制御ディスカバリ機能に関連する用語の概要を簡単に示します。各概念の詳細については、表の説明列にあるリンクをクリックしてください。

表 3-2 コール制御ディスカバリの用語

用語	説明
Call Control Discovery (CCD; コール制御ディスカバリ) アドバタイジングサービス	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager 内にあります。 • PSTN フェールオーバー設定およびホステッド DN パターンをローカル Cisco Unified Communications Manager クラスターの SAF トランク アクセス情報とともに、SAF ネットワークを使用するリモート コール制御エンティティにアドバタイズします。 • Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [アドバタイジングサービス (Advertising Service)] で設定されます。 • 詳細情報 : 「コール制御ディスカバリ アドバタイジング サービス」 (P.3-9)
Call Control Discovery (CCD; コール制御ディスカバリ) 要求サービス	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager 内にあります。 • ローカル Cisco Unified Communications Manager が SAF ネットワークを使用するリモート コール制御エンティティからのアドバタイズメントを受信できるようにします。 • 学習パターン (リモート コール制御エンティティからのホステッド DN パターン) がローカル Cisco Unified Communications Manager 上の番号分析に挿入されるようにします。 • 学習パターンへのコールに対してロード バランシングを実行します。 • SAF ネットワークからの Cisco Unified Communications Manager の取り消しを処理します。 • Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [要求サービス (Requesting Service)] で設定されます。 • 詳細情報 : 「コール制御ディスカバリ 要求サービス」 (P.3-11)

表 3-2 コール制御ディスカバリの用語（続き）

用語	説明
ホステッド DN パターン	<ul style="list-style-type: none"> ローカル コール制御エンティティに属する電話番号パターン。 <p>ヒント たとえば、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [ホステッド DN パターン (Hosted DN Pattern)] で設定するホステッド DN パターンは、リモート コール制御エンティティにアドバタイズするローカル Cisco Unified Communications Manager クラスタの電話番号パターン範囲です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカル Cisco Unified Communications Manager の場合、CCD アドバタイジング サービスによって SAF フォワーダに発行されます。 詳細情報：「ホステッド DN パターンと CCD アドバタイジング サービス」 (P.3-10)
学習パターン	<ul style="list-style-type: none"> CCD 要求サービスによって番号分析に挿入されるパターン。 ローカル Cisco Unified Communications Manager で手動でページまたはブロックできます。 RTMT で表示されます。 詳細情報：「学習パターンと CCD 要求サービス」 (P.3-11)
SAF フォワーダ	<ul style="list-style-type: none"> Cisco IOS ルータ。 リモート コール制御エンティティがホステッド DN パターンをアドバタイズするときに、ローカル Cisco Unified Communications Manager に通知します。 Cisco Unified Communications Manager がクラスタのホステッド DN パターンをアドバタイズできるように、ローカル Cisco Unified Communications Manager クラスタからの発行要求を受信します。 詳細情報：「SAF フォワーダ」 (P.3-14)
SAF 対応トランク	<ul style="list-style-type: none"> CCD アドバタイジング サービスに割り当てられている SAF 対応トランクは、SAF ネットワークを使用するリモート コール制御エンティティからの着信コールを処理します。 CCD 要求サービスに割り当てられている SAF 対応トランクは、学習パターンへの発信コールを処理します。 詳細情報：「CCD アドバタイジング サービスと SAF 対応トランク」 (P.3-9) および「学習パターンと CCD 要求サービス」 (P.3-11)

コール制御ディスカバリ アドバタイジング サービス

コール制御ディスカバリ アドバタイジング サービスは Cisco Unified Communications Manager 内にあり、このサービスによってローカル Cisco Unified Communications Manager クラスタは PSTN フェールオーバー設定、ホステッド DN パターン、およびそのクラスタの SAF 対応トランク アクセス情報を、SAF ネットワークを使用するリモートコール制御エンティティにアドバタイズできます。Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [アドバタイジングサービス (Advertising Service)] で、必要な数の CCD アドバタイジング サービスを設定できます。

この項は、次の内容で構成されています。

- 「[CCD アドバタイジング サービスと SAF 対応トランク](#)」 (P.3-9)
- 「[ホステッド DN パターンと CCD アドバタイジング サービス](#)」 (P.3-10)

CCD アドバタイジング サービスと SAF 対応トランク

次の事項を考慮してください。これらは、SAF 対応トランクと CCD アドバタイジング サービスの連携に関係します。

- Cisco Unified Communications Manager の管理ページで SAF 対応トランクを設定した後、[CCD アドバタイジングサービス (CCD Advertising Service)] ウィンドウで CCD アドバタイジング サービスに関連付ける SIP トランクと H.323 (非ゲートキーパー制御) トランクを 1 つずつ選択できます。CCD アドバタイジング サービスは、ホステッド DN パターン、ホステッド DN パターンの PSTN フェールオーバー設定、ノードの IP アドレス、H.323 トランクの動的なポート番号、H.323 トランクの QSIG 設定、SIP トランクの標準ポート 5060、および SIP ルート ヘッダー情報をアドバタイズします。CCD アドバタイジング サービスに割り当てられている各トランクの情報をアドバタイズします。
- SAF 対応トランクには、事前設定された宛先はありません。リモートコール制御エンティティからの着信コールの場合、ローカル Cisco Unified Communications Manager はアドバタイズされた動的なトランク ポート番号および SIP ルート ヘッダー、またはそのいずれかを使用して、コールを処理する適切な動的トランクを検索します。
- CCD アドバタイジング サービスは、割り当てられた、または選択されたトランクと同じノードで実行され、トランクのタイプごとに同じ一連のホステッド DN パターン範囲をアドバタイズします。
- リモートコール制御エンティティからローカル Cisco Unified Communications Manager への着信コールの場合、コールは CCD アドバタイジング サービスによってアドバタイズされた適切な SAF 対応トランクにルーティングされます。H.323 トランクの場合、コールがルーティングされる前に、着信の着信側プレフィックスが着信側番号に適用されます。
- H.323 トランクは、SIP トランクとは異なる機能をサポートします。たとえば、H.323 は QSIG をサポートし、SIP はプレゼンスをサポートします。機能サポートで H.323 トランクと SIP トランクの両方を CCD アドバタイジング サービスに割り当てる必要がある場合、両方のトランク タイプを割り当てます。機能サポートで 1 つのトランク タイプを割り当てることができる場合、クラスタに最適な 1 つのトランクを CCD アドバタイジング サービスに割り当てることをお勧めします。
- SAF 対応 SIP トランクと SAF 対応 H.323 (非ゲートキーパー制御) クラスタ間トランクの両方を CCD アドバタイジング サービスに割り当てた場合、2 つのトランクに対して着信コールの負荷分散が発生します。
- H.323 の設定ウィンドウにある [QSIG バリエーション (QSIG Variant)] および [ASN.1 ROSE OID エンコーディング (ASN.1 ROSE OID Encoding)] の設定は、CCD アドバタイジング サービスによってアドバタイズされます。これらの設定は、着信トンネル化コールの QSIG メッセージのデコードに影響します。コール制御ディスカバリでは、発信コールには影響しません。

ホステッド DN パターンと CCD アドバイジング サービス

ホステッド Directory Number (DN; 電話番号) パターンは、コール制御エンティティに属する一定範囲の電話番号パターンです。たとえば、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [ホステッド DN パターン (Hosted DN Pattern)] で設定するホステッド DN パターンは、リモートコール制御エンティティにアドバタイズするローカル Cisco Unified Communications Manager の電話番号パターンです。CCD アドバイジング サービスは、ローカル クラスタのホステッド DN パターンをアクティブな SAF フォワーダに発行します。

- ローカル Cisco Unified Communications Manager の CCD アドバイジング サービスは、Cisco Unified Communications Manager のホステッド DN サービスに代わってアドバタイジング発行要求をプライマリ SAF フォワーダに送信します。
- 各ホステッド DN パターンは、ホステッド DN グループに属します。ホステッド DN グループを CCD アドバイジング サービスに割り当てます。ホステッド DN パターンをホステッド DN グループに入れることで、CCD アドバイジング サービスは複数のパターンをアドバタイズできます。
- Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ホステッド DN パターン (Hosted DN Patterns)] ウィンドウで設定済みホステッド DN パターンを更新すると、CCD アドバイジング サービスは、更新されたパターンを含む発行要求をアクティブな SAF フォワーダに再送信します。発行要求は、CCD アドバイジング サービスに割り当てられているトランクごとに送信されます。
- ホステッド DN パターンが Cisco Unified Communications Manager の管理ページで追加または削除された場合、CCD アドバイジング サービスは、新規発行要求を大きいサービスバージョン番号で SAF ネットワークに送信します。
- CCD アドバイジング サービスに割り当てられているホステッド DN グループを変更した場合、CCD アドバイジング サービスは、新しく更新されたホステッド DN グループからパターンを大きいバージョン番号で、割り当てられている SAF 対応トランクごとに発行します。
- CCD アドバイジング サービスは、1 つの発行要求で多くのホステッド DN パターンを送信しようとします。1 つの要求で送信できるよりも多くのホステッド DN パターンがある場合、ローカル Cisco Unified Communications Manager は複数の要求を、それぞれに一意のサービス ID を付けて送信します。
- 一部のクラスタで、[CCD アドバイジング サービスの設定 (CCD Advertising Service Configuration)] ウィンドウでの SAF トランクの選択に基づいて、同じホステッド DN パターンが複数回発行される場合があります。たとえば、CCD アドバイジング サービスの設定に SAF 対応 SIP トランクと H.323 (非ゲートキーパー制御) トランクの両方が含まれている場合、ホステッド DN パターン 8902XXXX は、各ノードおよび各 SAF 対応トランクに対して 2 回発行されます。トランクの Cisco Unified Communications Manager グループに 2 つのノードが含まれている場合は、8902XXX の 4 つの発行要求が送信されます。このアプローチでは、受信エンティティは負荷分散を実行します。
- Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [CCD アドバイジング サービス (CCD Advertising Service)] ウィンドウで異なるホステッド DN グループを選択すると、サービスは SAF フォワーダに要求を送信してホステッド DN グループの発行を解除し、更新された設定を発行します。



ヒント

ホステッド DN グループの関連付けが変更された場合、SAF トランクの関連付けが変更された場合、SAF トランクが Cisco Unified Communications Manager の管理ページでリセットされた場合、または CCD アドバイジング サービスがリセットされた場合、CCD アドバイジング サービスは以前の要求の発行を解除し、新しいサービス ID で再度発行します。また、他のクラスタは SAF ネットワークから取り消しサービス通知を受信し、続いて新しい通知を SAF ネットワークから受信します。

詳細情報

[「関連項目」 \(P.3-47\)](#)

コール制御ディスカバリ要求サービス

コール制御ディスカバリ要求サービスは Cisco Unified Communications Manager 内にあり、このサービスによってローカル Cisco Unified Communications Manager は SAF ネットワークを使用するリモート コール制御エンティティからのアドバタイズメントを受信できます。CCD 要求サービスは、リモート コール制御エンティティから番号分析およびローカル キャッシュへの学習パターンの挿入も行います。Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [要求サービス (Requesting Service)] で、CCD 要求サービスを 1 つだけ設定できます。

リモート コール制御エンティティが情報をアドバタイズしていることを SAF フォワーダがローカル Cisco Unified Communications Manager に通知した後、CCD 要求サービスは、学習パターンおよび設定されたパーティションをローカル Cisco Unified Communications Manager の番号分析に挿入し、学習パターンおよび関連付けられた PSTN フェールオーバー設定をリモート コール制御エンティティからローカルにキャッシュします。

この項は、次の内容で構成されています。

- 「学習パターンと CCD 要求サービス」 (P.3-11)
- 「CCD 要求サービスと SAF 対応トランク」 (P.3-12)
- 「ネットワーク取り消しのサポート」 (P.3-14)

学習パターンと CCD 要求サービス

リモート コール制御エンティティ (他の Cisco Unified Communications Manager クラスタや Cisco Unified Communications Manager Express など) は、それらのホステッド DN パターンが他のリモート コール制御エンティティにアドバタイズされることを要求します。Cisco Unified Communications Manager の場合、アドバタイズされた DN パターンを CCD 要求サービスがローカル Cisco Unified Communications Manager の番号分析に挿入した後、Cisco Unified Communications Manager はそのパターンを学習パターンであると見なします。

学習パターンと CCD 要求サービスについて、次の事項を考慮してください。

- ローカル Cisco Unified Communications Manager の CCD 要求サービスは、リモート コール制御エンティティによってアドバタイズされるホステッド DN パターンについて学習するために、そのプライマリ SAF フォワーダをホステッド DN サービスに登録します。CCD 要求サービスがホステッド DN サービスに登録するには、SAF 対応トランクをサービスに割り当てる必要があり、そのサービスを [CCD 要求サービスの設定 (CCD Requesting Service Configuration)] ウィンドウでアクティブ化する必要があります。
- ローカル Cisco Unified Communications Manager が 1 つまたは複数のアドバタイズメントでリモート コール制御エンティティから重複した DN パターンを受信した場合、Cisco Unified Communications Manager はコールをルーティングするために最適な一致を実行します。たとえば、Cisco Unified Communications Manager がパターン 813XXXX および 8135XXX を受信します。ユーザが 8135233 をダイヤルした場合、Cisco Unified Communications Manager はコールをパターン 8135XXX に関連付けられたトランクにルーティングします。
- Cisco Unified Communications Manager Express などのリモート コール制御エンティティからの学習パターンが、ローカルで設定されたスタティックパターンと同じ場合、ローカル Cisco Unified Communications Manager は発信側デバイスのコーリングサーチスペースの設定を使用して、コールをローカルパターンにルーティングするか学習パターンにルーティングするかを決定します。
- CCD 要求サービスは、他の Cisco Unified Communications Manager クラスタや Cisco Unified Communications Manager Express などのリモート コール制御エンティティからの、重複する学習パターンを識別できます。CCD 要求サービスがパターンを処理する方法は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでのコール制御ディスカバリの機能パラメー

タ設定によって異なります。Issue Alarm for Duplicate Learned Pattern 機能パラメータが [True] に設定されている場合、CCD 要求サービスはアラームを発行し、重複する学習パターンを保存します。それらのパターンを使用するコールは、異なるコール制御エンティティ間でロード バランスされます。

- 学習パターンのコールが IP を経由できない場合、CCD 要求サービスは PSTN 経路でコールをルーティングします。CCD 要求サービスは、学習パターンの PSTN フェールオーバー設定に基づいて、コールを DID 番号へ転送します。設定されている場合は、発信側デバイスの AAR コーリング サーチ スペースが、PSTN フェールオーバー中のコールの転送に使用されます。
- CCD 要求サービスがそれ自身のクラスタによってアドバタイズされた学習パターンを受信した場合、Cisco Unified Communications Manager はパターンを無視します。たとえば、要求サービスと同じクラスタ内のノードが学習パターンをアドバタイズした場合、Cisco Unified Communications Manager はパターンを破棄します。
- CCD 要求サービスは、すべての学習パターンに対して正規表現チェックを実行し、小文字のワイルドカードを大文字のワイルドカードに変換します。
- 必要な場合は、使用しなくなった学習パターンをページでき、リモート コール制御エンティティによって学習パターンがアドバタイズされたときにローカル Cisco Unified Communications Manager がパターンを無視するように、学習パターンをブロックできます。たとえば、IP アドレス 111.11.11.11 のリモート コール制御エンティティからのプレフィックス 235 の学習パターンをブロックする場合、[学習パターンのブロック (Block Learned Patterns)] ウィンドウで関連情報を入力することによって、このコール制御エンティティのパターンを明確にブロックできます。この例では、設定を保存した後、CCD 要求サービスはローカル キャッシュを検索し、IP アドレス 111.11.11.11 のリモート コール制御エンティティからのプレフィックス 235 の学習パターンをページします。この情報を持つ後続の通知は、ローカル Cisco Unified Communications Manager によってブロックおよび無視されます。パターンのブロックおよびページは完全一致に基づきます。たとえば、235XX を設定すると 235XX がブロックされます。そのパターンのサブセットはブロックされません。リモート コール制御エンティティまたはリモート IP アドレスを指定しない場合、Cisco Unified Communications Manager はパターンをアドバタイズするすべてのリモート コール制御エンティティのパターンをページおよびブロックします。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ブロックされた学習パターンの検索と一覧表示 (Find and List Blocked Learned Pattern)] ウィンドウで、ページおよびブロックされた学習パターンを表示できます。これらのページまたはブロックされた学習パターンは、RTMT には表示されません。ブロックされたパターンを Cisco Unified Communications Manager の管理ページから削除した場合、それらが SAF ネットワークでまだ使用可能であれば（および、クラスタの学習パターンの最大数に達していなければ）、Cisco Unified Communications Manager はそれらのパターンを再学習できます。

CCD 要求サービスと SAF 対応トランク

CCD 要求サービスを設定するときに、SAF 対応トランクをサービスに割り当てます。CCD 要求サービスと SAF 対応トランクの連携について、次の事項を考慮してください。

- Cisco Unified Communications Manager は、発信コールを SAF 対応の SIP または H.323 クラスタ間（非ゲートキーパー制御）トランク経由で、SAF ネットワークを使用するリモート コール制御エンティティにルーティングします。つまり、CCD 要求サービスに割り当てる SAF 対応トランクが、リモート コール制御エンティティから学習 DN パターンへの発信コールを管理します。
- SAF 対応トランクが 2 つの Cisco Unified Communications Manager ノードを持つ Cisco Unified Communications Manager グループを使用する場合、SAF 対応トランクの Cisco Unified Communications Manager への登録後、CCD 要求サービスは各ノードで実行されます。

- リモート Cisco Unified Communications Manager の SAF 対応トランクのデバイスプールに3つの Cisco Unified Communications Manager ノードが含まれている場合、トランクは3つのノードすべてで実行され、同じ DN パターンのホステッド DN サービスをアドバタイズします。ホステッド DN サービスに登録するローカル Cisco Unified Communications Manager は、DN パターンは同じだが3つのノードの IP アドレスは異なる3つのアドバタイズメントを受信しません。CCD 要求サービスは、DN パターンをローカル キャッシュに追加し、パターンを3つのノードの IP アドレスに関連付けます。リモート Cisco Unified Communications Manager への発信コールの場合、CCD 要求サービスはダイヤルされたパターンと DN に関連付けられている Cisco Unified Communications Manager のリストを、CCD 要求サービスに割り当てられている SAF 対応トランクに提供します。表 3-3 (P.3-13) に示すように、ロードバランシングが行われます。トランクは、トランクで可能な順序でコールを確立し、ノードが使用不可の場合はリストの次のノードに移動します。
- CCD 要求サービスは、リモート コール制御エンティティの IP アドレスおよびポート番号を SAF 対応トランクに提供します。
- SAF 対応トランクには、事前設定された宛先はありません。学習パターンへの発信コールの場合、コール制御ディスカバリはコールごとに宛先 IP アドレスを動的なトランクに提供します。
- リモート コール制御エンティティは、H.323 トランク経由の発信コールに QSIG トンネルが必要かどうかを判別します。QSIG トンネルが必要であることをリモート コール制御エンティティがアドバタイズした場合、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [H.323 設定 (H.323 Configuration)] ウィンドウで QSIG サポートが不要であることが指定されている場合でも、QSIG メッセージは発信コールのメッセージ内でトンネル化されます。
- CCD 要求サービスは、学習パターンのプロトコル、ローカル トランク、およびパターンをアドバタイズしたリモート コール制御エンティティの IP アドレスを考慮することで、学習パターンへのコールに対するラウンドロビン ロードバランシングを実行します。表 3-3 (P.3-13) に、CCD 要求サービスが SAF 対応の SIP および H.323 クラスタ間トランクを使用して学習パターンへのコールをどのようにロードバランスするかを示します。

表 3-3 学習パターンへのコールに対するラウンドロビン ロードバランシング

コール	動作
8408XXXX への最初のコールの場合	CCD 要求サービスは SIP トランクを選択し、コールは学習された SIP トランク IP アドレス 10.1.1.1/5060、10.1.1.2/5060 の SIP トランクにルーティングされます。
8408XXXX への2番目のコールの場合	CCD 要求サービスは、学習された H.323 トランク IP アドレス 10.1.1.1/3456、10.1.1.2/7890 の H.323 クラスタ間トランクを選択します。
8408XXXX への3番目のコールの場合	CCD 要求サービスは SIP トランクを選択し、コールは学習された SIP トランク IP アドレス 10.1.1.2/5060、10.1.1.1/5060 の SIP トランクにルーティングされます。
8408XXXX への4番目のコールの場合	CCD 要求サービスは、学習された H.323 トランク IP アドレス 10.1.1.2/7890、10.1.1.1/3456 の H.323 クラスタ間トランクを選択します。

ネットワーク取り消しのサポート

CCD 要求サービスは、SAF ネットワークからの取り消しを次のように処理します。

- リモート コール制御エンティティが特定の学習パターンの発行を解除した場合、CCD 要求サービスはソース取り消し要求を SAF ネットワークから受信すると、それらの学習パターンをローカル キャッシュおよび番号分析からパージします。この場合、それらの学習パターンへのコールは発生しません。
- SAF フォワーダがコール制御エンティティとのネットワーク接続を失うと、SAF フォワーダはそのコール制御エンティティから発行された学習パターンを取り消します。この場合、CCD 要求サービスはそれらの学習パターンを IP による到達不能としてマークし、コールは PSTN ゲートウェイ経由でルーティングされます。

失われた接続を復元できず、PSTN フェールオーバー タイマーがタイムアウトする前に新しい通知要求が着信しない場合、CCD 要求サービスは到達不能な学習パターンを番号分析からすべて登録解除し、ローカル キャッシュからパージします。この場合、これらの学習パターンへのコールは発生しません。

- ローカル Cisco Unified Communications Manager がプライマリとセカンダリ両方の SAF フォワーダへの TCP 接続を失った場合、CCD Learned Pattern IP Reachable Duration 機能パラメータのタイマーが期限切れになった後、CCD 要求サービスはすべての学習パターンを IP 到達不能としてマークします。この場合、学習パターンへのすべてのコールは PSTN ゲートウェイを経由してルーティングされます。CCD PSTN Failover Duration パラメータのタイマーが期限切れになる前に SAF ネットワークへの接続が復元されない場合、CCD 要求サービスは到達不能な学習パターンを番号分析からすべて登録解除し、ローカル キャッシュからパージします。パージされた学習パターンへのコールは失敗します。
- ローカル Cisco Unified Communications Manager が SAF フォワーダへの TCP 接続を失うと、その SAF フォワーダは他のすべての SAF フォワーダに接続します。この場合、他の SAF フォワーダはコール制御エンティティに通知し、コール制御エンティティは到達不能パターン期間タイマーが期限切れになった後（Cisco Unified Communications Manager の場合、これは CCD Learned Pattern IP Reachable Duration 機能パラメータです）、パターンを IP による到達不能としてマークします。Cisco Unified Communications Manager の場合、CCD PSTN Failover Duration パラメータのタイマーが期限切れになる前に SAF ネットワークへの接続が復元されない場合、CCD 要求サービスは到達不能な学習パターンを番号分析からすべて登録解除し、ローカル キャッシュからパージします。パージされた学習パターンへのコールは失敗します。

詳細情報

「関連項目」(P.3-47)

SAF フォワーダ

SAF フォワーダ (SAF 用に設定した Cisco IOS ルータ) は、リモート コール制御エンティティがホステッド DN パターンをアドバタイズしたときに、ローカル Cisco Unified Communications Manager クラスタに通知します。また、SAF フォワーダは、[CCD アドバタイジングサービス (CCD Advertising Service)] ウィンドウで設定された設定および登録済みトランクごとに、ローカル Cisco Unified Communications Manager クラスタから発行要求を受信します。発行要求には、Cisco Unified Communications Manager のホステッド DN パターン、PSTN フェールオーバー設定、トランクのリスニングポート、および (SIP トランクの場合は) SIP ルートヘッダーフィールドが含まれています。SIP ルートヘッダーフィールドにはトランクの URI が含まれています。

表 3-4 に、Cisco Unified Communications Manager がサポートする SAF 配置モデルを示します。

表 3-4 SAF 配置モデル

配置モデル	説明	注
クラスタ全体	クラスタ内のすべてのノードは、すべての SAF フォワーダに接続できます。	クラスタ全体の配置モデルは、プライマリおよびバックアップの SAF フォワーダをサポートできます。
ノード固有	クラスタ内の特定のノードが SAF フォワーダに割り当てられ、それらのノードはネットワーク内で設定されている他の SAF フォワーダよりもこれらの SAF フォワーダを優先します。つまり、特定のノードは、最初は設定されている他の SAF フォワーダではなく割り当てられた SAF フォワーダに常に接続します。	ノード固有の配置モデルは、プライマリおよびバックアップの SAF フォワーダをサポートできます。 この配置モデルは、クラスタ内の各ノードが地理的に離れており、ローカルトラフィックをローカルノード経由でルーティングする WAN 経由のクラスタリング配置にお勧めします。COW 配置の場合、プライマリおよびバックアップの SAF フォワーダを複数セット設定して、異なる地理的ロケーションをサポートできます。 最大で 2 つの SAF フォワーダを特定のノードに割り当てることができます。

フェールオーバーをサポートしない単一の SAF フォワーダを設定できます。または、プライマリおよびバックアップの SAF フォワーダを設定してフェールオーバーをサポートします。プライマリおよびバックアップの SAF フォワーダでは、Cisco Unified Communications Manager は、プライマリ SAF フォワーダが使用できないときはバックアップ SAF フォワーダに対してアドバタイズおよび登録します。

SAF フォワーダには、Cisco Unified Communications Manager が SAF ネットワークと通信するために使用する IPv4 アドレスおよびポートが含まれています。起動時に、SAF クライアントコントロール (Cisco Unified Communications Manager の設定不可能な固有のコンポーネント) は、Cisco Unified Communications Manager に登録する最初の SAF フォワーダをプライマリ SAF フォワーダとしてマークします。プライマリ SAF フォワーダはホステッド DN サービスに登録します。バックアップはこのタスクを実行しません。何らかの理由でプライマリ SAF フォワーダが使用不可になると、バックアップ SAF フォワーダはすぐにプライマリ SAF フォワーダに昇格されます。

Cisco Unified Communications Manager の SAF クライアントコントロールコンポーネントは、一定の間隔で SAF フォワーダにキープアライブメッセージを送信することによって、SAF フォワーダへの接続を維持します。SAF クライアントコントロールコンポーネントでは、ネットワークエラー、TCP 接続の失敗、または SAF フォワーダの失敗によってキープアライブ応答タイムアウトが発生します。プライマリ SAF フォワーダが到達不能になると、バックアップ SAF フォワーダが自動的にプライマリ SAF フォワーダになり、Cisco Unified Communications Manager の SAF クライアントコントロールコンポーネントは失敗した SAF フォワーダとの接続を確立しようとします。接続が確立されると、SAF フォワーダはバックアップ SAF フォワーダとして再度指定されます。この状況では、SAF クライアントコントロールコンポーネントは新しい (現在の) 昇格されたプライマリ SAF フォワーダを使用し、現在のプライマリ SAF フォワーダが使用されていることを CCD アドバタイジングサービスと CCD 要求サービスに通知します。CCD サービスは、すべての発行要求および登録要求を現在のプライマリ SAF フォワーダに送信します。現在のプライマリ SAF フォワーダは、受信したすべてのホステッド DN サービスアドバタイズメントの通知を SAF クライアントコントロールコンポーネントに送信します。SAF クライアントコントロールコンポーネントは、アドバタイズメントを CCD 要求サービスに転送します。CCD 要求サービスは、バックアップ SAF フォワーダから受信した通知をキャッシュされている情報と比較し、必要に応じて新しい情報を更新、削除、または追加します。SAF クライアントコントロールコンポーネントは、失敗した SAF フォワーダに一定の間隔で再接続しようとします。接続試行が成功すると、SAF クライアントコントロールコンポーネントは以前に失敗した SAF フォワーダに再登録し、他の SAF フォワーダをバックアップとして再指定します。



ヒント

Cisco Unified Communications Manager は、データベースに3つ以上の SAF フォワーダが設定されている場合でも、常にプライマリ SAF フォワーダに対してアドバタイズおよび登録します。プライマリ SAF フォワーダがデータベースから削除された場合、バックアップ SAF フォワーダが自動的にプライマリ SAF フォワーダになり、Cisco Unified Communications Manager は設定されている別の SAF フォワーダをバックアップ SAF フォワーダに昇格させます。

クラスタ全体の配置の場合は、プライマリおよびバックアップの SAF フォワーダを指定できません。Cisco Unified Communications Manager データベースは、SAF フォワーダの順序リストを Cisco Unified Communications Manager に送信します。

SAF フォワーダのいずれかまたは両方が動作しない場合、3番目の SAF フォワーダが設定されている場合でも、Cisco Unified Communications Manager は3番目の SAF フォワーダに接続しようとはしません。プライマリおよびバックアップの SAF フォワーダの接続が失われた場合、3番目の SAF フォワーダが設定されている場合でも、Cisco Unified Communications Manager は3番目の SAF フォワーダに接続しません。

CCD アドバタイジング サービスまたは CCD 要求サービスが SAF ネットワークとの接続を失った場合、SAF フォワーダは他のすべてのコール制御ディスカバリ サービスにサービスの中断について通知します。クライアントは引き続き SAF フォワーダに登録しようとします。CCD サービスが SAF ネットワークと再接続した後、SAF フォワーダはすぐにすべての CCD サービスにサービスの復旧について通知します。

SAF フォワーダが他の SAF フォワーダまたは外部クライアント (Cisco Unified Communications Manager や Cisco Unified Communications Manager Express など) の1つとの TCP 接続の失敗を検出すると、Cisco Unified Communications Manager は、SAF フォワーダからネットワーク取り消し通知を受信した後、学習パターンを到達不能としてマークします。これらの学習パターンへの後続のすべてのコールは、到達不能学習パターンの PSTN フェールオーバー設定を使用して PSTN 経由でルーティングされます。CCD PSTN Failover Duration 機能パラメータのタイマーは、ネットワーク取り消し通知の受信後すぐに起動されます。タイマーの進行中に Cisco Unified Communications Manager が別のネットワーク取り消し通知を受信した場合、Cisco Unified Communications Manager はタイマーを再起動します。



ヒント

Cisco Unified Communications Manager は、ダイジェスト認証 (SHA1) を使用して SAF フォワーダと通信します。管理者は、SAF フォワーダのセキュリティ プロファイルを設定します。これにより、Cisco Unified Communications Manager が SAF フォワーダに送信する要求にユーザ名およびパスワードが含まれます。要求には、ユーザ名およびパスワードが格納される MESSAGE INTEGRITY 属性が含まれている必要があります。

SAF フォワーダと Cisco Unified Communications Manager の間で接続が失われた場合 (サーバまたはルータのケーブルが外されるなど)、登録ステータスが正しくなくても正しいように表示される場合があります。この場合、SAF キープアライブ タイマー (SAF フォワーダ上) または TCP タイマーの期限が切れるまで、パターンは到達可能と表示される場合があります。TCP タイマーの期限が切れた後、パターンは到達不能としてマークされます。

詳細情報

- 「関連項目」 (P.3-47)
- 『Cisco IOS Service Advertisement Framework Configuration Guide』
- 『Cisco IOS Service Advertisement Framework Command Reference』

コール制御ディスカバリのシステム要件

Cisco Unified Communications Manager には、次のシステム要件があります。

- ローカルの Cisco Unified Communications Manager 8.0(2) (以上の) クラスタ
- SAF 対応の SIP または H.323 クラスタ間 (非ゲートキーパー制御) トランク
- SAF ネットワークをサポートおよび使用するリモート コール制御エンティティ (他の Cisco Unified Communications Manager 8.0(2) (以上の) クラスタや Cisco Unified Communications Manager Express サーバなど)
- SAF フォワーダとして設定されている Cisco IOS ルータ



ヒント Cisco Feature Navigator を使用すると、特定のソフトウェア リリース、機能セット、またはプラットフォームをサポートする Cisco IOS および Catalyst OS ソフトウェア イメージを判別できます。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、<http://www.cisco.com/go/cfn> に移動します。

インタラクションおよび制限事項

自律システム

すべての Cisco Unified Communications Manager クラスタは、同じ Autonomous System (AS; 自律システム) 内のアドバタイズまたは学習されたルートに制限されます。

BLF 登録

ユーザが SAF 学習パターンの BLF ステータスを登録する場合、Cisco Unified Communications Manager は SIP 登録メッセージを SIP トランク経由でリモート クラスタに送信します。

この機能は SAF 対応 SIP トランクだけでサポートされます (SAF 対応 H.323 トランクではサポートされません)。

一括管理ツール

一括管理ツールでは、SAF セキュリティ プロファイル、SAF フォワーダ、CCD アドバタイジング サービス、CCD 要求サービス、ホステッド DN グループ、ホステッド DN パターンなどの設定をインポートおよびエクスポートできます。設定をインポートおよびエクスポートする方法については、『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド』を参照してください。

呼詳細レコード

Cisco Unified Communications Manager は、SAFCCDRequestingService としての onBehalfOf の転送を、転送理由 SS_RFR_SAF_CCD_PSTNFAILOVER でサポートします。これは、コールが PSTN フェールオーバー番号に転送されることを示します。

呼詳細レコードの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Call Detail Records Administration Guide』を参照してください。

着信の着信側設定項目

H.323 プロトコルは、国際エスケープ文字 + をサポートしていません。H.323 ゲートウェイまたはトランク経由の着信コールについて SAF/ コール制御ディスカバリで正しい DN パターンが使用されるようにするには、サービス パラメータ、デバイス プール、H.323 ゲートウェイ、または H.323 トランクのウィンドウで着信の着信側設定項目を設定する必要があります。つまり、着信

の着信側設定項目を設定することで、着信コールが H.323 ゲートウェイまたはトランクからである場合に、Cisco Unified Communications Manager は着信側番号をトランクまたはゲートウェイ経由で送信された元の値に戻します。詳細については、次の例を参照してください。

- たとえば、発信者が Cisco Unified Communications Manager A に対して +19721230000 に発信します。
- Cisco Unified Communications Manager A は +19721230000 を受信し、コールを H.323 トランクに送信する前に番号を 55519721230000 に変換します。この場合、設定は国際タイプのコールについて、国際エスケープ文字 + を除去して 555 を前に付加することを指定しています。
- トランクからのこの着信コールの場合、Cisco Unified Communications Manager B は 55519721230000 を受信し、発信者が送信した値を番号分析で使用できるように、番号を +19721230000 に戻します。この場合、着信の着信側設定項目の設定は、国際タイプの着信側番号に対して、555 を除去して +1 を前に付加することを指定しています。

Cisco Unified サービスアビリティ

Cisco Unified サービスアビリティは、コール制御ディスカバリ機能をサポートするアラームを提供します。アラームを設定する方法については、『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』を参照してください。コール制御ディスカバリ機能に関連付けられるアラーム定義については、「[コール制御ディスカバリのトラブルシューティング](#)」(P.3-47)を参照してください。

Dialed Number Analyzer

Dialed Number Analyzer を使用すると、ダイヤルプランについて学習パターンを分析できるように、学習パターンを追加できます。この作業の実行方法については、『*Cisco Unified Communications Manager Dialed Number Analyzer Guide*』を参照してください。

セキュリティ (ダイジェスト認証)

Cisco Unified Communications Manager は、ダイジェスト認証 (TLS なし) を使用して SAF フォワーダに対して認証します。Cisco Unified Communications Manager がメッセージを SAF フォワーダに送信すると、Cisco Unified Communications Manager は SHA1 チェックサムを計算してメッセージの MESSAGE-INTEGRITY フィールドに含めます。

SAF セキュリティ プロファイルを設定する必要があります。詳細については、「[SAF セキュリティ プロファイルの設定項目](#)」(P.3-26)を参照してください。

QSIG

H.323 の設定ウィンドウにある [QSIG バリエーション (QSIG Variant)] および [ASN.1 ROSE OID エンコーディング (ASN.1 ROSE OID Encoding)] の設定は、CCD アドバタイジング サービスによってアドバタイズされます。これらの設定は、着信トンネル化コールの QSIG メッセージのデコードに影響します。コール制御ディスカバリでは、発信コールには影響しません。

リモート コール制御エンティティは、H.323 トランク経由の発信コールに QSIG トンネルが必要かどうかを判別します。QSIG トンネルが必要であることをリモート コール制御エンティティがアドバタイズした場合、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [H.323 設定 (H.323 Configuration)] ウィンドウで QSIG サポートが不要であることが指定されている場合でも、QSIG メッセージは発信コールのメッセージ内でトンネル化されます。

Real-Time Monitoring Tool

Real-Time Monitoring Tool には、コール制御ディスカバリ機能をサポートする perfmon カウンタが表示されます。これらの perfmon カウンタについては、『*Cisco Unified Real Time Monitoring Tool Administration Guide*』を参照してください。

Real-Time Monitoring Tool を使用すると、学習パターンおよび SAF フォワーダのレポートを表示できます。

学習パターンレポートには、学習パターン名、タイムスタンプ、パターンの到達可能性ステータス、パターンのホストとなるリモートコール制御エンティティ、PSTN フェールオーバー設定、宛先 IP アドレスとポートなどの情報が表示されます。RTMT を使用すると、さまざまな条件に基づいて検索できます。たとえば、リモートコール制御エンティティの検索を指定すると、リモートコール制御エンティティのすべての学習パターンが表示されます。

SAF フォワーダレポートには、認証ステータス、SAF フォワーダの登録ステータスなどの情報が表示されます。

これらのレポートの詳細については、『Cisco Unified Real Time Monitoring Tool Administration Guide』を参照してください。

SAF ネットワークの問題

Cisco Unified Communications Manager が SAF フォワーダに接続できない場合、CCD 要求サービスまたは CCD アドバタイジング サービスが非アクティブ（つまり、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [アクティブ化された機能 (Activated Feature)] チェックボックスがオフ）でないかぎり、これらのサービスの設定を更新しないことをお勧めします。Cisco Unified Communications Manager が SAF ネットワークに接続できないときにサービスを更新し、これらのサービスがアクティブな場合、問題が発生する可能性があります。たとえば、パターンが到達不能または到達可能として正しく分類されない、重複したパターンまたは古いパターンが存在する、などです。

また、Cisco Unified Communications Manager が SAF フォワーダに接続できない場合は SAF フォワーダの設定を更新しないことをお勧めします。

コール制御ディスカバリのインストールとアクティブ化

Cisco Unified Communications Manager のインストール後、必要な設定作業を実行すると、ネットワークでコール制御ディスカバリ機能をサポートできます。実行する必要がある設定作業については、「[コール制御ディスカバリの設定チェックリスト](#)」(P.3-2) を参照してください。

コール制御ディスカバリの設定



ヒント

コール制御ディスカバリ機能を設定する前に、「[コール制御ディスカバリの設定チェックリスト](#)」(P.3-2) を参照してください。

この項は、次の内容で構成されています。

- 「[コール制御ディスカバリの設定に関する考慮事項](#)」(P.3-20)
- 「[コール制御ディスカバリの機能パラメータ](#)」(P.3-24)
- 「[SAF セキュリティ プロファイルの設定項目](#)」(P.3-26)
- 「[SAF フォワーダの設定項目](#)」(P.3-27)
- 「[ホステッド DN グループの設定項目](#)」(P.3-31)
- 「[ホステッド DN パターンの設定項目](#)」(P.3-32)
- 「[CCD アドバタイジング サービスの設定項目](#)」(P.3-34)
- 「[コール制御ディスカバリのパーティションの設定項目](#)」(P.3-36)
- 「[CCD 要求サービスの設定項目](#)」(P.3-37)

- 「ブロックされた学習パターンの設定項目」(P.3-40)
- 「コール制御ディスカバリの設定レコードの検索」(P.3-42) (コール制御ディスカバリに関する設定の検索の実行方法について説明します。検索と一覧表示のウィンドウでの処理方法について説明します)
- 「SAF セキュリティ プロファイルの設定項目」(P.3-26) (コール制御ディスカバリのウィンドウでの処理手順について説明します。この項では設定項目については説明しません)
- 「SAF 対応トランクの設定」(P.3-46)
- 「CCD アドバタイジング サービスの設定項目」(P.3-34)
- 「コール制御ディスカバリの設定レコードの削除」(P.3-46)

コール制御ディスカバリの設定に関する考慮事項

コール制御ディスカバリ機能を設定する前に、次の考慮事項を確認してください。

- 「SAF フォワーダ」(P.3-20)
- 「ホステッド DN パターンとホステッド DN グループ」(P.3-20)
- 「CCD アドバタイジング サービスと CCD 要求サービス」(P.3-21)
- 「SAF 対応トランク」(P.3-23)



ヒント

この項では、設定に関する考慮事項をすべて説明するわけではありません。この項では、CCD の設定項目を設定する前に確認する必要がある考慮事項の概要について説明します。この項は、「コール制御ディスカバリの設定」(P.3-19)に記載されている項と一緒に使用してください。

SAF フォワーダ

- 冗長性のために、プライマリおよびバックアップの SAF フォワーダを設定することをお勧めします。
- SAF フォワーダまたは SAF セキュリティ プロファイルを設定する場合、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの一部の設定は Cisco IOS ルータで入力した設定と一致している必要があります。
- Cisco Unified Communications Manager は、SAF フォワーダについてクラスタ全体またはノード固有の配置モデルをサポートします。SAF フォワーダを設定する前に、表 3-4 (P.3-15)を確認してください。これらの配置モデルについて説明されています。
- SAF フォワーダに設定できるのは IPv4 だけです。
- 各 SAF フォワーダには一意の IP アドレスが必要です。
- Cisco Unified Communications Manager が SAF フォワーダに接続できない場合は SAF フォワーダの設定を更新しないことをお勧めします。
- SAF フォワーダのフィールドの説明については、「SAF セキュリティ プロファイルの設定項目」(P.3-26) および「SAF フォワーダの設定項目」(P.3-27)を参照してください。

ホステッド DN パターンとホステッド DN グループ

- [PSTN フェールオーバー削除桁数 (PSTN Failover Strip Digits)]、[PSTN フェールオーバー付加番号 (PSTN Failover Prepend Digits)]、および [ホステッド DN を PSTN フェールオーバーとして使用 (Use HostedDN as PSTN Failover)] の設定は、[ホステッド DN グループの設定 (Hosted DN Group Configuration)] ウィンドウと [ホステッド DN パターンの設定 (Hosted DN

Pattern Configuration)) ウィンドウの両方に表示されます。[ホステッド DN パターンの設定 (Hosted DN Pattern Configuration)] ウィンドウでこれらの設定項目を設定しない場合、ホステッド DN グループの設定がホステッド DN パターンに適用されます。

- 各ホステッド DN グループは、DN 範囲をアドバタイズする 1 つの地理的ロケーションを対象とします。
- ホステッド DN パターンの検索と一覧表示のウィンドウでは、コール制御ディスカバリ機能の複数のホステッド DN パターンを同時に追加または更新できるように、.csv ファイルをダウンロードできます。その後、同じウィンドウでパターンをアップロードできます (複数のホステッド DN パターンを BAT で追加または更新することもできます)。

パターンをアップロードするときにパターンの置換を選択した場合は、すべてのホステッド DN パターンが失われます。

.csv ファイルに無効または不正なデータが存在する場合、データは Cisco Unified Communications Manager によって無視されます。

- Cisco Unified Communications Manager では、クラスごとに最大 2,000 のホステッド DN パターンを設定できます。
- 各ホステッド DN パターンは一意である必要があります。各ホステッド DN パターンは、1 つのホステッド DN グループだけに存在できます。
- [ホステッド DN パターンの検索と一覧表示 (Find and List Hosted DN Patterns)] ウィンドウでは、ホステッド DN グループに属するホステッド DN パターンを識別できます。この作業の実行方法については、「ホステッド DN グループに属するホステッド DN パターンの識別」(P.3-46) を参照してください。
- ホステッド DN グループおよびホステッド DN パターンのフィールドの説明については、「ホステッド DN グループの設定項目」(P.3-31) および「ホステッド DN パターンの設定項目」(P.3-32) を参照してください。

CCD アドバタイジング サービスと CCD 要求サービス

- Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、CCD アドバタイジング サービスと CCD 要求サービスに同じ名前を付けることはできません。
- Cisco Unified Communications Manager の管理ページでトランクの SAF を有効にし、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで SAF 対応トランクを CCD アドバタイジング サービスと CCD 要求サービスに割り当てる必要があります。SAF 対応 SIP トランクは、UDP または TCP だけをサポートします。必要な場合は、CCD アドバタイジング サービスと CCD 要求サービスに対して同じ SAF 対応トランクを使用できます。トランクの SAF の有効化については、「SAF 対応トランクの設定」(P.3-46) を参照してください。
- CCD 要求サービスを 1 つ設定できます。CCD アドバタイジング サービスは必要な数だけ設定できます。
- 1 つの CCD アドバタイジング サービスに関連付けることができるホステッド DN グループは 1 つだけです。
- コール制御ディスカバリ機能はルートパーティションに依存します。ルートパーティションは [CCD パーティション (CCD Partition)] ウィンドウ ([コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [パーティション (Partition)]) で設定します。このルートパーティションは、すべての学習パターンがルートパーティションの下の番号分析に配置されるように、コール制御ディスカバリによって排他的に使用されます。このパーティションを CCD 要求サービスに割り当てます。

CCD パーティションは Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [パーティション (Partition)] では表示されません。

CCD パーティションのフィールドの説明については、「コール制御ディスカバリのパーティションの設定項目」(P.3-36) を参照してください。



ヒント [CCD 要求サービスの設定 (CCD Requesting Service Configuration)] ウィンドウで [学習パターンプレフィックス (Learned Pattern Prefix)] フィールドまたは [ルートパーティション (Route Partition)] フィールドを更新すると、システム パフォーマンスに影響を及ぼす場合があります。これらのフィールドが変更されると、番号分析マスタールーティング テーブルが自動的に更新されるためです。システム パフォーマンスの問題を回避するために、これらのフィールドはオフピーク時に更新することをお勧めします。

- CCD アドバタイジング サービスと CCD 要求サービスの設定を変更した後、[保存 (Save)] をクリックします。次のイベントを発生させる場合以外は、これらのウィンドウで [リセット (Reset)] ボタンをクリックする必要はありません。
 - CCD アドバタイジング サービスの場合: [CCD アドバタイジングサービスの設定 (CCD Advertising Service Configuration)] ウィンドウの [リセット (Reset)] ボタンにより、コール制御ディスカバリ アドバタイジング サービスは既存の発行要求を取り消し、すべての関連情報を再度発行します。
 - CCD 要求サービスの場合: [CCD 要求サービスの設定 (CCD Requesting Service Configuration)] ウィンドウの [リセット (Reset)] ボタンにより、要求サービスはローカル キャッシュから学習パターンを削除し、SAF ネットワークに再登録します。[CCD 要求サービスの設定 (CCD Requesting Service Configuration)] ウィンドウの [リセット (Reset)] ボタンをクリックすると、Cisco Unified Communications Manager はパターンを再度学習できます。

ネットワークへの影響を最小限にするために、[CCD アドバタイジングサービスの設定 (CCD Advertising Service Configuration)] ウィンドウまたは [CCD 要求サービスの設定 (CCD Requesting Service Configuration)] ウィンドウの [リセット (Reset)] ボタンはオフピーク時にクリックすることをお勧めします。

[CCD アドバタイジングサービスの設定 (CCD Advertising Service Configuration)] および [CCD 要求サービスの設定 (CCD Requesting Service Configuration)] ウィンドウの [リセット (Reset)] のクリックでは、トランクはリセットされません。トランクは [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでリセットします。

- CCD アドバタイジング サービスを削除すると、割り当てられている各トランクを使用してアドバタイズされるすべてのホステッド DN パターンの発行は解除されます。
- CCD 要求サービスを削除すると、すべての学習パターンはローカル キャッシュおよび番号分析から登録解除されます。
- リモート コール制御エンティティによってアドバタイズされる学習パターンへユーザに発信コールさせる場合は、デバイスに割り当てるコーリング サーチ スペースに、CCD 要求サービスに割り当てられているルート パーティションが含まれるようにします。
- Cisco Unified Communications Manager が SAF フォワーダに接続できない場合、CCD 要求サービスまたは CCD アドバタイジング サービスが非アクティブ (つまり、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [アクティブ化された機能 (Activated Feature)] チェックボックスがオフ) でないかぎり、これらのサービスの設定を更新しないことをお勧めします。Cisco Unified Communications Manager が SAF ネットワークに接続できないときにサービスを更新し、これらのサービスがアクティブな場合、問題が発生する可能性があります。たとえば、パターンが到達不能または到達可能として正しく分類されない、重複したパターンまたは古いパターンが存在する、などです。
- コール制御エンティティが同じホステッド DN パターンをアドバタイズしないようにしてください。

コール制御エンティティが同じホステッド DN パターンをアドバタイズした場合、問題が発生する可能性があります。たとえば、次の場合に、アドバタイズしているクラスタ間でコールルーティンググループが発生する可能性があります。これらのクラスタが、ローカルで設定されている静的パーティションの前に学習パターンパーティションがあるコーリングサーチスペースを使用して、学習パターンにコールした場合です。

- CCD アドバタイジング サービスおよび CCD 要求サービスのフィールドの説明については、「[CCD アドバタイジング サービスの設定項目](#)」(P.3-34) および「[CCD 要求サービスの設定項目](#)」(P.3-37) を参照してください。

SAF 対応トランク

- SAF 対応 H.323 トランクと SAF 対応 SIP トランクを1つずつ設定すると、1つのクラスタの学習パターンへのすべての SIP および H.323 コールにサービスを提供できます。
- SAF 対応トランクを CCD アドバタイジング サービスまたは CCD 要求サービスに割り当てる前に、トランクに設定を適用してください。設定は [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウで適用します。
- CCD 要求サービスを設定するときに SAF 対応トランクを選択して割り当てない場合、CCD 要求サービスは作成されず、パターンは学習されません。
- SAF 対応の H.323 トランクと SIP トランクの両方を CCD 要求サービスに割り当てる場合、トランクに割り当てられるデバイス プールに同じ Cisco Unified Communications Manager グループが存在するようにしてください。
- WAN 経由のクラスタリング配置をサポートするには、SAF 対応トランクのセットに関連付ける異なる Cisco Unified Communications Manager グループを設定します。
- 冗長性を確保し、コール処理トラフィックを削減するには、SAF 対応トランクに割り当てるデバイス プールの Cisco Unified Communications Manager グループ内のノードの数を2つまでにすることをお勧めします。
- トランクがルートグループに割り当てられているか、ルートパターンに関連付けられている場合、トランクの SAF を有効にできません。同様に、トランクの SAF を有効にする場合、トランクをルートグループに割り当てるか、ルートパターンに関連付けることはできません。
- トランクの SAF を有効にする前に、SIP トランクに非セキュアのセキュリティプロファイルがあることを確認します。認証された、または暗号化されたセキュリティプロファイルを使用する SIP トランクの SAF は有効にできません。
- CCD アドバタイジング サービスに割り当てられている SAF 対応トランクをリセットすると、CCD アドバタイジング サービスはホステッド DN パターンの発行を解除し、そのトランクの別のサービス ID で再度発行します。
- さまざまな SAF 対応トランクがさまざまな Cisco Unified Communications Manager グループを使用するように設定されている場合、着信および発信 SAF 関連コールトラフィックは、さまざまな Cisco Unified Communications Manager ノード間で分散されます。
- SAF 対応トランクの Cisco Unified Communications Manager グループが変更された場合、CCD アドバタイジング サービスは発行解除要求を SAF ネットワークに送信します。また、この Cisco Unified Communications Manager ノードでトランクが実行されないため、CCD 要求サービスはローカル キャッシュおよび番号分析から学習パターンを削除します。CCD アドバタイジング サービスおよび CCD 要求サービスが新しいノードで開始された後、アドバタイジング サービスは発行要求を SAF ネットワークに送信し、要求サービスは登録要求を SAF ネットワークに送信します。
- SAF 対応トランクのデバイス プールを変更した場合、CCD アドバタイジング サービスは発行解除要求を SAF ネットワークに送信します。また、この Cisco Unified Communications Manager ノードでトランクが実行されないため、CCD 要求サービスはローカル キャッシュおよび番号分析から学習パターンを削除します。CCD アドバタイジング サービスおよび CCD 要求サービスが新しいノードで開始された後、アドバタイジング サービスは発行要求を SAF ネットワークに送信し、要求サービスは登録要求を SAF ネットワークに送信します。

- SAF 対応トランクを Cisco Unified Communications Manager の管理ページから削除する場合、[トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウから削除する前に、トランクを CCD アドバイジング サービスおよび CCD 要求サービスから割り当て解除する必要があります。
- SAF 対応トランクをリセットするか、トランクの Cisco Unified Communications Manager グループを変更すると、CCD アドバイジング サービスおよび CCD 要求サービスに影響を及ぼします。たとえば、トランクをリセットし、10 秒経過した後 CCD 要求サービスがトランクにアクセスできない場合、すべての学習パターンは番号分析およびローカル キャッシュからパージされ、要求サービスは停止します。

その他の考慮事項

- PSTN フェールオーバーを確保するために、ルート パターンを設定してゲートウェイに割り当てます。
- クラスタが E.164 をサポートしていない場合、ユーザが E.164 番号をダイヤルできるようにトランスレーション パターンを設定する必要があります。
- Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ブロックされた学習パターンの検索と一覧表示 (Find and List Blocked Learned Pattern)] ウィンドウで、ページおよびブロックされた学習パターンを表示できます。ブロックされたパターンを Cisco Unified Communications Manager の管理ページから削除した場合、それらが SAF ネットワークでまだ使用可能であれば（および、クラスタの学習パターンの最大数に達していなければ）、Cisco Unified Communications Manager はそれらのパターンを再学習できます。
- 学習パターンは RTMT で表示されます。

コール制御ディスカバリの機能パラメータ

コール制御ディスカバリ機能をサポートする機能パラメータにアクセスするには、[コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [機能設定 (Feature Configuration)] を選択します。表 3-5 に、コール制御ディスカバリ機能の機能パラメータを示します。詳細については、[機能設定 (Feature Configuration)] ウィンドウで疑問符をクリックしてください。

表 3-5 コール制御ディスカバリの機能パラメータ

機能パラメータ	説明
CCD Maximum Number of Learned Patterns	このパラメータは、この Cisco Unified Communications Manager クラスタが SAF ネットワークから学習できるパターンの数を指定します。許可される学習パターンの数が多いほど、必要になるサーバのメモリおよび CPU 処理能力は大きくなります。Cisco Unified Communications Manager がパラメータ設定で指定されているよりも多くのパターンを学習しようとする、アラーム CCDLearnedPatternLimitReached が発行されます。 1 ~ 20000 の数字を入力できます。20000 がデフォルトです。

表 3-5 コール制御ディスカバリの機能パラメータ (続き)

機能パラメータ	説明
CCD Learned Pattern IP Reachable Duration	<p>このパラメータは、学習パターンがアクティブ（到達可能）な秒数を指定します。この時間の経過後、Cisco Unified Communications Manager はパターンを到達不能としてマークします。たとえば、このパラメータを 20 秒に設定します。20 秒後に Cisco Unified Communications Manager が SAF フォワーダと通信できない場合、SAF フォワーダへの IP 接続が復元されるまで、学習パターンへのすべてのコールは PSTN にフェールオーバーします。PSTN フェールオーバー中、Cisco Unified Communications Manager は新しいパターンを学習できません。このパラメータに対して指定した時間が経過した後、Cisco Unified Communications Manager は学習パターンを到達不能としてマークします。このパラメータは、CCD PSTN Failover Duration パラメータとともに使用します。CCD PSTN Failover Duration パラメータによって、到達不能としてマークされたパターンに PSTN フェールオーバーによって到達できます。</p> <p>0 ～ 300 の数字（秒）を入力できます。デフォルトは 60 秒です。</p>
CCD PSTN Failover Duration	<p>このパラメータは、到達不能 / 非アクティブな学習パターンへのコールが PSTN ゲートウェイ経由でルーティングされ、その後システムからパージされる時間（分）を指定します。このパラメータの設定は、CCD Learned Pattern IP Reachable Duration パラメータのタイマーの期限が切れるまで有効になりません。CCD Learned Pattern IP Reachable Duration パラメータの期限切れは、SAF フォワーダと Cisco Unified Communications Manager の間で IP 接続が失敗し、すべての学習パターンが到達不能としてマークされることを意味します。その後、CCD PSTN Failover Duration パラメータの期限が切れると、すべての学習パターンはシステムからパージされ、パージされたパターンへのコールは拒否されます（発信者には、リオーダー音または「番号を使用できない」というアナウンスが聞こえます）。</p> <p>このパラメータを 0 に設定すると、PSTN フェールオーバーは行われません。つまり、CCD Learned Pattern IP Reachable Duration パラメータで定義した秒数 SAF フォワーダに到達できない場合、PSTN 経由のフェールオーバー オプションは提供されず、学習パターンへのコールは即時に失敗します。このパラメータを 525600 に設定すると、PSTN フェールオーバーは期限切れにならず、学習パターンが IP 接続の問題によってパージされることはありません。</p> <p>0 ～ 525600 の数字（分）を入力できます。デフォルトは 2880 です。</p>
Issue Alarm for Duplicate Learned Patterns	<p>このパラメータは、Cisco Unified Communications Manager が SAF ネットワーク上の異なるリモート コール制御エンティティから重複するパターンを学習したときに、アラーム DuplicateLearnedPattern を発行するかどうかを指定します。デフォルトは [False] です。</p>

表 3-5 コール制御ディスカバリの機能パラメータ (続き)

機能パラメータ	説明
CCD Stop Routing On Unallocated Unassigned Number	<p>このパラメータは、Cisco Unified Communications Manager クラスタや Cisco Unified Communications Manager Express などのリモート コール制御エンティティが未割り当ての番号の原因コードでコールを拒否したときに、Cisco Unified Communications Manager が引き続きリモート コール制御エンティティにコールをルーティングするかどうかを指定します。未割り当ての番号は、現在のコール制御エンティティ内に存在しないホステッド DN を表します。デフォルトは [True] です。</p> <p>パラメータが [True] に設定されている場合、Cisco Unified Communications Manager がリモート コール制御エンティティから原因コードを受信するとすぐに、コールはリリースされず。パラメータが [False] に設定されている場合、Cisco Unified Communications Manager がコールを学習パターンに送達し、リモート コール制御エンティティが未割り当ての番号の原因値を送信すると、Cisco Unified Communications Manager はこの学習パターンのリモート クラスタの別の到達可能な IP アドレスを見つけようとします。到達可能なリモート接続先を使用できる場合、Cisco Unified Communications Manager は使用できる到達可能なリモート クラスタの IP アドレスにコールを送達しようとします。</p>

SAF セキュリティ プロファイルの設定項目

設定パス : [拡張機能 (Advanced Features)] > [SAF] > [SAF セキュリティプロファイル (SAF Security Profile)]

[SAF セキュリティプロファイルの設定 (SAF Security Profile Configuration)] ウィンドウで、SAF フォワーダと Cisco Unified Communications Manager の間でセキュアな接続が行われるように、SAF セキュリティ プロファイルを設定します。[SAF フォワーダの設定 (SAF Forwarder Configuration)] ウィンドウで SAF フォワーダを設定するときに、SAF フォワーダに適用する SAF セキュリティプロファイルを選択する必要があります。

コール制御ディスカバリ機能は、Service Advertisement Framework (SAF) ネットワーク サービス (シスコ独自のサービス) を利用して、コール間エージェント情報の動的なプロビジョニングを容易にします。コール制御ディスカバリ機能の詳細については、「[コール制御ディスカバリ](#)」(P.3-1) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager は、ダイジェスト認証 (SHA1) を使用して SAF フォワーダと通信します。

始める前に

このウィンドウで設定する情報の一部は、SAF フォワーダでも設定する必要があります。

SAF セキュリティ プロファイルを設定する前に、「[コール制御ディスカバリの設定チェックリスト](#)」(P.3-2) および「[コール制御ディスカバリの設定に関する考慮事項](#)」(P.3-20) を参照してください。

表 3-6 SAF セキュリティ プロファイルの設定項目

フィールド	説明
[名前 (Name)]	SAF セキュリティ プロファイルの名前を入力します。入力した名前は、[SAF セキュリティプロファイルの検索と一覧表示 (Find and List SAF Security Profile)] ウィンドウ、および [SAF フォワーダの設定 (SAF Forwarder Configuration)] ウィンドウの [SAF セキュリティプロファイル (SAF Security Profile)] ドロップダウンリストボックスに表示されます。有効な入力値は、英数字、ハイフン、ピリオド、アンダースコア、およびスペースです。 50 文字まで設定できます。
[説明 (Description)]	SAF セキュリティ プロファイルの説明を入力します。¥、"、<>、&、および % を除くすべての文字を入力できます。 128 文字まで設定できます。
[ユーザ名 (User Name)]	Cisco Unified Communications Manager が SAF フォワーダに接続するときに要求内に含める値を入力します。 ヒント Cisco Unified Communications Manager が SAF フォワーダに登録できるように、ルータ (SAF フォワーダ) で入力した同じユーザ名を入力します。ユーザ名は大文字と小文字が区別されるため、SAF フォワーダで入力したとおりにユーザ名を入力します。 入力する値は、Cisco Unified Communications Manager と SAF フォワーダ間のメッセージ整合性チェックの共有秘密鍵を表します。ユーザ名は、MESSAGE-INTEGRITY 属性を含む Cisco Unified Communications Manager からの要求内に含まれます。
[ユーザパスワード (User Password)]	Cisco Unified Communications Manager が SAF フォワーダに接続するときに要求内に含める値を入力します。 ヒント Cisco Unified Communications Manager が SAF フォワーダに登録できるように、ルータ (SAF フォワーダ) で入力した同じパスワードを入力します。パスワードは大文字と小文字が区別されるため、SAF フォワーダで入力したとおりにパスワードを入力します。

SAF フォワーダの設定項目

設定パス : [拡張機能 (Advanced Features)] > [SAF] > [SAF フォワーダ (SAF Forwarder)]

SAF フォワーダ (コール制御ディスカバリ /SAF 用に設定した Cisco ルータ) は、コール制御ディスカバリ機能の Cisco Unified Communications Manager からの発行要求を処理します。また、SAF フォワーダは、コール制御ディスカバリ機能のリモート コール制御エンティティからのアダプタイジング要求も処理します。コール制御ディスカバリについては、「[コール制御ディスカバリ](#)」(P.3-1) を参照してください。

始める前に

SAF フォワーダを設定する前に、SAF セキュリティ プロファイルを少なくとも 1 つ設定してあることを確認してください。

このウィンドウで設定する情報の一部は、SAF フォワーダでも設定する必要があります。

SAF フォワーダを設定する前に、「[コール制御ディスカバリの設定チェックリスト](#)」(P.3-2) および「[コール制御ディスカバリの設定に関する考慮事項](#)」(P.3-20) を参照してください。

表 3-7 SAF フォワーダの設定項目

フィールド	説明
[名前 (Name)]	<p>SAF フォワーダの名前を入力します。有効な入力値は、英数字、ハイフン、ピリオド、およびアンダースコアです。50 文字まで入力できます。</p> <p>このフィールドに入力した値は、データベースで SAF フォワーダ レコードを分類するために使用されます。入力した値は、検索を実行するときに [SAF フォワーダの検索と一覧表示 (Find and List SAF Forwarders)] ウィンドウに表示されます。</p>
[説明 (Description)]	<p>SAF フォワーダの説明を入力します。¥、"、<>、&、および % を除くすべての文字を入力できます。128 文字まで入力できます。</p>
[クライアントラベル (Client Label)]	<p>クライアント ラベルによって、SAF フォワーダは Cisco Unified Communications Manager ノードを識別できます。有効な入力値は、英数字、アンダースコア、および @ です。50 文字まで入力できます。</p> <p>この SAF フォワーダと通信するために選択する各 Cisco Unified Communications Manager ノードから SAF フォワーダに送信される登録メッセージには、一意のクライアント ラベルが含まれます。SAF フォワーダは、登録メッセージを受信すると、SAF フォワーダ上にクライアント ラベルが設定されているかどうかを確認します。</p> <p>クラスタ全体で単一の SAF フォワーダを設定した場合、クラスタ内のすべてのノードは同じ SAF フォワーダ設定を使用して同じ SAF フォワーダに登録します。クラスタ内のノードに対して一意のクライアント ラベルを作成するには、クライアント ラベル値に @ を追加します。これにより、登録メッセージにはベース名とそれに続く @<ノード ID> が含まれます。たとえば、1 つの SAF フォワーダに接続する 2 ノードクラスタのクライアント ラベルに abcde_ny@ を入力します。この場合、登録メッセージにはノード 1 の abcde_ny@1 またはノード 2 の abcde_ny@2 が含まれます。</p> <p>クライアント ラベル値に @ を追加しない場合、ルータでクライアント ラベルのベース名パラメータを設定する必要はありませんが、ルータでクライアント ラベルを設定する必要があります。クライアント ラベル値に @ を追加する場合、ルータでクライアント ラベルのベース名パラメータを設定する必要があります。</p> <p>ヒント 表示された [詳細設定 (Advanced)] セクションの [選択済みの Cisco Unified CM (Selected Cisco Unified Communications Managers)] ペインに複数の Cisco Unified Communications Manager ノードが表示される場合は、クライアント ラベル値に @ を追加します。追加しないと、各ノードが同じクライアント ラベルを使用して SAF フォワーダに登録するためにエラーが発生する場合があります。</p>

表 3-7 SAF フォワーダの設定項目 (続き)

フィールド	説明
[SAF セキュリティプロファイル (SAF Security Profile)]	この SAF フォワーダに適用する SAF セキュリティプロファイルを選択します。セキュリティプロファイルのユーザ名およびパスワードは SAF フォワーダに送信されるため、SAF フォワーダによって受け入れられるユーザ名およびパスワードを含むセキュリティプロファイルを選択します (SAF フォワーダは、同じユーザ名およびパスワードを使用するように設定されている必要があります)。
[SAF フォワーダのアドレス (SAF Forwarder Address)]	SAF フォワーダの IPv4 アドレスを入力します。
[SAF フォワーダのポート (SAF Forwarder Port)]	SAF フォワーダとの接続を確立するために Cisco Unified Communications Manager が使用するポート番号を入力します。デフォルト設定は 5050 です。 入力するポートは、SAF フォワーダで設定するポート番号と一致している必要があります。SAF フォワーダのポート範囲は 1024 ~ 65535 です。
[TCP キープアライブを有効化 (Enable TCP Keep Alive)]	SAF フォワーダと Cisco Unified Communications Manager 間の TCP 接続が失敗したときに Cisco Unified Communications Manager に通知されるようにするには、[TCP キープアライブを有効化 (Enable TCP Keep Alive)] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスがオフの場合、(SAF フォワーダで設定される) SAF フォワーダ キープアライブ タイマーの期限が切れるまで、Cisco Unified Communications Manager には TCP 接続の失敗は通知されません。 このチェックボックスはオンにしておくことをお勧めします。
[詳細設定 (Advanced)] の表示 / 非表示	
[SAF 再接続間隔 (SAF Reconnect Interval)]	接続失敗後に Cisco Unified Communications Manager が SAF フォワーダへの再接続を試行するまでの時間 (秒) を入力します。0 ~ 500 の値を入力します。デフォルト値は 20 です。
[SAF 通知ウィンドウサイズ (SAF Notifications Window Size)]	SAF フォワーダが Cisco Unified Communications Manager に対して同時に維持できる未処理の Notify 要求数を入力します。デフォルト値は 7 です。0 ~ 255 の数字を入力できます。 このフィールドに 0 を入力すると SAF フォワーダはこの Cisco Unified Communications Manager に通知を送信しませんが、CCD アドバタイジング サービスが設定されていてアクティブな場合、Cisco Unified Communications Manager はホステッド DN を SAF ネットワークに発行できます。

表 3-7 SAF フォワーダの設定項目 (続き)

フィールド	説明
[使用可能な Cisco Unified CM(Available Cisco Unified Communications Managers)]	<p>この設定は、[選択済みの Cisco Unified CM(Selected Cisco Unified Communications Managers)] ペインと連携します。</p> <p>[使用可能な Cisco Unified CM(Available Cisco Unified Communications Managers)] ペインのすべてのノードは、[SAF フォワーダの設定 (SAF Forwarder Configuration)] ウィンドウで設定する SAF フォワーダに接続できます。</p> <p>必要な場合は、設定されている他の SAF フォワーダよりもこの SAF フォワーダを優先するように、特定のノードをこの SAF フォワーダに割り当てることができます。ノードを SAF フォワーダに割り当てるには、ノードを [選択済みの Cisco Unified CM(Selected Cisco Unified Communications Managers)] ペインに移動します。ノードを [使用可能な Cisco Unified CM(Available Cisco Unified Communications Managers)] ペインに、またはペインから移動するには、ノードを強調表示して上矢印または下矢印をクリックします。</p> <p>ノードを 2 つの SAF フォワーダに割り当てた場合、割り当てられたノードはペインに表示されません。ノードを割り当てることができる SAF フォワーダは 2 つだけであるためです。たとえば、3 つの SAF フォワーダ forwarder1、forwarder2、および forwarder3 があります。node_2 を forwarder1 および forwarder3 に割り当てます。この場合、node_2 は forwarder2 の [使用可能な Cisco Unified CM(Available Cisco Unified Communications Managers)] ペインに表示されません。</p>
[選択済みの Cisco Unified CM(Selected Cisco Unified Communications Managers)]	<p>このペインは、Cluster Over WAN (COW; WAN 経由のクラスタリング) 設定に使用します。</p> <p>このペインには、設定されている他の SAF フォワーダよりもこの SAF フォワーダを優先するノードが表示されます。たとえば、forwarder1 のこのペインに node_1 および node_2 が表示されている場合、他の SAF フォワーダが設定されていても、node_1 および node_2 は常に forwarder1 を最初に選択します。</p> <p>ノードを [選択済みの Cisco Unified CM(Selected Cisco Unified Communications Managers)] ペインに、またはペインから移動するには、ノードを強調表示して [使用可能な Cisco Unified CM(Available Cisco Unified Communications Managers)] ペインの下にある上矢印または下矢印をクリックします。ペインでノードを並べ替えるには、ノードを強調表示してペインの右にある上矢印または下矢印をクリックします。</p>

ホステッド DN グループの設定項目

設定パス : [コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [ホステッド DN グループ (Hosted DN Group)]

ホステッド DN グループは、コール制御ディスカバリ機能でサポートされており、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでグループ化したホステッド DN パターンの集合です。ホステッド DN グループを Cisco Unified Communications Manager の管理ページで CCD アドバタイジング サービスに割り当てると、CCD アドバタイジング サービスはホステッド DN グループに含まれるすべてのホステッド DN パターンをアドバタイズします。CCD アドバタイジング サービスごとに、割り当てることができるホステッド DN グループは 1 つだけです。

コール制御ディスカバリ機能の詳細については、「[コール制御ディスカバリ](#)」(P.3-1) を参照してください。

始める前に

ホステッド DN グループを設定する前に、「[コール制御ディスカバリの設定チェックリスト](#)」(P.3-2) および「[コール制御ディスカバリの設定に関する考慮事項](#)」(P.3-20) を参照してください。

表 3-8 ホステッド DN グループの設定項目

フィールド	説明
[名前 (Name)]	ホステッド DN グループの名前を入力します。有効な入力値は、英数字、ハイフン、ピリオド、アンダースコア、およびスペースです。50 文字まで入力できます。 入力した値は、[ホステッド DN グループの検索と一覧表示 (Find and List Hosted DN Groups)] ウィンドウ、[ホステッド DN グループの設定 (Hosted DN Group Configuration)] ウィンドウ、[ホステッド DN パターンの設定 (Hosted DN Pattern Configuration)] ウィンドウ、および [CCD アドバタイジングサービスの設定 (CCD Advertising Service Configuration)] ウィンドウに表示されます。
[説明 (Description)]	ホステッド DN グループの説明を入力します。¥、"、<>、&、および % を除くすべての文字を入力できます。128 文字まで入力できます。
[PSTN フェールオーバー削除桁数 (PSTN Failover Strip Digits)]	コールが PSTN にフェールオーバーするときにホステッド DN から除去する桁数を入力します。0 ~ 16 の値を入力できます。
[PSTN フェールオーバー付加番号 (PSTN Failover Prepend Digits)]	コールが PSTN にフェールオーバーするときに電話番号の先頭に追加する国際エスケープ文字 + または数字 (0 ~ 9) を入力します。16 文字まで入力できます。 たとえば、アクセスコードや市外局番を入力します。

表 3-8 ホステッド DN グループの設定項目 (続き)

フィールド	説明
[ホステッド DN を PSTN フェールオーバーとして使用 (Use Hosted DN as PSTN Failover)]	<p>このチェックボックスをオンにした場合、[PSTN フェールオーバー削除桁数 (PSTN Failover Strip Digits)] または [PSTN フェールオーバー付加番号 (PSTN Failover Prepend Digits)] に入力した設定は Cisco Unified Communications Manager で無視されます。</p> <p>コールが PSTN にフェールオーバーするとき、ホステッド DN から桁数を除去またはホステッド DN に数字を付加する必要がない場合は、[ホステッド DN を PSTN フェールオーバーとして使用 (Use Hosted DN as PSTN Failover)] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにした場合、[PSTN フェールオーバー削除桁数 (PSTN Failover Strip Digits)] または [PSTN フェールオーバー付加番号 (PSTN Failover Prepend Digits)] フィールドは無効として表示されます。</p> <p>このチェックボックスをオンにした場合、発信コールを行うエンティティは元のホステッド DN 範囲を PSTN フェールオーバーに使用します。</p>

ホステッド DN パターンの設定項目

設定パス : [コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [ホステッド DN パターン (Hosted DN Patterns)]

[ホステッド DN パターンの設定 (Hosted DN Pattern Configuration)] ウィンドウは、コール制御ディスカバリ機能をサポートします。この機能により、Cisco Unified Communications Manager は SAF ネットワークを使用して、同じく SAF をアドバタイズする他のリモート コール制御エンティティから電話番号パターンなどの情報を学習できます。

ホステッド DN パターンは、Cisco Unified Communications Manager に属する電話番号パターンです。CCD アドバタイジング サービスは、これらのパターンを SAF ネットワークを使用する他のリモート コール制御エンティティにアドバタイズします。これらのパターンをホステッド DN グループに関連付けます。ホステッド DN グループによって、複数のパターンを CCD アドバタイジング サービスに簡単に関連付けることができます。

表 3-9 に、[ホステッド DN パターンの設定 (Hosted DN Pattern Configuration)] ウィンドウに表示される設定項目を示します。これらの同じ設定が .csv ファイルに表示されます。このファイルでホステッド DN パターンを追加または変更し、Cisco Unified Communications Manager データベースにアップロードできます。

始める前に

ホステッド DN パターンを設定する前に、「[コール制御ディスカバリの設定チェックリスト](#)」(P.3-2) および「[コール制御ディスカバリの設定に関する考慮事項](#)」(P.3-20) を参照してください。

コール制御ディスカバリの詳細については、「[コール制御ディスカバリ](#)」(P.3-1) を参照してください。

表 3-9 ホステッド DN パターンの設定項目

フィールド	説明
[ホステッドパターン (Hosted Pattern)]	<p>ホステッド DN パターンの値を入力します。最大で 50 文字です。このフィールドに入力した値は、CCD アドバタイジング サービスによってリモート コール制御エンティティにアドバタイズされます。</p> <p>入力できるのは、国際エスケープ文字 + と、それに続くパターンまたはダイヤル可能な数字 (0-9A-Da-d)、パターン ([6-9])、ワイルドカード文字 (X)、または (^) と入力の最後にオプションの % または ! です。</p>
[説明 (Description)]	<p>ホステッド DN パターンの説明を入力します。¥、"、<>、&、および % を除くすべての文字を入力できます。128 文字まで入力できます。</p>
[ホステッド DN グループ (Hosted DN Group)]	<p>このホステッド DN パターンに関連付けるホステッド DN グループを選択します。次の両方の条件を満たす場合、Cisco Unified Communications Manager はホステッド DN グループの PSTN フェールオーバー設定をホステッド DN パターンに適用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [ホステッド DN パターン (Hosted DN Patterns)] ウィンドウで、[PSTN フェールオーバー削除桁数 (PSTN Failover Strip Digits)] または [PSTN フェールオーバー付加番号 (PSTN Failover Prepend Digits)] フィールドを設定していない (つまり、デフォルトを使用している)。 [ホステッド DN パターン (Hosted DN Patterns)] ウィンドウで、[ホステッド DN を PSTN フェールオーバーとして使用 (Use Hosted DN as PSTN Failover)] チェックボックスをオフにしている。
[PSTN フェールオーバー削除桁数 (PSTN Failover Strip Digits)]	<p>IP 接続が使用できず、コールが PSTN にフェールオーバーするときに、電話番号の先頭から除去する桁数を入力します。0 ~ 16 の値を入力できます。</p> <p>次のすべての条件を満たす場合、ホステッド DN グループの設定が適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> このフィールドに 0 を入力した (または空白のままにした) 場合 [PSTN フェールオーバー付加番号 (PSTN Failover Prepend Digits)] フィールドを空白のままにした場合 [ホステッド DN を PSTN フェールオーバーとして使用 (Use Hosted DN as PSTN Failover)] チェックボックスがオフの場合 <p>このフィールドに入力した値がホステッド DN パターンよりも長い場合は、桁が付加される前にパターンのすべての桁が除去されます。</p>

表 3-9 ホステッド DN パターンの設定項目 (続き)

フィールド	説明
[PSTN フェールオーバー付加番号 (PSTN Failover Prepend Digits)]	<p>コールが PSTN にフェールオーバーするときに電話番号の先頭に追加する国際エスケープ文字+または数字を入力します。16 文字まで入力できます。</p> <p>次のすべての条件を満たす場合、ホステッド DN グループの設定が適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> このフィールドに 0 を入力した (または空白のままにした) 場合 [PSTN フェールオーバー削除桁数 (PSTN Failover Strip Digits)] フィールドを空白のままにした場合 [ホステッド DN を PSTN フェールオーバーとして使用 (Use Hosted DN as PSTN Failover)] チェックボックスがオフの場合
[ホステッド DN を PSTN フェールオーバーとして使用 (Use Hosted DN as PSTN Failover)]	<p>コールが PSTN にフェールオーバーするときに、ホステッド DN から桁数を除去またはホステッド DN に数字を付加する必要がない場合は、[ホステッド DN を PSTN フェールオーバーとして使用 (Use Hosted DN as PSTN Failover)] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにした場合、[PSTN フェールオーバー削除桁数 (PSTN Failover Strip Digits)] または [PSTN フェールオーバー付加番号 (PSTN Failover Prepend Digits)] フィールドは無効として表示されます。</p> <p>このチェックボックスをオンにした場合、発信コールを行うエンティティは元のホステッド DN 範囲を PSTN フェールオーバーに使用します。</p> <p>ホステッド DN パターンの .csv ファイルを変更する場合は、TRUE または FALSE を入力します。TRUE は、PSTN フェールオーバー中にホステッド DN をそのまま使用することを示します。FALSE は、PSTN フェールオーバー中に電話番号から桁数を除去および番号を付加することを示します。</p>

CCD アドバイジング サービスの設定項目

設定パス : [コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [アドバイジングサービス (Advertising Service)]

コール制御ディスカバリ アドバイジング サービスはコール制御ディスカバリ機能をサポートしており、このサービスによって Cisco Unified Communications Manager はクラスタのホステッド DN および PSTN フェールオーバー設定を、SAF ネットワークを使用するリモートコール制御エンティティにアドバタイズできます。表 3-10 では、CCD アドバイジング サービスの設定項目について説明します。

始める前に

CCD アドバイジング サービスを設定する前に、「コール制御ディスカバリの設定チェックリスト」(P.3-2) および「コール制御ディスカバリの設定に関する考慮事項」(P.3-20) を参照してください。

表 3-10 CCD アドバタイジング サービスの設定項目

フィールド	説明
[名前 (Name)]	<p>CCD アドバタイジング サービスの名前を入力します。有効な入力値は、英数字、ハイフン、ピリオド、アンダースコア、およびスペースです。50 文字まで入力できます。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは CCD アドバタイジング サービスと CCD 要求サービスに同じ名前を付けることはできないため、名前は一意にしてください。</p>
[説明 (Description)]	<p>CCD アドバタイジング サービスの説明を入力します。¥、"、<>、&、および % を除くすべての文字を入力できます。128 文字まで入力できます。</p>
[SAF SIP トランク (SAF SIP Trunk)]	<p>この CCD アドバタイジング サービスで使用する SIP トランクを選択します。Cisco Unified Communications Manager への着信コールの場合、コールは CCD アドバタイジング サービスによってアドバタイズされた適切なトランクにルーティングされます。</p> <p>トランクがドロップダウン リスト ボックスに表示されない場合は、トランクを最初に設定したときに [トランクサービスタイプ (Trunk Service Type)] ドロップダウン リスト ボックスから [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] を選択しませんでした。</p>
[SAF H.323 トランク (SAF H.323 Trunk)]	<p>CCD アドバタイジング サービスで使用する H.323 トランクを選択します。Cisco Unified Communications Manager への着信コールの場合、コールは CCD アドバタイジング サービスによってアドバタイズされた適切なトランクにルーティングされます。</p> <p>トランクがドロップダウン リスト ボックスに表示されない場合は、H.323 (非ゲートキーパー制御) トランクの [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウで [SAF の有効化 (Enable SAF)] チェックボックスをオンにしたことを確認してください。</p>
[ホステッド DN グループ (HostedDN Group)]	<p>この CCD アドバタイジング サービスに関連付けるホステッド DN グループを選択します。CCD アドバタイジング サービスは、ホステッド DN グループに含まれるホステッド DN パターンをアドバタイズします。</p> <p>ホステッド DN グループは 1 つの CCD アドバタイジング サービスだけに割り当てることができるため、このドロップダウン リスト ボックスには未割り当てのホステッド DN グループだけが表示されます。</p>
[アクティブ化された機能 (Activated Feature)]	<p>[アクティブ化された機能 (Activated Feature)] チェックボックスをオンにします。[アクティブ化された機能 (Activated Feature)] チェックボックスをオンにしない場合、CCD アドバタイジング サービスは機能しません。</p>

追加情報

「関連項目」(P.3-47) を参照してください。

コール制御ディスカバリのパーティションの設定項目

設定パス : [コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [パーティション (Partition)]

CCD 要求サービスはコール制御ディスカバリ機能をサポートしており、このサービスによって Cisco Unified Communications Manager は SAF ネットワークを使用するリモート コール制御エンティティからのホステッド DN アドバタイズメントを受信できます。また、CCD 要求サービスによって、学習パターンが番号分析マスター ルーティング テーブルに挿入されます。

[コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [パーティション (Partition)] にあるパーティションだけが、コール制御ディスカバリ機能をサポートします。つまり、すべての学習パターンは CCD 要求サービスに割り当てた CCD パーティションに自動的に属します。コール制御ディスカバリ パーティションによって、学習パターンはコール制御ディスカバリのこのパーティションの番号分析に挿入されます。

CCD パーティションは Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [パーティション (Partition)] では表示されません。

始める前に

CCD パーティションを設定する前に、「[コール制御ディスカバリの設定チェックリスト](#)」(P.3-2) および「[コール制御ディスカバリの設定に関する考慮事項](#)」(P.3-20) を参照してください。

次の作業

パーティションを CCD 要求サービスに割り当てます。

CCD 要求サービスに割り当てるパーティションは、デバイスが学習パターンをコールするために使用できるコーリング サーチ スペースに属している必要があります。そのため、デバイスが使用するコーリング サーチ スペースにパーティションを割り当てます。パーティションが含まれたコーリング サーチ スペースをデバイスに割り当てないと、デバイスは学習パターンをコールできません。

表 3-11 コール制御ディスカバリのパーティションの設定項目

フィールド	説明
[名前 (Name)]	CCD 要求サービスに割り当てるパーティションの名前を入力します。英数字、アンダースコア (_)、ハイフン (-)、またはスペースを入力できます。50 文字まで入力できます。
[説明 (Description)]	パーティションの説明を入力します。¥、"、<>、&、および % を除くすべての文字を入力できます。128 文字まで入力できます。
[スケジュール (Time Schedule)]	ドロップダウン リスト ボックスから、この CCD パーティションに関連付けるタイム スケジュールを選択します。関連付けられたタイム スケジュールは、パーティションがいつこのクラスタの学習パターンへ発信コールできるかを指定します。 デフォルト値は [なし (None)] です。この値は、time-of-day ルーティングが有効ではなく、パーティションが常にアクティブであることを意味します。 パーティションのタイム スケジュールとの関連は、次のフィールドにある [タイムゾーン (Time Zone)] 値との組み合わせで、time-of-day ルーティング用のパーティションを設定します。指定されたタイム スケジュールに対して、このパーティションの学習パターンへの発信コールがチェックされます。

表 3-11 コール制御ディスカバリのパーティションの設定項目 (続き)

フィールド	説明
[タイムゾーン (Time Zone)]	<p>次のいずれかのオプションを選択し、CCD パーティションをタイムゾーンに関連付けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> [発信側デバイス (Originating Device)] : このオプションを選択すると、発信側デバイスのタイムゾーンに関連付けられたタイムスケジュールに対してパーティションがチェックされます。 [特定のタイムゾーン (Specific Time Zone)] : このオプションを選択する場合は、ドロップダウンリストボックスからタイムゾーンを選択します。このタイムゾーンの中でパーティションが指定されたときに、関連付けられたタイムスケジュールに対してパーティションがチェックされます。 <p>いずれかのオプションを選択した場合、CCD 学習パターンへの発信コールが発生すると、Cisco Unified Communications Manager の現在時刻が指定されたタイムゾーン設定に変換されます。この指定された時刻は、[スケジュール (Time Schedule)] フィールドの値と比較して検証されます。</p>

CCD 要求サービスの設定項目

設定パス : [コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [要求サービス (Requesting Service)]

CCD 要求サービスはコール制御ディスカバリ機能をサポートしており、このサービスによって Cisco Unified Communications Manager は SAF ネットワークを使用するリモートコール制御エンティティからのアドバタイズメントを受信できます。また、CCD 要求サービスによって、学習パターンが番号分析に挿入されます。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定できるコール制御ディスカバリ要求サービスは 1 つだけです。

始める前に

CCD 要求サービスを設定する前に、「コール制御ディスカバリの設定チェックリスト」(P.3-2) および「コール制御ディスカバリの設定に関する考慮事項」(P.3-20) を参照してください。

表 3-12 CCD 要求サービスの設定項目

フィールド	説明
[名前 (Name)]	<p>CCD 要求サービスの名前を入力します。有効な入力値は、英数字、ハイフン、ピリオド、アンダースコア、およびスペースです。50 文字まで入力できます。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは CCD アドバタイジングサービスと CCD 要求サービスに同じ名前を付けることはできないため、名前は一意にしてください。</p>
[説明 (Description)]	<p>CCD 要求サービスの説明を入力します。¥、"、<>、&、および % を除くすべての文字を入力できます。128 文字まで入力できます。</p>

表 3-12 CCD 要求サービスの設定項目 (続き)

フィールド	説明
[ルートパーティション (Route Partition)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、学習パターンが属するパーティションを選択します。[ルートパーティション (Route Partition)] フィールドだけが、コール制御ディスカバリ機能をサポートします。つまり、すべての学習パターンは、選択したパーティションに自動的に属します。このルートパーティションは、すべての学習パターンがルートパーティションの下で番号分析に配置されるように、CCD 要求サービスによって排他的に使用されます。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから [なし (None)] 以外のパーティションを選択する場合、選択するパーティションは、デバイスが学習パターンをコールするために使用できるコーリングサーチスペースに属している必要があります。この場合、パーティションが含まれたコーリングサーチスペースをデバイスに割り当てないと、デバイスは学習パターンをコールできません。</p> <p>ヒント 一意のパーティションを設定して CCD 要求サービスに割り当てておくことを強くお勧めします。[ルートパーティション (Route Partition)] ドロップダウンリストボックスから [なし (None)] を選択すると、すべてのデバイスが学習パターンをコールできます。</p> <p>ヒント [学習パターンプレフィックス (Learned Pattern Prefix)] フィールドまたは [ルートパーティション (Route Partition)] フィールドを更新すると、システムパフォーマンスに影響を及ぼす場合があります。これらのフィールドが変更されると、番号分析マスタールーティングテーブルが自動的に更新されるためです。システムパフォーマンスの問題を回避するために、これらのフィールドはオフピーク時に更新することをお勧めします。</p>
[学習パターンプレフィックス (Learned Pattern Prefix)]	<p>CCD 要求サービスが番号分析に登録する前に、学習パターンプレフィックスがホステッド DN パターンに適用されます。学習パターンへの発信コールの場合、学習パターンプレフィックスは除去されます。ホステッド DN パターンが番号分析に登録する前に、ホステッド DN パターンに適用するプレフィックスを入力します。</p> <p>学習パターンにコールするには、電話機ユーザはプレフィックスとそれに続く学習パターンをダイヤルする必要があります。数字、*、#、または+を入力できます。24 文字まで入力できます。</p> <p>ヒント [学習パターンプレフィックス (Learned Pattern Prefix)] フィールドまたは [ルートパーティション (Route Partition)] フィールドを更新すると、システムパフォーマンスに影響を及ぼす場合があります。これらのフィールドが変更されると、番号分析マスタールーティングテーブルが自動的に更新されるためです。システムパフォーマンスの問題を回避するために、これらのフィールドはオフピーク時に更新することをお勧めします。</p>

表 3-12 CCD 要求サービスの設定項目 (続き)

フィールド	説明
[PSTN プレフィックス (PSTN Prefix)]	<p>PSTN フェールオーバーが行われるときに学習パターンに付加される番号を入力します。数字、*、#、または+を入力できます。24 文字まで入力できます。</p> <p>学習パターンへのコールが PSTN にフェールオーバーする場合、その学習パターンのリモート コール制御エンティティによってアドバタイズされる PSTN フェールオーバー設定が適用された後で、PSTN プレフィックスが学習パターンに追加されます。</p>
[使用可能な SAF トランク (Available SAF Trunks)]	<p>[使用可能な SAF トランク (Available SAF Trunks)] ペインには、CCD 要求サービスに割り当てられていない SAF 対応トランクのリストが表示されます。CCD 要求サービスにトランクを割り当てるには、サービスを強調表示し、下矢印をクリックしてトランクを [選択された SAF トランク (Selected SAF Trunks)] ペインに移動します。</p>
[選択された SAF トランク (Selected SAF Trunks)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は、発信コールを SAF 対応の SIP または H.323 クラスタ間 (非ゲートキーパー制御) トランク経由で、SAF ネットワークを使用するリモート コール制御エンティティにルーティングします。つまり、CCD 要求サービスに割り当てる SAF 対応トランクが、学習 DN パターンへの発信コールを管理します。</p> <p>[選択された SAF トランク (Selected SAF Trunks)] ペインには、CCD 要求サービスに割り当てられている SAF 対応トランクのリストが表示されます。必要な数の SAF 対応トランクを割り当てることができます。発信コールはラウンドロビン方式で管理されます。つまり、学習パターンが SIP プロトコルと H.323 プロトコルの両方をサポートする場合、発信コールはトランク タイプを交互に使用します。</p> <p>CCD 要求サービスからトランクを割り当て解除するには、サービスを強調表示し、上矢印をクリックしてトランクを [使用可能な SAF トランク (Available SAF Trunks)] ペインに移動します。ペインでトランクを並べ替えるには、トランクを強調表示してペインの右にある上矢印および下矢印をクリックします。</p> <p>ヒント [選択された SAF トランク (Selected SAF Trunks)] ペインには、SAF 対応トランクが少なくとも 1 つ存在している必要があります。存在しない場合、ローカルクラスタに対して CCD 要求サービスは開始されず、パターンは学習されません。</p>
[アクティブ化された機能 (Activated Feature)]	<p>[アクティブ化された機能 (Activated Feature)] チェックボックスをオンにします。[アクティブ化された機能 (Activated Feature)] チェックボックスをオンにしない場合、CCD 要求サービスは機能しません。</p>

ブロックされた学習パターンの設定項目

設定パス : [コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [ブロックされた学習パターン (Blocked Learned Patterns)]

[ブロックされた学習パターンの設定 (Blocked Learned Pattern Configuration)] ウィンドウは、学習パターン（使用しなくなった学習パターンなど）をページおよびブロックできるようにすることで、コール制御ディスカバリ機能をサポートします。

必要な場合は、使用しなくなった学習パターンをページでき、リモート コール制御エンティティによって学習パターンがアダタイズされたときに Cisco Unified Communications Manager がパターンを無視するように、学習パターンをブロックできます。たとえば、IP アドレス 111.11.11.11 のリモート コール制御エンティティ xyz からのプレフィックス 235 の学習パターンをブロックする場合、[学習パターンのブロック (Block Learned Patterns)] ウィンドウで関連情報を入力することによって、このコール制御エンティティのパターンを明確にブロックできます。この例では、設定を保存した後、CCD 要求サービスはローカル キャッシュを検索し、IP アドレス 111.11.11.11 のリモート コール制御エンティティ xyz からのプレフィックス 235 の学習パターンをページします。この情報を持つ後続の通知は、Cisco Unified Communications Manager によってブロックおよび無視されます。パターンのブロックおよびページは完全一致に基づきます。たとえば、235XX を設定すると 235XX がブロックされます。そのパターンのサブセットはブロックされません。リモート コール制御エンティティおよびエンティティの IP アドレスを指定しない場合、Cisco Unified Communications Manager はパターンを使用するすべてのリモート コール制御エンティティのパターンをページおよびブロックします。



ヒント

ページの [ブロックされた学習パターンの検索と一覧表示 (Find and List Blocked Learned Pattern)] ウィンドウで、ページおよびブロックされた学習パターンを表示できます。Cisco Unified Communications Manager の管理これらのページまたはブロックされた学習パターンは、RTMT には表示されません。ブロックされたパターンを Cisco Unified Communications Manager の管理ページから削除した場合、それらが SAF ネットワークでまだ使用可能であり、クラスタの学習パターンの最大数に達していなければ、Cisco Unified Communications Manager はそれらのパターンを再学習できます。パターンを Cisco Unified Communications Manager が再学習するには、ブロックされた学習パターンのレコード全体を Cisco Unified Communications Manager の管理ページから削除する必要があります。つまり、ブロックされた学習パターンの設定の一部だけを削除した場合、Cisco Unified Communications Manager はパターンを再学習しません。たとえば、レコードの [リモートコール制御 ID(Remote Call Control Identity)] または [リモート IP(Remote IP)] の設定だけを削除した場合などです。

Cisco Unified Communications Manager がパターンをブロックまたはページするには、学習パターンが [ブロックされた学習パターン (Blocked Learned Patterns)] ウィンドウで設定するすべてのデータと一致する必要があります。

表 3-13 に、[ブロックされた学習パターンの設定 (Blocked Learned Pattern Configuration)] ウィンドウに表示されるブロックされた学習パターンの設定項目を示します。

表 3-13 ブロックされた学習パターンの設定項目

フィールド	説明
[学習パターン (Learned Pattern)]	<p>ヒント 電話番号に付加されるプレフィックスに基づいてすべてのパターンを Cisco Unified Communications Manager でブロックする場合は、このフィールドを設定しないでください。代わりに、[学習パターンプレフィックス (Learned Pattern Prefix)] フィールドを設定します。</p> <p>ヒント 特定のリモート コール制御エンティティからのすべての学習パターンをブロックする場合は、このフィールドを設定しないでください。代わりに、[リモートコール制御 ID(Remote Call Control Identity)] フィールドまたは [リモート IP(Remote IP)] フィールドを設定します。</p> <p>このフィールドでは、ブロックする学習パターンを正確に入力します。Cisco Unified Communications Manager は完全一致に基づいてパターンをブロックするため、Cisco Unified Communications Manager がブロックするパターンを正確に入力する必要があります。たとえば、235XX を入力した場合、Cisco Unified Communications Manager は 235XX のパターンをブロックします。</p>
[学習パターンプレフィックス (Learned Pattern Prefix)]	<p>ヒント [学習パターン (Learned Pattern)] フィールドを設定した場合は、[学習パターンプレフィックス (Learned Pattern Prefix)] フィールドを設定しないでください。</p> <p>パターンに付加されるプレフィックスに基づいて学習パターンをブロックする場合、このフィールドにプレフィックスを入力します。たとえば、+1 を使用する学習パターンをブロックする場合は、このフィールドに +1 を入力します。</p> <p>[リモートコール制御 ID(Remote Call Control Identity)] または [リモート IP(Remote IP)] フィールドを設定する場合、Cisco Unified Communications Manager は設定したリモート コール制御エンティティからの特定のプレフィックスを使用する学習パターンをブロックします (プレフィックスを持つパターンをアダプタイズするすべてのリモート コール制御エンティティからのものではありません)。リモート コール制御エンティティまたはリモート IP アドレスを入力しない場合、プレフィックスを使用するすべてのパターンがブロックされます。</p>
[リモートコール制御 ID(Remote Call Control Identity)]	<p>ブロックするパターンをアダプタイズするリモート コール制御エンティティの名前を入力します。たとえば、クラスタまたはサイトの名前を入力できます。</p> <p>このフィールドと [リモート IP(Remote IP)] フィールドを空白のままにすると、Cisco Unified Communications Manager はパターンをアダプタイズするすべてのリモート コール制御エンティティの学習パターンをブロックします。</p>
[リモート IP(Remote IP)]	<p>学習パターンをブロックするリモート コール制御エンティティの IP アドレスを入力します。</p> <p>すべてのリモート コール制御エンティティからの特定の学習パターンをブロックする場合は、このフィールドを設定する必要はありません。特定のリモート コール制御エンティティからの特定の学習パターンをブロックする場合に、このフィールドを設定します。</p>

コール制御ディスカバリの設定レコードの検索

コール制御ディスカバリ機能は、Service Advertisement Framework (SAF) ネットワーク サービス (シスコ独自のサービス) を利用して、コール間エージェント情報の動的なプロビジョニングを容易にします。SAF ネットワーク サービスの採用により、コール制御ディスカバリ機能では、Cisco Unified Communications Manager は自身を他の重要な属性 (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定される電話番号パターンなど) とともにアドバタイズできます。そのため、同じく SAF ネットワーク サーバを使用する他のコール制御エンティティは、アドバタイズされた情報を使用してルーティングの動作を動的に設定し、適合させることができます。同様に、SAF を使用するすべてのエンティティは、所有する電話番号パターンを他の重要な情報とともにアドバタイズします。したがって、他のリモート コール制御エンティティは、その情報を学習してコールのルーティングの動作を適合させることができます。

コール制御ディスカバリの設定後、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの関連する検索と一覧表示のウィンドウで設定レコードを検索できます。検索と一覧表示のウィンドウでは、特定の条件に基づいてレコードを検索できます。



(注)

ブラウザセッションでの作業中は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで検索プリファレンスが保持されます。他のメニュー項目に移動してこのメニュー項目に戻った場合でも、検索を変更するかブラウザを閉じないかぎり、検索プリファレンスは Cisco Unified Communications Manager の管理ページで保持されています。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、コール制御ディスカバリ機能の検索と一覧表示のウィンドウのいずれかに移動するには、次のいずれかの手順を実行します。

- [拡張機能 (Advanced Features)] > [SAF] > [SAF セキュリティプロファイル (SAF Security Profile)] を選択します。
- [拡張機能 (Advanced Features)] > [SAF] > [SAF フォワーダ (SAF Forwarder)] を選択します。
- [コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [ホステッド DN グループ (Hosted DN Group)] を選択します。
- [コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [ホステッド DN パターン (Hosted DN Patterns)] を選択します。
- [コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [アドバタイジングサービス (Advertising Service)] を選択します。
- [コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [パーティション (Partition)] を選択します。
- [コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [ブロックされた学習パターン (Blocked Learned Pattern)] を選択します。



ヒント Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定できる CCD 要求サービスは 1 つだけであるため、CCD 要求サービスについては検索と一覧表示のウィンドウは表示されません。[コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [要求サービス (Requesting Service)] を選択すると、レコードが設定されている場合は表示されます。

ホステッド DN パターンの検索と一覧表示のウィンドウでは、コール制御ディスカバリ機能の複数のホステッド DN パターンを同時に追加または更新できるように、.csv ファイルをダウンロードできます。.csv ファイルをダウンロードするには、ウィンドウで [ダウン

ロード (Download)] をクリックします。ホステッド DN パターンの検索と一覧表示のウィンドウで、変更した .csv ファイルをアップロードするには、[ファイルのアップロード (Upload File)] をクリックします。アップロードするファイルを参照し、既存のパターンを上書きする場合は [既存パターンの置換 (Replace Existing Patterns)] チェックボックスをオンにして、[ファイルのアップロード (Upload File)] をクリックします。

[ホステッド DN パターンの検索と一覧表示 (Find and List Hosted DN Patterns)] ウィンドウでは、ホステッド DN グループに属するホステッド DN パターンを識別できます。詳細については、「[ホステッド DN グループに属するホステッド DN パターンの識別 \(P.3-46\)](#)」を参照してください。

検索と一覧表示のウィンドウが表示されます。ウィンドウには、アクティブな (前の) クエリーのレコードも表示される場合があります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空になっていることを確認し、[ステップ 3](#) に進みます。

特定のレコードをフィルタリングまたは検索するには、次の操作を実行します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスで、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索文字を入力します。



(注) 別の検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加した場合は、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

[CCD アドバタイジングサービスの検索と一覧表示 (Find and List CCD Advertising Service)] ウィンドウで検索パラメータ ([アクティブ化された機能 (Activated Feature)]) で検索する場合は、検索テキストを指定するときに true または false を指定するには t または f を入力する必要があります。検索テキストを指定するときに true または false を入力しないでください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

条件に一致するレコードがすべて表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスで別の値を選択すると、各ページに表示される項目数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、データベースから複数のレコードを削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定されているすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 表示されたレコード リストから、目的のレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順を逆にするには、リストのヘッダーにある上矢印または下矢印をクリックします (使用可能な場合)。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目 \(P.3-47\)](#)」を参照してください。

コール制御ディスカバリの設定（手順）

コール制御ディスカバリ機能は、Service Advertisement Framework (SAF) ネットワーク サービス (シスコ独自のサービス) を利用して、コール間エージェント情報の動的なプロビジョニングを容易にします。SAF ネットワーク サービスの採用により、コール制御ディスカバリ機能では、Cisco Unified Communications Manager は自身を他の重要な属性 (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定される電話番号パターンなど) とともにアドバタイズできます。そのため、同じく SAF ネットワーク サーバを使用する他のコール制御エンティティは、アドバタイズされた情報を使用してルーティングの動作を動的に設定し、適合させることができます。同様に、SAF を使用するすべてのエンティティは、所有する電話番号パターンを他の重要な情報とともにアドバタイズします。したがって、他のリモート コール制御エンティティは、その情報を学習してコールのルーティングの動作を適合させることができます。

この項では、Cisco Unified Communications Manager データベースのコール制御ディスカバリの設定を追加、コピー、または更新する方法について説明します。コール制御ディスカバリでは、SAF セキュリティ プロファイル、SAF フォワーダ、ホステッド DN グループおよびパターン、CCD アドバタイジング サービス、および CCD 要求サービスを設定します。コール制御ディスカバリを設定する前に、「[コール制御ディスカバリの設定チェックリスト](#)」(P.3-2) を参照してください。



ヒント

この項では、SAF のトランクを有効にする方法は説明しません。SAF のトランクを有効にする方法については、「[ホステッド DN グループの設定項目](#)」(P.3-31) を参照してください。

ホステッド DN グループに属するホステッド DN パターンを識別するには、「[ホステッド DN グループに属するホステッド DN パターンの識別](#)」(P.3-46) を参照してください。

この項では、[CCD 機能設定 (CCD Feature Configuration)] ウィンドウにアクセスする方法は示しません。このウィンドウには、コール制御ディスカバリの機能パラメータが表示されます。機能パラメータの詳細については、「[コール制御ディスカバリの機能パラメータ](#)」(P.3-24) を参照してください。

手順

ステップ 1 次のいずれかの手順を実行します。

- CCD 要求サービスを設定する場合は、[コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [要求サービス (Requesting Service)] を選択します。[CCD 要求サービスの設定 (CCD Requesting Service Configuration)] ウィンドウが表示されます。 [ステップ 3](#) に移動します。
- [拡張機能 (Advanced Features)] > [SAF] > [SAF セキュリティプロファイル (SAF Security Profile)] を選択します。
- [拡張機能 (Advanced Features)] > [SAF] > [SAF フォワーダ (SAF Forwarder)] を選択します。
- [コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [ホステッド DN グループ (Hosted DN Group)] を選択します。
- [コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [ホステッド DN パターン (Hosted DN Patterns)] を選択します。
- [コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [アドバタイジングサービス (Advertising Service)] を選択します。
- [コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [ブロックされた学習パターン (Blocked Learned Pattern)] を選択します。

[SAF セキュリティプロファイル (SAF Security Profile)]、[SAF フォワーダ (SAF Forwarder)]、[ホステッド DN グループ (Hosted DN Group)]、[ホステッド DN パターン (Hosted DN Patterns)]、[パーティション (Partition)]、および [CCD アドバイジングサービス (CCD Advertising Service)] ウィンドウの、検索と一覧表示のウィンドウが表示されます。

ステップ 2 検索と一覧表示のウィンドウで、次のいずれかの作業を実行します。

- コール制御ディスカバリに関連する既存のレコードをコピーするには、「[SAF セキュリティプロファイルの設定項目](#)」(P.3-26)の説明に従ってレコードを検索し、コピーするレコードの横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#)に進みます。
- コール制御ディスカバリに関連する新しいレコードを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#)に進みます。
- 既存のレコードを更新する場合は、適切なレコードを見つけ（「[SAF セキュリティプロファイルの設定項目](#)」(P.3-26)を参照）、[ステップ 3](#)に進みます。
- ホステッド DN パターンの検索と一覧表示のウィンドウでは、コール制御ディスカバリ機能の複数のパターンを同時に追加または更新できるように、.csv ファイルをダウンロードできます。.csv ファイルをダウンロードするには、ウィンドウで [ダウンロード (Download)] をクリックします。

ステップ 3 適切なフィールドを設定します (次の項を参照)。

- 「[SAF セキュリティプロファイルの設定項目](#)」(P.3-26)
- 「[SAF フォワーダの設定項目](#)」(P.3-27)
- 「[ホステッド DN グループの設定項目](#)」(P.3-31)
- 「[ホステッド DN パターンの設定項目](#)」(P.3-32)
- 「[コール制御ディスカバリのパーティションの設定項目](#)」(P.3-36)
- 「[CCD アドバイジングサービスの設定項目](#)」(P.3-34)
- 「[CCD 要求サービスの設定項目](#)」(P.3-37)
- 「[ブロックされた学習パターンの設定項目](#)」(P.3-40)

ステップ 4 ホステッド DN パターンの検索と一覧表示のウィンドウで、変更した .csv ファイルをアップロードするには、[ファイルのアップロード (Upload File)] をクリックします。アップロードするファイルを参照し、既存のパターンを上書きする場合は [既存パターンの置換 (Replace Existing Patterns)] チェックボックスをオンにして、[ファイルのアップロード (Upload File)] をクリックします。

ステップ 5 設定情報をデータベースに保存するには、[保存 (Save)] をクリックします。



ヒント [CCD アドバイジングサービスの設定 (CCD Advertising Service Configuration)] ウィンドウの [リセット (Reset)] ボタンにより、コール制御ディスカバリ アドバイジングサービスは既存の発行要求を取り消し、すべての関連情報を再度発行します。[CCD 要求サービスの設定 (CCD Requesting Service Configuration)] ウィンドウの [リセット (Reset)] ボタンにより、要求サービスはローカル キャッシュから学習パターンを削除し、SAF ネットワークに再登録し、パターンを再度学習します。ネットワークに影響を及ぼさないようにするために、[リセット (Reset)] ボタンはオフピーク時にクリックすることをお勧めします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.3-47) を参照してください。

SAF 対応トランクの設定

SAF をサポートするように SIP または H.323（非ゲートキーパー制御）トランクを設定できます。SIP トランクの場合、[トランクサービスタイプ (Trunk Service Type)] ドロップダウン リスト ボックスから [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] を選択します。このドロップダウン リスト ボックスは、トランク タイプおよびトランク プロトコルを割り当てる場合と同じウィンドウに表示されます。ドロップダウン リスト ボックスから選択した後でトランク サービス タイプを変更することはできません。

H.323（非ゲートキーパー制御）トランクの場合、（トランク タイプおよびトランク プロトコルを選択した後で）トランクを設定するときに [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウで [SAF の有効化 (Enable SAF)] チェックボックスをオンにします。有効にした後 H.323 トランクで SAF を無効にする場合は、[SAF の有効化 (Enable SAF)] チェックボックスをオフにします。

トランク設定の考慮事項については、「[コール制御ディスカバリの設定に関する考慮事項](#)」(P.3-20) を参照してください。

ホステッド DN グループに属するホステッド DN パターンの識別

[ホステッド DN パターンの検索と一覧表示 (Find and List Hosted DN Patterns)] ウィンドウでは、ホステッド DN グループに属するホステッド DN パターンを識別できます。[ホステッド DN パターンの検索と一覧表示 (Find and List Hosted DN Patterns)] ウィンドウで、次のいずれかの作業を実行できます。

- すべてのホステッド DN パターンを検索できます。結果が表示されると、[ホステッド DN グループ (Hosted DN Group)] にホステッド DN グループが表示されます（GUI では、ホステッド DN グループは結果ではグループ化されます）。
- [検索 (Find)] ドロップダウン リスト ボックスから [ホステッド DN グループ (Hosted DN Group)] を選択し、検索条件にホステッド DN グループを入力することによって、特定のホステッド DN グループを検索できます。

コール制御ディスカバリの設定レコードの削除

この項では、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、設定済みのコール制御ディスカバリ レコードを削除する方法について説明します。

始める前に

ブロックされたパターンを Cisco Unified Communications Manager の管理ページから削除した場合、それらが SAF ネットワークでまだ使用可能であれば（および、クラスタの学習パターンの最大数に達していなければ）、Cisco Unified Communications Manager はそれらのパターンを再学習できます。

CCD アドバタイジング サービスを削除すると、割り当てられている各トランクを使用してアドバタイズされるすべてのホステッド DN パターンの発行は解除されます。

CCD 要求サービスを削除すると、すべての学習パターンはローカル キャッシュおよび番号分析から登録解除されます。



(注)

該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、検索と一覧表示のウィンドウから複数のレコードを削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのレコードを削除できます。

手順

-
- ステップ 1** 検索と一覧表示のウィンドウからレコードを削除する場合は、次の作業を実行します。
- 「[コール制御ディスカバリの設定レコードの検索](#)」(P.3-42) の手順を使用して、削除するレコードを検索します。
 - 削除するレコードをクリックします。
 - [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
削除の確認を求めるメッセージが表示されます。
 - [OK] をクリックします。
ウィンドウが更新され、レコードがデータベースから削除されます。
- ステップ 2** 設定ウィンドウからレコードを削除する場合は、次の作業を実行します。
- 「[コール制御ディスカバリの設定レコードの検索](#)」(P.3-42) の手順を使用して、削除するレコードを検索します。
 - 設定ウィンドウにアクセスし、設定ウィンドウで [削除 (Delete)] をクリックします。
削除の確認を求めるメッセージが表示されます。
 - [OK] をクリックします。
ウィンドウが更新され、レコードがデータベースから削除されます。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.3-47) を参照してください。

エンドユーザへの情報の提供

コール制御ディスカバリ機能は、電話機ユーザなどのエンドユーザには影響しません。

コール制御ディスカバリのトラブルシューティング

コール制御ディスカバリのトラブルシューティングについては、『*Troubleshooting Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

関連項目

- 「[コール制御ディスカバリの設定チェックリスト](#)」(P.3-2)
- 「[Cisco Unified Communications Manager のコール制御ディスカバリの概要](#)」(P.3-5)
 - 「[コール制御ディスカバリの概要](#)」(P.3-5)
 - 「[コール制御ディスカバリ機能のコンポーネント](#)」(P.3-6)
- 「[コール制御ディスカバリのシステム要件](#)」(P.3-17)
- 「[インタラクションおよび制限事項](#)」(P.3-17)

- 「コール制御ディスカバリのインストールとアクティブ化」 (P.3-19)
- 「コール制御ディスカバリの設定」 (P.3-19)
 - 「コール制御ディスカバリの設定に関する考慮事項」 (P.3-20)
 - 「コール制御ディスカバリの機能パラメータ」 (P.3-24)
 - 「SAF セキュリティプロファイルの設定項目」 (P.3-26)
 - 「SAF フォワーダの設定項目」 (P.3-27)
 - 「ホステッド DN グループの設定項目」 (P.3-31)
 - 「ホステッド DN パターンの設定項目」 (P.3-32)
 - 「CCD アドバタイジング サービスの設定項目」 (P.3-34)
 - 「コール制御ディスカバリのパーティションの設定項目」 (P.3-36)
 - 「CCD 要求サービスの設定項目」 (P.3-37)
 - 「ブロックされた学習パターンの設定項目」 (P.3-40)
 - 「コール制御ディスカバリの設定レコードの検索」 (P.3-42)
 - 「SAF セキュリティプロファイルの設定項目」 (P.3-26)
 - 「SAF 対応トランクの設定」 (P.3-46)
 - 「ホステッド DN グループに属するホステッド DN パターンの識別」 (P.3-46)
 - 「コール制御ディスカバリの設定レコードの削除」 (P.3-46)
- 「エンド ユーザへの情報の提供」 (P.3-47)
- 「コール制御ディスカバリのトラブルシューティング」 (P.3-47)
- 『Cisco IOS Service Advertisement Framework Configuration Guide』
- 『Cisco IOS Service Advertisement Framework Command Reference』



CHAPTER 4

Call Display Restrictions 機能

Call Display Restrictions 機能を使用すると、コールまたは接続されている回線についてどのような情報を表示するかを、コールを行っているユーザに応じて選択することができます。Cisco Unified Communications Manager の管理ページの特定の設定項目を使用すると、各コールに関する情報を表示するか制限するかを選択できます。

たとえば、ホテル環境で、客室とフロントデスクとの間で行われたコールの情報は表示し、客室間で行われたコールについては、いずれの電話機でもコール情報を表示しないとします。Call Display Restrictions 機能を使用すると、このような表示が可能になります。

この章では、Cisco Unified Communications Manager での Call Display Restrictions 機能の使用に関する次の情報について説明します。

- 「[Call Display Restrictions の設定チェックリスト](#)」 (P.4-1)
- 「[Call Display Restrictions 機能について](#)」 (P.4-2)
- 「[Call Display Restrictions のシステム要件](#)」 (P.4-4)
- 「[Call Display Restrictions を使用する場合のシナリオ](#)」 (P.4-4)
- 「[インタラクション](#)」 (P.4-5)
- 「[Call Display Restrictions の設定](#)」 (P.4-7)
- 「[関連項目](#)」 (P.4-15)

Call Display Restrictions の設定チェックリスト

Call Display Restrictions 機能を使用すると、コールまたは接続されている回線についてどのような情報を表示するかを、コールを行っているユーザに応じて選択することができます。Cisco Unified Communications Manager の管理ページの特定の設定項目を使用すると、各コールに関する情報を表示するか制限するかを選択できます。

たとえば、ホテル環境で、客室とフロントデスクとの間で行われたコールの情報は表示し、客室間で行われたコールについては、いずれの電話機でもコール情報を表示しないとします。Call Display Restrictions 機能を使用すると、このような表示が可能になります。

Call Display Restrictions 機能について

表 4-1 に、Call Display Restrictions を設定する際のチェックリストを示します。Call Display Restrictions の詳細については、「[Call Display Restrictions 機能について](#)」(P.4-2) および「[関連項目](#)」(P.4-15) を参照してください。

表 4-1 Call Display Restrictions の設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 客室、フロント デスク、クラブ、および PSTN にパーティションを設定します。「 パーティション 」(P.4-10) を参照してください。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 パーティションの設定値 」
ステップ 2 コールパークの電話番号を設定するか、またはコールパークの電話番号の範囲を定義します。客室からのコールパーク取得用に、各コールパークの電話番号にトランスレーションパターンを設定します。「 コールパーク 」(P.4-14) を参照してください。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 コールパーク番号の設定 」
ステップ 3 コーリングサーチスペース内にパーティションを持つユーザだけがパーティションを使用できるようにコールパーク電話番号のパーティションを設定します。「 パーティション 」(P.4-10) および「 コールパーク 」(P.4-14) を参照してください。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 パーティションの設定値 」
ステップ 4 客室、フロント デスク、クラブ、PSTN のコーリングサーチスペースと、客室のパーク範囲（コールパーク用）を設定します。「 コーリングサーチスペース 」(P.4-10) を参照してください。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 コーリングサーチスペースの設定 」
ステップ 5 客室、フロント デスク、クラブの電話、および PSTN のゲートウェイを設定します。「 デバイスとゲートウェイ 」(P.4-11) を参照してください。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 Cisco Unified IP Phone の設定 」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 デバイスプロファイルの設定 」
ステップ 6 トランスレーションパターンとルートパターンを設定します。「 トランスレーションパターン 」(P.4-11) を参照してください。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 トランスレーションパターンの設定 」 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「 ルートプランの概要 」

Call Display Restrictions 機能について

Call Display Restrictions 機能は、Cisco Unified Communications Manager 5.0 以降のバージョンを実行している Cisco Unified Communications Manager クラスタ内で動作します。Call Display Restrictions 機能を有効にするには、次のパラメータを設定する必要があります。

サービス パラメータ

- Always Display Original Dialed Number

トランスレーション パターンのパラメータ

- [発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]
- [接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)]

電話機の設定およびユーザ デバイス プロファイルのパラメータ

- [プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)]

これらの設定を組み合わせることによって、各コールの情報表示を許可するか制限するか、および接続先番号をどのように表示するかを決定できます。

この項の内容は次のとおりです。

- 「Call Display Restrictions 機能の概要」 (P.4-3)
- 「Call Display Restrictions の有効化」 (P.4-3)

Call Display Restrictions 機能の概要

Call Display Restrictions を使用すると、コールまたは接続回線の情報を選択的に表示または制限できます。次のようなニーズがあると思われるホテル環境では、この機能が頻繁に必要になります。

- 客室とフロント デスクとの間のコールについては、客室とフロント デスクの両方で互いのコール情報を表示する必要がある。
- 客室間のコールについては、互いにコール情報を表示しない。
- 客室とホテルの他の内線 (クラブ ハウスなど) との間のコールについては、客室だけにコール情報が表示されるようにする。
- 構内電話システム (PSTN) からフロント デスクまたは客室にかかってきた外部コールの場合は、表示設定が制限されている発信者のコール情報は表示しないようにする。
- フロント デスクにかかってくるすべてのコールについては、内部コールのコール情報を表示する。
- フロント デスクで客室からのコールをセキュリティに転送する場合、客室の電話機にはフロント デスクのダイヤル番号だけが表示されるようにする。

Call Display Restrictions の有効化

Call Display Restrictions 機能は、さまざまなトランスレーション パターンを通じたコールのルーティングを行ってから実際のデバイスに送達することを基盤にしています。ユーザが適切なトランスレーション パターン番号をダイヤルすることによって表示が制限されます。

トランスレーション パターンの設定

Call Display Restrictions を有効にするには、[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] パラメータと [接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] パラメータに適切なオプションを選択して、表示制限のレベルが異なるトランスレーション パターンを設定します。

これらのパラメータの詳細については、「トランスレーション パターンのパラメータ設定」 (P.4-7) を参照してください。



ヒント

トランスレーション パターンに加えて、パーティションとコーリング サーチ スペースも設定する必要があります。これらの設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「トランスレーション パターンの設定」の章を参照してください。

電話機の設定およびユーザ デバイス プロファイルの設定

次に [プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] パラメータを有効にして、内部コールに関して受け取る表示制限を無視するように設定し、デバイスがリモート ユーザのコール情報を表示するようにします。

この設定の詳細については、「[電話の設定](#)」(P.4-9) を参照してください。

エクステンション モビリティが有効になっている電話機にログインするユーザについては、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウでも、この項目を設定します。エクステンション モビリティとの対話の詳細については、「[エクステンション モビリティ](#)」(P.4-6) を参照してください。

接続先番号の表示

コールがトランスレーション パターンまたはルート パターンを介してルーティングされた場合や、Call Forward All (CFA; 不在転送) または Call Forward Busy (CFB; 話中転送) の宛先にルーティングされた場合、あるいはコール転送または CTI アプリケーションによってリダイレクトされた場合は、接続先番号の表示が更新され、変更後の番号またはリダイレクト先の番号が表示されます。

電話機で表示の更新をオフにして、ダイヤル番号だけが表示されるようにするには、Cisco CallManager サービス パラメータの「Always Display Original Dialed Number」を [True] に設定します。このサービス パラメータが [True] に設定されている場合、コール期間中は、発信側の電話機にダイヤル番号だけが表示されるようになります。

Call Display Restrictions のシステム要件

Call Display Restrictions をサポートしているソフトウェア コンポーネントは、次のとおりです。

- Cisco Unified Communications Manager

Call Display Restrictions をサポートしているデバイスは、次のとおりです。

- Cisco Unified IP Phone 6900 シリーズ (6901 および 6911 を除く)
- Cisco Unified IP Phone 7900 シリーズ
- Cisco Unified IP Phone 8900 シリーズ
- Cisco Unified IP Phone 9900 シリーズ
- H.323 クライアント
- CTI ポート
- Cisco IP Communicator

Call Display Restrictions を使用する場合のシナリオ

次のシナリオで、Call Display Restrictions の使用例を示します。

- フロント デスクから客室 1 にコール：両方の電話機に互いのコール情報が表示される。
- フロント デスクから客室 1 にコールし、さらにフロント デスクは客室 2 にコールを転送：最後に接続された客室 1 と客室 2 では、互いにコール情報が表示されない。
- 外部 (PSTN) からフロント デスクにコール：フロント デスクは外部発信者の表示設定を順守する。
- 外部 (PSTN) から客室 1 にコール：客室 1 では外部発信者の表示設定を順守し、外部発信者には客室 1 のコール情報は表示されない。

- 客室 1 からフロント デスクにコール：両方の電話機に互いの情報が表示される。
- 客室 1 から客室 2 にコール：いずれの電話機にも互いの情報は表示されない。
- 客室 1 からフロント デスクにコールし、フロント デスクはこのコールを客室 2 に転送：最後に接続された客室 1 と客室 2 では、互いにコール情報は表示されない。
- 客室 1 からフロント デスク 1 にコールし、フロント デスク 1 はこのコールをフロント デスク 2 に転送：最後に接続された客室 1 とフロント デスク 2 では、互いにコール情報が表示される。
- 客室 1 から客室 2 にコールし、客室 2 はこのコールをフロント デスクに転送：客室 1 とフロント デスクでは、互いにコール情報が表示される。
- クラブ ハウスから客室 1 にコール：クラブ ハウスではコール情報は表示されないが、客室 1 ではコール情報が表示される。
- 会議コールのすべての参加者：すべての電話機のコール情報表示は「To Conference」になる。
- 客室 1 からクラブ ハウスにコールし、クラブ ハウスのマネージャはすべてのコールを自分の携帯電話に自動転送：客室 1 ではクラブ ハウスの番号だけが表示される。

インタラクション

次の各項では、Call Display Restrictions 機能が Cisco Unified Communications Manager のアプリケーションおよびコール処理とどのように通信するかを説明します。

- 「コールパーク」(P.4-5)
- 「会議リスト」(P.4-6)
- 「会議とボイスメール」(P.4-6)
- 「エクステンションモビリティ」(P.4-6)

接続先番号の表示制限は、クラスタで発信されるすべてのコールに適用されます。この設定は、[True] に設定されている場合、既存の Cisco Unified Communications Manager アプリケーション、機能、およびコール処理と透過的に通信します。設定は、クラスタの内部または外部で終端するコールすべてに適用されます。

コールパーク

Call Display Restrictions 機能とコールパークを併用する場合は、Call Display Restrictions 機能を維持するように、各コールパーク番号について関連するトランスレーションパターンを設定する必要があります。コールパーク番号の範囲に対応するように単一のトランスレーションパターンを設定することはできません。

次のシナリオを例として検討してください。

1. システム管理者は範囲が 77x のコールパークを作成し、P_ParkRange という名前のパーティションに配置しました（客室の電話では、P_ParkRange パーティションが電話機のコーリングサーチスペースに含まれていることによって客室の電話から可視になっていることを表示できます (CSS_FromRoom)）。
2. 管理者は、各コールパークの電話番号に個別のトランスレーションパターンを設定し、表示設定には [非許可 (Restricted)] を指定しました（このシナリオでは、管理者は 770、771、772 ... 779 のトランスレーションパターンを作成しています）。



(注) Call Display Restrictions 機能が正しく動作するためには、単一のトランスレーションパターンで番号の範囲に対応する (77x や 77[0-9]) のではなく、管理者は個別のトランスレーションパターンを設定する必要があります。

3. 客室 1 が客室 2 にコールしました。
4. 客室 2 はコールに応答し、客室 1 はコールをパークしました。
5. 客室 1 がコールを取ると、客室 2 には客室 1 のコール情報は表示されません。

コールパーク機能の使用の詳細については、「[コールパークとダイレクトコールパーク](#)」(P.5-1) を参照してください。

会議リスト

Call Display Restrictions を使用する場合は、会議の参加者リストの情報表示を制限します。会議リストの詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager システムガイド*』の「[Cisco Unified IP Phone](#)」の章にある「[電話機能](#)」の項を参照してください。

会議とボイスメール

会議やボイスメールなどの機能と Call Display Restrictions を併用する場合は、電話機のコール情報表示にステータスが反映されます。たとえば、会議機能を起動すると、「To Conference」というコール情報が表示されます。メッセージボタンを選択してボイスメールにアクセスすると、「To Voicemail」というコール情報が表示されます。

エクステンション モビリティ

Call Display Restrictions とエクステンション モビリティを併用するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウと Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウで [プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] パラメータを有効にする必要があります。

エクステンション モビリティで Call Display Restrictions を有効にすると、デバイスにログインしたユーザに関連付けられている回線プロファイルによってコール情報が表示または制限されます。つまり、ユーザ デバイス プロファイルに入力された (ユーザに関連付けられている) 設定は、電話機設定で入力された設定 (エクステンション モビリティが有効になっている電話機のもの) に優先します。

Call Display Restrictions の設定

Call Display Restrictions 機能を使用するには、Cisco Unified Communications Manager を次のように設定する必要があります。

- パーティションとコーリング サーチ スペースを設定してからトランスレーション パターンを追加する。
- 異なるレベルの表示制限によるトランスレーション パターンを設定する。
- [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] チェックボックスをオンにして、内部コールのコール情報が常に表示されるようにする。
- 個々のコールパークの電話番号に、個別のトランスレーション パターンを関連付けて設定することで、コールパーク機能と連携する。
- Always Display Original Dial Number サービス パラメータを [True] に設定することで、プライバシーを確保し、リダイレクトされたコールに対する接続先番号の更新をブロックする。

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- 「[Call Display Restrictions の設定チェックリスト](#)」 (P.4-1)
- 「[トランスレーション パターンのパラメータ設定](#)」 (P.4-7)
- 「[電話の設定](#)」 (P.4-9)
- 「[設定例](#)」 (P.4-9)



ヒント

Call Display Restrictions を設定する前に、「[Call Display Restrictions の設定チェックリスト](#)」 (P.4-1) を参照してください。

トランスレーション パターンのパラメータ設定

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [トランスレーションパターンの設定 (Translation Pattern Configuration)] ウィンドウで、次のパラメータを設定します。



ヒント

発信コールについては、着信側のトランスレーション パターン設定が、発信側 Cisco Unified Communications Manager クラスタの設定よりも優先される場合があります。

[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]

Cisco Unified Communications Manager では、コールごとに発信側の電話番号を表示または制限するための補足サービスとして、[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] を使用します。次のいずれかのオプションを選択することによって、このトランスレーション パターンで発信側の電話番号を着信側の電話機に表示するか制限するかを決定できます。

- [デフォルト (Default)] : このオプションは、[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] を変更しません。
- [許可 (Allowed)] : Cisco Unified Communications Manager によって発信側の番号の表示が許可されます。
- [非許可 (Restricted)] : Cisco Unified Communications Manager によって発信側の番号の表示がブロックされます。



- (注) 着信コールがトランスレーションパターンまたはルートパターンを経由し、[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] の設定が [許可 (Allowed)] または [非許可 (Restricted)] になっている場合、発呼者回線の表示はトランスレーションパターンまたはルートパターンの設定によって変更されます。

[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)]

Cisco Unified Communications Manager では、コールごとに着信側の電話番号を表示または制限するための補足サービスとして、[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] を使用します。次のいずれかのオプションを選択することによって、このトランスレーションパターンで着信側の電話番号を発信側の電話機に表示するか制限するかを決定できます。

- [デフォルト (Default)] : このオプションは、[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] を変更しません。
- [許可 (Allowed)] : このオプションは、着信側の電話番号を表示します。
- [非許可 (Restricted)] : Cisco Unified Communications Manager によって着信側の電話番号の表示がブロックされます。



- (注) 着信コールがトランスレーションパターンまたはルートパターンを経由し、[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] の設定が [許可 (Allowed)] または [非許可 (Restricted)] になっている場合、着信回線の表示インジケータはトランスレーションパターンまたはルートパターンの設定によって変更されます。



- (注) 接続先番号の表示制限が有効の場合、接続先番号の表示は、変更後の番号またはリダイレクト先の番号には更新されません。

例

- ある客室から別の客室にかけられたコールについては、コール情報が表示されないように [発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] と [接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] を [非許可 (Restricted)] に設定します。
- フロントデスクから客室にかけられたコールについては、両方にコール情報が表示されるように [発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] を [許可 (Allowed)] に設定し、[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] を [非許可 (Restricted)] に設定します。



ヒント

発信側トランスフォーメーションと着信側トランスフォーメーションの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[ルートプランの概要](#)」の章を参照してください。

電話の設定

Call Display Restrictions 機能の設定を完了するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで [プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] チェックボックスをオンにします。

エクステンション モビリティと併用する場合は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウでも、この項目を設定する必要があります。

[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] フィールドの設定では、次のことに注意してください。

- 通話相手が内部である場合、Cisco Unified Communications Manager は常にリモート側のコール情報を表示します。
- 通話相手が外部で表示が制限されている場合、Cisco Unified Communications Manager はリモート側のコール情報を表示しません。



(注)

[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] および [接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] では、Cisco Unified Communications Manager が内部発信者の表示設定を無視するように [プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] パラメータを設定してください。外部からの着信コールについては、[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] パラメータが設定されていても、受信した表示インジケータが維持されます。

- ホテルのフロント デスクで使用されている電話機では [プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] チェックボックスがオンになっているため、フロント デスクでは内部コールのコール情報を常に表示できます。



ヒント

電話の設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」の章を参照してください。デバイス プロファイルの設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「デバイス プロファイルの設定」の章を参照してください。

設定例

次に、Call Display Restrictions 機能を有効にした設定例を示し、次の情報について説明します。

- 「パーティション」 (P.4-10)
- 「コーリング サーチ スペース」 (P.4-10)
- 「デバイスとゲートウェイ」 (P.4-11)
- 「トランスレーション パターン」 (P.4-11)
- 「コール パーク」 (P.4-14)

パーティション

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [パーティションの設定 (Partition Configuration)] ウィンドウで、次のパーティションを設定します。

- 実パーティション P_Room の挿入
- 実パーティション P_FrontDesk の挿入
- 実パーティション P_Club の挿入
- 実パーティション P_PSTN の挿入
- トランスレーション パーティション P_CallsFromRoomToRoom の挿入
- トランスレーション パーティション P_CallsFromRoomToFrontDesk の挿入
- トランスレーション パーティション P_CallsFromRoomToClub の挿入
- トランスレーション パーティション P_CallsFromRoomToPSTN の挿入
- トランスレーション パーティション P_CallsFromFrontDeskToRoom の挿入
- トランスレーション パーティション P_CallsFromFrontDeskToFrontDesk の挿入
- トランスレーション パーティション P_CallsFromFrontDeskToClub の挿入
- トランスレーション パーティション P_CallsFromFrontDeskToPSTN の挿入
- トランスレーション パーティション P_CallsFromPSTN の挿入
- トランスレーション パーティション P_CallsFromClubToRoom の挿入
- トランスレーション パーティション P_CallsFromClubToFrontDesk の挿入
- トランスレーション パーティション P_FrontDeskToParkNumber の挿入
- トランスレーション パーティション P_RoomToParkNumber の挿入
- トランスレーション パーティション P_ParkNumberRange の挿入

コーリングサーチスペース

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [コーリングサーチスペースの設定 (Calling Search Space Configuration)] ウィンドウで、次のコーリングサーチスペースを設定します。

- コーリングサーチスペース CSS_Room の挿入 {P_Room}
- コーリングサーチスペース CSS_FrontDesk の挿入 {P_FrontDesk}
- コーリングサーチスペース CSS_Club の挿入 {P_Club}
- コーリングサーチスペース CSS_PSTN の挿入 {P_PSTN}
- コーリングサーチスペース CSS_FromRoom の挿入
{ P_CallsFromRoomToFrontDesk, P_CallsFromRoomToRoom, P_CallsFromRoomToClub,
P_CallsFromRoomToPSTN, P_RoomToParkNumber, P_ParkNumberRange }
- コーリングサーチスペース CSS_FromFrontDesk の挿入
{ P_CallsFromFrontDeskToRoom, P_CallsFromFrontDeskToClub,
P_CallsFromFrontDeskToPSTN, P_CallsFromFrontDeskToFrontDesk }
- コーリングサーチスペース CSS_FromPSTN の挿入
{ P_CallsFromPSTN }
- コーリングサーチスペース CSS_FromClub の挿入
{ P_CallsFromClubToRoom, P_CallsFromClubToFrontDesk }
- コーリングサーチスペース CSS_RoomParkRange の挿入
{P_ParkNumberRange }

デバイスとゲートウェイ

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウおよび Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウで、次の電話機とゲートウェイを設定します。

- 電話機 A (Room-1) にパーティション P_Room とデバイス / 回線コーリング サーチ スペース CSS_FromRoom を設定
{ P_Phones, CSS_FromRoom } : 221/Room-1
- 電話機 B (Room-2) にパーティション P_Room とデバイス / 回線コーリング サーチ スペース CSS_FromRoom を設定
{ P_Phones, CSS_FromRoom } : 222/Room-2
- 電話機 C (Front Desk-1) にパーティション P_FrontDesk とデバイス / 回線コーリング サーチ スペース CSS_FromFrontDesk を設定し、Ignore Presentation Indicators チェックボックスをオンにする
{ P_FrontDesk, CSS_FromFrontDesk, IgnorePresentationIndicators set } : 100/Reception
- 電話機 D (Front Desk-2) にパーティション P_FrontDesk とデバイス / 回線コーリング サーチ スペース CSS_FromFrontDesk を設定し、Ignore Presentation Indicators チェックボックスをオンにする
{ P_FrontDesk, CSS_FromFrontDesk, IgnorePresentationIndicators set } : 200/Reception
- 電話機 E (Club) にパーティション P_Club とコーリング サーチ スペース CSS_FromClub を設定
{ P_Club, CSS_FromClub } : 300/Club
- PSTN ゲートウェイ E にルート パターン P_PSTN とコーリング サーチ スペース CSS_FromPSTN を設定
{ CSS_FromPSTN, RoutePattern {P_PSTN}

トランスレーションパターン

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [トランスレーションパターンの設定 (Translation Pattern Configuration)] ウィンドウで、次のトランスレーションパターンを設定します。

- トランスレーションパターン TP1 を 1XX として挿入
[パーティション (Partition)] : P_CallsFromRoomToFrontDesk
CSS : CSS_FrontDesk
[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] および [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] : [非許可 (Restricted)]
[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] および [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] : [許可 (Allowed)]
{ P_CallsFromRoomToFrontDesk, CSS_FrontDesk, Calling Line/Name - [非許可 (Restricted)], Connected Line/Name - [許可 (Allowed)] }
- トランスレーションパターン TP2 を 2XX として挿入
[パーティション (Partition)] : P_CallsFromRoomToRoom
CSS : CSS_Room
[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] および [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] : [非許可 (Restricted)]
[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] および [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] : [非許可 (Restricted)]
{ P_CallsFromRoomToRoom, CSS_Room, Calling Line/Name - [非許可 (Restricted)], Connected Line/Name - [非許可 (Restricted)] }

- トランスレーション パターン TP3 を 3XX として挿入
 [パーティション (Partition)] : P_CallsFromRoomToClub
 CSS : CSS_Club
 [発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] および [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] : [非許可 (Restricted)]
 [接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] および [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] : [許可 (Allowed)]
 {P_CallsFromRoomToClub, CSS_Club, Calling Line/Name - [非許可 (Restricted)], Connected Line/Name - [許可 (Allowed)]}
- トランスレーション パターン TP4 を 9XXXX とし、着信側トランスフォーメーション マスクを XXX として挿入
 [パーティション (Partition)] : P_CallsFromRoomToPSTN
 CSS : CSS_PSTN
 [発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] および [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] : [非許可 (Restricted)]
 [接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] および [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] : [デフォルト (Default)]
 {P_CallsFromRoomToPSTN, CSS_PSTN, Calling Line/Name - [非許可 (Restricted)], Connected Line/Name - [デフォルト (Default)]}
- ルート パターン RP5 を 9.XXXXXX として挿入し、数字は PreDot として破棄 (DDI : PreDot)
 [パーティション (Partition)] : P_CallsFromRoomToPSTN
 CSS : CSS_PSTN
 [発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] および [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] : [非許可 (Restricted)]
 [接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] および [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] : [デフォルト (Default)]
 {P_CallsFromRoomToPSTN, CSS_PSTN, Calling Line/Name - [非許可 (Restricted)], Connected Line/Name - [デフォルト (Default)]}
- トランスレーション パターン TP6 を 2XX として挿入
 [パーティション (Partition)] : P_CallsFromFrontDeskToRoom
 CSS : CSS_Room
 [発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] および [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] : [許可 (Allowed)]
 [接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] および [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] : [非許可 (Restricted)]
 {P_CallsFromFrontDeskToRoom, CSS_Room, Calling Line/Name - [許可 (Allowed)], Connected Line/Name - [非許可 (Restricted)]}
- トランスレーション パターン TP7 を 1XX として挿入
 [パーティション (Partition)] : P_CallsFromFrontDeskToFrontDesk
 CSS : CSS_FrontDesk
 [発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] および [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] : [許可 (Allowed)]
 [接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] および [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] : [許可 (Allowed)]
 {P_CallsFromFrontDeskToFrontDesk, CSS_FrontDesk, Calling Line/Name - [許可 (Allowed)], Connected Line/Name - [許可 (Allowed)]}
- トランスレーション パターン TP8 を 3XX として挿入
 [パーティション (Partition)] : P_CallsFromFrontDeskToClub
 CSS : CSS_Club
 [発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] および [発呼者名の表示 (Calling Name

- Presentation)] : [許可 (Allowed)]
 [接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] および [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] : [許可 (Allowed)]
 {P_CallsFromFrontDeskToClub, CSS_Club, Calling Line/Name - [許可 (Allowed)], Connected Line/Name - [許可 (Allowed)]}
- トランスレーションパターン TP9 を 9XXXX として挿入
 [パーティション (Partition)] : P_CallsFromFrontDeskToPSTN
 CSS : CSS_PSTN
 [発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] および [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] : [許可 (Allowed)]
 [接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] および [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] : [デフォルト (Default)]
 {P_CallsFromFrontDeskToPSTN, CSS_PSTN, Calling Line/Name - [許可 (Allowed)], Connected Line/Name - [デフォルト (Default)]}
 - ルートパターン RP10 を 9.XXXX として挿入し、数字は PreDot として破棄
 [パーティション (Partition)] : P_CallsFromFrontDeskToPSTN
 CSS : CSS_PSTN
 [発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] および [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] : [非許可 (Restricted)]
 [接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] および [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] : [デフォルト (Default)]
 {P_CallsFromFrontDeskToPSTN, CSS_PSTN, Calling Line/Name - [非許可 (Restricted)], Connected Line/Name - [デフォルト (Default)]}
 - トランスレーションパターン TP11 を 1XX として挿入
 [パーティション (Partition)] : P_CallsFromClubToFrontDesk
 CSS : CSS_FrontDesk
 [発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] および [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] : [許可 (Allowed)]
 [接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] および [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] : [許可 (Allowed)]
 {P_CallsFromClubToFrontDesk, CSS_FrontDesk, Calling Line/Name - [許可 (Allowed)], Connected Line/Name - [許可 (Allowed)]}
 - トランスレーションパターン TP12 を 2XX として挿入
 [パーティション (Partition)] : P_CallsFromClubToRoom
 CSS : CSS_Room
 [発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] および [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] : [許可 (Allowed)]
 [接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] および [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] : [非許可 (Restricted)]
 {P_CallsFromClubToRoom, CSS_Room, Calling Line/Name - [許可 (Allowed)], Connected Line/Name - [非許可 (Restricted)]}
 - トランスレーションパターン TP13 を 1XX として挿入
 [パーティション (Partition)] : P_CallsFromPSTN
 CSS : CSS_FrontDesk
 [発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] および [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] : [非許可 (Restricted)]
 [接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] および [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] : [許可 (Allowed)]
 {P_CallsFromPSTN, CSS_FrontDesk, Calling Line/Name - [非許可 (Restricted)], Connected Line/Name - [許可 (Allowed)]}

コール パーク

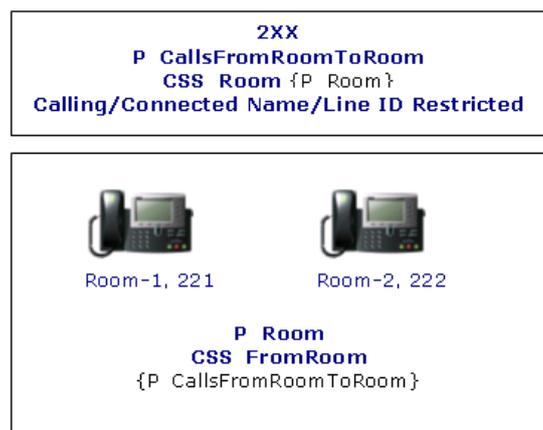
Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [コールパーク番号の設定 (Call Park Number Configuration)] ウィンドウで、コール パーク機能の次の項目を設定します。

- コール パーク電話番号 888X を挿入
[コールパーク番号 / 範囲 (Call Park Number/Range)] : P_ParkNumberRange/888X
- 次からのコール パーク取得に対してトランスレーション パターンを設定
客室 : TP (11 ~ 20) : 8880 ~ 8889
[パーティション (Partition)] : P_RoomToParkNumber
CSS : CSS_RoomParkRange
[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] および [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] : [非許可 (Restricted)]
[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] および [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] : [非許可 (Restricted)]

コール フローの例

図 4-1 に、単純なコール フローの例を示します。また、このシナリオでどのように Call Display Restrictions 機能が動作するかを説明します。

図 4-1 コール フローの例



1. 客室 1 が客室 2 (電話番号 222) にコールします。
2. 客室 1 には CSS_FromRoom が設定されているため、客室 1 は P_CallsFromRoomToRoom パーティション内の電話機だけにアクセスできます。
3. P_CallsFromRoomToRoom パーティションには 2XX が含まれていますが、電話番号 222 (客室 2) は含まれていません。
4. コールは情報表示が制限されたトランスレーション パターン TP:2XX にルーティングされます。
5. トランスレーション パターン TP:2XX には、コーリング サーチ スペース CSS_Room が設定されているため、パーティション P_Room にアクセスできます。
6. コーリング サーチ スペース CSS_Room には、電話番号 222 (客室 2) が含まれています。
7. コールは客室 2 に接続されますが、トランスレーション パターン TP:2XX によって情報表示は制限されます。

接続先番号の表示制限に関するサービスパラメータの設定

接続先番号の表示制限では、接続先の回線 ID 表示がダイヤル番号だけに制限されます。このオプションを使用すると、お客様のプライバシー問題や、接続先番号の表示が電話機ユーザに不要である場合に対処できます。

管理者は、接続先番号の表示制限パラメータを設定する場合は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] にアクセスします。次に、Cisco CallManager サービスが動作するサーバを選択し、[Cisco CallManager] サービスを選択します。

この機能を有効にするには、Always Display Original Dialed Number サービスパラメータを [True] に設定します。デフォルト設定は [False] です。

関連項目

- 「Call Display Restrictions の設定チェックリスト」 (P.4-1)
- 「Call Display Restrictions 機能について」 (P.4-2)
- 「Call Display Restrictions のシステム要件」 (P.4-4)
- 「Call Display Restrictions を使用する場合のシナリオ」 (P.4-4)
- 「インタラクション」 (P.4-5)
- 「Call Display Restrictions の設定」 (P.4-7)
- 「接続先番号の表示制限に関するサービスパラメータの設定」 (P.4-15)
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「トランスレーションパターンの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「コーリング検索スペースの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「デバイスプロファイルの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「パーティションの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「Cisco Unified IP Phone」
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「電話機能」

参考資料

- 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』
- 『Cisco Unified IP Phone Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager』
- Cisco Unified IP Phone のユーザ資料とリリースノート (すべてのモデル)

■ 関連項目



CHAPTER 5

コールパークとダイレクトコールパーク

この章では、保留機能であるコールパーク機能と、転送機能であるダイレクトコールパークについて説明します。これらの2つの機能は、相互排他的に扱うことをお勧めします。つまり、いずれか一方を有効にする（両方を有効にしない）ことをお勧めします。両方の機能を有効にする場合は、それぞれに割り当てられる番号が重複することなく単独で使用されるようにしてください。

この章では、コールパーク（Cisco Unified IP Phone 8961、9951、および9971のパークモニタリングを含む）とダイレクトコールパーク（処理されたダイレクトコールパークを含む）に関する次の情報を提供します。

コールパーク

- 「コールパークの設定チェックリスト」(P.5-2)
- 「コールパークの概要」(P.5-5)
- 「コールパークのシステム要件」(P.5-8)
- 「インタラクションおよび制限事項」(P.5-8)
- 「コールパークのインストールとアクティブ化」(P.5-11)
- 「コールパークの設定」(P.5-11)
- 「コールパークのサービスパラメータの設定」(P.5-11)
- 「コールパーク番号の検索」(P.5-12)
- 「コールパーク番号の設定」(P.5-13)
- 「コールパークの設定項目」(P.5-13)
- 「コールパーク番号の削除」(P.5-15)
- 「関連項目」(P.5-31)

パークモニタリング（Cisco Unified IP Phone 8961、9951、および9971のみ）

- 「Cisco Unified IP Phone 8961、9951、および9971のパークモニタリング」(P.5-16)

ダイレクトコールパーク

- 「ダイレクトコールパークの設定チェックリスト」(P.5-3)
- 「ダイレクトコールパークの概要」(P.5-19)
- 「ダイレクトコールパークのシステム要件」(P.5-20)
- 「インタラクションおよび制限事項」(P.5-21)
- 「ダイレクトコールパークのインストールとアクティブ化」(P.5-23)

■ コールパークの設定チェックリスト

- 「ダイレクトコールパークのサービスパラメータの設定」(P.5-24)
- 「ダイレクトコールパーク番号の検索」(P.5-24)
- 「ダイレクトコールパーク番号の設定」(P.5-25)
- 「ダイレクトコールパークの設定項目」(P.5-26)
- 「BLF/ダイレクトコールパークボタンの設定」(P.5-28)
- 「BLF/ダイレクトコールパークの設定項目」(P.5-28)
- 「ダイレクトコールパークとその影響を受けるデバイスの同期」(P.5-29)
- 「ダイレクトコールパーク番号の削除」(P.5-30)
- 「関連項目」(P.5-31)

処理されたダイレクトコールパーク

- 「Cisco Unified IP Phone (SIP) の処理されたダイレクトコールパーク」(P.5-30)

コールパークの設定チェックリスト

コールパーク機能を使用すると、コールを保留にし、Cisco Unified Communications Manager システム内の別の電話機（たとえば、別のオフィスや会議室の電話機）からそのコールに応答することができます。電話機でアクティブなコールを受けているときに、[パーク] ソフトキーまたはコールパークボタンを押して、そのコールをコールパーク内線番号にパークすることができます。システム内の別の電話機から誰かがそのコールパーク内線番号をダイヤルすると、そのパークされているコールを取得できます。

コールパーク内線番号として、1つの電話番号またはある範囲の電話番号を定義できます。各コールパーク内線番号でパークできるコールは1つだけです。

表 5-1 に、コールパークを設定する際のチェックリストを示します。コールパーク機能の詳細については、「コールパークの概要」(P.5-5) および「関連項目」(P.5-31) を参照してください。

表 5-1 コールパークの設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 コーリングサーチスペース内にパーティションを持つユーザだけがパーティションを使用できるようにコールパーク内線番号のパーティションを設定します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「パーティションの設定値」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「メディアターミネーションポイントの設定」
ステップ 2 クラスタ内の各 Cisco Unified Communications Manager に対して固有のコールパーク番号を設定するか、コールパーク内線番号の範囲を定義します。	「コールパーク番号の設定」(P.5-13)
ステップ 3 適切な Cisco Unified Communications Manager グループに、コールパークで使用されるすべてのサーバを追加します。 (注) サーバと Cisco Unified Communications Manager は、インストール時に設定されます。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified Communications Manager グループの設定」

表 5-1 コールパークの設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 4 コールパークにアクセスできる各デバイスに Standard User ソフトキー テンプレートを割り当てます。 [コールパーク] ソフトキーを使用しない電話機の場合、適用可能な電話ボタンテンプレートのコピーにコールパークボタンを追加します。[電話の設定 (Phone Configuration)] でコールパーク ボタンが含まれている電話ボタンテンプレートを電話機に割り当てます。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 ソフトキー テンプレートの設定 」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 電話ボタン テンプレートの設定 」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 Cisco Unified IP Phone の設定 」
ステップ 5 [ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウで、Standard CTI Allow Call Park Monitoring ユーザグループにアプリケーションとエンドユーザを割り当てます。この要件は、コールパーク監視機能を必要とする CTI アプリケーションに関連付けられたユーザだけに適用されます。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 ユーザグループへのユーザの追加 」
ステップ 6 コールパーク機能が使用可能であることをユーザに通知します。	ユーザが Cisco Unified IP Phone でコールパーク機能にアクセスする方法については、電話機のマニュアルを参照してください。

ダイレクトコールパークの設定チェックリスト

ダイレクトコールパークは、ユーザが選択し、待機状態になっているダイレクトコールパーク番号に対して、ユーザがコールを転送できる機能です。ダイレクトコールパーク番号は、Cisco Unified Communications Manager の [ダイレクトコールパークの設定 (Directed Call Park Configuration)] ウィンドウで設定します。設定されたダイレクトコールパーク番号は、クラスター全体に存在します。電話機がダイレクトコールパーク Busy Lamp Field (BLF; ビジーランプフィールド) をサポートしている場合、特定のダイレクトコールパーク番号のビジー/アイドルステータスを監視するようにその電話機を設定できます。また、ユーザは BLF を使用してダイレクトコールパーク番号をスピードダイヤルで発信することもできます。BLF をサポートしている電話機モデルのリストについては、「[ダイレクトコールパークのシステム要件](#)」(P.5-20) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager が、各ダイレクトコールパーク番号でパークできるコールは1つだけです。パークされたコールを取得するには、ユーザは、設定された取得用プレフィックスをダイヤルしてから、コールがパークされているダイレクトコールパーク番号をダイヤルする必要があります。取得用プレフィックスは、[ダイレクトコールパークの設定 (Directed Call Park Configuration)] ウィンドウで設定します。

表 5-2 に、ダイレクトコールパークを設定する際のチェックリストを示します。詳細については、「[ダイレクトコールパークの概要](#)」(P.5-19) および「[関連項目](#)」(P.5-31) を参照してください。

ダイレクト コール パークの設定チェックリスト

表 5-2 ダイレクト コール パークの設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 コーリング サーチ スペース内にパーティションを持つユーザだけがパーティションを使用できるようにダイレクト コール パーク番号のパーティションを設定します。パークされたコールを正常に取得するには、ユーザがコールを取得するコーリング サーチ スペースに、ダイレクト コール パーク番号を含むパーティションが含まれている必要があります。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「パーティションの設定値」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「メディア ターミネーション ポイントの設定」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「コーリング サーチ スペースの設定」
ステップ 2 固有のダイレクト コール パーク番号を定義するか、ダイレクト コール パーク番号の範囲を定義します。範囲は、ワイルドカードを使用して指定する必要があります。たとえば、範囲 40XX は、4000 ~ 4099 の範囲を設定します。  注意 4000-4040 のように、ダッシュを使用して範囲を入力しないでください。 (注) ダイレクト コール パーク BLF を使用して監視できるのは、個々のダイレクト コール パーク番号だけです。番号の範囲を設定しても、BLF は、範囲または範囲内の任意の番号のビジブ/アイドル ステータスの監視をサポートすることはできません。	「ダイレクト コール パーク番号の設定」(P.5-25)
ステップ 3 ダイレクト コール パークにアクセスできる各デバイスに Standard User ソフトキー テンプレートを割り当てます。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「ソフトキー テンプレートの設定」
ステップ 4 ダイレクト コール パーク BLF をサポートする電話機モデルについては、1 つまたは複数の [コール パーク BLF] ボタンを含むように電話ボタン テンプレートを設定し、ダイレクト コール パーク BLF の設定値を設定します。	『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「電話ボタン テンプレートのカスタマイズのガイドライン」 「BLF/ダイレクト コール パーク ボタンの設定」
ステップ 5 ダイレクト コール パーク機能が使用可能であることをユーザに通知します。	ユーザが Cisco Unified IP Phone でダイレクト コール パーク機能にアクセスする方法については、電話機のマニュアルを参照してください。

コールパークの概要

コールパーク機能を使用すると、コールを保留にし、Cisco Unified Communications Manager システム内の別の電話機（たとえば、別のオフィスや会議室の電話機）からそのコールに応答することができます。電話機でアクティブなコールを受けているときに、[パーク] ソフトキーまたはコールパーク ボタンを押して、そのコールをコールパーク内線番号にパークすることができます。システム内の別の電話機から誰かがそのコールパーク内線番号をダイヤルすると、そのパークされているコールを取得できます。

コールパーク内線番号として、1つの電話番号またはある範囲の電話番号を定義できます。各コールパーク内線番号でパークできるコールは1つだけです。

コールパーク機能は Cisco Unified Communications Manager クラスタ内で動作します。クラスタ内の各 Cisco Unified Communications Manager にコールパーク内線番号が定義されている必要があります（クラスタ間でコールパークを使用する方法については、「[クラスタ間でのコールパークの使用](#)」(P.5-6) を参照してください)。コールパーク内線番号として、1つの電話番号またはある範囲の電話番号を定義できます。電話番号または番号範囲は固有である必要があります。

有効なコールパーク内線番号は、整数とワイルドカード文字 (X) から構成されます。最大2桁のワイルドカード文字 (XX) を設定できます（たとえば、80XX）。XX を設定すると、最大100個のコールパーク内線番号が提供されます。コールがパークされると、Cisco Unified Communications Manager は、次に使用可能なコールパーク内線番号を選択し、電話機にその番号を表示します。

Cisco Unified Communications Manager が、各コールパーク内線番号でパークできるコールは1つだけです。



(注)

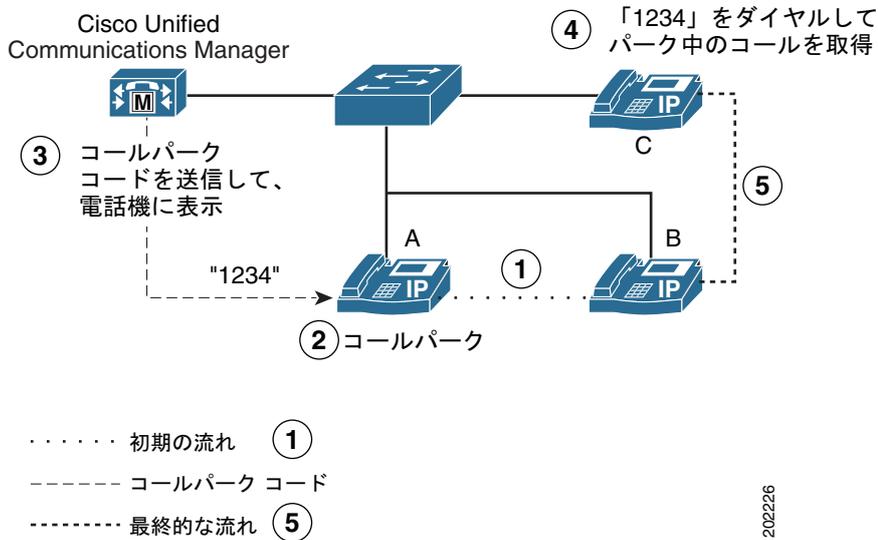
ユーザがクラスタ内のサーバ間でコールパークを使用する場合は、クラスタ内の各 Cisco Unified Communications Manager サーバにコールパーク内線番号を設定してください。設定の詳細については、「[コールパーク番号の設定](#)」(P.5-13) を参照してください。

コールパーク機能の使用

図 5-1 に、コールパークのプロセスを示します。

1. 電話機 A のユーザが電話機 B にコールします。
2. 電話機 A のユーザが、プライバシーのため会議室で通話するとします。電話機 A のユーザは [パーク] ソフトキーまたはパーク ボタンを押します。
3. 電話機 A が登録されている Cisco Unified Communications Manager サーバは、最初に使用できるコールパーク電話番号 1234 を送信します。この番号は、電話機 A に表示されます。電話機 A のユーザは、コールパーク電話番号を確認します（電話機 C でその電話番号をダイヤルできます）。
4. 電話機 A のユーザはオフィスを出て、使用できる会議室に行きます。その会議室の電話機は、電話機 C として指定されています。ユーザは電話機 C をオフフックにし、1234 をダイヤルして、パークされたコールを取得します。
5. システムによって電話機 C と電話機 B の間にコールが確立されます。

図 5-1 コールパークのプロセス



クラスタ間でのコールパークの使用

ユーザは、割り当てられたルートパターン（たとえば、クラスタ間トランクのルートパターンとしての 80XX）とコールパーク番号（たとえば 8022）をダイヤルして、パークされたコールを別の Cisco Unified Communications Manager クラスタから取得できます。また、コーディングサーチスペースとパーティションが正しく設定されていることを確認してください。

次の例を参照してください。

パークされたコールを別のクラスタから取得する例

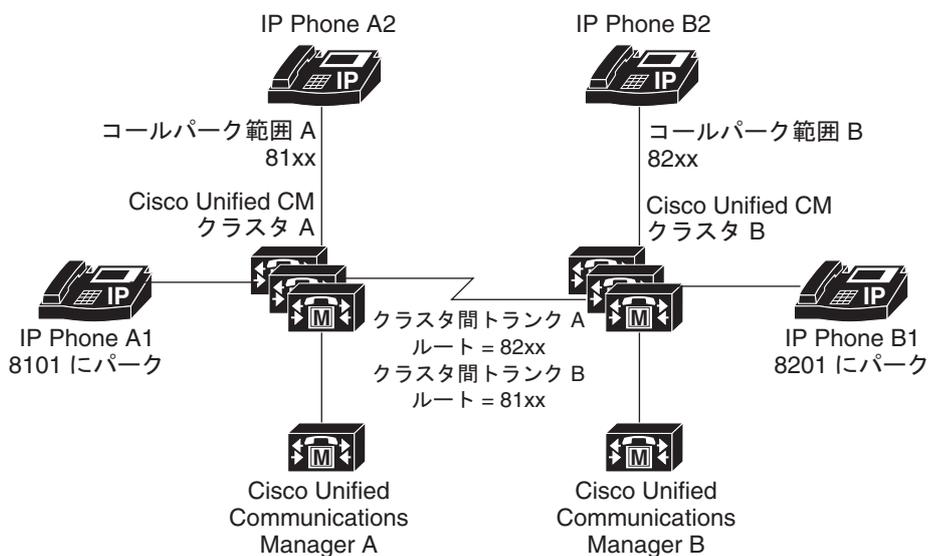
ネットワークに 2 つのクラスタ（クラスタ A とクラスタ B）があります。クラスタ A にはユーザ A1 とユーザ A2 がいます。クラスタ B にはユーザ B1 とユーザ B2 がいます。

クラスタ A には、81xx の範囲のコールパーク番号が設定されています。クラスタ B には、82xx の範囲のコールパーク番号が、管理者によって設定されています。

クラスタ A には、他のクラスタのパーク範囲へのルートパターンとして 82xx が設定されています（クラスタ B へのルート）。クラスタ B には、他のクラスタのパーク範囲へのルートパターンとして 81xx が設定されています（クラスタ A へのルート）。

ユーザ A1 が 8101 にコールをパークすると、ルートパターン設定により、クラスタ A とクラスタ B 内のすべてのユーザ（正しいパーティションが設定されている）が、パークされたコールを取得できます。ユーザ B1 が 8202 にコールをパークすると、ルートパターン設定により、クラスタ A とクラスタ B 内のすべてのユーザ（正しいパーティションが設定されている）が、パークされたコールを取得できます。図 5-2 を参照してください。

図 5-2 クラスタ間トランクによる、パークされたコールの取得



例 1

1. A1 と A2 が、接続された状態で通話しています。
2. A1 が 8101 にコールをパークします。
3. B1 が 8101 をダイヤルすると、コールはクラスタ A ヘルパーティングされます。

例 2

1. B1 と B2 が通話しています。
2. B1 が 8201 にコールをパークします。
3. A1 は 8201 をダイヤルすると、パーク中のコールを取得できます。

クラスタ間トランク A は、ルート 82xx を利用してクラスタ B へアクセスする
 クラスタ間トランク B は、ルート 81xx を利用してクラスタ A へアクセスする

注：ユーザは、パークされたコール番号を制御できません。
 コール番号は、システムによって割り当てられます。

202227

追加情報

「関連項目」(P.5-31) を参照してください。

コールパークのシステム要件

コールパークが動作するには、次のソフトウェアコンポーネントが必要です。

- Cisco Unified Communications Manager

次の IP Phone (SCCP および SIP) は、Standard User と Standard Feature ソフトキーテンプレートの [パーク] ソフトキーでのコールパークをサポートしています。

- Cisco Unified IP Phone 6900 (6901 および 6911 を除く)
- Cisco Unified IP Phone 7900 (7921、7925、7935、7936、7937 を除く)
- Cisco Unified IP Phone 8900
- Cisco Unified IP Phone 9900



(注)

コールパークは、プログラム可能な回線キー機能を使用して、任意の回線 (回線 1 を除く) またはボタンで設定できます。

次の IP Phone (SCCP および SIP) は、電話ボタンテンプレートのコールパークボタンによるコールパークをサポートしています。

- Cisco Unified IP Phone 6900 (6901 および 6911 を除く)
- Cisco Unified IP Phone 7900 (7906、7911、7921、7925、7935、7936、7937 を除く)
- Cisco Unified IP Phone 8900
- Cisco Unified IP Phone 9900

追加情報

「関連項目」(P.5-31) を参照してください。

インタラクションおよび制限事項

次の項では、コールパークにおけるインタラクションおよび制限事項について説明します。

- 「インタラクション」(P.5-8)
- 「制限事項」(P.5-10)

インタラクション

次の各項では、コールパークが Cisco Unified Communications Manager アプリケーションおよびコール処理と通信する方法について説明します。

- 「CTI アプリケーション」(P.5-9)
- 「保留音」(P.5-9)
- 「ルートプランレポート」(P.5-9)
- 「コーリングサーチスペースとパーティション」(P.5-9)
- 「即時転送」(P.5-9)
- 「割り込み」(P.5-9)
- 「ダイレクトコールパーク」(P.5-10)
- 「Q.SIG クラスタ間トランク」(P.5-10)

CTI アプリケーション

CTI アプリケーションは、コールパーク DN のアクティビティの監視などのコールパーク機能にアクセスします。コールパーク DN を監視するには、アプリケーションまたは CTI アプリケーションに関連付けられたエンドユーザを Standard CTI Allow Call Park Monitoring ユーザグループに追加する必要があります。

保留音

保留音を使用すると、ユーザは、ストリーミングソースから提供される音楽を使用して、コールを保留にできます。保留音では、次の 2 つのタイプの保留を使用できます。

- ユーザ保留：ユーザが保留ボタンまたは [保留] ソフトキーを押すと、システムによってこのタイプの保留が呼び出されます。
- ネットワーク保留：ユーザが転送、会議、またはコールパーク機能をアクティブにすると、このタイプの保留が自動的に呼び出されます。

ルートプランレポート

ルートプランレポートには、Cisco Unified Communications Manager で設定されているパターンと電話番号が示されます。コールパークに電話番号を割り当てる前に、ルートプランレポートを使用して、パターンと電話番号の重複を検索します。『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[ルートプランレポート](#)」の章を参照してください。

コーリングサーチスペースとパーティション

デバイスのコーリングサーチスペースに基づいてユーザによるコールパークへのアクセスを制限するには、コールパーク電話番号または範囲をパーティションに割り当てます。『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[コーリングサーチスペースの設定](#)」および「[パーティションの設定](#)」を参照してください。

即時転送

コールパークは即時転送 ([即転送] ソフトキー) をサポートしています。たとえば、ユーザ A がユーザ B にコールし、ユーザ B がコールをパークしたとします。ユーザ B はコールを取得し、[即転送] ソフトキーを押してそのコールをボイスメールメールボックスに送信しました。ユーザ A に、ユーザ B のボイスメールメールボックスのグリーティングが再生されます。

割り込み

次に、コールパークでの割り込みと C 割り込みの違いについて説明します。

コールパークでの割り込み

発信先の電話機 (割り込み先の電話機) がコールを制御します。割り込みの発信側は発信先の電話機に「ビジーバックキング」します。割り込み中でも、共通機能のほとんどが発信先の電話機に属しているので、割り込みの発信側は機能を利用できません。発信先がコールをパークした場合、割り込みの発信側はそのコール (割り込み) をリリースする必要があります。

コールパークでの C 割り込み

割り込みの発信先と発信側はピアとして動作します。C 割り込み機能は会議ブリッジを使用し、それをミートミー会議のように動作させます。両方の電話機（割り込みの発信先と発信側）がそれぞれの機能を完全に利用できます。

ダイレクトコールパーク

ダイレクトコールパークとコールパーク用 [パーク] ソフトキーを同時に設定しないことをお勧めしますが、両方を設定する可能性もあります。両方を設定する場合、コールパークとダイレクトコールパークの番号が重複しないことを確認してください。

Q.SIG クラスタ間トランク

ユーザが QSIG クラスタ間トランクまたは QSIG ゲートウェイ トランクを越えてコールをパークすると、パークされた発信側 (parkee) にパーク先番号メッセージが表示されません。電話機には、パーク前に接続された番号が表示されたままです。コールはパークされ、コールをパークしたユーザはコールを取得できます。パークされた状態からコールが取得されると、コールは継続しますが、パークされた発信側には新しく接続された番号が表示されません。

追加情報

「関連項目」(P.5-31) を参照してください。

制限事項

コールパークには、次の制限事項があります。

- Cisco Unified Communications Manager が、各コールパーク内線番号でパークできるコールは 1 つだけです。
- 各コールパーク電話番号、パーティション、および範囲が Cisco Unified Communications Manager クラスタ内で固有であることを確認してください。
- 複数ノードにわたるシェアドライン デバイスの場合、回線は、デバイスが最初に登録されたノードに登録されます。たとえば、subscriber2 からのデバイスが最初に登録され、回線が subscriber2 およびパブリッシャ サーバで作成された場合、回線は subscriber2 に属します。各ノードは、コールパーク番号で設定する必要があります。
- フェールオーバー / フォールバックを行うには、パブリッシャ サーバとサブスクライバ ノードでコールパーク番号を設定します。この設定を使用すると、プライマリ ノードがダウンした場合でも、回線 / デバイスの割り当てがセカンダリ ノードに変更され、セカンダリ ノードのコールパーク番号が使用されます。
- デバイスを登録する各 Cisco Unified Communications Manager には、固有のコールパーク電話番号と範囲が必要です。
- Cisco Unified Communications Manager の管理機能は、コールパークの設定に使用するコールパーク番号または範囲を検証しません。無効な番号または範囲、および範囲が重複する可能性を特定するには、Cisco Unified Communications Manager Dialed Number Analyzer ツールを使用します。
- [サーバの設定 (Server Configuration)] ウィンドウ ([システム (System)] > [サーバ (Server)]) で削除中のノードの Cisco Unified Communications Manager に対してコールパーク番号が設定されると、サーバの削除は失敗します。ノードを削除するには、事前に Cisco Unified Communications Manager の管理ページでコールパーク番号を削除する必要があります。

- Cisco Unified Communications Manager の管理機能は、Call Park Reversion Timer に入力された値が Call Park Display Timer に入力された値より小さいかどうかをチェックしません。Call Park Reversion Timer に入力した値が Call Park Display Timer の値より小さい場合、コールパーク番号は電話機に表示されません。

設定の詳細については、「[コールパーク番号の設定](#)」(P.5-13) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.5-31) を参照してください。

コールパークのインストールとアクティブ化

システム機能のコールパークは、Cisco Unified Communications Manager ソフトウェアに標準で備わっています。この機能は、特にインストールする必要はありません。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.5-31) を参照してください。

コールパークの設定

この項の内容は次のとおりです。

- 「[コールパークのサービスパラメータの設定](#)」(P.5-11)
- 「[コールパーク番号の検索](#)」(P.5-12)
- 「[コールパーク番号の設定](#)」(P.5-13)
- 「[コールパーク番号の削除](#)」(P.5-15)



ヒント

コールパークを設定する前に、「[コールパークの設定チェックリスト](#)」(P.5-2) を参照してください。

コールパークのサービスパラメータの設定

Cisco Unified Communications Manager には、コールパーク用に、Call Park Display Timer と Call Park Reversion Timer という 2 つのクラスタ全体のサービスパラメータが用意されています。各サービスパラメータではデフォルトが設定されているので、特別な設定は必要ありません。

- Call Park Display Timer : デフォルトでは 10 秒に指定されています。このパラメータは、コールをパークした電話機にコールパーク番号を表示する時間の長さを指定します。このタイマーは、Cisco CallManager サービスとコールパークが設定されたクラスタ内の各サーバに対して設定します。
- Call Park Reversion Timer : デフォルトでは 60 秒に指定されています。このパラメータは、コールのパーク状態を継続する時間を指定します。このタイマーは、Cisco CallManager サービスとコールパークが設定されたクラスタ内の各サーバに対して設定します。このタイマーが時間切れになると、パークされたコールは、コールをパークしたデバイスに戻ります。ハントグループメンバーがハントパイロット経由で着信したコールをパークした場合は、Call Park Reversion Timer が時間切れになったときにコールがハントパイロットに戻されます。



(注) タイマーを設定するには、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択し、[Clusterwide Parameters (Feature-General)] ペインの [Call Park Display Timer] フィールドと [Call Park Reversion Timer] フィールドを更新します。

追加情報

「関連項目」(P.5-31) を参照してください。

コールパーク番号の検索

ネットワーク上には複数のコールパーク番号が存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、特定の条件に基づいて、特定のコールパーク番号を検索できます。コールパーク番号を検索するには、次の手順を実行します。



(注) ブラウザセッションでの作業中は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでコールパーク番号の検索プリファレンスが保持されます。他のメニュー項目に移動してこのメニュー項目に戻った場合でも、検索を変更するかブラウザを閉じない限り、コールパーク番号の検索プリファレンスは Cisco Unified Communications Manager の管理ページで保持されています。

手順

- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [コールパーク (Call Park)] を選択します。
[コールパーク番号の検索と一覧表示 (Find and List Call Park Numbers)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空になっていることを確認し、**ステップ 3** に進みます。
特定のレコードをフィルタリングまたは検索するには、次の操作を実行します。
- 最初のドロップダウンリストボックスで、検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のドロップダウンリストボックスで、検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて、適切な検索文字を入力します。



(注) 別の検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加した場合は、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして、最後に追加された条件を削除するか、または [フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加されたすべての検索条件を削除します。

- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
すべてのレコードまたは条件に一致するレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウンリストボックスで別の値を選択すると、各ページに表示される項目数を変更できます。



(注) 適切なレコードの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、データベースから複数のレコードを削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

- ステップ 4** 表示されたレコードリストから、目的のレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順を逆にするには、リストのヘッダーにある上矢印または下矢印をクリックします (使用可能な場合)。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.5-31) を参照してください。

コールパーク番号の設定

この項では、1つのコールパーク内線番号またはコールパーク内線番号の範囲を追加、コピー、および更新する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [コールパーク (Call Park)] を選択します。

ステップ 2 次のいずれかの手順を実行します。

- 新しいコールパーク番号を追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- コールパーク番号をコピーするには、「[コールパーク番号の検索](#)」(P.5-12) の手順を実行してコールパーク番号または番号の範囲を検索します。[コピー (Copy)] アイコンをクリックします。
- コールパーク番号を更新するには、「[コールパーク番号の検索](#)」(P.5-12) の手順を実行してコールパーク番号または番号の範囲を検索します。

[コールパーク番号の設定 (Call Park Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力するか更新します (表 5-3 を参照)。

ステップ 4 新規コールパーク番号または変更されたコールパーク番号をデータベースに保存するには、[保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.5-31) を参照してください。

コールパークの設定項目

コールパーク機能を使用すると、コールを保留にし、Cisco Unified Communications Manager システム内の別の電話機 (たとえば、別のオフィスや会議室の電話機) からそのコールに応答することができます。電話機でアクティブなコールを受けているときに、[パーク] ソフトキーまたはコールパーク ボタンを押して、そのコールをコールパーク内線番号にパークすることができます。システム内の別の電話機から誰かがそのコールパーク内線番号をダイヤルすると、そのパークされているコールを取得できます。

コールパーク内線番号として、1つの電話番号またはある範囲の電話番号を定義できます。各コールパーク内線番号でパークできるコールは1つだけです。表 5-1 に、コールパークの設定チェックリストを示します。

表 5-3 に、コールパークの設定項目を示します。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.5-31) を参照してください。

表 5-3 コールパークの設定項目

フィールド	説明
[コールパーク番号/範囲 (Call Park Number/Range)]	<p>コールパーク内線番号を入力します。数字列またはワイルドカード文字 X (システムでは 1 つまたは 2 つの X を使用できます) を入力できます。たとえば、5555 を入力すると 1 つのコールパーク内線番号 5555 が定義され、55XX を入力すると 5500 ~ 5599 のコールパーク内線番号の範囲が定義されます。</p> <p>(注) 1 つのコールパーク範囲の定義で、最大 100 のコールパーク番号を作成できます。コールパーク番号は固有の番号にしてください。</p> <p>(注) Cisco Unified Communications Manager サーバ間でコールパーク番号が重複することがないようにしてください。各 Cisco Unified Communications Manager サーバの番号範囲は固有である必要があります。</p> <p>(注) コールパーク範囲は、コールの発信元のサーバが記載されたリストから選択します。</p> <p>たとえば、電話機 A (ノード A に登録) が電話機 B (ノード B に登録) にコールし、電話機 B のユーザが [パーク (Park)] を押した場合、電話機 B ではノード A に存在する CSS のコールパーク範囲が必要になります。</p> <p>マルチノード環境では、電話およびゲートウェイがさまざまなノードと通信し、発信元のサーバを問わずコールのパークが必要になる場合があるため、電話機にはすべてのサーバからのコールパーク範囲が含まれている CSS が必要です。</p>
[説明 (Description)]	<p>このコールパーク番号に簡単な説明を付けます。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、および山カッコ (<>) は使用できません。</p>

表 5-3 コールパークの設定項目（続き）

フィールド	説明
[パーティション (Partition)]	<p>パーティションを使用してコールパーク番号へのアクセスを制限する場合は、ドロップダウンリストボックスから希望のパーティションを選択します。コールパーク番号へのアクセスを制限しない場合は、パーティションに [<なし>(<None>)] を選択します。</p> <p>多数のパーティションが設定されている場合のパーティションの検索手順については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「BLF/ダイレクトコールパーク ボタンの設定」を参照してください。</p> <p>(注) コールパーク内線番号とパーティションの組み合わせが、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p>
[Cisco Unified CM]	<p>ドロップダウンリストボックスを使用して、コールパーク番号が適用される Cisco Unified Communications Manager を選択します。</p> <p>(注) 1つのコールパーク範囲の定義で、最大 100 のコールパーク番号を作成できます。コールパーク番号は固有の番号にしてください。</p> <p>(注) Cisco Unified Communications Manager サーバ間でコールパーク番号が重複することがないようにしてください。各 Cisco Unified Communications Manager サーバの番号範囲は固有である必要があります。</p> <p>(注) コールパーク範囲は、コールの発信元のサーバが記載されたリストから選択します。</p> <p>たとえば、電話機 A（ノード A に登録）が電話機 B（ノード B に登録）にコールし、電話機 B のユーザが [パーク (Park)] を押した場合、電話機 B ではノード A に存在する CSS のコールパーク範囲が必要になります。</p> <p>さまざまなノードと通話する電話とゲートウェイからなるマルチノード環境では、発信元のサーバを問わずコールのパークが必要になる場合があるため、電話機にはすべてのサーバからのコールパーク範囲が含まれている CSS が必要です。</p>

コールパーク番号の削除

この項では、Cisco Unified Communications Manager データベースからコールパーク番号を削除する方法について説明します。

手順

- ステップ 1 「[コールパーク番号の検索](#)」 (P.5-12) の手順を実行して、コールパーク番号またはコールパーク番号の範囲を検索します。
- ステップ 2 削除するコールパーク番号またはコールパーク番号の範囲をクリックします。
- ステップ 3 [削除 (Delete)] をクリックします。



(注) コールパーク番号の横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすることによって、[コールパーク番号の検索と一覧表示 (Find and List Call Park Numbers)] ウィンドウから複数のコールパーク番号を削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのコールパーク番号を削除できます。

Cisco Unified IP Phone 8961、9951、および 9971 のパーク モニタリング

パーク モニタリングがサポートされるのは、Cisco Unified IP Phone 8961、9951、または 9971 (SIP) がコールをパークするときだけです。パーク モニタリングでは、パークされたコールのステータスを監視します。パークされたコールが取得されるまで、またはパークされた発信側によって終了されるまで、パーク モニタリング コール バブルはクリアされません。パークされたコールは、パーク元の電話機で同じコール バブルを使用して取得できます。



(注) コールパーク番号および設定の設定手順は、他の電話機モデルの場合と同じです。

次の項では、パーク モニタリングの設定のオプションについて説明します。

- 「パーク モニタリングのサービス パラメータの設定」 (P.5-16)
- 「[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウでのパーク モニタリング パラメータの設定」 (P.5-18)
- 「[ハントパイロットの設定 (Hunt Pilot Configuration)] ウィンドウでのパーク モニタリング パラメータの設定」 (P.5-19)

パーク モニタリングのサービス パラメータの設定

Cisco Unified Communications Manager には、パークモニタリング用に、Park Monitoring Reversion Timer、Park Monitoring Periodic Reversion Timer、および Park Monitoring Forward No Retrieve Timer という 3 つのクラスタ全体のサービス タイマー パラメータが用意されています。各サービス パラメータではデフォルトが設定されているので、特別な設定は必要ありません。これらのタイマー パラメータは、パーク モニタリングにのみ適用されます。Call Park Display Timer と Call Park Reversion Timer は、パーク モニタリングには使用されません。

これらのパラメータの説明については、表 5-4 を参照してください。

表 5-4 パーク モニタリングのサービス パラメータ

フィールド	説明
[Park Monitoring Reversion Timer]	<p>デフォルト値は 60 秒です。このタイマーは、Cisco CallManager サービスとコールパークが設定されたクラスタ内の各サーバに対して設定します。このパラメータによって、Cisco Unified Communications Manager がユーザにパークしたコールの取得を求めるまでに待機する秒数が決まります。このタイマーはユーザが電話の [パーク] ソフトキーを押すと起動し、タイマーの期限が切れるとリマインダが発行されます。</p> <p>このサービスパラメータに指定した値は、[パークモニタリング (Park Monitoring)] セクションの [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウ ([コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)]) で、回線ごとに上書きできます。値 0 を指定すると、Park Monitoring Periodic Reversion Timer サービスパラメータに指定した定期復帰期間がただちに使用されます。たとえば、このパラメータが 0 に設定され、Park Monitoring Periodic Reversion Timer が 15 に設定されている場合、パークされたコールに関するプロンプトがユーザにただちに表示され、その後 Park Monitoring Forward No Retrieve Timer が時間切れになるまで 15 秒ごとにプロンプトが表示されます。</p>
[Park Monitoring Periodic Reversion Timer]	<p>デフォルト値は 30 秒です。このタイマーは、Cisco CallManager サービスとコールパークが設定されたクラスタ内の各サーバに対して設定します。このパラメータによって、コールがパークされたことを示すプロンプトをユーザに再度表示するまでに Cisco Unified Communications Manager が待機する間隔 (秒) が決まります。ユーザは、プロンプトが表示されている間にオフフックにするだけで、パークされたコールに接続できます。Cisco Unified Communications Manager は、コールのパーク状態が続いている間は、Park Monitoring Forward No Retrieve Timer に指定した時間まで、パークされたコールに関するプロンプトをユーザに表示し続けます。パークされたコールに関する定期的なプロンプトを無効にするには、値 0 を指定します。</p>
[Park Monitoring Forward No Retrieve Timer]	<p>デフォルト値は 300 秒です。このタイマーは、Cisco CallManager サービスとコールパークが設定されたクラスタ内の各サーバに対して設定します。このパラメータによって、パークアラート通知が発生する秒数が決定されます。アラート通知後に、パークされたコールが、パーク元の [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで指定した未取得時のパークモニタリング転送の接続先に転送されます (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで転送先を指定していない場合、コールはコールをパークした回線に戻ります)。このパラメータは、Park Monitoring Reversion Timer の期限が切れると、開始されます。Park Monitoring Forward No Retrieve Timer の期限が切れると、コールはパークから削除され、指定した宛先に転送されるか、パーク元の回線に戻されます。</p>



(注)

タイマーを設定するには、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択し、[Clusterwide Parameters(System - General)] ペインの [Park Monitoring Reversion Timer] フィールド、[Park Monitoring Periodic Reversion Timer] フィールド、および [Park Monitoring Forward No Retrieve Timer] フィールドを更新します。

追加情報

「関連項目」(P.5-31) を参照してください。

[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウでのパーク モニタリング パラメータの設定

[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウ ([コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)]) には、「パークモニタリング」と呼ばれる領域があります。この領域で、表 5-5 に示されている 3 つのパラメータを設定できます。

表 5-5 [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウのパーク モニタリング パラメータ

フィールド	説明
[Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External]	パークされた発信側が外部のユーザである場合、コールは、パーク元の [未取得時のパークモニタリング転送の接続先 (外部)(Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)] フィールドで指定した宛先に転送されます。[未取得時のパークモニタリング転送の接続先 (外部)(Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)] フィールドの値が空の場合、パークされた発信側はパーク元の回線にリダイレクトされます。
[Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal]	パークされた発信側が内部のユーザである場合、コールは、パーク元の [未取得時のパークモニタリング転送の接続先 (内部)(Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)] フィールドで指定した宛先に転送されます。[未取得時のパークモニタリング転送の接続先 (内部)(Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)] フィールドが空である場合、パークされた発信側はパーク元の回線に転送されます。
[Park Monitoring Reversion Timer]	このパラメータによって、Cisco Unified Communications Manager がユーザにパークしたコールの取得を求めるまでに待機する秒数が決まります。このタイマーはユーザが電話の [パーク] ソフトキーを押すと起動し、タイマーの期限が切れるとリマインダが発行されます。デフォルトは 60 秒です。 (注) ゼロ以外の値を設定すると、その値によって、[サービスパラメータ (Service Parameters)] ウィンドウで設定したこのパラメータの値が上書きされます。一方、ここに 0 を設定すると、[サービスパラメータ (Service Parameters)] ウィンドウの値が使用されます。

追加情報

「関連項目」(P.5-31) を参照してください。

[ハントパイロットの設定 (Hunt Pilot Configuration)] ウィンドウでのパーク モニタリング パラメータの設定

ハントリスト経由でルーティングされたコールがパークされた場合、Park Monitoring Forward No Retrieve Timer が期限切れになったときに、 Hunt Pilot Park Monitoring Forward No Retrieve Destination パラメータ値が使用されます (この値がブランクの場合を除く)。この値は、[ハントパイロットの設定 (Hunt Pilot Configuration)] ウィンドウ ([コールルーティング (Call Routing)] > [ルート / ハント (Route / Hunt)] > [ハントパイロット (Hunt Pilot)]) で設定されます。 Hunt Pilot Park Monitoring Forward No Retrieve Destination パラメータ値がブランクの場合、 Park Monitoring Forward No Retrieve Timer が期限切れになったときに、 [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで設定された宛先にコールが転送されます。

追加情報

「関連項目」 (P.5-31) を参照してください。

ダイレクトコールパークの概要

ダイレクトコールパークは、ユーザが選択し、待機状態になっているダイレクトコールパーク番号に対して、ユーザがコールを転送できる機能です。ダイレクトコールパーク番号は、 Cisco Unified Communications Manager の [ダイレクトコールパークの設定 (Directed Call Park Configuration)] ウィンドウで設定します。設定されたダイレクトコールパーク番号は、クラス全体に存在します。電話機がダイレクトコールパーク ビジー ランプ フィールド (BLF) をサポートしている場合、特定のダイレクトコールパーク番号のビジー / アイドルステータスを監視するようにその電話機を設定できます。また、ユーザは BLF を使用してダイレクトコールパーク番号をスピードダイヤルで発信することもできます。 BLF をサポートしている電話機モデルのリストについては、「インタラクションおよび制限事項」 (P.5-21) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager が、各ダイレクトコールパーク番号でパークできるコールは1つだけです。パークされたコールを取得するには、ユーザは、設定された取得用プレフィックスをダイヤルしてから、コールがパークされているダイレクトコールパーク番号をダイヤルする必要があります。取得用プレフィックスは、 [ダイレクトコールパークの設定 (Directed Call Park Configuration)] ウィンドウで設定します。

例 1 : ダイレクトコールパーク機能の使用 : パークされたコールを取得する

次の例では、Cisco Unified IP Phone (SCCP) 上でのみ、ダイレクトコールパーク機能の使用方法和パークされたコールの取得方法を示します。

1. ユーザ A1 および A2 がコールで接続されます。
2. コールをパークするには、A1 は [転送] ソフトキー (または、使用可能であれば [転送] ボタン) を押し、ダイレクトコールパーク番号 (たとえば) 80 をダイヤルするか、ダイレクトコールパーク番号 80 の BLF ボタン (電話機モデルが BLF ボタンをサポートしている場合) を押します。
3. A1 は、 [転送] ソフトキー (または [転送] ボタン) をもう一度押すか、またはオンフックにして、ダイレクトコールパーク転送を完了します。この操作によって、A2 はダイレクトコールパーク番号 80 にパークされます。



(注) Transfer On-hook Enabled サービスパラメータが [True] に設定されている場合は、 [転送] ソフトキー (または [転送] ボタン) をもう一度押すのではなく、オンフックにするだけで転送を完了できます。『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「オンフックコール転送」を参照してください。

4. 正しく設定されたパーティションとコーリングサーチスペースを備える任意の電話機から、ユーザ B1 は、ダイレクトコールパークプレフィックス (たとえば 21) をダイヤルしてからダイレクトコールパーク番号 80 をダイヤルし、コールを取得します。B1 はA2 に接続します。

例 2 : ダイレクト コール パーク機能の使用 : パークされたコールを取得しない

次の例では、パークされたコールを取得せず、復帰番号へ戻す場合のダイレクト コール パーク機能の使用方法を示します。この例では、Cisco Unified IP Phone (SCCP) 上でのみこの機能の動作を説明します。

1. ユーザ A1 および A2 がコールで接続されます。
2. コールをパークするには、A1 は [転送] ソフトキー (または、使用可能であれば [転送] ボタン) を押し、ダイレクト コール パーク番号 (たとえば) 80 をダイヤルするか、ダイレクト コール パーク番号 80 の BLF ボタン (電話機モデルが BLF ボタンをサポートしている場合) を押します。
3. A1 は、[転送] ソフトキー (または [転送] ボタン) をもう一度押すか、またはオンフックにして、ダイレクト コール パーク転送を完了します。この操作によって、A2 はダイレクト コール パーク番号 80 にパークされます。



(注) Transfer On-hook Enabled サービス パラメータが [True] に設定されている場合は、[転送] ソフトキー (または [転送] ボタン) をもう一度押すのではなく、オンフックにするだけで転送を完了できます。『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[オンフック コール転送](#)」を参照してください。

4. Call Park Reversion Timer (サービス パラメータ) が時間切れになる前に、コールが取得されることはありません。
5. A2 は設定された復帰番号を復元します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.5-31) を参照してください。

ダイレクト コール パークのシステム要件

ダイレクト コール パークが動作するには、次のソフトウェア コンポーネントが必要です。

- Cisco Unified Communications Manager

ユーザは、転送を実行できる電話機からダイレクト コール パークを使用して、コールをパークおよび取得できます。Cisco VG248 Analog Phone Gateways もダイレクト コール パークをサポートしています。

次の IP Phone (SCCP および SIP) は、ダイレクト コール パーク BLF をサポートします。

- Cisco Unified IP Phone 6900 シリーズ (6901 および 6911 を除く)
- Cisco Unified IP Phone 7900 シリーズ (7906、7911、7936、7937 を除く)
- Cisco Unified Wireless IP Phone 7925
- Cisco Unified IP Phone 拡張モジュール (7914、7915、7916)
- Cisco Unified IP Color Key 拡張モジュール
- Cisco Unified IP Phone 8900 シリーズ
- Cisco Unified IP Phone 9900 シリーズ

SCCP を実行する次の電話機は、ダイレクト コール パーク BLF をサポートしています。

- Cisco Unified IP Phone (7940、7960)

追加情報

「[関連項目](#)」(P.5-31) を参照してください。

インタラクションおよび制限事項

次の項では、ダイレクトコールパークにおけるインタラクションおよび制限事項について説明します。

- 「[インタラクション](#)」 (P.5-21)
- 「[制限事項](#)」 (P.5-22)

インタラクション

次の各項では、ダイレクトコールパークが Cisco Unified Communications Manager アプリケーションおよびコール処理と通信する方法について説明します。

- 「[保留音](#)」 (P.5-21)
- 「[ルートプランレポート](#)」 (P.5-21)
- 「[コーリングサーチスペースとパーティション](#)」 (P.5-21)
- 「[即時転送](#)」 (P.5-22)
- 「[割り込み](#)」 (P.5-22)
- 「[コールパーク](#)」 (P.5-22)

保留音

保留音を使用すると、ユーザは、ストリーミングソースから提供される音楽を使用して、コールを保留にできます。保留音では、次の 2 つのタイプの保留を使用できます。

- ユーザ保留：ユーザが保留ボタンまたは [保留] ソフトキーを押すと、システムによってこのタイプの保留が呼び出されます。
- ネットワーク保留：ユーザが転送、会議、またはコールパーク機能をアクティブにすると、このタイプの保留が自動的に呼び出されます。ダイレクトコールパークは転送機能であるため、この保留のタイプはダイレクトコールパークに適用されます。

ルートプランレポート

ルートプランレポートには、Cisco Unified Communications Manager で設定されているパターンと電話番号が示されます。ダイレクトコールパークに電話番号を割り当てる前に、ルートプランレポートを使用して、パターンと電話番号の重複を検索します。『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[ルートプランレポート](#)」の章を参照してください。

コーリングサーチスペースとパーティション

デバイスのコーリングサーチスペースに基づいてユーザによるダイレクトコールパークへのアクセスを制限するには、ダイレクトコールパーク電話番号または範囲をパーティションに割り当てます。『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[コーリングサーチスペースの設定](#)」および「[パーティションの設定](#)」を参照してください。

即時転送

ダイレクト コール パークは即時転送 ([即時転送] ソフトキー) をサポートしています。たとえば、ユーザ A がユーザ B にコールし、ユーザ B がコールをパークしたとします。ユーザ B はコールを取得し、[即時転送] ソフトキーを押してそのコールをボイスメール メールボックスに送信しました。ユーザ A に、ユーザ B のボイスメール メールボックスのグリーティングが再生されます。

割り込み

次に、ダイレクト コール パークでの割り込みと C 割り込みの違いについて説明します。

ダイレクト コール パークでの割り込み

発信先の電話機 (割り込み先の電話機) がコールを制御します。割り込みの発信側は発信先の電話機に「ピギーバック」します。割り込み中でも、共通機能のほとんどが発信先の電話機に属しているため、割り込みの発信側は機能を利用できません。ダイレクト コール パークを使用して発信先がコールをパークした場合、割り込みの発信側はそのコール (割り込み) をリリースする必要があります。

ダイレクト コール パークでの C 割り込み

割り込みの発信先と発信側はピアとして動作します。C 割り込み機能は会議ブリッジを使用し、それをミートミー会議のように動作させます。両方の電話機 (割り込みの発信先と発信側) がそれぞれの機能を完全に保持できます。

コール パーク

ダイレクト コール パークとコール パーク用 [パーク] ソフトキーを同時に設定しないことをお勧めしますが、両方を設定する可能性もあります。両方を設定する場合、コール パークとダイレクト コール パークの番号が重複しないことを確認してください。

ダイレクト コール パーク機能を使用してパークされた発信者 (parkee) は、パークされている間は標準のコール パーク機能を使用できません。

制限事項

ダイレクト コール パークには、次の制限事項があります。

- Cisco Unified Communications Manager が、各ダイレクト コール パーク番号でパークできるコールは 1 つだけです。
- 各ダイレクト コール パーク電話番号、パーティション、および範囲が Cisco Unified Communications Manager クラスタ内で固有であることを確認してください。[パーク] ソフトキーもアクティブになっている場合 (推奨されていません)、コール パーク番号とダイレクト コール パーク番号の間で重複がないことを確認してください。
- ダイレクト コール パーク機能を使用してパークされた発信者 (parkee) は、パークされている間は標準のコール パーク機能を使用できません。
- ダイレクト コール パーク BLF は、ダイレクト コール パーク番号の範囲を監視できません。ダイレクト コール パーク BLF を使用してユーザが監視できるのは、個々のダイレクト コール パーク番号だけです。たとえば、ダイレクト コール パーク番号の範囲 8X を設定しても、ダイレクト コール パーク BLF を使用して 80 ~ 89 の範囲全体を監視することはできません。
- デバイスが (BLF ボタンを使用して) 監視するように設定されているダイレクト コール パーク番号は削除できません。ダイレクト コール パーク番号または範囲は使用中で削除できないことを示すメッセージが表示されます。番号を使用しているデバイスを判別するには、[ダイレクトコールパークの設定 (Directed Call Park Configuration)] ウィンドウにある [依存関係レコード (Dependency Records)] リンクをクリックします。

- 復帰番号が設定されていない場合、Call Park Reversion Timer が時間切れになった後、コールは **parker** (パーク側) に戻されます。SIP を実行する電話機用のダイレクトコールパークは、ビジーランプフィールド (BLF) とパークコードへのコール転送を組み合わせるものとして設計されています。転送機能は、SCCP を実行する電話機の転送機能と同じです。SIP を実行する電話機用のダイレクトコールパークには、次の制限事項があります。
 - ダイレクトコールパークは、SIP を実行する Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 の [転送] ソフトキーを使用して呼び出されます。
 - SIP を実行する Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 でブラインド転送のソフトキーが使用された場合、ダイレクトコールパークはサポートされません。
 - SIP を実行する Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 と、SIP を実行するサードパーティの電話機では、ダイレクトコールパーク BLF はサポートされません。

設定の詳細については、「[ダイレクトコールパーク番号の設定](#)」(P.5-25) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.5-31) を参照してください。

ダイレクトコールパークのインストールとアクティブ化

ダイレクトコールパークのシステム機能は、Cisco Unified Communications Manager ソフトウェアに標準で備わっています。転送を実行できる電話機であれば、ダイレクトコールパークを使用できます。この機能は、特にインストールする必要はありません。コールパークまたはダイレクトコールパークのいずれか一方を設定する (両方を設定しない) ことをお勧めします。両方を設定する場合、ダイレクトコールパークとコールパークの番号が重複しないことを確認してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.5-31) を参照してください。

ダイレクトコールパークの設定

この項の内容は次のとおりです。

- 「[ダイレクトコールパークのサービスパラメータの設定](#)」(P.5-24)
- 「[ダイレクトコールパーク番号の検索](#)」(P.5-24)
- 「[ダイレクトコールパーク番号の設定](#)」(P.5-25)
- 「[ダイレクトコールパークの設定項目](#)」(P.5-26)
- 「[BLF/ダイレクトコールパークボタンの設定](#)」(P.5-28)
- 「[BLF/ダイレクトコールパークの設定項目](#)」(P.5-28)
- 「[ダイレクトコールパークとその影響を受けるデバイスの同期](#)」(P.5-29)
- 「[ダイレクトコールパーク番号の削除](#)」(P.5-30)



ヒント

ダイレクトコールパークを設定する前に、「[ダイレクトコールパークの設定チェックリスト](#)」(P.5-3) を参照してください。

ダイレクトコールパークのサービスパラメータの設定

Call Park Reversion Timer のクラスタ全体のサービスパラメータは、ダイレクトコールパークに影響を与えます。このパラメータは、コールのパーク状態を継続する時間を指定します。デフォルトは 60 秒です。このタイマーが時間切れになると、パークされたコールは、[ダイレクトコールパークの設定 (Directed Call Park Configuration)] ウィンドウの設定に応じて、コールをパークしたデバイスまたは別の指定された番号に戻されます。

追加情報

「関連項目」(P.5-31) を参照してください。

ダイレクトコールパーク番号の検索

ネットワーク上には複数のダイレクトコールパーク番号が存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、特定の条件に基づいて、特定のダイレクトコールパーク番号を検索できます。ダイレクトコールパーク番号を検索するには、次の手順を実行します。



(注)

ブラウザセッションでの作業中は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでダイレクトコールパーク番号の検索プリファレンスが保持されます。他のメニュー項目に移動してこのメニュー項目に戻った場合でも、検索を変更するかブラウザを閉じない限り、ダイレクトコールパーク番号の検索プリファレンスは Cisco Unified Communications Manager の管理ページで保持されています。

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [ダイレクトコールパーク (Directed Call Park)] を選択します。

[ダイレクトコールパークの検索と一覧表示 (Find and List Directed Call Parks)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空になっていることを確認し、**ステップ 3** に進みます。

特定のレコードをフィルタリングまたは検索するには、次の操作を実行します。

- 最初のドロップダウンリストボックスで、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウンリストボックスで、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索文字を入力します。



(注)

別の検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加した場合は、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして、最後に追加された条件を削除するか、または [フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加されたすべての検索条件を削除します。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

すべてのレコードまたは条件に一致するレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウンリストボックスで別の値を選択すると、各ページに表示される項目数を変更できます。



(注) 適切なレコードの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、データベースから複数のレコードを削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 表示されたレコードリストから、目的のレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順を逆にするには、リストのヘッダーにある上矢印または下矢印をクリックします (使用可能な場合)。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.5-31) を参照してください。

ダイレクトコールパーク番号の設定

この項では、1つのダイレクトコールパーク内線番号またはダイレクトコールパーク内線番号の範囲を追加、コピー、および更新する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [ダイレクトコールパーク (Directed Call Park)] を選択します。

ステップ 2 次のいずれかの手順を実行します。

- 新しいダイレクトコールパーク番号を追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ダイレクトコールパーク番号をコピーするには、「[ダイレクトコールパーク番号の検索](#)」(P.5-24) の手順を実行してダイレクトコールパーク番号または番号の範囲を検索します。[コピー (Copy)] アイコンをクリックします。
- ダイレクトコールパーク番号を更新するには、「[ダイレクトコールパーク番号の検索](#)」(P.5-24) の手順を実行してコールパーク番号または番号の範囲を検索します。

[[ダイレクトコールパークの設定 \(Directed Call Park Configuration\)](#)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力するか更新します (表 5-6 を参照)。

ステップ 4 新規コールパーク番号または変更されたコールパーク番号をデータベースに保存するには、[保存 (Save)] をクリックします。



(注) ダイレクトコールパーク番号を更新した場合、その番号でパークされたコールが Cisco Unified Communications Manager によって戻されるのは、Call Park Reversion Timer が時間切れになった後だけです。



(注)

ダイレクトコールパーク番号または範囲を変更するたびに、BLF を使用してそれらのダイレクトコールパーク番号を監視するように設定されているデバイスを再起動して、表示を修正する必要があります。変更通知により、ダイレクトコールパーク番号が検出されると、影響を受けるデバイスは自動的に再起動されます。[ダイレクトコールパークの設定 (Directed Call Park Configuration)] ウィンドウの [複数のデバイスの再起動 (Restart Devices)] ボタンを使用することもできます。

追加情報

「関連項目」(P.5-31) を参照してください。

ダイレクトコールパークの設定項目

ダイレクトコールパークは、ユーザが選択し、待機状態になっているダイレクトコールパーク番号に対して、ユーザがコールを転送できる機能です。ダイレクトコールパーク番号は、Cisco Unified Communications Manager の [ダイレクトコールパークの設定 (Directed Call Park Configuration)] ウィンドウで設定します。設定されたダイレクトコールパーク番号は、クラスタ全体に存在します。電話機がダイレクトコールパーク ビジー ランプ フィールド (BLF) をサポートしている場合、特定のダイレクトコールパーク番号のビジー/アイドルステータスを監視するようにその電話機を設定できます。また、ユーザは BLF を使用してダイレクトコールパーク番号をスピードダイヤルで発信することもできます。BLF をサポートしている電話機モデルのリストについては、「インタラクションおよび制限事項」(P.5-21) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager が、各ダイレクトコールパーク番号でパークできるコールは 1 つだけです。パークされたコールを取得するには、ユーザは、設定された取得用プレフィックスをダイヤルしてから、コールがパークされているダイレクトコールパーク番号をダイヤルする必要があります。取得用プレフィックスは、[ダイレクトコールパークの設定 (Directed Call Park Configuration)] ウィンドウで設定します。

表 5-2 に、ダイレクトコールパークを設定する際のチェックリストを示します。ダイレクトコールパークの詳細については、「ダイレクトコールパークの概要」(P.5-19) および「関連項目」(P.5-31) を参照してください。

表 5-6 に、ダイレクトコールパークの設定項目を示します。

表 5-6 ダイレクトコールパークの設定項目

フィールド	説明
[番号 (Number)]	ダイレクトコールパーク番号を入力します。数字列またはワイルドカード文字 X (システムでは 1 つまたは 2 つの X を使用できます) を入力できます。たとえば、5555 を入力すると 1 つのダイレクトコールパーク内戦番号 5555 が定義され、55XX を入力すると 5500 ~ 5599 のダイレクトコールパーク内線番号の範囲が定義されます。ダイレクトコールパーク番号が固有の番号であり、コールパーク番号と重複しないことを確認してください。
[説明 (Description)]	このダイレクトコールパーク番号または範囲に簡単な説明を付けます。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、および山カッコ (<>) は使用できません。

表 5-6 ダイレクトコールパークの設定項目 (続き)

フィールド	説明
[パーティション (Partition)]	<p>パーティションを使用してダイレクトコールパーク番号へのアクセスを制限する場合は、ドロップダウンリストボックスから希望のパーティションを選択します。ダイレクトコールパーク番号へのアクセスを制限しない場合は、パーティションをデフォルトの [<なし> (<None>)] のままにしておきます。</p> <p>多数のパーティションが設定されている場合のパーティションの検索手順については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「BLF/ダイレクトコールパークボタンの設定」を参照してください。</p> <p>(注) ダイレクトコールパーク番号とパーティションの組み合わせが、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p>
[復帰番号 (Reversion Number)]	<p>パークされているコールが取得されない場合にそのコールを戻す番号を入力するか、このフィールドを空白にしておきます。</p> <p>(注) 復帰番号は、数字だけで構成されます。ワイルドカードは使用できません。</p>
[復帰コーリングサーチスペース (Reversion Calling Search Space)]	<p>ドロップダウンリストボックスを使用してコーリングサーチスペースを選択するか、コーリングサーチスペースをデフォルトの [<なし> (<None>)] のままにしておきます。</p>
[取得用プレフィックス (Retrieval Prefix)]	<p>この必須フィールドにはパークされたコールを取得するためのプレフィックスを入力します。パークされたコールを取得する試行とダイレクトパークを開始する試行を区別するための取得用プレフィックスが必要です。</p>



(注) ダイレクトコールパーク番号を変更するたびに、ダイレクトコール BLF を使用してそれらのダイレクトコールパーク番号を監視するように設定されているデバイスを再起動して、表示を修正する必要があります。変更通知により、ダイレクトコールパーク番号が検出されると、影響を受けるデバイスは自動的に再起動されます。[ダイレクトコールパークの設定 (Directed Call Park Configuration)] ウィンドウの [複数のデバイスの再起動 (Restart Devices)] ボタンを使用することもできます。

追加情報

「関連項目」(P.5-31) を参照してください。

BLF/ダイレクトコールパーク ボタンの設定

BLF/ダイレクトコールパーク ボタンを設定するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで BLF/ダイレクトコールパーク ボタンを設定するには、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」の章の説明に従って、電話機を検索します。
- ステップ 2** ユーザデバイスプロファイルに対して BLF/ダイレクトコールパーク ボタンを設定するには、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「デバイスプロファイルの設定」の章の説明に従って、ユーザデバイスプロファイルを検索します。
- ステップ 3** 設定ウィンドウが表示されたら、[割り当て情報 (Association Information)] ペインの [新規 BLFダイレクトコールパークの追加 (Add a new BLF Directed Call Park)] リンクをクリックします。



ヒント 電話機またはデバイスプロファイルに適用した電話ボタンテンプレートが BLF/ダイレクトコールパークをサポートしていない場合、このリンクは [割り当て情報 (Association Information)] ペインに表示されません。

- ステップ 4** 表 5-7 の説明に従って設定を行います。
- ステップ 5** 設定を完了したら、[保存 (Save)] をクリックしてウィンドウを閉じます。
- [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [割り当て情報 (Association Information)] ペインに、電話番号が表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.5-31) を参照してください。

BLF/ダイレクトコールパークの設定項目

表 5-7 に、BLF/ダイレクトコールパーク ボタンの設定項目を示します。

表 5-7 BLF/ダイレクトコールパーク ボタンの設定項目

フィールド	説明
[電話番号 (Directory Number)]	[電話番号 (Directory Number)] ドロップダウンリストボックスには、Cisco Unified Communications Manager データベースに存在する電話番号のリストが表示されます。 SCCP を実行する電話機または SIP を実行する電話機では、3 で 6002 というように、ユーザがスピードダイヤル ボタンを押した場合にシステムがダイヤルする番号（および対応するパーティション (表示されている場合)）を選択します。特定のパーティションなしで表示される電話番号は、デフォルトパーティションに属します。

表 5-7 BLF/ダイレクトコールパーク ボタンの設定項目 (続き)

フィールド	説明
[ラベル (Label)]	BLF/ダイレクトコールパーク ボタンに表示するテキストを入力します。 このフィールドは国際化をサポートしています。電話機が国際化をサポートしていない場合、システムは [ラベル ASCII(Label ASCII)] フィールドに表示されるテキストを使用します。
[ラベル ASCII(Label ASCII)]	BLF/ダイレクトコールパーク ボタンに表示するテキストを入力します。 ASCII ラベルは、[ラベル (Label)] フィールドに入力したテキストの非国際化バージョンを表します。電話機が国際化をサポートしていない場合、システムはこのフィールドに表示されるテキストを使用します。 ヒント [ラベル (Label)] フィールドとは異なるテキストを [ラベル ASCII(Label ASCII)] フィールドに入力した場合、Cisco Unified Communications Manager の管理ページは、テキストが異なっても両方のフィールドの設定を受け付けます。

ダイレクトコールパークとその影響を受けるデバイスの同期

設定が変更されたダイレクトコールパーク情報とデバイスを同期するには、次の手順を実行します。この手順は、できる限り干渉の程度が低い方法で未処理の設定項目を適用するものです (たとえば、影響を受けるデバイスでリセットや再起動が不要な場合もあります)。

手順

- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [ダイレクトコールパーク (Directed Call Park)] を選択します。
[ダイレクトコールパークの検索と一覧表示 (Find and List Directed Call Parks)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
ウィンドウに、検索条件に一致したダイレクトコールパークのリストが表示されます。
- ステップ 4** 該当するデバイスと同期するダイレクトコールパークをクリックします。[ダイレクトコールパークの設定 (Directed Call Park Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** 必要に応じて、追加の設定変更を行います。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 8** [OK] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.5-31) を参照してください。

ダイレクトコールパーク番号の削除

この項では、Cisco Unified Communications Manager データベースからダイレクトコールパーク番号を削除する方法について説明します。

手順

- ステップ 1 「[ダイレクトコールパーク番号の検索](#)」(P.5-24) の手順を実行して、ダイレクトコールパーク番号またはコールパーク番号の範囲を検索します。
- ステップ 2 削除するダイレクトコールパーク番号またはコールパーク番号の範囲をクリックします。
- ステップ 3 [削除 (Delete)] をクリックします。



(注) ダイレクトコールパーク番号を削除すると、Cisco Unified Communications Manager は、その番号でパークされているコールをただちに戻します。これは、番号が削除されると、その番号にパークされたコールはパーク状態を維持できなくなるか、通常の方法で取得できなくなり、元に戻す必要があるためです。



(注) デバイスが (BLF ボタンを使用して) 監視するように設定されているダイレクトコールパーク番号は削除できません。ダイレクトコールパーク番号は使用中で削除できないことを示すメッセージが表示されます。番号を使用しているデバイスを判別するには、[ダイレクトコールパークの設定 (Directed Call Park Configuration)] ウィンドウにある [依存関係レコード (Dependency Records)] リンクをクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.5-31) を参照してください。

Cisco Unified IP Phone (SIP) の処理されたダイレクトコールパーク

処理されたダイレクトコールパークは、SIP をサポートするすべての Cisco Unified IP Phone 7900、8900、および 9900 シリーズでサポートされます。処理されたダイレクトコールパークでは、エンドユーザが 1 つのボタンを押すだけで、コールをダイレクトパークできます。BLF ダイレクトコールパーク ボタンを設定する必要があります。設定後は、アクティブコールのアイドル状態の BLF ダイレクトコールパーク機能ボタンをユーザが押すと、そのアクティブコールは、ダイレクトコールパーク機能ボタンに関連付けられている Dpark スロットにただちにパークされます。

追加情報

次の項を参照してください。

- 「[BLF/ダイレクトコールパーク ボタンの設定](#)」(P.5-28)
- 「[関連項目](#)」(P.5-31)

関連項目

コールパーク

- 「コールパークの設定チェックリスト」 (P.5-2)
- 「コールパークの概要」 (P.5-5)
- 「コールパークのシステム要件」 (P.5-8)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.5-8)
- 「コールパークのインストールとアクティブ化」 (P.5-11)
- 「コールパークの設定」 (P.5-11)
- 「コールパークのサービスパラメータの設定」 (P.5-11)
- 「コールパーク番号の検索」 (P.5-12)
- 「コールパーク番号の設定」 (P.5-13)
- 「コールパークの設定項目」 (P.5-13)
- 「ダイレクトコールパークとその影響を受けるデバイスの同期」 (P.5-29)
- 「コールパーク番号の削除」 (P.5-15)

パーク モニタリング (Cisco Unified IP Phone 8961、9951、および 9971 だけ)

- 「Cisco Unified IP Phone 8961、9951、および 9971 のパーク モニタリング」 (P.5-16)

ダイレクトコールパーク

- 「ダイレクトコールパークの設定チェックリスト」 (P.5-3)
- 「ダイレクトコールパークの概要」 (P.5-19)
- 「ダイレクトコールパークのシステム要件」 (P.5-20)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.5-21)
- 「ダイレクトコールパークのインストールとアクティブ化」 (P.5-23)
- 「ダイレクトコールパークのサービスパラメータの設定」 (P.5-24)
- 「ダイレクトコールパーク番号の検索」 (P.5-24)
- 「ダイレクトコールパーク番号の設定」 (P.5-25)
- 「ダイレクトコールパークの設定項目」 (P.5-26)
- 「BLF/ダイレクトコールパーク ボタンの設定」 (P.5-28)
- 「BLF/ダイレクトコールパークの設定項目」 (P.5-28)
- 「ダイレクトコールパークとその影響を受けるデバイスの同期」 (P.5-29)
- 「ダイレクトコールパーク番号の削除」 (P.5-30)

処理されたダイレクトコールパーク (Cisco Unified IP Phone 8961、9951、および 9971 だけ)

- 「Cisco Unified IP Phone (SIP) の処理されたダイレクトコールパーク」 (P.5-30)

追加情報

- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[電話ボタンテンプレートの設定](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[Cisco Unified IP Phone の設定](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[パーティションの設定](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[メディアターミネーションポイントの設定](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[ルートプラン レポート](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[ソフトウェアテンプレートの設定](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[エンドユーザの設定](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[ユーザグループの設定](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[クラスタ化](#)」
- 『Cisco Unified IP Phone Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager』
- Cisco Unified IP Phone のユーザ資料とリリース ノート (すべてのモデル)



CHAPTER 6

コール ピックアップ

コール ピックアップ機能を使用すると、自分の電話番号以外の番号に着信したコールに応答できます。これらの機能については、「[コール ピックアップの概要](#)」(P.6-11) で説明します。

ここでは、次のトピックについて説明します。

- 「[コール ピックアップおよびグループ コール ピックアップの設定チェックリスト](#)」(P.6-1)
- 「[他グループ コール ピックアップの設定チェックリスト](#)」(P.6-4)
- 「[ダイレクト コール ピックアップの設定チェックリスト](#)」(P.6-6)
- 「[BLF コール ピックアップの設定チェックリスト](#)」(P.6-8)
- 「[コール ピックアップの概要](#)」(P.6-11)
- 「[コール ピックアップのシステム要件](#)」(P.6-24)
- 「[インタラクションおよび制限事項](#)」(P.6-25)
- 「[コール ピックアップのインストールとアクティブ化](#)」(P.6-28)
- 「[コール ピックアップ機能の設定](#)」(P.6-28)
- 「[コール ピックアップ グループの設定](#)」(P.6-29)
- 「[関連項目](#)」(P.6-37)

コール ピックアップおよびグループ コール ピックアップの設定チェックリスト

コール ピックアップ機能を使用すると、ユーザは、本人が所属するグループ内の着信コールを受け取ることができます。Cisco Unified Communications Manager は、ユーザが Cisco Unified IP Phone からこの機能をアクティブにしたときに、適切なコール ピックアップグループ番号を自動的にダイヤルします。このタイプのコール ピックアップには、[ピック] ソフトキーを使用します。



(注)

Cisco Unified IP Phone 6900 は、コール ピックアッププログラム可能な機能ボタンまたは [コールピックアップ] ソフトキーを使用します。Cisco Unified IP Phone 8900 および 9900 は、コール ピックアッププログラム可能な機能ボタンのみを使用します。

グループ コール ピックアップを使用すると、ユーザは、別のグループ内の着信コールを受け取ることができます。ユーザは、Cisco Unified IP Phone からこの機能をアクティブにするときに、適切なコール ピックアップグループ番号をダイヤルする必要があります。このタイプのコール ピックアップには、[G ピック] ソフトキーを使用します。

■ コール ピックアップおよびグループ コール ピックアップの設定チェックリスト



(注) Cisco Unified IP Phone 6900 は、グループ ピックアップ プログラム可能な機能ボタンまたは [グループ ピックアップ] ソフトキーを使用します。Cisco Unified IP Phone 8900 および 9900 は、グループ ピックアップ プログラム可能な機能ボタンのみを使用します。

複数のコールがピックアップ グループに着信している場合にグループ コール ピックアップ 電話機能呼び出すと、ユーザは、呼び出し時間の最も長い着信コールに接続されます。



(注) コール ピックアップ機能とグループ コール ピックアップ機能の設定手順は同じです。グループ コール ピックアップ番号は、回線または電話番号に適用されます。

表 6-1 に、コール ピックアップ機能およびグループ コール ピックアップ機能を設定する際のチェックリストを示します。これらの機能の詳細については、「[コール ピックアップの概要 \(P.6-11\)](#)」および「[関連項目 \(P.6-37\)](#)」を参照してください。

表 6-1 コール ピックアップおよびグループ コール ピックアップの設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 コール ピックアップ グループでパーティションを使用する場合は、パーティションを設定します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「 パーティションの設定値 」 「 パーティションによりアクセスを制限するコール ピックアップ機能の使用 (P.6-23) 」
ステップ 2 コール ピックアップ グループを設定します。名前と番号は一意にしてください。	「 コール ピックアップ グループの設定 (P.6-30) 」
ステップ 3 ステップ 2 で作成したコール ピックアップ グループを、コール ピックアップを有効にする電話機に関連付けられた電話番号に割り当てます。 <ul style="list-style-type: none"> • コール ピックアップ機能を使用するには、コール ピックアップ グループに割り当てられた電話番号だけを使用する必要があります。 • コール ピックアップ番号でパーティションを使用する場合は、コール ピックアップ グループに割り当てられた電話番号が、適切なパーティションを含むコーリング サーチ スペースを持つようにしてください。 	「 電話番号へのコール ピックアップ グループの割り当て (P.6-36) 」
ステップ 4 通知をオーディオまたはビジュアル、あるいはその両方に設定します (オプション)。 <ul style="list-style-type: none"> • Call Pickup Group Audio Alert Setting サービス パラメータを設定します。 • [コールピックアップグループの設定 (Call Pickup Group Configuration)] ウィンドウで通知タイプ (オーディオ、ビジュアル、両方) を設定します。 • [コールピックアップグループの設定 (Call Pickup Group Configuration)] ウィンドウで通知タイマーを設定します。 • [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで各電話機のオーディオアラート設定項目を設定します。 	「 コール ピックアップ通知 (P.6-23) 」 「 コール ピックアップ グループの設定項目 (P.6-31) 」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「 電話番号の設定値 」

表 6-1 コール ピックアップおよびグループ コール ピックアップの設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 5 必要に応じて、電話ボタンテンプレートにコール ピックアップ ボタンまたはグループ ピックアップ ボタンを追加します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「電話ボタンテンプレートの設定値」
ステップ 6 Pick Up(PickUp) ソフトキーと Group Pick Up(GPickUp) ソフトキーを使用する電話機に、Standard User または Standard Feature ソフトキーテンプレートを割り当てます。 (注) コールを受ける電話機をユーザが所属するグループ内の電話機に限定するには、ソフトキーテンプレートの Group Pick Up(GPickUp) ソフトキーまたは Other Pickup(OPickup) ソフトキーを [ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウの [選択されていないソフトキー (Unselected Softkeys)] ボックスに移動して無効にします。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「IP Phone へのソフトキーテンプレートの割り当て」
ステップ 7 コール ピックアップ グループに対して自動コール応答が必要な場合は、Auto Call Pickup Enabled サービスパラメータの値に [True] を選択して有効にします。デフォルトは [False] です。	「自動コール ピックアップ」 (P.6-19) 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サービスパラメータの設定」
ステップ 8 Auto Call Pickup Enabled サービスパラメータが [False] の場合は、Call Pickup No Answer Timer サービスパラメータの値を入力します。コール ピックアップ、グループ コール ピックアップ、または他グループ コール ピックアップによってコールがピックアップされたが応答されなかった場合、このパラメータはコールの復元に要する時間を制御します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サービスパラメータの設定」
ステップ 9 Pickup Locating Timer サービスパラメータの値を入力します。このパラメータは、コール ピックアップ、グループ コール ピックアップ、および他グループ コール ピックアップでのコール選択の時間を制御します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サービスパラメータの設定」
ステップ 10 コール ピックアップ機能およびグループ コール ピックアップ機能、またはどちらか一方が使用可能であることをユーザに通知します。	ユーザが Cisco Unified IP Phone でコール ピックアップ機能およびグループ コール ピックアップ機能にアクセスする方法については、電話機のマニュアルを参照してください。

追加情報

「関連項目」 (P.6-37) を参照してください。

他グループ コール ピックアップの設定チェックリスト

他グループ コール ピックアップ機能を使用すると、ユーザは、本人が所属するグループに関連付けられたグループ内の、着信コールを受けることができます。Cisco Unified Communications Manager は、ユーザが Cisco Unified IP Phone からこの機能をアクティブにしたときに、関連付けられたグループ内の着信コールを自動的に検索して、コール接続を確立します。このタイプのコール ピックアップには、[他 Grp] ソフトキーを使用します。



(注) Cisco Unified IP Phone 6900 は、他グループピックアップ プログラム可能な機能ボタンまたは [他グループピックアップ] ソフトキーを使用します。Cisco Unified IP Phone 8900 および 9900 は、他グループピックアップ プログラム可能な機能ボタンのみを使用します。

関連付けられたグループが複数存在する場合、関連付けられたグループへのコールに応答する際の優先順位は、関連付けられた最初のグループから最後のグループまでの順になります。たとえば、グループ A、B、および C がグループ X に関連付けられており、コールに応答する際の優先順位がグループ A、B、および C の順になっているとします。グループ A の着信コールよりも前にグループ C にコールが着信している可能性があります。グループ X は最初にグループ A の着信コールを受けます。



(注) 通常、同じグループ内で複数の着信コールが発生した場合は、呼び出し音が最も長く鳴っている（呼び出し時間が最も長い）コールが最初に応答されます。他グループ コール ピックアップの場合、関連付けられたピックアップグループが複数設定されているときは、呼び出し時間よりも優先順位が優先されます。

表 6-2 に、他グループ コール ピックアップを設定する際のチェックリストを示します。他グループ コール ピックアップの詳細については、「[コール ピックアップの概要](#)」(P.6-11) および「[関連項目](#)」(P.6-37) を参照してください。

表 6-2 他グループ コール ピックアップの設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 すべてのピックアップグループから選択可能な、関連付けられたグループのリストを設定します。リストには最大 10 のグループを含めることができます。	「他グループ コール ピックアップのピックアップグループの定義」 (P.6-35)
ステップ 2 ユーザのグループに関連付けられたグループのメンバに関する Calling Search Space パラメータと TOD パラメータを設定します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 コーリングサーチスペースの設定 」 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「 Time-of-Day ルーティング 」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 タイムスケジュールの設定 」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 時間帯の設定 」

表 6-2 他グループコール ピックアップの設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 3 他グループ コール ピックアップに対して自動コール応答が必要な場合は、Auto Call Pickup Enabled サービス パラメータの値に [True] を入力して有効にします。デフォルトは [False] です。	「自動コール ピックアップ」 (P.6-19) 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サービス パラメータの設定」
ステップ 4 Auto Call Pickup Enabled サービス パラメータが [False] の場合は、Call Pickup No Answer Timer サービス パラメータの値を入力します。コールが他グループ コール ピックアップによってピックアップされたが応答されなかった場合、このパラメータはコールの復元に要する時間を制御します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サービス パラメータの設定」
ステップ 5 Pickup Locating Timer サービス パラメータの値を入力します。このパラメータは、コール ピックアップ、グループ コール ピックアップ、および他グループ コール ピックアップでのコール選択の時間を制御します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サービス パラメータの設定」
ステップ 6 電話機に Other Pickup(OPickUp) ソフトキーを設定するには、Standard User または Standard Feature ソフトキー テンプレートを変更して、その電話機に追加します。 Other Pickup(OPickUp) ソフトキーを含めるには、次の手順でテンプレートを変更します。 <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] の順に選択します。 • 対象となるソフトキー テンプレートを選択します。 • [ソフトキーレイアウトの設定 (Softkey Layout Configuration)] リンクを選択します。 • オンフックまたはオフフックのコール状態を選択します。 • [選択されていないソフトキー (Unselected Softkeys)] ボックスで [Other Pickup(OPickUp)] を選択します。右矢印をクリックし、Other Pickup(OPickUp) ソフトキーを [選択されたソフトキー (Selected Softkeys、位置順)] ボックスに移動します。 (注) コールを受ける電話機をユーザが所属するグループ内の電話機に限定するには、ソフトキー テンプレートで Other Pickup(OPickUp) ソフトキーを無効にします。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「IP Phone へのソフトキー テンプレートの割り当て」
ステップ 7 必要に応じて、他グループピックアップ ボタンを電話ボタン テンプレートに追加します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話ボタン テンプレートの設定値」
ステップ 8 他グループ コール ピックアップ機能が使用可能であることをユーザに通知します。	ユーザが Cisco Unified IP Phone で他グループ コール ピックアップ機能にアクセスする方法については、電話機のマニュアルを参照してください。

ダイレクト コール ピックアップの設定チェックリスト

ダイレクト コール ピックアップ機能を使用すると、ユーザは、[G ピック] ソフトキーまたは [グループ ピックアップ] ソフトキーを押して、呼び出し中のデバイスの電話番号を入力することで、DN で呼び出し中のコールを直接受けることができます。Cisco Unified Communications Manager は、関連付けられたグループ メカニズムを使用して、ダイレクト コール ピックアップ機能呼び出しして着信コールを受けるユーザの特権を制御します。ユーザに関連付けられたグループによって、ユーザが所属するピックアップ グループに関連付けられている 1 つ以上のコール ピックアップ グループが指定されます。

ユーザが呼び出し中のコールを直接 DN から受けるには、ユーザの関連付けられたグループに、DN が所属するピックアップ グループが含まれている必要があります。2 人のユーザが 2 つの異なるコール ピックアップ グループに所属しており、ユーザの関連付けられたグループに相手のユーザのコール ピックアップ グループが含まれていない場合、これらのユーザはダイレクト コール ピックアップ機能呼び出しして互いのコールを受けることができません。

ユーザがダイレクト コール ピックアップ機能呼び出し、着信コールのピックアップ元の DN を入力すると、ユーザは、DN が所属するコール ピックアップ グループの中で呼び出し時間の最も長いコールであるかどうかに関係なく、指定した電話機への着信コールに接続されます。

複数のコールが特定の DN を呼び出し中で、ユーザがダイレクト コール ピックアップ機能呼び出ししてその DN からコールを受けると、ユーザは指定した DN で呼び出し時間が最も長い着信コールに接続されます。

表 6-3 に、ダイレクト コール ピックアップを設定する際のチェックリストを示します。ダイレクト コール ピックアップの詳細については、「[コール ピックアップの概要](#)」(P.6-11) および「[関連項目](#)」(P.6-37) を参照してください。

表 6-3 ダイレクト コール ピックアップの設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1	すべてのピックアップ グループから選択可能な、関連付けられたグループのリストを設定します。リストには最大 10 のグループを含めることができます。
ステップ 2	ユーザのグループに関連付けられたグループのメンバに関する Calling Search Space パラメータと TOD パラメータを設定します。
ステップ 3	ダイレクト コール ピックアップに対して自動コール応答が必要な場合は、Auto Call Pickup Enabled サービス パラメータの値に [True] を入力して有効にします。デフォルトは [False] です。

表 6-3 ダイレクトコールピックアップの設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 4 Auto Call Pickup Enabled サービス パラメータが [False] の場合は、Call Pickup No Answer Timer サービス パラメータの値を入力します。コールがダイレクトコールピックアップによってピックアップされたが応答されなかった場合、このパラメータはコールの復元に要する時間を制御します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サービスパラメータの設定」
ステップ 5 Pickup Locating Timer サービス パラメータの値を入力します。このパラメータは、コールピックアップ、グループコールピックアップ、および他グループコールピックアップでのコール選択の時間を制御します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サービスパラメータの設定」
ステップ 6 電話機に Group Call Pickup(GPickUp) ソフトキーを設定するには、Standard User または Standard Feature ソフトキー テンプレートを変更して、その電話機に追加します。 Group Call Pickup(GPickUp) ソフトキーを含めるには、次の手順でテンプレートを変更します。 <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] の順に選択します。 • 対象となるソフトキー テンプレートを選択します。 • [ソフトキーレイアウトの設定 (Softkey Layout Configuration)] リンクを選択します。 • オンフックまたはオフフックのコール状態を選択します。 • [選択されていないソフトキー (Unselected Softkeys)] ボックスで [Group Call Pickup(GPickUp)] を選択します。右矢印をクリックし、Group Call Pickup(GPickUp) ソフトキーを [選択されたソフトキー (Selected Softkeys、位置順)] ボックスに移動します。 <p>(注) コールを受ける電話機をユーザが所属するグループ内の電話機に限定するには、ソフトキー テンプレートで Group Call Pickup(GPickUp) ソフトキーを無効にします。</p>	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「IP Phone へのソフトキーテンプレートの割り当て」
ステップ 7 必要に応じて、グループピックアップ ボタンを電話ボタン テンプレートに追加します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話ボタンテンプレートの設定値」
ステップ 8 ダイレクトコールピックアップ機能が使用可能であることをユーザに通知します。	ユーザが Cisco Unified IP Phone でダイレクトコールピックアップ機能にアクセスする方法については、電話機のマニュアルを参照してください。

BLF コール ピックアップの設定チェックリスト

Cisco Unified IP Phone のビジー ランプ フィールド (BLF; Busy Lamp Field) ボタンを DN に関連付けることができます。この操作により、Cisco Unified Communications Manager は、コールが DN からのピックアップの待機中である場合に、そのことを電話機のユーザに通知できます。DN は BLF DN を表しており、BLF DN へのコールを受ける電話機が BLF コール ピックアップの開始側となります。

次の規則が、BLF DN および BLF コール ピックアップ開始側に適用されます。

- BLF コール ピックアップ開始側は、次に使用可能な回線または指定された回線として選択されます。指定された回線を使用するには、BLF SD ボタンを押す前に回線がオフフックになっている必要があります。
- BLF コール ピックアップの開始側がハント リスト メンバへの着信コールを受けることができるように、ハント リスト メンバ DN を BLF DN として設定できます。ハント リスト メンバへの着信コールは、ハント リストから発信されたコールの場合もあれば、ダイレクトコールの場合もあります。どちらの場合も、動作は、コール ピックアップのハント リスト メンバ DN、BLF DN、およびハント パイロット番号がどのように設定されているかによって異なります。
- サービス パラメータ Auto Call Pickup Enabled が [False] に設定されているときにコール ピックアップを実行する場合、電話機がオフフックになっている必要があります。または、ユーザが [応答] キーを押してコールを受ける必要があります。

電話機の BLF SD ボタンは、次のいずれかの状態になります。

- アイドル：BLF DN にコールが存在していないことを示します。
- 話し中：BLF DN に 1 つ以上のアクティブ コールが存在するが、アラートは発生していないことを示します。
- アラート：点滅している場合は、BLF DN に 1 つ以上の着信コールがあることを示します。



(注) オプションで、ビジュアル アラートに加え警告音を設定することができます。

BLF DN への着信コールに対する対応は、次のとおりです。

1. BLF DN への着信コールがあることを示すため、BLF コール ピックアップの開始側電話機で BLF SD ボタンが点滅します。
2. 自動コール ピックアップが設定されている場合、ユーザはコール ピックアップの開始側電話機で BLF SD ボタンを押すと、着信コールを受けることができます。自動コール ピックアップが設定されていない場合は、電話機がオフフックになっている必要があります。または、ユーザが [応答] キーを押してコールを受ける必要があります。

表 6-4 に、BLF コール ピックアップを設定する際のチェックリストを示します。BLF コール ピックアップの詳細については、「[コール ピックアップの概要](#)」(P.6-11) および「[関連項目](#)」(P.6-37) を参照してください。

表 6-4 BLF コール ピックアップの設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 BLF DN のコール ピックアップ グループを設定します。名前と番号は一意にしてください。	「コール ピックアップ グループの設定」(P.6-30)
ステップ 2 別のコール ピックアップ グループを作成し、 ステップ 1 で作成したコール ピックアップ グループに関連付けます。1 つのコール ピックアップ グループを複数の BLF DN コール ピックアップ グループに関連付けることができます。 <ul style="list-style-type: none"> • コール ピックアップ グループに割り当てられた電話番号だけが、BLF コール ピックアップ機能を使用できます。 • コール ピックアップ番号でパーティションを使用する場合は、コール ピックアップ グループに割り当てられた電話番号が、適切なパーティションを含むコーリング サーチ スペースを持つようにしてください。 (注) 必ずしも別のコール ピックアップ グループを作成する必要があるわけではありません。ピックアップ グループは、それ自身をアソシエーショングループとして保持できます。	「コール ピックアップ グループの設定」(P.6-30)
ステップ 3 スピードダイヤル BLF ボタンを含むカスタマイズ電話ボタンテンプレートを作成し、BLF DN からコールを受けるために使用される電話デバイスにその電話ボタンテンプレートに関連付けます。BLF DN からコールを受ける電話機がコール ピックアップの開始側となります。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話ボタンテンプレートの設定値」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
ステップ 4 BLF コール ピックアップの開始側用として作成した電話機に BLF SD 番号を設定します。そのためには、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで [新規 BLF SD を追加 (Add a new BLF SD)] リンクをクリックします。[ビジーランプフィールドスピードダイヤルの設定 (Busy Lamp Field Speeddial Configuration)] ウィンドウが表示されます。BLF SD ボタンによって監視される BLF DN となる電話番号を選択します。[コールピックアップ (Call Pickup)] チェックボックスで、BLF SD ボタンに関連付けられたピックアップ機能を有効にします。 (注) このチェックボックスをオンにすると、BLF コールピックアップと BLF スピードダイヤルに BLF SD ボタンを使用できます。このチェックボックスがオフになっている場合は、BLF スピードダイヤルにだけ BLF SD ボタンを使用できます。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」

■ BLF コール ピックアップの設定チェックリスト

表 6-4 BLF コール ピックアップの設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
<p>ステップ 5 [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで、ステップ 2 で作成されたコール ピックアップ グループに対する BLF コール ピックアップの開始側として使用される DN を追加します。</p> <p>(注) BLF DN のピックアップ グループは、開始側のアソシエーショングループに所属している必要があります。ステップ 2 で作成されたピックアップ グループには、一連のアソシエーショングループ内で、ステップ 1 で作成されたピックアップ グループが含まれている必要があります。</p>	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話番号の設定値」</p>
<p>ステップ 6 [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで、ステップ 1 で作成したコール ピックアップ グループに BLF DN を追加します。</p>	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話番号の設定値」</p>
<p>ステップ 7 (オプション) [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、クラスタに関する BLF コール ピックアップ オーディオアラートをアクティブにするため、次の Cisco CallManager サービス パラメータを有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [BLF Pickup Audio Alert Setting of Idle Station] • [BLF Pickup Audio Alert Setting of Busy Station] 	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サービスパラメータの設定」</p>
<p>ステップ 8 (オプション) BLF コール ピックアップの開始側が BLF-SD を押すことによって発信者に接続できるようにするには、Cisco CallManager サービス パラメータ Auto Call Pickup Enabled を [True] に設定します。</p> <p>このサービス パラメータを [False] に設定すると、コール ピックアップの開始側は、BLF-SD ボタンを押すだけでなく、オフフックにしたり、応答ボタンを押してコールに応答したりする必要があります。</p>	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サービスパラメータの設定」</p>
<p>ステップ 9 (オプション) [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、BLF コール ピックアップの開始側に関する BLF コール ピックアップ オーディオアラートをアクティブにするため、次のフィールドを有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [BLF オーディオアラート設定 (BLF Audible Alert Setting、電話がアイドルのとき)] • [BLF オーディオアラート設定 (BLF Audible Alert Setting、電話がビジーのとき)] 	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」</p>

表 6-4 BLF コール ピックアップの設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 10 (オプション) [エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ウィンドウで、エンタープライズパラメータの Cisco Support Use 1 を使用して、ハントパイロット番号のコール ピックアップグループへの追加を許可または禁止します。フィールドに CSCsb42763 と入力すると、ハントパイロット番号のコール ピックアップグループへの追加が許可されます。このように入力しない場合は、ハントパイロット番号をコール ピックアップグループに追加できません。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンタープライズパラメータの設定」
ステップ 11 コール ピックアップ機能が使用可能であることをユーザに通知します。	ユーザが Cisco Unified IP Phone でコール ピックアップ機能にアクセスする方法については、電話機のマニュアルを参照してください。

コール ピックアップの概要

Cisco Unified IP Phone では、コール ピックアップ、グループ コール ピックアップ、他グループ コール ピックアップ、ダイレクト コール ピックアップ、BLF コール ピックアップ、および自動コール ピックアップといった各タイプのコール ピックアップをサポートしています。

次の情報は、すべてのタイプのコール ピックアップに適用されます。

- アイドルおよびオフフックのコール状態では、[ピック]、[G ピック]、および[他 Grp] の3つのソフトキーが使用可能になります。管理者は、ユーザがコール ピックアップ機能呼び出せるよう、これらのソフトキーを標準ソフトキーテンプレートに追加する必要があります。「[コール ピックアップおよびグループ コール ピックアップの設定チェックリスト](#)」(P.6-1)、「[他グループ コール ピックアップの設定チェックリスト](#)」(P.6-4)、および「[ダイレクト コール ピックアップの設定チェックリスト](#)」(P.6-6)を参照してください。
- ユーザは、コールが着信していない電話機からコールを受けるためにコール ピックアップ機能呼び出すと、「ピックアップできるコールがありません」というメッセージを受け取ります。ユーザがコール ピックアップ機能呼び出し、コールを受けるように設定されていない DN から呼び出し中のコールを受けると、リオーダー音が聞こえます。
- コール ピックアップは打診転送コールで動作します。次のシナリオは、1つの例を示しています。ユーザ A がユーザ C にコールを発信し、ユーザ C が応答します。ユーザ C は[転送]キーを押して、電話機 D にダイヤルします。ユーザ E は、電話機 D の呼び出し音を聞き、コール ピックアップ機能を使用して、電話機 D で呼び出し中のコールを受けます。ユーザ C が再び[転送]キーを押すと、ユーザ A とユーザ E が接続されます。また、コール ピックアップは、電話機 D がコールを受けるか、またはユーザ E がコール ピックアップ機能呼び出す前に、ユーザ C が[転送]キーを押した場合にも動作します。
- コール ピックアップ機能は、アドホック会議コールで動作します。次のシナリオは、1つの例を示しています。ユーザ A がユーザ C にコールを発信し、ユーザ C が応答します。ユーザ C は、[会議]キーを押して、電話機 D に打診コールを発信します。ユーザ E は、電話機 D の呼び出し音を聞き、コール ピックアップ機能を使用して、電話機 D で呼び出し中のコールを受けます。その後、ユーザ C が再び[会議]キーを押すと、ユーザ A、ユーザ C、およびユーザ E がアドホック会議に接続されます。また、コール ピックアップ機能は、電話機 D で呼び出し中のコールをユーザ E が受ける前に、ユーザ C が2回目の[会議]キーを押した場合にも動作します。

- サービス パラメータ **Auto Call Pickup Enabled** が [False] に設定されている状態で、DN C で呼び出し中のユーザ A からのコールを受けるためにユーザ E が正常にコール ピックアップ機能呼び出したとします。ユーザ E は、**Call Pickup No Answer Timer** に指定された期限が切れる前にコールを受けませんでした。この場合、ユーザ A からのコールは復元され、DN C での呼び出しが続行されます。
- ユーザは、コールを受けるための空き回線がある場合にだけ、コール ピックアップ機能呼び出すことができます。ユーザの回線が保留中のコールでビジーである場合は、「ピックアップできる回線がありません」というメッセージがディスプレイに表示され、元のコールは送信先番号の呼び出しを続行します。

コール ピックアップの各タイプの詳細については、次のトピックを参照してください。

- 「[コール ピックアップ](#)」 (P.6-12)
- 「[グループ コール ピックアップ](#)」 (P.6-12)
- 「[他グループ コール ピックアップ](#)」 (P.6-13)
- 「[ダイレクト コール ピックアップ](#)」 (P.6-13)
- 「[BLF コール ピックアップ](#)」 (P.6-17)
- 「[自動コール ピックアップ](#)」 (P.6-19)

追加情報

「[関連項目](#)」 (P.6-37) を参照してください。

コール ピックアップ

コール ピックアップ機能を使用すると、ユーザは、本人が所属するグループ内の着信コールを受けることができます。Cisco Unified Communications Manager は、ユーザが Cisco Unified IP Phone からこの機能をアクティブにしたときに、適切なコール ピックアップグループ番号を自動的にダイヤルします。このタイプのコール ピックアップには、[ピック] ソフトキーまたはピック機能ボタンを使用します。

コール ピックアップ機能は、自動コール ピックアップが有効か無効かに関係なく動作します。詳細については、「[自動コール ピックアップ](#)」 (P.6-19) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」 (P.6-37) を参照してください。

グループ コール ピックアップ

グループ コール ピックアップを使用すると、ユーザは、別のグループ内の着信コールを受けることができます。ユーザは、Cisco Unified IP Phone からこの機能をアクティブにするときに、適切なコール ピックアップグループ番号をダイヤルする必要があります。このタイプのコール ピックアップには、[G ピック] ソフトキーまたはグループ ピックアップ機能ボタンを使用します。複数のコールがピックアップグループに着信している場合にグループ コール ピックアップ電話機能呼び出すと、ユーザは、呼び出し時間の最も長い着信コールに接続されます。



(注) コール ピックアップ機能とグループ コール ピックアップ機能の設定手順は同じです。グループ コール ピックアップ番号は、回線または電話番号に適用されます。

グループ コール ピックアップ機能は、自動コール ピックアップが有効か無効かに関係なく動作します。詳細については、「[自動コール ピックアップ](#)」 (P.6-19) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」 (P.6-37) を参照してください。

他グループ コール ピックアップ

他グループ コール ピックアップ機能を使用すると、ユーザは、本人が所属するグループに関連付けられたグループ内の、着信コールを受けることができます。Cisco Unified Communications Manager は、ユーザが Cisco Unified IP Phone からこの機能をアクティブにしたときに、関連付けられたグループ内の着信コールを自動的に検索して、コール接続を確立します。このタイプのコール ピックアップには、[他 Grp] ソフトキーまたは他 Grp 機能ボタンを使用します。

関連付けられたグループが複数存在する場合、関連付けられたグループへのコールに応答する際の優先順位は、関連付けられた最初のグループから最後のグループまでの順になります。たとえば、グループ A、B、および C がグループ X に関連付けられており、コールに応答する際の優先順位がグループ A、B、および C の順になっているとします。グループ A の着信コールよりも前にグループ C にコールが着信している可能性があります、グループ X は最初にグループ A の着信コールを受けます。



(注)

通常、同じグループ内で複数の着信コールが発生した場合は、呼び出し音が最も長く鳴っている（呼び出し時間が最も長い）コールが最初に応答されます。他グループ コール ピックアップの場合、関連付けられたピックアップグループが複数設定されているときは、呼び出し時間よりも優先順位が優先されます。

他グループ コール ピックアップ機能は、自動コール ピックアップが有効か無効かに関係なく動作します。詳細については、「[自動コール ピックアップ](#)」(P.6-19) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.6-37) を参照してください。

ダイレクト コール ピックアップ

ダイレクト コール ピックアップ機能を使用すると、ユーザは、[G ピック] ソフトキーまたはグループ ピックアップ機能ボタンを押して、呼び出し中のデバイスの電話番号を入力することで、DN で呼び出し中のコールを直接受けることができます。Cisco Unified Communications Manager は、関連付けられたグループ メカニズムを使用して、ダイレクト コール ピックアップ機能呼び出しして着信コールを受けるユーザの特権を制御します。ユーザに関連付けられたグループによって、ユーザが所属するピックアップグループに関連付けられている 1 つ以上のコール ピックアップグループが指定されます。

ユーザが呼び出し中のコールを直接 DN から受けるには、ユーザの関連付けられたグループに、DN が所属するピックアップグループが含まれている必要があります。2 人のユーザが 2 つの異なるコール ピックアップグループに所属しており、ユーザの関連付けられたグループに相手のユーザのコール ピックアップグループが含まれていない場合、これらのユーザはダイレクト コール ピックアップ機能呼び出しして互いのコールを受けることができません。

ユーザがダイレクト コール ピックアップ機能呼び出し、着信コールのピックアップ元の DN を入力すると、ユーザは、DN が所属するコール ピックアップグループの中で呼び出し時間の最も長いコールであるかどうかに関係なく、指定した電話機への着信コールに接続されます。

複数のコールが特定の DN を呼び出し中で、ユーザがダイレクト コール ピックアップ機能呼び出ししてその DN からコールを受けると、ユーザは指定した DN で呼び出し時間が最も長い着信コールに接続されます。

ダイレクト コール ピックアップ機能は、自動コール ピックアップが有効か無効かに関係なく動作します。詳細については、「[自動コール ピックアップ](#)」(P.6-19) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.6-37) を参照してください。

ダイレクト コール ピックアップの例

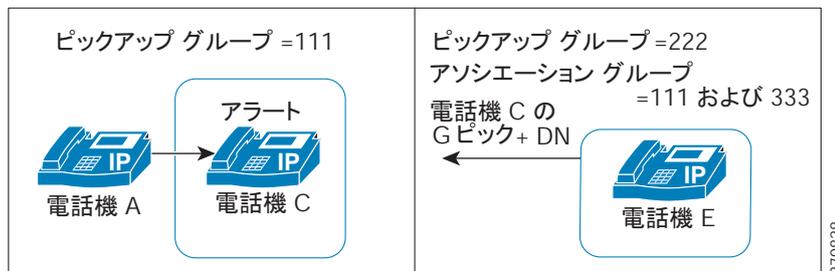
次の例では、ダイレクト コール ピックアップのさまざまなシナリオを示します。

基本的なダイレクト コール ピックアップ

このシナリオは、ダイレクト コール ピックアップを示しています。図 6-1 に示すとおり、次のように設定されます。

1. 作成される 3 つのピックアップ グループは、グループ番号 111、222、および 333 から構成されます。
2. ピックアップ グループ 222 には、その他のピックアップ グループとして 111 および 333 を指定するアソシエーショングループが含まれます。
3. 電話機 C の DN は、ピックアップ グループ 111 内の 1000 に指定されます。
4. 電話機 E の DN は、ピックアップ グループ 222 内の 2000 に指定されます。

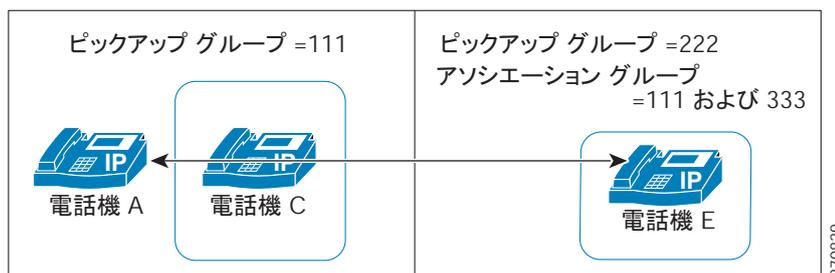
図 6-1 基本的なダイレクト コール ピックアップの設定



5. ユーザ A が電話機 C にコールを発信し、電話機 C で呼び出し音が鳴り始めます。
6. ユーザ E が [G ピック] ソフトキーを押し、電話機 C の DN、つまり 1000 を入力します。
7. 電話機 A と電話機 E が接続され、電話機 C の呼び出しが停止します。

図 6-2 は、ダイレクト コール ピックアップが完了した後の電話機 A と電話機 E の接続状態を示しています。

図 6-2 基本的なダイレクト コール ピックアップの完了



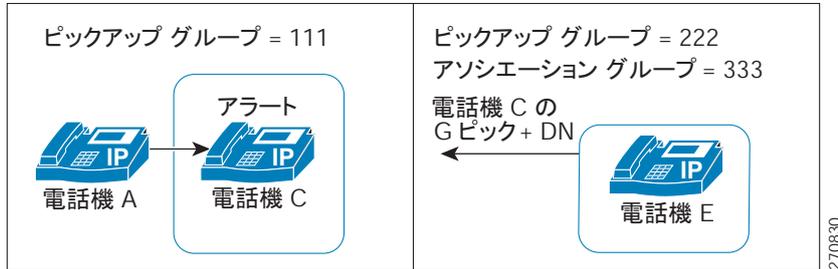
ダイレクト コール ピックアップ制御メカニズム：拒否の例 1

このシナリオは、ダイレクト コール ピックアップの試行が拒否される場合の制御メカニズムを示しています。図 6-3 に示すとおり、次のように設定されます。

1. 作成される 3 つのピックアップ グループは、グループ番号 111、222、および 333 から構成されます。
2. ピックアップ グループ 222 には、アソシエーショングループ 333 が含まれます。
3. 電話機 C の DN は、ピックアップ グループ 111 内の 1000 に指定されます。

4. 電話機 E の DN は、ピックアップ グループ 222 内の 2000 に指定されます。

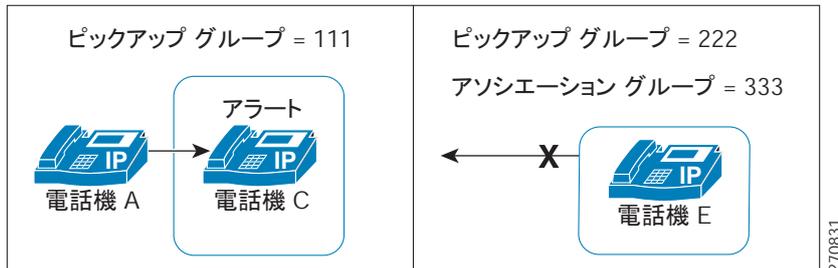
図 6-3 拒否が発生するダイレクトコール ピックアップの設定 1



5. ユーザ A が電話機 C にコールを発信し、電話機 C で呼び出し音が鳴り始めます。
6. ユーザ E が [G ピック] ソフトキーを押し、電話機 C の DN、つまり 1000 を入力します。
7. 電話機 E に対して試みられたダイレクトコール ピックアップは、電話機 E のピックアップグループ (222) のアソシエーション リストにグループ 111 が含まれていないため、拒否されます。

図 6-4 は、ダイレクトコール ピックアップが失敗した後の電話機 A と電話機 E の接続状態を示しています。

図 6-4 拒否されたダイレクトコール ピックアップ、例 1

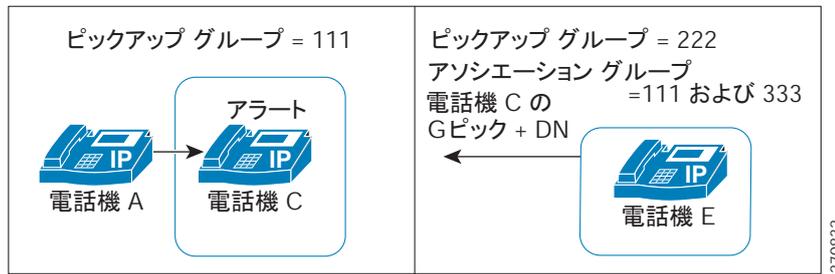


ダイレクトコール ピックアップ制御メカニズム：拒否の例 2

このシナリオは、ダイレクトコール ピックアップの試行が拒否される場合の制御メカニズムを示しています。図 6-5 に示すとおり、次のように設定されます。

- 作成される 3 つのピックアップグループは、グループ番号 111、222、および 333 から構成されます。
- ピックアップグループ 222 には、アソシエーショングループ 111 および 333 が含まれます。
- 電話機 C の DN は、ピックアップグループ 111 の PT_C/1000 に指定されます。PT_C は電話機 C のパーティションを示しています。
- 電話機 E の DN は、ピックアップグループ 222 の PT_E/2000 に指定されます。PT_E は電話機 E のパーティションを示し、電話機 E のコーリングサーチスペース (CSS) は PT_E に指定されます。

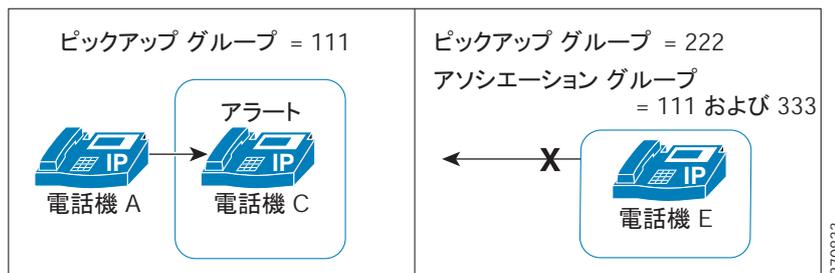
図 6-5 拒否が発生するダイレクト コール ピックアップの設定 2



5. ユーザ A が電話機 C にコールを発信し、電話機 C で呼び出し音が鳴り始めます。
6. ユーザ E が [G ピック] ソフトキーを押し、電話機 C の DN、つまり 1000 を入力します。
7. 電話機 E に対して試みられたダイレクト コール ピックアップは、電話機 E の CSS に電話機 C のパーティションが含まれていないため拒否されます。

図 6-6 は、ダイレクト コール ピックアップが失敗した後の電話機 A と電話機 E の接続状態を示しています。

図 6-6 拒否されたダイレクト コール ピックアップ、例 2

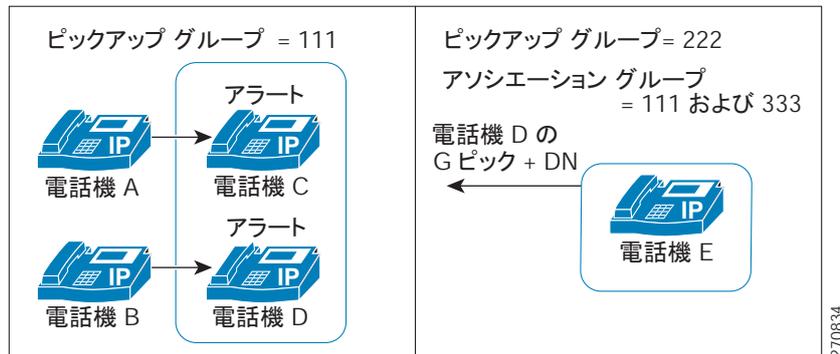


ダイレクト コール ピックアップ制御メカニズム：複数のコール

このシナリオは、複数のコールがピックアップ可能な場合のダイレクト コール ピックアップを示しています。図 6-7 に示すとおり、次のように設定されます。

1. 作成される 3 つのピックアップ グループは、グループ番号 111、222、および 333 から構成されます。
2. ピックアップ グループ 222 には、アソシエーショングループ 111 および 333 が含まれます。
3. 電話機 C の DN は 1000、電話機 D の DN は 3000 に指定され、どちらの電話機もピックアップグループ 111 に属しています。
4. 電話機 E の DN は、ピックアップグループ 222 内の 2000 に指定されます。

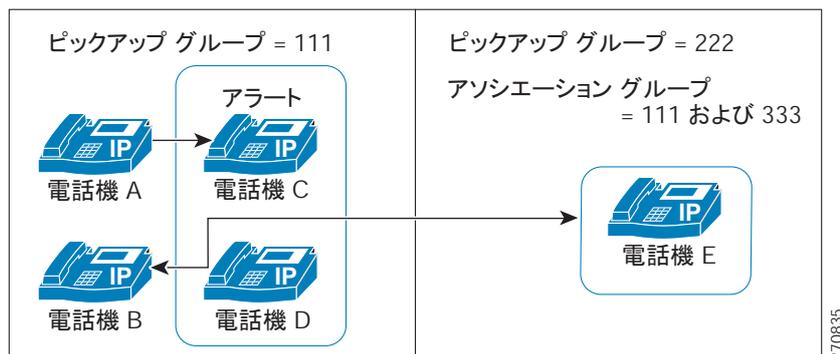
図 6-7 複数のコールがある場合のダイレクト コール ピックアップの設定



5. ユーザ A が電話機 C にコールを発信し、ユーザ B が電話機 D にコールを発信します。電話機 C と電話機 D の呼び出し音が鳴り始めます。
6. ユーザ E が [G ピック] ソフトキーを押し、電話機 D の DN、つまり 3000 を入力します。
7. 電話機 B と電話機 E が接続され、電話機 D の呼び出しが停止します。

☒ 6-8 は、ダイレクト コール ピックアップが完了した後の電話機 B と電話機 E の接続状態を示しています。

図 6-8 複数のコールがあるダイレクト コール ピックアップの完了



BLF コール ピックアップ

Cisco Unified IP Phone のビジー ランプ フィールド (BLF) ボタンを DN に関連付けることができます。この操作により、Cisco Unified Communications Manager は、コールが DN からのピックアップの待機中である場合に、そのことを電話機のユーザに通知できます。DN は BLF DN を表しており、BLF DN へのコールを受ける電話機が BLF コール ピックアップの開始側となります。

次の規則が、BLF DN および BLF コール ピックアップ開始側に適用されます。

- BLF コール ピックアップ開始側は、次に使用可能な回線または指定された回線として選択されます。指定された回線を使用するには、BLF SD ボタンを押す前に回線がオフフックになっている必要があります。
- BLF コール ピックアップの開始側がハント リスト メンバへの着信コールを受けることができるように、ハント リスト メンバ DN を BLF DN として設定できます。ハント リスト メンバへの着信コールは、ハント リストから発信されたコールの場合もあれば、ダイレクトコールの場合もあります。どちらの場合も、動作は、コールピックアップのハント リスト メンバ DN、BLF DN、およびハント パイロット番号がどのように設定されているかによって異なります。

- サービスパラメータ **Auto Call Pickup Enabled** が [False] に設定されているときにコール ピックアップを実行する場合、電話機がオフフックになっている必要があります。または、ユーザが [応答] キーを押してコールを受ける必要があります。

電話機の BLF SD ボタンは、次のいずれかの状態になります。

- アイドル：BLF DN にコールが存在していないことを示します。
- 話中：BLF DN に 1 つ以上のアクティブ コールが存在するが、アラートは発生していないことを示します。
- アラート：点滅している場合は、BLF DN に 1 つ以上の着信コールがあることを示します。



(注) オプションで、ビジュアルアラートに加え警告音を設定することができます。

BLF DN への着信コールに対する対応は、次のとおりです。

- BLF DN への着信コールがあることを示すため、BLF コール ピックアップの開始側電話機で BLF SD ボタンが点滅します。
- 自動コール ピックアップが設定されている場合、ユーザはコール ピックアップの開始側電話機で BLF SD ボタンを押すと、着信コールを受けることができます。自動コール ピックアップが設定されていない場合は、電話機がオフフックになっている必要があります。または、ユーザが [応答] キーを押してコールを受ける必要があります。

BLF コール ピックアップの例

このシナリオは、BLF コール ピックアップを示しています。次の構成要素が設定されます。

- グループ 111 は、BLF DN (電話機 B)、外部電話機 (電話機 A)、および他の電話機を含むコール ピックアップグループを表しています。
- グループ 222 は、グループ 111 に関連付けられたコール ピックアップグループを表しています。グループ 222 には電話機 C が含まれます。
- 電話機 A は、外部電話機を表しています。
- 電話機 B は、グループ 111 内の BLF DN 電話機を表しています。
- 電話機 C は、BLF SD ボタンが電話機 B の BLF DN を監視するように設定されており、コール ピックアップが有効な、グループ 222 内のユーザ電話機を表しています。これが、BLF コール ピックアップの開始側電話機となります。

電話機 A からのコールが電話機 B に着信すると、電話機 C の BLF SD ボタンが点灯します。電話機 C のユーザがボタンを押し、電話機 A の発信者に接続します。

ハント リストパイロット番号がグループ 111 の一部として設定されている場合、電話機 A からハントグループへコールが発信されると、電話機 C の BLF SD ボタンが点灯します。電話機 C のユーザは、ボタンを押すと、電話機 A の発信者に接続できます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.6-37) を参照してください。

自動コールピックアップ

Auto Call Pickup Enabled サービスパラメータを有効にすると、コールピックアップ、グループコールピックアップ、他グループコールピックアップ、ダイレクトコールピックアップ、およびBLFコールピックアップを自動化できます。

このパラメータが有効になっている場合、ユーザが電話機の該当するソフトキーを押すと、Cisco Unified Communications Manager は、ユーザが所属するピックアップグループ、別のピックアップグループ、またはユーザが所属するグループに関連付けられたピックアップグループ内の着信コールにユーザを自動的に接続します。このアクションに必要なキーストロークは1回だけです。

自動コールピックアップは、ユーザを本人が所属するグループの着信コールに接続します。ユーザが電話機の [ピック] ソフトキーを押すと、Cisco Unified Communications Manager はグループ内の着信コールを特定し、コール接続を行います。自動化が有効でない場合、ユーザはコール接続の際に [ピック] ソフトキーと [応答] ソフトキーを押す必要があります。

自動グループコールピックアップは、ユーザを別のピックアップグループの着信コールに接続します。ユーザは電話機の [G ピック] ソフトキーを押し、別のピックアップグループのグループ番号をダイヤルします。ピックアップグループ番号を受信すると、Cisco Unified Communications Manager はコール接続を行います。自動グループコールピックアップが有効でない場合、ユーザは [G ピック] ソフトキーを押して別のピックアップグループのグループ番号にダイヤルし、コールに応答して接続を確立する必要があります。

自動他グループコールピックアップでは、ユーザを本人が所属するグループに関連付けられたグループの着信コールに接続します。ユーザは電話機の [他 Grp] ソフトキーを押します。Cisco Unified Communications Manager は、[コールピックアップグループの設定 (Call Pickup Group Configuration)] ウィンドウに管理者が入力した順序で、関連付けられたグループ内の着信コールを自動的に検索し、コールが見つかったらコール接続を行います。自動化が有効でない場合、ユーザはコール接続の際に [他 Grp] ソフトキーと [応答] ソフトキーを押す必要があります。

自動ダイレクトコールピックアップでは、ユーザを本人が所属するグループに関連付けられたグループの着信コールに接続します。ユーザは電話機の [G ピック] ソフトキーを押し、呼び出し中の電話機の DN をダイヤルします。DN を受信すると、Cisco Unified Communications Manager はコール接続を行います。自動ダイレクトコールピックアップが有効でない場合、ユーザは [G ピック] ソフトキーを押して、呼び出し中の電話機の DN にダイヤルし、この時点で自分の電話機を呼び出しているコールに応答して接続を確立します。



(注) CTI アプリケーションでは、コールに応答している通話者を監視できます。しかし、ピックアップの要求者または応答されたコールの接続先を監視することはできません。したがって、Cisco Unified Communications Manager Assistant では自動コールピックアップ (ワンタッチコールピックアップ) は使用できません。



(注) 自動コールピックアップは、限定された範囲で Cisco Unified Mobility 機能と通信します。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』の「[自動コールピックアップ](#)」を参照してください。

応答なし時のコール ピックアップ

サービス パラメータ `Auto Call Pickup Enabled` が `[False]` に設定されているときにコール ピックアップが発生した場合、その電話機で設定されたコール転送は、いずれかのピックアップ ソフトキーが押されると無視されます。コール ピックアップの要求者がコールに応答しない場合、ピックアップ応答なしタイマーが時間切れになった後に元のコールが復元されます。

ビジー時のコール ピックアップ

サービス パラメータ `Auto Call Pickup Enabled` が `[False]` に設定されているときにコール ピックアップが発生した場合、コール ピックアップの要求者の電話機がビジーのときに、元のコールが復元されます。

帯域幅不足時のコール ピックアップ

サービス パラメータ `Auto Call Pickup Enabled` が `[False]` に設定されているときにコール ピックアップが発生した場合、コール発信者と要求者の電話機との帯域幅が不足していると、元のコールが復元されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.6-37) を参照してください。

ハント リストでのコール ピックアップ機能の使用

コール ピックアップ グループをハントパイロット DN に割り当てることができます。この操作を行うと、コール ピックアップの動作に影響を与えます。ユーザは、回線グループ メンバで呼び出し音が鳴っているコールをピックアップできます。コール ピックアップ グループ通知が有効になっている場合、回線グループ メンバ内のコールのアラートは同じコール ピックアップ グループに関連付けられている各デバイスに通知されます。

`Allow Calls to be picked up from Line Group Members` サービス パラメータがこの動作を制御します。このサービス パラメータが `[False]` (デフォルト) に設定されているときに、回線グループ メンバがコール ピックアップ グループに含まれている場合、その回線グループ メンバ内のコールのアラートは、他のコール ピックアップ グループのメンバからピックアップできません。これは、このサービス パラメータが追加される以前の `Cisco Unified Communications Manager` リリースと同じ動作です。

`Allow Calls to be picked up from Line Group Members` サービス パラメータが `[True]` に設定されている場合、ハントパイロットでのコール ピックアップ グループ設定はすべて無視されます。ハントリストでのコールのアラートは、ピックアップのためにハントパイロットのコール ピックアップ グループに通知されることもなく、また、これらのコールがピックアップされることもありません。`Allow Calls to be picked up from Line Group Members` サービス パラメータが `[False]` に設定されている場合、回線グループ メンバでのコール ピックアップ グループ設定は無視されます。

図 6-9 および図 6-10 に、この設定の使用例を示します。

図 6-9 ハント リストでのコール ピックアップ機能の使用例 1

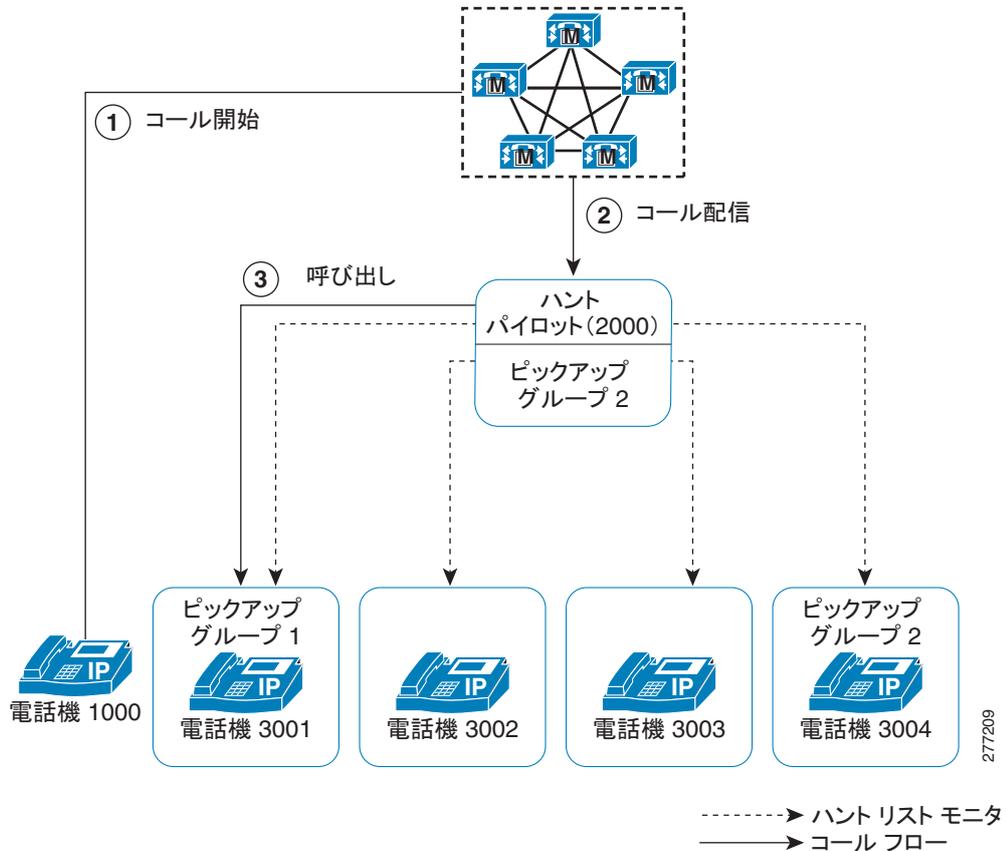
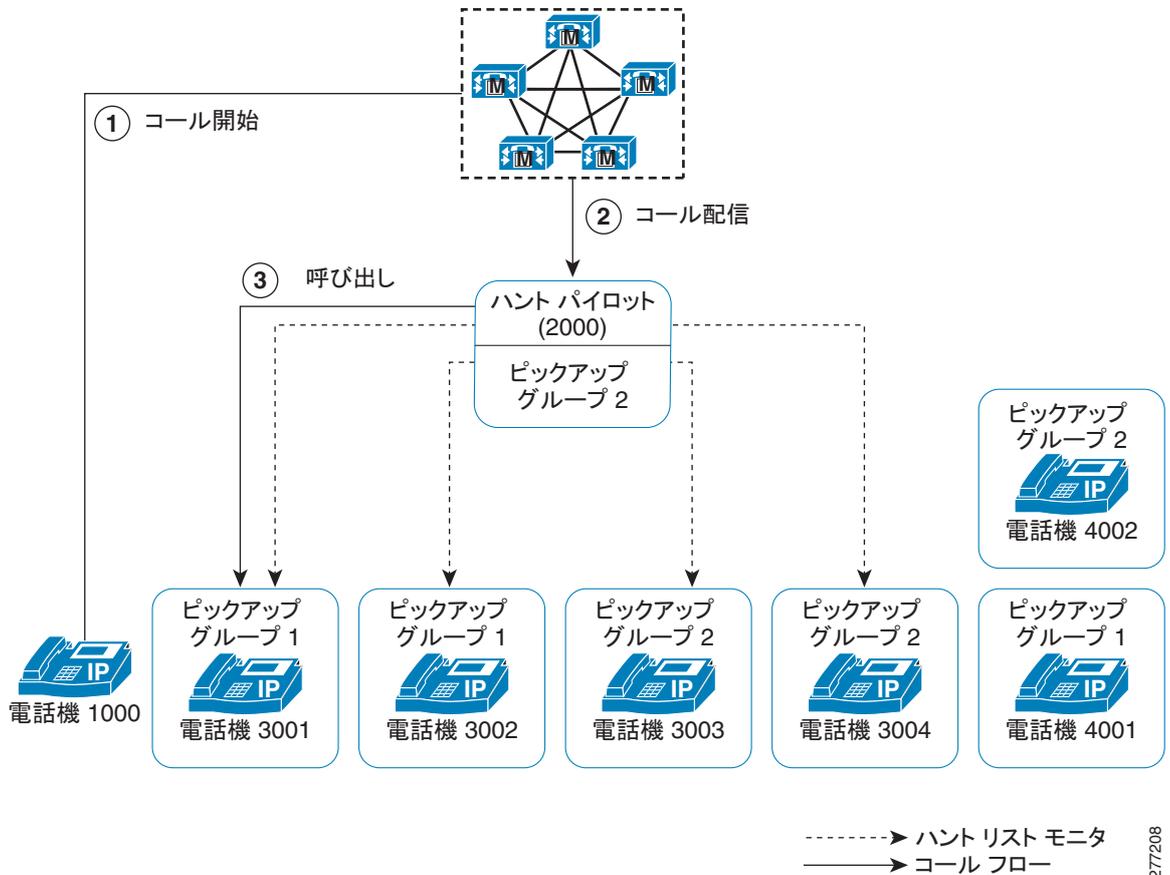


図 6-9 では、Allow Calls to be picked up from Line Group Members サービス パラメータが [True] に設定されている場合、電話機 3002 または電話機 3003 でのコールのアラートは、ハントパイロット (2000) がピックアップグループ 1 に存在していてもピックアップできません。サービスパラメータが [False] に設定されている場合、3001、3002、3003、または 3004 でのコールのアラートはピックアップグループ 1 に関連付けられたメンバからピックアップできます。

Allow Calls to be picked up from Line Group Members サービス パラメータが [True] に設定され、ハントパイロットと回線グループメンバの両方がコールピックアップグループに含まれている場合、回線グループメンバのコールピックアップグループにだけ、ピックアップ可能なコールが通知されます。また、回線グループメンバでのコールのアラートは、回線グループメンバと同じコールピックアップグループに関連付けられた回線でピックアップできます。

図 6-10 ハント リストでのコール ピックアップ機能の使用例 2



277208

図 6-10 では、Allow Calls to be picked up from Line Group Members サービス パラメータが [True] に設定されている場合、電話機 3001 または電話機 3002 でのコールのアラートはピックアップグループ 1 に関連付けられたすべてのメンバ：3001、3002、および 4001 に通知されます。サービス パラメータが [False] に設定されている場合、3001、3002、3003、または 3004 でのコールのアラートは 3003、3004、および 4002 に通知されます。

Allow Calls to be picked up from Line Group Members サービス パラメータが [True] に設定されている場合、回線グループメンバでのコールのアラートが通知され、そのコールをピックアップできます。ただし、メンバ間でコールが移動するたびに、ピックアップ通知タイマーがリセットされます。この結果、回線グループメンバ間でコールが移動すると、同じコールのピックアップ通知が（対応するピックアップグループメンバに対して）複数発生します。この通知は、「新旧の」アラート回線グループメンバが同じコールピックアップグループに属しているかどうかにかかわらず発生します。コールピックアップ通知には、発信者と回線グループメンバの情報が含まれています。

Allow Calls to be picked up from Line Group Members サービス パラメータが [True] に設定されている場合、ある特定のコールピックアップグループでコールの呼び出し音が鳴っていた時間によって、最長コール呼び出し音が決まります。コールが別のコールピックアップグループに属する別の回線グループメンバに移動した場合、最長コール呼び出し音タイマーはリセットされます。また、コールがどのコールピックアップグループにも属さない別の回線グループメンバに移動した場合にも、最長コール呼び出し音タイマーはリセットされます。

Allow Calls to be picked up from Line Group Members が有効になっている場合、回線グループメンバからピックアップされるコールでは、ブロードキャストコール分配アルゴリズムがサポートされません。

パーティションによりアクセスを制限するコール ピックアップ機能の使用

コール ピックアップ グループ番号にパーティションを割り当てると、コール ピックアップ グループへのアクセスを制限できます。この設定を使用すると、コール ピックアップ グループ番号のあるパーティションをコーリング サーチ スペースに含んでいる電話機だけが、そのコール ピックアップ グループに加入できます。パーティションとグループ番号の組み合わせは、システム全体で一意になるようにしてください。

- コール ピックアップ グループ番号がパーティションに割り当てられていると、そのパーティション内の番号をダイヤルできる電話機だけが、そのコール ピックアップ グループを使用できる。
- パーティションがマルチテナント構成のテナントに相当する場合は、各テナントに該当するパーティションに対してピックアップ グループを割り当てる必要がある。

マルチテナント構成は、コール ピックアップ グループでパーティションを使用する例になります。ピックアップ グループをテナントごとに適切なパーティションに割り当てると、グループ番号が他のテナントに表示されなくなります。

ダイレクト コール ピックアップ機能では、ダイレクト コール ピックアップ機能を要求するユーザのコーリング サーチ スペースにコールのピックアップ元となる DN のパーティションが含まれている必要があります。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.6-37) を参照してください。

コール ピックアップ通知

コール ピックアップ通知機能は、ピックアップ グループの他のメンバがコールを受信したときに、Cisco Unified IP Phone にオーディオまたはビジュアル、あるいはその両方の通知を提供します。コール ピックアップ通知は、システム、コール ピックアップ グループ、および DN/電話機という 3 つの設定タイプの設定ウィンドウで設定します。

- [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] : [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウでは、電話機がアイドル状態またはビジー状態になった場合に聞こえるオーディオ通知（ビープ音または呼び出し音）のタイプを設定します。この設定は、システムのデフォルトになります。
- [コールピックアップグループの設定 (Call Pickup Group Configuration)] : Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [コールピックアップグループの設定 (Call Pickup Group Configuration)] ウィンドウでは、各コール ピックアップ グループの通知タイプを設定します。通知のタイプの設定のほか、コールがそのグループに着信してからオーディオアラートおよびビジュアルアラートを送信するまでの遅延時間を秒単位で設定できます。この設定により、そのピックアップ グループにオーディオアラートおよびビジュアルアラート、またはそのいずれかが送信される前に、元の着信側がコールに応答することができます。「[コールピックアップグループの設定項目](#)」(P.6-31) を参照してください。
 - 通知のタイプをオーディオまたはビジュアル、あるいはその両方に設定するには、[コールピックアップグループの設定 (Call Pickup Group Configuration)] ウィンドウの [コールピックアップグループの通知設定 (Call Pickup Group Notification Settings)] の設定項目を使用します。通知は、デバイスのプライマリ回線だけに送信されます。

- [コールピックアップグループの設定 (Call Pickup Group Configuration)] ウィンドウでビジュアル通知を設定するには、[コールピックアップグループ通知のコール情報表示 (Call Information Display For Call Pickup Group Notification)] セクションの設定項目を使用します。この設定により、管理者は、通知メッセージに発信側および着信側、またはいずれかの詳細情報を加えることができます。発信側/着信側の名前が設定されている場合には、それらの名前が表示されます。設定されていない場合は、番号が表示されます。ビジュアル通知は、電話機のステータス行のメッセージを構成します。
- [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)]：このウィンドウは、各電話機のオーディオアラート設定項目を設定するためのフィールドを提供します。コールピックアップグループオーディオアラートの設定を使用して、電話機のオーディオアラートのタイプを設定します。この設定により、ユーザは電話機がアイドル状態になったとき、またはアクティブなコールを受けているときに提供されるオーディオアラートのタイプを設定できます。『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[電話番号の設定値](#)」を参照してください。

コールピックアップ通知は、ピックアップグループのメンバが着信コールを受信したときだけでなく、ピックアップグループの他のメンバに送信される点に注意してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.6-37) を参照してください。

コールピックアップのシステム要件

コールピックアップが動作するには、次のソフトウェアコンポーネントおよびハードウェアコンポーネントが必要です。

- Cisco Unified Communications Manager
- [表 6-5](#) に、サポートされている Cisco Unified IP Phone を示します。

表 6-5 コールピックアップをサポートする Cisco Unified IP Phone

Cisco Unified IP Phone モデル	コールピックアップ機能	ソフトキー	ボタン
Cisco Unified IP Phone 6900 シリーズ (6901 を除く)	コールピックアップ	X	X
Cisco Unified IP Phone 6911 は、ソフトキーをサポートしません。システム管理者が、コールピックアップ用の機能番号を設定し、ユーザが機能キーを押してコールピックアップ機能番号をダイヤルします。	グループピックアップ 他グループピックアップ ダイレクトコールピックアップ		
Cisco Unified IP Phone 7900 シリーズ	コールピックアップ グループピックアップ 他グループピックアップ ダイレクトコールピックアップ	X	

表 6-5 コール ピックアップをサポートする Cisco Unified IP Phone (続き)

Cisco Unified IP Phone モデル	コール ピックアップ機能	ソフトキー	ボタン
Cisco Unified IP Phone 8900 シリーズ	コール ピックアップ グループ ピックアップ 他グループ ピックアップ ダイレクト コール ピックアップ		X
Cisco Unified IP Phone 9900 シリーズ	コール ピックアップ グループ ピックアップ 他グループ ピックアップ ダイレクト コール ピックアップ		X

Cisco Unified IP Phone およびコール ピックアップの詳細については、次の URL で電話機のユーザ ガイドを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/partner/products/ps10326/products_user_guide_list.html

http://www.cisco.com/en/US/partner/products/hw/phones/ps379/products_user_guide_list.html

http://www.cisco.com/en/US/partner/products/ps10451/products_user_guide_list.html

http://www.cisco.com/en/US/partner/products/ps10453/products_user_guide_list.html



(注)

管理者は、ソフトキー テンプレートに Other Pickup(OPickUp) ソフトキーを追加する必要があります。プログラミング可能な回線キー機能を使用して、コール ピックアップ、グループ コール ピックアップ、他グループ コール ピックアップ、およびダイレクト コール ピックアップを電話ボタン テンプレートに設定できます (『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「プログラム可能な回線キー」を参照)。

追加情報

「関連項目」(P.6-37) を参照してください。

インタラクションおよび制限事項

次の項では、コール ピックアップにおけるインタラクションおよび制限事項について説明します。

- 「インタラクション」(P.6-26)
- 「制限事項」(P.6-27)

追加情報

「関連項目」(P.6-37) を参照してください。

インタラクション

次の各項では、コール ピックアップが Cisco Unified Communications Manager アプリケーション およびコール処理と通信する方法について説明します。

- 「ルート プラン レポート」 (P.6-26)
- 「コーリング サーチ スペースとパーティション」 (P.6-26)
- 「Time of Day」 (P.6-26)
- 「コール アカウンティング」 (P.6-26)
- 「依存関係レコード」 (P.6-27)

ルート プラン レポート

ルート プラン レポートには、Cisco Unified Communications Manager で設定されているパターンと DN が示されます。コール ピックアップ グループに DN を割り当てる前に、ルート プラン レポートを使用して、パターンと DN の重複を検索します。『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルート プラン レポート」の章を参照してください。

コーリング サーチ スペースとパーティション

デバイスのコーリング サーチ スペースに基づいてユーザによるコール ピックアップへのアクセスを制限するには、コール ピックアップ グループ番号をパーティションに割り当てます。『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「コーリング サーチ スペースの設定」および「パーティションの設定」を参照してください。

Time of Day

ユーザは、本人が所属するグループに関連付けられたグループのコールに応答するには、関連付けられたグループのメンバに関するコーリング サーチ スペース、パーティション、および Time of Day (TOD) パラメータを設定することにより、本人が所属するグループと同じ時間帯にアクティブになってコールを受け入れることができる必要があります。TOD は、タイム スタンプをコーリング サーチ スペースとパーティションに関連付けます。

たとえば、ABC というパーティションが午前 9 時～午後 5 時までアクティブになっているとします。コーリング サーチ スペース cssABC は、パーティション ABC を含んでいます。pickABC というピックアップグループには、電話機 1 と電話機 2 が含まれています。電話機 1 と電話機 2 は、同じコーリング サーチ スペース cssABC に存在します。電話機 1 の呼び出し音が午後 5 時 30 分に鳴り、電話機 2 がコールへの応答を試行する場合、午後 5 時以降はパーティションがアクティブになっていないため、この試行は失敗します。電話機 1 の呼び出し音が午前 9 時 30 分に鳴ると、電話機 2 はそのコールに応答できます。

コール アカウンティング

コール ピックアップ機能は、コール アカウンティングと通信します。

- 自動コール ピックアップによってコール ピックアップが発生すると、システムは 2 つの Call Detail Record (CDR; 呼詳細レコード) を生成します。一方の CDR はクリアされた元のコールに適用され、もう一方の CDR は接続された要求コールに適用されます。
- 自動でないコール ピックアップによってコール ピックアップが発生すると、システムは 1 つの呼詳細レコードを生成し、接続された要求コールにそれが適用されます。
- CDR 検索では、指定された特定の期間およびその他の検索条件に一致する CDR がすべて返されます。特定の CDR に関連付けられたコールのタイプがわかるよう、検索結果のコールタイプフィールドには、コールがピックアップ コールかどうかが表示されます。

依存関係レコード

特定のコール ピックアップ番号が割り当てられているデバイスを検索する必要がある場合は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [コールピックアップグループの設定 (Call Pickup Group Configuration)] ウィンドウにある [依存関係レコード (Dependency Records)] リンクをクリックします。[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウには、そのコール ピックアップ番号を使用しているデバイスに関する情報が表示されます。

ピックアップグループが他のピックアップグループに関連付けられている場合、そのピックアップグループの依存関係レコードには、関連付け情報が表示されます。たとえば、ピックアップグループ A がピックアップグループ B およびピックアップグループ C に関連付けられている場合、ピックアップグループ A の依存関係レコードには、ピックアップグループ B およびピックアップグループ C に対するピックアップグループ A の関連付けに関する情報が表示されます。

デバイスに関する詳細な情報を調べるには、デバイスをクリックします。[依存関係レコード詳細 (Dependency Records Detail)] ウィンドウが表示されます。依存関係レコードがシステムで使用できない場合は、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。

依存関係レコードの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[依存関係レコードへのアクセス](#)」を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.6-37) を参照してください。

制限事項

コール ピックアップグループには、次の制限事項があります。

- ある特定の電話機に割り当て済みの異なる回線を異なるコール ピックアップグループに割り当てることは可能ですが、ユーザの混乱を招く原因になるため、この設定はお勧めしません。
- 回線または DN に割り当てられているコール ピックアップグループ番号を削除することはできません。コール ピックアップグループ番号を使用している回線を調べるには、依存関係レコードを使用します。コール ピックアップグループ番号を削除するには、各回線または各 DN に新しいコール ピックアップグループ番号を割り当て直す必要があります。
- コール ピックアップグループ番号を更新すると、そのコール ピックアップグループに割り当てられているすべての電話番号が Cisco Unified Communications Manager により自動的に更新されます。
- SIP を実行する Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 では、コール ピックアップ通知、オーディオアラート、およびビジュアルアラートはサポートされません。
- コール ピックアップ通知、オーディオアラート、およびビジュアルアラートがサポートしているのは、ライセンスが発行されているサードパーティの SIP を実行する電話機だけです。
- ユーザは、ダイレクトコール ピックアップ機能を使用して、回線グループに属する DN へのコールを受けることはできません。
- デバイスがハントリストに所属し、ハントパイロット番号へ発信されたコールによって、そのデバイスの呼び出し音が鳴っている場合、ユーザはダイレクトコール ピックアップ機能を使用してこのようなコールを受けることはできません。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.6-37) を参照してください。

コール ピックアップのインストールとアクティブ化

システム機能のコール ピックアップは、Cisco Unified Communications Manager ソフトウェアに標準で備わっています。この機能は、特にインストールする必要はありません。

追加情報

「関連項目」(P.6-37) を参照してください。

コール ピックアップ機能の設定

この項の内容は次のとおりです。

- ・ 「コール ピックアップのサービス パラメータの設定」(P.6-28)



ヒント

コール ピックアップを設定する前に、「コール ピックアップおよびグループ コール ピックアップの設定チェックリスト」(P.6-1)、「他グループ コール ピックアップの設定チェックリスト」(P.6-4)、「ダイレクト コール ピックアップの設定チェックリスト」(P.6-6)、および「BLF コール ピックアップの設定チェックリスト」(P.6-8) を参照してください。

コール ピックアップのサービス パラメータの設定

Cisco Unified Communications Manager には、コール ピックアップ機能向けに次のクラスタ全体のサービス パラメータが用意されています。各サービス パラメータではデフォルトが設定されているので、特別な設定は必要ありません。

- ・ **Auto Call Pickup Enabled** : デフォルトは [False] です。このパラメータは、自動コール ピックアップ機能が有効かどうかを決定します。有効にするには、このフィールドを [True] に設定します。
- ・ **Call Pickup Locating Timer** : デフォルトは 1 秒です。このサービス パラメータは、クラスタ内のすべてのノードからピックアップ グループのすべてのアラート コールを取得するのをピックアップが待つ最大時間を秒単位で指定します。
- ・ **Call Pickup No Answer Timer** : デフォルトは 12 秒です。この必須パラメータは、ピックアップ要求を開始したユーザがコールを受けないことにした場合に、元のコールを復元するまでに待機する最大時間を秒単位で指定します。



(注)

タイマーを設定するには、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択し、[詳細設定 (Advanced)] アイコンを選択するか、[詳細設定 (Advanced)] ボタンをクリックして、[Clusterwide Parameters (Feature - Call Pickup)] ペインのフィールドを更新します。

- ・ **Allow Calls to be picked up from Line Group Members** : デフォルトは [False] です。このパラメータを [True] に設定すると、ハントパイロットでのコールピックアップグループ設定は無視されます。ハントリストでのコールのアラートは、ピックアップのためにハントパイロットのコールピックアップグループに通知されることもなく、また、これらのコールがピックアップされることもありません。このパラメータを [False] に設定すると、回線グループメンバでのコールピックアップグループ設定は無視されます。このサービスパラメータが与えるの影響の詳細については、「ハントリストでのコールピックアップ機能の使用」(P.6-20) を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.6-37) を参照してください。

コールピックアップグループの設定

この項の内容は次のとおりです。

- 「コールピックアップグループの設定」(P.6-29)
- 「コールピックアップグループの設定」(P.6-30)
- 「コールピックアップグループの設定項目」(P.6-31)
- 「コールピックアップグループの削除」(P.6-34)
- 「他グループコールピックアップのピックアップグループの定義」(P.6-35)
- 「電話番号へのコールピックアップグループの割り当て」(P.6-36)



ヒント

コールピックアップを設定する前に、「コールピックアップおよびグループコールピックアップの設定チェックリスト」(P.6-1)、「他グループコールピックアップの設定チェックリスト」(P.6-4)、「ダイレクトコールピックアップの設定チェックリスト」(P.6-6)、および「BLFコールピックアップの設定チェックリスト」(P.6-8)を参照してください。

コールピックアップグループの検索

コールピックアップグループの検索と一覧表示のウィンドウでは、Cisco Unified Communications Managerの管理ページで設定したコールピックアップグループを検索できます。

ネットワーク上には複数のピックアップグループが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Managerでは、特定の条件に基づいて、コールピックアップグループを検索できます。コールピックアップグループを検索するには、次の手順を実行します。



(注)

ブラウザセッションでの作業中は、Cisco Unified Communications Managerの管理ページでコールピックアップグループの検索プリファレンスが保持されます。他のメニュー項目に移動してこのメニュー項目に戻った場合でも、検索を変更するかブラウザを閉じない限り、コールピックアップグループの検索プリファレンスはCisco Unified Communications Managerの管理ページで保持されています。

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [コールピックアップグループ (Call Pickup Group)] を選択します。

[コールピックアップグループの検索と一覧表示 (Find and List Call Pickup Groups)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空になっていることを確認し、**ステップ 3**に進みます。

特定のレコードをフィルタリングまたは検索するには、次の操作を実行します。

- 最初のドロップダウンリストボックスで、検索パラメータを選択します。
- 2番目のドロップダウンリストボックスで、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索文字を入力します。



(注)

別の検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加した場合は、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして、最後に追加された条件を削除するか、または [フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加されたすべての検索条件を削除します。

■ コール ピックアップ グループの設定

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

すべてのレコードまたは条件に一致するレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスで別の値を選択すると、各ページに表示される項目数を変更できます。



(注) 適切なレコードの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、データベースから複数のレコードを削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 表示されたレコードリストから、目的のレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順を逆にするには、リストのヘッダーにある上矢印または下矢印をクリックします (使用可能な場合)。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.6-37) を参照してください。

コール ピックアップ グループの設定

ここでは、1つのコール ピックアップ グループを追加、コピー、および更新する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [コールピックアップグループ (Call Pickup Group)] を選択します。

ステップ 2 次のいずれかの手順を実行します。

- 新しいコール ピックアップ グループを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- コール ピックアップ グループをコピーするには、「[コール ピックアップ グループの設定](#)」(P.6-29) の手順を使用して、コール ピックアップ グループを検索します。[コピー (Copy)] アイコンをクリックします。
- コール ピックアップ グループを更新するには、「[コール ピックアップ グループの設定](#)」(P.6-29) の手順を使用して、コール ピックアップ グループを検索します。

[コールピックアップグループの設定 (Call Pickup Group Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力するか更新します (表 6-6 を参照)。

ステップ 4 新規コール ピックアップ グループまたは変更されたコール ピックアップ グループをデータベースに保存するには、[保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.6-37) を参照してください。

コール ピックアップ グループの設定項目

コール ピックアップ機能を使用すると、ユーザは、本人が所属するグループ内の着信コールを受け取ることができます。Cisco Unified Communications Manager は、ユーザが Cisco Unified IP Phone からこの機能をアクティブにしたときに、適切なコール ピックアップ グループ番号を自動的にダイヤルします。このタイプのコール ピックアップには、[ピック] ソフトキーを使用します。

グループ コール ピックアップを使用すると、ユーザは、別のグループ内の着信コールを受け取ることができます。ユーザは、Cisco Unified IP Phone からこの機能をアクティブにするときに、適切なコール ピックアップ グループ番号をダイヤルする必要があります。このタイプのコール ピックアップには、[G ピック] ソフトキーを使用します。



(注)

コール ピックアップ機能とグループ コール ピックアップ機能の設定手順は同じです。グループ コール ピックアップ番号は、回線または電話番号に適用されます。

表 6-1 に、コール ピックアップ機能およびグループ コール ピックアップ機能を設定する際のチェックリストを示します。これらの機能の詳細については、「[コール ピックアップの概要](#)」(P.6-11) および「[関連項目](#)」(P.6-37) を参照してください。

表 6-6 に、コール ピックアップ グループの設定項目を示します。

表 6-6 コール ピックアップ グループの設定項目

フィールド	説明
[コールピックアップグループ情報 (Call Pickup Group Information)]	
[コールピックアップグループ名 (Call Pickup Group Name)]	最大で 100 文字の英数字を入力できます。たとえば、Operations のように入力します。ピックアップグループ名は、ピックアップグループ番号と関連付けられます。ピックアップグループはピックアップグループ名で選択できます。
[コールピックアップグループ番号 (Call Pickup Group Number)]	追加するコール ピックアップ グループ用の一意の電話番号 (整数) を入力します。 24 桁まで入力できます。使用できる文字は、数字 (0 ~ 9)、A ~ D、プラス記号 (+)、シャープ記号 (#)、およびアスタリスク (*) です。数字を国際エスケープ文字 (+) で始める場合は、+ の前にバックslash (¥) を置く必要があります。
[説明 (Description)]	コール ピックアップ グループの説明を入力します (たとえば、Operations Department Group Pickup)。

表 6-6 コール ピックアップ グループの設定項目 (続き)

フィールド	説明
[パーティション (Partition)]	<p>パーティションを使用してコール ピックアップ グループへのアクセスを制限する場合は、ドロップダウン リスト ボックスから希望のパーティションを選択します。コール ピックアップ グループへのアクセスを制限しない場合は、パーティションに [<なし> (<None>)] を選択します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用すると、このドロップダウン リスト ボックスに表示されるパーティションの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータの指定よりも多くのパーティションが存在する場合は、このドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ウィンドウを表示します。『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「パーティションの検索 (パーティションが多数ある場合)」を参照してください。</p> <p>(注) リスト ボックス項目の最大数を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] を選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p> <p>(注) コール ピックアップ グループ番号とパーティションの組み合わせが、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p>
[コールピックアップグループの通知設定 (Call Pickup Group Notification Settings)]	
[コールピックアップグループ通知ポリシー (Call Pickup Group Notification Policy)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの通知タイプを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [アラートなし (No Alert)] • [オーディオアラート (Audio Alert)] • [ビジュアルアラート (Visual Alert)] • [オーディオおよびビジュアルアラート (Audio and Visual Alert)]
[コールピックアップグループ通知タイマー (Call Pickup Group Notification Timer、秒)]	<p>元の着信側にコールが最初に着信してから、それ以外のコール ピックアップ グループに通知を送信するまでの遅延時間を秒単位 (1 ~ 300 の範囲の整数) で入力します。</p>

表 6-6 コール ピックアップ グループの設定項目 (続き)

フィールド	説明
[コールピックアップグループ通知のコール情報表示 (Call Information Display For Call Pickup Group Notification)]	
[発呼側情報 (Calling Party Information)]	<p>コール ピックアップ グループへのビジュアル通知メッセージに発信側の ID を加えるには、このチェックボックスをオンにします。[コールピックアップグループ通知ポリシー (Call Pickup Group Notification Policy)] が [ビジュアルアラート (Visual Alert)] または [オーディオおよびビジュアルアラート (Audio and Visual Alert)] に設定されている場合にだけ、この設定を使用できます。</p> <p>[発呼側情報 (Calling Party Information)] と [着信側情報 (Called Party Information)] の両方を表示する場合、最初の 11 文字だけが各ディスプレイに表示されます。どちらか一方だけを表示する場合は、最初の 23 文字が表示されます。ただし、表示名に関連番号がない機能タグ ([Conference] -> [Alice] など) が含まれる場合は、このような文字数の制限はありません。</p> <p>(注) アクティブな通知アラートが複数ある場合、最新のビジュアルアラートによってその前のアラートが無効になります。ユーザがコール ピックアップをアクティブにすると、電話機に現在ビジュアルアラートが表示されている場合でも、ピックアップ可能な最も古いコールにユーザが接続されます。発信側または着信側の情報を表示しないビジュアル通知を使用することで、この矛盾を回避することができます。この設定を使用する場合、「コールがピックアップ可能」という汎用メッセージが表示されます。自動コール ピックアップ (AutoCallPickupEnabled サービス パラメータ) が無効の場合は発信者の ID を取得できません。「自動コール ピックアップ」(P.6-19) を参照してください。</p>
[着信側情報 (Called Party Information)]	<p>コール ピックアップ グループへのビジュアル通知メッセージに元の着信側の ID を加えるには、このチェックボックスをオンにします。[コールピックアップグループ通知ポリシー (Call Pickup Group Notification Policy)] が [ビジュアルアラート (Visual Alert)] または [オーディオおよびビジュアルアラート (Audio and Visual Alert)] に設定されている場合に、この設定を使用できます。</p> <p>[発呼側情報 (Calling Party Information)] と [着信側情報 (Called Party Information)] の両方を表示する場合、最初の 11 文字だけが各ディスプレイに表示されます。どちらか一方だけを表示する場合は、最初の 23 文字が表示されます。ただし、表示名に関連番号がない機能タグ ([Conference] -> [Alice] など) が含まれる場合は、このような文字数の制限はありません。</p> <p>(注) アクティブな通知アラートが複数ある場合、最新のビジュアルアラートによってその前のアラートが無効になります。ただし、ユーザがコール ピックアップをアクティブにすると、電話機に現在ビジュアルアラートが表示されていない場合でも、ピックアップ可能な最も古いコールにユーザが接続されます。発信側または着信側の情報を表示しないビジュアル通知を使用することで、この矛盾を回避することができます。この設定を使用する場合、「コールがピックアップ可能」という汎用メッセージが表示されます。自動コール ピックアップ (AutoCallPickupEnabled サービス パラメータ) が無効の場合は発信者の ID を取得できません。「自動コール ピックアップ」(P.6-19) を参照してください。</p>

表 6-6 コール ピックアップ グループの設定項目 (続き)

フィールド	説明
[関連付け先コールピックアップグループ情報 (Associated Call Pickup Group Information)] : [番号 / パーティションでピックアップ番号を検索 (Find Pickup Numbers by Numbers/Partition)]	
[パーティション (Partition)]	この表の [コールピックアップグループ情報 (Call Pickup Group Information)] の [パーティション (Partition)] を参照してください。
[コールピックアップグループ番号に含まれる (Call Pickup Group Numbers Contain)]	検索するコール ピックアップ グループの DN またはその一部を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
[使用可能コールピックアップグループ (Available Call Pickup Groups)]	[現在の関連付け先コールピックアップグループ (Current Associated Call Pickup Groups)] 領域にある関連付け先コールピックアップグループ リストにメンバを追加するには、このリストから DN/ パーティションを選択し、[関連付け先コールピックアップグループに追加 (Add to Associated Pickup Groups)] をクリックします。 設定されたグループが自動的に [現在の関連付け先コールピックアップグループ (Current Associated Call Pickup Groups)] のリストに追加されます。これによって、[他 Grp] ソフトキーを使用して、ユーザがいるグループ内のコールを受けることができますようになります。
[関連付け先コールピックアップグループ情報 (Associated Call Pickup Group Information)] : [現在の関連付け先コールピックアップグループ (Current Associated Call Pickup Groups)]	
[選択されたコールピックアップグループ (Selected Call Pickup Groups)]	コールピックアップグループ リスト項目の順序を変更するには、このボックスの右側の上矢印と下矢印を使用して、リスト項目を移動します。リスト項目の順序を逆にするには、[選択された番号の順序を逆にする (Reverse Order of Selected Numbers)] をクリックします。このボックスから [削除されたコールピックアップグループ (Removed Call Pickup Groups)] ボックスにコールピックアップグループを移動するには、このボックスの下にある上矢印と下矢印を使用します。
[削除されたコールピックアップグループ (Removed Call Pickup Groups)]	このボックスから [選択されたコールピックアップグループ (Selected Call Pickup Groups)] ボックスにコールピックアップグループを移動するには、このボックスの上にある上矢印と下矢印を使用します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.6-37) を参照してください。

コール ピックアップ グループの削除

この項では、Cisco Unified Communications Manager データベースからコール ピックアップ グループを削除する方法について説明します。

始める前に

回線または電話番号に割り当てられているコールピックアップグループ番号を削除することはできません。このコールピックアップグループを使用している電話番号のリストを表示するには、[依存関係レコード (Dependency Records)] リンクをクリックします。依存関係レコードがシステムで使用できない場合は、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[依存関係レコードへのアクセス](#)」

ス」を参照してください。これらの電話番号のコール ピックアップを再び有効にするには、各電話番号を新しいコール ピックアップ グループに割り当て直す必要があります。詳細については、「電話番号へのコール ピックアップ グループの割り当て」(P.6-36)を参照してください。

手順

- ステップ 1 「コール ピックアップ グループの設定」(P.6-29) の手順を使用して、コール ピックアップ グループを検索します。
- ステップ 2 削除するコール ピックアップ グループをクリックします。
- ステップ 3 [削除 (Delete)] をクリックします。
そのコール ピックアップ グループが [コールピックアップグループの検索と一覧表示 (Find and List Call Pickup Groups)] ウィンドウに表示されなくなります。

追加情報

「関連項目」(P.6-37) を参照してください。

他グループ コール ピックアップのピックアップグループの定義

この項では、関連付けられたグループに対する着信コールに応答するために、ユーザのグループにコール ピックアップ グループを関連付ける方法について説明します。グループには、最大 10 のコール ピックアップ グループを関連付けることができます。関連付けられたグループのコールに応答する優先順位は、関連付けられたグループ リストで最初に関連付けられたグループから最後に関連付けられたグループの順になります。表 6-1 の説明のように、[コールピックアップグループの設定 (Call Pickup Group Configuration)] ウィンドウのリストを編成できます。

手順

- ステップ 1 「コール ピックアップ グループの設定」(P.6-29) の手順を使用して、グループを検索します。
- ステップ 2 [コールピックアップグループの設定 (Call Pickup Group Configuration)] ウィンドウで、[関連付け先コールピックアップグループ情報 (Associated Call Pickup Group Information)] 領域までスクロールします。
- ステップ 3 表 6-6 の説明に従って、フィールドに情報を入力します。
- ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.6-37) を参照してください。

電話番号へのコール ピックアップ グループの割り当て

この項では、電話番号にコール ピックアップ グループを割り当てる方法について説明します。コール ピックアップ グループに割り当てられた電話番号だけが、コール ピックアップ、グループ コール ピックアップ、BLF コール ピックアップ、他グループ コール ピックアップ、およびダイレクト コール ピックアップを使用できます。

始める前に

電話番号にコール ピックアップ グループを割り当てる前に、「[コール ピックアップ グループの設定](#)」(P.6-30) の説明に従ってコール ピックアップ グループを作成する必要があります。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] または [コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] を選択します。
- ステップ 2** コール ピックアップ グループに割り当てる電話機または電話番号を検索するための検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
検索条件に一致した電話機または電話番号のリストが表示されます。
- ステップ 3** コール ピックアップ グループに割り当てる電話機または電話番号を選択します。
- ステップ 4** [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウを使用している場合は、[ステップ 6](#) に進んでください。
- ステップ 5** [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [割り当て情報 (Association Information)] リストから、コール ピックアップ グループを割り当てる電話番号を選択します。
- ステップ 6** [コール転送とコールピックアップの設定 (Call Forward and Call Pickup Settings)] 領域に表示される [コールピックアップグループ (Call Pickup Group)] ドロップダウン リスト ボックスから、割り当て先のコール ピックアップ グループを選択します。
- ステップ 7** 変更をデータベースに保存するには、[保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.6-37) を参照してください。

ハントパイロットへのコール ピックアップ グループの割り当て

この項では、ハントパイロットにコール ピックアップ グループを割り当てる方法について説明します。コール ピックアップ グループに割り当てられたハントリストだけが、コール ピックアップ、グループ コール ピックアップ、BLF コール ピックアップ、他グループ コール ピックアップ、およびダイレクト コール ピックアップを使用できます。

始める前に

ハントリストにコール ピックアップ グループを割り当てる前に、「[コール ピックアップ グループの設定](#)」(P.6-30) の説明に従ってコール ピックアップ グループを作成する必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート / ハント (Route/Hunt)] > [ハントパイロット (Hunt Pilot)] の順に選択します。
- ステップ 2** コールピックアップグループに割り当てるハントパイロットを検索するための検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。検索条件と一致するハントパイロットのリストが表示されます。
- ステップ 3** コールピックアップグループに割り当てるハントパイロットを選択します。
- ステップ 4** [ハント転送の設定 (Hunt Forward Settings)] 領域に表示される [コールピックアップグループ (Call Pickup Group)] ドロップダウンリストボックスから、割り当て先のコールピックアップグループを選択します。
- ステップ 5** 変更をデータベースに保存するには、[保存 (Save)] をクリックします。
-

追加情報

- 「ハントリストでのコールピックアップ機能の使用」 (P.6-20)
- 「関連項目」 (P.6-37)

関連項目

- 「コールピックアップおよびグループコールピックアップの設定チェックリスト」 (P.6-1)
- 「他グループコールピックアップの設定チェックリスト」 (P.6-4)
- 「ダイレクトコールピックアップの設定チェックリスト」 (P.6-6)
- 「BLFコールピックアップの設定チェックリスト」 (P.6-8)
- 「コールピックアップの概要」 (P.6-11)
- 「コールピックアップ」 (P.6-12)
- 「グループコールピックアップ」 (P.6-12)
- 「他グループコールピックアップ」 (P.6-13)
- 「ダイレクトコールピックアップ」 (P.6-13)
- 「BLFコールピックアップ」 (P.6-17)
- 「自動コールピックアップ」 (P.6-19)
- 「パーティションによりアクセスを制限するコールピックアップ機能の使用」 (P.6-23)
- 「コールピックアップ通知」 (P.6-23)
- 「コールピックアップのシステム要件」 (P.6-24)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.6-25)
- 「コールピックアップのインストールとアクティブ化」 (P.6-28)
- 「コールピックアップ機能の設定」 (P.6-28)
- 「コールピックアップのサービスパラメータの設定」 (P.6-28)
- 「コールピックアップグループの設定」 (P.6-29)
- 「コールピックアップグループの検索」 (P.6-29)

- 「コール ピックアップ グループの設定」 (P.6-30)
- 「コール ピックアップ グループの設定項目」 (P.6-31)
- 「コール ピックアップ グループの削除」 (P.6-34)
- 「他グループ コール ピックアップのピックアップ グループの定義」 (P.6-35)
- 「電話番号へのコール ピックアップ グループの割り当て」 (P.6-36)
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話番号の設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「パーティションの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルート プラン レポート」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Time-of-Day ルーティング」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ソフトキー テンプレートの設定」
- 『Cisco Unified IP Phone Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager』(すべてのモデル)
- Cisco Unified IP Phone のユーザ資料とリリース ノート (すべてのモデル)



CHAPTER 7

コールスロットリングおよび Code Yellow 状態

コールスロットリングを使用すると、Cisco Unified Communications Manager は、さまざまな要因（負荷の高いコールアクティビティ、Cisco Unified Communications Manager に対する CPU 稼働率の低下、ルーティングループ、ディスク入出力の制限、ディスクフラグメンテーションのようなイベントなど）でダイヤルトーンの遅延（ユーザがオフフックにしてからダイヤルトーンを受信するまでの間隔）が発生する可能性があるとして判断した場合、新しいコールの試行を自動的にスロットル（拒否）することができます。

この章では、コールスロットリングに関する次の情報を提供します。

- 「[コールスロットリングの概要](#)」(P.7-1)
- 「[コールスロットリングのトラブルシューティング](#)」(P.7-3)
- 「[関連項目](#)」(P.7-3)

コールスロットリングの概要

コールスロットリングは、Cisco Unified Communications Manager が上記のような状態が存在すると判断したときに自動的に実行され、そのような状態が緩和されたときにシステムは自動的にスロットリングを終了します。コールスロットリングの開始と終了に関連付けられたパラメータを設定するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページ（[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)]）でいくつかのサービスパラメータを使用します。ただし、シスコのカスタマーサポートが推奨する場合を除き、これらのパラメータを変更することはお勧めしません。サービスパラメータへのアクセス方法、およびサービスパラメータの設定方法については、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[サービスパラメータの設定](#)」を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager は、コールスロットリングに関連するパラメータで指定されている値を使用して、ダイヤルトーンの遅延の可能性を評価し、コールスロットリングが必要でなくなった状態を判断します。ダイヤルトーンの過剰な遅延を回避するためにスロットリングが必要になったときに、Cisco Unified Communications Manager は Code Yellow 状態に入り、新しいコールの試行がスロットル（拒否）されます。コールスロットリングは、System Throttle Sample Size サービスパラメータを使用して無効にできますが、コールスロットリングを無効にすることはお勧めしません。次に、コールスロットリングに関連するいくつかのサービスパラメータの定義を示します。

- Code Yellow Entry Latency は、システム内のさまざまなデバイスから Cisco Unified Communications Manager に送信される SDL メッセージに加え、さまざまなアクティビティ（キープアライブ、変更通知、多様な内部メッセージングなど）に関して Cisco Unified Communications Manager で送受信される大量の内部メッセージを処理する際の最大許容遅延

延をミリ秒単位で定義します。計算された平均予想遅延がこのサービスパラメータで指定されている値を超える場合、Cisco Unified Communications Manager は Code Yellow 状態に入ってコールスロットリングを開始し、新しいコールの受け入れを停止します。

- Code Yellow Exit Latency Calculation は、Cisco Unified Communications Manager がコールスロットリングを開始したときに Code Yellow 状態の終了基準 (Code Yellow 終了遅延) を指定するために、Code Yellow Entry Latency の許容可能なパーセンテージを決定します。このパラメータに指定する値を基礎として、Code Yellow Entry Latency パラメータの値 (ミリ秒単位で指定する遅延) を使用する数式が構成されます。パーセンテージを決定するには、「Code Yellow Entry Latency 値 × Code Yellow Exit Latency 値」という数式を使用します。次の例を参考にしてください。

Code Yellow Entry Latency サービスパラメータ値 : 20 ミリ秒

Code Yellow Exit Latency サービスパラメータ値 : 40%

Code Yellow Exit Latency 値 = $20 \times 0.4 = 8$ ミリ秒。つまり、計算されたメッセージ遅延時間が 8 ミリ秒以下に低下すると、Cisco Unified Communications Manager は Code Yellow 状態を終了します。

Code Yellow 状態から脱するために、Cisco Unified Communications Manager は平均予想遅延が Code Yellow 終了遅延の値より小さいことを確認します。

- Code Yellow Duration は、Cisco Unified Communications Manager システムが Code Yellow 状態 (コールスロットリング) を保持する時間を分単位で指定します。この期間が満了しても、システムが引き続き Code Yellow 状態にある場合、Cisco Unified Communications Manager は Code Red 状態に入ります。これは Cisco Unified Communications Manager が長期間にわたって Code Yellow 状態にあり、回復できないことを示します。Cisco Unified Communications Manager が Code Red 状態に入ると、Cisco CallManager サービスが再起動します。このサービスは、障害の分析に利用できるメモリダンプを生成します。
- System Throttle Sample Size は、Cisco Unified Communications Manager が SDL メッセージを処理する平均予想遅延を計算するために使用する、サンプルのサイズを秒単位で示します。たとえば、サンプルサイズ 10 は、Cisco Unified Communications Manager が、平均予想遅延を計算して、それを Code Yellow Entry Latency パラメータの値と比較する前に、10 秒連続してゼロ以外の遅延値を計算する必要があることを意味します。このパラメータを使用して、コールスロットリングを無効にできます。

ダイヤルトーンの遅延が、コールスロットリング関連のサービスパラメータで設定されているしきい値を超えると計算された場合、Cisco Unified Communications Manager は新しいコールの拒否を開始します。コールスロットリングが行われているとき、新しいコールを試行するユーザはリオーダー音を受信します。電話機モデルによっては、電話機のディスプレイにプロンプトが表示される場合もあります。コールスロットリングは、ユーザが新しいコールの発信を試行するときの問題を効果的に回避しますが、オフフックにしてからダイヤルトーンを受信するまでの遅延時間が過度に長くなると、ユーザの反応 (たとえば、システム管理者への苦情、システムダウンや電話機の故障についての問い合わせなど) を引き起こします。Cisco Unified Communications Manager は、そのような遅延が発生するタイミングを予測するため、複雑なアルゴリズムを使用して常時システムを監視します。

ダイヤルトーンへの遅延がコールスロットリング関連のサービスパラメータのガイドラインの範囲内である場合は、Cisco Unified Communications Manager は Code Yellow 状態を終了してスロットリングを中止します。新しいコールイベントは再び許可されるようになります。

コールスロットリングのトラブルシューティング

CCM/SDI および SDL トレース ファイルは、コールスロットリング イベントを記録して、役立つ情報を提供できます。また、多くの場合、デバッグ用のパフォーマンス監視データも必要になります。Cisco CallManager System Performance オブジェクト (Real-Time Monitoring Tool で表示可能) には、ThrottlingSampleActivity と呼ばれるカウンタが含まれています。このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager が遅延にゼロ以外の値を計算したかどうかを示し、システムのビジー状態の程度を把握するのに役立ちます。このカウンタが頻繁にゼロ以外の値になる場合、システムの潜在的な過負荷状態を示している可能性があります。Code Yellow イベントの可能性を回避するには、システムの過負荷状態を発生させていると考えられる原因 (負荷の高いコール アクティビティ、Cisco Unified Communications Manager に対する CPU 稼働率の低下、ルーティング ループ、ディスク入出力の制限、ディスク フラグメンテーションのようなイベントなど) を検討し、それらの可能性の調査を開始します。

一般に、コールスロットリング イベントが繰り返される場合は、Cisco Technical Assistance Center (TAC) のサポートを受ける必要があります。TAC では、より厳密な検査を行うために、これらのトレース ファイルの提示を求めることがあります。

関連項目

- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サービスパラメータの設定」



CHAPTER 8

発信側の正規化

E.164 標準に従い、発信側を正規化すると、一部の電話機のダイヤル機能が拡張され、コールが地理的に異なる複数の場所にルーティングされる場合の折返し機能が向上します。つまり、この機能により、着信側は、電話機のコールログディレクトリ内の電話番号を修正する必要なく、確実にコールを返すことができます。さらに、発信側の正規化により、電話番号をグローバル化またはローカライズできるため、適切な発信側番号が電話機に表示されます。



ヒント

発信側の正規化を設定すると、コールが IP WAN を経由して複数の場所にルーティングされる場合のツールバイパスに関する問題が軽減されます。さらに、Cisco Unified Communications Manager では、コールの発信元を識別し、電話機ユーザの発信側番号をグローバル化またはローカライズできます。

この章では、発信側の正規化に関する次の情報を提供します。

- 「発信側の正規化の設定チェックリスト」(P.8-1)
- 「発信側の正規化の概要」(P.8-4)
 - 「発信側番号のグローバル化」(P.8-5)
 - 「発信側番号のローカライズ」(P.8-8)
 - 「グローバル発信側番号と対応するローカル番号のマッピング」(P.8-9)
- 「システム要件」(P.8-11)
- 「インタラクションおよび制限事項」(P.8-11)
- 「発信側の正規化のインストールとアクティブ化」(P.8-15)
- 「発信側の正規化の設定」(P.8-15)
- 「エンドユーザへの情報の提供」(P.8-29)
- 「関連項目」(P.8-29)

発信側の正規化の設定チェックリスト

E.164 標準に従い、発信側を正規化すると、一部の電話機のダイヤル機能が拡張され、コールが地理的に異なる複数の場所にルーティングされる場合の折返し機能が向上します。つまり、この機能により、着信側は、電話機のコールログディレクトリ内の電話番号を修正する必要なく、確実にコールを返すことができます。さらに、発信側の正規化により、電話番号をグローバル化またはローカライズできるため、適切な発信側番号が電話機に表示されます。



ヒント

発信側の正規化を設定すると、コールが IP WAN を経由して複数の場所にルーティングされる場合のツールバイパスに関する問題が軽減されます。さらに、Cisco Unified Communications Manager では、コールの発信元を識別し、電話機ユーザの発信側番号をグローバル化またはローカライズできます。

■ 発信側の正規化の設定チェックリスト

表 8-1 に、発信側番号をグローバル化およびローカライズするために実行するタスクを示します。発信側の正規化の詳細については、「[発信側の正規化の概要](#)」(P.8-4) および「[関連項目](#)」(P.8-29) を参照してください。

表 8-1 発信側の正規化の設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 この機能のインタラクションと制限事項を確認します。	「発信側番号のグローバル化」 (P.8-5) 「発信側番号のローカライズ」 (P.8-8) 「インタラクション」 (P.8-11) 「制限事項」 (P.8-14)
ステップ 2 まだ実行していない場合は、Cisco Unified サービスアビリティで Cisco CallManager サービスをアクティブにします。	『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』
発信側番号のグローバル化	
ステップ 1 必要な場合は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] を設定します。	「発信側番号のグローバル化」 (P.8-5) 「発呼側番号タイプの設定」 (P.8-18)
ステップ 2 PSTN 経由の国内、国際、加入者、および不明の各着信コールについて、それぞれのコールタイプに関連付けるプレフィックスを作成します。各デバイスタイプ（電話機、MGCP ゲートウェイ、H.323 ゲートウェイ/トランク、SIP トランクなど）のプレフィックスを作成します。	「発信側番号のグローバル化」 (P.8-5) 「発信側の正規化のサービスパラメータの設定」 (P.8-16)
ステップ 3 サービスプロバイダーが発信側番号に先行桁（たとえば、ゼロ）を付加している状況で、これらの桁を除去してから他の桁を付加する必要がある場合（たとえば、先行桁が E.164 番号に含まれていないときに、発信側番号を E.164 形式に変換する場合）、 表 8-7 に示すフィールドを設定することによって、Cisco Unified Communications Manager で着信コール発信側番号にプレフィックスが適用される前に確実に先行桁が除去されるように指定できます。	「発信側番号をローカライズするための発呼側トランスフォーメーションコーリングサーチスペース (CSS) の適用」 (P.8-28)
ステップ 4 [コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] で、発呼側トランスフォーメーションパターン用のさまざまなパーティションを作成します。 各種発呼側トランスフォーメーションパターンおよび各種番号タイプ用にそれぞれ別個のパーティションと Calling Search Space (CSS; コーリングサーチスペース) を作成します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』 の 「パーティションの設定値」
ステップ 5 [コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] で、各種発呼側番号タイプ用の着信コール発信側番号コーリングサーチスペース (CSS) を作成します。たとえば、国内発呼側番号タイプ用の CSS や国際発呼側番号タイプ用の CSS などを作成します。 CSS の [コーリングサーチスペースの設定 (Calling Search Space Configuration)] ウィンドウで、発呼側トランスフォーメーションパターン用に作成したパーティションを [使用可能なパーティション (Available Partitions)] ペインに移動します。作成した各 CSS に対してこのタスクを実行します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』 の 「コーリングサーチスペースの設定値」

表 8-1 発信側の正規化の設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
<p>ステップ 6 [コールルーティング (Call Routing)] > [トランスフォーメーションパターン (Transformation Pattern)] > [発呼側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)] を選択し、発呼側トランスフォーメーションパターンを作成します。[発呼側トランスフォーメーションパターンの設定 (Calling Party Transformation Pattern Configuration)] ウィンドウで、着信発呼側トランスフォーメーション CSS に関連付けられたパーティションを発呼側トランスフォーメーションパターンに割り当てます。</p>	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「発呼側トランスフォーメーションパターンの設定値」</p>
<p>ステップ 7 [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] や SIP の [トランクの設定 (Trunk Configuration)] などのデバイス設定ウィンドウで、適切な着信発呼側トランスフォーメーション CSS を選択します。</p> <p>ヒント デバイスの設定ウィンドウで着信コール発信側番号 CSS を選択するには、着信発呼者の番号の設定ペインで発呼側番号タイプに対応する [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] 項目を設定します。</p>	<p>「発信側番号をローカライズするための発呼側トランスフォーメーションコーリングサーチスペース (CSS) の適用」 (P.8-28)</p>
<p>発信側番号のローカライズ</p>	
<p>ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] で、発呼側トランスフォーメーションパターンのパーティションを作成します。</p>	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「パーティションの設定値」</p>
<p>ステップ 2 [コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] で発呼側トランスフォーメーション CSS を作成します。その発呼側トランスフォーメーション CSS の [コーリングサーチスペースの設定 (Calling Search Space Configuration)] ウィンドウで、発呼側トランスフォーメーションパターン用に作成したパーティションを [使用可能なパーティション (Available Partitions)] ペインに移動します。</p>	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「コーリングサーチスペースの設定値」</p>

表 8-1 発信側の正規化の設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 3 [コールルーティング (Call Routing)] > [トランスフォーメーションパターン (Transformation Pattern)] > [発呼側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)] を選択し、発呼側トランスフォーメーションパターンを作成します。[発呼側トランスフォーメーションパターンの設定 (Calling Party Transformation Pattern Configuration)] ウィンドウで、発呼側トランスフォーメーション CSS に関連付けられたパーティションを発呼側トランスフォーメーションパターンに割り当てます。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 発呼側トランスフォーメーションパターンの設定値 」
ステップ 4 デバイスの設定ウィンドウ、たとえば、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、[電話の設定 (Phone Configuration)]、[トランクの設定 (Trunk Configuration)]、[CTI ルートポイントの設定 (CTI Route Point Configuration)] などのウィンドウで、発呼側トランスフォーメーション CSS を選択します。 ヒント デバイスの設定ウィンドウで発呼側トランスフォーメーション CSS を選択するには、[発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS)] を設定します ([コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] ではありません)。デバイスで、そのデバイスが使用するデバイス プールに割り当てられた発呼側トランスフォーメーション CSS を使用するには、[デバイスプールの発呼側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use the Device Pool Calling Party Transformation CSS)] チェックボックスをオンにします。	「 発信側番号をローカライズするための発呼側トランスフォーメーション コーリングサーチスペース (CSS) の適用 」 (P.8-28)

発信側の正規化の概要

E.164 標準に従い、発信側を正規化すると、一部の電話機のダイヤル機能が拡張され、コールが地理的に異なる複数の場所にルーティングされる場合の折返し機能が向上します。つまり、この機能により、着信側は、電話機のコールログディレクトリ内の電話番号を修正する必要なく、確実にコールを返すことができます。さらに、発信側の正規化により、電話番号をグローバル化またはローカライズできるため、適切な発信側番号が電話機に表示されます。



ヒント

発信側の正規化を設定すると、コールが IP WAN を経由して複数の場所にルーティングされる場合のツールバイパスに関する問題が軽減されます。さらに、Cisco Unified Communications Manager では、コールの発信元を識別し、電話機ユーザの発信側番号をグローバル化またはローカライズできます。

この項は、次の内容で構成されています。

- 「[発信側番号のグローバル化](#)」 (P.8-5)
- 「[発信側番号のローカライズ](#)」 (P.8-8)
- 「[グローバル発信側番号と対応するローカル番号のマッピング](#)」 (P.8-9)

発信側番号のグローバル化



ヒント

ここでは、発信側番号をグローバル化するために設定できる国際エスケープ文字+については説明していません。国際エスケープ文字の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「国際エスケープ文字+の使用」を参照してください。

この項は、次の内容で構成されています。

- 「発信側番号のグローバル化の説明」(P.8-5)
- 「発信側番号をグローバル化するための Cisco Unified Communications Manager の管理ページの設定ウィンドウ」(P.8-6)

発信側番号のグローバル化の説明

地理的に異なる複数の場所にルーティングされたコールの発信側番号をグローバル化するために、Cisco Unified Communications Manager を使用して、PSTN が提供する発呼側番号タイプに基づき、必要なアクセスコードのプレフィックス、エスケープコード、国番号などを設定できます。PSTN が提供する発呼側番号タイプによって、着信コールが、国内コール、国際コール、加入者コール、または不明のコールのどれとして PSTN から到達したかがわかります。たとえば、コールがハンブルグ内の発信者からハンブルグ内のエンタープライズゲートウェイに発信された場合、コールは発信側番号 69XXXXXXX と番号タイプ「加入者」として Cisco Unified Communications Manager に到達します。ただし、コールがフランクフルト内の発信者からハンブルグ内のエンタープライズゲートウェイに発信された場合は、コールは発信側番号 69XXXXXXX と番号タイプ「国内」として Cisco Unified Communications Manager に到達します。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] とプレフィックスを設定すると、Cisco Unified Communications Manager が、必要なアクセスコード、国際アクセスコードなどを発信側番号にプレフィックスとして付加することで、発信側番号を PSTN ローカライズバージョンからグローバルにダイヤル可能なバージョンへ再フォーマットできます。着信側および発信側の両方で、トランスレーションパターン、発呼側トランスフォーメーションパターン、ルートパターンなどのさまざまなパターンに対して発呼側番号タイプを設定することで、Cisco Unified Communications Manager は、着信コールと発信コールのさまざまな段階で番号タイプを付加できます。Cisco Unified Communications Manager が発信側番号をグローバル化した後、コールはその宛先に予想どおりにルーティングされます。



ヒント

サービスプロバイダーが発信側番号に先行桁（たとえば、ゼロ）を付加している状態で、これらの桁を除去してから他の桁を付加する必要がある場合（たとえば、先行桁が E.164 番号に含まれていないときに、発信側番号を E.164 形式に変換する場合）、桁の除去に関するフィールドを設定することによって、Cisco Unified Communications Manager で着信コール発信側番号にプレフィックスが適用される前に確実に先行桁が除去されるように指定できます。詳細については、「[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定に関する考慮事項」(P.8-21) を参照してください。

発信側番号のグローバル化およびローカライズの設定に応じて、電話機ユーザは、ローカライズされた番号、アクセスコードとプレフィックスが付加されてグローバル化された番号、または国際エスケープ文字+が付加された発信側番号を確認できます。たとえば、ローカライズされた発信側番号が電話スクリーンに表示され、グローバル化された番号が電話機のコールログディレクトリに表示されます。また、グローバル化された発信側番号とローカライズされた発信側番号の両方が [コールの詳細] に表示される場合もあります。

電話機ユーザが発信前に電話機のコール ログ ディレクトリのエントリを編集する必要がないようにするには、コールを正しいゲートウェイにルーティングするため、グローバル発信側番号を対応するローカル番号にマッピングします。「[グローバル発信側番号と対応するローカル番号のマッピング](#)」(P.8-9) に説明されているとおり、コールを正しくルーティングするために、ルートパターンと着信側トランスフォーメーションパターンを使用できます。

発信側番号をグローバル化するための Cisco Unified Communications Manager の管理ページの設定ウィンドウ

表 8-2 に、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの設定ウィンドウを示します。これらの設定ウィンドウでは、プレフィックス、プレフィックスの適用前に発信側番号から除去する先行桁数、およびさまざまな発呼側番号タイプ（加入者、国内など）用の着信発呼側トランスフォーメーション CSS を設定できます。

表 8-2 発信側番号をグローバル化するための設定ウィンドウ

設定ウィンドウ	考慮事項
デバイス プール	<p>デバイス プールで、デジタル ゲートウェイまたはトランクをサポートするプレフィックスを設定できます。</p> <p>また、サービス プロバイダーが発信側番号に桁を付加している場合は、Cisco Unified Communications Manager にプレフィックスの適用前に発信側番号から除去させる先行桁数を設定できます。</p> <p>このウィンドウでは、デバイスのタイプに応じて、さまざまな発呼側番号タイプ（加入者、不明など）用に着信発呼側トランスフォーメーション CSS を適用できます。この CSS を設定すると、デバイスで発呼側番号タイプに基づいて発信側番号をグローバル化できるようになります。</p>
ゲートウェイ	<p>H.323、MGCP (T1-PRI/BRI)、および MGCP (E1-PRI/BRI) のゲートウェイのプレフィックスを設定できます。</p> <p>地理的に異なる複数の場所にゲートウェイがある場合は、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウで各ゲートウェイのプレフィックスを設定できます。たとえば、ゲートウェイが RTP にあり、着信コールの発信者 ID が 555 1212 である場合は、発信者 ID にプレフィックス 919 を付加し、9195551212 とします。ただし、コールを別のゲートウェイ（たとえば、ダラスにあるゲートウェイ）にルーティングする場合は、ダラスのエリア コードが 214 であるため、最終宛先に到達する前に、プレフィックスが 91919 ではなく 91214 と表示されるようにします。</p> <p>着信コールの発信側番号をグローバル化するには、着信コールを処理するゲートウェイのプレフィックスを設定する必要があります。また、サービス プロバイダーが発信側番号に桁を付加している場合は、Cisco Unified Communications Manager にプレフィックスの適用前に発信側番号から除去させる先行桁数を設定できます。</p> <p>このウィンドウでは、デバイスのタイプに応じて、さまざまな発呼側番号タイプ（加入者、不明など）用に着信発呼側トランスフォーメーション CSS を適用できます。この CSS を設定すると、デバイスで発呼側番号タイプに基づいて発信側番号をグローバル化できるようになります。</p> <p>必要に応じて、デバイス プール内で選択してデバイスに適用した発呼側トランスフォーメーション CSS を適用できます。</p>

表 8-2 発信側番号をグローバル化するための設定ウィンドウ (続き)

設定ウィンドウ	考慮事項
トランク	<p>すべてのトランク タイプのプレフィックスを設定できます。SIP トランクは、[不明 (Unknown)] タイプの発呼側番号の着信発呼側設定 (プレフィックス、削除桁数など) だけをサポートしています。</p> <p>また、サービス プロバイダーが発信側番号に桁を付加している場合は、Cisco Unified Communications Manager にプレフィックスの適用前に発信側番号から除去させる先行桁数を設定できます。</p> <p>このウィンドウでは、デバイスのタイプに応じて、さまざまな発呼側番号タイプ (加入者、不明など) 用に着信発呼側トランスフォーメーション CSS を適用できます。この CSS を設定すると、デバイスで発呼側番号タイプに基づいて発信側番号をグローバル化できるようになります。</p> <p>必要に応じて、デバイス プール内で選択してデバイスに適用した発呼側トランスフォーメーション CSS を適用できます。</p>
サービス パラメータ	<p>[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウでは、プレフィックス サービス パラメータ Incoming Calling Party National Number Prefix、Incoming Calling Party International Number Prefix、Incoming Calling Party Subscriber Number Prefix、および Incoming Calling Party Unknown Number Prefix がそれぞれ電話機、H.323、MGCP、および SIP に対して表示されます (SIP の場合は「Unknown」のパラメータだけ)。</p> <p>ネットワーク内に単一の H.323、MGCP (T1-PRI/BRI)、または MGCP (E1-PRI/BRI) のゲートウェイがある場合、その特定のゲートウェイタイプに対し、Cisco CallManager サービスをサポートするプレフィックス サービス パラメータを [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで設定できます。特定のゲートウェイタイプ (たとえば H.323) のプレフィックス サービス パラメータを設定すると、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定するすべての H.323 ゲートウェイがそのサービス パラメータを使用するので、注意してください (ただし、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウで特定のゲートウェイに対してプレフィックスを設定する場合は例外です)。</p> <p>プレフィックス サービス パラメータでは、コロン (:) を設定して、Cisco Unified Communications Manager にプレフィックスの適用前に発信側番号から先行桁を除去させるように指定できます。詳細については、「発信側の正規化のサービス パラメータの設定」(P.8-16) を参照してください。</p>

発信側番号のローカライズ

発信側番号の最終表示のために、Cisco Unified Communications Manager では、各発呼側番号タイプ（国内、国際、加入者、および不明）の発呼側トランスフォーメーションパターンを設定できるため、番号は、エンドユーザの予想どおりに電話機に表示されます。つまり、発呼側トランスフォーメーションパターンを設定して、発信側番号の桁を除去したり追加したりできます。電話機で認識可能な最短の番号を表示するために、発信側と着信側の場所に応じて、不要な国番号、国際アクセスコードなどを除去できます。



ヒント

発呼側トランスフォーメーションパターンを設定する目的は、ルーティングではなく、発信側に対して状況依存の変更を提供することです。

例 8-1 に、グローバル化された発信側番号をローカライズするためにトランスフォーメーションパターンを設定する方法を示します。

例 8-1 発信側番号表示のローカライズ



ヒント

発信側番号は、ローカライズする前にグローバル化できます。例 8-1 の発信側番号をローカライズ前にグローバル化するには、管理者は、ハンブルグの着信ゲートウェイに、番号タイプが [加入者 (Subscriber)] の場合はプレフィックス +4940 を付加、番号タイプが [国内 (National)] の場合はプレフィックス +49 を付加、番号タイプが [国際 (International)] の場合はプレフィックス + を付加、といった情報を設定します。管理者は、ゲートウェイを設定した後、表 8-3 に示すトランスフォーメーションパターンを設定します。

発信側番号をローカライズ前にグローバル化するために、Cisco Unified Communications Manager では、発呼側トランスフォーメーションの適用前に、発呼側番号タイプに基づいてプレフィックスと桁除去の設定が適用されます。

たとえば、ハンブルグ内の二者間でコールが発生するとします。ハンブルグ内の PSTN 経由の着信コールは、+49 40 69XXXXXXX としてグローバル化されますが、管理者は、それがハンブルグ内の着信側のデスクトップ電話機に到達する前に、発信側番号をローカライズするための複数のトランスフォーメーションパターンを設定しています。これらのトランスフォーメーションパターンは、Closest Match ルーティングを使用して不要な数字を除去し、内部には表 8-3 に示すような設定を保持しています。

表 8-3 発呼側トランスフォーメーションパターン (例)

発呼側トランスフォーメーションパターン 1	発呼側トランスフォーメーションパターン 2	発呼側トランスフォーメーションパターン 3
¥+4940.! (パターンの設定)	¥+49.!	¥+.!
discard Predot (数字破棄命令の設定)	discard Predot	discard Predot
prefix 0 (プレフィックス番号の設定)	prefix 00	prefix 000
[加入者 (Subscriber)] (発呼側番号タイプの設定)	[国内 (National)]	[国際 (International)]

番号分析照合セマンティックスを使用することで、表 8-3 のパターンはすべて、提供されたダイヤルストリングと照合されます。ただし、トランスフォーメーションパターン 1 は、ハンブルグ内のコールに対する Closest-Match を構成しており、コールがドイツおよびハンブルグか

らの場合、ドイツの国番号 49 とハンブルグの市番号 40 を除去し、発信側番号にプレフィックス 0 を付加することを示しています。したがって、コールの双方がハンブルグ内の場合、+494069XXXXXXX は 069XXXXXXX に変更されます。

発信者がフランクフルトから発信する場合は、トランスフォーメーションパターン 1 は照合されず、トランスフォーメーションパターン 2 と 3 が照合されます。最適な一致を表示するため、トランスフォーメーションパターン 2 は、システムが + とドイツの国番号 49 を除去してから、プレフィックス 00 を発信側番号に付加する必要があることを示しています。そのため、フランクフルトからハンブルグへの長距離電話は、+494069XXXXXXX から 0069XXXXXXX に変更されます。

発信者が国外の場合は、トランスフォーメーションパターン 3 が機能します。これは、Cisco Unified Communications Manager が国際エスケープ文字 + を除去し、ドイツの国際コード 000 をプレフィックスとして発信側番号に付加するからです。



ヒント

Cisco Unified Communications Manager の管理ページ内の電話デバイス タイプ、CTI ルート ポイント、ゲートウェイ、リモート接続先プロファイル、およびトランクはすべて、それぞれに発信側番号をローカライズします。デバイスが確実に発信側番号をローカライズできるようにするには、発呼側トランスフォーメーション CSS (コーリングサーチスペース) を設定し、それをデバイスに割り当てる必要があります。発呼側トランスフォーメーション CSS は、発呼側トランスフォーメーション CSS が存在するパーティションに割り当てられた発呼側トランスフォーメーションパターンの属性を保持します。必要に応じて、デバイスプール内の発呼側トランスフォーメーション CSS を選択できます。デバイスプールをデバイスに割り当てると、デバイスは、そのデバイスプール内の発呼側トランスフォーメーション CSS を使用します。つまり、デバイスの設定ウィンドウで [デバイスプールの発呼側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)] チェックボックスをオンにした場合と同じになります。

[発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS)] の設定は、ゲートウェイ上の T1-CAS ポートと FXO ポートには適用されません。

デバイスは、コールが発生する前に、番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。[発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションパターンは照合されず、適用されません。発呼側トランスフォーメーションパターンは、必ず、ルーティングに使用されないスル以外のパーティションに設定します。

グローバル発信側番号と対応するローカル番号のマッピング

電話機ユーザが発信前に電話機のコールログディレクトリのエントリを編集する必要がないようにするには、コールを正しいゲートウェイにルーティングするため、グローバル発信側番号を対応するローカル番号にマッピングします。例 8-2 に説明されているとおり、コールを正しくルーティングするために、ルートパターンと着信側トランスフォーメーションパターンを使用できます。

例 8-2 グローバル発信側番号と対応するローカル番号のマッピング

ハンブルグにある Cisco Unified IP Phone (電話機 Q) は、ハンブルグまたはフランクフルトの PSTN を経由して、ローカライズおよびグローバル化されたさまざまな発信側番号からコールを受けています。電話機 Q のユーザが電話機のコールログディレクトリのエントリを編集する必要なくコールを戻せるようにするには、電話機 Q 用の [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、表 8-4 のルートパターンをコーリングサーチスペースに関連付けることができます。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウ ([コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ルートパターン (Route Patterns)]) で、表 8-4 のルートパターンを設定します。

表 8-4 グローバル発信側番号と対応するローカル番号のマッピング (例)

ルートパターン	ルートパターンの設定	数字破棄の設定
ルートパターン 1	¥+4940.! グローバル化された発信側番号を使用してコールを発信するローカルのハンブルグの発信者に対して設定されます。	discard Predot
ルートパターン 2	0.! ローカライズされた発信側番号を使用してコールを発信するローカルのハンブルグの発信者に対して設定されます。	discard Predot
ルートパターン 3	0.0! デバイスに関連付けられたハンブルグの電話番号を持っていないドイツの発信者に対して設定されます。これらの発信者は、ローカライズされた発信側番号を使用して、フランクフルトやドイツ内の他の都市から発信します。	discard Predot
ルートパターン 4	¥+49.! デバイスに関連付けられたハンブルグの電話番号を持っていないドイツの発信者に対して設定されます。これらの発信者は、グローバル化された発信側番号を使用して、フランクフルトやドイツ内の他の都市から発信します。	discard Predot

例 8-2 の電話機 Q が、ハンブルグの発信側番号 69XXXXXXX から PSTN 経由でコールを受け取ると、電話機 Q の電話スクリーンには発信側番号 +49406XXXXXXX が表示されます。電話機 Q のユーザがグローバル化された発信側番号を使用してコールを戻す場合は、Cisco Unified Communications Manager がパターン ¥+49.! を照合して、コールを正しいゲートウェイにルーティングし、関連する数字を送信します。電話機 Q のユーザがローカライズされた発信側番号を使用してコールを戻す場合は、Cisco Unified Communications Manager がパターン 0.! を照合して、コールを正しいゲートウェイにルーティングし、関連する数字を送信します。

例 8-2 の電話機 Q が、フランクフルトの発信側番号 XXXXXXXX から PSTN 経由でコールを受け取ると、電話機 Q の電話スクリーンにはグローバル化された発信側番号 +4969XXXXXXX が表示され、ローカライズされた発信側番号は 0069XXXXXXX として表示されます。電話機 Q のユーザがグローバル化された発信側番号を使用してコールを戻す場合は、Cisco Unified Communications Manager がパターン ¥+49.! を照合して、コールを正しいゲートウェイにルーティングし、関連する数字を送信します。電話機 Q のユーザがローカライズされた発信側番号を使用してコールを戻す場合は、Cisco Unified Communications Manager がパターン 0.0! を照合して、コールを正しいゲートウェイにルーティングし、関連する数字を送信します。

システム要件

発信側の正規化には、次のシステム要件があります。

- Cisco Unified Communications Manager 7.1
- Cisco Unified IP Phone 7906、7911、7931、7961、7962、7965、7970、7971、および 7975

インタラクションおよび制限事項

次の項では、発信側の正規化におけるインタラクションおよび制限事項について説明します。

- 「[インタラクション](#)」 (P.8-11)
- 「[制限事項](#)」 (P.8-14)

インタラクション

次の項では、発信側の正規化が Cisco Unified Communications Manager の機能およびアプリケーションと通信する方法について説明します。

- 「[転送されたコールの発信側番号のグローバル化およびローカライズ](#)」 (P.8-11)
- 「[自動転送されたコールの発信側番号のグローバル化およびローカライズ](#)」 (P.8-12)
- 「[一括管理ツール](#)」 (P.8-12)
- 「[呼詳細レコード](#)」 (P.8-12)
- 「[Cisco Unified Communications Manager Assistant](#)」 (P.8-12)
- 「[Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting](#)」 (P.8-13)
- 「[Cisco Unity/Cisco Unity Connection](#)」 (P.8-13)
- 「[Cisco エクステンション モビリティ](#)」 (P.8-13)
- 「[デバイス モビリティ](#)」 (P.8-13)

転送されたコールの発信側番号のグローバル化およびローカライズ

転送機能はコール中の更新に依存しているため、シナリオによっては、転送されたコールが発信側番号のグローバル化およびローカライズをサポートしていない場合があります（発信側の正規化は、コール中の更新ではなく、コールの各ホップにおけるコール設定中のグローバル化およびローカライズをサポートします）。転送されたコールに対する発信側の正規化の動作の例については、次の項を参照してください。

- 「[ゲートウェイを経由するオンネットの転送されたコールに対する発信側の正規化](#)」 (P.8-11)
- 「[着信ゲートウェイを経由する転送されたコールに対する発信側の正規化](#)」 (P.8-12)

ゲートウェイを経由するオンネットの転送されたコールに対する発信側の正規化

内線番号 12345、電話番号 972 500 2345 の電話機 A が、内線番号 54321、電話番号 972 500 4321 の電話機 B にコールを発信します。コールが内線 54321 に到達すると、発信側番号 12345 が電話機 B に表示されます。電話機 B は、コールをサンノゼのゲートウェイ経由でサンノゼの電話機 C に転送します。転送の開始時に、電話機 C は電話機 B の発信側番号を 972 500 4321 と表示します。転送が完了すると、電話機 C は電話機 A の発信側番号を 12345 と表示します。

着信ゲートウェイを経由する転送されたコールに対する発信側の正規化

ダラスの PSTN を経由して、発信者（電話機 D）が、内線番号 7891、電話番号 972 500 6789 を使用している電話機 E（Cisco Unified IP Phone）にコールを発信します。ダラスの着信ゲートウェイでは、電話機 D の発信者情報が 500 1212/<加入者> と表示されます。電話機 E は、電話機 D のグローバル化された発信側番号として +1 972 500 1212、ローカライズされた発信側番号として 500 1212 を表示します。電話機 E は、サンノゼのゲートウェイを経由するサンノゼにある電話機 C への転送を開始します。転送の開始時に、電話機 C は電話機 E の発信側番号を 972 500 6789 と表示します。転送が完了すると、電話機 C は電話機 D の発信側番号を +1 972 500 1212 と表示します。

自動転送されたコールの発信側番号のグローバル化およびローカライズ

自動転送されたコールは、グローバル化およびローカライズされた発信側番号をサポートします。コールのグローバル化およびローカライズは、コールの各ホップにおけるコール設定中に実行されます。コールのホップとゲートウェイの設定に応じて、つまり、ゲートウェイ上の発信側のトランスフォーメーションおよびプレフィックスの設定に応じて、グローバル化されたバージョンまたはローカライズされたバージョン（もしくは両方）が電話機に表示されます。次の例は、PSTN 経由の着信コールが地理的に異なる場所へどのように自動転送されるかを示しています。

たとえば、ダラスの PSTN 経由で発信者が電話機 F を使用して電話機 G（Cisco Unified IP Phone）にコールを発信します。電話機 G では、すべてのコールがサンノゼにある電話機 H（Cisco Unified IP Phone）に自動転送されます。ダラスの着信ゲートウェイでは、電話機 F の発信者情報が 500 5555/<加入者> と表示されます。ダラスからサンノゼへの発信ゲートウェイでは、そこから発信する際の発呼側トランスフォーメーション CSS の発信者情報は 972 500 5555/<国> になります。サンノゼの着信ゲートウェイでは、発信側番号に、番号タイプ「国内」を示すプレフィックス +1 が付加され、サンノゼにある電話機 H では、電話機 F のローカライズされた発信側番号が 972 500 5555 と表示され、さらにグローバル化された発信側番号が +1 972 500 5555 と表示されます。

一括管理ツール

発信側の正規化と一括管理ツールとの関係については、『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド』を参照してください。

呼詳細レコード

発信側の正規化が Call Detail Record (CDR; 呼詳細レコード) に及ぼす影響については、『Cisco Unified Communications Manager Call Detail Records Administration Guide』を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager Assistant

発信側の正規化機能を設定すると、Cisco Unified Communications Manager Assistant がローカライズされたコールとグローバル化されたコールを自動的にサポートするようになります。Cisco Unified Communications Manager Assistant は、ローカライズされた発信側番号をユーザーインターフェイスに表示できます。また、マネージャに対する着信コールの場合、Cisco Unified Communications Manager Assistant は、フィルタ パターンに一致したときに、ローカライズされた発信側番号とグローバル化された発信側番号を表示できます。Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定方法については、「[プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant](#)」(P.11-1) または「[シェアドラインサポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant](#)」(P.12-1) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting

発信側の正規化が Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting (CAR) に及ぼす影響については、『*Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting Administration Guide*』を参照してください。

Cisco Unity/Cisco Unity Connection

Cisco Unity および Cisco Unity Connection は、国際エスケープ文字 (+) をサポートしていません。これらのアプリケーションは + をサポートしていないため、Cisco Unity または Cisco Unity Connection へのコールでは + を使用しないようにする必要があります。これにより、ボイスメール機能が予想どおりに動作するようになります。

発信側番号をグローバル化するために、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの着信プレフィックス設定で + を設定すると、H.323、MGCP、または SIP ゲートウェイ（あるいは、該当する場合はトランク）の着信コール発信側番号に + がプレフィックスとして挿入されます。発呼側トランスフォーメーションを設定すると、デバイスで発信側番号をローカライズして、グローバル化されたバージョンとは異なる表示形式に変換できるようになります。たとえば、北米番号計画からのコールは 10 桁の発信側番号 2225551234 として到達します。Cisco Unified Communications Manager は、発信側番号にプレフィックス +1 を付加し、E.164 形式の番号を +12225551234 として表示します。北米の電話機の場合、Cisco Unified Communications Manager は発呼側トランスフォーメーションを使用して +12225551234 を 10 桁に変換してから番号を表示します。北米以外の電話機の場合、Cisco Unified Communications Manager は単に + を除去し、プレフィックス 00 を付加して 0012225551234 のように変換することがあります。

Cisco Unity および Cisco Unity Connection が予想どおりに動作するようになるには、これらのアプリケーションをデバイスとして扱い、発呼側トランスフォーメーションを設定して、これらのボイスメールアプリケーションに + が送信されないようにする必要があります。Cisco Unity または Cisco Unity Connection サーバで北米ベースのダイヤルプランを使用している場合は、ボイスメールアプリケーションで発信側番号を受信する前に、その発信側番号を NANP 形式にローカライズします。Cisco Unified Communications Manager の管理ページにはボイスメールポート用の発呼側トランスフォーメーションオプションがないため、ボイスメールポートに関連付けられているデバイスプールで発呼側番号トランスフォーメーションを設定するようにしてください。発信側番号をローカライズするには、ボイスメールアプリケーションが特定の機能（Live Reply など）用の番号に容易にリダイヤルできるよう、アクセスコードをプレフィックスとして付加することも検討してください。たとえば、+12225551234 を 912225551234 に変換したり、国際番号 +4423453456 に国際エスケープコードを含めて 90114423453456 のように変換したりできます。

Cisco エクステンション モビリティ

Cisco エクステンション モビリティは予想どおりに動作します。つまり、Cisco エクステンション モビリティ電話機にログインしている電話機ユーザは、電話スクリーンまたは電話機のコールログディレクトリで、グローバル化またはローカライズされた発信側番号を確認できます。

デバイス モビリティ

次の例は、ユーザが電話機をホームロケーションから移動し、その移動が Cisco Unified Communications Manager のデバイスモビリティ機能によってサポートされている場合に、発信側の正規化がどのように動作するかを示しています。

ダラスをホームロケーションとしている Cisco Unified IP Phone（電話機 N）をサンノゼに移動します。ダラスの Cisco Unified IP Phone はデバイスプール DP_Dallas を使用します。このデバイスプールは、発呼側トランスフォーメーション CSS として CallingTransform_Dallas を保持しており、Calling Transform_Dallas CSS には DallasPhone パーティションと CommonTransform パーティションがあります。サンノゼのローミングデバイスはデバイスプール DP_SanJose を

使用します。このデバイス プールは、発呼側トランスフォーメーション CSS として CallingTransform_SJ を保持しており、CallingTransform_SJ CSS には SJPhone パーティションと CommonTransform パーティションがあります。Cisco Unified Communications Manager の管理 ページに、表 8-5 に示す設定項目があります。

表 8-5 デバイス モビリティを使用する場合の発信側番号のグローバル化およびローカライズ (例)

発呼側トランスフォーメーションパターン 1	発呼側トランスフォーメーションパターン 2	発呼側トランスフォーメーションパターン 3
<ul style="list-style-type: none"> パターン: ¥+.@ パーティション: CommonTransform 数字破棄命令: Predot 発呼側番号タイプ: 国内 	<ul style="list-style-type: none"> パターン: ¥+1.408! パーティション: SJPhone 数字破棄命令: Predot プレフィックス: 9 発呼側番号タイプ: 加入者 	<ul style="list-style-type: none"> パターン: ¥+1972.! パーティション: DallasPhone 数字破棄命令: Predot プレフィックス: 9 発呼側番号タイプ: 加入者

電話機がダラスのホーム ロケーションにあるときに、サンノゼの 408 500 1212 <国内> から PSTN 経由でコールを受けます。ダラスの着信ゲートウェイでは、発信側番号がグローバル形式の +1 408 500 1212 に変換されます。現在ダラスにある電話機では、発信側番号は 1 408 500 1212 として表示されます。

電話機がダラスのホーム ロケーションにあるときに、ダラスの 7 桁のダイヤルエリア内の 400 2323 <加入者> から PSTN 経由でコールを受けます。ダラスの着信ゲートウェイでは、発信側番号がグローバル形式の +1 972 400 2323 に変換されます。現在ダラスにある電話機では、発信側番号は 9 400 2323 として表示されます。

電話機がサンノゼでローミングしているときに、ダラスの 972 500 1212 <国内> から PSTN 経由でコールを受けます。サンノゼの着信ゲートウェイでは、発信側番号がグローバル形式の +1 408 500 1212 に変換されます。現在サンノゼにある電話機では、発信側番号は 1 972 500 1212 として表示されます。

電話機がサンノゼでローミングしているときに、サンノゼの 7 桁のダイヤルエリア内の 500 1212 <加入者> から PSTN 経由でコールを受けます。サンノゼの着信ゲートウェイでは、発信側番号がグローバル形式の +1 408 500 1212 に変換されます。現在サンノゼにある電話機では、発信側番号は 9 500 1212 として表示されます。



(注)

ローミング用デバイス プールの発呼側トランスフォーメーション CSS は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで [デバイスプールの発呼側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)] チェックボックスがオフの場合でも、同じ DMG 内でローミングする電話機のデバイス レベルの設定を上書きします。

制限事項

発信側の正規化を設定する前に、次の制限事項を確認してください。

- シェアラインの場合に表示される発信側番号は、Cisco Unified Communications Manager 内の一連のコール制御イベントによって決まります。ローカライズされた不正な発信側番号がシェアラインで表示されるのを回避するため、特に、シェアラインが地理的に異なる場所にまたがる場合は、同じ回線を共有する異なるデバイスに同じ発呼側トランスフォーメーション CSS を設定する必要があります。

- SIP トランクおよび MGCP ゲートウェイは、コールごとに国際エスケープ文字 + の送信をサポートできます。H.323 ゲートウェイは、+ をサポートしていません。QSIG トランクは、+ の送信を試みません。+ をサポートするゲートウェイ経由の発信コールの場合、Cisco Unified Communications Manager は、ダイヤルされた数字とともに + をゲートウェイに送信できます。+ をサポートしないゲートウェイ経由の発信コールの場合、Cisco Unified Communications Manager がゲートウェイにコール情報を送信すると、国際エスケープ文字 + が除去されます。
- SIP は、番号タイプをサポートしていないため、SIP トランク経由のコールは、発呼側番号タイプ [不明 (Unknown)] の [着信番号 (Incoming Number)] 設定値だけをサポートします。
- QSIG 設定は、通常、均一のダイヤルプランをサポートします。QSIG を使用している場合、番号とプレフィックスのトランスフォーメーションにより機能のインタラクションに問題が発生することがあります。
- 発信側番号をローカライズする場合、デバイスは、番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。[発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションパターンは照合されず、適用されません。発呼側トランスフォーメーションパターンは、必ず、ルーティングに使用されないヌル以外のパーティションに設定します。
- [発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS)] の設定は、ゲートウェイ上の T1-CAS ポートと FXO ポートには適用されません。
- Cisco Unity および Cisco Unity Connection は、国際エスケープ文字 (+) をサポートしていません。これらのアプリケーションは + をサポートしていないため、Cisco Unity または Cisco Unity Connection へのコールでは + を使用しないようにする必要があります。これにより、ボイスメール機能が予想どおりに動作するようになります。詳細については、[「Cisco Unity/Cisco Unity Connection」 \(P.8-13\)](#) を参照してください。

発信側の正規化のインストールとアクティブ化

Cisco Unified Communications Manager をインストールした後、発信側の正規化を設定できます。発信側の正規化のサービスパラメータは Cisco CallManager サービスをサポートしているため、発信側の正規化を設定する前に、Cisco Unified サービスアビリティで Cisco CallManager サービスをアクティブにする必要があります。

発信側の正規化の設定

この項は、次の内容で構成されています。

- [「発信側の正規化のサービスパラメータの設定」 \(P.8-16\)](#)
- [「発呼側番号タイプの設定」 \(P.8-18\)](#)
- [「\[デバイスプール設定 \(Device Pool Configuration\)\]、\[ゲートウェイの設定 \(Gateway Configuration\)\]、または \[トランクの設定 \(Trunk Configuration\)\] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」 \(P.8-20\)](#)
- [「発信側番号をローカライズするための発呼側トランスフォーメーション コーリング サーチスペース \(CSS\) の適用」 \(P.8-28\)](#)



ヒント

発信側の正規化を設定する前に、[「発信側の正規化の設定チェックリスト」 \(P.8-1\)](#) を参照してください。

発信側の正規化のサービス パラメータの設定



ヒント

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでサービス パラメータを検索するには、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択し、サーバと Cisco CallManager サービスを選択します。パラメータが表示された後、[詳細設定 (Advanced)] をクリックします。サービス パラメータの詳細については、サービス パラメータ名のハイパーリンクをクリックするか、ウィンドウの右上隅にある疑問符をクリックしてください。

サービス プロバイダーが発信側番号に先行桁（たとえば、ゼロ）を付加している状況で、これらの桁を除去してから他の桁を付加する必要がある場合（たとえば、先行桁が E.164 番号に含まれていないときに、発信側番号を E.164 形式に変換する場合）、Incoming Calling Party National Number Prefix、Incoming Calling Party International Number Prefix、Incoming Calling Party Unknown Number Prefix、および Incoming Calling Party Subscriber Number Prefix の目的のサービス パラメータにコロン (:) と除去する桁数を続けて入力することによって、Cisco Unified Communications Manager で着信コール発信側番号にプレフィックスが適用される前に確実に先行桁が除去されるように指定できます。コロン (:) の前に設定する値がプレフィックスを表します。コロン (:) の後に設定する値では、Cisco Unified Communications Manager にプレフィックスの適用前に発信側番号から除去させる桁数を指定します。

たとえば、着信プレフィックス サービス パラメータに +1 を設定することにより、Cisco Unified Communications Manager に発信側番号の 1 桁目を除去し、その後で国際エスケープ文字 + を適用するように指示できます。着信コールが 04423452345 として到達した場合、Cisco Unified Communications Manager は発信側番号の 1 桁目（この場合、ゼロ）を除去してから、プレフィックスとして国際エスケープ文字 + を付加します。したがって、発信側番号は +4423452345 に変換されます。

プレフィックスを付加せずに桁を除去するには、着信プレフィックス サービス パラメータにプレフィックスを設定せずにコロン (:) を設定します。コロン (:) の前にプレフィックスを入力しなかった場合、Cisco Unified Communications Manager は、指定された先行桁数を除去し、発信側番号にプレフィックスは適用しません。たとえば、:2 を設定すると、Cisco Unified Communications Manager は 2 桁目までを除去し、プレフィックスは適用しません。

Cisco Unified Communications Manager に特定桁数の先行桁を除去させようとしたときに、発信側番号の全桁数が設定値以下の場合、Cisco Unified Communications Manager は全桁を除去しますが、プレフィックスは適用します（プレフィックスを設定している場合）。たとえば、着信プレフィックス フィールドに +1:6 と入力したときに、発信側番号の全桁数が 6 桁以下の場合、Cisco Unified Communications Manager は全桁を除去し、プレフィックス +1 を適用します。

発信側番号の全桁を超える桁数を Cisco Unified Communications Manager で除去するように設定した場合、Cisco Unified Communications Manager は発信側番号をクリアします（空白にします）。

着信プレフィックス サービス パラメータにコロン (:) を設定しなかった場合、Cisco Unified Communications Manager は発信側番号から桁を除去しません。つまり、表 8-7 で説明されている着信フィールドを設定しない限り（これらのフィールドではデバイス レベルでの設定がサポートされています）、桁は除去されません。

プレフィックスを設定しているにもかかわらず、空の発信側番号が到達した場合、Cisco Unified Communications Manager はプレフィックスを適用しません。

Cisco Unified Communications Manager が発信側番号から除去できる桁数は最大 24 桁です。着信プレフィックス サービス パラメータに :26 と入力すると、Cisco Unified Communications Manager の管理 はメッセージを表示し、その設定値を許可しません。

Cisco Unified Communications Manager で桁を除去し、発信側番号にプレフィックスを適用しようとしたときにエラーが発生した場合、Cisco Unified Communications Manager は桁の操作もプレフィックスの適用も行いません。代わりに、Cisco Unified Communications Manager は、そのコールで到達した発信側番号を使用します。

**ヒント**

デバイスの設定ウィンドウに表示される着信フィールドを設定し、さらにサービスパラメータも設定した場合、Cisco Unified Communications Manager はデバイスの設定ウィンドウでの設定値を使用します。

[Clusterwide Parameters (Device - PRI and MGCP Gateway)]

- [Incoming Calling Party National Number Prefix - MGCP]
- [Incoming Calling Party International Number Prefix - MGCP]
- [Incoming Calling Party Subscriber Number Prefix - MGCP]
- [Incoming Calling Party Unknown Number Prefix - MGCP]

**ヒント**

ネットワーク内に単一の H.323、MGCP (T1-PRI/BRI)、または MGCP (E1-PRI/BRI) のゲートウェイがある場合、その特定のゲートウェイタイプに対し、Cisco CallManager サービスをサポートするプレフィックスサービスパラメータを [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで設定できます。特定のゲートウェイタイプ (たとえば H.323) のプレフィックスサービスパラメータを設定すると、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定するすべての H.323 ゲートウェイがそのサービスパラメータを使用するので、注意してください (ただし、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウで特定のゲートウェイに対してプレフィックスを設定する場合は例外です)。

[Clusterwide Parameters (Device - H323)]

- [Incoming Calling Party National Number Prefix - H.323]
- [Incoming Calling Party International Number Prefix - H.323]
- [Incoming Calling Party Subscriber Number Prefix - H.323]
- [Incoming Calling Party Unknown Number Prefix - H.323]



ヒント H.323 の着信プレフィックスサービスパラメータが電話機の着信プレフィックスサービスパラメータと同じプレフィックスを使用する場合、そのプレフィックスは発信側で 2 回使用されます。最初は、着信コールがゲートウェイに到達したとき、2 回目は、電話機でコールが終了したときです。

[Clusterwide Parameters (Device - SIP)]

[Incoming Calling Party Unknown Number Prefix - SIP]

発呼側番号タイプの設定

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] とプレフィックスを設定すると、Cisco Unified Communications Manager が、必要なアクセスコード、国際アクセスコードなどを発信側番号にプレフィックスとして付加することで、発信側番号を PSTN ローカライズバージョンからグローバルにダイヤル可能なバージョンへ再フォーマットできます。着信側と発信側の両方でさまざまなパターンに対して発呼側番号タイプを設定することで、Cisco Unified Communications Manager は着信コールと発信コールのさまざまな段階で番号タイプを付加できます。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [発呼側トランスフォーメーションパターンの設定 (Calling Party Transformation Pattern Configuration)], [ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)], [ハントパイロットの設定 (Hunt Pilot Configuration)], [トランスレーションパターンの設定 (Translation Pattern Configuration)], および [ルートリスト詳細の設定 (Route List Detail Configuration)] の各ウィンドウで [発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] を設定します。

- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[ルートパターンの設定](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[ハントパイロットの設定](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[発呼側トランスフォーメーションパターンの設定値](#)」

表 8-6 で、Cisco Unified Communications Manager の管理ページに表示される [発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] について説明します。

表 8-6 [発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の説明

設定項目	説明
[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)]	<p>発信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager が発信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。NANP やヨーロッパダイヤルプランなどのダイヤルプランについて高度な知識がある場合を除き、デフォルト値を変更せずに使用することをお勧めします。Cisco Unified Communications Manager はヨーロッパの国内ダイヤルパターンを認識しないため、ヨーロッパではデフォルト値を変更する必要があることがあります。接続先の PBX が、発信側電話番号を国内以外の番号計画タイプにエンコードすることを前提としている場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco CallManager : Cisco Unified Communications Manager が、電話番号のタイプを設定します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤルプランが不明な場合に選択します。 • [国内 (National)] : 自国のダイヤルプラン内でダイヤルしている場合に使用します。 • [国際 (International)] : 自国のダイヤルプラン外でダイヤルしている場合に使用します。 • [加入者 (Subscriber)] : 短縮された加入者番号を使用して加入者にダイヤルしている場合に使用します。 <p>Cisco Unified Communications Manager の管理ページの次のウィンドウで、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] を設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ハントリスト詳細の設定 (Hunt List Detail Configuration)] : [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート / ハント (Route / Hunt)] > [ハントリスト (Hunt List)] (ハントリストを追加します。 [保存 (Save)] をクリックすると、 [回線グループの追加 (Add Line Group)] ボタンが表示されます。 [ハントリスト詳細の設定 (Hunt List Detail Configuration)] ウィンドウを表示するには、 [回線グループの追加 (Add Line Group)] ボタンをクリックします。) • [ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] : [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート / ハント (Route / Hunt)] > [ルートパターン (Route Pattern)] • [ハントパイロットの設定 (Hunt Pilot Configuration)] : [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート / ハント (Route / Hunt)] > [ハントパイロット (Hunt Pilot)] • [トランスレーションパターンの設定 (Translation Pattern Configuration)] : [コールルーティング (Call Routing)] > [トランスレーションパターン (Translation Pattern)] • [発呼側トランスフォーメーションパターンの設定 (Calling Party Transformation Pattern Configuration)] : [コールルーティング (Call Routing)] > [トランスフォーメーションパターン (Transformation Pattern)] > [発呼側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)] <p>ヒント [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] および [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでは、 [発呼側 IE 番号タイプが不明 (Calling Party IE Number Type Unknown)] を設定できます。この設定項目を設定し、デフォルトの [Cisco CallManager] 以外のオプションを選択した場合、特定のゲートウェイを経由する発信コールの [発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の設定は、このフィールドの設定で上書きされます。</p>

[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定

この項は、次の内容で構成されています。

- 「[プレフィックス (Prefix)] フィールドの設定に関する考慮事項」 (P.8-20)
- 「[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定に関する考慮事項」 (P.8-21)
- 「着信発呼者の番号の設定」 (P.8-22)

[プレフィックス (Prefix)] フィールドの設定に関する考慮事項

表 8-7 で説明されているプレフィックス フィールドを設定する前に、次の事項を考慮してください。

- [デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、および [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウで、着信コール発信側の設定項目をすべて同時に削除するには、[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)] をクリックします。また、着信コール発信側の設定項目すべてに同時にデフォルト値を入力するには、[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)] をクリックします。
- [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに [デフォルト (Default)] と表示されている場合、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドは設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されているデバイスプールの [プレフィックス (Prefix)] フィールドと [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を使用します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに [デフォルト (Default)] と表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、着信コール発信側プレフィックスのサービスパラメータ設定を適用します。この設定は、プレフィックスと桁除去の両方の機能をサポートしています。
- [デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウで [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドを空白のままにするか、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに有効な設定値を入力する必要があります。これらのウィンドウで [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定する場合は、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と入力しないでください。
- プレフィックスがデバイスの着信コール発信側番号に適用されると、Cisco Unified Communications Manager は、コール自動転送、コールパーク、ボイスメール、CDR データなどの補足サービスをはじめ、コールに関連するその後のすべてのアクションで、発信側番号フィールドにプレフィックスを含めます。
- プレフィックスを設定しているにもかかわらず、空の発信側番号が到達した場合、Cisco Unified Communications Manager はプレフィックスを適用しません。たとえば、[ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] ドロップダウンリストボックスから [非許可 (Restricted)] を選択した場合、それが原因で空の発信側番号が到達します。
- Cisco Unified Communications Manager で桁を除去し、発信側番号にプレフィックスを適用しようとしたときにエラーが発生した場合、Cisco Unified Communications Manager は桁の操作もプレフィックスの適用も行いません。代わりに、Cisco Unified Communications Manager は、そのコールで到達した発信側番号を使用します。

- 着信プレフィックス フィールドは、桁除去フィールドとともに設定します（サービス プロバイダーが発信側番号に先行桁（たとえば、ゼロ）を付加している場合）。発信側番号から桁を除去する方法の詳細については、「[\[削除桁数 \(Strip Digits\) \] フィールドの設定に関する考慮事項](#)」(P.8-21) を参照してください。

[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定に関する考慮事項

サービス プロバイダーが発信側番号に先行桁（たとえば、ゼロ）を付加している状況で、これらの桁を除去してから他の桁を付加する必要がある場合（たとえば、先行桁が E.164 番号に含まれていないときに、発信側番号を E.164 形式に変換する場合）、[表 8-7](#) に示すフィールドを設定することによって、Cisco Unified Communications Manager で着信コール発信側番号にプレフィックスが適用される前に確実に先行桁が除去されるように指定できます。

Cisco Unified Communications Manager に発信側番号から除去させる先行桁数を設定する前に、次の事項を考慮してください。

- 桁を除去するには、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで Incoming Prefix サービス パラメータを設定するか、[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウで [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定します。この機能のサービス パラメータを設定する方法については、「[発信側の正規化のサービス パラメータの設定](#)」(P.8-16) を参照してください。
- [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに [デフォルト (Default)] と表示されている場合、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドは設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されているデバイスプールの [プレフィックス (Prefix)] フィールドと [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を使用します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに [デフォルト (Default)] と表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、着信コール発信側プレフィックスのサービス パラメータ設定を適用します。この設定は、プレフィックスと桁除去の両方の機能をサポートしています。
- [デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウで [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドを空白のままにするか、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに有効な設定値を入力する必要があります。これらのウィンドウで [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定する場合は、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と入力しないでください。
- Cisco Unified Communications Manager が除去できる桁数は最大 24 桁であることに注意してください。フィールドに 24 より大きい値（たとえば、26）を入力しても、Cisco Unified Communications Manager の管理はその設定値を許可しません。
- Cisco Unified Communications Manager に特定桁数の先行桁を除去させようとしたときに、発信側番号の全桁数が設定値以下の場合、Cisco Unified Communications Manager は全桁を除去しますが、プレフィックスは適用します（プレフィックスを設定している場合）。
- 発信側番号の全桁を超える桁数を Cisco Unified Communications Manager で除去するように設定した場合、Cisco Unified Communications Manager は発信側番号をクリアします（空白にします）。

- [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの値を設定しなかった場合、Cisco Unified Communications Manager は発信側番号から桁を除去しません。
- Cisco Unified Communications Manager で桁を除去し、発信側番号にプレフィックスを適用しようとしたときにエラーが発生した場合、Cisco Unified Communications Manager は桁の操作もプレフィックスの適用も行いません。代わりに、Cisco Unified Communications Manager は、そのコールで到達した発信側番号を使用します。

着信発呼者の番号の設定

表 8-7 に示す設定は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの次のウィンドウに表示されます。

- デバイス プール ([システム (System)] > [デバイスプール (Device Pool)]) : すべてのデジタル ゲートウェイおよびトランクに設定が適用されます (そのデバイスのデバイス プールを選択した場合)。
- ゲートウェイ ([デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)]) : H.323 ゲートウェイの設定ウィンドウと、MGCP (T1-PRI/BRI) および MGCP (E1-PRI/BRI) のポート ウィンドウ ([ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウ) に設定項目が表示されます。
- トランク ([デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)]) : SIP トランクを除く、すべてのトランクの設定ウィンドウに設定項目が表示されます。



ヒント SIP の [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウには [着信番号 (Incoming Number)] 設定項目だけが表示され、これは [不明 (Unknown)] 発呼側番号タイプに使用されます。

各設定ウィンドウでの設定手順については、次の項を参照してください。

- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[デバイスプールの設定値](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[ゲートウェイの設定](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[トランクの設定](#)」

表 8-7 デバイス プール、ゲートウェイ、およびトランクの着信発呼者の番号の設定

設定項目	説明
[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)]	すべての発呼側番号タイプのすべてのプレフィックスを削除するには、[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)] をクリックします。
[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)]	すべてのプレフィックス フィールドに同時にデフォルト値を入力するには、[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)] をクリックします。
[国内番号 (National Number)]	<p>発呼側番号タイプとして [国内 (National)] を使用する発信側番号をグローバル化するには、次の項目を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、このフィールドに入力されたプレフィックスを、発呼側番号タイプとして [国内 (National)] を使用する発信側番号に適用します。数字、国際エスケープ文字 +、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含む最大 8 文字までを入力できます。プレフィックスを入力する代わりに Default と入力できます。 <p>ヒント [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに [デフォルト (Default)] と表示されている場合、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドは設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されているデバイスプールの [プレフィックス (Prefix)] フィールドと [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を使用します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに [デフォルト (Default)] と表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、着信コール発信側プレフィックスのサービス パラメータ設定を適用します。この設定は、プレフィックスと桁除去の両方の機能をサポートしています。</p> <p>ヒント [デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウで [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドを空白のままにするか、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに有効な設定値を入力する必要があります。これらのウィンドウで [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定する場合は、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と入力しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager にプレフィックスの適用前に国内タイプの発信側番号から除去させる桁数を入力します。 [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : この設定は、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] および [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウに表示され、[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウには表示されません。デバイスに適用されているデバイス プールで設定された [国内番号 (National Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定では、デバイスで発呼側番号タイプが [国内 (National)] の発信側番号をグローバル化できます。選択するコーリング サーチ スペースに、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。

表 8-7 デバイス プール、ゲートウェイ、およびトランクの着信発呼者の番号の設定 (続き)

設定項目	説明
[国際番号 (International Number)]	<p>発呼側番号タイプとして [国際 (International)] を使用する発信側番号をグローバル化するには、次の項目を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、このフィールドに入力されたプレフィックスを、発呼側番号タイプとして [国際 (International)] を使用する発信側番号に適用します。数字、国際エスケープ文字 +、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含む最大 8 文字までを入力できます。プレフィックスを入力する代わりに Default と入力できます。 <p>ヒント [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに [デフォルト (Default)] と表示されている場合、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドは設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されているデバイス プールの [プレフィックス (Prefix)] フィールドと [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を使用します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに [デフォルト (Default)] と表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、着信コール発信側プレフィックスのサービス パラメータ設定を適用します。この設定は、プレフィックスと桁除去の両方の機能をサポートしています。</p> <p>ヒント [デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウで [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドを空白のままにするか、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに有効な設定値を入力する必要があります。これらのウィンドウで [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定する場合は、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と入力しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager にプレフィックスの適用前に国際タイプの発信側番号から除去させる桁数を入力します。 [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : この設定は、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] および [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウに表示され、[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウには表示されません。デバイスに適用されているデバイス プールで設定された [国際番号 (International Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定では、デバイスで発呼側番号タイプが [国際 (International)] の発信側番号をグローバル化できます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。 <p>ヒント デバイスは、コールが発生する前に、番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションパターンは照合されず、適用されません。発呼側トランスフォーメーションパターンは、必ず、ルーティングに使用されないヌル以外のパーティションに設定します。</p>

表 8-7 デバイス プール、ゲートウェイ、およびトランクの着信発呼者の番号の設定 (続き)

設定項目	説明
[加入者番号 (Subscriber Number)]	<p>発呼側番号タイプとして [加入者 (Subscriber)] を使用する発信側番号をグローバル化するには、次の項目を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、このフィールドに入力されたプレフィックスを、発呼側番号タイプとして [加入者 (Subscriber)] を使用する発信側番号に適用します。数字、国際エスケープ文字 +、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含む最大 8 文字までを入力できます。プレフィックスを入力する代わりに Default と入力できます。 <p>ヒント [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに [デフォルト (Default)] と表示されている場合、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドは設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されているデバイス プールの [プレフィックス (Prefix)] フィールドと [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を使用します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに [デフォルト (Default)] と表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、着信コール発信側プレフィックスのサービス パラメータ設定を適用します。この設定は、プレフィックスと桁除去の両方の機能をサポートしています。</p> <p>ヒント [デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウで [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドを空白のままにするか、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに有効な設定値を入力する必要があります。これらのウィンドウで [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定する場合は、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と入力しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager にプレフィックスの適用前に加入者タイプの発信側番号から除去させる桁数を入力します。 [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されているデバイス プールで設定された [加入者番号 (Subscriber Number)] フィールドのコーリング サーチスペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定では、デバイスで発呼側番号タイプが [加入者 (Subscriber)] の発信側番号をグローバル化できます。選択する CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。 <p>ヒント デバイスは、コールが発生する前に、番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーション パターンは照合されず、適用されません。発呼側トランスフォーメーションパターンは、必ず、ルーティングに使用されないヌル以外のパーティションに設定します。</p>

表 8-7 デバイス プール、ゲートウェイ、およびトランクの着信発呼者の番号の設定 (続き)

設定項目	説明
[不明な番号 (不明な番号)] (SIP の [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウには表示されません)	<p>発信側番号タイプとして [不明 (Unknown)] を使用する発信側番号をグローバル化するには、次の項目を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、このフィールドに入力されたプレフィックスを、発信側番号タイプとして [不明 (Unknown)] を使用する発信側番号に適用します。数字、国際エスケープ文字 +、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含む最大 8 文字までを入力できます。プレフィックスを入力する代わりに Default と入力できます。 <p>ヒント [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに [デフォルト (Default)] と表示されている場合、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドは設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されているデバイス プールの [プレフィックス (Prefix)] フィールドと [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を使用します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに [デフォルト (Default)] と表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、着信コール発信側プレフィックスのサービス パラメータ設定を適用します。この設定は、プレフィックスと桁除去の両方の機能をサポートしています。</p> <p>ヒント [デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウで [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドを空白のままにするか、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに有効な設定値を入力する必要があります。これらのウィンドウで [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定する場合は、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と入力しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager にプレフィックスの適用前に不明タイプの発信側番号から除去させる桁数を入力します。 [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : この設定は、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] および [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウに表示され、[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウには表示されません。デバイスに適用されているデバイス プールで設定された [不明な番号 (Unknown Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定では、デバイスで発信側番号タイプが [不明 (Unknown)] の発信側番号をグローバル化できます。選択する発信側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発信側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。 <p>ヒント デバイスは、コールが発生する前に、番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションパターンは照合されず、適用されません。発信側トランスフォーメーションパターンは、必ず、ルーティングに使用されないヌル以外のパーティションに設定します。</p>

表 8-7 デバイス プール、ゲートウェイ、およびトランクの着信発呼者の番号の設定 (続き)

設定項目	説明
[着信番号 (Incoming Number)] (SIP の [トランク の設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウにだけ表示されます)	<p>SIP トランクは、発呼側番号タイプ [不明 (Unknown)] だけをサポートしています。SIP トランクの場合だけ、発呼側番号タイプとして [不明 (Unknown)] を使用する発信側番号をグローバル化するには、次の項目を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、このフィールドに入力されたプレフィックスを、発呼側番号タイプとして [不明 (Unknown)] を使用する発信側番号に適用します。数字、国際エスケープ文字+、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含む最大 8 文字までを入力できます。プレフィックスを入力する代わりに Default と入力できます。 <p>ヒント [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに [デフォルト (Default)] と表示されている場合、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドは設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されているデバイス プールの [プレフィックス (Prefix)] フィールドと [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を使用します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに [デフォルト (Default)] と表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、着信コール発信側プレフィックスのサービス パラメータ設定を適用します。この設定は、プレフィックスと桁除去の両方の機能をサポートしています。</p> <p>ヒント [デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウで [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドを空白のままにするか、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに有効な設定値を入力する必要があります。これらのウィンドウで [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定する場合は、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と入力しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager にプレフィックスの適用前に不明タイプの発信側番号から除去させる桁数を入力します。 [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : この設定は、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] および [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウに表示され、[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウには表示されません。デバイスに適用されているデバイス プールで設定された [不明な番号 (Unknown Number)] フィールドのコーリングサーチスペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定では、デバイスで発呼側番号タイプが [不明 (Unknown)] の発信側番号をグローバル化できます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。 <p>ヒント デバイスは、コールが発生する前に、番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションパターンは照合されず、適用されません。発呼側トランスフォーメーションパターンは、必ず、ルーティングに使用されないヌル以外のパーティションに設定します。</p>

発信側番号をローカライズするための発呼側トランスフォーメーションコーリングサーチスペース (CSS) の適用

発呼側トランスフォーメーション CSS を設定する前に、たとえば、パーティションの設定、コーリングサーチスペースの設定など、発信側番号をローカライズするために必要な手順を理解しておく必要があります。詳細については、「[発信側の正規化の設定チェックリスト](#)」(P8-1) を参照してください。

表 8-8 では、発呼側トランスフォーメーション CSS の各種設定について説明し、設定値を割り当てる Cisco Unified Communications Manager の管理ページの設定ウィンドウを示します。

表 8-8 発信側番号をローカライズするための発呼側トランスフォーメーション CSS の設定

設定項目	説明
[発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)]	<p>この設定により、デバイスの発信側の番号をローカライズできるようになります。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>ヒント デバイスは、コールが発生する前に、番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。[発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションパターンは照合されず、適用されません。発呼側トランスフォーメーションパターンは、必ず、ルーティングに使用されないヌル以外のパーティションに設定します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager の管理ページ内の電話デバイスのタイプ、CTI ルートポイント、ゲートウェイ、リモート接続先プロファイル、およびトランクはすべて、それぞれに発信側番号をローカライズできます。したがって、Cisco Unified Communications Manager の管理の次の設定ウィンドウで、この設定項目にアクセスできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> デバイス プール ([システム (System)] > [デバイスプール (Device Pool)]) 電話 ([デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]) CTI ルートポイント ([デバイス (Device)] > [CTI ルートポイント (CTI Route Point)]) ゲートウェイ ([デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)]) : ゲートウェイのタイプに応じて、ポートの設定ウィンドウまたはゲートウェイの設定ウィンドウに表示されます。 トランク ([デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)]) リモート接続先プロファイル ([デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)])
[デバイスプールの発呼側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	<p>デバイスに割り当てられているデバイス プールで設定された発呼側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにすると、デバイスは、デバイスの設定ウィンドウで設定された発呼側トランスフォーメーション CSS を使用します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager の管理ページ内の電話デバイスのタイプ、CTI ルートポイント、ゲートウェイ、リモート接続先プロファイル、およびトランクはすべて、それぞれに発信側番号をローカライズできます。したがって、Cisco Unified Communications Manager の管理の次の設定ウィンドウで、この設定項目にアクセスできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 電話 ([デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]) CTI ルートポイント ([デバイス (Device)] > [CTI ルートポイント (CTI Route Point)]) ゲートウェイ ([デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)]) : ゲートウェイのタイプに応じて、ポートの設定ウィンドウまたはゲートウェイの設定ウィンドウに表示されます。 トランク ([デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)]) リモート接続先プロファイル ([デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)])

エンドユーザへの情報の提供

設定によっては、電話機ユーザがコールを発信する前に電話機のコールログディレクトリのエントリを編集する必要がない場合もあります。また、設定によっては、電話機のコールログディレクトリに国際エスケープ文字+が含まれることがあります。

関連項目

- 「発信側番号のグローバル化」 (P.8-5)
- 「発信側番号のローカライズ」 (P.8-8)
- 「グローバル発信側番号と対応するローカル番号のマッピング」 (P.8-9)
- 「システム要件」 (P.8-11)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.8-11)
- 「発信側の正規化のインストールとアクティブ化」 (P.8-15)
- 「発信側の正規化の設定チェックリスト」 (P.8-1)
- 「発信側の正規化のサービスパラメータの設定」 (P.8-16)
- 「発呼側番号タイプの設定」 (P.8-18)
- 「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」 (P.8-20)
- 「発信側番号をローカライズするための発呼側トランスフォーメーションコーリングサーチスペース (CSS) の適用」 (P.8-28)
- 「エンドユーザへの情報の提供」 (P.8-29)
- 「デバイスモビリティ」 (P.20-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「国際エスケープ文字+の使用」

参考資料

- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』
- 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』
- 『Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting Administration Guide』
- 『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド』
- ご使用の電話機とこのバージョンの Cisco Unified Communications Manager をサポートしている Cisco Unified IP Phone のマニュアル

■ 関連項目



CHAPTER 9

Cisco エクステンション モビリティ

Cisco エクステンション モビリティを使用すると、ユーザは別の Cisco Unified IP Phone から自分の Cisco Unified IP Phone の設定（ライン アピアランス、サービス、スピードダイヤルなど）に一時的にアクセスできます。エクステンション モビリティは、SCCP および SIP を実行する Cisco Unified IP Phone をサポートします。

エクステンション モビリティ機能は、ほとんどの Cisco Unified IP Phone に拡張されています。Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [デフォルトのデバイスプロファイル (Default Device Profile)] ウィンドウを使用することにより、Cisco エクステンション モビリティをサポートするように各 Cisco Unified IP Phone を設定できます。この設定により、特定の Cisco Unified IP Phone のユーザ デバイス プロファイルを持たないユーザが、その電話機で Cisco エクステンション モビリティを使用できます。



(注)

Cisco エクステンション モビリティがサポートされていることを確認するには、Cisco Unified IP Phone のマニュアルを参照してください。

この章では、Cisco エクステンション モビリティに関する次の情報を提供します。

- 「Cisco エクステンション モビリティの設定チェックリスト」 (P.9-2)
- 「Cisco エクステンション モビリティの概要」 (P.9-5)
- 「Cisco エクステンション モビリティのシステム要件」 (P.9-14)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.9-15)
- 「Cisco エクステンション モビリティの初回のインストール」 (P.9-18)
- 「Cisco エクステンション モビリティの設定」 (P.9-18)
- 「Cisco エクステンション モビリティ ユーザへの情報の提供」 (P.9-37)
- 「関連項目」 (P.9-38)

Cisco エクステンション モビリティの設定チェックリスト

Cisco エクステンション モビリティを使用すると、ユーザは別の Cisco Unified IP Phone から自分の Cisco Unified IP Phone の設定（ライン アピアランス、サービス、スピードダイヤルなど）に一時的にアクセスできます。

エクステンション モビリティ機能は、ほとんどの Cisco Unified IP Phone に拡張されています。Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [デフォルトのデバイスプロファイル (Default Device Profile)] ウィンドウを使用することにより、Cisco エクステンション モビリティをサポートするように各 Cisco Unified IP Phone を設定できます。この設定により、特定の Cisco Unified IP Phone のユーザ デバイス プロファイルを持たないユーザが、その電話機で Cisco エクステンション モビリティを使用できます。



(注) Cisco エクステンション モビリティがサポートされていることを確認するには、Cisco Unified IP Phone のマニュアルを参照してください。

表 9-1 に示す手順に従って、Cisco エクステンション モビリティを設定します。Cisco エクステンション モビリティの詳細については、「Cisco エクステンション モビリティの概要」(P.9-5) および「関連項目」(P.9-38) を参照してください。

表 9-1 Cisco エクステンション モビリティ の設定チェックリスト

	設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1	<p>Cisco Unified サービスアビリティを使用し、[Tools] > [Service Activation] の順に選択して、Cisco エクステンション モビリティ サービスを有効にします。</p> <p>(注) 任意のノードでエクステンション モビリティ サービスを無効にするには、まず [Service Activation] でそのノードに対してこのサービスを無効にする必要があります。</p> <p>(注) Cisco エクステンション モビリティ サービスの有効化または無効化時に（いずれかのノードで）変化があると、データベース テーブルでサービス URL の構築に必要な情報が更新されます。また、エクステンション モビリティ サービス パラメータが変更されたときにもデータベース テーブルが更新されます。変更通知は EMApp サービスで処理されます。</p>	<p>サービスのアクティブ化については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。</p>

表 9-1 Cisco エクステンション モビリティ の設定チェックリスト (続き)

	設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 2	<p>Cisco エクステンション モビリティ サービスを作成します。</p> <p>要約ステップは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [IP Phone サービス (Phone Services)] の順に選択します。 • サービスの名前を入力します (「エクステンション モビリティ サービス」、「EM」など)。 • 次の URL を入力します。 <pre>http://10.89.80.19:8080/emapp/ EMAppServlet?device=#DEVICENAME#</pre> <p>(注) URL を誤入力して電話機に誤ったサービスを登録した場合は、URL を訂正し、それを保存して [登録の更新 (Update Subscriptions)] を押します。または、URL を訂正し、誤ったサービスを登録した電話機を 1 台ずつ再登録します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [サービスカテゴリ (Service Category)] および [サービスタイプ (Service Type)] の値を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> - [サービスカテゴリ (Service Category)] では、[XML サービス (XML Service)] を選択します。 - [サービスタイプ (Service Type)] では、[標準 IP Phone サービス (Standard IP Phone Service)] を選択します。 • [サービスベンダー (Service Vendor)] の値を入力します (Java MIDlet サービスだけ)。 • [保存 (Save)] をクリックします。 <p>(注) Java MIDlet サービスの場合、サービス名とサービスベンダーは、Java Application Descriptor (JAD) ファイルで定義された値と正確に一致している必要があります。</p>	<p>「Cisco エクステンション モビリティ サービスの追加」 (P.9-20)</p>
ステップ 3	<p>管理パラメータを設定します。</p>	<p>「サービス パラメータの設定」 (P.9-21)</p>
ステップ 4	<p>Cisco エクステンション モビリティ をサポートする電話機タイプごとに、デフォルトのデバイス プロファイルを作成します。</p>	<p>「各 Cisco Unified IP Phone タイプのデフォルト デバイス プロファイルの作成」 (P.9-27)</p>

表 9-1 Cisco エクステンション モビリティ の設定チェックリスト (続き)

	設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 5	<p>ユーザのユーザ デバイス プロファイルを作成します。</p> <p>要約ステップは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [デバイスプロファイル (Device Profile)] の順に選択し、[新規追加 (Add New)] をクリックします。 • デバイス タイプを入力します。 • デバイス プロファイル名を入力し、電話ボタン テンプレートを選択し、[保存 (Save)] をクリックします。 • 電話番号 (DN) と必要な情報を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。これをすべての電話番号について繰り返します。 • このデバイス プロファイルに対してインターコム回線を有効にするには、このデバイス プロファイルに対してインターコム電話番号 (DN) を設定します。インターコム DN の設定は、[インターコム電話番号の設定 (Intercom Directory Number Configuration)] ウィンドウで行います。このウィンドウにアクセスするには、[コールルーティング (Call Routing)] > [インターコム (Intercom)] > [インターコム電話番号 (Intercom Directory Number)] の順に選択します。インターコム DN をアクティブにするには、[インターコム電話番号の設定 (Intercom Directory Number Settings)] ペインで [デフォルトのアクティブデバイス (default activated device)] を設定する必要があります。 • デバイス プロファイルを Cisco エクステンション モビリティに登録するには、[デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウで、(ウィンドウの右上隅にある) [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリスト ボックスから、[サービスの登録 / 登録解除 (Subscribe/Unsubscribe Services)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。 <p>(注) 同じエクステンション モビリティ サービスの電話番号およびデバイス プロファイルを登録してください。</p>	<p>「ユーザのデバイス プロファイルの作成」 (P.9-30)</p> <p>「インターコム電話番号の設定」 (P.28-33)</p>
ステップ 6	<p>ユーザにユーザ デバイス プロファイルを関連付けます。</p> <p>要約ステップは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] の順に選択し、[新規追加 (Add New)] をクリックして、ユーザ情報を入力します。 • エクステンション モビリティの使用可能なプロファイルで、ステップ 5 で作成したユーザ デバイス プロファイルを選択し、下矢印をクリックします。選択したサービスが [制御するプロファイル (Controlled Profiles)] ボックスに表示されます。 • [保存 (Save)] をクリックします。 	<p>「ユーザへのユーザ デバイス プロファイルの関連付け」 (P.9-33)</p>

表 9-1 Cisco エクステンション モビリティ の設定チェックリスト (続き)

	設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 7	<p>Cisco Unified IP Phone とユーザ デバイス プロファイルを設定し、Cisco エクステンション モビリティに登録します。</p> <p>要約ステップは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 電話機とそのユーザ デバイス プロファイルを Cisco エクステンション モビリティに登録します。 [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択し、[新規追加 (Add New)] をクリックします。 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [内線情報 (Extension Information)] で [エクステンションモビリティの有効化 (Enable Extension Mobility)] をオンにします。 [ログアウトプロファイル (Log Out Profile)] ドロップダウン リスト ボックスで [現在のデバイス設定を使用 (Use Current Device Settings)] または特定の設定済みプロファイルを選択し、[保存 (Save)] をクリックします。 Cisco エクステンション モビリティを Cisco Unified IP Phone に登録するには、ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスで [サービスの登録 / 登録解除 (Subscribe/Unsubscribe Services)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。 	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」</p> <p>「Cisco エクステンション モビリティへの Cisco Unified IP Phone の登録」 (P.9-34)</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「現在ログイン中のデバイスの検索」</p>
ステップ 8	<p>Cisco エクステンション モビリティ エンド ユーザが電話機のユーザ PIN を変更できるようにするには、Change Credential 電話サービスを使用して、Change Credential Cisco Unified IP Phone サービスを設定し、ユーザ、ユーザ デバイス プロファイル、または Cisco Unified IP Phone を関連付けます。</p>	<p>「Change Credential IP Phone サービスの設定」 (P.9-36)</p>

Cisco エクステンション モビリティの概要

この項では、機能の設定およびトラブルシューティングができるように、Cisco エクステンション モビリティの理解を深めます。

- 「デバイス プロファイルについて」 (P.9-6)
- 「Cisco エクステンション モビリティの概要」 (P.9-6)
- 「ログインおよびログアウトの動作」 (P.9-9)
- 「ログインおよびログアウトの動作」 (P.9-9)
- 「ログインのコールフロー」 (P.9-10)
- 「ログアウトのコールフロー」 (P.9-11)
- 「エクステンション モビリティ等価機能」 (P.9-12)

デバイス プロファイルについて

デバイス プロファイルは、特定のデバイスの属性を定義します。デバイス プロファイルには、電話機のテンプレート、ユーザ ロケール、登録されているサービス、スピードダイヤルなどの情報が含まれています。

デバイス プロファイルは物理的な電話機には関連付けられていません。デバイス プロファイルには、MAC アドレスやディレクトリ URL など明示的にデバイスに関係するプロパティを除く、すべてのデバイス プロパティが含まれています。

デバイス プロファイルがデバイスにロードされると、そのデバイスはデバイス プロファイルの属性を取得します。

ユーザのデバイス プロファイル

システム管理者として、各ユーザのデバイス プロファイルを設定します。ユーザは、Cisco Unified CM のユーザ オプションのウィンドウを使用して、このプロファイルにアクセスしたり、サービスの追加などの変更を行うことができます。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ユーザのデバイス プロファイルを追加、変更、および削除できます。

Cisco エクステンション モビリティ用に設定された電話機にログインする際、その電話機用に設定されたユーザ デバイス プロファイルがユーザにある場合は、そのユーザ デバイス プロファイルによってデバイスの既存の設定が置換されます。

ユーザがログアウトすると、ユーザ デバイス プロファイルはログアウト プロファイルに置き換えられます。

デフォルトのデバイス プロファイル

Cisco エクステンション モビリティをサポートする Cisco Unified IP Phone ごとに、デフォルトのデバイス プロファイルを設定できます。ユーザがユーザ デバイス プロファイルを持たない電話機にログインした場合、電話機は必ずデフォルトのデバイス プロファイルを使用します。

デフォルトのデバイス プロファイルには、デバイス タイプ（電話機）、ユーザ ロケール、電話ボタンテンプレート、ソフトキーテンプレート、Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報が含まれています。

[デフォルトのデバイスプロファイル設定 (Default Device Profile Configuration)] ウィンドウ ([デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [デフォルトのデバイスプロファイル (Default Device Profile)]) を使用して、デフォルトのデバイス プロファイルを作成します。電話機にはデフォルトのデバイス プロファイルがまったくないか、1 つあります。デフォルトのデバイス プロファイルの最大数が、Cisco エクステンション モビリティをサポートする電話機の数を超えることはできません。

Cisco エクステンション モビリティの概要

Cisco エクステンション モビリティ (XML ベースの認証機能) は、Cisco エクステンション モビリティ アプリケーションおよび Cisco エクステンション モビリティ サービスで構成されています。Cisco エクステンション モビリティ (EM) を有効にするには、Cisco Unified サービスアビリティ から EM サービスをアクティブにする必要があります。

Cisco エクステンション モビリティ サービスは、Cisco Tomcat Web Service 上でアプリケーションとして動作します。

サービスは、[Cisco Unified サービスアビリティ] > [Service Activation] で有効 / 無効にすることができます。詳細については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。



(注) Cisco エクステンション モビリティは、1 つの Cisco Unified Communications Manager クラスタ内の電話機でだけ動作します。



(注) Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティは、異なる複数の Cisco Unified Communications Manager クラスタ内にある電話機で動作します。Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ機能の詳細については、「[Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ](#)」の章を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して、Cisco エクステンション モビリティ サービスを開始し (Cisco Unified サービスアビリティ Administration で)、[システムパラメータ (System Parameters)] ウィンドウ ([システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)]) を使用して、各機能がシステムでどのように動作するかを定義し、[デフォルトのデバイスプロファイル (Default Device Profile)] ウィンドウ ([デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [デフォルトのデバイスプロファイル (Default Device Profile)]) を使用して、機能をサポートする電話機を定義します。

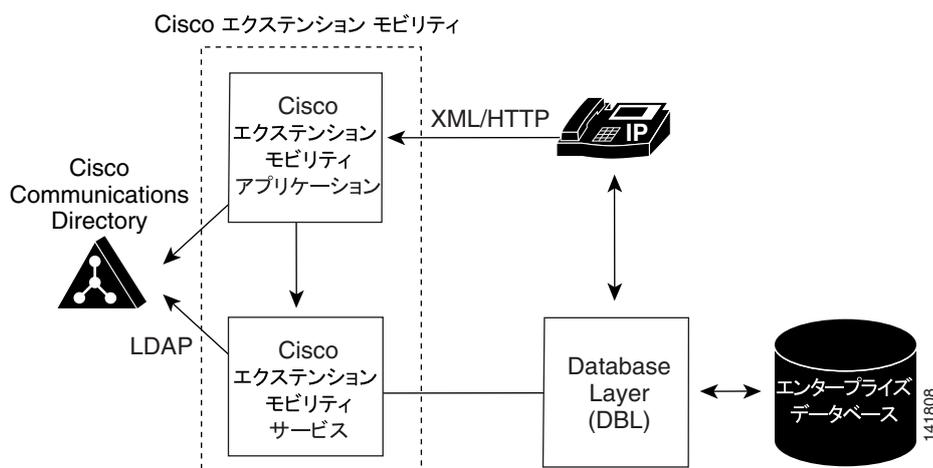
システム管理者として、各ユーザのデバイス プロファイルを設定します。ユーザは、Cisco Unified CM のユーザ オプションのウィンドウを使用して、このプロファイルにアクセスしたり、Cisco エクステンション モビリティのようなサービスの追加などの変更を行うことができます。

ユーザは、Cisco Unified IP Phone のサービス ボタンまたはアプリケーション ボタンを押して Cisco エクステンション モビリティにアクセスし、Cisco Unified Communications Manager ユーザ ID および Personal Identification Number (PIN; 個人識別番号) のフォームにログイン情報を入力します。ユーザに複数のユーザ デバイス プロファイルがある場合は、Cisco エクステンション モビリティで使用するデバイス プロファイルの選択を求めるプロンプトが電話機に表示されます。

ユーザの電話機が Change Credential IP Phone サービスに登録されている場合、そのユーザは、Change Credential IP Phone サービスを使用して、ユーザの PIN を変更できます。

ユーザがログインすると、Cisco エクステンション モビリティ アプリケーションはユーザ認証用の XML-over-HTTP 要求を受け取り、Cisco Unified Communications Manager Directory に対して情報を確認します (図 9-1 を参照)。

図 9-1 Cisco エクステンション モビリティ



認証の際、ログインプロファイルがログインデバイスと一致すると（つまり、Cisco Unified IP Phone 7975 用に設定されたユーザデバイスプロファイルを持つユーザが Cisco Unified IP Phone 7975 にログインすると）、Cisco エクステンション モビリティは次のように動作します。

- 電話機は、個別のユーザデバイスプロファイル情報を使用して自動的に再設定されます。ユーザにユーザデバイスプロファイルが1つある場合は、システムはこのプロファイルを使用します。ユーザデバイスプロファイルが複数ある場合、ユーザは使用するユーザデバイスプロファイルをリストから選択できます。
- ユーザは、デバイスプロファイルで設定したサービスをすべて使用できます。

同じユーザが設定済みのユーザデバイスプロファイルを持たずに Cisco Unified IP Phone にログインした場合は、認証時にログインプロファイルがログインデバイスと一致しません。このシナリオでは、その電話機モデルのデフォルトのデバイスプロファイルが電話機にロードされ、Cisco エクステンション モビリティが次のように動作します。

- システムは、デバイスに依存しない設定（つまり、ユーザ保留音源、ユーザロケール、ユーザID、スピードダイヤル、「このデバイスの回線設定」の設定を除く電話番号設定）をすべて、ユーザデバイスプロファイルからログインデバイスへコピーします。
- システムは、電話テンプレートとソフトキーテンプレートの設定にその電話機のデフォルトのデバイスプロファイルを使用し、電話機がアドオンモジュールをサポートできる場合にはアドオンモジュールにもデフォルトを使用します。
- ログインデバイスが電話ボタンテンプレートの機能セーフをサポートしており、ログインプロファイルで設定されている電話テンプレートがボタンの数と一致する場合、システムはログインプロファイルの電話テンプレートを使用します。一致しない場合、システムは電話機のデフォルトのデバイスプロファイルを使用して電話テンプレートを設定します。
- 電話機が Cisco Unified IP Phone サービスをサポートし、サービスが設定されている場合は、ユーザデバイスプロファイルからサービスがコピーされます。

ユーザデバイスプロファイルに Cisco Unified IP Phone サービスが設定されていない場合、システムはログイン時にアクセスされるログインデバイス用の、デフォルトのデバイスプロファイルで設定されている Cisco Unified IP Phone サービスを使用します。加入者サービス用のパラメータが存在する場合、システムはパラメータをデフォルトのデバイスプロファイルからコピーするので、パラメータが正しい情報を反映していないことがあります。

たとえば、Cisco Unified IP Phone 7975 用に設定されたユーザデバイスプロファイルを持つユーザが Cisco Unified IP Phone 7906 にログインし、デフォルトのデバイスプロファイルが電話機にロードされる場合、次のようなシナリオが発生します。

- ユーザは、ユーザの保留音源、ユーザロケール、ユーザID、スピードダイヤル、電話番号設定にアクセスできます。ユーザは電話回線設定にはアクセスできません。システムは、Cisco Unified IP Phone 7906 用に設定されたデフォルトのデバイスプロファイルから電話回線設定を行っています。
- ユーザは、Cisco Unified IP Phone 7906 の電話テンプレートとソフトキーテンプレートにアクセスできます。
- Cisco Unified IP Phone 7906 はアドオンモジュールをサポートしていないため、ユーザはアドオンモジュールにアクセスできません。
- Cisco Unified IP Phone サービスが Cisco Unified IP Phone 7906 用に設定されている場合、ユーザはサービスにアクセスできますが、加入者サービスのパラメータは、Cisco Unified CM のユーザオプションのウィンドウでユーザが選択したパラメータではなく、デフォルトのデバイスプロファイルを反映します。

ユーザは、サービスボタンを押し、ログアウトを選択して Cisco エクステンション モビリティからログアウトします。ユーザが自分でログアウトしない場合は、サービスパラメータを設定しておく、システムが自動的にユーザをログアウトします。あるいは、電話機の次のユーザが前のユーザをログアウトさせることもできます。ログアウト後、Cisco Unified Communications Manager はログアウトプロファイルを電話機に送信し、電話機を再起動します。

ログインおよびログアウトの動作

この項では、ユーザの視点からログインおよびログアウトの動作について説明します。ユーザからの質問への回答や問題の対処に、この情報を活用してください。

- 作業日の始めに電話機にログインするよう、ユーザに指示することをお勧めします。これを実行すると、ユーザ デバイス プロファイルがユーザの電話機に確実にロードできます。
- ユーザが Cisco Unified CM のユーザ オプションのウィンドウでプロファイルを変更した場合は、ユーザが次にログインするときに変更が適用されます。
- すでにユーザがログインしている場合は変更が適用されません。
- ログイン ユーザまたはプロファイルに関連付けられたユーザ ロケールがロケールまたはデバイスと異なる場合、正常にログインした後、電話機は再起動後にリセットされます。これは、電話機の設定ファイルが再構築されるためです。プロファイルとデバイス間でアドオン モジュールが一致しない場合も同じ動作をすることがあります。
- Cisco エクステンション モビリティは、1 分間あたり最大 250 回のログインまたはログアウト操作（1 時間あたり 15,000 回の操作）をサポートします。これらの操作は、並行して発生することはなく逐次的です（デバイスの中には、1 時間あたりにより多くのログインまたはログアウト操作をサポートするものもあります）。
- 制限時間を設定すると、Cisco エクステンション モビリティが、クラスタ全体で一定時間を過ぎたユーザを自動的にログアウトすることができます。[Enforce Maximum Login Time] で [True] を選択し、ログインの最長時間を指定して最長ログイン時間を設定します。
「サービス パラメータの設定」(P.9-21) を参照してください。
- サービス パラメータを設定して複数のログインを許可できます。複数のログインを許可しないように設定した場合、Cisco エクステンション モビリティは 1 回につき 1 人のユーザのログインだけをサポートします。最初のデバイスでユーザがログアウトするまで、その他のデバイスへの後続のログインはできません。
- Auto Logout が無効で、ユーザが電話機からのログアウトを忘れた場合は、システム管理者がそのユーザをログアウトできます。次のユーザがログインするときに、そのユーザをログアウトさせることもできます。
- ログアウト プロファイルによっては、Cisco エクステンション モビリティ機能が設定されている Cisco Unified IP Phone からログアウトしたユーザは、ログインしない限りその電話機からのボイスメールシステムを確認できない場合があります。メッセージ ボタンまたはタッチトーン キーパッドのいずれかのキーを押した後にビジー音が聞こえる場合は、電話機を使用する前にログインする必要があります。
- ユーザはオフフックの電話機にログインできます。ただし、Cisco Unified IP Phone はオンフックになるまでユーザの設定を受け入れません。ログイン後にオンフックになると、電話機に「Resetting...」メッセージが表示され、ユーザの電話設定をその電話機で使用できるようになります。
- ユーザの Cisco エクステンション モビリティ プロファイルには、呼び出し音タイプ、コントラストの設定、および音量の設定は保持されません。これらの設定は Cisco Unified IP Phone で直接行います。
- Cisco エクステンション モビリティ ユーザがデバイスからログアウトすると、その Cisco エクステンション モビリティ ユーザに対してアクティブになっているすべての折返しサービスは自動的に無効となります。

追加情報

「関連項目」(P.9-38) を参照してください。

ログインのコールフロー

この項では、Cisco エクステンション モビリティのログインのイベントフローを、システムの側から説明します。コールフローを理解すると、機能に問題が発生した場合のトラブルシューティングに役立ちます。

1. ユーザは Cisco Unified IP Phone のサービス ボタンまたはアプリケーション ボタンを押して、ログインを要求します。この操作によって、Cisco エクステンション モビリティ アプリケーションの URL が呼び出されます。
2. アプリケーションによってサービスの URL が決定されます。
3. Cisco エクステンション モビリティ アプリケーションは、フォーマットした XML/HTTP クエリーを Cisco エクステンション モビリティ サービスに送信し、その電話機の状態を判断します。
4. アプリケーションがユーザにユーザ ID および PIN の入力を求めます。ユーザがユーザ ID および PIN を入力し、[サブミット] ソフトキーを押します。
5. 電話機が HTTP 要求を実行し、アプリケーションがユーザ ID および PIN の認証を試みます。
6. ユーザ ID および PIN が認証されない場合は、電話機に「Authentication Error.」と表示されます。

ユーザ ID および PIN が認証された場合は、アプリケーションが Cisco Unified Communications Manager データベースをクエリーして、ユーザに関連付けられているデバイス プロファイルのリストを取得します。

7. ディレクトリが応答し、ユーザ デバイス プロファイル (複数) が表示されます。リストに複数のエントリがある場合、電話機にはユーザが選択できるデバイス プロファイルが表示されます。
8. ユーザがこのリストからエントリを選択すると (またはリストにエントリが 1 つだけの場合)、アプリケーションはサービス用に XML を生成します。
9. アプリケーションは、生成された XML ログイン要求を HTTP 経由でサービス URL へ送信します (アプリケーションはステップ 2 でサービス URL を決定します)。
10. サービスが、要求に対して定義済みの XML 形式で、ユーザ デバイス プロファイルのロードの再開 (成功を示します) または失敗メッセージで応答します。
11. アプリケーションが正しい通知をデバイスに返します。電話機がユーザ デバイス プロファイルで再起動します。
12. Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウ ([デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]) には、該当するエンドユーザ プロファイルおよびデバイス プロファイルの設定ウィンドウへのリンクとともに、[現在のエンドユーザプロファイル (Current End User Profile)] と [現在のデバイスプロファイル (Current Device Profile)] が表示されます。



- (注) [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでは、ユーザが電話機にログインしたときに、デバイスの回線番号は変わりません。ログインしているユーザがいないときも、電話機に割り当てられた回線番号が引き続き表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.9-38) を参照してください。

ログアウトのコールフロー

この項では、Cisco エクステンション モビリティのログアウトのイベントフローを、システムの側から説明します。コールフローを理解すると、Cisco エクステンション モビリティ機能に問題が発生した場合のトラブルシューティングに役立ちます。

1. ユーザは Cisco Unified IP Phone のサービス ボタンまたはアプリケーション ボタンを押して、ログアウトを要求します。この操作によって、Cisco エクステンション モビリティアプリケーションの URL が呼び出されます。
2. アプリケーションによってサービスの URL が決定されます。



(注) Cisco エクステンション モビリティは、最初のインスタンスだけ Cisco Unified Communications Manager Directory 内の URL を検索します。URL は、静的変数として保存されます。

3. アプリケーションは XML を生成し、Cisco エクステンション モビリティ サービスに現在のデバイスの状態をクエリーします。
4. サービスがアプリケーションに現在のデバイスの状態を返します (たとえば、「<ユーザ ID> がログインしました。」)。
5. アプリケーションは、ユーザにログアウトの確認をします。
6. ユーザが [Yes] ソフトキーを押してログアウトを確定すると、アプリケーションはログアウト操作として XML を生成します。
7. アプリケーションは、生成された XML ログイン要求を HTTP 経由でサービス URL へ送信します (アプリケーションはステップ 2 でサービス URL を決定します)。
8. 操作が正常に終了すると、電話機が再起動され、適切なデバイス プロファイルがロードされます。障害が発生すると、メッセージが電話機に送信されます。
9. アプリケーションは受け取った XML を解析し、XML 応答メッセージを作成します。
10. 適合する通知として XML がデバイスに返され、電話機が再起動され、元のユーザ プロファイルまたはログアウト プロファイルがロードされます。
11. Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウ ([デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]) には、[現在のエンドユーザプロファイル (Current End User Profile)] と [現在のデバイスプロファイル (Current Device Profile)] が表示されなくなります。



(注) [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでは、ユーザが電話機からログアウトしたときに、デバイスの回線番号は変わりません。ログインしているユーザがいないときも、電話機に割り当てられた回線番号が引き続き表示されます。

エクステンション モビリティ 等価機能

Cisco エクステンション モビリティ (EM) 等価機能により、電話ボタン テンプレートの電話機モデル依存が解消されます。次の要因により、さまざまな電話機間のモデル等価機能が決まります。

- 電話機モデルがサポートする各種機能
- 電話機モデルがサポートするボタンの数

EM 等価機能では、Cisco Unified IP Phone に関する次の機能をサポートしています。

- 電話ボタン テンプレートの機能セーフ：電話機には、電話機モデルがサポートする回線ボタン数と同じ数のボタンを持つ、任意の電話ボタン テンプレートを使用できます。
- 電話ボタン テンプレートのサイズセーフ：この機能を使用すると、ユーザは、システムに設定されている任意の電話ボタン テンプレートを使用できます。

Cisco Unified Communications Manager は、既存のエクステンション モビリティ (EM) 等価メカニズムを拡張し、次の電話機タイプで動作するようにします。

- 電話ボタン テンプレートの機能セーフ：SCCP プロトコルと SIP プロトコルの場合、機能セーフ機能をサポートしている Cisco Unified IP Phone モデルは、7931、7941、7941G-GE、7942、7945、7961G-GE、7962、7965、7975 です。SIP プロトコルだけの場合、機能セーフ機能をサポートしている Cisco Unified IP Phone モデルは、8961、9951、9971 です。



(注) 電話ボタン テンプレートの機能セーフ機能は、Cisco Unified IP Phone 7960 または 7940 よりも新しいモデルで設定された EM プロファイルの使用をサポートしていません。

- 電話ボタン テンプレートのサイズセーフ：SCCP プロトコルと SIP プロトコルの場合、サイズセーフ機能をサポートしている Cisco Unified IP Phone モデルは、7906、7911、7931、7941、7941G-GE、7942、7945、7961、7961G-GE、7962、7965、7975 です。

拡張機能は、等価であるすべての電話機モデルで動作し、機能を有効にするための管理作業は必要ありません。



(注) サポートされる電話機モデルのリストは、バージョンおよびデバイス パックごとに異なります。現在のインストールでこれらの機能がサポートされている電話機モデルの全リストを取得するには、Cisco Unified Reporting にログインします。Cisco Unified Reporting で、[Unified CM Phone Feature List] システム レポートを選択します。このシステム レポートを生成するとき、[Product] ドロップダウン リスト ボックスで [All] を指定します。[Feature] ドロップダウン リスト ボックスで、[Feature Safe on Phone Template] または [Size Safe on Phone Template] を選択します。

機能セーフ設定のシナリオ

1. [ユーザデバイスプロファイルの設定 (User Device Profile Configuration)] ウィンドウ ([デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [デバイスプロファイル (Device Profile)]) を使用して、7975 のユーザ デバイス プロファイルを作成します。7965 ユーザ デバイス プロファイルに *User Profile Test* という名前を付けます。7965 電話ボタン テンプレートを使用し、次の行を含むように、このプロファイルを設定します。
 - DN : 1050、1051、および 1052
 - スピードダイヤル : 5051、5052、5053、5054、および 5055
2. [ユーザの設定 (User Configuration)] ウィンドウ ([ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)]) を使用して、ユーザを作成します。ユーザに *cisco* という名前を付け、このユーザに User Profile Test ユーザ デバイス プロファイルを関連付けます。

3. [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウ ([デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]) を使用して、Cisco Unified IP Phone 7965 および Cisco Unified IP Phone 7975 にエクステンション モビリティを設定します。Standard 電話ボタン テンプレートを使用するよう各電話機を設定します。
4. ユーザが User Profile Test ユーザ デバイス プロファイルで Cisco Unified IP Phone 7965 にログインすると、すべての回線 (DN) とスピードダイヤルが電話スクリーンに表示されます。
5. Cisco Unified IP Phone 7975 は電話ボタン テンプレートの機能セーフをサポートしているので、ユーザが User Profile Test ユーザ デバイス プロファイルで電話機にログインすると、すべての回線 (DN) とスピードダイヤルが電話スクリーンに表示されます。

サイズ セーフ機能

電話ボタン テンプレートのサイズ セーフが電話機モデルでサポートされている場合、任意の電話ボタン テンプレートをその電話機モデルに関連付けることができます。電話機に表示される実際の電話ボタン レイアウトは、定義されている電話ボタン テンプレートと同じ順序となります。電話機モデルのボタンが電話ボタン テンプレートよりも多い場合は、定義済みのすべてのボタンが表示されます。電話機モデルのボタンが定義済みの電話ボタン テンプレートよりも少ない場合は、その電話機で使用可能なボタンだけが表示されます。

たとえば、Cisco Unified IP Phone 7961 電話ボタン テンプレートでは、次のボタンが定義されています。

- 回線 1
- 回線 2
- SD1
- SD2
- 回線 3
- 回線 4

この電話ボタン テンプレートが Cisco Unified IP Phone 7942 に割り当てられた場合、実際の電話ボタン レイアウトは次のようになります。

- 回線 1
- 回線 2

テンプレートの残りの部分は、ボタンが使用できないため表示されません。

この電話ボタン テンプレートが Cisco Unified IP Phone 7975 に割り当てられた場合、実際の電話ボタン レイアウトは次のようになります。

- 回線 1
- 回線 2
- SD1
- SD2
- 回線 3
- 回線 4
- Undefined
- Undefined

このように、電話機モデルが電話ボタン テンプレートのサイズ セーフ機能をサポートしている場合は、ログイン プロファイル モデルに関係なく、ログイン プロファイルで定義されているのと同じ順序で電話ボタン テンプレート レイアウトがユーザに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.9-38) を参照してください。

Cisco エクステンション モビリティのシステム要件

ソフトウェア コンポーネント

このバージョンの Cisco エクステンション モビリティが動作するには、次のソフトウェア コンポーネントが必要です。

- Cisco Unified Communications Manager 8.0 以降



(注)

Cisco エクステンション モビリティは、Cisco Unified Communications Manager がインストールされているサーバと同じサーバに自動的にインストールされます。追加のサーバは不要です。Cisco エクステンション モビリティは、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内の任意のサーバで実行できます。

- Netscape 7.1、Internet Explorer 6、または Internet Explorer 7 (Cisco Unified Communications Manager の管理ページ用)。
- TFTP サーバに到達可能であること。オプションで、TFTP と Cisco Unified Communications Manager を同じサーバにインストールできます。

エクステンション モビリティ機能は、ほとんどの Cisco Unified IP Phone に拡張されています。Cisco エクステンション モビリティがサポートされていることを確認するには、Cisco Unified IP Phone のマニュアルを参照してください。次の URL を参照してください。

- http://www.cisco.com/en/US/partner/products/ps10326/products_user_guide_list.html
- http://www.cisco.com/en/US/partner/products/hw/phones/ps379/products_user_guide_list.html
- http://www.cisco.com/en/US/partner/products/ps10451/products_user_guide_list.html
- http://www.cisco.com/en/US/partner/products/ps10453/products_user_guide_list.html

不在転送のコーリング サーチ スペースに関する下位互換性

不在転送の Calling Search Space (CSS; コーリング サーチ スペース) の機能拡張により、Cisco エクステンション モビリティを使用しているお客様は、現行の機能を維持したまま、上位リリースの Cisco Unified Communications Manager にアップグレードできます。

この機能拡張は、CFA CSS Activation Policy サービス パラメータでサポートされています。このパラメータは、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウ ([システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)]) の [Clusterwide Parameters (Feature - Forward)] セクションに表示され、次の 2 つのオプションがあります。

- With Configured CSS (デフォルト)
- With Activating Device/Line CSS

不在転送の設定オプションの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話番号の設定」の章と、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「電話番号の概要」の章を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.9-38) を参照してください。

インタラクションおよび制限事項

次の各項では、Cisco エクステンション モビリティが他の Cisco Unified Communications Manager サービスと相互に通信する方法、および Cisco エクステンション モビリティに適用される制限事項について説明します。

- 「[インタラクション](#)」 (P.9-15)
- 「[制限事項](#)」 (P.9-17)

インタラクション

次の項では、Cisco エクステンション モビリティが Cisco Unified Communications Manager アプリケーションと通信する方法について説明します。

- 「[同じサーバ上で動作する Cisco Unified Communications Manager サービス](#)」 (P.9-15)
- 「[一括管理ツール](#)」 (P.9-15)
- 「[Cisco Unified Communications Manager Assistant](#)」 (P.9-15)
- 「[Call Display Restrictions 機能](#)」 (P.9-16)
- 「[インターコム](#)」 (P.9-16)
- 「[インターネット プロトコル バージョン 6 \(IPv6\)](#)」 (P.9-16)

同じサーバ上で動作する Cisco Unified Communications Manager サービス

Cisco エクステンション モビリティは、同じ Cisco Unified Communications Manager サーバで、Cisco Unified Communications Manager Assistant および CDR Analysis and Reporting (CAR) とともに実行できます。

一括管理ツール

一括管理ツール (BAT) を使用すると、一度に複数の Cisco エクステンション モビリティのユーザ デバイス プロファイルを追加および削除できます。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド*』を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」 (P.9-38) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager Assistant

Cisco エクステンション モビリティを使用するマネージャは、同時に Cisco Unified Communications Manager Assistant も使用できます。マネージャは、Cisco エクステンション モビリティを使用して Cisco Unified IP Phone にログインし、Cisco IP Manager Assistant サービスを選択します。Cisco IP Manager Assistant サービスが起動すると、マネージャはアシスタントおよびすべての Cisco Unified Communications Manager Assistant 機能 (コールフィルタリングやサイレントなど) にアクセスできます。Cisco Unified Communications Manager Assistant の詳細については、「[プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant](#)」の章を参照してください。

Call Display Restrictions 機能

Cisco エクステンション モビリティでコール表示制限を有効にした場合、Cisco エクステンション モビリティは通常どおりに機能します。つまり、ユーザがデバイスにログインしているとき、コール情報の表示または制限は、そのユーザに関連付けられたユーザ デバイス プロファイルに依存します。ユーザがログアウトすると、コール情報の表示または制限は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウ ([デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]) でその電話機のタイプに対して定義された設定によって決まります。

Cisco エクステンション モビリティでコール表示制限を使用するには、[デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウ ([ユーザのデバイス プロファイルの作成] (P.9-30) を参照) および [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウ ([Cisco エクステンション モビリティへの Cisco Unified IP Phone の登録] (P.9-34) を参照) の両方で [プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] を有効にします。

コール表示制限機能の詳細については、「Call Display Restrictions 機能」の章を参照してください。

インターコム

Cisco エクステンション モビリティでは、インターコム機能をサポートしています。このサポートのために、Cisco エクステンション モビリティでは、インターコム回線用に設定されたデフォルト デバイスが使用されます。インターコム回線はデフォルト デバイスにだけ表示されます。

インターコム回線をデフォルト プロファイルに割り当てることができます。デフォルト デバイス以外のデバイスにログインした場合、インターコム回線は表示されません。

Cisco エクステンション モビリティのインターコムを検討する場合は、次の追加事項も考慮してください。

- デバイスに割り当てられたインターコム回線がすでに存在する場合、Cisco Unified Communications Manager をリリース 6.0(1) からリリース 6.1(1) 以降に移行すると、そのインターコム回線にはインターコム デフォルト デバイスが自動的に指定されます。
- Cisco Unified Communications Manager がインターコム回線をデバイスに割り当てる場合、デフォルト デバイスの値が空になっているときは、現在のデバイスがデフォルト デバイスとして選択されます。
- インターコム DN の割り当てをプログラムによって AXL から行う場合は、別途、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用してデフォルト デバイスを設定することにより、インターコム DN を更新する必要があります。
- インターコム回線用のインターコム デフォルト デバイスとして設定されたデバイスを削除する場合、削除が完了した後は、インターコム デフォルト デバイスをその削除済みデバイスに設定できなくなります。

インターネット プロトコルバージョン 6 (IPv6)

Cisco エクステンション モビリティでは IPv4 がサポートされるため、[IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv6 のみ (IPv6 Only)] の電話機は Cisco エクステンション モビリティで使用できません。その電話機で Cisco エクステンション モビリティを使用する場合は、その電話機の [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] を [IPv4 のみ (IPv4 Only)] または [IPv4 と IPv6(IPv4 and IPv6)] に設定します。IPv6 の詳細については、「インターネット プロトコルバージョン 6 (IPv6)」(P.29-1) を参照してください。

制限事項

Cisco エクステンション モビリティには、次の制限事項があります。

- Cisco エクステンション モビリティは、1 つの Cisco Unified Communications Manager クラスター内の電話機でだけ動作します。
- ユーザがログインしたときに表示される文字は、電話機の現在のロケールによって異なります。たとえば、電話機が English ロケールを使用している場合（電話機のログアウトプロフィールに基づく）、ユーザ ID には英字だけを入力できます。
- Cisco エクステンション モビリティがログイン ユーザ ID としてサポートする特殊文字は、電話機から入力できる記号に限られます。サポート対象の文字は、. (ピリオド)、@、~、*、&、%、#、+、\$、¥、ユーロ記号、シャープ記号です。
- ログイン ユーザまたはプロフィールに関連付けられたユーザ ロケールがロケールまたはデバイスと異なる場合、正常にログインした後、電話機は再起動後にリセットされます。これは、電話機の設定ファイルが再構築されるためです。プロフィールとデバイス間で一致しないアドオン モジュールは同じ動作をする場合があります。
- Cisco エクステンション モビリティにログインするには、物理的な Cisco Unified IP Phone が必要です。Cisco エクステンション モビリティで設定されているオフィスの電話機のユーザは、自分の電話機にリモートでログインできません。
- Cisco エクステンション モビリティ ユーザがデバイスからログアウトすると、その Cisco エクステンション モビリティ ユーザに対してアクティブになっているすべての折返しサービスは自動的に無効となります。
- Cisco Unified CallManager Release 4.x から Cisco Unified Communications Manager リリース 6.0 以降への移行が終了した後、ユーザが初めてログインするまで、前回のログイン ユーザ ID は電話機に表示されません。サービス パラメータ「Remember the Last User Logged In」が [True] に設定されていると、ユーザが電話機にログインするたびに Cisco エクステンション モビリティは前回のログイン ユーザ ID を表示します。この表示は、ハードディスク上のファイルに基づいて行われます。リリース 4.x からリリース 6.0 以降への移行では、このファイルはデータベースに移行されないため、前回のログイン ユーザのユーザ ID は表示されません。
- Cisco エクステンション モビリティが停止または再起動された場合、ログイン済みのユーザは、ログアウト間隔が満了しても自動ログアウトされません。この場合、電話機では自動ログアウトが 1 日に 1 度だけ行われます。このようなユーザについては、電話機または Cisco Unified Communications Manager の管理ページから手動でログアウトできます。
- Standard Extension Mobility (EM) Authentication Proxy Rights は、Cisco エクステンション モビリティと対話するアプリケーションで使用するための標準の権限と標準のユーザグループの両方を指定します。プロキシによる認証では、プロキシによるエンドユーザ認証はサポートされません。Standard EM Authentication Proxy Rights ユーザグループにエンドユーザを追加できますが、このエンドユーザはプロキシで認証されません。
- Cisco エクステンション モビリティは、ログインしたユーザすべての情報のキャッシュを 2 分間保持します。キャッシュ内に表示されているユーザに関する要求がエクステンション モビリティに到達すると、そのユーザはキャッシュ内の情報を使用して検証されます。つまり、2 分以内に、ユーザがパスワードを変更し、ログアウトして、再度ログインすると、新旧両方のパスワードが認識されます。

Cisco エクステンション モビリティの初回のインストール

Cisco Unified Communications Manager をインストールするとき、クラスタ内の各サーバに Cisco Unified Communications Manager Locale Installer もインストールする必要があります。Locale Installer をインストールすると、ユーザ ウィンドウおよび電話機のディスプレイで、最新の翻訳されたテキストを利用できます。詳細については、『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide*』を参照してください。

次に、「[Cisco エクステンション モビリティの設定](#)」(P.9-18) の手順を実行します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.9-38) を参照してください。

Cisco エクステンション モビリティの設定

この項は、次の内容で構成されています。

- 「[設定のガイドライン](#)」(P.9-18)
- 「[設定の例 1](#)」(P.9-19)
- 「[設定の例 2](#)」(P.9-19)
- 「[Cisco エクステンション モビリティ サービスの追加](#)」(P.9-20)
- 「[サービス パラメータの設定](#)」(P.9-21)
- 「[各 Cisco Unified IP Phone タイプのデフォルト デバイス プロファイルの作成](#)」(P.9-27)
- 「[ユーザのデバイス プロファイルの作成](#)」(P.9-30)
- 「[ユーザへのユーザ デバイス プロファイルの関連付け](#)」(P.9-33)
- 「[Cisco エクステンション モビリティへの Cisco Unified IP Phone の登録](#)」(P.9-34)
- 「[Change Credential IP Phone サービスの設定](#)」(P.9-36)



ヒント

Cisco エクステンション モビリティを設定する前に、「[Cisco エクステンション モビリティの設定チェックリスト](#)」(P.9-2) を参照してください。

設定のガイドライン

Cisco エクステンション モビリティを配置する際に起こる不具合を避けるために、必ず設定のガイドラインに従ってください。

- Cisco エクステンション モビリティをサポートする、クラスタ内の Cisco Unified IP Phone ごとに、デフォルトのデバイス プロファイルを設定します。
- Cisco Unified Communications Manager クラスタ内のすべての電話機で Cisco エクステンション モビリティを有効化する場合は、これらの電話機をユーザが制御できないようにします。
 - このシナリオでは、ユーザが Cisco Unified CM のユーザ オプションのウィンドウにアクセスしてサービスを変更する場合、設定対象のデバイスを選択するドロップダウン リスト ボックスからデバイス プロファイルを選択する必要があります。ユーザは、個人の電話機の制御も設定の変更もできません。

- 管理者は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して電話機のサービスを変更できます。変更後、メイン ウィンドウ（ポップアップメニューではありません）で更新する場合は、電話機をリセットして変更内容を有効にする必要があります。この操作を行うと、新しいスナップショットが確実にログアウト プロファイルとして保存されます。
- 特定のユーザがデバイス（たとえば、オフィスの電話機）を制御する場合、他のユーザがそのデバイスにログインできないようにします。

**注意**

ユーザが割り当てられている電話機に、他のユーザによるアクセスを許可すると、Cisco エクステンション モビリティ機能が正常に動作しない場合があります。

- Cisco エクステンション モビリティの冗長性の詳細については、<http://www.cisco.com/go/srmd>にある『Cisco Unified Communications Solution Reference Network Design (SRND)』を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.9-38) を参照してください。

設定の例 1

代表的な Cisco エクステンション モビリティのシナリオは、次のとおりです。

- 従業員はすべて Cisco エクステンション モビリティのユーザである。
- すべてのユーザにユーザ デバイス プロファイルがある。
- ユーザは個人の電話機を制御できず、電話機の設定も変更できない。
- ユーザは電話機を使用する前にログインする必要がある。
- ユーザは、ロビーの電話機、会議室の電話機、および個室の電話機など共用を目的とする共通デバイスにアクセスできる。
- ユーザが Cisco Unified CM のユーザ オプション ウィンドウにアクセスしてサービスまたはスピードダイヤルを変更する場合、デバイス プロファイルは、設定対象のデバイスを選択するドロップダウンメニューでだけ選択できる。この方法により、どの Cisco Unified IP Phone にログインしても、ユーザがサービスに対して行った変更が適用されます。

設定の例 2

別の代表的な Cisco エクステンション モビリティのシナリオは、次のとおりです。

- 各ユーザには割り当てられた電話機がある。
- 各ユーザには、どのデバイスにログインしても適用されるデバイス プロファイルがある。
- 各ユーザは、ロビーの電話機、会議室の電話機、および個室の電話機など共用に設定されている共通デバイスにアクセスできる。
- このシナリオでは、他の人に割り当てられている電話機を使用できない。

追加情報

「関連項目」(P.9-38) を参照してください。

Cisco エクステンション モビリティ サービスの追加

Cisco エクステンション モビリティ サービスを新しい Cisco Unified IP Phone サービスとして追加します。Cisco エクステンション モビリティ サービスの名前、説明、および URL を設定します。



ヒント

デバイスを Cisco エクステンション モビリティ サービスに登録するときに、[登録の更新 (Update Subscriptions)] を 2 回以上クリックすると、エラーが発生します。多数の電話機を更新した場合、変更内容がすべてのデバイスに適用されるまでに多少時間がかかることがあります。[登録の更新 (Update Subscriptions)] ボタンは 1 回だけクリックし、この適用が完了するまで待機する必要があります。

Cisco エクステンション モビリティ サービスを追加するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [IP Phone サービス (Phone Services)] の順に選択します。

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。

ステップ 3 [サービス名 (Service Name)] フィールドに、サービスの名前を入力します。

この名前は、ユーザがサービス ボタンを押したときに電話機に表示されます。「Extension Mobility」や「EM」のようにわかりやすい名前を入力します。Java MIDlet サービスの場合、サービス名は、Java Application Descriptor (JAD) ファイルで定義された名前と正確に一致している必要があります。

ステップ 4 電話機が Unicode を表示できない場合は、[ASCII サービス名 (ASCII Service Name)] フィールドで、表示するサービスの名前を入力します。

ステップ 5 次の例に示すように、[サービス URL (Service URL)] フィールドに入力します。

`http://<IP アドレス>:8080/emapp/EMAppServlet?device=#DEVICENAME#`

エクステンション モビリティ サーバの IP アドレスは、Cisco エクステンション モビリティ アプリケーションがアクティブ化され、実行されている Cisco Unified Communications Manager の IP アドレスです。

次の例を参考にしてください。

`http://123.45.67.89:8080/emapp/EMAppServlet?device=#DEVICENAME#`



ヒント Cisco Unified IP Phone サービスに冗長性を持たせるには、IP アドレスではなくホスト名を使用する Cisco Unified IP Phone サービスを作成します。電話機のソフトキー機能とフィルタリング機能は、電話機サービスと同様に、必要に応じて自動的にフェールオーバーします。

ステップ 6 [サービスカテゴリ (Service Category)] フィールドで、サービスが XML または Java MIDlet のどちらに基づくかを選択します。

ステップ 7 [サービスタイプ (Service Type)] フィールドで、サービス ボタン、ディレクトリ ボタン、またはメッセージ ボタンのどれにサービスをプロビジョニングするかを選択します。

ステップ 8 Java MIDlet サービスの場合のみ、[サービスベンダー (Service Vendor)] フィールドで、JAD ファイルで定義されたベンダーと正確に一致するサービス ベンダーを入力します。XML サービスの場合、このフィールドは空白のままにしておいてかまいません。



(注) [サービスバージョン (Service Version)] 値の入力は必須ではありません。Java MIDlet サービス用の値を入力する場合、値は、JAD ファイルで定義されたバージョンと正確に一致している必要があります。

ステップ 9 [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.9-38) を参照してください。

サービス パラメータの設定

サービス パラメータを設定して、Cisco エクステンション モビリティ サービスが Cisco Unified Communications Manager クラスタでどのように機能するかを定義します。

サービス パラメータを設定する前に、Cisco エクステンション モビリティ サービスがアクティブになっていることを確認してください。Cisco Unified サービスアビリティの使用の詳細については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。

Cisco エクステンション モビリティのサービス パラメータを設定するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択し、Cisco エクステンション モビリティ サービスを実行しているサーバを選択してから、[Cisco Extension Mobility] を選択します。すべてのサービス パラメータを表示するには、[詳細設定 (Advanced)] をクリックします。サービス パラメータを設定した後、[保存 (Save)] をクリックします。

表 9-2 で、Cisco エクステンション モビリティのサービス パラメータについて説明します。



(注) 名前に「intra-cluster」を含むサービス パラメータが、Cisco エクステンション モビリティ機能に適用されます。名前に「inter-cluster」を含むサービス パラメータだけが、Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ機能に適用されます。

表 9-2 Cisco エクステンション モビリティ サービスのサービス パラメータ

設定項目	説明
[Enforce Intra-cluster Maximum Login Time]	ローカル ログインの最長時間を指定するには、[True] を選択します。この時間を超えると、システムは自動的にデバイスをログアウトします。[False] (デフォルト設定) を選択すると、ログインの最長時間が存在しないこととなります。 自動ログアウトを設定するには、Enforce Intra-cluster Maximum Login Time サービス パラメータで [True] を選択し、さらに Intra-cluster Maximum Login Time サービス パラメータでシステム最長ログイン時間を指定します。その後、Cisco Unified Communications Manager は、すべてのログインに対して自動ログアウト サービスを使用します。

表 9-2 Cisco エクステンション モビリティ サービスのサービス パラメータ (続き)

設定項目	説明
[Intra-cluster Maximum Login Time]	<p>このパラメータでは、8:00 (8 時間) や :30 (30 分) など、ユーザがデバイスにローカルでログインできる最長時間を指定します。</p> <p>Enforce Intra-cluster Maximum Login Time パラメータが [False] に設定されている場合、このパラメータは無視されます。</p> <p>有効な値は、0:01 から 168:00 までの HHH:MM 形式の値です。HHH は時間数を表し、MM は分数を表します。</p>
[Inter-cluster Maximum Login Time]	<p>このフィールドは、Extension Mobility Cross Cluster (EMCC; クラスタ間のエクステンション モビリティ) 設定だけに適用されます。</p> <p>このパラメータでは、8:00 (8 時間) や :30 (30 分) など、ユーザがデバイスにリモートでログインできる最長時間を指定します。EMCC では、Enforce Intra-cluster Maximum Login Time サービス パラメータの値に関係なく、この値に基づいて、自動ログアウトを常に実行します。</p> <p>有効な値は、0:00 から 168:00 までの HHH:MM 形式の値です。HHH は時間数を表し、MM は分数を表します。(0:00 は、無期限のログインを示します。つまり、最長ログイン時間の制限がなく、ログインしたままになります。)</p>
[Maximum Concurrent Requests]	<p>ヒント [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、[詳細設定 (Advanced)] をクリックすると、このサービス パラメータを表示できます。</p> <p>同時に実行できるログインまたはログアウト操作の最大回数を指定します。この設定は、Cisco エクステンション モビリティ サービスによるシステム リソースの過剰な消費を防ぐためのものです。デフォルト値の 5 は、ほとんどのシナリオを適切に処理します。</p>
[Intra-cluster Multiple Login Behavior]	<p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Multiple Logins Allowed] : 1 人のユーザが同時に複数のデバイスにログインできます。 • [Multiple Logins Not Allowed] : 1 人のユーザが一度ログインに成功すると、2 台目以降のログインに失敗します。 • [Auto Logout] : 1 人のユーザが 2 台目のデバイスにログインすると、Cisco Unified Communications Manager は、最初にユーザがログインしたデバイスから自動的にユーザをログアウトします。 <p>EMCC では、複数のログインが常に許可されます。</p>
[Alphanumeric User ID]	<p>ユーザ ID に英数字を使用できるようにするには、[True] を選択します。[False] を選択すると、ユーザ ID に使用できる文字は数字だけになります。</p> <p>(注) Alphanumeric User ID パラメータはシステム全体に適用されます。英数字のユーザ ID と数字のユーザ ID を混合して持つことができます。システムは、英数字のキーパッドを使用して入力できるユーザ ID だけをサポートします。大文字と小文字が区別されるユーザ ID フィールドでは、小文字を使用してください。</p>

表 9-2 Cisco エクステンション モビリティ サービスのサービス パラメータ (続き)

設定項目	説明
[Remember the Last User Logged In]	<p>デフォルト値の [False] を選択します。</p> <p>通常のホテルのシナリオでは、複数のユーザがあらゆるオフィスであらゆる電話を一時的に使用する可能性があるため、このパラメータを [False] に設定する必要があります。</p> <p>[True] に設定すると、エクステンション モビリティ アプリケーションは、電話機にログインした最後のユーザのユーザ ID を記憶します。この設定は、個人が日常的に自分の電話機を使用し、他の人がその電話機を使用しない場合に使用してください。</p> <p>たとえば、Cisco エクステンション モビリティは、電話機から使用可能なタイプのコールを有効にする場合に使用できます。ログインしていない個人とオフィスの電話を使用している個人がかけられるのは内部通話または緊急通話だけになります。ただし、Cisco エクステンション モビリティを使用してログインすると、ユーザはローカル通話、長距離通話、国際通話をかけることができます。このシナリオでは、このユーザだけが電話機に定期的にログインします。この場合、ログインした最後のユーザ ID を記憶するように Cisco エクステンション モビリティを設定するのは妥当なので、フィールドを [True] に設定します。このフィールドを [True] に設定すると、最後に正常にログインしたユーザのユーザ ID が Cisco エクステンション モビリティで記憶され、その後のすべてのログインでそのユーザ ID が自動的に入力されます。</p>
[Clear Call Logs on Intra-cluster EM]	<p>Cisco エクステンション モビリティへの手動によるログイン/ログアウトプロセスで、コール ログをクリアするように指定するには、[True] を選択します。</p> <p>ユーザが Cisco エクステンション モビリティ サービスを IP Phone で使用している場合は、すべてのコール（発信、受信、エラー）がコール ログに記録され、IP Phone に表示されます。同じ電話機を使用するユーザに前回のユーザのコール ログを表示しないようにしてプライバシーを確保するには、Clear Call Log サービス パラメータを [True] に設定します。この設定により、正常にログイン/ログオフしたユーザのコール ログが確実にクリアされます。</p> <p>Extension Mobility Cross-Cluster (EMCC; クラスタ間のエクステンション モビリティ) の場合、ユーザが電話機にログインまたは電話機からログアウトすると、コール ログは常にクリアされます。</p> <p>(注) コール ログがクリアされるのは、手動による Cisco エクステンション モビリティのログイン/ログアウト時だけです。Cisco エクステンション モビリティのログアウトが自動ログアウトで行われた場合や手動以外の方法で行われた場合、コール ログはクリアされません。</p>

表 9-2 Cisco エクステンション モビリティ サービスのサービス パラメータ (続き)

設定項目	説明
[Validate IP Address]	<p>ヒント [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、[詳細設定 (Advanced)] をクリックすると、このサービス パラメータを表示できます。</p> <p>このパラメータは、ログインまたはログアウトの要求元の IP アドレスを検証するかどうかを指定します。</p> <p>パラメータを [True] に指定すると、Cisco エクステンション モビリティ ログインまたはログアウトの要求元の IP アドレスが検証され、それが信頼できる IP アドレスであることが確認されます。</p> <p>ログインまたはログアウトするデバイスの検証は、最初に、キャッシュに対して実行されます。</p> <p>要求元の IP アドレスがキャッシュ内で見つからない場合、その IP アドレスは、Trusted List of IPs サービス パラメータで指定済みの信頼された IP アドレスおよびホスト名のリストに対して照合されます。</p> <p>要求元の IP アドレスが Trusted List of IPs サービス パラメータで指定済みのリストに存在しない場合は、Cisco Unified CallManager に登録されたデバイスのリストに対して照合されます。</p> <p>要求元の IP アドレスが、キャッシュ、信頼された IP アドレスのリスト、または登録済みデバイスの中で見つかった場合に、デバイスはログインまたはログアウトの実行が許可されます。</p> <p>IP アドレスが見つからない場合、ログインまたはログアウトの試行はブロックされます。パラメータを [False] に指定すると、Cisco エクステンション モビリティへのログインまたはログアウト要求は検証されません。</p> <p>IP アドレスを検証すると、デバイスに対するログインまたはログアウトに要する時間が長くなる場合があります。ただし、特に、リモート デバイス用の個別の信頼されたプロキシサーバからのログインと組み合わせて使用している場合には、許可されていないログインまたはログアウト試行を防御するためのセキュリティがさらに強化されます。</p>
[Trusted List of IPs]	<p>ヒント [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、[詳細設定 (Advanced)] をクリックすると、このサービス パラメータを表示できます。</p> <p>このパラメータは、テキスト ボックスとして表示されます (最長 1024 文字)。テキスト ボックスに、信頼される IP アドレスまたはホスト名のストリングをセミコロンで区切って入力できます。IP アドレス範囲と正規表現はサポートされていません。</p>

表 9-2 Cisco エクステンション モビリティ サービスのサービス パラメータ (続き)

設定項目	説明
[Allow Proxy]	<p>ヒント [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、[詳細設定 (Advanced)] をクリックすると、このサービス パラメータを表示できます。</p> <p>パラメータを [True] に指定すると、Web プロキシを使用した Cisco エクステンション モビリティへのログインおよびログアウト操作が許可されます。</p> <p>パラメータを [False] に指定すると、プロキシの背後からの Cisco エクステンション モビリティへのログインおよびログアウト要求は拒否されます。</p> <p>選択した設定は、Validate IP Address パラメータが [True] に指定されている場合にのみ有効です。</p>
[EMCC Allow Proxy]	<p>ヒント [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、[詳細設定 (Advanced)] をクリックすると、このサービス パラメータを表示できます。</p> <p>このフィールドは、クラスタ間のエクステンション モビリティ設定だけに適用されます。</p> <p>このパラメータによって、Extension Mobility Cross Cluster (EMCC; クラスタ間のエクステンション モビリティ) ログイン/ログアウトに Web プロキシの使用を許可するかどうかが決まります。このパラメータを有効にするには、サービス パラメータ Validate IP Address を [True] に設定する必要があります。有効な値は、[True] (サービス パラメータ Trusted List of IP で識別される Web プロキシを使用した EMCC ログインまたはログアウトを許可) または [False] (Web プロキシを使用した EMCC ログインまたはログアウト操作を許可しない) です。</p>
[Extension Mobility Cache Size]	<p>ヒント [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、[詳細設定 (Advanced)] をクリックすると、このサービス パラメータを表示できます。</p> <p>このフィールドでは、Cisco エクステンション モビリティによって保持されるデバイス キャッシュのサイズを設定します。このフィールドの最小値は 1000 で、最大値は 20000 です。デフォルトは 10000 です。</p> <p>入力した値は、Validate IP Address パラメータが [True] に指定されている場合にのみ有効です。</p>

追加情報

「関連項目」(P.9-38) を参照してください。

Cisco エクステンション モビリティ サービス パラメータの比較

次の表に、Cisco エクステンション モビリティ サービス パラメータの比較、および各サービスパラメータがエクステンション モビリティ機能またはクラスタ間のエクステンション モビリティ機能の設定に使用された場合の動作を示します。

表 9-3 Cisco エクステンション モビリティ サービス パラメータの動作の比較

サービス パラメータ名	エクステンション モビリティ機能での動作	クラスタ間のエクステンション モビリティ機能での動作
Enforce Intra-cluster Maximum Login Time	サポートされています ([True] または [False])。	適用されません。EMCC は、クラスタ間最大ログイン時間に基づいて自動ログアウトを常に実行します。
Intra-cluster Maximum Login Time	最大ログイン時間が適用される場合は、値が使用されます。	適用されません。
Inter-cluster Maximum Login Time	適用されません。	このサービス パラメータでは、ゼロに設定できることを除き、Intra-cluster Maximum Login Time と同じ範囲を共有します。
Maximum Concurrent Requests	サポートされています。このサービス パラメータによって、EM ログイン要求と EMCC ログイン要求が結合されます。	サポートされています。このサービス パラメータによって、EM ログイン要求と EMCC ログイン要求が結合されます。このサービス パラメータは、ホーム クラスタだけに適用されます。
Intra-cluster Multiple Login Behavior	サポートされています。値は次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> [Multiple Logins Allowed] [Multiple Logins Not Allowed] [Auto Logout] 	複数の EMCC ログインを常に許可します (Multiple Login Allowed)。
Alphanumeric User ID	サポートされています。	サポートされています。訪問先クラスタの値が使用されます。
Remember the Last User Logged In	サポートされています。	サポートされています。
Clear Call Logs on Intra-Cluster EM	サポートされています。値は次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> [True] = 通話履歴をクリアします。 [False] = ログインおよびログアウト後に通話履歴をクリアしません。 	電話機がログイン後にフル サイクルリセットを実行すると、常にクリアされます。
Validate IP Address	サポートされています。ログインおよびログアウト時にデバイスの IP アドレスを確認します。	サポートされています。ログイン時に、訪問先クラスタ (vEMApp) の IP アドレスを確認します。ログアウト時に、ホーム クラスタ (hEMApp) の IP アドレスを確認します。

表 9-3 Cisco エクステンション モビリティ サービス パラメータの動作の比較 (続き)

サービス パラメータ名	エクステンション モビリティ機能での動作	クラスタ間のエクステンション モビリティ機能での動作
Trusted List of IPs	サポートされています。	サポートされています。Validate IP Address パラメータと連携して機能します。ログインまたはログアウトに応じて、ホーム クラスタまたは訪問先クラスタのパラメータが適用されます。
Allow Proxy	サポートされています。	適用されません。
EMCC Allow Proxy	適用されません。	サポートされています。
Extension Mobility Cache Size	サポートされています。値は次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> [Multiple Logins Allowed] [Multiple Logins Not Allowed] [Auto Logout] 	サポートされています。ホーム クラスタの最大キャッシュ サイズ値が使用されます。

追加情報

「関連項目」(P.9-38) を参照してください。

各 Cisco Unified IP Phone タイプのデフォルト デバイス プロファイルの作成

Cisco エクステンション モビリティをサポートする Cisco Unified IP Phone タイプごとに、クラスタ全体のデフォルトのデバイス プロファイルを作成します。ユーザがユーザ デバイス プロファイルを持たない電話機タイプにログインした場合、電話機は必ずデフォルトのデバイス プロファイルを使用します。

デフォルトのデバイス プロファイルの機能の詳細については、「Cisco エクステンション モビリティの概要」(P.9-6) を参照してください。

電話機タイプのデフォルトのデバイス プロファイルを追加するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [デフォルトのデバイスプロファイル (Default Device Profile)] の順に選択します。
[デフォルトのデバイスプロファイル設定 (Default Device Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [デバイスプロファイルタイプ (Device Profile Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、プロファイルを作成するデバイス (Cisco 7970 など) を選択します。
- ステップ 3** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 4** 必要に応じて、[デバイスプロトコル (Device Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスからプロトコルを選択します。

ステップ 5 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 6 [ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source)] フィールドで、ドロップダウン リスト ボックスから、ユーザが保留動作を開始した場合に再生するオーディオ ソースを選択します。

オーディオ ソースを選択しない場合、Cisco Unified Communications Manager はデバイス プールで定義されたオーディオ ソースを使用するか、デバイス プールでオーディオ ソース ID が定義されていない場合はシステム デフォルトを使用します。



ヒント オーディオ ソースは [保留音オーディオソースの設定 (Music On Hold Audio Source Configuration)] ウィンドウで定義します。[メディアリソース (Media Resources)] > [保留音オーディオソース (Music On Hold Audio Source)] を選択します。

ステップ 7 [ユーザロケール (User Locale)] ドロップダウン リスト ボックスで、電話機のユーザ インターフェイスに関連するロケールを選択します。

ユーザ ロケールは、言語やフォントなど、ユーザをサポートする一連の詳細情報を示します。Cisco Unified Communications Manager は、ローカリゼーションをサポートする電話機タイプでだけ、このフィールドを使用可能にします。



(注) ユーザ ロケールが指定されない場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイス プールに関連付けられたユーザ ロケールを使用します。



(注) ユーザが英語以外の言語で (電話機に) 情報を表示するよう要求する場合は、ユーザ ロケールを設定する前に、ロケール インストーラがインストールされていることを確認してください。『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』を参照してください。

ステップ 8 [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] フィールドで、適切な電話ボタン テンプレートを選択します。電話ボタン テンプレートは、Cisco Unified IP Phone 上の電話ボタンの設定を決定します。

ステップ 9 [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] フィールドで、適切なソフトキー テンプレートを選択します。ソフトキー テンプレートは、Cisco Unified IP Phone 上のソフトキーの設定を決定します。[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] で設定されているソフトキー プロファイルを使用する場合は、[なし (None)] を選択します。

ステップ 10 プライバシーの確保が必要な電話機それぞれに対して、[プライバシー (Privacy)] ドロップダウン リスト ボックスから [オン (On)] を選択します。設定の詳細については、「[割り込みとプライバシー](#)」(P.1-1) を参照してください。

ステップ 11 [ワンボタン割り込み (Single Button Barge)] ドロップダウン リストから、次のいずれかのオプションを選択します。

- [オフ (Off)] : このデバイスで、ユーザはワンボタン割り込み /C 割り込み機能を使用できなくなります。
- [割り込み (Barge)] : このオプションを選択すると、ユーザは電話機のワンボタン割り込み用シェアライン ボタンを押し、割り込み機能を使用してコールに割り込むことができます。
- [C 割込 (cBarge)] : このオプションを選択すると、ユーザは電話機のワンボタン C 割り込み用シェアライン ボタンを押し、C 割り込み機能を使用してコールに割り込むことができます。
- [デフォルト (Default)] : このデバイスは、サービス パラメータからワンボタン割り込み /C 割り込みの設定を取得します。

設定の詳細については、「[割り込みとプライバシー](#)」(P.1-1)を参照してください。

ステップ 12 [回線をまたいで参加 (Join Across Lines)] ドロップダウン リストから、次のいずれかのオプションを選択します。

- [オフ (Off)] : このデバイスで、回線をまたいで参加の機能を使用できなくなります。
- [オン (On)] : このデバイスで、複数の回線をまたいでコールに参加できるようになります。
- [デフォルト (Default)] : このデバイスは、サービス パラメータから、回線をまたいで参加の機能の設定を取得します。

詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[電話番号の概要](#)」を参照してください。

ステップ 13 コール表示制限を設定し、内部コールに関して受け取る表示制限を無視するには、[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] チェックボックスをオンにします。



(注) この設定は、トランスレーションパターン レベルでの発呼者の回線 ID 表示および接続先の回線 ID 表示の設定と組み合わせて使用します。また、これらの設定値では、コール表示制限を設定して、各コールに対して発呼者の回線または接続先の回線の表示情報を選択的に表示またはブロックできます。コール表示制限機能の詳細については、「[Call Display Restrictions 機能](#)」の章を参照してください。

ステップ 14 [MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)] を設定するには、次の手順を実行します。



(注) 詳細については、「[Multilevel Precedence and Preemption](#)」(P.35-1)を参照してください。

- [MLPP ドメイン (MLPP Domain)] で、ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイス プロファイルに関連付けられている MLPP ドメインを選択します。
- [MLPP 表示 (MLPP Indication)] 設定が使用可能な場合は、デバイスが MLPP 優先コールをかけたときにこの機能を使用するかどうかを指定します。

ドロップダウン リスト ボックスで、次のオプションから、このデフォルトのデバイス プロファイルを使用するデバイスに割り当てる設定を選択します。

- [デフォルト (Default)] : このデバイスは、デバイス プールから MLPP 表示設定を継承します。
- [オフ (Off)] : このデバイスは、MLPP 優先コールのインジケータを送信しません。
- [オン (On)] : このデバイスは、MLPP 優先コールのインジケータを送信します。



(注) デフォルトのデバイス プロファイルを設定する場合は、[MLPP 表示 (MLPP Indication)] が [オフ (Off)] で [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] が [強制 (Forceful)]、という組み合わせにしないでください。

- [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] 設定が使用可能な場合は、進行中のコールを差し替えることのできるデバイスが MLPP 優先コールをかけたときに、この機能を使用するかどうかを指定します。

ドロップダウンリストボックスで、次のオプションから、このデフォルトのデバイス プロファイルを使用するデバイスに割り当てる設定を選択します。

- [デフォルト (Default)] : このデバイスは、デバイス プールから MLPP プリエンプション設定を継承します。
- [無効 (Disabled)] : このデバイスは、MLPP 優先コールをかけたときに、進行中のコールを差し替えません。
- [強制 (Forceful)] : このデバイスは、MLPP 優先コールをかけたときに、進行中のコールを差し替えます。



(注) デフォルトのデバイス プロファイルを設定する場合は、[MLPP 表示 (MLPP Indication)] が [オフ (Off)] で [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] が [強制 (Forceful)]、という組み合わせにしないでください。

ステップ 15 [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.9-38) を参照してください。

ユーザのデバイス プロファイルの作成

デバイス プロファイルには、名前、説明、電話機のテンプレート、アドオン モジュール、電話番号、登録サービス、およびスピードダイヤルの情報といった属性が含まれています。



(注) 手順を進める前に、デバイス プロファイル名および電話ボタン テンプレート (複数) が設定されていることを確認してください。

Cisco エクステンション モビリティの新規ユーザ用にデフォルトのデバイス プロファイルを追加するには、次の手順を実行します。



(注) [デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウで BLF スピードダイヤル ボタンを設定すると、そのデバイスにログイン後、Cisco エクステンション モビリティをサポートするデバイスに、BLF スピードダイヤル ボタンの状態をリアルタイムに表示できます。つまり、そのデバイス プロファイルに適用されるプレゼンスグループにより、プレゼンス エンティティの状態を見ることができます。詳細については、「[プレゼンス](#)」の章を参照してください。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [デバイスプロファイル (Device Profile)] の順に選択します。

[デバイスプロファイルの検索と一覧表示 (Find and List Device Profiles)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。

[デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。

[デバイスプロファイルタイプ (Device Profile Type)] ドロップダウン リスト ボックスからデバイス タイプを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

必要に応じて、[デバイスプロトコル (Device Protocol)] フィールドでプロトコルを選択します。
[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 3 [デバイスプロファイル名 (Device Profile Name)] フィールドに、任意のデバイス プロファイル名を入力します。プロファイル名には、「Extension Mobility」など、特定のユーザ デバイス プロファイルを表すテキストを自由に設定できます。

ステップ 4 [ユーザロケール (User Locale)] ドロップダウン リスト ボックスで、電話機のユーザ インターフェイスに関連するロケールを選択します。

ユーザ ロケールは、言語やフォントなど、ユーザをサポートする一連の詳細情報を示します。Cisco Unified Communications Manager は、ローカリゼーションをサポートする電話機モデルでだけ、このフィールドを使用可能にします。



(注) ユーザ ロケールが指定されない場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイス プールに関連付けられたユーザ ロケールを使用します。



(注) ユーザが英語以外の言語で (電話機に) 情報を表示するよう要求する場合は、ユーザ ロケールを設定する前に、ロケール インストーラがインストールされていることを確認してください。『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』を参照してください。

ステップ 5 [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] フィールドで、適切な電話ボタン テンプレートを選択します。電話ボタン テンプレートは、Cisco Unified IP Phone 上の電話ボタンの設定を決定します。

ステップ 6 [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] ドロップダウン リスト ボックスで、ソフトキー テンプレートを選択します。[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] で設定されているソフトキー テンプレートを使用する場合は、[なし (None)] を選択します。

ステップ 7 プライバシーの確保が必要な電話機それぞれに対して、[プライバシー (Privacy)] ドロップダウン リスト ボックスから [オン (On)] を選択します。設定の詳細については、「[割り込みとプライバシー](#)」(P.1-1) を参照してください。

ステップ 8 コール表示制限機能を有効にするには、[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] チェックボックスをオンにします。



(注) コール表示制限機能を有効にするには、[デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウと [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウ (『[Cisco エクステンション モビリティへの Cisco Unified IP Phone の登録](#)」(P.9-34) を参照) の両方で、[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 9 電話機タイプが Cisco Unified IP Phone 拡張モジュールをサポートしている場合、Cisco Unified Communications Manager は拡張モジュール フィールドを表示します。[モジュール 1(Module1)] ドロップダウン リスト ボックスおよび [モジュール 2(Module2)] ドロップダウン リスト ボックスで、適切な拡張モジュールを選択します。

ステップ 10 [MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)] を設定するには、次の手順を実行します。



(注) 詳細については、「[Multilevel Precedence and Preemption](#)」(P.35-1) を参照してください。

- a. [MLPP ドメイン (MLPP Domain)] ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイス プロファイルに関連する MLPP ドメインを表す 16 進値を選択します。
- b. [MLPP 表示 (MLPP Indication)] 設定が使用可能な場合は、デバイスが MLPP 優先コールをかけたときにこの機能を使用するかどうかを指定します。

ドロップダウン リスト ボックスで、次のオプションから、このデフォルトのデバイス プロファイルを使用するデバイスに割り当てる設定を選択します。

- [デフォルト (Default)] : このデバイスは、デバイス プールから MLPP 表示設定を継承します。
- [オフ (Off)] : このデバイスは、MLPP 優先コールのインジケータを送信しません。
- [オン (On)] : このデバイスは、MLPP 優先コールのインジケータを送信します。



(注) デフォルトのデバイス プロファイルを設定する場合は、[MLPP 表示 (MLPP Indication)] が [オフ (Off)] で [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] が [強制 (Forceful)]、という組み合わせにしないでください。

- c. [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] 設定が使用可能な場合は、進行中のコールを差し替えることのできるデバイスが MLPP 優先コールをかけたときに、この機能を使用するかどうかを指定します。

ドロップダウン リスト ボックスで、次のオプションから、このデフォルトのデバイス プロファイルを使用するデバイスに割り当てる設定を選択します。

- [デフォルト (Default)] : このデバイスは、デバイス プールから MLPP プリエンプション設定を継承します。
- [無効 (Disabled)] : このデバイスは、MLPP 優先コールをかけたときに、進行中のコールを差し替えません。
- [強制 (Forceful)] : このデバイスは、MLPP 優先コールをかけたときに、進行中のコールを差し替えます。



(注) デフォルトのデバイス プロファイルを設定する場合は、[MLPP 表示 (MLPP Indication)] が [オフ (Off)] で [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] が [強制 (Forceful)]、という組み合わせにしないでください。

ステップ 11 [ログインユーザ ID(Login User Id)] ドロップダウン リスト ボックスからユーザ ID を選択します。
[保存 (Save)] をクリックします。

ページが更新されます。

ステップ 12 [割り当て情報 (Association Info)] セクションで [新規 DN を追加 (Add a new DN)] リンクをクリックします。

ステップ 13 [電話番号 (Directory Number)] フィールドに電話番号を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。

フィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[電話番号の設定値](#)」を参照してください。

- ステップ 14** 「回線または電話番号設定の変更を有効にするにはリスタートが必要です。(Changes to Line or Directory Number settings require restart.)」というプロンプトが表示されます。
[リセット (Reset)] をクリックし、プロンプトの指示に従います。
- ステップ 15** エクステンション モビリティ サービスをデバイス プロファイルに登録するには、ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスで [サービスの登録 / 登録解除 (Subscribe/Unsubscribe Services)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
[登録済みの Cisco IP Phone サービス (Subscribed Cisco IP Phone Services for)] ウィンドウが、別のウィンドウで表示されます。
- ステップ 16** [サービスの選択 (Select a Service)] ドロップダウン リスト ボックスから、Extension Mobility サービスを選択します。
- ステップ 17** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 18** [登録 (Subscribe)] をクリックします。
新しいサービスが [登録済みサービス (Subscribed Services)] に表示されます。
- ステップ 19** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 20** サービスを登録解除するには、[登録解除 (Unsubscribe)]、[保存 (Save)] の順にクリックします。
デバイス プロファイルの設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[デバイス プロファイルの設定](#)」の章を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.9-38) を参照してください。

ユーザへのユーザ デバイス プロファイルの関連付け

物理的なデバイスに関連付けるときと同じ方法で、ユーザ デバイス プロファイルをユーザに関連付けます。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[Cisco エクステンション モビリティ プロファイルの関連付け](#)」を参照してください。



ヒント

一括管理ツール (BAT) を使用すると、一度に複数の Cisco エクステンション モビリティのユーザ デバイス プロファイルを追加および削除できます。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド』を参照してください。

ユーザ デバイス プロファイルを、Cisco エクステンション モビリティのユーザに関連付けるには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** 適切な設定値を入力します (『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[エンドユーザのパスワードの変更](#)」を参照)。
- ステップ 4** 変更を保存し、ユーザを追加するには、[保存 (Save)] をクリックします。



(注) 既存のエンドユーザを選択するには、[検索 (Find)] をクリックし、ユーザ デバイス プロファイルに関連付けるエンドユーザを選択します。『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[エンドユーザの設定値](#)」を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.9-38) を参照してください。

Cisco エクステンション モビリティへの Cisco Unified IP Phone の登録

始める前に

電話機を Cisco エクステンション モビリティに登録する前に、Cisco Unified Communications Manager で Cisco Unified IP Phone を設定する必要があります。電話機を設定するには、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[Cisco Unified IP Phone の設定](#)」の章を参照してください。

デバイス プロファイルについては、「[デバイス プロファイルについて](#)」(P.9-6) を参照してください。

Cisco エクステンション モビリティ サービスに登録するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。



(注) 設定されている電話機は、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[電話機の設定値](#)」の説明に従って、検索および更新することもできます。

[新規電話を追加 (Add a New Phone)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [電話のタイプ (Phone Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、エクステンション モビリティに登録する電話機のタイプを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 4 [デバイスプロトコルの選択 (Select the device protocol)] ドロップダウン リスト ボックスから電話機のプロトコルを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 5 [内線情報 (Extension Information)] で、[エクステンションモビリティの有効化 (Enable Extension Mobility)] チェックボックスをオンにします。



(注) すべてのフィールドについては、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[スピードダイヤル ボタンまたは短縮ダイヤルの設定](#)」を参照してください。

- ステップ 6** [ログアウトプロファイル (Log Out Profile)] ドロップダウン リスト ボックスから、その電話機でエクステンション モビリティ ユーザがログインしていないときに使用するプロファイルを選択します。[現在のデバイス設定を使用 (Use Current Device Settings)] またはリストされている特定の設定済みプロファイルのいずれかを選択できます。



- (注) 特定の設定済みプロファイルを選択した場合、ログインデバイスとログインプロファイルの間のマッピングは、ユーザがログアウトした後も保持されます。[現在のデバイス設定を使用 (Use Current Device Settings)] を選択すると、マッピングは保持されません。

その他のフィールド ([ログイン時刻 (Log in Time)], [ログアウト時刻 (Log out Time)]) には、デバイスのログイン ステータスに関する現在のデバイス情報が表示されます。

- ステップ 7** Cisco Unified Communications Manager の [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、Call Party Restrictions 機能を有効にするには、[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] チェックボックスをオンにします。



- (注) コール表示制限機能を有効にするには、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウと [デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウ ([ユーザのデバイスプロファイルの作成] (P.9-30) を参照) の両方で、[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] チェックボックスをオンにします。この機能の詳細については、「Call Display Restrictions 機能」の章を参照してください。

- ステップ 8** [保存 (Save)] をクリックします。

ここで、エクステンション モビリティ IP Phone サービスを、「ユーザのデバイス プロファイルの作成」(P.9-30) で作成したデバイス プロファイルと IP Phone ターゲット デバイスの両方に登録する必要があります。

- ステップ 9** エクステンション モビリティを IP Phone に登録するには、ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスで [サービスの登録 / 登録解除 (Subscribe/Unsubscribe Services)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

[登録済みの Cisco IP Phone サービス (Subscribed Cisco IP Phone Services for)] ウィンドウが、別のウィンドウで表示されます。

- ステップ 10** [サービスの選択 (Select a Service)] ドロップダウン リスト ボックスから、Extension Mobility サービスを選択します。

- ステップ 11** [次へ (Next)] をクリックします。

- ステップ 12** [登録 (Subscribe)] をクリックします。

新しいサービスが [登録済みサービス (Subscribed Services)] に表示されます。

- ステップ 13** [保存 (Save)] をクリックします。

- ステップ 14** サービスを登録解除するには、[登録解除 (Unsubscribe)]、[保存 (Save)] の順にクリックします。



- (注) デバイス プロファイルにサービスを登録または登録解除する方法については、「ユーザのデバイス プロファイルの作成」(P.9-30) を参照してください。

これで Cisco エクステンション モビリティの設定が完了しました。

追加情報

「関連項目」(P.9-38) を参照してください。

Change Credential IP Phone サービスの設定

Change Credential IP Phone サービスを設定し、この電話サービスをユーザ、ユーザ デバイス プロファイル、または Cisco Unified IP Phone に関連付けることで、Cisco エクステンション モビリティ ユーザは、ユーザがログインしている Cisco Unified IP Phone でユーザ PIN を変更できます。エンド ユーザは、Change Credential IP Phone サービスを使用して、Cisco エクステンション モビリティ とクラスタ間の Cisco エクステンション モビリティ の両方のユーザ PIN を Cisco Unified IP Phone で変更できます。

始める前に

電話機を Cisco エクステンション モビリティ に登録する前に、Cisco Unified Communications Manager で Cisco Unified IP Phone を設定する必要があります。電話機を設定するには、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド*』の「[Cisco Unified IP Phone の設定](#)」の章を参照してください。

デバイス プロファイルについては、「[デバイス プロファイルについて](#)」(P.9-6) を参照してください。

Change Credential IP Phone サービスを追加するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [IP Phone サービス (Phone Services)] の順に選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
[IP Phone サービスの設定 (IP Phone Services Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [サービス名 (Service Name)] フィールドで、「Change Credential」と入力します。
-  **(注)** すべてのフィールドについては、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド*』の「[IP Phone サービスの設定値](#)」の項を参照してください。
-
- ステップ 4** [サービス URL (Service URL)] フィールドで、次の値を入力します。サーバには、Change Credential IP Phone サービスが実行されているサーバを指定します。
`http://サーバ:8080/changecredential/ChangeCredentialServlet?device=#DEVICENAME#`
- ステップ 5** [セキュアサービス URL (Secure-Service URL)] フィールドで、次の値を入力します。サーバには、Change Credential IP Phone サービスが実行されているサーバを指定します。
`https://サーバ:8443/changecredential/ChangeCredentialServlet?device=#DEVICENAME#`
- ステップ 6** [IP Phone サービスの設定 (IP Phone Services Configuration)] ウィンドウで、残りのフィールドを設定し、[保存 (Save)] をクリックします。
ここで、Change Credential IP Phone サービスを、IP Phone 発信先デバイスと、「[ユーザのデバイス プロファイルの作成](#)」(P.9-30) で作成したユーザ デバイス プロファイルの両方に登録する必要があります。
- ステップ 7** Cisco Unified IP Phone を Change Credential IP Phone サービスに登録するには、電話機の [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウ ([デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]) を表示します。
- ステップ 8** [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスで、[サービスの登録 / 登録解除 (Subscribe/Unsubscribe Services)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
[登録済みの Cisco IP Phone サービス (Subscribed Cisco IP Phone Services for)] ウィンドウが、別のウィンドウで表示されます。
- ステップ 9** [サービスの選択 (Select a Service)] ドロップダウン リスト ボックスから、Change Credential IP Phone サービスを選択します。

ステップ 10 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 11 [登録 (Subscribe)] をクリックします。

ステップ 12 Change Credential IP Phone サービスが、[登録済みサービス (Subscribed Services)] に表示されます。

ステップ 13 [保存 (Save)] をクリックします。



(注) ユーザ デバイス プロファイルにサービスを登録または登録解除する方法については、「[ユーザのデバイス プロファイルの作成](#)」(P.9-30) を参照してください。



(注) エンドユーザにサービスを登録または登録解除する方法については、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[エンドユーザの設定](#)」の章を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.9-38) を参照してください。

Cisco エクステンション モビリティ ユーザへの情報の提供

Cisco エクステンション モビリティのシステムを設定した後、電話機のユーザに次の情報を提供します。

- 機能が有効または無効になったことの通知と、Cisco エクステンション モビリティをサポートする電話機タイプ。Cisco エクステンション モビリティ機能に付けた名前（たとえば、エクステンション モビリティ）を含みます。さらに、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内のいずれかのノードでエクステンション モビリティ サービスを有効または無効にしたことに関する、変更の通知も提供します。
- ユーザのパスワード、ユーザ ID、および PIN。
- ユーザパスワードと PIN の変更使用するユーザの Cisco Unified CM のユーザ オプション ウィンドウの URL。



(注) ユーザパスワードと PIN に使用できるのは、IP Phone でサポートされている文字だけであることに注意してください。サポートされているのは、数字 0～9 と対応する文字、アスタリスク (*)、およびナンバー記号つまりシャープ記号 (#) です。

- Cisco エクステンション モビリティの概要およびログイン、ログアウト、機能のトラブルシューティングの手順が記載されている電話機のユーザガイド。電話機のユーザガイドには、Cisco Unified CM のユーザ オプション ウィンドウの使用法に関する情報が含まれています。
- 「[サービス パラメータの設定](#)」(P.9-21) で定義した、ログインおよびログアウト動作の機能説明。



(注) ユーザが電話機からログインし、電話機に「PIN 変更」メッセージが表示された場合、エンドユーザは、エンドユーザの PIN を変更する必要があります。ユーザが電話機からログインし、電話機に「パスワード変更」メッセージが表示された場合、Cisco Unified Communications Manager 管理者は、CCMSysUser パスワードを変更する必要があります。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.9-38) を参照してください。

関連項目

- 「Cisco エクステンション モビリティの設定チェックリスト」 (P.9-2)
- 「Cisco エクステンション モビリティの概要」 (P.9-5)
 - 「デバイス プロファイルについて」 (P.9-6)
 - 「Cisco エクステンション モビリティの概要」 (P.9-6)
 - 「ログインおよびログアウトの動作」 (P.9-9)
 - 「ログインのコールフロー」 (P.9-10)
 - 「ログアウトのコールフロー」 (P.9-11)
 - 「エクステンション モビリティ等価機能」 (P.9-12)
- 「Cisco エクステンション モビリティのシステム要件」 (P.9-14)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.9-15)
 - 「インタラクション」 (P.9-15)
 - 「制限事項」 (P.9-17)
- 「Cisco エクステンション モビリティの初回のインストール」 (P.9-18)
- 「Cisco エクステンション モビリティの設定」 (P.9-18)
 - 「設定のガイドライン」 (P.9-18)
 - 「設定の例 1」 (P.9-19)
 - 「設定の例 2」 (P.9-19)
 - 「Cisco エクステンション モビリティ サービスの追加」 (P.9-20)
 - 「サービス パラメータの設定」 (P.9-21)
 - 「Cisco エクステンション モビリティ サービス パラメータの比較」 (P.9-26)
 - 「各 Cisco Unified IP Phone タイプのデフォルト デバイス プロファイルの作成」 (P.9-27)
 - 「ユーザのデバイス プロファイルの作成」 (P.9-30)
 - 「ユーザへのユーザ デバイス プロファイルの関連付け」 (P.9-33)
 - 「Cisco エクステンション モビリティへの Cisco Unified IP Phone の登録」 (P.9-34)
 - 「Change Credential IP Phone サービスの設定」 (P.9-36)
- 「Cisco エクステンション モビリティ ユーザへの情報の提供」 (P.9-37)

その他の設定

- 「インターネット プロトコルバージョン 6 (IPv6)」 (P.29-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「デバイス プロファイルの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「デフォルト デバイス プロファイルの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「エンドユーザの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「現在ログイン中のデバイスの検索」
- 「インターコム電話番号の設定」 (P.28-33)

関連マニュアル

- 『Cisco Unified Communications Solution Reference Network Design (SRND)』 (冗長性を確保する場合) : <http://www.cisco.com/go/srnd>

■ 関連項目



CHAPTER 10

Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ

Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ機能を使用すると、ある Cisco Unified Communications Manager クラスタ（ホーム クラスタ）のエンタープライズユーザが、外出先で別の Cisco Unified Communications Manager クラスタ（訪問先クラスタ）の Cisco Unified IP Phone に、ホーム オフィスで IP Phone を使用しているかのようにログインできます。



(注)

ユーザが単一のクラスタ内に留まる場合、ユーザにエクステンションモビリティ機能を提供するには Cisco エクステンションモビリティ機能を設定するだけで十分です。Cisco エクステンションモビリティ機能の説明および設定の詳細については、「[Cisco エクステンションモビリティ](#)」の章を参照してください。

この章は、次の内容で構成されています。

- 「[EMCC の設定チェックリスト](#)」 (P.10-2)
- 「[EMCC の概要](#)」 (P.10-13)
 - 「[EMCC と Cisco エクステンションモビリティ](#)」 (P.10-14)
 - 「[EMCC ソリューション](#)」 (P.10-14)
 - 「[EMCC ログイン](#)」 (P.10-16)
 - 「[EMCC でサポートする電話機](#)」 (P.10-20)
 - 「[EMCC の設定](#)」 (P.10-21)
 - 「[EMCC のアクティブログインとリモートログインの概要](#)」 (P.10-21)
 - 「[EMCC コール処理](#)」 (P.10-22)
 - 「[EMCC が設定されている場合の電話機の動作](#)」 (P.10-33)
 - 「[EMCC が設定されている場合の電話機のセキュリティ](#)」 (P.10-38)
- 「[EMCC のシステム要件](#)」 (P.10-38)
- 「[インタラクションおよび制限事項](#)」 (P.10-39)
 - 「[EMCC インタラクション](#)」 (P.10-39)
 - 「[EMCC の制限事項](#)」 (P.10-40)
- 「[EMCC のインストールとアクティブ化](#)」 (P.10-42)
- 「[EMCC の設定](#)」 (P.10-42)
 - 「[EMCC 機能の設定項目の設定](#)」 (P.10-42)
 - 「[EMCC クラスタ間サービス プロファイルの設定項目](#)」 (P.10-47)

EMCC の設定チェックリスト

- 「リモート クラスタの設定項目」 (P.10-48)
- 「エンド ユーザへの情報の提供」 (P.10-51)
- 「EMCC のトラブルシューティング」 (P.10-51)
 - 「Cisco エクステンション モビリティ アプリケーション (EMApp) のエラー コード」 (P.10-51)
 - 「Cisco エクステンション モビリティ サービス (EMService) のエラー コード」 (P.10-52)
- 「関連項目」 (P.10-55)

EMCC の設定チェックリスト

表 10-1 は、ネットワークで Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティを設定するためのチェックリストです。表 10-1 と「関連項目」 (P.10-55) を併せて参照してください。

表 10-1 Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティの設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 Cisco Unified サービスアビリティ で、[Tools] > [Service Activation] の順に選択します。 サーバを選択し、各サービス名の横にあるチェックボックスをオンにし、次の CM サービスをアクティブにします。 <ul style="list-style-type: none"> • Cisco CallManager • Cisco TFTP • Cisco エクステンション モビリティ • Cisco Bulk Provisioning Service (パブリッシャ上だけでアクティブ化可能) [Save] をクリックし、ポップアップ ウィンドウの [OK] をクリックしてサービスがアクティブになるのを待機します。	詳細については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。

表 10-1 Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティの設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
<p>ステップ 2</p> <p>エクステンションモビリティ IP Phone サービスを作成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [IP Phone サービス (Phone Services)] の順に選択します。 2. [新規追加 (Add New)] をクリックし、[IP Phone サービスの設定 (IP Phone Services Configuration)] ウィンドウのフィールドに次のように入力します。 <ul style="list-style-type: none"> [サービス名 (Service Name)] : エクステンションモビリティ [ASCII サービス名 (ASCII Service Name)] : Extension Mobility [サービスの説明 (Service Description)] : エクステンションモビリティ サービス URL : <pre>http://10.89.80.19:8080/emapp/EMAppServlet?device=#DEVICENAME#&EMCC=#EMCC#</pre> <hr/> <p>(注) セキュアサービス URL が不要な場合を除いて、[サービス URL (Service URL)] と [セキュアサービス URL (Secure-Service URL)] の各フィールドの IP アドレスを変更してください。その場合、後続の https:// URL を省略できます。</p> <hr/> セキュア サービス URL : <pre>https://10.89.80.19:8443/emapp/EMAppServlet?device=#DEVICENAME#&EMCC=#EMCC#</pre> [有効 (Enable)] チェックボックスをオンにします。 <ul style="list-style-type: none"> (注) エクステンションモビリティ IP Phone サービスを初めて設定するときに [エンタープライズ登録 (Enterprise Subscription)] チェックボックスをオンにすると、この IP Phone サービスはエンタープライズ登録サービスとして設定されます。この場合、企業内の電話機とデバイスのプロファイルはすべてこの IP Phone サービスに自動登録され、個別に登録を行う必要はありません。 3. [保存 (Save)] をクリックして、エクステンションモビリティ IP Phone サービスを保存します。 	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「IP Phone サービスの設定」</p>

表 10-1 Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティの設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
<p>ステップ 3</p> <p>エクステンション モビリティが必要なユーザ用のデバイス プロファイルを追加します。デバイス プロファイルは、ユーザが (エクステンション モビリティ、およびクラスタ間のエクステンション モビリティに) ログインするとき、実際のデバイスとの対応付けに使用されます。次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [デバイスプロファイル (Device Profile)] の順に選択します。 2. 特定のプロトコルを使用する特定のデバイス タイプ用に新しいデバイス プロファイルを追加し、そのプロファイルにわかりやすい名前を付けます。 例: 7975 SCCP デバイス プロファイル 3. 新しいデバイス プロファイルで、[クラスタ間エクステンションモビリティの CSS(Extension Mobility Cross Cluster CSS)] フィールドを設定します。 この Calling Search Space (CSS; コーリング サーチ スペース) は、ユーザが外出先で別の (訪問先の) クラスタの IP Phone を使用するとき、実際のデバイス設定に適用されます。 このフィールドは、ローカル IP Phone の [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウにある [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドの設定と同じように設定します。 [クラスタ間エクステンションモビリティの CSS(Extension Mobility Cross Cluster CSS)] フィールドの詳細については、「EMCC コールルーティング」(P.10-27) を参照してください。 4. 新しいデバイス プロファイルに Directory Number (DN; 電話番号) を追加します。 例: 4001 5. [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスで [デバイスの設定 (Configure Device)(<新しいデバイスプロファイル名>)] オプションを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。 [デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウに戻ります。 6. [デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスで [サービスの登録 / 登録解除 (Subscribe/Unsubscribe Services)] オプションを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。 7. 表示されるポップアップ ウィンドウで、[サービスの選択 (Select a Service)] ドロップダウンリストボックスからエクステンション モビリティ サービスを選択します。 8. [次へ (Next)] をクリックしてから [登録 (Subscribe)] をクリックします。 9. [保存 (Save)] をクリックして、ポップアップ ウィンドウを閉じます。 10. [デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウで、[保存 (Save)] をクリックします。 	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「デバイス プロファイルの設定」</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話番号の設定」</p>

表 10-1 Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティの設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
<p>ステップ 4</p> <p>Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ用のユーザを追加します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] の順に選択します。 2. [新規追加 (Add New)] をクリックして、新しいエンドユーザを追加します。 3. 表示される [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで、少なくとも次のフィールドを設定します。 [ユーザ ID (User ID)]、[パスワード (Password)]、[PIN]、[姓 (Last Name)]、[名 (First name)] 4. [エクステンションモビリティ (Extension Mobility)] ペインで、[クラスタ間のエクステンションモビリティの有効化 (Enable Extension Mobility Cross Cluster)] チェックボックスをオンにします。 5. [エクステンションモビリティ (Extension Mobility)] ペインの [使用可能なプロファイル (Available Profiles)] リスト ペインから、ステップ 3 で設定したデバイス プロファイルを選択します。 6. 下矢印を使用して、[制御するプロファイル (Controlled Profiles)] リスト ペインにデバイス プロファイルを移動します。 7. [保存 (Save)] をクリックして、エンドユーザの設定を保存します。 	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザの設定」</p>
<p>ステップ 5</p> <p>デバイスでエクステンションモビリティを有効にします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。 2. ユーザがエクステンションモビリティまたはクラスタ間のエクステンションモビリティを実行できる電話機を検索します。 3. このデバイスの [内線情報 (Extension Information)] ペインで [エクステンションモビリティの有効化 (Enable Extension Mobility)] チェックボックスをオンにします。 4. [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスで [サービスの登録 / 登録解除 (Subscribe/Unsubscribe Services)] オプションを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。 5. 表示されるポップアップ ウィンドウで、[サービスの選択 (Select a Service)] ドロップダウン リスト ボックスからエクステンションモビリティ サービスを選択します。 6. [次へ (Next)] をクリックしてから [登録 (Subscribe)] をクリックします。 7. [保存 (Save)] をクリックして、ポップアップ ウィンドウを閉じます。 8. [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、[保存 (Save)] をクリックします。ポップアップ ウィンドウが表示された場合は、そのウィンドウで [OK] をクリックします。 <p>(注) この手順によって、ユーザがクラスタ内エクステンションモビリティログインを実行するのに必要な設定が完了します。</p> <p>(注) [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウには [セキュアサービス URL (Secure Services URL)] があります。この URL を空白にすると、URL Services エンタープライズパラメータが使用されます。</p>	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」</p>

表 10-1 Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティの設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
<p>ステップ 6 証明書の一括管理を設定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理で、[セキュリティ (Security)] > [証明書の一括管理 (Bulk Certificate Management)] の順に選択します。 2. 表示される [証明書の一括管理 (Bulk Certificate Management)] ウィンドウで、フィールドを次のように設定します。 [IP アドレス (IP Address)] : SFTP サーバの IP アドレスを指定します。  (注) これは、すべての参加クラスタによって共有される必要のある、集中型のセキュア FTP サーバです。 <hr/> [ポート (Port)] : 22 (SSH のデフォルト ポート)。 [ユーザ ID (User ID)] : 書き込みアクセス権を持つユーザのユーザ ID。 [パスワード (Password)] : 書き込みアクセス権を持つユーザのパスワード。 [ディレクトリ (Directory)] : 書き込みアクセス権を持つユーザのディレクトリ (例 : /tmp)。 3. [保存 (Save)] をクリックします。 	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』の「Security」の章を参照してください。</p>
<p>ステップ 7 証明書の一括エクスポートを設定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理で、[セキュリティ (Security)] > [証明書の一括管理 (Bulk Certificate Management)] の順に選択します。 2. [エクスポート (Export)] アイコンをクリックします。 3. 表示される [証明書の一括エクスポート (Bulk Certificate Export)] ウィンドウで、次のフィールドを設定します。 [証明書タイプ (Certificate Type)] : [すべて (All)] 4. [エクスポート (Export)] をクリックしてから [閉じる (Close)] をクリックします。 <p>この手順によって、クラスタ内のすべてのノードの証明書が格納された PKCS12 ファイルが作成されます。</p> <p>すべての参加クラスタは、同じ SFTP サーバまたは SFTP ディレクトリに証明書をエクスポートする必要があります。</p> <p>Tomcat または TFTP の証明書がクラスタのいずれかのノードで再生成されるたびに、そのクラスタで証明書をエクスポートする必要があります。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』を参照してください。</p>

表 10-1 Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティの設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
<p>ステップ 8 証明書を統合します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理で、[セキュリティ (Security)] > [証明書の一括管理 (Bulk Certificate Management)] > [統合 (Consolidate)] > [証明書の一括統合 (Bulk Certificate Consolidate)] の順に選択します。 すべての参加クラスタが証明書のエクスポートを完了したら、証明書を統合します。このオプションは、2 つ以上のクラスタが証明書を SFTP サーバにエクスポートした場合にかぎり、使用可能です。 2. 表示されるウィンドウで、次のフィールドを設定します。 [証明書タイプ (Certificate Type)] : [すべて (All)] 3. [統合 (Consolidate)] をクリックします。 この手順によって、SFTP サーバにあるすべての PKCS12 ファイルが統合され、1 つのファイルが作成されます。 統合を実行する必要があるのは、参加クラスタのうちの 1 つだけです。 証明書を統合した後に新しい証明書をエクスポートした場合は、統合を再度実行して、新しくエクスポートされた証明書を取り込む必要があります。 	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』を参照してください。</p>
<p>ステップ 9 証明書をインポートします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理で、[セキュリティ (Security)] > [証明書の一括管理 (Bulk Certificate Management)] > [インポート (Import)] > [証明書の一括インポート (Bulk Certificate Import)] の順に選択します。 2. 表示されるウィンドウで、次のフィールドを設定します。 [証明書タイプ (Certificate Type)] : [すべて (All)] 3. [インポート (Import)] をクリックします。 <p>(注) 各クラスタの証明書をすべてインポートした後、クラスタごとに Cisco CallManager サービスおよび Cisco Tomcat サービスを再起動して、各クラスタのノード単位でサービスをアクティブにする必要があります。</p> <p>(注) これらの証明書は、アップグレード後も保持されます。ユーザが証明書を再インポートまたは再統合する必要はありません。</p> <p>この手順によって、統合された PKCS12 ファイルが SFTP サーバからローカル クラスタにインポートされます。</p> <p>いずれかの参加クラスタがエクスポートを行った場合は、すべてのクラスタで再インポートを行う必要があります。</p> <p>インポートは、ステップ 8 の説明に従って中央の管理者が証明書を統合した後に実行します。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』を参照してください。</p>

表 10-1 Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティの設定チェックリスト (続き)

設定手順		関連手順と関連項目
ステップ 10	<p>ビデオ コール用の EMCC を有効にするには、[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ([デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)]) を設定するか、または [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ([システム (System)] > [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)]) を行ってビデオ コールを有効にします。</p> <p>いずれかのウィンドウで、[ビデオ機能 (Video Capabilities)] ドロップダウンリストボックスを [有効 (Enabled)] に設定します (この設定は、クラスタごとにデフォルトで有効になっている場合があります)。</p>	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「共通電話プロファイルの設定」</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンタープライズ電話の設定」</p>
ステップ 11	<p>EMCC デバイスの追加：EMCC テンプレートを追加します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[一括管理 (Bulk Administration)] > [EMCC] > [EMCC テンプレート (EMCC Template)] の順に選択します。 2. [新規追加 (Add New)] をクリックします。 3. [EMCC テンプレートの設定 (EMCC Template Configuration)] ウィンドウで、フィールドを次のように設定します。 [テンプレート名 (Template Name)] : EMCC デバイス テンプレート [デバイスプール (Device Pool)] : [デフォルト (Default)] [SIP プロファイル (SIP Profile)] : [標準 SIP プロファイル (Standard SIP Profile)] [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] : [デフォルトの共通デバイス設定 (Default Common Device Configuration)] 4. [保存 (Save)] をクリックします。 	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド』を参照してください。</p>
ステップ 12	<p>EMCC デバイスの追加：デフォルトの EMCC テンプレートを設定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[一括管理 (Bulk Administration)] > [EMCC] > [EMCC の挿入 / 更新 (Insert/Update EMCC)] の順に選択します。 2. [EMCC デバイスの更新 (Update EMCC Devices)] をクリックします。 3. [デフォルトの EMCC テンプレート (Default EMCC Template)] ドロップダウンリストボックスで、ステップ 11 で設定した EMCC デバイス テンプレートを選択します。 4. [今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。 5. [送信 (Submit)] をクリックします。 6. ジョブが正常に実行されたかどうかを確認します。 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] の順に選択し、必要なジョブのジョブ ID を検索します。ジョブが正常に実行されたことを確認します。 	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド』を参照してください。</p>

表 10-1 Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティの設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
<p>ステップ 13 EMCC デバイスの追加 : EMCC デバイスを挿入します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[一括管理 (Bulk Administration)] > [EMCC] > [EMCC の挿入 / 更新 (Insert/Update EMCC)] の順に選択します。 2. [EMCC デバイスの挿入 (Insert EMCC Devices)] をクリックします。 3. [追加する EMCC デバイスの数 (Number of EMCC Devices to be added)] フィールドの値を (5 などに) 変更します。 4. [今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックして [送信 (Submit)] をクリックします。 5. このウィンドウを更新し、追加したデバイスの数 (5 など) が [データベース内にすでにある EMCC デバイスの数 (Number of EMCC Devices already in database)] に表示されることを確認します。 6. または、[一括管理 (Bulk Administration)] > [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] の順に選択し、ジョブが正常に完了したかどうかを確認します。 <p>追加する EMCC 基本デバイスの最大数</p> <p>次の計算式を使用して、クラスタ内でサポートされるデバイスの合計数を EMCC に追加します。</p> $\text{電話機} + (2 \times \text{EMCC デバイス}) \leq \text{MaxPhones}$ <p>Cisco Unified Communications Manager システムでは MaxPhones 値を 60,000 に指定します。</p> <p>EMCC ログインは、ホーム クラスタで使用されるライセンスの数には影響しません。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド』を参照してください。</p>
<p>ステップ 14 エンタープライズパラメータを設定して、位置情報フィルタを追加します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択します。 2. クラスタ ID エンタープライズパラメータに、参加クラスタごとに一意のクラスタ ID を設定します。 3. Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[システム (System)] > [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] の順に選択します。 4. [新規追加 (Add New)] をクリックします。 5. 新しい位置情報フィルタを作成します。 名前の例 : EMCC 位置情報フィルタ <p>[国 (Country)]、[都道府県 (State)]、[市 (City)] などの一致基準を指定します。</p>	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンタープライズパラメータの設定」 「位置情報フィルタの設定」(P.24-18)</p>

表 10-1 Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティの設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
<p>ステップ 15 EMCC 機能のパラメータを設定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[拡張機能 (Advanced Features)] > [EMCC] > [EMCC 機能設定 (EMCC Feature Configuration)] の順に設定します。 2. 表示される [EMCC 機能設定 (EMCC Feature Configuration)] ウィンドウで、次の機能パラメータを設定します。 [Default TFTP Server for EMCC Login Device] [EMCC Geolocation Filter] [Default Server for Remote Cluster Update] <p>(注) 関連付けられているドロップダウンリスト ボックスからこれらの機能パラメータを選択するには、事前にこれらの機能パラメータが設定されている必要があります。</p> <p>(注) 他の EMCC 機能のパラメータは、デフォルト値を保持するか、または必要に応じて変更できます。</p>	<p>「EMCC 機能の設定項目の設定」 (P.10-42)</p>

表 10-1 Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティの設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 16	<p>EMCC 用に 1 つまたは 2 つのクラスタ間 SIP トランクを設定します。</p> <p>(注) PSTN アクセス サービスと RSVP エージェント サービスの両方に 1 つのトランクを設定したり (ステップ 17)、サービスごとに 1 つずつトランクを設定したりできます。必要な EMCC SIP トランクは 2 つまでです。</p> <ol style="list-style-type: none"> Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)] の順に選択します。 [新規追加 (Add New)] をクリックします。 次の設定を指定します。 [トランクタイプ (Trunk Type)] : [SIP トランク (SIP Trunk)] [トランクサービスタイプ (Trunk Service Type)] : [クラスタ間のエクステンションモビリティ (Extension Mobility Cross Clusters)] [次へ (Next)] をクリックします。 表示される [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [デバイス情報 (Device Information)] ペインで、次の設定を指定します。次に、値の例を示します。 [名前 (Name)] : EMCC-ICT-SIP-Trunk-1 [デバイスポール (Device Pool)] : [デフォルト (Default)] [SIP 情報 (SIP Information)] ペインで、次の設定例を指定します。 [SIP トランクセキュリティプロファイル (SIP Trunk Security Profile)] : [Non Secure SIP Trunk Profile] [SIP プロファイル (SIP Profile)] : [標準 SIP プロファイル (Standard SIP Profile)] [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] ペインで、次の設定を指定します。 [位置情報の送信 (Send Geolocation Information)] : このチェックボックスをオンにします。 <p> (注) EMCC トランクでは、SendGeolocation を True、MTPRequired を False、および UnattendedPort を False に指定する必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> [保存 (Save)] をクリックし、EMCC 用のクラスタ間 SIP トランクを保存します。

『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「トランクの設定」

表 10-1 Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティの設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
<p>ステップ 17 EMCC クラスタ間サービス プロファイルを設定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[拡張機能 (Advanced Features)] > [EMCC] > [EMCC クラスタ間サービスプロファイル (EMCC Intercluster Service Profile)] の順に選択します。 2. [EMCC] ペインで [アクティブ (Active)] チェックボックスをオンにします。 3. [PSTN アクセス (PSTN Access)] ペインで [アクティブ (Active)] チェックボックスをオンにします。 4. [PSTN アクセス SIP トランク (PSTN Access SIP Trunk)] ドロップダウンリストボックスで、ステップ 16 で設定した SIP トランクを選択します。 5. [RSVP エージェント (RSVP Agent)] ペインで [アクティブ (Active)] チェックボックスをオンにします。 6. [RSVP エージェント SIP トランク (RSVP Agent SIP Trunk)] ドロップダウンリストボックスで、ステップ 16 で設定した別の SIP トランクを選択します。 <p> (注) ステップ 16 でトランクを 1 つだけ設定した場合は、[PSTN アクセス SIP トランク (PSTN Access SIP Trunk)] 用のトランクと同じトランクを [RSVP エージェント SIP トランク (RSVP Agent SIP Trunk)] 用に選択できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. [確認 (Validate)] をクリックして、設定を検証します。 8. ポップアップ ウィンドウに失敗のメッセージが表示されなければ、[保存 (Save)] をクリックします。 	<p>「EMCC クラスタ間サービスプロファイルの設定項目」(P.10-47)</p>
<p>ステップ 18 EMCC リモート クラスタ サービスを設定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[拡張機能 (Advanced Features)] > [EMCC] > [EMCC リモート クラスタ (EMCC Remote Cluster)] の順に選択します。 2. [新規追加 (Add New)] をクリックします。 3. 表示される [リモート クラスタの設定 (Remote Cluster Configuration)] ウィンドウで、次の設定を行います。 <p>[クラスタ ID(Cluster ID)] : このクラスタ ID が、他のクラスタのクラスタ ID のエンタープライズパラメータ値に一致することを確認します。</p> <p>[完全修飾名 (Fully Qualified Name)] : リモート クラスタの IP アドレスまたはリモート クラスタ上の任意のノードとして解決可能なドメイン名を使用します。</p>	<p>「リモート クラスタの設定項目」(P.10-48)</p>

表 10-1 Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティの設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 19 サービス パラメータを設定します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。 2. [サーバ (Server)] ドロップダウン リスト ボックスで、サーバを選択します。 3. [サービス (Service)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Cisco エクステンション モビリティ] サービスを選択します。 4. ウィンドウの上部にある [詳細設定 (Advanced)] ボタンをクリックします。 5. 必要に応じて、[Clusterwide Parameters (Parameters that apply to all servers)] ペインで次のサービス パラメータを設定します。 [Inter-cluster Maximum Login Time] [EMCC Allow Proxy] : この値を [True] に設定します。 (注) EMCC では、コール ログが常にクリアされます。 (注) EMCC では、複数のログインが常に許可されます。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サービス パラメータの設定」 「サービス パラメータの設定」 (P.9-21) 「Cisco エクステンションモビリティ サービスパラメータの比較」 (P.9-26)
ステップ 20 SRST を動作させるために、EMCC に特別な設定をする必要はありません。システムに SRST 設定が必要となる場合は、通常どおり設定してください。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Survivable Remote Site Telephony の設定」

EMCC の概要

この項は、次の内容で構成されています。

- 「EMCC と Cisco エクステンション モビリティ」 (P.10-14)
- 「EMCC ソリューション」 (P.10-14)
- 「EMCC ログイン」 (P.10-16)
- 「EMCC でサポートする電話機」 (P.10-20)
- 「EMCC の設定」 (P.10-21)
- 「EMCC のアクティブ ログインとリモート ログインの概要」 (P.10-21)
- 「EMCC コール処理」 (P.10-22)
- 「EMCC が設定されている場合の電話機の動作」 (P.10-33)
- 「EMCC が設定されている場合の電話機のセキュリティ」 (P.10-38)

EMCC と Cisco エクステンション モビリティ

Cisco エクステンション モビリティ機能が初めて提供されたのは Cisco CallManager のリリース 3.1 からです。Cisco エクステンション モビリティは、継続してクラスタ内のユーザおよびデバイスだけに適用されます。ただし、ユーザは、ログインする場所に関係なく次のようなシームレスなエクスペリエンスを必要としています。

- ユーザに対して、同じ機能セットおよびサービス セット（すべての回線、スピードダイヤル、メッセージ ボタン、MWI、および機能）
- 管理者に対して、セキュリティ、CAC、論理ゲートウェイ アクセス、ローカル メディア リソース、およびサービスアビリティ

EMCC の課題

クラスタ内 Cisco エクステンション モビリティには、次の特徴があります。

- ローカル データベースでデバイス情報を使用できる。
- ローカル データベースでユーザ情報を使用できる。
- ローカル データベースでグローバル情報を使用できる。

クラスタ間 Cisco エクステンション モビリティには、次の特徴があります。

- デバイス情報がクラスタ データベースに格納される。
- ユーザ情報がデバイス情報とは別のクラスタ データベースに格納される。
- ルーティング設定およびサービス パラメータなどのグローバル情報が両方のクラスタのデータベースに格納される。

Cisco エクステンション モビリティには、ユーザ情報を管理するクラスタにデバイス情報を移動するか、逆に、デバイス情報を管理するクラスタにユーザ情報を移動する必要があるという課題があります。

EMCC ソリューション

クラスタ間のエクステンション モビリティの問題を解決するソリューションは相互登録です。相互登録には、次の特徴があります。

- ホーム クラスタのユーザは訪問先クラスタの電話機にログインする。
- ログイン手順によって、ホーム クラスタのデータベースにデバイス情報が伝送される。
- ホーム クラスタのデータベースは、ユーザ デバイス プロファイルを使用して一時デバイスを作成する。
- ホーム クラスタの TFTP サーバは、電話機の設定ファイルを作成する。
- ログイン後、訪問先クラスタは電話機をホーム クラスタの TFTP サーバに転送する。
- 電話機は、Home Cluster (HC; ホーム クラスタ) の TFTP サーバから TFTP 設定をダウンロードした後、ホーム クラスタの Cisco Unified Communications Manager に相互登録する。



(注)

クラスタは、ログイン ユーザから見てホームまたは訪問先と呼びます。

Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティのインタラクション

Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ機能とその他の機能のインタラクションのリストについては、「EMCC インタラクション」(P.10-39) を参照してください。

EMCC の範囲

Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティは、次の機能をサポートしています。

- Cisco エクステンション モビリティのログインおよびログアウト
 - ユーザ認証はクラスタ間で行われる。
- セキュリティ
 - クラスタ間のセキュリティはデフォルトで提供される。
 - 非セキュアセキュリティプロファイルを使用する Cisco Unified IP Phone がサポートされる。
- 訪問先電話機に適した PSTN アクセス
 - E911 は PSTN (つまり、ローカル ゲートウェイ) の適切な場所にルーティングされる。
 - 市内電話は PSTN の適切な場所にルーティングされる。
 - ローカル ルート グループに着信するコールは、訪問先クラスタ内のローカル ゲートウェイにルーティングされる。
- 訪問先電話機に適したメディア リソースの表示 (次の例を参照)
 - RSVP エージェント、TRP、Music On Hold (MOH; 保留音)、MTP、トランスコーダ、会議ブリッジ
- Call Admission Control (CAC; コールアドミッション制御)
 - ホーム クラスタは、訪問先クラスタのロケーションとリージョンの情報を持たない。
 - Cisco Unified Communications Manager のロケーションとリージョンは、クラスタ境界を越えては適用できない。
- 訪問先クラスタの RSVP エージェントを使用する RSVP エージェントベースの CAC
- ホーム クラスタで実質的にサポートできるコール機能およびサービス
 - 制約事項の例: インターコムの設定にはスタティックなデバイスの設定を指定するため、Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティではインターコム機能がサポートされない。
- EMCC ログイン デバイスの最大オーディオ ビットレートは、デフォルトで 8 kbps (G.729) に設定



(注) ホーム クラスタで G.711 コーデックだけをサポートするソフトウェア会議ブリッジを使用する場合に、訪問先クラスタにトランスコーダが設定されていないと会議は失敗します。回避策として、EMCC 機能のパラメータ [EMCC Region Max Audio Bit Rate] を 64 kbps (G.711) に変更します。

EMCC ログイン

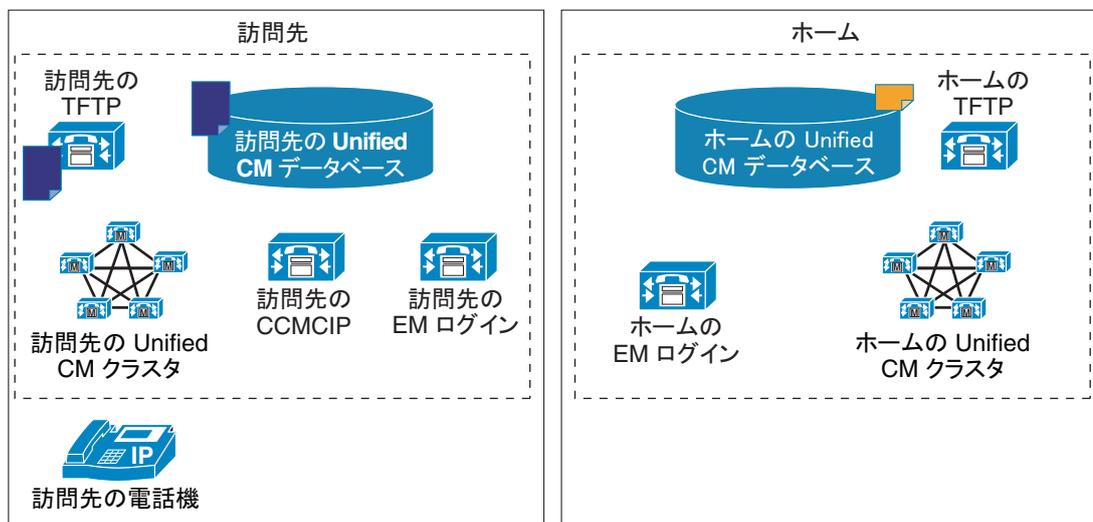
この項は、次の内容で構成されています。

- 「EMCC ログインの用語」(P.10-16)
- 「EMCC ログインの進行」(P.10-17)

EMCC ログインの用語

図 10-1 に、Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティの訪問先クラスタとホーム クラスタを示します。

図 10-1 訪問先クラスタと ホーム クラスタ



■ 訪問先の電話機設定(元の設定)

■ ホームのユーザ EM プロファイル設定

253062

訪問先クラスタ

訪問先クラスタには、次の特徴があります。

- 電話機は地理的に訪問先に存在する。
- 電話機の設定は、訪問先の Cisco Unified Communications Manager データベースに格納されている。
- 電話機が必要とするリソース (ゲートウェイおよび RSVP エージェントなど) は、訪問先に存在する。
- 通常、訪問先電話機は (EMCC ログインの前に) この地理的ロケーションを管理する訪問先の Cisco Unified Communications Manager クラスタに登録する。
- CCMCIP は Cisco CallManager Cisco IP Phone サービスを示す。

ホーム クラスタ

ホーム クラスタには、次の特徴があります。

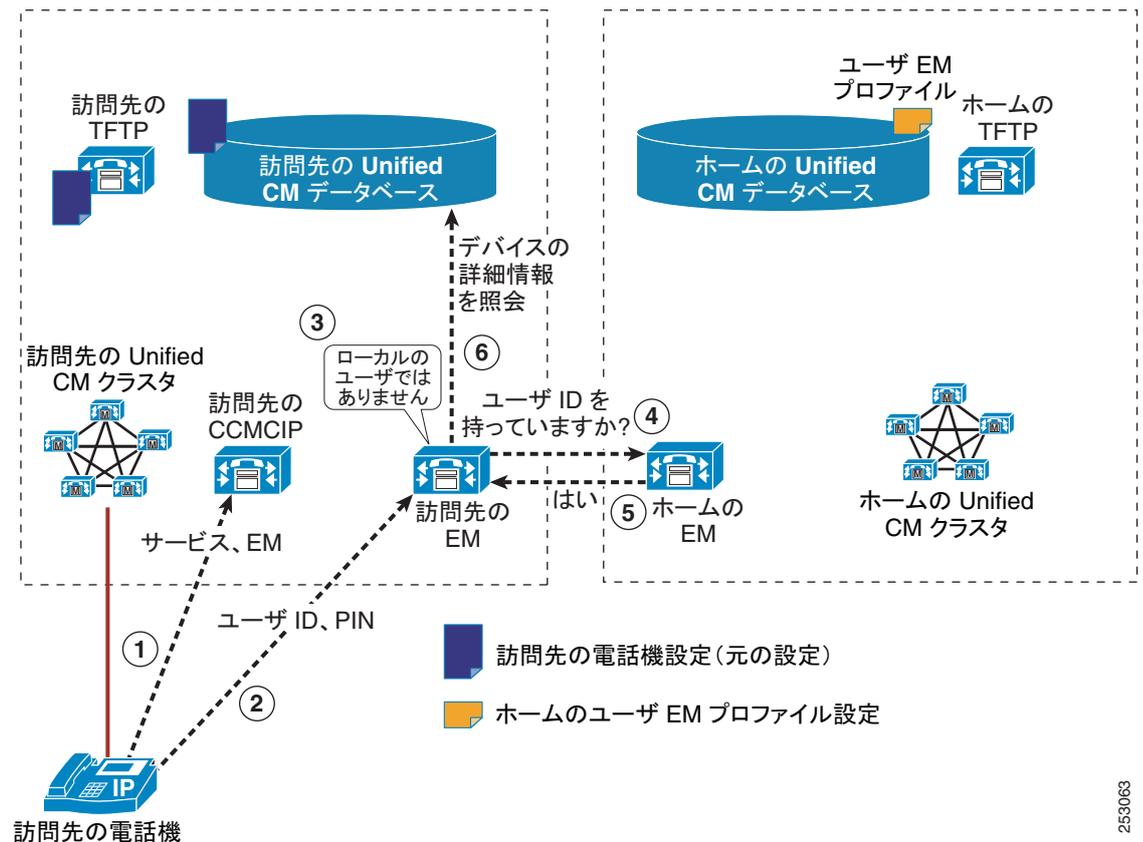
- エンド ユーザの設定はホーム クラスタに存在する。
- ユーザ デバイス プロファイル (回線、スピードダイヤル、機能、およびその他の多数の ユーザ特性) は、ホーム クラスタに存在する。
- ユーザのダイヤリング傾向は、ホーム コンテキスト内で有効。
- ユーザ ロケールはホーム クラスタに存在する。

相互登録のプロセスでは、デバイス データをホーム クラスタにインポートし、ホーム クラスタ内のエンド ユーザの Extension Mobility (EM; エクステンション モビリティ) プロファイルと組み合わせてデバイス レコードを作成します。次に電話機を転送し、ホーム クラスタの Cisco Unified Communications Manager に直接登録します。

EMCC ログインの進行

図 10-2 に、エクステンション モビリティでホーム クラスタを検索するときの Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ ログインを示します。

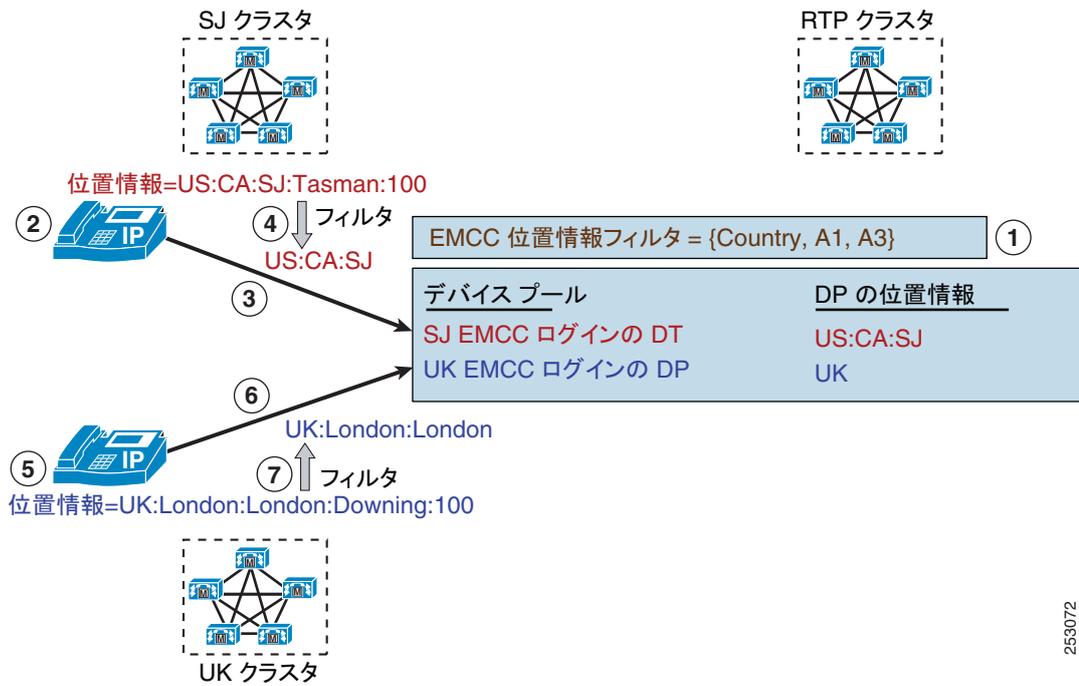
図 10-2 EMCC ログイン : エクステンション モビリティのホーム クラスタ検索



253063

図 10-3 に、エクステンション モビリティで認証、ホーム クラスタへの情報提供、およびホーム クラスタの準備を行う場合の Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ ログインを示します。

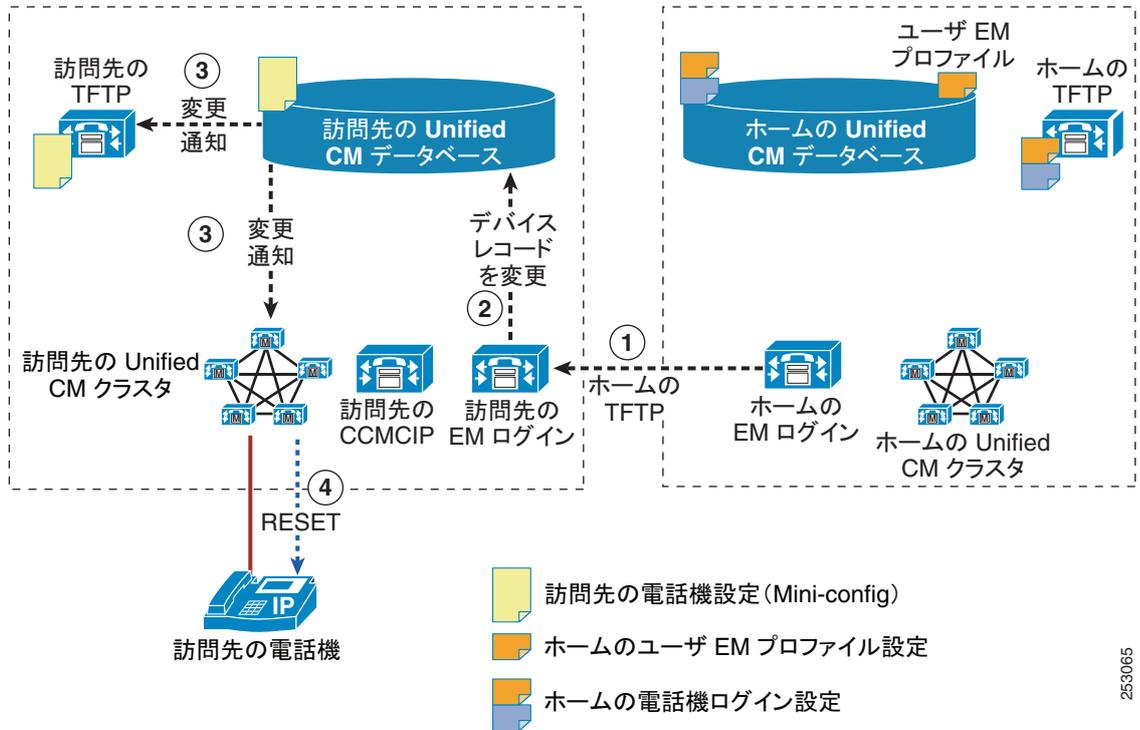
図 10-3 EMCC ログイン：エクステンション モビリティによる認証、ホームへの情報提供、ホームの準備



253072

図 10-4 に、エクステンション モビリティで訪問先クラスタを変更し、登録を開始する場合の Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ ログインを示します。

図 10-4 EMCC ログイン：エクステンション モビリティによる訪問先の変更と登録の開始

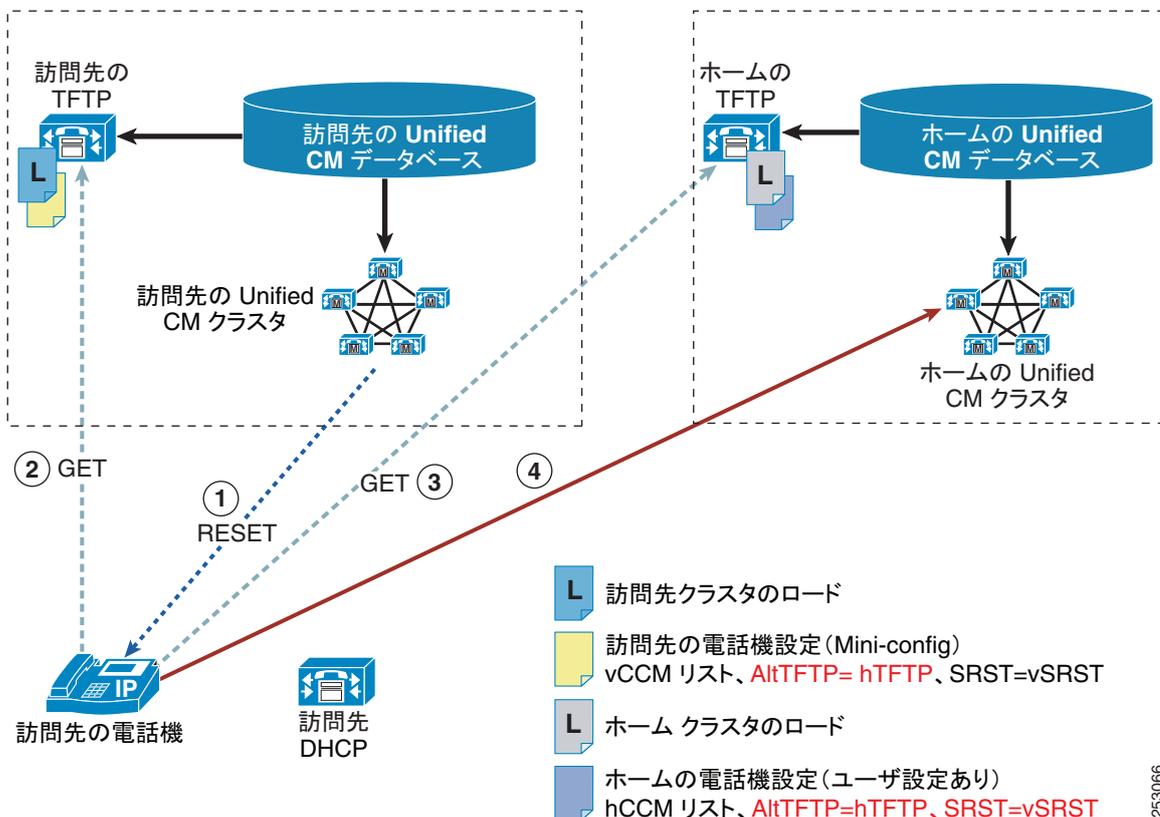


253065

Mini-config とは、ログイン後に電話機をホーム クラスタにリダイレクトするために訪問先クラスタで作成された簡単な設定ファイルのことです。

図 10-5 に、エクステンション モビリティ ログイン サービスが処理を完了して電話機が登録される場合の Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ ログインを示します。

図 10-5 EMCC ログイン：エクステンション モビリティ ログイン サービスによる処理の完了と電話機の登録



EMCC でサポートする電話機

Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティをサポートするデバイスのリストは、バージョンおよびデバイス パックによって異なります。

特定のリリースおよびデバイス パック用に Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティをサポートするデバイスの全リストを作成するには、Cisco Unified Reporting アプリケーションを使用します。そのためには、次の手順に従います。

1. 次のいずれかの方法を使用して、Cisco Unified Reporting を起動します。

Web アプリケーションへのアクセスを許可されるまで、ユーザの認証には Cisco Tomcat サービスが使用されます。アプリケーションには次の方法でアクセスできます。

- Cisco Unified Communications Manager の管理ページのナビゲーションメニューで [Cisco Unified Reporting] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool (RTMT) メニューで [File] > [Cisco Unified Reporting] の順に選択します。
- `https://<サーバ名または IP アドレス>:8443/cucreports/` と入力し、認証済みのユーザ名とパスワードを入力します。

2. ナビゲーションバーで、[System Reports] をクリックします。

3. 左側のカラムに表示されたレポートのリストで、[Unified CM Phone Feature List] オプションをクリックします。
4. [Generate a new report] リンクをクリックして新規レポートを生成するか、または、レポートがすでに存在する場合は、[Unified CM Phone Feature List] リンクをクリックします。
5. Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティがサポートされているすべてのデバイスのレポートを生成するには、各ドロップダウン リスト ボックスから次の設定を選択し、[Submit] ボタンをクリックします。

[Product] : [All]

[Feature] : [Extension Mobility Cross Cluster]

[List Features] ペインに、Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ機能がサポートされているすべてのデバイスのリストが表示されます。カラムの見出し ([Product] または [Protocol]) の隣にある上下の矢印キーをクリックして、リストをソートできます。

Cisco Unified Reporting アプリケーションの詳細については、次の URL の『Cisco Unified Reporting Administration Guide』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html

EMCC の設定

Cisco Unified Communications Manager の管理、および Cisco Unified サービスアビリティや Cisco Unified Communications オペレーティング システムなどの他の Cisco Unified Communications コンポーネントで Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティを設定する手順の概要については、「EMCC の設定チェックリスト」(P.10-2) を参照してください。

EMCC に排他的に適用されるメニュー オプションの設定の詳細については、「EMCC の設定」(P.10-42) とそのサブセクションを参照してください。

EMCC のアクティブ ログインとリモート ログインの概要

ユーザのホーム クラスタでは、管理者はリモート デバイスからログイン済みのクラスタ ユーザのリストを確認できます。

このことを行うには、管理者が次の手順を実行します。

1. Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に実行します。
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
2. [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスで [リモートログインデバイス (Remotely Logged In Device)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

リモート ログイン デバイスのレポートの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「リモートからログインしたデバイスの検索」を参照してください。

管理者は、任意のクラスタで Cisco エクステンション モビリティまたは Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティにログイン済みのクラスタ デバイスのリストを確認できます。

このことを行うには、管理者が次の手順を実行します。

1. Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に実行します。
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。

2. [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスで [現在ログイン中のデバイスのレポート (Actively Logged In Device Report)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

現在ログイン中のデバイスのレポートの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[現在ログイン中のデバイスの検索](#)」を参照してください。

EMCC コール処理

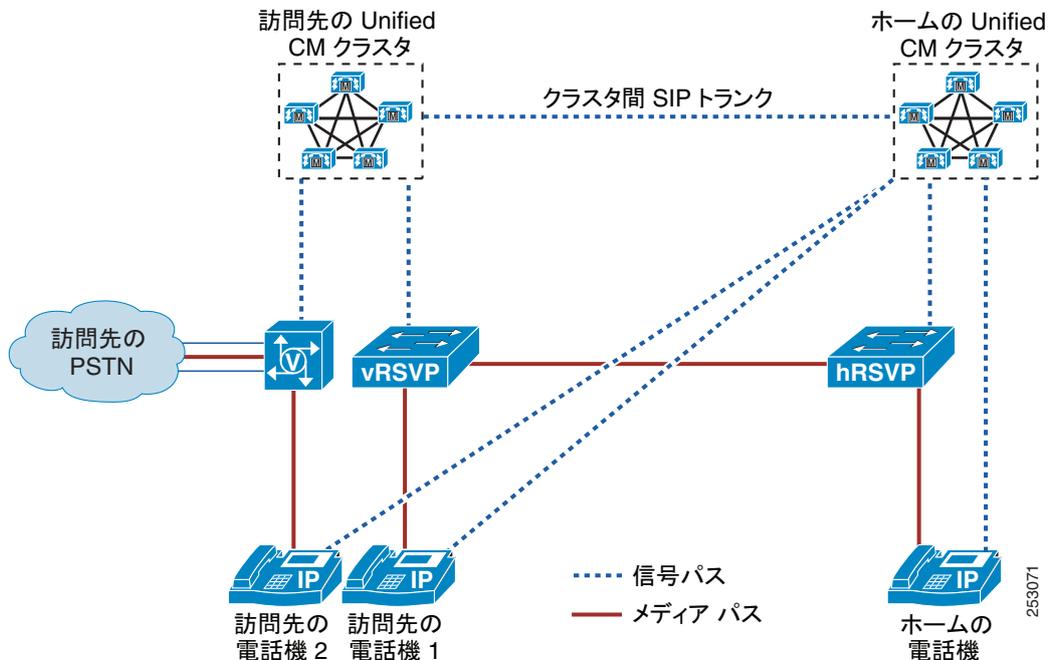
この項は、次の内容で構成されています。

- 「EMCC コール処理の概要」 (P.10-23)
- 「EMCC コール処理の特徴」 (P.10-23)
- 「EMCC コール処理の要件」 (P.10-24)
- 「緊急通話の EMCC コール処理」 (P.10-24)
- 「ローミング用デバイス プールの検索」 (P.10-25)
- 「ホーム クラスタの位置情報を使用したローミング用デバイス プールのマッチング」 (P.10-25)
- 「EMCC コール処理の設定」 (P.10-26)
- 「ホーム クラスタ内の EMCC 電話機とそのローミング用デバイス プールの一覧表示」 (P.10-26)
- 「ホーム クラスタ内の EMCC コール処理」 (P.10-26)
- 「EMCC コールルーティング」 (P.10-27)
- 「ホーム クラスタでの訪問先クラスタの緊急事態パターンの設定」 (P.10-27)
- 「ホーム クラスタの EMCC 訪問先電話機のローカルルート グループルーティング」 (P.10-28)
- 「EMCC SIP トランクを使用したローカルルート グループルーティング」 (P.10-29)
- 「デバイス プロファイル内の EMCC コーリング サーチ スペース」 (P.10-29)
- 「EMCC 電話機のリージョン設定」 (P.10-29)
- 「EMCC 電話機の RSVP 設定」 (P.10-30)
- 「RSVP エージェントベースの CAC 基本コール」 (P.10-30)
- 「ホーム電話機による RSVP エージェント CAC の保留 / 再開」 (P.10-31)
- 「訪問先電話機による RSVP エージェント CAC の保留 / 再開」 (P.10-32)
- 「EMCC コール処理に共通の問題」 (P.10-32)
- 「EMCC コール処理問題に関するヘルプの入手」 (P.10-33)

EMCC コール処理の概要

図 10-6 に、EMCC コール処理の概要を示します。

図 10-6 EMCC コール処理



EMCC コール処理の特徴

EMCC コール処理には、次の特徴があります。

- ホーム クラスタでのコール制御。
 - 訪問先電話機はホーム クラスタに登録する。
- RSVP エージェントは訪問先クラスタから割り当てられるが、制御はホーム クラスタから間接的に行われる。
 - 訪問先電話機はホーム クラスタに登録する。
 - RSVP ベースの CAC 用のホーム クラスタ ポリシーに従う。
- ホーム クラスタおよび訪問先クラスタによるコーデック選択。
 - メディアはホーム クラスタおよび訪問先クラスタで処理を行う。
 - コデックは両クラスタの EMCC リージョン設定に基づいて選択される。
- 緊急通話のルーティングは訪問先電話機および訪問先クラスタに依存する。
 - ホーム クラスタでは、ホーム クラスタと訪問先クラスタ両方の緊急事態パターンがサポートされる。
 - EMCC SIP クラスタ間トランク経由でローカル ルート グループを使用し、訪問先クラスタに緊急通話をルーティングする。
 - 訪問先クラスタで設定された訪問先電話機のローカル ルート グループを使用する。
- 訪問先クラスタでのデバイスに依存する PSTN アクセス。
 - 訪問先電話機と同じ場所に設置されているローカル ゲートウェイに SIP トランクからのコールをルーティングする。

EMCC コール処理の要件

Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティは、次のコール処理要件を満たしています。

- 緊急通話のルーティング。
 - ユーザは、ホーム クラスタの緊急事態パターンまたは訪問先クラスタの緊急事態パターンにダイヤルできる（たとえば、英国の 999 または米国の 911）。
 - どのクラスタの緊急事態パターンにダイヤルしたかにかかわらず、訪問先クラスタのローカル ゲートウェイにコールをルーティングする必要がある。
- RSVP エージェント ベースの CAC。
 - 訪問先クラスタの RSVP エージェントは、訪問先クラスタ内にある訪問先電話機の Media Resource Group List (MRGL; メディア リソース グループ リスト) に基づいて割り当てる必要がある。



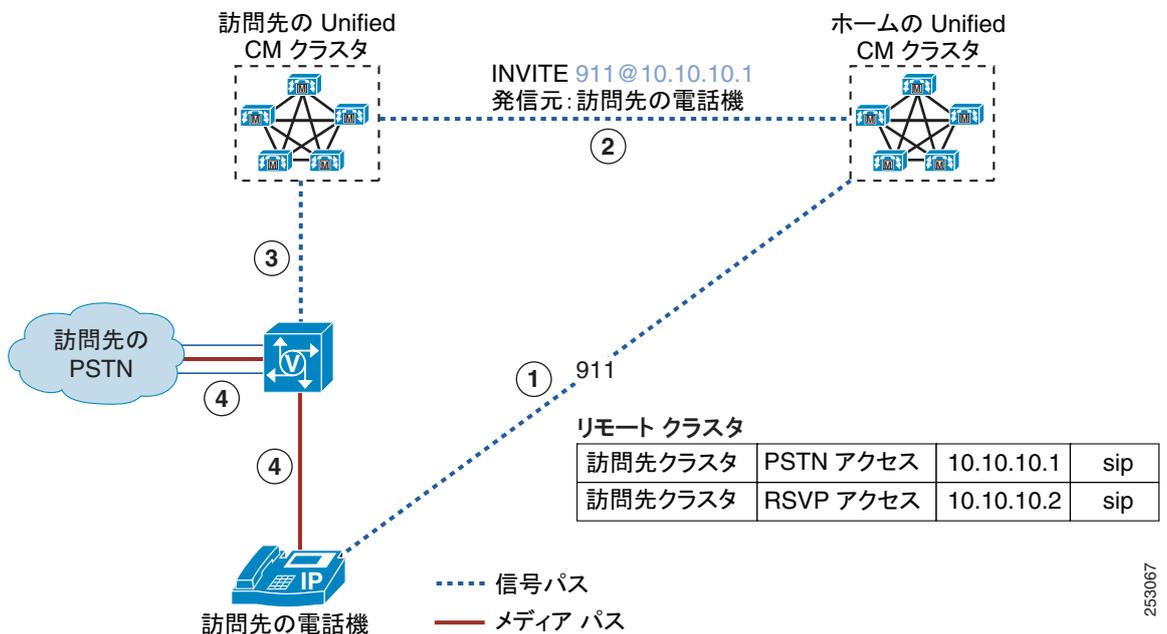
(注)

電話機をホーム クラスタに登録したにもかかわらず、訪問先クラスタで電話機のロケーションを移動すると、訪問先クラスタ内のローカル ゲートウェイまたは Media Resource Group List (MRGL; メディア リソース グループ リスト) に正しく割り当てられない場合があります。

緊急通話の EMCC コール処理

図 10-7 に、緊急通話の Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ コール処理を示します。

図 10-7 緊急通話の EMCC コール処理



253067

ローミング用デバイス プールの検索

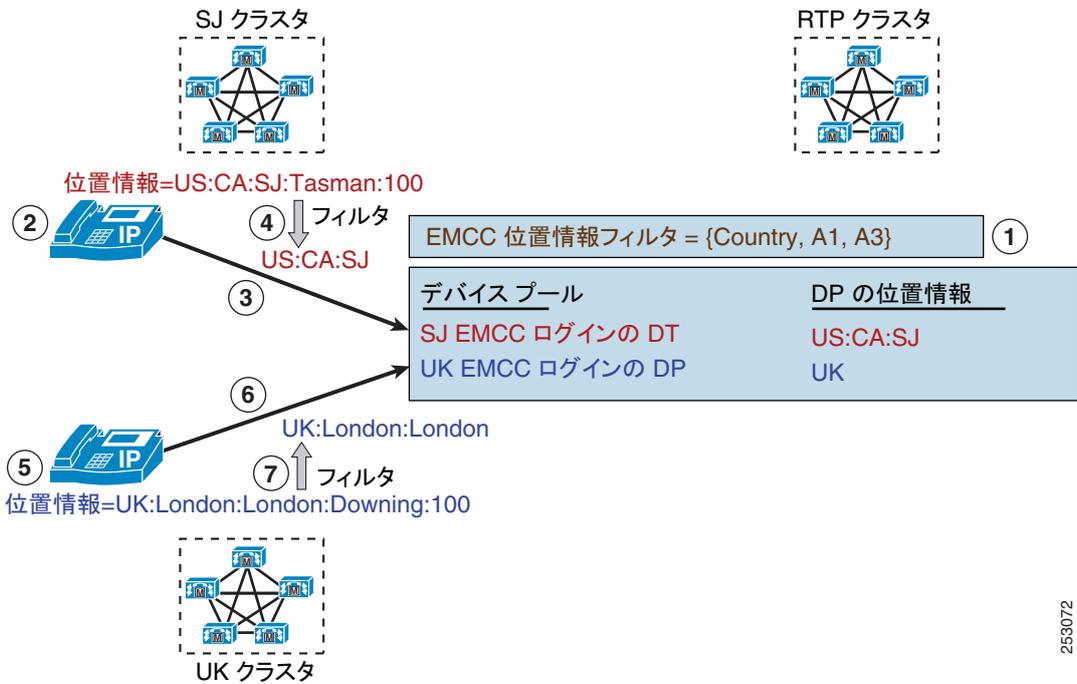
ローミング用デバイス プールの検索には、次の特徴があります。

- EMCC 電話機は、ホーム クラスタのローミング用デバイス プールからローミングに影響する属性を検索する。
- ホーム クラスタでは、リモート クラスタごとにローミング用デバイス プールを 1 つ設定し、そのクラスタを特徴付ける個別の位置情報を使用する。次に例を示します。
 - DPforUKCluster (country=UK)
 - DPforSJCluster (country=US、A1=CA、A3=SJ)
- 訪問先クラスタでエクステンション モビリティを有効にした電話機では、訪問先クラスタで位置情報を設定する。
- ログイン処理によって、電話機の位置情報が訪問先クラスタからホーム クラスタに送信される。
- ホーム クラスタに設定された EMCC 位置情報フィルタによって、電話機の位置情報がフィルタリングされる。
- ホーム クラスタでは、フィルタ処理された電話機の位置情報を使用して、電話機のローミング用デバイス プールに最適なデバイス プールが検索され、電話機がホーム クラスタに登録される。

ホーム クラスタの位置情報を使用したローミング用デバイス プールのマッチング

図 10-8 に、ホーム クラスタ内の位置情報を使用した、ローミング用デバイス プールのマッチングを示します。

図 10-8 ホーム クラスタ内の位置情報を使用したローミング用デバイス プールのマッチング



253072

EMCC コール処理の設定

訪問先クラスタでは、エクステンションモビリティを有効にした電話機の位置情報を設定します。この設定は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウ ([デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]) の [位置情報 (Geolocation)] フィールド、または [デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウ ([システム (System)] > [デバイスプール (Device Pool)]) の [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] ペインにある [位置情報 (Geolocation)] フィールドで行います。訪問先クラスタ内のエクステンションモビリティ対応電話機には、次のエンティティの設定も必要です。

- 関連する [デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウ ([システム (System)] > [デバイスプール (Device Pool)]) のローカルルートグループ
- RSVP ポリシーが有効な場合は、電話機のメディアリソースグループリスト内の RSVP デバイス (トランスコーダまたは MTP)

ホームクラスタでは、EMCC 位置情報フィルタを設定します。[拡張機能 (Advanced Features)] > [EMCC] > [EMCC 機能設定 (EMCC Feature Configuration)] メニュー オプションを使用して、EMCC 位置情報フィルタの設定を行ってください。

1 リモートクラスタにつき 1 つのデバイスプールが、ログイン電話機のローミング用デバイスプールとして機能します。

例

デバイスプールに*英国クラスタ用 EMCC デバイスプール*を指定します。

このデバイスプールの位置情報に*英国の位置情報*を指定します。

このデバイスプールの「英国の位置情報」位置情報を使用すると、英国の電話機はこのデバイスプールに一致して、電話機がログインしたときにこのプールをローミング用デバイスプールとして選択できます。

ホームクラスタ内の EMCC 電話機とそのローミング用デバイスプールの一覧表示

ホームクラスタ管理者は、このクラスタに現在登録されている、すべてのリモートデバイスを一覧表示できます。このことを行うには、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスで [リモートログインデバイス (Remotely Logged In Device)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

[リモートログインデバイスのレポート (Remotely Logged-In Device Report)] には、次の情報が表示されます。

- [デバイス名 (Device Name)]
- [ログインプロファイル (Logged In Profile)]
- [ユーザ ID (User ID)]
- [リモートクラスタ ID (Remote Cluster ID)]
- [ローミング用デバイスプール (Roaming Device Pool)]

ホームクラスタ内の EMCC コール処理

ホームクラスタ内のログイン EMCC 電話機は、次の属性およびプリファレンスを取得します。

- EMCC 基本デバイスからの共通属性 (一括管理)
- ローミング用デバイスプールからのローミングに影響する属性
 - リモートクラスタごとに 1 つのローミング用デバイスプール
 - 訪問先クラスタが同じ EMCC 電話機は同じローミング用 DP を選択
 - 国に固有の緊急ダイヤリングプランが可能 (たとえば、英国の場合は 999)

- ユーザデバイスプロファイル (回線およびスピードダイヤル) からのユーザプリファレンス
- EMCC 機能設定からの機能固有の属性
 - すべてのクラスタのすべての EMCC 電話機のコーデック プリファレンス
 - EMCC 電話機の RSVP ポリシー

EMCC コールルーティング

コールルーティングは、ホームクラスタで電話機用に作成される Calling Search Space (CSS; コーリングサーチスペース) に基づいて実行されます。

ホームクラスタは、次の優先順位で CSS を連結します。

1. 付加 CSS (新規)
 - ローミング用デバイスプールで設定され、国に固有の緊急ダイヤリングプランをサポートする (たとえば、英国の電話機はリモートで米国クラスタに登録されます。ユーザは、米国クラスタが通常は認識しない 9.999 (英国の緊急番号) にダイヤルします)。ホームクラスタが米国、訪問先クラスタが英国です。
 - ホームクラスタと訪問先クラスタが同じ緊急事態パターンを共有している場合は、付加 CSS 設定がスキップされる場合があります。
2. 回線 CSS
3. デバイス CSS
 - デバイスに固有。[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウまたはスタティックデバイスプールで設定します。
 - ホームクラスタ内で電話機の通常のダイヤリングを実現する。
 - 訪問先電話機はホームクラスタに電話デバイスが設定されていない。
 - ホームクラスタは、ユーザログインデバイスプロファイルから EMCC CSS (新規) を取得し、この CSS をスタティックデバイス CSS として使用する。

付加コーリングサーチスペースの機能

付加 CSS を設定するには、[システム (System)] > [デバイスプール (Device Pool)] の順に選択し、[デバイスプールの設定 (Device Pool Settings)] ペインで [付加 CSS (Adjunct CSS)] フィールドを設定します。

この例では、次の設定が適用されます。

- [付加 CSS (Adjunct CSS)] は *Adjunct CSS for UK Cluster* です。
- ([コーリングサーチスペースのルートパーティション (Route Partitions for this Calling Search Space)] の) [選択されたパーティション (Selected Partitions)] は *EMCC Emergency Partition for UK* です。

デバイスプールで設定する付加 CSS を使用すると、ログイン後に米国のクラスタに登録され、ローミング用デバイスプールにバインドされる英国の電話機から、英国の緊急ダイヤリングが可能になります。米国のクラスタがホームクラスタです。

コーリングサーチスペースには、メンバーパーティションを 1 つだけ指定します (EMCC Emergency Partition for UK)。

ホームクラスタでの訪問先クラスタの緊急事態パターンの設定

ホームクラスタで訪問先クラスタの緊急事態パターンを設定します。

例

9.999/{EMCC emergency partition for UK} のルートを設定します。このルートにはメンバが 1 つだけ（標準 LRG）含まれています。

（米国の）ホーム クラスタに登録されている（英国の）訪問先電話機が 9.999 にダイヤルすると、電話機のローミング用デバイス プールの付加 CSS により、このパターンはルート パターン 9.999/{EMCC emergency partition for UK} に一致します。このため、ホーム クラスタ（米国のクラスタ）は、コールをデバイス ローカル ルート グループにルーティングします。

ホーム クラスタの EMCC 訪問先電話機のローカル ルート グループ ルーティング

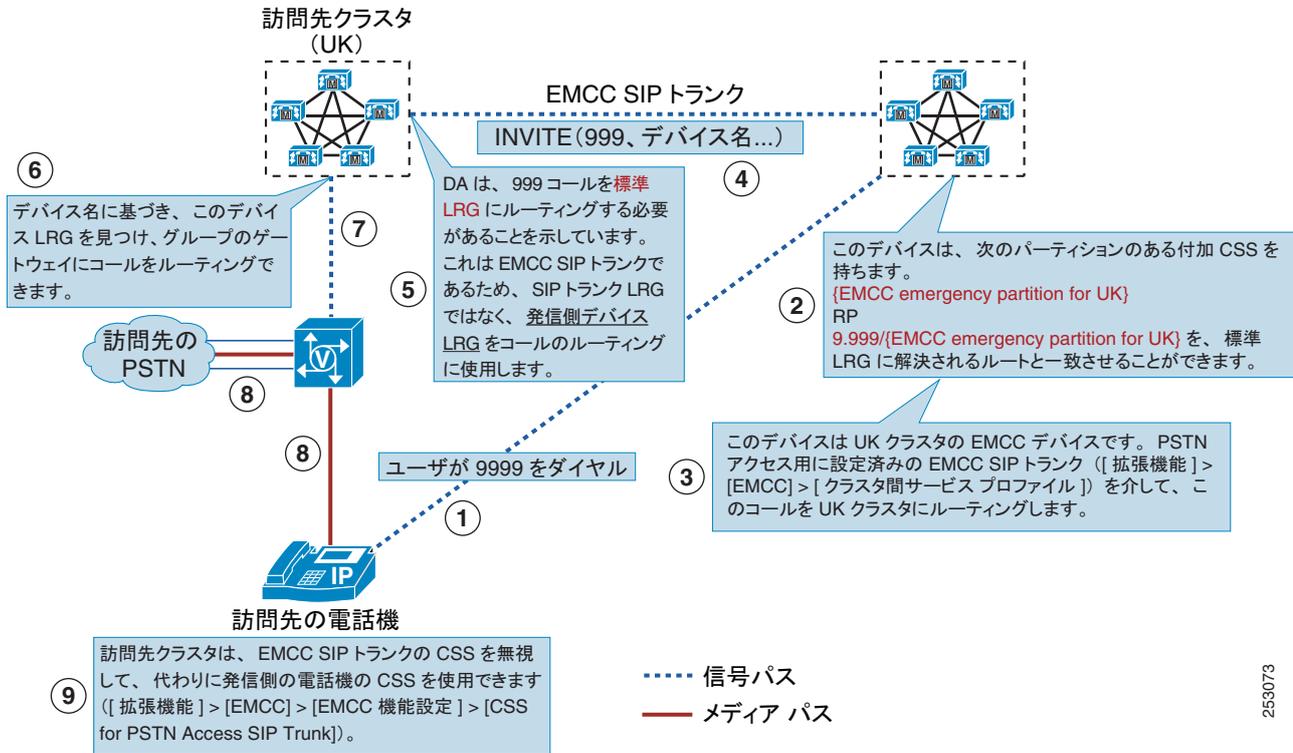
ホーム クラスタ内の EMCC 訪問先電話機のローカル ルート グループには、次の特徴があります。

- デバイスのローカル ルート グループは、デバイス ローカル PSTN へのゲートウェイを含む。
- 標準 LRG に終端するコールは、発信側デバイス LRG（つまり、ローカル PSTN に接続するゲートウェイ）に転送される。
- 通常の電話機およびそのローカル ルート グループは、同じクラスタに登録する。
- EMCC 訪問先電話機およびそのローカル ルート グループは、別々のクラスタに登録する。
 - ホーム クラスタには訪問先電話機の設定済みローカル ルート グループがない。
 - ホーム クラスタは訪問先電話機のローカル PSTN ゲートウェイに直接アクセスできない。
 - ホーム クラスタにある EMCC 訪問先電話機の標準 LRG に終端するコールは、PSTN アクセス SIP トランク（EMCC の設定）経由で訪問先クラスタに転送される。
 - 訪問先クラスタは、訪問先電話機に設定されたローカル ルート グループを検索する（エクステンション モビリティが有効になっている電話機は、訪問先クラスタでローカル ルート グループを設定する必要があることに注意してください）。
 - 訪問先クラスタは、通常の電話機と同様にローカル ルート グループ内のゲートウェイにコールをルーティングする。

EMCC SIP トランクを使用したローカル ルート グループルーティング

図 10-9 に、EMCC SIP トランクを使用するローカル ルート グループルーティングを示します。

図 10-9 EMCC SIP トランクを使用したローカル ルート グループルーティング



デバイス プロファイル内の EMCC コーリング サーチ スペース

[デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウ ([デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [デバイスプロファイル (Device Profile)]) で定義する [クラスタ間エクステンションモビリティの CSS(Extension Mobility Cross Cluster CSS)] フィールドは、EMCC ログイン時にユーザがこのデバイス プロファイルを選択すると、リモート電話機のデバイス CSS として使用されます。

EMCC 電話機のリージョン設定

EMCC 電話機のリージョン設定には、次の特徴があります。

- EMCC ログイン電話機はホーム クラスタにリージョンが設定されていない。
- いかなるクラスタについても、すべての EMCC ログイン電話機に、通常のリージョン設定に優先する共通のリージョン設定 ([拡張機能 (Advanced Features)] > [EMCC] > [EMCC 機能設定 (EMCC Feature Configuration)]) が割り当てられる。
- リージョンの EMCC 機能のパラメータは、すべてのクラスタに同じ値を設定する必要がある。リージョンの EMCC 機能のパラメータに異なる値を設定すると、リモートクラスタの更新操作によって該当するクラスタの RSVP エージェントが無効となる。

EMCC の概要

- ・ リージョンの EMCC 機能のパラメータには、次の値が適用される。
 - [EMCC Region Max Audio Bit Rate] (この機能パラメータに関する推奨回避策設定の詳細については、「EMCC の範囲」(P.10-15) を参照してください)
 - [EMCC Region Max Video Call Bit Rate (Includes Audio)]
 - [EMCC Region Link Loss Type]

EMCC 電話機の RSVP 設定

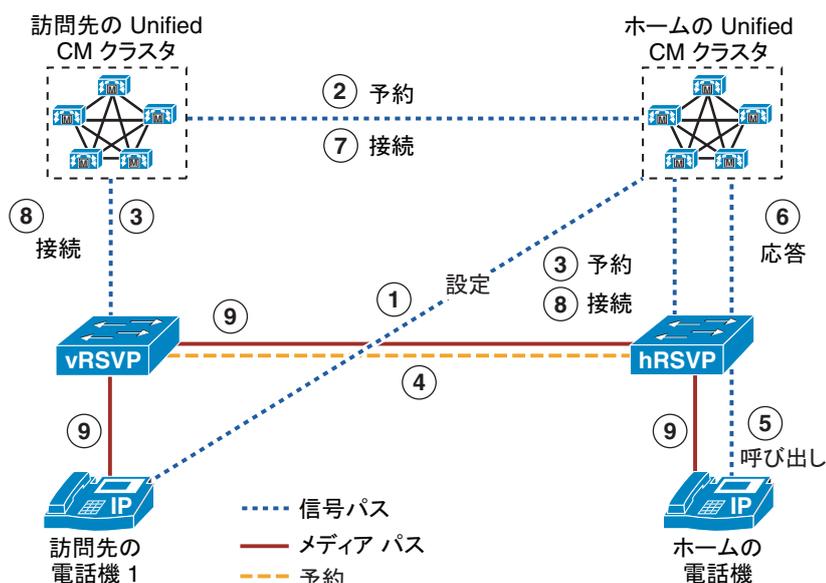
EMCC 電話機の RSVP 設定には、次の特徴があります。

- ・ ホーム クラスタの EMCC 電話機の RSVP ポリシーは、通常の電話機と同じ設定手順に従う。
 - 共通のロケーション (Remote-cluster-location など) またはクラスタ固有のロケーション (UK-location など) を設定する。
 - ロケーションに無制限のオーディオおよびビデオ帯域幅を設定して、ロケーションベースの CAC を無効にする。
 - ロケーションペアに RSVP ポリシー (予約なし、オプション、必須) を設定する。
- ・ 訪問先クラスタでは、訪問先電話機の Media Resource Group List (MRGL; メディア リソース グループ リスト) に RSVP デバイスを追加する。
- ・ RSVP エージェントを割り当てるとき、ホーム クラスタの Cisco Unified Communications Manager はその RSVP エージェントが EMCC 電話機用であることを認識し、RSVP SIP トランク上で訪問先クラスタに要求をリダイレクトする。
- ・ その他のすべてのメディア リソースを割り当てるとき、ホーム クラスタの Cisco Unified Communications Manager はホーム クラスタに設定されたメディア リソース グループ リストに基づいてメディア リソースを割り当てる。

RSVP エージェントベースの CAC 基本コール

図 10-10 に、RSVP エージェントベースの Call Admission Control (CAC; コール アドミッション 制御) 基本コール用の Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティを示します。

図 10-10 RSVP エージェントベースの CAC 基本コール用 EMCC

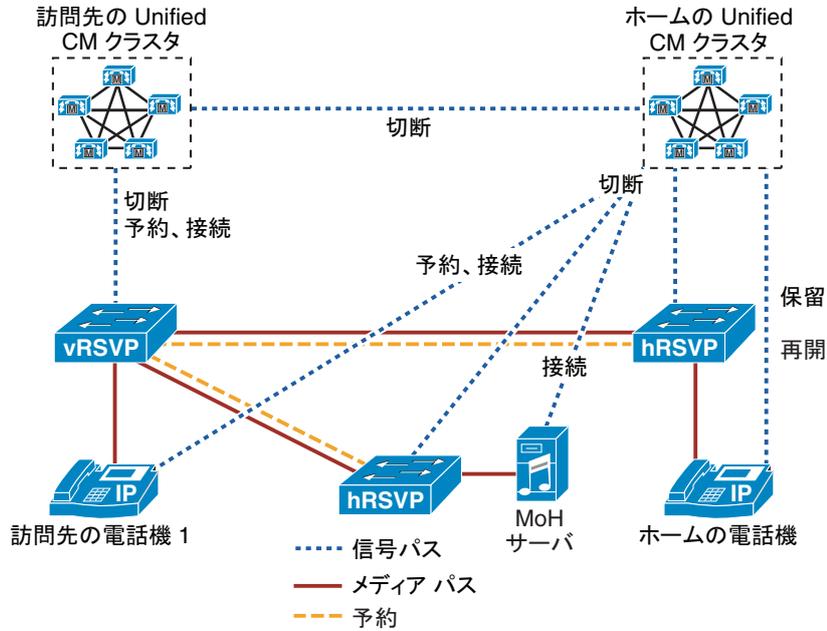


253068

ホーム電話機による RSVP エージェント CAC の保留 / 再開

図 10-11 に、ホーム電話機による RSVP エージェントベースの保留 / 再開のための Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティを示します。

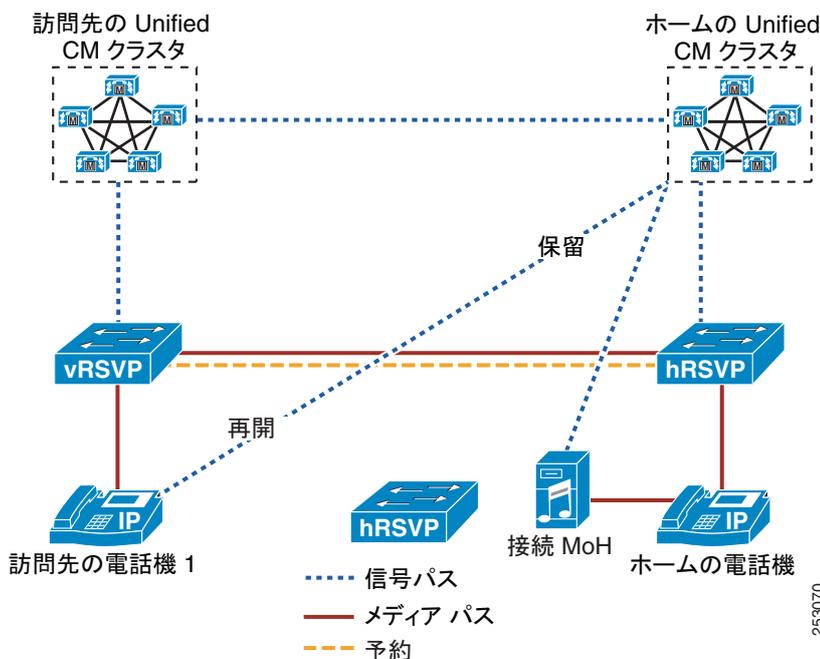
図 10-11 ホーム電話機による RSVP エージェントベース CAC の保留 / 再開のための EMCC



訪問先電話機による RSVP エージェント CAC の保留 / 再開

図 10-12 に、訪問先電話機による RSVP エージェントベースの保留 / 再開のための Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティを示します。

図 10-12 訪問先電話機による RSVP エージェントベース CAC の保留 / 再開のための EMCC



EMCC コール処理に共通の問題

この項では、EMCC で発生する可能性のある、コール処理に共通の問題について説明します。

- 通常のコールを発信できない。
 - EMCC 電話機が正しいローミング用デバイス プールにバインドされていない ([デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の次に [リモートログインデバイス (Remotely Logged In Device)] を選択)。
 - ログインデバイス プロファイルに EMCC CSS を設定していない ([デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Setting)] > [デバイスプロファイル (Device Profile)])。
 - RSVP 予約を設定すると失敗する (たとえば、訪問先クラスタにある訪問先電話機のメディア リソース グループ リストに RSVP デバイスがない、など)。
 - EMCC ログイン電話機で G.729 コーデックがサポートされておらず、訪問先クラスタ内の電話機にトランスコーダが設定されていない。
- 緊急通話を発信できない。
 - EMCC 電話機が正しいローミング用デバイス プールにバインドされていない ([デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の次に [リモートログインデバイス (Remotely Logged In Device)] を選択)。
 - EMCC 電話機のローミング用デバイス プールで付加 CSS が欠落している。
 - 付加 CSS に基づいてホーム クラスタのルーティング設定を確認する。
 - 訪問先クラスタにある電話機のスタティック デバイス プールでローカル ルート グループ設定が欠落している。

- メディアが存在しない、または片方向メディアが存在する。
 - すべてのクラスタで [EMCC リージョン (EMCC Region)] 設定ウィンドウに同じ値が設定されているどうかを確認する ([拡張機能 (Advanced Features)] > [EMCC] > [EMCC 機能設定 (EMCC Feature Configuration)])。
 - ホーム クラスタの RSVP ポリシーを確認する (ホーム クラスタの RSVP ポリシーだけが重要)。

EMCC コール処理問題に関するヘルプの入手

コール処理問題のヘルプを入手するには、次の手順を実行します。

- ホーム クラスタおよび訪問先クラスタの両方から、詳細なトレースを収集します。
- コールシナリオの詳細は次のとおりです。
 - EMCC デバイスと、EMCC デバイス以外のデバイスおよびそのクラスタを識別します。たとえば、EMCC 電話機が正しいローミング用デバイス プールにバインドされていないとします。[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] メニュー オプションを使用した後、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスで [リモートログインデバイス (Remotely Logged In Device)] を選択します。

EMCC が設定されている場合の電話機の動作

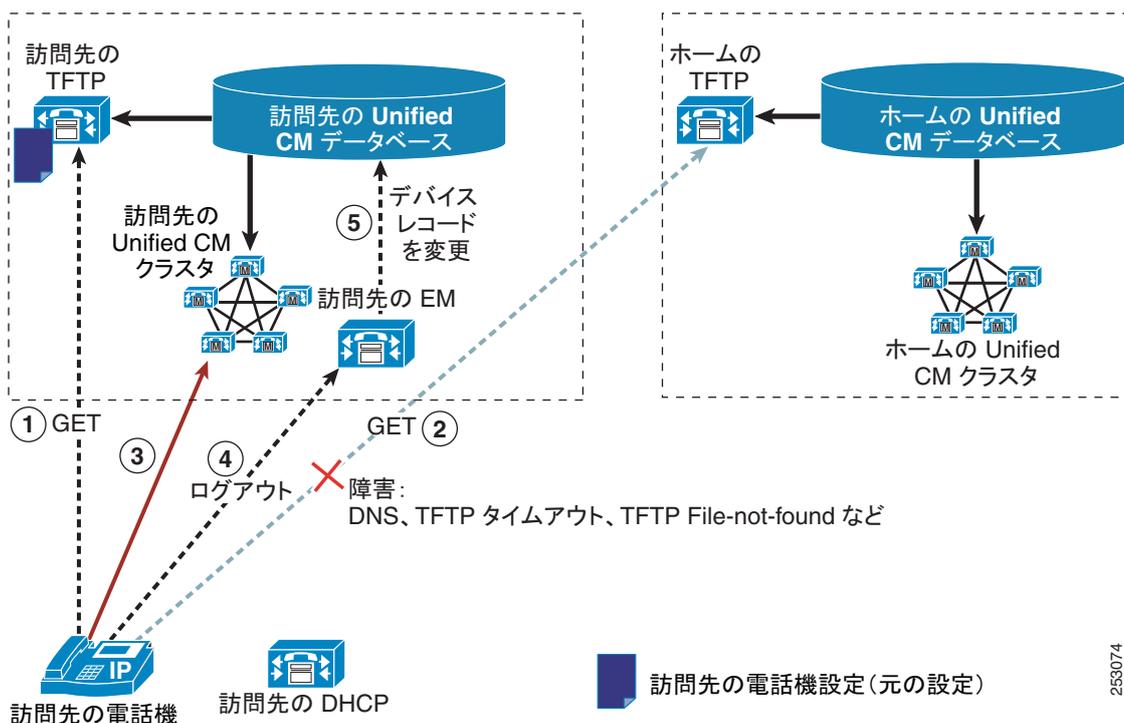
この項では、EMCC 環境における電話機の次の動作について説明します。

- 「WAN ネットワーク障害：設定ファイルを使用できない」 (P.10-34)
- 「EMCC 障害：登録拒否」 (P.10-35)
- 「EMCC 障害：ホーム Cisco Unified Communications Manager が使用不能 / 局間障害」 (P.10-36)
- 「EMCC 障害：ホーム Cisco Unified Communications Manager が使用不能 / クラスタ間障害」 (P.10-37)
- 「EMCC 障害：ホーム Cisco Unified Communications Manager が使用不能 / クラスタ間障害 (訪問先 SRST が存在しない)」 (P.10-38)

WAN ネットワーク障害：設定ファイルを使用できない

図 10-13 に、設定ファイルを使用できない場合の WAN ネットワーク障害を示します。電話機は訪問先クラスタに登録されます。

図 10-13 WAN ネットワーク障害：設定ファイルを使用できない

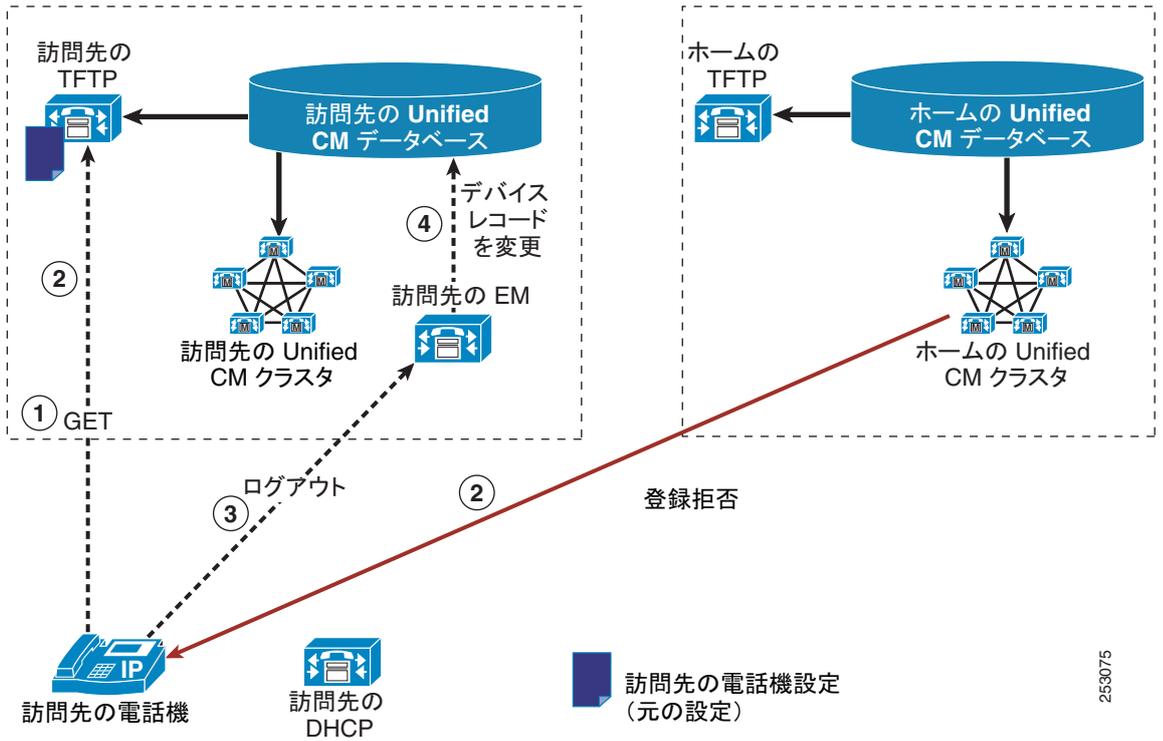


EMCC ログインモードでは、ホーム クラスタへの接続障害を検出した電話機は、そのホーム クラスタへの接続を再確立しようとします。WAN 障害などの障害によって再確立が何度か失敗した後、電話機は訪問先クラスタにログアウト要求を自動的に発行し、ログアウト時に訪問先クラスタに再登録します。

EMCC 障害 : 登録拒否

図 10-14 に、登録拒否が発生した場合の EMCC 障害を示します。
電話機は訪問先クラスタに登録されます。

図 10-14 EMCC 障害 : 登録拒否



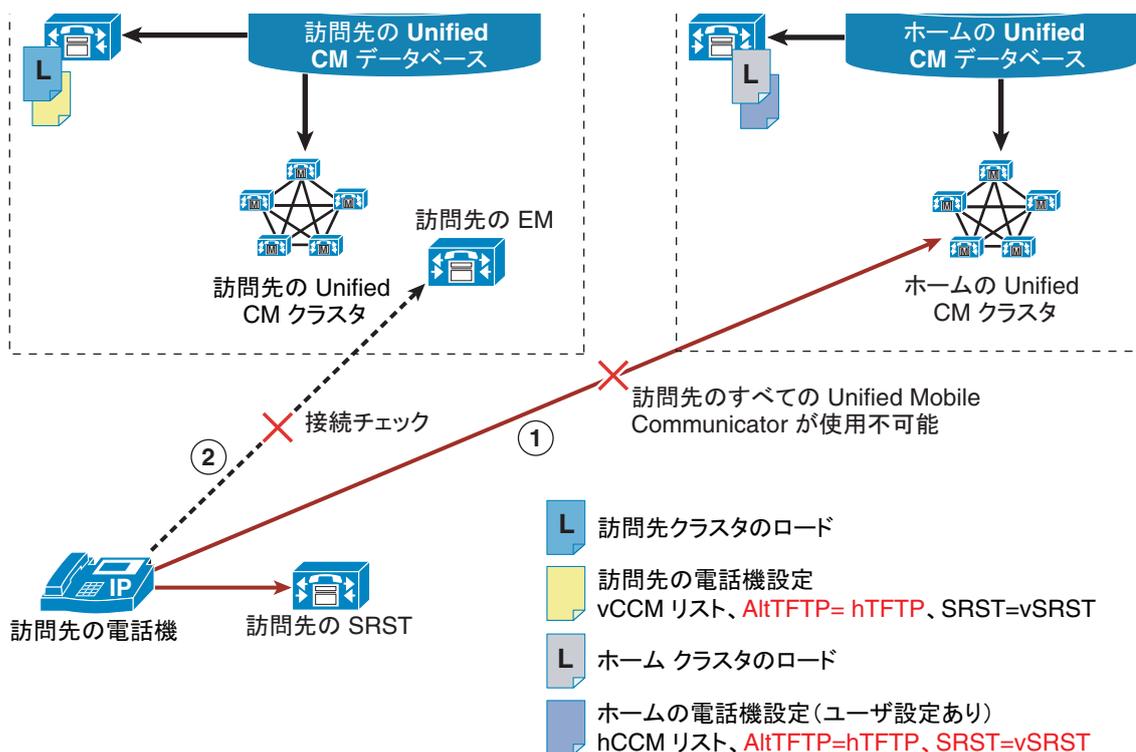
253075

EMCC 障害 : ホーム Cisco Unified Communications Manager が使用不能 / 局間障害

図 10-15 に、ホーム Cisco Unified Communications Manager が使用不能となって局間障害が発生した場合の EMCC 障害を示します。

電話機は SRST にフェールオーバーします。

図 10-15 EMCC 障害 : ホーム Cisco Unified Communications Manager が使用不能 / 局間障害



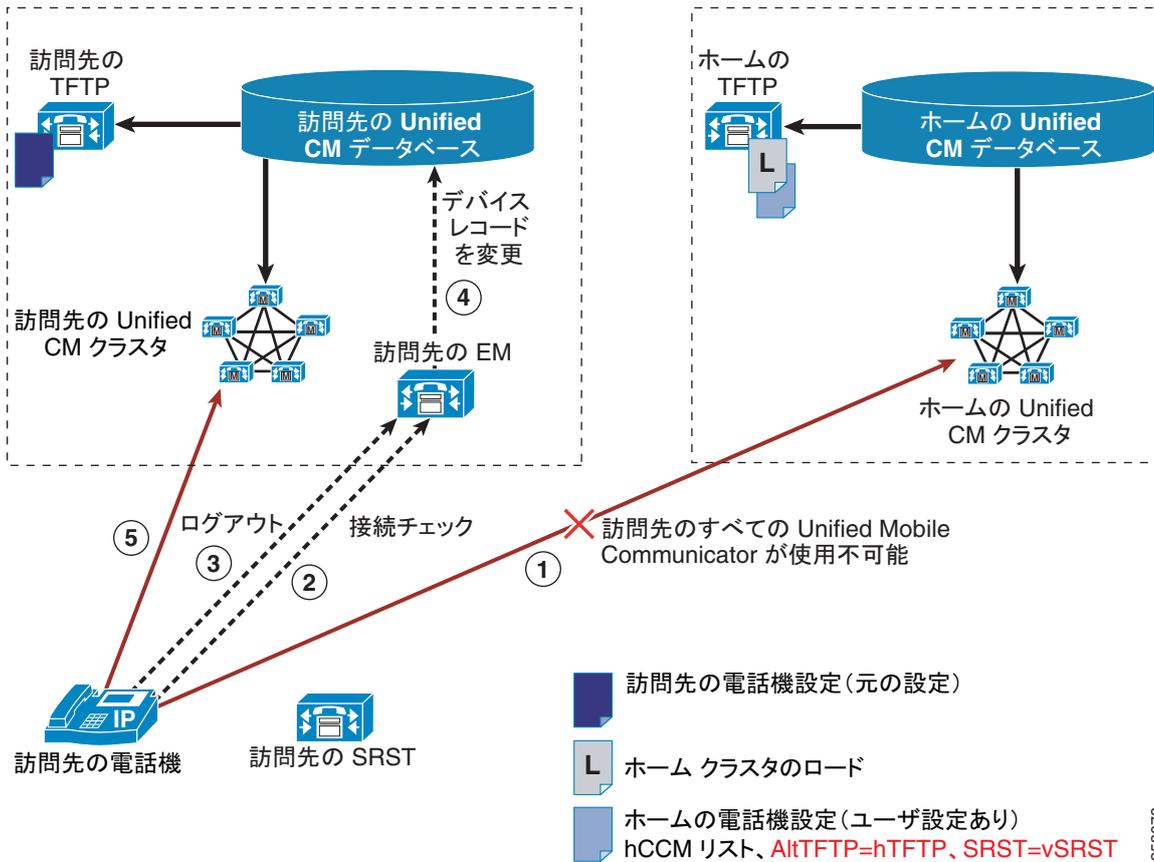
253077

EMCC 障害 : ホーム Cisco Unified Communications Manager が使用不能 / クラスタ間障害

図 10-16 に、ホーム Cisco Unified Communications Manager が使用不能となってクラスタ間障害が発生した場合の EMCC 障害を示します。

電話機は訪問先クラスタに登録されます。

図 10-16 EMCC 障害 : ホーム Cisco Unified Communications Manager が使用不能 / クラスタ間障害

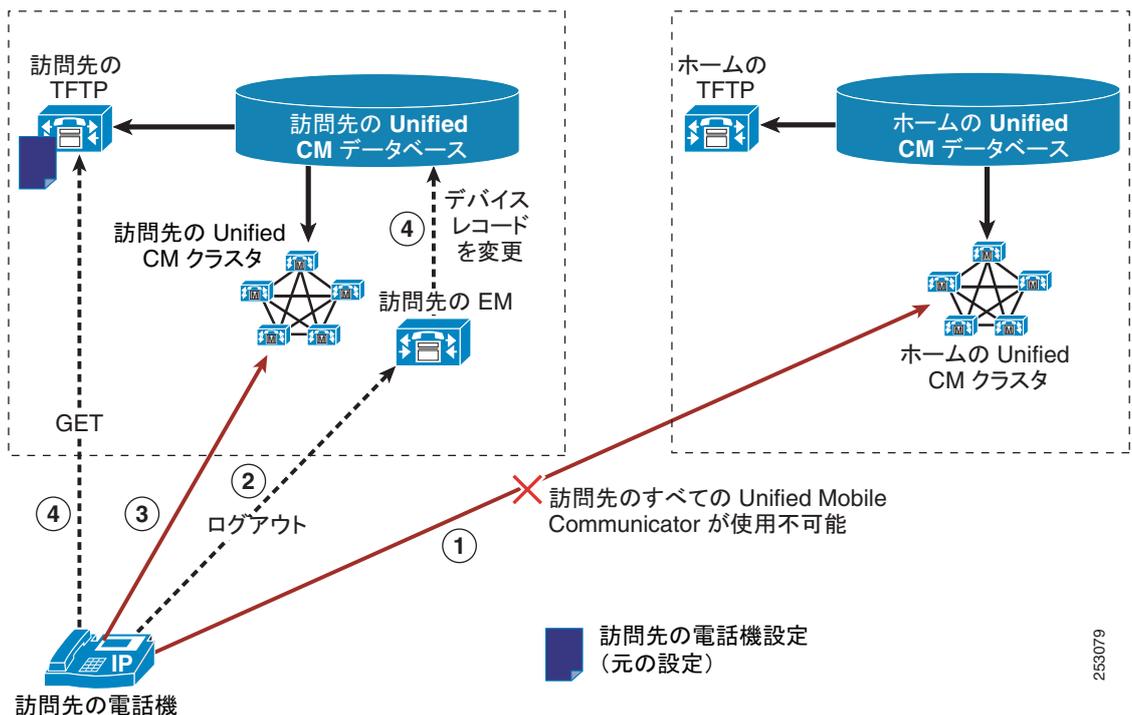


EMCC 障害 : ホーム Cisco Unified Communications Manager が使用不能 / クラスタ間障害 (訪問先 SRST が存在しない)

図 10-17 に、ホーム Cisco Unified Communications Manager が使用不能となってクラスタ間障害が発生し、訪問先 SRST が適用されない場合の EMCC 障害を示します。

電話機は訪問先クラスタに登録されます。

図 10-17 EMCC 障害 : 設定ファイルが使用不能、クラスタ間障害が発生、訪問先 SRST が適用されない



253079

EMCC が設定されている場合の電話機のセキュリティ

EMCC 環境における電話機のセキュリティ問題の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。

EMCC のシステム要件

Cisco Unified Communications Manager には、次のシステム要件があります。

- Cisco Unified Communications Manager リリース 8.0(1) 以降。
- Cisco エクステンション モビリティ サービス。
- Cisco Unified Communications オペレーティング システム。
- Cisco Bulk Provisioning Service。
- Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティの設定をサポートし、この設定を使用する他のコール制御エンティティ。たとえば、他の Cisco Unified Communications Manager クラスタ、EMCC クラスタ間サービス プロファイル、および EMCC リモート クラスタ サービス。

インタラクションおよび制限事項

この項では、Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティのインタラクションおよび制限事項の詳細について説明します。次の項を参照してください。

- 「EMCC インタラクション」(P.10-39)
- 「EMCC の制限事項」(P.10-40)

EMCC インタラクション

この項では、Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティと他の Cisco Unified Communications Manager の管理コンポーネントのインタラクションを示します。

Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティの相互登録ソリューションを利用すると、ユーザ機能は予想したとおりにクラスタ間で動作します。次のリストに、クラスタ間で動作するユーザ機能の一部を示します。

- シェアドライン
- ハント リスト
- 転送 / 会議 / 保留
- 自動転送
- Cisco Unified Mobility
- 割り込み /C 割り込み
- 即時転送
- アプリケーション
- スピード ダイヤル
- サービス
- アドレス帳
- デバイス ラベル
- ライン アピアランス管理
- MWI
- ボイスメール
- サイレント
- モニタリングと録音
- コールバックが話し中 / 応答なし
- Multilevel Precedence and Preemption (MLPP)

EMCC の制限事項

この項では、他の Cisco Unified Communications Manager の管理コンポーネントと使用する場合の Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティの制限事項を示します。この項は、次の内容で構成されています。

- 「EMCC ログアウトの制限事項」 (P.10-40)
- 「EMCC はインターコム機能をサポートしていない」 (P.10-40)
- 「EMCC はロケーションベースのコール アドミッション制御をサポートしない」 (P.10-40)
- 「ローカル ルート グループを使用する場合の EMCC の制限事項および設定要件」 (P.10-40)
- 「EMCC の重複ユーザ ID の制限事項」 (P.10-40)
- 「EMCC デバイスの複数のクラスタ内でのプロビジョニングは不可」 (P.10-41)
- 「クラスタ間の EMCC およびセキュリティ モード」 (P.10-41)
- 「Cisco CallManager サービスがダウンした後の訪問先電話機ログインの制限事項」 (P.10-41)
- 「[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの EMCC および製品固有の設定レイアウト」 (P.10-41)

EMCC ログアウトの制限事項

エンド ユーザが EMCC を使用してログインしているときにホーム クラスタの管理者がエンド ユーザの EMCC 機能を無効にしても、このエンド ユーザは自動的にログアウトされません (このシナリオでは、管理者がこのエンド ユーザの [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで [クラスタ間のエクステンションモビリティの有効化 (Enable Extension Mobility Cross Cluster)] チェックボックスをオフにします)。その代わりに、このエンド ユーザが後で EMCC を実行しようとしても動作しません。現在の EMCC セッションは、エンド ユーザがログアウトするまで継続します。

EMCC はインターコム機能をサポートしていない

インターコムの設定にはスタティックなデバイスの設定を指定するため、Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティはインターコム機能をサポートしていません。

EMCC はロケーションベースのコール アドミッション制御をサポートしない

ロケーション CAC はサポートされていません。

RSVP ベースの CAC はサポートされています。

ローカル ルート グループを使用する場合の EMCC の制限事項および設定要件

ローカル ルート グループを使用して EMCC コールをルーティングする場合、EMCC の制限事項および設定要件の詳細については、次の項を参照してください。

- 「EMCC コール処理の設定」 (P.10-26)
- 「ホーム クラスタでの訪問先クラスタの緊急事態パターンの設定」 (P.10-27)
- 「ホーム クラスタの EMCC 訪問先電話機のローカル ルート グループルーティング」 (P.10-28)
- 「EMCC SIP トランクを使用したローカル ルート グループルーティング」 (P.10-29)

EMCC の重複ユーザ ID の制限事項

動作が予測できないため、(同じ PIN または異なる PIN のいずれの場合も) 重複ユーザ ID はサポートされていません。

EMCC デバイスの複数のクラスタ内でのプロビジョニングは不可

自動登録は無効にしておくことをお勧めします（不用意なプロビジョニングを避けるため）。

クラスタ間の EMCC およびセキュリティ モード

すべてのクラスタでは、次のいずれかから同じセキュリティ モードを指定する必要があります。

- すべてのクラスタに非セキュアなクラスタまたは混合モードのクラスタを指定する。
- 異なるセキュリティ モードが設定されたクラスタは混在できない。
- Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティが有効になっている電話機は、必ず非セキュア モードとする（つまり、非セキュアなデバイスセキュリティプロファイルに関連付ける必要がある）。
 - RTP ストリームに限定
 - コールは非セキュア（TCP 限定、TLS 接続なし）

Cisco CallManager サービスがダウンした後の訪問先電話機ログインの制限事項

参加クラスタ内の Cisco エクステンション モビリティ サービスは、定期的なリモート クラスタの更新を実行します。[EMCC 機能設定 (EMCC Feature Configuration)] 機能のパラメータ [Remote Cluster Update Interval] によって、更新間隔を制御します。デフォルト値には 30 分が指定されています。

クラスタ A の Cisco エクステンション モビリティ サービスがこの更新についてリモート クラスタ（クラスタ B など）から応答を受け取らない場合、クラスタ A の [リモートクラスタ (Remote Cluster)] ウィンドウには、クラスタ B の [リモートがアクティブ (Remote Activated)] サービスが [False] に設定されていると表示されます。

この場合、訪問先クラスタではホーム クラスタからの応答を一切受け取らず、ホーム クラスタの [リモートがアクティブ (Remote Activated)] 値を [False] に設定します。

この間隔の間は、訪問先電話機が EMCC を使用してログインできない場合があります。訪問先電話機は、「ログインできません (23)」というメッセージを受信します。

この時点で、訪問先電話機から EMCC にログインしようとする、エラー「ログインできません (23)」が発生してログインに失敗します。このエラーは電話機に表示されます。これは、ホーム クラスタの Cisco Unified Communications Manager がサービス停止からサービス中に変化したことを、訪問先クラスタが検出していないために発生します。

リモート クラスタのステータス変更の検出は、EMCC 機能パラメータ [Remote Cluster Update Interval] の値に基づいて、訪問先の Cisco エクステンション モビリティ サービスが最後にクエリ / 更新を実行した時点に基づいて行われます。

また、[リモートクラスタサービスの設定 (Remote Cluster Service Configuration)] ウィンドウ ([拡張機能 (Advanced Features)] > [EMCC] > [EMCC リモートクラスタ (EMCC Remote Cluster)]) の [リモートクラスタを今すぐ更新 (Update Remote Cluster Now)] ボタンをクリックすると、[リモートがアクティブ (Remote Activate)] 値を [True] に変更できます。このとき、EMCC ログインも有効になります。これ以外の場合、次の定期更新サイクルの後、訪問先電話機による EMCC ログインは通常に戻ります。

[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの EMCC および製品固有の設定レイアウト

ユーザが訪問先クラスタ内の電話機を使用して、ユーザ エクステンション モビリティ プロファイルにログインすると、その電話機はデフォルトのプロビジョニング、ネットワーク、およびセキュリティの設定（具体的には、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] セクションの設定）をホーム クラスタから継承します。この動作は、訪問先クラスタで使用されるローカルのセキュリティとネットワークの設定を上書きする場合があります。一部のパラメータには、修正が提供されるまでシステム管理者が変更できないファームウェア デフォルトが設定されています。

EMCC のインストールとアクティブ化

Cisco Unified Communications Manager のインストール後、必要な設定作業を実行すると、ネットワークで Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ 機能をサポートできます。実行する必要がある設定作業については、「EMCC の設定チェックリスト」(P.10-2) を参照してください。

EMCC の設定

この項は、次の内容で構成されています。

- 「EMCC 機能の設定項目の設定」(P.10-42)
- 「EMCC クラスタ間サービス プロファイルの設定項目」(P.10-47)
- 「リモート クラスタの設定項目」(P.10-48)

EMCC 機能の設定項目の設定

表 10-2 に、[EMCC 機能設定 (EMCC Feature Configuration)] ウィンドウ ([拡張機能 (Advanced Features)] > [EMCC] > [EMCC 機能設定 (EMCC Feature Configuration)]) で設定する EMCC 機能のパラメータの詳細を示します。

表 10-2 EMCC 機能のパラメータの設定項目

EMCC パラメータ	説明
[Default TFTP Server for EMCC Login Device]	リモート クラスタから EMCC にログインするデバイスが使用するデフォルト TFTP サーバのコンピュータ名または IP アドレスを選択します。
[Backup TFTP Server for EMCC Login Device]	リモート クラスタから EMCC にログインするデバイスが使用するバックアップ TFTP サーバのコンピュータ名または IP アドレスを選択します。
[Default Interval for Expired EMCC Device Maintenance]	有効期限が切れた EMCC デバイスのシステムをチェックする間隔を分数で指定します。 有効期限が切れた EMCC デバイスとは、リモート クラスタから EMCC にログインしたデバイスのうち、WAN 障害または接続の問題が発生したために訪問先クラスタからログアウトし、接続が回復したときに訪問先クラスタに再度ログインしたデバイスを指します。 このメンテナンス ジョブの実行中、Cisco エクステンション モビリティ サービスは Cisco Unified Communications Manager データベースをチェックして有効期限が切れた EMCC デバイスがあるかどうかを調べ、そのようなデバイスがあれば自動的にログアウトさせます。 デフォルト値は 1440 分です。有効な値の範囲は 10 ~ 1440 分です。

表 10-2 EMCC 機能のパラメータの設定項目 (続き)

EMCC パラメータ	説明
[Enable All Remote Cluster Services When Adding A New Remote Cluster]	<p>新しいリモート クラスタを追加したときに、そのクラスタ上のすべてのサービスを自動的に有効にするかどうかを選択します。</p> <p>有効な値は [True] (リモート クラスタ上のすべてのサービスを自動的に有効化) または [False] (Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [リモートクラスタの設定 (Remote Cluster Configuration)] ウィンドウ経由でリモート クラスタ上のサービスを手動で有効化) です。サービスを手動で有効にすれば、リモート サービスが有効になる前に EMCC 機能をすべて設定する余裕ができます。</p> <p>デフォルト値は [False] です。</p>
[CSS for PSTN Access SIP Trunk]	<p>EMCC コールを処理する PSTN アクセス SIP トランクが使用する Calling Search Space (CSS; コーリングサーチ スペース) を選択します。</p> <p>PSTN アクセス SIP トランクには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [クラスタ間サービスプロファイル (Intercluster Service Profile)] ウィンドウで PSTN アクセス用に設定した SIP トランクを指定します。このトランク経由のコールは、コールを開始する EMCC ログイン電話機と同じ場所に設置されたローカル PSTN 向けで、この PSTN だけにルーティングされます。</p> <p>有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Use Trunk CSS] (PSTN コールはローカル ルートグループを使用します。このグループは、緊急サービス コールを正しくルーティングするために有効です) • [Use phone's original device CSS] (PSTN コールはリモート電話機に設定されたコーリングサーチ スペースを使用してルーティングされます。つまり、電話機が EMCC にログインしていないときに使用される CSS です) <p>デフォルト値は [Use Trunk CSS] です。</p>

表 10-2 EMCC 機能のパラメータの設定項目 (続き)

EMCC パラメータ	説明
[EMCC Geolocation Filter]	<p>Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ機能で使用するよう設定した位置情報フィルタを選択します。このドロップダウンリストボックスで値を選択するには、あらかじめ EMCC 位置情報フィルタを設定しておく必要があります。</p> <p>別のクラスタからエクステンションモビリティ経由でログインした電話機に関係付けられた位置情報と、選択した EMCC 位置情報フィルタに基づいて、Cisco Unified Communications Manager は電話機をローミング用デバイスプールに格納します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager では、EMCC 位置情報フィルタを適用した後、電話機の位置情報に最もよく一致するデバイスプールを評価して、使用するローミング用デバイスプールを決定します。</p>
[EMCC Region Max Audio Bit Rate]	<p>このパラメータは、相手側に関連付けられたリージョンとは無関係に、すべての EMCC コールの最大オーディオビットレートを指定します。</p> <p>デフォルト値は 8 kbps (G.729) です。</p> <p>(注) 使用する [EMCC Region Max Audio Bit Rate] を、クラスタの通信先となる他のクラスタに通知してください。すべての参加 EMCC クラスタには、同じ [EMCC Region Max Audio Bit Rate] を指定する必要があります。</p>
[EMCC Region Max Video Call Bit Rate (Includes Audio)]	<p>このパラメータは、相手側に関連付けられたリージョンのビデオコールの最大ビットレートとは無関係に、すべての EMCC ビデオコールの最大ビットレートを指定します。</p> <p>デフォルト値は 384 です。有効な値の範囲は 0 ~ 8128 です。</p> <p>(注) 使用する [EMCC Region Max Video Call Bit Rate] を、クラスタの通信先となる他のクラスタに通知してください。すべての参加 EMCC クラスタには、同じ [EMCC Region Max Video Call Bit Rate] を指定する必要があります。</p>

表 10-2 EMCC 機能のパラメータの設定項目 (続き)

EMCC パラメータ	説明
[EMCC Region Link Loss Type]	<p>このパラメータは、任意のリモート クラスタの任意の EMCC 電話機とデバイス間のリンク損失タイプを指定します。</p> <p>(注) 使用する [EMCC Region Link Loss Type] を、クラスタの通信先となる他のクラスタに通知してください。EMCC コールで双方向オーディオを有効にするには、すべての参加 EMCC クラスタが同じ [EMCC Region Link Loss Type] を使用する必要があります。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、選択されたオプションに基づいて、設定された [EMCC Region Max Audio Bit Rate] を考慮しつつ EMCC コールに最適なオーディオコーデックの使用を試みます。</p> <p>有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Lossy] (多少のパケット損失が発生する可能性のあるリンク。DSL など) • [Low Loss] (パケット損失があまり発生しないリンク。T1 など) <p>このパラメータを [Lossy] に設定すると、Cisco Unified Communications Manager では多少のパケット損失が発生するという前提のオーディオ品質に基づいて、[EMCC Region Max Audio Bit Rate] によって設定された制限内で最適なコーデックを選択します。</p> <p>このパラメータを [Low Loss] に設定すると、Cisco Unified Communications Manager ではパケット損失がほとんど発生しない、またはまったく発生しないという前提のオーディオ品質に基づいて、[EMCC Region Max Audio Bit Rate] によって設定された制限内で最適なコーデックを選択します。</p> <p>[Low Loss] と [Lossy] オプションのオーディオコーデック プリファレンス順序の違いは、リンク損失タイプを [Low Loss] に設定したときに G.722 が Internet Speech Audio Codec (iSAC) より優先されるかどうかだけです。一方、リンク損失タイプを [Lossy] に設定すると、iSAC が G.722 より優先されます。</p> <p>デフォルト値は [Low Loss] です。</p>

表 10-2 EMCC 機能のパラメータの設定項目 (続き)

EMCC パラメータ	説明
[RSVP SIP Trunk KeepAlive Timer]	<p>EMCC RSVP SIP トランク上の 2 つのクラスタ間で、キープアライブ メッセージまたは確認応答の送受信を Cisco Unified Communications Manager が待機する秒数を指定します。</p> <p>EMCC RSVP SIP トランクには、トランクサービスタイプとして Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティが設定され、[クラスタ間サービスプロファイル (Intercluster Service Profile)] ウィンドウで RSVP エージェントの SIP トランクとして選択されている SIP トランクを指定します。キープアライブ メッセージまたは確認応答を受信しないうちにこれら 2 つの間隔が経過すると、Cisco Unified Communications Manager はリモートクラスタで使用する RSVP リソースを解放します。</p> <p>デフォルト値は 15 秒です。有効な値の範囲は 1 ~ 600 秒です。</p>
[Default Server for Remote Cluster Update]	<p>Cisco エクステンション モビリティ サービスがアクティブになっているこのローカルクラスタの、プライマリ Cisco Unified Communications Manager サーバのデフォルトサーバ名または IP アドレスを選択します。リモートクラスタはこのサーバにアクセスして、このローカルクラスタの情報を取得します。</p>
[Backup Server for Remote Cluster Update]	<p>Cisco エクステンション モビリティ サービスがアクティブになっているこのローカルクラスタの、セカンダリ Cisco Unified Communications Manager サーバのデフォルトサーバ名または IP アドレスを選択します。リモートクラスタは、プライマリサーバがダウンしているときにこのサーバにアクセスして、このローカルクラスタの情報を取得します。</p>
[Remote Cluster Update Interval]	<p>ローカル Cisco Unified Communications Manager ノード上の Cisco エクステンション モビリティ サービスがリモート EMCC クラスタの情報を収集する間隔 (分単位) を指定します。収集される情報には、リモートクラスタの Cisco Unified Communications Manager バージョンおよびサービス情報などの詳細が含まれます。</p> <p>デフォルト値は 30 です。有効な値の範囲は 15 ~ 10,080 分です。</p>

追加情報

「関連項目」(P.10-55) を参照してください。

EMCC クラスタ間サービス プロファイルの設定項目

EMCC クラスタ間サービス プロファイルは、[クラスタ間サービスプロファイルの設定 (Intercluster Service Profile Configuration)] ウィンドウで設定します。このウィンドウは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [拡張機能 (Advanced Features)] > [EMCC] > [EMCC クラスタ間サービスプロファイル (EMCC Intercluster Service Profile)] メニュー オプションを使用すると表示されます。

表 10-3 EMCC クラスタ間サービス プロファイルの設定項目

フィールド	説明
[EMCC]	
[アクティブ (Active)]	Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ機能を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[PSTN アクセス (PSTN Access)]	
[アクティブ (Active)]	PSTN アクセスを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[SIP トランク (SIP Trunk)]	ドロップダウン リスト ボックスから、PSTN アクセスに使用する SIP トランクを選択します。 最初に SIP トランクを指定 ([デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)]) してから、そのトランクを PSTN アクセス用に設定する必要があります。
[RSVP エージェント (RSVP Agent)]	
[アクティブ (Active)]	RSVP エージェントを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[SIP トランク (SIP Trunk)]	ドロップダウン リスト ボックスから、RSVP エージェントに使用する SIP トランクを選択します。 最初に SIP トランクを指定 ([デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)]) する必要があります。

表 10-3 EMCC クラスタ間サービス プロファイルの設定項目 (続き)

フィールド	説明
[EMCC セットアップ検証レポート (EMCC Setup Validation Report)]	
[設定 (Configuration(s))]	<p>[保存 (Save)] をクリックすると、このペインに [EMCC セットアップ検証レポート (EMCC Setup Validation Report)] が表示されます。</p> <p>[確認 (Validate)] をクリックすると、ポップアップ ウィンドウに [EMCC セットアップ検証レポート (EMCC Setup Validation Report)] が表示されます。ポップアップ ウィンドウを閉じるには、[閉じる (Close)] をクリックします。</p> <p>レポートの [設定 (Configuration(s))] カラムに、検証対象の次のエンティティが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [EMCC PSTN アクセスサービス (EMCC PSTN Access Service)] • [EMCC ログインデバイス用のデフォルトの TFTP サーバ (Default TFTP Server for EMCC Login Device)] • [EMCC 位置情報フィルタ (EMCC Geolocation Filter)] • [リモートクラスタ用の EMCC サービスのデフォルトサーバ (EMCC Service Default Server for Remote Cluster)] • [EMCC デバイス (EMCC Devices)] • [クラスタ ID(ClusterId)]
[ステータス (Status)]	このカラムには、EMCC クラスタ間サービス プロファイルの、検証中の各設定のステータスが表示されます。各エンティティの有効な値は [Success] および [Failure] です。
[エラーメッセージ (Error Message)]	失敗した設定ごとにエラー メッセージが表示され、正しい設定を行うために実行する必要がある設定が示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.10-55) を参照してください。

リモート クラスタの設定項目

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[拡張機能 (Advanced Features)] > [EMCC] > [EMCC リモートクラスタ (EMCC Remote Cluster)] メニュー パスを使用して、リモート クラスタを設定します。

リモート クラスタの検索に関するヒント

検索操作を実行すると、すでに追加されているリモート クラスタだけが検索されます。検索操作を実行しても、自動的に企業に所属しているクラスタは検索されません。

GUI の使用方法

Cisco Unified Communications Manager の管理の Graphical User Interface (GUI; グラフィカル ユーザー インターフェイス) を使用してレコードを検索、削除、設定、またはコピーする方法については、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションでの操作](#)」およびそのサブセクションを参照してください。GUI の使用方法とボタンおよびアイコンの機能の詳細が説明されています。

設定項目の表

表 10-4 に、[リモートクラスタの設定 (Remote Cluster Configuration)] ウィンドウ ([拡張機能 (Advanced Features)] > [EMCC] > [EMCC リモートクラスタ (EMCC Remote Cluster)]) で設定するリモートクラスタ設定項目の詳細を示します。

表 10-4 リモートクラスタの設定項目

フィールド	説明
[リモートクラスタ情報 (Remote Cluster Information)]	
[クラスタ ID(Cluster Id)]	リモートクラスタのクラスタ ID を入力します。 有効な値は、英数字、ピリオド (.)、ハイフン (-) です。
[説明 (Description)]	リモートクラスタの説明を入力します。 このフィールドには、最大 128 文字を入力できます。引用符 (")、右山カッコ (>)、左山カッコ (<)、バックスラッシュ (\)、ダッシュ (-)、アンパサンド (&)、およびパーセント (%) を除くすべての文字を使用できます。
[完全修飾名 (Fully Qualified Name)]	リモートクラスタの完全修飾名を入力します。 このフィールドには最大 50 文字を入力でき、使用できる文字は英数字 (a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9)、ピリオド (.)、ダッシュ (-)、アスタリスク (*)、およびスペース () です。
[リモートクラスタサービスの情報 (Remote Cluster Service Information)]	
[EMCC]	EMCC サービスの場合、このサービスの設定の詳細が次のカラムヘッダーに表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> [有効 (Enabled)] : EMCC サービスが有効な場合は、このチェックボックスがオンになります。 [サービス (Service)] : このエントリは EMCC サービスです。 [リモートがアクティブ (Remote Activated)] : 有効な値は [True] または [False] です。 [アドレス 1(Address 1)] : このカラムには、このサービスの最初のアドレスが表示されます。 [アドレス 2(Address 2)] : このカラムには、このサービスの 2 番目のアドレスが表示されます。 [アドレス 3(Address 3)] : このカラムには、このサービスの 3 番目のアドレスが表示されます。

表 10-4 リモートクラスタの設定項目 (続き)

フィールド	説明
[PSTN アクセス (PSTN Access)]	<p>PSTN アクセスの場合、このサービスの設定の詳細が次のカラムヘッダーに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [有効 (Enabled)] : PSTN アクセスが有効な場合は、このチェックボックスがオンになります。 • [サービス (Service)] : このエントリは PSTN アクセスです。 • [リモートがアクティブ (Remote Activated)] : 有効な値は [True] または [False] です。 • [アドレス 1 (Address 1)] : このカラムには、このサービスの最初のアドレスが表示されます。 • [アドレス 2 (Address 2)] : このカラムには、このサービスの 2 番目のアドレスが表示されます。 • [アドレス 3 (Address 3)] : このカラムには、このサービスの 3 番目のアドレスが表示されます。
[RSVP エージェント (RSVP Agent)]	<p>RSVP エージェントの場合、このサービスの設定の詳細が次のカラムヘッダーに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [有効 (Enabled)] : RSVP エージェントが有効な場合は、このチェックボックスがオンになります。 • [サービス (Service)] : このエントリは RSVP エージェントです。 • [リモートがアクティブ (Remote Activated)] : 有効な値は [True] または [False] です。 • [アドレス 1 (Address 1)] : このカラムには、このサービスの最初のアドレスが表示されます。 • [アドレス 2 (Address 2)] : このカラムには、このサービスの 2 番目のアドレスが表示されます。 • [アドレス 3 (Address 3)] : このカラムには、このサービスの 3 番目のアドレスが表示されます。
[すべてのサービスを有効化 (Enabled All Services)]	すべてのサービス (EMCC、PSTN アクセス、および RSVP エージェント) を有効にするには、このボタンをクリックします。
[すべてのサービスを無効化 (Disabled All Services)]	すべてのサービス (EMCC、PSTN アクセス、および RSVP エージェント) を無効にするには、このボタンをクリックします。
[リモートクラスタを今すぐ更新 (Update Remote Cluster Now)]	リモートクラスタをすぐに更新するには、このボタンをクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.10-55) を参照してください。

エンドユーザへの情報の提供

エンドユーザは、クラスタ間のエクステンションモビリティ機能へのログインとログアウトを、エクステンションモビリティ機能から実行する場合と同じように実行します。また、どのクラスタを使用しているかはエンドユーザに表示されません。

追加情報

「関連項目」(P.10-55) を参照してください。

EMCC のトラブルシューティング

この項は、次の内容で構成されています。

- 「Cisco エクステンションモビリティアプリケーション (EMApp) のエラーコード」(P.10-51)
- 「Cisco エクステンションモビリティサービス (EMService) のエラーコード」(P.10-52)

Cisco エクステンションモビリティアプリケーション (EMApp) のエラーコード

表 10-5 に、Cisco エクステンションモビリティアプリケーション (EMApp) に適用されるエラーコードを示します。

表 10-5 Cisco エクステンションモビリティアプリケーション (EMApp) のエラーコード

エラーコード	電話機の表示	簡単な説明	説明
201	再度ログインしてください (201)	認証エラー	ユーザが EMCC ユーザの場合、[クラスタ間サービスプロファイル (Inter-cluster Service Profile)] ページで「EMCC」がアクティブにされていないと、このエラーが発生する可能性があります。
202	再度ログインしてください (202)	不正なユーザ ID または PIN	ユーザが不正なユーザ ID または PIN を入力しました。
204	ログインできません (204)	ディレクトリサーバエラー	指定された PIN を使用するユーザを IMS が認証できなかった場合に、このエラーが EMApp から電話機に送信されます。
205	ログインできません (205) ログアウトできません (205)	ユーザプロファイルなし	キャッシュまたはデータベースからユーザプロファイル情報を取得できなかった場合に発生します。
207	ログインできません (207) ログアウトできません (207)	空のデバイス名	要求 URI にデバイスまたは名前タグが欠落している場合に発生します。これは実際のデバイスで発生する可能性はなく、サードパーティアプリケーションから要求が送信された場合にだけ発生する可能性があります。

表 10-5 Cisco エクステンション モビリティ アプリケーション (EMApp) のエラー コード (続き)

エラーコード	電話機の表示	簡単な説明	説明
208	ログインできません (208) ログアウトできません (208)	EMService 接続エラー	訪問先 EMApp が、いずれの訪問先 EService にもアクセスできません (サービスがダウンしているか、またはアクティブではありません)。 訪問先の EService が、ホーム EService に接続できません (WAN がダウンしているか、または証明書が信頼されていません)。
210	ログインできません (210) ログアウトできません (210)	初期化に失敗：管理者に連絡	EMApp の初期化中に何らかのエラー (データベース接続障害など) が発生しました。起動時にデータベースへの接続に失敗すると、このエラーが発生する場合があります。これは致命的なエラーです。
211	ログインできません (211) ログアウトできません (211)	EMCC が非アクティブ	訪問先クラスタの [クラスタ間サービスプロファイル (Intercluster Service Profile)] ウィンドウで PSTN がアクティブにされていない場合に発生します。
212	ログインできません (212)	クラスタ ID が無効	不正なクラスタ ID がリモート クラスタに送信され、リモート クラスタの更新 (キープアライブ) に失敗した場合に発生します。
213	ログインできません (213) ログアウトできません (213)	デバイスが EMCC を未サポート	デバイス (電話機ロード) に EMCC 機能がない場合に発生します (たとえば、従来の電話機、または古い電話機ロードを使用する TNP 電話機の場合)。

Cisco エクステンション モビリティ サービス (EMService) のエラーコード

表 10-6 に、Cisco エクステンション モビリティ サービス (EMService) に適用されるエラーコードを示します。

表 10-6 Cisco エクステンション モビリティ サービス (EMService) のエラーコード

エラーコード	電話機の表示	簡単な説明	説明
0	ログインできません (0) ログアウトできません (0)	不明なエラー	まったく予想しない何らかのシナリオによって EService に障害が発生しました。このエラーは致命的です。
1	ログインできません (1) ログアウトできません (1)	解析時のエラー	EMService が EMApp/EMService からの XML 要求を解析できませんでした。このことは、サードパーティアプリケーションが不正なクエリ/ログイン XML (EM API) を送信すると発生します。また、ホーム CUCM と訪問先 CUCM の (EMCC の) バージョンに不一致があると発生する可能性があります。
2	ログインできません (2)	EMCC 認証エラー	ユーザが誤った PIN を入力したため、EMCC ユーザクレデンシャルを認証できませんでした。

表 10-6 Cisco エクステンション モビリティ サービス (EMService) のエラー コード (続き)

エラーコード	電話機の表示	簡単な説明	説明
3	ログインできません (3) ログアウトできません (3)	無効なアプリケーション ユーザ	無効なアプリケーション ユーザ。これは EM API を使用しているときに、よく発生する可能性があります。
4	ログインできません (4) ログアウトできません (4)	ポリシー検証エラー	何らかの不明な理由 (データベース クエリー中のエラーまたはキャッシュから情報を取得中のエラー) により、ログイン/ログアウト要求を検証できない場合に EM サービスはこのエラーを送信します。
5	ログインできません (5) ログアウトできません (5)	デバイスのログインが無効	[電話の設定 (Phone Configuration)] ページの [エクステンションモビリティの有効化 (Enable Extension Mobility)] がオフになっているデバイスの EM/EMCC ログインが要求されました。
6	ログインできません (6) ログアウトできません (6)	データベース エラー	EM サービスから要求されたクエリーまたはストアードプロシージャ (ログイン/ログアウトまたはデバイス/ユーザクエリー) の実行中にデータベースが例外をスローすると、EM サービスは必ずこのエラーコードを EM アプリケーションに送信します。
8	ログインできません (8) ログアウトできません (8)	不明なクエリータイプ	無効なクエリーが EMService に送信されました (有効なクエリーは DeviceUserQuery および UserDeviceQuery です)。通常、正しくない XML を入力して EM API を使用すると、このエラーが発生します。
9	ログインできません (9) ログアウトできません (9)	ディレクトリのユーザ情報エラー	このエラーが表示されるのは、次の 2 つの場合です。 1. IMS が特定のユーザを認証しようとして例外をスローする場合 2. キャッシュまたはデータベースから特定ユーザの情報を取得できない場合
10	ログインできません (10) ログアウトできません (10)	ユーザにアプリケーションのプロキシ権限がない	ユーザが他のユーザに代わってログイン/クエリーを実行しようとした (デフォルトでは、管理者権限があるのは CCMSysUser だけです)。
11	ログインできません (11) ログアウトできません (11)	デバイスが存在しない	電話レコードのエントリがデバイス テーブルにありません。
12	電話レコードのエントリがデバイス テーブルにありません	デバイスのプロファイルが見つからない	デバイス プロファイルがリモート ユーザ (EMCC ログイン) に関連付けられていません。
18	ログインできません (18)	別のユーザがログイン中	特定の電話機に別のユーザがすでにログイン済みです。
19	ログアウトできません (19)	ユーザがログインしていない	ログインしていないユーザをログアウトさせようとした。通常、サードパーティ アプリケーション (EM API) からログアウト要求を送信すると、このエラーが発生する可能性があります。
20	ログインできません (20) ログアウトできません (20)	ホテリング フラグ エラー	[電話の設定 (Phone Configuration)] ページの [エクステンションモビリティの有効化 (Enable Extension Mobility)] がオフになっています。

表 10-6 Cisco エクステンション モビリティ サービス (EMService) のエラー コード (続き)

エラーコード	電話機の表示	簡単な説明	説明
21	ログインできません (21) ログアウトできません (21)	ホテリング ステータス エラー	ローカル キャッシュまたはデータベースから現在のユーザ ステータスを取得できませんでした (PolicyValidator が現在のログイン ユーザまたはログイン時間を確認しようとした場合)。
22	ログインできません (22)	デバイスのログインが無効	デバイスで EM が有効でないときに要求が EM API 経由で送信された場合、または電話機のサービス ボタンが押された場合に発生します。
23	ログインできません (23) ログアウトできません (23)	ユーザが存在しない	指定されたユーザ ID が (いずれのリモート クラスタでも) 見つからない場合に発生します。
25	ログインできません (25)	ユーザが別の場所にログイン中	現在、ユーザは別の電話にログインしています。
26	ログインできません (26) ログアウトできません (26)	話し中につき、かけ直し	現在、EMService は「Maximum Concurrent Requests」サービス パラメータのしきい値レベルに達しています。
28	ログインできません (28) ログアウトできません (28)	信頼されていない IP エラー	「Validate IP Address」サービス パラメータが [True] に設定されているときに、信頼されていない IP アドレスのマシンからユーザがログイン/ログアウトしようとした (たとえば、Trusted List of Ips サービス パラメータにリストされていないマシンのサードパーティ アプリケーション /EM API)。
29	ログインできません (29) ログアウトできません (29)	RIS がダウン : 管理者に連絡	RISDC キャッシュが作成および初期化されていません。また、EMService が RISDC に接続できません。
30	ログインできません (30) ログアウトできません (30)	プロキシが許可されていない	ログイン/ログアウトがプロキシを通過しましたが (HTTP ヘッダーに「Via」が設定されています)、「Allow Proxy」サービス パラメータが [False] に設定されています。
31	ログインできません (31) ログアウトできません (31)	ユーザの EMCC が非アクティブ	ホーム クラスタの [エンドユーザ(End User)] ウィンドウで [クラスタ間のエクステンションモビリティの有効化 (Enable Extension Mobility Cross Cluster)] チェックボックスがオンになっていない場合に発生します。
32	ログインできません (32) ログアウトできません (32)	デバイスが EMCC を未サポート	デバイス モデルに EMCC 機能がない場合に発生します (従来の電話機など)。
33	ログインできません (33) ログアウトできません (33)	空き EMCC ダミー デバイスがない	すべての EMCC ダミー デバイスが他の EMCC ログインで使用中の場合に発生します。
35	ログインできません (35) ログアウトできません (35)	訪問先クラスタ情報がホーム クラスタに未登録	この訪問先クラスタのエントリがホーム クラスタにない場合に発生します。
36	ログインできません (36) ログアウトできません (36)	リモート クラスタがない	管理者がリモート クラスタを 1 つも追加していない場合に発生します。

表 10-6 Cisco エクステンション モビリティ サービス (EMService) のエラー コード (続き)

エラーコード	電話機の表示	簡単な説明	説明
37	ログインできません (37) ログアウトできません (37)	デバイス名の重複	ホーム クラスタと訪問先クラスタに同じデバイス名が存在する場合に発生します。
38	ログインできません (38) ログアウトできません (38)	EMCC が許可されていない	ホーム クラスタで EMCC ログインを許可しない場合に発生します (ホーム クラスタで [クラスタ間のエクステンションモビリティの有効化 (Enable Extension Mobility Cross Cluster)] チェックボックスがオンではありません)。
42	ログインできません (42) ログアウトできません (42)	無効なクラスタ ID	リモート クラスタ ID が有効でない場合に発生します (リモート クラスタの更新時に発生)。
43	ログインできません (43)	デバイスセキュリティモードエラー	EMCC デバイスに関連付けられたデバイスセキュリティプロファイルでは [デバイスセキュリティモード (Device Security Mode)] を [非セキュア (Non Secure)] にしないでください。

関連項目

- 「EMCC の設定チェックリスト」 (P.10-2)
- 「EMCC の概要」 (P.10-13)
 - 「EMCC と Cisco エクステンション モビリティ」 (P.10-14)
 - 「EMCC ソリューション」 (P.10-14)
 - 「EMCC ログイン」 (P.10-16)
 - 「EMCC でサポートする電話機」 (P.10-20)
 - 「EMCC の設定」 (P.10-21)
 - 「EMCC のアクティブ ログインとリモート ログインの概要」 (P.10-21)
 - 「EMCC コール処理」 (P.10-22)
 - 「EMCC が設定されている場合の電話機の動作」 (P.10-33)
 - 「EMCC が設定されている場合の電話機のセキュリティ」 (P.10-38)
- 「EMCC のシステム要件」 (P.10-38)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.10-39)
 - 「EMCC インタラクション」 (P.10-39)
 - 「EMCC の制限事項」 (P.10-40)
- 「EMCC のインストールとアクティブ化」 (P.10-42)
- 「EMCC の設定」 (P.10-42)
 - 「EMCC 機能の設定項目の設定」 (P.10-42)
 - 「EMCC クラスタ間サービス プロファイルの設定項目」 (P.10-47)
 - 「リモート クラスタの設定項目」 (P.10-48)

■ 関連項目

- 「エンドユーザへの情報の提供」 (P.10-51)
- 「EMCC のトラブルシューティング」 (P.10-51)
 - 「Cisco エクステンション モビリティ アプリケーション (EMApp) のエラー コード」 (P.10-51)
 - 「Cisco エクステンション モビリティ サービス (EMService) のエラー コード」 (P.10-52)

その他の設定

- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco エクステンション モビリティ」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「デバイス プールの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「デバイス プロファイルの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「トランクの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザの設定」

関連マニュアル

- 『Cisco Unified Communications Solution Reference Network Design (SRND)』(冗長性を確保する場合) :
<http://www.cisco.com/go/srnd>



CHAPTER 11

プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant

Cisco Unified Communications Manager Assistant の機能を使用すると、マネージャとアシスタントがより効果的に連携できます。Cisco Unified Communications Manager Assistant は、プロキシ回線サポートとシェアドラインサポートの2つの動作モードをサポートしています。Cisco IP Manager Assistant サービスは、クラスタ内でプロキシ回線サポートとシェアドラインサポートの両方を同時にサポートしています。シェアドラインサポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の詳細については、「[シェアドラインサポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant](#)」(P.12-1) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager Assistant は最大 3500 人のマネージャと 3500 人のアシスタントをサポートします。このユーザ数に対応するため、管理者は最大 3 つの Cisco Unified Communications Manager Assistant アプリケーションを 1 つの Cisco Unified Communications Manager クラスタに設定し、アプリケーションの各インスタンスにマネージャとアシスタントを割り当てます。

この機能は、コールルーティングサービス、マネージャおよびアシスタント用の電話機拡張機能、および主にアシスタントが使用するアシスタントコンソールインターフェイスから構成されています。

コールルーティングサービスは、マネージャ宛のコールを代行受信し、事前設定済みのコールフィルタに基づいて、特定のアシスタント、マネージャ、またはその他の宛先にルーティングします。コールルーティングは、マネージャが動的に変更できます。たとえば、電話機のソフトキーを押すことによって、すべてのコールをアシスタント宛にルーティングしたり、コールのステータスを受信したりできます。

Cisco Unified Communications Manager Assistant のユーザは、マネージャとアシスタントで構成されます。マネージャ宛のコールは、コールルーティングサービスによって代行受信され、適切な宛先にルーティングされます。アシスタントユーザは、マネージャに代わってコールを処理します。

この章では、Cisco Unified Communications Manager Assistant に関する次の情報を提供します。

- 「[プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定チェックリスト](#)」(P.11-2)
- 「[Cisco Unified Communications Manager Assistant の概要](#)」(P.11-6)
- 「[プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant のシステム要件](#)」(P.11-12)
- 「[インタラクションおよび制限事項](#)」(P.11-13)
- 「[Cisco Unified Communications Manager Assistant のインストールとアクティブ化](#)」(P.11-18)
- 「[プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定](#)」(P.11-18)
- 「[Cisco Unified Communications Manager Assistant のマネージャおよびアシスタントへの情報提供](#)」(P.11-44)
- 「[関連項目](#)」(P.11-47)

プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定チェックリスト

Cisco Unified Communications Manager Assistant は、アシスタントがマネージャに代わってコールを処理できるプラグインであり、マネージャ宛のコールは代行受信され、適切な宛先にルーティングされます。Cisco Unified Communications Manager Assistant をプロキシ回線モードで設定すると、マネージャとアシスタントは電話番号を共有しません。アシスタントは、マネージャ宛のコールをプロキシ番号を使用して処理します。プロキシ番号はマネージャの電話番号ではなく、システムで選択された、アシスタントがマネージャ宛のコールを処理するために使用する代替番号です。プロキシ回線モードでは、マネージャとアシスタントは Cisco Unified Communications Manager Assistant で使用可能なすべての機能にアクセスできます。これらの機能には、デフォルトのアシスタントの選択、アシスタント モニタ、コール フィルタリング、全コール転送があります。

表 11-1 に、プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定手順を示します。プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の詳細については、「[Cisco Unified Communications Manager Assistant の概要](#)」(P.11-6) および「[関連項目](#)」(P.11-47) を参照してください。

表 11-1 プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 まだ実行していない場合は、電話機とユーザを設定し、デバイスをユーザに関連付けます。	『 <i>Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド</i> 』の「 エンドユーザの設定値 」 『 <i>Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド</i> 』の「 エンドユーザとデバイスとの関連付け 」 『 <i>Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド</i> 』の「 Cisco Unified IP Phone の設定 」
ステップ 2 Cisco Unified サービスアビリティの [Service Activation] ウィンドウで、Cisco IP Manager Assistant サービスをアクティブ化します。	『 <i>Cisco Unified Serviceability Administration Guide</i> 』

表 11-1 プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定チェックリスト (続き)

設定手順		関連手順と関連項目
<p>ステップ 3</p>	<p>システム管理パラメータを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 3つのパーティションを追加する。 2つのコーリングサーチスペースを追加する。 Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の CTI ルートポイントを追加する。ルートポイントは、サーバあたり 1 つのみ追加できます。 Cisco IP Manager Assistant サービスパラメータを設定する。 <p>ヒント システム管理パラメータを自動設定するには、Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザードを使用します。詳細については、「Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザード」(P.11-19) を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> メッセージ受信インジケータ (MWI) のオンおよびオフ番号のコーリングサーチスペースにマネージャ回線のパーティションを追加する (MWIが必要な場合)。 Cisco Unified Communications Manager インターコム機能を使用している場合は、インターコムパーティション、インターコムコーリングサーチスペース、インターコム電話番号情報、インターコムトランスレーションパターンを追加する。 	<p>「コーリングサーチスペースとパーティション」(P.11-23)</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「パーティションの設定値」</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「コーリングサーチスペースの設定値」</p> <p>「Cisco Unified Communications Manager Assistant CTI ルートポイント」(P.11-25)</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「CTI ルートポイントの設定値」</p> <p>「Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザード」(P.11-19)</p> <p>「Cisco Unified Communications Manager Assistant のサービスパラメータの設定」(P.11-25)</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サービスパラメータの設定」</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「メッセージ受信の設定」</p> <p>「アシスタントのプロキシ回線、着信インターコム回線、およびプライマリ回線の設定」(P.11-40)</p> <p>「インターコム」(P.28-1)</p>
<p>ステップ 4</p>	<p>多数のアシスタントおよびマネージャをサポートするために複数の Cisco Unified Communications Manager Assistant プールが必要になる場合は、次に示す Cisco IP Manager Assistant のクラスタ全体のサービスパラメータを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Enable Multiple Active Mode Pool 2 および Pool 3 Cisco IPMA Server IP Address 	<p>「Cisco Unified Communications Manager Assistant のスケーラビリティのための複数サーバの設定」(P.11-28)</p>
<p>ステップ 5</p>	<p>アプリケーションユーザの CAPF プロファイルを設定します (オプション)。</p> <p>セキュリティ用の Cisco IP Manager Assistant サービスパラメータを設定します (オプション)。</p>	<p>「Cisco Unified Communications Manager Assistant のサービスパラメータの設定」(P.11-25)</p> <p>「セキュリティに関する考慮事項」(P.11-30)</p>
<p>ステップ 6</p>	<p>Serviceability の [Control Center - Feature Services] を使用して、Cisco IP Manager Assistant サービスを停止し、もう一度起動します。</p>	<p>「Cisco IP Manager Assistant サービスの開始」(P.11-30)</p>

表 11-1 プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定チェックリスト (続き)

設定手順		関連手順と関連項目
ステップ 7	<p>電話機のパラメータを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Assistant Primary サービスを Cisco Unified IP Phone サービスとして追加する。必要に応じて、Cisco Unified Communications Manager Assistant バックアップ サーバをポイントする Assistant Secondary サービスを Cisco Unified IP Phone サービスとして追加します。 [有効 (Enable)] チェックボックスをオンにして、サービスをアクティブ化する。 Cisco Unified IP Phone を設定する。 	<p>『Cisco Unified IP Phone サービスの設定』 (P.11-30)</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「IP Phone サービスの設定値」</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話ボタン テンプレートの設定値」</p>
ステップ 8	<p>マネージャとアシスタントの Cisco Unified IP Phone パラメータを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> マネージャの電話機を設定する。 アシスタントの電話機を設定する。 	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」</p>
ステップ 9	<p>マネージャの電話機について、次の設定を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ソフトキー テンプレートを割り当てる。 サイレントを使用する場合は、マネージャの電話機で [サイレント (Do Not Disturb)] フィールドを設定する。 プライマリ回線を追加する。 プライマリ回線のボイスメール プロファイルを設定する。 インターコム回線を追加する。 Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 の場合は、インターコム発信先のスピードダイヤルを追加する。 Cisco Unified IP Phone 7942、7945、7962、7965、および 7975 の場合は、インターコム機能を追加する。 Cisco Unified IP Phone サービスおよび Cisco Unified Communications Manager Assistant プライマリ IP Phone サービスに登録する。必要に応じて、Cisco Unified IP Phone サービスおよび Cisco Unified Communications Manager Assistant セカンダリ IP Phone サービスに登録する。 ユーザ ロケールを設定する。 電話機をリセットする。 <p>ヒント マネージャの電話設定の一部を自動設定するには、[マネージャの設定 (Manager Configuration)] ウィンドウで [自動設定 (Automatic Configuration)] チェックボックスをオンにします。詳細については、「マネージャの電話機」 (P.11-32) を参照してください。</p>	<p>『マネージャおよびアシスタントの電話機の設定』 (P.11-31)</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話機の設定値」</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話番号の設定」</p> <p>「サイレント」 (P.21-1)</p> <p>「インターコム」 (P.11-17)</p> <p>「インターコム」 (P.28-1)</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「スピードダイヤル ボタンまたは短縮ダイヤルの設定」</p> <p>『Cisco Unified IP Phone サービスの設定』 (P.11-30)</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「IP Phone サービスの設定」</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話機のリセットのヒント」</p>

表 11-1 プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
<p>ステップ 10 アシスタントの電話機について、次の設定を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ソフトキー テンプレートを割り当てる。 • Cisco Unified IP Phone 拡張モジュールを追加する (オプション)。 • プライマリ回線を追加する。 • 設定済みの各マネージャ用のプロキシ回線を追加する。マネージャのプライマリ回線のボイスメール プロファイルと同じボイスメール プロファイルを追加します。 • 着信インターコム回線を追加する。 • Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 の場合は、インターコム発信先のスピードダイヤルを追加する。 • Cisco Unified IP Phone 7942、7945、7962、7965、および 7975 の場合は、インターコム機能を追加する。 • ユーザ ロケールを設定する。 • 電話機をリセットする。 <p>ヒント アシスタントの電話設定の一部を自動設定するには、[アシスタントの設定 (Assistant Configuration)] ウィンドウで [自動設定 (Automatic Configuration)] チェックボックスをオンにします。詳細については、「アシスタントの電話機」(P.11-33) を参照してください。</p>	<p>「マネージャおよびアシスタントの電話機の設定」(P.11-31)</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話機の設定値」</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話機の削除のヒント」</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話番号の設定」</p> <p>「インターコム」(P.11-17)</p> <p>「インターコム」(P.28-1)</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「スピードダイヤル ボタンまたは短縮ダイヤルの設定」</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話機のリセットのヒント」</p>
<p>ステップ 11 Cisco Unified Communications Manager Assistant アプリケーションを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 新しいマネージャを作成する。 • マネージャ用の回線を設定する。 • マネージャにアシスタントを割り当てる。 • アシスタント用の回線を設定する。 • インターコム回線を設定する (オプション)。 	<p>「プロキシ回線モード用のマネージャの設定とアシスタントの割り当て」(P.11-36)</p> <p>「マネージャの Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報の削除」(P.11-38)</p> <p>「インターコム」(P.11-17)</p> <p>「インターコム」(P.28-1)</p> <p>「アシスタントのプロキシ回線、着信インターコム回線、およびプライマリ回線の設定」(P.11-40)</p>
<p>ステップ 12 アシスタント用のダイヤルルールを設定します。</p>	<p>「ダイヤルルールの設定」(P.11-43)</p>
<p>ステップ 13 Assistant Console アプリケーションをインストールします。</p>	<p>「Assistant Console プラグインのインストール」(P.11-44)</p>
<p>ステップ 14 マネージャとアシスタントのコンソール アプリケーションを設定します。</p>	<p>『Cisco Unified Communications Manager Assistant User Guide』</p>

Cisco Unified Communications Manager Assistant の概要

Cisco Unified Communications Manager Assistant は、アシスタントがマネージャに代わってコールを処理できるプラグインであり、マネージャ宛のコールは代行受信され、適切な宛先にルーティングされます。Cisco Unified Communications Manager Assistant をプロキシ回線モードで設定すると、マネージャとアシスタントは電話番号を共有しません。アシスタントは、マネージャ宛のコールをプロキシ番号を使用して処理します。プロキシ番号はマネージャの電話番号ではなく、システムで選択された、アシスタントがマネージャ宛のコールを処理するために使用する代替番号です。プロキシ回線モードでは、マネージャとアシスタントは Cisco Unified Communications Manager Assistant で使用可能なすべての機能にアクセスできます。これらの機能には、デフォルトのアシスタントの選択、アシスタント モニタ、コール フィルタリング、全コール転送があります。

表 11-1 に、プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定手順を示します。

この項では、Cisco Unified Communications Manager Assistant の機能に関する次の情報について説明します。

- 「[Cisco Unified Communications Manager Assistant のアーキテクチャの概要](#)」 (P.11-6)
- 「[Cisco Unified Communications Manager Assistant のデータベース アクセス アーキテクチャ](#)」 (P.11-10)
- 「[マネージャのインターフェイス](#)」 (P.11-10)
- 「[アシスタントのインターフェイス](#)」 (P.11-11)
- 「[ソフトキー](#)」 (P.11-11)
- 「[Cisco Unified Communications Manager Assistant の管理用インターフェイス](#)」 (P.11-12)

Cisco Unified Communications Manager Assistant のアーキテクチャの概要

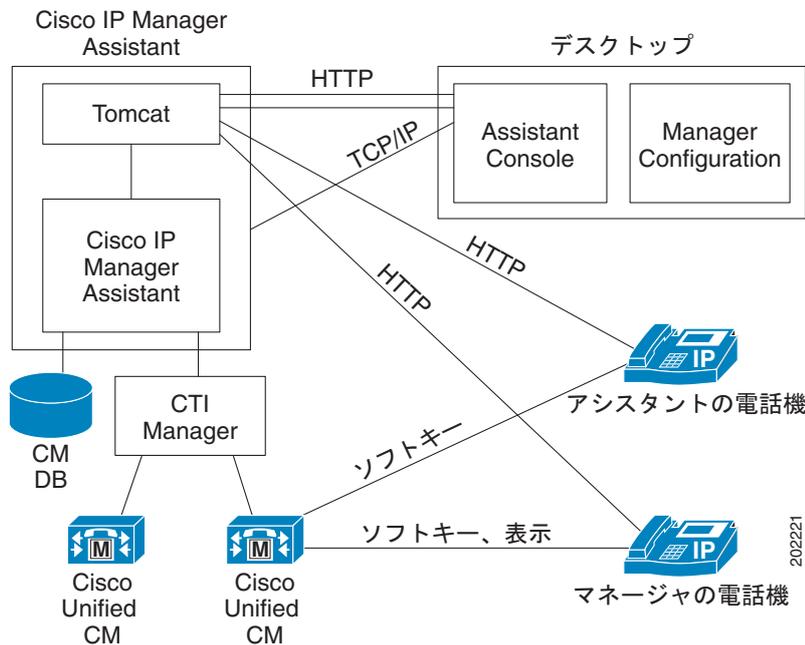
Cisco Unified Communications Manager Assistant の機能アーキテクチャは、Cisco IP Manager Assistant サービス、アシスタント コンソール インターフェイス、および Cisco Unified IP Phone インターフェイスで構成されています。図 11-1 を参照してください。

Cisco IP Manager Assistant サービスは、Cisco IP Manager Assistant サービス パラメータで定義済みの CTI ルート ポイントに到着したコールをルーティングします。「[Cisco Unified Communications Manager Assistant のサービス パラメータの設定](#)」 (P.11-25) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」 (P.11-47) を参照してください。

図 11-1 Cisco Unified Communications Manager Assistant のアーキテクチャ



Cisco IP Manager Assistant サービス

Cisco IP Manager Assistant サービス (サーブレット) は、Cisco Tomcat がロードします。Cisco Tomcat は、Cisco Unified Communications Manager のインストール時にインストールされます。

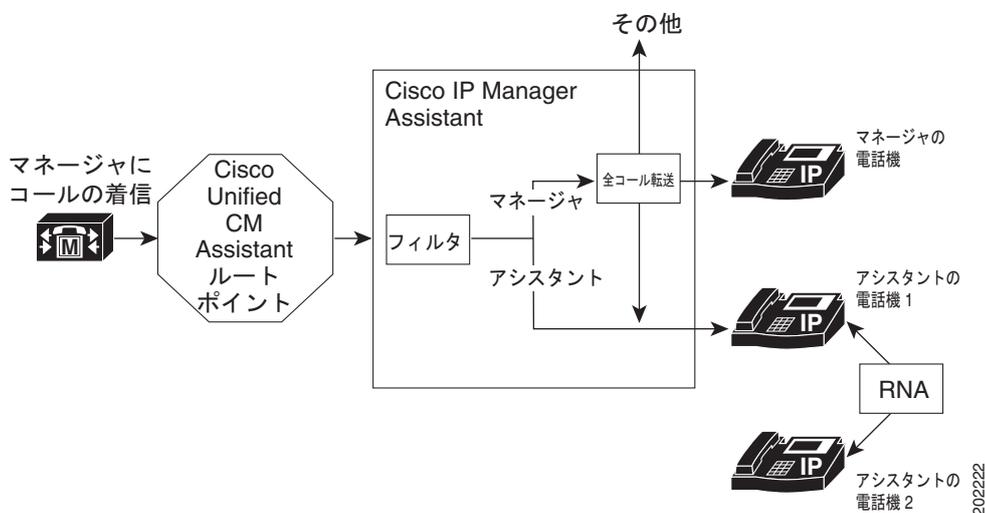
Cisco IP Manager Assistant サービスは、クラスタ内のすべての Cisco Unified Communications Manager サーバにインストールされます。インストール後、管理者は Serviceability でサービスをアクティブにし、Cisco Unified Communications Manager Assistant が自動的に起動されるようにします。Cisco IP Manager Assistant サービスは、これがクラスタ全体のサービスパラメータ Cisco IPMA Server (Primary) IP Address で設定されている Cisco Unified Communications Manager Assistant サーバの 1 つかどうかを確認します。設定されている場合、Cisco IP Manager Assistant サービスはアクティブな Cisco IP Manager Assistant サービスになるようにします。現時点では、Cisco Unified Communications Manager クラスタがサポートできるアクティブな Cisco IP Manager Assistant サービスは 1 つだけです。

Cisco IP Manager Assistant サービスは、次のタスクを実行します。

- マネージャの電話機で実行される HTTP サービスのホストとなる。
- マネージャが設定に使用する Web ページのホストとなる。
- マネージャ宛の着信コールにフィルタを適用するための、ルーティングロジックを保持する。図 11-2 を参照してください。
- サードパーティコール制御用の Cisco CTI Manager を通じて、Cisco Unified Communications Manager と通信する。Cisco Unified Communications Manager Assistant が必要とする CTI 接続は、クラスタ内の全ユーザに対して 1 つだけです。
- データベースのデータにアクセスする。
- Assistant Console アプリケーションをサポートする。

Cisco Unified Communications Manager は、Cisco IP Manager Assistant サービスの冗長化をサポートしています。冗長化を実現するには、同じクラスタ内に 2 番目の Cisco IP Manager Assistant サービスを設定する必要があります。

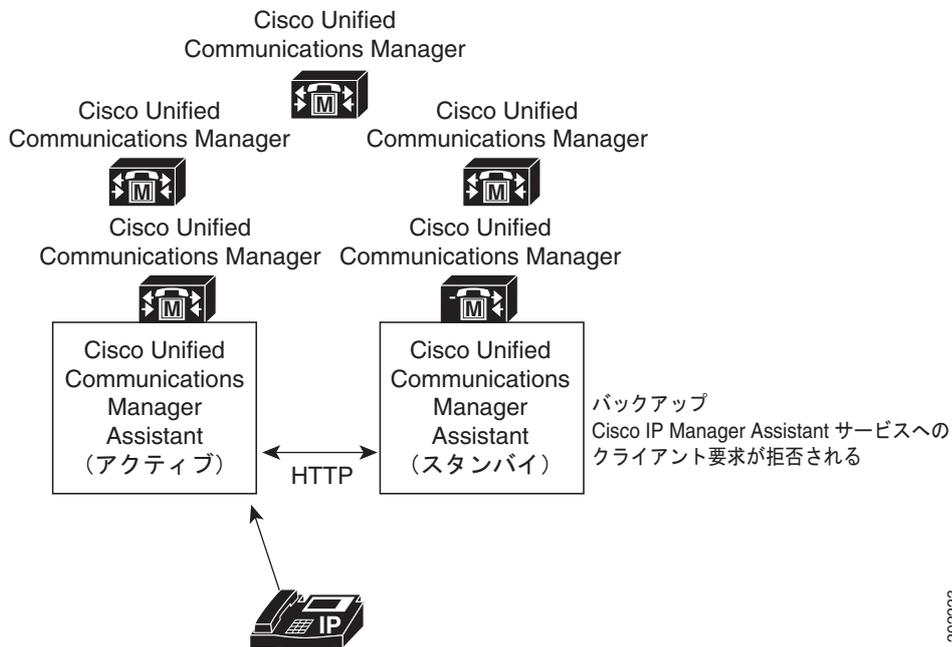
図 11-2 プロキシ回線サポート用の Cisco Unified Communications Manager Assistant のルーティングロジック



Cisco Unified Communications Manager Assistant は、アクティブ/スタンバイ サーバ モデルを利用して冗長化を実装します。常にアクティブのままで、すべての Assistant Console アプリケーションと電話機にサービスを提供する Cisco Unified Communications Manager Assistant サーバは 1 台だけです。他のサーバはスタンバイ モードになり、アクティブなサーバの障害を検出します。障害を検出した場合は、バックアップ サーバが機能を引き継ぎ、アクティブなサーバになります。障害発生時にアクティブになっていた接続は、すべて新しいサーバ上に復元されるため、ユーザに対するサービスは中断することなく続行されます。

アクティブなサーバに障害が発生した場合、Assistant Console アプリケーションは、バックアップ サーバに自動的にフェールオーバーします。アプリケーションが障害を検出する間隔は、Cisco IPMA Assistant Console Heartbeat Interval サービス パラメータ（「[Cisco Unified Communications Manager Assistant のサービス パラメータの設定](#)」(P.11-25) を参照) によって決まります。ハートビート間隔を小さくすると、フェールオーバーまでの時間が短くなります。図 11-3 を参照してください。

図 11-3 Cisco Unified Communications Manager Assistant の冗長性



Cisco IP Manager Assistant サービスには、サービスに対する不正アクセスを防止するための組み込みセキュリティが含まれています。アシスタント コンソールで収集されたユーザ ID とパスワードは、ネットワークを通じて送信される前に暗号化されます。アシスタントを装う不正ユーザは、Assistant Console によってブロックされます。

アシスタント コンソール インターフェイス

Cisco Unified Communications Manager Assistant は、次のマネージャ用およびアシスタント用アシスタント コンソール インターフェイスをサポートしています。

- Assistant Console (コール制御、ログオン、アシスタントの初期設定、マネージャ宛コールアクティビティの監視、キーボードショートカットに使用される)
- Manager Configuration (すべてのコールの転送先、即時転送先、およびフィルタの設定に使用される)

管理者は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] を使用して、Cisco Unified Communications Manager Assistant をマネージャ用およびアシスタント用に設定します。「[Cisco Unified Communications Manager Assistant の管理用インターフェイス](#)」(P.11-12) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager により、Cisco Unified Communications Manager Assistant のすべてのマネージャ用機能が Cisco Unified IP Phone を通じて利用できるようになります。ただし、Manager Configuration はブラウザを使用して実行します。アシスタントは、Cisco Unified IP Phone と Assistant Console アプリケーションを使用します。「[マネージャのインターフェイス](#)」(P.11-10) および「[アシスタントのインターフェイス](#)」(P.11-11) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager Assistant の機能を使用する方法の詳細については、『[Cisco Unified Communications Manager Assistant User Guide](#)』を参照してください。

Cisco Unified IP Phone のインターフェイス

マネージャおよびアシスタントは、ソフトキーと Cisco Unified IP Phone のサービス ボタンを使用して、Cisco Unified Communications Manager Assistant の機能にアクセスします。Cisco Unified Communications Manager Assistant の電話機の機能を使用する方法の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Assistant User Guide*』を参照してください。

「マネージャのインターフェイス」(P.11-10) および「アシスタントのインターフェイス」(P.11-11) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager Assistant のデータベースアクセス アーキテクチャ

Cisco Unified Communications Manager Assistant のすべての設定情報は、データベースに格納されます。マネージャまたはアシスタントがログインすると、Cisco IP Manager Assistant サービスは、そのマネージャまたはアシスタントに関する全データをデータベースから取得し、メモリに保存します。

マネージャのインターフェイス

マネージャの電話機からは、Manager Configuration を除くすべてのマネージャ用機能を利用できます。Cisco Unified Communications Manager Assistant は、Cisco IP Manager Assistant サービスの開始時に、自動的にマネージャをログインさせます。

マネージャは、選択済みのアシスタントを Cisco Unified IP Phone のサービス ボタンを使用して変更できます。

マネージャは、Cisco Unified IP Phone のソフトキーを使用して、Cisco Unified Communications Manager Assistant のアシスタント モニタ、代行受信、およびボイスメール転送の各機能にアクセスします。



(注) マネージャは、Cisco Unified Communications Manager の機能（サイレント、即転送など）にもアクセスできます。

アシスタント モニタ、サイレント、全コール転送、およびフィルタの各機能の状態は、Cisco Unified IP Phone のステータス ウィンドウに表示されます。

フィルタリングを有効にして、フィルタ モードを選択するには、Cisco Unified IP Phone のサービス ボタンを使用します。フィルタを設定するには、Manager Configuration を使用します。アシスタント コンソール上で Manager Configuration にアクセスするには、Web ブラウザを使用します（「[マネージャの設定](#)」(P.11-46) を参照）。

詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Assistant User Guide*』を参照してください。

アシスタントのインターフェイス

アシスタントは、Assistant Console アプリケーションと Cisco Unified IP Phone を使用して Cisco Unified Communications Manager Assistant の機能にアクセスします。アプリケーションである Assistant Console は、応答、即時転送、転送、保留などのコール制御機能を提供します。アシスタントは、Assistant Console を使用して、ログインとログオフ、アシスタントの初期設定、およびマネージャの初期設定に使用する [マネージャの設定 (Manager Configuration)] ウィンドウの表示を行います。

Assistant Console はアシスタントの回線およびマネージャのプロキシ回線を表示します。プロキシ回線には、アシスタントの Cisco Unified IP Phone に表示される電話回線を指定します。アシスタントはプロキシ回線を使用して、マネージャ宛のコールを管理します。プロキシ回線の設定については、「[アシスタントのプロキシ回線、着信インターコム回線、およびプライマリ回線の設定](#)」(P.11-40) を参照してください。

アシスタントが Assistant Console からログインすると、プロキシ回線の [リダイレクト] ソフトキーと [VM 転送] ソフトキーがアクティブになります。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Assistant User Guide*』を参照してください。

ソフトキー

Cisco Unified Communications Manager Assistant の機能は、Cisco Unified IP Phone の [リダイレクト]、[VM 転送]、[サイレント] などのソフトキーをサポートしています。ソフトキーは、コールの状態に基づいて表示されます。たとえば、[VM 転送] は、アクティブなコールが存在しない場合には表示されません。

Cisco Unified Communications Manager Assistant は、次のソフトキー テンプレートをサポートしています。

- Standard Manager : プロキシモードのマネージャをサポートします。
- Standard Shared Mode Manager : 共有モードのマネージャをサポートします。
- Standard Assistant : プロキシモードまたは共有モードでアシスタントをサポートします。

さらに、Standard User テンプレートを使用すると、保留やダイヤルなどのコール処理ソフトキーを利用できるようになります。管理者は、マネージャやアシスタントが使用するデバイスに対して、適切なソフトキー テンプレートを設定してください。



(注)

デフォルト プロセスでは、デバイスに対してコール処理ソフトキー テンプレートが割り当てられます。

管理者は、Cisco Unified Communications Manager に含まれている標準のソフトキー テンプレートを使用するほかに、カスタム ソフトキー テンプレートを作成することもできます。ソフトキー テンプレートを Cisco Unified Communications Manager Assistant デバイスに関連付ける場合や、カスタム ソフトキー テンプレートを作成する場合は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] を使用します。『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[ソフトキー テンプレートの設定](#)」を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager Assistant の管理用インターフェイス

管理者は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウを使用して、マネージャおよびアシスタントを設定します。また、マネージャ用およびアシスタント用デバイスの選択、マネージャ用およびアシスタント用インターコム回線の設定、およびアシスタントの電話機上でのマネージャ用プロキシ回線の割り当てを行います。

「マネージャおよびアシスタントの設定」(P.11-35) を参照してください。

プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant のシステム要件

プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant が動作するには、次のソフトウェア コンポーネントが必要です。

- Cisco Unified Communications Manager
- サポートされるブラウザおよびプラットフォーム：
 - Cisco Unified Communications Manager Assistant 管理 (Cisco Unified Communications Manager 管理を使用) および Assistant Console は、Microsoft Internet Explorer (IE) 5.5 以降、Firefox 3.x 以降、および Safari 4.x 以降でサポートされます。(詳細については、「[インタラクションおよび制限事項](#)」(P.11-13) を参照してください)。
 - Microsoft Windows 2000 以降を実行しているコンピュータでは、上記のいずれかのブラウザを開くことができます。
- Cisco Unified Communications Manager 一括管理ツール (BAT) (複数のマネージャとアシスタントを一括で追加する場合)

Cisco Unified Communications Manager Assistant は Cisco Unified Communications Manager と同じサーバに自動的にインストールされるため、追加のサーバは必要ありません。

どの Cisco Unified IP Phone が Cisco Unified Communications Manager Assistant をサポートするかを判断するには、「[Cisco Unified Communications Manager Assistant をサポートするデバイス](#)」(P.11-12) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager Assistant をサポートするデバイス

Cisco Unified Communications Manager Assistant をサポートする IP Phone の完全なリストを作成するには、Cisco Unified Reporting アプリケーションを使用します。そのためには、次の手順に従います。

1. 次のいずれかの方法を使用して、Cisco Unified Reporting を起動します。

Web アプリケーションへのアクセスを許可されるまで、ユーザの認証には Cisco Tomcat サービスが使用されます。アプリケーションには次の方法でアクセスできます。

- Cisco Unified Communications Manager の管理ページのナビゲーションメニューで [Cisco Unified Reporting] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool (RTMT) メニューで [File] > [Cisco Unified Reporting] の順に選択します。

- <https://<サーバ名またはIPアドレス>:8443/cucreports/> と入力し、認証済みのユーザ名とパスワードを入力します。
2. ナビゲーション バーで、[System Reports] をクリックします。
3. 左側のカラムに表示されたレポートのリストで、[Unified CM Phone Feature List] オプションをクリックします。
4. [Generate a new report] リンクをクリックして新規レポートを生成するか、または、レポートがすでに存在する場合は、[Unified CM Phone Feature List] リンクをクリックします。
5. Cisco Unified Communications Manager Assistant がサポートされているすべての IP Phone のレポートを生成するには、各ドロップダウン リスト ボックスから次の設定を選択し、[Submit] ボタンをクリックします。

[Product] : [All]

[Feature] : [IPMA]

[List Features] ペインに、Cisco Unified Communications Manager Assistant 機能がサポートされているすべてのデバイスのリストが表示されます。カラムの見出し ([Product] または [Protocol]) の隣にある上下の矢印キーをクリックして、リストをソートできます。

Cisco Unified Reporting アプリケーションの詳細については、次の URL の『Cisco Unified Reporting Administration Guide』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html

インタラクションおよび制限事項

次の各項では、プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant におけるインタラクションおよび制限事項について説明します。

- 「インタラクション」(P.11-13)
- 「制限事項」(P.11-17)

インタラクション

次の各項では、プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant が Cisco Unified Communications Manager アプリケーションおよびコール処理と通信する方法について説明します。

- 「一括管理ツール」(P.11-14)
- 「発信側の正規化」(P.11-14)
- 「エクステンション モビリティ」(P.11-14)
- 「インターネット プロトコル バージョン 6 (IPv6)」(P.11-14)
- 「レポート ツール」(P.11-15)
- 「Multilevel Precedence and Preemption (MLPP)」(P.11-16)
- 「Time-of-Day ルーティング」(P.11-16)
- 「メッセージ受信インジケータ」(P.11-16)
- 「インターコム」(P.11-17)

一括管理ツール

一括管理ツール (BAT) を使用すると、管理者は多数のユーザ (マネージャとアシスタント) を一度に追加できます。ユーザを 1 人ずつ追加する必要はありません。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド*』を参照してください。

Cisco Unified IP Phone 用の Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザードで作成された BAT テンプレートがサポートするのは、Cisco Unified Communications Manager インターコム回線だけです。

追加情報

「関連項目」(P.11-47) を参照してください。

発信側の正規化

発信側の正規化機能を設定すると、Cisco Unified Communications Manager Assistant により、ローカライズおよびグローバル化されたコールが自動的にサポートされます。Cisco Unified Communications Manager Assistant は、ローカライズされた発信側番号をユーザ インターフェイスに表示できます。また、マネージャに対する着信コールの場合、Cisco Unified Communications Manager Assistant は、フィルタ パターンに一致したときに、ローカライズされた発信側番号とグローバル化された発信側番号を表示できます。発信側の正規化の設定については、「[発信側の正規化](#)」(P.8-1) を参照してください。

エクステンション モビリティ

Cisco エクステンション モビリティ機能を使用するマネージャは、同時に Cisco Unified Communications Manager Assistant も使用できます。マネージャがエクステンション モビリティを使用して Cisco Unified IP Phone にログインすると、その電話機で Cisco Unified Communications Manager Assistant サービスが自動的に有効になります。その後、マネージャは Cisco Unified Communications Manager Assistant 機能にアクセスできます。

Cisco Unified Communications Manager Assistant を使用して Cisco エクステンション モビリティにアクセスするには、管理者が Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [マネージャの設定 (Manager Configuration)] ウィンドウ ([エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウからアクセス) で、[エクステンションモビリティを使用 (Mobile Manager)] チェックボックスをオンにします。「[プロキシ回線モード用のマネージャの設定とアシスタントの割り当て](#)」(P.11-36) を参照してください。デバイス プロファイルの設定の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[デバイス プロファイルの設定値](#)」を参照してください。Cisco Unified Communications Manager エクステンション モビリティの詳細については、[第 9 章「Cisco エクステンション モビリティ」](#)を参照してください。

インターネット プロトコルバージョン 6 (IPv6)

Cisco Unified Communications Manager Assistant では IPv6 はサポートされないため、[IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv6 のみ (IPv6 Only)] の電話機は Cisco Unified Communications Manager Assistant で使用できません。その電話機で Cisco Unified Communications Manager Assistant を使用する場合は、その電話機の [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] を [IPv4 のみ (IPv4 Only)] または [IPv4 と IPv6 (IPv4 and IPv6)] に設定します。IPv6 の詳細については、「[インターネット プロトコルバージョン 6 \(IPv6\)](#)」(P.29-1) を参照してください。

レポート ツール

Cisco Unified Communications Manager Assistant は、静的な情報を CDR Analysis and Reporting (CAR) ツールで提供し、設定に対する変更の要約を変更ログで提供します。ここでは、次のレポート ツールについて説明します。

CDR Analysis and Reporting

Cisco Unified Communications Manager Assistant は、マネージャとアシスタントのコール完了統計、およびマネージャとアシスタントのインベントリ レポートをサポートしています。コール完了統計は、CDR Analysis and Reporting (CAR) ツールでサポートされます。インベントリ レポートは、Cisco Unified サービスアビリティでサポートされます。詳細については、『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』および『*Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting Administration Guide*』を参照してください。

IPMA_ChangeLog

管理者は、Manager Configuration または Assistant Configuration に対する変更の要約を確認できます。マネージャは、URL を参照して Manager Configuration にアクセスすることで、デフォルト値を設定できます。

アシスタントは Assistant Console からマネージャのデフォルト値を変更できます。



(注)

URL および Manager Configuration については、『*Cisco Unified Communications Manager Assistant User Guide*』を参照してください。

設定値が変更されると、その情報は ipma_changeLogxxx.log というログ ファイルに送られます。このログ ファイルは、Cisco IP Manager Assistant サービスを実行するサーバ上の次の場所にあります。

```
file get activelog tomcat/logs/ipma/log4j
```

管理者は、Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool にある Trace Collection Tool を使用して、サーバからこのログ ファイルをダウンロードできます。詳細については、『*Cisco Unified Real Time Monitoring Tool Administration Guide*』を参照してください。

このログ ファイルには、次のフィールドが含まれています。

- LineNumber : ログ ファイル内に変更情報がある回線。
- TimeStamp : 設定値が変更された時刻。
- for Manager/Assistant : 変更が、マネージャまたはアシスタントのどちらに対するものであるかを示す。
- for Userid : 変更対象となったマネージャまたはアシスタントのユーザ ID。
- by Manager/Assistant : 変更が、マネージャまたはアシスタントのどちらによって実施されたかを示す。
- by Userid : 変更を実施したマネージャまたはアシスタントのユーザ ID。
- Parameter Name : 変更された項目 (転送先電話番号など)。
- Old Value : 変更前の設定値。
- New Value : 変更後の設定値。

ログ ファイル内の情報はカンマで区切られているため、管理者は、Microsoft Excel などのスプレッドシート アプリケーションを使用してログ ファイルを開くことができます。ログ ファイルの内容を Microsoft Excel アプリケーションで保存するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 Microsoft Excel アプリケーションを起動します。
- ステップ 2 [ファイル]>[開く]を選択して ConfigChange*.log ファイルを開きます。
- ステップ 3 [元のデータの形式]で[カンマやタブなどの区切り文字によってフィールドごとに区切られたデータ]のファイル形式を選択し、[次へ]をクリックします。
- ステップ 4 [区切り文字]として[カンマ]を選択し、[次へ]をクリックします。
- ステップ 5 上の操作が完了したら、[完了]をクリックします。

Multilevel Precedence and Preemption (MLPP)

次に、プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant と MLPP とのインタラクションについて説明します。

- Cisco Unified Communications Manager Assistant は、コールの処理時にコールの優先順位を保存します。たとえば、アシスタントがコールをマネージャに転送する際、Cisco Unified Communications Manager Assistant はコールの優先順位を保存します。
- 優先コールのフィルタリングは、他のすべてのコールと同じように行われます。コールの優先順位は、コールがフィルタリングされるかどうかには影響を与えません。
- Cisco Unified Communications Manager Assistant はコールの優先順位を認識しないので、Assistant Console でコールの優先順位について追加のインジケータを送信することはありません。

Time-of-Day ルーティング

Time-of-Day ルーティングは、コールが行われた時刻に基づいてコールを別の場所にルーティングします。たとえば、営業時間の間は、コールをマネージャのオフィスにルーティングし、営業時間が終了したらボイスメール サービスに直接ルーティングします。

Time-of-Day ルーティングで使用されるタイム スケジュールとタイムゾーンは、パーティションによって指定されます。Cisco Unified Communications Manager Assistant パーティションおよび Cisco Unified Communications Manager Assistant コーリング サーチ スペースのパーティションは、Time-of-Day ルーティングをサポートします。

Time-of-Day ルーティングの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「Time-of-Day ルーティング」を参照してください。

メッセージ受信インジケータ

メッセージ受信インジケータ (MWI) のオンおよびオフ番号には、コーリング サーチ スペースに、マネージャ回線のパーティションを含める必要があります。パーティションは、各コーリング サーチ スペース内で、任意の優先順位に基づいて並べられます。メッセージ受信インジケータの設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「メッセージ受信の設定値」を参照してください。

インターコム

Cisco Unified Communications Manager Assistant は、次のインターコム機能をサポートしています。

- Cisco Unified Communications Manager Assistant インターコム (Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 で使用)。このインターコム機能は、電話番号の設定およびエンド ユーザ (マネージャおよびアシスタント) の設定ウィンドウを使用して設定されます。
- Cisco Unified Communications Manager インターコム (7940 および 7960 を除く Cisco Unified IP Phone 7900 で使用)。このインターコム機能は、インターコム パーティション、インターコム コーリング サーチ スペース、インターコム電話番号情報、インターコム トランスレーション パターン、電話番号、エンド ユーザ (マネージャおよびアシスタント) の設定ウィンドウを使用して設定されます。

制限事項

Cisco Unified Communications Manager Assistant には、次の制限事項があります。

- Cisco Unified Communications Manager Assistant は、Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 を除く Cisco Unified IP Phone 7900 シリーズで SIP をサポートしています。
- Cisco Unified Communications Manager Assistant は、複数の Cisco IP Manager Assistant サーバ (プール) を設定することで、最大 3500 人のマネージャと 3500 人のアシスタントをサポートします。複数のプールが有効になっている場合、マネージャとそのマネージャに設定されているすべてのアシスタントは同じプールに属します。
- 1 人のマネージャには最大 10 人のアシスタントを割り当てることができます。
- 1 人のアシスタントは最大 33 人のマネージャをサポートできます (各マネージャが Cisco Unified Communications Manager Assistant 制御の回線を持っている場合)。
- Cisco Unified Communications Manager Assistant は、MCS 7845 サーバを使用している場合、Cisco Unified Communications Manager クラスタごとに最大 3500 人のマネージャと 3500 人のアシスタントをサポートします。
- Assistant Console は、ハント グループ/キューをサポートしていません。
- Assistant Console は、レコードおよびモニタリングをサポートしていません。
- Assistant Console は、オンフック転送 ([転送] ソフトキーを押して受話器を置くことによって転送を完了するコール転送機能) をサポートしていません。
- Assistant Console は、ワンタッチ コール ピックアップ機能をサポートしていません。
- Cisco Unified IP Phone 7940、7942、および 7945 がサポートする回線ボタンまたはスピードダイヤル ボタンは 2 つだけです。
- Cisco Unified Communications Manager Release 8.5(1) へのアップグレード時、着信インターコム回線を使用する既存の Cisco Unified Communications Manager Assistant ユーザは、自動的に Cisco Unified Communications Manager インターコム機能にアップグレードされません。
- システムは、Cisco Unified Communications Manager インターコム機能と通常回線 (Cisco Unified Communications Manager Assistant インターコム回線として設定されることもある) の間のコールをサポートしません。
- Cisco Unified IP Phone 7960 および 7940 は、Cisco Unified Communications Manager Assistant インターコム回線機能だけをサポートします。Cisco Unified IP Phone 7900 (7940 および 7960 を除く) がサポートするのは、Cisco Unified Communications Manager インターコム機能だけです。
- Microsoft Internet Explorer 7 以降を実行する Windows XP コンピュータに Assistant Console アプリケーションをインストールするには、事前に Windows XP Service Pack 1 とともに Microsoft Java Virtual Machine (JVM) をインストールしておく必要があります。

Cisco Unified Communications Manager Assistant のインストールとアクティブ化

Cisco Unified Communications Manager Assistant (サブレット) は、Cisco Tomcat がロードします。Cisco Tomcat は、Cisco Unified Communications Manager のインストール時にインストールおよび起動されます。詳細については、「[Cisco Unified Communications Manager Assistant のアーキテクチャの概要](#)」(P.11-6) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager Assistant をシステムで利用できるようにするには、インストール後に管理者が次の 3 つの作業を実施します。

1. Cisco Unified サービスアビリティの [Tools] メニューの下にある [Service Activation] を使用して、Cisco IP Manager Assistant サービスをアクティブ化します。『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』を参照してください。
2. Cisco IP Manager Assistant サービス用の必要なサービス パラメータを設定します。「[Cisco Unified Communications Manager Assistant のサービス パラメータの設定](#)」(P.11-25) を参照してください。
3. Serviceability の [Control Center - Feature Services] ウィンドウを使用して、Cisco IP Manager Assistant サービスを停止し、もう一度起動します。「[Cisco IP Manager Assistant サービスの開始](#)」(P.11-30) を参照してください。



(注)

Cisco Unified Communications Manager Assistant 機能を英語以外の言語でマネージャまたはアシスタントの電話機とアシスタント コンソールに表示する必要がある場合は、Cisco Unified Communications Manager Assistant を設定する前に、ロケール インストーラがインストールされていることを確認してください。詳細については、『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide*』を参照してください。

プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定

Cisco Unified Communications Manager Assistant を正しく設定するには、設定チェックリストに示す手順を確認して、システム、ユーザ、およびデバイスの設定要件を確認し、マネージャとアシスタントを設定します。



(注)

プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant は、シェアドラインサポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant と同じ Cisco Unified Communications Manager クラスタ内に共存します。シェアドラインサポートの設定については、「[シェアドラインサポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定](#)」を参照してください。

次の項では、設定情報について説明します。

- 「[プロキシ回線サポートのあるシステムの設定](#)」(P.11-19)
- 「[Cisco Unified Communications Manager Assistant のサービス パラメータの設定](#)」(P.11-25)
- 「[Cisco Unified Communications Manager Assistant のスケーラビリティのための複数サーバの設定](#)」(P.11-28)

- 「セキュリティに関する考慮事項」 (P.11-30)
- 「Cisco IP Manager Assistant サービスの開始」 (P.11-30)
- 「Cisco Unified IP Phone サービスの設定」 (P.11-30)
- 「マネージャおよびアシスタントの電話機の設定」 (P.11-31)
- 「マネージャおよびアシスタントの設定」 (P.11-35)



ヒント

プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant を設定する前に、「プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定チェックリスト」 (P.11-2) を確認してください。

プロキシ回線サポートのあるシステムの設定

Cisco IP Manager Assistant サービスは、プロキシ回線モードを使用しているマネージャ宛のコールを代行受信します。このため、パーティション、コーリング サーチ スペース、およびルート ポイントを設定する必要があります。

Cisco Unified Communications Manager Assistant 用のデバイスとユーザを設定する前に、次の設定作業を実施する必要があります。

- 「コーリング サーチ スペースとパーティション」 (P.11-23)
- 「Cisco Unified Communications Manager Assistant CTI ルート ポイント」 (P.11-25)

Cisco Unified Communications Manager Assistant には、パーティション、コーリング サーチ スペース、ルート ポイント、および Cisco Unified Communications Manager Assistant Phone サービスの管理者による設定作業を支援するために、1 回だけ使用できる設定ウィザードが用意されています。また、Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザードは、[Clusterwide Parameters (IPMA Device Configuration Defaults for Proxy Mode)] セクションの Cisco IP Manager Assistant サービス パラメータを作成します。Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザードの詳細については、「Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザード」 (P.11-19) を参照してください。



(注)

ここでは、Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定に関する特定の情報について説明します。コーリング サーチ スペース、パーティション、および CTI ルート ポイントの設定については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザード

Cisco Unified Communications Manager Assistant は、アシスタントがマネージャに代わってコールを処理できるプラグインであり、マネージャ宛のコールは代行受信され、適切な宛先にルーティングされます。表 11-1 に、プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定手順を示します。表 12-1 に、プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定手順を示します。

Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザードを使用すると、短時間で誤りなく設定できます。管理者がこの設定ウィザードを正しく実行して完了すると、パーティション、コーリング サーチ スペース、およびルート ポイントが自動的に作成されます。また、マネージャ電話機用、アシスタント電話機用、およびその他すべてのユーザ電話機用の BAT テン

プレートも作成されます。管理者は、この BAT テンプレートをを使用して、マネージャ、アシスタント、およびその他すべてのユーザを設定します。『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド』を参照してください。



(注) Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザードは、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの [Clusterwide Parameters (IPMA Device Configuration Defaults for Proxy Mode)] セクションの Cisco IP Manager Assistant サービスパラメータのみを作成します。残りのサービスパラメータは手動で入力する必要があります。サービスパラメータの詳細については、「Cisco Unified Communications Manager Assistant のサービスパラメータの設定」(P.11-25) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザードでは、設定パラメータごとにウィンドウが表示されます。これらのウィンドウには、情報があらかじめ設定されています。設定情報 (パーティション名など) に他の値を使用する場合は、事前設定済みの情報を適切な情報に変更できます。

Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザードを使用して Cisco Unified Communications Manager Assistant のシステムパラメータを設定するには、次の手順を実行します。

始める前に

設定ウィザードは、一括管理ツール (BAT) と同じサーバ (Cisco Unified Communications Manager サーバ) から実行する必要があります。

ウィザードは 1 回だけ実行できます。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[アプリケーション (Application)] > [Cisco Unified CM Assistant 設定ウィザード (Cisco Unified CM Assistant Configuration Wizard)] の順に選択します。

Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザードの [概要 (Overview)] ウィンドウが表示され、設定ウィザードでのプロセスに関する説明が表示されます。



(注) Cisco Unified Communications Manager クラスタ設定に Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザードを使用できるのは 1 回だけです。ウィザード機能によって、設定ウィザードが実行された回数 (0 または 1) が確認されます。設定ウィザードが 1 回実行されていた場合は、要約ウィンドウが自動的に表示されます。この要約ウィンドウには、前回実行された設定ウィザードの詳細およびステータスが表示されます。設定作業が 1 回も実行されていない場合は、設定プロセスが続行されます。

ステップ 2 Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザードのプロセスを開始するには、[次へ (Next)] ボタンをクリックします。

[マネージャ用パーティション (Partition for Managers)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [パーティション名 (Partition Name)] フィールドに名前を入力し、説明を入力します。または、デフォルトのパーティション名と説明を使用します。

ステップ 4 [次へ (Next)] ボタンをクリックします。

[CTI ルートポイント用パーティション (CTI Route Point Partition)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 [CTI ルートポイント名 (CTI Route Point Name)] フィールドに名前を入力し、説明を入力します。または、デフォルトの CTI ルートポイント名を使用します。

- ステップ 6** [次へ (Next)] ボタンをクリックします。
[全ユーザ用パーティション (Partition for All Users)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 7** [パーティション名 (Partition Name)] フィールドに名前を入力し、説明を入力します。または、デフォルトのパーティション名と説明を使用します。
- ステップ 8** [次へ (Next)] ボタンをクリックします。
[インターコムパーティション (Intercom Partition)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 9** [名前 (Name)] フィールドに名前を入力し、説明を入力します。または、デフォルトのインターコムパーティション名を使用します。
- ステップ 10** [次へ (Next)] ボタンをクリックします。
[アシスタントのコーリングサーチスペース (Assistant Calling Search Space)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 11** [名前 (Name)] フィールドに名前を入力し、説明を入力します。または、デフォルトのコーリングサーチスペース名と説明を使用します。
[コーリングサーチスペースのルートパーティション (Route Partitions for this Calling Search Space)] の下の [使用可能なパーティション (Available Partitions)] ボックスと [選択されたパーティション (Selected Partitions)] ボックスに、アシスタントのコーリングサーチスペースのパーティションが自動的に一覧表示されます。表示されるデフォルト値が不適切な場合、管理者は適切なパーティションを [使用可能なパーティション (Available Partitions)] ボックスから選択できます。パーティションを 2 つのボックス間で移動するには、上矢印と下矢印を使用します。
- ステップ 12** [次へ (Next)] ボタンをクリックします。
[全ユーザ用のコーリングサーチスペース (Everyone Calling Search Space)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 13** [名前 (Name)] フィールドに名前を入力し、説明を入力します。または、デフォルトのコーリングサーチスペース名と説明を使用します。
[コーリングサーチスペースのルートパーティション (Route Partitions for This Calling Search Space)] の下の [使用可能なパーティション (Available Partitions)] ボックスと [選択されたパーティション (Selected Partitions)] ボックスに、全ユーザのコーリングサーチスペースのパーティションが自動的に一覧表示されます。表示されるデフォルト値が不適切な場合、管理者は適切なパーティションを [使用可能なパーティション (Available Partitions)] ボックスから選択できます。パーティションを 2 つのボックス間で移動するには、上矢印と下矢印を使用します。
- ステップ 14** [次へ (Next)] ボタンをクリックします。
システムで設定されている既存のコーリングサーチスペースがある場合は、[既存のコーリングサーチスペース (Existing Calling Search Spaces)] ウィンドウが表示されます。それ以外の場合、[既存のコーリングサーチスペース (Existing Calling Search Spaces)] ウィンドウは表示されません (ステップ 15 へ進んでください)。



(注) ステップ 10 とステップ 12 で管理者がパーティション名を変更した場合は、既存のコーリングサーチスペースに追加されるプレフィックスも変更されます。

ステップ 15 [次へ (Next)] ボタンをクリックします。

[CTI ルートポイント (CTI Route Point)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 16 [CTI ルートポイント名 (CTI Route Point Name)] フィールドに名前を入力します。または、デフォルトの CTI ルートポイント名を使用します。

ステップ 17 ドロップダウン選択リストボックスから、適切なデバイスプールを選択します。

ステップ 18 ルートポイントの電話番号を入力するか、またはデフォルトのルートポイントの電話番号を使用します。

ステップ 19 ドロップダウン選択リストボックスから、適切な番号計画を選択します。

ステップ 20 [次へ (Next)] ボタンをクリックします。

[IP Phone サービス (Phone Services)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 21 プライマリ IP Phone サービスの名前を入力するか、デフォルトの IP Phone サービス名を使用します。

ステップ 22 ドロップダウンリストボックスからプライマリ Cisco Unified Communications Manager Assistant サーバを選択するか、サーバ名または IP アドレスを入力します。

ステップ 23 セカンダリ IP Phone サービスの名前を入力するか、デフォルトの IP Phone サービス名を使用します。

ステップ 24 ドロップダウンリストボックスからセカンダリ Cisco Unified Communications Manager Assistant サーバを選択するか、サーバ名または IP アドレスを入力します。

ステップ 25 [次へ (Next)] ボタンをクリックします。

確認ウィンドウが表示されます。このページには、管理者が設定ウィザードで選択した情報がすべて表示されます。この情報が誤っている場合、管理者は設定プロセスをキャンセルすることも、[戻る (Back)] ボタンを押して前の設定ウィンドウに戻ることもできます。

ステップ 26 設定プロセスを実行するには、[完了 (Finish)] ボタンをクリックします。設定プロセスをキャンセルするには、[キャンセル (Cancel)] ボタンをクリックします。

設定プロセスが正常に完了すると、最終的なステータスを示すウィンドウが表示されます。ウィンドウにはウィザードの各設定の成功または失敗が表示されます。

設定ウィザードで生成されたエラーは、トレースファイルに送られます。このファイルには、次の CLI コマンドを使用してアクセスします。

```
file get activelog tomcat/logs/ccmadmin/log4j
```

設定ウィザードは、設定ウィンドウで収集したデータを使用して、パーティション、コーリングサーチスペース、ルートポイント、および Cisco Unified Communications Manager Assistant Phone サービスを自動的に作成します。設定ウィザードは、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの [Clusterwide Parameters (IPMA Device Configuration Defaults for Proxy Mode)] セクションの Cisco IP Manager Assistant サービスパラメータを読み込みます。さらに、マネージャ電話機用テンプレート、アシスタント電話機用テンプレート、および BAT で使用される Everyone 電話機用のテンプレートも作成して、Cisco Unified Communications Manager Assistant で使用する電話機を設定します。マネージャおよびアシスタントのデバイスの設定については、『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド』を参照してください。

コーリング サーチ スペースとパーティション

Cisco Unified Communications Manager Assistant ルート ポイント (CTI ルート ポイント) は、マネージャ宛のコールを代行受信し、ルーティング先を決定します。このため、マネージャ宛のコールは、すべて最初にルート ポイントを通過します。

このコール フローを達成するために、Cisco Unified Communications Manager Assistant ではコーリング サーチ スペースを使用します。Cisco IP Manager Assistant サービスでルーティングまたは対応する必要がある回線からのコールには、ルート ポイント パーティション (このパーティションは CTI Route Point パーティションと呼ばれます) がプライマリ パーティションとして設定されたコーリング サーチ スペースが必要です。セカンダリのパーティションは、Everyone パーティションと呼ばれます。次の例を参照してください。



(注)

複数の回線を持ちプロキシ回線サポートを使用するマネージャの場合、それらの回線はルート ポイントの範囲内に入っている必要があります (たとえば、ルート ポイントが 1xxx であれば、マネージャの回線は 1000 ~ 1999 の範囲内に入っている必要があります)。

例

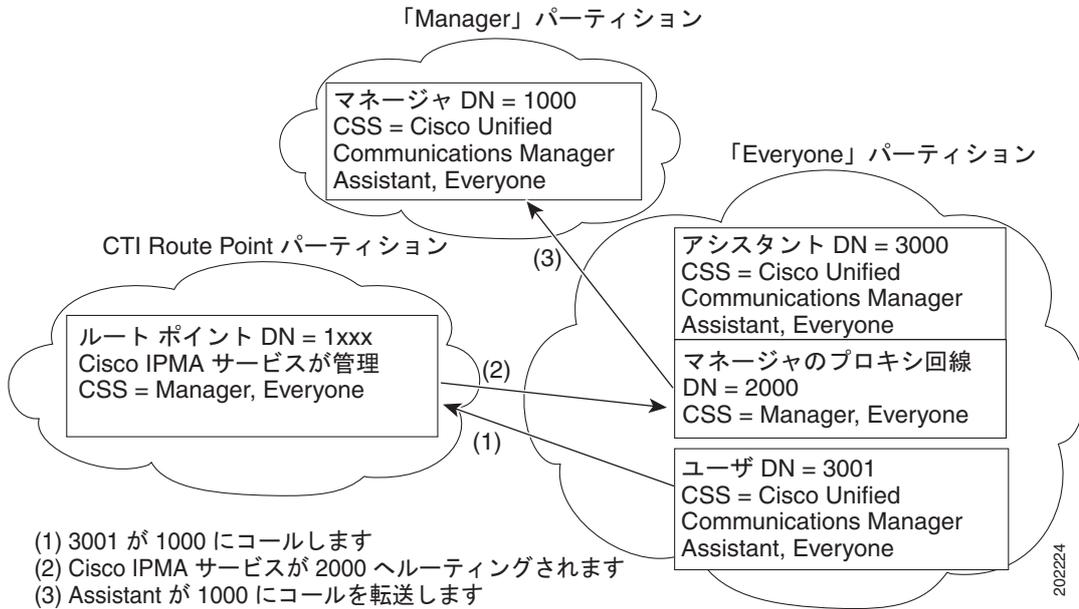
Everyone パーティション内のユーザが、Manager パーティション内のマネージャのプライマリ回線に発信します。この発信コールのパーティションには、マネージャのプライマリ回線が含まれていません。このため、マネージャの回線番号がコーリング サーチ スペースから検索されます。検索の順序は、コーリング サーチ スペース内にあるパーティションの優先順位によって決まります。ユーザの回線のコーリング サーチ スペースは、CTI Route Point パーティションと Everyone パーティションで構成されています。このため、マネージャのプライマリ回線の検索は、CTI Route Point パーティションから開始されます。CTI ルート ポイントとマネージャのプライマリ回線番号が一致したため、コールがルート ポイントに送信されます。ルート ポイントを監視している Cisco IP Manager Assistant サービスがコールを取得し、マネージャの設定を使用してコールをルーティングします。

ルート ポイントを経由する必要があるコールが発生するすべての回線には、Cisco Unified Communications Manager Assistant および Everyone と呼ばれるコーリング サーチ スペースが必要です。このコーリング サーチ スペース設定を必要とする回線の例としては、マネージャのプライマリ回線とプライベート回線、アシスタントのプライマリ回線、およびその他すべてのユーザの回線があります。

ルーティング ロジックが適用されず、マネージャに直接送信されるコールが発生するすべての回線には、Manager および Everyone と呼ばれるコーリング サーチ スペースが必要です。このコーリング サーチ スペース設定を必要とする回線の例としては、Cisco CTI ルート ポイント、およびアシスタントのプロキシ回線があります。

コーリング サーチ スペースおよびパーティションの設定例については、図 11-4 を参照してください。

図 11-4 プロキシ回線サポート用の Cisco Unified Communications Manager Assistant のコーリング サーチ スペースおよびパーティションの設定例



設定のヒント

- CTI Route Point、Manager、および Everyone と呼ばれる 3 つのパーティションを作成する。
- CSS-M-E と呼ばれるコーリング サーチ スペースを作成する。このコーリング サーチ スペースには、Manager パーティションと Everyone パーティションを含めます。
- CSS-I-E と呼ばれるコーリング サーチ スペースを作成する。このコーリング サーチ スペースには、CTI Route Point パーティションと Everyone パーティションを含めます。
- Manager と呼ばれるパーティション内に、マネージャのプライマリおよびプライベートの電話番号 (DN) を設定する。
- Everyone と呼ばれるパーティション内に、すべてのアシスタントの回線とその他のユーザの回線を設定する。
- CTI Route Point と呼ばれるパーティション内に、Cisco Unified Communications Manager Assistant ルート ポイントを設定する。
- コーリング サーチ スペース CSS-M-E を持つ MWI オン / オフ番号を設定する。

Cisco Unified Communications Manager Assistant CTI ルート ポイント

Cisco Unified Communications Manager Assistant CTI ルート ポイントは、サーバあたり 1 つだけです。CTI ルート ポイントの電話番号は、マネージャのプライマリおよびプライベートの電話番号と一致する必要があります。一致していない場合は、Cisco IP Manager Assistant サービスがコールを正しくルーティングしません。この条件を満たすには、ワイルドカードの使用をお勧めします。

CTI ルート ポイントに電話番号の範囲を追加する場合は、発信者検索スペースに Manager パーティションを含めないでください。Cisco Unified Communications Manager は、パーティションの順序にかかわらず、最長一致を検索するからです。たとえば、マネージャ回線が 1000 でルート ポイントに追加された電話番号範囲が 1xxx だとします。発信者検索スペースに Manager パーティションが含まれている場合、CTI Route Point パーティションが最上位にあっても、マネージャの電話番号には最長一致が適用されます。その結果、コールは Cisco Unified Communications Manager Assistant でルーティングされず、マネージャの内線に直接送信されます。ルート ポイントに電話番号範囲を使用して Cisco Unified Communications Manager Assistant でコールをルーティングするには、発信者検索スペースに CTI Route Point パーティションを含め、Manager パーティションを含めないようにする必要があります。

設定のヒント

- Assistant_RP と呼ばれる CTI ルート ポイントを作成する。
- マネージャのプライマリおよびプライベートの電話番号と一致するようにルート ポイントの電話番号を設定する。たとえば、プライマリ電話番号が 1000-1999 であるマネージャには、ルート ポイント電話番号を回線 1 に 1xxx として作成し、プライマリ電話番号が 2000-2999 であるマネージャ用には、ルート ポイント電話番号を回線 2 に 2xxx として作成します。コーリング検索スペース CSS-M-E を持つ CTI Route Point パーティション内に、この電話番号を設定します。
- 宛先が内部 / 外部の Call Forward No Answer (CFNA; 無応答時転送) をルート ポイントの電話番号として設定し (たとえば、ルート ポイント電話番号 1xxx に CFNA を 1xxx として)、コーリング検索スペースには CSS-M-E を設定する。Cisco IP Manager Assistant サービスが利用できない場合、無応答時転送機能はコールをマネージャに転送します。

Cisco Unified Communications Manager Assistant のサービス パラメータの設定

Cisco IP Manager Assistant サービスのサービス パラメータには、汎用とクラスタ全体の 2 つのカテゴリがあります。クラスタ全体のパラメータは、すべての Cisco IP Manager Assistant サービス用に 1 回指定します。汎用パラメータは、インストールされている各 Cisco IP Manager Assistant サービスに対して指定します。

Cisco IP Manager Assistant サービス パラメータを設定するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用してサービス パラメータにアクセスします。[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager Assistant アプリケーションが配置されているサーバを選択し、Cisco IP Manager Assistant サービスを選択します。

Cisco IP Manager Assistant には、次に示す設定必須のサービス パラメータがあります。

- クラスタ全体のパラメータ
 - Cisco IPMA Server (Primary) IP Address : デフォルト値なし。この IP アドレスは、管理者が手動で入力する必要があります。管理者は、このアドレスに最大 2500 人のマネージャとアシスタントを割り当てることができます。CPU 使用率が高くなるのを防ぐた

め、Cisco IP Manager Assistant CTIManager(Primary) IP Address サービス パラメータを設定するときに、IPMA プロセスが実行されているローカル CTIManager サーバのアドレスを入力します。

- Cisco IPMA Server (Backup) IP Address : デフォルト値なし。この IP アドレスは、管理者が手動で入力する必要があります。
- Cisco IPMA Server Port : デフォルト値はポート 2912。
- Cisco IPMA Assistant Console Heartbeat Interval : デフォルト値は 30 秒。この間隔タイマーは、アシスタント コンソールでフェールオーバーが発生するまでの時間を指定します。
- Cisco IPMA Assistant Console Request Timeout : デフォルト値は 30 秒。
- Cisco IPMA RNA Forward Calls : デフォルト値は [False]。パラメータを [True] に設定した場合は、アシスタント電話機が応答しないときに、コールが他のアシスタント電話機に転送されます。
- Cisco IPMA RNA Timeout : デフォルト値は 10 秒。RNA タイムアウトは、コールが他のアシスタント電話機に自動転送されるまでに、アシスタント電話機が無応答である時間を指定します。無応答時転送 (CFNA) と RNA タイムアウトを両方とも設定する場合は、最初にタイムアウトする値が優先されます。
- CTIManager Connection Security Flag には、次の 2 つのオプションがあります。

[Nonsecure] : セキュリティ モードを非セキュアに指定します。

[Use Cluster Default] : Cisco IP Manager Assistant サービスがクラスタのセキュリティ モードを取得します。クラスタのセキュリティ モードが「混合」と検出された場合、Cisco Unified Communications Manager Assistant は、Application CAPF プロファイルを使用して CTI Manager へのセキュアな接続を確立します。セキュアな接続を行うには、「CTI Manager Connection Security Flag」と「CAPF Profile Instance ID for Secure Connection to CTI Manager」の両方のパラメータを設定します。

- 詳細なクラスタ全体のパラメータ

- Enable Multiple Active Mode : デフォルト値は [False]。[True] に設定した場合、管理者は複数のプールを使用して最大 7000 人のマネージャとアシスタントを設定できます。



(注) 同じ Cisco IPMA サーバ IP アドレスが複数のプールに表示されないようにするため、プールごとに一意の IP アドレスを設定してください。

- Pool 2: Cisco IPMA Server (Primary) IP Address : デフォルト値なし。この IP アドレスは、管理者が手動で入力する必要があります。管理者は、このアドレスに最大 2500 人のマネージャとアシスタントを割り当てることができます。
- Pool 2: Cisco IPMA Server (Backup) IP Address : デフォルト値なし。この IP アドレスは、管理者が手動で入力する必要があります。
- Pool 3: Cisco IPMA Server (Primary) IP Address : デフォルト値なし。この IP アドレスは、管理者が手動で入力する必要があります。管理者は、このアドレスに最大 2500 人のマネージャとアシスタントを割り当てることができます。
- Pool 3: Cisco IPMA Server (Backup) IP Address : デフォルト値なし。この IP アドレスは、管理者が手動で入力する必要があります。

- 各サーバの Cisco IPMA サービス パラメータ

- CTIManager (Primary) IP Address : デフォルト値なし。コール制御に使用するプライマリ CTIManager の IP アドレスを入力します。
- CTIManager (Backup) IP Address : デフォルト値なし。この IP アドレスは、管理者が手動で入力する必要があります。

- Route Point Device Name for Proxy Mode : デフォルト値なし。Cisco Unified Communications Manager Assistant ルート ポイント デバイス名を選択します。このデバイス名は、[デバイス (Device)] > [CTI ルートポイント (CTI Route Point)] を使用して設定します。
- CAPF Profile Instance Id for Secure Connection to CTIManager : この Cisco Unified Communications Manager Assistant サーバが CTIManager へのセキュアな接続を開くために使用する、アプリケーション ユーザ IPMA Secure Sys User 用の Application CAPF プロファイルのインスタンス ID を指定します。CTIManager Connection Security Flag が有効な場合は、このパラメータを設定する必要があります。



(注) IPMA Secure Sys User パスワードを変更する場合は、IPMA Secure Sys User の設定 > CAPF プロファイル設定のウィンドウを選択して、IPMA サービスパラメータのウィンドウで選択したプロファイルに移動し、[証明書 の操作 (Certificate Operation)] を [インストール / アップグレード (Install/Upgrade)] に変更し、認証文字列を指定し、IPMA サービスを再起動します。

マネージャおよびアシスタントの Cisco Unified Communications Manager Assistant 自動設定を使用する場合、Cisco Unified Communications Manager Assistant には、次に示す設定必須のクラス全体のパラメータが含まれます。

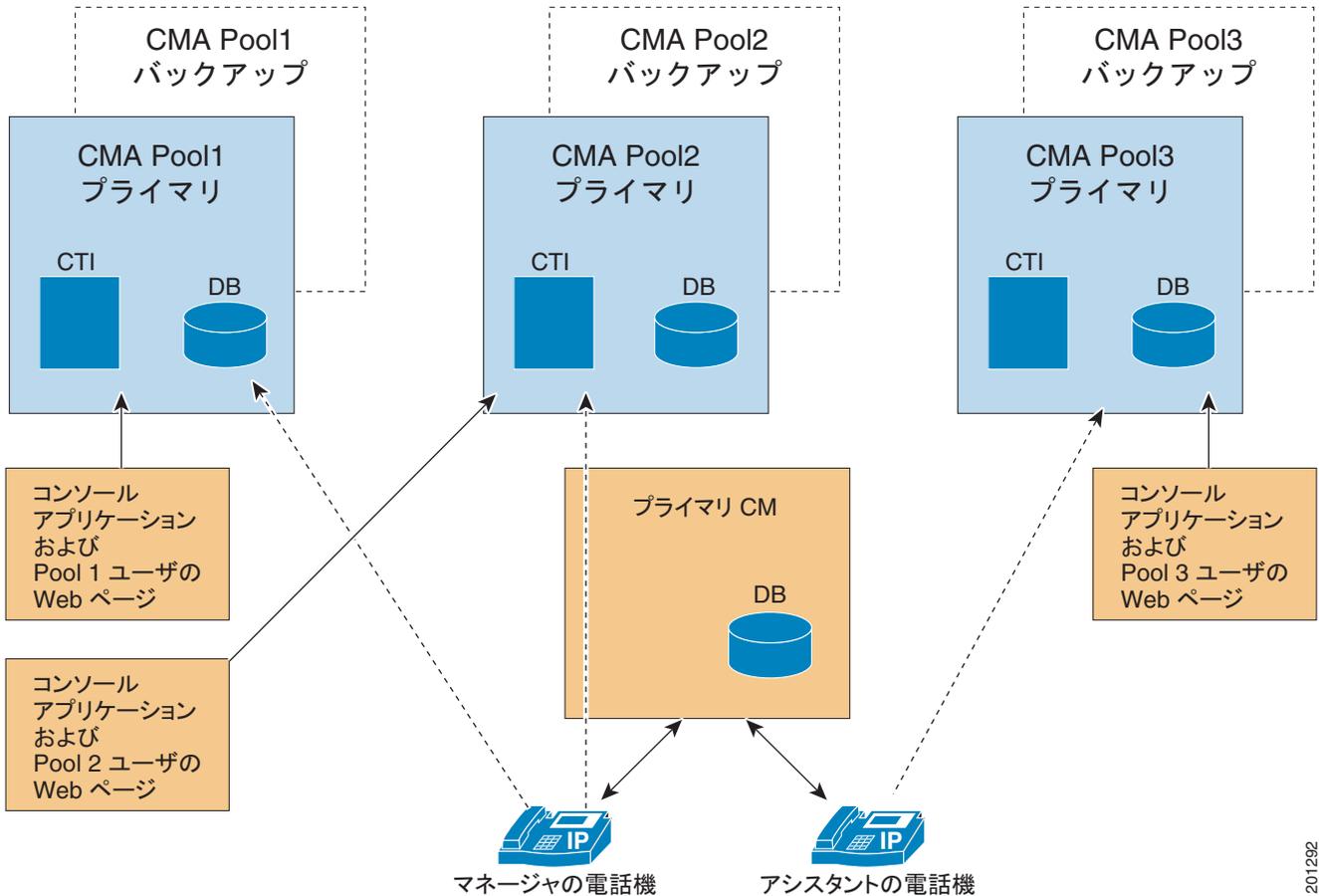
- ソフトキー テンプレート
 - Assistant Softkey Template : デフォルトでは、Standard Assistant ソフトキー テンプレートが指定されています。このパラメータはアシスタントの自動設定の間、アシスタントのデバイスに割り当てられたソフトキー テンプレートを指定します。
 - Manager Softkey Template for Proxy Mode : デフォルトでは、Standard Manager ソフトキー テンプレートが指定されています。このパラメータはマネージャの自動設定の間、マネージャのデバイスに割り当てられたソフトキー テンプレートを指定します。
 - Manager Softkey Template for Shared Mode : デフォルトでは、Standard Shared Mode Manager が指定されています。このサービス パラメータは、プロキシ回線サポートに適用されません。
- IPMA デバイス設定のデフォルト
 - Manager Partition : デフォルト値なし。このパラメータは、Cisco Unified Communications Manager Assistant がマネージャのデバイス上で処理するマネージャ回線に対して自動設定が割り当てるパーティションを指定します。システムに存在するパーティションを入力します。Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザードを実行する場合、ウィザードはこの値を読み込みます。
 - All User Partition : デフォルト値なし。このパラメータは、マネージャのデバイス上のインターコム回線と同様に、自動設定がアシスタントのデバイス上のプロキシ回線とインターコム回線に対して割り当てるパーティションを指定します。システムに存在するパーティションを入力します。Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザードを実行する場合、ウィザードはこの値を読み込みます。
 - IPMA Calling Search Space : デフォルト値なし。このパラメータは、アシスタントのデバイス上のアシスタント インターコム回線と同様に、Cisco Unified Communications Manager Assistant が処理するマネージャ回線およびマネージャのデバイス上のインターコム回線に対して自動設定が割り当てるコーリング サーチ スペースを指定します。システムに存在するコーリング サーチ スペースを入力します。Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザードを実行する場合、ウィザードはこの値を読み込みます。
 - Manager Calling Search Space : デフォルト値なし。このパラメータは、アシスタントのデバイス上のプロキシ回線に対して自動設定が割り当てるコーリング サーチ スペースを指定します。システムに存在するコーリング サーチ スペースを入力します。Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザードを実行する場合、ウィザードはこの値を読み込みます。

- Cisco IPMA Phone Service : デフォルト値なし。このパラメータは、マネージャのデバイスに対して自動設定が割り当てる IPMA Phone サービスを指定します。Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザードを実行する場合、ウィザードはこの値を読み込みます。
- IPMA Secondary Phone Service : デフォルト値なし。このパラメータは、プライマリサービスが利用できない場合にマネージャのデバイスに対して自動設定が割り当てるセカンダリ IPMA Phone サービスを指定します。
- Proxy Directory Number Range
 - Starting Directory Number : デフォルト値なし。Starting Directory Number パラメータおよび Ending Directory Number パラメータは、アシスタントの設定で利用可能なプロキシの番号の範囲を提供します。Starting Directory Number パラメータに、その範囲で最初の番号を指定します。アシスタントを設定すると、その範囲で 2 番目に利用可能な番号が、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウのプロキシ回線フィールドに表示されます。
 - Ending Directory Number : デフォルト値なし。Starting Directory Number パラメータおよび Ending Directory Number パラメータは、アシスタントの設定で利用可能なプロキシの番号の範囲を提供します。Ending Directory Number パラメータに、その範囲で最後の番号を指定します。[開始電話番号 (Starting Directory Number)] フィールドに入力した値よりも小さい値を [終了電話番号 (Ending Directory Number)] フィールドに入力した場合、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで [アシスタントの設定 (Assistant Configuration)] にアクセスしたとき、メッセージが表示されます。
- Proxy Directory Number Prefix
 - Number of Characters to be Stripped from Manager Directory Number : デフォルトでは、0 が指定されています。このパラメータには、プロキシの電話番号 (DN) を生成するプロセスで Cisco Unified Communications Manager がマネージャの電話番号から除去する文字数を指定します。Prefix for Manager Directory Number パラメータとともに、このパラメータを使用してプロキシの電話番号を生成できます。たとえば、マネージャの電話番号 2002 から 2 桁を削除して、30 のプレフィックスを追加した場合 (Prefix for Manager Directory Number サービス パラメータで指定)、Cisco Unified Communications Manager は 3002 のプロキシの電話番号を生成します。0 ~ 24 桁の文字を除去できます。
 - Prefix for Manager DN : デフォルト値なし。このパラメータには、プロキシの電話番号を生成するプロセスで、Cisco Unified Communications Manager がマネージャの電話番号に追加するプレフィックスを指定します。たとえば、マネージャの電話番号が 1001、削除される文字数が 0、プレフィックスが * の場合、Cisco Unified Communications Manager は *1001 のプロキシの電話番号を生成します。最大プレフィックス長は 24 です。

Cisco Unified Communications Manager Assistant のスケーラビリティのための複数サーバの設定

Cisco Unified Communications Manager は、最大 3500 人のマネージャと 3500 人のアシスタント、合計 7000 ユーザをサポートします。7000 のユーザをサポートするには、管理者がサービスパラメータの有効化と設定を行うことにより、複数のアクティブな Cisco IP Manager Assistant サーバを設定する必要があります。管理者は、それぞれ最大 2500 人のマネージャとアシスタントを管理する、最大 3 個のアクティブな Cisco IP Manager Assistant サーバを設定できます。各サーバにバックアップサーバを設置することもできます。詳細サービスパラメータの Enable Multiple Active Mode、Pool 2: Cisco IPMA Server、および Pool3: Cisco IPMA Server を使用して、Cisco IP Manager Assistant サーバを設定します。詳細については、「[Cisco Unified Communications Manager Assistant のサービスパラメータの設定](#)」(P.11-25) を参照してください。図 11-5 を参照してください。

図 11-5 スケーラビリティ アーキテクチャ



1. IPMA サービスをアクティブ化します (「Cisco Unified Communications Manager Assistant のインストールとアクティブ化」 (P.11-18) を参照)。
2. 複数アクティブ モードを有効にします (「Cisco Unified Communications Manager Assistant のサービス パラメータの設定」 (P.11-25) を参照)。
3. 複数プールの IP アドレスを入力します (「Cisco Unified Communications Manager Assistant のサービス パラメータの設定」 (P.11-25) を参照)。
4. [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで、マネージャ/アシスタントにプールを追加します (「プロキシ回線モード用のマネージャの設定とアシスタントの割り当て」 (P.11-36) を参照)。

移行に関する考慮事項

以前のリリースから Cisco Unified Communications Manager リリース 8.0(2) に移行する場合、すべてのマネージャとアシスタントは Pool 1 (デフォルト) に移行されます。

セキュリティに関する考慮事項

Cisco Unified Communications Manager Assistant は、CTI へのセキュアな接続（トランスポート層セキュリティ接続）をサポートしています。

管理者は、[ユーザ管理 (User Management)] > [アプリケーションユーザ CAPF プロファイル (Application User CAPF Profile)] を選択して CAPF プロファイルを（各 Cisco Unified Communications Manager Assistant ノードに 1 つずつ）設定する必要があります。[アプリケーションユーザ CAPF プロファイルの設定 (Application User CAPF Profile Configuration)] ウィンドウで、[アプリケーションユーザ (Application User)] ドロップダウン リスト ボックスから [IPMASecureSysUser] を選択します。

Cisco Unified Communications Manager Assistant のセキュリティの設定については、「[Cisco Unified Communications Manager Assistant のサービス パラメータの設定](#)」(P.11-25) の CTIManager Connection Security Flag および CAPF Profile Instance Id for Secure Connection to CTIManager サービス パラメータの説明を参照してください。

『*Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド*』には、CTI アプリケーション用のセキュリティ設定に関する詳細な手順の説明があります。

Cisco IP Manager Assistant サービスの開始

Cisco IP Manager Assistant サービスは、Cisco Tomcat 上でアプリケーションとして動作します。Cisco IP Manager Assistant サービスを開始または停止するには、Serviceability の [Control Center - Feature Services] ウィンドウを使用します。

Cisco Unified IP Phone サービスの設定

Cisco IP Manager Assistant サービスを新しい Cisco Unified IP Phone サービスとして追加します。Cisco IP Manager Assistant サービスの名前、説明、および URL を設定します。名前と説明はマネージャの Cisco Unified IP Phone に表示されるので、そこで使用する言語と同じ言語を使用する必要があります。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[IP Phone サービスの設定](#)」を参照してください。

次の形式で URL を指定します。

```
http://<サーバの IP アドレス>:8080/ma/servlet/MAService?cmd=doPhoneService&Name=#DEVICENAME#
```

例を示します。

```
http://123.45.67.89:8080/ma/servlet/MAService?cmd=doPhoneService&Name=#DEVICENAME#
```

設定のヒント

Cisco Unified IP Phone サービスに冗長性を持たせるには、IP アドレスではなくホスト名を使用する Cisco Unified IP Phone サービスを作成します。DNS のホスト名は、Cisco Unified Communications Manager Assistant プライマリおよびバックアップの IP アドレスに解決する必要があります。電話機のソフトキー機能とフィルタリング機能は、電話機サービスと同様に、必要に応じて自動的にフェールオーバーします。

マネージャおよびアシスタントの電話機の設定

各マネージャおよびアシスタントにデバイスを設定する必要があります。開始する前に、電話機のタイプに応じて次のタスクを実行します。

Cisco Unified IP Phone 7940、7942、7945、7960、7962、7965、および 7975 (SCCP および SIP)

- Cisco Unified Communications Manager Assistant を使用する各マネージャおよびアシスタントに Cisco Unified IP Phone 7900 シリーズを追加する。電話機を追加するには、次のいずれかの方法を実行します。
 - 手動 ([デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択)
 - 自動登録
 - BAT
- Standard Assistant または Standard Manager ソフトキー テンプレートを割り当てる。

Cisco Unified IP Phone 7940

Cisco Unified Communications Manager Assistant で Cisco Unified IP Phone 7940、7942、または 7945 を使用できますが、一部制限事項が適用されます。

- 次の項目を設定して、マネージャごとに Cisco Unified IP Phone 7940、7942、または 7945 を追加する。
 - プライマリ回線用とインターコム用の 2 つの回線
 - シェアードライン サポートを持つマネージャ用のソフトキー テンプレート
- 次の項目を設定して、アシスタントごとに Cisco Unified IP Phone 7940 を追加する。
 - プライマリ回線用とインターコム用の 2 つの回線
 - アシスタント用のソフトキー テンプレート



(注) 搭載されている機能が多いため、Cisco Unified IP Phone 7960、7962、7965、および 7975 をお勧めします。



(注) Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 がサポートするのは、Cisco Unified Communications Manager Assistant インターコム機能だけです。

タスクの実行後、次の項で説明されている手順に従って電話機を設定します。

- 「マネージャの電話機」(P.11-32)
- 「アシスタントの電話機」(P.11-33)
- 「マネージャおよびアシスタント以外の電話機」(P.11-35)

マネージャの電話機

この項では、マネージャの電話機を設定するための Cisco Unified Communications Manager Assistant の要件およびヒントについて説明します。

マネージャの電話機の設定

次の設定値で、マネージャの Cisco Unified IP Phone を設定します。

- Standard Manager ソフトキー テンプレート
- プライマリ回線
- 必要な場合は追加の回線
- プライマリ回線のボイス メッセージ プロファイル
- Cisco Unified IP Phone 7940 または 7960 を除く Cisco Unified IP Phone 7900 シリーズを使用する場合は、インターコム機能の設定
- Cisco Unified IP Phone 7940 または 7960 を使用する場合は、スピーカフォン オプションまたはヘッドセット オプションを使用した自動応答をサポートするための着信インターコム回線の設定
- Cisco Unified IP Phone 7940 または 7960 を使用する場合は、インターコム発信先のスピードダイヤルの設定
- Cisco Unified IP Phone サービスおよびアシスタント プライマリ IP Phone サービスへの登録 (必要な場合は、Cisco Unified IP Phone サービスおよびアシスタント セカンダリ IP Phone サービスへの登録)
- ユーザ ロケールの設定

マネージャを設定するとき [マネージャの設定 (Manager Configuration)] ウィンドウの [自動設定 (Automatic Configuration)] チェックボックスをオンにしておくと、設定の一部を自動化できます。[自動設定 (Automatic Configuration)] は、マネージャ デバイスまたはデバイス プロファイルの次の項目を設定します。

- ソフトキー テンプレート
- Cisco Unified Communications Manager Assistant Phone サービスへの登録
- Cisco Unified Communications Manager Assistant が制御する選択された回線およびインターコム回線用のコーリング サーチ スペースとパーティション (Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 だけに適用)
- インターコム回線用のスピーカフォンを使用した自動応答 (Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 だけに適用)

マネージャの電話機を自動設定する前に、[Clusterwide Parameters (IPMA Device Configuration Defaults for Proxy Mode)] セクションの Cisco IP Manager Assistant サービス パラメータを設定する必要があります。このパラメータには、マネージャ回線で使用するパーティションやコーリング サーチ スペースなどの情報を指定します。パラメータを手動で入力するか、または Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザードを使用してパラメータを読み込むことができます。パラメータの詳細については、「[Cisco Unified Communications Manager Assistant の サービス パラメータの設定](#)」(P.11-25) を参照してください。Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザードの詳細については、「[Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザード](#)」(P.11-19) を参照してください。

適切なサービス パラメータを入力後、[マネージャの設定 (Manager Configuration)] ウィンドウの [自動設定 (Automatic Configuration)] チェックボックスをオンにし、[保存 (Save)] をクリックすると、マネージャの電話機を自動設定できます。手順については、「[プロキシ回線モード用のマネージャの設定とアシスタントの割り当て](#)」(P.11-36) を参照してください。

マネージャの設定のヒント

- マネージャのプライマリ電話番号には不在転送を設定しないでください。不在転送が設定されている場合、マネージャは、アシスタントのプロキシ電話番号にルーティングされるコールを代行受信できないためです。
- プライマリ回線（Cisco Unified Communications Manager Assistant が制御する回線）を設定して、電話番号を割り当てます。自動設定を使用していない場合、これらの回線には、Manager パーティションと CSS-I-E コーリング サーチ スペースを使用します。
- マネージャが Cisco Unified IP Phone 7940 または 7960 を使用している場合は、着信インターコム回線を設定して、電話番号を割り当てます。自動設定を使用していない場合は、Everyone パーティションと CSS-M-E コーリング サーチ スペースを使用します。
- マネージャが Cisco Unified IP Phone 7900 シリーズ (Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 を除く) を使用しており、インターコムが必要な場合は、インターコム DN を追加して、適切なインターコム パーティションとインターコム コーリング サーチ スペースを選択します。

Cisco Unified Communications Manager Assistant は、Cisco Unified IP Phone 7940、7942、および 7945 をサポートします。詳細については、「[Cisco Unified IP Phone 7940](#)」(P.11-31) を参照してください。

アシスタントの電話機

この項では、アシスタントの電話機を設定するための Cisco Unified Communications Manager Assistant の要件およびヒントについて説明します。

アシスタントの電話機の設定

次の設定値で、アシスタントの Cisco Unified IP Phone を設定します。

- Standard Assistant ソフトキー テンプレート
- デフォルトの拡張モジュール (オプション)
- Standard Assistant 電話ボタン テンプレート (拡張モジュールを使用している場合)
- プライマリ回線
- マネージャのボイスメール プロファイルと同じボイスメール プロファイルを持つ、設定済みの各マネージャのプロキシ回線
- スピーカフォン オプションまたはヘッドセット オプションを使用した自動応答をサポートするための、着信インターコム回線 (Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 だけに適用)
- 設定済み各マネージャの着信インターコム回線に対するスピードダイヤル (Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 だけに適用)
- ユーザ ロケールの設定
- Cisco Unified IP Phone サービスおよびアシスタント プライマリ IP Phone サービスへの登録 (必要な場合は、Cisco Unified IP Phone サービスおよびアシスタント セカンダリ IP Phone サービスへの登録)

アシスタントを設定するとき [アシスタントの設定 (Assistant Configuration)] ウィンドウの [自動設定 (Automatic Configuration)] チェックボックスをオンにしておくと、設定の一部を自動化できます。[自動設定 (Automatic Configuration)] は、アシスタント デバイスまたはデバイス プロファイルの次の項目を設定します。

- ソフトキー テンプレート
- 電話ボタン テンプレート

- 既存のプロキシ回線およびインターコム回線用のコーリング サーチ スペースおよびパーティション
- インターコム回線用のスピーカフォンを使用した自動応答
- プロキシ回線の自動生成 (選択されている場合)

アシスタントの電話機を自動設定する前に、[Clusterwide Parameters (IPMA Device Configuration Defaults for Proxy Mode)] セクションの Cisco IP Manager Assistant サービス パラメータを設定する必要があります。これらのパラメータには、アシスタントのプロキシ回線およびインターコム回線で使用するパーティションやコーリング サーチ スペースなどの情報を指定します。パラメータを手動で入力するか、または Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザードを使用してパラメータを読み込むことができます。パラメータの詳細については、「[Cisco Unified Communications Manager Assistant のサービス パラメータの設定](#)」(P.11-25) を参照してください。Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザードの詳細については、「[Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザード](#)」(P.11-19) を参照してください。

適切なサービス パラメータを入力後、[アシスタントの設定 (Assistant Configuration)] ウィンドウの [自動設定 (Automatic Configuration)] チェックボックスをオンにすると、アシスタントの電話機を自動設定できます。手順については、「[アシスタントのプロキシ回線、着信インターコム回線、およびプライマリ回線の設定](#)」(P.11-40) を参照してください。

自動設定を使用すると、アシスタントの電話機で自動的にプロキシ回線を作成できます (コーリング サーチ スペースの情報とパーティション情報が必要です)。自動生成されたプロキシの番号は Proxy Directory Number Range サービス パラメータおよび Proxy Directory Number Prefix サービス パラメータに入力した値から生成されます。詳細については、「[Cisco Unified Communications Manager Assistant のサービス パラメータの設定](#)」(P.11-25) を参照してください。

アシスタントを設定するときに、[アシスタントの設定 (Assistant Configuration)] ウィンドウの [プロキシ回線 (Proxy Line)] ドロップダウンリストに、自動生成された番号がアシスタント デバイスの回線とともに表示されます。アシスタントの電話機の既存の回線の前に「Line」と表示されます。システムがアシスタントの電話機にプロキシ回線を追加するまで、自動生成された各番号の前に「Auto」と表示されます。システムは Cisco IP Manager Assistant サービス パラメータの設定に基づいて、プロキシ回線およびインターコム回線のコーリング サーチ スペースおよびパーティションを設定します。手順については、「[アシスタントのプロキシ回線、着信インターコム回線、およびプライマリ回線の設定](#)」(P.11-40) を参照してください。

アシスタントの設定のヒント

- アシスタントが Cisco Unified IP Phone 7940 または 7960 を使用している場合は、着信インターコム回線を設定して、電話番号を割り当てます。自動設定を使用していない場合は、Everyone パーティションと CSS-M-E コーリング サーチ スペースを使用します。
- アシスタントが Cisco Unified IP Phone 7900 シリーズ (7940 および 7960 を除く) を使用しており、インターコムが必要な場合は、インターコム DN を追加して、適切なインターコムパーティションとインターコム コーリング サーチ スペースを選択します。
- プロキシ回線を設定して、アシスタントが担当するマネージャごとに電話番号を割り当てます。自動設定を使用していない場合は、Everyone パーティションと CSS-M-E コーリング サーチ スペースを使用します。

Cisco Unified Communications Manager Assistant は、Cisco Unified IP Phone 7940、7942、および 7945 をサポートします。詳細については、「[Cisco Unified IP Phone 7940](#)」(P.11-31) を参照してください。

マネージャおよびアシスタント以外の電話機

マネージャおよびアシスタントのデバイスの設定に加えて、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内のその他すべてのユーザも設定します。適切に設定することで、マネージャおよびアシスタントが、クラスタ内のその他すべてのユーザとの間でコールを発着信できるようになります。

マネージャおよびアシスタント以外のユーザの設定のヒント

- マネージャおよびアシスタント以外のユーザ全員に対して、Everyone パーティションを使用します。
- マネージャおよびアシスタント以外のユーザ全員に対して、CSS-I-E コーリングサーチスペースを使用します。
- 自動登録を使用する場合、次のタスクを実行します。
 - [デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウ ([システム (System)] > [デバイスプール (Device Pool)]) の [自動登録用コーリングサーチスペース (Calling Search Space for Auto-registration)] フィールドで、CSS-I-E を選択します。
 - [Cisco Unified CM の設定 (Cisco Unified CM Configuration)] ウィンドウ ([システム (System)] > [Cisco Unified Communications Manager]) の [パーティション (Partition)] フィールドで、[Everyone] を選択します。
- BAT を使用する場合、Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザードが作成した Everyone テンプレートを使用して、Everyone パーティションおよび CSS-I-E コーリングサーチスペースで電話機を追加できます。

マネージャおよびアシスタントの設定

Cisco Unified Communications Manager の [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで、Cisco Unified Communications Manager Assistant 機能を使用するマネージャおよびアシスタントの設定値を設定します。Cisco Unified Communications Manager Assistant はプロキシ回線モードまたはシェアドラインモードで設定できます。プロキシ回線モード用にマネージャおよびアシスタントを設定する方法は、「[プロキシ回線モード用のマネージャの設定とアシスタントの割り当て](#)」(P.11-36) を参照してください。シェアドラインモード用にマネージャおよびアシスタントを設定する方法は、「[シェアドラインモード用のマネージャの設定とアシスタントの割り当て](#)」(P.12-24) を参照してください。

[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで、次の操作を実行します。

- マネージャおよびアシスタントのデバイスを選択する。
- 必要に応じて、マネージャまたはアシスタントのデバイスを自動設定する。
- [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウの表示で使用する言語を選択する。
- [マネージャの設定 (Manager Configuration)] ウィンドウまたは [アシスタントの設定 (Assistant Configuration)] ウィンドウを選択し、次の Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定値を設定する。
 - プライマリ回線、およびインターコム機能用の着信インターコム回線を設定する。たとえば、マネージャのインターコム回線として内線 3102 を設定します。この回線は、アシスタントからのインターコム コールを受信します。たとえば、Assistant Console には、アシスタント回線 1 (1102) と回線 2 (1103) が表示されています。アシスタントは、これらの回線に応答します。



(注) 選択するインターコム回線は、Cisco Unified Communications Manager のインターコム機能 (Cisco Unified IP Phone 7942、7945、7962、7965、および 7975 だけに適用)、またはスピードダイヤル (Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 だけに適用) を使用して作成したものになります。

- マネージャのアシスタント情報を設定する。
- アシスタントの電話機に、マネージャごとにプロキシ回線を設定する。たとえば、アシスタントの回線 4 と回線 5 は、マネージャの回線 1102 と回線 1103 からのコールを受信します。

次の項では、マネージャとアシスタントの設定について詳しく説明します。

- 「[プロキシ回線モード用のマネージャの設定とアシスタントの割り当て](#)」 (P.11-36)
- 「[マネージャの Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報の削除](#)」 (P.11-38)
- 「[アシスタントのプロキシ回線、着信インターコム回線、およびプライマリ回線の設定](#)」 (P.11-40)
- 「[アシスタントの Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報の削除](#)」 (P.11-42)
- 「[インターコム](#)」 (P.28-1)

プロキシ回線モード用のマネージャの設定とアシスタントの割り当て

マネージャを設定し、マネージャにアシスタントを割り当てるには、次の手順を実行します。新しいユーザの設定については、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[エンドユーザの設定値](#)」を参照してください。



ヒント

アシスタント情報を設定する前に、マネージャ情報を設定します。

手順

- ステップ 1** マネージャを設定し、既存のユーザにアシスタントを割り当てるには、[ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] を選択します。
- ステップ 2** Cisco Unified Communications Manager Assistant のマネージャにするユーザを検索するには、[検索 (Find)] ボタンをクリックするか、[検索オプション (Search Options)] フィールドにユーザ名を入力して [検索 (Find)] ボタンをクリックします。
- ステップ 3** 選択されたマネージャのユーザ情報を表示するには、ユーザ名をクリックします。
[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** マネージャの Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報を設定するには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リストボックスから [マネージャの設定 (Manager Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 5** [マネージャの設定 (Manager Configuration)] ウィンドウが開き、マネージャ情報、アシスタント情報、および選択したユーザの制御回線情報が表示されます。



ヒント 既存のアシスタント設定情報を表示するには、[割り当てられているアシスタント (Associated Assistants)] リストにあるアシスタント名をクリックし、[詳細の表示 (View Details)] リンクをクリックします。アシスタントの設定情報が表示されます。マネージャ設定情報に戻るには、[割り当てられているマネージャ (Associated Managers)] リストにあるマネージャ名をクリックし、[詳細の表示 (View Details)] リンクをクリックします。

- ステップ 6** [デバイス名 / プロファイル (Device Name/Profile)] ドロップダウン リスト ボックスで、マネージャに関連付けるデバイス名またはデバイス プロファイルを選択します。エクステンション モビリティでは、オプションでデバイス プロファイルを使用できます。Cisco Unified Communications Manager Assistant での Cisco エクステンション モビリティの使用については、「[エクステンション モビリティ](#)」(P.11-14) を参照してください。



- (注) マネージャが在宅勤務をする場合は、[エクステンションモビリティを使用 (Mobile Manager)] チェックボックスをオンにし、必要に応じてデバイス プロファイルを選択します。デバイス プロファイルを選択した場合、マネージャは Cisco Unified Communications Manager Assistant にアクセスする前に、エクステンション モビリティを使用して電話機にログインする必要があります。

- ステップ 7** 必要に応じて、[インターコム回線 (Intercom Line)] ドロップダウン リスト ボックスで、マネージャのインターコム ライン アピアランスを選択します。



- (注) 選択されたインターコム回線は、Cisco Unified Communications Manager Assistant および Cisco Unified Communications Manager のインターコム機能に適用されます。

- ステップ 8** [アシスタントプール (Assistant Pool)] ドロップダウン リスト ボックスから、適切なプール番号 (1 ~ 3) を選択します。

- ステップ 9** アシスタントをマネージャに割り当てるには、[使用可能なアシスタント (Available Assistants)] リストからアシスタントを選択し、下矢印をクリックして、選択したアシスタントを [割り当てられているアシスタント (Associated Assistants)] リストに移動します。

- ステップ 10** [使用可能な回線 (Available Lines)] 選択ボックスで、Cisco Unified Communications Manager Assistant により制御しようとする回線を選択し、下矢印をクリックして、選択した回線を [選択されている回線 (Selected Lines)] 選択ボックスに表示します。Cisco Unified Communications Manager Assistant が制御する回線を 5 回線まで設定します。

[選択されている回線 (Selected Lines)] 選択ボックスと Cisco Unified Communications Manager Assistant コントロールから回線を削除する場合は、上矢印をクリックします。

- ステップ 11** ソフトキー テンプレート、Cisco Unified Communications Manager Assistant Phone サービスへの登録、Cisco Unified Communications Manager Assistant が制御する選択された回線およびインターコム回線用のコーリング サーチ スペースとパーティション、およびマネージャの電話機用のインターコム回線用スピーカフォンを使用した自動応答を、Cisco IP Manager Assistant サービス パラメータに基づいて自動的に設定するには、[自動設定 (Automatic Configuration)] チェックボックスをオンにします。



- (注) インターコムの自動設定が適用されるのは、Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 で Cisco Unified Communications Manager Assistant インターコム機能を使用している場合だけです。

- ステップ 12** [保存 (Save)] ボタンをクリックします。

更新した内容は、すぐに適用されます。

[自動設定 (Automatic Configuration)] チェックボックスをオンにして、サービス パラメータが無効な場合、メッセージが表示されます。

自動設定に成功すると、マネージャ デバイスがリセットされます。デバイス プロファイルを設定した場合、マネージャはログアウトしてからデバイスにログインして、設定を適用する必要があります。

IPMA サービスの再起動

以前、IPMA サービスでは、Unified CM Admin ユーザ インターフェイスまたはディレクトリで加えられた変更は、サービスが再起動されるまで反映されませんでした。このことは、次の場合に該当しました。

- ユーザ名の変更
- ユーザ ロケールの変更
- ユーザ ID の変更

IPMA サービスが再起動されるたびに、すべてのアシスタントがログアウトされました。

Cisco Unified Communications Manager が変更されたことによって、これらの場合に IPMA サービスを再起動する必要がなくなりました。

再起動が発生した場合でも、ユーザの認証状態および使用可能な状態が IPMA で維持されるようになりました。

追加情報

「関連項目」(P.11-47) を参照してください。

マネージャの Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報の削除

マネージャの Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報を削除するには、次の手順を実行します。マネージャの、Cisco Unified Communications Manager Assistant 以外の情報の削除については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザの設定値」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報を削除するマネージャを検索するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] を選択します。
 - ステップ 2** [ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウで [検索 (Find)] ボタンをクリックするか、[検索オプション (Search Options)] フィールドにユーザ名を入力して [検索 (Find)] ボタンをクリックします。
設定されているユーザのリストが表示されます。
 - ステップ 3** 情報を削除するマネージャを選択します。
 - ステップ 4** [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスで [マネージャの設定 (Manager Configuration)] をクリックします。
[マネージャの設定 (Manager Configuration)] ウィンドウが開き、マネージャの設定情報が表示されます。
 - ステップ 5** [削除 (Delete)] ボタンをクリックします。
更新した内容は、すぐに適用されます。
-

追加情報

「関連項目」(P.11-47) を参照してください。

マネージャの Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定の更新

マネージャの Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報を更新するには、次の手順を実行します。マネージャの、Cisco Unified Communications Manager Assistant 以外の情報の更新については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザの設定値」を参照してください。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報を更新するマネージャを検索するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] を選択します。
- ステップ 2** [ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウで [検索 (Find)] ボタンをクリックするか、[検索オプション (Search Options)] フィールドにユーザ名を入力して [検索 (Find)] ボタンをクリックします。
設定されているユーザのリストが表示されます。
- ステップ 3** 情報を更新するマネージャを選択します。
- ステップ 4** [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスで [マネージャの設定 (Manager Configuration)] をクリックします。
[マネージャの設定 (Manager Configuration)] ウィンドウが開き、マネージャの設定情報が表示されます。
- ステップ 5** デバイス名、制御回線、アシスタント、インターコム ライン アピアランスなど、変更対象の情報を更新します。



(注) [自動設定 (Automatic Configuration)] チェックボックスがオンの場合、Cisco IP Manager Assistant サービス パラメータに基づき、ソフトキー テンプレート、および Cisco Unified Communications Manager Assistant Phone サービスへの登録が自動的に設定されます。さらに、Cisco Unified Communications Manager Assistant が制御する選択された回線およびインターコム回線用のコーリング サーチ スペースとパーティション、およびマネージャの電話機用のインターコム回線用スピーカフォンを使用した自動応答も自動的に設定されます。

- ステップ 6** [保存 (Save)] ボタンをクリックします。
更新した内容は、すぐに適用されます。



(注) 名前、ユーザ ロケール、PIN など、Cisco Unified Communications Manager Assistant 以外のユーザ設定が変更された場合、ユーザ（マネージャまたはアシスタント）が Cisco Unified Communications Manager Assistant からログアウトし、もう一度ログインするまで変更内容は反映されません。

追加情報

「関連項目」(P.11-47) を参照してください。

アシスタントのプロキシ回線、着信インターコム回線、およびプライマリ回線の設定

次の項目を設定するには、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウの [アシスタントの設定 (Assistant Configuration)] を使用します。

- アシスタントの電話機のデバイス名。
- アシスタントが着信インターコムのコールの応答に使用するインターコム回線 (オプション)。
- コールを発信するプライマリ回線 (オプション)。
- マネージャ、マネージャ名、およびマネージャの回線に関連付けられている、アシスタントの電話機のプロキシ回線。たとえば、アシスタントの電話回線 3 を、マネージャ Mary Smith の電話回線 2 への応答に使用します。

プロキシ回線には、アシスタントの Cisco Unified IP Phone に表示される電話回線を指定します。Cisco Unified Communications Manager Assistant は、マネージャ (たとえば、manager1) 宛のコールを、プロキシ回線を使用して管理します。manager1 がコールを受信できないために、コールをアシスタントに送信することをコールルーティングソフトウェアが決定した場合、コールはアシスタントの Cisco Unified IP Phone 上に設定された、manager1 用のプロキシ回線にルーティングされます。

プロキシ回線として機能するアシスタントの電話機で回線を手動で設定したり、自動設定を使用して電話番号の生成およびアシスタントの電話機に回線を追加したりできます。

シェアドラインモードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant のシェアドラインとインターコム回線の設定については、「[アシスタントのシェアドラインと着信インターコム回線の設定](#)」(P.12-27) を参照してください。

アシスタントの Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報を表示する場合、[Proxy Directory Number Range] セクションおよび [Proxy Directory Number Prefix] セクションの Cisco IP Manager Assistant サービス パラメータのエントリに基づいて電話番号が生成されます。サービス パラメータの詳細については、「[Cisco Unified Communications Manager Assistant のサービス パラメータの設定](#)」(P.11-25) を参照してください。

アシスタントのプロキシと着信インターコムのライン アピラランスを設定するには、次の手順を実行します。新しいユーザの設定については、『[Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド](#)』の「[エンドユーザの設定値](#)」を参照してください。



ヒント

アシスタントの Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報を設定する前に、マネージャの情報を設定し、マネージャにアシスタントを割り当てる必要があります。「[プロキシ回線モード用のマネージャの設定とアシスタントの割り当て](#)」(P.11-36) を参照してください。

始める前に

アシスタントの電話機でプロキシ回線を自動設定する場合、[Proxy Directory Number Range] セクションおよび [Proxy Directory Number Prefix] セクションのサービス パラメータを設定します。

手順

- ステップ 1** アシスタントを設定し、プロキシ回線と着信インターコム回線を割り当てるには、[ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] を選択します。
- ステップ 2** アシスタントにするユーザを検索するには、[検索 (Find)] ボタンをクリックするか、[検索オプション (Search Options)] フィールドにユーザ名を入力して [検索 (Find)] ボタンをクリックします。
- ステップ 3** 選択されたアシスタントのユーザ情報を表示するには、ユーザ名をクリックします。
[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 4** アシスタントの Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報を設定するには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [アシスタントの設定 (Assistant Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- [アシスタントの設定 (Assistant Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** [デバイス名 (Device Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、アシスタントに関連付けるデバイス名を選択します。
- ステップ 6** [インターコム回線 (Intercom Line)] ドロップダウン リスト ボックスで、アシスタントの着信インターコム ライン アピアランスを選択します。
- ステップ 7** [プライマリ回線 (Primary Line)] ドロップダウン リスト ボックスで、アシスタントのプライマリ ライン アピアランスを選択します。
- ステップ 8** [アシスタント回線へのマネージャの割り当て (Manager Association to Assistant Line)] 領域にある選択ボックスを使用して、マネージャの回線番号をアシスタントの回線番号に割り当て、関連付けを行います。
- [使用可能な回線 (Available Lines)] 選択ボックスで、アシスタントの回線を選択します。自動生成されたプロキシ回線の前に「Auto」と表示されます。Cisco Unified Communications Manager を使用して、アシスタントの電話機で自動生成されたプロキシ回線を作成する場合、自動生成されたプロキシ回線を選択して、[自動設定 (Automatic Configuration)] チェックボックスがオンになっていることを確認します。



(注) [自動設定 (Automatic Configuration)] チェックボックスがオンの場合、Cisco IP Manager Assistant サービス パラメータの設定に基づき、既存のプロキシ回線およびインターコム回線用のコーリング サーチ スペースとパーティション、およびソフトキー テンプレートを、システムが自動的に設定します。また、システムはインターコム回線用のスピーカフォンを使用した自動応答を設定します。

- ステップ 9** [マネージャ名 (Manager Names)] 選択ボックスで、このプロキシ回線を適用するマネージャを選択します。
- ステップ 10** [マネージャの回線 (Manager Lines)] 選択ボックスで、このプロキシ回線を適用するマネージャの回線を選択します。
- ステップ 11** [保存 (Save)] ボタンをクリックします。
- 更新した内容は、すぐに適用されます。自動設定を選択している場合、アシスタント デバイスは自動的にリセットされます。

追加情報

「関連項目」(P.11-47) を参照してください。

アシスタントの Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報の削除

アシスタントの Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報を削除するには、次の手順を実行します。アシスタントの、Cisco Unified Communications Manager Assistant 以外の情報の削除については、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[エンドユーザの設定値](#)」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報を削除するアシスタントを検索するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] を選択します。
- ステップ 2** [ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウで [検索 (Find)] ボタンをクリックするか、[検索オプション (Search Options)] フィールドにユーザ名を入力して [検索 (Find)] ボタンをクリックします。
- 設定されているユーザのリストが表示されます。
- ステップ 3** 情報を削除するアシスタントを選択します。
- ステップ 4** [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスで [アシスタントの設定 (Assistant Configuration)] をクリックします。
- [アシスタントの設定 (Assistant Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** [削除 (Delete)] ボタンをクリックします。
- 更新した内容は、すぐに適用されます。
-



(注)

名前、ユーザ ロケール、PIN など、Cisco Unified Communications Manager Assistant 以外のユーザ設定が変更された場合、ユーザ（マネージャまたはアシスタント）が Cisco Unified Communications Manager Assistant からログアウトし、もう一度ログインするまで変更内容は反映されません。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.11-47) を参照してください。

アシスタントの Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定の更新

アシスタントの Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報を更新するには、次の手順を実行します。アシスタントの、Cisco Unified Communications Manager Assistant 以外の情報の更新については、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[エンドユーザの設定値](#)」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** 情報を更新するアシスタントを検索するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] を選択します。
- ステップ 2** [ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウで [検索 (Find)] ボタンをクリックするか、[検索オプション (Search Options)] フィールドにユーザ名を入力して [検索 (Find)] ボタンをクリックします。
- 設定されているユーザのリストが表示されます。

ステップ 3 情報を更新するアシスタントを選択します。

ステップ 4 [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスで [アシスタントの設定 (Assistant Configuration)] をクリックします。

[アシスタントの設定 (Assistant Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 デバイス名、インターコム回線、マネージャ関連付け情報など、変更対象の情報を更新します。



(注) [自動設定 (Automatic Configuration)] チェックボックスがオンの場合、Cisco IP Manager Assistant サービス パラメータに基づき、ソフトキー テンプレート、および Cisco Unified Communications Manager Assistant Phone サービスへの登録が自動的に設定されます。さらに、Cisco Unified Communications Manager Assistant が制御する選択された回線およびインターコム回線用のコーリング サーチ スペースとパーティション、およびマネージャの電話機用のインターコム回線用スピーカフォンを使用した自動応答も自動的に設定されます。

ステップ 6 [保存 (Save)] ボタンをクリックします。

更新した内容は、すぐに適用されます。



(注) 名前、ユーザ ロケール、PIN など、Cisco Unified Communications Manager Assistant 以外のユーザ設定が変更された場合、ユーザ (マネージャまたはアシスタント) が Cisco Unified Communications Manager Assistant からログアウトし、もう一度ログインするまで変更内容は反映されません。

追加情報

「関連項目」(P.11-47) を参照してください。

ダイヤル ルール の 設定

管理者は、ダイヤル ルール の 設定を使用して、ダイヤル ルール の優先順位を追加およびソートできます。Cisco Unified Communications Manager Assistant のダイヤル ルールは、アシスタントが Assistant Console のディレクトリ検索ウィンドウからダイヤルする電話番号に対して数字を自動的に除去したり追加したりします。たとえば、7桁の電話番号の先頭に、外線発信用の数字 9 を自動的に追加します。

次の各項に、アプリケーション ダイヤル ルール の追加情報が記載されています。

- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[アプリケーション ダイヤル ルール 設定 の 設計](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[アプリケーション ダイヤル ルール 設定 の エラー チェック](#)」

Cisco Unified Communications Manager Assistant の マネージャおよびアシスタントへの情報提供

URL にアクセスして、Cisco Unified Communications Manager Assistant の Assistant Console アプリケーションをインストールします。管理者は、「Assistant Console プラグインのインストール」(P.11-44) に示す URL をアシスタントに通知します。



(注) Assistant Console アプリケーションのインストールプログラムでは、Microsoft Internet Explorer 7、Internet Explorer 8、Firefox 3.x、および Safari 4.x をサポートしています。

Assistant Console プラグインのインストール

Assistant Console プラグインのインストールでは、Internet Explorer 7、Internet Explorer 7、Firefox 3.x、および Safari 4.x をサポートしています。アプリケーションは、Windows XP、Windows Vista、または Apple MAC OS X を実行する PC にインストールできます。

以前の 5.x または 6.x バージョンの Assistant Console アプリケーションは、Cisco Unified Communications Manager 7.1 と連携します。ただし、7.1 プラグインをインストールする場合は、その前に、以前の 5.x または 6.x バージョンの Assistant Console アプリケーションをアンインストールする必要があります。

以前のバージョンの Assistant Console アプリケーションは、Windows Vista では動作しません。PC が Windows Vista を実行している場合は、プラグインをインストールしてください。

Cisco Unified CallManager リリース 4.x から Cisco Unified Communications Manager 7.1 へアップグレードしたら、その後に、Assistant Console プラグインをインストールする必要があります。プラグインをインストールする前に、4.x バージョンの Assistant Console アプリケーションをアンインストールする必要があります。

以前のバージョンの Assistant Console アプリケーション (6.0(1)、4.x、または 5.1(3) よりも前の 5.x バージョン) をアンインストールする場合は、[スタート]>[プログラム]>[Cisco Unified CallManager Assistant] から Assistant Console のアンインストールを選択します。

5.1(3) または 6.1(x) の Assistant Console アプリケーションをアンインストールするには、[コントロールパネル] に移動して削除します。



ヒント

Assistant Console アプリケーションが動作するには、C:\Program Files\Cisco\Cisco Unified Communications Manager に JRE1.4.2_05 が存在している必要があります。

Assistant Console アプリケーションをインストールするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** Assistant Console アプリケーションをインストールする PC から、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを参照し、[アプリケーション (Application)]>[プラグイン (Plugins)] を選択します。
- ステップ 2** Cisco Unified Communications Manager Assistant プラグインの [ダウンロード (Download)] リンクをクリックします。実行ファイルを適切な場所に保存します。
- ステップ 3** 実行ファイルを検索して実行します。



ヒント アプリケーションを Windows Vista PC にインストールする場合、セキュリティ ウィンドウが表示されることがあります。インストールを許可して続行します。

インストール ウィザードが表示されます。

ステップ 4 [Welcome] ウィンドウで [Next] をクリックします。

ステップ 5 ライセンス契約書に同意し、[Next] をクリックします。

ステップ 6 アプリケーションのインストール先となる場所を選択します。インストール先を選択した後、[Next] をクリックします。



ヒント デフォルトでは、アプリケーションは C:\Program Files\Cisco\Unified Communications Manager Assistant Console にインストールされます。

ステップ 7 アプリケーションをインストールするには、[Next] をクリックします。

インストールが開始します。

ステップ 8 インストールが完了したら、[Finish] をクリックします。



ヒント Assistant Console を起動するには、デスクトップ アイコンをクリックするか、[スタート] メニューの [プログラム] で、[Cisco Unified Communications Manager Assistant] > [Assistant Console] を選択します。

アシスタントがコンソールにログインする前に、Cisco IP Manager Assistant サービスがアクティブになっている Cisco Unified Communications Manager サーバのポート番号、および IP アドレスまたはホスト名をアシスタントに通知します。アシスタントは、コンソールへの初回ログイン時に、[Cisco Unified Communications Manager Assistant Server のポート] および [Cisco Unified Communications Manager Assistant Server のホスト名または IP アドレス] フィールドに情報を入力する必要があります。

アシスタントがコンソールにログインする前に、コンソールにログインするために必要なユーザ名とパスワードをアシスタントに通知します。

[Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定] ウィンドウの [詳細設定] タブで、Assistant Console のトレースを有効にできます。

Assistant Console ダイアログ オプション

アシスタント コンソールには、次のオプションを含むダイアログが表示されます。

- [インストール先]: Assistant Console ソフトウェアのインストール先となるディレクトリのパス。デフォルトでは、次のパスが指定されます。
c:\Program Files\Cisco\Cisco Unified Communications Manager Assistant Console
- [デスクトップショートカットの作成]: デフォルト値は [True]。このパラメータは、アシスタント コンソールでショートカットを作成するかどうかを指定します。
- [スタート]メニューのショートカットの作成]: デフォルト値は [True]。このパラメータによって、[スタート]メニュー ([スタート]>[プログラム]>[Cisco Unified Communications Manager Assistant]>[Assistant Console]) にショートカットを作成するかどうかが決まります。
- [JRE のインストール]: デフォルト値は [True]。このパラメータによって、アシスタント コンソールとともに JRE をインストールするかどうかを指定します。このオプションをオフにする場合は、アシスタント コンソールで次の設定が完了している必要があります。
 - アシスタント コンソールへの JRE 1.4.2_05 (国際バージョン) のインストール
 - アシスタント コンソールでの環境変数 Assistant_JRE の作成 (この環境変数は JRE へのパス (たとえば、c:\Program Files\Java\j2re1.4.2_05) を示します)

マネージャの設定

マネージャは、次の URL を使用して、[マネージャの設定] ウィンドウで機能の個人用設定をカスタマイズできます。

https://<Cisco Unified Communications Manager Assistant サーバ>:8443/ma/desktop/maLogin.jsp

変数の意味は、次のとおりです。

Cisco Unified Communications Manager Assistant サーバには、Cisco IP Manager Assistant サービスが動作しているサーバの IP アドレスを指定します。

管理者は、この URL をマネージャに通知する必要があります。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.11-47) を参照してください。

関連項目

- 「プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定チェックリスト」 (P.11-2)
- 「Cisco Unified Communications Manager Assistant の概要」 (P.11-6)
- 「プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant のシステム要件」 (P.11-12)
- 「インタラクショおよび制限事項」 (P.11-13)
- 「Cisco Unified Communications Manager Assistant のインストールとアクティブ化」 (P.11-18)
- 「プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定」 (P.11-18)
- 「Cisco Unified Communications Manager Assistant のマネージャおよびアシスタントへの情報提供」 (P.11-44)
- 「シェアドライン サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant」 (P.12-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ソフトキーテンプレート」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザの設定値」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザとデバイスとの関連付け」
- 「インターコム」 (P.28-1)
- 「インターネット プロトコル バージョン 6 (IPv6)」 (P.29-1)

その他のシスコ マニュアル

- 『Cisco Unified Communications Manager Assistant User Guide』
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』
- 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』
- 『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド』
- 『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』



CHAPTER 12

シェアドラインサポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant

Cisco Unified Communications Manager Assistant の機能を使用すると、マネージャとアシスタントがより効果的に連携できます。Cisco Unified Communications Manager Assistant は、プロキシ回線サポートとシェアドラインサポートの2つの動作モードをサポートしています。Cisco IP Manager Assistant サービスは、クラスタ内でプロキシ回線サポートとシェアドラインサポートの両方を同時にサポートしています。

IPMA の機能は、マネージャ用の電話機機能拡張、および、主にアシスタントが使用する Assistant Console アプリケーションで構成されます。

Cisco Unified Communications Manager Assistant は最大 3500 人のマネージャと 3500 人のアシスタントをサポートします。このユーザ数に対応するため、管理者は最大 3 つの Cisco Unified Communications Manager Assistant アプリケーションを 1 つの Cisco Unified Communications Manager クラスタに設定し、アプリケーションの各インスタンスにマネージャとアシスタントを割り当てます。

Cisco Unified Communications Manager のユーザは、マネージャとアシスタントで構成されます。アシスタントユーザは、マネージャに代わってコールを処理します。Cisco Unified Communications Manager Assistant は、マネージャ用の機能とアシスタント用の機能で構成されています。

この章では、Cisco Unified Communications Manager Assistant に関する次の情報を提供します。

- 「[シェアドラインサポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定チェックリスト](#)」 (P.12-2)
- 「[Cisco Unified Communications Manager Assistant の概要](#)」 (P.12-6)
- 「[シェアドラインサポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant のシステム要件](#)」 (P.12-11)
- 「[インタラクションおよび制限事項](#)」 (P.12-12)
- 「[Cisco Unified Communications Manager Assistant のインストールとアクティブ化](#)」 (P.12-16)
- 「[シェアドラインサポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定](#)」 (P.12-17)
- 「[Cisco Unified Communications Manager Assistant のマネージャおよびアシスタントへの情報提供](#)」 (P.12-31)
- 「[関連項目](#)」 (P.12-34)

シェアドライン サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定チェックリスト

Cisco Unified Communications Manager Assistant は、アシスタントがマネージャに代わってコールを処理できるプラグインであり、マネージャ宛のコールは代行受信され、適切な宛先にルーティングされます。Cisco Unified Communications Manager Assistant をシェアドライン モードで設定すると、マネージャとアシスタントは電話番号（8001 など）を共有します。アシスタントは、マネージャ宛のコールを共有電話番号で処理します。マネージャが 8001 でコールを受信すると、マネージャの電話機とアシスタントの電話機の両方の呼び出し音が鳴ります。

シェアドラインモードに適用されない Cisco Unified Communications Manager Assistant の機能には、デフォルトのアシスタントの選択、アシスタント モニタ、コールフィルタリング、全コール転送があります。アシスタントは、Assistant Console アプリケーションでこれらの機能を表示したりアクセスしたりすることはできません。アシスタントの電話機には、全コール転送機能用のソフトキーはありません。マネージャの電話機には、アシスタント モニタ、代行受信、および全コール転送機能用のソフトキーはありません。

表 12-1 に、シェアドライン サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant を設定する手順を示します。シェアドライン サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の詳細については、「[Cisco Unified Communications Manager Assistant の概要](#)」(P.12-6) および「[関連項目](#)」(P.12-34) を参照してください。

表 12-1 シェアドライン サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 まだ実行していない場合は、電話機とユーザを設定し、デバイスをユーザに関連付けます。また、まだ実行していない場合は、マネージャとアシスタントの間でのシェアドライン アピランスのため、マネージャのプライマリ回線とアシスタントのセカンダリ回線で同じ電話番号を設定します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 エンドユーザの設定値 」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 エンドユーザとデバイスとの関連付け 」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 Cisco Unified IP Phone の設定 」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 電話番号の設定 」
ステップ 2 Cisco Unified サービスアビリティの [Service Activation] ウィンドウで Cisco IP Manager Assistant サービスをアクティブ化します。	『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』
ステップ 3 シェアドライン サポート用に Cisco IP Manager Assistant サービス パラメータを設定します。	「 Cisco Unified Communications Manager Assistant のサービス パラメータの設定 」(P.12-17) 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 サービス パラメータの設定 」

表 12-1 シェアードライン サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 4 Cisco Unified Communications Manager インターコム機能を使用している場合は、インターコムパーティション、インターコム コーリング サーチ スペース、インターコム電話番号情報、インターコム トランスレーション パターンを追加します。	「インターコム」 (P.28-1) 「インターコム」 (P.12-15) 「アシスタントのシェアードラインと着信インターコム回線の設定」 (P.12-27)
ステップ 5 多数のアシスタントおよびマネージャをサポートするために複数の Cisco Unified Communications Manager Assistant プールが必要になる場合は、次に示す Cisco IP Manager Assistant のクラスタ全体のサービス パラメータを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • Enable Multiple Active Mode • Pool 2 および Pool 3 Cisco IPMA Server IP Address 	「Cisco Unified Communications Manager Assistant のスケラビリティのための複数サーバの設定」 (P.12-19)
ステップ 6 <ul style="list-style-type: none"> • アプリケーション ユーザの CAPF プロファイルを設定します (オプション)。 • セキュリティ用の Cisco IP Manager Assistant サービス パラメータを設定します (オプション)。 	「Cisco Unified Communications Manager Assistant のサービス パラメータの設定」 (P.12-17) 「セキュリティに関する考慮事項」 (P.12-21)
ステップ 7 Serviceability の [Control Center - Feature Services] を使用して、Cisco IP Manager Assistant サービスを停止し、もう一度起動します。	「Cisco IP Manager Assistant サービスの開始」 (P.12-21)
ステップ 8 適切な Cisco Unified IP Phone 電話ボタン テンプレートを追加します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話ボタン テンプレートの設定値」
ステップ 9 マネージャとアシスタントの Cisco Unified IP Phone パラメータを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • マネージャの電話機を設定する。 • アシスタントの電話機を設定する。 	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」

表 12-1 シェアードライン サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
<p>ステップ 10 マネージャの電話機について、次の設定を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • シェアードライン モード用のソフトキー テンプレートを割り当てる。 • サイレントを使用する場合は、マネージャの電話機で [サイレント (Do Not Disturb)] フィールドを設定する。 • プライマリ回線を追加する (同じ電話番号とパーティションをアシスタントのセカンダリ回線の電話番号に使用します)。 • プライマリ回線のボイスメール プロファイルを設定する。 • 着信インターコム回線を追加する (オプション)。 • Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 の場合は、インターコム発信先のスピードダイヤルを追加する。 • Cisco Unified IP Phone 7942、7945、7962、7965、および 7975 の場合は、インターコム機能を追加する。 • ユーザ ロケールを設定する。 • 電話機をリセットする。 <p>ヒント マネージャの電話設定の一部を自動設定するには、マネージャを設定するときに [マネージャの設定 (Manager Configuration)] ウィンドウで [自動設定 (Automatic Configuration)] チェックボックスをオンにします。詳細については、「マネージャの電話機」(P.12-22) を参照してください。</p>	<p>「マネージャおよびアシスタントの電話機の設定」(P.12-21)</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「電話機の設定値」</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「電話機の削除のヒント」</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「電話番号の設定」</p> <p>「サイレント」(P.21-1)</p> <p>「インターコム」(P.12-15)</p> <p>「インターコム」(P.28-1)</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「スピードダイヤル ボタンまたは短縮ダイヤルの設定」</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「電話機のリセットのヒント」</p>

表 12-1 シェアドライン サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定チェックリスト (続き)

設定手順		関連手順と関連項目
ステップ 11	<p>アシスタントの電話機について、次の設定を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ソフトキー テンプレートを割り当てる。 • 拡張モジュールを追加する (任意)。 • 電話ボタンテンプレートを割り当てる。 • プライマリ回線を追加する。 • 設定済みの各マネージャ用のシェアドラインを追加する (同じ電話番号とパーティションをアシスタントのセカンダリ回線とマネージャのプライマリ回線に使用します)。 • 着信インターコム回線を追加する (オプション)。 • Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 の場合は、インターコム発信先のスピードダイヤルを追加する。 • Cisco Unified IP Phone 7942、7945、7962、7965、および 7975 の場合は、インターコム機能を追加する。 • ユーザ ロケールを設定する。 • 電話機をリセットする。 <p>ヒント アシスタントの電話設定の一部を自動設定するには、アシスタントを設定するときに [アシスタントの設定 (Assistant Configuration)] ウィンドウで [自動設定 (Automatic Configuration)] チェックボックスをオンにします。詳細については、「アシスタントの電話機」(P.12-23) を参照してください。</p>	<p>『マネージャおよびアシスタントの電話機の設定』(P.12-21)</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話機の設定値」</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話機の削除のヒント」</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話番号の設定」</p> <p>「インターコム」(P.12-15)</p> <p>「インターコム」(P.28-1)</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「スピードダイヤル ボタンまたは短縮ダイヤルの設定」</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話機のリセットのヒント」</p>
ステップ 12	<p>Cisco Unified Communications Manager Assistant を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 新しいマネージャを作成する。 • マネージャ用のシェアドラインを設定する。 • マネージャにアシスタントを割り当てる。 • アシスタント用の回線を設定する。 • インターコム回線を設定する (オプション)。 	<p>「シェアドライン モード用のマネージャの設定とアシスタントの割り当て」(P.12-24)</p> <p>「マネージャの Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報の削除」(P.12-26)</p> <p>「アシスタントのシェアドラインと着信インターコム回線の設定」(P.12-27)</p> <p>「インターコム」(P.12-15)</p> <p>「インターコム」(P.28-1)</p>
ステップ 13	<p>アシスタント用のダイヤル ルールを設定します。</p>	<p>『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「アプリケーションダイヤルルール設定のエラーチェック」</p>
ステップ 14	<p>Assistant Console アプリケーションをインストールします。</p>	<p>「Assistant Console プラグインのインストール」(P.12-31)</p>
ステップ 15	<p>マネージャとアシスタントのコンソール アプリケーションを設定します。</p>	<p>『Cisco Unified Communications Manager Assistant User Guide』</p>

Cisco Unified Communications Manager Assistant の概要

Cisco Unified Communications Manager Assistant は、アシスタントがマネージャに代わってコールを処理できるプラグインであり、マネージャ宛のコールは代行受信され、適切な宛先にルーティングされます。Cisco Unified Communications Manager Assistant をシェアドライン モードで設定すると、マネージャとアシスタントは電話番号（8001 など）を共有します。アシスタントは、マネージャ宛のコールを共有電話番号で処理します。マネージャが 8001 でコールを受信すると、マネージャの電話機とアシスタントの電話機の両方の呼び出し音が鳴ります。

シェアドライン モードに適用されない Cisco Unified Communications Manager Assistant の機能には、デフォルトのアシスタントの選択、アシスタント モニタ、コールフィルタリング、全コール転送があります。アシスタントは、Assistant Console アプリケーションでこれらの機能を表示したりアクセスしたりすることはできません。アシスタントの電話機には、全コール転送機能用のソフトキーはありません。マネージャの電話機には、アシスタント モニタ、代行受信、および全コール転送機能用のソフトキーはありません。

表 12-1 に、シェアドライン サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant を設定する手順を示します。シェアドライン サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の詳細については、「[関連項目](#)」(P.12-34) を参照してください。

この項では、Cisco Unified Communications Manager Assistant の機能に関する次の情報について説明します。

- 「[Cisco Unified Communications Manager Assistant のアーキテクチャの概要](#)」(P.12-6)
- 「[Cisco Unified Communications Manager Assistant のデータベース アクセス アーキテクチャ](#)」(P.12-9)
- 「[マネージャのインターフェイス](#)」(P.12-9)
- 「[アシスタントのインターフェイス](#)」(P.12-10)
- 「[ソフトキー](#)」(P.12-10)
- 「[Cisco Unified Communications Manager Assistant の管理用インターフェイス](#)」(P.12-11)

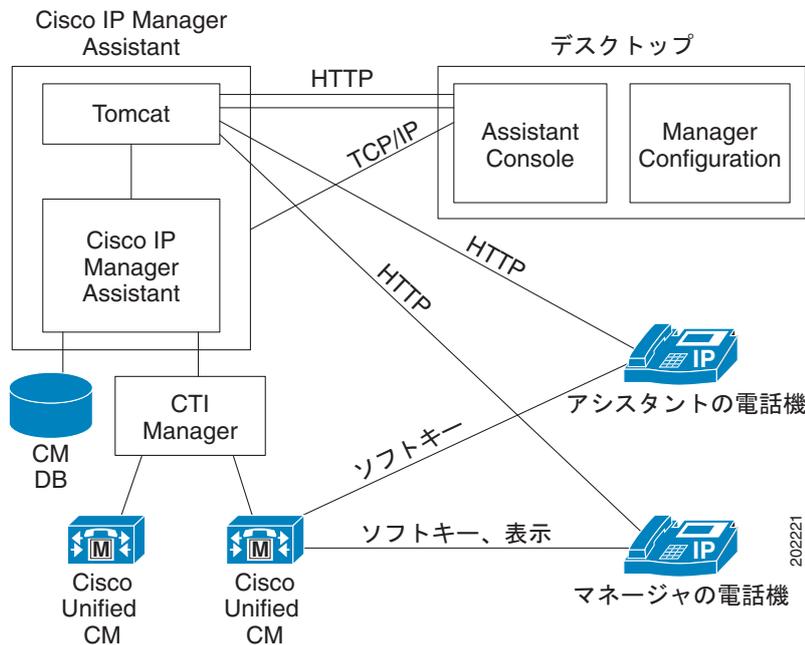
Cisco Unified Communications Manager Assistant のアーキテクチャの概要

Cisco Unified Communications Manager Assistant の機能アーキテクチャは、Cisco IP Manager Assistant サービス、アシスタント コンソール アプリケーション、および Cisco Unified IP Phone インターフェイスで構成されています。図 12-1 を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.12-34) を参照してください。

図 12-1 Cisco Unified Communications Manager Assistant のアーキテクチャ



Cisco IP Manager Assistant サービス

Cisco IP Manager Assistant サービス（サブレット）は、Cisco Tomcat がロードします。Cisco Tomcat は、Cisco Unified Communications Manager のインストール時にインストールされます。

Cisco IP Manager Assistant サービスは、クラスタ内のすべての Cisco Unified Communications Manager サーバにインストールされます。インストール後、管理者は Serviceability でサービスをアクティブにし、Cisco Unified Communications Manager Assistant が自動的に起動されるようにします。Cisco IP Manager Assistant サービスは、これがクラスタ全体のサービス パラメータ Cisco IPMA Server (Primary) IP Address で設定されている Cisco Unified Communications Manager Assistant サーバの 1 つかどうかを確認します。設定されている場合、Cisco IP Manager Assistant サービスはアクティブな Cisco IP Manager Assistant サービスになるようにします。現時点では、Cisco Unified Communications Manager クラスタがサポートできるアクティブな Cisco IP Manager Assistant サービスは 1 つだけです。

Cisco IP Manager Assistant サービスは、次のタスクを実行します。

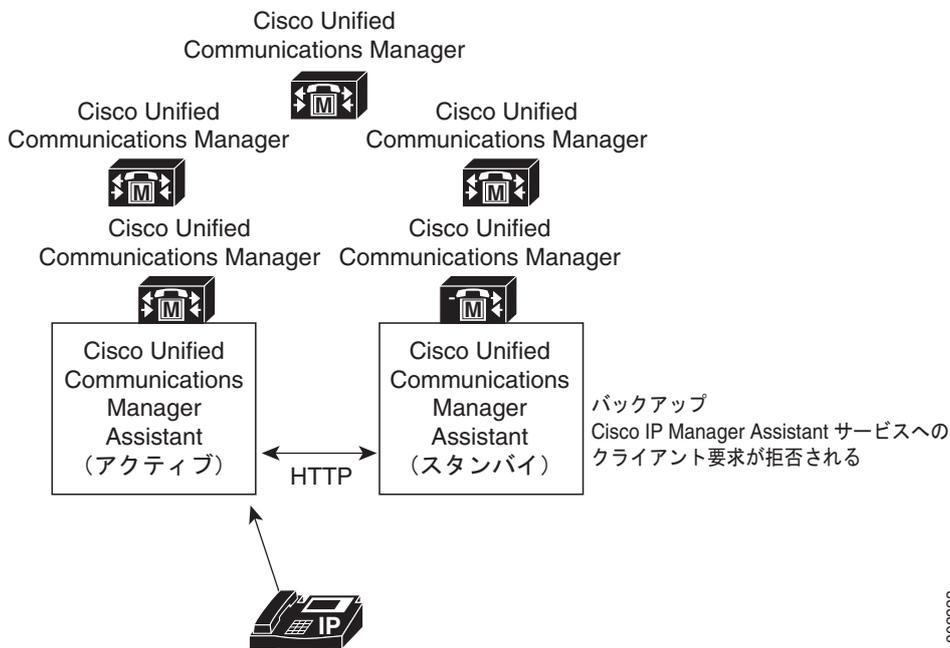
- マネージャの電話機で実行される HTTP サービスのホストとなる。
- マネージャが設定に使用する Web ページのホストとなる。
- サードパーティ コール制御用の Cisco CTI Manager を通じて、Cisco Unified Communications Manager と通信する。Cisco Unified Communications Manager Assistant が必要とする CTI 接続は、クラスタ内の全ユーザに対して 1 つだけです。
- データベースのデータにアクセスする。
- Assistant Console アプリケーションをサポートする。

Cisco Unified Communications Manager は、Cisco IP Manager Assistant サービスの冗長化をサポートしています。冗長化を実現するには、同じクラスタ内に 2 番目の Cisco IP Manager Assistant サービスを設定する必要があります。

Cisco Unified Communications Manager Assistant は、アクティブ / スタンバイ サーバ モデルを利用して冗長化を実装します。常にアクティブのまま、すべての Assistant Console アプリケーションと電話機にサービスを提供する Cisco Unified Communications Manager Assistant サーバは 1 台だけです。他のサーバはスタンバイ モードになり、アクティブなサーバの障害を検出します。障害を検出した場合は、バックアップ サーバが機能を引き継ぎ、アクティブなサーバになります。障害発生時にアクティブになっていた接続は、すべて新しいサーバ上に復元されるため、ユーザに対するサービスは中断することなく続行されます。

アクティブなサーバに障害が発生した場合、Assistant Console アプリケーションは、バックアップ サーバに自動的にフェールオーバーします。アプリケーションが障害を検出する間隔は、Cisco IPMA Assistant Console Heartbeat Interval サービス パラメータ（「Cisco Unified Communications Manager Assistant のサービス パラメータの設定」(P.12-17) を参照）によって決まります。ハートビート間隔を小さくすると、フェールオーバーまでの時間が短くなります。図 12-2 を参照してください。

図 12-2 Cisco Unified Communications Manager Assistant の冗長性



Cisco IP Manager Assistant サービスには、サービスに対する不正アクセスを防止するための組み込みセキュリティが含まれています。アシスタント コンソールで収集されたユーザ ID とパスワードは、ネットワークを通じて送信される前に暗号化されます。アシスタントを装う不正ユーザは、Assistant Console によってブロックされます。

アシスタント コンソール インターフェイス

Cisco Unified Communications Manager Assistant は、次のマネージャ用およびアシスタント用アシスタント コンソール インターフェイスをサポートしています。

- Assistant Console (コール制御、ログイン、アシスタントの初期設定、マネージャ宛コールアクティビティの監視、キーボードショートカットに使用される)
- Manager Configuration (即時転送先の設定に使用される)

管理者は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] を使用して、Cisco Unified Communications Manager Assistant をマネージャ用およびアシスタント用に設定します。「[Cisco Unified Communications Manager Assistant の管理用インターフェイス](#)」(P.12-11) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager を使用すると、Cisco Unified Communications Manager Assistant のマネージャ用機能が Cisco Unified IP Phone で利用できるようになります。Manager Configuration には、ブラウザを使用してアクセスします。アシスタントは、Cisco Unified IP Phone と Assistant Console アプリケーションを使用します。「[マネージャのインターフェイス](#)」(P.12-9) および「[アシスタントのインターフェイス](#)」(P.12-10) を参照してください。

アシスタント コンソールの機能を使用する方法の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Assistant User Guide*』を参照してください。

Cisco Unified IP Phone のインターフェイス

アシスタントとマネージャはソフトキーを使用して、Cisco Unified Communications Manager Assistant の機能にアクセスします。Cisco Unified Communications Manager Assistant の電話機の機能を使用する方法の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Assistant User Guide*』を参照してください。

「[マネージャのインターフェイス](#)」(P.12-9) および「[アシスタントのインターフェイス](#)」(P.12-10) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager Assistant のデータベース アクセス アーキテクチャ

Cisco Unified Communications Manager Assistant のすべての設定情報は、データベースに格納されます。マネージャまたはアシスタントがログインすると、Cisco IP Manager Assistant サービスは、そのマネージャまたはアシスタントに関する全データをデータベースから取得し、メモリに保存します。

マネージャのインターフェイス

マネージャの電話機からは、Manager Configuration を除くマネージャ用機能を利用できます。Cisco Unified Communications Manager Assistant は、Cisco IP Manager Assistant サービスの開始時に、自動的にマネージャを Cisco IP Manager Assistant サービスにログインさせます。

マネージャは、Cisco Unified IP Phone のソフトキーを使用して、Cisco Unified Communications Manager Assistant のアシスタント モニタ、代行受信、およびボイスメール転送の各機能にアクセスします。



(注)

マネージャは、Cisco Unified Communications Manager の機能 (サイレント、即転送など) にもアクセスできます。

サイレントの状態は、Cisco Unified IP Phone のステータス ウィンドウに表示されます。

詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Assistant User Guide*』を参照してください。

アシスタントのインターフェイス

アシスタントは、Assistant Console アプリケーションと Cisco Unified IP Phone を使用して Cisco Unified Communications Manager Assistant の機能にアクセスします。アプリケーションである Assistant Console は、応答、即時転送、転送、保留などのコール制御機能を提供します。アシスタントは、Assistant Console を使用して、ログインとログオフ、アシスタントの初期設定、およびマネージャの初期設定に使用する [マネージャの設定 (Manager Configuration)] ウィンドウの表示を行います。

Assistant Console はアシスタントの回線およびマネージャのシェアドラインを表示します。アシスタントはシェアドラインにアクセスして、マネージャ宛のコールを管理します。

インターコムと鳴り分けには、アシスタントの Cisco Unified IP Phone でアクセスできます。アシスタントが Assistant Console からログインすると、シェアドラインの [リダイレクト] ソフトキーと [VM 転送] ソフトキーがアクティブになります。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Assistant User Guide』を参照してください。

ソフトキー

Cisco Unified Communications Manager Assistant 機能は、Cisco Unified IP Phone の [リダイレクト]、[VM 転送]、[サイレント] などのソフトキーをサポートしています。ソフトキーは、コールの状態に基づいて表示されます。たとえば、[VM 転送] は、アクティブなコールが存在しない場合には表示されません。

Cisco Unified Communications Manager Assistant は、次のソフトキー テンプレートをサポートしています。

- Standard Manager : プロキシ モードのマネージャをサポートします。
- Standard Shared Mode Manager : 共有モードのマネージャをサポートします。
- Standard Assistant : プロキシ モードまたは共有モードでアシスタントをサポートします。

さらに、Standard User テンプレートを使用すると、保留やダイヤルなどのコール処理ソフトキーを利用できるようになります。管理者は、マネージャやアシスタントが使用するデバイスに対して、適切なソフトキー テンプレートを設定してください。



(注)

デフォルト プロセスでは、デバイスに対してコール処理ソフトキー テンプレートが割り当てられます。

管理者は、Cisco Unified Communications Manager に含まれている標準のソフトキー テンプレートを使用するほかに、カスタム ソフトキー テンプレートを作成することもできます。ソフトキー テンプレートを Cisco Unified Communications Manager Assistant デバイスに関連付ける場合や、カスタム ソフトキー テンプレートを作成する場合は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] を使用します。『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ソフトキー テンプレートの設定」を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager Assistant の管理用インターフェイス

管理者は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウを使用して、マネージャおよびアシスタントを設定します。また、マネージャ用およびアシスタント用のデバイスを選択し、オプションでマネージャ用およびアシスタント用のインターコム回線を選択します。管理者は、アシスタントに対して設定されたマネージャ用のシェアドラインを設定します。

「マネージャおよびアシスタントの設定」(P.12-23) を参照してください。

シェアドライン サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant のシステム要件

シェアドライン サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant が動作するには、次のソフトウェア コンポーネントが必要です。

- Cisco Unified Communications Manager
- サポートされるブラウザおよびプラットフォーム：
 - Cisco Unified Communications Manager Assistant 管理 (Cisco Unified Communications Manager 管理を使用) および Assistant Console は、Microsoft Internet Explorer (IE) 5.5 以降、Firefox 3.x 以降、および Safari 4.x 以降でサポートされます。(詳細については、「インタラクションおよび制限事項」(P.12-12) を参照してください。)
 - Microsoft Windows 2000 以降を実行しているコンピュータでは、上記のいずれかのブラウザを開くことができます。
- Cisco Unified Communications Manager 一括管理ツール (BAT) (複数のマネージャとアシスタントを一括で追加する場合)

Cisco Unified Communications Manager Assistant は Cisco Unified Communications Manager と同じサーバに自動的にインストールされるため、追加のサーバは必要ありません。

どの Cisco Unified IP Phone が Cisco Unified Communications Manager Assistant をサポートするかを判断するには、「Cisco Unified Communications Manager Assistant をサポートするデバイス」(P.12-11) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager Assistant をサポートするデバイス

Cisco Unified Communications Manager Assistant をサポートする IP Phone の完全なリストを作成するには、Cisco Unified Reporting アプリケーションを使用します。そのためには、次の手順に従います。

1. 次のいずれかの方法を使用して、Cisco Unified Reporting を起動します。

Web アプリケーションへのアクセスを許可されるまで、ユーザの認証には Cisco Tomcat サービスが使用されます。アプリケーションには次の方法でアクセスできます。

- Cisco Unified Communications Manager の管理ページのナビゲーションメニューで [Cisco Unified Reporting] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool (RTMT) メニューで [File] > [Cisco Unified Reporting] の順に選択します。
- `https://<サーバ名または IP アドレス>:8443/cucreports/` と入力し、認証済みのユーザ名とパスワードを入力します。

2. ナビゲーション バーで、[System Reports] をクリックします。
3. 左側のカラムに表示されたレポートのリストで、[Unified CM Phone Feature List] オプションをクリックします。
4. [Generate a new report] リンクをクリックして新規レポートを生成するか、または、レポートがすでに存在する場合は、[Unified CM Phone Feature List] リンクをクリックします。
5. Cisco Unified Communications Manager Assistant がサポートされているすべての IP Phone のレポートを生成するには、各ドロップダウン リスト ボックスから次の設定を選択し、[Submit] ボタンをクリックします。

[Product] : [All]

[Feature] : [IPMA]

[List Features] ペインに、Cisco Unified Communications Manager Assistant 機能がサポートされているすべてのデバイスのリストが表示されます。カラムの見出し ([Product] または [Protocol]) の隣にある上下の矢印キーをクリックして、リストをソートできます。

Cisco Unified Reporting アプリケーションの詳細については、次の URL の『Cisco Unified Reporting Administration Guide』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html

インタラクションおよび制限事項

次の項では、Cisco Unified Communications Manager Assistant におけるインタラクションおよび制限事項について説明します。

- 「インタラクション」(P.12-12)
- 「制限事項」(P.12-15)

インタラクション

次の項では、Cisco Unified Communications Manager Assistant が Cisco Unified Communications Manager アプリケーションと通信する方法について説明します。

- 「一括管理ツール」(P.12-12)
- 「発信側の正規化」(P.12-13)
- 「エクステンション モビリティ」(P.12-13)
- 「インターネット プロトコル バージョン 6 (IPv6)」(P.12-13)
- 「レポート ツール」(P.12-13)
- 「Multilevel Precedence and Preemption (MLPP)」(P.12-15)
- 「インターコム」(P.12-15)

一括管理ツール

一括管理ツール (BAT) を使用すると、管理者は多数のユーザ (マネージャとアシスタント) を一度に追加できます。ユーザを 1 人ずつ追加する必要はありません。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド』を参照してください。

Cisco Unified IP Phone 用の Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザードで作成される BAT テンプレートがサポートするのは、Cisco Unified Communications Manager インターコム回線だけです。

追加情報

「関連項目」(P.12-34) を参照してください。

発信側の正規化

発信側の正規化機能を設定すると、Cisco Unified Communications Manager Assistant により、ローカライズおよびグローバル化されたコールが自動的にサポートされます。Cisco Unified Communications Manager Assistant は、ローカライズされた発信側番号をユーザ インターフェイスに表示できます。また、マネージャに対する着信コールの場合、Cisco Unified Communications Manager Assistant は、フィルタ パターンに一致したときに、ローカライズされた発信側番号とグローバル化された発信側番号を表示できます。発信側の正規化の設定については、「[発信側の正規化](#) (P.8-1) を参照してください。

エクステンション モビリティ

Cisco エクステンション モビリティ機能を使用するマネージャは、同時に Cisco Unified Communications Manager Assistant も使用できます。マネージャがエクステンション モビリティを使用して Cisco Unified IP Phone にログインすると、その電話機で Cisco IP Manager Assistant サービスが自動的に有効になります。その後、マネージャは Cisco Unified Communications Manager Assistant 機能にアクセスできます。

Cisco Unified Communications Manager Assistant を使用して Cisco エクステンション モビリティにアクセスするには、管理者が Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [マネージャの設定 (Manager Configuration)] ウィンドウ ([エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウからアクセス) で、[エクステンションモビリティを使用 (Mobile Manager)] チェックボックスをオンにします。「[シェアドライン モード用のマネージャの設定とアシスタントの割り当て](#)」 (P.12-24) を参照してください。デバイス プロファイルの設定の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[デバイス プロファイルの設定値](#)」を参照してください。Cisco エクステンション モビリティの詳細については、第 9 章「[Cisco エクステンション モビリティ](#)」を参照してください。

インターネット プロトコル バージョン 6 (IPv6)

Cisco Unified Communications Manager Assistant では IPv6 はサポートされないため、[IP アドレッシング モード (IP Addressing Mode)] が [IPv6 のみ (IPv6 Only)] の電話機は Cisco Unified Communications Manager Assistant で使用できません。その電話機で Cisco Unified Communications Manager Assistant を使用する場合は、その電話機の [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] を [IPv4 のみ (IPv4 Only)] または [IPv4 と IPv6 (IPv4 and IPv6)] に設定します。IPv6 の詳細については、「[インターネット プロトコル バージョン 6 \(IPv6\)](#)」 (P.29-1) を参照してください。

レポート ツール

Cisco Unified Communications Manager Assistant は、静的な情報を CDR Analysis and Reporting (CAR) ツールで提供し、設定に対する変更の要約を変更ログで提供します。ここでは、次のレポート ツールについて説明します。

CDR Analysis and Reporting

Cisco Unified Communications Manager Assistant は、マネージャとアシスタントのコール完了統計、およびマネージャとアシスタントのインベントリ レポートをサポートしています。コール完了統計は、CDR Analysis and Reporting (CAR) ツールでサポートされます。インベントリ レポートは、Cisco Unified サービスアビリティでサポートされます。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』、『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』、および『*Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting Administration Guide*』を参照してください。

Unified CM AssistantChangeLog*.txt

管理者は、Manager Configuration または Assistant Configuration に対する変更の要約を確認できます。マネージャは、URL を参照して Manager Configuration にアクセスすることで、デフォルト値を設定できます。

アシスタントは Assistant Console からマネージャのデフォルト値を変更できます。



(注) URL および Manager Configuration については、『Cisco Unified Communications Manager Assistant User Guide』を参照してください。

設定値が変更されると、その情報は ipma_changeLogxxx.log というログ ファイルに送られます。このログ ファイルは、Cisco IP Manager Assistant サービスを実行するサーバ上にあります。ログ ファイルを取得するには、次のコマンドを使用します。

```
file get activelog tomcat/logs/ipma/log4j/
```

管理者は、Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool (RTMT) にある Trace Collection Tool を使用して、サーバからこのログ ファイルをダウンロードできます。詳細については、『Cisco Unified Real Time Monitoring Tool Administration Guide』を参照してください。

このログ ファイルには、次のフィールドが含まれています。

- LineNumber : ログ ファイル内に変更情報がある回線。
- TimeStamp : 設定値が変更された時刻。
- for Manager/Assistant : 変更が、マネージャまたはアシスタントのどちらに対するものであるかを示す。
- for Userid : 変更対象となったマネージャまたはアシスタントのユーザ ID。
- by Manager/Assistant : 変更が、マネージャまたはアシスタントのどちらによって実施されたかを示す。
- by Userid : 変更を実施したマネージャまたはアシスタントのユーザ ID。
- Parameter Name : 変更された項目 (転送先電話番号など)。
- Old Value : 変更前の設定値。
- New Value : 変更後の設定値。

ログ ファイル内の情報はカンマで区切られているため、管理者は、Microsoft Excel などのスプレッドシート アプリケーションを使用してログ ファイルを開くことができます。ログ ファイルの内容を Microsoft Excel アプリケーションで保存するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** Microsoft Excel アプリケーションを起動します。
- ステップ 2** [ファイル]>[開く]を選択して Unified CM Assistant.txt ファイルを開きます。
- ステップ 3** [元のデータの形式]で[カンマやタブなどの区切り文字によってフィールドごとに区切られたデータ]のファイル形式を選択し、[次へ]をクリックします。
- ステップ 4** [区切り文字]として[カンマ]を選択し、[次へ]をクリックします。
- ステップ 5** 上の操作が完了したら、[完了]をクリックします。

Multilevel Precedence and Preemption (MLPP)

次に、シェアードライン サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant と MLPP とのインタラクションについて説明します。

- コールの優先順位は、Cisco Unified Communications Manager Assistant によるコールの処理時に保存されます。たとえば、アシスタントがコールを転送する際、システムはコールの優先順位を保存します。
- Cisco Unified Communications Manager Assistant はコールの優先順位を認識しないので、Assistant Console でコールの優先順位について追加のインジケータを送信することはありません。

インターコム

Cisco Unified Communications Manager Assistant は、次の 2 つのタイプのインターコムをサポートしています。

- Cisco Unified Communications Manager Assistant インターコム (Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 で使用)。このインターコム機能は、電話番号の設定およびエンド ユーザ (マネージャおよびアシスタント) の設定ウィンドウを使用して設定されます。
- Cisco Unified Communications Manager インターコム (Cisco Unified IP Phone 7942、7945、7962、7965、および 7975 で使用)。このインターコム機能は、インターコム パーティション、インターコム コーリング サーチ スペース、インターコム 電話番号情報、インターコム トランスレーション パターン、電話番号、エンド ユーザ (マネージャおよびアシスタント) の設定ウィンドウを使用して設定されます。

制限事項

Cisco Unified Communications Manager Assistant には、次の制限事項があります。

- Cisco Unified Communications Manager Assistant は、Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 を除く Cisco Unified IP Phone 7900 シリーズで SIP をサポートしています。
- Cisco Unified Communications Manager Assistant は、複数の Cisco IP Manager Assistant サーバ (プール) を設定することで、最大 3500 人のマネージャと 3500 人のアシスタントをサポートします。複数のプールが有効になっている場合、マネージャとそのマネージャに設定されているすべてのアシスタントは同じプールに属します。
- 1 人のマネージャには最大 10 人のアシスタントを割り当てることができます。
- 1 人のアシスタントは最大 33 人のマネージャをサポートできます (各マネージャが Cisco Unified Communications Manager 制御の回線を持っている場合)。
- Cisco Unified Communications Manager Assistant は、MCS 7845 サーバを使用している場合、Cisco Unified Communications Manager クラスタごとに最大 3500 人のマネージャと 3500 人のアシスタントをサポートします。
- Assistant Console は、ハント グループ/キューをサポートしていません。
- Assistant Console は、レコードおよびモニタリングをサポートしていません。
- Assistant Console は、オンフック転送 ([転送] ソフトキーを押して受話器を置くことによって転送を完了するコール転送機能) をサポートしていません。
- Assistant Console は、ワンタッチ コール ピックアップ機能をサポートしていません。

- Cisco Unified IP Phone 7940、7942、および 7945 がサポートする回線ボタンまたはスピードダイヤル ボタンは 2 つだけです。
- Cisco Unified Communications Manager Release 8.0(2) (以降) へのアップグレード時、着信インターコム回線を使用する既存の Cisco Unified Communications Manager Assistant ユーザは、自動的に Cisco Unified Communications Manager インターコム機能にアップグレードされません。
- システムは、Cisco Unified Communications Manager インターコム機能と通常回線 (Cisco Unified Communications Manager Assistant インターコム回線として設定されることもある) の間のコールをサポートしません。
- Cisco Unified IP Phone 7960 および 7940 は、Cisco Unified Communications Manager Assistant インターコム回線機能だけをサポートします。Cisco Unified IP Phone 7900 (7940 および 7960 を除く) がサポートするのは、Cisco Unified Communications Manager インターコム機能だけです。
- Microsoft Internet Explorer 7 以降を実行する Windows XP コンピュータに Assistant Console アプリケーションをインストールするには、事前に Windows XP Service Pack 1 とともに Microsoft Java Virtual Machine (JVM) をインストールしておく必要があります。

Cisco Unified Communications Manager Assistant のインストールとアクティブ化

Cisco Unified Communications Manager Assistant (サブレット) は、Cisco Tomcat がロードします。Cisco Tomcat は、Cisco Unified Communications Manager のインストール時にインストールおよび起動されます。詳細については、「[Cisco IP Manager Assistant サービス](#)」(P.12-7) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager Assistant をシステムで利用できるようにするには、インストール後に管理者が次の 3 つの作業を実施します。

1. Cisco Unified サービスアビリティの [Tools] メニューの下にある [Service Activation] を使用して、Cisco IP Manager Assistant サービスを有効にします。『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』を参照してください。
2. Cisco IP Manager Assistant サービス用の必要なサービス パラメータを設定します。「[Cisco Unified Communications Manager Assistant のサービス パラメータの設定](#)」(P.12-17) を参照してください。
3. Serviceability の [Control Center - Feature Services] を使用して、Cisco IP Manager Assistant サービスを停止し、もう一度起動します。「[Cisco IP Manager Assistant サービスの開始](#)」(P.12-21) を参照してください。



(注)

Cisco Unified Communications Manager Assistant 機能を英語以外の言語でマネージャまたはアシスタントの電話機とアシスタント コンソールに表示する必要がある場合は、Cisco Unified Communications Manager Assistant を設定する前に、ロケールインストーラがインストールされていることを確認してください。『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide*』を参照してください。

シェアドライン サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定

Cisco Unified Communications Manager Assistant を正しく設定するには、設定チェックリストに示す手順を確認して、ユーザとデバイスの設定要件を確認し、マネージャとアシスタントを設定します。



(注)

シェアドライン サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant は、プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant と同じ Cisco Unified Communications Manager クラスタ内に共存します。プロキシ回線サポートの設定については、「[プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant](#)」(P.11-1) を参照してください。

次の項では、設定情報について説明します。

- 「[Cisco Unified Communications Manager Assistant のサービス パラメータの設定](#)」(P.12-17)
- 「[Cisco Unified Communications Manager Assistant のスケーラビリティのための複数サーバの設定](#)」(P.12-19)
- 「[セキュリティに関する考慮事項](#)」(P.12-21)
- 「[Cisco IP Manager Assistant サービスの開始](#)」(P.12-21)
- 「[マネージャおよびアシスタントの電話機の設定](#)」(P.12-21)
- 「[マネージャおよびアシスタントの設定](#)」(P.12-23)



ヒント

シェアドライン サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant を設定する前に、「[シェアドライン サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定チェックリスト](#)」(P.12-2) を確認してください。

Cisco Unified Communications Manager Assistant のサービス パラメータの設定

Cisco IP Manager Assistant サービスのサービス パラメータには、汎用パラメータ、クラスタ全体のパラメータ、およびマネージャとアシスタントの Cisco Unified Communications Manager Assistant 自動設定を使用する場合に設定する必要があるクラスタ全体のパラメータの 3 つのカテゴリがあります。クラスタ全体のパラメータは、すべての Cisco IP Manager Assistant サービス用に 1 回指定します。汎用パラメータは、インストールされている各 Cisco IP Manager Assistant サービスに対して指定します。

Cisco IP Manager Assistant サービス パラメータを設定するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用してサービス パラメータにアクセスします。[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager Assistant アプリケーションが配置されているサーバを選択し、Cisco IP Manager Assistant サービスを選択します。

Cisco IP Manager Assistant には、次に示す設定必須のサービス パラメータがあります。

- すべてのサーバに適用されるクラスタ全体のパラメータ
 - Cisco IPMA Server (Primary) IP Address : デフォルト値なし。この IP アドレスは、管理者が手動で入力する必要があります。管理者は、このアドレスに最大 2500 人のマネージャとアシスタントを割り当てることができます。CPU 使用率が高くなるのを防ぐため、Cisco IP Manager Assistant CTIManager(Primary) IP Address サービス パラメータを設定するときに、IPMA プロセスが実行されているローカル CTIManager サーバのアドレスを入力します。
 - Cisco IPMA Server (Backup) IP Address : デフォルト値なし。この IP アドレスは、管理者が手動で入力する必要があります。
 - Cisco IPMA Server Port : デフォルト値はポート 2912。
 - Cisco IPMA Assistant Console Heartbeat Interval : デフォルト値は 30 秒。この間隔タイマーは、アシスタント コンソールでフェールオーバーが発生するまでの時間を指定します。
 - Cisco IPMA Assistant Console Request Timeout : デフォルト値は 30 秒。
 - Cisco IPMA RNA Forward Calls : デフォルト値は [False]。このサービス パラメータは、シェアドライン サポートに適用されません。
 - Cisco IPMA RNA Timeout : デフォルト値は 10 秒。このサービス パラメータは、シェアドライン サポートに適用されません。
 - CTIManager Connection Security Flag には、次の 2 つのオプションがあります。
 - [Nonsecure] : セキュリティ モードを非セキュアに指定します。
 - [Use Cluster Default] : Cisco IP Manager Assistant サービスがクラスタのセキュリティ モードを取得します。クラスタのセキュリティ モードが「混合」と検出された場合、Cisco Unified Communications Manager Assistant は、Application CAPF プロファイルを使用して CTI Manager へのセキュアな接続を確立します。セキュアな接続を行うには、「CTI Manager Connection Security Flag」と「CAPF Profile Instance ID for Secure Connection to CTI Manager」の両方のパラメータを設定します。
- 詳細なクラスタ全体のパラメータ
 - Enable Multiple Active Mode : デフォルト値は [False]。このパラメータを [True] に設定した場合、管理者は複数のプールを使用して最大 7000 人のマネージャとアシスタントを設定できます。
 - Pool 2: Cisco IPMA Server (Primary) IP Address : デフォルト値なし。この IP アドレスは、管理者が手動で入力する必要があります。管理者は、このアドレスに最大 2500 人のマネージャとアシスタントを割り当てることができます。
 - Pool 2: Cisco IPMA Server (Backup) IP Address : デフォルト値なし。この IP アドレスは、管理者が手動で入力する必要があります。
 - Pool 3: Cisco IPMA Server (Primary) IP Address : デフォルト値なし。この IP アドレスは、管理者が手動で入力する必要があります。管理者は、このアドレスに最大 2500 人のマネージャとアシスタントを割り当てることができます。



(注) Pool 3: Cisco IPMA Server (Backup) IP Address : デフォルト値なし。この IP アドレスは、管理者が手動で入力する必要があります。同じ Cisco IPMA サーバ IP アドレスが複数のプールに表示されないようにするため、プールごとに一意の IP アドレスを設定してください。

- 各サーバの Cisco IPMA サービス パラメータ
 - CTIManager (Primary) IP Address : デフォルト値なし。コール制御に使用するプライマリ CTIManager の IP アドレスを入力します。
 - CTIManager (Backup) IP Address : デフォルト値なし。この IP アドレスは、管理者が手動で入力する必要があります。
 - Route Point Device Name for Proxy Mode: シェアードライン サポートには適用されません。
 - CAPF Profile Instance Id for Secure Connection to CTIManager : この Cisco Unified Communications Manager Assistant サーバが CTIManager へのセキュアな接続を開くために使用する、アプリケーション ユーザ IPMASecureSysUser 用の Application CAPF プロファイルのインスタンス ID を指定します。CTIManager Connection Security Flag が有効な場合は、このパラメータを設定する必要があります。

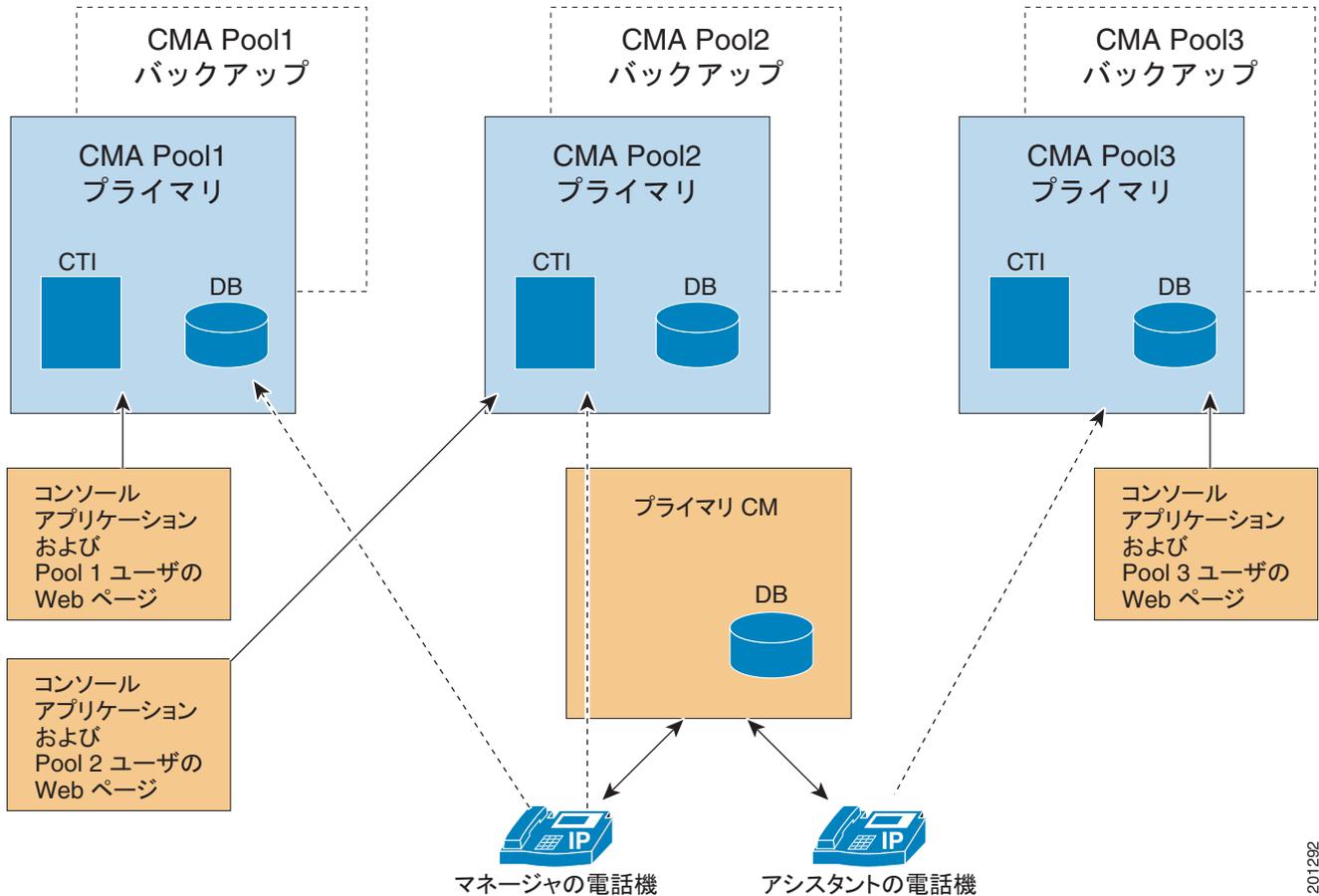
マネージャおよびアシスタントの Cisco Unified Communications Manager Assistant 自動設定を使用する場合、Cisco Unified Communications Manager Assistant には、次に示す設定必須のクラスタ全体のパラメータが含まれます。

- ソフトキー テンプレート用のクラスタ全体のパラメータ
 - Assistant Softkey Template : デフォルトでは、Standard Assistant ソフトキー テンプレートが指定されています。このパラメータはアシスタントの自動設定の間、アシスタントのデバイスに割り当てられたソフトキー テンプレートを指定します。
 - Manager Softkey Template for Proxy Mode : このサービス パラメータは、シェアードライン サポートに適用されません。
 - Manager Softkey Template for Shared Mode : デフォルトでは、Standard Shared Mode Manager が指定されています。このパラメータは、マネージャの自動設定時にマネージャのデバイスに割り当てられた共有モードのソフトキー テンプレートを指定するように設定します。
- IPMA Device Configuration Defaults for Proxy Mode : これらのパラメータは、シェアードライン サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant に適用されません。
- Proxy Directory Number Range for Proxy Mode : これらのパラメータは、シェアードライン サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant に適用されません。
- Proxy Directory Number Prefix for Proxy Mode : これらのパラメータは、シェアードライン サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant に適用されません。

Cisco Unified Communications Manager Assistant のスケーラビリティのための複数サーバの設定

Cisco Unified Communications Manager は、最大 3500 人のマネージャと 3500 人のアシスタント、合計 7000 ユーザをサポートします。7000 のユーザをサポートするには、管理者がサービス パラメータの有効化と設定を行うことにより、複数のアクティブな Cisco IP Manager Assistant サーバを設定する必要があります。管理者は、それぞれ最大 2500 人のマネージャとアシスタントのペアを管理する、最大 3 個のアクティブな Cisco IP Manager Assistant サーバを設定できます。各サーバにバックアップサーバを設置することもできます。詳細サービス パラメータの Enable Multiple Active Mode、Pool 2: Cisco IPMA Server、および Pool3: Cisco IPMA Server を使用して、Cisco IP Manager Assistant サーバを設定します。詳細については、「[Cisco Unified Communications Manager Assistant のサービス パラメータの設定](#)」(P.12-17) を参照してください。図 12-3 を参照してください。

図 12-3 スケーラビリティ アーキテクチャ



201292

1. IPMA サービスをアクティブ化します（「Cisco Unified Communications Manager Assistant のインストールとアクティブ化」(P.12-16) を参照）。
2. 複数アクティブ モードを有効にします（「Cisco Unified Communications Manager Assistant のサービス パラメータの設定」(P.12-17) を参照）。
3. 複数プールの IP アドレスを入力します（「Cisco Unified Communications Manager Assistant のサービス パラメータの設定」(P.12-17) を参照）。
4. [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで、マネージャ/アシスタントにプールを追加します（「シェアドライン モード用のマネージャの設定とアシスタントの割り当て」(P.12-24) を参照）。

移行に関する考慮事項

以前のリリースから Cisco Unified Communications Manager リリース 8.0(2) に移行する場合、すべてのマネージャとアシスタントは Pool 1（デフォルト）に移行されます。

セキュリティに関する考慮事項

Cisco Unified Communications Manager Assistant は、CTI へのセキュアな接続（トランスポート層セキュリティ接続）をサポートしています。

管理者は、[ユーザ管理 (User Management)] > [アプリケーションユーザ CAPF プロファイル (Application User CAPF Profile)] を選択して CAPF プロファイルを（各 Cisco Unified Communications Manager Assistant ノードに 1 つずつ）設定する必要があります。[アプリケーションユーザ CAPF プロファイルの設定 (Application User CAPF Profile Configuration)] ウィンドウで、[アプリケーションユーザ (Application User)] ドロップダウンリストボックスから [IPMASecureSysUser] を選択します。

Cisco Unified Communications Manager Assistant のセキュリティの設定については、「[Cisco Unified Communications Manager Assistant のサービスパラメータの設定](#)」(P.12-17) の CTIManager Connection Security Flag および CAPF Profile Instance Id for Secure Connection to CTIManager サービスパラメータの説明を参照してください。

『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』には、CTI アプリケーション用のセキュリティ設定に関する詳細な手順の説明があります。

Cisco IP Manager Assistant サービスの開始

Cisco IP Manager Assistant サービスは、Cisco Tomcat 上でアプリケーションとして動作します。Cisco IP Manager Assistant サービスを開始または停止するには、Serviceability の [Control Center - Feature Services] ウィンドウを使用します。

マネージャおよびアシスタントの電話機の設定

各 Cisco Unified Communications Manager Assistant マネージャおよびアシスタントにデバイスを設定し、関連付ける必要があります。開始する前に、電話機のタイプに応じて次のタスクを実行します。

Cisco Unified IP Phone 7940、7942、7945、7960、7962、7965、および 7975 (SCCP および SIP)

- Cisco Unified Communications Manager Assistant を使用する各マネージャおよびアシスタントに Cisco Unified IP Phone を追加する。電話機を追加するには、次のいずれかの方法を実行します。
 - 手動 ([デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択)
 - 自動登録
 - BAT
- Standard Assistant または Standard Shared Mode Manager ソフトキー テンプレートを割り当てる。

Cisco Unified IP Phone 7940

Cisco Unified Communications Manager Assistant で Cisco Unified IP Phone 7940 を使用できませんが、一部制限事項が適用されます。

- 次の項目を設定して、マネージャごとに Cisco Unified IP Phone 7940 を追加する。
 - プライマリ回線用とインターコム用の 2 つの回線
 - シェアドライン サポートを持つマネージャ用のソフトキー テンプレート
- 次の項目を設定して、アシスタントごとに Cisco Unified IP Phone 7940 を追加する。
 - プライマリ回線用とインターコム用の 2 つの回線
 - アシスタント用のソフトキー テンプレート



(注) 搭載されている機能が多いため、Cisco Unified IP Phone 7960、7962、7965、および 7975 をお勧めします。



(注) Cisco Unified IP Phone 7940/60 がサポートするのは、Cisco Unified Communications Manager Assistant インターコム機能だけです。

タスクの実行後、次の項で説明されている手順に従って電話機を設定します。

- 「マネージャの電話機」(P.12-22)
- 「アシスタントの電話機」(P.12-23)
- 「マネージャおよびアシスタント以外の電話機」(P.12-23)

マネージャの電話機

この項では、マネージャの電話機を設定するための Cisco Unified Communications Manager Assistant の要件およびヒントについて説明します。

マネージャの電話機の設定

次の設定値で、マネージャの Cisco Unified IP Phone を設定します。

- Standard Shared Mode Manager ソフトキー テンプレート
- プライマリ回線
- シェアドライン サポート用の追加の回線 (オプション)
- プライマリ回線のボイスメール プロファイル
- Cisco Unified IP Phone 7940 または 7960 を除く Cisco Unified IP Phone 7900 シリーズを使用する場合は、インターコム機能の設定
- Cisco Unified IP Phone 7940 または 7960 を使用する場合は、スピーカフォン オプションまたはヘッドセット オプションを使用した自動応答をサポートするための着信インターコム回線の設定
- Cisco Unified IP Phone 7940 または 7960 を使用する場合は、インターコム発信先のスピードダイヤルの設定
- ユーザ ロケール

マネージャを設定するとき [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウの [自動設定 (Automatic Configuration)] チェックボックスをオンにしておくと、設定の一部を自動化できます。手順については、「[シェアドライン モード用のマネージャの設定とアシスタントの割り当て](#)」(P.12-24) を参照してください。

[自動設定 (Automatic Configuration)] は、マネージャ デバイスまたはデバイス プロファイルの次の項目を設定します。

- ソフトキー テンプレート
- インターコム回線用のスピーカフォンを使用した自動応答 (Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 だけに適用)

Cisco Unified Communications Manager Assistant は、Cisco Unified IP Phone 7940 をサポートします。詳細については、「[Cisco Unified IP Phone 7940](#)」(P.12-21) を参照してください。

アシスタントの電話機

この項では、アシスタントの電話機を設定するための要件およびヒントについて説明します。手順については、「[アシスタントのシェアドラインと着信インターコム回線の設定](#)」(P.12-27)を参照してください。

アシスタントの電話機の設定

次の設定値で、アシスタントの Cisco Unified IP Phone を設定します。

- Standard Assistant ソフトキー テンプレート ([リダイレクト] ソフトキーと [VM 転送] ソフトキーが含まれている必要があります)
- デフォルトの 14 ボタン拡張モジュール (オプション)
- プライマリ回線
- 設定済みの各マネージャ用のシェアドライン (同じ電話番号とパーティションをマネージャのプライマリ回線として使用します)
- スピーカフォン オプションまたはヘッドセット オプションを使用した自動応答をサポートするための、着信インターコム回線 (Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 だけに適用)
- 設定済み各マネージャの着信インターコム回線に対するスピードダイヤル (Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 だけに適用)
- ユーザ ロケール

Cisco Unified Communications Manager Assistant は、Cisco Unified IP Phone 7940 をサポートしません。詳細については、「[Cisco Unified IP Phone 7940](#)」(P.12-21)を参照してください。

マネージャおよびアシスタント以外の電話機

マネージャおよびアシスタントのデバイスの設定に加えて、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内のその他すべてのユーザも設定します。適切に設定することで、マネージャおよびアシスタントが、クラスタ内のその他すべてのユーザとの間でコールを発着信できるようになります。

マネージャおよびアシスタントの設定

Cisco Unified Communications Manager の [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで、Cisco Unified Communications Manager Assistant 機能を使用するマネージャおよびアシスタントの設定値を設定します。このウィンドウでは、次の機能を実行します。

- マネージャおよびアシスタントのデバイスを選択する。
- 必要に応じて、マネージャまたはアシスタントのデバイスを自動設定する。
- [マネージャの設定 (Manager Configuration)] ウィンドウまたは [アシスタントの設定 (Assistant Configuration)] ウィンドウ ([エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウからアクセス) で、次の設定値を設定する。
 - プライマリ回線、およびインターコム機能用の着信インターコム回線を設定する。たとえば、マネージャのインターコム回線の内線は 3102 です。この回線は、アシスタントからのインターコム コールを受信します。コンソールには、アシスタントの回線 1 (1102) と回線 2 (1103) が表示されています。アシスタントは、これらの回線に応答しません。



(注) 選択するインターコム回線は、Cisco Unified Communications Manager のインターコム機能 (Cisco Unified IP Phone 7942、7945、7962、7965、および 7975 だけに適用)、またはスピードダイヤル (Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 だけに適用) を使用して作成したものになります。

- マネージャのアシスタントを設定する。



(注) マネージャおよびアシスタントのシェアードラインを設定すると (Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウを使用)、アシスタントの設定は適切に更新されます。

- [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウの表示で使用する言語を選択する。次の項では、マネージャとアシスタントの設定について詳しく説明します。
- 「シェアードライン モード用のマネージャの設定とアシスタントの割り当て」 (P.12-24)
- 「マネージャの Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報の削除」 (P.12-26)
- 「アシスタントの Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報の削除」 (P.12-29)
- 「アシスタントのシェアードラインと着信インターコム回線の設定」 (P.12-27)
- 「インターコム」 (P.28-1)

シェアードライン モード用のマネージャの設定とアシスタントの割り当て

Cisco Unified Communications Manager Assistant マネージャを設定し、マネージャにアシスタントを割り当てるには、次の手順を実行します。新しいユーザの設定およびそのユーザへのデバイスの関連付けについては、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザの設定値」を参照してください。マネージャのプライマリ回線とアシスタントのセカンダリ回線で同じ電話番号を設定する方法については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話番号の設定」を参照してください。



ヒント

アシスタントの Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報を設定する前に、マネージャの情報を設定してください。

手順

- ステップ 1** マネージャを設定し、既存のユーザにアシスタントを割り当てるには、[ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] を選択します。[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウで、[検索 (Find)] ボタンをクリックします。このウィンドウには、Cisco Unified Communications Manager で設定されているすべてのエンドユーザが表示されます。
- ステップ 2** 選択されたマネージャのユーザ情報を表示するには、ユーザ名をクリックします。[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** マネージャの Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報を設定するには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスから [マネージャの設定 (Manager Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

ステップ 4 [マネージャの設定 (Manager Configuration)] ウィンドウが開き、マネージャ情報、アシスタント情報、および制御回線情報が表示されます。

ステップ 5 ソフトキー テンプレート、およびマネージャの電話機用のインターコム回線用スピーカフォンを使用した自動応答を、Cisco IP Manager Assistant サービス パラメータに基づいて自動的に設定するには、[自動設定 (Automatic Configuration)] チェックボックスをオンにします。



(注) インターコムの自動設定が適用されるのは、Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 で Cisco Unified Communications Manager Assistant インターコム機能を使用している場合だけです。

ステップ 6 [シェアードラインの使用 (Uses Shared Lines)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 7 [デバイス名 / プロファイル (Device Name/Profile)] ドロップダウン リスト ボックスで、マネージャに関連付けるデバイス名またはデバイス プロファイルを選択します (エクステンション モビリティでは、デバイス プロファイルを利用できます)。Cisco Unified Communications Manager Assistant での Cisco エクステンション モビリティの使用については、「[エクステンション モビリティ](#)」(P.12-13) を参照してください。



(注) マネージャが在宅勤務をする場合は、[エクステンションモビリティを使用 (Mobile Manager)] チェックボックスをオンにし、必要に応じてデバイス プロファイルを選択します。デバイス プロファイルを選択した場合、マネージャは Cisco Unified Communications Manager Assistant にアクセスする前に、エクステンション モビリティを使用して電話機にログインする必要があります。

ステップ 8 必要に応じて、[インターコム回線 (Intercom Line)] ドロップダウン リスト ボックスで、マネージャのインターコム ライン アピラランスを選択します。



(注) 選択されたインターコム回線は、Cisco Unified Communications Manager Assistant および Cisco Unified Communications Manager のインターコム機能に適用されます。

ステップ 9 必要に応じて、[アシスタントプール (Assistant Pool)] ドロップダウン リスト ボックスから、適切なプール番号 (1 ~ 3) を選択します。

ステップ 10 アシスタントをマネージャに割り当てるには、[使用可能なアシスタント (Available Assistants)] リストでアシスタントの名前を選択し、下矢印をクリックして、それを [割り当てられているアシスタント (Associated Assistants)] リスト ボックスに移動します。



ヒント アシスタント名を強調表示し、[詳細の表示 (View Details)] リンクをクリックすると、[アシスタントの設定 (Assistant Configuration)] ウィンドウに移動できます。

ステップ 11 Cisco Unified Communications Manager Assistant 制御回線を設定するには、[使用可能な回線 (Available Lines)] リスト ボックスで対象の回線を選択し、下矢印をクリックして、それを [選択されている回線 (Selected Lines)] リスト ボックスに移動します。



(注) 制御回線は常にシェアードラインの電話番号である必要があります。

[選択されている回線 (Selected Lines)] 選択ボックスと Cisco Unified Communications Manager Assistant コントロールから回線を削除する場合は、その回線を強調表示して、上矢印をクリックします。

ステップ 12 [保存 (Save)] ボタンをクリックします。

[自動設定 (Automatic Configuration)] チェックボックスをオンにして、サービス パラメータが無効な場合、メッセージが表示されます。

自動設定に成功すると、マネージャ デバイスがリセットされます。デバイス プロファイルを設定した場合、マネージャはログアウトしてからデバイスにログインして、設定を適用する必要があります。



(注)

名前、ユーザ ロケール、PIN など、Cisco Unified Communications Manager Assistant 以外のユーザ設定が変更された場合、ユーザ (マネージャまたはアシスタント) が Cisco Unified Communications Manager Assistant からログアウトし、もう一度ログインするまで変更内容は反映されません。

追加情報

「関連項目」(P.12-34) を参照してください。

マネージャの Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報の削除

マネージャの Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報を削除するには、次の手順を実行します。マネージャの Cisco Unified Communications Manager Assistant 以外の情報の削除については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[エンドユーザの設定値](#)」を参照してください。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報を削除するマネージャを検索するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] を選択します。
- ステップ 2** [ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウで、[検索 (Find)] ボタンをクリックします。このウィンドウには、Cisco Unified Communications Manager で設定されているすべてのエンドユーザが表示されます。
- ステップ 3** [ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウで、情報を削除するマネージャを選択します。[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスで [マネージャの設定 (Manager Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
選択したユーザの [マネージャの設定 (Manager Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** [削除 (Delete)] ボタンをクリックします。
更新した内容は、すぐに適用されます。

追加情報

「関連項目」(P.12-34) を参照してください。

マネージャの Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定の更新

マネージャの Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報を更新するには、次の手順を実行します。マネージャの Cisco Unified Communications Manager Assistant 以外の情報の更新については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[エンドユーザの設定値](#)」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** 情報を更新するマネージャを検索するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] を選択します。
- ステップ 2** [ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウで、[検索 (Find)] ボタンをクリックします。このウィンドウには、Cisco Unified Communications Manager で設定されているすべてのエンドユーザが表示されます。
- ステップ 3** [ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウで、情報を更新するマネージャを選択します。[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスで [マネージャの設定 (Manager Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
選択したユーザの [マネージャの設定 (Manager Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** デバイス名、制御回線、インターコム ライン アピランクスなど、変更対象の情報を更新します。
- ステップ 6** [保存 (Save)] ボタンをクリックします。
更新した内容は、すぐに適用されます。



- (注) [自動設定 (Automatic Configuration)] チェックボックスをオンにすると、ソフトウェア プレート、およびマネージャの電話機用のインターコム回線用スピーカフォンを使用した自動応答が、Cisco IP Manager Assistant サービス パラメータに基づいて自動的に設定されます。



- (注) 名前、ユーザ ロケール、PIN など、Cisco Unified Communications Manager Assistant 以外のユーザ設定が変更された場合、ユーザ（マネージャまたはアシスタント）が Cisco Unified Communications Manager Assistant からログアウトし、もう一度ログインするまで変更内容は反映されません。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.12-34) を参照してください。

アシスタントのシェアドラインと着信インターコム回線の設定

次の項目を設定するには、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウの [アシスタントの設定 (Assistant Configuration)] を使用します。

- アシスタントの電話機のデバイス名。
- アシスタントがマネージャ宛のコールの応答に使用するインターコム回線（オプション）。
- アシスタントの電話機を関連付けるマネージャのシェアドライン（マネージャとアシスタントが同じ電話番号を共有している場合、これは自動的に実行されます）。

管理者は、1 つ以上の回線をシェアドライン アピアランスで設定できます。Cisco Unified Communications Manager システムは、ある電話番号が同じパーティション内の複数のデバイスに表示される場合、その電話番号をシェアドラインと見なします。

シェアドライン アピアランスでは、たとえば、1 つの電話番号がマネージャの電話機の回線 1 とアシスタントの電話機の回線 2 に表示されるようにシェアドラインを設定することができます。

アシスタントについてマネージャのシェアドライン アピアランスと着信インターコム ライン アピアランスを設定するには、次の手順を実行します。新しいユーザの設定とデバイスの関連付けについては、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[エンドユーザの設定値](#)」を参照してください。



ヒント

アシスタントの Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報を設定する前に、マネージャの情報を設定し、マネージャにアシスタントを割り当てる必要があります。「[シェアドライン モード用のマネージャの設定とアシスタントの割り当て](#)」(P.12-24) を参照してください。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報を設定するアシスタントを検索するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] を選択します。
- ステップ 2** [ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウで、[検索 (Find)] ボタンをクリックします。このウィンドウには、Cisco Unified Communications Manager で設定されているすべてのエンドユーザが表示されます。
- ステップ 3** 選択されたアシスタントのユーザ情報を表示するには、ユーザ名をクリックします。
[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** アシスタントの情報を設定するには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [アシスタントの設定 (Assistant Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
選択したユーザの [アシスタントの設定 (Assistant Configuration)] ウィンドウが表示されます。



(注) [自動設定 (Automatic Configuration)] チェックボックスをオンにすると、システムは Cisco IP Manager Assistant サービス パラメータの設定に基づいて自動的にソフトウェア テンプレートとインターコム回線を設定します。また、システムはインターコム回線用のスピーカフォンを使用した自動応答を設定します。

- ステップ 5** [デバイス名 (Device Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、アシスタントに関連付けるデバイス名を選択します。
- ステップ 6** [インターコム回線 (Intercom Line)] ドロップダウン リスト ボックスで、アシスタントの着信インターコム ライン アピアランスを選択します。
- ステップ 7** [プライマリ回線 (Primary Line)] ドロップダウン リスト ボックスで、アシスタントのプライマリ回線を選択します。
[割り当てられているマネージャ (Associated Managers)] 選択リスト ボックスに、前に設定したマネージャの名前が表示されます。



ヒント 既存のマネージャ設定情報を表示するには、[割り当てられているマネージャ (Associated Managers)] リストにあるマネージャ名を強調表示し、[詳細の表示 (View Details)] リンクをクリックします。[マネージャの設定 (Manager Configuration)] ウィンドウが表示されます。[アシスタントの設定 (Assistant Configuration)] ウィンドウに戻るには、[マネージャの設定 (Manager Configuration)] ウィンドウでアシスタント名を強調表示し、[詳細の表示 (View Details)] リンクをクリックします。

- ステップ 8** マネージャの回線をアシスタントの回線に関連付けるには、[アシスタント回線へのマネージャの割り当て (Manager Association to Assistant Line)] 選択ボックスで次の手順を実行します。
- [使用可能な回線 (Available Lines)] ドロップダウン リスト ボックスで、マネージャの回線に関連付けるアシスタントの回線を選択します。
 - [マネージャ名 (Manager Names)] ドロップダウン リスト ボックスで、アシスタントに関連付ける、設定済みのマネージャ名を選択します。
 - [マネージャの回線 (Manager Lines)] ドロップダウン リスト ボックスで、アシスタントの回線に関連付けるマネージャの回線を選択します。
- ステップ 9** [保存 (Save)] ボタンをクリックします。
- 更新した内容は、すぐに適用されます。自動設定を選択している場合、アシスタント デバイスは自動的にリセットされます。

追加情報

「関連項目」(P.12-34) を参照してください。

アシスタントの Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報の削除

アシスタントの Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報を削除するには、次の手順を実行します。アシスタントの Cisco Unified Communications Manager Assistant 以外の情報の削除については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザの設定値」を参照してください。

手順

- ステップ 1** 情報を削除するアシスタントを検索するには、Cisco Unified Communications Manager の管理 ページで、[ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] を選択します。
- ステップ 2** [ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウで、[検索 (Find)] ボタンをクリックします。このウィンドウには、Cisco Unified Communications Manager で設定されているすべてのエンドユーザが表示されます。
- ステップ 3** [ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウで、情報を削除するアシスタントを選択します。[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスで [アシスタントの設定 (Assistant Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- 選択したユーザの [アシスタントの設定 (Assistant Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** [削除 (Delete)] ボタンをクリックします。
- 更新した内容は、すぐに適用されます。



(注) 名前、ユーザ ロケール、PIN など、Cisco Unified Communications Manager Assistant 以外のユーザ設定が変更された場合、ユーザ（マネージャまたはアシスタント）が Cisco Unified Communications Manager Assistant からログアウトし、もう一度ログインするまで変更内容は反映されません。

追加情報

「関連項目」(P.12-34) を参照してください。

アシスタントの Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定の更新

アシスタントの Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報を更新するには、次の手順を実行します。アシスタントの Cisco Unified Communications Manager Assistant 以外の情報の更新については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザの設定値」を参照してください。

手順

- ステップ 1** 情報を更新するアシスタントを検索するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] を選択します。
- ステップ 2** [ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウで、[検索 (Find)] ボタンをクリックします。このウィンドウには、Cisco Unified Communications Manager で設定されているすべてのエンドユーザが表示されます。
- ステップ 3** [ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウで、情報を更新するアシスタントを選択します。[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスで [アシスタントの設定 (Assistant Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
選択したユーザの [アシスタントの設定 (Assistant Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** デバイス名、インターコム回線、マネージャ関連付け情報など、変更対象の情報を更新します。
- ステップ 6** [保存 (Save)] ボタンをクリックします。
更新した内容は、すぐに適用されます。



(注) 自動設定の実行中、システムは自動的に Cisco IP Manager Assistant サービス パラメータの設定に基づいてソフトキー テンプレートおよびインターコム回線を設定し、インターコム回線用のスピーカフォンの自動応答を設定します。自動設定を使用しない場合は、[自動設定 (Automatic Configuration)] チェックボックスをオフにします。



(注) 名前、ユーザ ロケール、PIN など、Cisco Unified Communications Manager Assistant 以外のユーザ設定が変更された場合、ユーザ（マネージャまたはアシスタント）が Cisco Unified Communications Manager Assistant からログアウトし、もう一度ログインするまで変更内容は反映されません。

追加情報

「関連項目」(P.12-34) を参照してください。

ダイヤル ルール の設定

管理者は、ダイヤル ルール の設定を使用して、ダイヤル ルール の優先順位を追加およびソートできます。Cisco Unified Communications Manager Assistant のダイヤル ルール は、アシスタントがダイヤルする電話番号から自動的に数字を除去したり、電話番号に数字を追加したりします。たとえば、7桁の電話番号の先頭に、外線発信用の数字 9 を自動的に追加します。

次の各項では、アプリケーション ダイヤル ルール の追加情報を示します。

- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[アプリケーション ダイヤル ルール 設定 の設計](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[アプリケーション ダイヤル ルール 設定 のエラー チェック](#)」

Cisco Unified Communications Manager Assistant のマネージャおよびアシスタントへの情報提供

URL にアクセスして、Cisco Unified Communications Manager Assistant の Assistant Console アプリケーションをインストールします。管理者は、「[Assistant Console プラグインのインストール](#)」(P.12-31) に示す URL をアシスタントに通知します。



(注)

Assistant Console アプリケーションのインストールプログラムでは、Microsoft Internet Explorer 7、Internet Explorer 8、Firefox 3.x、および Safari 4.x をサポートしています。

Assistant Console プラグインのインストール

Assistant Console アプリケーションのインストールでは、Internet Explorer 7、Microsoft Internet Explorer 8、Firefox 3.x、および Safari 4.x をサポートしています。アプリケーションは、Windows XP、Windows Vista、または Apple MAC OS X を実行する PC にインストールできます。

以前の 5.x または 6.x バージョンの Assistant Console アプリケーションは、Cisco Unified Communications Manager 7.1 と連携します。ただし、7.1 プラグインをインストールする場合は、その前に、以前の 5.x または 6.x バージョンの Assistant Console アプリケーションをアンインストールする必要があります。

以前のバージョンの Assistant Console アプリケーションは、Windows Vista では動作しません。PC が Windows Vista を実行している場合は、プラグインをインストールしてください。

Cisco Unified CallManager リリース 4.x から Cisco Unified Communications Manager 7.1 へアップグレードしたら、その後に、Assistant Console プラグインをインストールする必要があります。プラグインをインストールする前に、4.x バージョンの Assistant Console アプリケーションをアンインストールする必要があります。

以前のバージョンの Assistant Console アプリケーション (6.0(1)、4.x、または 5.1(3) よりも前の 5.x バージョン) をアンインストールする場合は、[スタート] > [プログラム] > [Cisco Unified CallManager Assistant] から Assistant Console のアンインストールを選択します。

5.1(3) または 6.1(x) の Assistant Console アプリケーションをアンインストールするには、[コントロール パネル] に移動して削除します。



ヒント

Assistant Console アプリケーションが動作するには、C:\Program Files\Cisco\Cisco Unified Communications Manager に JRE1.4.2_05 が存在する必要があります。

Assistant Console アプリケーションをインストールするには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** Assistant Console アプリケーションをインストールする PC から、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを参照し、[アプリケーション (Application)] > [プラグイン (Plugins)] を選択します。
- ステップ 2** Cisco Unified Communications Manager Assistant プラグインの [ダウンロード (Download)] リンクをクリックします。実行ファイルを適切な場所に保存します。
- ステップ 3** 実行ファイルを検索して実行します。



ヒント アプリケーションを Windows Vista PC にインストールする場合、セキュリティ ウィンドウが表示されることがあります。インストールを許可して続行します。

インストール ウィザードが表示されます。

- ステップ 4** [Welcome] ウィンドウで [Next] をクリックします。
- ステップ 5** ライセンス契約書に同意し、[Next] をクリックします。
- ステップ 6** アプリケーションのインストール先となる場所を選択します。インストール先を選択した後、[Next] をクリックします。



ヒント デフォルトでは、アプリケーションは C:\Program Files\Cisco\Unified Communications Manager Assistant Console にインストールされます。

- ステップ 7** アプリケーションをインストールするには、[Next] をクリックします。
インストールが開始します。
- ステップ 8** インストールが完了したら、[Finish] をクリックします。



ヒント Assistant Console を起動するには、デスクトップ アイコンをクリックするか、[スタート] メニューの [プログラム] で、[Cisco Unified Communications Manager Assistant] > [Assistant Console] を選択します。

アシスタントがコンソールにログインする前に、Cisco IP Manager Assistant サービスがアクティブになっている Cisco Unified Communications Manager サーバのポート番号、および IP アドレスまたはホスト名をアシスタントに通知します。アシスタントは、コンソールへの初回ログイン時に、[Cisco Unified Communications Manager Assistant Server のポート] および [Cisco Unified Communications Manager Assistant Server のホスト名または IP アドレス] フィールドに情報を入力する必要があります。

アシスタントがコンソールにログインする前に、コンソールにログインするために必要なユーザ名とパスワードをアシスタントに通知します。

[Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定] ウィンドウの [詳細設定] タブで、Assistant Console のトレースを有効にできます。

Assistant Console ダイアログ オプション

アシスタント コンソールには、次のオプションを含むダイアログが表示されます。

- [インストール先]: Assistant Console ソフトウェアのインストール先となるディレクトリのパス。デフォルトでは、次のパスが指定されます。
c:\Program Files\Cisco\Unified Communications Manager Assistant Console
- [デスクトップショートカットの作成]: デフォルト値は [True]。このパラメータは、アシスタント コンソールでショートカットを作成するかどうかを指定します。
- [スタート]メニューのショートカットの作成]: デフォルト値は [True]。このパラメータによって、[スタート]メニュー ([スタート]>[プログラム]>[Cisco Unified Communications Manager Assistant]>[Assistant Console]) にショートカットを作成するかどうかが決まります。
- [JRE のインストール]: デフォルト値は [True]。このパラメータによって、Unified CM Assistant アシスタント コンソールとともに JRE をインストールするかどうかを指定します。このオプションをオフにする場合は、アシスタント コンソールで次の設定が必要です。
 - アシスタント コンソールへの JRE 1.4.2_05 (国際バージョン) のインストール
 - アシスタント コンソールでの環境変数 Assistant_JRE の作成 (この環境変数は JRE へのパス (たとえば、c:\Program Files\Java\jre1.4.2_05) を示します)

マネージャの設定

マネージャは、次の URL を使用して、[マネージャの設定 (Manager Configuration)] ウィンドウで機能の個人用設定をカスタマイズできます。

https://<Cisco Unified Communications Manager Assistant サーバ>:8443/ma/desktop/maLogin.jsp

変数の意味は、次のとおりです。

Cisco Unified Communications Manager Assistant サーバには、Cisco IP Manager Assistant サービスを実行しているサーバの IP アドレスを指定します。



(注) Manager Configuration では、Microsoft Internet Explorer 6.0 以降のみをサポートしています。

管理者は、この URL をマネージャに通知する必要があります。

追加情報

「関連項目」(P.12-34) を参照してください。

関連項目

- 「シェアドライン サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定チェックリスト」 (P.12-2)
- 「Cisco Unified Communications Manager Assistant の概要」 (P.12-6)
- 「シェアドライン サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant のシステム要件」 (P.12-11)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.12-12)
- 「Cisco Unified Communications Manager Assistant のインストールとアクティブ化」 (P.12-16)
- 「シェアドライン サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定」 (P.12-17)
- 「Cisco Unified Communications Manager Assistant のマネージャおよびアシスタントへの情報提供」 (P.12-31)
- 「プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant」 (P.11-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ソフトキー テンプレート」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「電話番号の概要」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「電話番号の設定」
- 「Cisco IP Manager Assistant サービス」 (P.12-7)
- 「Cisco Unified IP Phone のインターフェイス」 (P.12-9)
- 「マネージャおよびアシスタントの電話機の設定」 (P.12-21)
- 「マネージャおよびアシスタント以外の電話機」 (P.12-23)
- 「シェアドライン モード用のマネージャの設定とアシスタントの割り当て」 (P.12-24)
- 「マネージャの Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報の削除」 (P.12-26)
- 「マネージャの Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定の更新」 (P.12-27)
- 「アシスタントのシェアドラインと着信インターコム回線の設定」 (P.12-27)
- 「アシスタントの Cisco Unified Communications Manager Assistant 情報の削除」 (P.12-29)
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「エンドユーザの設定値」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「エンドユーザとデバイスとの関連付け」
- 「インターコム」 (P.28-1)

参考資料

- 『Cisco Unified Communications Manager Assistant User Guide』
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』
- 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』
- 『Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting Administration Guide』
- 『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド』
- 『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』



CHAPTER 13

Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant

Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant は、発信者が電話受付係と話をせずに組織内の人物を検索できる、シンプルな自動アテンダントです。発信者に対して再生されるプロンプトはカスタマイズできますが、このソフトウェアが発信者と対話する方法はカスタマイズできません。

Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant は、Cisco Unified Communications Manager 5 agent Cisco Unified Contact Center Express Bundle にある Cisco Unified Communications Manager とセットで販売されています。

この章では、Cisco Customer Response Solutions (CRS) 5.0 上で動作する Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant について説明します。



(注) Cisco Unified Communications Manager でサポートされる Cisco CRS のバージョンについては、次の URL を参照してください。

<http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/systems/unified/iptmtrix.htm>

Cisco Customer Response Solutions のマニュアルを入手するには、次の URL を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/custcosw/ps1846/products_installation_and_configuration_guides_list.html

Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant を理解、インストール、設定、および管理するには、次のトピックを参照してください。

- 「Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant の設定チェックリスト」 (P.13-2)
- 「Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant について」 (P.13-3)
- 「Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant のインストール」 (P.13-5)
- 「Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant および Cisco CRS Engine の設定」 (P.13-6)
- 「Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant の管理」 (P.13-6)
- 「関連項目」 (P.13-7)

Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant の設定チェックリスト

Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant は、発信者が電話受付係と話をせずに組織内の人物を検索できる、シンプルな自動アテンダントです。発信者に対して再生されるプロンプトはカスタマイズできますが、このソフトウェアが発信者と対話する方法はカスタマイズできません。

Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant は、Cisco Unified Communications Manager 5 agent Cisco Unified Contact Center Express Bundle にある Cisco Unified Communications Manager とセットで販売されています。

表 13-1 に、Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant を設定する手順を示します。Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant の詳細については、「[Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant について](#)」(P.13-3) および「[関連項目](#)」(P.13-7) を参照してください。

表 13-1 Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant の設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager をインストールして設定します。	『 <i>Installing Cisco Unified Communications Manager Release 8.5(1)</i> 』 『 <i>Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド</i> 』 『 <i>Cisco Unified Communications Manager システムガイド</i> 』
ステップ 2 Cisco Unified Communications Manager のユーザを設定します。	『 <i>Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド</i> 』の「 エンドユーザの設定値 」
ステップ 3 Cisco Customer Response Solutions (CRS) Engine を設定します。Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant を使用するには、Cisco CRS をインストールして設定しておく必要があります。Cisco CRS Engine は、ソフトウェア、およびソフトウェアからテレフォニー システムへの接続を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> • 必要に応じて、クラスタを設定する。 • サーバを設定する。 • Unified CM テレフォニー コール制御グループを追加する。 • Cisco Media Termination サブシステムをプロビジョニングする。 • 新しい Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant を追加する。 • Unified CM テレフォニー トリガーを設定する。 	これらの手順は、次に示す Cisco CRS のマニュアルで説明されています。 『 <i>Cisco Customer Response Solutions Administration Guide, Release 5.0(1)</i> 』 『 <i>Cisco Customer Response Solutions Installation Guide</i> 』

表 13-1 Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant の設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
<p>ステップ 4 Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant をカスタマイズして、Auto-Attendant のプロンプトを自動アテンダントの使用状況に適したものにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant のインスタンスを変更する。 • Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant プロンプトを設定する。 <ul style="list-style-type: none"> - ウェルカム プロンプトの録音 - ウェルカム プロンプトの設定 - 音声名のアップロード 	<p>これらの手順は、次に示す Cisco CRS のマニュアルで説明されています。</p> <p>『Cisco Customer Response Solutions Administration Guide, Release 5.0(1)』</p>

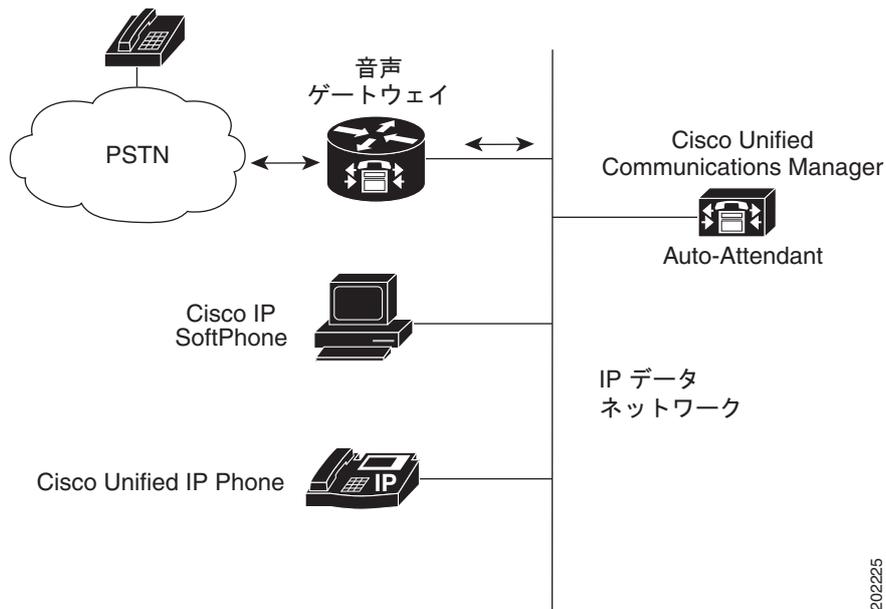
Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant について

Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant は、Cisco Unified Communications Manager と連携して、特定の電話内線宛のコールを受信します (図 13-1 を参照)。発信者と対話して、発信者が組織内の通話相手の内線番号を検索し、選択できるようにします。

次の項では、Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant について説明します。

- 「Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant の概要」 (P.13-4)
- 「Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant のコンポーネント」 (P.13-4)

図 13-1 Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant の使用



20225

Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant の概要

Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant は、次の機能を提供します。

- コールに応答する。
- ユーザが設定可能なウェルカム プロンプトを再生する。
- 発信者に対して、次の 3 つのアクションのいずれかを実行するように求めるメインメニュー プロンプトを再生する。
 - 0 を押してオペレータを呼び出す。
 - 1 を押して内線番号を入力する。
 - 2 を押して名前を入力する。
- 発信者が名前入力を選択した (2 を押した) 場合は、発信者の入力した文字と、利用可能な内線番号に対して設定されている名前を比較する。
 - 一致する名前が存在する場合は、一致したユーザに転送することを通知する。発信者は、転送を停止するには 2 秒以内にいずれかの DTMF キーを押します。発信者が転送を停止しない場合、システムは明示的な確認処理を実行します。ユーザに対して、名前を確認するように求め、コールをユーザのプライマリ内線に転送します。
 - 一致する名前が複数存在する場合は、発信者に対して、正しい内線を選択するように求める。
 - 一致する名前が多数存在する場合は、発信者に対して、さらに文字を入力するように求める。
- 発信者が宛先を指定し終わったら、コールを転送する。
 - 回線がビジーになっている場合またはインサービスでない場合は、発信者に状況を通知し、メインメニュー プロンプトをもう一度再生する。

追加情報

「関連項目」(P.13-7) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant のコンポーネント

Cisco Customer Response Solutions (CRS) Platform は、Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant の実行に必要なコンポーネントを提供します。このプラットフォームは、IP 対応のマルチメディア (音声 / データ / Web) カスタマー ケア アプリケーション環境を提供します。



(注)

Cisco CRS は、Cisco CRS プラットフォーム上の製品である Cisco Unified Contact Center Express と Cisco Unified IP IVR の名前販売されています。

Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant は、Cisco CRS Platform の 3 つの主要コンポーネントを利用しています。

- ゲートウェイ : Unified Communications ネットワークを Public Switched Telephone Network (PSTN; 公衆電話交換網) およびその他の構内電話システム (Public Branch Exchange (PBX; 構内交換機) など) に接続します。ゲートウェイは、別途購入する必要があります。

- Cisco Unified Communications Manager サーバ：IP Phone の実装、ゲートウェイの管理、電話システムに対するフェールオーバー サービスと冗長化サービスの提供、および Voice over IP トラフィックの Cisco CRS システムへの送信に必要な機能を備えています。Cisco Unified Communications Manager は、別途購入する必要があります。
- Cisco CRS Server：Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant を実行する Cisco CRS Engine を備えています。Cisco CRS Server と Cisco CRS Engine は Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant のパッケージに含まれています。

Cisco CRS Platform の詳細については、次の URL を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/custcosw/ps1846/products_installation_and_configuration_guides_list.html

追加情報

「関連項目」(P.13-7) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant のシステム要件

Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant が動作するには、次のソフトウェア コンポーネントが必要です。

- Cisco Unified Communications Manager
- Cisco CRS Release 5.0

Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant は、Cisco Media Convergence Server (Cisco MCS) プラットフォームまたはシスコ認定サーバ上で動作します。

次に示すシスコ製品のマニュアルを参照してください。

- Cisco Unified Communications Manager のインストール マニュアル
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_installation_guides_list.html
- Cisco CRS のマニュアル
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/custcosw/ps1846/products_installation_and_configuration_guides_list.html

Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant のインストール

インストールの必要はありません。Auto-Attendant は、標準で 5 Seat Bundle とセットで販売されています。詳細については、『*Cisco Customer Response Solutions Administration Guide, Release 5.0(1)*』および『*Cisco Customer Response Solutions Installation Guide*』を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.13-7) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant および Cisco CRS Engine の設定

Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant の設定方法については、「[Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant の設定チェックリスト](#)」(P.13-2) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant の管理

Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant を管理するには、Cisco CRS Administration を使用します。このインターフェイスを利用して次のタスクを実行する方法については、オンラインヘルプを参照してください。表 13-2 に、管理タスクを示します。

表 13-2 Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant の管理

タスク	目的	コマンド (Cisco CRS Administration のメイン ウィンドウ内)
Cisco CRS Engine の起動と停止	自動アテンダントを機能させるには、このエンジンを実行する必要があります。エンジンを停止して再起動すると、問題の解決やトラブルシューティングに役立ちます。	[System] > [Control Center] を選択し、左側のメニューで [Cisco CRS Engine] をクリックします。表示されるリストで、「CRS Engine」を探します。[Status] カラムが右向きの三角形のボタンになっている場合、そのエンジンは動作しています。 このカラムに四角形が表示されている場合、エンジンは動作していません。エンジンを再起動するには、「CRS Engine」の横のオプション ボタンをクリックし、[Restart] をクリックします。 動作しているエンジンを停止する場合は、「CRS Engine」の横のオプション ボタンをクリックし、[Stop] をクリックします。
Cisco CRS Engine の設定の変更	問題を解決するために、エンジンの設定を変更します。	[System] > [System Parameters] を選択します。
トレース ファイルの設定	トラブルシューティング情報を収集するためのトレース ファイルを設定します。	[System] > [Tracing] を選択し、[Trace File Configuration] をクリックします。詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
トレース ファイルの表示	トレース ファイルを表示して、トレース結果を参照します。	[System] > [Control Center] を選択し、サーバ名をクリックします。[Server Traces] リンクをクリックします。作成したトレース ファイルを選択してください。
リアルタイムのパフォーマンス監視	リアルタイム レポート モニタをインストールすると、実行されているシステムのパフォーマンスを監視できます。	[Tools] > [Real-Time Reporting] を選択します。Real Time Reporting の使用方法については、オンラインヘルプを参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.13-7) を参照してください。

関連項目

- 「Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant の設定チェックリスト」 (P.13-2)
- 「Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant について」 (P.13-3)
- 「Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant の概要」 (P.13-4)
- 「Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant のコンポーネント」 (P.13-4)
- 「Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant のシステム要件」 (P.13-5)
- 「Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant のインストール」 (P.13-5)
- 「Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant および Cisco CRS Engine の設定」 (P.13-6)
- 「Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant の管理」 (P.13-6)



CHAPTER 14

Cisco Unified Mobility

Cisco Unified Mobility は、Cisco Unified Communications Manager の豊富なコール制御機能を外勤職員の主要な職場にある机上の電話機から職員が自ら選択したロケーションまたはデバイスへと拡大します。

たとえば、Cisco Unified Mobility は、ユーザの携帯電話番号をユーザの業務用 IP Phone の番号に関連付けます。その後、Cisco Unified Mobility は着信コールを転送して、ユーザの携帯電話と業務用電話を呼び出します。この結果、発信者の電話番号は 1 つだけユーザの元に到着します。すべての指定デバイスで応答されなかったコールは、(モバイル ボイスメールボックスではなく) ユーザの企業用ボイスメールボックスにリダイレクトされます。

管理者は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用してエンド ユーザ向けの設定を行うことで、Cisco Unified Mobility (旧名称 Cisco Unified MobilityManager) を設定できます。エンド ユーザは、Cisco Unified CM のユーザ オプションのウィンドウを使用して、独自の設定を行うことができます。

Cisco Unified Mobility は、この章で説明する多くの機能で構成されています。この章では、管理者が従うべき設定手順の概要について説明します。

エンド ユーザが Cisco Unified CM のユーザ オプションのウィンドウを使用して電話機の Cisco Unified Mobility 設定を行う際の手順については、特定の Cisco Unified IP Phone モデル向けユーザ ガイドを参照してください。



(注)

Cisco Unified Mobility に関連する機能や Cisco Unified Mobility Advantage および Cisco Unified Mobile Communicator の追加設定を必要とする機能の説明および設定については、「[Cisco Unified Mobility Advantage と Cisco Unified Mobile Communicator の統合](#)」の章を参照してください。この章では、Cisco Unified Mobility Advantage および Cisco Unified Mobile Communicator の設定が説明されている他のマニュアルについても記載しています。

この章は、次の内容で構成されています。

- 「[Cisco Unified Mobility の設定チェックリスト](#)」 (P.14-3)
- 「[Cisco Unified Mobility の概要](#)」 (P.14-5)
 - 「[定義](#)」 (P.14-5)
 - 「[Cisco Unified Mobility 機能のリスト](#)」 (P.14-7)
 - 「[Cisco Unified Mobility 機能のその他の利点](#)」 (P.14-9)
 - 「[モバイル コネクト](#)」 (P.14-9)
 - 「[デスクトップ コール ピックアップ](#)」 (P.14-12)
 - 「[携帯電話へのコールの送信](#)」 (P.14-12)

- 「モバイル ボイス アクセス」 (P.14-13)
- 「DTMF でのコール中のエンタープライズ機能アクセスのサポート」 (P.14-14)
- 「2 段階ダイヤリング」 (P.14-14)
- 「Time-of-Day アクセス」 (P.14-14)
- 「DTMF を介したダイレクト コール パーク」 (P.14-17)
- 「SIP URI ダイアル」 (P.14-19)
- 「インテリジェントセッション制御」 (P.14-20)
- 「セッションハンドオフ」 (P.14-22)
- 「Cisco Unified Mobility 機能の使用例」 (P.14-24)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.14-32)
 - 「インタラクション」 (P.14-32)
 - 「制限事項」 (P.14-34)
- 「システム要件」 (P.14-39)
- 「Cisco Unified MobilityManager からの移行」 (P.14-40)
- 「Cisco Unified Mobility の設定」 (P.14-40)
 - 「アクセス リストの設定」 (P.14-41)
 - 「リモート接続先プロファイルの設定」 (P.14-44)
 - 「リモート接続先の設定」 (P.14-50)
 - 「モバイル ボイス アクセスの電話番号の設定」 (P.14-56)
 - 「エンタープライズ機能アクセス用のゲートウェイの設定」 (P.14-58)
 - 「エンタープライズ機能アクセス 2 段階ダイヤリング」 (P.14-62)
 - 「モビリティ エンタープライズ機能設定」 (P.14-64)
 - 「ハンドオフ モビリティ設定」 (P.14-65)
 - 「[モビリティプロファイル設定 (Mobility Profile Configuration)]」 (P.14-66)
 - 「モビリティ ソフトキーの設定」 (P.14-69)
- 「関連項目」 (P.14-70)

Cisco Unified Mobility の設定チェックリスト

Cisco Unified Mobility を使用すると、Cisco Unified Communications Manager からの着信 IP コールを、携帯電話など最大 10 種類の指定クライアントデバイスにリダイレクトできます。Cisco Unified Mobility の機能の詳細については、「[Cisco Unified Mobility 機能のリスト](#)」(P.14-7) を参照してください。

表 14-1 では、Cisco Unified Mobility を設定する手順を要約しています。手順の詳細については、表に示されている章と項を参照してください。また、「[関連項目](#)」(P.14-70) も参照してください。

表 14-1 Cisco Unified Mobility の設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 Cisco Unified サービスアビリティで Cisco Unified Mobile Voice Access サービスをアクティブにします。このサービスは、クラスタの最初のノード上でアクティブにする必要があります。	サービスのアクティブ化については、『 <i>Cisco Unified Serviceability Administration Guide</i> 』を参照してください。
ステップ 2 ユーザアカウントを設定します。 (注) [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ページで、[モビリティの有効化 (Enable Mobility)] チェックボックスおよび [モバイルボイスアクセスの有効化 (Enable Mobile Voice Access)] チェックボックスがオンになっていることを確認してください。 (注) [モビリティの有効化 (Enable Mobility)] チェックボックスをオンにすると、User Connect License (UCL) に対するトリガーが発生し、モバイルコネクタ用のライセンスが提供されます。	『 <i>Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド</i> 』の「 エンドユーザの設定 」ライセンスの機能とモバイルコネクタの連携については、「 Cisco Unified Mobility のライセンス 」を参照してください。
ステップ 3 各アクセスリストをモバイルコネクタユーザに割り当て、リストを許可するか拒否するかを指定することによって、モバイルコネクタ用のアクセスリストを作成します。	「 アクセスリストの設定 」(P.14-41)
ステップ 4 リモート接続先プロファイルを作成し、各ユーザをプロファイルに割り当てます。	「 リモート接続先プロファイルの設定 」(P.14-44)
ステップ 5 ユーザのデスクトップの Directory Number (DN; 電話番号) を関連付けます。	「 電話番号とリモート接続先プロファイルの関連付け 」(P.14-49)
ステップ 6 すでに定義したプロファイルを設定の一部として選択することで、リモート接続先を追加します。	「 リモート接続先の設定 」(P.14-50)

Cisco Unified Mobility の設定チェックリスト

表 14-1 Cisco Unified Mobility の設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 7 [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、次の作業を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> [Enable Mobile Voice Access] に対して [True] を選択し、Mobile Voice Access (MVA; モバイルボイスアクセス) 番号を入力します。この番号は、エンドユーザがモバイルボイスアクセスに到達するために使用する Direct Inward Dialing (DID; ダイヤルイン) 番号です。 (注) モバイルボイスアクセスコールを発信するには、これらのサービスパラメータを設定し、さらに [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで [モバイルボイスアクセスの有効化 (Enable Mobile Voice Access)] チェックボックスをオンにする必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> [Enable Enterprise Feature Access] に対して [True] を選択し、リモート接続先からの保留、再開、転送、および会議機能を有効にします。 	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サービスパラメータの設定」
ステップ 8 モバイルボイスアクセス用の電話番号を設定します。	「モバイルボイスアクセスの電話番号の設定」 (P.14-56)
ステップ 9 代替策として、サービスパラメータおよび Enterprise Feature Access (EFA; エンタープライズ機能アクセス) DID 電話番号を設定することにより、エンタープライズ機能アクセス 2 段階ダイヤリング (別名: エンタープライズ機能アクセス) を設定します。 (注) エンタープライズ機能アクセスはモバイルボイスアクセスと同じ機能を提供しますが、Interactive Voice Response (IVR; 対話型音声応答) コンポーネントはサポートしていません。また、エンタープライズ機能アクセスでは、H.323 ゲートウェイの設定も VoiceXML (VXML) の設定も必要ありません。	「エンタープライズ機能アクセス 2 段階ダイヤリング」 (P.14-62)
ステップ 10 デュアルモードフォンのハンドオフに対してモビリティを設定します。	「ハンドオフモビリティ設定項目」 (P.14-65)
ステップ 11 モバイルコネクトを使用する電話機ユーザ向けにモビリティソフトキーを設定します。	「モビリティソフトキーの設定」 (P.14-69)
ステップ 12 ユーザ向けに Time-of-Day アクセスを設定します。これを行うには、[リモート接続先の設定 (Remote Destination Configuration)] ウィンドウの [モバイルコネクトが有効になっている場合 (When Mobile Connect is Enabled)] ペインにある各フィールドを使用します。	「リモート接続先の設定」 (P.14-50)

Cisco Unified Mobility の概要

管理者は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して、エンド ユーザ向けの Cisco Unified Mobility の基本設定を行います。

この項では、次のトピックについて説明します。

- 「定義」 (P.14-5)
- 「Cisco Unified Mobility 機能のリスト」 (P.14-7)
- 「Cisco Unified Mobility 機能のその他の利点」 (P.14-9)
- 「モバイル コネクト」 (P.14-9)
- 「デスクトップ コール ピックアップ」 (P.14-12)
- 「携帯電話へのコールの送信」 (P.14-12)
- 「モバイル ボイス アクセス」 (P.14-13)
- 「DTMF でのコール中のエンタープライズ機能アクセスのサポート」 (P.14-14)
- 「2 段階ダイヤリング」 (P.14-14)
- 「Time-of-Day アクセス」 (P.14-14)
- 「DTMF を介したダイレクト コール パーク」 (P.14-17)
- 「SIP URI ダイヤル」 (P.14-19)
- 「インテリジェント セッション制御」 (P.14-20)
- 「セッション ハンドオフ」 (P.14-22)
- 「Cisco Unified Mobility 機能の使用例」 (P.14-24)

追加情報

「関連項目」 (P.14-70) を参照してください。

定義

表 14-2 は、Cisco Unified Mobility に関連する用語の定義を示しています。

表 14-2 定義

用語	定義
アクセス リスト	リモート接続先への送信が許可またはブロックされている電話番号を指定したリスト。
セッションハンドオフ	単一のユーザに関連付けられているさまざまな Unified Communications クライアント間で音声、ビデオ、会議などのセッション/会話を転送すること。 セッションハンドオフのタイプ ツータッチ セッション ハンドオフ：このタイプでは、Unified Communications クライアントのプロキシミティ検出ロジックが使用されません。同じユーザに割り当てられたすべてのデバイスで呼び出し音が鳴り、そのうち最初に受け入れたデバイスがコールを受信します。

表 14-2 定義 (続き)

用語	定義
エンタープライズ機能アクセス	<p>ユーザがリモート接続先からコール中の機能 (保留、復帰、転送、会議、ダイレクト コール パーク)、2 段階ダイヤリング、およびモバイル コネクトのアクティブ化および非アクティブ化にアクセスできるようにする機能。</p> <p>この方法では、ユーザはキーパッド入力を要求されることはありませんが、必要なキー シーケンスを認識しておく必要があります。</p>
モバイル コネクト	<p>ユーザが机上の電話機またはリモート接続先で着信コールに応答すること、および接続を中断せずに進行中のコールを机上の電話機またはリモート接続先で取得することを可能にする機能。</p>
モバイル ボイス アクセス	<p>企業を介した 2 段階ダイヤル コールを開始するため、およびモバイル コネクト機能をアクティブまたは非アクティブにするために使用される対話型音声応答 (IVR) システム。</p>
リモート接続先	<p>モバイル コネクトの応答およびピックアップに使用できる電話機、およびモバイル ボイス アクセスや 2 段階ダイヤリング用のエンタープライズ機能アクセスを利用できる電話機。リモート接続先には、次のいずれかのデバイスが含まれる場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • シングル モードの携帯電話 • スマートフォン • デュアル モードフォン • 机上の電話機とは別のクラスタにある企業の IP Phone • Public Switched Telephone Network (PSTN; 公衆電話交換網) における自宅の電話番号
リモート接続先プロファイル	<p>ユーザのリモート接続先すべてに適用されるパラメータの集合。</p>
Time-of-Day アクセス	<p>呼び出しスケジュールをアクセス リストに関連付け、コールが受信された時刻にそのコールがリモート接続先に送達されるかどうかを決定する機能。</p>
トースト	<p>ユーザ入力が必要なポップアップ表示。</p>

追加情報

「[関連項目](#)」 (P.14-70) を参照してください。

Cisco Unified Mobility 機能のリスト

この項では、管理者が Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して設定する、Cisco Unified Mobility 機能のリストを示します。

次に示す機能は、元々は Cisco Unified MobilityManager の一部でしたが、現在は Cisco Unified Communications Manager の機能となっています。

- **モバイル コネクト**：この機能を使用すると、ユーザは 1 つの電話番号を使用して業務上のコールを管理し、進行中のコールを机上の電話機と携帯電話で取得できます。詳細については、「[モバイル コネクト](#)」(P.14-9) を参照してください。
- **デスクトップ コール ピックアップ**：ユーザはアクティブなコールの接続中に、接続を中断せずに机上の電話機と携帯電話を切り替えることができます。使用時のニーズに応じて、オフィスの有線電話の信頼性、または携帯電話の機動性を利用できます。詳細については、「[デスクトップ コール ピックアップ](#)」(P.14-12) を参照してください。
- **携帯電話へのコールの送信**：ユーザはモビリティ ソフトキーを使用して IP Phone でこの機能にアクセスします。この機能を使用すると、リモート接続先でのピックアップがトリガーされ、ユーザはアクティブなモビリティ コールをユーザの机上の電話機から設定済みのリモート接続先の電話機に移送できるようになります。詳細については、「[携帯電話へのコールの送信](#)」(P.14-12) を参照してください。
- **モバイル ボイス アクセス**：この機能を使用すると、モバイル コネクト機能が拡張され、対話型音声応答 (IVR) システムを使用して企業を介した 2 段階ダイアル コールを開始したり、モバイル コネクト機能をアクティブまたは非アクティブにしたりすることができます。詳細については、「[モバイル ボイス アクセス](#)」(P.14-13) を参照してください。
- **アクセス リスト**：ユーザは、指定されたリモート接続先で着信コールの呼び出し音が鳴るようにする発信者のグループを制限できます (許可アクセス リスト)。一方、リモート接続先で着信コールの呼び出し音が鳴らないようにする発信者のグループを制限することもできます (拒否アクセス リスト)。各リモート接続先は、ユーザの机上の電話機からの転送を受け入れるように設定可能な携帯電話またはその他の電話機です。

Cisco Unified Communications Manager は、次の Cisco Unified Mobility 機能をサポートしています。

- **Dual Tone MultiFrequency (DTMF) でのコール中のエンタープライズ機能アクセスのサポート**：次の DTMF 機能のコードをサービス パラメータとして設定できます。企業保留 (デフォルトは *81)、企業排他保留 (デフォルトは *82)、復帰 (デフォルトは *83)、転送 (デフォルトは *84)、および会議 (デフォルトは *85)。詳細については、「[DTMF でのコール中のエンタープライズ機能アクセスのサポート](#)」(P.14-14) を参照してください。



(注) *81 は企業保留を指定します。企業保留が呼び出されると、ユーザは机上の電話機でコールを再開できます。*82 は企業排他保留を指定します。企業排他保留が呼び出されると、机上の電話機ではコールを再開できません。企業保留になっているモビリティ コールがこの状態で切断された場合、ユーザは机上の電話機でコールを再開できます。一方、企業排他保留になっているモビリティ コールがこの状態で切断された場合、ユーザは机上の電話機でコールを再開できません。

- **2 段階ダイヤリング**：スマートフォンの 2 段階ダイヤリングでエンタープライズ機能を利用できます。2 段階ダイヤリングを使用すると、スマートフォンがビジネス モードの場合に、スマートフォンのコールを Cisco Unified Communications Manager から発信できるようになります。スマートフォンは、Cisco Unified Communications Manager のエンタープライズ機能アクセス番号をダイヤルしてから、接続先番号をダイヤルします。詳細については、「[2 段階ダイヤリング](#)」(P.14-14) を参照してください。

- デュアル モード フォンのサポート：Cisco Unified Mobility はデュアル モード フォンをサポートします。
- デュアル モード フォンでのコールの手動ハンドオフ：デュアル モード デバイスには、PSTN から Wireless LAN (WLAN; 無線 LAN) に (またはその逆に) コールを手動で渡すオプションが用意されています。
- Time-of-Day アクセス：モバイル コネクト機能が有効なときに、関連付けられた電話番号が時刻アクセスベースの設定に基づいてコールされた場合、コールはリモート接続先に送達されます。詳細については、「[Time-of-Day アクセス](#)」(P.14-14) を参照してください。
- DTMF を介したダイレクト コール パーク：この機能を携帯電話ユーザが使用すると、パークされる側をパーク コードに転送することによってコールをパークできるようになるため、コールを後で取得できます。この機能は、標準の Cisco Unified Communications Manager ダイレクト コール パーク機能と DTMF 機能を組み合わせたものです。DTMF 機能を介したダイレクト コール パークのサポートでは、コール中のエンタープライズ転送機能を利用します。詳細については、「[DTMF を介したダイレクト コール パーク](#)」(P.14-17) を参照してください。
- Session Initiation Protocol (SIP) Universal Resource Identifier (URI) ダイアル：この機能は、Cisco Unified Mobility のリモート接続先の追加タイプとして SIP URI をサポートします。詳細については、「[SIP URI ダイアル](#)」(P.14-19) を参照してください。
- インテリジェント セッション制御：この機能は、企業から携帯電話に直接発信されたコールの動作を変更し、そのようなコールをユーザの机上の電話機の番号にアンカーします (この機能を実装する前は、企業ユーザが携帯電話に直接コールを発信した場合、そのコールは通常の発信 PSTN コールのように扱われていました。つまり、コールは携帯電話にだけ送信され、ユーザの机上の電話機にアンカーされず、モバイル ユーザはモビリティ機能と呼び出すことができませんでした)。このようなコールの間、ユーザは携帯電話からコール中機能やセッションハンドオフなどのモビリティ機能と呼び出すことができます。詳細については、「[インテリジェント セッション制御](#)」(P.14-20) を参照してください。
- セッションハンドオフ：この機能は、(ソフトフォンモードと CTI 制御モードでの PC 上で実行される) Cisco Unified Personal Communicator、(携帯電話で実行される) Cisco Unified Mobile Communicator、Cisco Unified IP Phone シリーズ 9900 電話機、SIP を実行している従来の電話機など、さまざまな Unified Communications クライアント間で音声、ビデオ、会議のセッションや会話を移動することによって、Cisco Unified Communications Manager でこれまでの作業内容を引き続き利用できるようにします。

会話は、携帯電話からそれ以外の Unified Communications クライアントに移動できます。ユーザが所有し、同じ回線を共有するすべてのデバイスで呼び出し音が鳴るか、またはトーストが表示されます。このうち最初に受け入れたデバイスがコールに応答します。コールに対する応答があると、回線を共有する他のすべてのデバイスのモードがリモートで使用中になります。詳細については、「[セッションハンドオフ](#)」(P.14-22) を参照してください。

(Cisco Unified Communications Manager へのアンカーされた DTMF パスを持つ唯一のクライアントであるために) 実際にセッションをハンドオフできる唯一のクライアントは、Cisco Unified Mobile Communicator であることに注意してください。Cisco Unified Personal Communicator または 9900 シリーズの Cisco Unified IP Phone のいずれも、セッションハンドオフを開始できません。ただし、これらのデバイスでは、着信セッションハンドオフは処理できます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.14-70) を参照してください。

Cisco Unified Mobility 機能のその他の利点

Cisco Unified Mobility では、企業の電話通信と携帯電話通信を柔軟に管理できます。これらの電話通信におけるその他の機能と利点は次のとおりです。

- デスクトップ同時呼び出し：コールが着信すると、IP Phone の内線番号と指定の携帯電話で同時に呼び出し音が鳴ります。ユーザが一方の回線に応答すると、応答しなかった回線では呼び出し音が自動的に停止します。ユーザは、コールが着信するたびに適切なデバイスを選択できます。
- 企業のボイスメールボックスの統合：企業のボイスメールボックスを、統合された 1 つのボイスメールボックスとして、デスクトップ デバイスや設定済みのリモート デバイスへのコールなど、あらゆる業務に使用することができます。着信コールの発信者は、わかりやすい方法で従業員に連絡できるようになり、ユーザは、時間をかけずに複数のボイスメールシステムをチェックできるようになります。
- システム リモート アクセス：ローカルの IP Private Branch Exchange (PBX; 構内交換機) 内線電話と同じように、ユーザの携帯電話からコールを開始できます。ユーザが開始するコールでは、ローカルの音声ゲートウェイおよび WAN トランキングを利用できるようになり、企業では、従業員によるコールの開始を追跡できるようになります。
- 発信者 ID：システムは、すべてのコールでの発信者 ID を保存および表示します。ユーザは、IP Phone の所定の機能を損なうことなく、モバイル コネクトを利用できます。
- リモートのオン/オフ制御：ユーザはモバイル コネクト機能のオンとオフを切り替えることができます。詳細については、「[モバイル コネクトを有効化および無効化する方法](#)」(P.14-10) を参照してください。
- コール トレース：モバイル コネクト コールの詳細情報がログに記録されます。この情報は、企業でトランク使用率を最適化する場合や、接続の問題をデバッグする場合に役立ちます。
- モバイル コネクト コールのセキュリティとプライバシー：アクティブなモバイル コネクト コールの接続中、関連付けられたデスクトップ IP Phone がセキュリティで保護されるようになります。携帯電話の接続がアクティブになるとすぐに、デスクトップからはコールにアクセスできなくなります。したがって、携帯電話に接続されたコールを不正な人物が傍受する可能性はなくなります。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.14-70) を参照してください。

モバイル コネクト

モバイル コネクトを使用すると、ユーザは机上の電話機または携帯電話で着信コールに応答すること、および接続を中断せずに進行中のコールを机上の電話機または携帯電話で取得できます。



(注)

Code Division Multiple Access (CDMA; 符号分割多重接続) 電話や Global System for Mobile Communications (GSM; モバイル通信用グローバル システム) 電話を含む携帯電話は、モバイル コネクトとモバイル ボイス アクセスに使用できます。ただし、互換性を確保するために Cisco Unified Communications Manager でタイマー設定を変更することが必要になる場合があります。「[リモート接続先の設定](#)」(P.14-50) を参照してください。

モバイル コネクトを有効化および無効化する方法

モバイル コネクト機能の有効化および無効化には、次の方法を使用できます。このリストは、管理者およびエンド ユーザが使用できる方法を示しています。

- Cisco Unified Communications Manager の管理 ウィンドウ。[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] のメニューパスを指定し、[モバイルコネクトの有効化 (Enable Mobile Connect)] チェックボックスをオン (モバイル コネクトを有効) にするか、またはこのチェックボックスをオフ (モバイル コネクトを無効) にして、Cisco Unified Mobile Communicator のモビリティ ID を設定します。
- Cisco Unified CM のユーザ オプションのウィンドウ: URL は、http://<Unified CM IP アドレス>/ccmuser です。アプリケーション内で、[ユーザオプション (User Options)] > [モビリティ設定 (Mobility Settings)] > [リモート接続先 (Remote Destinations)] > [モバイルコネクトの有効化 (Enable Mobile Connect)] メニューパスを指定します。
- 机上の電話機で [モビリティ] ソフトキーを使用。設定には、次のメニュー オプションを使用します。
 - [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を使用し、[ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] フィールドにモビリティ ソフトキー テンプレートを指定します。
 - [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を使用し、リモート接続先プロファイルでは机上の電話機のオーナー ユーザ ID と同じモビリティ ユーザ ID を割り当てます。
- 携帯電話でモバイル ボイス アクセスを使用 (IVR プロンプトを使用、2 で有効化、3 で無効化)。
- 携帯電話でエンタープライズ機能アクセスを使用 (PIN エントリ後、2 で有効化、3 で無効化)。並び順は、<PIN>#2# または <PIN>#3# とします。
- Cisco Unified Mobile Communicator クライアント: クライアントでは、モバイル ユーザが自身のモバイル コネクト ステータスを変更できます。詳細については、「[携帯電話からのモバイル コネクトの有効化 / 無効化](#)」(P.16-6) を参照してください。

モバイル コネクト ステータス

ユーザの 1 つ以上の設定済みリモート接続先がモバイル コネクトに対して有効になっている場合、ユーザの机上の電話機にモバイル コネクトが有効になっていることが表示されます。

RDNIS/Diversion ヘッダー

モバイル コネクトの RDNIS/Diversion ヘッダーは、モバイル デバイスに送信されるコールに関する RDNIS または Diversion ヘッダー情報を含めるように、この Cisco Unified Mobility 機能を拡張します。サービス プロバイダーおよびお客様は、RDNIS を使用して、Cisco Unified Mobility モバイル コネクト コールを発信するエンド ユーザに対して正確に課金できます。

モバイル コネクト コールの場合、サービス プロバイダーは、発信者 ID が企業の Direct Inward Dial (DID; ダイヤルイン) 範囲に属していなくても、RDNIS/Diversion ヘッダーを使用して企業からのコールの発信を承認および許可します。

RDNIS/Diversion ヘッダーの使用例

ユーザが次のように設定しているとします。

机上の電話機の番号は 89012345 です。

企業電話番号は 4089012345 です。

リモート接続先番号は 4088810001 です。

ユーザは、机上の電話機の番号 (89012345) でコールを受信します。このコールは、リモート接続先 (4088810001) でも呼び出し音を鳴らします。

ユーザが企業電話番号（4089012345）で企業電話以外の番号（5101234567）からのコールを受信すると、机上の電話機（89012345）が鳴り、コールがリモート接続先（4088810001）にも送達されます。

RDNIS/Diversion ヘッダー機能を実装する前は、次のようにフィールドに値が入力されていました。

Calling Party Number (SIP の場合は From ヘッダー) : 5101234567

Called Party Number (SIP の場合は To ヘッダー) : 4088810001

RDNIS/Diversion ヘッダー機能が実装された後は、Calling Party Number フィールドと Called Party Number フィールドには以前と同様に値が入力されますが、次の追加フィールドに指定の値が入力されます。

Redirect Party Number (SIP の場合は Diversion ヘッダー) : 4089012345

このため、RDNIS/Diversion ヘッダーにはリモート接続先に関連付けられた企業電話番号が指定されます。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでの RDNIS/Diversion ヘッダーの設定

モバイル コネクト コールで RDNIS/Diversion ヘッダー機能を有効にするには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで次の設定が行われていることを確認します。

すべてのゲートウェイおよびトランクで、[番号 IE 配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Outbound)] チェックボックスをオンにすることが指定されている必要があります。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、次のメニュー パスにこのチェックボックスがあります。

- H.323 および MGCP ゲートウェイの場合、[デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択し、設定が必要なゲートウェイを探します。[コールルーティング情報 - アウトバウンドコール (Call Routing Information - Outbound Calls)] ペインで、[番号 IE 配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Outbound)] チェックボックスがオンであることを確認します。T1/E1 ゲートウェイの場合、PRI プロトコルタイプ情報のペインの [番号 IE 配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Outbound)] チェックボックスをオンにします。
- SIP トランクの場合、[デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)] の順に選択し、設定が必要な SIP トランクを探します。[アウトバウンドコール (Outbound Calls)] ペインで、[Diversion ヘッダー配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Diversion Header Delivery - Outbound)] チェックボックスがオンであることを確認します。

モバイル コネクトの使用例

Cisco Unified Communications Manager がこの機能によってサポートする使用例については、「モバイル コネクトの使用例」(P.14-25) を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.14-70) を参照してください。

デスクトップコールピックアップ

ユーザは、携帯電話のコールを切るか、またはコール中の保留機能を使用してモビリティコールを保留にすることにより、進行中のモビリティコールに対してデスクトップコールピックアップを実行できます。携帯電話でコールを切るか、またはコールを終了した後、10 秒（デフォルト）以内であれば机上の電話機でコールを再開できます。リモート接続先が切断されると、Cisco Unified Communications Manager は関連付けられた机上の電話機を保留状態にします。ユーザは、[復帰] ソフトキーを押すと、コールを再開できます。[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウの [デスクピックアップの最大待機時間 (Maximum Wait Time for Desk Pickup)] の設定によって、リモート接続先で切断された後、コールを保留状態のままにする時間が決まります。デフォルトは 10000 ミリ秒（10 秒）です。

または、コール中の保留機能（*81）を使用して携帯電話のコールを企業保留にしてから、机上の電話機でコールを再開することでも、デスクトップコールピックアップを実行できます。Cisco Unified Communications Manager で *81 が受信されると、Cisco Unified Communications Manager はユーザがコールを再開できるように、関連付けられた机上の電話機を保留状態にします。この方法を使用すると、[デスクピックアップの最大待機時間 (Maximum Wait Time for Desk Pickup)] のタイマーは保留状態に適用されず、ユーザがコールを再開するまでコールは無期限に保留状態のままになることに注意してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.14-70) を参照してください。

携帯電話へのコールの送信

ユーザは、携帯電話へのコールの送信機能を使用することにより、進行中のモビリティコールでリモート接続先ピックアップを実行できます。これを行うには、ユーザは机上の電話機の [モビリティ] ソフトキーを押して、[携帯電話へコールを送信] を選択します。これにより、そのユーザに設定されているすべてのリモート接続先宛てにコールが生成されます。ユーザは目的のリモート接続先でこのコールに応答して、コールを続行できます。

机上の電話機が携帯電話へのコールの送信機能を呼び出し、リモート接続先にデュアルモードのスマートフォンが指定されている場合、次のように動作します。

- デュアルモードのスマートフォンが Wi-Fi に登録されている場合、コールはデバイスの Wi-Fi 側に送信されます。
- デュアルモードのスマートフォンが Wi-Fi に登録されていない場合、コールはデバイスの携帯電話側に送信されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.14-70) を参照してください。

モバイル ボイス アクセス

モバイル ボイス アクセスを使用すると、モバイル コネクト機能が拡張され、ユーザは机上の電話機からダイヤルする場合と同じように、携帯電話などのリモート接続先からコールを発信できるようになります。リモート接続先とは、モバイル コネクトの応答およびピックアップに使用できるように指定された電話機です。ユーザは、リモート接続先からモバイル ボイス アクセスにダイヤルします。Cisco Unified Communications Manager でユーザに割り当てられた Personal Identification Number (PIN; 個人識別番号) を入力するように要求されます。認証が完了すると、ユーザは企業の机上の電話機からコールを発信する場合と同じダイヤリング方法を使用して、コールを発信できるようになります。

次のいずれかの条件に該当する場合、モバイル ボイス アクセスにコールすると、ユーザは PIN のほかに発信元の電話番号も入力するように要求されます。

- ユーザの発信元の番号が、ユーザのリモート接続先のいずれとも一致しない。
- 番号がユーザまたはユーザの通信事業者によってブロックされている（「不明な番号」と表示される）。
- 番号が Cisco Unified Communications Manager データベース内の番号と正確には一致しない（たとえば、ユーザの番号は 510-666-9999 だがデータベースでは 666-9999 となっている、または番号は 408-999-6666 だがデータベースでは 1-408-999-6666 となっている）。
- モバイル ボイス アクセスがヘアピン モードで設定されている（ヘアピン モードで設定されているモバイル ボイス アクセスを使用している場合、システムをコールしているユーザが自動的に発信者側 ID で識別されることはありません。代わりに、ユーザは手動で、PIN 番号を入力する前にリモート接続先番号を入力する必要があります）。

要求された情報（携帯電話の番号や PIN など）をユーザが 3 回連続で誤入力すると、モバイル ボイス アクセス コールは切断される可能性があり、ユーザは一定期間ロックアウトされることとなります（ユーザの資格情報によって、許可されるログイン試行回数が制御されます）。



(注)

IVR が使用されている場合、モバイル ボイス アクセスは Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [モバイルボイスアクセス (Mobile Voice Access)] ウィンドウ ([メディアリソース (Media Resources)] > [モバイルボイスアクセス (Mobile Voice Access)]) の [選択済みのロケール (Selected Locales)] ペインに表示される最初のロケールを使用します。たとえば、[選択済みのロケール (Selected Locales)] ペインに最初に [English United States] と表示されている場合、Cisco Unified Mobility ユーザは、コール中に IVR が使用されているときには英語を受信します。

Cisco Unified Communications Manager がこの機能によってサポートする使用例については、「[モバイル ボイス アクセスの使用例](#)」(P.14-25) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.14-70) を参照してください。

DTMF でのコール中のエンタープライズ機能アクセスのサポート

ユーザは、コール中の機能呼び出すことにより、エンタープライズメディアリソースおよび機能を利用できます。リモート接続先からオーディオパスにインバンドでリレーされた後、エンタープライズゲートウェイから Cisco Unified Communications Manager にアウトオブバンドでリレーされる DTMF 番号によって、コール中の機能が呼び出されます。Cisco Unified Communications Manager で DTMF 番号が受信されると、適切なコール中機能が DTMF 番号シーケンスに基づいて簡単に使用できるようになります。このような機能には、転送されたコールまたは会議に追加されたコールのコールログの追加または削除や、保留中コールの保留音のようなメディアリソースおよび会議ブリッジの必要に応じた呼び出しが含まれます。

Cisco Unified Communications Manager 内のサービスパラメータで設定されている機能アクセスコードによって、コール中機能の DTMF コードシーケンスが決まります。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.14-70) を参照してください。

2 段階ダイヤリング

ユーザは、企業のテレフォニーインフラストラクチャを利用することにより、リモート接続先の電話機から企業を介してコールを発信できます。2 段階ダイヤリングには次の利点があります。

- 企業を介してコールを発着信できます。これにより、課金および呼詳細レコードを集中管理できます。この機能を使用すると、国際電話が携帯電話のプランではなく企業に課金されるようになり、これによってコスト節約の可能性が得られます。ただし、この機能では、携帯電話の通常の分単位のローカルおよび長距離料金は削減されません。
- 携帯電話番号を遠端側またはダイヤル先の電話機から隠すことができます。2 段階ダイヤルコールでは、携帯電話番号が着信側に送信されるのではなく、ユーザの企業電話番号が着信側に送信されます。この方法を使用すると、ユーザの携帯電話番号を効果的に隠し、折り返しのコールを企業内に留められるようになります。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.14-70) を参照してください。

Time-of-Day アクセス

アクセスリストは、モバイルコネクタ機能が有効になっているリモート接続先までコールを送達すべきかどうかを決定します。Time-of-Day アクセス機能は時間ベースの制御を伴い、時間を別の決定要素として追加します。この機能により、管理者およびユーザはコールを、受信された時刻に基づいてリモート接続先に到達させるべきかどうかを決定できます。

リモート接続先へのコールに関しては、リモート接続先の Time-of-Day アクセス設定を決定するため、Time-of-Day アクセス機能により呼び出しスケジュールが追加され、その呼び出しスケジュールがアクセスリストに関連付けられます。

プロビジョニングプロセスは、次のエンティティのプロビジョニングを伴います。

- アクセスリスト
- リモート接続先（呼び出しスケジュールを設定し、その呼び出しスケジュールをリモート接続先のアクセスリストに関連付ける）

Time-of-Day アクセス機能は、既存のアクセス リスト機能の拡張版として、Cisco Unified Communications Manager のエンド ユーザにアクセス可能である必要があります。これによって、Cisco Unified Communications Manager の管理機能（管理者側）および Cisco Unified CM のユーザ オプション（エンドユーザ側）の双方を使用して、この機能をプロビジョニングできます。

その他のトピック

この項の内容は次のとおりです。

- 「Time-of-Day アクセスの設定」(P.14-15)
- 「Time-of-Day アクセスの特記事項」(P.14-17)

「Time-of-Day アクセスの使用例」(P.14-25) に、リリース 7.0(x) よりも前の Cisco Unified Communications Manager のリリースから移行した場合の移行に関する考慮事項など、Cisco Unified Mobility での Time-of-Day アクセス機能の使用例を示します。

追加情報

「関連項目」(P.14-70) を参照してください。

Time-of-Day アクセスの設定

表 14-3 では、Cisco Unified Mobility の Time-of-Day アクセス機能を設定する手順を要約しています。手順の詳細については、表に示されている章と項を参照してください。

表 14-3 Time-of-Day アクセスの設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
<p>ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、Time-of-Day アクセス機能を有効にするエンド ユーザを設定します。</p> <p>[ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] メニュー オプションを使用します。</p> <p>(注) [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ページで、[モビリティの有効化 (Enable Mobility)] チェックボックスがオンになっていることを確認してください。</p> <p>(注) [モビリティの有効化 (Enable Mobility)] チェックボックスをオンにすると、ライセンスに対するトリガーが発生し、モバイル コネクト用にデバイスライセンス ユニット (DLU) が消費されます。</p>	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンド ユーザの設定」</p> <p>ライセンスとモバイル コネクトとの連携については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』の「Cisco Unified Mobility のライセンス」の項を参照してください。</p>
<p>ステップ 2 特定のユーザに対しては、各リストをユーザに割り当てて、Time-of-Day アクセス用に使用するアクセス リストを設定します。許可された発信者とブロックされた発信者に対して、別個のアクセス リストを作成します。</p> <p>(注) アクセス リストは、1 人の所有者に属している必要があります。システムのアクセス リストは存在しません。</p> <p>[コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [アクセスリスト (Access List)] メニュー オプションを使用します。</p>	<p>「アクセス リストの設定」(P.14-41)</p>

表 14-3 Time-of-Day アクセスの設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 3 リモート接続先プロファイルを作成し、各ユーザをプロファイルに割り当てます。	「リモート接続先プロファイルの設定」(P.14-44)
ステップ 4 ユーザのリモート接続先を設定します。リモート接続先は、モバイルコネクトコールおよび机上の電話機から移送されたコールを受信できる携帯電話（またはその他の電話機）です。リモート接続先では、モバイルボイスアクセスを使用してコールを開始できます。 [デバイス (Device)] > [リモート接続先 (Remote Destination)] メニュー オプションを使用します。 (注) これと同じ設定は、デュアルモードフォン、および Time-of-Day アクセスをセットアップするための Cisco Unified Mobile Communicator モビリティ ID にも適用されます。 Time-of-Day アクセスを正しく設定するには、[リモート接続先の設定 (Remote Destination Configuration)] ウィンドウの次の領域を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • [呼び出しスケジュール (Ring Schedule)] ペインで、リモート接続先の呼び出しスケジュールを設定します。 • [上記の呼び出しスケジュールの間にコールを受信する場合 (When receiving a call during the above ring schedule)] ペインで、呼び出しスケジュールが適用されるアクセスリストを指定します。 リモート接続先の [モバイルコネクトの有効化 (Enable Mobile Connect)] チェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Mobility は [モバイルコネクトが有効になっている場合 (When Mobile Connect is Enabled)] ペインでの設定を、このリモート接続先に作成されるコールに適用できるようになります。[モバイルコネクトの有効化 (Enable Mobile Connect)] チェックボックスがオフの場合、ここでの設定がこのリモート接続先への着信コールに適用されなくなります。ただし、これらの設定は今後の使用のためにそのまま残ります。	「リモート接続先の設定」(P.14-50)

追加情報

「[関連項目](#)」(P.14-70) を参照してください。

Time-of-Day アクセスの特記事項

次の特記事項は、Time-of-Day アクセスの設定に適用されます。

- 呼び出しスケジュールは、リモート接続先のタイムゾーンと関連付けられており、Cisco Unified Communications Manager サーバのタイムゾーンとは関連付けられていません。リモート接続先のタイムゾーンを指定するには、[リモート接続先の設定 (Remote Destination Configuration)] ウィンドウの [タイムゾーン (Time Zone)] フィールドを使用します。
- リモート接続先で Time-of-Day アクセスが設定されていない場合は、すべてのコールがリモート接続先に送達されます。デフォルトでは、呼び出しスケジュールの [すべての時間 (All the time)] オプション ボタンおよび [この接続先を常に呼び出し (Always ring this destination)] オプション ボタンが選択されているため、すべてのコールがリモート接続先に送達されます。
- アクセス リストを必ずメンバで設定すること、およびメンバを含まない空のアクセス リストを作成しないことをお勧めします。空のアクセス リストが [発信者が次のアクセス リストに登録されている場合のみ、この接続先を呼び出す (Ring this destination only if caller is in)] ドロップダウン リスト ボックスで選択されている場合、すべてのコールはブロックされます (許可されません)。空のアクセス リストが [発信者が次のアクセス リストに登録されている場合は、この接続先を呼び出さない (Do not ring this destination if caller is in)] ドロップダウン リスト ボックスで選択されている場合、指定された呼び出しスケジュール中にすべてのコールが許可されます。いずれの場合も、空のアクセス リストの使用は、エンド ユーザに対して無用な混乱を招く原因となることがあります。

Cisco Unified Communications Manager がこの機能によってサポートする使用例については、「[Time-of-Day アクセスの使用例](#)」(P.14-25) を参照してください。

エンド ユーザが Cisco Unified CM のユーザ オプションのウィンドウを使用して Time-of-Day アクセスの設定をカスタマイズするための設定の詳細については、適切な Cisco Unified IP Phone モデルのユーザ ガイドを参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.14-70) を参照してください。

DTMF を介したダイレクト コール パーク

ユーザは、DTMF 番号を使用して既存のコールをパークすることができます。携帯電話からダイレクト コール パークを使用してコールをパークし、一意のモビリティ ユーザのパーク コードを入力します。その後、ユーザはそのコードでコールを取得するか、他の誰かにそのコードでのコール取得を依頼することができます。この機能は、別の部署やユーザにコールを受けてもらう必要のある縦型組織で役立ちます。

企業の一員であるユーザが携帯電話でコールを受ける場合、そのユーザは、電話番号が非表示となる会議室内やデスク上の Cisco Unified IP Phone でそのコールに応答することも考えられます。このようなユーザは、コールをパークしてから、そのコードだけを使用してパークされたコールを受けることができます。

携帯電話ユーザがアクティブなコールに対応している場合には、システム管理者が設定してユーザに割り当てたパーク コードに、パークされる側を転送することにより、コールをパークできます。ダイヤリングのシーケンスは DTMF 転送シーケンスに似ていますが、転送番号の代わりに事前設定されたパーク コードを使用するという点が異なります。

DTMF を介したダイレクト コール パークの例 : コールのパーク

次の例では、*82 は企業排他保留、*84 は転送、PIN は 12345、コール パークのコードは 3215 を示しています。次のアクションは携帯電話で実行します。

1. *82 をダイヤルします (コールを企業内で排他保留状態にするため)。
2. 必要な場合、携帯電話のモデルに応じて、携帯電話を保留にします。
3. エンタープライズ機能アクセス DID に新規コールを発信します。



(注)

この同じ DID がエンタープライズ機能アクセス 2 段階ダイヤリング機能に使用されます。この DID を設定するには、[コールルーティング (Call Routing)] > [モビリティ (Mobility)] > [エンタープライズ機能アクセス設定 (Enterprise Feature Access Configuration)] メニュー オプションを使用します。

4. コールの接続が完了した後、<PIN>#*84#< パーク コード >#*84# というフィールドと数字の並びでダイヤルします。

たとえば、PIN に 12345 を指定し、パーク コードに 3215 を指定した場合、番号の並びは 12345#*84#3215#*84# になります。

Cisco Unified Communications Manager はパークされる側を保留状態にします。



(注)

ユーザがエンタープライズ機能アクセス DID をダイヤルしてこの機能呼び出す場合、携帯電話の発信者 ID を企業に送信する必要があります。また、この ID は設定済みのリモート接続先と一致する必要があります。発信者 ID が存在しない場合、または発信者 ID の不一致が発生した場合、ユーザはこの機能呼び出すことができません。

Cisco Unified Communications Manager がダイヤルされたパーク コードの番号を受信すると、番号分析エンジンが、ダイヤルされたパーク コードの番号が有効かどうかを確認します。有効である場合、ダイレクト コール パーク機能がパーク コードを代行受信し、そのパーク コードが利用可能かどうかを確認します。ダイヤルされたパーク コードが有効かつ利用可能である場合、パーク側は呼び出し音を受信し、選択されたパーク コードに関連付けられている Cisco Unified Communications Manager 汎用デバイスに対するセカンダリ コールが終了します。この汎用デバイスは自動的に応答し、Music On Hold (MOH; 保留音) または保留トーンでパーク側を保留状態にします。最後の *84 は、パークされる側に対して、選択されたパーク コードに関連付けられている Cisco Unified Communications Manager 汎用デバイスへの転送を実行します。転送が完了すると、パークされる側は MOH または保留トーンを受信し、さらに選択されたパーク コードでパークされてから、取得までの待機状態に入ります。

ユーザが指定したパーク コードを別ユーザがすでに使用している場合、Cisco Unified Communications Manager のダイレクト コール パーク機能のロジックにより、その選択済みパーク コードは拒否されます。ユーザは別のパーク コードを選択できるようになります。

ユーザが指定したパーク コードが有効でない場合、Cisco Unified Communications Manager はパーク側に対してリオーダー音を再生します。

ダイレクト コール パーク機能に関しては、パーク コードとコード範囲がクラスタ全体で設定可能であることを注意してください。クラスタ内の各 Cisco Unified Communications Manager サーバは、パーク コードとコード範囲を共有します。

DTMF を介したダイレクトコールパークの例：パークされたコールの取得

ユーザがパークされたコールを取得しようとする場合は、ユーザは別の携帯電話をオフフックにできます。また、ユーザは 2 段階ダイヤリングを使用して、ダイレクトコールパークの取得用プレフィックス（たとえば 22）、およびパークコードとコード範囲（たとえば 3215）を含む番号ストリングをダイヤルする必要があります。次の一連のイベントが順に発生します。

1. 携帯電話で、エンタープライズ機能の DID をダイヤルします。
2. 接続が完了した後、次のフィールドと番号の並びをダイヤルして、パークされているコールを取得します。

<PIN>#1#<取得用プレフィックス><パーク番号>#

この例では、12345#1#223215# と全桁を指定して、パークされているコールを取得しています。

コールが時間どおりに取得されない場合、パークされたコールは、パーク側にデフォルトで関連付けられている電話番号に戻ります。これは既存のコールパーク機能と同様です。

シェアラインがパーク側の電話回線用に設定されている場合、そのシェアラインに関連付けられているすべての電話機で呼び出し音が鳴ります。さらに、dPark 機能により、管理者は [ダイレクトコールパークの設定 (Directed Call Park Configuration)] ウィンドウでコールパーク復帰番号を設定できます。したがって、コールパーク復帰番号が設定された場合は、未取得のコールはパーク側の番号にではなく、この復帰番号に戻ります。

Cisco Unified Communications Manager がこの機能によってサポートする使用例については、「DTMF を介したダイレクトコールパークの使用例」(P.14-27) を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.14-70) を参照してください。

SIP URI ダイヤル

この機能は、Cisco Unified Mobility のリモート接続先の追加タイプとして、Session Initiation Protocol (SIP) Universal Resource Identifier (URI) をサポートします。電話番号がコールされると、Cisco Unified Communications Manager はそのコールを、To: ヘッダー内でこの SIP URI を使用する番号分析によって選択された SIP トランクにまで送達します。

この機能は、全体的な SIP URI ではなく、ドメイン名だけに基づいたルーティングだけを許可します。

このタイプのリモート接続先が設定されている場合、その他の Cisco Unified Mobility 機能（2 段階ダイヤリング、Cisco Unified Communications Manager へのコール時の電話番号への変換、対話型音声応答 (IVR) サポート、発信者 ID の一致、または DTMF 転送および会議など）はサポートされません。

SIP URI 管理の詳細

SIP URI ダイヤル機能では、[リモート接続先の設定 (Remote Destination Configuration)] ウィンドウの [接続先番号 (Destination Number)] フィールドで URI を入力できるようにするため、ビジネス規則を緩和することが必要になります（Cisco Unified Communications Manager の管理ページのメニューバーで、[デバイス (Device)] > [リモート接続先 (Remote Destination)] メニュー オプションを選択します）。

この機能の追加要件により、設定された URI ドメインに一致する SIP ルートパターンを、この機能が動作するように設定する必要があることが示されます。SIP ルートパターンを設定するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページのメニューバーで [コールルーティング (Call Routing)] > [SIP ルートパターン (SIP Route Pattern)] メニュー オプションを選択します。

SIP URI の例

リモート接続先に対しては、SIP URI の *user@corporation.com* が設定されます。また、*corporation.com* を指定する SIP ルートパターンは、正しく解決されるよう、SIP URI のリモート接続先に対しても設定される必要があります。

追加情報

「関連項目」(P.14-70) を参照してください。

インテリジェント セッション制御

この機能は、企業から携帯電話に直接発信されたコールの動作を変更し、そのようなコールをユーザの机上の電話機の番号にアンカーします（この機能を実装する前は、企業ユーザが携帯電話に直接コールを発信した場合、そのコールは通常の発信 PSTN コールのように扱われていました。つまり、コールは携帯電話にだけ送信され、モバイルユーザはモビリティ機能を呼び出すことができませんでした）。

企業からリモート接続先に発信されるコールは、次のように動作します。

- モバイルユーザは、DTMF を使用して保留、復帰、転送、会議などのコール中機能を呼び出すことができます。
- モバイルユーザは、携帯電話からのコールを終了し、机上の電話機からのコールをピックアップできます。
- 企業からリモート接続先に直接送信されるコールは、ユーザの机上の電話機にアンカーされます。関連するリモート接続先プロファイルに設定されている [時刻アクセス (Time of Day Access)]、[サイレント (Do Not Disturb)]、[呼び出し前の遅延タイマー (Delay Before Ringing Timer)] の各設定値は無視されます。直接コールは即座にモバイルユーザに送信されます。
- リモート接続先に直接送信されるコールは、モバイルユーザから Cisco Unified Communications Manager に着信するコールと同じように動作します。モバイルユーザは、次のモビリティ機能にアクセスできます。
 - コール中の機能 ([保留]、[復帰]、[転送]、[会議])
 - セッションハンドオフ
 - コールのアンカー

機能設定

インテリジェントセッション制御機能の基本設定では、管理者は Reroute Remote Destination Calls to Enterprise Number サービスパラメータの値を [True] に設定する必要があります。

このサービスパラメータにアクセスするには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。表示された [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、サーバおよび Cisco CallManager サービスを指定します。[Clusterwide Parameters (Feature - Reroute Remote Destination Calls to Enterprise Number)] ペインに次のサービスパラメータがあります。

- **[Reroute Remote Destination Calls to Enterprise Number]** : 機能を有効にするには、このサービス パラメータの値を **[True]** に指定します。このパラメータが有効になっていると、リモート接続先に送信される発信コールはすべて、リモート接続先が関連付けられている企業電話番号にアンカーされます。
- **[Log Mobile Number in CDR for Rerouted RD Calls]** : このサービス パラメータでは、リモート接続先に発信されるコールがアンカーされるときに、携帯電話番号と企業電話番号のいずれかを **Call Detail Record (CDR; 呼詳細レコード)** に記録するかを指定します。**[False]** に設定した場合、企業電話番号が記録されます。**[True]** に設定した場合、携帯電話番号が記録されます。
- **[Ignore Call Forward All on Enterprise DN]** : このサービス パラメータでは、リモート接続先に発信されるコールがアンカーされるときに、企業電話番号に設定されている **Call Forward All (CFA; 不在転送)** の設定を無視するかどうかを指定します。**[True]** に設定した場合、CFA は無視されます。**[False]** に設定した場合、CFA の設定は適用されます。

[Clusterwide Parameters (System - Mobility)] ペインにある次のサービス パラメータも、インテリジェント セッション制御機能の動作に影響を与えます。

- **[Matching Caller ID with Remote Destination]** : このサービス パラメータが **[Complete Match]** に設定されている場合、発信側番号の全桁が一致しないと、コールはリモート接続先に接続されません。このサービス パラメータが **[Partial Match]** に設定されている場合、部分一致が許可されており、**Number of Digits for Caller ID Partial Match** サービス パラメータが適用されます。
- **[Number of Digits for Caller ID Partial Match]** : **Matching Caller ID with Remote Destination** サービス パラメータが **[Partial Match]** に設定されている場合、このサービス パラメータに指定されている桁数が部分一致に適用されます。



(注)

各サービス パラメータの詳細な定義については、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで目的のサービス パラメータの名前をクリックしてください。

その他のトピック

この項は、次の内容で構成されています。

- 「[インテリジェント セッション制御の追加のコール処理の詳細](#)」 (P.14-21)
- 「[インテリジェント セッション制御の使用例](#)」 (P.14-27)
- 「[インテリジェント セッション制御機能のトラブルシューティング](#)」 (P.14-22)

「[インテリジェント セッション制御の使用例](#)」 (P.14-27) では、Cisco Unified Mobility でのインテリジェント セッション制御機能の使用例を示します。

インテリジェント セッション制御の追加のコール処理の詳細

ダイヤル番号に一致するリモート接続先プロファイルに複数の回線が設定されている場合、Cisco Unified Communications Manager は最初に一致した回線を使用してコールをルーティングします。携帯電話番号への直接コールは企業電話番号と照合されるため、企業電話番号の代行受信がサポートされている場合には、企業電話番号の代行受信を含め、すべての企業電話番号でのコールの代行受信が実行されます。企業電話番号の代行受信転送は、**Ignore Forward All on Enterprise DN** サービス パラメータに基づいて無視されます。このサービス パラメータが **[True]** に設定されている場合、Cisco Unified Communications Manager は企業電話番号の代行受信転送を無視し、コールを携帯電話に送信します。このサービス パラメータが **[False]** に設定されている場合、Cisco Unified Communications Manager は企業電話番号で CFA 設定を有効にします。また、コールを CFA 転送先に送信するように設定されている場合は、その設定に従って送信します。

携帯電話番号へのコールが、オーバーラップ送信が許可されているトランクまたはゲートウェイ経由で送信される場合、この機能は携帯電話番号への直接コールをアンカーしません。この場合、携帯電話番号へのコールはアンカーされません。

この機能に適用される追加の制限については、「[制限事項](#)」(P.14-34) を参照してください。

インテリジェントセッション制御機能のトラブルシューティング

インテリジェントセッション制御機能が想定どおりに機能しない場合には、次の点を確認してください。

- [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで Intelligent Session Control が [True] に設定されていることを確認します。
- 発信者 ID が、Matching Caller ID with Remote Destination 設定に指定されたリモート接続先番号に一致することを確認します (完全一致または部分一致)。
- 番号がダイヤルされた後、次のようなトレース行が Cisco Unified Communications Manager SSI ログに出力されることを確認します。
08/10/14 15:09:26.507 CCM|Digit analysis: getDaRes - Remote Destination [9725782583]**^^*
- [リモート接続先の設定 (Remote Destination Configuration)] ウィンドウ ([デバイス (Device)] > [リモート接続先 (Remote Destination)]) で、企業電話番号の [回線アソシエーション (Line Association)] チェックボックスがオンになっていることを確認します。
- ルートパターンパーティションが、[リモート接続先プロファイルの設定 (Remote Destination Profile Configuration)] ウィンドウ ([デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)]) で [再ルーティング用コーリングサーチスペース (Rerouting Calling Search Space)] として設定される Calling Search Space (CSS; コーリングサーチスペース) の一部であることを確認します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.14-70) を参照してください。

セッションハンドオフ

完全なセッションハンドオフ機能は、携帯電話、PC、および机上の電話機との間で単一のコール、会議、およびセッションコラボレーションを移動できます。セッションハンドオフを使用すると、ユーザは携帯電話から机上の電話機に会話を移動できます。ツータッチセッションハンドオフでは、ハンドオフする発信側と受信する終端側の 2 回のユーザ入力を使用されます。

デスクトップ電話機からのピックアップでセッションハンドオフ機能を利用する主な利点は、ハンドオフしたコールに応答するまで元の会話を継続できることです。

セッションハンドオフ機能の設定

セッションハンドオフ機能を設定する際には、特定のサービスパラメータの設定と、コールをハンドオフするモバイルデバイスの設定を行います。次の項を参照してください。

- 「[セッションハンドオフのサービスパラメータ](#)」(P.14-23)
- 「[セッションハンドオフ機能のモビリティデバイス設定](#)」(P.14-23)

セッションハンドオフのサービスパラメータ

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでサービスパラメータを設定するには、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] メニュー オプションを選択します。[サーバ (Server)] ドロップダウンリストボックスで、サーバを選択します。[サービス (Service)] ドロップダウンリストボックスから、Cisco CallManager サービスを選択します。

セッションハンドオフ機能を有効にするには、次のサービスパラメータを設定する必要があります。

- [Session Handoff Alerting Timer] : このサービスパラメータは [Clusterwide Parameters (Device - General)] ペインにあり、セッションハンドオフ コールの呼び出し音の時間を指定します。デフォルト値は 10 秒で、有効な値の範囲は 1 ~ 999 秒です。
- [Enterprise Feature Access Code for Session Handoff] : このサービスパラメータは [Clusterwide Parameters (System - Mobility)] ペインにあり、セッションハンドオフをトリガーするための DTMF 機能コードを指定します。デフォルト値は *74 です。

これらのサービスパラメータの詳細については、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで目的のサービスパラメータの名前をクリックしてください。表示されたハイパーリンクをクリックすると、サービスパラメータの詳細な定義を参照できます。

セッションハンドオフ機能のモビリティデバイス設定

セッションハンドオフ機能を有効にするには、モビリティデバイスについて次の設定を行います。

- 回線レベルの電話番号とパーティションが一致するように、リモート接続先プロファイルの電話番号および机上の電話機シェアドラインを設定します。
- リモート接続先プロファイルでは机上の電話機のオーナー ユーザ ID と同じモビリティ ユーザ ID を割り当てて、セッションハンドオフを許可します。
- 基本的な Cisco Unified Mobility ユーザ向けにセッションハンドオフ機能を設定するには、[リモート接続先の設定 (Remote Destination Configuration)] ウィンドウの [ユーザ ID (User ID)] フィールドの設定値が、(机上の) 電話機の設定ウィンドウの [オーナーのユーザ ID (Owner User ID)] フィールドの設定値と一致する必要があります。
- Cisco Unified Mobile Communicator ユーザ向けにセッションハンドオフ機能を設定するには、Cisco Unified Mobile Communicator の [デバイス設定 (Device Configuration)] ウィンドウの [オーナーのユーザ ID (Owner User ID)] フィールドと [モビリティユーザ ID (Mobility User ID)] フィールドの両方が、(机上の) 電話機の設定ウィンドウの [オーナーのユーザ ID (Owner User ID)] フィールドに一致する必要があります。

セッションハンドオフが他の機能に与える影響

ユーザがコールをハンドオフすると、新しいコールが机上の電話機に表示されます。机上の電話機で点滅が続く間は、ハンドオフされたコールに対して次の機能がトリガーされません。

- 即時転送
- 不在転送
- DND
- 自動転送

ユーザがコールをハンドオフし、Session Handoff Alerting Timer サービスパラメータに指定されている時間内に机上の電話機から応答しなかった場合、机上の電話機では既存の [リモートで使用 (Remote In Use)] 状態が失われます。

このため、机上の電話機はセッションハンドオフの後にシェアライン機能を失います。そのコールでは、携帯電話で保留 (*81 を使用) して机上の電話から再開や、デスク ピックアップなど、コール中の機能は実行できません。ただし、コールを再度ハンドオフすれば、机上の電話機から再開できます。

セッションハンドオフに関するその他のトピック

セッションハンドオフ機能に関するその他のトピックについては、次の項を参照してください。

- 「セッションハンドオフ機能」 (P.14-39)
- 「セッションハンドオフの使用例」 (P.14-30)

セッションハンドオフ機能に関するトラブルシューティング情報

携帯電話からコールがハンドオフされているのに机上の電話機が点滅しない場合は、次の点を確認してください。

- 机上の電話機の [オーナーのユーザ ID(Owner User ID)] が、[リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)] の [ユーザ ID(User ID)] に一致するかどうかを確認します。
- [サービス パラメータ (Service Parameters)] では、Enable Enterprise Feature Access が [True] に設定されているかどうかを確認します。また、他の DTMF 機能 (保留 [*81]、復帰 [*83]) が機能しているかどうかを確認します。
- セッションハンドオフ DTMF コードの値 (デフォルトは *74) および Session Handoff Alerting Timer の値 (デフォルトは 10 秒) を確認します。

追加情報

「関連項目」 (P.14-70) を参照してください。

Cisco Unified Mobility 機能の使用例

次の項では、Cisco Unified Mobility の各機能に対して Cisco Unified Communications Manager がサポートする使用例について説明します。

- 「モバイル コネクトの使用例」 (P.14-25)
- 「モバイル ボイス アクセスの使用例」 (P.14-25)
- 「Time-of-Day アクセスの使用例」 (P.14-25)
- 「DTMF を介したダイレクト コール パークの使用例」 (P.14-27)
- 「インテリジェントセッション制御の使用例」 (P.14-27)
- 「セッションハンドオフの使用例」 (P.14-30)

追加情報

「関連項目」 (P.14-70) を参照してください。

モバイル コネクトの使用例

モバイル コネクトは、次の使用例をサポートしています。

- 机上の電話機または携帯電話で外部コールを受信する：外部の発信者が、ユーザの机上の電話機の内線番号をダイヤルします。机上の電話機と携帯電話で、呼び出し音が同時に鳴ります。ユーザが一方の電話機で応答すると、もう一方の電話機の呼び出し音は停止します。ユーザは、コールの接続中に、接続を中断せずに机上の電話機と携帯電話を切り替えることができます。切り替えは、着信コールと発信コールの両方でサポートされています。
- 携帯電話から机上の電話機に戻す：机上の電話機でコールの発信または応答を開始した後で携帯電話に切り替えた場合、コールを机上の電話機に戻すことができます。
- コール中のエンタープライズ機能を使用する：ユーザはモバイル コネクト コールの接続中に、保留 / 再開、排他保留、転送、ダイレクト コール パーク、および会議などのコール中機能を実行できます。

追加情報

「関連項目」(P.14-70) を参照してください。

モバイル ボイス アクセスの使用例

モバイル ボイス アクセスは、次の使用例をサポートしています。

- 携帯電話などのリモート電話機からモビリティ コールを開始する：ユーザはモバイル ボイス アクセスを使用して、机上の電話機からダイヤルする場合と同じように、携帯電話からコールを開始できます。
- 携帯電話から開始したコールの接続中に携帯電話から机上の電話機に切り替える：モバイル ボイス アクセスを使用して携帯電話からコールを開始した場合、ユーザはコールの接続中に、接続を中断することなく机上の電話機に切り替えることができます。その後、必要に応じて携帯電話に戻すこともできます。

追加情報

「関連項目」(P.14-70) を参照してください。

Time-of-Day アクセスの使用例

以降の使用例では、Time-of-Day アクセス機能の追加よりも前に設定されたアクティブなアクセス リストを使用した場合の Time-of-Day アクセス機能の働きを詳しく説明します。また、Cisco Unified Communications Manager のリリース 7.0(1) 以降の機能に対して発生する新規プロビジョニングについても取り上げます。

以前の Cisco Unified Communications Manager リリースからのアクティブなアクセス リストの移行に関するサポート対象使用例

次の使用例では、Cisco Unified Communications Manager の以前のリリースからリリース 7.0(x) 以降へのアクティブなアクセス リストの移行が発生する場合について、Cisco Unified Mobility を使用して、Time-of-Day アクセス機能の働きを詳しく説明します。

- 使用例 1 : Cisco Unified Communications Manager のリリース 7.0(x) よりも前では、許可アクセス リストと拒否アクセス リストは設定されていない。

移行後の結果：システムはすべてのコールを常時許可します。[リモート接続先の設定 (Remote Destination Configuration)] ウィンドウに、[モバイルコネクトが有効になっている場合 (When Mobile Connect is Enabled)] ペインが表示されます。[呼び出しスケジュール (Ring Schedule)] ペインでは、[すべての時間 (All the time)] オプション ボタンが選択されて

います。[上記の呼び出しスケジュールの間にコールを受信する場合 (When Receiving a call during the above ring schedule)] ペインでは、[この接続先を常に呼び出し (Always ring this destination)] オプション ボタンが選択されています。

- 使用例 2 : Cisco Unified Communications Manager のリリース 7.0(x) よりも前では、許可アクセス リストだけが設定されている。

移行後の結果 : 許可アクセス リストに属する発信者だけが、関連付けられたリモート接続先に到達できます。[リモート接続先の設定 (Remote Destination Configuration)] ウィンドウに、[モバイルコネクが有効になっている場合 (When Mobile Connect is Enabled)] ペインが表示されます。[呼び出しスケジュール (Ring Schedule)] ペインでは、[すべての時間 (All the time)] オプション ボタンが選択されています。[上記の呼び出しスケジュールの間にコールを受信する場合 (When Receiving a call during the above ring schedule)] ペインでは、[発信者が次に登録されている場合のみ、この接続先を呼び出す (Ring this destination only if caller is in)] オプション ボタンが選択されており、それに対応するドロップダウン リストボックスにアクセス リストが表示されます。

- 使用例 3 : Cisco Unified Communications Manager のリリース 7.0(x) よりも前では、拒否アクセス リストだけが設定されている。

移行後の結果 : 拒否アクセス リストに属する発信者は、関連付けられたリモート接続先には到達できません。ただし、その他の発信者は全員、リモート接続先に常時コールできます。[リモート接続先の設定 (Remote Destination Configuration)] ウィンドウに、[モバイルコネクが有効になっている場合 (When Mobile Connect is Enabled)] ペインが表示されます。[呼び出しスケジュール (Ring Schedule)] ペインでは、[すべての時間 (All the time)] オプション ボタンが選択されています。[上記の呼び出しスケジュールの間にコールを受信する場合 (When Receiving a call during the above ring schedule)] ペインでは、[発信者が次に登録されている場合、この接続先を呼び出さない (Do not ring this destination if caller is in)] オプション ボタンが選択されており、それに対応するドロップダウン リストボックスにアクセス リストが表示されます。

現行の Cisco Unified Communications Manager リリースでの Time-of-Day アクセスの使用例

次の使用例では、Cisco Unified Communications Manager の現行のリリースに関して、Cisco Unified Mobility を使用して Time-of-Day アクセス機能の働きを詳しく説明します。

- 使用例 4 : 業務時間中だけコールを許可する。

設定 : 月曜日から金曜日までの業務時間を指定する呼び出しスケジュールを設定し、[この接続先を常に呼び出し (Always ring this destination)] オプション ボタンを選択します。

結果 : システムは業務時間中には発信者全員を許可しますが、業務時間外の場合、コールはこのリモート接続先に送達されません。

- 使用例 5 : 業務時間中に、特定の番号からのコール (たとえば同僚からのコール) だけを許可する。

設定 : 月曜日から金曜日までの業務時間を指定する呼び出しスケジュールを設定し、[発信者が次に登録されている場合のみ、この接続先を呼び出す (Ring this destination only if caller is in)] オプション ボタンを選択し、アクセス リストを指定します。

結果 : アクセス リストに属する発信者だけが、業務時間中にリモート接続先にコールできます。その他の発信者はすべて、業務時間中にはブロックされます。業務時間外には、このリモート接続先をコールが呼び出すことはありません。

- 使用例 6 : 業務時間中に特定の番号 (たとえば 1800 番) をブロックする。

設定 : 月曜日から金曜日までの業務時間を指定する呼び出しスケジュールを設定し、[発信者が次のアクセスリストに登録されている場合は、この接続先を呼び出さない (Do not ring this destination if caller is in)] オプション ボタンを選択し、アクセス リストを指定します。

結果：アクセスリストに属する発信者だけが、業務時間中にリモート接続先へのコールをブロックされます。その他の発信者はすべて、業務時間中にリモート接続先へコールを発信できます。業務時間外には、このリモート接続先をコールが呼び出すことはありません。

追加情報

「関連項目」(P.14-70) を参照してください。

DTMF を介したダイレクト コール パークの使用例

Cisco Unified Mobility の DTMF 機能を介したダイレクト コール パークは、次の使用例をサポートしています。

- 携帯電話ユーザが、選択されたパーク コードでのコールをパークする。
- 携帯電話ユーザが、選択された使用不能パーク コードでのコールをパークする。
- 携帯電話ユーザが、選択された無効パーク コードでのコールをパークする。
- 携帯電話ユーザが、DTMF 転送コードの入力後にパーク コードの入力を行わない。
- パーク元がコールのパークを試みている間に、パークされた発信側が接続を切断する。
- パークされた発信側が、選択されたパーク コードでパークされており、かつ取得までの待機状態に入っている間に接続を切断する。
- ユーザが、ダイレクト コール パークの取得用番号、および使用中でないパーク コードをダイヤルする。
- コールをパークするための番号ストリングの長さと、コールを取得するための番号ストリングの長さが同じになるよう、管理者がトランスレーション パターンを設定する。
- パークされたコールをユーザが再試行する。
- パークされたコールが戻る。
- パーク コードの使用中に、パーク コードまたはコード範囲、ダイレクト コール パークのパーク プレフィックス、ダイレクト コール パークの取得用プレフィックスのいずれかのエンティティが修正または削除される。
- ネットワークの分割時に、ダイレクト コール パークが指定される。

追加情報

「関連項目」(P.14-70) を参照してください。

インテリジェント セッション制御の使用例

インテリジェント セッション制御機能は、次の使用例をサポートします。

- Reroute Remote Destination Calls to Enterprise Number サービス パラメータが [False] に設定されている。
- Reroute Remote Destination Calls to Enterprise Number サービス パラメータが [True] に設定されている。
- Ignore Call Forward All on Enterprise DN サービス パラメータが [False] に設定されている。

以降の項では、インテリジェント セッション制御機能の使用例をいくつか示し、その例で行われる設定について説明します。

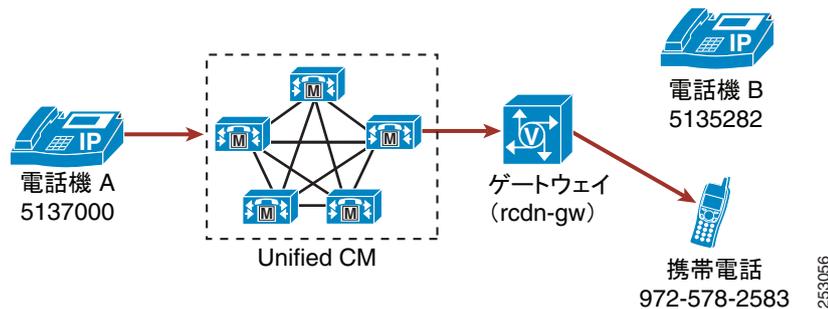
使用例 1 : Reroute Remote Destination Calls to Enterprise Number サービス パラメータが [False] に設定されている

この使用例では、Cisco Unified Communications Manager からリモート接続先に直接コールが発信される前に、次の設定が行われます。

1. Reroute Remote Destination Calls to Enterprise Number サービス パラメータが [False] に設定されます。
2. Number of Digits for Caller ID Partial Match サービス パラメータに、部分一致用の 7 桁が指定されます。
3. 電話機 A の [DN] が 5137000 に指定されます。
4. 電話機 B の [DN] が 5135282 に指定され、[オーナーのユーザ ID(Owner User ID)] が gbuster1 となります。また、[リモート接続先 (Remote Destination)] が 9725782583 に指定されます。
5. PreDot として DDI でルート パターン 9.XXXXXXXXXX が使用されます。
6. rcdn-gw ゲートウェイを指すようにルート パターンが設定されます。

図 14-1 に、Reroute Remote Destination Calls to Enterprise Number サービス パラメータが [False] に設定されているときにリモート接続先に直接送信されるコールの設定を示します。

図 14-1 使用例 1 : Reroute Remote Destination Calls to Enterprise Number サービス パラメータが [False] に設定されている



次のアクションが行われると、この使用例に示した動作が開始されます。

- 電話機 A (DN が 5137000) のユーザが、05782583 をダイヤルして携帯電話にコールを発信する。

次のコール処理が実行されます。

1. トランスレーションパターンが一致し、着信番号が 99725782583 に変換されます。
2. ルートパターン 9.XXXXXXXXXX が一致します。
3. ルートパターンによって先頭の (PreDot) 9 が削除されて、番号が 9725782583 となります。
4. リモート接続先と企業電話番号のマッピングは行われません。
5. コールは、ゲートウェイ経由でモバイルユーザにだけ送達されます。このリモート接続先が関連付けられている企業電話番号にはアンカーされません。

使用例 2 : Reroute Remote Destination Calls to Enterprise Number サービス パラメータが [True] に設定されている

この使用例では、Cisco Unified Communications Manager からリモート接続先に直接コールが発信される前に、次の設定が行われます。

1. Reroute Remote Destination Calls to Enterprise Number サービス パラメータが [True] に設定されます。
2. Number of Digits for Caller ID Partial Match サービス パラメータに、部分一致用の 7 桁が指定されます。
3. 電話機 A の [DN] が 5137000 に指定されます。
4. 電話機 B の [DN] が 5135282 に指定され、[オーナーのユーザ ID(Owner User ID)] が gbuster1 となります。また、[リモート接続先 (Remote Destination)] が 9725782583 に指定されます。
5. PreDot として DDI でルート パターン 9.XXXXXXXXXX が使用されます。
6. PreDot として DDI でトランスレーション パターン 0.XXXXXXXXX が使用され、プレフィックス番号が 9972 に指定されます。
7. rcdn-gw ゲートウェイを指すようにルート パターンが設定されます。

次のアクションが行われると、この使用例に示した動作が開始されます。

- 電話機 A (DN が 5137000) のユーザが、05782583 をダイヤルして携帯電話にコールを発信する。

次のコール処理が実行されます。

1. トランスレーション パターンが一致し、着信番号が 99725782583 に変換されます。
2. ルート パターン 9.XXXXXXXXXX が一致します。
3. ルート パターンによって先頭の (PreDot) 9 が削除されて、番号が 9725782583 となります。
4. リモート接続先と企業電話番号のマッピングが、電話機 B に対して設定されたリモート接続先に一致します。
5. コールは、呼び出し先のユーザの企業電話番号にアンカーされ、ユーザ リモート接続先に送達されます。
6. モバイル ユーザがコールに応答すると、電話機 B は [Remote In Use (リモートで使用)] (RIU) 状態になります。

使用例 3 : Ignore Call Forward All on Enterprise DN サービス パラメータが [False] に設定されている

この使用例では、Cisco Unified Communications Manager からリモート接続先に直接コールが発信される前に、次の設定が行われます。

1. Reroute Remote Destination Calls to Enterprise Number サービス パラメータが [True] に設定されます。
2. Ignore Call Forward All on Enterprise DN サービス パラメータが [False] に設定されます。
3. Number of Digits for Caller ID Partial Match サービス パラメータに、部分一致用の 7 桁が指定されます。
4. 電話機 A の [DN] が 5137000 に指定されます。
5. 電話機 B の [DN] が 5135282 に指定され、[オーナーのユーザ ID(Owner User ID)] が gbuster1 となります。また、[リモート接続先 (Remote Destination)] が 9725782583 に指定されます。電話機 B の不在転送設定として、電話機 C (DN が 5138000) への転送が指定されます。
6. PreDot として DDI でルート パターン 9.XXXXXXXXXX が使用されます。

7. PreDot として DDI でトランスレーション パターン 0.XXXXXXXX が使用され、プレフィックス番号が 9972 に指定されます。
8. rcdn-gw ゲートウェイを指すようにルート パターンが設定されます。

次のアクションが行われると、この使用例に示した動作が開始されます。

- 電話機 A (DN が 5137000) のユーザが、05782583 をダイヤルして携帯電話にコールを発信する。

次のコール処理が実行されます。

1. トランスレーション パターンが一致し、着信番号が 99725782583 に変換されます。
2. ルート パターン 9.XXXXXXXXXX が一致します。
3. 変換後、番号は 9725782583 になります。
4. リモート接続先と企業電話番号のマッピングが、電話機 B に対して設定されたリモート接続先に一致します。
5. コールは、ユーザの企業電話番号に転送され、携帯電話ではなく電話機 B に移動します。
6. Ignore Call Forward All on Enterprise DN サービス パラメータが [False] に設定されているため、コールは電話機 B から電話機 C に転送されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.14-70) を参照してください。

セッションハンドオフの使用例

セッションハンドオフ機能は、次の使用例をサポートします。

- セッションハンドオフが DTMF トーン (*74) を使用する。
- [移動] ソフトキーを使用したセッションハンドオフのイベント
- VoIP モードを使用したセッションハンドオフ
- セッションハンドオフの失敗またはユーザによるセッションハンドオフのキャンセル

セッションハンドオフが DTMF トーン (*74) を使用する。

セッションハンドオフが DTMF トーン (デフォルトは *74) を使用する場合、次の一連のイベントが発生します。

1. ユーザ A がユーザ B の机上の電話機に電話をかけます。シングルナンバー リーチ機能を使用して、ユーザ B が携帯電話でそのコールに応答します。ユーザ B の机上の電話機は、[リモートで使用 (Remote In Use)] 状態になります。
2. ユーザ B が *74 (セッションハンドオフ DTMF コード) を押します。ユーザ B の机上の電話機 (SCCP または SIP を実行しているサポート対象の電話機) が点滅します。ユーザ B はまだ携帯電話でユーザ A と話しています。
3. 会話を机上の電話機に移動するには、Session Handoff Alerting Timer サービス パラメータ (デフォルトは 10 秒) の期限が切れる前に、ユーザ B は机上の電話機からコールに応答する必要があります。このタイマーの期限が切れると、机上の電話機の点滅が停止します。ユーザ B は引き続き携帯電話から会話を継続できます。

[移動] ソフトキーを使用したセッションハンドオフのイベント

[移動] ソフトキーを使用したセッションハンドオフのイベントの場合、次の一連のイベントが発生します。

1. SIP REFER メッセージ内に埋め込まれている [移動] ソフトキーのイベントメッセージを使用して、セッションハンドオフがトリガーされます。
2. Cisco Unified Communications Manager は SIP REFER メッセージを受信すると、Cisco Unified Communications Manager はセッションハンドオフをトリガーします。

**(注)**

セッションハンドオフを開始したコールがユーザモバイルデバイスで切断されても、Session Handoff Alerting Timer の期限が切れる前に机上の電話機でコールを再開してコールを継続できます。これらの使用例は、ユーザがエレベーターやデッドゾーン/スポットなど、モバイル接続を維持できない領域に移動すると発生する場合があります。

SIP クライアントでの VoIP モードを使用したセッションハンドオフ

SIP クライアントの場合、携帯電話モードだけでなく VoIP モードでもセッションハンドオフがサポートされています。このシナリオの場合、次の手順が行われます。

1. リモート接続先で VoIP (Wi-Fi) モードで SIP クライアントを使用しているユーザが、スマートフォンで [移動] ソフトキーを使用して、セッションハンドオフを開始します。
2. Cisco Unified Communications Manager は、机上の電話機のシェアラインを点滅させ、机上の電話機がコールに応答するまでメディアを中断させません。

この機能は、ユーザがエクステンション モビリティにログオンした場合にも働くことに注意してください。

セッションハンドオフの失敗またはユーザによるセッションハンドオフのキャンセル

セッションハンドオフが失敗した場合、次の手順が行われます。

1. Cisco Unified Mobile Communicator または VoIP クライアントが、オーナー ユーザ ID が正しくないステーションへのセッションハンドオフを開始します。
2. セッションハンドオフが失敗します。「Cannot move conversation」という SIP メッセージがクライアントに送信されます。

ユーザがセッションハンドオフをキャンセルした場合、セッションハンドオフは停止します。次の手順が行われます。

1. ユーザが、Cisco Unified Mobile Communicator または VoIP クライアントからセッションハンドオフを開始します。
2. セッションハンドオフが完了する前に、ユーザがクライアントからセッションハンドオフをキャンセルします。
3. Cisco Unified Communications Manager が、セッションハンドオフをキャンセルします。シェアライン デバイスの呼び出し音が停止します。

追加情報

「関連項目」(P.14-70) を参照してください。

インタラクションおよび制限事項

Cisco Unified Communications Manager の標準機能の多くは、次の項で示す点を除き、Cisco Unified Mobility の機能と完全に互換性があります。

- 「インタラクション」 (P.14-32)
- 「制限事項」 (P.14-34)

追加情報

「関連項目」 (P.14-70) を参照してください。

インタラクション

次の各トピックでは、Cisco Unified Mobility とその他の Cisco Unified Communications Manager コンポーネントとのインタラクションについて詳しく説明します。

- 「自動コール ピックアップ」 (P.14-32)
- 「自動代替ルーティング」 (P.14-33)
- 「外部コール制御」 (P.14-33)
- 「インテリジェントセッション制御およびセッションハンドオフ」 (P.14-33)
- 「ライセンス」 (P.14-33)
- 「ローカル ルート グループ」 (P.14-34)
- 「Cisco Unified Border Element でのモバイル コネクトおよび SIP トランク」 (P.14-34)
- 「サポートされるコールの数」 (P.14-34)

自動コール ピックアップ

Cisco Unified Mobility は、サービス パラメータの選択に基づいた自動コール ピックアップと通信します。Auto Call Pickup Enabled サービス パラメータを [True] に設定すると、エンド ユーザは [ピック] ソフトキーを押すだけでコールを受けることができます。

Auto Call Pickup Enabled サービス パラメータを [False] に設定した場合、エンド ユーザは [ピック]、[G ピック]、または [他 Grp] ソフトキーを押してから、[応答] ソフトキーを押す必要があります。

自動コール ピックアップの例

電話機 A、電話機 B (Cisco Unified Mobility 加入者)、および電話機 C は Engineering グループに属し、電話機 D、電話機 E、および電話機 F は Accounting グループに属しています。

電話機 D は、Engineering グループの電話機 A にコールします。電話機 A の呼び出し音が鳴り、このグループの電話機 B および電話機 C はピックアップに関する通知を受信します。

自動コール ピックアップが有効である場合、Cisco Unified Mobility 機能を後で使用するには、電話機 B の [ピック] ソフトキーを押します。

自動コール ピックアップが有効でない場合、電話機 B の [ピック] ソフトキーを押すと、電話機 B に関連付けられているリモート接続先で呼び出し音が鳴ります。電話機 B の [応答] ソフトキーを押すと、リモート接続先での呼び出し音は停止します。ユーザはその後、携帯電話ピックアップとデスクトップ コール ピックアップを実行できます。

自動代替ルーティング

このインタラクションが実装される前は、机上の電話機が Automatic Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) に対応するように設定され、その机上の電話機が携帯電話にリモート接続先として設定されていても、帯域幅が足りない状況になった場合には、リモート接続先へのコールに対して AAR 機能がトリガーされませんでした。

Cisco Unified Mobility は現在、次のように Automatic Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) をサポートします。

- 位置情報サービスの帯域幅不足のために拒否が発生した場合、AAR に対応するように設定されているデバイスでは AAR がトリガーされます。
- ただし、Resource Reservation Protocol (RSVP) に基づいて拒否が発生した場合、リモート接続先へのコールに対して AAR はトリガーされません。

外部コール制御

「外部コール制御」の章で説明するように外部コール制御が設定されている場合、Cisco Unified Communications Manager は次の Cisco Unified Mobility 機能について付加ルートサーバからのルート決定を受け入れます。

- モバイル コネクト
- モバイル ボイス アクセス
- エンタープライズ機能アクセス
- Dial-via-Office リバース コールバック
- Dial-via-Office 転送



ヒント

モバイル ボイス アクセスまたはエンタープライズ機能アクセスを呼び出すには、エンドユーザが、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定されている機能電話番号をダイヤルする必要があります。着信側番号は（この場合）機能 DN であるため、Cisco Unified Communications Manager はコールを受信したときに、Cisco Unified Communications Manager は外部コール制御を呼び出しません。コールがアンカーされた後、Cisco Unified Communications Manager によりユーザ認証が要求され、ユーザは発信先の番号を入力します。Cisco Unified Communications Manager が発信先にコールを送達しようとする、外部コール制御が呼び出されます。Cisco Unified Communications Manager は、コールルーティングクエリを付加ルートサーバに送信して、コールの処理方法を決定します。

次の Cisco Unified Mobility 機能に対しては、Cisco Unified Communications Manager はルーティングクエリを送信しません。

- セル ピックアップ
- デスク ピックアップ
- セッション ハンドオフ

インテリジェント セッション制御およびセッション ハンドオフ

企業電話番号にアンカーされるリモート接続先への直接コールの場合、モバイル ユーザはセッションハンドオフ機能呼び出し、机上の電話機にコールをハンドオフできます。

ライセンス

モバイル コネクトでは、ライセンスが使用されます。[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで [モビリティの有効化 (Enable Mobility)] チェックボックスをオンにすると、ライセンスに対するトリガーが発生し、モバイル コネクト用にデバイス ライセン

スユニット (DLU) が消費されます。消費されるライセンス数は、Cisco Unified Mobility 専用のエンドユーザに付加デバイスを割り当てるかどうかによって異なります。ライセンスと Cisco Unified Mobility との連携の詳細については、次の各項を参照してください。

- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco Unified Mobility のライセンス」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「エンドユーザ用の Cisco Unified Mobility」

ローカル ルート グループ

リモート接続先に対するシングル ナンバー リーチ コールでは、発信側のデバイス プールによって標準ローカル ルート グループの選択が決まります。

Cisco Unified Border Element でのモバイル コネクトおよび SIP トランク

Cisco Unified Mobility は、Cisco Unified Border Element (CUBE) を利用することにより、SIP トランクでコール中機能のないモバイル コネクト機能をサポートします。

サポートされるコールの数

各リモート接続先は、最大 2 つのアクティブなコールをサポートします。Cisco Unified Mobility に対しては、各リモート接続先は Cisco Unified Communications Manager を介して、最大 2 つのアクティブなコールをサポートします。DTMF で転送や会議を行うためにエンタープライズ機能アクセス電話番号 (DID 番号) を使用することは、1 つのコールとしてカウントされます。Cisco Unified Mobility ユーザが、リモート接続先の 2 つのアクティブなコールを受けているとき、または DTMF でリモート接続先からのコールを転送して会議を行うときにコールを受信すると、受信されたコールはリモート接続先ではなく、企業のボイスメールに到達します。これはつまり、Call Forward No Answer (CFNA; 無応答時転送) が設定されていたり、コールがシェアドラインで応答されなかったりする場合です。

追加情報

「関連項目」(P.14-70) を参照してください。

制限事項

Cisco Unified Mobility は、Cisco Unified Communications Manager のその他のコンポーネントの操作に関して、次の制限を実施しています。

- 「コールのアンカー」(P.14-35)
- 「自動転送」(P.14-35)
- 「SIP を実行している Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960」(P.14-35)
- 「会議」(P.14-35)
- 「携帯電話からの + 文字のダイヤル」(P.14-36)
- 「机上の電話機での DND およびリモート接続先への直接コール」(P.14-36)
- 「デュアル モード ハンドオフおよび発信者 ID」(P.14-36)
- 「デュアル モード フォンおよびコールのアンカー」(P.14-36)
- 「デュアル モード フォンおよびコンピュータ / テレフォニー インテグレーション (CTI) アプリケーション」(P.14-36)
- 「デュアル モード フォンおよびデスクトップ コール ピックアップ」(P.14-37)

- 「SIP および登録期間を実行しているデュアルモードフォン」 (P.14-37)
- 「セルラーネットワークからのエンタープライズ機能」 (P.14-37)
- 「DTMF を使用している GSM でのエンタープライズ機能」 (P.14-37)
- 「強制承認コードとクライアント識別コード」 (P.14-37)
- 「ゲートウェイとポート」 (P.14-37)
- 「DTMF の保留が押されている場合、デスクトップコールピックアップの最大待機時間が適用されない」 (P.14-38)
- 「モバイルコネクトサポートの制限事項」 (P.14-38)
- 「Multilevel Precedence and Preemption (MLPP)」 (P.14-38)
- 「複数ノードクラスタ環境」 (P.14-38)
- 「オーバーラップ送信」 (P.14-38)
- 「Q シグナリング (QSIG) パス置換」 (P.14-38)
- 「リモート接続先プロファイル」 (P.14-38)
- 「リモート接続先」 (P.14-38)
- 「サービスパラメータ」 (P.14-39)
- 「セッションハンドオフ機能」 (P.14-39)
- 「リモート接続先への SIP URI および直接コール」 (P.14-39)
- 「ビデオコール」 (P.14-39)

コールのアンカー

コールのアンカーは、発信者 ID に基づいて実行され、登録されているシングルモードの電話機またはデュアルモードフォンからのコールだけでサポートされます。

自動転送

エンドユーザがリモート接続先を設定した場合、未登録時の不在転送を設定する必要はありません。モバイルコネクトプロセスの一部として、適切な自動転送が処理されます。

SIP を実行している Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960

SIP を実行している場合、Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 ではリモートで使用中の状態がサポートされず、そのためデスクトップコールピックアップをサポートできません。

これらの電話機では、SIP を実行している Cisco Unified IP Phone 7940 または 7960 から携帯電話に送達されたコールを携帯電話ユーザが切った場合、発信側で（リモート接続先エンドユーザの [デスクピックアップの最大待機時間 (Maximum Wait Time for Desk Pickup)] フィールドの設定に従って）10 秒間保留音が流れた後、コールが終了します。デスクトップコールピックアップ機能は、これらの電話機モデルが SIP デバイスとして実行している場合にはサポートされないため、ユーザの机上の電話機には [復帰] ソフトキーが表示されず、ユーザは机上の電話機でコールをピックアップできません。

Cisco Unified Mobility に対して有効なユーザについては、SCCP を実行するように Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 を設定することをお勧めします。

会議

モバイルボイスアクセスを使用する場合、ユーザは会議の管理者としてミーティングを開始することはできませんが、ミーティングに参加することはできます。

既存の会議コールが、リモート接続先のシェアドライン IP Phone、デュアルモードフォン、またはスマートフォンから開始されている場合、会議コールが携帯電話に送信された後や、デュアルモードハンドオフアクションが発生した後では、既存の会議に新しい会議参加者を追加できません。新しい会議参加者の追加を可能にするには、Advanced Ad Hoc Conference Enabled サービスパラメータを使用します。

携帯電話からの + 文字のダイヤル

ユーザは携帯電話で DTMF を使用して + 記号をダイヤルすると、国際エスケープ文字を指定できます。

Cisco Unified Mobility では、携帯電話から電話番号に + 文字を含む企業の IP Phone にコールを発信するために、対話型音声応答 (IVR) 用の DTMF を使用して + をダイヤルすることはサポートされていません。

Cisco Unified Mobility では、携帯電話から電話番号に + 文字を含む企業の IP Phone にコールを発信するために、2 段階ダイヤリング用の DTMF を使用して + をダイヤルすることはサポートされていません。

Cisco Unified Communications Manager の管理での国際エスケープ文字の設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[国際エスケープ文字 + の使用](#)」の項を参照してください。

机上の電話機での DND およびリモート接続先への直接コール

机上の電話機は、[サイレント (Do Not Disturb)] (DND) が有効になっていると、[リモートで使用 (Remote In Use)] (RIU) 状態にできません。次の場合、コールはアンカーされません。

- DND がコール拒否オプションとともに有効になっている：コールをアンカーできません。
- 机上の電話機で [DND] ソフトキーを押して DND がアクティブになる：コールをアンカーできません。

ただし、DND が呼出音オフのオプションとともに有効になっている場合、コールはアンカーされます。

デュアルモードハンドオフおよび発信者 ID

デュアルモードハンドオフを使用するには、セルラーネットワークで発信者 ID が使用可能になっている必要があります。

デュアルモードフォンおよびコールのアンカー

リモート接続先として設定されているデュアルモードフォン (Cisco Unified Mobility Advantage と、SCCP または SIP を実行しているデュアルモードフォン) は、コールをアンカーできません。

デュアルモードフォンおよびコンピュータ / テレフォニー インテグレーション (CTI) アプリケーション

デュアルモードフォンが Wireless Fidelity (Wi-Fi) エンタープライズモードの場合、この電話機を CTI アプリケーションで管理したり監視したりできません。

WLAN でシェアドライン コールを受けているデュアルモードフォンの [リモートで使用] インジケータは、デュアルモードフォンが WLAN の範囲外に移動した場合は、表示されなくなります。

デュアル モード フォンおよびデスクトップ コール ピックアップ

デスクトップ コール ピックアップ機能は、次の携帯電話のモデルには適用されません。

- SIP を実行している Nokia 902iL および Nokia 906iL デュアル モード フォン
- Skinny Client Control Protocol (SCCP) を実行している Nokia S60 デュアル モード フォン

これらの電話機モデルでは、携帯電話ユーザがコールを切ると、発信側では (リモート接続先エンドユーザの [デスクピックアップの最大待機時間 (Maximum Wait Time for Desk Pickup)] フィールドの設定に従って) 10 秒間保留音が流れた後、コールが終了します。デスクトップ コール ピックアップ機能はこれらの電話機モデルではサポートされていないため、ユーザの机上の電話機には [復帰] ソフトキーが表示されず、ユーザは机上の電話機でコールをピックアップできません。

SIP および登録期間を実行しているデュアル モード フォン

SIP を実行しているデュアル モード フォンの場合、Cisco Unified Communications Manager は SIP Station KeepAlive Interval サービス パラメータに指定されている値ではなく、電話機と関連付けられている SIP プロファイルの [レジスタのタイムアウト値 (Timer Register Expires、秒)] フィールドの値を使用して登録期間を決定します。

セルラー ネットワークからのエンタープライズ機能

セルラー ネットワークからエンタープライズ機能を使用するには、アウトオブバンド DTMF が必要です。



(注)

SIP トランク (クラスタ間トランク (ICT) またはゲートウェイ) を介した IP Phone のリモート接続先としてクラスタ間 DN を使用する場合は、IP Phone の設定時に [DTMF 受信が必要 (Require DTMF Reception)] チェックボックスをオンにして、DTMF 番号をアウトオブバンドで受信できるようにします。このことは、エンタープライズ機能アクセスのコール中の機能に重要です。

DTMF を使用している GSM でのエンタープライズ機能

DTMF を使用する場合、GSM でエンタープライズ機能を使用できるかどうかは、サードパーティ製のスマートフォンでサポートされている機能によって異なります。

強制承認コードとクライアント識別コード

Forced Authorization Code (FAC; 強制承認コード) 機能と Client Matter Code (CMC; クライアント識別コード) 機能は、モバイル ボイス アクセスおよびエンタープライズ機能アクセス 2 段階ダイヤリングとは連携しません。

強制承認コード (FAC) は、リモート接続先へのモバイル コネクト (Single Number Reach (SNR; シングル ナンバー リーチ)) コール用に呼び出されません。

ゲートウェイとポート

モバイル ボイス アクセスでは、H.323 ゲートウェイと SIP VoIP ゲートウェイの両方がサポートされます。

モバイル コネクト機能は、T1 CAS、FXO、FXS、および BRI ではサポートされません。

DTMF の保留が押されている場合、デスクトップ コール ピックアップの最大待機時間が適用されない

ユーザがリモート接続先（スマートフォンまたは他の電話機）から *81 DTMF コードを押してコールを保留にしている場合、ユーザの机上の電話機には [復帰] ソフトキーが表示されます。ただし、机上の電話機はデスクトップ コール ピックアップにはタイマーを適用しません。[復帰] ソフトキーは、エンドユーザがコールをピックアップするように設定されているタイムアウト後もそのまま表示され、コールは終了しません。

代わりにユーザは、机上の電話機をトリガーしてデスクトップ コール ピックアップにタイマーを適用させているリモート電話機で、コールを切る必要があります（この設定を変更するには、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウの [デスクピックアップの最大待機時間 (Maximum Wait Time for Desk Pickup)] フィールドを使用します）。

モバイル コネクト サポートの制限事項

モバイル コネクト機能は、Primary Rate Interface (PRI; 1 次群速度インターフェイス) Public Switched Telephone Network (PSTN; 公衆電話交換網) 接続でだけサポートされます。

SIP トランクの場合、モバイル コネクトは IOS ゲートウェイまたはクラスタ間トランク経由でサポートされます。

Multilevel Precedence and Preemption (MLPP)

モバイル コネクトは、Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) とは連携しません。コールが MLPP によってプリエンプション処理された場合、モバイル コネクト機能はそのコールに対して無効になります。

複数ノード クラスタ環境

複数ノード クラスタ環境では、Cisco Unified Communications Manager のパブリッシャ サーバが到達不能の場合、エンドユーザがモバイル ボイス アクセスまたは 2 段階ダイヤリングを介して、モバイル コネクトをオンまたはオフにするための変更を加えても、その変更は保存されません。

オーバーラップ送信

インテリジェントセッション制御機能では、オーバーラップ送信パターンはサポートされません。

Q シグナリング (QSIG) パス置換

QSIG (Q シグナリング) パス置換はサポートされません。

リモート接続先プロファイル

リモート接続先プロファイルに関連付けられた電話番号を設定する場合、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウの [表示 (Display、内線発信者 ID)] フィールドには、ASCII 文字だけを使用する必要があります。

リモート接続先

リモート接続先は、Time Division Multiplex (TDM; 時分割多重) デバイスである必要があります。Cisco Unified Communications Manager クラスタ内では IP Phone をリモート接続先として設定できません。

リモート接続先が、PSTN 番号または ICT 上の番号を指定していることを確認してください。

リモート接続先は、Cisco Unified IP Phone が保留にしているコールを再開できません。

サービス パラメータ

エンタープライズ機能アクセスのサービス パラメータは、標準の電話機またはスマートフォンに適用されます。ただし、スマートフォンは、通常、ワンタッチ キーを使用して適切なコードを送信します。管理者は、モバイル コネクトで使用するすべてのスマートフォンに対して、エンタープライズ機能アクセスのデフォルト コードまたはスマートフォンのマニュアルで指定されているコードのどちらかを使用するように設定する必要があります。

セッション ハンドオフ機能

セッション ハンドオフ機能には、次の制限事項があります。

- セッション ハンドオフは、携帯電話から机上の電話機に対してだけ実行できます。逆方向の場合、現在のリモート接続先ピックアップ方式には携帯電話へのコールの送信機能を使用します。
- オーディオ コール セッション ハンドオフだけがサポートされます。

リモート接続先への SIP URI および直接コール

インテリジェント セッション制御機能は、直接 URI ダイアルをサポートしていません。このため、SIP URI に発信されたコールは企業電話番号にアンカーできません。

ビデオ コール

モバイル コネクトのサービスは、ビデオ コールには提供されません。机上の電話機で受信したビデオ コールは、携帯電話では取得できません。

追加情報

「関連項目」(P.14-70) を参照してください。

システム要件

モバイル コネクトとモバイル ボイス アクセスには、次のソフトウェア コンポーネントが必要です。

- Cisco Unified Communications Manager 6.0 以降
- パブリッシュャ上でだけ稼動する Cisco Unified Mobile Voice Access サービス
- Cisco Unified Communications Manager Locale Installer (英語以外の電話ロケール、または国に固有のトーンを使用する場合)

どの IP Phone でモバイル コネクトおよびモバイル ボイス アクセスが機能するかを確認するには、適切な Cisco Unified IP Phone アドミニストレーション ガイドと Cisco Unified IP Phone ユーザ ガイドを参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.14-70) を参照してください。

Cisco Unified MobilityManager からの移行

スタンドアロンの Cisco Unified MobilityManager データを Cisco Unified Communications Manager 以降へ移行するには、次のプロセスに従います。

1. 必要に応じて、Cisco Unified MobilityManager システムをリリース 1.2(5) にアップグレードします。『*Release Notes for Cisco Unified MobilityManager Release 1.2(5)*』を参照してください。
2. Cisco Unified MobilityManager にログインし、設定データを CSV 形式でエクスポートします。手順については、『*Release Notes for Cisco Unified MobilityManager Release 1.2(5)*』を参照してください。
3. Cisco Unified Communications Manager の管理ページにログインし、[一括管理 (Bulk Administration)] の [インポート/エクスポート (Import/Export)] にあるウィンドウを使用して、Cisco Unified MobilityManager からエクスポートされた CSV データ ファイルをインポートします。『*Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド*』の「アクセスリスト」、「リモート接続先」、および「リモート接続先プロファイル」の章を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.14-70) を参照してください。

Cisco Unified Mobility の設定

この項では、Cisco Unified Communications Manager にネイティブな Cisco Unified Mobility 機能をプロビジョニングするように設定する必要がある各 Cisco Unified Communications Manager の管理メニュー オプションの詳細な手順について説明します。

管理者が Cisco Unified Communications Manager にネイティブな Cisco Unified Mobility 機能を設定するために必要な手順をまとめたチェックリストについては、「[Cisco Unified Mobility の設定チェックリスト](#)」(P.14-3) を参照してください。

エンドユーザは、Cisco Unified CM のユーザ オプションのウィンドウを使用して、携帯電話に適用される Cisco Unified Mobility の設定をさらに詳しく構成したり、または変更したりできます。

ここでは、次のトピックについて説明します。

- 「[アクセス リストの設定](#)」(P.14-41)
- 「[リモート接続先プロファイルの設定](#)」(P.14-44)
- 「[リモート接続先の設定](#)」(P.14-50)
- 「[モバイル ボイス アクセスの電話番号の設定](#)」(P.14-56)
- 「[エンタープライズ機能アクセス用のゲートウェイの設定](#)」(P.14-58)
- 「[エンタープライズ機能アクセス 2 段階ダイヤリング](#)」(P.14-62)
- 「[モビリティ エンタープライズ機能設定](#)」(P.14-64)
- 「[ハンドオフ モビリティ設定](#)」(P.14-65)
- 「[\[モビリティプロファイル設定 \(Mobility Profile Configuration\)\]](#)」(P.14-66)
- 「[モビリティ ソフトキーの設定](#)」(P.14-69)



ヒント

Cisco Unified Mobility を設定する前に、「[Cisco Unified Mobility の設定チェックリスト](#)」(P.14-3) を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.14-70) を参照してください。

アクセス リストの設定

アクセス リストを定義すると、発信者 ID に基づいて、リモート接続先に送信されるモバイルコネクト コールの内線を明示的に許可またはブロックできます。

アクセス リストの設定については、次の項を参照してください。

- 「アクセス リストの設定項目」 (P.14-41)
- 「アクセス リスト メンバの詳細の設定項目」 (P.14-43)

追加情報

「関連項目」 (P.14-70) を参照してください。

アクセス リストの設定項目

アクセス リストを設定するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [アクセスリスト (Access List)] メニュー パスを使用します。

Cisco Unified Mobility をサポートしているアクセス リストは、リモート接続先への送信が許可またはブロックされている電話番号を指定したリストです。Cisco Unified Mobility の詳細については、「関連項目」 (P.14-70) を参照してください。

アクセス リストの設定に関するヒント

アクセス リストを設定するときは、次の手順に従ってリストのメンバを設定します。

-
- ステップ 1** アクセス リストのメンバを設定する場合は、[メンバの追加 (Add Member)] をクリックし、表 14-5 で説明されているパラメータの値を入力します。
- ステップ 2** [保存 (Save)] をクリックします。
- [アクセスリストの設定 (Access List Configuration)] ウィンドウが再度開き、[選択されたフィルタ (Selected Filters)] 領域に、新しい番号またはフィルタが表示されます。
- ステップ 3** [アクセスリストの設定 (Access List Configuration)] ウィンドウで、フィルタを追加し、必要に応じて既存のアクセス リストを変更します。
- DN マスクを変更するには、ウィンドウ下部の [アクセスリストメンバ (Access List Members)] の下にある電話番号のリンクをクリックし、変更値を入力してから、[保存 (Save)] をクリックします。
 - フィルタを削除するには、フィルタを選択し、[削除 (Delete)] をクリックします。
 - フィルタを削除せずに非アクティブにするには、[選択されたフィルタ (Selected Filters)] ペインでフィルタを選択し、下向きの矢印をクリックして、フィルタを [削除されたフィルタ (Removed Filters)] ペインに移動します。
 - フィルタをアクティブにするには、[削除されたフィルタ (Removed Filters)] ペインでフィルタを選択し、上向きの矢印をクリックして、フィルタを [選択されたフィルタ (Selected Filters)] 領域に移動します。
 - 既存のリストと同じメンバを含む新しいアクセス リストを作成するには、[コピー (Copy)] をクリックします。
-

アクセス リストの削除に関するヒント

リモート接続先が使用しているアクセス リストは削除できません。アクセス リストを使用している項目を検索するには、[アクセスリストの設定 (Access List Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択します。依存関係レコードがシステムで使用できない場合は、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。使用中のアクセス リストを削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager によってメッセージが表示されます。現在使用しているアクセス リストを削除する前に、次の作業のいずれかまたは両方を実行する必要があります。

- 削除するアクセス リストを使用しているリモート接続先に、別のアクセス リストを割り当てます。「[リモート接続先の設定](#)」(P.14-50) を参照してください。
- 削除するアクセス リストを使用しているリモート接続先を削除します。「[リモート接続先の設定](#)」(P.14-50) を参照してください。

GUI の使用方法

Cisco Unified Communications Manager の管理の Graphical User Interface (GUI; グラフィカル ユーザー インターフェイス) を使用してレコードを検索、削除、設定、またはコピーする方法については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションでの操作](#)」およびそのサブセクションを参照してください。GUI の使用方法とボタンおよびアイコンの機能の詳細が説明されています。

設定項目の表

表 14-4 は、[アクセスリストの設定 (Access List Configuration)] ウィンドウ内の使用可能な設定を示しています。Cisco Unified Mobility の詳細については、「[関連項目](#)」(P.14-70) を参照してください。

表 14-4 アクセス リストの設定項目

フィールド	説明
[アクセスリスト情報 (Access List Information)]	
[名前 (Name)]	このアクセス リストの一意の名前 (1 ~ 50 文字) を入力します。 引用符 (")、右山カッコ (>)、左山カッコ (<)、バックスラッシュ (\)、アンパサンド (&)、およびパーセント記号 (%) を除くすべての文字を使用できます。
[説明 (Description)]	このアクセス リストの説明 (1 ~ 128 文字) を入力します。 タブや引用符 (") など、出力されない文字を除くすべての文字を使用できます。
[オーナー (Owner)]	ドロップダウン リスト ボックスで、アクセス リストの適用先のエンド ユーザを選択します。
[許可 (Allowed)]	メンバの電話番号からのコールがリモート接続先に送信されるようにするには、このオプション ボタンをクリックします。
[ブロック (Blocked)]	メンバの電話番号からのコールがリモート接続先に送信されるのをブロックするには、このオプション ボタンをクリックします。

表 14-4 アクセス リストの設定項目 (続き)

フィールド	説明
[アクセスリストメンバ情報 (Access List Member Information)]	
[選択されたフィルタ (Selected Filters)]	<p>このペインには、アクセスリストの現在のメンバが表示されます。メンバは次のタイプで構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [非通知 (Private)] : このフィルタは、発信者 ID を表示しない非通知番号からのコールに適用されます。 • [使用不可 (Not Available)] : このフィルタは、発信者 ID を持たない番号からのコールに適用されます。 • [電話番号 (Directory Number)] : このフィルタは、カッコで囲まれた電話番号を指定します。たとえば、(12345) です。有効な値は、0 ~ 9 までの数字と、ワイルドカード文字 X、!、および # です。 <p>このペインの下側にある矢印を使用して、アクセスリストのメンバをこのペインに対して追加および削除します。</p> <p>[メンバの追加 (Add Member)] : このボタンをクリックして、新しいメンバを [選択されたフィルタ (Selected Filters)] ペインに追加します。[アクセスリストメンバの詳細 (Access List Member Detail)] ウィンドウが開きます。詳細については、「アクセス リスト メンバの詳細の設定項目 (P.14-43)」を参照してください。</p>
[削除されたフィルタ (Removed Filters)]	<p>このペインは、このアクセスリストに対して定義されているものの現在は選択されていないフィルタを指定します。</p> <p>このペインの上側にある矢印を使用して、アクセスリストのメンバをこのペインに対して追加および削除します。</p>

追加情報

「[関連項目 \(P.14-70\)](#)」を参照してください。

アクセス リスト メンバの詳細の設定項目

アクセスリストの設定中に [アクセスリストの設定 (Access List Configuration)] ウィンドウで [メンバの追加 (Add Member)] ボタンをクリックすると、[アクセスリストメンバの詳細 (Access List Member Detail)] ウィンドウが表示されます。[アクセスリストメンバの詳細 (Access List Member Detail)] ウィンドウでは、アクセスリストメンバに関する次の設定値を設定できます。

- [フィルタマスク (Filter Mask)]
- [DN マスク (DN Mask)]

新しいアクセスリストメンバの設定が完了すると、この新しいアクセスリストメンバが、対応する [アクセスリストの設定 (Access List Configuration)] ウィンドウの下部にある [アクセスリストメンバ (Access List Members)] ペインに表示されます。いずれかのアクセスリストメンバをクリックして、そのアクセスリストメンバの設定を表示または変更できます。何も変更せずに [アクセスリストメンバの詳細 (Access List Member Detail)] ウィンドウを終了するには、[[関連リンク \(Related Links\)](#)] ドロップダウン リスト ボックスの [[検索 / リストに戻る \(Back to Find/List\)](#)] を選択して、[[移動 \(Go\)](#)] をクリックします。

表 14-5 は、[アクセスリストメンバの詳細 (Access List Member Detail)] ウィンドウ内の使用可能な設定を示しています。

表 14-5 アクセス リストメンバの詳細の設定項目

フィールド	説明
[フィルタマスク (Filter Mask)]	ドロップダウン リスト ボックスからオプションを選択します。[電話番号 (Directory Number)] (電話番号の入力)、[使用不可 (Not Available)] (発信者 ID を持たないコールの除外)、または [非通知 (Private)] (発信者 ID を表示せずに許可またはブロックする番号の指定) のいずれかを選択できます。
[DN マスク (DN Mask)]	<p>[フィルタマスク (Filter Mask)] フィールドで [電話番号 (Directory Number)] を選択した場合は、[DN マスク (DN Mask)] フィールドに電話番号またはフィルタを入力します。フィルタを定義するときは、次のワイルドカードを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X (大文字または小文字) : 1 桁の数字と一致します。 • ! : 任意の桁の数字と一致します。 • # : 完全一致用の 1 桁の数字として使用します。 <p>例 :</p> <ul style="list-style-type: none"> • 408! は、408 で始まるすべての番号と一致します。 • 408555123X は、4085551230 ~ 4085551239 のすべての番号と一致します。 <p>(注) 先行文字+で始まる発信側番号からの着信コールをフィルタリングするには、サポートされているワイルドカードを電話番号の前に付加している場合を除いて、[DN マスク (DN Mask)] フィールドに先行文字+を含める必要があります。たとえば、+14081239876 をブロックする場合は、エンドユーザのアクセス リストの [DN マスク (DN Mask)] フィールドに +14081239876 または !14081239876 を指定する必要があります。</p>

追加情報

「関連項目」(P.14-70) を参照してください。

リモート接続先プロファイルの設定

リモート接続先プロファイルの設定については、次の項を参照してください。

- 「リモート接続先プロファイルの設定項目」(P.14-45)
- 「電話番号とリモート接続先プロファイルの関連付け」(P.14-49)

追加情報

「関連項目」(P.14-70) を参照してください。

リモート接続先プロファイルの設定項目

リモート接続先プロファイルを設定するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profiles)] メニューパスを使用します。

Cisco Unified Mobility をサポートしているリモート接続先プロファイルは、ユーザのすべてのリモート接続先に適用されるパラメータのセットです。Cisco Unified Mobility の詳細については、「[関連項目](#)」(P.14-70) を参照してください。

リモート接続先プロファイルの設定に関するヒント

リモート接続先プロファイルには、ユーザのリモート接続先すべてに適用されるパラメータが含まれています。モバイルコネクタ用のユーザアカウントを設定した後に（『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[エンドユーザの設定](#)」の章を参照）、ユーザのリモート接続先プロファイルを作成できます。

リモート接続先プロファイルの削除に関するヒント

リモート接続先と関連付けられているリモート接続先プロファイルを削除できます。リモート接続先プロファイルと、関連付けられているリモート接続先の両方を削除しようとしていることを示す警告メッセージが表示されます。

リモート接続先プロファイルを使用している項目を検索するには、[リモート接続先プロファイルの設定 (Remote Destination Profile Configuration)] ウィンドウの [[関連リンク \(Related Links\)](#)] ドロップダウンリストボックスから [[依存関係レコード \(Dependency Records\)](#)] を選択します。依存関係レコードがシステムで使用できない場合は、[[依存関係レコード要約 \(Dependency Records Summary\)](#)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。

GUI の使用方法

Cisco Unified Communications Manager の管理の Graphical User Interface (GUI; グラフィカル ユーザ インターフェイス) を使用してレコードを検索、削除、設定、またはコピーする方法については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションでの操作](#)」およびそのサブセクションを参照してください。GUI の使用方法とボタンおよびアイコンの機能の詳細が説明されています。

設定項目の表

表 14-6 は、[リモート接続先プロファイルの設定 (Remote Destination Profile Configuration)] ウィンドウ内の使用可能な設定を示しています。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.14-70) を参照してください。

表 14-6 リモート接続先プロファイルの設定項目

フィールド	説明
[リモート接続先プロファイル情報 (Remote Destination Profile Information)]	
[名前 (Name)]	リモート接続先プロファイルの名前を入力します。 この名前には、最長 50 文字を指定できます。有効な文字は、英字、数字、ダッシュ、ドット（ピリオド）、スペース、およびアンダースコアです。

表 14-6 リモート接続先プロファイルの設定項目 (続き)

フィールド	説明
[説明 (Description)]	<p>リモート接続先プロファイルの説明を入力します。</p> <p>このフィールドには、最長 128 文字を指定できます。引用符 (")、右山カッコ (>)、左山カッコ (<)、バックスラッシュ (\)、アンパサンド (&)、およびパーセント記号 (%) を除くすべての文字を使用できます。</p>
[ユーザ ID(User ID)]	<p>このプロファイルを割り当てるユーザを選択します。このユーザは、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで [モビリティの有効化 (Enable Mobility)] がオンになっているユーザの ID と一致している必要があります。</p>
[デバイスプール (Device Pool)]	<p>このプロファイルに適用するデバイス プールを選択します。デバイス プールは、リージョン、日時グループ、ソフトキー テンプレート、および MLPP 情報などのデバイスの共通特性のセットを定義します。</p>
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>モバイル ボイス アクセス コールまたはエンタープライズ機能アクセス コールのルーティングに使用する Calling Search Space (CSS; コーリング サーチ スペース) を選択します。</p> <p>(注) このコーリング サーチ スペースの設定は、リモート接続先からのコールをルーティングする場合にだけ適用されます。この設定は、モバイル ボイス アクセス コールおよびエンタープライズ機能アクセス コールのダイヤル番号への発信コール レッグを示します。</p>
[ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source)]	<p>モバイル コネクト コールとモバイル ボイス アクセス コールにおいてユーザを保留にする場合のオーディオ オプションを選択します。</p>
[ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source)]	<p>モバイル コネクト コールとモバイル ボイス アクセス コールに対するマルチキャスト オーディオ ソースを提供する Internetwork Operating System (IOS) ゲートウェイのオーディオ ソースを選択します。</p>
[プライバシ (Privacy)]	<p>リモート接続先プロファイルのプライバシー オプションを選択します。</p> <p>このフィールドで [デフォルト (Default)] 値を選択した場合、設定は Privacy Setting サービス パラメータの値に一致します。</p> <p>(注) Privacy Setting サービス パラメータの値を変更して保存した場合は、サービス パラメータの変更を有効にするために、[デフォルト (Default)] を指定したリモート接続先プロファイルの [リモート接続先プロファイルの設定 (Remote Destination Profile Configuration)] ウィンドウに戻って、[保存 (Save)] をクリックする必要があります。</p> <p>(注) Remote Destination Profile Privacy が [On] で、Enforce Privacy Setting on Held Calls サービス パラメータが [True] である場合、携帯電話から机上の電話機にコールは転送できません。</p> <p>設定の詳細については、「割り込みとプライバシー」を参照してください。</p>

表 14-6 リモート接続先プロファイルの設定項目 (続き)

フィールド	説明
[コーリングサーチスペースの再ルーティング (Rerouting Calling Search Space)]	<p>モバイル コネクト コール のルーティング に使用される コーリングサーチ スペース を選択 します。</p> <p>(注) [コーリングサーチスペースの再ルーティング (Rerouting Calling Search Space)] に割り当てるパーティションには、モバイル コール をルーティング するように設定されたゲートウェイが割り当てられている必要があります。Cisco Unified Communications Manager は、リモート接続先番号と [コーリングサーチスペースの再ルーティング (Rerouting Calling Search Space)] に基づいて、コールのルーティング方法を判別 します。</p> <p>(注) [コーリングサーチスペースの再ルーティング (Rerouting Calling Search Space)] はコールをリモート接続先またはモビリティ ID にルーティングする場合にだけ適用 されます。この設定は、コールがユーザの企業電話番号に着信した場合の、リモート接続先またはモビリティ ID への発信コール レッグを示 します。</p> <p>(注) デバイスが企業 WLAN と関連付けられ、Cisco Unified Communications Manager に登録されている場合、モバイル コネクト コール はデュアルモードの携帯電話の番号と対応しているデュアルモードのモビリティ ID 番号にはルーティングされ ません。デバイスが企業の外部にある場合にだけ、モバイル コネクト コール はデュアルモードのモビリティ ID 番号にルーティングされ ます。</p>

表 14-6 リモート接続先プロファイルの設定項目 (続き)

フィールド	説明
[発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)]	<p>トランスフォーメーション用のコーリング サーチ スペースを選択します。この設定により、デバイスの発信側の番号をローカライズできるようになります。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>(注) コーリング サーチ スペース内のパーティションには、発信側トランスフォーメーションだけを含まれる必要があります。</p> <p>(注) コーリング サーチ スペースはヌルにしないでください。ヌルパーティションにはトランスフォーメーションを適用できません。</p> <p>(注) 発呼側トランスフォーメーション CSS が存在するパーティションにパターンが割り当てられるため、デバイスは発信側のトランスフォーメーションパターンの属性を使用しません。たとえば、[コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の順に選択して発呼側トランスフォーメーション CSS を設定する場合は、CSS をパーティションに割り当てます。[コールルーティング (Call Routing)] > [トランスフォーメーションパターン (Transformation Pattern)] > [発呼側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)] の順に選択して発呼側トランスフォーメーション CSS を設定する場合は、発呼側トランスフォーメーション CSS が割り当てられたパーティションを選択します。</p>
[デバイスプールの発呼側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	<p>デバイスに割り当てられているデバイス プールで設定された発呼側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにすると、デバイスは、[リモート接続先プロファイルの設定 (Remote Destination Profile Configuration)] ウィンドウで設定した発呼側トランスフォーメーション CSS を使用します。</p>
[ユーザロケール (User Locale)]	<p>このドロップダウン リスト ボックスで、電話機のユーザ インターフェイスに関連するロケールを選択します。ユーザ ロケールは、言語やフォントなど、ユーザをサポートする一連の詳細情報を示します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、ローカリゼーションをサポートする電話機モデルでだけ、このフィールドを使用可能にします。</p> <p>(注) ユーザが英語以外の言語で (電話機に) 情報を表示するよう要求する場合は、ユーザ ロケールを設定する前に、ロケールインストーラがインストールされていることを確認してください。Cisco Unified Communications Manager の Locale Installer のマニュアルを参照してください。</p>
[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)]	<p>接続側の回線 ID 表示を無視する場合は、チェックボックスをオンにします。内線コールにはこの設定を使用します。</p>

表 14-6 リモート接続先プロファイルの設定項目 (続き)

フィールド	説明
[関連付けられたリモート接続先 (Associated Remote Destinations)]	
[新規リモート接続先の追加 (Add a New Remote Destination)]	このリンクをクリックして [リモート接続先の設定 (Remote Destination Configuration)] ウィンドウを開くと、このリモート接続先プロファイルに関連付けるための新しいリモート接続先を設定できます。デフォルトでは、現在のリモート接続先プロファイルが、新しいリモート接続先の [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)] フィールドに選択されています。詳細については、「 リモート接続先の設定 」(P.14-50) を参照してください。
[名前 (Name)]	リモート接続先がすでに存在し、このリモート接続先プロファイルに関連付けられている場合、このカラムにその名前が表示されます。
[接続先番号 (Destination Number)]	リモート接続先がすでに存在し、このリモート接続先プロファイルに関連付けられている場合、このカラムにその接続先番号が表示されます。
[サイレント (Do Not Disturb)]	
[サイレント (Do Not Disturb)]	電話機でサイレントを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[DND オプション (DND Option)]	[コール拒否 (Call Reject)] オプションは、着信コールに関する情報がユーザに何も表示されないよう設定します。 (注) モバイルデバイス、デュアルモードフォン、および SCCP を実行している電話機の場合は、[コール拒否 (Call Reject)] オプションだけを選択できます。モバイルデバイスまたはデュアルモードフォンで Do Not Disturb (DND; サイレント) の [コール拒否 (Call Reject)] をアクティブにしている場合、デバイスにはコール情報は何も表示されません。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.14-70) を参照してください。

電話番号とリモート接続先プロファイルの関連付け

リモート接続先プロファイルを作成した後に、ユーザの机上の電話機 (複数可) の DN レコードを関連付ける必要があります。[リモート接続先プロファイルの設定 (Remote Destination Profile Configuration)] ウィンドウの [新規 DN を追加 (Add a New DN)] リンクをクリックし、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[電話番号の設定](#)」の章に記載されている手順を実行します。

**(注)**

[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウでリモート接続先プロファイルの関連付けが解除されている場合は、[リモート接続先 (Remote Destination)] ウィンドウで、DN に対する [回線アソシエーション (Line Association)] チェックボックスをオンにして、再度関連付ける必要があります。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.14-70) を参照してください。

リモート接続先の設定

リモート接続先プロファイルとアクセス リストを作成した後に、個々のリモート接続先を入力し、プロファイルに割り当てることができます。各リモート接続先は、リモート接続先ピックアップ（ユーザの机上の電話機からの転送を受信する）を実行したり、回線が机上の電話機と共有されているためにシステムから送信される着信モバイル コネクト コールを受信したりするように設定できる携帯電話またはその他の電話機です。

新しいリモート接続先を保存すると、ウィンドウに [割り当て情報 (Association Information)] ペインが表示されます。このセクションには、リモート接続先プロファイルに割り当てられている机上の電話番号が表示されます。リンクをクリックすると、関連付けられた [電話番号情報 (Directory Number Information)] ウィンドウが開きます。『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話番号の設定値」を参照してください。



(注)

この項では、[リモート接続先の設定 (Remote Destination Configuration)] ウィンドウを開いてリモート接続先のレコードにアクセスする方法について説明します。また、リモート接続先プロファイルの下部にある [新規リモート接続先の追加 (Add a New Remote Destination)] リンクをクリックして、[リモート接続先プロファイルの設定 (Remote Destination Profile Configuration)] ウィンドウで既存または新規のレコードを開く方法もあります。リモート接続先プロファイルを表示する手順については、「リモート接続先プロファイルの設定」(P.14-44) を参照してください。

リモート接続先の設定については、次の項を参照してください。

- 「リモート接続先の設定項目」(P.14-50)

追加情報

「関連項目」(P.14-70) を参照してください。

リモート接続先の設定項目

リモート接続先を設定するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [デバイス (Device)] > [リモート接続先 (Remote Destination)] メニュー パスを使用します。

リモート接続先は、モバイル コネクトの応答およびピックアップに使用できる電話機、およびモバイル ボイス アクセスに到達するために使用されるロケーションです。リモート接続先には、次のいずれかのデバイスが含まれる場合があります。

- シングル モードの携帯電話
- スマートフォン
- デュアル モードフォン
- 机上の電話機とは別のクラスタにある企業の IP Phone
- PSTN における自宅の電話番号

Cisco Unified Mobility の詳細については、「関連項目」(P.14-70) を参照してください。

リモート接続先の設定に関するヒント

エンド ユーザは、Cisco Unified CM のユーザ オプションのウィンドウで独自のリモート接続先を作成できます。この操作方法については、電話機モデルのユーザ ガイドを参照してください。

表 14-7 にあるタイマー設定は、サービス プロバイダー固有となる場合があります。デフォルトのタイマー設定を使用したときにコールを転送できない場合は、設定を調整して、リモート接続先の電話機のサービス プロバイダーに適合させる必要があります。

このリモート接続先とともに使用する机上の電話機の [回線アソシエーション (Line Association)] チェックボックスをオンにします。この手順は、モバイル コネクトを動作させるのに必要です。



(注)

このステップを実行するには、リモート接続先と関連付けられているリモート接続先プロファイルですでに電話番号が設定されていることが必要です。

リモート接続先の削除に関するヒント

リモート接続先を使用している項目を検索するには、[リモート接続先の設定 (Remote Destination Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択します。依存関係レコードがシステムで使用できない場合は、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。

GUI の使用方法

Cisco Unified Communications Manager の管理の Graphical User Interface (GUI; グラフィカル ユーザ インターフェイス) を使用してレコードを検索、削除、設定、またはコピーする方法については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションでの操作](#)」およびそのサブセクションを参照してください。GUI の使用方法とボタンおよびアイコンの機能の詳細が説明されています。

設定項目の表

表 14-7 は、[リモート接続先の設定 (Remote Destination Configuration)] ウィンドウ内の使用可能な設定を示しています。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.14-70) を参照してください。

表 14-7 リモート接続先の設定項目

フィールド	説明
[リモート接続先情報 (Remote Destination Information)]	
[携帯 ID 情報 (Mobile Identity Information)]	
[名前 (Name)]	リモート接続先または携帯 ID を識別する名前を入力します。

表 14-7 リモート接続先の設定項目 (続き)

フィールド	説明
[接続先番号 (Destination Number)]	<p>接続先の電話番号を入力します。市外局番のほか、外線へのアクセスに必要な追加の番号があればすべて含めます。フィールドの最大長は 24 文字です。個々の文字には、0 ~ 9 の数値、*、#、および + を使用できます。リモート接続先の発信者 ID を設定することをお勧めします。</p> <p>(注) 接続先番号のルーティングに必要なトランスレーションパターンまたはルートパターンを追加してください。</p> <p>SIP URI 機能に対しては、このフィールドに 126 文字以内の Universal Resource Identifier (URI) を入力することもできます (<i>user@corporation.com</i> など)。SIP ルートパターンも設定する必要があることに留意してください。</p> <p>管理者が、着信発呼側番号をグローバル化するように Cisco Unified Communications Manager のゲートウェイ、トランク、またはデバイスプールの [着信発呼者の設定 (Incoming Calling Party Settings)] を設定している場合は、リモート接続先の [接続先番号 (Destination Number)] を E.164 形式で設定します。</p> <p>例：米国の市外局番 408 と接続先番号 5552222 を指定するリモート接続先の場合、[接続先番号 (Destination Number)] には +14085552222 を設定します。</p> <p>さらに、グローバル化した接続先番号を使用している場合は、Matching Caller ID with Remote Destination サービスパラメータを [Complete Match] に設定します。</p>
[最短応答タイマー (Answer Too Soon Timer)]	<p>コールに応答するまで携帯電話で呼び出し音を鳴らすように Cisco Unified Communications Manager が要求する最小時間をミリ秒単位で入力します。この設定は、携帯電話の電源が切れている場合や到達できない場所にある場合を考慮しており、このような場合、ネットワークは即時に携帯電話のボイスメールにコールを転送します。このタイマーが時間切れになる前に携帯電話で応答すると、Cisco Unified Communications Manager はコールを企業に戻します。</p> <p>範囲：0 ~ 10,000 ミリ秒 デフォルト：1,500 ミリ秒</p>
[最長応答タイマー (Answer Too Late Timer)]	<p>Cisco Unified Communications Manager が携帯電話での応答を許可する最大時間をミリ秒単位で入力します。この値に達すると、Cisco Unified Communications Manager は携帯電話の呼び出し音を停止して、コールを企業に戻します。</p> <p>範囲：10,000 ~ 300,000 ミリ秒 デフォルト：19,000 ミリ秒</p>

表 14-7 リモート接続先の設定項目 (続き)

フィールド	説明
[呼び出し前の遅延タイマー (Delay Before Ringing Timer)]	<p>コールがリモート接続先に送達された時点から、携帯電話で呼び出し音を鳴らすまでの時間を入力します。</p> <p>範囲：0 ～ 30,000 ミリ秒</p> <p>デフォルト：4,000 ミリ秒</p> <p>ヒント ハントグループが使用されている場合、回線は短期間の間だけ呼び出し音を鳴らします。ハントリストのタイマーが時間切れになってコールが戻される前に、リモート接続先のコールが確立されることを許可し、呼び出し音を鳴らして、応答するには、[呼び出し前の遅延タイマー (Delay Before Ringing Timer)] 設定を操作してゼロにすることが必要になる場合があります。</p>
[リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)]	ドロップダウンリストボックスから、このリモート接続先で使用するリモート接続先プロファイルを選択します。
モビリティ プロファイル	<p>ドロップダウンリストボックスから、このリモート接続先で使用するモビリティプロファイルを選択します。</p> <p>モビリティプロファイルを設定するには、[コールルーティング (Call Routing)] > [モビリティ (Mobility)] > [モビリティプロファイル (Mobility Profile)] メニュー オプションを使用します。詳細については、[モビリティプロファイル設定 (Mobility Profile Configuration)] (P.14-66) を参照してください。</p>
[Cisco Unified Mobile Communicator]	このフィールドには、このモビリティ ID が関連付けられている Cisco Unified Mobile Communicator デバイスが表示されます。[デバイスの設定 (Configure Device)] リンクをクリックすると、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示され、指定されたデバイスの設定を変更できるようになります。
[デュアルモードフォン (Dual Mode Phone)]	このフィールドには、このモビリティ ID が関連付けられているデュアルモードフォンが表示されます。フィールドにはデバイス名が表示されます。[デバイスの設定 (Configure Device)] リンクをクリックすると、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示され、指定されたデバイスの設定を変更できるようになります。
[携帯電話 (Mobile Phone)]	<p>机上の電話機で応答したコールがリモート接続先の携帯電話に送信されるようにする場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、(リモート接続先ピックアップの [モビリティ] ソフトキーを使用して) [携帯電話へコールを送信] が指定されている場合は、このリモート接続先にコールが送達されます。</p> <p>(注) このチェックボックスは、DoCoMo N902iL や DoCoMo N906i などの SIP を実行しているデュアルモードフォンにも、Nokia S60 などの SCCP を実行しているデュアルモードフォンにも適用されません。</p>
[モバイル接続の有効化 (Enable Mobile Connect)]	このチェックボックスをオンにすると、コールの着信時に机上の電話機とリモート接続先で同時に呼び出し音を鳴らすことができます。

表 14-7 リモート接続先の設定項目 (続き)

フィールド	説明
[モバイルコネク트가有効になっている場合 (When Mobile Connect Is Enabled)]	
[呼び出しスケジュール (Ring Schedule)]	
[すべての時間 (All the time)]	このリモート接続先の [モバイルコネク트가有効化 (Enable Mobile Connect)] チェックボックスがオンになっている場合にこのオプション ボタンをクリックすると、このリモート接続先で呼び出し音を常時鳴らすことができます。この設定は、後述の [上記の呼び出しスケジュールの間にコールを受信する場合 (When Receiving a call during the above ring schedule)] ペインでの設定と連携して動作します。
[以下に指定 (As specified below)]	このリモート接続先の [モバイルコネク트가有効化 (Enable Mobile Connect)] チェックボックスがオンになっている場合にこのオプション ボタンをクリックすると、以降の行で指定されたスケジュールに従って、このリモート接続先で呼び出し音を鳴らすことができます。この設定は、後述の [上記の呼び出しスケジュールの間にコールを受信する場合 (When Receiving a call during the above ring schedule)] ペインでの設定と連携して動作します。
(曜日)	<p>[モバイルコネク트가有効化 (Enable Mobile Connect)] チェックボックスがオンになっており、かつ [以下に指定 (As specified below)] オプション ボタンが選択されている場合は、リモート接続先がコールを受信するようにする曜日のチェックボックスをそれぞれオンにします。この操作により、それぞれの曜日の呼び出しスケジュールを指定できます。</p> <p>(曜日) : 特定の曜日 (たとえば月曜日) の呼び出しスケジュールを指定する場合には、その曜日のチェックボックスをオンにします。</p> <p>[終日 (All Day)] : 後述の [上記の呼び出しスケジュールの間にコールを受信する場合 (When Receiving a call during the above ring schedule)] ペインでの設定で指定した日に、リモート接続先で呼び出し音を終日鳴らすように指定するには、曜日の横にあるこのチェックボックスをオンにします。</p> <p>(ドロップダウン リスト ボックス) [to] (ドロップダウン リスト ボックス) : 特定の曜日に対して、その開始時刻と終了時刻を選択することによって呼び出しスケジュールを指定します。開始時刻を指定するには、[to] の前にあるドロップダウン リスト ボックスの値を選択します。終了時刻を指定するには、[to] の後ろにあるドロップダウン リスト ボックスの値を選択します。特定の日に対しては、デフォルトの呼び出しスケジュールによって [就業時間なし (No Office Hours)] が指定されます。各ドロップダウン リスト ボックスで指定する値は、リモート接続先またはモビリティ ID の [タイムゾーン (Time Zone)] フィールドで指定するタイムゾーンに関連します。</p>
[タイムゾーン (Time Zone)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このリモート接続先またはモビリティ ID で使用するタイムゾーンを選択します。</p> <p>(注) Time-of-Day アクセス機能は、このリモート接続先またはモビリティ ID に対して選択されたタイムゾーンを使用して、このリモート接続先またはモビリティ ID へのコールを許可またはブロックします。</p>
[上記の呼び出しスケジュールの間にコールを受信する場合 (When receiving a call during the above ring schedule)]	
[この接続先を常に呼び出し (Always ring this destination)]	このオプション ボタンをクリックすると、指定した呼び出しスケジュールに従って、着信コールがこのリモート接続先を常に呼び出すようになります。この設定は、このリモート接続先の [モバイルコネク트가有効化 (Enable Mobile Connect)] チェックボックスがオンになっている場合にだけ適用されます。

表 14-7 リモート接続先の設定項目 (続き)

フィールド	説明
[発信者が次のアクセスリストに登録されている場合のみ、この接続先を呼び出す (Ring this destination only if caller is in)]	<p>このオプション ボタンをクリックすると、ドロップダウン リスト ボックスで指定されたアクセス リストに発信者が属している場合だけ、[呼び出しスケジュール (Ring Schedule)] ペインで指定した呼び出しスケジュールに従って、着信コールがこのリモート接続先を呼び出すようになります。この設定は、このリモート接続先の [モバイルコネクットの有効化 (Enable Mobile Connect)] チェックボックスがオンになっている場合にだけ適用されます。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、この設定に適用されるアクセス リストを選択します。アクセス リストの詳細を表示する場合は、[詳細の表示 (View Details)] リンクをクリックします (アクセス リストを修正するには、[コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [アクセスリスト (Access List)] メニュー オプションを使用します)。</p> <p>メンバを含まないアクセス リストを選択することは、この接続先を呼び出さないように選択することと同じです。</p>
[発信者が次のアクセスリストに登録されている場合は、この接続先を呼び出さない (Do not ring this destination if caller is in)]	<p>このオプション ボタンをクリックすると、ドロップダウン リスト ボックスで指定されたアクセス リストに発信者が属している場合にだけ、[呼び出しスケジュール (Ring Schedule)] ペインで指定した呼び出しスケジュールに従って、着信コールがこのリモート接続先を呼び出すのを防止できます。この設定は、このリモート接続先の [モバイルコネクットの有効化 (Enable Mobile Connect)] チェックボックスがオンになっている場合にだけ適用されます。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、この設定に適用されるアクセス リストを選択します。アクセス リストの詳細を表示する場合は、[詳細の表示 (View Details)] リンクをクリックします (アクセス リストを修正するには、[コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [アクセスリスト (Access List)] メニュー オプションを使用します)。</p> <p>メンバを含まないアクセス リストを選択することは、[この接続先を常に呼び出し (Always ring this destination)] オプション ボタンを選択することと同じです。</p>
[割り当て情報 (Association Information)]	
[回線 (Line)]	<p>ここには、このリモート接続先に関連付けることができる回線が表示されます。</p>
[回線アソシエーション (Line Association)]	<p>特定の回線をこのリモート接続先に関連付ける場合は、このチェックボックスをオンにします。モバイル コネクットをこのリモート接続先に対して動作させるには、[回線アソシエーション (Line Association)] チェックボックスをオンにする必要があります。</p> <p>(注) コールがその回線に割り当てられている電話番号に着信したときに、モバイル コネクット コールでこのリモート接続先を呼び出すには、回線の [回線アソシエーション (Line Association)] チェックボックスをオンにしておく必要があることに注意してください。</p>

追加情報

「関連項目」(P.14-70) を参照してください。

モバイル ボイス アクセスの電話番号の設定

[メディアリソース (Media Resources)] の下にある [モバイルボイスアクセス (Mobile Voice Access)] ウィンドウを使用すると、モバイルボイスアクセス用にローカライズされたユーザプロンプトセットを割り当てることができます。

この設定は、モバイルボイスアクセス機能を使用してコールを発信する場合に必要です。ゲートウェイによって必要な数字がユーザから収集されコールが発信された後、コールはこのウィンドウで設定されている DN に転送されます。この DN には Cisco Unified Communications Manager に対する内部 DN を指定できるため、エンドユーザがこの DN を認識している必要はありません。管理者は、MVA サービスがゲートウェイからこの DN にコールを転送できるように、ダイヤルピアを設定する必要があります。また、この DN は、[Clusterwide Parameters (System - Mobility)] ペインの Inbound Calling Search Space for Remote Destination サービスパラメータの設定に従って、ゲートウェイのインバウンドコーリングサーチスペース (CSS) またはリモート接続先プロファイルの CSS が DN に到達できるパーティションに格納されている必要があります。

モバイルボイスアクセス用にローカライズされたユーザプロンプトセットを割り当てするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 メニューバーで、[メディアリソース (Media Resources)] > [モバイルボイスアクセス (Mobile Voice Access)] の順に選択します。
- ステップ 2 パラメータの値を入力します (表 14-8 を参照)。
- ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.14-70) を参照してください。

モバイルボイスアクセスの設定項目

表 14-8 は、[モバイルボイスアクセス (Mobile Voice Access)] ウィンドウ内の使用可能な設定を示しています。Cisco Unified Mobility の詳細については、「関連項目」(P.14-70) を参照してください。

表 14-8 モバイルボイスアクセスの設定項目

フィールド	説明
[モバイルボイスアクセス情報 (Mobile Voice Access Information)]	
[モバイルボイスアクセス電話番号 (Mobile Voice Access Directory Number)]	モバイルボイスアクセスコールをゲートウェイから受信するための内部 DN を入力します。 長さが 1 ~ 24 桁の値を入力します。0 ~ 9 の数字を使用できます。
[モバイルボイスアクセスパーティション (Mobile Voice Access Partition)]	ドロップダウンリストボックスから、モバイルボイスアクセスのパーティションを選択します。電話番号とパーティションを組み合わせることで、モバイルボイスアクセス電話番号は一意になります。

表 14-8 モバイル ボイス アクセスの設定項目 (続き)

フィールド	説明
[モバイルボイスアクセスローカリゼーション (Mobile Voice Access Localization)]	
[使用可能なロケール (Available Locales)]	<p>このペインには、設定済みのロケールが表示されます。詳細については、Cisco Unified Communications Manager Locale Installer のマニュアルを参照してください。</p> <p>下矢印を使用して、選択するロケールを [選択済みのロケール (Selected Locales)] ペインに移動します。</p> <p>(注) Cisco Unified Mobility は、最大 9 個のロケールをサポートします。Cisco Unified Communications Manager に 10 個以上のロケールがインストールされている場合、これらのロケールは [使用可能なロケール (Available Locales)] ペインに表示されますが、[選択済みのロケール (Selected Locales)] ペインではロケールを 9 個までしか保存できません。Cisco Unified Mobility に対して 10 個以上のロケールを設定しようとする、「Update failed.Check constraint (informix.cc_ivruserlocale_orderindex) failed.」というメッセージが表示されます。</p>
[選択済みのロケール (Selected Locales)]	<p>このペインの上側にある矢印を使用して、選択するロケールをこのペインに対して追加および削除します。</p> <p>(注) システムで 10 個以上のロケールが利用可能であっても、選択できるロケールは 9 個までなので、注意してください。</p> <p>このペインに示されているロケールを並べ替えるには、このペインの右側にある矢印キーを使用します。ロケール名をクリックしてロケールを選択してから、矢印キーを使用して、選択したロケールの順序を変更します。</p> <p>(注) IVR が使用されている場合、モバイル ボイス アクセスは、[モバイルボイスアクセス (Mobile Voice Access)] ウィンドウの [選択済みのロケール (Selected Locales)] ペインに表示される最初のロケールを使用します。たとえば、[選択済みのロケール (Selected Locales)] ペインに最初に [English United States] と表示されている場合、Cisco Unified Mobility ユーザは、コール中に IVR が使用されているときには英語を受信します。</p>

追加情報

「[関連項目](#)」(P.14-70) を参照してください。

エンタープライズ機能アクセス用のゲートウェイの設定

エンタープライズ機能アクセス用の H.323 または SIP ゲートウェイを設定するには、2 つのオプションを使用できます。

- 「システム リモート アクセス用の H.323 または SIP ゲートウェイの設定」 (P.14-58)
- 「ヘアピンングを使用したシステム リモート アクセス用の H.323 ゲートウェイの設定」 (P.14-60)

追加情報

「関連項目」 (P.14-70) を参照してください。

システム リモート アクセス用の H.323 または SIP ゲートウェイの設定

Cisco Unified Communications Manager で H.323 または SIP ゲートウェイがすでに設定されている場合は、そのゲートウェイを使用してシステム リモート アクセスをサポートできます。H.323 または SIP ゲートウェイが設定されていない場合は、このゲートウェイを追加および設定する必要があります。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco IOS H.323 ゲートウェイの追加」を参照してください。



(注)

モバイル コネクト コールを内線から発信した場合、内線だけが発信者 ID として表示されません。H.323 または SIP ゲートウェイを使用している場合、トランスレーション パターンを使用してこの問題に対処できます。

ゲートウェイを設定するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 PSTN からの PRI に対する T1/E1 コントローラを設定します。

設定例：

- controller T1 1/0
- framing esf
- linecode b8zs
- pri-group timeslots 1-24

ステップ 2 PRI (T1/E1) に対するシリアル インターフェイスを設定します。

設定例：

- interface Serial 1/0:23
- ip address none
- logging event link-status none
- isdn switch-type primary 4ess
- isdn incoming-voice voice
- isdn bchan-number-order ascending
- no cdp enable

ステップ 3 Cisco Unified Communications Manager サーバ (パブリッシャ) から VXML アプリケーションをロードします。

IOS Version 12.3(13) 以降の設定例 :

- application service CCM
- <http://<Unified CM パブリッシャ IP アドレス>:8080/ccmivr/pages/IVRMainpage.vxml>

IOS Version 12.3(12) 以前の設定例 :

- call application voice Unified CCM
- <http://<Unified CM パブリッシャ IP アドレス>:8080/ccmivr/pages/IVRMainpage.vxml>



(注) VXML は Version 12.2(11) で追加されましたが、Version 12.3(8)、12.3(9)、12.3(14)T1、および 12.2(15) は、VXML に関する問題を含んでいるため使用しないでください。

ステップ 4 モバイル コネクト アプリケーションをシステム リモート アクセスと関連付けるように、ダイヤルピアを設定します。

IOS 12.3(13) 以降の設定例 :

- dial-peer voice 58888 pots
- service CCM (モバイル コネクト VXML アプリケーション)
- incoming called-number 58888

IOS 12.3(12) 以前の設定例 :

- dial-peer voice 100 pots
- application CCM (モバイル コネクト VXML アプリケーション)
- incoming called-number 58888 (58888 はモバイル ボイス アクセス番号)

ステップ 5 「モバイル ボイス アクセスの電話番号の設定」(P.14-56) で設定したモバイル ボイス アクセス DN にコールを転送するためのダイヤルピアを追加します。

プライマリ Cisco Unified Communications Manager の設定例 :

- dial-peer voice 101 voip
- preference 1
- destination-pattern <モバイル ボイス アクセス DN>



(注) ここには、[メディアリソース (Media Resources)] > [モバイルボイスアクセス (Mobile Voice Access)] メニュー オプションで設定されているモバイルボイスアクセス DN を指定します。コールを終端するように設定された一般的なダイヤルピアがすでにあり、そのダイヤルピアがモバイルボイスアクセス DN と整合している場合、このステップを実行する必要はありません。

- session target ipv4:10.1.30.3
- codec g711ulaw
- dtmf-relay h245-alphanumeric
- no vad

セカンダリ Cisco Unified Communications Manager の設定例 (必要な場合) :

- dial-peer voice 102 voip
- preference 2
- destination-pattern <モバイル ボイス アクセス DN>



(注) ここには、[メディアリソース (Media Resources)] > [モバイルボイスアクセス (Mobile Voice Access)] メニュー オプションで設定されているモバイルボイスアクセス DN を指定します。コールを終端するように設定された一般的なダイヤルピアがすでにあり、そのダイヤルピアがモバイルボイスアクセス DN と整合している場合、このステップを実行する必要はありません。

- session target ipv4:10.1.30.4
- codec g711ulaw
- dtmf-relay h245-alphanumeric
- no vad

SIP ゲートウェイ voip ダイヤルピアの設定例

- dial-peer voice 80 voip
- destination-pattern <モバイルボイスアクセス DN>
- rtp payload-type nse 99
- session protocol sipv2
- session target ipv4:10.194.107.80
- incoming called-number .T
- dtmf-relay rtp-nte
- codec g711ulaw

追加情報

「関連項目」(P.14-70) を参照してください。

ヘアピンングを使用したシステム リモート アクセス用の H.323 ゲートウェイの設定

H.323 ゲートウェイはないが、システム リモート アクセスをサポートするために H.323 ゲートウェイが必要な場合、ゲートウェイを追加して設定する必要があります。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco IOS H.323 ゲートウェイの追加」を参照してください。

ゲートウェイを設定するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager サーバ (パブリッシャ) から VXML アプリケーションをロードします。

IOS Version 12.3(13) 以降の設定例 :

- application service CCM
- <http://<Unified CM パブリッシャ IP アドレス>:8080/ccmivr/pages/IVRMainpage.vxml>

IOS Version 12.3(12) 以前の設定例 :

- call application voice Unified CCM
- <http://<Unified CM パブリッシャ IP アドレス>:8080/ccmivr/pages/IVRMainpage.vxml>



(注) VXML は Version 12.2(11) で追加されましたが、Version 12.3(8)、12.3(9)、12.3(14)T1、および 12.2(15) は、VXML に関する問題を含んでいるため使用しないでください。

ステップ 2 モバイル コネクト アプリケーションをシステム リモート アクセスと関連付けるように、ダイヤルピアを設定します。

IOS 12.3(13) 以降の設定例：

- dial-peer voice 1234567 voip
- service CCM
- incoming called-number 1234567
- codec g711u
- session target ipv4:<ip_address of call manager>

IOS 12.3(12) 以前の設定例：

- dial-peer voice 1234567 voip
- application CCM
- incoming called-number 1234567
- codec g711u
- session target ipv4:<ip_address of call manager>

ステップ 3 「モバイル ボイス アクセスの電話番号の設定」(P.14-56) で設定したモバイル ボイス アクセス DN にコールを転送するためのダイヤルピアを追加します。

プライマリ Cisco Communications Manager の設定例：

- dial-peer voice 101 voip
- preference 1
- destination-pattern <モバイル ボイス アクセス DN>



(注) ここには、[メディアリソース (Media Resources)] > [モバイルボイスアクセス (Mobile Voice Access)] メニュー オプションで設定されているモバイルボイスアクセス DN を指定します。コールを終端するように設定された一般的なダイヤルピアがすでにあり、そのダイヤルピアがモバイルボイスアクセス DN と整合している場合、このステップを実行する必要はありません。

- session target ipv4:10.1.30.3
- voice-class h323 1
- codec g711ulaw
- dtmf-relay h245-alphanumeric
- no vad

セカンダリ Cisco Communications Manager の設定例 (必要な場合)：

- dial-peer voice 102 voip
- preference 2
- destination-pattern <モバイル ボイス アクセス DN>



(注) ここには、[メディアリソース (Media Resources)] > [モバイルボイスアクセス (Mobile Voice Access)] メニュー オプションで設定されているモバイルボイスアクセス DN を指定します。コールを終端するように設定された一般的なダイヤルピアがすでにあり、そのダイヤルピアがモバイルボイスアクセス DN と整合している場合、このステップを実行する必要はありません。

- session target ipv4:10.1.30.4
- voice-class h323 1
- codec g711ulaw
- dtmf-relay h245-alphanumeric
- no vad

ステップ 4 ヘアピンを設定します。

- voice service voip
- allow-connections h323 to h323

ステップ 5 Cisco Unified Communications Manager 上に、vxml スクリプトがロードされている H.323 ゲートウェイに着信 MVA 番号をリダイレクトするためのルート パターンを新規に作成します。その新規ルート パターンの作成先のパーティションにゲートウェイ着信 CSS がアクセスできるようにします。

追加情報

「関連項目」(P.14-70) を参照してください。

エンタープライズ機能アクセス 2 段階ダイヤリング

エンタープライズ機能アクセス 2 段階ダイヤリングを設定するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。

ステップ 2 Cisco CallManager サービスに対して、[Clusterwide Parameters (System - Mobility)] 領域で次のサービス パラメータを設定します。

- Enable Enterprise Feature Access サービス パラメータを [True] に設定します。
- Matching Caller ID with Remote Destination サービス パラメータを設定します。[Complete Match] または [Partial Match] のいずれかを選択します。[Partial Match] を選択する場合は、Number of Digits for Caller ID Partial Match サービス パラメータの値を設定します。
- Matching Caller ID with Remote Destination サービス パラメータを [Partial Match] に設定する場合は、Number of Digits for Caller ID Partial Match サービス パラメータを設定します。

ステップ 3 サービス パラメータの設定を保存するには、[保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 4 [コールルーティング (Call Routing)] > [モビリティ (Mobility)] > [エンタープライズ機能アクセス設定 (Enterprise Feature Access Configuration)] を選択します。

ステップ 5 [モビリティエンタープライズ機能アクセス番号 (Mobility Enterprise Feature Access Numbers)] ウィンドウで、[アクセス番号情報 (Access Number Information)] の [番号 (Number)] フィールドに値を指定して、エンタープライズ機能アクセス DID を設定します (このフィールドには、転送および会議のようなコール中の機能呼び出すためにコールされる DID と同じ DID を指定します)。

ステップ 6 [ルートパーティション (Route Partition)] の値を選択して、パーティションを指定します。

ステップ 7 モビリティ エンタープライズ機能アクセスの設定項目を保存するには、[保存 (Save)] をクリックします。

- ステップ 8** ゲートウェイで発信 VOIP ダイアルピアを使用してリモート接続先（携帯電話）までの初期コール レッグを確立する際、DTMF コードが Cisco Unified Communications Manager に到達できるように、ダイアルピアに DTMF リレーを設定します。
- ステップ 9** エンタープライズ機能アクセス DID への 2 段階着信コールが Cisco Unified Communications Manager に転送されるように、そのコールを受信するゲートウェイにダイアルピアを設定します。VOIP ダイアルピアに DTMF リレーを設定します。



(注) コールを Cisco Unified Communications Manager に転送するように設定された一般的なダイアルピアがすでにあり、そのダイアルピアが EFA DN と整合している場合、このステップを実行する必要はありません。このコール レッグ用の VOIP ダイアルピアにも、DTMF リレー コマンドを設定します。

エンタープライズ機能アクセスを設定するために必要なステップの一覧については、『Cisco Unified Communications Solution Reference Network Design (SRND) Based on Cisco Unified Communications Manager』を参照してください。

発信者がエンタープライズ機能アクセス DID にコールすると、Cisco Unified Communications Manager は発信側の番号と、[リモート接続先の設定 (Remote Destination Configuration)] ウィンドウで設定された接続先番号とを照合します。外線への接続の際に Cisco Unified Communications Manager の管理機能によって番号 9 が挿入されるというシナリオでは、管理者は [Clusterwide Parameters (System - Mobility)] セクションで次のサービス パラメータを変更して、この番号の桁数を制御できます。

- Matching Caller ID with Remote Destination
- Number of Digits for Caller ID Partial Match

この設定には IVR は存在しないため、発信者に対してプロンプトが表示されることはありません。ユーザが発信コールを実行し、モバイル ボイス アクセスを使用する際の手順については、リモート電話機モデルのユーザ ガイドを参照してください。エンタープライズ機能アクセスを使用する場合は、各エントリの最後が # (シャープ) 文字で終わっている必要があることに注意してください。



(注) モバイル ボイス アクセス DN またはエンタープライズ機能アクセス DN にコールを発信する際、ゲートウェイ デバイスは、モバイル ボイス アクセス DN またはエンタープライズ機能アクセス DN として設定されている正確な桁数を提示する必要があります。トランスレーション パターンまたは他の着信番号変更機能では、MVA 番号または EFA 番号に一致させるために、数字を除去したり、ゲートウェイで提示される番号に数字を追加したりすることができません。Cisco Unified Mobility がゲートウェイ レイヤでコールを代行受信するため、仕様によりこのように動作します。



(注) モバイル ボイス アクセス (MVA) とは異なり、エンタープライズ機能アクセス (EFA) は、発信者 ID だけに基づいてユーザを識別します。システムがインバウンドの発信者 ID を受信しなかった場合、またはリモート接続先と一致しない値を受信した場合、EFA コールは失敗します。MVA では、発信者 ID が一致しなかった場合、ユーザはユーザのリモート接続先番号を入力するように要求されます。EFA では、IVR プロンプトが存在しないため、この機能は提供されません。どちらの場合も、ユーザは識別された後、同じ PIN 番号を使用することによって認証されます。

追加情報

「関連項目」(P.14-70) を参照してください。

モビリティ エンタープライズ機能設定

モビリティ エンタープライズ機能を設定するには、次の項を参照してください。

- 「[モビリティ エンタープライズ機能設定項目](#)」 (P.14-64)

追加情報

「[関連項目](#)」 (P.14-70) を参照してください。

モビリティ エンタープライズ機能設定項目

モビリティ エンタープライズ機能を設定するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [コールルーティング (Call Routing)] > [モビリティ (Mobility)] > [エンタープライズ機能アクセス設定 (Enterprise Feature Access Configuration)] メニューパスを使用します。

[モビリティエンタープライズ機能アクセス番号 (Mobility Enterprise Feature Access Numbers)] ウィンドウでは、モビリティ Enterprise Feature Access (EFA; エンタープライズ機能アクセス) 番号を設定できます。設定した番号は、1 つ以上のモビリティ プロファイルに関連付けて使用できます。

GUI の使用方法

Cisco Unified Communications Manager の管理の Graphical User Interface (GUI; グラフィカル ユーザー インターフェイス) を使用してレコードを検索、削除、設定、またはコピーする方法については、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションでの操作](#)」およびそのサブセクションを参照してください。GUI の使用方法とボタンおよびアイコンの機能の詳細が説明されています。

設定項目の表

表 14-9 は、[モビリティエンタープライズ機能設定 (Mobility Enterprise Feature Configuration)] ウィンドウ内の使用可能な設定を示しています。Cisco Unified Mobility の詳細については、「[関連項目](#)」 (P.14-70) を参照してください。

表 14-9 モビリティ エンタープライズ機能設定項目

フィールド	説明
[アクセス番号情報 (Access Number Information)]	
[番号 (Number)]	エンタープライズ機能アクセスに必要な DID 番号を入力します。この番号は、転送、会議、再開、およびスマートフォンからの 2 段階ダイヤリングをサポートします。 (注) 各 DID 番号は一意である必要があります。
[ルートパーティション (Route Partition)]	ドロップダウン リスト ボックスで、エンタープライズ機能アクセスに必要な DID のパーティションを選択します。
[説明 (Description)]	モビリティ エンタープライズ機能アクセス番号の説明を入力します。
[デフォルトのエンタープライズ機能アクセス番号 (Default Enterprise Feature Access Number)]	このエンタープライズ機能アクセス番号をこのシステムのデフォルトにするには、このボックスをオンにします。

追加情報

「関連項目」(P.14-70) を参照してください。

ハンドオフ モビリティ設定

ハンドオフ モビリティを設定するには、次の項を参照してください。

- 「ハンドオフ モビリティ設定項目」(P.14-65)

追加情報

「関連項目」(P.14-70) を参照してください。

ハンドオフ モビリティ設定項目

ハンドオフ モビリティを設定するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [コールルーティング (Call Routing)] > [モビリティ (Mobility)] > [ハンドオフ設定 (Handoff Configuration)] メニューパスを使用します。

[ハンドオフモビリティ設定 (Handoff Mobility Configuration)] ウィンドウでは、Wi-Fi ネットワークとモバイル通信グローバルシステム (GSM) または符号分割多重接続 (CDMA) ネットワーク間のデュアルモードフォンのハンドオフ番号やパーティションを設定できます。

GUI の使用方法

Cisco Unified Communications Manager の管理の Graphical User Interface (GUI; グラフィカル ユーザーインターフェイス) を使用してレコードを検索、削除、設定、またはコピーする方法については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションでの操作」およびそのサブセクションを参照してください。GUI の使用方法とボタンおよびアイコンの機能の詳細が説明されています。

設定項目の表

表 14-10 は、[ハンドオフモビリティ設定 (Handoff Mobility Configuration)] ウィンドウ内の使用可能な設定を示しています。Cisco Unified Mobility の詳細については、「関連項目」(P.14-70) を参照してください。

表 14-10 ハンドオフ モビリティ設定項目

フィールド	説明
[ハンドオフ設定情報 (Handoff Configuration Information)]	
[ハンドオフ番号 (Handoff Number)]	Wi-Fi ネットワークと GSM または CDMA ネットワーク間のハンドオフの DID 番号を入力します。ハンドオフ機能には、この番号が必要です。 国際エスケープ文字 + で始まる番号の場合、+ の前にバックslash (¥) を置く必要があります。例: ¥+15551234.
[ルートパーティション (Route Partition)]	ドロップダウンリストボックスから、ハンドオフダイヤルイン (DID) 番号を割り当てるパーティションを選択します。

追加情報

「関連項目」(P.14-70) を参照してください。

[モビリティプロファイル設定 (Mobility Profile Configuration)]

モビリティプロファイルを設定するには、次の項を参照してください。

- 「モビリティプロファイルの設定値」 (P.14-66)

追加情報

「関連項目」 (P.14-70) を参照してください。

モビリティプロファイルの設定値

モビリティプロファイルを設定するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [コールルーティング (Call Routing)] > [モビリティ (Mobility)] > [モビリティプロファイル (Mobility Profile)] メニューパスを使用します。

モビリティプロファイルは、モバイルクライアントの Dial-via-Office 転送または Dial-via-Office リバースを設定できるプロファイルです。モビリティプロファイルを設定した後、そのプロファイルをリージョンまたはロケーションのユーザなど個々のユーザまたはユーザグループに割り当てることができます。モビリティプロファイルに指定するのは DVO-F または DVO-R のいずれかですが、DVO-F と DVO-R の設定値はいずれも設定します。

モビリティプロファイルは、スタンドアロンの Cisco Unified Mobile Communicator モビリティ ID または Cisco Unified Mobile Communicator 対応デュアルモードのモビリティ ID に関連付けることができます。標準のシングルモードのリモート接続先は、モビリティプロファイルに関連付けることができません。

モビリティプロファイルの設定を変更できるのは、管理者だけです。ユーザは、モビリティプロファイルの設定を変更できません。



(注)

クライアントのモビリティプロファイルが存在せず、サーバがモビリティプロファイルを選択するようになっている場合、デフォルトの DVO コールタイプは Dial-via-Office Reverse (DVO-R; Dial-via-Office リバース) となります。

モビリティプロファイルの設定に関するヒント

モビリティプロファイルの設定を開始する前に、次に挙げる設計上の問題について検討してください。

クライアントがモビリティプロファイルに関連付けられ、DVO-R コールが設定されている場合、183 SIP メッセージの発信者 ID 値は次の優先順位に従って取得されます。

1. モビリティプロファイルからの DVO-R 発信者 ID (この値はモビリティプロファイルに設定されています)
2. モビリティプロファイルからの EFA DN (この値はモビリティプロファイルに設定されています)
3. デフォルトの EFA DN



(注)

DVO-R コールを正常に処理するには、管理者は上記設定の少なくとも 1 つに発信者 ID 値を設定する必要があります。

クライアントがモビリティ プロファイルに関連付けられ、DVO-F コールが設定されている場合、183 SIP メッセージの DID 値は次の優先順位に従って取得されます。

1. モビリティ プロファイルからの DVO-F サービス アクセス番号 (この値はモビリティ プロファイルに設定されています)
2. モビリティ プロファイルからの DVO-F EFA DN (この値はモビリティ プロファイルに設定されています)
3. デフォルトのサービス アクセス番号 (この値は [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで設定します)
4. デフォルトの EFA DN



(注)

DVO-F コールの場合、クライアントは特定の DID で終了する Cisco Unified Communications Manager に対して着信コールを発信する必要があります。DVO-F コールを正常に処理するには、管理者は上記設定の少なくとも 1 つにこの DID を設定する必要があります。

Cisco Unified Communications Manager は、(クライアントから発信された) 着信 PSTN コール (つまり、183 SIP メッセージで送信された DID 番号) を次の優先順位で照合して、そのコールされた番号を DVO-F として識別します。

モビリティ プロファイルがクライアントに関連付けられている場合

1. モビリティ プロファイルからの DVO-F EFT DN (この値が設定されている場合)
2. モビリティ プロファイルからの DVO-F サービス アクセス番号 (この値が設定されている場合)

モビリティ プロファイルがクライアントに関連付けられていない場合

1. デフォルトの EFA DN
2. デフォルトのサービス アクセス番号

また、モビリティ プロファイルを設定するときは、次の要件についても検討してください。

- 管理者は、着信側の照合が行われるように PSTN ゲートウェイを設定する必要があります。
- EFA DN とサービス アクセス番号は、常にペアで構成されます。どちらの値もモビリティ プロファイルから取得される場合はモビリティ プロファイルで両者の値が一致している必要があります、どちらもデフォルト値が取得される場合は両者のデフォルト値が一致している必要があります。

GUI の使用方法

Cisco Unified Communications Manager の管理の Graphical User Interface (GUI; グラフィカル ユーザー インターフェイス) を使用してレコードを検索、削除、設定、またはコピーする方法については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションでの操作」およびそのサブセクションを参照してください。GUI の使用方法とボタンおよびアイコンの機能の詳細が説明されています。

設定項目の表

表 14-11 では、[モビリティプロファイル設定 (Mobility Profile Configuration)] ウィンドウ内で使用可能な設定値について説明します。Cisco Unified Mobility の詳細については、「[関連項目](#)」(P.14-70) を参照してください。

表 14-11 モビリティ プロファイルの設定値

フィールド	説明
[モビリティプロファイル情報 (Mobility Profile Information)]	
[名前 (Name)]	このモビリティ プロファイルの一意の名前を 50 文字以内で入力します。 有効な値は、大小の英字、数字 (0 ~ 9)、ピリオド (.), ダッシュ (-)、アンダースコア (_)、およびスペース () です。
[説明 (Description)]	このモビリティ プロファイルの説明を入力します。
[モバイルクライアントのコールオプション (Mobile Client Calling Option)]	ドロップダウン リスト ボックスから、モバイル クライアントのコール オプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [Dial via Office リバース (Dial via Office Reverse)] : Dial-via-Office リバースのコールを発信するには、モバイル クライアントのこのオプションを選択します。 [Dial via Office 転送 (Dial via Office Forward)] : Dial-via-Office 転送のコールを発信するには、モバイル クライアントのこのオプションを選択します。 <p>(注) 管理者は、ユーザが発信する DVO コールに対して、クライアントで DVO-R または DVO-F のいずれかが自動的に選択されるようにしています。ユーザは、モバイル デバイスで DVO コール タイプを明示的に選択することにより、管理者の設定とは逆のタイプの DVO コールを発信できます。</p>
Dial-via-Office 転送設定	
[サービスアクセス番号 (Service Access Number)]	Dial-via-Office 転送機能アクセスに必要な DID 番号を入力します。この番号は、転送、会議、再開、およびスマートフォンからの 2 段階ダイヤリングをサポートします。 この番号は、Cisco Unified Communications Manager がクライアントに送信する 183 SIP メッセージで返されます。クライアントは、この値をダイヤルイン DID として使用します。 Cisco Unified Communications Manager は、DVO-F コールを完了するときに、第 1 優先としてこの値を検索します。この値が設定されていない場合、Cisco Unified Communications Manager は [エンタープライズ機能アクセス番号 / パーティション (Enterprise Feature Access Number/Partition)] の値を使用します。 (注) 各 DID 番号は一意である必要があります。

表 14-11 モビリティ プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
[エンタープライズ機能 アクセス番号/パーティ ション (Enterprise Feature Access Number/Partition)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、Dial-via-Office 転送のコールを完了するために必要な DID の番号か、DID の番号とパーティションを選択します。</p> <p>クライアントがサービス アクセス番号をダイヤルすると、ゲートウェイはこの値と Cisco Unified Communications Manager が送信する削除数字とを比較します。</p> <p>番号にパーティションが設定されている場合、番号とパーティションの両方がドロップダウン リスト ボックスに表示されます。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、DVO-F コールを完了するときに、第 2 優先としてこの値を検索します。</p>
[Dial-via-Office リバースコールバック設定 (Dial-via-Office Reverse Callback Configuration)]	
[コールバック発信者 ID(Callback Caller ID)]	<p>Dial-via-Office リバース コールバックを完了するためのコールバック発信者 ID を入力します。</p> <p>クライアントが DVO-R コールを発信すると、Cisco Unified Communications Manager は 183 SIP メッセージでこの値を送信し、この値はクライアントが受信するコールバック コールの発信者 ID 値になります。</p> <p>この値は、DVO-R のクライアント画面に表示されます。</p>

追加情報

「関連項目」(P.14-70) を参照してください。

モビリティ ソフトキーの設定

モバイル コネクトを使用する電話機ユーザ向けにモビリティ ソフトキーを設定するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] の順に選択します。
- ステップ 2** 既存のテンプレートを一覧表示するには、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3** 新しいテンプレートを作成するには、[Standard User] をクリックしてから [コピー (Copy)] をクリックします。
- ステップ 4** ソフトキー テンプレートの名前と説明を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 5** ウィンドウの右上にある [関連リンク (Related Link)] メニューの横の [移動 (Go)] から [ソフトキーレイアウトの設定 (Configure Softkey Layout)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 6** プルダウン リスト ボックスから [オンフック (On Hook)] を選択します。
- ステップ 7** [選択されたソフトキー (Selected Softkeys、位置順)] に [Mobility] を追加し、[保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 8** プルダウン リスト ボックスから [接続時 (Connected)] を選択します。

■ 関連項目

- ステップ 9** [選択されたソフトキー (Selected Softkeys、位置順)] に [Mobility] を追加し、[保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 10** [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを開き、[ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] と、作成したソフトキー テンプレートを関連付けます。『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」を参照してください。
- ステップ 11** [オーナーのユーザ ID(Owner User ID)] で、モバイル コネクト電話機ユーザを選択します。
- ステップ 12** [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.14-70) を参照してください。

関連項目

- 「Cisco Unified Mobility の設定チェックリスト」(P.14-3)
- 「Cisco Unified Mobility の概要」(P.14-5)
- 「定義」(P.14-5)
- 「Cisco Unified Mobility 機能のリスト」(P.14-7)
- 「Cisco Unified Mobility 機能のその他の利点」(P.14-9)
- 「モバイル コネクト」(P.14-9)
- 「モバイル ボイス アクセス」(P.14-13)
- 「Time-of-Day アクセス」(P.14-14)
- 「Time-of-Day アクセスの設定」(P.14-15)
- 「Time-of-Day アクセスの特記事項」(P.14-17)
- 「DTMF を介したダイレクト コール パーク」(P.14-17)
- 「SIP URI ダイヤル」(P.14-19)
- 「インテリジェントセッション制御」(P.14-20)
- 「インタラクションおよび制限事項」(P.14-32)
- 「ライセンス」(P.14-33)
- 「サポートされるコールの数」(P.14-34)
- 「自動コール ピックアップ」(P.14-32)
- 「システム要件」(P.14-39)
- 「Cisco Unified MobilityManager からの移行」(P.14-40)
- 「Cisco Unified Mobility の設定」(P.14-40)
- 「Cisco Unified Mobility の設定チェックリスト」(P.14-3)
- 「アクセス リストの設定」(P.14-41)
- 「リモート接続先プロファイルの設定」(P.14-44)
- 「リモート接続先の設定」(P.14-50)

- 「モバイル ボイス アクセスの電話番号の設定」 (P.14-56)
- 「エンタープライズ機能アクセス用のゲートウェイの設定」 (P.14-58)
- 「エンタープライズ機能アクセス 2 段階ダイヤリング」 (P.14-62)
- 「モビリティ エンタープライズ機能設定」 (P.14-64)
- 「ハンドオフ モビリティ設定」 (P.14-65)
- 「[モビリティプロファイル設定 (Mobility Profile Configuration)]」 (P.14-66)
- 「モビリティ ソフトキーの設定」 (P.14-69)
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サービスパラメータの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco Unified Mobility のライセンス」
- 「Cisco Unified Mobility Advantage と Cisco Unified Mobile Communicator の統合」 (P.15-1)

参考資料

- 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』
- 『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』
- 『Troubleshooting Guide for Cisco Unified Communications Manager』
- 適切な Cisco Unified IP Phone のユーザ ガイド
- 適切な Cisco Unified IP Phone のアドミニストレーション ガイド
- 『Cisco Unified Communications Solution Reference Network Design (SRND) Based on Cisco Unified Communications Manager』の「Cisco Mobility Applications」の章
- 『Installation and Administration Guide for Cisco Unified Mobility Advantage』の「Configuring Cisco Unified Communications Manager for Use With Cisco Unified Mobility Advantage」の章



CHAPTER 15

Cisco Unified Mobility Advantage と Cisco Unified Mobile Communicator の統合

Cisco Unified Communications Manager には、Cisco Unified Mobile Communicator クライアントを Cisco Unified Mobility Advantage サーバと連携させるための特定の機能が備わっています。この章では、これらの機能と両方のサーバで必要となる設定について説明します。

Cisco Unified Communications Manager には、Cisco Unified Mobile Communicator ユーザ用に次の機能が用意されています。

- Dial-via-Office リバース コールバック
- Dial-via-Office 転送
- ユーザがモバイルデバイスからオフィスの通話履歴を確認できるようにするコールログ監視
- モバイル コネクト、およびモバイル デバイスからモバイル コネクトを有効または無効にするための機能
- モバイル デバイスとデスクトップ電話機の間でアクティブな Dial-via-Office コールを転送するための機能

Cisco Unified Mobility Advantage サーバと Cisco Unified Mobile Communicator クライアントを設定する方法の詳細については、次のマニュアルを参照してください。

- 『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』の「Cisco Unified Mobility Advantage サーバセキュリティ プロファイルの設定」の章
- Cisco Unified Mobility Advantage Release 7.1 のインストールおよび設定 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps7270/prod_installation_guides_list.html)
- Cisco Unified Mobility Advantage Release 7.1 の設定ガイド (http://www.cisco.com/en/US/products/ps7270/products_installation_and_configuration_guides_list.html)
- 次の URL にある Cisco Unified Mobile Communicator のエンド ユーザ ガイド http://www.cisco.com/en/US/products/ps7271/products_user_guide_list.html

エンド ユーザが Cisco Unified CM のユーザ オプションのウィンドウを使用して電話機の Cisco Unified Mobility 設定を行う際の手順については、特定の Cisco Unified IP Phone 向けユーザ ガイドを参照してください。



(注)

Cisco Unified Communications Manager 内では設定するが、Cisco Unified Mobile Communicator または Cisco Unified Mobility Advantage では設定が不要な Cisco Unified Mobility 機能の設定方法の詳細については、「Cisco Unified Mobility」の章を参照してください。

この章は、次の内容で構成されています。

- 「Cisco Unified Mobility と Cisco Unified Mobility Advantage の設定チェックリスト」 (P.15-2)
- 「Cisco Unified Mobility と Cisco Unified Mobility Advantage の概要」 (P.15-4)
 - 「定義」 (P.15-4)
 - 「Cisco Unified Mobility Advantage 対応の Cisco Unified Mobility 機能のリスト」 (P.15-5)
 - 「Cisco Unified Mobile Communicator」 (P.15-6)
 - 「Dial-via-Office リバース コールバック」 (P.15-10)
 - 「Dial-via-Office 転送」 (P.15-11)
 - 「セッション再開」 (P.15-15)
 - 「Cisco Unified Mobility 機能の使用例」 (P.15-16)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.15-18)
 - 「制限事項」 (P.15-18)
- 「システム要件」 (P.15-19)
- 「Cisco Unified Mobility と Cisco Unified Mobility Advantage の設定」 (P.15-20)
- 「関連項目」 (P.15-21)

Cisco Unified Mobility と Cisco Unified Mobility Advantage の設定チェックリスト

Cisco Unified Communications Manager と通信するように Cisco Unified Mobility Advantage サーバを設定します。設定情報については、次の資料を参照してください。

- Cisco Unified Mobility Advantage Release 7.1 のインストールおよび設定 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps7270/prod_installation_guides_list.html)
- Cisco Unified Mobility Advantage Release 7.1 の設定ガイド (http://www.cisco.com/en/US/products/ps7270/products_installation_and_configuration_guides_list.html)

Cisco Unified Mobility Advantage サーバでの設定によって使用可能になる Cisco Unified Mobility 機能の詳細については、「Cisco Unified Mobility Advantage 対応の Cisco Unified Mobility 機能のリスト」 (P.15-5) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager に固有であり、Cisco Unified Mobile Communicator または Cisco Unified Mobility Advantage で設定が不要な Cisco Unified Mobility 機能の詳細については、「Cisco Unified Mobility」の「Cisco Unified Mobility 機能のリスト」 (P.14-7) を参照してください。

表 15-1 に、Cisco Unified Communications Manager と連携して動作するように Cisco Unified Mobile Communicator および Cisco Unified Mobility Advantage を設定する手順を要約しています。手順の詳細については、表に示されている章と項を参照してください。また、「関連項目」(P.15-21) も参照してください。

表 15-1 Cisco Unified Mobility と Cisco Unified Mobility Advantage の設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
<p>ステップ 1 Cisco Unified Mobility Advantage サーバで、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内の最大 2 つのノードをポイントする Cisco Unified Communications Manager アダプタを設定します。</p> <p>Cisco Unified Mobility Advantage 内で、アダプタに SOAP 対応アプリケーションのユーザ名とパスワードを指定します。</p> <p>アダプタの設定ウィンドウにある [Communications Manager] 設定項目を [8.x] に設定します。</p> <p>また、必要に応じて、アダプタにセキュリティ コンテキストまたはプロファイルを設定して、Cisco Unified Communications Manager へのセキュア接続を実現できます。</p>	<p>Cisco Unified Mobility Advantage Release 7.1 のインストールおよび設定 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps7270/prod_installation_guides_list.html)</p> <p>Cisco Unified Mobility Advantage Release 7.1 の設定ガイド (http://www.cisco.com/en/US/products/ps7270/products_installation_and_configuration_guides_list.html)</p>
<p>ステップ 2 Cisco Unified Mobility Advantage サーバ上で Cisco Unified Mobile Communicator クライアント用にユーザをアクティブにしてプロビジョニングします。</p> <p>Cisco Unified Mobility Advantage サーバ上のユーザ ID は、Cisco Unified Communications Manager 内のユーザ ID およびエンドユーザアカウントと一致している必要があります。</p>	<p>Cisco Unified Mobility Advantage Release 7.1 のインストールおよび設定 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps7270/prod_installation_guides_list.html)</p> <p>Cisco Unified Mobility Advantage Release 7.1 の設定ガイド (http://www.cisco.com/en/US/products/ps7270/products_installation_and_configuration_guides_list.html)</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザの設定」</p>
<p>ステップ 3 アクティブになったユーザまたは Cisco Unified Mobility Advantage 管理者が Cisco Unified Mobility Advantage サーバ上で Cisco Unified Mobile Communicator 用にユーザの携帯電話をプロビジョニングし、携帯電話番号を入力する必要があります。</p> <p>この番号は、Cisco Unified Communications Manager 内で設定されているモビリティ ID 電話番号と正確に一致するように設定してください。</p>	<p>Cisco Unified Mobility Advantage Release 7.1 のインストールおよび設定 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps7270/prod_installation_guides_list.html)</p> <p>Cisco Unified Mobility Advantage Release 7.1 の設定ガイド (http://www.cisco.com/en/US/products/ps7270/products_installation_and_configuration_guides_list.html)</p> <p>「リモート接続先の設定項目」(P.14-50)</p>
<p>ステップ 4 Cisco Unified Mobility Advantage サーバで、[アダプタサービスの管理 (Manage Adapter Services)] の下の [企業 PBX 統合の有効化 (Enable Corporate PBX Integration)] および [Dial via Office の有効化 (Enable Dial via Office)] 設定項目を [はい (Yes)] に設定します。</p>	<p>Cisco Unified Mobility Advantage Release 7.1 のインストールおよび設定 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps7270/prod_installation_guides_list.html)</p> <p>Cisco Unified Mobility Advantage Release 7.1 の設定ガイド (http://www.cisco.com/en/US/products/ps7270/products_installation_and_configuration_guides_list.html)</p>

Cisco Unified Mobility と Cisco Unified Mobility Advantage の概要

管理者は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して、エンドユーザ向けの Cisco Unified Mobility の基本設定を行います。詳細については、「[Cisco Unified Mobility](#)」の章を参照してください。

Cisco Unified Mobility Advantage サーバとともに使用した場合に Cisco Unified Mobile Communicator がユーザの電話機に提供する機能を使用するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで特別な設定が必要となることに注意してください。

この項では、次のトピックについて説明します。

- 「[定義](#)」 (P.15-4)
- 「[Cisco Unified Mobility Advantage 対応の Cisco Unified Mobility 機能のリスト](#)」 (P.15-5)
- 「[Cisco Unified Mobile Communicator](#)」 (P.15-6)
- 「[Dial-via-Office リバース コールバック](#)」 (P.15-10)
- 「[Dial-via-Office 転送](#)」 (P.15-11)
- 「[セッション再開](#)」 (P.15-15)
- 「[Cisco Unified Mobility 機能の使用例](#)」 (P.15-16)

追加情報

「[関連項目](#)」 (P.15-21) を参照してください。

定義

表 15-2 に、Cisco Unified Mobility Advantage および Cisco Unified Mobile Communicator を使用する Cisco Unified Mobility に関連する用語の定義を示します。

表 15-2 定義

用語	定義
Cisco Unified Mobility Advantage	Cisco Unified Mobility Advantage は、従業員の携帯電話を社内リソースに接続するために、エンタープライズファイアウォールの背後に配置されるサーバソフトウェアです。Cisco Unified Mobility Advantage は、従業員のモバイルデバイスで動作する Cisco Unified Mobile Communicator クライアントと連携して動作します。
Cisco Unified Mobile Communicator	Cisco Unified Mobile Communicator は、サポートされている携帯電話で動作するクライアントソフトウェアです。Cisco Unified Mobile Communicator は、Cisco Unified Mobility Advantage サーバと連携して動作し、エンタープライズサービスへのアクセスを提供します。
Cisco Mobile 7.x	Cisco Unified Mobility Advantage プロキシサーバ経由で Cisco Unified Communications Manager に接続する Cisco Unified Mobile Communicator クライアント。

追加情報

「[関連項目](#)」 (P.15-21) を参照してください。

Cisco Unified Mobility Advantage 対応の Cisco Unified Mobility 機能のリスト

この項では、Cisco Unified Mobility Advantage に必要な設定が行われている場合に、携帯電話ユーザに提供される Cisco Unified Mobility 機能のリストを示します。ここでは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページ内での設定について説明します。

Cisco Unified Mobility Advantage 設定の詳細については、次の資料を参照してください。

- Cisco Unified Mobility Advantage Release 7.1 のインストールおよび設定 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps7270/prod_installation_guides_list.html)
- Cisco Unified Mobility Advantage Release 7.1 の設定ガイド (http://www.cisco.com/en/US/products/ps7270/products_installation_and_configuration_guides_list.html)

次のエンティティと機能を使用するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでの Cisco Unified Mobility の設定に加え、Cisco Unified Mobility Advantage の設定も必要になります。

- Cisco Unified Mobile Communicator : Cisco Unified Mobile Communicator は、Cisco Unified Mobile Communicator クライアントを実行する電話デバイスであり、Mobility Multiplexing Protocol (MMP) を使用して、D チャネル経由で Cisco Unified Mobility Advantage サーバと通信します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、Cisco Unified Mobile Communicator の設定を行います。詳細については、「[Cisco Unified Mobile Communicator](#)」(P.15-6) を参照してください。
- Dial-via-Office リバース コールバック : Dial-via-Office リバース コールバック機能は、モバイル ボイス アクセス機能に似ていますが、Cisco Unified Communications Manager が両方のコールを発信するという点が異なります。電話機は、Cisco Unified Mobile Communicator クライアントから、D チャネルを使用して Dial-via-Office リバース コールバック機能を開始します。その後、Cisco Unified Communications Manager はまずモビリティ ID にコールします。モビリティ ID が応答すると、Cisco Unified Communications Manager は接続先番号にコールします。詳細については、「[Dial-via-Office リバース コールバック](#)」(P.15-10) を参照してください。
- Dial-via-Office 転送 : Dial-via-Office 転送機能は、モバイル ボイス アクセス機能に似ていますが、要求が IVR ではなく D チャネルから着信する点が異なります。電話機は、Cisco Unified Mobile Communicator (CUMC) クライアントから、D チャネルを使用して Dial-via-Office 転送機能を開始します。その後、D チャネル経由で Cisco Unified Communications Manager から Enterprise Feature Access (EFA; エンタープライズ機能アクセス) 番号が返されます。Mobility Identity (MI; モビリティ ID) からエンタープライズ機能アクセス番号がコールされ、Cisco Unified Communications Manager から接続先番号がコールされます。詳細については、「[Dial-via-Office 転送](#)」(P.15-11) を参照してください。
- セッション再開 : この機能により、DVO-F コールが予期せず終了した場合に、最後にダイヤルした相手にワンタッチで再接続できます。DVO-F コールを発信してネットワーク障害が発生した場合に便利です。この機能を実装する前に、モバイル ユーザが (電話機の通話履歴から最後のダイヤル番号をコールするか、または電話機に折返しのオプションがある場合に折返しを押して) [リダイヤル (Redial)] を押した場合、リダイヤル番号は Dial-via-Office 転送機能アクセス番号 ([サービスパラメータ (Service Parameter)] で設定) またはエンタープライズ機能アクセス番号 ([コールルーティング (Call Routing)] > [モビリティ (Mobility)] > [エンタープライズ機能アクセス番号設定 (Enterprise Feature Access Number Configuration)] で設定) となります。Cisco Unified Communications Manager はこのコールをエンタープライズ機能アクセス コールとして扱っていたため、ユーザは最後にリダイヤルした相手に接続できませんでした。この機能の実装により、ユーザが [リダイヤ

ル (Redial)] を押すと、Cisco Unified Communications Manager はモバイル ユーザを実際の発信先の電話番号に再接続します。詳細については、「[セッション再開](#)」(P.15-15) を参照してください。

次に示す機能は、元々は Cisco Unified MobilityManager の一部でしたが、現在は Cisco Unified Communications Manager の機能となっています。

- モバイル コネクト：詳細については、「[Cisco Unified Mobility](#)」の章を参照してください。
- デスクトップ コール ピックアップ：詳細については、「[Cisco Unified Mobility](#)」の章を参照してください。
- モバイル ボイス アクセス：詳細については、「[Cisco Unified Mobility](#)」の章を参照してください。
- アクセス リスト：詳細については、「[Cisco Unified Mobility](#)」の章を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager は、次の Cisco Unified Mobility 機能もサポートしています。

- DTMF でのコール中のエンタープライズ機能のサポート：詳細については、「[Cisco Unified Mobility](#)」の章を参照してください。
- 2 段階ダイヤリング：詳細については、「[Cisco Unified Mobility](#)」の章を参照してください。
- デュアル モード フォンのサポート：詳細については、「[Cisco Unified Mobility](#)」の章を参照してください。
- デュアル モード フォンでのコールの手動ハンドオフ：詳細については、「[Cisco Unified Mobility](#)」の章を参照してください。
- Time-of-Day アクセス：詳細については、「[Cisco Unified Mobility](#)」の章を参照してください。
- DTMF を介したダイレクト コール パーク：詳細については、「[Cisco Unified Mobility](#)」の章を参照してください。
- SIP URI ダイヤル：詳細については、「[Cisco Unified Mobility](#)」の章を参照してください。

デスクトップ同時呼び出し、企業のボイスメールボックスの統合、システム リモート アクセス、発信者 ID、リモートのオン/オフ制御、コールトレース、モバイル コネクト コールのセキュリティとプライバシー、スマートフォンのサポートなど、Cisco Unified Mobility 機能のその他の利点については、「[Cisco Unified Mobility 機能のその他の利点](#)」(P.14-9) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.15-21) を参照してください。

Cisco Unified Mobile Communicator

Cisco Unified Mobile Communicator は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで設定可能なデバイス タイプです。Cisco Unified Mobile Communicator は、Mobility Multiplexing Protocol (MMP) を使用して、携帯電話データ接続を介して Cisco Unified Mobility Advantage サーバと通信します。その後、Cisco Unified Mobility Advantage サーバは、SIP を介してデバイスを Cisco Unified Communications Manager に登録します。Cisco Unified Mobile Communicator は、ユーザがデスクトップ電話機を使用している場合は 1 つの Device License Unit (DLU; デバイス ライセンス ユニット) を使用し、ユーザがデスクトップ電話機を使用していない場合は 3 つの DLU を使用します。

設定の詳細については、次のトピックを参照してください。

- 「[Cisco Unified Mobile Communicator の設定](#)」(P.15-7)
- 「[Cisco Unified Mobile Communicator の設定の詳細](#)」(P.15-8)

追加情報

「[関連項目](#)」(P.15-21) を参照してください。

Cisco Unified Mobile Communicator の設定

表 15-3 では、Cisco Unified Mobility の Cisco Unified Mobile Communicator を設定する手順を要約しています。手順の詳細については、この表に示されている情報を参照してください。

表 15-3 Cisco Unified Mobile Communicator の設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
<p>ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、Cisco Unified Mobile Communicator デバイスを設定します。</p> <p>(注) Cisco Unified Communications Manager 内で Cisco Unified Mobile Communicator デバイスを設定する前に、「Cisco Unified Mobility」の「Cisco Unified Mobility と Cisco Unified Mobility Advantage の設定チェックリスト」のユーザアカウントの設定のステップに従ってユーザに対してモビリティが有効化されていることを確認します。</p> <p>[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] メニュー オプションを使用します。[電話のタイプ (Phone Type)] で、[Cisco Unified Mobile Communicator] を選択します。</p> <p>(注) [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ページで、[モビリティの有効化 (Enable Mobility)] チェックボックスがオンになっていることを確認してください。</p> <p>(注) [モビリティの有効化 (Enable Mobility)] チェックボックスをオンにすると、ライセンスに対するトリガーが発生し、モバイル コネクト用にデバイス ライセンス ユニット (DLU) が消費されます。</p>	<p>「Cisco Unified Mobility の設定チェックリスト」 (P.14-3)</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」</p> <p>「Cisco Unified Mobile Communicator の設定の詳細」 (P.15-8)</p>
<p>ステップ 2 Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、Cisco Unified Mobility Advantage サーバのセキュリティ プロファイルを設定します。</p> <p>[システム (System)] > [セキュリティプロファイル (Security Profile)] > [CUMA サーバのセキュリティプロファイル (CUMA Server Security Profile)] メニュー オプションを使用します。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。</p>
<p>ステップ 3 Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、エンタープライズ機能アクセス電話番号 (DN) を設定します。</p> <p>[コールルーティング (Call Routing)] > [モビリティ (Mobility)] > [エンタープライズ機能アクセス設定 (Enterprise Feature Access Configuration)] メニュー オプションを使用します。</p> <p>(注) この設定を行わないと、Dial-via-Office 機能が働きません。</p>	<p>「モビリティ エンタープライズ機能設定」 (P.14-64)</p>
<p>ステップ 4 Cisco Unified Mobility Advantage クライアントに対して、Cisco Unified Communications Manager への登録を許可します。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。</p>

表 15-3 Cisco Unified Mobile Communicator の設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 5 Cisco Unified CM のユーザ オプションのウィンドウで、Cisco Unified Mobile Communicator の次のようなエンドユーザ設定を行います。 <ul style="list-style-type: none"> [デバイス (Device)] : エンドユーザは、固有の Cisco Unified Mobile Communicator を指定します。 [リモート接続先 (Remote Destinations)] : エンドユーザは、固有の Cisco Unified Mobile Communicator をリモート接続先プロファイルとして選択します。 	特定の Cisco Unified IP Phone モデルに関するユーザガイドを参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.15-21) を参照してください。

Cisco Unified Mobile Communicator の設定の詳細

Cisco Unified Mobile Communicator を設定する際に [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの各フィールドを設定する場合、次の設定要件に留意してください。

- 新規の Cisco Unified Mobile Communicator を設定する場合、[電話のタイプ (Phone Type)] ドロップダウンリストボックスで、Cisco Unified Mobile Communicator の電話機タイプを選択します。
- [デバイス名 (Device Name)] : この名前は必ず一意にしてください。MAC アドレスは必要ありません。
- [モビリティユーザ ID (Mobility User ID)] : このフィールドの設定は必須です。選択可能なユーザ ID は、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウ ([ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)]) の [モビリティ情報 (Mobility Information)] ペインで [モビリティの有効化 (Enable Mobility)] チェックボックスがオンになっているエンドユーザのユーザ ID だけです。
- [モビリティ ID (Mobility Identity)] : このフィールドでは、Cisco Unified Mobile Communicator 対応スマートフォン携帯電話番号を接続先番号として指定する必要があります。[Mobility Identity] の設定特性は、[リモート接続先 (Remote Destination)] の設定特性と同一です。このフィールドにアクセスするには、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで [新規モビリティ ID の追加 (Add New Mobility Identity)] リンクをクリックします。これにより、[リモート接続先の設定 (Remote Destination Configuration)] ウィンドウが開き、ここで携帯 ID を追加できます。
- [コーリングサーチスペースの再ルーティング (Rerouting Calling Search Space)] : 基本コールが動作するようにするには、このフィールドを設定する必要があります。この設定は、Cisco Unified Mobile Communicator に適用されます。この設定を使用して、コールがモビリティ ID (つまり、Cisco Unified Mobile Communicator クライアント電話機) にルーティングされます。この設定は、Dial-via-Office コールバック コール レッグをモビリティ ID にルーティングしたり、モバイル コネクト /SNR コールでコール レッグをモビリティ ID にルーティングしたりする際に使用されます。
- [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : 基本コールが動作するようにするには、このフィールドを設定する必要があります。この設定を使用して、モビリティ ID からコールがルーティングされます。この設定は、Dial-via-Office コールでコール レッグをダイヤル先 (発信先) 電話機にルーティングする際に使用されます。
- [DND オプション (DND Option)] : Cisco Unified Mobile Communicator は、DND の [コール拒否 (Call Reject)] オプションだけをサポートします。

電話番号は、Cisco Unified Mobile Communicator に割り当てられている必要があります。

Cisco Unified Mobile Communicator に適用される、次のようなその他の設定要件についても留意してください。

- Cisco Unified Communications Manager および Cisco Unified Mobility Advantage サーバには統合された [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウがないため、Cisco Unified Mobile Communicator クライアント ユーザは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページおよび Cisco Unified Mobility Advantage サーバの両方で、同一のリモート接続先番号を設定する必要があります。
- Cisco Unified Mobile Communicator クライアント ユーザが固有の SIM カードを変更する場合、このユーザは Cisco Unified Mobility Advantage サーバの携帯電話番号を更新する必要があります。その場合、古い携帯電話番号を削除し、新しい携帯電話番号を追加します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページの対応する項目も同様に設定する必要があります。
- Cisco Unified Communications Manager ノードが、Cisco Unified Mobility Advantage サーバ管理コンソールで静的に生成されることを確認してください。
- Cisco Unified Mobility Advantage サーバは、AXL だけを使用して Cisco Unified Communications Manager データベースを更新します。ただし Cisco Unified Communications Manager データベースの変更通知は受信しません。

主な検討事項

Cisco Unified Mobile Communicator デバイスに関する、次の主な検討事項に留意してください。

- Cisco Unified Mobile Communicator デバイスには、モビリティ ID に加えて、1 つまたは複数のリモート接続先を追加できます (リモート接続先プロファイルと同様)。
- 自動の移行サポートは存在しません。デバイスを Cisco Unified Mobile Communicator デバイスとして手動で再設定する必要があります。
- 2.5G では D チャネルはボイス コールの接続後に利用不可になるため、サポートされるのは最初のコールだけです。
- Cisco Unified Mobility Advantage サーバがアクティブにできる Cisco Unified Mobile Communicator デバイスは、各ユーザにつき 1 台だけです (ユーザは Cisco Unified Mobility Advantage に複数の携帯電話を設定できますが、Cisco Unified Mobility Advantage サーバに対してアクティブに接続できる携帯電話は一度に 1 台だけです)。
- Cisco Unified Mobile Communicator デバイスの設定において、再ルーティング用 CSS および CSS は重要な検討事項です。

追加情報

「関連項目」(P.15-21) を参照してください。

Dial-via-Office リバース コールバック

Dial-via-Office Reverse (DVO-R; Dial-via-Office リバース) コールバック機能は、モバイル ボイス アクセス機能に似ていますが、Cisco Unified Communications Manager が両方のコールを発信するという点が異なります。電話機は、Cisco Unified Mobile Communicator クライアントから、D チャネルを使用して、Cisco Unified Communications Manager に SIP INVITE メッセージを送信して、Dial-via-Office リバース コールバック機能を開始します。その後、Cisco Unified Communications Manager はまずモビリティ ID (Cisco Unified Mobile Communicator クライアント) にコールします。モビリティ ID が応答すると、Cisco Unified Communications Manager はダイヤル先 (発信先) 番号にコールします。

すべての Dial-via-Office シナリオにおいて、Cisco Unified Communications Manager から Cisco Unified Mobile Communicator クライアントの携帯電話 / モビリティ ID へのコールバック レッグ、または別の番号へのコールバック レッグにより、常にエンタープライズ機能アクセス DID の発信者 ID が指定されます。からダイヤル先 (発信先) 番号へのコール レッグで送信される発信者 ID では、必ずユーザのエンタープライズデスク番号が指定されます (ユーザのデスクトップ電話機と、Cisco Unified Communications Manager 内に設定されている Cisco Unified Mobile Communicator クライアントのデバイス タイプとの間のシェアドラインに基づく)。Cisco Unified Communications Manager

Dial-via-Office リバース コールバックの例

次の例では、Dial-via-Office リバース コールバックのインスタンスで発生する一連のイベントを示しています。

- ユーザは、電話機で Dial-via-Office 機能呼び出し、発信先の電話番号 2000 にコールします。
- 電話機は、SDP パラメータ「c=PSTN E164 4085551234」で指定されたコールバック番号で、INVITE 2000 を送信します。
- Cisco Unified Communications Manager は、SDP パラメータのエンタープライズ機能アクセス番号 DID (4085556666) で、183 Session In Progress を返信します。
- Cisco Unified Communications Manager は、モビリティ ID 4085551234 にコールバックします。
- モビリティ ID がコールに応答すると、Cisco Unified Communications Manager は発信先の電話番号 2000 にコールをリダイレクトします。

使用例

Cisco Unified Communications Manager がこの機能によってサポートする使用例については、「Dial-via-Office リバース コールバックの使用例」(P.15-16) を参照してください。

Dial-via-Office リバース コールバック機能に関する制限

この機能に適用される制限のリストについては、「Dial-via-Office の制限事項 (DVO-R および DVO-F)」(P.15-18) を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.15-21) を参照してください。

Dial-via-Office 転送

Cisco Unified Mobile Communicator アプリケーションの 1 つである Cisco Mobile をモバイル デバイスにインストールしているユーザは、Dial-via-Office 転送機能を使用できます。Cisco Unified Mobile Communicator は、Cisco Unified Mobile Communicator と Cisco Unified Mobility Advantage との間、および Cisco Unified Mobility Advantage と Cisco Unified Communications Manager との間で D チャネル経由で SIP シグナリングを使用してモバイル デバイスから Dial-via-Office 転送機能呼び出し、最終的な発信先へのコールを開始します。コールは企業の内線番号でアンカーされるため、この機能は Cisco Unified Mobile Communicator モバイルユーザに対する経費削減効果のあるソリューションとなっています。



(注) Dial-via-Office 転送機能呼び出しができるのは、Cisco Mobile クライアントがインストールされた Cisco Unified Mobile Communicator デバイスだけです。

Cisco Unified Communications Manager によって、D チャネル経由で Dial-via-Office Forward (DVO-F; Dial-via-Office 転送) サービス アクセス番号が返されます (DVO-F サービス アクセス番号が設定されている場合)。または、D チャネル経由で Enterprise Feature Access (EFA; エンタープライズ機能アクセス) Directory Number (DN; 電話番号) が返されます。携帯電話で実行されている Cisco Unified Mobile Communicator クライアントは、Cisco Unified Communications Manager から受信する番号をコールします。DVO-F コールを行うモバイル デバイスの電話番号と、設定されている Mobility Identity (MI; モビリティ ID) とが照合されて、権限があるユーザのコールだけが行われます。一致が見つかり、発信先にコール要求が送信されます。Matching Caller ID with Remote Destination サービス パラメータの設定に応じて、完全一致または部分一致の両方がサポートされます。

この項では、Dial-via-Office 転送機能に関する次の内容について説明します。

- 「Cisco Unified Communications Manager の管理ページでの Dial-via-Office 転送の設定」 (P.15-11)
- 「Dial-via-Office Forward Service Access Number」 (P.15-12)
- 「EFA DN および DVO-F サービス アクセス番号のグローバル化サポート」 (P.15-13)
- 「Dial-via-Office 転送の使用例」 (P.15-13)
- 「Dial-via-Office 転送コールの特性」 (P.15-13)
- 「Dial-via-Office 転送の例」 (P.15-13)
- 「Dial-via-Office 転送設定のヒント」 (P.15-14)
- 「セッション再開機能に関する制限」 (P.15-15)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでの Dial-via-Office 転送の設定

Dial-via-Office 転送機能を有効にするには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで次の設定を行う必要があります。

- [コールルーティング (Call Routing)] > [モビリティの設定 (Mobility Configuration)]
[エンタープライズ機能アクセス番号 (Enterprise Feature Access Number)] 設定項目の値が着信側番号と一致し、正しいパーティションに属している必要があります。
- [システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)]
Dial-via-Office Service Access Number に、代替番号を指定できます。

Dial-via-Office Forward Service Access Number

Dial-via-Office Forward Service Access Number サービス パラメータを設定すると、お客様は Cisco Unified Mobile Communicator ユーザが DVO-F をダイヤルするための専用番号を設定できますが、Cisco Unified Communications Manager は異なる番号でコールを受信します（1-800 サポートの使用など）。DVO-F サービス アクセス番号には、フリーダイヤルの 1-800 番号を指定できます。サービス プロバイダーは、この番号を企業へのローカル番号、または Cisco Mobile クライアントが DVO-F コールを呼び出すための他の任意の代替番号にマッピングできます。

Dial-via-Office Forward Service Access Number サービス パラメータには次の特徴があります。

- 最大 24 文字のダイヤル可能な文字です。
- パーティションは指定しません。

Dial-via-Office Service Access Number サービス パラメータは、既存の Enterprise Feature Access (EFA; エンタープライズ機能アクセス) DN と次のように通信を行います。

- DVO-F 機能呼び出しには、EFA DN が設定されている必要があります。DVO-F サービス アクセス番号が設定されているかどうかに関係なく、EFA DN が Cisco Unified Mobile Communicator デバイスからの着信コールを終端します。
- 183 Session In Progress メッセージの応答では、次のルールが当てはまります。
 - Dial-via-Office Forward Service Access Number サービス パラメータ番号が設定されている場合、Cisco Unified Communications Manager から Cisco Unified Mobility Advantage への SDP では、この代替番号が送信されます。
 - EFA DN だけが設定されている場合、Cisco Unified Communications Manager から Cisco Unified Mobility Advantage に EFA DN が送信されます。
- 着信 PSTN コールでは、次の照合が行われます。
 - 着信側番号が EFA DN または DVO-F サービス アクセス番号と照合されます。部分一致または完全一致が行われます。部分一致または完全一致では、発信側番号が、Cisco Unified Mobility Advantage から Cisco Unified Communications Manager に転送された元の SIP INVITE メッセージの発信側番号と照合されます。
 - 実際には、この説明は正確ではありません。システムは、CUMC からの着信 DVO-F コール レッグが（着信側番号の）EFA DN または DVO-F サービス アクセス番号へのものであることを前提としています。ただし、その番号でコールが受信されると、着信側番号は重要ではなくなります。部分一致または完全一致の照合では、発信側番号との照合が行われますが、これは EFA または DVO-F サービス アクセス番号との照合ではなく、CUMA によって Unified CM に転送された元の SIP INVITE に指定された発信側番号です。
 - 一致が見つかった場合、音声コールが元の SIP INVITE と関連付けられ、コール待機タイマーが停止されます。次に、ユーザが元々ダイヤルし、Cisco Unified Communications Manager が Cisco Unified Mobility Advantage から受信した SIP INVITE に含まれている着信側番号または発信先番号にコールが送達されます。
 - 一致が見つからなかった場合は、コール待機タイマーが時間切れになると、コールが切断されて、503 Service Unavailable メッセージが送信されます。

EFA DN および DVO-F サービス アクセス番号のグローバル化サポート

[エンタープライズ機能アクセス番号 (Enterprise Feature Access Number)] および Dial-via-Office Forward Service Access Number の両方において、次のダイヤル可能な文字がサポートされています。

- 0 ～ 9
- + (バックスラッシュ (¥) を直前に付加する必要があります)。バックスラッシュはダイヤル可能な文字ではないため、24 文字の最大長制限には含まれません。
- * および #
- A ～ D

上記の特殊文字は、任意の場所に指定できます。

Dial-via-Office 転送の使用例

Cisco Unified Communications Manager がこの機能によってサポートする使用例については、「[Dial-via-Office 転送の使用例](#)」(P.15-16) を参照してください。

Dial-via-Office 転送コールの特性

次に、上記の例を使用して、Dial-via-Office 転送コールの特性について説明します。

- INVITE SDP パラメータ「a=setup:active」に基づいて、Cisco Unified Communications Manager では、Cisco Mobile クライアントが DVO-F コールを開始すると判断されます。
- Cisco Unified Communications Manager から Cisco Unified Mobility Advantage に 183 Session In Progress メッセージが送信されると、30 秒に設定されているコール待機タイマーが開始します。
- コール待機タイマーが時間切れになる前に Cisco Unified Communications Manager で Cisco Unified Mobile Communicator からの PSTN コールを受信しない場合、Cisco Unified Communications Manager は「503 Service Unavailable」メッセージを送信して、DVO-F INVITE に関連付けられているリソースをクリアします。
- PSTN コールが着信すると、次の照合が行われます。
 - Cisco Unified Communications Manager では、発信側番号と、設定されている Mobility Identity (MI; モビリティ ID) との照合が試みられ、コールをアンカーするかどうか判断されます。Cisco Unified Communications Manager では、Matching Caller ID with Remote Destination サービス パラメータに設定されたオプションに基づいて照合が行われます (部分一致または完全一致)。
 - また、Cisco Unified Communications Manager では、着信側番号と、EFA DN または DVO-F サービス アクセス番号との照合が行われて、コールが DVO-F コールであるかどうか判断されます。
- コールが確立された後、ユーザは保留、復帰、会議、転送、デスク ピックアップなどの他の Cisco Unified Mobility 機能呼び出すことができます。

Dial-via-Office 転送の例

次の例では、Dial-via-Office 転送 (DVO-F) のインスタンスで発生する一連のイベントを示しています。

1. ユーザが Cisco Unified Mobile Communicator アプリケーションを起動して、発信先番号として 2000 と入力します。
2. Cisco Unified Mobile Communicator から、発信先番号として 2000 が設定された SIP INVITE メッセージが送信されます。

3. Cisco Unified Communications Manager から、D チャネルを経由して 183 Session In Progress が返送されます。SDP パラメータには、Dial-via-Office 転送サービス アクセス番号または EFA DN が指定されています。
4. Cisco Unified Mobile Communicator によって、SDP で指定された番号に自動ダイヤルされます。
5. Cisco Unified Communications Manager では、発信側番号とモビリティ ID、および着信側番号と EFA DN または DVO-F サービス アクセス番号を比較することによって、この音声コールが SIP D チャネル コールに関連付けられます。
6. その後、コールが通常どおり進行します。

Dial-via-Office 転送設定のヒント

次に、Dial-via-Office 転送機能を設定する場合の設定のヒントを示します。

- Cisco Unified Mobile Communicator デバイスには、有効な Mobility Identity (MI; モビリティ ID) をプロビジョニングする必要があります。
- Cisco Unified Mobile Communicator デバイスを Cisco Unified Communications Manager に登録する必要があります。
- Cisco Unified Communications Manager が受信する Cisco Unified Mobile Communicator 発信者 ID が、プロビジョニングされている MI に完全に一致しない場合は、次の設定を行います。
 - Matching Caller ID with Remote Destination サービス パラメータを [Partial Match] に設定します。
 - Number of Digits for Caller ID Partial Match サービス パラメータに、照合する桁数を指定します。
- 着信側番号が EFA DN または DVO-F Service Access Number サービス パラメータに一致するように、入力ゲートウェイが正しく設定されていることを確認します。
- 着信側番号が EFA DN に一致する場合は、Inbound Calling Search Space for Remote Destination サービス パラメータのプロパティが次のように設定されていることを確認します。
 - [トランクまたはゲートウェイ着信コーリングサーチスペース(Trunk or Gateway Inbound Calling Search Space)] オプションが選択されている場合、EFA DN パーティションはトランクまたはゲートウェイのコーリングサーチスペースに属している必要があります。
 - [リモート接続先プロファイル(Remote Destination Profile)] オプションと [回線コーリングサーチスペース(Line Calling Search Space)] オプションが選択されている場合、EFA DN パーティションは Cisco Unified Mobile Communicator デバイスおよびそのエンタープライズ DN のコーリングサーチスペースに属している必要があります。

Dial-via-Office リバース コールバック機能に関する制限

この機能に適用される制限のリストについては、「[Dial-via-Office の制限事項 \(DVO-R および DVO-F\)](#)」(P.15-18) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.15-21) を参照してください。

セッション再開

セッション再開機能を使用すると、ユーザは会議 ID およびパスワードを再度入力することなく、(信号損失後に) 会議に折り返しのコールを発信できます。

モバイル コールの障害は、セルラー ネットワークではよく発生します。DVO-F コールの場合、携帯電話に格納されているダイヤル番号は、DVO-F サービス アクセス番号となります。これは、内部で設定される DID 番号です。ユーザが (電話機の通話履歴から最後のダイヤル番号をコールするか、または電話機に折返しオプションがある場合に折返しを押して) 自身の携帯電話で [リダイヤル (Redial)] を押すと、格納された番号はすでにダイヤルされたものであるため、Cisco Unified Communications Manager は元の発信先に到達できません。

セッション再開機能の実装により、Cisco Unified Communications Manager は DVO-F コールが最初に発信されたときに、発信先 DN を格納します。ネットワーク障害後にユーザが [リダイヤル (Redial)] を押した場合、Cisco Unified Communications Manager は DVO-F サービス アクセス番号のコールを受信し、Unified CM は格納していた発信先の電話番号にそのコールを置き換えます。このようにして、リダイヤル要求が正常に処理されます。元のコールがリリースされたかどうかに応じて、新しいコールが元の発信先に送達されるか、または元のコールが再接続されます。

設定の詳細

次の設定の詳細が、セッション再開機能に適用されます。

- セッション再開機能は、Session Resumption Await Timer サービス パラメータの設定を使用します。この設定は、[Clusterwide Parameters(System - Mobility)] ペインの Cisco CallManager サービスの [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウ ([システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)]) で設定します。Session Resumption Await Timer サービス パラメータのデフォルト設定は 180 秒 (3 分) ですが、0 ~ 300 秒 (5 分) の任意の値に設定できます。Session Resumption Await Timer サービス パラメータを 0 秒に設定すると、タイマーおよびセッション再開機能が無効になります。
- ネットワーク障害のために DVO-F コールが中断した場合に Session Resumption Await Timer が期限切れになると、この DVO-F コールの元の発信先電話番号の記録が削除されます。タイマーの期限切れ後に発信されるリダイヤル コールは、Enterprise Feature Access (EFA; エンタープライズ機能アクセス) コールとして呼び出されます。セッション再開機能はトリガーされません。
- リダイヤル コールがビジー状態の発信先電話番号に送達された場合、ユーザはビジー トーンを受信します。

使用例

セッション再開機能に適用される使用例については、「[S セッション再開の使用例](#)」(P.15-17) を参照してください。

セッション再開機能に関する制限

この機能に適用される制限のリストについては、「[セッション再開に関する制限](#)」(P.15-19) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.15-21) を参照してください。

Cisco Unified Mobility 機能の使用例

次の項では、Cisco Unified Mobility Advantage に必要な設定が行われている場合に、Cisco Unified Mobility の各機能に対して Cisco Unified Communications Manager がサポートする使用例について説明します。

- 「Dial-via-Office リバース コールバックの使用例」(P.15-16)
- 「Dial-via-Office 転送の使用例」(P.15-16)
- 「S セッション再開の使用例」(P.15-17)

追加情報

「関連項目」(P.15-21) を参照してください。

Dial-via-Office リバース コールバックの使用例

Dial-via-Office リバース コールバック機能は、次の使用例をサポートしています。

- モバイルユーザがリモート接続先に対して Dial-via-Office リバース コールバック機能呼び出し、成功した。
- モバイルユーザがリモート接続先以外に対して Dial-via-Office リバース コールバック機能呼び出し、成功した。
- モバイルユーザが Dial-via-Office リバース コールバック機能呼び出し、失敗した。

追加情報

「関連項目」(P.15-21) を参照してください。

Dial-via-Office 転送の使用例

Dial-via-Office 転送機能は、次の使用例をサポートしています。

1. 企業で、EFA DN だけが設定されている。

DVO-F 機能は、Cisco Unified Mobile Communicator クライアントが正確な EFA DN を自動的にダイヤルし、Cisco Unified Communications Manager も同じ着信側番号を受信する場合にだけ成功します。

例

EFA DN = 1239876

DVO-F Service Access Number サービス パラメータ = EMPTY

Cisco Unified Communications Manager は、183 メッセージで 1239876 を送信し、1239876 への PSTN コールを受信します。

2. 企業で、DVO-F コール用に 1-800 フリーダイヤル番号を提供している。

企業で、フリーダイヤル番号を設定しています。この番号は、サービスプロバイダーがコールを受信する場合の実際の番号（発信先番号）にマッピングできます。

発信先番号にマッピングする場合、管理者は、Dial-via-Office Forward Service Access Number サービス パラメータを使用してフリーダイヤル番号（18008889999 など）を設定し、EFA DN として発信先番号（4081239876 など）を設定する必要があります。

例

EFA DN = 1239876 (サービス プロバイダーに応じて、ローカライズされた形式)

DVO-F Service Access Number サービス パラメータ = 1800888999

Cisco Unified Communications Manager は、183 Session In Progress メッセージで 1800888999 を送信し、1239876 にマッピングされた PSTN コールを受信します。

3. 企業で、DVO-F コール用にグローバル化された番号を提供している。

企業でグローバル化されたアクセス番号を設定すると、企業の Cisco Unified Mobile Communicator ユーザは、現在の国における国際エスケープ コードを把握していなくても、DVO-F コールを呼び出すことができます。

サービス プロバイダーがローカライズされた番号だけを提供している場合、管理者は、グローバル化された番号 (¥+14081239876 など) を DVO-F Service Access Number サービス パラメータとして設定し、Cisco Unified Communications Manager が受信するローカライズされた番号 (1239876 など) を EFA DN として設定する必要があります。

例

EFA DN = 1239876 (サービス プロバイダーに応じて、ローカライズされた形式)

DVO-F Service Access Number サービス パラメータ = ¥+14081239876 (+ 文字のエスケープとしてバックスラッシュが必要)

Cisco Unified Communications Manager は、183 Session In Progress メッセージで +14081239876 を送信し、1239876 にマッピングされた PSTN コールを受信します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.15-21) を参照してください。

S セッション再開の使用例

セッション再開機能は、次の使用例をサポートします。

セッション再開の使用例 1：発信先への新しいコール

新しいコールが発信先に発信される DVO-F リダイヤル コールの場合、次の手順が行われます。

1. ユーザが DVO-F コールを、たとえば、発信先電話番号 1000 に発信します。
2. ユーザと発信先の通話中に、モバイル ネットワークの障害が発生します。
3. Session Resumption Await Timer が開始されます。発信先に MOH が流れます。ユーザは共有デスク回線でコールを再開せず、まもなく Desk Pickup Timer (デフォルトは 30 秒) が期限切れになります。発信先が電話を切ります。
4. Session Resumption Await Timer が期限切れになる前に、ユーザは DVO-F サービス番号をコールします。
5. Cisco Unified Communications Manager は、発信先 (1000) が最後の発信先であることを認識し、その最後の発信先 (この例では 1000) に新しいコールを発信します。ユーザと発信先が再接続されます。

セッション再開の使用例 2：既存のコールへの再接続

既存のコールが発信先に再接続される DVO-F リダイヤル コールの場合、次の手順が行われます。

1. ユーザが DVO-F コールを、たとえば、発信先電話番号 1000 に発信します。
2. ユーザと発信先の通話中に、モバイル ネットワークの障害が発生します。

3. Session Resumption Await Timer が開始されます。発信先に MOH が流れます。ユーザは共有デスク回線でコールを再開しません。
4. Desk Pickup Timer (デフォルトは 30 秒) が期限切れになる前に、ユーザは DVO-F サービス番号をコールします。
5. Cisco Unified Communications Manager は、発信先 (1000) が最後の発信先であることを認識し、MOH を停止し、ユーザを待っていた発信先にユーザを再接続します。

DN 1000 には新しいコールが送達されないことに注意してください。DN 1000 への元のコールが再接続されるときに、メディア切り替えのみが行われます。DN 1000 ユーザから見た場合、ネットワーク障害が発生すると、DN 1000 にはまず MOH が流れます。数秒後、Desk Pickup Timer が期限切れになる前にモバイルユーザが [リダイヤル (Redial)] を押すと、元のコールは再接続され、ユーザと発信先がコールを続行します。

追加情報

「関連項目」(P.15-21) を参照してください。

インタラクションおよび制限事項

Cisco Unified Communications Manager の標準機能の多くは、Cisco Unified Mobility の機能と完全に互換性があります。例外の詳細については、「[Cisco Unified Mobility](#)」の章の次の項を参照してください。

- 「[インタラクション](#)」(P.14-32)
- 「[制限事項](#)」(P.14-34)

また、Cisco Unified Mobility Advantage および Cisco Unified Mobile Communicator の機能を必要とする機能の制限事項について、次の項で説明します。

- 「[制限事項](#)」(P.15-18)

追加情報

「関連項目」(P.15-21) を参照してください。

制限事項

この項では、さまざまな制限を機能別に示します。この項は、次の内容で構成されています。

- 「[Dial-via-Office の制限事項 \(DVO-R および DVO-F\)](#)」(P.15-18)
- 「[セッション再開に関する制限](#)」(P.15-19)

Dial-via-Office の制限事項 (DVO-R および DVO-F)

Cisco Unified Communications Manager における Dial-via-Office 転送 (DVO-F) 機能には、次の制限事項があります。

- 特定の Cisco Unified Mobile Communicator デバイスから確立される未処理の DVO-F コールは、一度に 1 つだけがサポートされます。
- DVO-F では、単一の Cisco Unified Mobile Communicator デバイスからの同時コールはサポートされていません。
- DVO-F では、単一の Cisco Unified Mobile Communicator デバイスからの同時に 2 つ DVO-F コールがサポートされています。

- DVO-F では、SIP INVITE メッセージの発信者 ID を使用して、PSTN コールと SIP コールの関連付けが行われます。
 - 発信側番号または着信側番号がモバイル音声ネットワーク（たとえば、GSM）経由で発信できない場合、DVO-F コールは失敗します。標準的なサービス プロバイダーのアナウンスが再生されます。コール待機タイマーが時間切れになると、Cisco Unified Communications Manager によって 503 Service Unavailable メッセージが送信されます。
 - Cisco Unified Communications Manager が発信側番号を受信しない場合（つまり、Cisco Unified Mobile Communicator ユーザが発信者 ID をブロックしている場合）、DVO-F コールは失敗します。リオーダー音が再生されます。コール待機タイマーが時間切れになると、Cisco Unified Communications Manager によって 503 Service Unavailable メッセージが送信されます。

セッション再開に関する制限

セッション再開機能には、次の制限があります。

- セッション再開機能は、Dial-via-Office 転送コールのみをサポートします。

追加情報

「関連項目」(P.15-21) を参照してください。

システム要件

Cisco Unified Mobility を Cisco Unified Mobility Advantage と連携させて使用するには、次のソフトウェア コンポーネントが必要です。

- Cisco Unified Communications Manager 6.0 以降

また、Cisco Unified Mobility Advantage でも追加のソフトウェア コンポーネントが必要です。詳細については、次の資料を参照してください。

- Cisco Unified Mobility Advantage Release 7.1 のインストールおよび設定 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps7270/prod_installation_guides_list.html)
- Cisco Unified Mobility Advantage Release 7.1 の設定ガイド (http://www.cisco.com/en/US/products/ps7270/products_installation_and_configuration_guides_list.html)

追加情報

「関連項目」(P.15-21) を参照してください。

Cisco Unified Mobility と Cisco Unified Mobility Advantage の設定

「Cisco Unified Mobility」の章の「Cisco Unified Mobility の設定チェックリスト」(P.14-3)には、管理者が Cisco Unified Communications Manager に固有の Cisco Unified Mobility 機能を設定するために必要な手順をまとめたチェックリストが記載されています。

「Cisco Unified Mobility」の章の「Cisco Unified Mobility の設定」(P.14-40)には、Cisco Unified Communications Manager に固有の Cisco Unified Mobility 機能をプロビジョニングするために設定する必要がある Cisco Unified Communications Manager の管理ページの各メニュー オプションに関して詳細な手順が記載されています。その項では、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの次のエンティティの設定について説明されています。

- アクセス リスト
- リモート接続先プロファイル (Cisco Unified Mobility Advantage との統合にこれらのリソースは必要なく、使用することはありません)
- リモート接続先
- モバイル ボイス アクセス用のメディア リソース (Cisco Unified Mobility Advantage との統合にこれらのリソースは必要なく、使用することはありません)
- モバイル ボイス アクセス用の H.323 および SIP ゲートウェイ (Cisco Unified Mobility Advantage との統合にこれらのリソースは必要なく、使用することはありません)
- エンタープライズ機能アクセスの 2 段階ダイヤリング (Cisco Unified Mobility Advantage との統合では、この機能の設定は不要です。ただし、エンタープライズ機能アクセス DID の設定は必要です。Cisco Unified Communications Manager では、この DID に示された発信者 ID を Dial-via-Office コールバック コール レッグ用に送信するためです)
- モビリティ エンタープライズ機能の設定
- モビリティ プロファイル
- ハンドオフ モビリティ設定
- モビリティ ソフトキー

エンド ユーザは、Cisco Unified CM のユーザ オプションのウィンドウを使用して、携帯電話に適用される Cisco Unified Mobility の設定をさらに詳しく構成したり、または変更したりできます。

Cisco Unified Mobility Advantage を必要とする Cisco Unified Mobility 機能を提供するように Cisco Unified Communications Manager で Cisco Unified Mobility Advantage を設定するために必要な手順については、次の資料を参照してください。

- Cisco Unified Mobility Advantage Release 7.1 のインストールおよび設定 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps7270/prod_installation_guides_list.html)
- Cisco Unified Mobility Advantage Release 7.1 の設定ガイド (http://www.cisco.com/en/US/products/ps7270/products_installation_and_configuration_guides_list.html)



ヒント

Cisco Unified Mobility を設定する前に、「Cisco Unified Mobility と Cisco Unified Mobility Advantage の設定チェックリスト」(P.15-2)を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.15-21)を参照してください。

関連項目

- 「Cisco Unified Mobility と Cisco Unified Mobility Advantage の設定チェックリスト」 (P.15-2)
- 「Cisco Unified Mobility と Cisco Unified Mobility Advantage の概要」 (P.15-4)
 - 「定義」 (P.15-4)
 - 「Cisco Unified Mobility Advantage 対応の Cisco Unified Mobility 機能のリスト」 (P.15-5)
 - 「Cisco Unified Mobile Communicator」 (P.15-6)
 - 「Dial-via-Office リバース コールバック」 (P.15-10)
 - 「Dial-via-Office 転送」 (P.15-11)
 - 「Cisco Unified Mobility 機能の使用例」 (P.15-16)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.15-18)
 - 「制限事項」 (P.15-18)
- 「システム要件」 (P.15-19)
- 「Cisco Unified Mobility と Cisco Unified Mobility Advantage の設定」 (P.15-20)
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サービスパラメータの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』の「Cisco Unified Mobility のライセンス」

参考資料

- 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』
- 『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』
- 適切な Cisco Unified IP Phone のユーザガイド
- 適切な Cisco Unified IP Phone のアドミニストレーションガイド
- Cisco Unified Mobility Advantage Release 7.1 のインストールおよび設定 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps7270/prod_installation_guides_list.html)
- Cisco Unified Mobility Advantage Release 7.1 の設定ガイド (http://www.cisco.com/en/US/products/ps7270/products_installation_and_configuration_guides_list.html)
- 次の URL にある『Configuring Features in Cisco Unified Mobility Advantage: Dial Via Office Forward』
http://www.cisco.com/en/US/products/ps7270/products_installation_and_configuration_guides_list.html
- 適切な Cisco Unified Mobile Communicator のエンドユーザ資料



CHAPTER 16

Cisco Mobile VoIP Client

Cisco Unified Communications Manager は、Cisco Mobile VoIP Client を Cisco Unified Communications Manager と直接接続するための特定の機能を備えています。この章では、その機能とそのためになる設定について説明します。

Cisco Unified Communications Manager の Release 8.5(1) から、Cisco Mobile VoIP Client は Cisco Unified Communications Manager に直接登録し、Cisco Unified Mobility Advantage サーバに登録する必要がなくなりました。



(注)

「Cisco Mobile」という名前は、Cisco Unified Mobility Advantage サーバを必要とするいくつかのモバイルクライアントにも使用されています。このようなクライアントは、この章で説明するクライアントとは関係ありません。このようなクライアントの詳細については、「[Cisco Unified Mobility Advantage と Cisco Unified Mobile Communicator の統合](#)」の章を参照してください。

Cisco Mobile は、モバイルデバイスで動作するクライアントファミリに付与される名前です。Cisco Mobile クライアントの種類によって提供される機能が異なります。機能には、次のようなものがあります。

- プロキシサーバを必要としない Cisco Unified Communications Manager からモバイルクライアントへの直接接続
- 通話料金削減に向けた Dial-via-Office (DVO) 最適化設定
- 携帯電話からのモバイル コネクトの有効化 / 無効化
- Dial-via-Office リバース コールバック
- Dial-via-Office 転送
- モバイル デバイスとデスクトップ電話機の間でアクティブな Dial-via-Office コールを転送するための機能

Cisco Mobile VoIP Client の設定の詳細については、次の資料を参照してください。

- 次の URL にある Cisco Mobile VoIP Client のエンド ユーザ ガイド：
http://www.cisco.com/en/US/products/ps7271/products_user_guide_list.html

エンド ユーザが Cisco Unified CM のユーザ オプションのウィンドウを使用して電話機の Cisco Unified Mobility 設定を行う際の手順については、特定の Cisco Unified IP Phone 向けエンド ユーザ ガイドを参照してください。

この章は、次の内容で構成されています。

- 「Cisco Mobile VoiP Client に関する設定」 (P.16-2)
- 「Cisco Mobile VoiP Client の概要」 (P.16-2)
 - 「定義」 (P.16-3)
 - 「Cisco Mobile VoiP Client 機能の一覧」 (P.16-3)
 - 「プロキシ サーバを必要としない Cisco Unified Communications Manager からモバイルクライアントへの直接接続」 (P.16-4)
 - 「通話料金削減に向けた DVO 最適化設定」 (P.16-5)
 - 「携帯電話からのモバイル コネクトの有効化 / 無効化」 (P.16-6)
- 「システム要件」 (P.16-6)
- 「Cisco Mobile VoiP Client の設定」 (P.16-7)
- 「関連項目」 (P.16-7)

Cisco Mobile VoiP Client に関する設定

Cisco Mobile VoiP Client の詳細な設定方法は、次の場所にあります。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps7271/prod_installation_guides_list.html

Cisco Unified Mobility Advantage サーバでの設定によって使用可能になる Cisco Unified Mobility 機能の詳細については、「Cisco Mobile VoiP Client 機能の一覧」 (P.16-3) を参照してください。

Cisco Mobile VoiP Client の概要

Cisco Mobile VoiP Client が備える機能には、Cisco Unified Communications Manager の管理 の特殊な設定が必要であることに注意してください。

この項では、次のトピックについて説明します。

- 「定義」 (P.16-3)
- 「Cisco Mobile VoiP Client 機能の一覧」 (P.16-3)
- 「プロキシ サーバを必要としない Cisco Unified Communications Manager からモバイルクライアントへの直接接続」 (P.16-4)
- 「通話料金削減に向けた DVO 最適化設定」 (P.16-5)
- 「携帯電話からのモバイル コネクトの有効化 / 無効化」 (P.16-6)

追加情報

「関連項目」 (P.16-7) を参照してください。

定義

表 16-1 に、Cisco Mobile VoiP Client を使用する Cisco Unified Mobility に関連する用語の定義を示します。

表 16-1 定義

用語	定義
Cisco Mobile 8.x	このような直接接続デュアルモードクライアントは、携帯電話に加え（コスト削減のため）Voice-over-Wi-Fi もサポートします。プロキシサーバを必要とせず、Cisco Unified Communications Manager に直接接続されます。

追加情報

「関連項目」(P.16-7) を参照してください。

Cisco Mobile VoiP Client 機能の一覧

この項では、Cisco Mobile VoiP Client の設定が行われている場合に、携帯電話ユーザに提供される Cisco Unified Mobility 機能のリストを示します。ここでは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページ内での設定について説明します。

次のエンティティと機能を使用するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでの Cisco Unified Mobility の設定が必要になります。

- プロキシサーバを必要としない Cisco Unified Communications Manager からモバイルクライアントへの直接接続：この機能により、Cisco Mobile VoiP Client の Cisco Unified Communications Manager への直接接続をサーバ側でサポートできるため、Cisco Unified Mobility Advantage を配置する必要がありません。Cisco Unified Communications Manager は、Cisco Mobile VoiP Client との直接接続をサポートするように調整されます。詳細については、「[プロキシサーバを必要としない Cisco Unified Communications Manager からモバイルクライアントへの直接接続](#)」(P.16-4) を参照してください。
- 通話料金削減に向けた DVO 最適化設定：この機能は、どのモバイル発信コール（DVO-R または DVO-F）が企業にとってコストが最小になるかを決定する事前設定済みのポリシーをサポートします。この決定は、一般にロケーションに基づいて行われます。管理者は、ユーザロケーションおよびそれ以外の使用可能な情報に基づいて、プロファイルを割り当てます。最小限コストのルーティングは、Cisco Unified Communications Manager とネゴシエーションして、DVO-R と DVO-F のいずれが最小限コストを生成するかを判断し、コールの発信にコストのかからない方法を選択します。詳細については、「[通話料金削減に向けた DVO 最適化設定](#)」(P.16-5) を参照してください。
- 携帯電話からのモバイルコネクットの有効化/無効化：この機能により、Cisco Mobile VoiP Client はモバイルコネクットステータスを動的に変更して、Cisco Unified Communications Manager とクライアントとの間でモバイルコネクットステータスを同期させることができます。この機能は、エンドユーザに柔軟性をもたらします。エンドユーザは、ユーザのモバイルコネクットステータスを GUI Web サイトからだけでなく自身の携帯電話からも変更できます。詳細については、「[携帯電話からのモバイルコネクットの有効化/無効化](#)」(P.16-6) を参照してください。モバイルコネクットステータスを更新するさまざまな方法が記載されたリストについては、「[Cisco Unified Mobility](#)」の章の「[モバイルコネクットを有効化および無効化する方法](#)」(P.14-10) を参照してください。

次に示す機能は、元々は Cisco Unified MobilityManager の一部でしたが、現在は Cisco Unified Communications Manager の機能となっています。

- モバイル コネクト：詳細については、「[Cisco Unified Mobility](#)」の章を参照してください。
- デスクトップ コール ピックアップ：詳細については、「[Cisco Unified Mobility](#)」の章を参照してください。
- アクセス リスト：詳細については、「[Cisco Unified Mobility](#)」の章を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager は、次の Cisco Unified Mobility 機能もサポートしています。

- DTMF でのコール中のエンタープライズ機能のサポート：詳細については、「[Cisco Unified Mobility](#)」の章を参照してください。
- デュアル モード フォンのサポート：詳細については、「[Cisco Unified Mobility](#)」の章を参照してください。
- デュアル モード フォンでのコールの手動ハンドオフ：詳細については、「[Cisco Unified Mobility](#)」の章を参照してください。
- Time-of-Day アクセス：詳細については、「[Cisco Unified Mobility](#)」の章を参照してください。
- DTMF を介したダイレクト コール パーク：詳細については、「[Cisco Unified Mobility](#)」の章を参照してください。
- SIP URI ダイアル：詳細については、「[Cisco Unified Mobility](#)」の章を参照してください。

デスクトップ同時呼び出し、企業のボイスメールボックスの統合、システム リモート アクセス、発信者 ID、リモートのオン/オフ制御、コールトレース、モバイル コネクト コールのセキュリティとプライバシー、スマートフォンのサポートなど、Cisco Unified Mobility 機能のその他の利点については、「[Cisco Unified Mobility 機能のその他の利点](#)」(P.14-9) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.16-7) を参照してください。

プロキシ サーバを必要としない Cisco Unified Communications Manager からモバイル クライアントへの直接接続

Cisco Mobile VoIP Client と Cisco Unified Communications Manager 間の登録は、独立した TCP ポート経由で行われます (Cisco Unified Mobility Advantage サーバで使用された共有された接続またはプールされた接続は使用されません)。Cisco Mobile VoIP Client と Cisco Unified Communications Manager 間のキープアライブ メッセージは、Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unified Mobility Advantage 間で渡されたものと同じままになります。Cisco Unified Communications Manager への Cisco Mobile VoIP Client の登録に新たなアラームは導入されず、登録は SIP チャネル経由で行われます。

クライアントが iPhone で実行中で、Cisco Mobile VoIP Client が SIP ダイアログを完了できない場合、Cisco Unified Communications Manager は PSTN コールを保持します (SIP ステータスがタイムアウトした場合でも、PSTN コールは終了しません)。たとえば、Cisco Unified Communications Manager が 200 OK メッセージを送信した後で ACK メッセージを受信しない場合、PSTN コールは保持されます。

Cisco Unified Communications Manager からモバイル クライアントへの直接接続に関する制限

この機能には、次の制限があります。

- Cisco Unified Communications Manager と Cisco Mobile VoIP Client 間の SIP ダイアログが完了しない場合、そのダイアログを使用してコール中の機能をさらに呼び出すことはできません。ただし、DTMF インターフェイス経由でコール中の機能を呼び出すことができます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.16-7) を参照してください。

通話料金削減に向けた DVO 最適化設定

この機能は、どのモバイル発信コール（DVO-R または DVO-F）が企業にとってコストが最小になるかを決定する事前設定済みのポリシーをサポートします。この決定は、一般にロケーションに基づいて行われます。モバイル ユーザにとっては、モバイル コールを発信するときに最小限コストを見つけることができるため便利です。DNIS プールでは Direct Inward Dialing (DID; ダイアルイン) 番号のリストを参照できるようになっているため、ローミング時にはモバイル コール用に国際番号以外の番号を選択できます。最小限コストのルーティングは、Cisco Unified Communications Manager とネゴシエーションして、DVO-R と DVO-F のいずれが最小限コストを生成するかを判断し、コールの発信にコストのかからない方法を選択します。

最小限コストのルーティングおよび DNIS プールが望ましい理由

次に挙げる理由から、この機能をお勧めします。

- 管理者が、最小限コストのコールルーティングに適した DVO コールタイプ（DVO-F または DVO-R）を決めることができます。リージョンやサービス プロバイダーによっては、DVO-F の方がモバイル ユーザにとって経済的である場合もあれば、DVO-R の方が経済的である場合もあります。たとえば、携帯電話ユーザの着信コールが無料であるリージョンでは、携帯電話ユーザに DVO-R コールを設定すると、最小限コストのコールルーティングを実現できます。
- スケーラビリティ：特定のリージョンの複数のユーザが、リージョン、サービス プロバイダー、ロケーションなどで構成されている 1 つのモビリティ プロファイルを使用できます。ここでいう「ユーザ」とは、実際のエンドユーザのクライアントのことです。管理者は、各エンドユーザのモビリティ プロファイルを作成する必要がありません。
- すべての DVO-F コールを対象とするクラスタ内の単一の DID：このような DVO-F コールの場合、クライアントは特定の DID を使用して Cisco Unified Communications Manager に着信コールを発信します。
- 複数サイト クラスタ：複数サイト クラスタの場合、クラスタ A（英国など）のクライアントは、DVO-F コールにクラスタ B（サンノゼなど）の DID を使用します。これにはコストがかかります。
- DVO-R：トランクは、ローカル DID から発信されるコールを許可します。クライアントが発信 DVO-R コールを発信したとき、発信者 ID が特定の範囲内にはない場合には、クライアントのトランクが発信コールを許可しないことがあります。たとえば、英国のクライアントが DVO-R を呼び出した場合、サンノゼのクラスタにあるトランクからのコールバックコールは 408 を表示します。このコールが英国に到達したとき、サービス プロバイダーのトランクが 408 を認識しないことがあり、そうするとコールは許可されません。このため、発信者 ID には、ローカルに識別可能な値を指定する必要があります。

通話料金削減に向けた DVO 最適化設定の特性

この機能では、管理者が Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [コールルーティング (Call Routing)] > [モビリティ (Mobility)] > [モビリティプロファイル (Mobility Profile)] メニューパスを使用して設定するモビリティプロファイルを使用します。モビリティプロファイルの詳細については、「[モビリティプロファイル設定 (Mobility Profile Configuration)]」(P.14-66) を参照してください。

通話料金削減に向けた DVO 最適化設定機能は、DVO-R コールが使用する代替コールバック メカニズムを変更しません。クライアントが引き続き代替コールバックを制御します。

通話料金削減に向けた DVO 最適化設定に関する制限

通話料金削減に向けた DVO 最適化設定機能には、次の制限があります。

- アプリケーションダイヤルルールの後に、最小限コストのルーティング (LCR) ルールが適用されます。LCR については、着信側トランスフォーメーションおよび自動転送シナリオが考慮されません。

追加情報

「関連項目」(P.16-7) を参照してください。

携帯電話からのモバイルコネクットの有効化 / 無効化

Cisco Unified Communications Manager の Release 8.5(1) よりも前では、Cisco Unified Communications Manager は AXL メッセージで Cisco Unified Mobility Advantage を介してモバイルコネクットステータスの更新を Cisco Unified Mobile Communicator クライアントに送信していました。現在は、Cisco Mobile VoIP Client と Cisco Unified Communications Manager 間の直接 SIP メッセージにより、クライアントが自身のモバイルコネクットステータスを変更できます。

Cisco Unified Communications Manager の Release 8.5(1) から、Cisco Mobile VoIP Client は自身のモバイルコネクットステータスを直接更新できます。

追加情報

「関連項目」(P.16-7) を参照してください。

インタラクションおよび制限事項

Cisco Unified Communications Manager の標準機能の多くは、Cisco Unified Mobility の機能と完全に互換性があります。例外の詳細については、「Cisco Unified Mobility」の章の次の項を参照してください。

- 「インタラクション」(P.14-32)
- 「制限事項」(P.14-34)

追加情報

「関連項目」(P.16-7) を参照してください。

システム要件

システム要件の詳細については、次の資料を参照してください。

『Release Notes for Cisco Mobile』

(http://www.cisco.com/en/US/products/ps7271/prod_release_notes_list.html)

追加情報

「関連項目」(P.16-7) を参照してください。

Cisco Mobile VoiP Client の設定

Cisco Mobile VoiP Client の設定の詳細については、次の資料を参照してください。

- 次の URL にある Cisco Mobile VoiP Client の設定ガイド：
http://www.cisco.com/en/US/products/ps7271/prod_installation_guides_list.html

追加情報

「関連項目」(P.16-7) を参照してください。

関連項目

- 「Cisco Mobile VoiP Client に関する設定」(P.16-2)
- 「Cisco Mobile VoiP Client の概要」(P.16-2)
 - 「定義」(P.16-3)
 - 「Cisco Mobile VoiP Client 機能の一覧」(P.16-3)
 - 「プロキシサーバを必要としない Cisco Unified Communications Manager からモバイルクライアントへの直接接続」(P.16-4)
 - 「通話料金削減に向けた DVO 最適化設定」(P.16-5)
 - 「携帯電話からのモバイル コネクトの有効化/無効化」(P.16-6)
- 「インタラクションおよび制限事項」(P.16-6)
- 「システム要件」(P.16-6)
- 「Cisco Mobile VoiP Client の設定」(P.16-7)
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サービスパラメータの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』の「Cisco Unified Mobility のライセンス」

その他のシスコ マニュアル

- 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』
- 『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』
- 適切な Cisco Unified IP Phone のユーザガイド
- 適切な Cisco Unified IP Phone のアドミニストレーションガイド
- 適切な Cisco Mobile VoiP Client のインストール、アップグレード、およびエンドユーザ資料

■ 関連項目



CHAPTER 17

Cisco WebDialer

Cisco WebDialer を Cisco Unified Communications Manager とともに使用すると、Cisco Unified IP Phone ユーザは Web およびデスクトップ アプリケーションから電話をかけることができます。

この章では、Cisco WebDialer に関する次の情報を提供します。

- 「Cisco WebDialer の設定チェックリスト」 (P.17-1)
- 「Cisco WebDialer の概要」 (P.17-2)
- 「冗長性」 (P.17-4)
- 「Cisco WebDialer のシステム要件」 (P.17-4)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.17-5)
- 「Cisco WebDialer のインストールとアクティブ化」 (P.17-5)
- 「Cisco WebDialer の設定」 (P.17-6)
- 「関連項目」 (P.17-16)

Cisco WebDialer の設定チェックリスト

Cisco WebDialer を Cisco Unified Communications Manager サーバにインストールし、Cisco Unified Communications Manager とともに使用すると、Cisco Unified IP Phone ユーザは Web およびデスクトップ アプリケーションから電話をかけることができます。たとえば、Cisco WebDialer は、会社のディレクトリでハイパーリンクされた電話番号を使用して、ユーザが相手の電話番号をクリックすることによって Web ページから電話をかけられるようにします。

表 17-1 に、Cisco WebDialer の設定チェックリストを示します。詳細については、「[関連項目](#)」 (P.17-16) を参照してください。

表 17-1 Cisco WebDialer の設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 Cisco WebDialer サービスをアクティブ化します。	「 Cisco WebDialer のインストールとアクティブ化 」 (P.17-5)
ステップ 2 Webdialer サブレットを設定します。	「 Webdialer サブレットのサービスパラメータの設定 」 (P.17-7)
ステップ 3 Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [アプリケーションサーバ (Application Server)] ウィンドウで Cisco WebDialer をアプリケーションサーバとして設定します。	「 [アプリケーションサーバ (Application Server)] ウィンドウでの Cisco WebDialer の設定 」 (P.17-8)

表 17-1 Cisco WebDialer の設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目	
ステップ 4	WebDialer を使用するユーザを、それぞれ Cisco Unified Communications Manager の Standard End User Group に追加します。	「Cisco Unified Communications Manager の標準エンドユーザグループへのユーザの追加」 (P.17-13)
ステップ 5	Cisco Unified CM のユーザ オプション メニューのロケール フィールドを設定して、WebDialer で表示する言語を決定します。	「WebDialer の言語の設定」 (P.17-10)
ステップ 6	(オプション) Redirector サーブレットを設定します。	「Redirector サーブレットの設定 (オプション)」 (P.17-12)
ステップ 7	(オプション) 複数クラスタ アプリケーションに対してアプリケーション ダイアル ルールを設定します。	「アプリケーションのダイヤル ルールの設定 (オプション)」 (P.17-12)
ステップ 8	(オプション) プロキシ ユーザを作成します。	「プロキシ ユーザの作成 (オプション)」 (P.17-13)
ステップ 9	(オプション) Cisco WebDialer のトレースを設定します。	「トレース設定 (オプション)」 (P.17-15) 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』
ステップ 10	Cisco WebDialer のアラームを設定します。	「関連項目」 (P.17-16) 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』

Cisco WebDialer の概要

Cisco WebDialer を Cisco Unified Communications Manager サーバにインストールし、Cisco Unified Communications Manager とともに使用すると、Cisco Unified IP Phone ユーザは Web およびデスクトップ アプリケーションから電話をかけることができます。たとえば、Cisco WebDialer は、会社のディレクトリでハイパーリンクされた電話番号を使用して、ユーザが相手の電話番号をクリックすることによって Web ページから電話をかけられるようにします。

Cisco WebDialer には、次の 2 つの主要コンポーネントがあります。

- 「Webdialer サーブレット」 (P.17-2)
- 「Redirector サーブレット」 (P.17-3)

Webdialer サーブレット

Java サーブレットである Webdialer サーブレットを使用すると、特定のクラスタ内の Cisco Unified Communications Manager ユーザが、コールを開始および終了することや、電話機と回線の設定にアクセスすることができます。

アプリケーションは、次の 2 つのインターフェイスを介して Webdialer サーブレットと通信できます。

- SOAP over HTTPS インターフェイス : Simple Object Access Protocol (SOAP) に基づくこのインターフェイスは、Microsoft Outlook Add-in や SameTime Client Plug-in などのデスクトップ アプリケーションを開発するために使用します。開発者は、isClusterUserSoap インターフェイスを使用して、Redirector サーブレットに類似した機能を必要とする複数クラスタ アプリケーションを設計できます。
- HTML over HTTPS インターフェイス : HTTPS に基づくこのインターフェイスは、Web ベースのアプリケーションを開発するために使用されます。このインターフェイスを使用する開発者は、複数クラスタ アプリケーションの設計に Redirector サーブレットを使用できます。

Redirector サブレット

Java ベースの Tomcat サブレットである Redirector サブレットは、Cisco WebDialer ユーザが行う要求のために Cisco Unified Communications Manager クラスタを検索します。これは、ユーザの Cisco Unified Communications Manager クラスタ内にある特定の Cisco WebDialer サーバに要求を転送します。Redirector サブレットは、複数クラスタ アプリケーションおよび HTML over HTTPS インターフェイスを使用して開発されたアプリケーションに対してだけ使用できます。

Redirector サブレットを使用した Cisco WebDialer の例

たとえば、3つのクラスタがそれぞれサンノゼ (SJ-CM)、ダラス (D-CM)、ニューヨーク (NY-CM) などの都市にあるとします。各クラスタには、Cisco Unified Communications Manager サーバ SJ-CM1、D-CM2、および NY-CM3 用に設定された Webdialer サブレットを持つ 3つの Cisco Unified Communications Manager サーバが含まれています。

システム管理者は、*List of WebDialers* サービス パラメータで特定の Cisco Unified Communications Manager サーバの IP アドレスを入力することによって、任意の Cisco Unified Communications Manager サーバで Webdialer サブレットを設定します（「[Webdialer サブレットのサービスパラメータの設定](#)」(P.17-7) を参照してください）。Webdialer サブレットと Redirector サブレットの設定については、「[Webdialer サブレットの設定](#)」(P.17-6) と「[Redirector サブレットの設定 \(オプション\)](#)」(P.17-12) を参照してください。

サンノゼにいるユーザが、Cisco WebDialer によって使用可能にされた社内ディレクトリ検索ウィンドウで電話番号をクリックすると、次のアクションが実行されます。

1. ユーザアプリケーション (クライアント) が初期 makeCall HTTPS 要求を Redirector サブレットに送信します。
2. この要求が初めて受信された場合、Redirector サブレットは Cisco WebDialer サーバのクッキーを読み取り、それが空であることを検出します。
2 回目以降の要求の場合、Redirector サブレットは、前にクライアントに対して使用された Cisco WebDialer サーバの IP アドレスを読み取り、そのサーバにだけ *isClusterUser* HTTPS 要求を送信します。
3. Redirector サブレットは情報を求める応答を送信し、それによって認証ダイアログボックスがユーザに表示されます。
4. ユーザは Cisco Unified Communications Manager ユーザ ID とパスワードを入力し、[送信] ボタンをクリックします。
5. Redirector サブレットは、この情報からユーザ ID だけを読み取り、システム管理者が設定した各 Cisco WebDialer サーバに *isClusterUser* HTTPS 要求を送信します。
6. Redirector サブレットは、ユーザからの元の要求を SJ-CM1 に転送します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.17-16) を参照してください。

冗長性

複数クラスタ環境で実行されるアプリケーションには冗長性が重要なので、この項では、冗長性を実現する 1 つの方法について説明します。

複数クラスタ環境内で単一の Redirector サーブレットが複数の Cisco WebDialer をサポートしている場合は、シングルポイント障害になります。たとえば、[図 17-1](#) では、Redirector サーブレットがサンノゼのクラスタで動作し、ニューヨークとダラスのクラスタにもサービスを提供しています。この Redirector サーブレットがサンノゼのクラスタで動作しなくなると、3 つのクラスタすべてのサービスを受けていたユーザが Cisco WebDialer を使用できなくなります。

このシングルポイント障害を回避するには、各クラスタに対して Redirector サーブレットを設定します。ディレクトリ検索ウィンドウが

<https://sanjoseclustercompany.com:8443/webdialer/Redirector> などの URL を指している場合は、その URL を <https://webdialer-service.company.com/webdialer/Redirector> などの仮想リンクに変更します。仮想リンクは、Cisco DistributedDirector を使用している仮想マシンを指しています。すべての Redirector サーブレットがこの仮想リンクの背後で動作します。

Cisco DistributedDirector のインストールと設定の詳細については、Cisco DistributedDirector の一連の資料を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.17-16) を参照してください。

Cisco WebDialer のシステム要件

Cisco WebDialer には、次のソフトウェアコンポーネントが必要です。

- Cisco Unified Communications Manager 5.0(2) 以降
- CTI でサポートされる Cisco Unified IP Phone

Cisco WebDialer の社内ディレクトリ検索ウィンドウまたは Cisco Unified Communications Manager ディレクトリ検索ウィンドウを設定するには、次のタスクを実行する必要があります。

- Cisco Unified Communications Manager をインストールして設定します。
- Cisco WebDialer を設定します。

Cisco WebDialer は、Cisco Unified CM のユーザオプションのディレクトリウィンドウから起動できます。たとえば、次のような URL にアクセスします。

<https://<Cisco Unified Communications Manager サーバの IP アドレス>:8443/ccmuser/showhome.do>

Cisco Unified Communications Manager のインストールと設定に関する資料については、「[関連項目](#)」(P.17-16) を参照してください。

インタラクションおよび制限事項

次の項では、Cisco WebDialer におけるインタラクションおよび制限事項について説明します。

- 「[インタラクション](#)」 (P.17-5)
- 「[制限事項](#)」 (P.17-5)

インタラクション

Cisco WebDialer には、次のインタラクションがあります。

- Client Matter Code (CMC; クライアント識別コード) を使用する場合、ユーザはトーンが聞こえたら正しいコードを入力する必要があります。入力しないと IP Phone が切断され、リオーダー音が聞こえます。
- Forced Authorization Code (FAC; 強制承認コード) を使用する場合、ユーザはトーンが聞こえたら正しいコードを入力する必要があります。入力しないと IP Phone が切断され、リオーダー音が聞こえます。
- Cisco WebDialer は、ApplicationDialRule データベース テーブルの変更通知を使用して、更新されたダイヤル ルールを追跡および使用します。

制限事項

Cisco WebDialer は、Cisco Computer Telephony Integration (CTI) がサポートする Skinny Client Control Protocol (SCCP) および Session Initiation Protocol (SIP) を実行する電話機だけをサポートしています。



(注)

Cisco WebDialer は、SIP を実行する IP Phone モデル 7970/71 と 7961/41 だけをサポートしています。

追加情報

「[関連項目](#)」 (P.17-16) を参照してください。

Cisco WebDialer のインストールとアクティブ化

Cisco WebDialer は、Cisco Unified Communications Manager をインストールしたサーバに自動的にインストールされます。

Cisco Unified Communications Manager サーバで Cisco WebDialer をアクティブにするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager アプリケーションのナビゲーション領域から、[Cisco Unified サービスアビリティ (Cisco Unified サービスアビリティ)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 2** [Tools] > [Service Activation] を選択します。

- ステップ 3** [Servers] ドロップダウン リスト ボックスにある Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。
- ステップ 4** [CTI Services] で、[Cisco WebDialer Web Service] の横にあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。



(注) Cisco WebDialer が正しく動作するためには、CTI Manager サービスもアクティブにし、起動する必要があります。CTI Manager サービスが起動されていることを確認するには、Cisco Unified サービスアビリティから、[Tools] > [Control Center - Feature Services] を選択します。

追加情報

「関連項目」(P.17-16) を参照してください。

Cisco WebDialer の設定

この項の内容は次のとおりです。

- 「Webdialer サブプレットの設定」(P.17-6)
- 「Webdialer サブプレットのサービス パラメータの設定」(P.17-7)
- 「アプリケーション ユーザの設定」(P.17-9)
- 「WebDialer の言語の設定」(P.17-10)
- 「Redirector サブプレットの設定 (オプション)」(P.17-12)



ヒント

Cisco WebDialer を設定する前に、「Cisco WebDialer の設定チェックリスト」(P.17-1) を参照してください。

Webdialer サブプレットの設定

Webdialer サブプレットを設定するには、次の手順を実行します。

- Cisco WebDialer サービスをアクティブ化します。「Cisco WebDialer のインストールとアクティブ化」(P.17-5) を参照してください。
- トレースを設定します (オプション)。「トレース設定 (オプション)」(P.17-15) を参照してください。
- Cisco WebDialer サービス パラメータを設定します。「Webdialer サブプレットのサービス パラメータの設定」(P.17-7) を参照してください。
- アプリケーション ユーザを設定します。

追加情報

「関連項目」(P.17-16) を参照してください。

Webdialer サブレットのサービスパラメータの設定

Cisco Unified Communications Manager には、Webdialer サブレット用に次のサービスパラメータがあります。

- **CAPF Profile Instance ID for Secure Connection to CTIManager** : このパラメータは、Cisco WebDialer サーバが CTI Manager へのセキュアな接続を確立するために使用する Application User WDSecureSysUser の Application CAPF プロファイルのインスタンス ID を指定します。
- **Primary Cisco CTIManager** : プライマリ Cisco CTIManager の IP アドレスを入力します。

Cisco CTI Manager のデフォルトの IP アドレスは 127.0.0.1 です。これは、Cisco WebDialer をセットアップするために使用されるローカル ホスト サーバです。

最大長は 15 桁です。

- **Backup Cisco CTIManager** : バックアップ Cisco CTIManager の IP アドレスを入力します。最大長は 15 桁です。IP アドレスを入力しない場合は、バックアップ Cisco CTIManager が存在しないこととなります。
- **User Session Expiry (時間)** : ユーザのログインセッションが有効である期間を時間単位で入力します。

デフォルト値の 0 は、Cisco WebDialer Web Service が次に再起動されるまで、ログインセッションの有効期間が無限であることを示します。

最短期間は 0 時間、最長期間は 168 時間です。

- **Maximum Concurrent Call Requests** : このパラメータには、WebDialer サービスが受け入れることができる同時 WebDialer コール要求の最大数を指定します。

次の例を参考にしてください。

- MCS 7825H2 は、1 秒あたり最大 2 コールをサポートします。発信者が必要に応じてコールを開始または切断できるように、MaxConcurrentCallRequests (MCCR) の値を 3 に設定することを推奨します。
- MCS 7845H2 は、1 秒あたり最大 4 コールをサポートします。発信者が必要に応じてコールを開始または切断できるように、MaxConcurrentCallRequests (MCCR) の値を 8 に設定することを推奨します。

RTMT アラート、アラーム、またはパフォーマンス カウンタから、WebDialer に関連付けられたハードウェアの使用率が高くなっていることがわかった場合 (CPU のスパイクや Code Yellow 状態など) は値を低くします。同時 WebDialer コール要求の数を増やすには、値を高くなります。値を高くすると、CPU にかかる負荷が大きくなることに注意してください。

最大値は 8 です。

デフォルト値は 3 です。

- **Duration of End Call Dialog (秒)** : コールを終了するダイアログを表示する時間を秒単位で入力します。このダイアログは、ユーザがエラーでダイヤルアウトした場合にコールを終了する必要があることをユーザに示します。

デフォルト値は 15 秒、最大値は 60 秒、最小値は 10 秒です。

Duration of End Call Dialog サービスパラメータを無効にするには、ユーザ オプション ウィンドウで [Disable Auto-Close] チェックボックスをオンにします。[Disable Auto-Close] チェックボックスをオンにした場合、[End Call] ダイアログは自動的に閉じません。[Hangup] ボタンを押すと、[Make Call] ウィンドウに戻ります。

- **Apply Application Dial Rules on Dial** : デフォルトは [True] に設定されています。Cisco WebDialer でアプリケーション ダイアル ルールを使用する必要がない場合は、この設定を [False] に変更します。

- CTI Manager Connection Security Flag : このクラスタ全体のパラメータは、Cisco WebDialer サービスの CTI Manager 接続のセキュリティを無効にするか、クラスタのセキュリティモードに準拠するかを指定します。セキュリティが有効になっていると、Cisco WebDialer は、Application CAPF Profile InstanceID for Secure Connection to CTI Manager パラメータで設定される Application CAPF プロファイルを使用して、CTI Manager へのセキュアな接続を確立します。



(注) 変更を行った場合は、Cisco WebDialer サービスを再起動し、変更を有効にする必要があります。

Webdialer サブレットの初期設定または既存のサービス パラメータの変更を行うには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco WebDialer サービス パラメータを設定する Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。
- ステップ 3** [サービス (Service)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Cisco WebDialer Web Service] を選択します。
Primary Cisco CTIManager、Duration of End Call Dialog、User Session Expiry (時間)、および Apply Application Dial Rules on Dial (True) の各パラメータにはデフォルト値があります。アプリケーションでの必要に応じて新しい値を入力します。
Backup Cisco CTIManager パラメータにはデフォルト値は割り当てられていません。アプリケーションにバックアップ Cisco CTIManager が必要な場合は、このパラメータに値を入力します。
- ステップ 4** 新規パラメータ値を有効にするには、Cisco WebDialer Web Service を再起動します。

追加情報

「関連項目」(P.17-16) を参照してください。

[アプリケーションサーバ (Application Server)] ウィンドウでの Cisco WebDialer の設定

入力できる文字数を制限する List of WebDialers サービス パラメータを設定する代わりに、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [アプリケーションサーバの設定 (Application Server Configuration)] ウィンドウで WebDialer サーバを設定できます。[アプリケーションサーバの設定 (Application Server Configuration)] ウィンドウにアクセスするには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [システム (System)] > [アプリケーションサーバ (Application Server)] を選択します。[アプリケーションサーバタイプ (Application Server Type)] ドロップダウン リスト ボックスに、Cisco WebDialer が、オプションの 1 つとして表示されます。

[アプリケーションサーバの設定 (Application Server Configuration)] ウィンドウで Cisco WebDialer アプリケーションサーバを追加すると、そのサーバが Cisco WebDialer Web Service の [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの [List of WebDialers] フィールドに表示されます。



ヒント

[アプリケーションサーバの設定 (Application Server Configuration)] ウィンドウでは、List of WebDialers サービス パラメータまたは Cisco WebDialer アプリケーション サーバを設定できます。[アプリケーションサーバの設定 (Application Server Configuration)] ウィンドウで Cisco WebDialer アプリケーション サーバを追加すると、そのサーバが Cisco WebDialer Web Service の [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの [List of WebDialers] フィールドに表示されます。[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウにアクセスするには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。

Cisco Unified Communications Manager を 8.0(2) (以降) にアップグレードする前に、Cisco WebDialer Web Service の [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで [List of WebDialers] フィールドを設定した場合は、アップグレードすると WebDialer の設定済みリストが自動的に移行されます。

Cisco Unified Communications Manager をインストールし、Cisco WebDialer を使用する場合は、[アプリケーションサーバの設定 (Application Server Configuration)] ウィンドウで Cisco WebDialer アプリケーション サーバを設定します。[アプリケーションサーバの設定 (Application Server Configuration)] ウィンドウでアプリケーション サーバを設定した場合は、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで [List of WebDialers] フィールドを設定する必要はありません。

アプリケーション ユーザの設定

WebDialer では、コールの発信と着信のために CTI 接続が必要です。WebDialer は、CTI プロバイダーの作成に必要なアプリケーション ユーザとパスワードを使用します (この値は、アプリケーション ユーザとしてデータベースに保存され、システムによってこのデータベースから取得されます)。CTI への TLS 接続をセキュアにするには、「[CTI へのセキュアな TLS 接続 \(P.17-9\)](#)」を参照してください。

CTI へのセキュアな TLS 接続

Cisco WebDialer は、CTI へのセキュアな (TLS) 接続をサポートしています。セキュアな接続を確立するには、「[WDSecureSysUser](#)」アプリケーション ユーザを使用します。



(注)

ページの [アプリケーション ユーザ CAPF プロファイルの設定 (Application User CAPF Profile Configuration)] ウィンドウで、CAPF プロファイルを設定する必要があります。これは、セキュアな接続を確立するための、アプリケーション ユーザ WDSecureSysUser のインスタンス ID 用として設定します。Cisco Unified Communications Manager の管理 [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウからセキュリティを有効にした場合、Cisco WebDialer は、Application CAPF プロファイルを使用して CTI Manager へのセキュアな接続を確立します。セキュアな接続を行うには、「[CTI Manager Connection Security Flag](#)」と「[CAPF Profile Instance Id for Secure Connection to CTI Manager](#)」の両方のサービス パラメータを設定する必要があります。『[Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド](#)』の「[アプリケーション ユーザ CAPF プロファイルの設定](#)」および「[サービス パラメータの設定](#)」を参照してください。

アプリケーション ユーザを設定するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [アプリケーションユーザ (Application User)] を選択します。
[アプリケーションユーザの検索と一覧表示 (Find and List Application Users)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3** [アプリケーションユーザの検索と一覧表示 (Find and List Application Users)] ウィンドウで、[WDSysUser] または [WDSecureSysUser] をクリックします。



(注) CAPF プロファイルを設定する場合、概要については『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「アプリケーションユーザ CAPF プロファイルの設定」を参照し、詳細については『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。



(注) WDSysUser に関連付けられたパスワードを変更できます。アプリケーションはデータベースから新しいパスワードを取得します。

追加情報

「関連項目」(P.17-16) を参照してください。

WebDialer の言語の設定

Cisco Unified Communications Manager は、Microsoft Internet Explorer などのクライアントブラウザで設定された言語を優先します (図 17-1 を参照)。クライアントに表示される言語を変更するには、(Cisco Unified CM のユーザ オプション メニューの [ユーザロケール (User Locale)] フィールドではなく) ブラウザの設定を使用します。逆に、Cisco WebDialer は、Cisco Unified CM のユーザ オプション メニューで設定されたロケールを優先します。Cisco WebDialer は、次の方法でロケールにアクセスします。

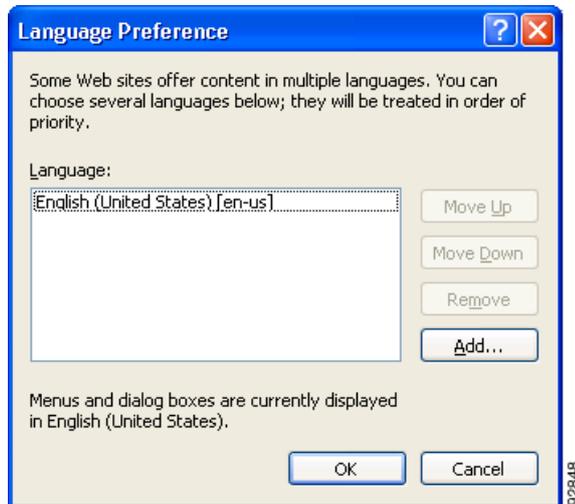
- Cisco Unified CM のユーザ オプション メニューで Cisco WebDialer ユーザのロケールを、たとえば日本語などに設定できます。そのユーザが WebDialer にログインしたときに、WebDialer の設定ウィンドウは日本語で表示されます。ユーザは、たとえば Microsoft Internet Explorer を使用して、言語をブラウザの言語に変更できます。Cisco WebDialer は、ll_CC の形式だけでブラウザの言語を認識します。たとえば、日本語のロケールは ja_JP と定義されます。



(注) Microsoft Windows を使用しているときに日本語が正しく表示されない場合は、Unicode フォントがマシンにインストールされていることを確認してください。

- Cisco WebDialer を設定できます (Cisco Unified CM のユーザ オプション メニューで [ユーザロケール (User Locale)] フィールドは [None] に設定されます)。そのユーザが WebDialer にログインすると、WebDialer の設定ウィンドウは英語で表示されます。ブラウザの言語を変更するには、ブラウザにユーザ定義のロケール (ll_CC の形式を使用) を追加する必要があります。たとえば、日本語のロケールは ja_JP と定義されます。

図 17-1 Microsoft Internet Explorer のロケール設定



ユーザ定義のロケールを変更する方法については、ブラウザのマニュアルを参照してください。Cisco Unified CM のユーザ オプション メニューでロケールを設定する方法については、『*Customizing Your Cisco Unified IP Phone on the Web*』を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.17-16) を参照してください。

パーティションのサポート

Cisco WebDialer には、回線情報に加えて、JTAPI から提供されるパーティション情報が含まれます。次のリストに、利用可能なさまざまな設定を示します。

- DN が同じ複数の回線：Cisco WebDialer は、異なるパーティションを異なる回線として処理します。
- DN が同じ複数の回線：Cisco WebDialer は、同じパーティションと異なるデバイスをシェアドラインとして処理します。
- DN が同じ複数の回線：Cisco WebDialer は、同じデバイスの同じパーティションをサポートしません。

追加情報

「関連項目」(P.17-16) を参照してください。

Redirector サブレットの設定（オプション）

Redirector サブレットを設定するのは、アプリケーションに複数のクラスタが必要な場合だけです。Redirector サブレットを設定するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 [システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。
- ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウン リスト ボックスから、Redirector サブレットを設定する Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。
- ステップ 3 [サービス (Service)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Cisco WebDialer Web Service] を選択します。
- ステップ 4 *List of WebDialers* パラメータに対しては、アプリケーションでの必要に応じて新しい値を入力します。このサービス パラメータについては、「[Webdialer サブレットのサービス パラメータの設定](#)」(P.17-7) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.17-16) を参照してください。

アプリケーションのダイヤル ルールの設定（オプション）

アプリケーションのダイヤル ルールは、Cisco WebDialer の複数クラスタのアプリケーションに対して設定します。

これらのアプリケーションのダイヤル ルールの設定については、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド*』の「[アプリケーションのダイヤル ルール設定](#)」(P.27-1) で、ダイヤル ルールの設計とエラー チェックを参照してください。



(注) Cisco WebDialer は、再起動なしでダイヤル ルールの変更を取得する必要があります。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.17-16) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager の標準エンド ユーザ グループへのユーザの追加

ユーザが Cisco Unified Communications Manager のユーザ ディレクトリ ウィンドウで [Cisco WebDialer] リンクを使用するには、Cisco Unified Communications Manager の標準エンド ユーザ グループに各ユーザを追加する必要があります。次の手順では、このグループにユーザを追加する方法を説明します。

手順

- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザグループ (User Group)] を選択します。
[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが表示されます。
[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 2** [Standard CCM End Users] リンクをクリックします。
- ステップ 3** [ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [グループにエンドユーザを追加 (Add End Users to Group)] をクリックします。
[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** [検索 (Find)] をクリックします。ユーザごとに条件を入力できます。
- ステップ 6** ユーザグループに追加するユーザの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。



(注) ユーザのリストにあるすべてのユーザを追加する場合は、[すべてを選択 (Select All)] をクリックし、[選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。

[ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウの [グループ内のユーザ (Users in Group)] 表に、そのユーザが表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.17-16) を参照してください。

プロキシユーザの作成 (オプション)

makeCallProxy HTML over HTTP インターフェイスを使用して Cisco WebDialer 用のアプリケーションを開発している場合は、プロキシユーザを作成します。makeCallProxy インターフェイスについては、『Cisco WebDialer API Reference Guide』の「makeCallProxy」の項を参照してください。

既存のユーザまたは新規ユーザ用に認証プロキシの権限を有効にすることができます。

既存のユーザ用の認証プロキシの権限

既存のユーザ用に認証プロキシの権限を有効にするには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザグループ (User Group)] を選択します。
[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが表示されます。
[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 2** [Standard EM Authentication Proxy Rights] リンクをクリックします。
[ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [グループにエンドユーザを追加 (Add End Users to Group)] をクリックします。
[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。
[検索 (Find)] をクリックします。ユーザごとに条件を追加することもできます。
- ステップ 4** プロキシの権限を追加するユーザを選択し、[選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。



(注) リストにあるすべてのユーザを追加する場合は、[すべてを選択 (Select All)] をクリックし、[選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。

[ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウの [グループ内のユーザ (Users in Group)] 表に、そのユーザが表示されます。

新規ユーザ用の認証プロキシの権限

新規ユーザ用に認証プロキシの権限を有効にするには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします
- ステップ 3** 次の必須フィールドに入力します。
[姓 (Last Name)]、[ユーザ ID (User ID)]、[パスワード (Password、半角英数字のみ)]、[パスワードの確認 (Confirm Password、半角英数字のみ)]、[PIN (半角数字のみ)]、および [PIN の確認 (Confirm PIN、半角数字のみ)]
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 5** [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザグループ (User Group)] を選択します。
[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 6** [Standard EM Authentication Proxy Rights] リンクをクリックします。
[ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 7** [グループにエンドユーザを追加 (Add End Users to Group)] をクリックします。
[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 8** [検索 (Find)] をクリックします。ユーザごとに条件を入力することもできます。
- ステップ 9** プロキシの権限を追加するユーザを選択し、[選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。



(注) リストにあるすべてのユーザを追加する場合は、[すべてを選択 (Select All)] をクリックし、[選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。

[ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウの [グループ内のユーザ (Users in Group)] 表に、そのユーザが表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.17-16) を参照してください。

トレース設定 (オプション)

Cisco Unified サービスアビリティ Administration からトレースを設定できます。トレース ファイルにアクセスするには、次の CLI コマンドを使用します。

```
file get activelog tomcat/logs/webdialer/log4j
```

```
file get activelog tomcat/logs/redirector/log4j
```

Real-Time Monitoring Tool (RTMT) を使用してトレースを収集できます。



(注) Cisco WebDialer と Redirector の両方に同じトレース設定が適用されます。

Cisco WebDialer に対してデバッグ トレースを有効にするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager アプリケーションの [ナビゲーション (Navigation)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Cisco Unified サービスアビリティ (Cisco Unified Serviceability)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 2 [Trace] > [Configuration] を選択します。
- ステップ 3 [Server] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco WebDialer のトレースを有効にするサーバを選択します。
- ステップ 4 [Service] ドロップダウン リスト ボックスから、[Cisco WebDialer Web Service] を選択します。
- ステップ 5 [Trace Configuration] ウィンドウで、トラブルシューティングの必要に応じてトレース設定を変更します。トレースの詳細については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。
- ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.17-16) を参照してください。

関連項目

- 「Cisco WebDialer の設定チェックリスト」 (P.17-1)
- 「Cisco WebDialer の概要」 (P.17-2)
- 「冗長性」 (P.17-4)
- 「Cisco WebDialer のシステム要件」 (P.17-4)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.17-5)
- 「Cisco WebDialer のインストールとアクティブ化」 (P.17-5)
- 「Cisco WebDialer の設定」 (P.17-6)
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サービスパラメータの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「アプリケーションのダイヤルルール設定」

参考資料

- 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』
- 『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』
- *Cisco Unified Communications Manager リリース 8.0* : Cisco Unified Communications Manager のインストールと設定に関する一連の資料。Cisco Unified Communications Manager 8.0 のインストールと設定に関する資料のリストは、『Cisco Unified Communications Manager Documentation Guide for Release 8.5(1)』を参照してください。
- *Cisco Unified IP Phone for Cisco Unified Communications Manager* : Cisco Unified IP Phone のインストールと設定に関する一連の資料。
- *Cisco Unified IP Phone ユーザガイド for Cisco Unified Communications Manager* : Cisco Unified CM のユーザ オプションのウィンドウの使用方法については、各ユーザガイドの「Customizing Your Phone on the Web」を参照してください。この項には Cisco WebDialer に関する情報が含まれており、会社のディレクトリにリンクされた電話番号をクリックして Web から電話をかけられるように設定できます。



CHAPTER 18

クライアント識別コードと強制承認コード

Forced Authorization Code (FAC; 強制承認コード) と Client Matter Code (CMC; クライアント識別コード) を使用すると、コールへのアクセスとアカウントリングを管理できます。CMC は、課金可能なクライアントに対するコール アカウントリングと課金を支援し、FAC は特定のユーザが発信できるコールのタイプを規定します。

クライアント識別コード機能を有効にすると、コールが特定のクライアントに関連していることを示すコードをユーザが入力する必要があります。コール アカウントリングと課金の目的で、顧客、学生などのユーザにクライアント識別コードを割り当てることができます。強制承認コード機能を有効にすると、ユーザがコールを確立する前に有効な承認コードを入力する必要があります。

CMC 機能と FAC 機能を使用するには、ルート パターンを変更し、ダイヤル プランドキュメントを更新して各ルート パターンに対する FAC や CMC の有効化または無効化を反映させる必要があります。

この章は、次の内容で構成されています。

- 「クライアント識別コードおよび強制承認コードの設定チェックリスト」 (P.18-2)
- 「クライアント識別コードの概要」 (P.18-3)
- 「強制承認コードの概要」 (P.18-4)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.18-4)
- 「システム要件」 (P.18-7)
- 「CMC および FAC のインストール」 (P.18-7)
- 「クライアント識別コードの設定」 (P.18-7)
- 「CMC の設定項目」 (P.18-7)
- 「ルート パターンでのクライアント識別コードの有効化」 (P.18-9)
- 「強制承認コードの設定」 (P.18-9)
- 「FAC の設定項目」 (P.18-10)
- 「ルート パターンでの強制承認コードの有効化」 (P.18-11)
- 「ユーザへの情報の提供」 (P.18-11)
- 「CDR Analysis and Reporting の使用方法」 (P.18-6)
- 「関連項目」 (P.18-12)

クライアント識別コードおよび強制承認コードの設定 チェックリスト

Forced Authorization Code (FAC; 強制承認コード) と Client Matter Code (CMC; クライアント識別コード) を使用すると、コールへのアクセスとアカウントिंगを管理できます。CMC は、課金可能なクライアントに対するコールアカウントिंगと課金を支援し、FAC は特定のユーザが発信できるコールのタイプを規定します。

クライアント識別コード機能を有効にすると、コールが特定のクライアントに関連していることを示すコードをユーザが入力する必要があります。コールアカウントINGと課金の目的で、顧客、学生などのユーザにクライアント識別コードを割り当てることができます。強制承認コード機能を有効にすると、ユーザがコールを確立する前に有効な承認コードを入力する必要があります。

クライアント識別コードと強制承認コードを使用する際には、表 18-1 をガイドとして使用してください。クライアント識別コードと強制承認コードの詳細については、「[関連項目](#)」(P.18-12) を参照してください。

表 18-1 Cisco CMC および FAC の設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 機能の制限を確認します。	「 インタラクションおよび制限事項 」(P.18-4)
ステップ 2 システムを設計し文書化します。たとえば、追跡するクライアントマターのリストを作成します。	「 クライアント識別コードの概要 」(P.18-3) 「 強制承認コードの概要 」(P.18-4)
ステップ 3 Cisco Unified Communications Manager の管理ページまたは一括管理ツール (BAT) を使用してコードを挿入します。 ヒント 小規模または大規模なコードのバッチとして BAT を使用することを検討します。BAT 内のカンマ区切り値 (CSV) ファイルは、コード、対応する名前、対応するレベルなどを計画するために役立ちます。	「 クライアント識別コードの設定 」(P.18-7) 「 強制承認コードの設定 」(P.18-9)
ステップ 4 FAC または CMC を有効にするには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでルートパターンを追加または更新します。	「 ルートパターンでのクライアント識別コードの有効化 」(P.18-9) 「 ルートパターンでの強制承認コードの有効化 」(P.18-11)
ステップ 5 ダイヤルプランドキュメントを更新するかダイヤルプランドキュメントとともに BAT CSV ファイルを印刷して保管します。	ダイヤルプランドキュメントを参照してください。
ステップ 6 たとえば、コードなどの必要なすべての情報をユーザに提供し、機能の動作を説明します。	「 ユーザへの情報の提供 」(P.18-11)

追加情報

「[関連項目](#)」(P.18-12) を参照してください。

クライアント識別コードの概要

クライアント識別コード機能を使用する場合、ユーザはクライアント識別コードを入力して、特定のダイヤルされた番号に接続する必要があります。ルートパターンを使用して CMC を有効または無効にし、複数のクライアント識別コードを設定できます。CMC 対応のルートパターンを使用してルーティングされる番号をダイヤルすると、ユーザはトーンによってクライアント識別コードの入力を求められます。ユーザが有効な CMC を入力すると、コールが開始されます。ユーザが無効なコードを入力すると、リオーダーが発生します。CMC は CDR に書き込みを行うため、CDR Analysis and Reporting (CAR) を使用して情報を収集できます。CAR はクライアントのアカウントリングと料金請求のレポートを生成します。

クライアント識別コード機能は、各クライアントのコールの長さを追跡する必要がある法律事務所、会計事務所、コンサルティング会社、その他の企業や組織などで役立ちます。CMC を実装する前に、CMC を通して追跡するクライアントグループ、個人、集団などのすべてのリストを入手しておく必要があります。コードを連続して割り当てるか、任意の順番で割り当てるか、または既存のクライアント番号を CMC に使用するかなど、特定のコード構造が必要かどうかを決定します。追跡する各クライアント（またはグループ、個人など）には、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [CMC の設定 (Client Matter Codes Configuration)] ウィンドウでクライアント識別コードを追加する必要があります。次に、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、新しいルートパターンまたは既存のルートパターンに対して CMC を有効にします。CMC を設定した後、CMC 対応のルートパターンを指定するようにダイヤルプランのドキュメントを更新したことを確認します。



ヒント

ほとんどのコールでユーザが CMC を入力するように設定する場合は、ダイヤルプランのほとんどまたはすべてのルートパターンで、CMC を有効にすることを考慮してください。このような場合、ユーザはクライアントに関連していないコールに関しては、CMC とコードを 1 つ (555 など) 取得する必要があります。すべてのコールが自動的にユーザに対して CMC の入力を求めるため、ユーザは、CMC を起動したり、特別な数字をダイヤルしたりする必要はありません。たとえば、ユーザが電話番号をダイヤルすると、システムはユーザに対してクライアントコードの入力を求めます。クライアント マターに関連するコールの場合、ユーザは適切な CMC を入力します。コールがクライアントに無関係な場合、ユーザは 555 を入力します。

選択した番号のユーザだけが CMC を入力する場合は、たとえば、8.@ を使用するなど、CMC 専用のルートパターンを新しく作成することを考慮してください。このようなパターンを作成すると、ユーザが 8 で始まる電話番号を入力した場合だけ、システムはクライアントコードの入力を求めます。このような方法で CMC を実装すると、CMC を起動する手段を提供しながら、既存のダイヤルプランをそのまま残すことができます。たとえば、クライアントに関連するコールでは、ユーザは 8-214-555-1234 をダイヤルして、CMC を起動します。クライアントに関連しない一般的なコールでは、ユーザは通常どおり、214-555-1234 だけをダイヤルします。

追加情報

「関連項目」(P.18-12) を参照してください。

強制承認コードの概要

Cisco Unified Communications Manager の管理ページのルートパターンを使用して FAC を有効にする場合は、意図したコールの受信者に接続するために、承認コードを入力する必要があります。ユーザが FAC 対応のルートパターンを使用してルーティングされる番号をダイヤルすると、システムは承認コードの入力を求めるトーンを再生します。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、さまざまなレベルの承認を設定できます。ユーザ承認コードが、ダイヤルした番号へのルーティングに指定された承認のレベルに一致していないか、または超えている場合、ユーザにはリオーダー音が聞こえます。承認が受け入れられると、コールが開始されます。承認の名前は Call Detail Record (CDR; 呼詳細レコード) に書き込みを行うため、CDR Analysis and Reporting (CAR) を使用して情報を編成できます。CAR はアカウントリングと料金請求のレポートを生成します。

FAC は、単科大学や総合大学など、特定のクラスのコールへのアクセスを制限することで利点を得られるさまざまな組織で使用できます。同様に、一意の承認コードを割り当てることによって、どのユーザがコールを発信したかを判別できます。各ユーザに承認コードを指定し、適切なチェックボックスをオンにして、関連するルートパターンの FAC を有効にし、そのルートパターンを使用したコールに最小限の承認レベルを指定します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページのルートパターンを更新した後、ダイヤルプランのドキュメントを更新して、FAC 対応のルートパターンを定義し、承認レベルを設定します。

FAC を実装するには、承認レベルのリストと対応する説明を作成して、レベルを定義する必要があります。承認レベルは 0 ~ 255 の範囲で指定する必要があります。シスコでは任意の承認レベルを許容しているため、組織にとって意味のある番号を定義できます。レベルを定義する前に、システムに対して設定できる例またはレベルを示した次の事項を検討してください。

- 北米での州間の長距離電話に承認レベル 10 を設定する。
- 州内のコールは州間のコールよりもコストがかかることがあるため、北米での州内の長距離電話に承認レベル 20 を設定する。
- 国際電話に承認レベル 30 を設定する。



ヒント 承認レベルを 10 ずつ増加することで、より多くの承認コードを追加する必要がある場合に備えたスケーラビリティのある構造を確立できます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.18-12) を参照してください。

インタラクションおよび制限事項

CMC と FAC は同時に実装することも、別々に実装することもできます。たとえば、ユーザに対し、長距離電話などの特定のクラスのコールをかけることを許可するとともに、特定のクライアントへのコールのクラスを割り当てるとします。前の例で示したように CMC と FAC を同時に実装した場合、ユーザは番号をダイヤルし、プロンプトが示されたらユーザ固有の承認コードを入力して、次のプロンプトでクライアント識別コードを入力します。CMC と FAC のトーンはユーザには同じ音に聞こえるため、これらの機能では、最初のトーンの後で承認コードを、2 番目のトーンの後で CMC を入力するようユーザに指示します。

Cisco Unified Communications Manager が提供する冗長性は、Cisco Unified Communications Manager で実行される通常のプロセスを処理します。

CMC 機能と FAC 機能は、SCCP を実行するすべての Cisco Unified IP Phone と MGCP 制御によるアナログゲートウェイで動作します。

CMC および FAC を実装する前に、次の制限事項を確認してください。

- CMC の数は、Cisco Unified Communications Manager の起動に必要な時間に直接影響を及ぼすため、CMC の数は 60,000 に制限する必要があります。この数を超える CMC を設定すると、大幅な遅延が発生する場合があります。たとえば、400,000 の CMC を持つシステムの場合は起動に 1 時間かかり、100 万の CMC を持つシステムの場合は起動に 4 時間かかります。
- 電話番号をダイヤルした後、聴覚に障がいのあるユーザは、承認コードまたはクライアント識別コードを入力する前に 1～2 秒待つ必要があります。
- FAC または CMC 対応のルート パターンに自動転送されるコールは、コードを入力するユーザがいなかったため失敗します。この制限事項は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページまたは Cisco Unified CM のユーザ オプション ページで設定された自動転送に適用されます。自動転送を設定することはできますが、FAC または CMC 対応のルート パターンに転送されたすべてのコールはリオーダーになります。ユーザが [不在] ソフトキーを押し、FAC または CMC が有効になっているルート パターンの番号を入力すると、ユーザはリオーダーを受信し、コールの自動転送は失敗します。

FAC または CMC が有効なルート パターンにコールが自動転送されるような設定を防止することはできません。コードが入力されないため、これらのルート パターンを使用して転送されたコールは切断されます。コール処理割り込みを最小限にするには、自動転送を設定する前に番号をテストします。これを行うには、転送先の番号をダイヤルします。コードを入力するように求められても、その番号への自動転送は設定しないでください。この方法をユーザにアドバイスし、転送コールが目的の宛先に到達しないことによって発生する苦情の件数を削減します。

- シスコは、FAC または CMC をローカライズしていません。CMC 機能と FAC 機能は、Cisco Unified Communications Manager がサポートしているどのロケールに対しても、同じデフォルト トーンを使用しています。
- Cisco Unified Communications Manager ではユーザに対してコードの入力を求めるタイミングを判別できないため、CMC 機能と FAC 機能は、オーバーラップ送信をサポートしていません。[ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウの [強制承認コードが必須 (Require Forced Authorization Code)] または [クライアント識別コードが必須 (Require Client Matter Code)] チェックボックスをオンにすると、[オーバーラップ送信を許可 (Allow Overlap Sending)] チェックボックスは無効になります。[オーバーラップ送信を許可 (Allow Overlap Sending)] チェックボックスをオンにすると、[強制承認コードが必須 (Require Forced Authorization Code)] および [クライアント識別コードが必須 (Require Client Matter Code)] チェックボックスは無効になります。
- FAC と CMC のトーンが再生されるのは、SCCP を実行する Cisco Unified IP Phone、TAPI/JTAPI ポート、および MGCP FXS ポートの上だけです。
- トランクで FAC または CMC のトーンを再生する方法がないため、FAC または CMC を必要とするルート パターンが検出された場合、SIP トランク、H323、または MGCP ゲートウェイから発信されるコールは失敗します。
- H.323 アナログ ゲートウェイはトーンを再生できないため、FAC または CMC をサポートしていません。
- FAC と CMC をサポートする CTI デバイスには、制限事項があります。詳細については、「[CTI、JTAPI、および TAPI アプリケーションでの FAC/CMC の使用方法](#)」(P.18-6) を参照してください。
- Cisco WebDialer は、FAC または CMC をサポートしていません。
- Cisco IP SoftPhone はトーンを再生できません。ただし、Cisco IP SoftPhone ユーザは、電話番号をダイヤルした後、コードを入力する前に 1～2 秒待つことで、CMC および FAC を使用できます。
- FAC または CMC に # を追加しない場合、システムは T302 タイマーを待ち、コールを延長します。

- ダイヤルした番号が FAC または CMC 対応のルートパターンを使用してルーティングされる場合、電話機の [リダイヤル] ソフトキーを押すときは、承認コードまたは CMC を入力する必要があります。シスコは、以前のコールで入力されたコードを保存しません。
- スピードダイヤルボタンには、承認コードまたは CMC を設定できません。システムがコードの入力を求めたら、コードを入力する必要があります。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.18-12) を参照してください。

Cisco 一括管理ツールの使用方法

CMC および FAC の挿入、更新、削除には、一括管理ツール (BAT) を使用します。これらの操作方法の詳細については、このリリースの *Cisco Unified Communications Manager と互換性のある『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド』* を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.18-12) を参照してください。

CDR Analysis and Reporting の使用方法

CDR Analysis and Reporting (CAR) を使用すると、承認コード名、承認レベル、および CMC の詳細などのコール詳細を提供するレポートを実行できます。CAR でレポートを生成する方法の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting Administration Guide*』を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.18-12) を参照してください。

CTI、JTAPI、および TAPI アプリケーションでの FAC/CMC の使用方法

多くの場合、Cisco Unified Communications Manager は CTI、JTAPI、または TAPI アプリケーションに対して、ユーザがコール中にコードを入力する必要があることをアラートできます。ユーザは、コールを発信したり、アドホック会議を作成したり、FAC または CMC 対応のルートパターンを使用して打診転送を実行したりする場合、トーンの受信後にコードを入力する必要があります。ユーザは、FAC または CMC 対応のルートパターンを使用してコールを転送またはブラインド転送する場合、トーンを受信しないため、アプリケーションがコードを Cisco Unified Communications Manager に送信する必要があります。Cisco Unified Communications Manager が適切なコードを受信すると、コールは目的の宛先に接続されます。Cisco Unified Communications Manager が適切なコードを受信しない場合、Cisco Unified Communications Manager はどのコードが欠落しているかを示すエラーをアプリケーションに送信します。

Cisco Unified Communications Manager は、FAC または CMC 対応のルートパターンを使用した自動転送をサポートしていません。詳細については、「[インタラクションおよび制限事項](#)」(P.18-4) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.18-12) を参照してください。

システム要件

CMC と FAC の最小要件として、クラスタ内のすべてのサーバに Cisco Unified Communications Manager 5.0 以降がインストールされている必要があります。

次の Cisco Unified IP Phone (SCCP) が、CMC および FAC をサポートします。

- Cisco Unified IP Phone 6900
- Cisco Unified IP Phone 7900

追加情報

「関連項目」(P.18-12) を参照してください。

CMC および FAC のインストール

CMC 機能と FAC 機能は、Cisco Unified Communications Manager のインストール時に自動的にインストールされます。これらの機能を Cisco Unified Communications Manager ネットワークで使用できるようにするには、「クライアント識別コードの設定」(P.18-7) で説明されている作業を実行する必要があります。

追加情報

「関連項目」(P.18-12) を参照してください。

クライアント識別コードの設定

使用する CMC のリストを取得したら、これらのコードをデータベースに追加して、ルートパターンの CMC 機能を有効にします。

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- 「CMC の設定項目」(P.18-7)
- 「ルートパターンでのクライアント識別コードの有効化」(P.18-9)



ヒント

クライアント識別コードを設定する前に、「クライアント識別コードおよび強制承認コードの設定チェックリスト」(P.18-2) を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.18-12) を参照してください。

CMC の設定項目

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、[コールルーティング (Call Routing)] > [クライアント識別コード (Client Matter Codes)] メニューパスを使用して、クライアント識別コードを設定します。

Client Matter Code (CMC; クライアント識別コード) を使用すると、コールへのアクセスとアカウンティングを管理できます。CMC は、ユーザに対してコールが特定のクライアントマターに関連していることを示すコードを入力するように強制することで、課金可能なクライアントに対するコールアカウンティングと課金を支援します。クライアント識別コードは、コールアカウンティングや課金を目的として、顧客や学生、またはその他の個人に対して割り当てることができます。

■ クライアント識別コードの設定

クライアント識別コードの設定に関するヒント

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで CMC を入力するか、Cisco 一括管理ツール (BAT) を使用して CMC を入力します。BAT を使用する場合、BAT のカンマ区切り値 (CSV) ファイルには、CMC とクライアント名のレコードが記載されています。CMC の設定が完了したら、ダイヤルプランドキュメントを更新するか、またはダイヤルプランドキュメントとともに BAT CSV ファイルを印刷して保管します。

すべての CMC を追加したら、「[ルートパターンでのクライアント識別コードの有効化](#)」(P.18-9) を参照してください。

GUI の使用方法

Cisco Unified Communications Manager の管理の Graphical User Interface (GUI; グラフィカル ユーザー インターフェイス) を使用してレコードを検索、削除、設定、またはコピーする方法については、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションでの操作](#)」およびそのサブセクションを参照してください。GUI の使用方法とボタンおよびアイコンの機能の詳細が説明されています。

設定項目の表

クライアント識別コードを設定する際には、[表 18-1](#) をガイドとして使用してください。クライアント識別コードと強制承認コードの詳細については、「[関連項目](#)」(P.18-12) を参照してください。

[表 18-2](#) では、クライアント識別コードの設定値について説明します。この表は、「[クライアント識別コードの設定](#)」(P.18-7) と併用してください。

表 18-2 CMC を追加する場合の設定項目

設定項目	説明
[クライアント識別コード (Client Matter Codes)]	コールを開始するときにユーザが入力する一意のコードを 16 桁以内で入力します。このコードを使用したコールは、CDR に表示されます。
[説明 (Description)]	このオプションフィールドはクライアントコードをクライアントに関連付けます。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>)、または角カッコ ([] および { }) は使用できません。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.18-12) を参照してください。

ルート パターンでのクライアント識別コードの有効化

ルート パターンで CMC を有効にするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ルートパターン (Route Pattern)] を選択します。
- ステップ 2** 次のいずれかの手順を実行します。
 - 既存のルート パターンを更新するには、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[ルートパターンの設定](#)」の説明に従って、[ルートパターンの検索と一覧表示 (Find and List Route Patterns)] ウィンドウに検索条件を入力します。
 - 新しいルート パターンを追加するには、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[ルートパターンの設定](#)」を参照してください。
- ステップ 3** [ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウで、[クライアント識別コードが必須 (Require Client Matter Code)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** 次のいずれかの手順を実行します。
 - ルートパターンを更新した場合は、[保存 (Save)] をクリックします。
 - 新しいルートパターンを追加した場合は、[保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 5** クライアント識別コードが必要なすべてのルートパターンについて、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 4](#) を繰り返します。
- ステップ 6** ルートパターンの設定が完了したら、「[ユーザへの情報の提供](#)」(P.18-11) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.18-12) を参照してください。

強制承認コードの設定

この項は、次の内容で構成されています。

- 「[FAC の設定項目](#)」(P.18-10)
- 「[ルートパターンでの強制承認コードの有効化](#)」(P.18-11)



ヒント

強制承認コードを設定する前に、「[クライアント識別コードおよび強制承認コードの設定チェックリスト](#)」(P.18-2) を参照してください。



(注)

後で参照するために、ダイヤルプランドキュメントを更新するか、またはダイヤルプランドキュメントとともに CSV ファイルを印刷して保管します。

FAC の設定項目

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、[コールルーティング (Call Routing)] > [強制承認コード (Forced Authorization Codes)] メニューパスを使用して、強制承認コードを設定します。

Forced Authorization Code (FAC; 強制承認コード) を使用すると、特定のユーザが発信できるコールのタイプを規定することで、コールへのアクセスとアカウントリングを管理できます。強制承認コード機能を使用すると、コールを完了する前に有効な承認コードを入力するように強制されます。

強制承認コードの設定に関するヒント

すべての承認コードを追加したら、「[ルートパターンでの強制承認コードの有効化](#)」(P.18-11) を参照してください。

GUI の使用方法

Cisco Unified Communications Manager の管理の Graphical User Interface (GUI; グラフィカル ユーザー インターフェイス) を使用してレコードを検索、削除、設定、またはコピーする方法については、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションでの操作](#)」およびそのサブセクションを参照してください。GUI の使用方法とボタンおよびアイコンの機能の詳細が説明されています。

設定項目の表

強制承認コードを設定する際には、[表 18-1](#) をガイドとして使用してください。強制承認コードの詳細については、「[関連項目](#)」(P.18-12) を参照してください。

[表 18-3](#) に、FAC の設定項目に関する説明があります。この表は、「[強制承認コードの設定](#)」(P.18-9) と併用してください。

表 18-3 **FAC の設定項目**

設定項目	説明
[承認コード名 (Authorization Code Name)]	一意の名前を 50 文字以内で入力します。この名前は、承認コードと特定のユーザまたはユーザのグループを関連付けます。このコードを使用するコールについては、この名前が CDR に表示されます。
[承認コード (Authorization Code)]	一意の承認コードを 16 文字以内で入力します。ユーザは、FAC 対応のルートパターンを使用してコールを発信するときに、このコードを入力します。
[承認レベル (Authorization Level)]	0 ~ 255 の範囲の 3 桁の承認レベルを入力します。デフォルトは 0 です。承認コードに割り当てるレベルによって、ユーザが FAC 対応のルートパターンを使用してコールをルーティングできるかどうかが決まります。コールを正しくルーティングするには、ユーザ承認レベルが、コールのルートパターンに指定されている承認レベルと比較して同等または上位である必要があります。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.18-12) を参照してください。

ルート パターンでの強制承認コードの有効化

ルート パターンで FAC を有効にするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング (Call Routing)] > [ルート / ハント (Route/Hunt)] > [ルートパターン (Route Pattern)] を選択します。
- ステップ 2** 次のいずれかの手順を実行します。
 - 既存のルート パターンを更新するには、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[ルートパターンの設定](#)」の説明に従って、[ルートパターンの検索と一覧表示 (Find and List Route Patterns)] ウィンドウに検索条件を入力します。
 - 新しいルート パターンを追加するには、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[ルートパターンの設定](#)」を参照してください。
- ステップ 3** [ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウで、[強制承認コードが必須 (Require Forced Authorization Code)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。



ヒント [強制承認コードが必須 (Require Forced Authorization Code)] チェックボックスをオンにしない場合でも、指定した数値はデータベースに保存されているため、承認レベルを指定できます。

- ステップ 5** 承認コードが必要なすべてのルート パターンについて、[ステップ 2](#)～[ステップ 4](#)を繰り返します。
- ステップ 6** ルート パターンの設定が完了したら、「[ユーザへの情報の提供](#)」(P.18-11) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.18-12) を参照してください。

ユーザへの情報の提供

機能の設定が完了したら、次の情報をユーザに通知します。

- 「[インタラクションおよび制限事項](#)」(P.18-4) に説明されている制限事項をユーザに通知します。
- たとえば承認コード、承認レベル、クライアント識別コードなど、これらの機能を使用するために必要なすべての情報をユーザに提供します。番号をダイヤルするとコードの入力を求めるトーンが聞こえることを、ユーザに通知します。
- FAC の場合、ユーザ承認コードを入力して発信されたコールは、ユーザまたはユーザの部署に属すると見なされます。承認コードを覚えておくか、安全な場所に記録しておくようユーザに勧めます。
- ユーザが使用できるコールのタイプを通知します。たとえば、電話機の管理者に問題を知らせる前に、ユーザは電話を切り、ダイヤルした番号とコードをリトライする必要があります。
- トーンが完了する前にコードを入力できることをユーザに通知します。

■ 関連項目

- ユーザがコードを入力した後、コールをすぐにルーティングするには、電話機の # を押します。押さない場合、コールはディジット間タイマー (T302) が満了した後に接続されます。このタイマーは、デフォルトで 15 秒です。
- ユーザが無効なコードを入力すると、電話機はリオーダー音を再生します。コードの入力を間違えた場合は、電話を切り、もう一度コールを開始する必要があります。リオーダー音が続く場合は、ユーザは電話またはシステムの管理者に、コードに問題がある可能性があることを知らせる必要があります。

追加情報

「関連項目」(P.18-12) を参照してください。

関連項目

- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルートパターンの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「ルートプランの概要」
- 「インタラクションおよび制限事項」(P.18-4)
- 「システム要件」(P.18-7)
- 「ユーザへの情報の提供」(P.18-11)

クライアント識別コード

- 「クライアント識別コードおよび強制承認コードの設定チェックリスト」(P.18-2)
- 「クライアント識別コードの概要」(P.18-3)
- 「CMC の設定項目」(P.18-7)
- 「ルートパターンでのクライアント識別コードの有効化」(P.18-9)

強制承認コード

- 「クライアント識別コードおよび強制承認コードの設定チェックリスト」(P.18-2)
- 「強制承認コードの概要」(P.18-4)
- 「FAC の設定項目」(P.18-10)
- 「ルートパターンでの強制承認コードの有効化」(P.18-11)

参考資料

- 『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド』
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』
- 『Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting Administration Guide』
- Cisco Unified IP Phone のアドミニストレーションガイド
- Cisco Unified IP Phone の電話ガイド



CHAPTER 19

カスタム電話呼び出し音

この章では、独自の PCM ファイルを作成して、Ringlist.xml ファイルを編集することによって、自分のサイトで電話呼び出し音のタイプをカスタマイズする方法を説明します。

この章では、次の情報について説明します。

- 「カスタム電話呼び出し音の概要」 (P.19-1)
- 「設定ファイルのカスタマイズと変更」 (P.19-2)
- 「Ringlist.xml ファイル形式の要件」 (P.19-2)
- 「カスタム呼び出し音タイプ用の PCM ファイルの要件」 (P.19-3)
- 「カスタム電話呼び出し音の設定」 (P.19-3)
- 「関連項目」 (P.19-4)

カスタム電話呼び出し音の概要

Cisco Unified IP Phone は、2つのデフォルトの呼び出し音タイプ (Chirp1 と Chirp2) をハードウェアに実装して出荷されています。Cisco Unified Communications Manager には、その他の電話呼び出し音のデフォルトセットが用意されています。このデフォルトセットは、Pulse Code Modulation (PCM; パルス符号変調) ファイルとしてソフトウェアに実装されています。この PCM ファイルは、サイトで使用可能な呼び出し音リストのオプションを記述する XML ファイル (名前が Ringlist.xml) とともに、各 Cisco Unified Communications Manager サーバ上の TFTP ディレクトリにインストールされます。

次の admin CLI コマンドの「file」を使用すると、システムから Ringlist.xml ファイルのコピーを取得できます。

- admin:file
 - file list*
 - file view*
 - file search*
 - file get*
 - file dump*
 - file tail*
 - file delete*

設定ファイルのカスタマイズと変更

TFTP ディレクトリでは、設定ファイルの変更（xml ファイルの編集など）と、カスタマイズしたファイル（カスタム呼び出し音、折返し音、電話機の背景など）の追加を行うことができます。TFTP ディレクトリにあるファイルを変更したりカスタマイズしたファイルを追加するには、Cisco Unified オペレーティング システムの管理ページの [TFTP ファイルの管理 (TFTP File Management)] ウィンドウを使用します。Cisco Unified Communications Manager サーバの TFTP フォルダにファイルをアップロードする方法については、『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』を参照してください。

Ringlist.xml ファイル形式の要件

Ringlist.xml ファイルは、電話呼び出し音タイプのリストが格納されている XML オブジェクトを定義します。各呼び出し音タイプには、その呼び出し音タイプに使用される PCM ファイルを指すポインタ、および Cisco Unified IP Phone の [呼出音タイプ (Ring Type)] メニュー上で、その呼び出し音に対して表示されるテキストが含まれています。

CiscoIPPhoneRinglist XML オブジェクトは、次の簡単なタグセットを使用して情報を記述しています。

```
<CiscoIPPhoneRinglist>
  <Ring>
    <DisplayName/>
    <FileName/>
  </Ring>
</CiscoIPPhoneRinglist>
```

定義名には次の特性があります。

- **DisplayName** は、Cisco Unified IP Phone の [呼出音タイプ (Ring Type)] メニューに表示される関連した PCM ファイル用のカスタム呼び出し音の名前を定義します。
- **FileName** は、DisplayName と関連付ける、カスタム呼び出し音用の PCM ファイルの名前を指定します。



ヒント

DisplayName フィールドと FileName フィールドの文字数は、それぞれ 25 文字以下です。

次の例は、2 種類の電話呼び出し音タイプを定義する Ringlist.xml ファイルを示しています。

```
<CiscoIPPhoneRinglist>
  <Ring>
    <DisplayName>Analog Synth 1</DisplayName>
    <FileName>Analog1.raw</FileName>
  </Ring>
  <Ring>
    <DisplayName>Analog Synth 2</DisplayName>
    <FileName>Analog2.raw</FileName>
  </Ring>
</CiscoIPPhoneRinglist>
```



ヒント

電話呼び出し音のタイプごとに、DisplayName と FileName を組み込む必要があります。Ringlist.xml ファイルでは、50 種類までの呼び出し音タイプを指定できます。

カスタム呼び出し音タイプ用の PCM ファイルの要件

Cisco Unified IP Phone 上で呼び出し音を正しく再生するには、PCM ファイルが次の要件を満たしている必要があります。

- Raw PCM (ヘッダーなし)
- 毎秒 8000 サンプル
- 8 ビット / サンプル
- mu-law 圧縮
- 最大呼び出し音サイズ : 16080 サンプル
- 最小呼び出し音サイズ : 240 サンプル
- 呼び出し音内のサンプル数が、240 で割り切れる値である
- 呼び出し音が、ゼロ クロッシングで開始および終了する
- 電話呼び出し音用の PCM ファイルをカスタムで作成するには、前述のファイル形式の要件をサポートする標準オーディオ編集パッケージを使用する

カスタム電話呼び出し音の設定

次の手順は、Cisco Unified IP Phone 7940、7960、および 7970 でカスタム電話呼び出し音を作成する場合にだけ適用されます。

手順

- ステップ 1** カスタム呼び出し音ごとに PCM ファイルを作成します (ファイルごとに 1 つの呼び出し音)。この PCM ファイルは、「[カスタム呼び出し音タイプ用の PCM ファイルの要件](#)」(P.19-3) にリストされているファイル形式のガイドラインに準拠している必要があります。
- ステップ 2** ASCII エディタを使用して、Ringlist.xml ファイルを編集します。このファイルをフォーマットする方法、および Ringlist.xml サンプル ファイルについては、「[Ringlist.xml ファイル形式の要件](#)」(P.19-2) を参照してください。
- ステップ 3** 変更内容を保存し、Ringlist.xml ファイルを閉じます。
- ステップ 4** Cisco Unified Communications オペレーティング システムを使用して Ringlist.xml ファイルをアップロードします。『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide*』を参照してください。
- ステップ 5** 新規の Ringlist.xml ファイルをキャッシュするには、Cisco Unified サービスアビリティを使用して TFTP サービスを停止してから再び開始するか、TFTP サービス パラメータの「Enable Caching of Constant and Bin Files at Startup」([詳細設定 (Advanced)] のサービス パラメータにある) を無効にしてから再び有効にします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.19-4) を参照してください。

関連項目

- 『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[Cisco TFTP](#)」
- 『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド*』の「[サービスパラメータの設定](#)」

参考資料

- Cisco Unified IP Phone の管理資料（Cisco Unified IP Phone 7940、7960、および 7970 用）
- 『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide*』



CHAPTER 20

デバイス モビリティ

Cisco Unified Communications Manager では、サイトまたは物理ロケーションはさまざまな設定（ロケーション、リージョン、コーリング サーチ スペース、メディア リソースなど）を使用して識別されます。特定のサイトに存在する Cisco Unified IP Phone にはこれらの設定項目が静的に設定されます。Cisco Unified Communications Manager では、これらの設定に基づいて、コールの確立、コールルーティング、メディア リソースの選択などの処理が適切に行われます。ただし、電話機がホーム ロケーションからリモート ロケーションに移動された場合、これらの電話機には静的に設定されたホーム設定が保持されます。Cisco Unified Communications Manager ではリモート サイトにある電話機に対してこれらのホーム設定が使用されるため、コールルーティング、コーデックの選択、メディア リソースの選択などのコール処理機能で問題が生じる可能性があります。

デバイス モビリティを設定して、Cisco Unified Communications Manager で電話機がホーム ロケーションとローミング ロケーションのどちらにあるのかを判別できるようにすることができます。Cisco Unified Communications Manager では、デバイスの IP サブネットを使用して電話機の正確なロケーションが判別されます。クラスタ内でデバイス モビリティを有効にすると、モバイル ユーザはサイト間を移動して、サイト固有の設定を取得できます。これにより、Cisco Unified Communications Manager で、これらの動的に割り当てられた設定を使用して、コールルーティング、コーデックの選択、メディア リソースの選択などの処理が行われるようになります。

この章は、次の内容で構成されています。

- 「デバイス モビリティの設定チェックリスト」 (P.20-2)
- 「デバイス モビリティの概要」 (P.20-3)
- 「デバイス モビリティの動作について」 (P.20-4)
 - 「デバイス モビリティの動作の概要」 (P.20-5)
 - 「デバイス モビリティ グループの動作の概要」 (P.20-6)
 - 「ネットワークの検討事項」 (P.20-8)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.20-9)
- 「システム要件」 (P.20-10)
- 「デバイス モビリティのインストール」 (P.20-11)
- 「デバイス モビリティの設定」 (P.20-11)
- 「ローミング用デバイス プール パラメータの表示」 (P.20-23)
- 「関連項目」 (P.20-23)

デバイス モビリティの設定チェックリスト

Cisco Unified Communications Manager では、サイトまたは物理ロケーションはさまざまな設定（ロケーション、リージョン、コーリングサーチスペース、メディアリソースなど）を使用して識別されます。特定のサイトに存在する Cisco Unified IP Phone にはこれらの設定項目が静的に設定されます。Cisco Unified Communications Manager では、これらの設定に基づいて、コールの確立、コールルーティング、メディアリソースの選択などの処理が適切に行われます。ただし、電話機がホームロケーションからリモートロケーションに移動された場合、これらの電話機には静的に設定されたホーム設定が保持されます。Cisco Unified Communications Manager ではリモートサイトにある電話機に対してこれらのホーム設定が使用されるため、コールルーティング、コーデックの選択、メディアリソースの選択などのコール処理機能で問題が生じる可能性があります。

デバイスモビリティを設定して、Cisco Unified Communications Manager で電話機がホームロケーションとローミングロケーションのどちらにあるのかを判別できるようにすることができます。Cisco Unified Communications Manager では、デバイスの IP サブネットを使用して電話機の正確なロケーションが判別されます。デバイスモビリティを有効にすると、モバイルユーザはサイト間を移動して、サイト固有の設定を取得できます。これにより、Cisco Unified Communications Manager で、これらの動的に割り当てられた設定を使用して、コールルーティング、コーデックの選択、メディアリソースの選択などの処理が行われるようになります。

デバイスモビリティの詳細については、「[デバイスモビリティの概要](#)」(P.20-3) および「[関連項目](#)」(P.20-23) を参照してください。

表 20-1 に、デバイスモビリティを設定する手順を示します。

表 20-1 Cisco Unified Communications Manager デバイスモビリティのチェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 関連するデバイスモビリティのマニュアルを参照します。 ヒント ダイアルプランの設計上の考慮事項については、『 <i>Cisco Unified Communications Solution Reference Network Design (SRND)</i> 』を参照してください。このマニュアルには、デバイスモビリティを使用する場合のサービスクラスの構築方法が記載されています。	『 <i>Cisco Unified Communications Solution Reference Network Design (SRND)</i> 』 「デバイスモビリティ」 (P.20-1)
ステップ 2 [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] または [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでデバイスモビリティモードを有効にします ([システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] ([Cisco CallManager] サービスを選択) または [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)])。	「ローミング用デバイスプールパラメータの表示」 (P.20-23)
ステップ 3 物理ロケーションを設定します ([システム (System)] > [物理ロケーション (Physical Location)])。	「物理ロケーションの設定」 (P.20-15) 「物理ロケーションの設定項目」 (P.20-15)
ステップ 4 デバイスモビリティグループを設定します ([システム (System)] > [デバイスモビリティ (Device Mobility)] > [デバイスモビリティグループ (Device Mobility Groups)])。	「デバイスモビリティグループの設定」 (P.20-18) 「デバイスモビリティグループの設定項目」 (P.20-18)

表 20-1 Cisco Unified Communications Manager デバイス モビリティのチェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 5 [デバイスモビリティ情報の設定 (Device Mobility Info Configuration)] ウィンドウで、サブネットを設定し、サブネットに 1 つ以上のデバイス プールを割り当てます ([システム (System)] > [デバイスモビリティ (Device Mobility)] > [デバイスモビリティ情報 (Device Mobility Info)])。	「デバイス モビリティ情報の設定」 (P.20-21) 「デバイス モビリティ情報の設定項目」 (P.20-21)
ステップ 6 [デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウで、デバイス モビリティ設定用にデバイス プールをまだ更新していない場合は更新します ([システム (System)] > [デバイスプール (Device Pool)])。	「デバイス モビリティ用のデバイス プールの設定」 (P.20-23)
ステップ 7 デバイス モビリティ用にダイヤル プラン (コーリング サーチ スペースや AAR グループの設定など) をまだ更新していない場合は更新します ([コールルーティング (Call Routing)] > ...)。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ロケーションの設定」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「コーリング サーチ スペースの設定」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「自動代替ルーティングのグループ設定」

デバイス モビリティの概要

Cisco Unified Communications Manager では、サイトまたは物理ロケーションはさまざまな設定 (ロケーション、リージョン、コーリング サーチ スペース、メディア リソースなど) を使用して識別されます。特定のサイトに存在する Cisco Unified IP Phone にはこれらの設定項目が静的に設定されます。Cisco Unified Communications Manager では、これらの設定に基づいて、コールの確立、コールルーティング、メディア リソースの選択などの処理が適切に行われます。ただし、電話機がホーム ロケーションからリモート ロケーションに移動された場合、これらの電話機には静的に設定されたホーム設定が保持されます。Cisco Unified Communications Manager ではリモートサイトにある電話機に対してこれらのホーム設定が使用されるため、コールルーティング、コーデックの選択、メディア リソースの選択などのコール処理機能で問題が生じる可能性があります。

デバイス モビリティを設定して、Cisco Unified Communications Manager で電話機がホーム ロケーションとローミング ロケーションのどちらにあるのかを判別できるようにすることができます。Cisco Unified Communications Manager では、デバイスの IP サブネットを使用して電話機の正確なロケーションが判別されます。クラスタ内でデバイス モビリティを有効にすると、モバイル ユーザはサイト間を移動して、サイト固有の設定を取得できます。これにより、Cisco Unified Communications Manager で、これらの動的に割り当てられた設定を使用して、コールルーティング、コーデックの選択、メディア リソースの選択などの処理が行われるようになります。

ロケーション設定が動的に再設定されるため、電話機の新しいロケーションに適した音声品質とリソース割り当てが確保されます。

- モバイル ユーザが別のロケーションに移動した場合、Call Admission Control (CAC; コール アドミッション制御) により、適切な帯域幅を割り当てて、ビデオと音声の品質を確保することができます。
- モバイル ユーザが PSTN コールを発信する場合、電話機は、ホーム ゲートウェイの代わりにローカル ゲートウェイにアクセスできます。
- モバイル ユーザがホーム ロケーションにコールする場合、Cisco Unified Communications Manager は、リージョンに適切なコーデックを割り当てることができます。

デバイス モビリティの動作について

電話デバイスでモビリティ モードが有効になっている場合、Cisco Unified Communications Manager は、登録するデバイスの IP アドレスを使用して適切なロケーション設定を検索します。システムは、IP サブネットのデバイス プールに設定されている物理ロケーションと、デバイスのデバイス プールに設定されている物理ロケーションを比較し、電話機がそのホーム ロケーションの外部に移動したかどうかを判別します。

たとえば、リチャードソンにある IP アドレス 10.81.17.9 の電話機 A が Cisco Unified Communications Manager に登録されているとします。この IP アドレスは、サブネット 10.81.16.0/16 に対応付けられます。Cisco Unified Communications Manager は、データベースにおいて、デバイスのデバイス プール設定とサブネットのデバイス プール設定を確認します。電話レコード内のデバイス プールの物理ロケーション設定は、サブネットのデバイス プールの物理ロケーション設定と一致します。システムは、電話機がそのホーム ロケーションにあるものと見なし、電話レコード内の設定を使用します。

電話機 A がボールドーに移動した場合、電話機はローカルの DHCP サーバをクエリーし、130.5.5.25 という IP アドレスを取得します。この IP アドレスは、サブネット 130.5.5.0/8 に対応付けられます。Cisco Unified Communications Manager は、電話レコード内のデバイス プールの物理ロケーションを、サブネット用に設定されているデバイス プールのロケーション設定と比較します。物理ロケーションが一致しないため、システムは、デバイスが移動中であると判別します。Cisco Unified Communications Manager は、電話レコードの設定をサブネットの設定で上書きし、その設定を新しい設定ファイルにダウンロードしてから、デバイスをリセットします。電話機は、ローミング用デバイス プールの設定で再登録されます。



(注)

デバイス モビリティを使用するには、電話機がダイナミック IP アドレスを持っている必要があります。固定 IP アドレスを持つ電話機が移動した場合、Cisco Unified Communications Manager はそのホーム ロケーションの設定を使用します。

Cisco Unified Communications Manager は、ローミング デバイスに関する次のデバイス プールパラメータを、サブネットのデバイス プールの設定で上書きします。

- [日時グループ (Date/Time Group)]
- [リージョン (Region)]
- [ロケーション (Location)]
- [ネットワークロケール (Network Locale)]
- [SRST 参照先 (SRST Reference)]
- [接続モニタ間隔 (Connection Monitor Duration)]
- [物理ロケーション (Physical Location)]
- [デバイスモビリティグループ (Device Mobility Group)]
- [メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]

ネットワークが米国以外の地理的ロケーションまで及んでいる場合、電話機ユーザが移動先に関係なく各自の設定済みダイヤルプランを使用できるように、デバイス モビリティ グループを設定できます。デバイスが移動中であっても、同じデバイス モビリティ グループに保持されている場合は、Cisco Unified Communications Manager は次のデバイス プール パラメータも上書きします。

- [AAR グループ (AAR Group)]
- [AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]
- [デバイスコーリングサーチスペース (Device Calling Search Space)]

電話機がそのホーム ロケーションに戻った場合、システムは、ローミング用デバイス プールの関連付けを解除し、ホーム ロケーションの設定をダウンロードして、デバイスをリセットします。デバイスは、ホーム ロケーションの設定で登録されます。

さまざまなシナリオにおけるデバイス モビリティの動作の詳細については、次のトピックを参照してください。

- [デバイス モビリティの動作の概要](#)
- [デバイス モビリティ グループの動作の概要](#)
- [「デバイス モビリティの動作の概要」 \(P.20-5\)](#)



ヒント

Cisco Unified Communications Manager は、電話レコードにある Communications Manager Group 設定を常に使用します。デバイスは、移動中であっても、必ずそのホーム ロケーションの Cisco Unified Communications Manager サーバに登録されます。電話機が移動中の場合、変更されるのは、帯域幅割り当て、メディア リソース割り当て、リージョン設定、および AAR グループなどのネットワーク ロケーション設定だけです。

デバイス モビリティの動作の概要

この項では、Cisco Unified Communications Manager が、デバイス モビリティに関する電話機の登録とパラメータの割り当てを管理する方法について説明します。

デバイス モビリティ機能は、初期化が完了すると、次のプロセスに従って動作します。

1. モバイルとしてプロビジョニングされた IP Phone 用の電話デバイス レコードが作成され、電話機がデバイス プールに割り当てられます。電話機が Cisco Unified Communications Manager に登録され、登録プロセスの一環として IP アドレスが割り当てられます。
2. Cisco Unified Communications Manager は、デバイスの IP アドレスを、[デバイスモビリティ情報の設定 (Device Mobility Info Configuration)] ウィンドウでデバイス モビリティ用に設定されたサブネットと比較します。IP サブネット マスク内で一致するビット数が最大のものが、最適な一致と見なされます (最長一致規則)。たとえば、IP アドレス 9.9.8.2 は、サブネット 9.9.0.0/16 ではなくサブネット 9.9.8.0/24 と一致します。
3. 電話レコード内のデバイス プールが、対応するサブネットのデバイス プールと一致する場合、システムは、電話機がそのホーム ロケーションにあると見なします。その結果、電話機にはそのホーム デバイス プールのパラメータが保持されます。
4. 電話レコード内のデバイス プールが、対応するサブネットのデバイス プールと一致しない場合、システムは、電話機が移動中であると見なします。表 20-2 に、デバイス モビリティの考えられるシナリオと、システムの応答を示します。

表 20-2 デバイス モビリティのシナリオ

シナリオ	システムの応答
<p>電話機のデバイス プールの物理ロケーション設定が、対応するサブネットに関連付けられたデバイス プールの物理ロケーション設定と一致します。</p> <p>(注) 電話機がサブネット間を移動した可能性はありますが、物理ロケーションおよび関連付けられたサービスは変更されていません。</p>	システムは、電話機が移動中ではないと見なし、ホーム ロケーションのデバイス プールの設定を使用します。
<p>対応するサブネットには 1 つのデバイス プールが割り当てられています。サブネットのデバイス プールが、ホーム ロケーションのデバイス プールと異なっており、物理ロケーションも異なっています。</p>	システムは、デバイスが移動中であると見なし、その結果、対応するサブネットのデバイス プールのパラメータでデバイスを再登録します。
<p>物理ロケーションが異なっており、対応するサブネットには複数のデバイス プールが割り当てられています。</p>	システムは、デバイスが移動中であると見なし、新しいデバイス プールは、ラウンドロビン規則に従って割り当てられます。サブネットにローミング デバイスが登録されるたびに、使用可能なデバイス プール セット内の次のデバイス プールが割り当てられます。
<p>ホームのデバイス プールに定義されている物理ロケーションが、対応するサブネットに関連付けられたデバイス プールには定義されていません。</p>	物理ロケーションは変更されていないため、電話機はホームのデバイス プールに登録されたままになります。
<p>ホームのデバイス プールに定義されていない物理ロケーションが、対応するサブネットに関連付けられたデバイス プールには定義されています。</p>	システムは、デバイスが定義済みの物理ロケーションに移動中であると見なし、対応するサブネットのデバイス プールのパラメータでデバイスを登録します。
<p>サブネットが更新または削除されました。</p>	ローミングおよびデバイス プールの割り当てに関する規則が、残りのサブネットを使用して適用されます。

デバイス モビリティ グループの動作の概要

デバイス モビリティ グループを使用すると、デバイスが地理的エンティティ内の別のロケーションに移動したかどうかを判別できます。その結果、ユーザが各自のダイヤルプランを使用できるようになります。たとえば、米国用と英国用の別々のデバイス モビリティ グループを設定したとします。電話機が異なるモビリティ グループに移動した場合（たとえば、米国から英国へ）、Cisco Unified Communications Manager は、ローミング ロケーションではなく電話レコードにあるコーリング サーチ スペース、AAR グループ、および AAR CSS を使用します。

デバイスが同じモビリティ グループ内の別のロケーションに移動した場合は（たとえば、米国のリチャードソンから米国のボールダーへ）、ローミング用デバイス プールの設定から CSS 情報が取得されます。このアプローチの場合、ユーザが PSTN 宛先をダイヤルすると、ユーザはローカル ゲートウェイに到達します。

表 20-3 に、さまざまなシナリオでシステムが使用するデバイス プール パラメータを示します。

表 20-3 デバイス モビリティ グループのシナリオ

シナリオ	使用されるパラメータ
ローミング デバイスが、同じデバイス モビリティ グループ内の別のロケーションに移動しました。	<p>[ローミング用デバイスプール (Roaming Device Pool)] : はい</p> <p>[ロケーション (Location)] : ローミング用デバイス プールの設定</p> <p>[リージョン (Region)] : ローミング用デバイス プールの設定</p> <p>[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)] : ローミング用デバイス プールの設定</p> <p>[デバイスコーリングサーチスペース (Device Calling Search Space)] : ローミング用デバイス プールの設定 ([デバイスモビリティコーリングサーチスペース (Device Mobility Calling Search Space)])</p> <p>[AAR グループ (AAR Group)] : ローミング用デバイス プールの設定</p> <p>[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)] : ローミング用デバイス プールの設定</p>
ローミング デバイスが、異なるデバイス モビリティ グループ内の別のロケーションに移動しました。	<p>[ローミング用デバイスプール (Roaming Device Pool)] : はい</p> <p>[ロケーション (Location)] : ローミング用デバイス プールの設定</p> <p>[リージョン (Region)] : ローミング用デバイス プールの設定</p> <p>[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)] : ローミング用デバイス プールの設定</p> <p>[デバイスコーリングサーチスペース (Device Calling Search Space)] : ホーム ロケーションの設定</p> <p>[AAR グループ (AAR Group)] : ホーム ロケーションの設定</p> <p>[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)] : ホーム ロケーションの設定</p>
デバイスが移動しましたが、デバイス モビリティ グループは、ホームのデバイス プールにも、ローミング用デバイス プールにも定義されていません。	<p>デバイスは、移動中のため、ローミング用デバイス プールの設定 ([デバイスモビリティコーリングサーチスペース (Device Mobility Calling Search Space)]、[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]、および [AAR グループ (AAR Group)] など) を取得します。</p>

ネットワークの検討事項

デバイス モビリティ構造は、さまざまなネットワーク設定に対応できます。

効率のよいデバイス モビリティを設計するには、ネットワークをデバイス モビリティ グループ (オプション)、物理ロケーション、およびサブネットに分割します。階層におけるグループの数とレベルは、組織の規模や複雑さによって異なります。

- デバイス モビリティ グループは、ネットワークにおけるトップレベルの地理的エンティティを表します。デバイス モビリティ グループの設定により、デバイスが同じ地理的エンティティの内部を移動したかどうかを判別され、主に、ユーザが各自のダイヤルプランを保持できるようになります。デバイス モビリティ グループでは、類似のダイヤルパターンを使用するサイトの論理グループを定義します (たとえば、US_dmng および EUR_dmng)。たとえば、ローミング デバイスが PSTN コールの場合にローカル ゲートウェイにアクセスするように設定する場合は、ホーム ロケーションのデバイス プールとローミング ロケーションのデバイス プールに、同じデバイス モビリティ グループを使用してください。

デバイス モビリティ グループでは、国、地域、州や県、市、またはその他のエンティティを表すことができます。世界規模のネットワークを持つ企業であれば、個々の国を表すデバイス モビリティ グループを選択し、国内または地域ネットワークを持つ企業であれば、州、県、または市を表すデバイス モビリティ グループを定義することができます。デバイス モビリティ グループを定義しなくても、デバイス モビリティ 機能は使用できます。

- 階層内の次のレベルに位置する物理ロケーションは、ロケーションベースのデバイス プールパラメータ (日時やリージョンなど) に対応する地理的ロケーションを識別します。Cisco Unified Communications Manager は、地理的ロケーションを使用して、電話機に割り当てるネットワーク リソースを判別します。ユーザがホーム ロケーションの外部に移動した場合、システムは、電話機ユーザがローカル メディア リソースと、コールに適した帯域幅を使用できるようにします。

たとえば、保留音 (MOH) サーバが、企業内の特定のオフィスまたはキャンパスにサービスを提供しているとします。デバイスが別のオフィスまたはキャンパスに移動し、Cisco Unified Communications Manager に再登録した場合、デバイスへのサービス提供は、ローミング ロケーションにある MOH サーバから行うのが最適です。

MOH などのサービスの可用性に応じて物理ロケーションを定義すると、デバイスが別の物理ロケーションに移動したときに、サービスを効率的かつ経済的に再割り当てできることが保証されます。ネットワーク構造とサービスの割り当てに応じて、市、企業キャンパス、またはビルディングごとに物理ロケーションを定義することができます。

ネットワーク設定では、各ネットワークをそれぞれ別の物理ロケーションに配置することをお勧めします。この配置により、各ネットワークを対応する物理ロケーションにマップできます。

- サブネットには、地理的ロケーション、同じビルディング、または同じ LAN にあるすべてのデバイスを含めることができます。また、サブネットには、デバイス モビリティ グループと物理ロケーションを含むデバイス プールを 1 つまたは複数設定できます。
- ロケーションは、集中型コール処理システムの CAC を識別します。ロケーションの設定は、電話機またはデバイス プールに対して行います。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[コールアドミッション制御](#)」の章を参照してください。



ヒント

ダイヤルプランの設計上の考慮事項については、『Cisco Unified Communications Solution Reference Network Design (SRND)』を参照してください。このマニュアルには、デバイス モビリティを使用する場合のサービス クラスの構築方法が記載されています。

インタラクションおよび制限事項

発信側の正規化

発信側を正規化すると、一部の電話機のダイヤル機能が拡張され、コールが地理的に異なる複数の場所にルーティングされる場合の折返し機能が向上します。つまり、この機能により、着信側は、電話機のコールログディレクトリ内の電話番号を修正する必要なく、確実にコールを返すことができます。さらに、発信側の正規化により、電話番号をグローバル化またはローカライズできるため、適切な発信側番号が電話機に表示されます。デバイス モビリティと発信側の正規化の連携については、「[発信側の正規化](#)」の章の「[インタラクションおよび制限事項 \(P.8-11\)](#)」を参照してください。

IP アドレス

デバイス モビリティ機能は、Cisco Unified Communications Manager に登録するデバイスの IPv4 アドレスを利用します。

- デバイス モビリティを使用するには、電話機がダイナミック IPv4 アドレスを持っている必要があります。
- デバイスへの IP アドレスの割り当てに NAT/PAT が使用されている場合、登録時に提供される IP アドレスは、デバイスの実際の IP アドレスと異なることがあります。

IPv6 とデバイス モビリティ

デバイス モビリティでは IPv4 アドレスだけがサポートされるため、[IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv6 のみ (IPv6 Only)] の電話機はデバイス モビリティで使用できません。IPv6 の詳細については、「[インターネットプロトコルバージョン 6 \(IPv6\)](#)」(P.29-1) を参照してください。

ローミング

デバイスが同じデバイス モビリティ グループ内を移動中の場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイス モビリティ CSS を使用してローカル ゲートウェイに到達します。ユーザが電話機で不在転送 (CFA; Call Forward All) を設定した場合、CFA CSS が「なし」に設定され、CFA CSS アクティベーションポリシーが [デバイス / 回線 CSS のアクティブ化を使用 (With Activating Device/Line CSS)] に設定されているときは、次のようになります。

- デバイスがそのホーム ロケーションにある場合、デバイス CSS と回線 CSS は CFA CSS として使用されます。
- デバイスが同じデバイス モビリティ グループ内を移動中の場合、ローミング用デバイス プールのデバイス モビリティ CSS と、回線 CSS は、CFA CSS として使用されます。
- デバイスが異なるデバイス モビリティ グループ内を移動中の場合、デバイス CSS と回線 CSS は CFA CSS として使用されます。

不在転送の設定オプションの詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[電話番号の設定](#)」の章と、『*Cisco Unified Communications Manager システムガイド*』の「[電話番号の概要](#)」の章を参照してください。

システム要件

デバイス モビリティには、次のソフトウェア コンポーネントが必要です。

- クラスタ内の少なくとも 1 台のサーバ上で稼働している Cisco CallManager サービス
- Cisco CallManager サービスと同じサーバ上で稼働している Cisco Database Layer Monitor サービス
- クラスタ内の少なくとも 1 台のサーバ上で稼働している Cisco TFTP サービス
- Cisco Unified Communications Manager Locale Installer（英語以外の電話ロケール、または国に固有のトーンを使用する場合）

SCCP または SIP のいずれかを実行しており、かつ Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定できる電話機はすべて、デバイス モビリティをサポートします。たとえば、次の電話機が該当します。

- Cisco Unified IP Phone 6900 シリーズ（6901 および 6911 を除く）
- Cisco Unified IP Phone 7900 シリーズ
- Cisco Unified IP Phone 8900 シリーズ
- Cisco Unified IP Phone 9900 シリーズ
- Computer Telephony Integration (CTI; コンピュータ / テレフォニー インテグレーション) ポート
- Cisco IP Communicator

IP Phone およびデバイス モビリティ機能の詳細については、次のサイトでユーザ ガイドを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/partner/products/ps10326/products_user_guide_list.html

http://www.cisco.com/en/US/partner/products/hw/phones/ps379/products_user_guide_list.html

http://www.cisco.com/en/US/partner/products/ps10451/products_user_guide_list.html

http://www.cisco.com/en/US/partner/products/ps10453/products_user_guide_list.html

デバイス モビリティをサポートするデバイス

デバイス モビリティをサポートするデバイスの完全なリストを作成するには、Cisco Unified Reporting アプリケーションを使用します。そのためには、次の手順に従います。

1. 次のいずれかの方法を使用して、Cisco Unified Reporting を起動します。

Web アプリケーションへのアクセスを許可されるまで、ユーザの認証には Cisco Tomcat サービスが使用されます。アプリケーションには次の方法でアクセスできます。

- Cisco Unified Communications Manager の管理ページのナビゲーション メニューで [Cisco Unified Reporting] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool (RTMT) メニューで [File] > [Cisco Unified Reporting] の順に選択します。
- `https://<サーバ名または IP アドレス>:8443/cucreports/` と入力し、認証済みのユーザ名とパスワードを入力します。

2. ナビゲーション バーで、[System Reports] をクリックします。
3. 左側のカラムに表示されたレポートのリストで、[Unified CM Phone Feature List] オプションをクリックします。

4. [Generate a new report] リンクをクリックして新規レポートを生成するか、または、レポートがすでに存在する場合は、[Unified CM Phone Feature List] リンクをクリックします。
5. デバイス モビリティをサポートするすべてのデバイスのレポートを生成するには、対応するドロップダウンリストボックスから次の設定を選択し、[Submit] ボタンをクリックします。

[Product] : [All]

[Feature] : [Mobility]

[List Features] ペインに、モビリティ機能をサポートするすべてのデバイスのリストが表示されます。カラムの見出し ([Product] または [Protocol]) の隣にある上下の矢印キーをクリックして、リストをソートできます。

Cisco Unified Reporting アプリケーションの詳細については、次の URL の『Cisco Unified Reporting Administration Guide』を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html

デバイス モビリティのインストール

デバイス モビリティは、Cisco Unified Communications Manager のインストール時に自動的にインストールされます。Cisco Unified Communications Manager をインストールした後に、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでデバイス モビリティを設定し、機能を有効にする必要があります。



(注)

既存のデバイス プールは、Cisco Unified Communications Manager リリース 6.0 以降へのアップグレードの一環として、新しいデバイス プールおよび共通プロファイル構造へ自動的に移行します。

デバイス モビリティの設定

デバイス モビリティ機能を正しく設定するには、ネットワーク設計の検討事項を確認し、設定チェックリストのステップを確認します。次に、設定するための要件を実行し、Cisco CallManager サービスをアクティブにします (まだアクティブになっていない場合)。

デバイス モビリティのパラメータ設定の概要については、次の各項を参照してください。

- 「デバイス モビリティの設定のヒント」 (P.20-12)
- 「デバイス モビリティの有効化」 (P.20-13)
- 「デバイス モビリティ用のデバイス プールの設定」 (P.20-23)

物理ロケーション

- 「物理ロケーションの検索」 (P.20-14)
- 「物理ロケーションの設定」 (P.20-15)
- 「物理ロケーションの設定項目」 (P.20-15)
- 「物理ロケーションの削除」 (P.20-16)

デバイス モビリティ グループ

- 「デバイス モビリティ グループの検索」 (P.20-16)
- 「デバイス モビリティ グループの設定」 (P.20-18)
- 「デバイス モビリティ グループの設定項目」 (P.20-18)
- 「デバイス モビリティ グループの削除」 (P.20-19)

デバイス モビリティ情報

- 「デバイス モビリティ情報の検索」 (P.20-19)
- 「デバイス モビリティ情報の設定」 (P.20-21)
- 「デバイス モビリティ情報の設定項目」 (P.20-21)
- 「デバイス モビリティ情報の削除」 (P.20-22)



ヒント

デバイス モビリティを設定する前に、「デバイス モビリティの設定チェックリスト」 (P.20-2) を参照してください。

デバイス モビリティの設定のヒント

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでデバイス モビリティを設定する場合は、次の事項を考慮してください。

- [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで [デバイスモビリティモード (Device Mobility Mode)] が [デフォルト (Default)] に設定されている場合、デバイス モビリティ機能がデバイスに対して有効になるかどうかは、Device Mobility Mode サービス パラメータによって決まります。
- Cisco Unified Communications Manager は、最長一致規則を使用して IP アドレスとサブネットを照合します。つまり、IP サブネット マスク内で一致するビット数が最大のものが、最適な一致と見なされます。たとえば、IP アドレス 9.9.8.2 は、サブネット 9.9.0.0/16 ではなくサブネット 9.9.8.0/24 と一致します。
- デバイスの IP アドレスと一致するデバイス モビリティ情報エントリがない場合、デバイスはホーム ロケーションのデバイス プール設定を使用します。
- 電話デバイスへのデバイス プールの割り当ては [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで行い、サブネットへのデバイス プールの割り当ては [デバイスモビリティ情報の設定 (Device Mobility Info Configuration)] ウィンドウで行います。
- サブネットアドレスには、1 つまたは複数のデバイス プールを割り当てることができます。Cisco Unified Communications Manager は、ラウンドロビン方式で、同じサブネットのデバイス プールをローミング デバイスに割り当てます。たとえば、ローミング デバイス 1 には、リスト内の最初のデバイス プールが割り当てられ、ローミング デバイス 2 には、リスト内の 2 番目のデバイス プールが割り当てられます。このプロセスを使用すると、本社の会議にすべての支社の従業員が参加する場合など、多数の電話機が 1 つの領域に移動することが想定される場合にロード シェアリングを行うことができます。
- 物理ロケーションは [デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウでは必須設定になっていませんが、デバイス モビリティ機能を使用するには、デバイス プールの物理ロケーションを定義する必要があります。物理ロケーションの設定は、必ず、ホームのデバイス プールとローミング用デバイス プールに対して行ってください。
- デバイス モビリティ構造の準備ができれば、デバイス モビリティをサポートする IP Phone に対してデバイス モビリティをオンにすることができます。

追加情報

「関連項目」 (P.20-23) を参照してください。

デバイス モビリティの有効化

この項では、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] または [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでデバイス モビリティ機能を有効にする手順について説明します。

デバイス モビリティ機能を有効にする場合は、次の事項を考慮してください。

- デバイス モビリティ モードをクラスタに対して有効または無効にした場合、クラスタの設定は、デバイス モビリティをサポートするクラスタ内の電話機すべてに適用されます。インストール時点では、Device Mobility Mode サービス パラメータの設定は、デフォルトでオフになっています。つまり、デバイス モビリティは無効になっています。
- [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでデバイス モビリティ モードを有効または無効にした場合、電話機の [デバイスモビリティモード (Device Mobility Mode)] 設定がサービス パラメータ設定よりも優先されます。
- 電話機の [デバイスモビリティモード (Device Mobility Mode)] 設定が [デフォルト (Default)] になっている場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに対してサービス パラメータ設定を使用します。

手順

ステップ 1 Device Mobility サービス パラメータを有効にするには、次の手順を実行します。

- a. Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。
- b. [サーバ (Server)] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco CallManager サービスを実行しているサーバを選択します。
- c. [サービス (Service)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Cisco CallManager] サービスを選択します。[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- d. Device Mobility Mode サービス パラメータを有効にするには、[On] を選択します。

ステップ 2 特定の電話機の [デバイスモビリティモード (Device Mobility Mode)] を設定するには、次の手順を実行します。

- a. Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
- b. [検索 (Find)] をクリックしてデバイス プール リストを表示するか、アクティブなクエリーの検索結果を使用します。
- c. [電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウに表示される電話機のリストから、デバイスを選択します。[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- d. [デバイスモビリティモード (Device Mobility Mode)] ドロップダウン リスト ボックスで、デバイス モビリティを有効にする場合は [オン (On)] を選択し、デバイス モビリティを無効にする場合は [オフ (Off)] を選択し、電話機で Device Mobility Mode サービス パラメータの設定が使用されるようにするには [デフォルト (Default)] を選択します。

物理ロケーションの検索

ネットワーク上には複数の物理ロケーションが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、特定の条件に基づいて、特定の物理ロケーションを検索できます。物理ロケーションを検索するには、次の手順を実行します。



(注) ブラウザセッションでの作業中は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで物理ロケーションの検索プリファレンスが保持されます。他のメニュー項目に移動してこのメニュー項目に戻った場合でも、検索を変更するかブラウザを閉じない限り、物理ロケーションの検索プリファレンスは Cisco Unified Communications Manager の管理ページで保持されています。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [物理ロケーション (Physical Location)] を選択します。
[物理ロケーションの検索と一覧表示 (Find and List Physical Locations)] ウィンドウが表示されます。ウィンドウには、アクティブな (前の) クエリーのレコードが表示される場合もあります。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空になっていることを確認し、**ステップ 3** に進みます。
特定のレコードをフィルタリングまたは検索するには、次の操作を実行します。
- 最初のドロップダウン リスト ボックスで、検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて、適切な検索文字を入力します。



(注) 別の検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加した場合は、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして、最後に追加された条件を削除するか、または [フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加されたすべての検索条件を削除します。

- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
条件に一致するレコードがすべて表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスで別の値を選択すると、各ページに表示される項目数を変更できます。



(注) 適切なレコードの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、データベースから複数のレコードを削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

- ステップ 4** 表示されたレコードリストから、目的のレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順を逆にするには、リストのヘッダーにある上矢印または下矢印をクリックします (使用可能な場合)。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.20-23) を参照してください。

物理ロケーションの設定

デバイス プールの物理ロケーションを追加するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [物理ロケーション (Physical Location)] を選択します。
[物理ロケーションの検索と一覧表示 (Find and List Physical Locations)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 次のいずれかの手順を実行します。
 - 既存の物理ロケーションをコピーするには、「物理ロケーションの検索」(P.20-14) の説明に従って対象の物理ロケーションを検索し、コピーする物理ロケーションの横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
 - 新しい物理ロケーションを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
 - 既存の物理ロケーションを更新するには、「物理ロケーションの検索」(P.20-14) の説明に従って対象の物理ロケーションを検索し、**ステップ 3** に進みます。
- ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 20-5 を参照)。
- ステップ 4** 物理ロケーション情報をデータベースに保存するには、[保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.20-23) を参照してください。

物理ロケーションの設定項目

デバイス モビリティ機能で使用される物理ロケーションは、ロケーションベースのデバイス プールパラメータ (日時やリージョンなど) に対応する地理的ロケーションを識別します。Cisco Unified Communications Manager は、地理的ロケーションを使用して、電話機に割り当てるネットワーク リソースを判別します。ユーザがホーム ロケーションの外部に移動した場合、システムは、電話機ユーザがローカル メディア リソースと、コールに適した帯域幅を使用できるようにします。

たとえば、保留音 (MOH) サーバが、企業内の特定のオフィスまたはキャンパスにサービスを提供しているとします。デバイスが別のオフィスまたはキャンパスに移動し、Cisco Unified Communications Manager に再登録した場合、デバイスへのサービス提供は、ローミング ロケーションにある MOH サーバから行うのが最適です。

MOH などのサービスの可用性に応じて物理ロケーションを定義すると、デバイスが別の物理ロケーションに移動したときに、サービスを効率的かつ経済的に再割り当てできることが保証されます。ネットワーク構造とサービスの割り当てに応じて、市、企業キャンパス、またはビルディングごとに物理ロケーションを定義することができます。

ネットワーク設定では、各ネットワークをそれぞれ別の物理ロケーションに配置することをお勧めします。この配置により、各ネットワークを対応する物理ロケーションにマップできます。ネットワーク構造とサービスの割り当てに応じて、市、企業キャンパス、またはビルディングごとに物理ロケーションを定義することができます。

表 20-4 に、物理ロケーションの設定項目を示します。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.20-23) を参照してください。

表 20-4 物理ロケーションの設定項目

フィールド	説明
[物理ロケーション情報 (Physical Location Information)]	
[名前 (Name)]	物理ロケーションを識別する名前を入力します。英数字のほか、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア文字 (_) を任意に組み合わせて最大 50 文字の名前を入力できます。
[説明 (Description)]	物理ロケーションの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、および山カッコ (<>) は使用できません。

物理ロケーションの削除

デバイス プールで使用中の物理ロケーションは削除できません。このような物理ロケーションを削除する場合は、まず関連付けられているデバイス プールを依存関係レコードから検索し、関連付けを解除してから物理ロケーションを削除します。

物理ロケーションを削除するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 削除する物理ロケーションを検索するには、「[物理ロケーションの検索](#)」(P.20-14) の手順に従います。
- ステップ 2 削除する物理ロケーションの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内のすべての物理ロケーションを選択するには、一致レコードのタイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 3 [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
- ステップ 4 選択を確定するには、[OK] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.20-23) を参照してください。

デバイス モビリティ グループの検索

ネットワーク上には複数のデバイス モビリティ グループが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、特定の条件に基づいて、特定のデバイス モビリティ グループを検索できます。デバイス モビリティ グループを検索するには、次の手順を実行します。



- (注) ブラウザセッションでの作業中は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでデバイス モビリティ グループの検索プリファレンスが保持されます。他のメニュー項目に移動してこのメニュー項目に戻った場合でも、検索を変更するかブラウザを閉じない限り、デバイス モビリティ グループの検索プリファレンスは Cisco Unified Communications Manager の管理ページで保持されています。

手順

ステップ 1 [システム (System)] > [デバイスモビリティ (Device Mobility)] > [デバイスモビリティグループ (Device Mobility Group)] を選択します。

[デバイスモビリティグループの検索と一覧表示 (Find and List Device Mobility Groups)] ウィンドウが表示されます。ウィンドウには、アクティブな (前の) クエリーのレコードが表示される場合もあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空になっていることを確認し、**ステップ 3** に進みます。

特定のレコードをフィルタリングまたは検索するには、次の操作を実行します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスで、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索文字を入力します。



(注) 別の検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加した場合は、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして、最後に追加された条件を削除するか、または [フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加されたすべての検索条件を削除します。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

条件に一致するレコードがすべて表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスで別の値を選択すると、各ページに表示される項目数を変更できます。



(注) 適切なレコードの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、データベースから複数のレコードを削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 表示されたレコード リストから、目的のレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順を逆にするには、リストのヘッダーにある上矢印または下矢印をクリックします (使用可能な場合)。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.20-23) を参照してください。

デバイス モビリティ グループの設定

デバイス モビリティ機能をサポートするデバイス モビリティ グループを設定するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [システム (System)] > [デバイスモビリティ (Device Mobility)] > [デバイスモビリティグループ (Device Mobility Group)] を選択します。
- [デバイスモビリティグループの検索と一覧表示 (Find and List Device Mobility Groups)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 次のいずれかの手順を実行します。
- 既存のデバイス モビリティ グループをコピーするには、「[デバイス モビリティ グループの検索](#)」(P.20-16) の説明に従って対象のデバイス モビリティ グループを検索し、コピーするデバイス モビリティ グループの横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#)に進みます。
 - 新しいデバイス モビリティ グループを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#)に進みます。
 - 既存のデバイス モビリティ グループを更新するには、「[デバイス モビリティ グループの検索](#)」(P.20-16) の説明に従って対象のデバイス モビリティ グループを検索し、[ステップ 3](#)に進みます。
- ステップ 3** 適切なフィールドに値を入力します (表 20-6 を参照)。
- ステップ 4** デバイス モビリティ グループ情報をデータベースに保存するには、[保存 (Save)] をクリックします。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.20-23) を参照してください。

デバイス モビリティ グループの設定項目

デバイス モビリティ グループは、デバイス モビリティ機能をサポートしています。デバイス モビリティ グループは、ネットワークにおける最上位レベルの地理的エンティティを表します。デバイス モビリティ グループでは、ネットワークのサイズや範囲に応じて、国、地域、州や県、市、またはその他のエンティティを表すことができます。たとえば、世界規模のネットワークを持つ企業であれば、個々の国を表すデバイス モビリティ グループを選択し、国内または地域ネットワークを持つ企業であれば、州、県、または市を表すデバイス モビリティ グループを定義することができます。



ヒント

デバイス モビリティ グループでは、類似のダイヤルパターンを使用するサイトの論理グループを定義します (たとえば、US_dmg および EUR_dmg)。

表 20-6 に、デバイス モビリティ グループの設定項目を示します。関連する手順については、「関連項目」(P.20-23) を参照してください。

表 20-5 デバイス モビリティ グループの設定項目

フィールド	説明
[デバイスモビリティグループ情報 (Device Mobility Group Information)]	
[名前 (Name)]	デバイス モビリティ グループを識別する名前を入力します。
[説明 (Description)]	プロファイルの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、および山カッコ (<>) は使用できません。

デバイス モビリティ グループの削除

デバイス プールで使用中のデバイス モビリティ グループは削除できません。このようなデバイス モビリティ グループを削除する場合は、まず関連付けられているデバイス プールを依存関係レコードから検索し、関連付けを解除してからデバイス モビリティ グループを削除する必要があります。

手順

- ステップ 1 削除するデバイス モビリティ グループを検索するには、「デバイス モビリティ グループの検索」(P.20-16) の手順に従います。
- ステップ 2 削除するデバイス モビリティ グループの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内のすべてのデバイス モビリティ グループを選択するには、一致レコードのタイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 3 [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
- ステップ 4 選択を確定するには、[OK] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.20-23) を参照してください。

デバイス モビリティ情報の検索

ネットワーク上には複数のデバイス モビリティ情報レコードが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、特定の条件に基づいて、特定のデバイス モビリティ情報を検索できます。デバイス モビリティ情報を検索するには、次の手順を実行します。



(注)

ブラウザセッションでの作業中は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでデバイス モビリティ情報の検索プリファレンスが保持されます。他のメニュー項目に移動してこのメニュー項目に戻った場合でも、検索を変更するかブラウザを閉じない限り、デバイス モビリティ情報の検索プリファレンスは Cisco Unified Communications Manager の管理ページで保持されています。

手順

ステップ 1 [システム (System)] > [デバイスモビリティ (Device Mobility)] > [デバイスモビリティ情報 (Device Mobility Info)] を選択します。

[デバイスモビリティ情報の検索と一覧表示 (Find and List Device Mobility Infos)] ウィンドウが表示されます。ウィンドウには、アクティブな (前の) クエリーのレコードが表示される場合もあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空になっていることを確認し、**ステップ 3** に進みます。

特定のレコードをフィルタリングまたは検索するには、次の操作を実行します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスで、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索文字を入力します。



(注) 別の検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加した場合は、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして、最後に追加された条件を削除するか、または [フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加されたすべての検索条件を削除します。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

条件に一致するレコードがすべて表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスで別の値を選択すると、各ページに表示される項目数を変更できます。



(注) 適切なレコードの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、データベースから複数のレコードを削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 表示されたレコード リストから、目的のレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順を逆にするには、リストのヘッダーにある上矢印または下矢印をクリックします (使用可能な場合)。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.20-23) を参照してください。

デバイス モビリティ情報の設定

デバイス モビリティ情報を追加するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [システム (System)] > [デバイスモビリティ (Device Mobility)] > [デバイスモビリティ情報 (Device Mobility Info)] を選択します。
- [デバイスモビリティ情報の検索と一覧表示 (Find and List Device Mobility Infos)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 次のいずれかの手順を実行します。
- 既存のデバイス モビリティ情報をコピーするには、「[デバイス モビリティ情報の検索 \(P.20-19\)](#)」の説明に従って対象のデバイス モビリティ情報を検索し、コピーするデバイス モビリティ情報の横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#)に進みます。
 - 新しいデバイス モビリティ情報を追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#)に進みます。
 - 既存のデバイス モビリティ情報を更新するには、「[デバイス モビリティ情報の検索 \(P.20-19\)](#)」の説明に従って対象のデバイス モビリティ情報を検索し、[ステップ 3](#)に進みます。
- ステップ 3** 適切なフィールドに値を入力します (表 20-6 を参照)。
- ステップ 4** デバイス モビリティ情報をデータベースに保存するには、[保存 (Save)] をクリックします。
-

追加情報

「[関連項目 \(P.20-23\)](#)」を参照してください。

デバイス モビリティ情報の設定項目

[デバイスモビリティ情報の設定 (Device Mobility Info Configuration)] ウィンドウでは、デバイス モビリティ用に使用するサブネットとデバイス プールを指定します。電話機が Cisco Unified Communications Manager に登録されると、デバイスの IP アドレスが、[デバイスモビリティ情報の設定 (Device Mobility Info Configuration)] ウィンドウでデバイス モビリティ用に設定されたサブネットと比較されます。IP サブネット マスク内で一致するビット数が最大のものが、最適な一致と見なされます (最長一致規則)。たとえば、IP アドレス 9.9.8.2 は、サブネット 9.9.0.0/16 ではなくサブネット 9.9.8.0/24 と一致します。

電話レコード内のデバイス プールが、対応するサブネットのデバイス プールと一致する場合、システムは、電話機がそのホーム ロケーションにあると見なします。その結果、電話機にはそのホーム デバイス プールのパラメータが保持されます。

電話レコード内のデバイス プールが、対応するサブネットのデバイス プールと一致しない場合、システムは、電話機が移動中であると見なします。表 20-2 に、デバイス モビリティの考えられるシナリオと、システムの応答を示します。

表 20-6 に、デバイス モビリティ情報の設定項目を示します。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.20-23) を参照してください。

表 20-6 デバイス モビリティ情報の設定項目

フィールド	説明
[デバイスモビリティ情報 (Device Mobility Info Information)]	
[名前 (Name)]	デバイス モビリティ情報レコードを識別する名前を入力します。
[サブネット (Subnet)]	デバイス モビリティのサブネットをドット付き 10 進数形式 (たとえば、xxx.xxx.xxx.xxx) で入力します。
[サブネットマスク (ビットサイズ) *(Subnet Mask (bits size)*)]	デバイス モビリティのサブネット マスクを入力します。この値は、ビット マスクに基づいて、対象のサブネットに含まれる IP アドレスの数値を表します。たとえば、24 は、標準クラス C のサブネット ビット マスクを表します。 この値は電話機のサブネット マスクと一致する必要はありません。
[このデバイスモビリティのデバイスプールの情報 (Device Pools for This Device Mobility Info)]	
[使用可能なデバイス プール (Available Device Pools)]	[使用可能なデバイスプール (Available Device Pools)] リスト ボックスでデバイス プールを選択し、2 つのリスト ボックスの間にある下矢印ボタンをクリックします。 リスト内の連続する複数のデバイス プールを追加するには、範囲の最初のデバイス プールをクリックし、Shift キーを押しながら範囲の最後のデバイス プールをクリックします。2 つのリスト ボックスの間にある下矢印ボタンをクリックして、デバイス プールを追加します。 リスト内の連続しない複数のデバイス プールを追加するには、Control (Ctrl) キーを押しながらデバイス プールをクリックします。2 つのリスト ボックスの間にある下矢印ボタンをクリックして、選択したデバイス プールを追加します。
[選択されたデバイス プール (Selected Device Pools)]	デバイス モビリティ レコードから削除する任意のデバイス プールを選択し、ダブルクリックするか、上矢印を使用して、デバイス プールを [使用可能なデバイスプール (Available Device Pools)] フィールドに戻します。

デバイス モビリティ情報の削除

デバイスで使用中のデバイス モビリティ情報を削除すると、「[デバイス モビリティ](#)」の章の説明に従って、Cisco Unified Communications Manager で適切なデバイス モビリティ規則が再適用されます。

デバイス モビリティ情報レコードを削除するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** 削除するデバイス モビリティ情報を検索するには、「[デバイス モビリティ情報の検索](#)」(P.20-19) の手順に従います。
- ステップ 2** 削除するデバイス モビリティ レコードの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内のすべてのレコードを選択するには、一致レコードのタイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 3** [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

ステップ 4 選択を確定するには、[OK] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.20-23) を参照してください。

デバイス モビリティ用のデバイス プールの設定

デバイスがデバイス モビリティ グループ内を移動した場合、またはデバイス モビリティ グループ外に移動した場合、[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウのローミング依存設定がデバイスレベルの設定よりも優先されます。[日時グループ (Date/Time Group)]、[リージョン (Region)]、[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]、[ロケーション (Location)]、[ネットワークロケール (Network Locale)]、[SRST 参照先 (SRST Reference)]、[物理ロケーション (Physical Location)]、[デバイスモビリティグループ (Device Mobility Group)] などの設定が該当します。これらの設定は、コールアドミッション制御と音声コーデックの選択に使用されます。また、これらの設定により Media Resource Group List (MRGL; メディア リソース グループ リスト) が更新されるため、保留音、会議、トランスコーディングなどに適切なリモート メディア リソースが使用されるようになります。Survivable Remote Site Telephony (SRST) ゲートウェイもローミング依存設定によって更新されます。モバイルユーザは、移動中に別の SRST ゲートウェイに登録されます。移動中の電話機が SRST モードになっている場合、この登録処理はダイヤル動作に影響する可能性があります。

[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウのデバイス モビリティ関連のパラメータがデバイスレベルの設定よりも優先されるのは、デバイスがデバイス モビリティ グループ内を移動中の場合だけです。ローミング サーチ スペースによってダイヤル可能なパターンまたは到達可能なデバイスが決定されるため、デバイス モビリティ関連の設定はダイヤルプランに影響します。

デバイス プールパラメータを設定する場合は、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「デバイス プールの設定」の章を参照してください。

ローミング用デバイス プールパラメータの表示

ローミング用デバイス プールの設定を表示するには、電話機でデバイス モビリティ モードが有効になっている状態で、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [デバイスモビリティモード (Device Mobility Mode)] フィールドの横にある [現在のデバイスモビリティ設定の表示 (View Current Device Mobility Settings)] をクリックします。デバイスが移動中でない場合は、ホーム ロケーションの設定が表示されます。

関連項目

- 「デバイス モビリティの設定チェックリスト」(P.20-2)
- 「デバイス モビリティの概要」(P.20-3)
- 「デバイス モビリティの動作について」(P.20-4)
- 「デバイス モビリティの動作の概要」(P.20-5)
- 「デバイス モビリティ グループの動作の概要」(P.20-6)
- 「ネットワークの検討事項」(P.20-8)

- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.20-9)
- 「システム要件」 (P.20-10)
- 「デバイス モビリティのインストール」 (P.20-11)
- 「デバイス モビリティの設定」 (P.20-11)
- 「ローミング用デバイス プールパラメータの表示」 (P.20-23)
- 「発信側の正規化」 (P.8-1)
- 「インターネット プロトコルバージョン 6 (IPv6)」 (P.29-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「デバイスプールの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サービスパラメータの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「共通デバイス設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ロケーションの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Survivable Remote Site Telephony の設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「自動代替ルーティングのグループ設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「日時グループの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「リージョンの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「コーリングサーチスペースの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「メディアリソースグループの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「コールアドミッション制御」
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「システムレベルの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「Cisco TFTP」

参考資料

- 『Cisco Unified Communications Solution Reference Network Design (SRND)』
- 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』
- 『Troubleshooting Guide for Cisco Unified Communications Manager』



CHAPTER 21

サイレント

Do Not Disturb (DND; サイレント) 機能は、次のオプションを提供します。

- [コール拒否 (Call Reject)] : このオプションでは、着信コールに関する情報がユーザに何も表示されないように設定します。[DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] パラメータをどのように設定するかに応じて、電話機はビープ音を再生するか、またはコールを点滅で表示するようになります。
- [呼出音オフ (Ringer Off)] : このオプションでは、呼び出し音はオフになりますが、着信コールの情報がデバイスに表示されるため、ユーザはコールを受信することが可能です。

ユーザは、Cisco Unified IP Phone または Cisco Unified CM のユーザ オプションから直接 DND を設定できます。

この章では、サイレントに関する次の情報を提供します。

- 「サイレントの設定チェックリスト」 (P.21-2)
- 「サイレントの概要」 (P.21-2)
- 「サイレントのアーキテクチャの概要」 (P.21-3)
- 「サイレントのシステム要件」 (P.21-4)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.21-5)
- 「サイレントのインストールとアクティブ化」 (P.21-8)
- 「サイレントの設定」 (P.21-8)
- 「サイレントの使用法」 (P.21-13)
- 「サイレントのトラブルシューティング」 (P.21-17)
- 「関連項目」 (P.21-20)

サイレントの設定チェックリスト

サイレント (DND) 機能は、次のオプションを提供します。

- [コール拒否 (Call Reject)] : このオプションでは、着信コールに関する情報がユーザに何も表示されないように設定します。[DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] パラメータをどのように設定するかに応じて、電話機はビープ音を再生するか、またはコールを点滅で表示するようになります。
- [呼出音オフ (Ringer Off)] : このオプションでは、呼び出し音はオフになりますが、着信コールの情報がデバイスに表示されるため、ユーザはコールを受信することが可能です。

DND が有効の場合、通常優先順位の新しい着信コールはすべて、デバイスの DND 設定に従います。Cisco Emergency Responder (CER) コールや Multi-Level Precedence & Preemption (MLPP) を使用したコールなど、高優先順位のコールが着信した場合は、デバイスで呼び出し音が鳴ります。また、DND を有効にすると、自動応答機能が無効になります。

表 21-1 に、サイレント機能を設定する際のチェックリストを示します。サイレント機能の詳細については、「サイレントの概要」(P.21-2) および「関連項目」(P.21-20) を参照してください。

表 21-1 サイレントの設定チェックリスト

	設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1	DND のサービス パラメータを設定します。	「サイレントのサービス パラメータの設定」(P.21-8)
ステップ 2	DND のソフトキーを設定します。	「DND のソフトキーの設定」(P.21-9)
ステップ 3	DND 機能ボタンを設定します。	「DND ボタンの設定」(P.21-9)
ステップ 4	デバイススペースの DND パラメータを設定します。	「DND に関するデバイス パラメータの設定」(P.21-10)
ステップ 5	電話プロファイルを設定します。	「共通の電話プロファイルへの DND の追加」(P.21-12)

サイレントの概要

DND が有効の場合、通常優先順位の新しい着信コールはすべて、デバイスの DND 設定に従います。Cisco Emergency Responder (CER) コールや Multi-Level Precedence & Preemption (MLPP) を使用したコールなど、高優先順位のコールが着信した場合は、デバイスで呼び出し音が鳴ります。また、DND を有効にすると、自動応答機能が無効になります。

ユーザは、次のいずれかの方法で、DND の有効と無効を切り替えることができます。

- ソフトキー
- 機能ボタン
- Cisco Unified CM のユーザ オプションのウィンドウ

また、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、電話機ごとに DND の有効と無効を切り替えることもできます。

DND を有効にすると、Cisco Unified IP Phone に「サイレントはアクティブです」と表示されます。DND がアクティブである場合、一部の Cisco Unified IP Phone に DND ステータス アイコンが表示されます。Cisco Unified IP Phone および DND 機能の詳細については、その IP Phone のユーザ ガイドを参照してください。

着信呼警告の設定

DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] または [コール拒否 (Call Reject)] が有効の場合、着信呼警告がユーザにどのように表示されるかは、[DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] の設定によって決まります。次のリストに、利用可能なオプションを示します。

- [なし (None)] : このオプションを指定すると、[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウの [DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] 設定がこのデバイスで使用されるようになります。
- [無効 (Disable)] : このオプションは、コールについてのビープ音と点滅による通知を両方とも無効にします。ただし、DND のオプションが [呼出音オフ (Ringer Off)] の場合、着信コールの情報は表示されます。DND のオプションが [コール拒否 (Call Reject)] の場合、警告は何も表示されず、デバイスには何の情報も送られません。
- [ビープ音のみ (Beep Only)] : このオプションの場合、コールが着信すると、電話機ではビープ音だけが再生されます。
- [フラッシュのみ (Flash Only)] : このオプションの場合、コールが着信すると、電話機では点滅による警告が表示されます。

[DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] は、デバイスごとに設定できます。また、グループごとに設定する場合は、[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウで設定することもできます。デバイス レベルで設定しない場合は、[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] の設定が使用されます。

サイレントのアーキテクチャの概要

この項では、SIP デバイスと SCCP デバイスの両方を対象に、DND のアーキテクチャの概要について説明します。次のトピックについて取り上げます。

- 「SIP デバイスの DND ステータス通知」 (P.21-3)
- 「SCCP デバイスの DND ステータス通知」 (P.21-3)

SIP デバイスの DND ステータス通知

Cisco Unified Communications Manager は、SIP デバイスまたは Cisco Unified Communications Manager デバイスが開始するサイレントをサポートしています。DND ステータスの変更信号が SIP デバイスから Cisco Unified Communications Manager に送信されるときは、SIP PUBLISH メソッド (RFC3909) が使用されます。DND ステータスの変更信号が Cisco Unified Communications Manager から SIP デバイスに送信されるときは、`dnupdate Remote-cc REFER` 要求が使用されます。また、Cisco Unified Communications Manager では、デバイスのサイレントステータスを、デバイスのビジー ステータスおよびアイドル ステータスと一緒に発行することもできます。

SCCP デバイスの DND ステータス通知

Cisco Skinny Client Control Protocol (SCCP) は、SCCP デバイスまたは Cisco Unified Communications Manager デバイスが開始するサイレント要求をサポートしています。DND ステータスの変更信号が SCCP デバイスから Cisco Unified Communications Manager に送信されるときは、SCCP メッセージが使用されます。

サイレントのシステム要件

次の項では、サイレントのソフトウェア要件とハードウェア要件について説明します。

- 「ソフトウェア要件」(P.21-4)
- 「ハードウェア要件」(P.21-4)

ソフトウェア要件

サイレント機能が動作するには、次のソフトウェア コンポーネントが必要です。

- Cisco Unified Communications Manager Release 6.0(1) 以降

ハードウェア要件

次の Cisco Unified IP Phone は、サイレント機能をサポートしています。

- Cisco Unified IP Phone 6900 シリーズ (6901 および 6911 を除く)
- Cisco Unified IP Phone 7900 シリーズ
- Cisco Unified IP Phone 8900 シリーズ
- Cisco Unified IP Phone 9900 シリーズ



(注)

SIP を実行している Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 は、サイレントに関する独自の低位互換性を実装しています。この設定は、[SIP プロファイル (SIP Profile)] ウィンドウで行います。

Cisco Unified IP Phone および DND 機能の詳細については、次のサイトで電話機のユーザ ガイドを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps10326/products_user_guide_list.html

http://www.cisco.com/en/US/products/hw/phones/ps379/products_user_guide_list.html

http://www.cisco.com/en/US/products/ps10451/products_user_guide_list.html

http://www.cisco.com/en/US/products/ps10453/products_user_guide_list.html

サイレントをサポートするデバイス

サイレントをサポートするデバイスの完全なリストを作成するには、Cisco Unified Reporting アプリケーションを使用します。そのためには、次の手順に従います。

1. 次のいずれかの方法を使用して、Cisco Unified Reporting を起動します。

Web アプリケーションへのアクセスを許可されるまで、ユーザの認証には Cisco Tomcat サービスが使用されます。アプリケーションには次の方法でアクセスできます。

- Cisco Unified Communications Manager の管理ページのナビゲーション メニューで [Cisco Unified Reporting] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool (RTMT) メニューで [File] > [Cisco Unified Reporting] の順に選択します。
- `https://<サーバ名または IP アドレス>:8443/cucreports/` と入力し、認証済みのユーザ名とパスワードを入力します。

2. ナビゲーション バーで、[System Reports] をクリックします。
3. 左側のカラムに表示されたレポートのリストで、[Unified CM Phone Feature List] オプションをクリックします。
4. [Generate a new report] リンクをクリックして新規レポートを生成するか、または、レポートがすでに存在する場合は、[Unified CM Phone Feature List] リンクをクリックします。
5. DND をサポートするすべてのデバイスのレポートを生成するには、対応するドロップダウンリスト ボックスから次の設定を選択し、[Submit] ボタンをクリックします。

[Product] : [All]

[Feature] : [Do Not Disturb]

[List Features] ペインに、DND がサポートされているすべてのデバイスのリストが表示されます。カラムの見出し ([Product] または [Protocol]) の隣にある上下の矢印キーをクリックして、リストをソートできます。

Cisco Unified Reporting アプリケーションの詳細については、次の URL の『Cisco Unified Reporting Administration Guide』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html

インタラクションおよび制限事項

インタラクションおよび制限事項については、次の各項を参照してください。

- 「インタラクション」(P.21-5)
- 「制限事項」(P.21-7)

インタラクション

次の各項では、サイレント機能が Cisco Unified Communications Manager のアプリケーションおよびコール処理とどのように通信するかを説明します。

- 「不在転送」(P.21-5)
- 「パーク復帰」(P.21-6)
- 「ピックアップ」(P.21-6)
- 「保留復帰とインターコム」(P.21-6)
- 「MLPP と CER」(P.21-6)
- 「折返し」(P.21-6)
- 「ピックアップ通知」(P.21-7)
- 「ハントリスト」(P.21-7)
- 「エクステンション モビリティ」(P.21-7)

不在転送

Cisco Unified IP Phone では、サイレント (DND) 機能がアクティブであることを示すメッセージの方が、新しいボイスメールメッセージが存在することを示すメッセージよりも優先されます。これにより、ユーザは DND がアクティブになったことを把握できます。ただし、不在転送機能がアクティブであることを示すメッセージは DND よりも優先されます。

パーク復帰

ローカルでパークされたコールについては、DND（両方のオプション）よりもパーク復帰が優先されます。DND が有効になっている電話機 A がコールをパークしている場合、電話機 A に対するパーク復帰は通常どおりに処理され、電話機 A で呼び出し音が鳴ります。

リモートでパークされたコールについては、パーク復帰よりも DND が優先されます。

- DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] がアクティブになっている電話機 A が電話機 A' と回線を共有している場合、電話機 A' がコールをパークしているときは、電話機 A でパーク復帰が行われても、呼び出し音は鳴りません。この場合は、DND 設定に従います。
- 電話機 A が DND の [コール拒否 (Call Reject)] をアクティブにしている場合、パーク復帰コールは電話機 A に表示されません。

ピックアップ

ローカルで開始されたピックアップ要求については、DND（両方のオプション）よりもピックアップが優先されます。DND が有効になっている電話機 A が何らかのピックアップを開始した場合、ピックアップコールは通常どおりに表示され、電話機 A で呼び出し音が鳴ります。

リモートで開始されたピックアップ要求については、ピックアップよりも DND が優先されます。

- DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] がアクティブになっている電話機 A が電話機 A' と回線を共有している場合、電話機 A' がピックアップを開始したときは、電話機 A に対するピックアップコールによって呼び出し音が鳴ることはありません。この場合は、DND 設定に従います。
- 電話機 A が DND の [コール拒否 (Call Reject)] モードにある場合、ピックアップコールは電話機 A に表示されません。

保留復帰とインターコム

保留復帰とインターコムは、DND（両方のオプション）よりも優先されます。したがって、コールは通常どおりに表示されます。

MLPP と CER

MLPP（SCCP を実行している電話機）および CER コールは、DND（両方のオプション）よりも優先されます。MLPP コールと CER コールは通常どおりに表示され、電話機で呼び出し音が鳴ります。

折返し

発信側に関しては、折返しは DND よりも優先されます。アクティブなデバイスが DND モード（両方のオプション）にある場合でも、折返し通知（音声と表示の両方）はユーザに表示されます。

受信側に関しては、折返しよりも DND が優先されます。

- 受信側が DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] モードにある場合、受信側がオフフックにしてからオンフックにした後に、折返しを使用可能とする画面が送信されます。
- 受信側が DND の [コール拒否 (Call Reject)] モードにあって使用可能である（オフフック後にオンフックになっている）とき、アクティブなデバイスが同じクラスタにある場合、そのアクティブなデバイスに対して「<DirectoryNumber> は使用可能になりましたが、DND-R にあります。」という新しい画面が送信されます。折返し通知は、受信側が DND の [コール拒否 (Call Reject)] を無効にした後でのみ送信されます。

ピックアップ通知

DND のオプションが [呼出音オフ (Ringer Off)] の場合、ビジュアル通知だけがデバイスに表示されます。

DND のオプションが [コール拒否 (Call Reject)] の場合、デバイスに通知は表示されません。

ハント リスト

ハント リスト内のデバイスが DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] をアクティブにしている場合でも、そのハント リストにコールが発信されると、そのコールはユーザに表示されます。ただし、[DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] を設定した場合は、この設定が適用されます。

ハント リスト内のデバイスが DND の [コール拒否 (Call Reject)] をアクティブにしている場合、そのハント リストに発信されたコールは次のメンバに送られ、このデバイスには送信されません。

エクステンション モビリティ

エクステンション モビリティでは、デバイス プロファイルの設定には、[DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] と DND ステータスが含まれます。ユーザがログインし、DND を有効にすると、[DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] と DND ステータスの設定が保存されます。これらの設定は、ユーザが再度ログインしたときに使用されます。



(注)

エクステンション モビリティにログインしているユーザが [DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] と DND ステータスの設定を変更しても、実際のデバイス設定には影響しません。

制限事項

使用中の電話機またはデバイスのタイプに応じて、DND の使用は一部制限されます。

- SCCP を実行している電話機モデルおよびデバイスのうち、次のものは DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] オプションだけをサポートします。
 - Cisco Unified IP Phone 7940
 - Cisco Unified IP Phone 7960
 - Cisco IP Communicator



(注)

SIP を実行する Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 は、サイレントに関する独自の互換性を実装しています。

- 次の電話機モデルおよびデバイスは、DND の [コール拒否 (Call Reject)] オプションだけをサポートします。
 - モバイル デバイス (デュアル モード)
 - リモート接続先プロファイル
 - Cisco Unified Mobile Communicator

サイレントのインストールとアクティブ化

サイレントは、Cisco Unified Communications Manager ソフトウェアに標準で搭載されているシステム機能です。この機能は、特にインストールする必要はありません。

サイレントの設定

この項では、サイレント機能の設定手順について説明します。

- 「サイレントのサービスパラメータの設定」(P.21-8)
- 「DND のソフトキーの設定」(P.21-9)
- 「DND ボタンの設定」(P.21-9)
- 「DND に関するデバイスパラメータの設定」(P.21-10)
- 「共通の電話プロファイルへの DND の追加」(P.21-12)



ヒント

サイレント機能を設定する前に、「サイレントの設定チェックリスト」(P.21-2) を参照してください。

サイレントのサービスパラメータの設定

Cisco Unified Communications Manager には、サイレントに関するシステム全体のサービスパラメータである BLF Status Depicts DND が用意されています。このパラメータは、BLF (Busy Lamp Field) ステータスの計算において DND ステータスを考慮するかどうかを指定します。パラメータは [True] または [False] に設定できます。

- BLF Status Depicts DND に [True] を指定し、DND がデバイスでアクティブになった場合は、デバイスの BLF ステータスインジケータまたはラインアピアランスに DND の状態が反映されます。
- BLF Status Depicts DND に [False] を指定し、DND がデバイスでアクティブになった場合は、デバイスの BLF ステータスインジケータまたはラインアピアランスに実際のデバイス状態が反映されます。

BLF Status Depicts DND をクラスタに対して有効または無効にした場合、クラスタの設定は、DND をサポートするクラスタ内の電話機すべてに適用されます。



(注)

このサービスパラメータを設定するには、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] に移動し、設定するサーバの [Cisco CallManager] サービスを選択します。[Clusterwide Parameters (System - Presence)] ペインで、[BLF Status Depicts DND] に目的の状態を指定します。

DND のソフトキーの設定

デフォルトのソフトキー テンプレートでは、DND のソフトキーは使用可能になりません。DND のソフトキーを追加するには、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] に移動し、[ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウでソフトキー テンプレートにサイレントを追加し、テンプレートをデバイスに関連付けます。

DND のソフトキーは次の状態で使用可能になります。

- 接続時
- 接続時（会議打診）
- 接続時（転送打診）
- オフフック
- オフフック（機能使用時）
- 保留
- リモートで使用中
- オンフック
- 呼び出し
- リングアウト
- 先頭桁入力後

DND ボタンの設定

DND ボタンを設定するには、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] に移動し、[電話ボタンテンプレートの設定 (Phone Button Template Configuration)] ウィンドウで [Do Not Disturb] を追加します。

DND に関するデバイス パラメータの設定

DND を特定の Cisco Unified IP Phone に対して設定するには、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] に移動し、設定する電話機を選択します。[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [サイレント (Do Not Disturb)] ペインで、表 21-2 に示されているパラメータを設定します。

表 21-2 DND のデバイス パラメータ

フィールド	説明
[サイレント (Do Not Disturb)]	電話機でサイレントを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[DND オプション (DND Option)]	<p>電話機で DND を有効にした場合、DND 機能が着信コールをどのように処理するかをこのパラメータで指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> [コール拒否 (Call Reject)] : このオプションでは、着信コールに関する情報がユーザに何も表示されないように設定します。[DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] パラメータをどのように設定するかに応じて、電話機はブープ音を再生するか、またはコールを点滅で表示するようになります。 [呼出音オフ (Ringer Off)] : このオプションでは、呼出し音はオフになりますが、着信コールの情報がデバイスに表示されるため、ユーザはコールを受信することが可能です。 [共通の電話プロファイル設定を使用 (Use Common Phone Profile Setting)] : このオプションを指定すると、[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウの [DND オプション (DND Option)] 設定がこのデバイスで使用されるようになります。 <p>(注) SCCP を実行している 7940 および 7960 電話機の場合は、[呼出音オフ (Ringer Off)] オプションだけを選択できます。モバイルデバイスおよびデュアルモードフォンの場合は、[コール拒否 (Call Reject)] オプションだけを選択できます。モバイルデバイスまたはデュアルモードフォンで DND の [コール拒否 (Call Reject)] をアクティブにしている場合、デバイスにはコール情報は何も表示されません。</p>

表 21-2 DND のデバイス パラメータ (続き)

フィールド	説明
[DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)]	<p>このパラメータは、DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] オプションまたは [コール拒否 (Call Reject)] オプションを有効にした場合に、電話機でコールがどのように表示されるかを指定します。</p> <p>ドロップダウンリストから、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [なし (None)] : このオプションを指定すると、[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウの [DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] 設定がこのデバイスで使用されるようになります。 • [無効 (Disable)] : このオプションは、コールについてのビープ音と点滅による通知を両方とも無効にします。ただし、DND のオプションが [呼出音オフ (Ringer Off)] の場合、着信コールの情報は表示されます。DND のオプションが [コール拒否 (Call Reject)] の場合、警告は何も表示されず、デバイスには何の情報も送られません。 • [ビープ音のみ (Beep Only)] : このオプションの場合、コールが着信すると、電話機ではビープ音だけが再生されます。 • [フラッシュのみ (Flash Only)] : このオプションの場合、コールが着信すると、電話機では点滅による警告が表示されます。

共通の電話プロフィールへの DND の追加

DND を共通の電話プロフィールに追加するには、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通の電話プロフィール (Common Phone Profile)] に移動し、変更する電話プロフィールを選択します。[共通の電話プロフィールの設定 (Common Phone Profile Configuration)] ウィンドウで、表 21-3 に示されている DND のパラメータを設定します。

表 21-3 共通の電話プロフィールにおける DND のパラメータ

フィールド	説明
[DND オプション (DND Option)]	<p>電話機で DND を有効にした場合、DND 機能が着信コールをどのように処理するかをこのパラメータで指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> [コール拒否 (Call Reject)] : このオプションでは、着信コールに関する情報がユーザに何も表示されないように設定します。[DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] パラメータをどのように設定するかに応じて、電話機はビープ音を再生するか、またはコールを点滅で表示するようになります。 [呼出音オフ (Ringer Off)] : このオプションでは、呼び出し音はオフになりますが、着信コールの情報がデバイスに表示されるため、ユーザはコールを受信することが可能です。 <p>(注) モバイル デバイスおよびデュアル モード フォンの場合は、[コール拒否 (Call Reject)] オプションだけを選択できます。モバイル デバイスまたはデュアル モード フォンで DND の [コール拒否 (Call Reject)] をアクティブにしている場合、デバイスにはコール情報は何も表示されません。</p>
[DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)]	<p>このパラメータは、DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] オプションまたは [コール拒否 (Call Reject)] オプションを有効にした場合に、電話機でコールがどのように表示されるかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リストから、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [なし (None)] : このオプションを指定すると、[共通の電話プロフィール (Common Phone Profile)] ウィンドウの [DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] 設定がこのデバイスで使用されるようになります。 [無効 (Disable)] : このオプションは、コールについてのビープ音と点滅による通知を両方とも無効にします。ただし、DND のオプションが [呼出音オフ (Ringer Off)] の場合、着信コールの情報は表示されます。DND のオプションが [コール拒否 (Call Reject)] の場合、警告は何も表示されず、デバイスには何の情報も送られません。 [ビープ音のみ (Beep Only)] : このオプションの場合、コールが着信すると、電話機ではビープ音だけが再生されます。 [フラッシュのみ (Flash Only)] : このオプションの場合、コールが着信すると、電話機では点滅による警告が表示されます。

サイレントの使用法

この項では、サイレントの使用手順や、サイレントに関するさまざまなコールシナリオでの使用例について説明します。

- 「サイレント機能の使用法」(P.21-13)
- 「サイレントの使用例」(P.21-13)

サイレント機能の使用法

サイレントは、次のいずれかの方法でアクティブにすることができます。

- ソフトキー
- 機能ボタン
- Cisco Unified CM のユーザ オプション

DND をアクティブにすると、電話機のステータス行に「サイレントはアクティブです」と表示されます。次に、DND 回線ボタンアイコンが中空の円になり、ランプがオレンジ色に点灯します。

DND をアクティブにしても、電話機で着信コールの通知を受信することができます。この動作は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページにある [DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] で指定されたとおりに行われます。ただし、高優先順位のコール (Cisco Emergency Responder コールや MLPP コールなど) が着信した場合を除き、電話機で呼び出し音が鳴ることはありません。

また、電話機で呼び出し音が鳴っているときに DND を有効にすると、呼び出し音は停止します。

サイレントの使用例

この項では、DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] オプションおよび [コール拒否 (Call Reject)] オプションの両方に関して、サイレント機能が有効になっている電話機でコールがどのように表示されるかについての例を示します。

- 「DND の呼出音オフ オプション」(P.21-13)
- 「DND のコール拒否オプション」(P.21-16)

DND の呼出音オフ オプション

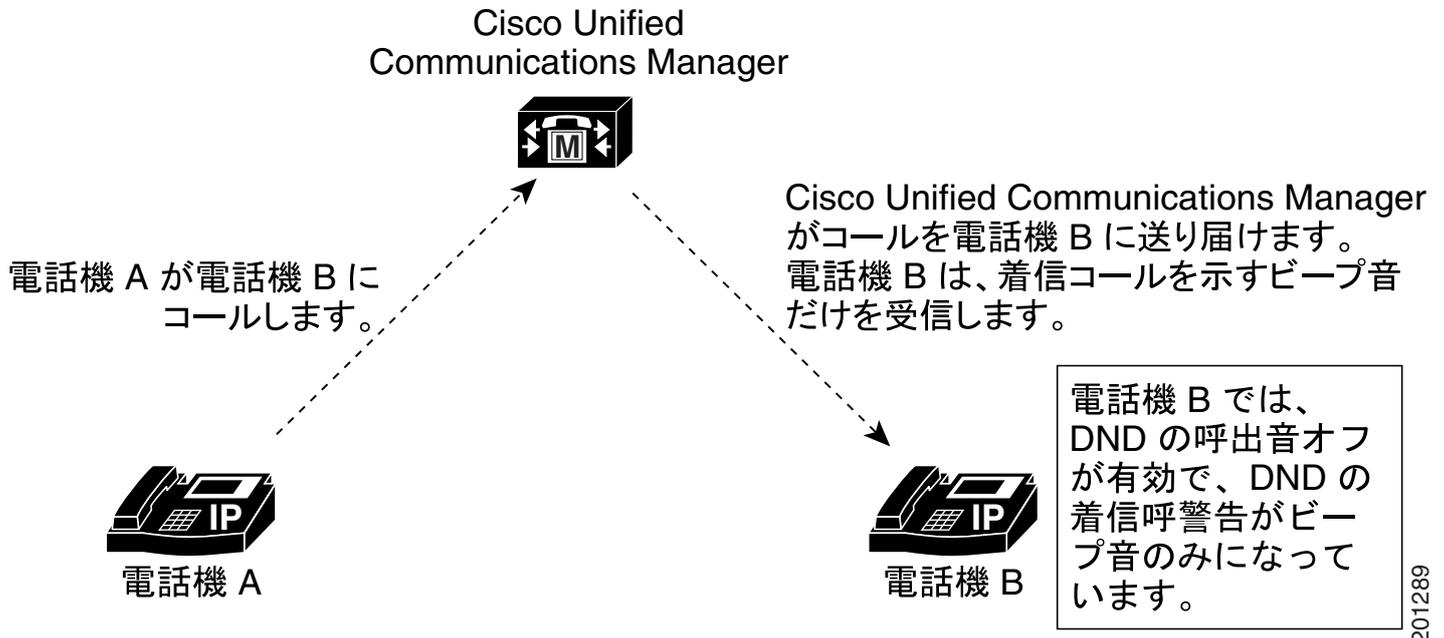
次の例では、DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] オプションを使用します。

非シェアラインで DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] が有効になっている場合の通常優先順位のコール

図 21-1 は、非シェアラインで DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] が有効になっている電話機に対して通常優先順位のコールを発信する場合の DND に関連する手順を示しています。

1. 電話機 B が DND をアクティブにします。電話機 B に「サイレントはアクティブです」と表示されます。
2. 電話機 A が電話機 B にダイヤルします。
3. 電話機 B でビープ音が鳴り、電話機 A が呼び出し音を受信します。

図 21-1 非シェアラインで DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] が有効になっている場合の通常優先順位のコール

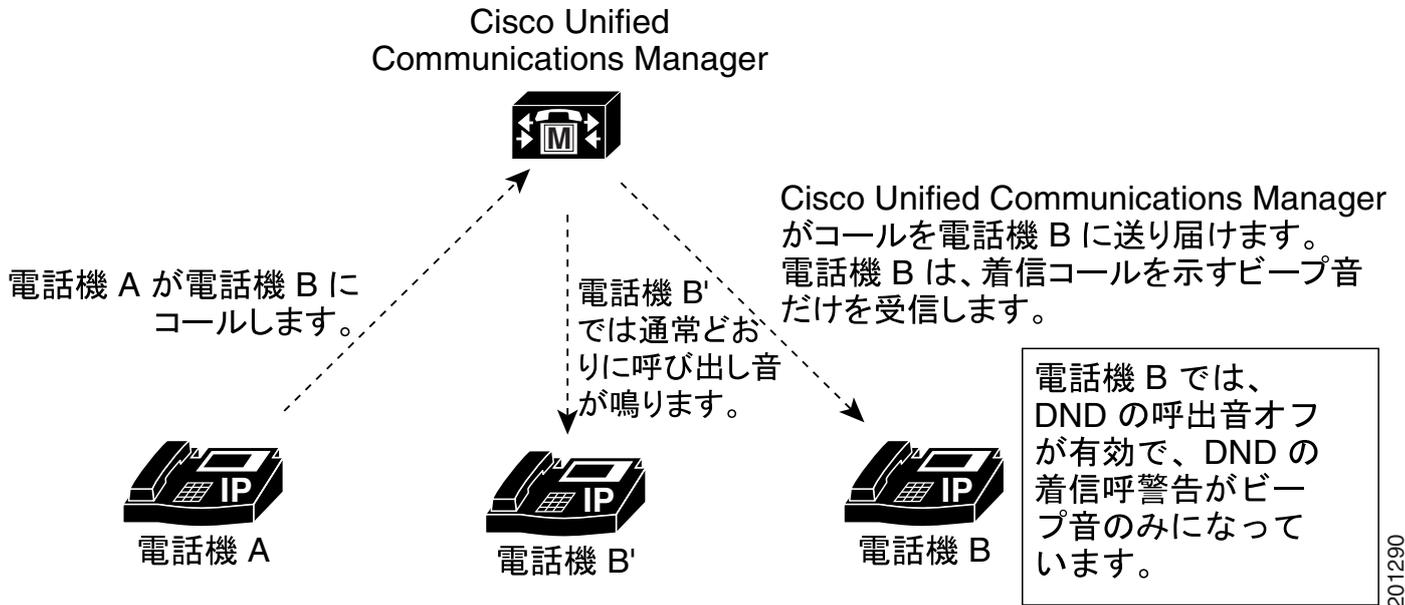


シェアラインで DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] が有効になっている場合の通常優先順位のコール

図 21-2 は、シェアラインで DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] が有効になっている電話機に対して通常優先順位のコールを発信する場合の DND に関連する手順を示しています。

1. 電話機 B が DND をアクティブにします。電話機 B に「サイレントはアクティブです」と表示されます。
2. 電話機 A が電話機 B のシェアラインにダイヤルします。
3. 電話機 B でビープ音が鳴ります。一方、回線を共有している電話機 B' では通常どおりに呼び出し音が鳴ります。
4. 電話機 A が呼び出し音を受信します。

図 21-2 シェアラインで DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] が有効になっている場合の通常優先順位のコール

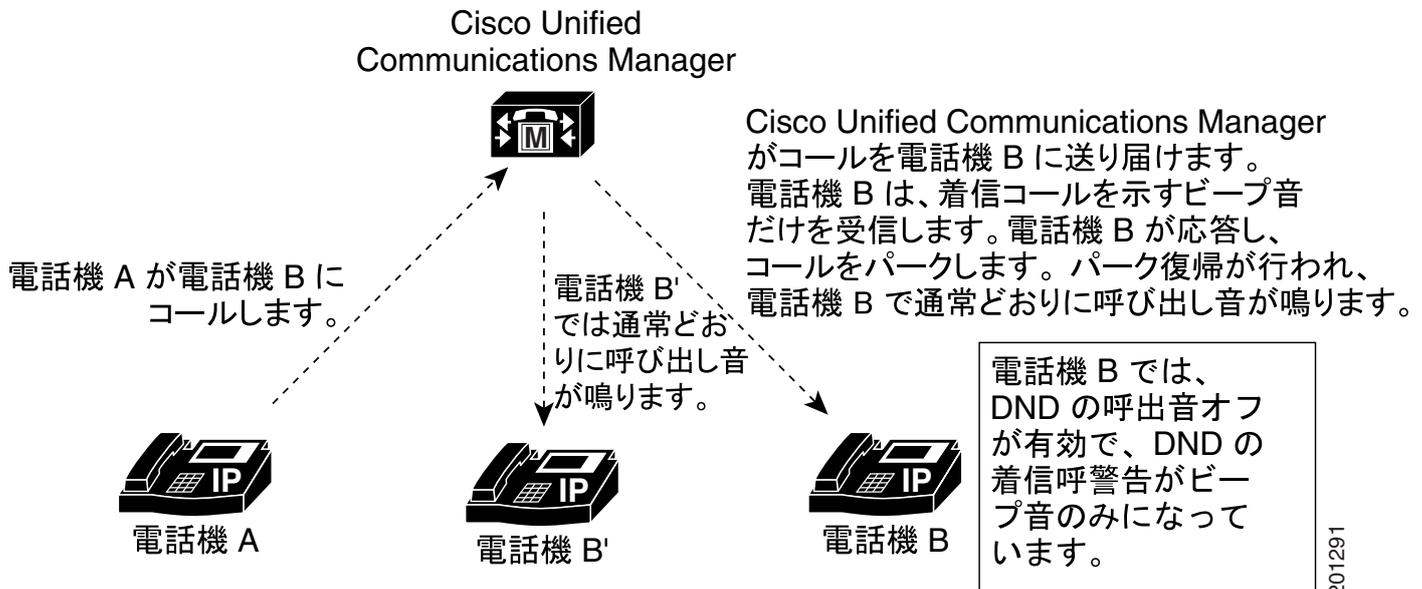


シェアラインで DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] が有効になっている場合の高優先順位のコール

図 21-3 は、シェアラインで DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] が有効になっている電話機に対して高優先順位のコールを発信する場合の DND に関連する手順を示しています。

1. 電話機 B が DND をアクティブにします。電話機 B に「サイレントはアクティブです」と表示されます。
2. 電話機 A が電話機 B のシェアラインにダイヤルします。
3. 電話機 B でビープ音が鳴ります。一方、回線を共有している電話機 B' では通常どおりに呼び出し音が鳴ります。
4. 電話機 A が呼び出し音を受信します。
5. 電話機 B が応答し、コールをパークします。
6. パーク復帰が行われ、電話機 B で通常どおりに呼び出し音が鳴ります。

図 21-3 シェアドラインで DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] が有効になっている場合の高優先順位のコール



非シェアラインで DND および無応答時転送が有効になっている場合の通常コール

次の手順は、DND と Call Forward No Answer (CFNA; 無応答時転送) の両方がアクティブになっている電話機に対して発信するコールのコールフローを示しています。

1. 電話機 B が、電話機 C にコールを転送するように無応答時転送を設定します。
2. 電話機 B が DND をアクティブにします。
3. 電話機 A が電話機 B にコールします。
4. 電話機 B でビープ音が鳴りますが、コールには応答しません。
5. コールが電話機 C に転送され、電話機 C で通常どおりに呼び出し音が鳴ります。

DND のコール拒否オプション

次の例では、DND の [コール拒否 (Call Reject)] オプションを使用します。

非シェアラインで DND の [コール拒否 (Call Reject)] が有効になっている場合の通常優先順位のコール

次の手順は、非シェアラインで [コール拒否 (Call Reject)] が有効になっている場合のコールのコールフローを示しています。

1. 電話機 B は、DND の [コール拒否 (Call Reject)] をアクティブにし、[DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] を [ビープ音のみ (Beep Only)] に設定しています。
2. 電話機 A が電話機 B にコールします。
3. Cisco Unified Communications Manager は、ユーザが話中という理由でコールを拒否します。
4. 電話機 B はビープ音だけを受信します。

シェアラインで DND の [コール拒否 (Call Reject)] が有効になっている場合の通常優先順位のコール次の手順は、シェアラインで [コール拒否 (Call Reject)] が有効になっている場合のコールのコールフローを示しています。

1. 電話機 B は、DND の [コール拒否 (Call Reject)] をアクティブにし、[DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] を [ビープ音のみ (Beep Only)] に設定しています。
2. 電話機 A が電話機 B にコールします。
3. Cisco Unified Communications Manager は、ユーザが話中という理由でコールを拒否します。
4. 電話機 B はビープ音だけを受信します。
5. DND モードにない電話機 B' で通常どおりに呼び出し音が鳴ります。

シェアラインで DND の [コール拒否 (Call Reject)] が有効になっている場合の高優先順位のコール次の手順は、シェアラインで DND の [コール拒否 (Call Reject)] が有効になっている場合の高優先順位コールのコールフローを示しています。

1. 電話機 A は、DND の [コール拒否 (Call Reject)] をアクティブにし、[DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] を [ビープ音のみ (Beep Only)] に設定しています。
2. 電話機 A が電話機 B にコールします。
3. Cisco Unified Communications Manager が電話機 B にコールを送達します。
4. 電話機 B がコールに応答します。
5. 電話機 A がコールをパークします。
6. DND モードにない電話機 A' で通常どおりに呼び出し音が鳴ります。
7. パーク復帰が行われ、電話機 A で通常どおりに呼び出し音が鳴ります。

サイレントのトラブルシューティング

この項では、Cisco Unified IP Phone (SCCP および SIP) に関するトラブルシューティングについて説明します。

- [「基本的な DND に関するトラブルシューティング」 \(P.21-17\)](#)
- [「SIP を実行している電話機のトラブルシューティング」 \(P.21-18\)](#)
- [「SCCP を実行している電話機のトラブルシューティング」 \(P.21-18\)](#)
- [「DND のエラーに関するトラブルシューティング」 \(P.21-19\)](#)

基本的な DND に関するトラブルシューティング

DND が期待どおりに動作しない場合は、次の例に示すように、SCCP ステーションコードによって管理される設定が、ユーザの考えと一致しているかどうかを確認します。

DND の切り替えによる DND ステータスの確認

ソフトキーまたは機能ボタンを使用して DND ステータスを切り替えると、回線制御に送信される LmFeatureInd メッセージに新しいステータスが表示されます (新しいステータスは、以前のステータスとは反対のものになっています)。後で、以前のステータスに切り替えることもできます。

LmFeatureInd SDL トレースには、次の 3 つのフィールドがあります。

- *feature* : 値が 4 の場合は DND を示します。
- *featureState* : 値が 0 の場合はオンを示し、値が 1 の場合はオフを示します。
- *dndOption* : 値が 0 の場合は不明、値が 1 の場合は呼出音オフ、値が 2 の場合はコール拒否を示します。

電話機のリセットによるすべての DND 設定の確認

電話機をリセットすると、すべての DND 設定が詳細な SDI トレースに出力されます。次に例を示します。

```
StationD: (xxxxxxx) DND settings from TSP:  
status=a, option=b, ringSetting=d
```

変数の意味は、次のとおりです。

- *a* は 0 (DND オフ) または 1 (DND オン)
- *b* は 1 (DND の呼出音オフ オプション。1 は呼出音オフを示す)
- *d* は 1 (呼出音オフ)、2 (フラッシュのみ)、または 5 (ビープ音のみ)

SIP を実行している電話機のトラブルシューティング

SIP を実行している電話機をトラブルシューティングするには、次の情報を使用します。

- デバッグ : sip-dnd、sip-messages、dnd-settings
- 表示 : config、dnd-settings
- スニファ トレース

SCCP を実行している電話機のトラブルシューティング

SCCP を実行している電話機をトラブルシューティングするには、次の情報を使用します。

- デバッグ : jvm all info
- スニファ トレース

DND のエラーに関するトラブルシューティング

表 21-4 は、DND のトラブルシューティングに関する症状とアクションを示しています。

表 21-4 DND のトラブルシューティングに関する症状とアクション

症状	アクション
DND の機能キーが表示されない	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager のバージョンをチェックし、6.0 以降になっていることを確認します。 • この電話機のボタン テンプレートに DND の機能キーが含まれていることを確認します。 • スニファ トレースをキャプチャし、電話機が正しいボタン テンプレートを取得することを確認します。 • 電話機がファームウェア 8.3(1) 以降を実行していることを確認します。
DND のソフトキーが表示されない	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager のバージョンをチェックし、6.0 以降になっていることを確認します。 • この電話機のソフトキー テンプレートに DND が含まれていることを確認します。 • スニファ トレースをキャプチャし、電話機が正しいソフトキー テンプレートを取得することを確認します。 • 電話機がファームウェア 8.3(1) 以降を実行していることを確認します。
BLF スピード ダイヤルに DND ステータスが表示されない	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager のバージョンをチェックし、6.0 以降になっていることを確認します。 • エンタープライズ パラメータで BLF DND が有効に設定されていることを確認します。 • スニファ トレースをキャプチャし、電話機が正しい通知メッセージを取得することを確認します。 • 電話機がファームウェア 8.3(1) 以降を実行していることを確認します。

関連項目

- 「サイレントの設定チェックリスト」 (P.21-2)
- 「サイレントの概要」 (P.21-2)
- 「サイレントのアーキテクチャの概要」 (P.21-3)
- 「サイレントのシステム要件」 (P.21-4)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.21-5)
- 「サイレントのインストールとアクティブ化」 (P.21-8)
- 「サイレントの設定」 (P.21-8)
- 「サイレントの使用方法」 (P.21-13)
- 「サイレントのトラブルシューティング」 (P.21-17)



CHAPTER 22

外部コール制御

Cisco Unified Communications Manager 8.0(2) (以降) は、外部コール制御機能をサポートしています。この機能により、付加ルート サーバでは、8.0(2) の Cisco Unified Routing Rules Interface を使用して Cisco Unified Communications Manager のコールルーティングを決定できます。外部コール制御を設定すると、Cisco Unified Communications Manager は、発信側と着信側の情報が含まれるルート要求を付加ルート サーバに発行します。付加ルート サーバは要求を受信し、適切なビジネス ロジックを適用して、コールのルーティング方法および適用が必要なその他のコール処理を Cisco Unified Communications Manager に対して指示するルート応答を返します。

付加ルート サーバは、コールの許可、コールの即時転送、コールの拒否、発信側と着信側の情報の変更、発信者に対するアナウンスの再生を行うように Cisco Unified Communications Manager に指示できます。また、付加ボイスメール サーバと IVR サーバが発信側と着信側の情報を適切に解釈できるように通話履歴をリセットしたり、コールの即時転送または拒否理由を表す理由コードを記録したりするように指示できます。次の例は、外部コール制御がどのように機能するかを示しています。

- 最高品質のボイス ルーティング：付加ルート サーバは、音声ゲートウェイ経由でコール参加者全員に高音質のコールが送信されるように、ネットワーク リンクの可用性、帯域幅使用、遅延、ジッタ、および MOS スコアを監視します。
- 最小限コストのルーティング：付加ルート サーバには、最もコスト効率の高いリンクでコールがルーティングされるように、LATA 料金プランと LATA 間料金プラン、トランッキングコスト、バースト使用コストなどの通信事業者契約情報が構成されています。
- 倫理的境界：付加ルート サーバには、通信の可否を決定する企業ポリシー（ユーザ 1 がユーザ 2 にコールを発信できるかなど）が構成されています。Cisco Unified Communications Manager がルート要求を発行すると、ルート サーバは、コールを許可、拒否、または別のパーティにリダイレクトするかを指示する応答を送信します。

Cisco Unified Routing Rules Interface の詳細については、http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/products_programming_reference_guides_list.htmlにある『Cisco Unified Communications Manager XML Developers Guide for Release 8.0(2)』を参照してください。

この章は、次の内容で構成されています。

- 「外部コール制御の設定チェックリスト」 (P.22-2)
- 「Cisco Unified Communications Manager の外部コール制御の概要」 (P.22-5)
- 「外部コール制御のシステム要件」 (P.22-11)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.22-11)
- 「外部コール制御のインストールおよびアクティブ化」 (P.22-14)

- 「外部コール制御の設定」 (P.22-14)
 - 「外部コール制御のサービス パラメータ」 (P.22-15)
 - 「外部コール制御プロファイルの設定項目」 (P.22-17)
 - 「外部コール制御プロファイルの設定レコードの検索」 (P.22-20)
 - 「外部コール制御プロファイルの設定」 (P.22-21)
 - 「外部コール制御プロファイルのトランスレーション パターンへの割り当て」 (P.22-22)
 - 「外部コール制御プロファイルの設定レコードの削除」 (P.22-22)
 - 「付加ルート サーバ証明書のインポート」 (P.22-23)
 - 「エクスポート用の Cisco Unified Communications Manager 自己署名証明書の生成」 (P.22-24)
- 「エンド ユーザへの情報の提供」 (P.22-25)
- 「外部コール制御のトラブルシューティング」 (P.22-25)
- 「関連項目」 (P.22-25)

外部コール制御の設定チェックリスト

Cisco Unified Communications Manager Release 8.0(2) ((以降) は、外部コール制御機能をサポートしています。この機能により、付加ルート サーバでは、8.0(2) の Cisco Unified Routing Rules Interface を使用して Cisco Unified Communications Manager のコールルーティングを決定できます。外部コール制御を設定すると、Cisco Unified Communications Manager は、発信側と着信側の情報が含まれるルート要求を付加ルート サーバに発行します。付加ルート サーバは要求を受信し、適切なビジネス ロジックを適用して、コールのルーティング方法および適用が必要なその他のコール処理を Cisco Unified Communications Manager に対して指示するルート応答を返します。

付加ルート サーバは、コールの許可、コールの即時転送、コールの拒否、発信側と着信側の情報の変更、発信者に対するアナウンスの再生を行うように Cisco Unified Communications Manager に指示できます。また、付加ボイスメール サーバと IVR サーバが発信側と着信側の情報を適切に解釈できるように通話履歴をリセットしたり、コールの即時転送または拒否理由を表す理由コードを記録したりするように指示できます。次の例は、外部コール制御がどのように機能するかを示しています。

- 最高品質のボイス ルーティング：付加ルート サーバは、音声ゲートウェイ経由でコール参加者全員に高音質のコールが送信されるように、ネットワーク リンクの可用性、帯域幅使用、遅延、ジッタ、および MOS スコアを監視します。
- 最小限コストのルーティング：付加ルート サーバには、最もコスト効率の高いリンクでコールがルーティングされるように、LATA 料金プランと LATA 間料金プラン、トランキング コスト、バースト使用コストなどの通信事業者契約情報が構成されています。
- 倫理的境界：付加ルート サーバには、通信の可否を決定する企業ポリシー（ユーザ 1 がユーザ 2 にコールを発信できるかなど）が構成されています。Cisco Unified Communications Manager がルート要求を発行すると、ルート サーバは、コールを許可、拒否、または別のパーティにリダイレクトするかを指示する応答を送信します。

表 22-1 は、ネットワークで外部コール制御を設定するためのチェックリストです。外部コール制御がどのように機能するかの詳細については、「Cisco Unified Communications Manager の外部コール制御の概要」(P.22-5) および「インタラクションおよび制限事項」(P.22-11) を参照してください。

表 22-1 外部コール制御の設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 ルートサーバが Cisco Unified Communications Manager にコールの処理方法を指示できるように、Cisco Unified Routing Rules Interface を設定します。	『Cisco Unified Communications Manager XML Developers Guide』
ステップ 2 ルートサーバにより Cisco Unified Communications Manager に Divert オブレーションが送信されたときに Cisco Unified Communications Manager で使用されるコーリングサーチスペースを設定します ([コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)])。 プロファイルの設定時に、このコーリングサーチスペースを外部コール制御プロファイルに割り当てます。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「コーリングサーチスペースの設定」
ステップ 3 外部コール制御プロファイルを設定します ([コールルーティング (Call Routing)] > [外部コール制御プロファイル (External Call Control Profile)])。	「外部コール制御プロファイルの設定項目」(P.22-17) 「外部コール制御プロファイルの設定レコードの検索」(P.22-20) 「外部コール制御プロファイルの設定」(P.22-21)
ステップ 4 外部コール制御で使用するトランスレーションパターンに、外部コール制御プロファイルを割り当てます ([コールルーティング (Call Routing)] > [トランスレーションパターン (Translation Pattern)])。	「外部コール制御プロファイルのトランスレーションパターンへの割り当て」(P.22-22)
ステップ 5 ルートサーバで https が使用されている場合は、ルートサーバの証明書を Cisco Unified Communications Manager サーバの信頼ストアにインポートします (Cisco Unified Communications オペレーティングシステムで、[セキュリティ (Security)] > [証明書の管理 (Certificate Management)] を選択します)。 ルートサーバにルーティングクエリーを送信する可能性のあるクラスタ内のノードごとに、この作業を実行する必要があります。	「外部コール制御プロファイルの設定項目」(P.22-17)
ステップ 6 ルートサーバで https が使用されている場合は、Cisco Unified Communications Manager 自己署名証明書をルートサーバにエクスポートします (Cisco Unified Communications オペレーティングシステムで、[セキュリティ (Security)] > [証明書の管理 (Certificate Management)] を選択します)。 ルートサーバにルーティングクエリーを送信する可能性のあるクラスタ内のノードごとに、この作業を実行する必要があります。	「エクスポート用の Cisco Unified Communications Manager 自己署名証明書の生成」(P.22-24)

表 22-1 外部コール制御の設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
<p>ステップ 7 ルート サーバのルーティング ルールで、監察者によるコールの監視や録音が必要であることが指定されている場合は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで監察者機能を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 電話機での録音を有効にする場合は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで [ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] を [オン (On)] に設定します。 録音プロファイルを作成します。[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [録音プロファイル (Recording Profile)] の順に選択し、監察対象の会議を録音する電話機に対してコール録音プロファイルを作成します。 録音プロファイルをラインアピアランスに適用します。 レコーダをポイントする SIP トランクを追加し、その SIP トランクをポイントするルートパターンを作成します。 Play Recording Notification Tone to Observed Target および Play Recording Notification Tone to Observed Connected Target サービスパラメータを設定します。 監察者が使用する電話機に Standard Chaperone Phone ソフトキーテンプレート割り当てます。 監察者の電話機にシェアドラインや複数の電話番号または回線が設定されていないことを確認します。監察者の電話機には、電話番号を 1 つだけ設定します ([コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)]、または電話機がすでに設定されている場合は [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)])。 監察者の電話機の電話番号について、[録音オプション (Recording Option)] ドロップダウンリスト ボックスから [デバイスから呼び出されたコール録音が有効 (Device Invoked Call Recording Enabled)] を選択します ([コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)]、または電話機がすでに設定されている場合は [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)])。 監察者の電話機の電話番号について、[コール最大数 (Maximum Number of Calls)] 設定に 2 を入力し、[ビジートリガー (Busy Trigger)] 設定に 1 を入力します ([コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)]、または電話機がすでに設定されている場合は [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)])。 [録音] ソフトキーをサポートしている Cisco Unified IP Phone の場合、接続状態の電話機に [会議]、[録音]、および [終了] のソフトキーだけが表示されるように Standard Chaperone Phone ソフトキーテンプレートが設定されていることを確認します。 Programmable Line Key (PLK; プログラム可能な回線キー) の録音をサポートしている Cisco Unified IP Phone の場合は、[電話ボタンテンプレートの設定 (Phone Button Template Configuration)] ウィンドウで PLK を設定します。 クラスタ内に複数の監察者がいる場合、監察者ハントリストに割り当てる予定の監察者回線グループに監察者 DN を追加します。ハントリストに含まれる回線グループに監察者を追加すると、対応可能な監察者によって確実にコールが監視されるようになります。 	<p>「ルーティング ルールの監察者サポート」 (P.22-10)</p>

表 22-1 外部コール制御の設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 8 ルーティング ルールで一部のコールに対してアナウンスの再生が必要となっているときに、シスコ提供のアナウンスを使用しない場合は、[アナウンス (Announcements)] ウィンドウでシスコ提供のアナウンスをカスタム アナウンスで上書きします ([メディアリソース (Media Resources)] > [アナウンス (Announcements)])。 シスコ提供のアナウンスを使用しない場合は、カスタム アナウンスを使用できるようにアナウンスエータを設定します ([メディアリソース (Media Resources)] > [アナウンスエータ (Annunciator)])。	「ルーティング ルールのアナウンス サポート」 (P.22-11)

Cisco Unified Communications Manager の外部コール制御の概要

Cisco Unified Communications Manager Release 8.0(2) (以降) は、外部コール制御機能をサポートしています。この機能により、付加ルート サーバでは、8.0(2) の Cisco Unified Routing Rules Interface を使用して Cisco Unified Communications Manager のコールルーティングを決定できます。外部コール制御を設定すると、Cisco Unified Communications Manager は、発信側と着信側の情報が含まれるルート要求を付加ルート サーバに発行します。付加ルート サーバは要求を受信し、適切なビジネス ロジックを適用して、コールのルーティング方法および適用が必要なその他のコール処理を Cisco Unified Communications Manager に対して指示するルート応答を返します。



ヒント

コールの処理方法は、付加ルート サーバのルーティング ルールまたはビジネス ロジックによって決まることに注意してください。Cisco Unified Communications Manager の管理ページの設定内容がルーティング ルールと競合する場合は、ルーティング ルールがコールに対して使用されます。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、設定済みの外部コール制御プロファイルをトランスレーション パターンに割り当てることにより、トランスレーション パターンに対して外部コール制御を有効にします。次の例は、ネットワーク内で外部コール制御がどのように機能するかを示しています。

1. Cisco Unified Communications Manager が着信コールを受信し、Cisco Unified Communications Manager 内の番号分析エンジンが最適なトランスレーション パターンを選択します。
2. 設定済みの外部コール制御プロファイルをトランスレーション パターンに割り当てた場合、Cisco Unified Communications Manager はコールをデバイスに送達しません。Cisco Unified Communications Manager はコール ルーティング クエリーを、eXtensible Access Control Markup Language (XACML) を使用して、http または https の POST メソッドでルート サーバに送信します。

Cisco Unified Communications Manager は、発信側番号、変換された発信側番号、着信側番号 (ダイヤルされた番号)、変換された着信側番号、トリガー ポイント情報 (トランスレーション パターン用のストリング) などをクエリーに含めます。

3. コールのルーティング方法は、ルート サーバのルーティング ルールおよびビジネス ロジックによって決まります。ルート サーバは、コール ルーティング ディレクティブを Cisco Unified Communications Manager に送信し、Cisco Unified Communications Manager はそのディレクティブに従ってコールを処理します。Cisco Unified Communications Manager に応答するときに、ルート サーバは、ルート決定とオブリゲーションで構成される XACML ディレクティブを送信します。ルート決定には、決定のための次の値が含まれることがあります。
- Permit : コールが許可されます。
 - Deny : コールが拒否されます。
 - Indeterminate : コール ルーティング ルールが決定されていません (通常は設定の問題に関連しています)。
 - Not applicable : 要求に一致するコール ルーティング ルールがありません。

Cisco Unified Communications Manager 専用にカスタマイズされた指示を含むオブリゲーションが、Call Instruction XML (CIXML; コール指示 XML) で符号化されます。このオブリゲーションはルート決定と整合している必要があります。整合していない場合、Cisco Unified Communications Manager はルート決定に従います。また、オブリゲーションには、理由コードやコール処理時に Cisco Unified Communications Manager が実行する必要がある追加作業を示すパラメータが含まれることがあります。表 22-2 では、オブリゲーションとその関連パラメータについて説明します。

表 22-2 外部コール制御用のオブリゲーション

オブリゲーション	説明	オブリゲーションのパラメータ
Reject	<p>付加ルート サーバは、Permit 決定または Deny 決定について、Reject オブリゲーションを発行することがあります。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager がコールを拒否し、発信者は速いビジー トーンを受信します。</p> <p>ルート決定が Deny であり、オブリゲーションが何も送信されない場合、Cisco Unified Communications Manager は Reject オブリゲーションが発行された場合と同様の方法でコールを処理します。</p>	<p>Reject オブリゲーションには、次のパラメータを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Announce : Cisco Unified Communications Manager は [id] で識別される指定のアナウンスを発信者側で再生し、コールが拒否されたことを示します。 • Reason : コールが拒否された理由を示す文字列。理由文字列は、通知および記録目的で使用されます。ルート違反が発生したことが理由に示されている場合、イベントに対して CallAttemptBlockedByPolicy というアラームが発行されます。

表 22-2 外部コール制御用のオブリゲーション (続き)

オブリゲーション	説明	オブリゲーションのパラメータ
Continue	<p>Continue オブリゲーションを使用するには、ルート決定が Permit である必要があります。決定が Deny の場合、このオブリゲーションは無視されます。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager がコールを現在の接続先にルーティングします。つまり、Cisco Unified Communications Manager は通常どおりに番号を操作し、コールをルーティングします。</p> <p>Continue オブリゲーション内の変更された発信側番号または着信側番号は、トランスレーションパターンの変換の結果を上書きします。これにより、コールの宛先が変更されることもあります。</p> <p>付加ルートサーバが Permit 決定を発行し、オブリゲーションが何も送信されない場合、Cisco Unified Communications Manager は Continue オブリゲーションが発行された場合と同様の方法でコールを処理します。</p>	<p>Continue オブリゲーションには次のパラメータがあります。これらはオプションです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Greeting : Cisco Unified Communications Manager は、発信者を着信側に接続する前に、[id] で識別されたアナウンスを発信者側で再生します。 • Modify : 付加ルートサーバは、トランスレーションパターンに設定されている発信側および着信側の変換を上書きします。Cisco Unified Communications Manager は、発信側番号または着信側番号を、ディレクティブ内で指定されている番号に変更します。ディレクティブ内に番号が指定されていない場合、ルートパターンまたはトランスレーションパターンの設定が適用されます。

表 22-2 外部コール制御用のオブリゲーション (続き)

オブリゲーション	説明	オブリゲーションのパラメータ
Divert	<p>Divert オブリゲーションを使用するには、ルート決定が Permit である必要があります。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、Destination パラメータ (Divert オブリゲーションの必須パラメータ) で指定された別の接続先にコールをリダイレクトします。</p> <p>付加ルート サーバによりコールが転送されると、複数の転送ホップまたは 1 つの転送ループが発生することがあります。ホップの数を制御する場合、または転送ホップを回避する場合は、「外部コール制御のサービス パラメータ」(P.22-15) の説明に従って、Maximum External Call Control Diversion Hops to Pattern or DN または External Call Control Diversion Maximum Hop Count サービス パラメータを設定します。</p>	<p>Divert オブリゲーションには、次のパラメータを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Destination (必須パラメータ) : Cisco Unified Communications Manager は、指定された番号または元の着信側のボイスメールボックスにコールを転送します。 • Reason : 監察者がコールの監視や録音を行う必要があることを示します。 • Modify : コールの現在のホップについて、付加ルート サーバは更新済みの発信側番号または着信側番号を含めません。ディレクティブ内に番号が指定されていない場合、ルートパターンまたはトランスレーションパターンの設定が適用されます。電話機には更新済みの番号が表示されることがあり、変更された値は CDR に書き込まれることに注意してください。 • Reset Call History : Cisco Unified Communications Manager はコールをリダイレクトし、最後のコール ホップまたは過去のコール ホップすべてが通話履歴から削除されます。

付加ルート サーバへの Cisco Unified Communications Manager 接続

Cisco Unified Communications Manager は、付加ルート サーバへの持続的な接続を保持することで、コールの設定における遅延を低減しています。Cisco Unified Communications Manager クラスタ内の各ノードは、パラレルまたは同時クエリのために、付加ルート サーバへの複数の接続を高いコール レートで確立することがあります。Cisco Unified Communications Manager は、持続的な接続のためのスレッドプールを管理します。このスレッドプールは、次のサービス パラメータの設定によって決定されます。

- **External Call Control Initial Connection Count To PDP** : このパラメータは、Cisco Unified Communications Manager がコール ルーティング要求を処理するために付加ルート サーバに対して確立する最小接続数を指定します。
- **External Call Control Maximum Connection Count To PDP** : このパラメータは、Cisco Unified Communications Manager がコール ルーティング要求を処理するために付加ルート サーバに対して確立する最大接続数を指定します。

これらのパラメータおよびその他の外部コール制御サービス パラメータの詳細については、「外部コール制御のサービス パラメータ」(P.22-15) を参照してください。

外部コール制御プロファイル

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、設定済みの外部コール制御プロファイルをトランスレーション パターンに割り当てることにより、外部コール制御を有効にします。トランスレーション パターンは、外部コール制御のトリガー ポイントです。つまり、トランスレーション パターンに外部コール制御プロファイルが割り当てられている場合、コールの着信側番号がトランスレーション パターンに一致すると、Cisco Unified Communications Manager は即時にコール ルーティング クエリーを付加ルート サーバに送信します。付加ルート サーバは、コールの処理方法を Cisco Unified Communications Manager に指示します。

外部コール制御プロファイルには、プライマリ付加ルート サーバと冗長付加ルート サーバの URI (GUI では Web サービスと呼ばれる)、コールの即時転送で使用されるコーリング サーチスペース、Cisco Unified Communications Manager が付加ルート サーバからの応答を待機する時間などが指定されています。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定する外部コール制御プロファイルには、ルート決定とオブリゲーションを Cisco Unified Communications Manager に提供する付加ルート サーバの URI を指定する必要があります。この場合、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでプライマリ Web サービスと呼ばれる URI を 1 つ設定するか、または付加ルート サーバへのアクティブリンクとスタンバイリンクを作成するためにプライマリ URI とセカンダリ URI を設定できます。プライマリ URI とセカンダリ URI を設定した場合、ルート サーバはコール ルーティング クエリーのロード バランスをラウンド ロビン方式で行うことができます。URI には http または https を使用できます。https を指定した場合、Cisco Unified Communications Manager では、付加ルート サーバへの TLS 接続を介して、証明書による相互認証が行われます。



ヒント

https を使用した場合、Cisco Unified Communications Manager では、証明書の件名が付加ルート サーバのホスト名と一致しているかどうかを確認されます。また、Cisco Unified Communications Manager により、証明書の署名が信頼された CA によって発行されたものかどうか、または署名が信頼ストアにインポートされた自己署名の証明書と一致しているかどうかを確認されます。

https 接続を確立するには、各付加ルート サーバから Cisco Unified Communications Manager の各ノード上の信頼ストアに証明書をインポートする必要があります。同様に、Cisco Unified Communications Manager の各ノードから自己署名証明書をエクスポートし、各付加ルート サーバ上の信頼ストアにインポートする必要があります。これらの作業の詳細については、「[外部コール制御プロファイルの設定項目](#)」(P.22-17) および「[エクスポート用の Cisco Unified Communications Manager 自己署名証明書の生成](#)」(P.22-24) を参照してください。

付加ルート サーバにより即時転送ルーティング ディレクティブが発行されたために Cisco Unified Communications Manager がコールをリダイレクトする必要がある場合は、[ディバージョン再ルーティング用コーリングサーチスペース (Diversion Rerouting Calling Search Space)] の設定が使用されます。

外部コール制御プロファイル内に、Cisco Unified Communications Manager が付加ルート サーバからの応答を待機する時間を設定できます。タイマーが時間切れになると、外部コール制御プロファイルの [障害時のコール処理 (Call Treatment on Failure)] 設定で指定した方法に基づいて、Cisco Unified Communications Manager によりコールが許可またはブロックされます。

ルーティング ルールの監察者サポート

付加ルート サーバのルーティング ルールで、コールに監察者を設定する必要があると指定されている場合、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで監察者サポートを設定する必要があります。この場合、付加ルート サーバは Cisco Unified Communications Manager に次のルーティング ディレクティブを送信します。

- Permit 決定
- 理由として監察者が指定された Divert オブレーション

監察者とは、コールに対する企業ポリシーの通知、コールの監視、およびコールの録音を必要に応じて実行できる、指定された電話機ユーザです。Cisco Unified Communications Manager には、付加ルート サーバの指示に従って監察者機能をサポートするための次の機能が用意されています。

- Cisco Unified Communications Manager は着信コールを、1 人の監察者や、監察者のハントグループやハントリストにリダイレクトできます。
- Cisco Unified Communications Manager は、監察者に対してコールの録音を許可できます。

監察者が発信者に接続した場合、または監察対象の会議が確立された場合、(電話機モデルに応じて) 電話機の [録音] ソフトキーまたは PLK がアクティブになり、監察者がコール録音を呼び出すことができるようになります。コール録音は現在のコールに対してだけ行われます。現在のコールが終了すると、コール録音は停止します。監察者が [録音] ソフトキーまたは PLK を押すと、電話機に録音のステータスを示すメッセージが表示されることがあります。



ヒント

監察者サポートを設定するために Cisco Unified Communications Manager の管理ページで実行が必要な設定作業のリストについては、「外部コール制御の設定チェックリスト」(P.22-2) を参照してください。

コールに参加するユーザが監察者の不在時に会話できないという、監察者の制限があります。監察者には、次のような制限があります。

- 監察者は、電話機を使用して会議コールを保留にすることができません。
- 監察者は、会議の開始後に電話機を使用して会議にユーザを追加できません。これは、監察者がユーザを追加するには、コールを保留にする必要があるためです。

監察者が会議を作成すると (つまり、電話機で [会議] ソフトキーが使用されている場合)、その [会議] ソフトキーが無効になります。

会議の他のユーザは会議にユーザを追加できる可能性があることに注意してください。他のユーザが会議に参加者を追加できるかどうかは、Cisco CallManager サービスがサポートされている Advanced Ad Hoc Conference Enabled サービス パラメータの設定によって決まります。このサービス パラメータが True に設定されている場合は、他のユーザが会議に参加者を追加できます。

- 監察者は、電話機を使用して会議コールを別のユーザに転送できません。
- 監察者が会議から退出すると、会議全体が終了します。
- 監察者が、会議への参加が必要なユーザに打診コールを行う前に録音を開始した場合、監察者が打診コールを行う間、Cisco Unified Communications Manager では録音が中断されません。会議が確立されると、録音が再開されます。

ルーティング ルールのアナウンス サポート

付加ルート サーバのルーティング ルールで、Cisco Unified Communications Manager がコールに対してアナウンスを再生する必要があると指定されていることがあります。たとえば、コールが拒否されることを示すアナウンスや、発信者を着信側に接続する前にグリーティングを発行するアナウンスなどです。Cisco Unified Communications Manager をインストールすると、シスコ提供のアナウンスおよびトーンがインストールされます。これらのアナウンスおよびトーンは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [アナウンスの検索と一覧表示 (Find and Lists Announcements)] ウィンドウに表示され、外部コール制御に使用できます ([メディアリソース (Media Resources)] > [アナウンス (Announcements)])。このウィンドウに表示されるすべてのアナウンスで外部コール制御がサポートされますが、Cisco Unified Communications Manager でどのアナウンスが再生されるかは、付加ルート サーバが発行したオブリゲーションによって決まります。たとえば、付加ルート サーバからのオブリゲーションに、Cisco Unified Communications Manager がコールを拒否して Custom_05006 アナウンスを再生するように指定されている場合は、そのアナウンスが再生されます。



ヒント

シスコ提供のアナウンスではなくカスタム アナウンスを使用する場合は、[アナウンス設定 (Announcement Configuration)] ウィンドウでカスタム アナウンスをアップロードできます。

詳細情報

『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[アナウンスの設定](#)」

外部コール制御のシステム要件

外部コール制御のシステム要件は、次のとおりです。

- Cisco Unified Communications Manager 8.0(2) (以降)
- Cisco Unified Routing Rules XML Interface (コールのルート決定とオブリゲーションを提供)

インタラクションおよび制限事項

アナウンシエータ

ルーティング ルールでコールに対するアナウンスの再生が必要となっている場合、[アナウンス (Announcements)] ウィンドウで標準のアナウンスをアップロードします。シスコ提供のアナウンスを使用しない場合は標準のアナウンスをカスタマイズします ([メディアリソース (Media Resources)] > [アナウンス (Announcements)])。

カスタム アナウンスをアップロードした場合、そのアナウンスを使用できるようにアナウンシエータを設定します ([メディアリソース (Media Resources)] > [アナウンシエータ (Annunciator)])。

Cisco Unified Communications Manager コールの高音質ルーティング

必要に応じて、付加ルート サーバで、音質が重要な場合にどのゲートウェイをコールに使用するかを決定するルーティング ルールを設定できます。たとえば、ゲートウェイ A で高音質を実現できる場合、コールにはゲートウェイ A が使用されます。付加ルート サーバは、音声ゲートウェイ経由でコール参加者全員に高音質のコールが送信されるように、ネットワーク リンクの可用性、帯域幅使用、遅延、ジッタ、および MOS スコアを監視します。

呼詳細レコード

外部コール制御機能が呼詳細レコードに表示されることがあります。たとえば、付加ルートサーバがコールを許可したか、それとも拒否したかが呼詳細レコードに示されることがあります。また、Cisco Unified Communications Manager が付加ルートサーバからの決定を受信していない場合に、Cisco Unified Communications Manager がコールをブロックしたか許可したかが呼詳細レコードに示されることもあります。呼詳細レコードおよび外部コール制御の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Call Detail Records Administration Guide』を参照してください。

自動転送

外部コール制御がトランスレーション パターン レベルでコールを代行受信するのに対し、自動転送は電話番号レベルでコールを代行受信します。外部コール制御の方が優先順位が高くなります。つまり、自動転送が呼び出された場合、トランスレーション パターンに外部コール制御プロファイルが割り当てられていると、Cisco Unified Communications Manager は付加ルートサーバにルーティング クエリーを送信します。自動転送がトリガーされるのは、付加ルートサーバが Continue オブレーションを含む Permit 決定を Cisco Unified Communications Manager に送信した場合だけです。

外部コール制御をサポートする call diversion hop count サービス パラメータと、自動転送をサポートする call forward call hop count サービス パラメータは独立している、つまり個別に機能することに注意してください。

コール ピックアップ

電話機ユーザがコール ピックアップ機能を使用してコールを受けようとしていることが Cisco Unified Communications Manager で認識されると、外部コール制御は呼び出されません。つまり、Cisco Unified Communications Manager は、そのコール部分に対してはルーティング クエリーを付加ルートサーバに送信しません。

監察者

監察者とは、コールに対する企業ポリシーの通知、コールの監視、およびコールの録音を必要に応じて実行できる、指定された電話機ユーザです。コールに参加するユーザが監察者の不在時に会話できないという、監察者の制限があります。監察者の制限については、「[ルーティング ルールの監察者サポート](#)」(P.22-10) を参照してください。

Cisco Unified Mobility

次の Cisco Unified Mobility 機能に対しては、Cisco Unified Communications Manager は付加ルートサーバからのルート決定を優先します。

- モバイル コネクト
- モバイル ボイス アクセス
- エンタープライズ機能アクセス
- Dial-via-Office リバース コールバック
- Dial-via-Office 転送

**ヒント**

モバイル ボイス アクセスまたはエンタープライズ機能アクセスを呼び出すには、エンド ユーザが、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定されている機能電話番号をダイヤルする必要があります。着信側番号は（この場合）機能 DN であるため、Cisco Unified Communications Manager はコールを受信したときに、Cisco Unified Communications Manager は外部コール制御を呼び出しません。コールがアンカーされた後、Cisco Unified Communications Manager によりユーザ認証が要求され、ユーザは発信先の番号を入力します。Cisco Unified Communications Manager が発信先にコールを送達しようとする、外部コール制御が呼び出されます。Cisco Unified Communications Manager は、コールルーティングクエリーを付加ルートサーバに送信して、コールの処理方法を決定します。

次の Cisco Unified Mobility 機能に対しては、Cisco Unified Communications Manager はルーティングクエリーを送信しません。

- セル ピックアップ
- デスク ピックアップ
- セッション ハンドオフ

Cisco Unified サービスアビリティ

外部コール制御のアラーム定義は、Cisco Unified サービスアビリティの Cisco CallManager アラーム カタログに表示されます。アラーム定義の詳細については、『*Troubleshooting Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

会議

電話機ユーザが会議を作成すると、プライマリ コールと打診コールに対して外部コール制御が呼び出されることがあります。

電話番号

ネット上ダイヤリングで 4 桁または 5 桁がサポートされている場合、電話番号を 4 桁または 5 桁の内線（エンタープライズ拡張）として設定する際に、2 つのトランスレーションパターンを設定する必要があります。1 つ目のトランスレーションパターンは発信側番号と着信側番号のグローバル化をサポートし、2 つ目のトランスレーションパターンは発信側番号と着信側番号のローカライズをサポートします。発信側番号および着信側番号のグローバル化に使用するトランスレーションパターンに外部コール制御プロファイルを割り当てます。

サイレント

デフォルトでは、ユーザの DND 設定は、付加ルートサーバのユーザルールで、付加ルートサーバが Continue オブレーションを送信することが指定されている場合に有効になります。たとえば、付加ルートサーバが Continue オブレーションを送信した場合、ユーザの DND-R が有効になっていると、Cisco Unified Communications Manager はコールを拒否します。

緊急通話処理（911 や 9.11 など）**注意**

緊急通話（911 や 9.911 など）に対しては、ルートサーバに接続してコール処理方法の指示を受けなくてもコールが適切な接続先（Cisco Emergency Responder やゲートウェイなど）にルーティングされるように、明示的な緊急通話のパターンセットを設定しておくことを強く推奨します。

たとえば、ある電話機グループから発信されるすべてのコールに外部コール制御機能を使用している場合、緊急通話を含むすべてのコールがルートサーバにルーティングされます。この場合、コールの処理方法は、ルートサーバのルール設定によって決定されます。ルートサーバが **Permit** ディレクティブを発行しない場合（ルートサーバに緊急通話を処理するためのルールもビジネスロジックもない場合）、緊急通話が拒否される可能性があります（または、コールの処理が遅延する可能性もあります）。

Real-Time Monitoring Tool

外部コール制御では、RTMT の外部コール制御オブジェクトおよび Cisco CallManager オブジェクトにパフォーマンス モニタリング カウンタが表示されます。これらのカウンタの詳細については、『*Troubleshooting Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

転送

電話機ユーザがコールを転送すると、プライマリ コールと打診コールの両方に対して外部コール制御が呼び出されることがあります。ただし、Cisco Unified Communications Manager は、転送側と転送先との間に付加ルートサーバからのルーティングルールを実施できません。

外部コール制御のインストールおよびアクティブ化

Cisco Unified Communications Manager をインストールした後、必要な設定作業を実行すると、ネットワークで外部コール制御をサポートできるようになります。実行する必要がある設定作業については、「[外部コール制御の設定チェックリスト](#)」(P.22-2) を参照してください。

外部コール制御の設定

この項は、次の内容で構成されています。

- 「[外部コール制御のサービス パラメータ](#)」(P.22-15)
- 「[外部コール制御プロファイルの設定項目](#)」(P.22-17)
- 「[外部コール制御プロファイルの設定レコードの検索](#)」(P.22-20)
- 「[外部コール制御プロファイルの設定](#)」(P.22-21)
- 「[外部コール制御プロファイルのトランスレーション パターンへの割り当て](#)」(P.22-22)
- 「[外部コール制御プロファイルの設定レコードの削除](#)」(P.22-22)
- 「[付加ルートサーバ証明書のインポート](#)」(P.22-23)
- 「[エクスポート用の Cisco Unified Communications Manager 自己署名証明書の生成](#)」(P.22-24)



ヒント

外部コール制御を設定する前に、「[外部コール制御の設定チェックリスト](#)」(P.22-2) を参照してください。

外部コール制御のサービス パラメータ

外部コール制御機能をサポートするサービス パラメータにアクセスするには、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。サーバを選択し、[Cisco CallManager] サービスを選択します。次に、[Clusterwide Parameters (Feature - External Call Control)] ペインを検索します。表 22-3 では、外部コール制御機能のサービス パラメータについて説明します。詳細については、[サービス パラメータ (Service Parameters)] ウィンドウで疑問符をクリックしてください。

表 22-3 外部コール制御のサービス パラメータ

サービス パラメータ	説明
External Call Control Diversion Maximum Hop Count	このパラメータは、付加ルートサーバが 1 つのコールに対して Divert オブリゲーションを発行できる最大回数を指定します。デフォルト値は 12 です。最小値は 1、最大値は 500 です。
Maximum External Call Control Diversion Hops to Pattern or DN	このパラメータは、付加ルートサーバが電話番号、ルートパターン、トランスレーションパターン、またはハントパイロットに対してコールの Divert オブリゲーションを発行できる最大回数を指定します。 デフォルト値は 12、最小値は 1、最大値は 60 です。
External Call Control Routing Request Timer	このパラメータは、Cisco Unified Communications Manager が付加ルートサーバからのコールルーティングディレクティブを待機する最大時間（ミリ秒）を指定します。この時間が経過すると、外部コール制御プロファイル内の [障害時のコール処理 (Call Treatment on Failures)] 設定の値に従って、コールが許可またはブロックされます。 デフォルト値は 2000、最小値は 1000、最大値は 5000 です。

表 22-3 外部コール制御のサービス パラメータ (続き)

サービス パラメータ	説明
External Call Control Fully Qualified Role And Resource	<p>このパラメータは、Cisco Unified Communications Manager が XACML コールルーティング要求で付加ルート サーバに送信する完全修飾ロールおよびリソースを指定します。入力した値は付加ルート サーバ上の設定と照合され、これにより Cisco Unified Communications Manager クエリは常に付加ルート サーバ上の適切なルーティングルールをポイントします。</p> <p>デフォルト値は CISCO:UC:UCMPolicy:VoiceOrVideoCall です。CISCO:UC:UCMPolicy は付加ルート サーバ上のロールを表し、VoiceOrVideoCall は付加ルート サーバ上のリソースを表します。</p> <p>英数字 (A ~ Z、a ~ z、0 ~ 9) またはコロン (:) を含む、最大 100 文字を入力できます。コロンは、英数字と英数字の間にだけ使用できます。</p>
External Call Control Initial Connection Count To PDP	<p>このパラメータは、Cisco Unified Communications Manager がコールルーティング要求を処理するために付加ルート サーバに対して確立する初期接続数を指定します。このパラメータの値は必ず、External Call Control Maximum Connection Count To PDP の値以下にしてください。この値が External Call Control Maximum Connection Count To PDP の値以上の場合、External Call Control Maximum Connection Count To PDP の値は無視されます。この設定は、各外部コール制御プロファイル内で設定されている各 URI に適用されます。</p> <p>デフォルト値は 2、最小値は 2、最大値は 20 です。</p>
External Call Control Maximum Connection Count To PDP	<p>このパラメータは、Cisco Unified Communications Manager がコールルーティング要求を処理するために付加ルート サーバに対して確立する最大接続数を指定します。このパラメータの値は必ず、External Call Control Initial Connection Count To PDP の値以上にしてください。この値が External Call Control Initial Connection Count To PDP の値より小さい場合、値は無視されます。この設定は、各外部コール制御プロファイル内で設定されている各 URI に適用されます。</p> <p>デフォルト値は 4、最小値は 2、最大値は 20 です。</p>

外部コール制御プロファイルの設定項目

Cisco Unified Communications Manager Release 8.0(2) (以降) は、外部コール制御機能をサポートしています。この機能により、付加ルート サーバでは、8.0(2) の Cisco Unified Routing Rules Interface を使用して Cisco Unified Communications Manager のコールルーティングを決定できます。外部コール制御を設定すると、Cisco Unified Communications Manager は、発信側と着信側の情報が含まれるルート要求を付加ルート サーバに発行します。付加ルート サーバは要求を受信し、適切なビジネス ロジックを適用して、コールのルーティング方法および適用が必要なその他のコール処理を Cisco Unified Communications Manager に対して指示するルート応答を返します。

付加ルート サーバは、コールの許可、コールの即時転送、コールの拒否、発信側と着信側の情報の変更、発信者に対するアナウンスの再生を行うように Cisco Unified Communications Manager に指示できます。また、付加ボイスメール サーバと IVR サーバが発信側と着信側の情報を適切に解釈できるように通話履歴をリセットしたり、コールの即時転送または拒否理由を表す理由コードを記録したりするように指示できます。

外部コール制御プロファイルには、付加ルート サーバの URI、コールの即時転送に使用されるコーリング サーチ スペース、Cisco Unified Communications Manager が付加ルート サーバからの応答を待機する時間を示すタイマーなどが指定されています。

表 22-4 では、[外部コール制御プロファイル (External Call Control Profile)] ウィンドウに表示される設定 ([コールルーティング (Call Routing)] > [外部コール制御プロファイル (External Call Control Profile)]) について説明します。

始める前に

外部コール制御プロファイルを設定する前に、付加ルート サーバが Cisco Unified Communications Manager に Divert オブリゲーションを送信したときに Cisco Unified Communications Manager が使用するコーリング サーチ スペースを設定します ([コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)])。

外部コール制御プロファイルを設定する前に、「[外部コール制御の設定チェックリスト](#)」(P.22-2) を参照してください。

次の作業

外部コール制御プロファイルを設定した後は、プロファイルをトランスレーション パターンに割り当てます ([コールルーティング (Call Routing)] > [トランスレーションパターン (Translation Pattern)])。

表 22-4 外部コール制御プロファイルの設定項目

フィールド	説明
[名前 (Name)]	外部コール制御プロファイルの名前を入力します。有効な入力値は、英数字、ハイフン、ピリオド、アンダースコア、およびスペースです。 入力した名前は、[外部コール制御プロファイルの検索と一覧表示 (Find and List External Call Control Profile)] ウィンドウと、[トランスレーションパターンの設定 (Translation Pattern Configuration)] ウィンドウの [外部コール制御プロファイル (External Call Control Profile)] ドロップダウン リスト ボックスに表示されます。

表 22-4 外部コール制御プロファイルの設定項目 (続き)

フィールド	説明
[プライマリ Web サービス (Primary Web Service)]	<p>プライマリ付加ルート サーバの URI を入力します。これは、Cisco Unified Communications Manager がコールの処理方法を決定するためにルーティング クエリーを送信する付加ルート サーバです。</p> <p>このフィールドには、http または https を入力できます。https を入力した場合は、付加ルート サーバから自己署名証明書をインポートする必要があります。また、Cisco Unified Communications Manager 自己署名証明書を付加ルート サーバにエクスポートする必要があります。</p> <p>次の式を使用して、URI を入力します。</p> <p>https://<プライマリ ルート サーバのホスト名または IPv4 アドレス>:<プライマリ ルート サーバ上に設定されているポート>/ルート サーバ設定からのパス</p> <p>たとえば、https://primaryrouteserver:8443/pdp/AuthenticationEndPoint のように入力します。</p> <p>https を使用する場合、このフィールドには必ず、証明書に含まれているホスト名を入力してください (証明書内の Common Name (CN; 通常名) など)。</p>
[セカンダリ Web サービス (Secondary Web Service)]	<p>冗長付加ルート サーバの URI を入力します。これは、Cisco Unified Communications Manager がコールの処理方法を決定するためにルーティング クエリーを送信する冗長付加ルート サーバです。セカンダリ Web サービスはオプションです。[ロードバランシングの有効化 (Enable Load Balancing)] チェックボックスをオンにした場合は、プライマリ ルート サーバとセカンダリ ルート サーバ間の負荷バランシングを行うためにセカンダリ Web サービスが使用されます。また、セカンダリ Web サービスを設定することで、アクティブ/スタンバイリンクが使用可能になるため、冗長性も確保されます。</p> <p>このフィールドには、http または https を入力できます。https を入力した場合は、付加ルート サーバから自己署名証明書をインポートする必要があります。また、Cisco Unified Communications Manager 自己署名証明書を付加ルート サーバにエクスポートする必要があります。</p> <p>https を使用する場合、このフィールドには必ず、証明書に含まれているホスト名を入力してください</p> <p>次の式を使用して、URI を入力します。</p> <p>https://<セカンダリ ルート サーバのホスト名または IPv4 アドレス>:<セカンダリ ルート サーバ上に設定されているポート>/ルート サーバ設定からのパス</p> <p>たとえば、https://secondaryrouteserver:8443/pdp/AuthenticationEndPoint のように入力します。</p> <p>https を使用する場合、このフィールドには必ず、証明書に含まれているホスト名を入力してください (証明書内の Common Name (CN; 通常名) など)。</p>
[ロードバランシングの有効化 (Enable Load Balancing)]	<p>プライマリ付加ルート サーバと冗長付加ルート サーバとの間で負荷バランシングを行う場合は、このチェックボックスをオンにします。オンにした場合、負荷バランシングがラウンド ロビン方式で行われます。</p>

表 22-4 外部コール制御プロファイルの設定項目 (続き)

フィールド	説明
[ルーティング要求タイマー (Routing Request Timer)]	<p>このパラメータは、Cisco Unified Communications Manager が付加ルートサーバからのコールルーティングディレクティブを待機する最大時間 (ミリ秒) を指定します。この時間が経過すると、外部コール制御プロファイル内の [障害時のコール処理 (Call Treatment on Failures)] 設定の値に従って、コールが許可またはブロックされます。</p> <p>デフォルト値は 2000、最小値は 1000、最大値は 5000 です。</p> <p>このフィールドを空白にしておくと、Cisco Unified Communications Manager では、Cisco CallManager サービスをサポートする External Call Control Routing Request Timer サービスパラメータの設定が使用されます。</p>
[ディバージョン再ルーティング用コーリングサーチスペース (Diversion Rerouting Calling Search Space)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、付加ルートサーバが Cisco Unified Communications Manager に Divert オブリゲーションを送信したときに Cisco Unified Communications Manager が使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p>
[障害時のコール処理 (Call Treatment on Failure)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、次の状況のときに Cisco Unified Communications Manager がコールを許可するかブロックするかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 付加ルートサーバが Cisco Unified Communications Manager にコールルーティングディレクティブを送信しない場合 Cisco Unified Communications Manager が付加ルートサーバに接続できない場合 Cisco Unified Communications Manager がルーティングディレクティブ (またはルーティングディレクティブの補足要素) を解析できない場合 Cisco Unified Communications Manager が付加ルートサーバから 4xx または 5xx メッセージを受信した場合 <p>[コールの許可 (Allow Calls)] を選択すると、付加ルートサーバが Continue オブリゲーションを含む Permit 決定を発行した場合と同様に、コールが現在の接続先にルーティングされます。</p> <p>[コールのブロック (Block Calls)] を選択すると、Cisco Unified Communications Manager では、付加ルートサーバが Reject オブリゲーションを含む Deny 決定を発行した場合と同様に、コールがクリアされます。</p> <p>障害が発生した場合は通知がログに記録されます。</p>

外部コール制御プロファイルの設定レコードの検索

Cisco Unified Communications Manager は、外部コール制御機能をサポートしています。この機能により、付加ルート サーバでは、8.0(2) の Cisco Unified Routing Rules Interface を使用して Cisco Unified Communications Manager のコール ルーティングを決定できます。外部コール制御を設定すると、Cisco Unified Communications Manager は、発信側と着信側の情報が含まれるルート要求を付加ルート サーバに発行します。付加ルート サーバは要求を受信し、適切なビジネス ロジックを適用して、コールのルーティング方法および適用が必要なその他のコール処理を Cisco Unified Communications Manager に対して指示するルート応答を返します。

付加ルート サーバは、コールの許可、コールの即時転送、コールの拒否、発信側と着信側の情報の変更、発信者に対するアナウンスの再生を行うように Cisco Unified Communications Manager に指示できます。また、付加ボイスメール サーバと IVR サーバが発信側と着信側の情報を適切に解釈できるように通話履歴をリセットしたり、コールの即時転送または拒否理由を表す理由コードを記録したりするように指示できます。



ヒント

コールの処理方法は付加ルート サーバのルーティング ルールおよびビジネス ロジックによって決まることに注意してください。Cisco Unified Communications Manager の管理ページの設定内容がルーティング ルールと競合する場合は、ルーティング ルールがコールに対して使用されます。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで外部コール制御プロファイルを検索するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページから、[コールルーティング (Call Routing)] > [外部コール制御プロファイル (External Call Control Profile)] の順に選択します。
- ステップ 2** 検索と一覧表示のウィンドウが表示されます。ウィンドウには、アクティブな（前の）クエリーのレコードも表示される場合があります。
- ステップ 3** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空になっていることを確認し、[ステップ 4](#) に進みます。

特定のレコードをフィルタリングまたは検索するには、次の操作を実行します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスで、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索文字を入力します。



(注) 別の検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加した場合は、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして、最後に追加された条件を削除するか、または [フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加されたすべての検索条件を削除します。

ステップ 4 [検索 (Find)] をクリックします。

条件に一致するレコードがすべて表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスで別の値を選択すると、各ページに表示される項目数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、データベースから複数のレコードを削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定されているすべてのレコードを削除できます。

ステップ 5 表示されたレコード リストから、目的のレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順を逆にするには、リストのヘッダーにある上矢印または下矢印をクリックします (使用可能な場合)。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.22-25) を参照してください。

外部コール制御プロファイルの設定

外部コール制御は、ルールベースのルーティング機能であり、Cisco Unified Communications Manager がコールのルーティング前にコール ルーティング クエリーを付加ルート サーバに送信することを必要とします。コールの処理方法は、付加ルート サーバで設定されているルーティング ルールによって決まります。付加ルート サーバは、Cisco Unified Routing Rules XML Interface を使用して Cisco Unified Communications Manager と通信します。付加ルート サーバは Cisco Unified Communications Manager からクエリーを受信した後、コールの処理方法を Cisco Unified Communications Manager に指示します。



ヒント

コールの処理方法は付加ルート サーバのルーティング ルールおよびビジネス ロジックによって決まることに注意してください。Cisco Unified Communications Manager の管理ページの設定内容がルーティング ルールと競合する場合は、ルーティング ルールがコールに対して使用されます。

外部コール制御プロファイルには、付加ルート サーバの URI、コールの即時転送に使用されるコーリング サーチ スペース、Cisco Unified Communications Manager が付加ルート サーバからの応答を待機する時間を示すタイマーなどが指定されています。

始める前に

外部コール制御プロファイルを設定する前に、付加ルート サーバが Cisco Unified Communications Manager に Divert オブリゲーションを送信したときに Cisco Unified Communications Manager が使用するコーリング サーチ スペースを設定します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページから、[コールルーティング (Call Routing)] > [外部コール制御プロファイル (External Call Control Profile)] の順に選択します。
- ステップ 2** 検索と一覧表示のウィンドウで、次のいずれかの作業を実行します。
- 外部コール制御プロファイルに関連する既存のレコードをコピーするには、「外部コール制御プロファイルの設定レコードの検索」(P.22-20) の説明に従ってレコードを検索し、コピーするレコードの横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックして、**ステップ 3** に進みます。
 - 新しい外部コール制御プロファイルを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
 - 既存の外部コール制御プロファイルを更新するには、「外部コール制御プロファイルの設定レコードの検索」(P.22-20) の説明に従って適切なレコードを検索し、**ステップ 3** に進みます。
- ステップ 3** 表 22-4 の説明に従って、適切なフィールドを設定します。
- ステップ 4** 設定情報をデータベースに保存するには、[保存 (Save)] をクリックします。

次の作業

外部コール制御プロファイルをトランスレーションパターンに割り当てます。

追加情報

「関連項目」(P.22-25) を参照してください。

外部コール制御プロファイルのトランスレーションパターンへの割り当て

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで外部コール制御プロファイルをトランスレーションパターンに割り当てるには、[コールルーティング (Call Routing)] > [トランスレーションパターン (Translation Pattern)] の順に選択します。[トランスレーションパターンの設定 (Translation Pattern Configuration)] ウィンドウの [外部コール制御プロファイル (External Call Control Profile)] ドロップダウンリストボックスから、パターンに割り当てる外部コール制御プロファイルを選択します。

外部コール制御プロファイルの設定レコードの削除

この項では、Cisco Unified Communications Manager の管理 ページで設定済みの外部コール制御プロファイルを削除する方法について説明します。



(注)

該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、検索と一覧表示のウィンドウから複数のレコードを削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのレコードを削除できます。

始める前に

外部コール制御プロファイルを削除する前に、そのプロファイルを参照しているトランスレーションパターンから割り当てを解除する必要があります。トランスレーションパターンに割り当てられているプロファイルを削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager の管理にエラーメッセージが表示されます。

手順

-
- ステップ 1** 検索と一覧表示のウィンドウからレコードを削除する場合は、次の作業を実行します。
- 「外部コール制御プロファイルの設定レコードの検索」(P.22-20) の手順を使用して、削除するレコードを検索します。
 - 削除するレコードをクリックします。
 - [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
削除の確認を求めるメッセージが表示されます。
 - [OK] をクリックします。
ウィンドウが更新され、レコードがデータベースから削除されます。
- ステップ 2** 設定ウィンドウからレコードを削除する場合は、次の作業を実行します。
- 「外部コール制御プロファイルの設定レコードの検索」(P.22-20) の手順を使用して、削除するレコードを検索します。
 - 設定ウィンドウにアクセスし、設定ウィンドウで [削除 (Delete)] をクリックします。
削除の確認を求めるメッセージが表示されます。
 - [OK] をクリックします。
ウィンドウが更新され、レコードがデータベースから削除されます。
-

追加情報

「関連項目」(P.22-25) を参照してください。

付加ルート サーバ証明書のインポート

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで外部コール制御プロファイルのプライマリ Web サービスまたはセカンダリ Web サービスに https を指定した場合、Cisco Unified Communications Manager では、証明書を使用して付加ルートサーバへの TLS 接続を介する相互認証が行われます。

付加ルートサーバの自己署名証明書を Cisco Unified Communications Manager 信頼ストアにインポートするには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications オペレーティングシステムで、[セキュリティ (Security)] > [証明書の管理 (Certificate Management)] の順に選択します。
- ステップ 2** [証明書の一覧 (Certificate List)] ウィンドウで、[証明書のアップロード (Upload Certificate)] をクリックします。

- ステップ 3** [証明書のアップロード (Upload Certificate)] ポップアップ ウィンドウが表示されたら、[証明書の名前 (Certificate Name)] ドロップダウンリストボックスから [CallManager の信頼性 (CallManager-trust)] を選択し、付加ルート サーバの証明書を参照します。[ファイルのアップロード (Upload File)] フィールドに証明書が表示されたら、[ファイルのアップロード (Upload File)] ボタンをクリックします。
- ステップ 4** Cisco Unified Communications Manager が冗長付加ルート サーバに接続できる場合は、この手順を再度実行します。
-

エクスポート用の Cisco Unified Communications Manager 自己署名証明書の生成

プライマリ ルート サーバと冗長ルート サーバが常に https を介して Cisco Unified Communications Manager に対して認証されるように、Cisco Unified Communications Manager にディレクティブを送信する各付加ルート サーバにインポートできる自己署名証明書を生成する必要があります。

Cisco Unified Communications Manager の管理で外部コール制御プロファイル内に指定したように、付加ルート サーバで http が使用される場合は、この手順を実行する必要はありません。

付加ルート サーバにエクスポートできる Cisco Unified Communications Manager 自己署名証明書を生成するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications オペレーティング システムで、[セキュリティ (Security)] > [証明書の管理 (Certificate Management)] の順に選択します。
- ステップ 2** [証明書の一覧 (Certificate List)] ウィンドウで、[新規作成 (Generate New)] をクリックします。
- ステップ 3** [証明書の名前 (Certificate Name)] ドロップダウンリストボックスから、[CallManager(CallManager)] を選択し、[新規作成 (Generate New)] をクリックします。
- ステップ 4** [証明書の検索と一覧表示 (Find and List Certificates)] ウィンドウから、作成した CallManager.pem 証明書をクリックします。
- ステップ 5** 証明書ファイル データが表示されたら、[ダウンロード (Download)] をクリックして、付加ルート サーバへの証明書のエクスポートに使用できる場所に証明書をダウンロードします。
- ステップ 6** ディレクティブを送信する各付加ルート サーバに証明書をエクスポートします。
- ステップ 7** プライマリ付加ルート サーバおよび冗長付加ルート サーバに接続できる Cisco Unified Communications Manager クラスタ内のノードごとに、この作業を実行します。
-

エンドユーザへの情報の提供

監察者には制約と制限があるため、ユーザを監察者として指定した場合、そのことをユーザに通知してください。

外部コール制御のトラブルシューティング

外部コール制御のトラブルシューティングの詳細については、『*Troubleshooting Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

関連項目

- 「外部コール制御の設定チェックリスト」 (P.22-2)
- 「Cisco Unified Communications Manager の外部コール制御の概要」 (P.22-5)
- 「外部コール制御のシステム要件」 (P.22-11)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.22-11)
- 「外部コール制御のインストールおよびアクティブ化」 (P.22-14)
 - 「外部コール制御の設定」 (P.22-14)
 - 「外部コール制御のサービス パラメータ」 (P.22-15)
 - 「外部コール制御プロファイルの設定項目」 (P.22-17)
 - 「外部コール制御プロファイルの設定レコードの検索」 (P.22-20)
 - 「外部コール制御プロファイルの設定」 (P.22-21)
 - 「外部コール制御プロファイルのトランスレーション パターンへの割り当て」 (P.22-22)
 - 「外部コール制御プロファイルの設定レコードの削除」 (P.22-22)
 - 「付加ルート サーバ証明書のインポート」 (P.22-23)
 - 「エクスポート用の Cisco Unified Communications Manager 自己署名証明書の生成」 (P.22-24)
- 「エンドユーザへの情報の提供」 (P.22-25)
- 「外部コール制御のトラブルシューティング」 (P.22-25)
- 『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「アナウンスの設定」

■ 関連項目



CHAPTER 23

External Call Transfer Restrictions 機能

External Call Transfer Restrictions 機能を使用すると、ゲートウェイ、トランク、およびルートパターンを、オンネット（内部）デバイスまたはオフネット（外部）デバイスとしてシステムレベルで設定できます。デバイスをオフネットとして設定することで、管理者は外部コールの転送を外部デバイスに制限し、通話料金に関する不正行為を防止できます。

この章では、External Call Transfer Restrictions に関する次の情報について説明します。

- [「External Call Transfer Restrictions の設定チェックリスト」 \(P.23-2\)](#)
- [「External Call Transfer Restrictions の概要」 \(P.23-3\)](#)
- [「External Call Transfer Restrictions のシステム要件」 \(P.23-5\)](#)
- [「インタラクションおよび制限事項」 \(P.23-5\)](#)
- [「External Call Transfer Restrictions のインストールとアクティブ化」 \(P.23-6\)](#)
- [「External Call Transfer Restrictions の設定」 \(P.23-7\)](#)
- [「関連項目」 \(P.23-10\)](#)

External Call Transfer Restrictions の設定チェックリスト

External Call Transfer Restrictions 機能を使用すると、ゲートウェイ、トランク、およびルートパターンを、オンネット（内部）デバイスまたはオフネット（外部）デバイスとしてシステムレベルで設定できます。デバイスをオフネットとして設定することで、管理者は外部コールの転送を外部デバイスに制限し、通話料金に関する不正行為を防止できます。

表 23-1 に、External Call Transfer Restrictions を設定するためのチェックリストを示します。External Call Transfer Restrictions の詳細については、「[External Call Transfer Restrictions の概要](#)」(P.23-3) および「[関連項目](#)」(P.23-10) を参照してください。

表 23-1 External Call Transfer Restrictions の設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
<p>ステップ 1 外部コールが外部デバイスに転送されることをブロックするには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. クラスタ全体のサービス パラメータ Block OffNet to OffNet Transfer を [True] に設定します。 2. 着信コールについて、個々のゲートウェイまたはトランクを [オフネット (OffNet)] に設定します。 3. 発信コールについて、ルートパターンの [コールの分類 (Call Classification)] フィールドを [オフネット (OffNet)] に設定します。[デバイスの上書きを許可 (Allow Device Override)] チェックボックスは、要件に従ってオンまたはオフにします（たとえば、チェックボックスがオンの場合、関連付けられているゲートウェイまたはトランクの設定が優先されます。オフの場合は、ルートパターンのコール分類値によってコールが分類されます）。 	<p>「Block OffNet to OffNet Transfer サービスパラメータの設定」(P.23-8)</p> <p>「ゲートウェイ設定の使用による転送機能の設定」(P.23-8)</p> <p>「トランク設定の使用による転送機能の設定」(P.23-8)</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルートパターンの設定値」</p>
<p>ステップ 2 すべてのゲートウェイまたはトランクをオフネット（外部）またはオンネット（内部）に設定するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Cisco Unified Communications Manager のクラスタ全体のサービスパラメータ Call Classification を、[OffNet]（すべてのゲートウェイとトランクが外部の場合）または [OnNet]（すべてのゲートウェイとトランクが内部の場合）に設定します。 2. [コールの分類 (Call Classification)] フィールドで、個々のゲートウェイまたはトランクを [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] に設定します。 	<p>「Call Classification サービスパラメータを使用した転送機能の設定」(P.23-7)</p> <p>「ゲートウェイ設定の使用による転送機能の設定」(P.23-8)</p> <p>「トランク設定の使用による転送機能の設定」(P.23-8)</p>
<p>ステップ 3 [ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウで、[コールの分類 (Call Classification)] フィールドを [オフネット (OffNet)] に設定します。[デバイスの上書きを許可 (Allow Device Override)] チェックボックスは、要件およびゲートウェイまたはトランクの設定に従ってオンまたはオフにします。</p>	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルートパターンの設定値」</p>

External Call Transfer Restrictions の概要

External Call Transfer Restrictions は、外部のユーザ間のコール転送をブロックします。サービスパラメータを設定し、ゲートウェイ、トランク、およびルートパターンをオフネット（外部）デバイスとして設定することで、外部コールの転送をブロックします。この機能を使用すると、オンネットまたはオフネットのアラート トーンがコールの着信側デバイスで聞こえます（オンネットまたはオフネットのどちらであるかは、デバイスの設定によって決まります）。この章では、次の用語を使用します。

- オンネット デバイス：オンネットとして設定されるデバイス。ネットワークの内部にあると見なされます。
- オフネット デバイス：オフネットとして設定されるデバイス。ルーティングされる場合は、ネットワークの外部にあると見なされます。
- ネットワーク ロケーション：デバイスがある場所。ネットワークに対してオンネットまたはオフネットであると見なされます。
- 発信側デバイス：転送されるデバイス。システムはこのデバイスをオンネットまたはオフネットと見なします。
- 着信側デバイス：転送されたコールを受信するデバイス。システムはこのデバイスをオンネットまたはオフネットと見なします。
- 着信コール：オンネットまたはオフネットとして分類する際に、ゲートウェイとトランクのコール分類設定だけが使用されるコール。ルートパターンのコール分類設定は、適用されません。
- 発信コール：トランク、ゲートウェイ、およびルートパターンのコール分類設定が適用されるコール。ルートパターンの [デバイスの上書きを許可 (Allow Device Override)] 設定により、ルートパターンのコール分類設定の代わりに、トランクまたはゲートウェイのコール分類設定のいずれかが使用されます。

ゲートウェイとトランク

ゲートウェイおよびトランクをオンネット（内部）またはオフネット（外部）として設定するには、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] を使用するか、あるいはクラスタ全体のサービスパラメータを設定します。この機能をクラスタ全体のサービスパラメータ **Block OffNet to OffNet Transfer** とともに使用した場合、コールがゲートウェイ経由で転送されるか、トランク経由で転送されるかは設定によって決定されます。

次のデバイスは、Cisco Unified Communications Manager の内部または外部として設定できます。

- H.323 ゲートウェイ
- MGCP FXO トランク
- MGCP T1/E1 トランク
- クラスタ間トランク
- SIP トランク

ルートパターン

コールをオンネットまたはオフネットとして分類するには、[ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウの [コールの分類 (Call Classification)] フィールドを、それぞれ [オンネット (OnNet)] または [オフネット (OffNet)] に設定します。[ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウの [デバイスの上書きを許可 (Allow Device Override)] チェックボックスをオンにすると、ルートパターン設定を上書きして、トランクまたはゲートウェイ設定を使用できます。

詳細については、「[External Call Transfer Restrictions の設定](#)」(P.23-7) を参照してください。

例

次の例では、発信者が転送を利用して長距離電話の支払いを避ける方法について説明します。
 図 23-1 に示すように、ニューヨークの ABC カンパニーのユーザ A がニュージーランドの友人ユーザ B に電話をかけます。コールが接続されたら、ユーザ A はコールを英国に住んでいる別の友人であるユーザ C に転送します。転送が完了すると、ユーザ B とユーザ C が接続され、ユーザ A は切断されます。この結果、ABC カンパニーは、ニュージーランドと英国間のコールの請求書を受け取ります。

図 23-1 外部のユーザへの外部コールの転送

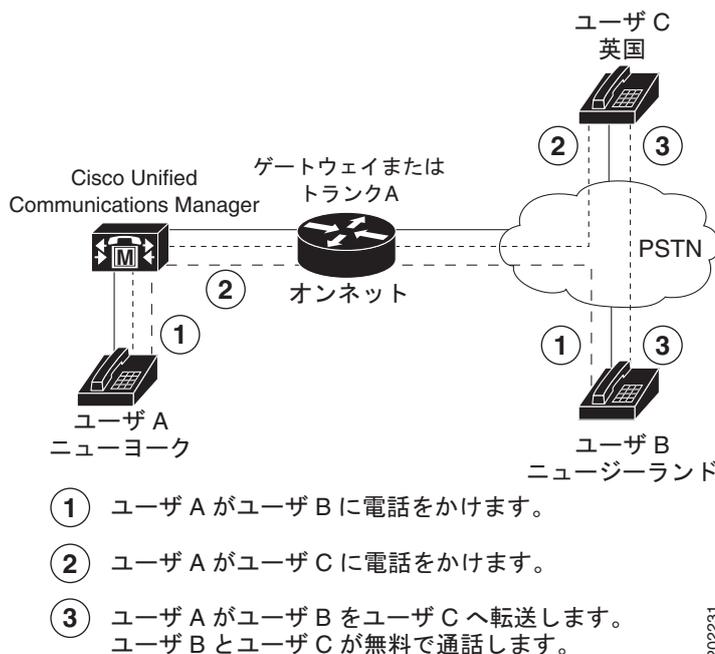
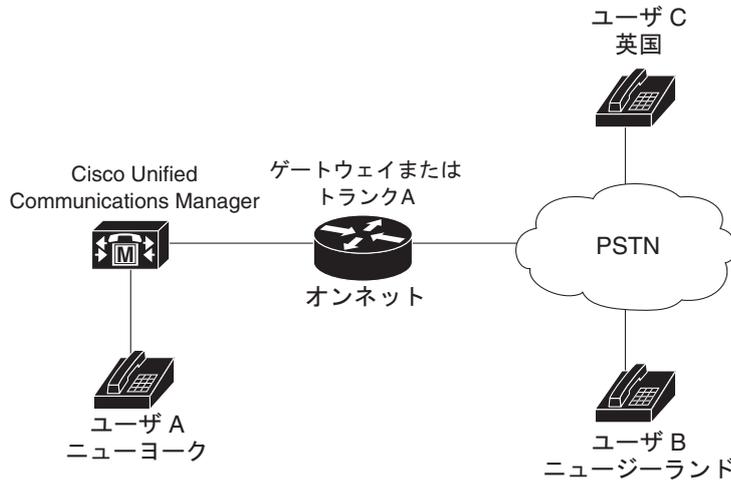


図 23-2 では、ゲートウェイやトランクがどのように設定されているかにかかわらず、ルートパターンが [オフネット (OffNet)] として設定され、サービス パラメータ Block OffNet to OffNet Transfer が [True] に設定されているため、外部のコールは外部のユーザに転送できません。

図 23-2 外部のユーザへの外部コールの転送をブロック



設定

ゲートウェイ A のルート パターン = オフネット

Block OffNet to OffNet = True

ゲートウェイ A = オンネット (Cisco Unified Communications Manager の管理ページ内)

コール フロー :

- ① ユーザ A がユーザ B に電話をかけます。
- ② ユーザ A がユーザ C に電話をかけます。
- ③ ユーザ A のコールはオフネット ルート パターンを経由しているため、ユーザ A はユーザ B をユーザ C へ転送できません。

202233

External Call Transfer Restrictions のシステム要件

External Call Transfer Restrictions を使用するには、次のソフトウェア コンポーネントが動作している必要があります。

- Cisco Unified Communications Manager 5.0 以降

インタラクションおよび制限事項

次の項では、External Call Transfer Restrictions のインタラクションおよび制限事項について説明します。

- 「インタラクション」 (P.23-6)
- 「制限事項」 (P.23-6)

インタラクション

この項では、External Call Transfer Restrictions 機能と Cisco Unified Communications Manager アプリケーションおよびコール処理とのインタラクションを説明します。

Drop Conference

Drop Conference 機能は、会議に参加しているユーザがオフネットまたはオンネットのどちらかに設定されているかをチェックすることで、既存のアドホック会議を終了する必要があるかどうかを判別します。この機能は、サービス パラメータ Drop Ad Hoc Conference を使用し、[When No OnNet Parties Remain in the Conference] オプションを選択することによって設定します。ユーザが使用しているデバイスまたはルート パターンをチェックすることで、各ユーザのオンネット ステータスを判別します。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[アドホック会議のリンク](#)」を参照してください。

一括管理

一括管理は、ゲートウェイ テンプレートにゲートウェイ設定（オフネットまたはオンネット）を挿入します。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド』を参照してください。

Dialed Number Analyzer (DNA)

DNA をゲートウェイの番号分析を実行するために使用すると、ゲートウェイとルート パターンに設定するための Call Classification が表示されます。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Dialed Number Analyzer Guide』を参照してください。

制限事項

External Call Transfer Restrictions には、次の制限事項があります。

- Cisco Catalyst 6000 24 Port などの FXS ゲートウェイでは、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウに [コールの分類 (Call Classification)] フィールドがないため、常にオンネットであると見なされます。
- システムは、[コールの分類 (Call Classification)] フィールドがない Cisco VG-248 Gateway をサポートしていません。
- Cisco Unified Communications Manager は、オフネット（外部）として設定できないすべての Cisco Unified IP Phone および FXS ポートをオンネット（内部）と見なします。

External Call Transfer Restrictions のインストールとアクティブ化

External Call Transfer Restrictions をアクティブにするには、次の手順を実行します。

1. Block OffNet to OffNet Transfer サービス パラメータを [True] に設定します。
2. [ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウで、[コールの分類 (Call Classification)] フィールドを [オフネット (OffNet)] に設定します。[デバイスの上書きを許可 (Allow Device Override)] チェックボックスはオフのままにしておくため、デバイスはルート パターンの [コールの分類 (Call Classification)] 設定を使用します。
3. オフネットとして識別するトランクとゲートウェイを設定します。

詳細については、「[External Call Transfer Restrictions のサービス パラメータの設定](#)」(P.23-7) を参照してください。

External Call Transfer Restrictions の設定

この項の内容は次のとおりです。

- 「[External Call Transfer Restrictions のサービス パラメータの設定](#)」(P.23-7)
- 「[ゲートウェイ設定の使用による転送機能の設定](#)」(P.23-8)
- 「[トランク設定の使用による転送機能の設定](#)」(P.23-8)
- 「[ルート パターン設定の使用による転送機能の設定](#)」(P.23-9)



ヒント

External Call Transfer Restrictions を設定する前に、「[External Call Transfer Restrictions の設定 チェックリスト](#)」(P.23-2) を参照してください。

External Call Transfer Restrictions のサービス パラメータの設定

External Call Transfer Restrictions 機能には、Call Classification および Block OffNet to OffNet Transfer という 2 つのサービス パラメータを設定できます。次の項では、設定情報について説明します。

- 「[Call Classification サービス パラメータを使用した転送機能の設定](#)」(P.23-7)
- 「[Block OffNet to OffNet Transfer サービス パラメータの設定](#)」(P.23-8)

Call Classification サービス パラメータを使用した転送機能の設定

Cisco Unified Communications Manager クラスタ内のすべてのゲートウェイまたはトランクをオフネット（外部）またはオンネット（内部）に設定するには、次の 2 つの手順を実行します。

1. Cisco Unified Communications Manager のクラスタ全体のサービス パラメータ Call Classification を使用して、[OffNet] または [OnNet] のいずれかを選択します（デフォルトは [OffNet]）。
2. [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウおよび [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [コールの分類 (Call Classification)] フィールドで、それぞれのゲートウェイとトランクに [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] を設定します（これは Call Classification サービス パラメータの設定を読み出し、ゲートウェイとトランクにその設定を使用します）。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.23-10) を参照してください。

Block OffNet to OffNet Transfer サービス パラメータの設定

Cisco Unified Communications Manager のクラスタ全体のサービス パラメータ Block OffNet to OffNet Transfer を使用すると、ユーザが外部コールを他の外部番号へ転送することを防止できます。このパラメータには [True] または [False] を指定します。パラメータを [True] に設定すると、外部コールを他の外部デバイスに転送できなくなります。デフォルト値は [False] に設定されています。Block OffNet to OffNet Transfer サービス パラメータの変更には、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウを使用します。

サービス パラメータ Block OffNet to OffNet Transfer が [True] に設定されている場合に、ユーザがオフネットのゲートウェイまたはトランクのコールを転送しようとする、ユーザの電話機には、コールを転送できないことを示すメッセージが表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.23-10) を参照してください。

ゲートウェイ設定の使用による転送機能の設定

[オフネット (OffNet)]、[オンネット (OnNet)]、または [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] としてゲートウェイを設定するには、次の手順を実行します。システムは、このように設定されたゲートウェイを通じてネットワークに着信するコールを、それぞれオフネットまたはオンネットと見なします。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] を選択します。
[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateway)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** 設定済みのゲートウェイを一覧表示するには、[検索 (Find)] をクリックします。
Cisco Unified Communications Manager で設定されたゲートウェイが表示されます。
 - ステップ 3** [オフネット (OffNet)] または [オンネット (OnNet)] として設定するゲートウェイを選択します。
 - ステップ 4** [コールの分類 (Call Classification)] フィールドで、設定を選択します。これらの設定の説明については、[表 23-2](#) を参照してください。
 - ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
-

トランク設定の使用による転送機能の設定

[オフネット (OffNet)]、[オンネット (OnNet)]、または [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] としてトランクを設定するには、次の手順を実行します。システムは、このように設定されたトランクを通じてネットワークに着信するコールを、それぞれオフネットまたはオンネットと見なします。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)] を選択します。
[トランクの検索と一覧表示 (Find and List Trunks)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 2** 設定済みのトランクを一覧表示するには、[検索 (Find)] をクリックします。
Cisco Unified Communications Manager で設定されたトランクが表示されます。
- ステップ 3** [オフネット (OffNet)] または [オンネット (OnNet)] として設定するトランクを選択します。
- ステップ 4** [コールの分類 (Call Classification)] フィールドで、設定を選択します。これらの設定の説明については、表 23-2 を参照してください。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。

表 23-2 [コールの分類 (Call Classification)] の設定項目

設定名	説明
[オフネット (OffNet)]	この設定は、ゲートウェイを外部ゲートウェイとして識別します。[オフネット (OffNet)] に設定されたゲートウェイからコールが着信すると、システムは宛先デバイスに外部の呼び出し音を送信します。
[オンネット (OnNet)]	この設定は、ゲートウェイを内部ゲートウェイとして識別します。[オンネット (OnNet)] に設定されたゲートウェイからコールが着信すると、システムは宛先デバイスに内部の呼び出し音を送信します。
[システムデフォルトの使用 (Use System Default)]	この設定は、Cisco Unified Communications Manager のクラスタ全体のサービス パラメータ Call Classification を使用します。

ルート パターン設定の使用による転送機能の設定

[ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウには、次のフィールドがあります。

- [コールの分類 (Call Classification)] : このルート パターンを使用するコールをオフネットまたはオンネットに分類するには、このドロップダウン リスト ボックスを使用します。
- [外部ダイヤルトーンの提供 (Provide Outside Dial Tone)] : [コールの分類 (Call Classification)] が [オフネット (OffNet)] に設定されると、このチェックボックスがオンになります。
- [デバイスの上書きを許可 (Allow Device Override)] : このチェックボックスがオンの場合、システムは [ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウの [コールの分類 (Call Classification)] 設定の代わりに、ルート パターンに関連付けられたトランクまたはゲートウェイの [コールの分類 (Call Classification)] 設定を使用します。

追加情報

「関連項目」(P.23-10) を参照してください。

関連項目

- 「External Call Transfer Restrictions の設定チェックリスト」 (P.23-2)
- 「External Call Transfer Restrictions の概要」 (P.23-3)
- 「External Call Transfer Restrictions のシステム要件」 (P.23-5)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.23-5)
- 「External Call Transfer Restrictions のインストールとアクティブ化」 (P.23-6)
- 「External Call Transfer Restrictions の設定」 (P.23-7)
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルートパターンの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ゲートウェイの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「トランクの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サービスパラメータの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「会議ブリッジ」

参考資料

- 『Cisco Unified Communications Manager Dialed Number Analyzer Guide』
- 『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド』



CHAPTER 24

位置情報およびロケーション伝達

この章では、次の概念について説明します。

- 位置情報
- 位置情報フィルタ
- ロケーション伝達



ヒント

ロケーションと位置情報を混同しないでください。ロケーション ([システム (System)] > [ロケーション (Location)] メニュー オプションを使用して設定) では、集中型コール処理システムで Call Admission Control (CAC; コールアドミッション制御) を行うために使用されるエンティティを定義できます。位置情報 ([システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションを使用して設定) では、論理パーティションなどの機能用に Cisco Unified Communications Manager デバイスを関連付けるために使用する地理的ロケーションを指定できます。

この章は、次の内容で構成されています。

- 「位置情報の設定チェックリスト」 (P.24-2)
- 「位置情報フィルタの設定チェックリスト」 (P.24-3)
- 「ロケーション伝達の設定チェックリスト」 (P.24-4)
- 「位置情報について」 (P.24-6)
- 「位置情報のインタラクション」 (P.24-10)
- 「位置情報の設定」 (P.24-10)
- 「位置情報フィルタについて」 (P.24-17)
- 「位置情報フィルタの設定」 (P.24-18)
- 「ロケーション伝達について」 (P.24-23)
- 「ロケーション伝達の設定」 (P.24-26)
- 「関連項目」 (P.24-27)

位置情報の設定チェックリスト

地理的ロケーション情報、つまり位置情報は、世界における物理的位置を表し、人、イベント、またはデバイスの過去、現在、または将来の場所に相当します。

Cisco Unified Communications Manager の管理では、すべてのデバイスに対して位置情報を指定できます。

位置情報は、Request for Comments (RFC) 4119 標準に基づいています。位置情報では、country、A1、A2、A3、A4、A5、A6、PRD、POD、STS、HNO、HNS、LMK、LOC、FLR、NAM、および PC の各フィールドを表す Civic ロケーション形式が使用されます。

Cisco Unified Communications Manager の管理では、位置情報は手動で設定します。



ヒント

ロケーションと位置情報を混同しないでください。ロケーション ([システム (System)] > [ロケーション (Location)] メニュー オプションを使用して設定) では、集中型コール処理システムで Call Admission Control (CAC; コールアドミッション制御) を行うために使用されるエンティティを定義できます。位置情報 ([システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションを使用して設定) では、論理パーティションなどの機能用に Cisco Unified Communications Manager デバイスを関連付けるために使用する地理的ロケーションを指定できます。

表 24-1 に、位置情報を設定する際のチェックリストを示します。位置情報の詳細については、「位置情報について」 (P.24-6) および「関連項目」 (P.24-27) を参照してください。

表 24-1 位置情報の設定チェックリスト

設定手順	手順と関連項目
ステップ 1	新しい [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] ウィンドウで一連の位置情報を定義します。
ステップ 2	デバイス プール、デバイス、トランク、ゲートウェイ、または MGCP ポートに位置情報を割り当てます。

『位置情報の設定』 (P.24-10)

『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「デバイスプールの設定値」

『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ゲートウェイの設定値」

『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話機の MAC アドレスの表示」

『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「トランクの設定値」

表 24-1 位置情報の設定チェックリスト (続き)

設定手順	手順と関連項目
ステップ 3 Default Geolocation エンタープライズ パラメータで指定されたデフォルト位置情報に位置情報を割り当てます。	「位置情報の設定」(P.24-10) 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンタープライズ パラメータの設定」 「論理パーティション用のエンタープライズ パラメータ」(P.32-11)
ステップ 4 位置情報を必要とする機能に関与していないデバイスについては、位置情報を未指定として定義するか、未定義のままにします。 (注) このような関連付けがない状態は、個々のデバイスレベル、デバイス プール レベル、またはエンタープライズ パラメータ レベルで定義できます。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「デバイス プールの設定値」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ゲートウェイの設定値」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話機の MAC アドレスの表示」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「トランクの設定値」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンタープライズ パラメータの設定」

追加情報

「関連項目」(P.24-27) を参照してください。

位置情報フィルタの設定チェックリスト

Cisco Unified Communications Manager の管理者は、位置情報フィルタを使用する機能に関与するすべてのデバイスに対して位置情報フィルタを定義します。位置情報フィルタを使用すると、17 の位置情報フィールドから特定のフィールドを選択して、選択したフィールドから識別子を作成できます。位置情報フィルタは手動で設定します。

その後、Cisco Unified Communications Manager の管理者は位置情報フィルタをデバイスに割り当てます。

位置情報フィルタを設定するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [システム (System)] > [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] メニュー オプションを使用します。

ロケーション伝達の設定チェックリスト

表 24-2 に、位置情報フィルタを設定する際のチェックリストを示します。位置情報フィルタの詳細については、「[位置情報フィルタについて](#)」(P.24-17) および「[関連項目](#)」(P.24-27) を参照してください。

表 24-2 位置情報の設定チェックリスト

設定手順	手順と関連項目
ステップ 1	新しい [位置情報フィルタの設定 (Geo Location Filter Configuration)] ウィンドウで一連のフィルタ規則を定義します。
ステップ 2	デバイス プール、トランク、クラスタ間トランク、ゲートウェイ、または MGCP ポートに位置情報フィルタを割り当てます。
ステップ 3	論理パーティション機能については、Logical Partitioning Default Filter エンタープライズ パラメータで指定されたデフォルト フィルタに位置情報フィルタを割り当てます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.24-27) を参照してください。

ロケーション伝達の設定チェックリスト

ロケーション伝達には、次の動作を可能にするための設定が必要です。

- クラスタ間での位置情報の伝達
 - コールの確立時、およびコール中の参加とリダイレクト時に、クラスタ間で位置情報を伝達できるようにする。



(注)

エンタープライズ パラメータと論理パーティションの設定からは、ロケーション伝達は制御されません。トランクを介して通信するデバイスが位置情報と関連している場合に、クラスタ間で位置情報が伝達されるようにトランク (SIP または ICT) を設定するには、[位置情報の送信 (Send Geolocation Information)] チェックボックスをオンにします。

現在のリリースの論理パーティション機能では、Cisco Unified Communications Manager は設定された位置情報を回線デバイス (SIP または SCCP を実行している電話機) に送信しません。

表 24-3 に、複数クラスタ論理パーティション環境でロケーション伝達を設定する際のチェックリストを示します。

表 24-3 ロケーション伝達の設定チェックリスト

設定手順	手順と関連項目
ステップ 1 新しい [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] ウィンドウで一連の位置情報を定義します。	「位置情報の設定」 (P.24-10)
ステップ 2 ロケーション伝達に關与する必要があるデバイスに対して、デバイス プール、デバイス、SIP トランク、クラスタ間トランク、ゲートウェイ、または MGCP ポートに位置情報を割り当てます。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「デバイス プールの設定値」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ゲートウェイの設定値」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話機の MAC アドレスの表示」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「トランクの設定値」
ステップ 3 Default Geolocation エンタープライズ パラメータで指定されたデフォルト位置情報に位置情報を割り当てます。 この割り当てにより、クラスタのデフォルト位置情報を指定できます。 位置情報がデバイス レベルまたはデバイス プール レベルで関連付けられていないデバイスについては、Default Geolocation エンタープライズ パラメータで指定された値が適用されます。	「位置情報の設定」 (P.24-10) 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンタープライズ パラメータの設定」 「論理パーティション用のエンタープライズ パラメータ」 (P.32-11)
ステップ 4 デバイスに關する位置情報をクラスタ間で伝達する必要がある場合は、必ずロケーション伝達を設定します。 そのためには、次のように、クラスタ間で位置情報を伝達する必要があるデバイスの Intercluster Trunk (ICT; クラスタ間トランク) または SIP トランクで [位置情報の送信 (Send Geolocation Information)] チェックボックスをオンにします。 <ul style="list-style-type: none"> ローカル クラスタのクラスタ間トランク (ICT) または SIP トランクで [位置情報の送信 (Send Geolocation Information)] チェックボックスをオンにします。 リモート クラスタの ICT または SIP トランクで [位置情報の送信 (Send Geolocation Information)] チェックボックスをオンにします。 	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「トランクの設定値」

追加情報

「関連項目」 (P.24-27) を参照してください。

位置情報について

地理的ロケーション情報、つまり位置情報は、世界における物理的位置を表し、人、イベント、またはデバイスの過去、現在、または将来の場所に相当します。

Cisco Unified Communications Manager の管理では、すべてのデバイスに対して位置情報を指定できます。

位置情報は、Request for Comments (RFC) 4119 標準に基づいています。位置情報では、country、A1、A2、A3、A4、A5、A6、PRD、POD、STS、HNO、HNS、LMK、LOC、FLR、NAM、および PC の各フィールドを表す Civic ロケーション形式が使用されます。

Cisco Unified Communications Manager の管理では、位置情報は手動で設定します。



ヒント

ロケーションと位置情報を混同しないでください。ロケーション ([システム (System)] > [ロケーション (Location)] メニュー オプションを使用して設定) では、集中型コール処理システムで Call Admission Control (CAC; コールアドミッション制御) を行うために使用されるエンティティを定義できます。位置情報 ([システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションを使用して設定) では、論理パーティションなどの機能用に Cisco Unified Communications Manager デバイスを関連付けるために使用する地理的ロケーションを指定できます。

追加情報

「関連項目」(P.24-27) を参照してください。

位置情報の概要

位置情報の設定では、次の要素のプロビジョニングが必要になります。

- 位置情報識別子の設定
 - 一連の位置情報 (都市住所) を定義できます。
 - これらの位置情報は、VoIP 電話機、VoIP ゲートウェイ、IP トランク、デバイス プール、およびエンタープライズ パラメータに割り当てることができます。
 - 位置情報から一部のフィールドを選択する位置情報フィルタを定義して、VoIP ゲートウェイ、IP トランク、デバイス プール、およびエンタープライズ パラメータに関連付けることができます。

追加情報

「関連項目」(P.24-27) を参照してください。

位置情報の特徴

Cisco Unified Communications Manager の管理者は、次の項目を定義する必要があります。

- 位置情報を必要とする機能に關与するすべてのデバイスに対する **位置情報**。位置情報は、Request for Comments (RFC) 4119 標準に基づいています。位置情報では、country、A1、A2、A3、A4、A5、A6、PRD、POD、STS、HNO、HNS、LMK、LOC、FLR、NAM、および PC の各フィールドを表す Civic ロケーション形式が使用されます。位置情報は手動で設定します。

その後、Cisco Unified Communications Manager の管理者は位置情報をデバイスに割り当てます。

Cisco Unified Communications Manager クラスタ内の次のエンティティに位置情報と位置情報フィルタの値を割り当てることができます。

- デバイス プール
- CTI ルート ポイント
- 電話機 (オプション)
- CTI ポート



(注) 電話機の場合、電話機に位置情報フィルタを関連付けるためのドロップダウン リストボックスは指定しません。

- SIP トランク
- クラスタ間トランク (ICT)
- H.323 ゲートウェイ
- T1、E1、PRI、FXO タイプの MGCP ポート

Media Termination Point (MTP; メディア ターミネーション ポイント)、Conference Bridge (CFB; 会議ブリッジ)、アナンシエータ、Music on Hold (MOH; 保留音) サーバなどのメディア デバイスに位置情報を関連付ける必要はありません。

Cisco Unified Communications Manager のデバイス層には、コール処理で使用される位置情報の値が内部的に関連付けられます。次に、一連の処理を示します。

1. デバイスがデバイス レベルまたはデバイス プール レベルでの設定用に GeolocationPkid および GeolocationFilterPkid を読み取ります。
2. デバイスは、コールシグナリング時に CC (たとえば、CcRegisterPartyA) および PolicyAndRSVPRegisterReq メッセージでこの Pkid と deviceType の情報を伝達します。
3. この情報を受信したクラスタ間トランク (ICT) または SIP トランクのデバイス層は、その情報を使用してロケーション伝達を行います。
4. Cisco Unified Communications Manager から電話機への位置情報の伝達は行われません。

位置情報のソース

位置情報の値は次のロジックによって決定されます。

1. デバイス ウィンドウから位置情報の値が読み取られます。値がデバイス ページに設定されていない場合、移動中の電話デバイスについては、ローミング設定からデバイス プール (DP) が読み取られます。移動中でない電話デバイスについては、デバイス設定から DP が読み取られます。
2. トランク、ICT、または MGCP ポート デバイスについては、デバイス設定から DP が読み取られます。

3. 選択された DP の DP 設定ウィンドウから位置情報の値が読み取られます。
4. DP に位置情報の値が設定されていない場合、空白値が使用されます。
5. 使用可能な位置情報の値が空白の場合、コール処理では、Default Geolocation エンタープライズ パラメータで指定された設定値が使用されます。

位置情報の標準レコードは未指定です。位置情報をデバイスに関連付ける必要がない場合は、この値を使用します。そのようなシナリオでは、位置情報に基づく機能は実行されません。また、位置情報が指定されていないデバイスは、クラスタ間コールにおけるクラスタ間での位置情報の伝達に関与しません。

なお、Default Geolocation エンタープライズ パラメータは、[エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ウィンドウのドロップダウン リスト ボックスから設定できます。

追加情報

「関連項目」(P.24-27) を参照してください。

共有回線およびルート リストでの位置情報の使用方法

着信側がグループ デバイスの場合、グループ内のデバイスごとに別個の位置情報を適用できます。早期在席シナリオの場合、デバイスが応答を受け取るまで、実際に接続されているデバイスはわかりません。そのため、デバイスが応答するまで、位置情報は集約されます。

- コール制御および機能の層は、デバイスが応答するまで、一時位置情報（「MixedDevice」）を受信します。
- デバイスが応答すると、そのデバイスの実際の位置情報が使用可能になり、コール制御および関連するすべての機能に伝達されます。

位置情報の例

表 24-4 に、位置情報の例を示します。

表 24-4 位置情報の例

位置情報の名前	位置情報データ
IN-KA-BLR-BLD1	(country=IN、 A1=KA、 A3=Bangalore、 A4= A4、 A5=12、 A6=Langford Road、 PRD=12、 LOC=BLD1、 NAM=unified comm、 PC=560001)
IN-KA-BLR-BLD2	(country=IN、 A1=KA、 A3=Bangalore、 A4= A4、 A6=Outer Ring Road、 LOC=BLD2、 NAM=unified comm、 PC=560002)
IN-MH-MUM-BLD1	(country=IN、 A1=MH、 A3=Mumbai、 A4= A4、 LOC=bld1、 NAM=unified comm、 PC=220001)
IN-KA-BLR-ICTtoSJ	(country=IN、 A1=KA、 A3=Bangalore、 NAM=ICTToSJ)

追加情報

「関連項目」(P.24-27) を参照してください。

位置情報識別子

位置情報識別子は、位置情報、位置情報フィルタ、および Cisco Unified Communications Manager デバイスのデバイス タイプで構成されます。

位置情報および位置情報フィルタの詳細については、次の各項を参照してください。

- 「位置情報について」 (P.24-6)
- 「位置情報フィルタについて」 (P.24-17)

位置情報フィルタを使用すると、17 の位置情報フィールドから特定のフィールドを選択できます。位置情報フィルタを手動で設定するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [システム (System)] > [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] メニュー オプションを使用します。特定の Cisco Unified Communications Manager 機能に位置情報フィルタを関連付ける場合、特定の機能用に設定されたデバイスの設定ウィンドウにあるドロップダウン リスト ボックスを使用します。

Cisco Unified Communications Manager デバイスのデバイス タイプには、次のいずれかの値を指定します。

- [ボーダー (Border)] : PSTN トランク、クラスタ間トランク (ICT)、ゲートウェイ、および MGCP ポートにアクセスするように指定するには、この値を使用します。
- [内部 (Interior)] : VoIP 電話機または内部エンドポイントの場合は、この値を使用します。

[ボーダー (Border)] および [内部 (Interior)] デバイス タイプに関連付ける Cisco Unified Communications Manager デバイスの詳細なリストについては、「論理パーティション」の章の表 32-2 を参照してください。

次に、位置情報識別子の例を示します。

```
{geolocPkid=9dc76052-3a37-78c2-639a-1c02e8f5d3a2,  
filterPkid=d5bdda76-6a86-56c5-b5fd-6dff82b37493, geolocVal=, devType=8}
```

意味は次のとおりです。

geolocVal フィールドは、Cisco Unified Communications Manager データベースが位置情報レコードを参照せず、別のソース（たとえば、リモートクラスタからのロケーション伝達 PIDs-LO XML）からの位置情報データが適用される場合に使用されます。

このような場合、Cisco Unified Communications Manager は位置情報フィールド用に名前 / 値ペアを作成します。

例 : "country=US:A1=Texas:A3=Richardson:LOC=Building 6" (値は、geolocVal フィールドを介して伝達されます)



(注) このような場合、geolocPkid はヌルのまま維持され、コール制御または機能は位置情報識別子を使用して geolocVal フィールドにアクセスします。

次に、位置情報識別子の論理表現を示します。

```
"Border:country=US:A1=Texas:A3=Richardson:LOC=Building 6"
```



(注) この位置情報識別子は、位置情報識別子のメンバフィールドから作成されます。

追加情報

「関連項目」 (P.24-27) を参照してください。

位置情報のインタラクション

位置情報には、次のインタラクションがあります。

- ロケーション伝達

ロケーション伝達の詳細については、「[ロケーション伝達について](#)」(P.24-23) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.24-27) を参照してください。

位置情報の設定



ヒント

位置情報を設定する前に、「[位置情報の設定チェックリスト](#)」(P.24-2) および 「[位置情報フィルタの設定チェックリスト](#)」(P.24-3) を参照してください。

位置情報を設定するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションを使用します。



ヒント

ロケーションと位置情報を混同しないでください。ロケーション ([システム (System)] > [ロケーション (Location)] メニュー オプションを使用して設定) では、集中型コール処理システムで Call Admission Control (CAC; コールアドミッション制御) を行うために使用されるエンティティを定義できます。位置情報 ([システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションを使用して設定) では、論理パーティションなどの機能用に Cisco Unified Communications Manager デバイスを関連付けるために使用する地理的ロケーションを指定できます。

位置情報の設定については、次の項を参照してください。

- 「[位置情報の検索](#)」(P.24-11)
- 「[位置情報の設定](#)」(P.24-12)
- 「[位置情報の削除](#)」(P.24-12)
- 「[位置情報の設定項目](#)」(P.24-13)

追加情報

「[関連項目](#)」(P.24-27) を参照してください。

位置情報の検索

ネットワーク上には複数の位置情報が存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、特定の条件に基づいて、位置情報を検索できます。Cisco Unified Communications Manager データベース内の特定の位置情報を検索するには、次の手順を実行します。



(注)

ブラウザセッションでの作業中は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで位置情報の検索プリファレンスが保持されます。他のメニュー項目に移動してこのメニュー項目に戻った場合でも、検索を変更するかブラウザを閉じない限り、位置情報の検索プリファレンスは Cisco Unified Communications Manager の管理ページで保持されています。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] を選択します。
[位置情報の検索と一覧表示 (Find and List Geo Locations)] ウィンドウが表示されます。ウィンドウには、アクティブな（前の）クエリーのレコードが表示される場合もあります。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空になっていることを確認し、**ステップ 3** に進みます。
特定のレコードをフィルタリングまたは検索するには、次の操作を実行します。
- 最初のドロップダウンリストボックスで、検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のドロップダウンリストボックスで、検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて、適切な検索文字を入力します。



(注)

別の検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加した場合は、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして、最後に追加された条件を削除するか、または [フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加されたすべての検索条件を削除します。

- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
条件に一致するレコードがすべて表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウンリストボックスで別の値を選択すると、表示される項目数を変更できます。



(注)

適切なレコードの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、データベースから複数のレコードを削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

- ステップ 4** 表示されたレコードリストから、目的のレコードのリンクをクリックします。



(注)

ソート順を逆にするには、リストのヘッダーにある上矢印または下矢印をクリックします（使用可能な場合）。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.24-27) を参照してください。

位置情報の設定

位置情報を追加または更新するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] を選択します。
[位置情報の検索と一覧表示 (Find and List Geo Locations)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 次のいずれかの手順を実行します。
- 新しい位置情報を追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
[位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] ウィンドウが表示されます。
 - 位置情報を更新するには、「[位置情報の検索](#)」(P.24-11) の説明に従って特定の位置情報を検索します。
- ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 24-5 を参照)。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
位置情報を追加した場合、ウィンドウの下部にあるリストボックスに新しい位置情報が表示されるようになります。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.24-27) を参照してください。

位置情報の削除

既存の位置情報を削除するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] を選択します。
[位置情報の検索と一覧表示 (Find and List Geo Locations)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 特定の位置情報を検索するには、検索条件を入力して、[検索 (Find)] をクリックします。
検索条件に一致した位置情報のリストが表示されます。
- ステップ 3** 次のいずれかの操作を実行します。
- 削除する位置情報の横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
 - [すべてを選択 (Select All)] をクリックしてから [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックして、ウィンドウ内のすべての位置情報を削除します。
 - 削除する位置情報の名前をリストから選択し、[削除 (Delete)] をクリックします。
確認のダイアログボックスが表示されます。

- ステップ 4** [OK] をクリックします。
指定した位置情報が削除されます。

追加情報

「関連項目」(P.24-27) を参照してください。

位置情報の設定項目

地理的ロケーション情報、つまり位置情報は、世界における物理的位置を表し、人、イベント、またはデバイスの過去、現在、または将来の場所に相当します。

Cisco Unified Communications Manager の管理では、すべてのデバイスに対して位置情報を指定できます。

Cisco Unified Communications Manager の管理では、位置情報は手動で設定します。



ヒント

ロケーションと位置情報を混同しないでください。ロケーション ([システム (System)] > [ロケーション (Location)] メニュー オプションを使用して設定) では、集中型コール処理システムで Call Admission Control (CAC; コールアドミッション制御) を行うために使用されるエンティティを定義できます。位置情報 ([システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションを使用して設定) では、論理パーティションなどの機能用に Cisco Unified Communications Manager デバイスを関連付けるために使用する地理的ロケーションを指定できます。

表 24-5 に、位置情報の設定に使用する設定項目を示します。

表 24-5 位置情報の設定項目

フィールド	説明
[位置情報の設定 (Geolocation Configuration)]	
[名前 (Name)]	対象の位置情報の一意の名前を入力します。 名前には、最大 50 文字の ASCII 文字を使用できます。引用符 (")、右山カッコ (>)、左山カッコ (<)、バックスラッシュ (\)、アンパサンド (&)、およびパーセント記号 (%) を除くすべての文字を使用できます。
[説明 (Description)]	対象の位置情報の説明を入力します。 このフィールドには、最大 50 文字の ASCII 文字または Unicode 文字を入力できます。 デフォルト値は空白です。
[2 文字の省略形を使用した国 (Country using the two-letter abbreviation)]	対象の位置情報を設定する国に対応する 2 文字の省略形を入力します。ISO 3166 コードを使用します。 国は 2 文字の ASCII 文字で表す必要があります。 デフォルト値は空白です。 例 : US (米国の場合)、IN (インドの場合)

表 24-5 位置情報の設定項目 (続き)

フィールド	説明
[都道府県 (A1)(State, Region, or Province (A1))]	<p>対象の位置情報の国内地域（都道府県など）を入力します。</p> <p>このフィールドには、最大 50 文字の ASCII 文字または Unicode 文字を入力できます。</p> <p>デフォルト値は空白です。</p> <p>例： Texas、Karnataka、Maharashtra</p>
[郡 (A2)(County or Parish (A2))]	<p>対象の位置情報の郡を入力します。</p> <p>このフィールドには、最大 50 文字の ASCII 文字または Unicode 文字を入力できます。</p> <p>デフォルト値は空白です。</p> <p>例： Tarrant、Harris、Plaquemines</p>
[市 (A3)(City or Township (A3))]	<p>対象の位置情報の市を入力します。</p> <p>このフィールドには、最大 50 文字の ASCII 文字または Unicode 文字を入力できます。</p> <p>デフォルト値は空白です。</p> <p>例： Bangalore、New Delhi、Mumbai、Dallas、Tokyo、Sydney</p>
[区 (A4)(Borough or City District (A4))]	<p>対象の位置情報の区や町を入力します。</p> <p>このフィールドには、最大 50 文字の ASCII 文字または Unicode 文字を入力できます。</p> <p>デフォルト値は空白です。</p> <p>例： Manhattan、Brooklyn、Westminster、Hollywood</p>
[地域 (A5)(Neighborhood (A5))]	<p>対象の位置情報の地域または区画を入力します。</p> <p>このフィールドには、最大 50 文字の ASCII 文字または Unicode 文字を入力できます。</p> <p>デフォルト値は空白です。</p> <p>例： Midtown、Soho、Southbank</p>

表 24-5 位置情報の設定項目 (続き)

フィールド	説明
[町名番地 (A6)(Street (A6))]	<p>対象の位置情報の町名番地を入力します。</p> <p>このフィールドには、最大 50 文字の ASCII 文字または Unicode 文字を入力できます。</p> <p>デフォルト値は空白です。</p> <p>例： Main、Commerce、Champs-Elysees、Broadway</p>
[N や W など、町名番地に付与される方角 (Leading Street Direction, such as N or W、PRD)]	<p>対象の位置情報の、町名番地に付与される方角を入力します。</p> <p>このフィールドには、最大 10 文字の ASCII 文字または Unicode 文字を入力できます。</p> <p>デフォルト値は空白です。</p> <p>例： N、S、E、W (43 N Wabash Avenue のような場合)</p>
[SW など、後に続く町名番地のサフィックス (Trailing Street Suffix, such as SW、POD)]	<p>対象の位置情報の、後に続く町名番地のサフィックスを入力します。</p> <p>このフィールドには、最大 10 文字の ASCII 文字または Unicode 文字を入力できます。</p> <p>デフォルト値は空白です。</p> <p>例： SW、NE、NW、SE (245 E 45th St NW のような場合)</p>
[通りや広場など、住所のサフィックス (Address Suffix, such as Avenue, Platz、STS)]	<p>対象の位置情報の住所のサフィックスを入力します。</p> <p>このフィールドには、最大 50 文字の ASCII 文字または Unicode 文字を入力できます。</p> <p>デフォルト値は空白です。</p> <p>例： Avenue、Boulevard、Platz、rue</p>
[住居番号 (Numeric house number、HNO)]	<p>対象の位置情報の住居番号を入力します。</p> <p>このフィールドには、最大 10 文字の数値を入力できます。</p> <p>デフォルト値は空白です。</p> <p>例： 2666、14、12345</p>

表 24-5 位置情報の設定項目 (続き)

フィールド	説明
[A、1/2 などの住居番号のサフィックス (House Number Suffix, such as A, 1/2、HNS)]	<p>対象の位置情報の住居番号のサフィックスを入力します。</p> <p>このフィールドには、最大 20 文字の ASCII 文字または Unicode 文字を入力できます。</p> <p>デフォルト値は空白です。</p> <p>例： A、1/2、bis</p>
[目印 (Landmark、LMK)]	<p>対象の位置情報の目印を入力します。</p> <p>このフィールドには、最大 50 文字の ASCII 文字または Unicode 文字を入力できます。</p> <p>デフォルト値は空白です。</p> <p>例： Central Library</p>
[部屋番号などの追加ロケーション情報 (Additional Location Information, such as Room Number、LOC)]	<p>対象の位置情報の追加ロケーション情報 (部屋番号など) を入力します。</p> <p>このフィールドには、最大 50 文字の ASCII 文字または Unicode 文字を入力できます。</p> <p>デフォルト値は空白です。</p> <p>例： Room 222、Suite 555</p>
[階数 (FLR)(Floor (FLR))]	<p>対象の位置情報の階数を入力します。</p> <p>このフィールドには、最大 10 文字の ASCII 文字を入力できます。</p> <p>デフォルト値は空白です。</p> <p>例： 23、2nd</p>

表 24-5 位置情報の設定項目 (続き)

フィールド	説明
[会社名または居住者名 (NAM)(Name of Business or Resident (NAM))]	対象の位置情報の会社名、居住者名、またはオフィス賃借人を入力します。 このフィールドには、最大 50 文字の ASCII 文字または Unicode 文字を入力できます。 デフォルト値は空白です。 例 : Cisco Systems、Joe's Barbershop
[郵便番号 (PC)(Zip or Postal Code (PC))]	対象の位置情報の郵便番号を入力します。 このフィールドには、最大 20 文字の ASCII 文字または Unicode 文字を入力できます。 デフォルト値は空白です。 例 : 75042-0401、SW1V 1RP

追加情報

「関連項目」(P.24-27) を参照してください。

位置情報フィルタについて

Cisco Unified Communications Manager の管理者は、次の項目を定義します。

- 位置情報フィルタを使用する機能に關与するすべてのデバイスに対する位置情報フィルタ。フィルタを使用すると、17 の位置情報フィールドから特定のフィールドを選択して、選択したフィールドから識別子を作成できます。位置情報フィルタは手動で設定します。

その後、Cisco Unified Communications Manager の管理者は位置情報フィルタをデバイスに割り当てます。

位置情報フィルタの値は次のロジックによって決定されます。

- 移動中の電話デバイスについては、ローミング設定の DP から位置情報フィルタの値が読み取られます。移動中でない電話デバイスについては、デバイス設定の DP から位置情報フィルタの値が読み取られます。
- トランク、クラスタ間トランク、または MGCP ポート デバイスについては、デバイスウィンドウから位置情報フィルタの値が読み取られます。値が設定されていない場合は、DP から読み取られます。
- DP に位置情報フィルタの値が設定されていない場合、空白値が使用されます。
- 使用可能なフィルタが空白の場合、コール処理では、Default Geolocation Filter エンタープライズパラメータで指定された値が使用されます。

位置情報フィルタの例

表 24-6 に、位置情報フィルタの例を示します。

表 24-6 位置情報フィルタの例

位置情報の名前	位置情報フィルタ データ
India-Filter1	(UseCountry、 UseA1、 UseA3、 UseLOC)
India-GW-Filter2	(UseCountry、 UseA1、 UseA3、 UseLOC、 UseNAM)
India-ICT-Trunk-Filter3	(UseCountry、 UseA1、 UseA3、 UseNAM)

追加情報

「[関連項目](#)」(P.24-27) を参照してください。

位置情報フィルタの設定

**ヒント**

位置情報フィルタを設定する前に、「[位置情報フィルタの設定チェックリスト](#)」(P.24-3) を参照してください。

位置情報フィルタを設定するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [システム (System)] > [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] メニュー オプションを使用します。

位置情報フィルタの設定方法については、次の各項を参照してください。

- 「[位置情報フィルタの検索](#)」(P.24-18)
- 「[位置情報フィルタの設定](#)」(P.24-20)
- 「[位置情報フィルタの削除](#)」(P.24-20)
- 「[位置情報フィルタの設定項目](#)」(P.24-21)

追加情報

「[関連項目](#)」(P.24-27) を参照してください。

位置情報フィルタの検索

ネットワーク上には複数の位置情報フィルタが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、特定の条件に基づいて、位置情報フィルタを検索できます。Cisco Unified Communications Manager データベース内の特定の位置情報フィルタを検索するには、次の手順を実行します。

**(注)**

ブラウザセッションでの作業中は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで位置情報フィルタの検索プリファレンスが保持されます。他のメニュー項目に移動してこのメニュー項目に戻った場合でも、検索を変更するかブラウザを閉じない限り、位置情報フィルタの検索プリファレンスは Cisco Unified Communications Manager の管理ページで保持されています。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] を選択します。
- [位置情報フィルタの検索と一覧表示 (Find and List Geo Location Filters)] ウィンドウが表示されます。ウィンドウには、アクティブな (前の) クエリーのレコードが表示される場合もあります。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空になっていることを確認し、[ステップ 3](#) に進みます。

特定のレコードをフィルタリングまたは検索するには、次の操作を実行します。

- 最初のドロップダウンリストボックスで、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウンリストボックスで、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索文字を入力します。



- (注)** 別の検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加した場合は、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして、最後に追加された条件を削除するか、または [フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加されたすべての検索条件を削除します。

- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。

条件に一致するレコードがすべて表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウンリストボックスで別の値を選択すると、表示される項目数を変更できます。



- (注)** 適切なレコードの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、データベースから複数のレコードを削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

- ステップ 4** 表示されたレコードリストから、目的のレコードのリンクをクリックします。



- (注)** ソート順を逆にするには、リストのヘッダーにある上矢印または下矢印をクリックします (使用可能な場合)。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.24-27) を参照してください。

位置情報フィルタの設定

位置情報フィルタを追加または更新するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] を選択します。
[位置情報フィルタの検索と一覧表示 (Find and List Geo Location Filters)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 次のいずれかの手順を実行します。
 - 新しい位置情報フィルタを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
[位置情報フィルタの設定 (Geo Location Filter Configuration)] ウィンドウが表示されます。
 - 位置情報フィルタを更新するには、「[位置情報フィルタの検索](#)」(P.24-18) の説明に従って特定の位置情報フィルタを検索します。
- ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 24-7 を参照)。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
位置情報フィルタを追加した場合、ウィンドウの下部にあるリスト ボックスに新しい位置情報フィルタが表示されるようになります。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.24-27) を参照してください。

位置情報フィルタの削除

既存の位置情報フィルタを削除するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] を選択します。
[位置情報フィルタの検索と一覧表示 (Find and List Geo Location Filters)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 特定の位置情報フィルタを検索するには、検索条件を入力して、[検索 (Find)] をクリックします。
検索条件に一致した位置情報フィルタのリストが表示されます。
- ステップ 3** 次のいずれかの操作を実行します。
 - 削除する位置情報フィルタの横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
 - [すべてを選択 (Select All)] をクリックしてから [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックして、ウィンドウ内のすべての位置情報フィルタを削除します。
 - 削除する位置情報フィルタの名前をリストから選択し、[削除 (Delete)] をクリックします。
確認のダイアログボックスが表示されます。

- ステップ 4** [OK] をクリックします。
指定した位置情報フィルタが削除されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.24-27) を参照してください。

位置情報フィルタの設定項目

Cisco Unified Communications Manager の管理者は、次の項目を定義します。

- 位置情報フィルタを使用する機能に關与するすべてのデバイスに対する位置情報フィルタ。フィルタを使用すると、17 の位置情報フィールドから特定のフィールドを選択して、選択したフィールドから識別子を作成できます。位置情報フィルタは手動で設定します。

その後、Cisco Unified Communications Manager の管理者は位置情報フィルタをデバイスに割り当てます。

表 24-7 に、位置情報フィルタの設定に使用する設定項目を示します。

表 24-7 位置情報フィルタの設定項目

フィールド	説明
[位置情報フィルタの設定 (Geo Location Filter Configuration)]	
[名前 (Name)]	対象の位置情報フィルタの一意の名前を入力します。デフォルトでは、名前はブランクにできません。 このフィールドには、最大 50 文字の ASCII 文字を入力できます。引用符 (")、右山カッコ (>)、左山カッコ (<)、バックスラッシュ (\)、アンパサンド (&)、およびパーセント記号 (%) を除くすべての文字を使用できます。
[説明 (Description)]	対象の位置情報フィルタの説明を入力します。 このフィールドには、最大 50 文字の ASCII 文字または Unicode 文字を入力できます。 デフォルト値は空白です。
[2 文字の省略形を使用した国 (Country using the two-letter abbreviation)]	指定した位置情報の [国 (Country)] フィールドを使用して対象の位置情報フィルタを作成するには、このボックスをオンにします。
[都道府県 (A1)(State, Region, or Province (A1))]	指定した位置情報の [都道府県 (A1)(State, Region, or Province (A1))] フィールドを使用して対象の位置情報フィルタを作成するには、このボックスをオンにします。
[郡 (A2)(County or Parish (A2))]	指定した位置情報の [郡 (A2)(County or Parish (A2))] フィールドを使用して対象の位置情報フィルタを作成するには、このボックスをオンにします。
[市 (A3)(City or Township (A3))]	指定した位置情報の [市 (A3)(City or Township (A3))] フィールドを使用して対象の位置情報フィルタを作成するには、このボックスをオンにします。
[区 (A4)(Borough or City District (A4))]	指定した位置情報の [区 (A4)(Borough or City District (A4))] フィールドを使用して対象の位置情報フィルタを作成するには、このボックスをオンにします。

表 24-7 位置情報フィルタの設定項目 (続き)

フィールド	説明
[地域 (A5)(Neighborhood (A5))]	指定した位置情報の [地域 (A5)(Neighborhood (A5))] フィールドを使用して対象の位置情報フィルタを作成するには、このボックスをオンにします。
[町名番地 (A6)(Street (A6))]	指定した位置情報の [町名番地 (A6)(Street (A6))] フィールドを使用して対象の位置情報フィルタを作成するには、このボックスをオンにします。
[N や W など、町名番地に付与される方角 (Leading Street Direction, such as N or W、PRD)]	指定した位置情報の [N や W など、町名番地に付与される方角 (Leading Street Direction, such as N or W、PRD)] フィールドを使用して対象の位置情報フィルタを作成するには、このボックスをオンにします。
[SW など、後に続く町名番地のサフィックス (Trailing Street Suffix, such as SW、POD)]	指定した位置情報の [SW など、後に続く町名番地のサフィックス (Trailing Street Suffix, such as SW、POD)] フィールドを使用して対象の位置情報フィルタを作成するには、このボックスをオンにします。
[通りや広場など、住所のサフィックス (Address Suffix, such as Avenue, Platz、STS)]	指定した位置情報の [通りや広場など、住所のサフィックス (Address Suffix, such as Avenue, Platz、STS)] フィールドを使用して対象の位置情報フィルタを作成するには、このボックスをオンにします。
[住居番号 (Numeric house number、HNO)]	指定した位置情報の [住居番号 (Numeric house number、HNO)] フィールドを使用して対象の位置情報フィルタを作成するには、このボックスをオンにします。
[A、1/2 などの住居番号のサフィックス (House Number Suffix, such as A、1/2、HNS)]	指定した位置情報の [A、1/2 などの住居番号のサフィックス (House Number Suffix, such as A、1/2、HNS)] フィールドを使用して対象の位置情報フィルタを作成するには、このボックスをオンにします。
[目印 (Landmark、LMK)]	指定した位置情報の [目印 (Landmark、LMK)] フィールドを使用して対象の位置情報フィルタを作成するには、このボックスをオンにします。
[部屋番号などの追加ロケーション情報 (Additional Location Information, such as Room Number、LOC)]	指定した位置情報の [部屋番号などの追加ロケーション情報 (Additional Location Information, such as Room Number、LOC)] フィールドを使用して対象の位置情報フィルタを作成するには、このボックスをオンにします。
[階数 (FLR)(Floor (FLR))]	指定した位置情報の [階数 (FLR)(Floor (FLR))] フィールドを使用して対象の位置情報フィルタを作成するには、このボックスをオンにします。
[会社名または居住者名 (NAM)(Name of Business or Resident (NAM))]	指定した位置情報の [会社名または居住者名 (NAM)(Name of Business or Resident (NAM))] フィールドを使用して対象の位置情報フィルタを作成するには、このボックスをオンにします。
[郵便番号 (PC)(Zip or Postal Code (PC))]	指定した位置情報の [郵便番号 (PC)(Zip or Postal Code (PC))] フィールドを使用して対象の位置情報フィルタを作成するには、このボックスをオンにします。

追加情報

「関連項目」(P.24-27) を参照してください。

ロケーション伝達について

ロケーション伝達には、次の動作を可能にするための設定が必要です。

- クラスタ間での位置情報の伝達
 - コールの確立時、およびコール中の参加とリダイレクト時に、クラスタ間で位置情報を伝達できるようにする。



(注)

エンタープライズパラメータと論理パーティションの設定からは、ロケーション伝達は制御されません。トランクを介して通信するデバイスが位置情報と関連している場合に、クラスタ間で位置情報が伝達されるようにトランク (SIP または ICT) を設定するには、[位置情報の送信 (Send Geolocation Information)] チェックボックスをオンにします。

現在のリリースの論理パーティション機能では、Cisco Unified Communications Manager は設定された位置情報を回線デバイス (SIP または SCCP を実行している電話機) に送信しません。

ここでは、次のトピックについて説明します。

- 「SIP トランクおよびクラスタ間トランクの間での位置情報の伝達」 (P.24-23)
- 「SIP トランクでの位置情報関連のエラー処理」 (P.24-24)
- 「クラスタ間トランクでの位置情報関連のエラー処理」 (P.24-24)
- 「受信された位置情報の処理」 (P.24-25)
- 「コール中に位置情報が変更された場合の機能インタラクション」 (P.24-25)

追加情報

「関連項目」 (P.24-27) を参照してください。

SIP トランクおよびクラスタ間トランクの間での位置情報の伝達

位置情報の伝達には、次の特徴があります。

- 位置情報は、クラスタ間で送信されます。
- 位置情報は、コールの確立時、およびコール中の参加とリダイレクト時に送信されます。

SIP トランクでは、RFC 4119 で定義されているとおり、Presence Information Data Format Location Object (PIDF-LO) のロケーション伝達がサポートされています。PIDF-LO は、プレゼンスドキュメント内のロケーション情報のカプセル化を規定するものです。

- ロケーション伝達では、ロケーション伝達に関する draft-ietf-sip-location-conveyance-10 で規定されているように、一部の SIP 拡張がサポートされています。
- デバイスタイプの指定を伝達する場合、SIP 拡張に関する draft-ietf-simple-prescaps-ext-08 に規定されているように、User Agent Capability Presence Status を使用します。
- ロケーション伝達では、SIP 拡張に関する draft-ietf-geopriv-pdif-lo-profile-11 に規定されているように、<device> 要素内の PIDF-LO がサポートされています。
- INVITE および UPDATE 要求では PIDF-LO XML が伝送されます。
- 位置情報フィールドでは、ASCII 文字と Unicode 文字がサポートされています。

また、クラスタ間トランクでも、PIDF-LO XML を使用するロケーション伝達がサポートされています。ただし、この場合、一部の XML 要素が除外されます。

- 対象となる要素は、Setup、Alert、Progress、Connect、および Notify 要求です。
- 位置情報フィールドでは、ASCII 文字がサポートされています。

SIP トランクまたはクラスタ間トランクでは、コール制御メッセージで送信される位置情報とデバイス タイプを使用して PIDF-LO XML が作成されます。

追加情報

「関連項目」(P.24-27) を参照してください。

SIP トランクでの位置情報関連のエラー処理

ロケーション伝達用に位置情報を伝送する着信要求は、次のように準拠性がチェックされます。

1. 位置情報ヘッダーには PIDF-LO の包含が指定されているが、メッセージ本文では PIDF-LO が伝送されない。
2. 位置情報ヘッダーに含まれる CID ヘッダーが表す URI と同じ URI を使用する、対応する Content-ID ヘッダーが存在しない。
3. 位置情報ヘッダーに CID ヘッダー以外の URI が含まれている (たとえば、LbyR を表す SIP または SIPS URI)。

非準拠 SIP 要求を受信した SIP トランクは、「424 (不正なロケーション情報)」応答で応答します。

次のような場合、位置情報の処理は無視されます。SIP トランクは、情報提供を目的として、次の発信 SIP 応答 (たとえば、180 または 200) で Geolocation-Error ヘッダーを送信します。

- PIDF-LO に「geopriv」、「location-info」、「civicAddress」、「usage-rules」などの必須要素が欠落している場合。
- usage-rules で示された retention-expiry 時間がすでに経過している場合 (GMT での現在時刻と比較)。このような場合、処理は無視されます。

受信された位置情報は無視されるので、SIP トランクではローカルに設定された位置情報が引き続き使用されます。

追加情報

「関連項目」(P.24-27) を参照してください。

クラスタ間トランクでの位置情報関連のエラー処理

クラスタ間トランクで受信された位置情報の処理中にエラーが発生した場合、そのトランクにローカルに設定された位置情報が使用されます。

追加情報

「関連項目」(P.24-27) を参照してください。

受信された位置情報の処理

PIDF-LO XML を受信したクラスタは、受信した位置情報を解析し、その情報をコロン区切りの名前 / 値ペアとして、CcNotifyInd 信号の GeolocationInfo データ構造を使用して伝達します。

例: "Country=US:A1=NC:A3=RTP:LOC=BLD9"

受信された PIDF-LO の位置情報の内容は、トランクにローカルに設定された位置情報（トランク間のデバイス用に使用されるもの）よりも優先されます。

例: {geolocPkid=, filterPkid=d5bdda76-6a86-56c5-b5fd-6dff82b37493, geolocVal="Country=US:A1=NC:A3=RTP:LOC=BLD9", devType=4}

追加情報

「関連項目」(P.24-27) を参照してください。

コール中に位置情報が変更された場合の機能インタラクション

発信位置情報の変更

Supplementary Service (SS; 補足サービス) 機能のインタラクション（転送、会議、パーク取得など）が発生すると、着信側が変更されます。

このようなシナリオでは、SIP トランクまたはクラスタ間トランク デバイスがコール制御から有効な位置情報を受信し、その情報が送信済みの位置情報と異なる場合、更新された位置情報が UPDATE (SIP トランク) または Notify (クラスタ間トランク) メッセージで伝達されます。

着信位置情報の変更

リモート クラスタで SS 機能のインタラクションが発生した場合、更新された位置情報が UPDATE または Notify メッセージとして SIP トランクまたはクラスタ間トランクを介して受信されます。

このような更新が受信されると、SIP トランクまたはクラスタ間トランクは PIDF-LO を解析し、その PIDF-LO をコール制御および LPSession プロセスに伝達します。

PIDF-LO の例

次に、SIP トランク間で送信される PIDF-LO の例を示します。ロケーション伝達に関連する項目は太字で表記されています。

```
UPDATE sip:4400@10.10.10.2:5060;transport=tcp SIP/2.0
Date: Sat, 12 Jul 2008 13:28:42 GMT
Call-Info: <urn:x-cisco-remotecallinfo>; security= NotAuthenticated
Geolocation: <cid:4900@10.10.10.1>;inserted-by="10.10.10.1"
Content-ID: 4900@10.10.10.1
From: <sip:4900@10.10.10.1>;tag=4d1edcb1-f546-4ee7-966c-2973fbc56475-31638661
P-Asserted-Identity: <sip:4900@10.10.10.1>
Content-Length: 1070
User-Agent: Cisco-CUCM7.1
To: <sip:4400@10.10.10.2>;tag=e1258ce2-8620-4005-9aa1-72d99cd54050-31642615
Contact: <sip:4900@10.10.10.1:5060;transport=tcp>
Content-Type: application/pidf+xml
Call-ID: bbb3f900-8781b563-b-47f54c0a@10.10.10.2
Via: SIP/2.0/TCP 10.10.10.1:5060;branch=z9hG4bK179f431e3
CSeq: 101 UPDATE
Max-Forwards: 70
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<presence xmlns="urn:ietf:params:xml:ns:pidf"
xmlns:gp="urn:ietf:params:xml:ns:pidf:geopriv10"
xmlns:cl="urn:ietf:params:xml:ns:pidf:geopriv10:civicLoc"
```

```

xmlns:dm="urn:ietf:params:xml:ns:pidf:data-model"
xmlns:caps="urn:ietf:params:xml:ns:pidf:caps"
xmlns:cisco="http://www.cisco.com"
entity="pres:geotarget@example.com">
<dm:device id="sg89ae">
<caps:devcaps>
<cisco:gateway>>false</cisco:gateway>
</caps:devcaps>
<gp:geopriv>
<gp:location-info>
<cl:civicAddress>
<cl:country>IN</cl:country>
<cl:A1>KA</cl:A1>
<cl:A2>a2</cl:A2>
<cl:A3>BLR</cl:A3>
<cl:A4>a4</cl:A4>
<cl:A5>a5</cl:A5>
<cl:A6>a6</cl:A6>
<cl:PRD>prd</cl:PRD>
<cl:POD>pod</cl:POD>
<cl:STS>sts</cl:STS>
<cl:HNO>123</cl:HNO>
<cl:HNS>hns</cl:HNS>
<cl:LMK>lmk</cl:LMK>
<cl:LOC>BLDG1</cl:LOC>
<cl:FLR>flr</cl:FLR>
<cl:NAM>nam</cl:NAM>
<cl:PC>pc</cl:PC>
</cl:civicAddress>
</gp:location-info>
<gp:usage-rules>
<gp:retransmission-allowed>yes</gp:retransmission-allowed>
<gp:retention-expiry>2008-09-03T17:58:19Z</gp:retention-expiry>
</gp:usage-rules>
</gp:geopriv>
<timestamp>2008-09-02T17:58:19Z</timestamp>
</dm:device>
</presence>

```

追加情報

「関連項目」(P.24-27) を参照してください。

ロケーション伝達の設定

デバイスに関する位置情報をクラスタ間で伝達する必要がある場合は、必ずロケーション伝達を設定します。ロケーション伝達を設定するには、表 24-3 に示す手順を実行します。

デバイスに位置情報を関連付ける方法については、「位置情報の設定チェックリスト」(P.24-2) を参照してください。

**ヒント**

ロケーション伝達を設定する前に、「ロケーション伝達の設定チェックリスト」(P.24-4) を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.24-27) を参照してください。

関連項目

- 「位置情報の設定チェックリスト」 (P.24-2)
- 「位置情報フィルタの設定チェックリスト」 (P.24-3)
- 「ロケーション伝達の設定チェックリスト」 (P.24-4)
- 「位置情報について」 (P.24-6)
- 「位置情報の概要」 (P.24-6)
- 「位置情報の特徴」 (P.24-7)
- 「共有回線およびルートリストでの位置情報の使用方法」 (P.24-8)
- 「位置情報識別子」 (P.24-9)
- 「位置情報のインタラクション」 (P.24-10)
- 「位置情報の設定」 (P.24-10)
- 「位置情報の設定項目」 (P.24-13)
- 「位置情報フィルタについて」 (P.24-17)
- 「位置情報フィルタの設定」 (P.24-18)
- 「位置情報フィルタの設定項目」 (P.24-21)
- 「ロケーション伝達について」 (P.24-23)
- 「SIP トランクおよびクラスタ間トランクの間での位置情報の伝達」 (P.24-23)
- 「SIP トランクでの位置情報関連のエラー処理」 (P.24-24)
- 「クラスタ間トランクでの位置情報関連のエラー処理」 (P.24-24)
- 「受信された位置情報の処理」 (P.24-25)
- 「コール中に位置情報が変更された場合の機能インタラクション」 (P.24-25)
- 「ロケーション伝達の設定」 (P.24-26)
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「デバイスプールの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンタープライズパラメータの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「CTI ルートポイントの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ゲートウェイの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「トランクの設定」

参考資料

- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』
- 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』
- 『Cisco Unified Communications Manager Call Detail Records Administration Guide』
- 『Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool Administration Guide』
- 『Cisco Unified Reporting Administration Guide』
- 『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド』
- 『Cisco Unified Communications Solution Reference Network Design (SRND) for Cisco Unified Communications Manager』
- 『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』
- 『Cisco Unified Communications Manager Assistant User Guide』



CHAPTER 25

保留復帰

保留復帰機能は、保留中のコールが設定済みの時間制限を超えたときに、電話機ユーザにアラートを通知します。

この章は、次の内容で構成されています。

- 「保留復帰の設定チェックリスト」 (P.25-1)
- 「Cisco 保留復帰の概要」 (P.25-3)
- 「Cisco 保留復帰の動作について」 (P.25-4)
- 「システム要件」 (P.25-9)
- 「保留復帰をサポートするデバイス」 (P.25-9)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.25-10)
- 「Cisco 保留復帰のインストールとアクティブ化」 (P.25-12)
- 「Cisco 保留復帰の設定」 (P.25-12)
- 「コールのフォーカス優先度の設定」 (P.25-15)
- 「保留復帰タイマーの設定」 (P.25-16)
- 「ユーザに対する Cisco 保留復帰の情報の提供」 (P.25-17)
- 「Cisco 保留復帰のトラブルシューティング」 (P.25-17)
- 「関連項目」 (P.25-18)

保留復帰の設定チェックリスト

保留復帰機能は、保留中のコールが設定済みの時間制限を超えたときに、電話機ユーザにアラートを通知します。保留中のコールが時間制限を超えた場合、Cisco Unified Communications Manager は、電話機で呼び出し音やビープ音などのアラートを生成して、コールを処理するようユーザに通知します。保留時間が時間制限を超えると、保留中のコールは復帰コールとなります。

表 25-1 は、保留復帰機能の設定手順を示しています。この手順では、電話機に DN を設定したこと、または自動登録を使用していることを前提としています。

- DN の設定や電話機へのデバイス プールの割り当ての詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」および「電話番号の概要」を参照してください。

保留復帰の設定チェックリスト

- デバイス プールの設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[デバイス プールの設定](#)」を参照してください。
- Cisco Unified Communications Manager の設定の詳細については、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択し、サーバと [Cisco CallManager] サービスを選択してから、ウィンドウの上部にある [?] アイコンをクリックします。
- 関連資料については、「[関連項目](#)」(P.25-18) を参照してください。

表 25-1 保留復帰の設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 保留復帰のメッセージを英語以外の言語で表示する場合、または国に固有のトーンがユーザに聞こえるようにする場合は、ロケール インストーラをインストールしていることを確認してください。	『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』
ステップ 2 (オプション) 新規または既存のデバイス プールの [デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウで、[復帰コールのフォーカス優先度 (Reverted Call Focus Priority)] を設定します。	「 コールのフォーカス優先度の設定 」(P.25-15) 「 Cisco 保留復帰に関する設定のヒント 」(P.25-14) 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 デバイス プールの設定 」
ステップ 3 Cisco CallManager サービスの [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、保留復帰タイマーを設定します。	「 保留復帰タイマーの設定 」(P.25-16) 「 Cisco 保留復帰に関する設定のヒント 」(P.25-14)
ステップ 4 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、Cisco Unified IP Phone に正しいデバイス プールが設定されていることを確認します。設定されていない場合は、正しいデバイス プールを設定します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 Cisco Unified IP Phone の設定 」
ステップ 5 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、Cisco Unified IP Phone に正しいユーザ ロケールが設定されていることを確認します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 エンドユーザのパスワードの変更 」 『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』
ステップ 6 Cisco Unified サービスアビリティで Cisco CallManager サービスをアクティブにしたことを確認します。	『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』

追加情報

「[関連項目](#)」(P.25-18) を参照してください。

Cisco 保留復帰の概要

保留復帰機能は、保留中のコールが設定済みの時間制限を超えたときに、電話機ユーザーにアラートを通知します。保留中のコールが時間制限を超えた場合、Cisco Unified Communications Manager は、電話機で呼び出し音やビープ音などのアラートを生成して、コールを処理するようユーザーに通知します。保留時間が時間制限を超えると、保留中のコールは復帰コールとなります。



(注)

この章では、復帰コールという表記は、保留復帰機能によって呼び出された復帰コールだけを指します。それ以外の復帰コールタイプ（パークの復帰コールなど）は指しません。

管理者は、同じ Cisco Unified Communications Manager クラスタ上の電話機に関連付けられたすべての DN に対して、保留復帰を設定できます。回線に関連付けられた電話デバイスは、この機能をサポートしている必要があります。サポートしていない場合、保留復帰はアクティブになりません。複数の電話デバイスが回線を共有している場合、この機能を使用できるのは、保留復帰をサポートしているデバイスだけです。



(注)

Cisco 保留復帰は、エンドユーザーが保留にしたコールだけに適用されます。システムまたはネットワークが（会議中や転送中などに）保留にしたコールに対して、この機能をアクティブにすることはできません。

電話機で復帰コールに対して生成されるアラートのタイプは、電話デバイスの機能によって異なります。Cisco Unified Communications Manager は、保留復帰機能がアクティブになったときに、電話機の機能とインストール済みのファームウェアリリースに応じて、次のアラートを生成します。

- 電話機で呼び出し音またはビープ音を 1 回鳴らす。
- ユーザーの電話機のステータス行に、復帰コールに対する「保留復帰」という簡潔なメッセージを表示する。
- 他のアラート動作と同様に、受話器の回線ボタンの横にある LED を連続的に点滅させる。
- 復帰コールに対する「震える」受話器アイコンを表示する。

電話機能の詳細については、保留復帰およびこのバージョンの Cisco Unified Communications Manager をサポートしている Cisco Unified IP Phone モデルに適合する Cisco Unified IP Phone のアドミニストレーションガイドを参照してください。

次の各項では、Cisco 保留復帰機能について説明します。

- 「Cisco 保留復帰の動作について」(P.25-4)
- 「システム要件」(P.25-9)
- 「インタラクションおよび制限事項」(P.25-10)
- 「Cisco 保留復帰のインストールとアクティブ化」(P.25-12)
- 「Cisco 保留復帰の設定」(P.25-12)

追加情報

「関連項目」(P.25-18) を参照してください。

Cisco 保留復帰の動作について

保留復帰を有効にするには、クラスタまたは特定の電話回線のタイマーを設定します。

- 保留復帰がクラスタに対して有効になっている場合、サイトのユーザが保留にしたコールが設定済みの時間制限を超えると、保留復帰機能が呼び出されます。ただし、この機能がその回線に対して無効になっている場合や、電話機が保留復帰機能をサポートしていない場合を除きます。
- 保留復帰が回線に対して有効で、クラスタに対して無効である場合、保留復帰機能を呼び出せるのは、その回線で受信されたコールだけです。
- 保留復帰が回線とクラスタの両方に対して有効になっている場合は、回線のタイマー設定が、クラスタのタイマー設定よりも優先されます。

次の項では、動作の詳細について説明します。

- 「保留復帰のアラート動作」(P.25-4)
- 「コールのフォーカス動作」(P.25-5)
- 「復帰コールを取得する方法」(P.25-6)
- 「タイマーの無効化」(P.25-6)
- 「例」(P.25-7)

追加情報

「関連項目」(P.25-18) を参照してください。

保留復帰のアラート動作

表 25-2 は、保留復帰が回線またはクラスタに対して呼び出された場合のさまざまなコールシナリオに対応する保留復帰のアラート動作の要約を示しています。この動作は、電話機ユーザが保留にした着信コールおよび発信コールに適用されます。

保留復帰の呼び出し音には、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでそのユーザ用に定義した呼び出し音の設定が使用されます。ただし、点滅は 1 回の点滅に変換され、呼び出し音は 1 回の呼び出し音に変換されます。呼び出し音を無効に設定すると、電話機では、呼び出し音、点滅、ビープ音のいずれも動作しなくなります。

別のアクティブ コールを受けている場合、ユーザは、復帰コールに対する 1 回のコール待機トーンも受信します。

表 25-2 保留復帰のアラート動作

シナリオ	アラート動作
保留復帰がアクティブになる前に着信コールのアラートを受信した	着信コールに応答するまで、保留にした電話機には保留復帰アラートは送信されません（ただし、保留復帰アイコンは表示されます）。
保留復帰がアクティブになった後で着信コールのアラートを受信した	着信コールに応答するまで、保留にした電話機には追加のアラートは送信されません。
シェアドライン	保留中のコールを開始したデバイスだけがアラートを受信します。シェアドラインの他のインスタンスはアラートを受信しません。

表 25-2 保留復帰のアラート動作 (続き)

シナリオ	アラート動作
着信コールがない状態で、同じ電話デバイスまたは同じ電話回線で複数の復帰コールを受信した	すべての復帰コールのアラートを受信します。回線ごとに異なるアラート間隔を設定できます。
相互に保留にしている	どちら側も保留復帰アラートを受信できます。
保留にした側が片通話になっている (たとえば、別の機能によってコールの分割またはリダイレクションが行われる)	保留にした側が別の側に再度関連付けられるまで、保留復帰アラートは遅延されます。

追加情報

「関連項目」(P.25-18) を参照してください。

コールのフォーカス動作

復帰コールを取得するには、復帰コールにフォーカスが合っている (つまり、復帰コールが電話機上で強調表示されている) 必要があります。

コールのフォーカス優先度では、オフフックなどのユーザアクションに対してどのコールタイプ (着信コールまたは復帰コール) を優先するかが指定されます。Cisco Unified Communications Manager のインストール時点では、着信コールが優先されます。

優先されるコールタイプは設定変更できます。たとえば、着信コールに高い優先度が設定されている場合、保留中のコールが復帰状態になり、電話機がオフフックになると、Cisco Unified Communications Manager は、着信コールが存在する場合を除いて、復帰コールを再開します。

ユーザが同じ回線または同じ電話機で複数のコールを保留にした場合、複数のコールが復帰状態になると、最も古いコールにフォーカスが保持され、Cisco Unified Communications Manager が最も古い復帰コールを最初に再開します。ただし、着信コールが存在する場合 (着信コールが優先されるとき) や、ユーザが別の復帰コールを再開するように選択した場合を除きます。ユーザは、別の復帰コールを取得するように選択するには、コールを強調表示し、[選択] ソフトキーを押します。

リモートで使用中のコールと復帰コールがユーザの電話デバイスに存在する場合、Cisco Unified Communications Manager は、電話機がオフフックになるとすぐに復帰コールを取得します。

この機能に関するコールのフォーカス設定の詳細については、「[コールのフォーカス優先度](#)」(P.25-13) を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.25-18) を参照してください。

復帰コールを取得する方法

復帰コールにフォーカスが合っている場合、ユーザは次の方法で復帰コールを取得できます。

- 受話器を取り上げる。
- 電話機のスピーカ ボタンを押す。
- ヘッドセット ボタンを押す。
- 復帰コールに関連付けられた回線を選択する。
- [復帰] ソフトキーを押す。

これらのアクションでは、受話器がアイドル状態にあること、およびスピーカがまだオンになっていないことを前提としています。



(注)

詳細については、保留復帰およびこのバージョンの Cisco Unified Communications Manager をサポートしている Cisco Unified IP Phone モデルに適合する Cisco Unified IP Phone のユーザ ガイドを参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.25-18) を参照してください。

タイマーの無効化

保留復帰機能の保留復帰アラート タイマーは、次の状況になると停止します。

- ユーザが保留中のコールを取得した。
- ユーザが同じコールに対して別の機能呼び出した。
- 保留中のコールがリリースされた。

コールが再開されないまま、クラスタ全体の Maximum Hold Duration Timer システム設定が期限切れになった場合、Cisco Unified Communications Manager は、通知アラートを停止し、コールをクリアします。Maximum Hold Duration Timer が 0 に設定されている場合、クラスタ全体の Maximum Call Duration Timer 設定が期限切れになり、Cisco Unified Communications Manager がコールをクリアするまで、コールは保留状態になります。

Cisco Unified Communications Manager アプリケーションおよびコール処理機能に対する保留復帰の動作の詳細については、「[インタラクション](#)」の項を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.25-18) を参照してください。

例

次の例は、Cisco Unified Communications Manager における保留復帰の動作を示しています。

- 「例：保留復帰機能が無効になっている場合」(P.25-7)
- 「例：復帰コールと新しい発信コール」(P.25-7)
- 「例：シェアドライン」(P.25-7)
- 「例：同じ回線で複数の復帰コールを受信する場合」(P.25-8)
- 「例：別々の回線上に複数の復帰コールが存在するときにコールが着信する場合」(P.25-8)

これらの例では、保留復帰をアクティブにするタイミングを定義する保留復帰時間タイマーは 30 に設定されています。また、通知アラートの送信タイミングを定義する保留復帰間隔タイマーは 20 に設定されています。

例：保留復帰機能が無効になっている場合

ユーザ A が、ユーザ A と同じクラスタにいるユーザ B にコールします。ユーザ B がコールに応答し、コールを保留にします。保留中のコール用に MOH が設定されていれば、ユーザ A には音楽が聞こえます。

該当の DN に対して保留復帰が有効になっていないため、ユーザ B は、コールが保留状態であることを示すアラートを受信しません。クラスタ全体の Maximum Hold Duration Timer システム設定が期限切れになると、Cisco Unified Communications Manager がコールをクリアします。

例：復帰コールと新しい発信コール

ユーザ A が、ユーザ A と同じ Cisco Unified Communications Manager クラスタにいるユーザ B にコールします。ユーザ B がコールに応答し、コールを保留にします。保留中のコール用に MOH が設定されていれば、ユーザ A には音楽が聞こえます。

30 秒後に保留中のコールが復帰状態になると、Cisco Unified Communications Manager は、ユーザ B に通知します。Cisco Unified Communications Manager は、「保留復帰」というメッセージを電話機に送信し、保留にした DN で電話機の呼び出し音を 1 回鳴らします（またはビープ音を 1 回鳴らすか、1 回点滅させます）。電話機によっては追加のアラートメカニズムがサポートされている場合があります。

保留中のコールが復帰状態になっているときに、ユーザ B が、コールを発信するために電話機をオフフックにします。Cisco Unified Communications Manager が、保留中のコールを再開します。ユーザ B は、新しいコールを発信できません。

例：シェアドライン

ユーザ A とユーザ B が同じクラスタに存在します。ユーザ A がユーザ B の電話機のシェアドラインにコールします。ユーザ B がコールを保留にします。保留中のコール用に MOH が設定されていれば、ユーザ A には音楽が聞こえます。

30 秒後に保留復帰がコールに対してアクティブになると、Cisco Unified Communications Manager は、ユーザ B に通知します。Cisco Unified Communications Manager は、「保留復帰」というメッセージを電話機に送信し、保留にした DN で電話機の呼び出し音を 1 回鳴らします（またはビープ音を 1 回鳴らすか、1 回点滅させます）。電話機によっては追加のアラートメカニズムがサポートされている場合があります。シェアドライン上の他のユーザは、復帰コールのアラートを受信しません。

ユーザ B が復帰コールを取得するまで、Cisco Unified Communications Manager は、20 秒ごとに定期的な通知アラートを、保留にした DN の電話機に送信します。つまり、Cisco Unified Communications Manager は、設定された間隔で、「保留復帰」というメッセージを電話機に送

信し、保留にした DN で電話機の呼び出し音を 1 回鳴らします（またはビープ音を 1 回鳴らすか、1 回点滅させます）。電話機によっては追加のアラートメカニズムがサポートされている場合があります。シェアライン上の他のユーザは、通知アラートを受信しません。

ユーザ B は、電話機でその他のコールを受信していません。復帰コールにフォーカスが合っている状態で、ユーザ B が電話機をオフフックにします。ユーザ B が復帰コールを受信します。



(注)

保留にされた側がシェアラインの場合、他のラインアピアランスには、リモートで使用中のコールに関する通常のインジケータが表示されます。保留にした側がシェアラインの場合、ユーザがコールを保留にすると、リモートで使用中のインジケータは、他のラインアピアランスに表示されなくなります。ユーザがコールに再接続すると、リモートで使用中のインジケータは、他のラインアピアランスに再表示されます。シェアライン上の別のユーザが復帰コールを取得した場合、保留にした側の電話機には、リモートで使用中のインジケータが表示され、保留復帰アラートは表示されなくなります。保留にした側がコールをドロップした場合（たとえば、アプリケーションによってコールがリリースされた場合）、保留復帰タイマーは無効になります。

例：同じ回線で複数の復帰コールを受信する場合

ユーザ A とユーザ C が、同じ DN のユーザ B にコールします。ユーザ B は保留復帰を有効にしています。また、コール A は復帰コールです。

ユーザ B がユーザ C からのコールに応答し、コールを保留にします。保留中のコール用に MOH が設定されていれば、ユーザ C には音楽が聞こえます。

30 秒後にコール C が復帰状態になると、Cisco Unified Communications Manager は、ユーザ B に通知します。つまり、Cisco Unified Communications Manager は、「保留復帰」というメッセージを電話機に送信し、保留にした DN で電話機の呼び出し音を 1 回鳴らします（またはビープ音を 1 回鳴らすか、1 回点滅させます）。電話機によっては追加のアラートメカニズムがサポートされている場合があります。ユーザ B は、20 秒ごとに両方のコールに対する通知アラートを受信します。

コール A にフォーカスが合っている状態で、ユーザ B がユーザ A からのコールを取得します。

例：別々の回線上に複数の復帰コールが存在するときにコールが着信する場合

ユーザ A がユーザ B の回線 B1 にコールします。ユーザ B は B1 と B2 の両方に保留復帰を設定しています。ユーザ B がユーザ A を保留にします。保留中のコール用に MOH が設定されていれば、ユーザ A には音楽が聞こえます。

ユーザ C がユーザ B の回線 B2 にコールします。ユーザ B がユーザ C を保留にします。保留中のコール用に MOH が設定されていれば、ユーザ C には音楽が聞こえます。

保留中のコールは両方とも、設定済みの時間制限である 30 秒を超えると、復帰状態になります。ユーザ B が、保留中のコールの両方に対する保留復帰アラートを受信します。

別のコールが回線 B3 に着信します。着信コールには、フォーカス優先度が設定されています。ユーザ B が電話機をオフフックにして、着信コールに応答します。ユーザ B が B3 コールを終了します。

ユーザ B が電話機をオフフックにして、B1 コールを再開します。ユーザ B は引き続き、20 秒ごとにコール B2 に対する通知アラートを受信します。ユーザ B が [復帰] ソフトキーを押します。コール B1 が保留になり、コール B2 が接続されます。

Cisco Unified Communications Manager は、コール B1 に対して保留復帰機能をアクティブにするためのタイマーを再起動します。

追加情報

「関連項目」(P.25-18) を参照してください。

システム要件

保留復帰には、次のソフトウェア コンポーネントが必要です。

- Cisco Unified Communications Manager 6.0 以降
- クラスタ内の少なくとも 1 台のサーバ上で稼動している Cisco CallManager サービス
- クラスタ内の少なくとも 1 台のサーバ上で稼動している Cisco CTIManager サービス
- Cisco CallManager サービスと同じサーバ上で稼動している Cisco Database Layer Monitor サービス
- Cisco CallManager サービスと同じサーバ上で稼動している Cisco RIS Data Collector サービス
- クラスタ内の少なくとも 1 台のサーバ上で稼動している Cisco Tftp サービス
- 英語以外の電話ロケール、または国に固有のトーンを使用する場合は、Cisco Unified Communications Manager Locale Installer（ロケール インストーラについては、『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』を参照してください）

追加情報

「関連項目」(P.25-18) を参照してください。

保留復帰をサポートするデバイス

保留復帰をサポートするデバイスの完全なリストを作成するには、Cisco Unified Reporting アプリケーションを使用します。そのためには、次の手順に従います。

1. 次のいずれかの方法を使用して、Cisco Unified Reporting を起動します。
Web アプリケーションへのアクセスを許可されるまで、ユーザの認証には Cisco Tomcat サービスが使用されます。アプリケーションには次の方法でアクセスできます。
 - Cisco Unified Communications Manager の管理ページのナビゲーション メニューで [Cisco Unified Reporting] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
 - Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool (RTMT) メニューで [File] > [Cisco Unified Reporting] の順に選択します。
 - `https://<サーバ名または IP アドレス>:8443/cucreports/` と入力し、認証済みのユーザ名とパスワードを入力します。
2. ナビゲーション バーで、[System Reports] をクリックします。
3. 左側のカラムに表示されたレポートのリストで、[Unified CM Phone Feature List] オプションをクリックします。
4. [Generate a new report] リンクをクリックして新規レポートを生成するか、または、レポートがすでに存在する場合は、[Unified CM Phone Feature List] リンクをクリックします。
5. 保留復帰をサポートするすべてのデバイスのレポートを生成するには、対応するドロップダウン リスト ボックスから次の設定を選択し、[Submit] ボタンをクリックします。

[Product] : [All]

[Feature] : [Hold Reversion]

[List Features] ペインに、保留復帰機能をサポートするすべてのデバイスのリストが表示されます。カラムの見出し ([Product] または [Protocol]) の隣にある上下の矢印キーをクリックして、リストをソートできます。

Cisco Unified Reporting アプリケーションの詳細については、次の URL の『*Cisco Unified Reporting Administration Guide*』を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicew/ps556/prod_maintenance_guides_list.html

追加情報

「関連項目」(P.25-18) を参照してください。

インタラクシオンおよび制限事項

次の項では、保留復帰におけるインタラクシオンおよび制限事項について説明します。

- 「インタラクシオン」(P.25-10)
- 「制限事項」(P.25-11)

追加情報

「関連項目」(P.25-18) を参照してください。

インタラクシオン

次の各項では、保留復帰が Cisco Unified Communications Manager アプリケーションおよびコール処理とどのように通信するかを説明します。

- 「保留音」
- 「コールパーク」
- 「MLPP」
- 「CTI アプリケーション」

追加情報

「関連項目」(P.25-18) を参照してください。

保留音

Cisco Unified Communications Manager は、通常の保留中のコールに対して MOH が設定されている場合に、復帰コールに対する MOH をサポートします。

コールパーク

保留復帰が呼び出された場合、保留にされた側が [パーク] ソフトキーを押しても、保留にした側は、保留復帰アラートを受信し、コールを取得することができます。保留にした側がコールを取得する場合、MOH が設定されていれば、保留にした側には MOH が聞こえます。

保留時間が設定済みの時間制限を超える前に、保留にされた側がコールをパークした場合、Cisco Unified Communications Manager は、コールが取得またはリダイレクトされるまで、すべての保留復帰アラートを送信しません。

MLPP

Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) コールが保留になった後で復帰した場合は、MLPP コールからプリエンプション ステータスが失われます。そのため、復帰コールは通常のコールとして処理されます。コールの復帰後、Cisco Unified Communications Manager は、ユーザに対して呼び出し音を 1 回鳴らします。Cisco Unified Communications Manager は、プリエンプションの呼び出し音を再生しません。優先順位の高いコールが復帰コールになった場合、Cisco Unified Communications Manager は優先トーンを再生しません。

CTI アプリケーション

CTI アプリケーションが保留復帰機能にアクセスできるのは、この機能が回線またはクラスタに対して有効になっている場合です。シスコが提供する Cisco Unified Communications Manager Assistant や Attendant Console などのアプリケーションは、保留復帰機能呼び出すときに CTI インターフェイスを使用します。

保留復帰が呼び出されると、CTI ポートは、Cisco Unified IP Phone で再生される可聴音の代わりにイベント通知を受信します。CTI ポートとルート ポイントがイベント通知を受信するのは 1 回だけです。一方、Cisco Unified IP Phone は定期的にアラートを受信します。

保留復帰に関する CTI の要件とインタラクションについては、次の API のマニュアルを参照してください。

- 『Cisco Unified Communications Manager JTAPI Developer Guide』
- 『Cisco Unified Communications Manager TAPI Developer Guide』

追加情報

「関連項目」(P.25-18) を参照してください。

制限事項

保留復帰機能には、次の制限事項があります。

- Cisco エクステンション モビリティ機能と Cisco WebDialer 機能は、保留復帰機能をサポートしていません。
- この機能は、ATA 186、DPA-7610、および DPA-7630 などの SCCP アナログ電話機タイプをサポートしていません。
- クラスタ内で SCCP を実行するオンネット電話デバイスのうち、保留復帰機能呼び出せるものはごく一部に限られています。
- 保留復帰機能をクラスタに対して有効にする場合は、電話機が保留復帰機能をサポートしている必要があります。サポートしていない場合、この機能はアクティブになりません。
- シェアードラインの各デバイスに、異なる保留復帰タイマーを設定することはできません。
- 保留復帰の呼び出し音には、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでそのユーザ用に定義した呼び出し音の設定（無効、点滅のみ、1 回の呼び出し音、呼び出し音、またはビープ音のみ）が使用されます。ただし、点滅は 1 回の点滅に変換され、呼び出し音は 1 回の呼び出し音に変換されます。
- 回線ごとの復帰コールの最大数は、クラスタのコール最大数の設定と同じです。
- 保留復帰に関する電話機の制限については、保留復帰およびこのバージョンの Cisco Unified Communications Manager をサポートしている Cisco Unified IP Phone モデルに適合する Cisco Unified IP Phone のアドミニストレーションガイドを参照してください。

- この機能を CTI アプリケーションに対して有効にするには、その CTI アプリケーションがこの機能およびこの Cisco Unified Communications Manager リリースと連携するものとして認定されていることを確認してください。認定されていない場合、保留復帰機能が既存の CTI アプリケーションに与える影響が原因で、CTI アプリケーションに障害が発生することがあります。この機能は、デフォルトで無効になっています。CTI の要件については、次の API のマニュアルを参照してください。
 - 『Cisco Unified Communications Manager JTAPI Developer Guide』
 - 『Cisco Unified Communications Manager TAPI Developer Guide』

追加情報

「関連項目」(P.25-18) を参照してください。

Cisco 保留復帰のインストールとアクティブ化

保留復帰は、Cisco Unified Communications Manager のインストール時に自動的にインストールされます。Cisco Unified Communications Manager をインストールした後に、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで保留復帰機能を設定し、機能を有効にする必要があります。

保留復帰は Cisco CallManager サービスに依存するため、Cisco Unified サービスアビリティで Cisco CallManager サービスを必ずアクティブにしてください。

Cisco 保留復帰の設定

次の項では、詳細な設定情報について説明します。

- 「[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの保留復帰タイマー」(P.25-13)
- 「コールのフォーカス優先度」(P.25-13)
- 「Cisco 保留復帰に関する設定のヒント」(P.25-14)
- 「コールのフォーカス優先度の設定」(P.25-15)
- 「保留復帰タイマーの設定」(P.25-16)



ヒント

保留復帰を設定する前に、「保留復帰の設定チェックリスト」(P.25-1) を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.25-18) を参照してください。

[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの保留復帰タイマー

Cisco Unified Communications Manager にある次のタイマーは、保留復帰のアラート動作を指定します。

- Hold Reversion Duration タイマーは、保留にした側の電話機に対して復帰コールアラートが発行されるまでの待機時間を指定します。
- Hold Reversion Notification Interval タイマーは、保留にした側の電話機に対して定期的なアラートが発行される頻度を指定します。

たとえば、時間タイマーを 20 に設定し、間隔タイマーを 30 に設定すると、Cisco Unified Communications Manager は 20 秒後に最初のアラートを発行した後、30 秒ごとに通知アラートを発行します。Hold Reversion Duration タイマーがタイムアウトすると (20 秒後)、保留復帰機能がアクティブになります。

保留復帰タイマーの設定手順については、「[保留復帰タイマーの設定](#)」(P.25-16) を参照してください。

インストール時点では、Hold Reversion Duration タイマーの値は 0 に設定されています。つまり、機能は無効になっています。保留復帰時間の回線設定は空白のままになっています。

コールのフォーカス優先度

コールのフォーカス優先度では、電話機で復帰コールと着信コールのアラートが通知された場合に、どちらのコールタイプにフォーカスを合わせるか、つまり、オフフックなどのユーザアクションに対してどちらのコールタイプを優先するかが指定されます。Cisco Unified Communications Manager のインストール時点では、着信コールが優先されます。

管理者は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、デバイスプールの [復帰コールのフォーカス優先度 (Reverted Call Focus Priority)] を設定してから、そのデバイスプールを電話デバイスに割り当てます。電話機に関連付けられたデバイスプールのフォーカス優先度は、電話デバイスの同じ回線上または異なる回線上の復帰コールおよび着信コールに適用されます。

コールのフォーカス優先度の設定手順については、「[コールのフォーカス優先度の設定](#)」(P.25-15) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.25-18) を参照してください。

Cisco 保留復帰に関する設定のヒント

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで保留復帰機能を設定する場合は、次の事項を考慮してください。

- Cisco CallManager サービスを更新する場合は、クラスタに対して Hold Reversion Duration タイマーと Hold Reversion Notification Interval タイマーを設定する必要があります。
- インストール時点では、Hold Reversion Duration タイマーは 0 に設定されています。つまり、機能は無効になっています。
- 保留復帰機能をサポートしない電話機に関連付けられた DN に対してこの機能を設定することはできません。
- Maximum Hold Duration Timer システム設定は 0 より大きな値に設定してください。このようにしないと、Maximum Call Duration Timer が期限切れになるまで復帰コールが保留のままになる場合があります。
- Maximum Hold Duration Timer を Hold Reversion Duration タイマーよりも小さな値に設定すると、保留復帰機能はアクティブになりません。
- [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで [保留復帰の呼び出し時間 (Hold Reversion Ring Duration、秒)] タイマーの設定または [保留復帰の通知間隔 (Hold Reversion Notification Interval、秒)] タイマーの設定を空白のままにした場合、Cisco Unified Communications Manager は、クラスタの保留復帰タイマーの設定を使用します。[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウでどちらかのタイマーの値を変更した場合、Cisco Unified Communications Manager は、回線のタイマー設定を使用します。
- クラスタまたは回線の Hold Reversion Duration タイマーを 0 より大きな値に設定しても、Hold Reversion Notification Interval タイマーを設定しない場合、コールが復帰状態になったときに Cisco Unified Communications Manager が送信するアラートは 1 つだけになります。クラスタまたは回線の Hold Reversion Notification Interval タイマーを設定しても、Hold Reversion Duration タイマーを 0 より大きな値に設定しなければ、保留復帰機能はアクティブになりません。
- [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウに表示される保留復帰タイマーの設定は、保留復帰機能をサポートする Cisco Unified IP Phone のものに限られます。保留復帰をサポートする Cisco Unified IP Phone が、保留復帰をサポートしない電話デバイスと回線を共有している場合、表示される保留復帰の設定は、サポートするデバイス上の回線のものに限られます。
- シェアードライン デバイスで保留復帰機能を無効にすると、その回線を共有するその他すべてのデバイスで機能が無効になります。
- 電話機に設定されている呼び出し音の設定を無効にした場合、電話機では、保留復帰機能に対して呼び出し音、点滅、ブープ音のいずれも動作しません。
- Hold Reversion Duration タイマーを変更した場合は、デバイスをリセットする必要があります。また、復帰コールの優先度のフィールドを変更した場合は、デバイスプール内のデバイスをリセットする必要があります。
- 保留復帰機能を有効にした後で完全に無効にするには、クラスタ全体の設定を無効にするだけでなく、すべての回線で Hold Reversion Duration タイマーを無効にします。

追加情報

「関連項目」(P.25-18) を参照してください。

コールのフォーカス優先度の設定

保留復帰機能に関するコールのフォーカス優先度を設定するには、次の手順を実行します。この設定は、Default デバイス プールまたはリスト内の別のデバイス プールで行います。または、保留復帰機能のユーザ用に新しいデバイス プールを作成することもできます。



(注) [未選択 (Not Selected)] に設定すると、インストール時点のデフォルトデバイス プールに対する復帰コールのフォーカス優先度が適用されます。インストール時点では、着信コールが優先されます。この設定は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは選択できません。

新しいデバイス プールを設定する場合は、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「デバイス プールの設定」を参照してください。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[システム (System)] > [デバイスプール (Device Pool)] を選択します。
[デバイスプールの検索と一覧表示 (Find and List Device Pools)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックしてデバイス プール リストを表示するか、アクティブなクエリーの検索結果を使用します。[デバイスプールの検索と一覧表示 (Find and List Device Pools)] ウィンドウでデバイス プールを選択します。
- ステップ 3** [復帰コールのフォーカス優先度 (Reverted Call Focus Priority)] フィールドで、次のどちらかの設定を選択します。
 - 着信コールに最高の優先度を割り当てるには、[デフォルト (Default)] を選択します。
 - 復帰コールに最高の優先度を割り当てるには、[最高 (Highest)] を選択します。
- ステップ 4** [保存 (Save)] ボタンをクリックします。
- ステップ 5** 変更を反映するには、デバイス プール内のデバイスをすべてリセットします。



(注) コールのフォーカス優先度は、SIP を実行している電話機に TFTP 設定ファイルを介して送信されます。

追加情報

「関連項目」(P.25-18) を参照してください。

保留復帰タイマーの設定

保留復帰機能を有効にし、保留復帰タイマーを設定するには、次の手順を実行します。この手順では、電話機に DN を設定したこと、または電話機が自動登録を使用していることを前提としています。

保留復帰タイマーを設定する場合は、次の事項を考慮してください。

- 保留復帰をクラスタに対して有効にするには、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで **Hold Reversion Duration** タイマーを 0 より大きな値に変更します。
- 通知アラートにデフォルトのシステム設定を使用しない場合は、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで **Hold Reversion Notification Interval** タイマーを設定します。デフォルト値は 30 秒に設定されています。
- システム設定が有効のときに回線の保留復帰を無効にするには、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで、[保留復帰の呼び出し時間 (Hold Reversion Ring Duration、秒)] タイマーの値として 0 を入力します。フィールドを空白のままにした場合、Cisco Unified Communications Manager は、クラスタのタイマー設定を使用します。
- システム設定が無効のときに回線の保留復帰を有効にするには、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで、[保留復帰の呼び出し時間 (Hold Reversion Ring Duration、秒)] タイマーを 0 より大きな値に設定します。通知アラートを有効にするには、同じウィンドウで [保留復帰の通知間隔 (Hold Reversion Notification Interval、秒)] タイマーを 0 より大きな値に設定するか、または空白のままにしてクラスタの設定を使用します。
- 保留復帰が有効なときに、保留復帰タイマーの設定をクラスタの設定と異なるものにするには、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで、保留復帰タイマーに対して異なる値を入力します。

手順

ステップ 1 回線またはクラスタの保留復帰タイマーを検索します。

- 保留復帰を有効にし、クラスタのタイマーを設定するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。
 - [サーバ (Server)] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco CallManager サービスを実行しているサーバを選択します。
 - [サービス (Service)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Cisco CallManager] サービスを選択します。[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウが表示されます。[ステップ 2](#) に進みます。
- 保留復帰を有効または無効にし、回線の保留復帰タイマーを設定するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。[検索 (Find)] をクリックしてデバイス プール リストを表示するか、アクティブなクエリーの検索結果を使用します。
 - [電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウに表示される電話機のリストから、デバイスを選択します。[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。

- [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、左側のリストから [電話番号 (Directory Number)] を選択します。

[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。[ステップ 2](#)に進みます。

ステップ 2 保留復帰タイマーを設定します。

- Hold Reversion Duration パラメータ（または [保留復帰の呼び出し時間 (Hold Reversion Ring Duration、秒)] フィールド）に、保留復帰機能を有効にするには 0 より大きな値を入力します。保留復帰機能を無効にするには、0 を入力します。入力可能な値は 0 ~ 1,200 秒（両端の値を含む）です。このタイマーは、保留中のコールが復帰状態になるとユーザに通知します。
- 通知アラートに既存の設定を使用しない場合は、Hold Reversion Notification Interval パラメータ（または [保留復帰の通知間隔 (Hold Reversion Notification Interval、秒)] フィールド）に 0 ~ 1,200 秒（両端の値を含む）の値を入力します。Cisco Unified Communications Manager は、このタイマーを使用して、保留にした側の電話機に対する復帰コールの定期的な通知アラートをスケジュールします。0 を入力した場合、通知アラートは送信されません。

ステップ 3 [保存 (Save)] ボタンをクリックします。

ステップ 4 [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウの変更を反映するには、すべてのデバイスをリセットします。

ステップ 5 追加のタイマーを設定するには、この手順を繰り返します。

その他の手順

[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、Cisco Unified IP Phone に正しいデバイスプールが設定されていることを確認します。設定されていない場合は、正しいデバイス プールを設定します。

追加情報

[「関連項目」 \(P.25-18\)](#) を参照してください。

ユーザに対する Cisco 保留復帰の情報の提供

Cisco Unified IP Phone のユーザ ガイドには、保留復帰機能を使用するための手順が記載されています。一部の Cisco Unified IP Phone には ? ボタンがあり、クリックすると詳細なヘルプ情報が表示されます。

追加情報

[「関連項目」 \(P.25-18\)](#) を参照してください。

Cisco 保留復帰のトラブルシューティング

Cisco Unified サービスアビリティの Trace Configuration および Real-Time Monitoring Tool を使用して、保留復帰に関する不具合をトラブルシューティングします。『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。

追加情報

[「関連項目」 \(P.25-18\)](#) を参照してください。

関連項目

- 「保留復帰の設定チェックリスト」 (P.25-1)
- 「Cisco 保留復帰の概要」 (P.25-3)
- 「Cisco 保留復帰の動作について」 (P.25-4)
- 「システム要件」 (P.25-9)
- 「追加情報」 (P.25-10)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.25-10)
- 「Cisco 保留復帰のインストールとアクティブ化」 (P.25-12)
- 「Cisco 保留復帰の設定」 (P.25-12)
- 「コールのフォーカス優先度の設定」 (P.25-15)
- 「保留復帰タイマーの設定」 (P.25-16)
- 「ユーザに対する Cisco 保留復帰の情報の提供」 (P.25-17)
- 「Cisco 保留復帰のトラブルシューティング」 (P.25-17)
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「デバイスプールの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザのパスワードの変更」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サービスパラメータの設定」

電話機の詳細については、次の項を参照してください。

- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「電話機能」
- 保留復帰とこのリリースの Cisco Unified Communications Manager をサポートしている電話機モデルに適合する Cisco Unified IP Phone のユーザガイドおよびアドミニストレーションガイド

参考資料

- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』
- 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』



CHAPTER 26

ホットライン

ホットライン機能は、Private Line Automatic Ringdown (PLAR; 専用回線自動切断) 機能の拡張機能です。この機能を使用すると、ユーザが電話機をオフフックにすると（または、[発信] ソフトキーまたは回線キーを押すと）電話機が事前に設定された番号をすぐにダイヤルするように、電話機を設定できます。ホットライン機能を使用する場合、コールを受信するホットライン デバイスでは、別のホットライン デバイスからのコールだけを受信し、ホットライン以外の発信者を拒否するという追加的な制限が発生します。

通常、ホットライン電話機の機能セットは制限されています。ホットライン電話機の機能を制限するには、電話機にソフトキー テンプレートを適用します。ホットライン電話機は、コールの発信専用、コールの終端専用、またはコールの発信と終端用に設定できます。

ホットラインでは、ホットライン電話機が別のホットライン電話機からのコールを受信できるように、ルート クラス シグナリングを使用します。また、ホットラインでは、発信者 ID に基づく、設定可能なコールのスクリーニングを使用できます。これにより、受信側ホットライン電話機では、コールをスクリーニングし、スクリーニング リスト内の発信者だけが接続を許可されるようになります。

この章では、Cisco Unified Communications Manager のホットライン機能について説明します。この章では、次のトピックについて取り上げます。

- 「[ホットラインの設定チェックリスト](#)」 (P.26-2)
- 「[Cisco Unified Communications Manager のホットラインの概要](#)」 (P.26-4)
- 「[ホットラインのシステム要件](#)」 (P.26-7)
- 「[ホットラインのインストールとアクティブ化](#)」 (P.26-8)
- 「[ホットラインの設定](#)」 (P.26-8)
- 「[ホットラインのトラブルシューティング](#)」 (P.26-13)
- 「[関連項目](#)」 (P.26-13)

ホットラインの設定チェックリスト

ホットライン機能は、Private Line Automatic Ringdown (PLAR; 専用回線自動切断) 機能の拡張機能です。この機能を使用すると、ユーザが電話機をオフフックにすると（または、[発信] ソフトキーまたは回線キーを押すと）電話機が事前に設定された番号をすぐにダイヤルするように、電話機を設定できます。ホットライン機能を使用する場合、コールを受信するホットライン デバイスでは、別のホットライン デバイスからのコールだけを受信し、ホットライン以外の発信者を拒否するという追加的な制限が発生します。

通常、ホットライン電話機の機能セットは制限されています。ホットライン電話機の機能を制限するには、電話機にソフトキー テンプレートを適用します。ホットライン電話機は、コールの発信専用、コールの終端専用、またはコールの発信と終端用に設定できます。

ホットラインでは、ホットライン電話機が別のホットライン電話機からのコールを受信できるように、ルート クラス シグナリングを使用します。また、ホットラインでは、発信者 ID に基づく、設定可能なコールのスクリーニングを使用できます。これにより、受信側ホットライン電話機では、コールをスクリーニングし、スクリーニング リスト内の発信者だけが接続を許可されるようにできます。

表 26-1 は、ネットワークでホットラインを設定するためのチェックリストです。表 26-1 と「関連項目」(P.26-13) を併せて参照してください。

表 26-1 ホットラインの設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1	ホットラインのサービス パラメータを設定します。 「ホットラインのサービス パラメータの設定」(P.26-8)
ステップ 2	オフフックになると電話機が事前定義された番号にダイヤルする PLAR を設定します。 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「PLAR の設定」
ステップ 3	[電話機の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで [ホットラインデバイス (Hot line Device)] チェックボックスをオンにします。 「Cisco Unified Communications Manager の管理でのホットラインの設定項目へのアクセス」(P.26-10) 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
ステップ 4	T1 CAS 着信コールにルート クラスを割り当て、対応するプレフィックス番号を除去するためのトランスレーション パターンまたはルート パターンを設定します。 「Cisco Unified Communications Manager の管理でのホットラインの設定項目へのアクセス」(P.26-10) 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「トランスレーション パターンの設定値」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルート パターンの設定値」
ステップ 5	電話機のコールと受信の設定項目を設定します。 このことは、ホットライン電話機をコールの発信専用またはコールの終端専用に限る場合にだけ必要となります。 「電話機のコールと受信の設定項目の設定」(P.26-4)

表 26-1 ホットラインの設定チェックリスト (続き)

設定手順		関連手順と関連項目
ステップ 6	不要な機能をブロックするソフトキー テンプレートを作成し、電話機に適用します。	<p>「Cisco Unified Communications Manager の管理でのホットラインの設定項目へのアクセス」(P.26-10)</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ソフトキー テンプレートの設定」</p>
ステップ 7	[ルートクラスシグナリングを使う (Route Class Signaling Enabled)] チェックボックスをオンにして、ホットラインをサポートするように SIP トランクを設定します。	<p>「Cisco Unified Communications Manager の管理でのホットラインの設定項目へのアクセス」(P.26-10)</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「トランクの設定」</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「トランクの設定値」</p>
ステップ 8	[ルートクラスシグナリングを使う (Route Class Signaling Enabled)] チェックボックスをオンにして、ホットラインをサポートするように MGCP PRI ゲートウェイを設定します。	<p>「Cisco Unified Communications Manager の管理でのホットラインの設定項目へのアクセス」(P.26-10)</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ゲートウェイとポートの更新」</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「デジタル アクセス PRI ポートの設定値」</p>
ステップ 9	[ルートクラスシグナリングを使う (Route Class Signaling Enabled)] チェックボックスをオンにして、ホットラインをサポートするように MGCP T1/CAS ゲートウェイを設定し、必要に応じて [ボイスルートクラスの符号化 (Encode Voice Route Class)] パラメータを設定します。	<p>「Cisco Unified Communications Manager の管理でのホットラインの設定項目へのアクセス」(P.26-10)</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ゲートウェイとポートの更新」</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「デジタル アクセス T1 ポートの設定値」</p>
ステップ 10	発信者 ID に基づいたコールのスクリーニングを設定します。	<p>「コールのスクリーニングの設定」(P.26-5)</p>

Cisco Unified Communications Manager のホットラインの概要

ホットライン機能は、Private Line Automatic Ringdown (PLAR; 専用回線自動切断) 機能の拡張機能です。この機能を使用すると、ユーザが電話機をオフフックにすると（または、[発信] ソフトキーまたは回線キーを押すと）電話機が事前に設定された番号をすぐにダイヤルするように、電話機を設定できます。電話機のユーザは、PLAR 用に設定された電話機から別の番号をダイヤルできません。ホットラインを使用する場合、PLAR を使用する電話機に関して、次の追加的な制限と管理者コントロールが発生します。

- コールを受信するホットラインデバイス（ホットラインを使用するように設定されたデバイス）は、別のホットライン デバイスからのコールだけを受信し、ホットライン以外の発信者を拒否します。
- ホットライン電話機は、コール専用、受信専用、またはコールと受信の両方用に設定できます。
- ホットライン電話機で使用可能な機能を制限するには、電話機にソフトキー テンプレートを適用します。
- アナログ ホットライン電話機は、着信フックフラッシュ信号を無視します。

ルート クラス シグナリング

ルート クラスは、コールのトラフィック クラスを識別する DSN コードです。ルート クラスによって、ダウンストリーム デバイスに特殊なルーティング要件または終端要件が通知されません。ホットライン電話機では、1 台のホットライン電話機からの同じルート クラスでのコールだけを受信できます。

コールのルート クラスを設定するには、ルート パターンまたはトランスレーション パターンを設定します。

設定可能なコールのスクリーニング

設定可能なコールのスクリーニングを使用すると、受信側ホットライン電話機で発信者 ID 情報に基づいてコールをスクリーニングし、スクリーニング リスト内の発信者だけが接続を許可されるようになります。

コールのスクリーニングの設定項目は、トランスレーション パターンを使用して設定します。

ホットライン機能の詳細については、次の各項で説明します。

- 「電話機のコールと受信の設定項目の設定」(P.26-4)
- 「コールのスクリーニングの設定」(P.26-5)

電話機のコールと受信の設定項目の設定

ホットライン電話機は、コール専用、受信専用、またはコールと受信の両方用に設定できます。この設定は、次の例の説明に従い、Calling Search Spaces (CSS; コーリング サーチ スペース) およびパーティションを使用して行います。

1. NoRouteCSS という名前の CSS、および EmptyPartition と IsolatedPartition という名前の 2 つのパーティションを作成します。
2. EmptyPartition パーティションはいずれの回線にも割り当てません。
3. EmptyPartition パーティションだけを選択するように NoRouteCSS CSS を設定します。

4. CSS のいずれのウィンドウでも IsolatedPartition パーティションを選択しません。
5. 受信専用の場合は、電話機に NoRouteCSS CSS を割り当てます。
6. コール専用の場合は、電話機に IsolatedPartition パーティションを割り当てます。

コールのスクリーニングの設定

スクリーニングリスト内の発信者だけが接続を許可されるように、コールを終端側ホットライン電話機にスクリーニングできます。通常、この機能は、終端側ホットラインで、同じクラス内のすべての発信者（ペア非保護）よりも少ない、複数の発信者（ペア保護）からのコールを受信できるようにする場合に使用します。ここでは、発信者のスクリーニングを実装する 2 つの方法について説明します。

- 「[コーリングサーチスペースおよびパーティションを使用したコールのスクリーニングの設定](#)」 (P.26-5)
- 「[発信側番号ルーティングを使用したコールのスクリーニングの設定](#)」 (P.26-5)

コーリングサーチスペースおよびパーティションを使用したコールのスクリーニングの設定

すべてのスイッチ間（回線間）ホットラインコールについて、コールのスクリーニングを設定するには、次の例の説明に従って、Calling Search Space (CSS; コーリングサーチスペース) およびパーティションの設定を管理します。

1. 終端側の回線をパーティションに割り当てて回線を保護します。
2. スクリーニングリストを作成します。このとき、終端側のホットラインへの接続を許可する発信側のホットライン電話機の CSS にだけ、終端側のパーティションを含めます。

発信側番号ルーティングを使用したコールのスクリーニングの設定

トランクは複数の着信 / 発信電話機に関連付けられるため、「[コーリングサーチスペースおよびパーティションを使用したコールのスクリーニングの設定](#)」 (P.26-5) で説明されている、CSS およびパーティションによるコールのスクリーニング方法を使用して DN ごとのスクリーニングを作成できません。Cisco Unified Communications Manager では、発信側番号を使用してルーティング決定を行うことができます。

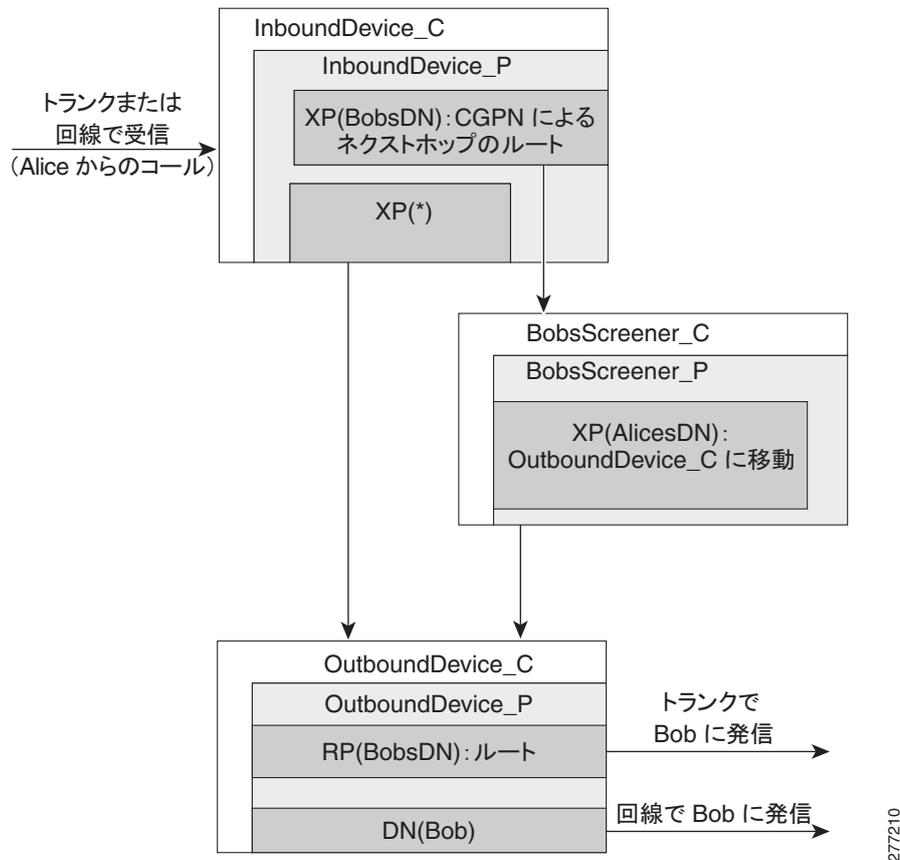
また、このコールのスクリーニング方法は回線にも使用できますが、次のような、トランクを使用する接続パスにおいて特に役立ちます。

電話機 - PBX - ゲートウェイ - Cisco Unified Communications Manager - ゲートウェイ - PBX - 電話機。

PBX でスクリーニングを行うことができない場合は、この方法を使用すると、Cisco Unified Communications Manager により PBX のスクリーニングを行うことができます。

図 26-1 (P.26-6) とその後の説明でこの方法について解説します。

図 26-1 発信側番号ルーティングを使用したコールのスクリーニング



- InboundDevice_C はコールが着信したトランクまたは回線の着信 CSS です。
- InboundDevice_P は InboundDevice_C のメンバとなっているパーティションです。
- XP(BobsDN) は InboundDevice_P のメンバとなっているトランスレーションパターンであり、これにより Bob の DN へのすべてのコールが Bob のスクリーニング機能に転送されます。[トランスレーションパターン (Translation Pattern)] ウィンドウで [発呼側番号によるネクストホップのルート (Route Next Hop By Calling Party)] チェックボックスがオンになっています。ネクストホップの CSS は BobsScreener_C に設定されています。
着信 PLAR 回線の場合、このパターンは空白に一致し、空白の着信側を Bob の DN に変換します。
- XP(*) は、接続先にスクリーニングが関連付けられていないすべての着信コールを表す、ワイルドカードのトランスレーションパターンです。
- BobsScreener_C および BobsScreener_P はそれぞれ、Bob の発信側番号のスクリーニングパターンを保持する CSS とパーティションです。
- XP(AlicesDN) は BobsScreener_P に属しているトランスレーションパターンであり、接続を許可する必要がある発信側 (Alice) を表しています。これらのパターンでは、CSS に OutboundDevice_C が設定されている必要があります。
- OutboundDevice_C、OutboundDevice_P、および DN(cdpnXxxx) または RP(cdpnXxxx) はすべて、回線およびトランク経由で発信されるように設定された通常のダイヤルプランです。
DN とルートパターンの両方ではなく、いずれか一方がパーティションの一部となります。スクリーニングリストを作成するには、許可に使用するパターンごとに 1 つのトランスレーションパターンを作成します。

ホットラインのシステム要件

Cisco Unified Communications Manager には、次のホットラインのシステム要件があります。

- クラスタ内の各サーバに Cisco Unified Communications Manager 8.0(1) 以降が必要です。
- MGCP ゲートウェイの POTS 電話機 (FXS)。
- SCCP ゲートウェイの POTS 電話機 (FXS)。



ヒント Cisco Feature Navigator を使用すると、特定のソフトウェア リリース、機能セット、およびプラットフォームをサポートする Cisco IOS および Catalyst OS ソフトウェア イメージを判別できます。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、<http://www.cisco.com/go/cfn> に移動します。Cisco Feature Navigator へのアクセスには、Cisco.com のアカウントは必要ありません。

ホットラインをサポートするデバイス

ホットラインをサポートするデバイスの完全なリストを作成するには、Cisco Unified Reporting アプリケーションを使用します。そのためには、次の手順に従います。

1. 次のいずれかの方法を使用して、Cisco Unified Reporting を起動します。
Web アプリケーションへのアクセスを許可されるまで、ユーザの認証には Cisco Tomcat サービスが使用されます。アプリケーションには次の方法でアクセスできます。
 - Cisco Unified Communications Manager の管理ページのナビゲーション メニューで [Cisco Unified Reporting] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
 - Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool (RTMT) メニューで [File] > [Cisco Unified Reporting] の順に選択します。
 - `https://<サーバ名または IP アドレス>:8443/cucreports/` と入力し、認証済みのユーザ名とパスワードを入力します。
2. ナビゲーション バーで、[System Reports] をクリックします。
3. 左側のカラムに表示されたレポートのリストで、[Unified CM Phone Feature List] オプションをクリックします。
4. [Generate a new report] リンクをクリックして新規レポートを生成するか、または、レポートがすでに存在する場合は、[Unified CM Phone Feature List] リンクをクリックします。
5. ホットラインをサポートするすべてのデバイスのレポートを生成するには、対応するドロップダウン リスト ボックスから次の設定を選択し、[Submit] ボタンをクリックします。

[Product] : [All]

[Feature] : [Hotline]

[List Features] ペインに、ホットライン機能をサポートするすべてのデバイスのリストが表示されます。カラムの見出し ([Product] または [Protocol]) の隣にある上下の矢印キーをクリックして、リストをソートできます。

Cisco Unified Reporting アプリケーションの詳細については、次の URL の『Cisco Unified Reporting Administration Guide』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html

ホットラインのインストールとアクティブ化

Cisco Unified Communications Manager のインストール後、必要な設定作業を実行すると、ネットワークでホットラインをサポートできます。実行する必要がある設定作業については、「[ホットラインの設定チェックリスト](#)」(P.26-2)を参照してください。

ホットラインの設定

この項は、次の内容で構成されています。

- 「[ホットラインのサービスパラメータの設定](#)」(P.26-8)
- 「[Cisco Unified Communications Manager の管理でのホットラインの設定項目へのアクセス](#)」(P.26-10)



ヒント

ホットラインを設定する前に、「[ホットラインの設定チェックリスト](#)」(P.26-2)を確認してください。

ホットラインのサービスパラメータの設定

表 26-2 に、ホットラインに関して設定できるサービスパラメータの説明を示します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでサービスパラメータを設定するには、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。

これらすべてのサービスパラメータで Cisco Unified Communications Manager サービスがサポートされています。



ヒント

エンタープライズパラメータを設定する手順については、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[エンタープライズパラメータの設定](#)」の章を参照してください。サービスパラメータを設定する手順については、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[サービスパラメータの設定](#)」を参照してください。

表 26-2 ホットラインのエンタープライズパラメータとサービスパラメータ

パラメータ	説明
Route Class Trunk Signaling Enabled	このパラメータは、Cisco Unified Communications Manager が、ルートクラスシグナリング対応のトランクでルートクラスシグナリングを処理（着信）および送信（発信）するかどうかを指定します。ルートクラストランクシグナリングは、ルートクラスを使用する IP スイッチと TDM スイッチ間のインターワーキングを可能にします。ルートクラストランクシグナリングを有効にする場合は [True]、無効にする場合は [False] に設定します。 このフィールドは必須です。デフォルトは [True] です。

表 26-2 ホットラインのエンタープライズパラメータとサービスパラメータ (続き)

パラメータ	説明
SIP Satellite Avoidance Route Class Label	<p>このパラメータは、SIP Route Class Naming Authority サービスパラメータで指定されているドメイン名のオーナーによって定義された、SIP シグナリングにおける衛星回避ルート クラスを表すラベルを指定します。Cisco Unified Communications Manager では、このパラメータの値と SIP Route Class Naming Authority パラメータの値を組み合わせ、SIP 衛星回避ルート クラス値を表す完全なシグナリング構文を作成します。このラベルは、衛星回避ルート クラスに基づいてルーティング決定を行う TDM ネットワークとのインターワーキング時に役立ちます。このパラメータは、ベンダー固有または配置固有の要件に基づいて変更できません。遠端のスイッチが、このパラメータで設定したのと同じ値を受信することが前提となっていることを確認します。サービスパラメータ SIP Route Class Naming Authority の詳細については、このパラメータのヘルプテキストを参照してください。</p> <p>このパラメータに指定する値には、次の規則が適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最大 64 文字。 指定できるのは英数字 (A ~ Z, a ~ z, 0 ~ 9) またはダッシュ (-) だけです。 ダッシュを指定できるのは英数字の間だけです。 <p>このフィールドは必須かつ非表示です。デフォルトは [nosat] です。</p> <p>ホットライン機能では、このパラメータを使用しません。ホットライン機能がサポートしているのは他のルートクラス機能です。</p>
SIP Hotline Voice Route Class Label	<p>このパラメータは、SIP Route Class Naming Authority サービスパラメータで指定されているドメイン名のオーナーによって定義された、SIP シグナリングにおけるホットライン ボイスルート クラスを表すラベルを指定します。Cisco Unified Communications Manager では、このパラメータの値と SIP Route Class Naming Authority パラメータの値を組み合わせ、SIP ホットライン ボイスルート クラス値を表す完全なシグナリング構文を作成します。このラベルは、ホットライン ボイスルート クラスに基づいてルーティング決定を行う TDM ネットワークとのインターワーキング時に役立ちます。このパラメータは、ベンダー固有または配置固有の要件に基づいて変更できます。遠端のスイッチが、このパラメータで設定したのと同じ値を受信することが前提となっていることを確認します。サービスパラメータ SIP Route Class Naming Authority の詳細については、このパラメータのヘルプテキストを参照してください。</p> <p>このパラメータに指定する値には、次の規則が適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最大 64 文字。 指定できるのは英数字 (A ~ Z, a ~ z, 0 ~ 9) またはダッシュ (-) だけです。 ダッシュを指定できるのは英数字の間だけです。 <p>このフィールドは必須です。デフォルトは [hotline] です。</p>

表 26-2 ホットラインのエンタープライズパラメータとサービスパラメータ (続き)

パラメータ	説明
SIP Hotline Data Route Class Label	<p>このパラメータは、SIP Route Class Naming Authority サービスパラメータで指定されているドメイン名のオーナーによって定義された、SIP シグナリングにおけるホットライン データ ルート クラスを表すラベルを指定します。Cisco Unified Communications Manager では、このパラメータの値と SIP Route Class Naming Authority パラメータの値を組み合わせ、SIP ホットライン データ ルート クラス値を表す完全なシグナリング構文を作成します。このラベルは、ホットライン データ ルート クラスに基づいてルーティング決定を行う TDM ネットワークとのインターワーキング時に役立ちます。このパラメータは、ベンダー固有または配置固有の要件に基づいて変更できます。遠端のスイッチが、このパラメータで設定したのと同じ値を受信することが前提となっていることを確認します。サービスパラメータ SIP Route Class Naming Authority の詳細については、このパラメータのヘルプテキストを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> このパラメータに指定する値には、次の規則が適用されます。 最大 64 文字。 指定できるのは英数字 (A ~ Z、a ~ z、0 ~ 9) またはダッシュ (-) だけです。 ダッシュを指定できるのは英数字の間だけです。 <p>このフィールドは必須です。デフォルトは [hotline-ccdata] です。</p>

Cisco Unified Communications Manager の管理でのホットラインの設定項目へのアクセス

表 26-3 に、Cisco Unified Communications Manager の管理でのホットラインの設定項目を示します。ただし、表 26-2 で説明されているホットラインのサービスパラメータは除きます。関連する設定手順については、次の項を参照してください。

- 「[ホットラインのサービスパラメータの設定](#)」(P.26-8)
- 『[Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド](#)』の「[トランクの設定](#)」

表 26-3 Cisco Unified Communications Manager の管理でのホットラインの設定項目

設定項目	説明
[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]	
[ホットラインデバイス (Hot line Device)]	<p>このデバイスをホットラインデバイスにするには、このチェックボックスをオンにします。コールを受信するホットラインデバイスは、別のホットラインデバイスからのコールだけを受信し、ホットライン以外の発信者を拒否します。この機能は、オフフックになると自動的に 1 つの電話番号をダイヤルするように電話機を設定する PLAR の拡張機能です。ホットラインを使用する場合、PLAR を使用するデバイスに適用できる追加的な制限が発生します。</p> <p>また、ホットラインを実装するには、補足サービスソフトキーのないソフトキーテンプレートを作成し、ホットラインデバイスに適用する必要があります。</p>

表 26-3 Cisco Unified Communications Manager の管理でのホットラインの設定項目 (続き)

設定項目	説明
[デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)]	
[ルートクラスシグナリングを使う (Route Class Signaling Enabled)]	<p>ドロップダウンリストで、ポートのルートクラスシグナリングを有効または無効にします。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは Route Class Signaling サービス パラメータの設定値を使用します。 [オフ (Off)] : この値は、ルートクラスシグナリングを有効にする場合に選択します。この設定は、Route Class Signaling サービス パラメータよりも優先されます。 [オン (On)] : この値は、ルートクラスシグナリングを無効にする場合に選択します。この設定は、Route Class Signaling サービス パラメータよりも優先されます。 <p>ルートクラスシグナリングによって、受信側デバイスに特殊なルーティング要件または終端要件が通知されます。ポートでホットライン機能をサポートできるようにするには、この設定を有効にする必要があります。</p> <p>このパラメータは SIP トランクで使用可能です。</p>
[デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)]	
[ルートクラスシグナリングを使う (Route Class Signaling Enabled)]	<p>ドロップダウンリストで、ポートのルートクラスシグナリングを有効または無効にします。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは Route Class Signaling サービス パラメータの設定値を使用します。 [オフ (Off)] : この値は、ルートクラスシグナリングを有効にする場合に選択します。この設定は、Route Class Signaling サービス パラメータよりも優先されます。 [オン (On)] : この値は、ルートクラスシグナリングを無効にする場合に選択します。この設定は、Route Class Signaling サービス パラメータよりも優先されます。 <p>ルートクラスシグナリングによって、受信側デバイスに特殊なルーティング要件または終端要件が通知されます。ポートでホットライン機能をサポートできるようにするには、この設定を有効にする必要があります。</p> <p>このパラメータは MGCP PRI および T1/CAS ゲートウェイポートで使用可能です。</p>
[ボイスルートクラスの符号化 (Encode Voice Route Class)]	<p>ボイスコールのボイスルートクラスを符号化するには、このチェックボックスをオンにします。ボイスはデフォルトのルートクラスであるため、通常は明示的な符号化は必要ありません。無効 (デフォルト設定) の場合、ポートではボイスルートクラスが明示的に符号化されません。ボイスルートクラス (明示的に符号化されているかどうかに関係なく) は、ダウンストリームデバイスでコールをボイスとして識別するために使用できます。</p> <p>このパラメータは MGCP T1/CAS ゲートウェイポートで使用可能です。</p>

表 26-3 Cisco Unified Communications Manager の管理でのホットラインの設定項目 (続き)

設定項目	説明
[コールルーティング (Call Routing)] > [ルート / ハント (Route/Hunt)] > [ルートパターン (Route Pattern)]	
[ルートクラス (Route Class)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このルート パターンのルート クラス設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] • [ボイス (Voice)] • [データ (Data)] • [衛星回避 (Satellite Avoidance)] • [ホットラインボイス (Hotline voice)] • [ホットラインデータ (Hotline data)] <p>ルートクラスは、コールのトラフィック クラスを識別する DSN コードです。ルートクラスによって、ダウンストリーム デバイスに特殊なルーティング要件または終端要件が通知されます。[デフォルト (Default)] 設定では、着信コールの既存のルート クラスが使用されます。</p> <p>デフォルト以外のルート クラス設定を使用するのは、着信 T1 CAS ルートクラス桁数を Cisco Unified Communications Manager ルート クラス値に変換 (および桁数を除去) する場合だけにしてください。パターン設定を使用する他の着信コールに、デフォルト以外のルート クラス設定を割り当てる必要はありません。</p>
[コールルーティング (Call Routing)] > [トランスレーションパターン (Translation Pattern)]	
[ルートクラス (Route Class)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このトランスレーション パターンのルート クラス設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] • [ボイス (Voice)] • [データ (Data)] • [衛星回避 (Satellite Avoidance)] • [ホットラインボイス (Hotline voice)] • [ホットラインデータ (Hotline data)] <p>ルートクラスは、コールのトラフィック クラスを識別する DSN コードです。ルートクラスによって、ダウンストリーム デバイスに特殊なルーティング要件または終端要件が通知されます。[デフォルト (Default)] 設定では、着信コールの既存のルート クラスが使用されます。</p> <p>デフォルト以外のルート クラス設定を使用するのは、着信 T1 CAS ルートクラス桁数を Cisco Unified Communications Manager ルート クラス値に変換 (および桁数を除去) する場合だけにしてください。パターン設定を使用する他の着信コールに、デフォルト以外のルート クラス設定を割り当てる必要はありません。</p>

表 26-3 Cisco Unified Communications Manager の管理でのホットラインの設定項目 (続き)

設定項目	説明
[発呼側番号による ネクストホップの ルート (Route Next Hop By Calling Party Number)]	発信側番号に基づいてルーティングを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。これは、発信者 ID 情報に基づいたコールのスクリーニングがクラス間で機能するために必要となります。
[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)]	ホットライン電話機から補足サービス ソフトキーを削除するソフトキーテンプレートを設定します。

ホットラインのトラブルシューティング

ホットラインのトラブルシューティングについては、『*Troubleshooting Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

関連項目

- 「ホットラインの設定チェックリスト」 (P.26-2)
- 「Cisco Unified Communications Manager のホットラインの概要」 (P.26-4)
- 「ホットラインのシステム要件」 (P.26-7)
- 「ホットラインのインストールとアクティブ化」 (P.26-8)
- 「ホットラインの設定」 (P.26-8)
- 「ホットラインのトラブルシューティング」 (P.26-13)



CHAPTER 27

即時転送

即時転送 (iDivert) 機能を使用すると、ボイスメール システムへコールを即時に転送できます。コールが転送されると、その回線で新規コールを送受信できるようになります。この章では、即時転送に関する次の情報を提供します。

- 「[即時転送の設定チェックリスト](#)」 (P.27-1)
- 「[即時転送の概要](#)」 (P.27-3)
- 「[即時転送のシステム要件](#)」 (P.27-4)
- 「[Use Legacy Immediate Divert サービス パラメータが \[False\] に設定されている場合の即時転送シナリオ](#)」 (P.27-8)
- 「[即時転送のインストールとアクティブ化](#)」 (P.27-12)
- 「[即時転送の設定](#)」 (P.27-12)
- 「[即時転送用のサービス パラメータの設定](#)」 (P.27-12)
- 「[関連項目](#)」 (P.27-13)

即時転送の設定チェックリスト

即時転送 (iDivert) 機能を使用すると、ボイスメール システムへコールを即時に転送できます。コールが転送されると、その回線で新規コールを送受信できるようになります。

表 27-1 に、即時転送を設定する際のチェックリストを示します。即時転送の詳細については、「[即時転送の概要](#)」 (P.27-3) および「[関連項目](#)」 (P.27-13) を参照してください。

表 27-1 即時転送の設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 クラスタ全体のサービス パラメータ Call Park Display Timer のデフォルト値が適切でない場合は、それを変更します。	「 即時転送用のサービス パラメータの設定 」 (P.27-12)
ステップ 2 クラスタ全体のサービス パラメータ Use Legacy Immediate Divert のデフォルト値が適切でない場合は、それを変更します。	「 即時転送用のサービス パラメータの設定 」 (P.27-12)
ステップ 3 クラスタ全体のサービス パラメータ Allow QSIG During iDivert のデフォルト値が適切でない場合は、それを変更します。	「 即時転送用のサービス パラメータの設定 」 (P.27-12)

■ 即時転送の設定チェックリスト

表 27-1 即時転送の設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 4 iDivert User Response Timer サービス パラメータのデフォルト値が適切でない場合は、それを変更します。	「即時転送用のサービス パラメータの設定」 (P.27-12)
ステップ 5 [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで、即時転送にアクセスする各ユーザにボイスメール プロファイルを関連付けます。 (注) この手順は、ボイスメール プロファイルとパイロットが設定されていることを想定しています。 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ボイスメール プロファイルの設定値」 および 「ボイスメール パイロットの設定値」 を参照してください。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話番号の設定値」
ステップ 6 Standard User または Standard Feature ソフトキー テンプレートに Immediate Divert (iDivert) ソフトキーを割り当てます。オンフック、接続時、保留、および呼び出し状態でソフトキーを割り当てます。 Cisco Unified IP Phone 8900 および 9900 シリーズには、デフォルトで Divert ソフトキーが割り当てられています。 (注) 管理者は、Cisco Unified IP Phone 6921、6941、および 6961 の iDivert ソフトキーを割り当てます。一方、ユーザは電話機の画面で Divert を参照します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ソフトキー テンプレートの設定」
ステップ 7 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、即時転送を利用する各デバイスに、Immediate Divert (iDivert) ソフトキーを追加した Standard User または Standard Feature ソフトキー テンプレートを割り当てます。 ヒント 多数のユーザが [即転送] ソフトキーを使用できるようにするには、ソフトキー テンプレートに Immediate Divert (iDivert) ソフトキーを設定し、デバイス プールにそのソフトキー テンプレートを割り当て、即時転送を必要とするすべてのユーザにそのデバイス プールを割り当てます。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
ステップ 8 即時転送機能が使用可能であることをユーザに通知します。	ユーザが Cisco Unified IP Phone で即時転送にアクセスする方法については、電話機のマニュアルを参照してください。

即時転送の概要

即時転送 ([即転送] ソフトキー) 機能を使用すると、ボイスメールシステムへコールを即時に転送できます。コールが転送されると、その回線で新規コールを送受信できるようになります。

即時転送機能は CTI アプリケーションでは使用できませんが、即時転送と同じ機能を実行する CTI 転送操作が存在します。アプリケーション開発者は、CTI 転送操作を使用して、即時転送を実行できます。

即時転送機能にアクセスするには、[即転送] ソフトキーを使用します。このソフトキーは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウを使用して設定します。ソフトキー テンプレートは、Cisco Unified Communications Manager システム内の電話機に割り当てられます。

Cisco Unified Communications Manager の補足サービスである即時転送は、システム内で広く使用できます。即時転送を行う [即転送] ソフトキーは、ユーザがログインしなくても電話機で使用できます。

提供、保留、あるいはアクティブ状態の着信コールを転送できます。アクティブまたは保留状態の発信コールを転送できます。転送される側には、コールの転送先のボイスメールシステムのグリーティングが再生されます。

従来の即時転送では、即時転送機能呼び出した側のボイスメールボックスにコールを転送できます。拡張された即時転送では、即時転送機能呼び出した側のボイスメールボックスまたは元の着信側のボイスメールボックスにコールを転送できます。

拡張された即時転送モードが着信コールについてアクティブになっている場合、コールを受けたユーザは、即時転送呼び出して、自分のボイスメールボックスまたは元の着信側のボイスメールボックスにコールを転送できます。機能呼び出したユーザが [即転送] ソフトキーを押すと、呼び出し側ユーザの電話画面に元の着信側と呼び出し側ユーザの両方が表示されます。ユーザがこの 2 つの名前のいずれかを選択すると、コールは選択された側のボイスメールボックスに転送されます。



(注)

着信コールを転送するためにユーザが即時転送機能呼び出したときに、元の着信側を選択することが可能なのは、クラスタ全体のサービス パラメータ Use Legacy Immediate Divert が [False] に設定されている場合だけです。「[即時転送用のサービス パラメータの設定](#)」(P.27-12)を参照してください。

即時転送のシステム要件

即時転送が機能するには、次のソフトウェア コンポーネントが必要です。

- Cisco Unified Communications Manager 6.0 以降
- 表 27-2 に、Divert または iDivert ソフトキー（電話機上ではいずれも [即転送] と表示）を使用する電話機を示します。

表 27-2 Divert または iDivert ソフトキーを使用する Cisco Unified IP Phone

Cisco Unified IP Phone モデル	Divert ソフトキー	iDivert ソフトキー	ソフトキー テンプレートでの設定内容
Cisco Unified IP Phone 6900 シリーズ (6901 および 6911 を除く)	X		iDivert
Cisco Unified IP Phone 7900 シリーズ		X	iDivert
Cisco Unified IP Phone 8900 シリーズ	X		デフォルトで設定
Cisco Unified IP Phone 9900 シリーズ	X		デフォルトで設定

Cisco Unified IP Phone および即時転送機能の詳細については、次のサイトで電話機のユーザー マニュアルを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps10326/products_user_guide_list.html

http://www.cisco.com/en/US/products/hw/phones/ps379/products_user_guide_list.html

http://www.cisco.com/en/US/products/ps10451/products_user_guide_list.html

http://www.cisco.com/en/US/products/ps10453/products_user_guide_list.html

次のボイスメール システムは即時転送をサポートしています。

- Unity などの Skinny プロトコルを使用するボイスメール システム
- Octel などの SMDI を使用するボイスメール システム

即時転送のコール処理要件

次の項では、即時転送のコール処理要件について説明します。

- 「ソフトキー要件」(P.27-4)
- 「着信コールの要件」(P.27-5)
- 「発信コールの要件」(P.27-6)

ソフトキー要件

Immediate Divert (iDivert) ソフトキーはソフトキー テンプレートで自動的に設定されないので、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウを使用して、使用可能な任意のソフトキー テンプレートで Immediate Divert (iDivert) ソフトキーを設定します。Immediate Divert (iDivert) ソフトキーは、次のコール状態で設定できます。

- 接続時
- 保留
- 呼び出し



(注) ソフトキー テンプレートの呼び出し状態は、電話機のコール状態の提供状態です。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを使用して、Immediate Divert (iDivert) ソフトキーを含むソフトキー テンプレートを電話機に割り当てます。

ソフトキー テンプレートの設定については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ソフトキー テンプレートの設定」を参照してください。電話機へのソフトキー テンプレートの割り当てについては、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」を参照してください。

着信コールの要件

次のリストに、即時転送がサポートするコール転送チェーン内の着信側のタイプを示します。

- ユーザ A がユーザ B に電話をかける。
- ユーザ B がユーザ C に転送する。
- ユーザ C がユーザ D に転送する。

ユーザ B は元々の着信側です。ユーザ C は最後の転送側です。ユーザ D は最後の着信側です。

即時転送は、次の着信コール状態をサポートします。

- 提供
- 保留
- アクティブ

クラスタ全体のサービス パラメータ Use Legacy Immediate Divert が [True] に設定されている場合、着信側が [即転送] ソフトキーを押すと、即時転送によって、この着信側に関連付けられているボイスメール メールボックスに着信コールが転送されます。着信側のボイスメール メールボックスは、着信側の電話番号に割り当てられているボイスメール プロファイルによって管理できます。

クラスタ全体のサービス パラメータ Use Legacy Immediate Divert が [False] に設定されている場合に、着信側が [即転送] ソフトキーを押すと、即時転送によって、着信側は宛先のボイスメールボックスを選択できます。転送済みのコールがある場合は、着信側の画面に表示されず（「[インタラクション](#)」(P.27-9) を参照）。着信側は、元の着信側のボイスメール メールボックスまたは着信側に関連付けられているボイスメール メールボックスにコールを転送するか、[即転送] メニューにある転送をキャンセルできます。元の着信側または着信側のボイスメール メールボックスは、関連付けられた電話番号に割り当てられているボイスメール プロファイルによって管理できます。

ボイスメールについては、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[Cisco ボイスメールパイロットの設定](#)」および「[ボイスメールプロファイルの設定](#)」と、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「[Cisco Unified Communications Manager へのボイスメールの接続性](#)」を参照してください。

発信コールの要件

即時転送は、次の発信コール状態をサポートします。

- 保留
- アクティブ

発信側が [即転送] ソフトキーを押すと、即時転送によって、この発信側に関連付けられているボイスメール メールボックスに発信コールが転送されます。発信側のボイスメール メールボックスは、発信側の電話番号に割り当てられているボイスメール プロファイルを使用して管理できます。

ボイスメールについては、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[Cisco ボイスメールパイロットの設定](#)」および「[ボイスメールプロファイルの設定](#)」と、『*Cisco Unified Communications Manager システムガイド*』の「[Cisco Unified Communications Manager へのボイスメールの接続性](#)」を参照してください。

即時転送の電話機表示メッセージ

即時転送によって IP Phone に次のメッセージが表示され、即時転送アクションのステータスが示されます。

- 「キーがアクティブではありません」:[即転送] を押したユーザのボイスメール プロファイルにボイスメールパイロットがありません。
- 「一時エラー発生」: ボイスメール システムが機能しないか、ネットワークの問題が存在します。
- 「話中」: このメッセージは、ボイスメール システムが通話中であることを示します。

即時転送の使用

次のシナリオでは、即時転送機能の使用例を示します。シナリオ 1～6 は、クラスタ全体のサービス パラメータ Use Legacy Immediate Divert が [True] に設定されていることを前提にしています。シナリオ 7～8 は、クラスタ全体のサービス パラメータ Use Legacy Immediate Divert が [False] に設定されていることを前提にしています。シナリオ 9 はクラスタ全体のサービス パラメータの Use Legacy Immediate Divert と Auto Call Pickup Enabled が [False] に設定されていることを前提にしています。すべてのシナリオで iDivert ソフトキーについて説明しますが、次に挙げた事例では Divert ソフトキーも適用可能です (表 27-2 を参照)。

Use Legacy Immediate Divert サービス パラメータが [True] に設定されている場合の即時転送シナリオ

シナリオ 1: 着信側が [即転送] ソフトキーを押した場合

1. ユーザ A がマネージャ A に電話をかけます。
2. マネージャ A が [即転送] ソフトキーを押します (提供状態)。
3. 即時転送によって、マネージャ A のボイスメール メールボックスにコールが転送されます。
4. ユーザ A にマネージャ A のボイスメール メールボックス グリーティングが再生されます。

シナリオ 2 : 元の着信側のボイスメール プロファイルにボイスメール パイロットがない場合

1. ユーザ A がユーザ B に電話をかけます。
2. コールがアシスタント B の個人回線に転送されます。
3. アシスタント B が [即転送] ソフトキーを押します (提供状態)。
4. 即時転送によって、アシスタント B のボイスメール メールボックスにコールが転送されます。ユーザ B ではボイスメール パイロット番号が設定されていませんが、アシスタント B では設定されています。
5. ユーザ A にアシスタント B のボイスメール メールボックス グリーティングが再生されます。

シナリオ 3 : マネージャ A がマネージャ B へコールを転送する場合

1. ユーザ A がマネージャ A に電話をかけます。
2. マネージャ A の回線はマネージャ B へ転送されます。
3. マネージャ B が [即転送] ソフトキーを押します (提供状態)。
4. 即時転送によって、マネージャ B のボイスメール メールボックスにコールが転送されます。
5. ユーザ A にマネージャ B のボイスメール メールボックス グリーティングが再生されます。

シナリオ 4 : ボイスメール プロファイルで定義されたボイスメール ポートが通話中の場合

1. ユーザ A がユーザ B に電話をかけます。
2. ユーザ B が [即転送] ソフトキーを押します (提供状態)。
3. ボイスメール ポートが通話中なので、即時転送によってボイスメール メールボックスへコールを転送することができません。
4. ユーザ B の IP Phone に「話中」というメッセージが表示されます。
5. 元のコールは提供状態のままです。

シナリオ 5 : 発信側がハント パイロット番号を使用するコール センターに電話をかける場合

1. ユーザ A がハントリスト A に電話をかけます。
2. ハントリスト A のメンバがグレー表示の [即転送] ソフトキーを押します (提供状態)。
3. ハントリスト A にはボイスメール プロファイルがないので、即時転送でボイスメール メールボックスへコールを転送することはできません。
4. ハントリスト A のメンバの IP Phone に「キーがアクティブではありません」というメッセージが表示されます。

シナリオ 6 : 発信側 B が別の Cisco Unified Communications Manager クラスタ上のユーザ C へコールを転送する場合

1. ユーザ A がユーザ B に電話をかけます。
2. ユーザ B が別の Cisco Unified Communications Manager クラスタ上のユーザ C へコールを転送します。
3. ユーザ C が着信コールに応答します。
4. ユーザ C が [即転送] ソフトキーを押します。
5. ユーザ A にユーザ C のボイスメール メールボックス グリーティングが再生されます。

Use Legacy Immediate Divert サービス パラメータが [False] に設定されている場合の即時転送シナリオ

シナリオ 7 : 発信側 A がユーザ B に電話をかけ、ユーザ B がコールをユーザ C に転送する場合

1. ユーザ A がユーザ B に電話をかけます。
2. ユーザ B の電話機からユーザ C にコールが転送されます。
3. ユーザ C に着信コールが表示され、[即時転送] ソフトキーを押します。
4. ユーザ C が [即時転送] ソフトキーを押します。
5. ユーザ C の電話機に、転送先として、ユーザ B のボイスメール メールボックスまたはユーザ C のボイスメール メールボックスを選択するための画面が表示されます。
6. ユーザ C がユーザ B のボイスメール メールボックスを選択します。
7. ユーザ A にユーザ B のボイスメール メールボックス グリーティングが再生されます。

シナリオ 8 : 発信側がハントパイロット番号を使用するコールセンターに電話をかける場合

1. ユーザ A がハントリスト A に電話をかけます。
2. ハントリスト A のメンバが [即時転送] ソフトキーを押します (提供状態)。
3. 即時転送によって、即時転送機能呼び出したハントリスト A のメンバのボイスメールメールボックスにコールが転送されます。
4. ユーザ A にハントリスト A のメンバのボイスメール メールボックス グリーティングが再生されます。

シナリオ 9 : クラスタ全体のサービスパラメータ Auto Call Pickup Enabled が [False] に設定されていて、ユーザがコールピックアップグループに属している場合

1. ユーザ B、ユーザ C、ユーザ D が同じコールピックアップグループに属しています。
2. ユーザ A がユーザ B に電話をかけます。
3. ユーザ B の IP Phone の呼び出し音が鳴りますが、ユーザ B はコールに応答しません。
4. ユーザ C がコールピックアップを使用してコールに応答します。
5. ユーザ C が、アラート、接続中、または保留中のいずれかの状態で [即時転送] ソフトキーを押すと、ユーザ C の IP Phone に選択肢が表示されます。ユーザ C は、即時転送で元の着信側のボイスメールメールボックス (ユーザ B) にコールを転送する、または即時転送で最後の着信側のボイスメールメールボックス (ユーザ C) にコールを転送する、という 2 つのオプションのいずれかを選択できます。



(注)

クラスタ全体のサービスパラメータ Use Legacy Immediate Divert が [False] に設定され、クラスタ全体のサービスパラメータ Auto Call Pickup Enabled が [True] に設定されている場合、コールピックアップグループのユーザがコールピックアップを使用してコールに応答すると、[即時転送] ソフトキーを押しても、IP Phone には選択肢が何も表示されません。

インタラクションおよび制限事項

次の項では、即時転送におけるインタラクションおよび制限事項について説明します。

- 「[インタラクション](#)」 (P.27-9)
- 「[制限事項](#)」 (P.27-10)

インタラクション

次の各項では、即時転送が Cisco Unified Communications Manager アプリケーションおよびコール処理と通信する方法について説明します。

- 「[Multilevel Precedence and Preemption \(MLPP\)](#)」 (P.27-9)
- 「[コールパークのサービスパラメータの設定](#)」 (P.5-11)
- 「[自動転送](#)」 (P.27-9)
- 「[呼詳細レコード \(CDR\)](#)」 (P.27-9)
- 「[会議](#)」 (P.27-9)
- 「[ハントリスト](#)」 (P.27-10)

Multilevel Precedence and Preemption (MLPP)

即時転送と MLPP の間では、次の通信が行われます。

- 即時転送は、コールのタイプ（たとえば、優先コール）に関係なく、ボイスメールメールボックスへコールを転送します。
- Alternate Party Diversion（コールの優先順位）がアクティブになっている場合は、Call Forward No Answer（CFNA; 無応答時転送）が非アクティブになります。

自動転送

[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで無応答時転送を設定しない場合、自動転送はクラスタ全体の CFNA タイマー サービスパラメータ Forward No Answer Timer を使用します。ユーザが自動転送と同時に [即転送] ソフトキーを押すと、コールはボイスメールメールボックスではなく、割り当てられた自動転送先電話番号に転送されます（タイマーが短すぎたため）。この問題を解決するには、CFNA タイマー サービスパラメータを十分な時間に設定します（たとえば、60 秒）。iDivert 画面が即時転送の呼び出し側に表示されている場合、CFNA タイマーの期限が切れると、コールは次のユーザに転送されます。

呼詳細レコード (CDR)

即時転送は、CDR の「Onbehalf of」フィールドに即時転送コード番号（たとえば、joinOnbehalfOf および lastRedirectRedirectOnBehalfOf）を使用します。

会議

会議参加者が [即転送] ソフトキーを押すと、残りの会議参加者が即時転送の発信者のボイスメールメールボックス グリーティングを受信します。会議のタイプには、アドホック、ミー トミー、割り込み、C 割り込み、および参加があります。

ハント リスト

即時転送は、回線グループのメンバである DN に対して次のように機能します。

- [即転送] ソフトキーが有効であることを確認します。
- クラスタ全体のサービス パラメータ Use Legacy Immediate Divert が [True] に設定されている場合、ハント リストパイロット（ハンティング アルゴリズムの一部として）から電話機に直接着信するコールにおいて、[即転送] ソフトキーはグレー表示になります。[False] に設定されている場合は、グレー表示になりません。
- クラスタ全体のサービス パラメータ Use Legacy Immediate Divert が [True] または [False] に設定されている場合、ハント リストパイロット（ハンティング アルゴリズムの一部として）から電話機に直接着信しないコールにおいて、[即転送] ソフトキーはグレー表示になりません（これには、ハント リストパイロットにコールが発信された場合、ハント リストが期限切れになった場合、および DN へのディスポジション転送後にコールが発信され、この DN 自体がハント グループのメンバであった場合が含まれます。これは、ハント リストパイロットを通じてハント グループのメンバに間接的にコールされるケースを表します）。

制限事項

即時転送には、次の制限事項があります。

- 即時転送は、クラスタ全体のサービス パラメータの Use Legacy Immediate Divert および Allow QSIG During iDivert の設定値に応じて、QSIG デバイス（QSIG 対応 H-323 デバイス、MGCP PRI QSIG T1 ゲートウェイ、および MGCP PRI QSIG E1 ゲートウェイ）をサポートします。詳細については、「[即時転送用のサービス パラメータの設定](#)」(P.27-12) を参照してください。QSIG トランク経由で即時転送が許可されている場合は、次のガイドラインに従います。ボイスメール システムと QSIG を統合している場合は、ボイスメールパイロットまたはボイスメール マスクのいずれかまたは両方を含むボイスメール プロファイルでは、[システムのデフォルトボイスメールプロファイルに設定 (Make this the default Voice Mail Profile for the System)] チェックボックスをオフのままにします。デフォルトの [ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)] は、常に [ボイスメールなし (No Voice Mail)] に設定してください。
- Call Forward All (CFA; 不在転送) と Call Forward Busy (CFB; 話中転送) がアクティブになっている場合、システムは即時転送をサポートしません（CFA と CFB は即時転送よりも優先されます）。
- ローカル /SCCP 接続を介してボイスメール システムに到達すると、即時転送はボイスメール ポートが話し中の状態にあることを検出できます（コールは、話し中のボイスメール システムには転送できませんが、元のコールは維持されます。即時転送が呼び出された電話機の画面に「話中」と表示され、コールが転送されなかったことが通知されます）。ボイスメール システムに QSIG トランクまたは SIP トランク経由で到達する場合、即時転送は検出できますがコールは維持されません。クラスタ全体のサービス パラメータ Allow QSIG During iDivert が [True] に設定されているか、クラスタ全体のサービス パラメータ Use Legacy Immediate Divert が [False] に設定されている場合、即時転送は、QSIG トランクや SIP トランク経由で到達可能なボイスメール システムへのアクセスをサポートします。クラスタ全体のサービス パラメータ Allow QSIG During iDivert が [False] に設定されており、クラスタ全体のサービス パラメータ Use Legacy Immediate Divert が [True] に設定されている場合、即時転送は、QSIG トランクや SIP トランクを経由したボイスメール システムへのアクセスをサポートしません。即時転送は通話中のボイスメール ポートへコールを転送できませんが、ボイスメール ポートをルートまたはハント リストのメンバにすることによって、ポートが通話中というシナリオを減らすことができます。

- クラスタ全体のサービス パラメータ Use Legacy Immediate Divert が [True] に設定されている場合、ハントリストのメンバは、コールが直接転送であれば、即時転送を呼び出すことができます。回線グループのメンバとして到達した場合は即時転送を呼び出せません。IP Phone にメッセージ「キーがアクティブではありません」が表示されます。
- Cisco Unified Communications Manager がダウンした場合は、Cisco Unified Communications Manager がダウンする前に転送先とボイスメール システムの間にメディア パスが確立されていない限り、ユーザはボイスメールを保持できません。
- システムは、迷惑呼 ID 機能と即時転送機能を同時にサポートしません。
- CTI アプリケーションでは即時転送を使用できません（アプリケーションは VM 転送を使用します）。
- IP Phone で即時転送テキスト表示のタイマーを制御するには、Call Park Display Timer サービス パラメータを使用します。このサービス パラメータが変更されると、即時転送のテキスト表示タイマーも変更されます。
- MLPP の使用の制限事項については、「[Multilevel Precedence and Preemption \(MLPP\)](#)」(P.27-9) を参照してください。
- [即転送] ソフトキーが押された場合、無応答時転送のタイムアウトとの関係で競合条件が発生します。たとえば、マネージャが無応答時転送のタイムアウトの直後に [即転送] ソフトキーを押すと、自動転送によって、事前設定された電話番号へコールが転送されます。ただし、マネージャが無応答時転送のタイムアウトの前に [即転送] ソフトキーを押した場合は、即時転送によってマネージャのボイスメール ボックスへコールが転送されます。
- 発信側と着信側は、両方が同時に [即転送] ソフトキーを押すことによって、それぞれのボイスメール メールボックスへコールを転送できます。発信側のボイスメール メールボックスには、着信側の発信グリーティングの一部が含まれます。同様に、着信側のボイスメール メールボックスには、発信側の発信グリーティングの一部が含まれます。
- 会議の参加者が [即転送] ソフトキーを押すと、残りのすべての参加者が、[即転送] を押した参加者の発信グリーティングを受信します。会議のタイプには、ミーティング、アドホック、C 割り込み、および参加があります。
- コールでの最後のアクションが自動ピックアップ、コールの転送、コールパーク、コールパーク復帰、会議、ミーティング会議の場合、または任意のアプリケーションで分割または結合の操作を実行した場合、拡張された即時転送機能では、着信側の電話画面にボイスメール メールボックスの選択肢が表示されません。その代わりに、拡張された即時転送は、着信側に関連付けられているボイスメール メールボックスにコールを即時転送します。
- QSIG トランク経由で即時転送が許可されている場合は、次のガイドラインに従います。ボイスメール システムと QSIG を統合している場合は、ボイスメール パイロットまたはボイスメール マスクのいずれかまたは両方を含むボイスメール プロファイルでは、[システム のデフォルトボイスメールプロファイルに設定 (Make this the default Voice Mail Profile for the System)] チェックボックスをオフのままにします。デフォルトの [ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)] は、常に [ボイスメールなし (No Voice Mail)] に設定してください。

即時転送のインストールとアクティブ化

システム機能の即時転送は、Cisco Unified Communications Manager ソフトウェアに標準で備わっています。即時転送は、特にインストールする必要はありません。

即時転送の設定

この項の内容は次のとおりです。

- 「[即時転送の設定チェックリスト](#)」(P.27-1)
- 「[即時転送用のサービスパラメータの設定](#)」(P.27-12)



ヒント

即時転送を設定する前に、「[即時転送の設定チェックリスト](#)」(P.27-1)を参照してください。

即時転送用のサービスパラメータの設定

即時転送機能の動作は、各サービスパラメータの設定によって異なります。即時転送機能に影響を与えるサービスパラメータについて、次に説明します。

クラスタ全体のサービスパラメータ Call Park Display Timer

即時転送は、Cisco Unified Communications Manager のクラスタ全体のサービスパラメータ Call Park Display Timer を使用します。このサービスパラメータのデフォルトは 10 秒です。IP Phone で即時転送テキスト表示のタイマーを制御するには、Call Park Display Timer サービスパラメータを使用します。このサービスパラメータが変更されると、即時転送のテキスト表示タイマーも変更されます。このタイマーは、Cisco CallManager サービスと即時転送が設定されたクラスタ内の各サーバに対して設定します。

テキスト表示については、「[即時転送の電話機表示メッセージ](#)」(P.27-6)を参照してください。

クラスタ全体のサービスパラメータ Use Legacy Immediate Divert

即時転送では、クラスタ全体のサービスパラメータ Use Legacy Immediate Divert が [False] に設定されている場合にのみ、元の着信側のボイスメールボックスまたは即時転送機能呼び出したユーザのボイスメールボックスのいずれかに着信コールを転送できます。Use Legacy Immediate Divert サービスパラメータが [True] に設定されている場合、即時転送機能呼び出したユーザは、着信コールを自身のボイスメールボックスにのみ転送できます。

クラスタ全体のサービスパラメータ Use Legacy Immediate Divert を [False] に設定すると、QSIG 経由で到達するボイスメールシステムにアクセスできます。

クラスタ全体のサービスパラメータ Allow QSIG During iDivert

クラスタ全体のサービスパラメータ Allow QSIG During iDivert が [True] に設定されている場合、即時転送は QSIG、SIP、および QSIG 対応 H.323 デバイス経由で到達可能なボイスメールシステムにコールを転送します。

Immediate Divert User Response Timer サービスパラメータ

Immediate Divert User Response Timer サービスパラメータの値によって、コールの転送先を選択するために [即時転送] ソフトキーの呼び出し側が使用できる時間が決まります。呼び出し側が宛先を選択しない場合、コールは接続状態のままになります。

関連項目

- 「[即時転送の設定チェックリスト](#)」 (P.27-1)
- 「[即時転送の概要](#)」 (P.27-3)
- 「[即時転送のシステム要件](#)」 (P.27-4)
- 「[Use Legacy Immediate Divert サービス パラメータが \[False\] に設定されている場合の即時転送シナリオ](#)」 (P.27-8)
- 「[即時転送のインストールとアクティブ化](#)」 (P.27-12)
- 「[即時転送の設定](#)」 (P.27-12)
- 「[即時転送用のサービス パラメータの設定](#)」 (P.27-12)
- 『[Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド](#)』の「[Cisco Unified IP Phone の設定](#)」
- 『[Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド](#)』の「[ソフトキーテンプレートの設定](#)」
- 『[Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド](#)』の「[Cisco ボイス メールパイロットの設定](#)」
- 『[Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド](#)』の「[ボイスメールプロファイルの設定](#)」
- 『[Cisco Unified Communications Manager システムガイド](#)』の「[Cisco Unified Communications Manager へのボイスメールの接続性](#)」

参考資料

- Cisco Unified IP Phone の管理資料 (Cisco Unified Communications Manager 用)
- Cisco Unified IP Phone のユーザ資料



CHAPTER 28

インターコム

インターコムは、従来の回線とスピードダイヤルの機能を組み合わせたタイプの電話回線です。インターコム回線を使用すると、ユーザは別のユーザのインターコム回線にコールできません。その結果、着信側のインターコム回線が自動応答し、片通話のウィスパー状態になります。次に、受信者はウィスパー状態のコールを認識し、双方向のインターコム コールを開始することができます。

次の各項で、インターコムについて説明します。

- 「[インターコムの設定チェックリスト](#)」 (P.28-1)
- 「[インターコムの概要](#)」 (P.28-3)
- 「[システム要件](#)」 (P.28-4)
- 「[コール状態と回線状態](#)」 (P.28-5)
- 「[インタラクションおよび制限事項](#)」 (P.28-6)
- 「[インターコムのインストールとアクティブ化](#)」 (P.28-8)
- 「[インターコムの設定](#)」 (P.28-8)
- 「[インターコムの使用方法](#)」 (P.28-43)
- 「[関連項目](#)」 (P.28-58)

インターコムの設定チェックリスト

インターコムは、従来の回線とスピードダイヤルの機能を組み合わせたタイプの電話回線です。インターコム回線を使用すると、ユーザは別のユーザのインターコム回線にコールできません。その結果、着信側のインターコム回線が自動応答し、片通話のウィスパー状態になります。次に、受信者はウィスパー状態のコールを認識し、双方向のインターコム コールを開始することができます。

ユーザは、インターコム回線を使用して、インターコムパーティション内の他のインターコム回線にダイヤルすることができます。また、管理者が、インターコムパーティションの外部のインターコム回線を発信先とするように、回線を事前設定することもできます。



(注)

ユーザがインターコム回線を使用してダイヤルできるのは、他のインターコム回線に対してのみです。

■ インターコムの設定チェックリスト

インターコムを使用すると、ユーザは、事前に定義された発信先にコールを発信できます。着信側は、ミュートが有効になった状態のスピーカフォンモードで、コールに自動応答します。この結果、発信側と着信側の間に片方向の音声パスが確立します。そのため、発信側は、着信側がビジー状態であるかアイドル状態であるかに関係なく、短いメッセージを送信できます。

インターコム コールが自動応答されたときに着信側の音声が発信側に送信されないことを保証するために、Cisco Unified Communications Manager はウィスパー インターコムを実装しています。ウィスパー インターコムでは、発信側から着信側への片通話だけが確立します。着信側では、発信側と会話するには、特定のキーを手動で押す必要があります。



(注) 自動応答トーンによって、ウィスパー状態になったことが送信者と受信者の両方に示されます。

表 28-1 に、Cisco Unified Communications Manager で Cisco Unified Communications Manager インターコム機能を設定するための論理的なステップを示します。インターコムの詳細については、「[インターコムの概要](#)」(P.28-3) および「[関連項目](#)」(P.28-58) を参照してください。

表 28-1 Cisco Unified Communications Manager インターコムの設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 インターコムパーティションを作成します。 (注) インターコムパーティションを作成すると、管理ユーザインターフェイスにより、対応する同名前のインターコム用コーリングサーチスペースが自動的に生成され、最初にこのインターコムパーティションが含まれます。	「 インターコムパーティションの設定 」(P.28-9)
ステップ 2 インターコム用コーリングサーチスペースを作成します。 (注) このステップは、インターコムパーティションの作成時に自動的に生成されるインターコム用コーリングサーチスペースとは別のものを作成する場合に実行してください。	「 インターコムコーリングサーチスペースの設定 」(P.28-17)
ステップ 3 インターコムトランスレーションパターン(任意)を作成します。	「 インターコムトランスレーションパターンの設定 」(P.28-22)
ステップ 4 インターコム電話番号を作成します。	「 インターコム電話番号の設定 」(P.28-33)
ステップ 5 インターコム電話番号を電話機に割り当てます。	『 <i>Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド</i> 』の「 電話番号の設定 」 「 インターコム回線とスピードダイヤルの設定 」(P.28-42)

インターコムの概要

インターコムは、従来の回線とスピードダイヤルの機能を組み合わせたタイプの電話回線です。インターコム回線を使用すると、ユーザは別のユーザのインターコム回線にコールできます。その結果、着信側のインターコム回線が自動応答し、片通話のウィスパー状態になります。次に、受信者はウィスパー状態のコールを認識し、双方向のインターコム コールを開始することができます。

ユーザは、インターコム回線を使用して、インターコムパーティション内の他のインターコム回線にダイヤルすることができます。また、管理者が、インターコムパーティションの外部のインターコム回線を発信先とするように、回線を事前設定することもできます。



(注)

ユーザがインターコム回線を使用してダイヤルできるのは、他のインターコム回線に対してのみです。

インターコムを使用すると、ユーザは、事前に定義された発信先にコールを発信できます。着信側は、ミュートが有効になった状態のスピーカフォンモードで、コールに自動応答します。この結果、発信側と着信側の間に片方向の音声パスが確立します。そのため、発信側は、着信側がビジー状態であるかアイドル状態であるかに関係なく、短いメッセージを送信できます。

インターコム コールが自動応答されたときに着信側の音声が発信側に送信されないことを保証するために、Cisco Unified Communications Manager はウィスパー インターコムを実装しています。ウィスパー インターコムでは、発信側から着信側への片通話だけが確立します。着信側では、発信側と会話するには、特定のキーを手動で押す必要があります。



(注)

自動応答トーンによって、ウィスパー状態になったことが送信者と受信者の両方に示されます。

インターコム電話番号とデフォルト デバイス

インターコム回線ごとにデフォルト デバイスが必要です。インターコム機能では、インターコム回線をアクティブとして表示するには、[インターコム電話番号の設定 (Intercom Directory Number Configuration)] ウィンドウの [デフォルトのアクティブデバイス (default activated device)] フィールドを設定する必要があります。インターコム回線は、指定されたデフォルト デバイスにのみ表示されます。

管理者がインターコム回線をデバイスに割り当てた場合、そのデバイスは、そのインターコム回線用のデフォルト デバイスとして設定されます (未設定だった場合)。管理者は、インターコム回線用のデフォルト デバイスを変更できます。管理者がデフォルト デバイスを別のデバイスに変更した場合、元のデバイスにインターコム回線が割り当てられたままであっても、そのインターコム回線は元のデバイスから削除されます。

インターコム回線をデバイス プロファイルに割り当てることができます。インターコム回線が使用可能になるのは、ユーザがデバイス プロファイルを使用して、そのインターコム回線のデフォルト デバイスにログインした場合に限られます。ユーザが別のデフォルト デバイスにログインした場合、インターコム回線は表示されません。

設定の詳細については、「[インターコム電話番号の設定](#)」(P.28-33) を参照してください。



(注)

設定済みのインターコム回線を電話機に割り当てても、その回線が電話機に表示されない場合は、そのインターコム回線用の [デフォルトのアクティブデバイス (default activated device)] の値をそのデバイスに設定したことを確認します。その設定が正しい場合は、設定後に電話機をリセットしたことを確認します。

インターコム電話番号と Cisco エクステンション モビリティ

インターコム電話番号（回線）は、各インターコム回線の 1 つのデバイスに制限されていることに注意してください。Cisco エクステンション モビリティは広く使用されているため、モバイルユーザにはインターコム機能が必要ですが、この機能を使用できるデバイスは 1 つに制限する必要があります。1 つの標準デバイスまたはエクステンション モビリティ プロファイルに複数のインターコム回線を割り当てることは可能ですが、システムでは、1 つの標準デバイスまたはエクステンション モビリティ プロファイルに関連付けるインターコム回線は 1 つに制限する必要があります。

エクステンション モビリティ プロファイルは複数の電話機で同時に使用できるため、[デフォルトのアクティブデバイス (default activated device)] フィールドを使用して、このインターコム回線を表示できるデバイスを指定する必要があります。エクステンション モビリティ用に使用されないインターコム回線についても、[デフォルトのアクティブデバイス (default activated device)] フィールドを設定する必要があります。

Cisco Unified Communications Manager のリリース 6.0(1) からリリース 6.1(1) 以降にアップグレードする方法の詳細については、「Cisco エクステンション モビリティ」の章の「インターコム」の項を参照してください。

システム要件

インターコム機能のシステム要件は次のとおりです。

- Cisco Unified Communications Manager リリース 6.0 以降
- Microsoft Internet Explorer (IE) 7、Internet Explorer 8、Firefox 3.x、または Safari 4.x
- Cisco Unified IP Phone ファームウェア リリース 8.3(1) 以降

Cisco Unified IP Phone のインターコム サポート

インターコム機能をサポートするデバイスのリストは、バージョンおよびデバイス パックによって異なります。

Cisco Unified Reporting アプリケーションを使用して、インターコム機能をサポートしている、特定のリリースおよびデバイス パックのデバイスの全リストを生成します。そのためには、次の手順に従います。

1. 次のいずれかの方法を使用して、Cisco Unified Reporting を起動します。

Web アプリケーションへのアクセスを許可されるまで、ユーザの認証には Cisco Tomcat サービスが使用されます。アプリケーションには次の方法でアクセスできます。

- Cisco Unified Communications Manager の管理ページのナビゲーション メニューで [Cisco Unified Reporting] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool (RTMT) メニューで [File] > [Cisco Unified Reporting] の順に選択します。
- `https://<サーバ名または IP アドレス>:8443/cucreports/` と入力し、認証済みのユーザ名とパスワードを入力します。

2. ナビゲーション バーで、[System Reports] をクリックします。
3. 左側のカラムに表示されたレポートのリストで、[Unified CM Phone Feature List] オプションをクリックします。

4. [Generate a new report] リンクをクリックして新規レポートを生成するか、または、レポートがすでに存在する場合は、[Unified CM Phone Feature List] リンクをクリックします。
5. インターコムがサポートされているすべてのデバイスのレポートを生成するには、各ドロップダウン リスト ボックスから次の設定を選択し、[Submit] ボタンをクリックします。

[Product] : [All]

[Feature] : [Intercom]

[List Features] ペインに、インターコム機能がサポートされているすべてのデバイスのリストが表示されます。カラムの見出し ([Product] または [Protocol]) の隣にある上下の矢印キーをクリックして、リストをソートできます。

Cisco Unified Reporting アプリケーションの詳細については、次の URL の『Cisco Unified Reporting Administration Guide』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html

コール状態と回線状態

インターコムでは、インターコム回線の新しいコール状態としてウィスパーが導入されています。また、アイドル、接続時、オフフック、および先頭桁入力後という既存の回線状態も使用されます。

複数のインターコム コールが同時に発生することはないため、インターコムのコール状態は回線状態に直接対応付けられ、コールのソート規則もそのまま維持されます。

表 28-2 に、インターコムのコール状態と回線状態を示します。

表 28-2 インターコムのコール状態と回線状態

	アイドル	ウィスパー	オフフック	先頭桁入力後	接続時
説明	インターコムがアイドル状態です。	ウィスパー状態では、受信者は発信者の音声を受信しますが、発信者は受信者の音声を受信しません。受信者に接続されている他のアクティブ コールの発信者は、インターコムの発信者の音声を受信しません。	この状態は、発信先が事前設定されていない状況で、インターコムの発信先をダイヤルする場合にのみ表示されます。	この状態は、発信先が事前設定されていない状況で、インターコムの発信先をダイヤルする場合にのみ表示されます。	接続時は、インターコム機能の接続された状態を表します。
LED の動作	LED は点灯しない	機能キー：オレンジ色に点灯	機能キー：オレンジ色に点灯	機能キー：オレンジ色に点灯	機能キー：緑色に点灯
アイコン	アイドル	ウィスパー	ウィスパー	ウィスパー	接続時

表 28-2 インターコムのコール状態と回線状態 (続き)

	アイドル	ウィスパー	オフフック	先頭桁入力後	接続時
ソフトキー テンプレート	デフォルトの Cisco Unified Communications Manager テンプレ レート	接続時 (機能なし)	インターコム オ フフック	デフォルトの Unified CM Digits After First テンプレート、 接続時 (機能なし)	接続時 (機能なし)
その他		ウィスパー状態にな る前に自動応答トー ンが聞こえます。	「内部」ダイヤル トーン。	ダイヤル トーンは 発生しません。	

インタラクシオンおよび制限事項

次の項では、インターコムに関連するインタラクシオンおよび制限事項について説明します。

- 「[インタラクシオン](#)」 (P.28-6)
- 「[制限事項](#)」 (P.28-8)

インタラクシオン

次の各項では、インターコムが Cisco Unified Communications Manager アプリケーションおよびコール処理とどのように通信するかについて説明します。

- 「[一括管理ツール](#)」 (P.28-6)
- 「[割り込み](#)」 (P.28-7)
- 「[サイレント \(DND; Do Not Disturb\)](#)」 (P.28-7)
- 「[コール保存](#)」 (P.28-7)
- 「[Cisco Unified Survivable Remote Site Telephony \(SRST\)](#)」 (P.28-7)
- 「[Cisco Unified Communications Manager Assistant](#)」 (P.28-7)
- 「[CTI](#)」 (P.28-7)
- 「[Cisco エクステンション モビリティ](#)」 (P.28-7)
- 「[インターネット プロトコルバージョン 6 \(IPv6\)](#)」 (P.28-8)

一括管理ツール

Cisco Unified Communications Manager の管理者は、一括管理ツール (BAT) を使用すると、多数のインターコム ユーザを一度に追加できます。ユーザを 1 人ずつ追加する必要はありません。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド*』を参照してください。

割り込み

インターコムの発信先が割り込みの発信先と同じ場合でも、Cisco Unified IP Phone はウィスパー インターコムをサポートできます。

発信先がインターコム ボタンを押してインターコム発信側と会話する場合、最初のコールは保留になっているため、割り込みの発信側はリリースされます。

サイレント (DND; Do Not Disturb)

インターコム コールは、発信先の電話機の DND よりも優先されます。

コール保存

コールが保存された場合、電話機が Cisco Unified Communications Manager に再登録できるようになるには、エンドユーザが電話を切る必要があります。インターコム コールがウィスパーモードの場合、このコールは片方向メディアであるため、受信側にはユーザが存在しない可能性があります。したがって、保存されるのは、トークバック モードのインターコム コールのみとなります (ウィスパー インターコムは保存されません)。

Cisco Unified Survivable Remote Site Telephony (SRST)

Cisco Unified IP Phone は SRST に登録されている場合、インターコム回線を登録しません。したがって、電話機が SRST に登録されている場合、インターコム機能は使用できません。

Cisco Unified Communications Manager Assistant

『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified Communications Manager Assistant Configuration Wizard」の章を参照してください。

CTI

CTI/JTAPI/TSP を使用すると、インターコム回線の事前設定された発信先電話番号を設定または変更できます。Cisco Unified Communications Manager の管理ページから発信先電話番号を更新または再設定した場合は、通知を受信します。

CTI/JTAPI/TSP には下位互換性があることに注意してください。ただし、インターコム回線がアプリケーションによって制御されるように設定されている場合を除きます。インターコム回線がアプリケーション ユーザのリストに設定されている場合は、リストから除外し、互換性をテストする必要があります。

Cisco エクステンション モビリティ

インターコム機能は、Cisco エクステンション モビリティと通信します。ユーザが Cisco エクステンション モビリティを使用して、インターコム機能をサポートする電話機にログインする場合、ログインに使用するデバイス プロファイルでインターコム回線がプロビジョニングされているときは、インターコム回線が表示されます。その電話機は、そのインターコム回線用のデフォルト デバイスである必要があります。

設定の詳細については、「Cisco エクステンション モビリティ」(P.9-1) および「インターコム電話番号の設定」(P.28-33) を参照してください。

インターネット プロトコル バージョン 6 (IPv6)

インターコムは、[IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv4 のみ (IPv4 Only)] または [IPv4 と IPv6(IPv4 and IPv6)] の電話機をサポートできます。インターコム コール中に、トークバック モードにより、発信側がインターコムを開始するときに使用されるメディア ストリームと同じ IP バージョンのメディア ストリームが確立されます。IPv6 の詳細については、「[インターネット プロトコル バージョン 6 \(IPv6\)](#)」(P.29-1) を参照してください。

制限事項

インターコム機能には、次の制限事項があります。

- インターコム コールは、カバレッジパスには従いません。
- 保留：インターコム コールは保留にできません。
- 自動転送：インターコム コールは自動転送できません。
- コール転送：インターコム コールは転送できません。
- 即時転送：インターコム コールは即時転送できません。
- コール ピックアップ / ダイレクト コール ピックアップ：コール ピックアップ グループには、インターコム コールは含まれません。
- DND：インターコムは、Do Not Disturb (DND; サイレント) よりも優先されます。
- 帯域幅が不足していると、インターコム コールは失敗します。
- 2つのインターコム コールが発信先に送信された場合、最初のコールは到達しますが、2つ目のコールはビジー トーンにより失敗します。
- 割り込みおよびC割り込み：インターコムは、割り込みおよびC割り込みとは連携しません。
- 会議：インターコム コールでは、会議はできません。
- アクティブ コールが監視または録音されている場合、インターコム コールを受信または発信することはできません。
- インターコムでは、ビデオはサポートされません。

インターコムのインストールとアクティブ化

インターコムは Cisco Unified Communications Manager リリース 6.0 以降に標準で搭載されているため、自動的にインストールされ、アクティブになります。

インターコムの設定

インターコム機能を使用するには、発信側と着信側の両方の電話機で、専用のインターコム回線ボタンが必要になります。この回線には、インターコム コードである独自の電話番号 (DN) と、パーティション (インターコム グループ) が割り当てられます。このインターコム回線のコーディング サーチ スペースは、この電話機からインターコムの発信先へのアクセスを制限するために使用されます。



(注) インターコム機能が無許可の電話機によって不用意に使用されないことを保証するために、インターコム機能を除く他の管理ウィンドウからは、ユーザがインターコムパーティションとインターコム コーリング サーチ スペースにアクセスできないようになっています。



(注) インターコム回線を複数のデバイスで共有することはできません。インターコム回線には、自動転送、ピックアップ、およびボイスメール プロファイルなど、他の機能関連の設定を行わないでください。



ヒント 電話機には複数のインターコム ボタンを割り当てることができます。

この項は、次の内容で構成されています。

- 「[インターコムパーティションの設定](#)」 (P.28-9)
- 「[インターコム コーリング サーチ スペースの設定](#)」 (P.28-17)
- 「[インターコム トランスレーション パターンの設定](#)」 (P.28-22)
- 「[インターコム電話番号の設定](#)」 (P.28-33)



ヒント インターコムを設定する前に、「[インターコムの設定チェックリスト](#)」 (P.28-1) を確認してください。

インターコムパーティションの設定

インターコムパーティションには、電話番号 (DN) およびルートパターンが登録されているルートパターンのリストが含まれています。パーティションは、編成、ロケーション、およびコールタイプに基づいて、ルートプランを複数の論理サブセットに分割することにより、コールルーティングを容易にするものです。パーティションの詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[パーティションおよびコーリング サーチ スペース](#)」を参照してください。

インターコムパーティションを検索、追加、更新、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- 「[インターコムパーティションの追加](#)」 (P.28-10)
- 「[インターコムパーティションの検索](#)」 (P.28-10)
- 「[インターコムパーティションの設定](#)」 (P.28-12)
- 「[インターコムパーティションの設定値](#)」 (P.28-13)
- 「[インターコムパーティションと影響を受けるデバイスの同期化](#)」 (P.28-15)
- 「[インターコムパーティションの削除](#)」 (P.28-15)
- 「[インターコム コーリング サーチ スペースの設定](#)」 (P.28-17)

インターコムパーティションの追加

新しいインターコムパーティションを追加する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Communications Manager の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] ウィンドウから [コールルーティング (Call Routing)] > [インターコム (Intercom)] > [インターコムルートパーティション (Intercom Route Partition)] の順に選択します。

[インターコムパーティションの検索と一覧表示 (Find and List Intercom Partitions)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] ボタンをクリックします。

[新規インターコムパーティションの追加 (Add new Intercom Partition)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [インターコムパーティション情報 (Intercom Partition Information)] セクションの下の [名前 (Name)] ボックスに、追加するインターコムパーティションの名前と説明を入力します。



(注) 複数のパーティションを入力するには、各パーティションエントリに対して 1 行を使用します。最大 75 のパーティションを入力できます。入力できる文字数は、それぞれの名前と説明を合計して 1475 文字までです。パーティション名は 50 文字までです。各行のパーティション名と説明はカンマ (,) で区切ってください。説明を入力しなかった場合、Cisco Unified Communications Manager は、パーティション名を説明として使用します。

[インターコムパーティションの検索と一覧表示 (Find and List Intercom Partitions)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 「[インターコムパーティションの検索](#)」 (P.28-10) の **ステップ 2** に進みます。

インターコムパーティションの検索

インターコムパーティションの検索と一覧表示のウィンドウを使用すると、インターコムパーティションを検索できます。インターコムパーティションは、電話番号 (DN) およびルートパターンが登録されているルートパターンのリストです。パーティションは、編成、ロケーション、およびコールタイプに基づいて、ルートプランを複数の論理サブセットに分割することにより、コールルーティングを容易にするものです。

ネットワーク内にはいくつかのインターコムパーティションが存在することがあるので、Cisco Unified Communications Manager では、固有の条件を指定して、固有のインターコムパーティションを特定することができます。インターコムパーティションを特定する手順は、次のとおりです。



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、インターコムパーティションの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してから、このメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えない限り、インターコムパーティションの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [インターコム (Intercom)] > [インターコムルートパーティション (Intercom Route Partition)] の順に選択します。

[インターコム電話番号の検索と一覧表示 (Find and List Intercom Directory Numbers)] ウィンドウが表示されます。ウィンドウには、アクティブな (前の) クエリーのレコードも表示される場合があります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空になっていることを確認し、**ステップ 3** に進みます。

特定のレコードをフィルタリングまたは検索するには、次の操作を実行します。

- 最初のドロップダウンリストボックスで、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウンリストボックスで、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索文字を入力します。



(注) 別の検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加した場合は、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして、最後に追加された条件を削除するか、または [フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加されたすべての検索条件を削除します。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

条件に一致するレコードがすべて表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウンリストボックスで別の値を選択すると、各ページに表示される項目数を変更できます。



(注) 適切なレコードの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、データベースから複数のレコードを削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 表示されたレコードリストから、目的のレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順を逆にするには、リストのヘッダーにある上矢印または下矢印をクリックします (使用可能な場合)。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[インターコム コーリング サーチ スペースの設定](#)」(P.28-17) を参照してください。

インターコムパーティションの設定

インターコムパーティションを設定する手順は、次のとおりです。



(注) 新しいインターコムパーティションを追加する場合、Cisco Unified Communications Manager により、新しいパーティションだけが含まれた新しいインターコムコーリング検索スペースが自動的に追加されます。新しいインターコムコーリング検索スペースは後で変更できます。



(注) インターコムパーティションおよびインターコムコーリング検索スペースと、標準回線のパーティションおよびコーリング検索スペースを混在させることはできません。

手順

- ステップ 1** メニューバーで [コールルーティング (Call Routing)] > [インターコム (Intercom)] > [インターコムルートパーティション (Intercom Route Partition)] の順に選択します。
[インターコムパーティションの検索と一覧表示 (Find and List Intercom Partitions)] ウィンドウが表示されます。
「[インターコムパーティションの検索](#)」(P.28-10) の手順に従って、設定するパーティションを検索し、**ステップ 2** に進みます。
- ステップ 2** 適切な設定値を入力します (表 28-3 を参照)。
- ステップ 3** [保存 (Save)] をクリックします。
[インターコムパーティションの設定 (Intercom Partition Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** 適切な設定値を入力します (表 28-5 を参照)。
インターコムパーティションを更新している場合は、[リセット (Reset)] をクリックするか、「[インターコムパーティションと影響を受けるデバイスの同期化](#)」(P.28-15) で説明されている [設定の適用 (Apply Config)] ボタンを使用します。

追加情報

「[インターコムコーリング検索スペースの設定](#)」(P.28-17) を参照してください。

インターコムパーティションの設定値

インターコムパーティションには、電話番号 (DN) およびルートパターンが登録されているルートパターンのリストが含まれています。パーティションは、編成、ロケーション、およびコールタイプに基づいて、ルートプランを複数の論理サブセットに分割することにより、コールルーティングを容易にするものです。パーティションの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「パーティションおよびコーリングサーチスペース」を参照してください。

表 28-3 に、新しいインターコムパーティションを追加する場合のインターコムパーティションの設定値を示します。関連する手順については、「インターコムコーリングサーチスペースの設定」(P.28-17) を参照してください。

表 28-3 新しいインターコムパーティションの追加での設定値

フィールド	説明
[インターコムパーティション情報 (Intercom Partition Information)]	
[名前 (Name)]	<p>[名前 (Name)] ボックスに名前を入力します。各インターコムパーティション名が、そのルートプランに固有の名前であることを確認してください。インターコムパーティション名には、a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9 のほか、スペース、ハイフン (-)、およびアンダースコア文字 (_) を使用できます。</p> <p>(注) インターコムパーティション名の長さによって、インターコムコーリングサーチスペースに追加できるインターコムパーティションの最大数が制限されます。表 28-4 に、インターコムパーティション名が固定長である場合にインターコムコーリングサーチスペースに追加できるインターコムパーティションの最大数の例を示します。</p> <p>インターコムパーティション名の後にカンマ (,) を入力してから、そのパーティション名と同じ行に説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、山カッコ (<>)、角カッコ ([])、アンパサンド (&)、およびパーセント記号 (%) は使用できません。</p> <p>説明を入力しない場合は、Cisco Unified Communications Manager が、自動的にこのフィールドにインターコムパーティション名を入力します。</p> <p>各インターコムパーティションおよび説明には新しい行を使用してください。</p>



ワンポイントアドバイス

インターコムパーティションには、内容を表す簡潔な名前を使用してください。通常、CompanynameLocationCalltype の形式が、内容を簡潔に表し、インターコムパーティションをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、「CiscoDallasMetroPT」は、Dallas の Cisco オフィスからの、LATA (Local Access and Transport Area) 間の無料コール用のパーティションを特定できます。



ヒント

必要に応じて、[インターコムパーティション情報 (Intercom Partition Information)] の [名前 (Name)] テキスト ボックスにインターコム パーティション名および説明を入力することにより、複数のインターコム パーティションを同時に入力できます。必ず、各インターコム パーティション エントリに対して 1 行を使用し、パーティション名と説明はカンマで区切ってください。

表 28-4 に、パーティション名が固定長である場合にインターコム コーリング サーチ スペースに追加できるインターコム パーティションの最大数の例を示します。この最大数の計算方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「パーティション名の制限」を参照してください。

表 28-4 コーリング サーチ スペースのパーティション制限

パーティション名の長さ	パーティションの最大数
2 文字	170
3 文字	128
4 文字	102
5 文字	86

表 28-5 では、既存のインターコム パーティションの設定に必要な情報について説明します。

表 28-5 インターコム パーティションの設定値

フィールド	説明
[インターコムパーティション情報 (Intercom Partition Information)]	
[名前 (Name)]	選択したインターコム パーティションの名前がこのボックスに表示されます。
[説明 (Description)]	選択したインターコム パーティションの説明を入力してある場合は、ここに表示されます。インターコム パーティションを追加するときに説明を入力しなかった場合は、ここで追加できます。
[スケジュール (Time Schedule)]	このドロップダウン リストには、[コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [スケジュール (Time Schedule)] で追加できるスケジュールが読み込まれます。スケジュールを設定する方法については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「タイム スケジュールの設定」を参照してください。
[タイムゾーン (Time Zone)]	<ul style="list-style-type: none"> タイムゾーンを発信側デバイスと同じにするには、[発信側デバイス (Originating Device)] の横にあるオプション ボタンをオンにします。 特定のタイムゾーンを設定するには、[特定のタイムゾーン (Specific Time Zone)] オプション ボタンをオンにして、ドロップダウン リストから正しいタイムゾーンを選択します。

追加情報

「インターコム コーリング サーチ スペースの設定」(P.28-17) を参照してください。

インターコム パーティションと影響を受けるデバイスの同期化

設定が変更されたインターコム パーティションとデバイスを同期化するには、次の手順を実行します。この手順は、できる限り干渉の程度が低い方法で未処理の設定項目を適用するものです（たとえば、影響を受けるデバイスでリセットや再起動が不要な場合もあります）。

手順

-
- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [インターコム (Intercom)] > [インターコムルートパーティション (Intercom Route Partition)] の順に選択します。
- [インターコムパーティションの検索と一覧表示 (Find and List Intercom Partitions)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
- 検索条件に一致したインターコム パーティションのリストがウィンドウに表示されます。
- ステップ 4** 適切なデバイスを同期化する対象のインターコム パーティションをクリックします。[インターコムパーティションの設定 (Intercom Partition Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** 必要に応じて、追加の設定変更を行います。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。
- [設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログボックスが表示されます。



(注) インターコム パーティションに関連付けられているデバイスがリセットされると、影響を受けるゲートウェイ上のコールがすべて欠落します。

-
- ステップ 8** [OK] をクリックします。
-

追加情報

「[インターコム コーリング サーチ スペースの設定](#)」(P.28-17) を参照してください。

インターコム パーティションの削除

インターコム パーティションを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

インターコム パーティションがコーリング サーチ スペースなどの項目またはルート パターンに割り当てられている場合は、そのインターコム パーティションを削除できません。インターコム パーティションを使用しているコーリング サーチ スペースなどの項目を検索するには、[インターコムパーティションの設定 (Intercom Partition Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用できない場合は、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(PA-2) を参

照してください。使用中のパーティションを削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager からメッセージが表示されます。現在使用されているパーティションを削除する場合は、事前に、次の処理のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するインターコム パーティションを使用しているインターコム コーリング サーチ スペースやデバイスなどの項目すべてに、別のインターコム パーティションを割り当てます。
- 削除するインターコム パーティションを使用しているインターコム コーリング サーチ スペースやデバイスなどの項目を削除します。

手順

-
- ステップ 1** メニューバーで [コールルーティング (Call Routing)] > [インターコム (Intercom)] > [インターコムルートパーティション (Intercom Route Partition)] の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するインターコム パーティションを検索します。「[インターコム パーティションの検索 \(P.28-10\)](#)」を参照してください。
- ステップ 3** 削除するインターコム パーティションのチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。



ヒント [すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、リスト内のすべてのインターコム パーティションを削除できます。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

- ステップ 4** インターコム パーティションを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。



注意

インターコム パーティションを削除するときは、削除するインターコム パーティションが正しいことを慎重に確認してください。削除したインターコム パーティションを元に戻すことはできません。誤って削除した場合、削除したインターコム パーティションを作成し直す必要があります。



ヒント インターコム パーティションの削除は、削除するパーティションを見つけて表示し、[削除 (Delete)] をクリックすることによっても実行できます。

追加情報

「[インターコム コーリング サーチ スペースの設定 \(P.28-17\)](#)」を参照してください。

インターコム コーリング サーチ スペースの設定

インターコム コーリング サーチ スペースは、通常はデバイスに割り当てられているインターコム ルートパーティションの順序リストで構成されます。インターコム コーリング サーチ スペースによって、発信側デバイスがコールを完了しようとするときに検索するパーティションが決まります。

コーリング サーチ スペースおよびパーティションの詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[パーティションおよびコーリング サーチ スペース](#)」を参照してください。

コーリング サーチ スペースを検索、追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- 「[インターコム コーリング サーチ スペースの検索](#)」 (P.28-17)
- 「[インターコム コーリング サーチ スペースの設定](#)」 (P.28-18)
- 「[インターコム コーリング サーチ スペースの設定値](#)」 (P.28-19)
- 「[インターコム コーリング サーチ スペースの削除](#)」 (P.28-21)

インターコム コーリング サーチ スペースの検索

インターコム コーリング サーチ スペースの検索と一覧表示のウィンドウを使用すると、インターコム コーリング サーチ スペースを検索できます。インターコム コーリング サーチ スペースは、通常はデバイスに割り当てられるインターコム ルートパーティションの順序付きリストです。インターコム コーリング サーチ スペースにより、発信側デバイスがコールを完了しようとするときに検索するインターコム パーティションが決まります。

ネットワークには複数のインターコム コーリング サーチ スペースが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、特定の条件に基づいて、特定のインターコム コーリング サーチ スペースを検索できます。インターコム コーリング サーチ スペースを特定する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、インターコム コーリング サーチ スペースの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えない限り、インターコム コーリング サーチ スペースの検索設定は保持されます。

手順

- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [インターコム (Intercom)] > [インターコムコーリング サーチスペース (Intercom Calling Search Space)] の順に選択します。
- [インターコムコーリングサーチスペースの検索と一覧表示 (Find and List Intercom Calling Search Spaces)] ウィンドウが表示されます。ウィンドウには、アクティブな (前の) クエリーのレコードも表示される場合があります。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空になっていることを確認し、[ステップ 3](#) に進みます。
- 特定のレコードをフィルタリングまたは検索するには、次の操作を実行します。
- 最初のドロップダウン リスト ボックスで、検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて、適切な検索文字を入力します。



(注) 別の検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加した場合は、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして、最後に追加された条件を削除するか、または [フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加されたすべての検索条件を削除します。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

条件に一致するレコードがすべて表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウンリストボックスで別の値を選択すると、各ページに表示される項目数を変更できます。



(注) 適切なレコードの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、データベースから複数のレコードを削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 表示されたレコードリストから、目的のレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順を逆にするには、リストのヘッダーにある上矢印または下矢印をクリックします (使用可能な場合)。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[インターコム トランスレーション パターンの設定](#)」(P.28-22) を参照してください。

インターコム コーリング サーチ スペースの設定

インターコム コーリング サーチ スペースをコピー、追加、および更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 メニューバーで [コールルーティング (Call Routing)] > [インターコム (Intercom)] > [インターコム コーリングサーチスペース (Intercom Calling Search Space)] の順に選択します。

ステップ 2 次のいずれかの手順を実行します。

- 既存のインターコム コーリング サーチ スペースをコピーするには、対象となるインターコム コーリング サーチ スペースを見つけます (「[インターコム コーリング サーチ スペースの検索](#)」(P.28-17) を参照)。コピーするインターコム コーリング サーチ スペースの横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックします。ウィンドウに、コピーしたインターコム コーリング サーチ スペースが表示されます。[名前 (Name)] フィールドで名前を変更し、[ステップ 3](#) に進みます。
- インターコム コーリング サーチ スペースを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。



(注) 他のインターコム コーリング サーチ スペースを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックして、この手順を繰り返します。

- 既存のインターコム コーリング サーチ スペースを更新するには、対象となるインターコム コーリング サーチ スペースを見つけて（「[インターコム コーリング サーチ スペースの検索](#)」(P.28-17) を参照）、[ステップ 3](#)に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します（[表 28-6](#) を参照）。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「[インターコム トランスレーション パターンの設定](#)」(P.28-22) を参照してください。

インターコム コーリング サーチ スペースの設定値

インターコム コーリング サーチ スペースは、通常はデバイスに割り当てられているインターコム ルートパーティションの順序リストで構成されます。インターコム コーリング サーチ スペースによって、発信側デバイスがコールを完了しようとするときに検索するパーティションが決まります。

コーリング サーチ スペースおよびパーティションの詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[パーティションおよびコーリング サーチ スペース](#)」を参照してください。

[表 28-6](#) に、インターコム コーリング サーチ スペースの設定値を示します。関連する手順のリストについては、「[関連項目](#)」(P.28-58) を参照してください。

表 28-6 インターコム コーリング サーチ スペースの設定値

フィールド	説明
[インターコムコーリングサーチスペース情報 (Intercom Calling Search Space Information)]	
[名前 (Name)]	<p>名前を [名前 (Name)] フィールドに入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各コーリング サーチ スペース名が、システムに固有の名前であることを確認してください。</p> <p>(注) インターコム コーリング サーチ スペースには、内容を表す簡潔な名前を使用してください。通常、CompanynameLocationCalltype の形式が、内容を的確に表し、コーリング サーチ スペースをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、「CiscoDallasMetroCS」は、Dallas の Cisco オフィスからの、LATA (Local Access and Transport Area) 間の無料コール用のコーリング サーチ スペースとして特定できます。</p>

表 28-6 インターコム コーリング サーチ スペースの設定値 (続き)

フィールド	説明
[説明 (Description)]	[説明 (Description)] フィールドに説明を入力します。この説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて使用できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、および山カッコ (<>) は使用できません。
[このコーリングサーチスペースのインターコムルートパーティション (Intercom Route Partitions for this Calling Search Space)]	
[使用可能なインターコムパーティション (Available Intercom Partitions)]	<p>[使用可能なインターコムパーティション (Available Intercom Partitions)] リスト ボックスでインターコム パーティションを選択し、そのパーティションを [選択されたインターコムパーティション (Selected Intercom Partitions)] リスト ボックスに追加します。これには、この 2 つのリスト ボックス間にある矢印ボタンをクリックします。</p> <p>ある範囲のインターコム パーティションを一度に追加するには、その範囲内の最初のインターコム パーティションをクリックし、Shift キーを押した状態でその範囲内の最後のインターコム パーティションをクリックします。2 つのリスト ボックス間にある矢印ボタンをクリックして、その範囲のパーティションを追加します。</p> <p>連続していない複数のインターコム パーティションを追加するには、Control (Ctrl) キーを押した状態で複数のインターコム パーティションをクリックしていきます。2 つのリスト ボックス間にある矢印ボタンをクリックして、選択したインターコム パーティションを追加します。</p> <p>(注) インターコム パーティション名の長さによって、インターコム コーリング サーチ スペースに追加できるインターコムパーティションの最大数が制限されます。表 28-4 に、インターコムパーティション名が固定長である場合にインターコム コーリング サーチ スペースに追加できるパーティションの最大数の例を示します。</p>
[選択されたインターコムパーティション (Selected Intercom Partitions)]	インターコムパーティションの優先順位を変更するには、[選択されたインターコムパーティション (Selected Intercom Partitions)] リスト ボックス内のインターコムパーティション名を選択します。そのリスト ボックスの右側にある矢印をクリックして、リスト内でそのインターコムパーティションを上下に移動させてください。

表 28-4 に、インターコムパーティション名が固定長である場合にコーリングサーチスペースに追加できるインターコムパーティションの最大数の例を示します。この最大数の計算方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「パーティション名の制限」を参照してください。

表 28-7 コーリングサーチスペースのパーティション制限

パーティション名の長さ	パーティションの最大数
2 文字	170
3 文字	128

表 28-7 コーリング サーチ スペースのパーティション制限 (続き)

パーティション名の長さ	パーティションの最大数
4 文字	102
5 文字	86
...	...
10 文字	46
15 文字	32

追加情報

「[インターコム トランスレーション パターンの設定](#)」(P.28-22) を参照してください。

インターコム コーリング サーチ スペースの削除

インターコム コーリング サーチ スペースを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイス、回線 (DN)、トランスレーション パターンなどの項目が使用しているインターコム コーリング サーチ スペースは、削除できません。インターコム コーリング サーチ スペースを使用しているデバイス、回線、トランスレーション パターンなどの項目を検索するには、[インターコム コーリング サーチ スペースの設定 (Intercom Calling Search Space Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスで [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用できない場合は、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド*』の「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。使用中のインターコム コーリング サーチ スペースを削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager からメッセージが表示されます。現在使用中のインターコム コーリング サーチ スペースを削除する前に、次の処理のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するインターコム コーリング サーチ スペースを使用しているデバイス、回線、またはトランスレーション パターンすべてに、別のインターコム コーリング サーチ スペースを割り当てます。「[インターコム電話番号の設定](#)」(P.28-33) および「[インターコム トランスレーション パターンの設定](#)」(P.28-22) を参照してください。
- 削除するインターコム コーリング サーチ スペースを使用しているデバイス、回線、またはトランスレーション パターンを削除します。「[電話機からの電話番号の削除](#)」(P.43-28) および「[インターコム トランスレーション パターンの削除](#)」(P.28-32) を参照してください。

手順

- ステップ 1** メニューバーで [コールルーティング (Call Routing)] > [インターコム (Intercom)] > [インターコム コーリング サーチ スペース (Intercom Calling Search Space)] の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するインターコム コーリング サーチ スペースを検索します。「[インターコム コーリング サーチ スペースの検索](#)」(P.28-17) を参照してください。
- ステップ 3** 削除するインターコム コーリング サーチ スペースのチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

- ステップ 4** インターコム コーリング サーチ スペースを削除するには、[OK] をクリックします。削除を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。

**注意**

インターコム コーリング サーチ スペースを削除するときは、削除するインターコム コーリング サーチ スペースが正しいことを慎重に確認してください。削除したインターコム コーリング サーチ スペースを元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除したインターコム コーリング サーチ スペースを作成し直す必要があります。



ヒント インターコム コーリング サーチ スペースの削除は、削除するインターコム コーリング サーチ スペースを見つけて表示し、[削除 (Delete)] をクリックすることによっても実行できます。

追加情報

「[インターコム トランスレーション パターンの設定](#)」(P.28-22) を参照してください。

インターコム トランスレーション パターンの設定

Cisco Unified Communications Manager はインターコム トランスレーション パターンを使用して、ダイヤルされた番号を操作した後でコールをルーティングします。場合によってシステムは、ダイヤルされた番号を使用しないことがあります。また、公衆電話交換網 (PSTN) が、ダイヤルされた番号を認識できない場合もあります。

インターコム トランスレーション パターンを追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- 「[インターコム トランスレーション パターンの検索](#)」(P.28-22)
- 「[インターコム トランスレーション パターンの設定](#)」(P.28-24)
- 「[インターコム トランスレーション パターンの設定値](#)」(P.28-25)
- 「[インターコム トランスレーション パターンの削除](#)」(P.28-32)
- 「[インターコム電話番号の設定](#)」(P.28-33)

インターコム トランスレーション パターンの検索

インターコム トランスレーション パターンの検索と一覧表示のウィンドウを使用すると、インターコム トランスレーション パターンを検索できます。Cisco Unified Communications Manager は、インターコム トランスレーション パターンを使用してダイヤル番号を操作してから、コールをルーティングします。

ネットワーク内にはいくつかのインターコム トランスレーション パターンが存在することがあるので、Cisco Unified Communications Manager では、固有の条件を指定して、特定のインターコム トランスレーション パターンを見つけることができます。インターコム トランスレーション パターンを特定する手順は、次のとおりです。



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、インターコム トランスレーション パターンの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、インターコム トランスレーション パターンの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [インターコム (Intercom)] > [インターコム トランスレーションパターン (Intercom Translation Pattern)] の順に選択します。

[インターコム トランスレーションパターンの検索と一覧表示 (Find and List Intercom Translation Patterns)] ウィンドウが表示されます。ウィンドウには、アクティブな (前の) クエリーのレコードも表示される場合があります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空になっていることを確認し、**ステップ 3** に進みます。

特定のレコードをフィルタリングまたは検索するには、次の操作を実行します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスで、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索文字を入力します。



(注) 別の検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加した場合は、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして、最後に追加された条件を削除するか、または [フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加されたすべての検索条件を削除します。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

条件に一致するレコードがすべて表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスで別の値を選択すると、各ページに表示される項目数を変更できます。



(注) 適切なレコードの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、データベースから複数のレコードを削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 表示されたレコード リストから、目的のレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順を逆にするには、リストのヘッダーにある上矢印または下矢印をクリックします (使用可能な場合)。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[インターコム電話番号の設定](#)」(P.28-33) を参照してください。

インターコム トランスレーション パターンの設定

インターコム トランスレーション パターンを設定する手順は、次のとおりです。

始める前に

インターコム トランスレーション パターンを設定する前に、次の Cisco Unified Communications Manager のインターコム項目を設定してください。

- インターコム パーティション
- インターコム ルート フィルタ
- インターコム コーリング サーチ スペース

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [インターコム (Intercom)] > [インターコム トランスレーションパターン (Intercom Translation Pattern)] の順に選択します。

[インターコム トランスレーションパターンの検索と一覧表示 (Find and List Intercom Translation Patterns)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの手順を実行します。

- 既存のインターコム トランスレーション パターンをコピーするには、対象となるインターコム トランスレーション パターンを検索し (「[インターコム トランスレーション パターンの検索](#)」(P.28-22) を参照)、コピーするインターコム トランスレーション パターンの横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 新しいインターコム トランスレーション パターンを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。

ステップ 3 表示される [インターコム トランスレーションパターンの設定 (Intercom Translation Pattern Configuration)] ウィンドウで、適切な設定値を入力します (表 28-6 を参照)。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。



(注) 選択したパーティション、ルート フィルタ、および番号計画の組み合わせを使用するインターコム トランスレーション パターンが固有のものであることを確認してください。重複エントリを示すエラーが表示された場合は、ルート パターンおよびハント パイロット、トランスレーション パターン、電話番号、コールパーク番号、コール ピックアップ番号、またはミートミー番号の設定ウィンドウをチェックしてください。

[インターコム トランスレーションパターンの設定 (Intercom Translation Pattern Configuration)] ウィンドウに、新しく設定したインターコム トランスレーション パターンが表示されます。

追加情報

「[インターコム電話番号の設定](#)」(P.28-33) を参照してください。

インターコム トランスレーション パターンの設定値

Cisco Unified Communications Manager はインターコム トランスレーション パターンを使用して、ダイヤルされた番号を操作した後でコールをルーティングします。場合によっては、ダイヤルされた番号を使用しないことがあります。また、公衆電話交換網 (PSTN) が、ダイヤルされた番号を認識できない場合もあります。

表 28-8 では、[インターコムトランスレーションパターンの設定 (Intercom Translation Pattern Configuration)] ウィンドウ内の使用可能なフィールドについて説明します。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.28-58) を参照してください。

表 28-8 インターコム トランスレーション パターンの設定値

フィールド	説明
[パターン定義 (Pattern Definition)]	
[インターコムトランスレーションパターン (Intercom Translation Pattern)]	<p>[インターコムトランスレーションパターン (Intercom Translation Pattern)] フィールドに、番号とワイルドカード (スペースを使用しない) を含む、インターコム トランスレーション パターンを入力します。たとえば、NANP では、通常のローカル アクセスの場合は 9.@ を、通常のプライベート ネットワーク 番号計画の場合は 8XXX を入力します。大文字の A、B、C、D、および ¥+ を指定できます。¥+ は、国際的なエスケープ文字 + を表します。このフィールドを空白のままにする場合は、[パーティション (Partition)] ドロップダウン リスト ボックスからパーティションを選択する必要があります。</p> <p>(注) 選択したインターコム パーティション、ルート フィルタ、および番号計画の組み合わせを使用するインターコム トランスレーション パターンが固有のものであることを確認してください。</p> <p>重複エントリを示すメッセージが表示された場合は、ルート パターンおよびハント パイロット、トランスレーション パターン、電話番号、コール パーク番号、コール ピックアップ番号、またはミーティング番号を確認してください。重複エントリを示すメッセージが表示された場合のもう 1 つの方法として、ルート プランレポートも確認してください。</p>

表 28-8 インターコム トランスレーション パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[パーティション (Partition)]	<p>インターコム パーティションを選択します。インターコム パーティションを割り当てない場合は、パーティションを選択しません。この場合は、[インターコムトランスレーションパターン (Intercom Translation Pattern)] フィールドに値を入力する必要があります。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示するインターコムパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで指定した数よりも多くのインターコムパーティションが存在する場合、ドロップダウンリストボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ウィンドウを表示します。インターコムパーティション名を検索し、選択します (「インターコムパーティションの検索」 (P.28-10) を参照)。</p> <p>(注) リストボックス項目の最大数を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p> <p>(注) インターコム トランスレーションパターン、ルートフィルタ、およびインターコムパーティションの組み合わせが、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p>
[説明 (Description)]	<p>インターコム トランスレーションパターンの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、および山カッコ (<>) は使用できません。</p>
[番号計画 (Numbering Plan)]	<p>番号計画を選択します。</p> <p>インターコム トランスレーションパターンにワイルドカード @ が含まれている場合は、番号計画を選択できます。番号計画を選択すると (オプション)、所定の番号パターンが制限されます。</p>

表 28-8 インターコム トランスレーション パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ルートフィルタ (Route Filter)]	<p>オプションのルート フィルタを選択すると、所定の番号パターンが制限されます。詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager システム ガイド</i>』の「ルートパターンとハントパイロット内のワイルドカードと特殊文字」の項および『<i>Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド</i>』の「ルートフィルタの設定値」(P.30-1) の項を参照してください。</p> <p>表示されるルート フィルタは、[番号計画 (Numbering Plan)] ドロップダウン リスト ボックスで選択する番号計画によって異なります。</p> <p>250 より多くのルート フィルタが存在する場合、ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[ルートフィルタの検索と一覧表示 (Find and List Route Filters)] ウィンドウを表示します。ルートフィルタの検索条件のフィールドで、検索条件を選択し、ルートフィルタ名の一部を入力します。表示されたルート フィルタのリストで、指定したいルート フィルタの横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。</p> <p>(注) リスト ボックス項目の最大数を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>
[MLPP 優先度 (MLPP Precedence)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、このインターコム トランスレーション パターンに対する MLPP 優先度の設定を次の中から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [エクゼクティブオーバーライド (Executive Override)] : MLPP コールに、一番高い優先度を設定します。 • [フラッシュオーバーライド (Flash Override)] : MLPP コールに、2 番目に高い優先度を設定します。 • [フラッシュ (Flash)] : MLPP コールに、3 番目に高い優先度を設定します。 • [即時 (Immediate)] : MLPP コールに、4 番目に高い優先度を設定します。 • [プライオリティ (Priority)] : MLPP コールに、5 番目に高い優先度を設定します。 • [標準 (Routine)] : MLPP コールに、一番低い優先度を設定します。 • [デフォルト (Default)] : 着信の優先レベルは上書きされず、そのまま渡されます。 <p>(注) 詳細については、「Multilevel Precedence and Preemption」の章の「優先順位」の項を参照してください。</p>

表 28-8 インターコム トランスレーション パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>必要に応じて、ドロップダウン リスト ボックスから、追加するインターコム トランスレーション パターン用のインターコム コーリングサーチ スペースを選択します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するインターコム コーリングサーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで指定した数よりも多くのインターコム コーリングサーチ スペースが存在する場合、ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[コーリングサーチスペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウを表示します。インターコム コーリングサーチ スペース名を検索し、選択します (「インターコム コーリングサーチ スペースの検索」(P.28-17) を参照)。</p>
[ルートオプション (Route Option)]	<p>[ルートオプション (Route Option)] の指定内容が、このインターコム トランスレーション パターンをコールのルーティング (9.@ や 8[2-9]XX など)、またはコールのブロックに使用するかどうかを示します。[このパターンをルーティング (Route this pattern)] または [このパターンをブロック (Block this pattern)] オプション ボタンを選択してください。</p> <p>[このパターンをブロック (Block this pattern)] オプション ボタンを選択した場合、このインターコム トランスレーション パターンをコールのブロックに使用する理由を選択する必要があります。ドロップダウン リスト ボックスから値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [エラーなし (No Error)] • [未割り当ての番号 (Unallocated Number)] • [コールの拒否 (Call Rejected)] • [番号の変更 (Number Changed)] • [番号形式が無効 (Invalid Number Format)] • [優先レベルの超過 (Precedence Level Exceeded)]
[外部ダイヤルトーンの提供 (Provide Outside Dial Tone)]	<p>外部ダイヤルトーンは、Cisco Unified Communications Manager がローカル ネットワーク外にコールをルーティングすることを示します。ネットワーク外にあると思われる各インターコム トランスレーションパターンに対してこのチェックボックスをオンにします。</p>
[緊急優先 (Urgent Priority)]	<p>ダイヤル プランに重複したパターンが含まれる場合、Cisco Unified Communications Manager は桁間タイマーが時間切れになるまでコールをルーティングしません (検索結果を基準にして数字列をダイヤルできる場合を含む)。Cisco Unified Communications Manager がすぐにコールをルーティングする必要がある場合は、このチェックボックスをオンにして、桁間タイミングを中断します。</p> <p>デフォルトでは、[緊急優先 (Urgent Priority)] チェックボックスはオンになっています。重複したパターン、または ! を持つ可変長パターンがダイヤル プランに含まれる場合を除き、チェックボックスはオフにしないことをお勧めします。</p>

表 28-8 インターコム トランスレーション パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼側トランスフォーメーション (Calling Party Transformations)]	
[発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask)]	発信コールで完全な外線電話番号を CLID (発呼者回線 ID) に使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。
[発呼側トランスフォーメーションマスク (Calling Party Transform Mask)]	トランスフォーメーションマスク値を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、国際的なエスケープ文字 +、および空白です。このフィールドが空白のときに、上記のフィールド ([発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask)]) がオフの場合、発呼側トランスフォーメーションは行われません。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルートリストの設定値」(P.32-1) を参照してください。
[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)]	プレフィックス番号を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、および国際的なエスケープ文字 + です。 (注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。

表 28-8 インターコム トランスレーション パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は補助的なサービスとして、発呼者回線 ID の表示 (CLIP/CLIR) を使用します。これは、コールごとに発信者の電話番号を許可、または制限します。</p> <p>このインターコム トランスレーション パターンに対して、Cisco Unified Communications Manager が発信側電話番号を着信側の番号表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>発呼者回線 ID の表示を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager で発信側の電話番号が表示されるようにする場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が発信側の電話番号を表示しないようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「発信側番号トランスフォーメーション設定値」の項にある表 16-8 を参照してください。</p> <p>(注) コール表示制限を設定するには、このパラメータおよび [接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] パラメータを [プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] デバイスレベルパラメータと組み合わせて使用します。同時に、これらの設定値では、各コールに対して発呼者回線または接続先回線の表示情報を表示するか、制限するかを選択できます。[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] フィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「デバイス プロファイルの設定値」、および「スピードダイヤル ボタンまたは短縮ダイヤルの設定」の項の表 67-1 を参照してください。コール表示制限機能の詳細については、このガイドの「Call Display Restrictions 機能」の章を参照してください。</p>
[発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は補助的なサービスとして、発呼者名の表示 (CNIP/CNIR) を使用します。これは、コールごとに発信者の名前を許可、または制限します。</p> <p>このインターコム トランスレーション パターンに対して、Cisco Unified Communications Manager が発信側の名前を着信側の表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>発呼者名の表示を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager で発呼者名の情報を表示させる場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が発呼者名の情報を表示しないようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「発信側番号トランスフォーメーション設定値」の項にある表 16-8 を参照してください。</p>

表 28-8 インターコム トランスレーション パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[接続側トランスフォーメーション (Connected Party Transformations)]	
[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は補助的なサービスとして、接続先回線 ID の表示 (COLP/COLR) を使用します。これは、コールごとに着信側の電話番号を許可、または制限します。</p> <p>このインターコム トランスレーション パターンに対して、Cisco Unified Communications Manager が接続側電話番号を発信側の番号表示画面に表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続先回線 ID の表示を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。接続側の電話番号を表示する場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が接続側の電話番号を表示しないようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項にある表 16-11 を参照してください。</p>
[接続先名の表示 (Connected Name Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は補助的なサービスとして、接続先名の表示 (CONP/CONR) を使用します。これは、コールごとに着信側の名前を許可、または制限します。</p> <p>このインターコム トランスレーション パターンに対して、Cisco Unified Communications Manager が接続側の名前を発信側の画面表示に表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続先名の表示を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。接続側の名前を表示する場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が接続側の名前を表示しないようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項にある表 16-11 を参照してください。</p>
[着信側トランスフォーメーション (Called Party Transformations)]	
[番号の削除 (Discard Digits)]	<p>このインターコム トランスレーション パターンに関連付ける数字破棄命令を選択します。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「数字破棄命令」の項を参照してください。</p> <p>(注) 表示される数字破棄命令は、[番号計画 (Numbering Plan)] ドロップダウン リスト ボックスで選択する番号計画によって異なります。</p>

表 28-8 インターコム トランスレーション パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[着信側トランスフォーメーションマスク (Called Party Transform Mask)]	トランスフォーメーション マスク値を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、国際的なエスケープ文字 +、およびブランクです。このフィールドがブランクである場合、トランスフォーメーションは行われません。ダイヤルされた番号が、ダイヤルされたとおりに送信されます。
[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)]	プレフィックス番号を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、国際的なエスケープ文字 +、およびブランクです。 (注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。

追加情報

「[インターコム電話番号の設定](#)」(P.28-33) を参照してください。

インターコム トランスレーション パターンの削除

インターコム トランスレーション パターンを削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [インターコム (Intercom)] > [インターコムトランスレーションパターン (Intercom Translation Pattern)] の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するインターコム トランスレーション パターンを検索します。「[インターコム トランスレーションパターンの検索](#)」(P.28-22) を参照してください。
- ステップ 3** 削除するインターコム トランスレーション パターンのチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 4** インターコム トランスレーション パターンを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。

**注意**

インターコム トランスレーション パターンを削除するときは、削除するインターコム トランスレーション パターンが正しいことを慎重に確認してください。削除したインターコム トランスレーション パターンを元に戻すことはできません。誤って削除した場合、削除したインターコム トランスレーション パターンを作成し直す必要があります。

**ヒント**

インターコム トランスレーション パターンの削除は、削除するインターコム トランスレーション パターンを検索して表示し、[削除 (Delete)] をクリックすることによっても実行できます。

追加情報

「[インターコム電話番号の設定](#)」(P.28-33) を参照してください。

インターコム電話番号の設定

次の項では、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでのインターコム電話番号 (DN) に関する作業と設定について説明しています。

- 「インターコム電話番号の設定の概要」 (P.28-33)
- 「インターコム電話番号の検索」 (P.28-33)
- 「インターコム電話番号の設定」 (P.28-35)
- 「インターコム電話番号の設定」 (P.28-33)
- 「インターコム電話番号と影響を受けるデバイスの同期化」 (P.28-42)

追加情報

「関連項目」 (P.28-58) を参照してください。

インターコム電話番号の設定の概要

Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して、特定の電話機に割り当てるインターコム電話番号 (DN) の設定および変更を行います。ここでは、インターコム電話番号の追加、削除、および更新について説明します。



(注) インターコム電話番号には、パーティションが必要であることを注意してください。



(注) インターコム電話番号をアクティブにする場合は、「[デフォルトのアクティブデバイス (Default Activated Device)]」 (P.28-41) で示されているように、[インターコム電話番号の設定 (Intercom Directory Number Configuration)] ウィンドウの [デフォルトのアクティブデバイス (Default Activated Device)] フィールドでインターコム電話番号を設定する必要があります。また、上記の参照先で規定されているように、Cisco エクステンション モビリティで使用するインターコム電話番号を設定できます。

追加情報

「関連項目」 (P.28-58) を参照してください。

インターコム電話番号の検索

インターコム電話番号の検索と一覧表示のウィンドウを使用すると、インターコム電話番号を検索できます。インターコム電話番号はインターコム機能用に使用される電話番号であり、特定の電話機に割り当てられます。インターコム電話番号 (DN) を検索する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [インターコム (Intercom)] > [インターコム電話番号 (Intercom Directory Number)] の順に選択します。

[インターコム電話番号の検索と一覧表示 (Find and List Intercom Directory Numbers)] ウィンドウが表示されます。ウィンドウには、アクティブな (前の) クエリーのレコードも表示される場合があります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空になっていることを確認し、**ステップ 3**に進みます。

特定のレコードをフィルタリングまたは検索するには、次の操作を実行します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスで、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索文字を入力します。



(注) 別の検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加した場合は、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして、最後に追加された条件を削除するか、または [フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加されたすべての検索条件を削除します。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

条件に一致するレコードがすべて表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスで別の値を選択すると、各ページに表示される項目数を変更できます。



(注) 適切なレコードの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、データベースから複数のレコードを削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 表示されたレコード リストから、目的のレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順を逆にするには、リストのヘッダーにある上矢印または下矢印をクリックします (使用可能な場合)。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.28-58) を参照してください。

インターコム電話番号の設定

インターコム電話番号 (DN) を追加または更新する手順は、次のとおりです。電話番号を追加すると同時に、自動転送、コール ピックアップ、および MLPP の各電話機能を設定できます。



ヒント

インターコム電話番号にパターン (たとえば 352XX など) を割り当てることができます。インターコム電話番号にパターンを割り当てると、ユーザが混乱しないように、インターコム電話番号設定フィールド ([回線のテキストラベル (Line Text Label)]、[表示 (Display、内線発信者 ID)]、および [外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)]) にテキストや数字を追加します。これらのフィールドが特定のインターコム電話番号について表示されるのは、インターコム電話番号を追加し、さらに、そのインターコム電話番号を電話機に関連付けた場合のみです。

たとえば、[回線のテキストラベル (Line Text Label)] と [表示 (Display、内線発信者 ID)] にはユーザの名前を追加し、[外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)] には外部の回線番号を追加します。このようにすれば、発信情報が表示されるときに、「352XX」ではなく「John Chan」と表示されます。

手順

- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [インターコム (Intercom)] > [インターコム電話番号 (Intercom Directory Number)] の順に選択します。
[インターコム電話番号の検索と一覧表示 (Find and List Intercom Directory Numbers)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 特定のインターコム電話番号を見つけるには、検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
検索条件に一致するインターコム電話番号のリストが表示されます。
- ステップ 3** 次のいずれかの手順を実行します。
 - 電話番号を追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、新しい電話番号を追加します。[インターコム電話番号の設定 (Intercom Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。



(注) [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウには、電話番号を追加するための代替方法が表示されます。[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] メニュー オプションを使用し、新しい電話機を作成するか、または既存の電話機を検索します。新しい電話機を作成するか、または既存の電話機を表示したら、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの左側の [割り当て情報 (Association Information)] 領域で、[回線 [1] - 新規 DN を追加 (Line [1] - Add a new DN)] リンクまたは [回線 [2] - 新規 DN を追加 (Line [2] - Add a new DN)] リンクをクリックします。[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されたら、この手順の **ステップ 4** に進みます。

- インターコム電話番号を更新するには、更新するインターコム電話番号をクリックします。[インターコム電話番号の設定 (Intercom Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 該当する設定値を更新します (表 28-9 を参照)。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。



(注) ステップ 6 以降に進むかどうかを決める前に、「[インターコム電話番号と影響を受けるデバイスの同期化](#)」(P.28-42) を参照してください。

ステップ 6 [電話のリセット (Reset Phone)] をクリックします。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[電話機のリセットのヒント](#)」を参照してください。



ヒント 2 回線で足りない場合は、電話機タイプに対応する電話ボタンテンプレートを変更することによって、回線を増やすことができます。ただし、2 回線までしかサポートしていない電話機タイプ (Cisco Unified IP Phone 7906 など) もあります。



(注) デバイスは、速やかに再起動してください。この再起動プロセス中に、ゲートウェイ上のコールがシステムによって終了される場合があります。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.28-58) を参照してください。

インターコム電話番号の設定値

インターコムでは、インターコム電話番号を設定する必要があります。



ヒント

インターコム電話番号にパターン (たとえば 352XX など) を割り当てることができます。インターコム電話番号にパターンを割り当てる場合は、ユーザが混乱しないように、インターコム電話番号設定フィールド ([[回線のテキストラベル \(Line Text Label\)](#)])、[[表示 \(Display、内線発信者 ID\)](#)]、および [[外線電話番号マスク \(External Phone Number Mask\)](#)] にテキストや数字を追加します。これらのフィールドが特定のインターコム電話番号について表示されるのは、インターコム電話番号を追加し、さらに、そのインターコム電話番号を電話機に関連付けた場合のみです。

たとえば、[[回線のテキストラベル \(Line Text Label\)](#)] と [[表示 \(Display、内線発信者 ID\)](#)] にはユーザの名前を追加し、[[外線電話番号マスク \(External Phone Number Mask\)](#)] には外部の回線番号を追加します。このようにすれば、発信情報が表示される時に、「352XX」ではなく「John Chan」と表示されます。



(注) インターコム電話番号には、パーティションが必要であることを注意してください。



(注) インターコム電話番号をアクティブにする場合は、「[\[デフォルトのアクティブデバイス \(Default Activated Device\)\]](#)」(P.28-41) で示されているように、[[インターコム電話番号の設定 \(Intercom Directory Number Configuration\)](#)] ウィンドウの [[デフォルトのアクティブデバイス \(Default Activated Device\)](#)] フィールドでインターコム電話番号を設定する必要があります。また、上記の参照先で規定されているように、Cisco エクステンション モビリティで使用するインターコム電話番号を設定できます。

表 28-9 では、[インターコム電話番号の設定 (Intercom Directory Number Configuration)] ウィンドウで使用可能なフィールドについて説明します。関連する手順については、「[関連項目 \(P.28-58\)](#)」を参照してください。

表 28-9 インターコム電話番号の設定値

フィールド	説明
[インターコム電話番号情報 (Intercom Directory Number Information)]	
[インターコム電話番号 (Intercom Directory Number)]	<p>ダイヤル可能な電話番号を入力します。この値には、数字とルートパターンのワイルドカード、および特殊文字 ((.) と (@) を除く) を指定できます。</p> <p>入力するインターコム電話番号が、複数のインターコムパーティションに表示される場合があります。</p> <p>国際的なエスケープ文字 + を使用する場合は、インターコム電話番号の先頭に ¥+ を入力します。このフィールドでは、¥+ はワイルドカードではなく、ダイヤルされる数字を表します。</p>
[ルートパーティション (Route Partition)]	<p>このインターコム電話番号が属するインターコムパーティションを選択します。[インターコム電話番号 (Intercom Directory Number)] フィールドに入力するインターコム電話番号が、選択したインターコムパーティション内で固有のものであることを確認してください。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示するインターコムパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで指定した数よりも多くのインターコムパーティションが存在する場合、ドロップダウンリストボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ウィンドウを表示します。パーティションの検索条件のフィールドで、検索条件を選択し、インターコムパーティション名の一部を入力します。表示されたインターコムパーティションのリストで、指定したいインターコムパーティションの横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。</p> <p>(注) リストボックス項目の最大数を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>
[説明 (Description)]	<p>インターコム電話番号とインターコムルートパーティションの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、および山カッコ (<>) は使用できません。</p>

表 28-9 インターコム電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[呼び出し表示 (Alerting Name)]	<p>発信者の電話機に表示させる名前 (警告名) を入力します。</p> <p>この設定は QSIG プロトコルの Identification Service をサポートし、共有および非共有の電話番号に適用されます。シェアドラインアピアランスを持つ電話番号に警告名を設定すると、着側 PINX で電話機の呼び出し音が鳴ったときに、システムが次の作業を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 電話番号に割り当てられた発信者の名前を転送します。 • トランスレーションパターン (制限がある場合) に設定された Connected Name Restrictions (CONR) を適用します。ルートパターン設定に応じて、発信 PINX が CONR を変更する場合があります。 <p>警告名を設定しない場合、発信者の電話機に「名前がありません」と表示される場合があります。[表示 (Display、内線発信者 ID)] フィールドに名前を入力しない場合、[呼び出し表示 (Alerting Name)] フィールド内の情報が [表示 (Display、内線発信者 ID)] フィールドに表示されます。</p> <p>Always Display Original Dialed Number サービス パラメータを [True] に設定すると、呼び出し表示機能に大きな影響を与えます。サービス パラメータを [True] に設定した場合、発信者の電話機に警告名は表示されず、最初にダイヤルされた番号だけが表示されます。</p>
[ASCII 呼び出し表示 (ASCII Alerting Name)]	<p>このフィールドには、[呼び出し表示 (Alerting Name)] フィールドと同じ情報を指定します。ただし、入力には ASCII 文字に制限されます。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、[ASCII 呼び出し表示 (ASCII Alerting Name)] フィールドの内容が表示されます。</p>
[CTI からデバイスを制御可能 (Allow Control of Device from CTI)]	<p>このチェックボックスをオンにすると、CTI から、このインターコム電話番号が関連付けられたデバイスの回線を制御および監視できます。</p>

表 28-9 インターコム電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[デバイスの関連付け (Associated Devices)]	<p>このインターコム電話番号をデバイスに関連付けると、このインターコム電話番号が関連付けられたデバイスがこのペインに表示されます。</p> <p>(注) 1つのインターコム電話番号を複数のデバイスに関連付けることはできません。</p> <p>このインターコム電話番号が関連付けられたデバイスを編集するには、[デバイスの関連付け (Associated Devices)] ペインでデバイス名を選択し、[デバイスの編集 (Edit Device)] ボタンをクリックします。選択したデバイスの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウまたは [デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。電話機またはデバイスプロファイルの設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」の章または「デバイス プロファイルの設定」の章を参照してください。</p> <p>このインターコム電話番号に対して定義されたラインアピアランスを編集するには、[デバイスの関連付け (Associated Devices)] ペインでデバイス名を選択し、[ラインアピアランスの編集 (Edit Line Appearance)] ボタンをクリックします。[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウまたは [デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウが更新され、選択したデバイスについて、このインターコム電話番号のラインアピアランスが表示されます。</p> <p>[デバイスの関連付け解除 (Dissociate Devices)] ペインのデバイスリストからこのインターコム電話番号にデバイスを関連付けるには、[デバイスの関連付け解除 (Dissociate Devices)] ペインでデバイスを選択し、[デバイスの関連付け (Associated Devices)] ペインに追加します。追加するには、この2つのペイン間にある上矢印をクリックします。</p>
[デバイスの関連付け解除 (Dissociate Devices)]	<p>インターコム電話番号とデバイスの関連付けを解除する場合、このインターコム電話番号の関連付けを解除するデバイスがこのペインに表示されます。</p> <p>[デバイスの関連付け (Associated Devices)] ペインでデバイスを選択し、[デバイスの関連付け解除 (Dissociate Devices)] ペインに追加します。追加するには、この2つのペイン間にある下矢印をクリックします。</p>

表 28-9 インターコム電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[インターコム電話番号の設定 (Intercom Directory Number Settings)]	
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウンリスト ボックスから、適切なインターコム コーリング サーチ スペースを選択します。インターコム コーリング サーチ スペースは、このインターコム電話番号からコールされる番号を見つけるために検索されるインターコム パーティションの集合から構成されます。選択された値は、このインターコム電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。電話番号のコーリング サーチ スペースの設定情報については、「[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]」 (P.28-41) を参照してください。</p> <p>このフィールドに変更を加えると、[コールピックアップグループ (Call Pickup Group)] フィールドにリストされている番号が更新されます。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「パーティションおよびコーリング サーチ スペース」を参照してください。</p>
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	<p>このフィールドには、プレゼンス機能を設定します。</p> <p>ドロップダウンリスト ボックスから、このインターコム電話番号のプレゼンス グループを選択します。選択されたグループでは、このインターコム電話番号を監視できるデバイス、エンドユーザ、およびアプリケーションユーザが指定されます。</p> <p>[プレゼンスグループ (Presence Group)] のデフォルト値は、インストール時に設定された [Standard Presence group] です。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定されたプレゼンス グループもドロップダウンリスト ボックスに表示されます。</p> <p>プレゼンス許可は、プレゼンス グループと連携して、グループ間のプレゼンス要求を許可またはブロックします。グループ間の権限の設定の詳細については、「プレゼンス」の章を参照してください。</p>

表 28-9 インターコム電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[自動応答 (Auto Answer)]	<p>次のいずれかを選択し、このインターコム電話番号の自動応答機能をアクティブにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Auto Answer with Headset] • [Auto Answer with Speakerphone] <p>(注) [Auto Answer with Headset] または [Auto Answer with Speakerphone] を選択する場合は、ヘッドセットまたはスピーカフォンが使用可能であることを確認します。</p> <p>(注) シェアラインを持つデバイスには自動応答を設定しないでください。</p> <p>(注) CTIPort デバイスのインターコム回線では、自動応答スピーカフォンおよび自動応答ヘッドセットは、自動応答がオンであるという意味になります。CTIPort デバイスには、スピーカフォンおよびヘッドセットのオプションは適用されません。回線が自動応答に対応していることを示すだけです。アプリケーションが CTIPort デバイスのメディアを終了させる必要があります。また、どちらの種類の出力デバイスでもメディアを終了させることができます。</p>
[デフォルトのアクティブデバイス (Default Activated Device)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、このインターコム電話番号に対応するデフォルトのアクティブデバイスを選択します。選択したデバイスは、このインターコム電話番号がデフォルトでアクティブになる電話機を示します。ドロップダウンリストボックスには、インターコムをサポートするデバイスだけが表示されます。</p> <p>(注) このインターコム電話番号をインターコム回線としてアクティブにするには、デフォルトのアクティブデバイスを指定する必要があります。</p> <p>(注) Cisco エクステンションモビリティ用に設定されたデバイスプロファイル内にインターコム電話番号が指定されている場合、そのインターコム電話番号がインターコム回線として表示されるのは、ユーザがそのデバイスプロファイルを使用して、指定されたデフォルトのアクティブデバイスにログインしたときだけです。ただし、そのデバイスがインターコム機能をサポートしていることが条件となります。</p>

[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]

Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示するインターコム コーリングサーチスペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで指定した数よりも多くのインターコム コーリングサーチスペースが存在する場合、ドロップダウンリストボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[コーリングサーチスペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウを表示します。コーリングサーチスペースの検索条件のフィールドで、検索条件を選択し、インターコム コーリングサーチスペース名の一部を入力します。表示されたインターコム コーリングサーチスペースのリストで、指定したいインターコム コーリングサーチスペースの横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。



(注) リスト ボックス項目の最大数を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。

追加情報

「関連項目」(P.28-58) を参照してください。

インターコム電話番号と影響を受けるデバイスの同期化

設定が変更されたインターコム電話番号とデバイスを同期化するには、次の手順を実行します。できる限り干渉の程度が低い方法で未処理の設定項目を適用するものです（たとえば、影響を受けるデバイスでリセットや再起動が不要な場合もあります）。

手順

- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [インターコム (Intercom)] > [インターコム電話番号 (Intercom Directory Number)] の順に選択します。
[インターコム電話番号の検索と一覧表示 (Find and List Intercom Directory Numbers)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
検索条件に一致したインターコム電話番号のリストがウィンドウに表示されます。
- ステップ 4** 適切なデバイスを同期化する対象のインターコム電話番号をクリックします。[インターコム電話番号の設定 (Intercom Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** 必要に応じて、追加の設定変更を行います。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 8** [OK] をクリックします。

インターコム回線とスピードダイヤルの設定

インターコム回線を設定する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** まだ実行していない場合は、「[インターコムパーティションの設定](#)」(P.28-9) の説明に従って、インターコムパーティションを作成します。
- ステップ 2** まだ実行していない場合は、「[インターコム電話番号の設定](#)」(P.28-33) の説明に従って、インターコム電話番号を作成します。
- ステップ 3** [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] をクリックして、インターコム回線を既存の電話ボタンテンプレートに追加するか、新しいテンプレートを作成します。



(注) インターコム回線はプライマリ回線として設定できないことに注意してください。

ステップ 4 [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択して、インターコム電話番号をインターコム回線に割り当てます。

ステップ 5 必要に応じて、インターコム電話番号を設定し、インターコム スピードダイヤルを設定します。



(注) 迅速なアクセスのために、事前に定義された宛先 (スピードダイヤル) を持つインターコム回線を設定できます。

インターコムの使用方法

次の項では、インターコムの使用方法を文章と図で説明します。

- 「ケース スタディ」 (P.28-43)
- 「図によるインターコムの説明」 (P.28-44)

ケース スタディ

ここでは、インターコムをアイドル状態の電話機とビジー状態の電話機に対して開始した場合の動作について説明します。

アイドル状態の電話機へのインターコム

アリスがボブにインターコム コールを発信すると、ボブは、最初にインターコム トーンを受信し、次にアリスの音声を受信します。ただし、アリスにはボブの音声は聞こえません。

ボブのヘッドセットがオンになっている場合、アリスの音声の聞き取りには、ヘッドセットが使用されます。オフになっている場合は、スピーカが使用されます。

ビジー状態の電話機へのインターコム

ボブとキャロルが会話しているときに、アリスがボブにインターコム コールを発信します。アリスの音声はキャロルの音声と混合されて、ボブに再生されます。ただし、アリスにはボブの音声は聞こえません。一方、キャロルには引き続きボブの音声は聞こえます。

ほとんどの場合、キャロルにはボブの音声だけが聞こえ、アリスの音声は聞こえません。ただし、ボブがスピーカフォンを使用してキャロルと会話している場合は、アリスの音声とボブの音声とが混合されて、キャロルに送信されます。

ビジー状態の電話機とは、ボブの電話機にアクティブ コールが存在すること、または未接続の発信コールが存在することを意味します。

インターコムの終端側において、発信側と会話することなくインターコム コールを終了するには、I ヘルプ ボタンを押してからインターコム ボタンを押すことで、インターコム用のソフトキー セットにフォーカスを移動する必要があります。次に、[終了] ソフトキーを押して、コールを終了します。

図によるインターコムの説明

ここでは、さまざまなシナリオにおけるインターコムの動作について説明します。

- 「シナリオ 1」 (P.28-44)
- 「シナリオ 2」 (P.28-47)
- 「シナリオ 3」 (P.28-49)
- 「シナリオ 4」 (P.28-51)
- 「シナリオ 5」 (P.28-53)

シナリオ 1

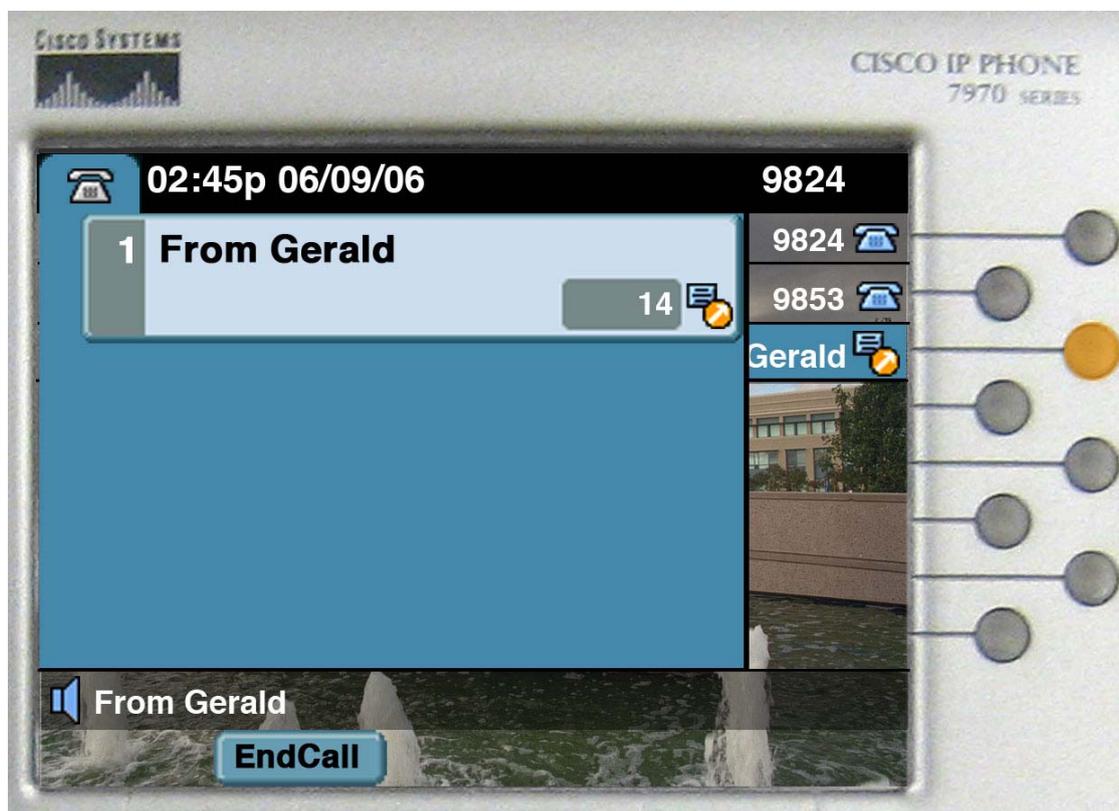
アンナの電話機が、アイドル状態のときに、事前設定されたインターコムの発信先であるジェラルドからインターコム コールを受信します。

図 28-1 アイドル



- ジェラルドがアンナにインターコム コールを発信する時点で、アンナの電話機はアイドル状態になっています。
 - 回線キーとインターコム キーは消灯しています。

図 28-2 ウィスパー



- インターコム回線がアクティブになり、ジェラルドからのコールが表示されます。
 - インターコム キーがオレンジ色に点灯します。
- 両側の電話機が自動応答アラート トーンを受信します。
- アンナにはジェラルドの音声聞こえますが、ジェラルドには、アンナがインターコムコールに回答するまでアンナの音声は聞こえません。



(注) ミュート キーを押しても、インターコム コールには応答できません。代わりに、ステータス行に「そのキーはアクティブではありません」と表示されます。

図 28-3 接続時



- アンナが、インターコム回線キーを押してインターコム コールに応答します。
 - インターコム キーが緑色に点灯します。



(注)

コールタイマーはリセットされず、ウィスパー状態から続行されます。

シナリオ 2

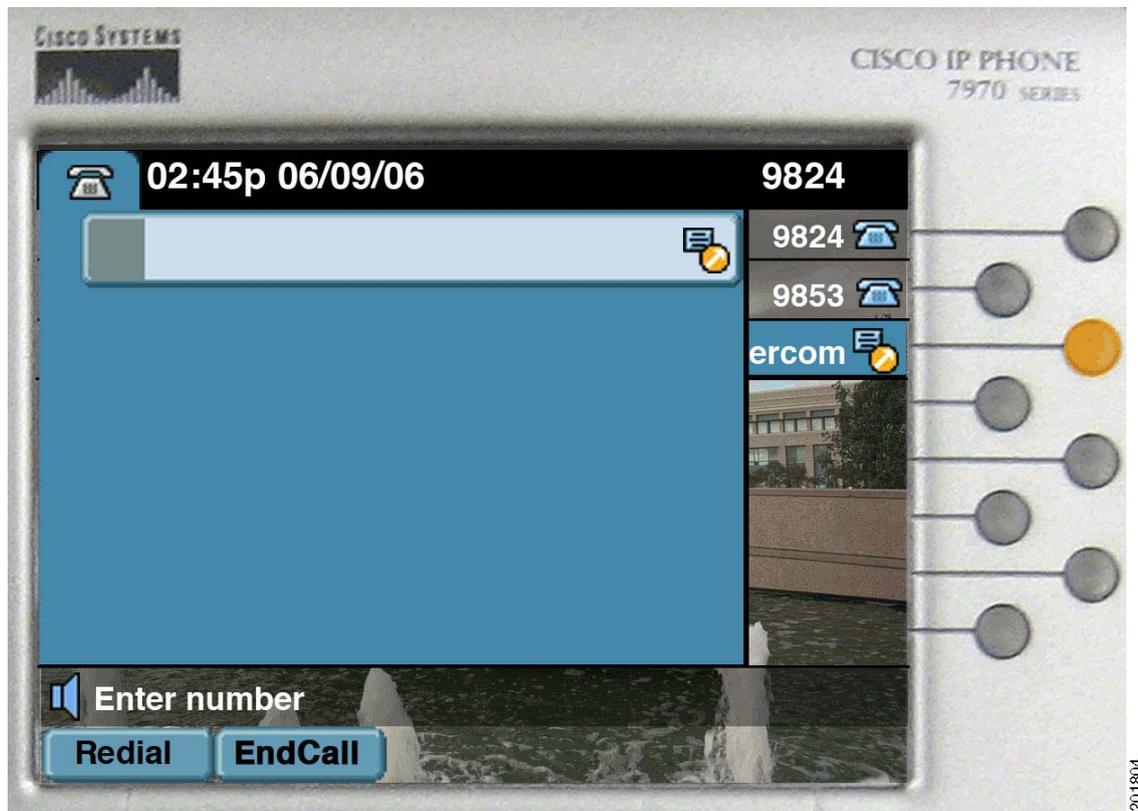
アンナが、自分の電話機がアイドル状態のときに、事前設定されたインターコムの発信先であるジェラルドの電話機にインターコム コールを発信します。

図 28-4 ウィスパー



201808

図 28-5 接続時



- ジェラルドが、インターコム回線キーを押してインターコム コールに応答します。
 - インターコム キーが緑色に点灯します。



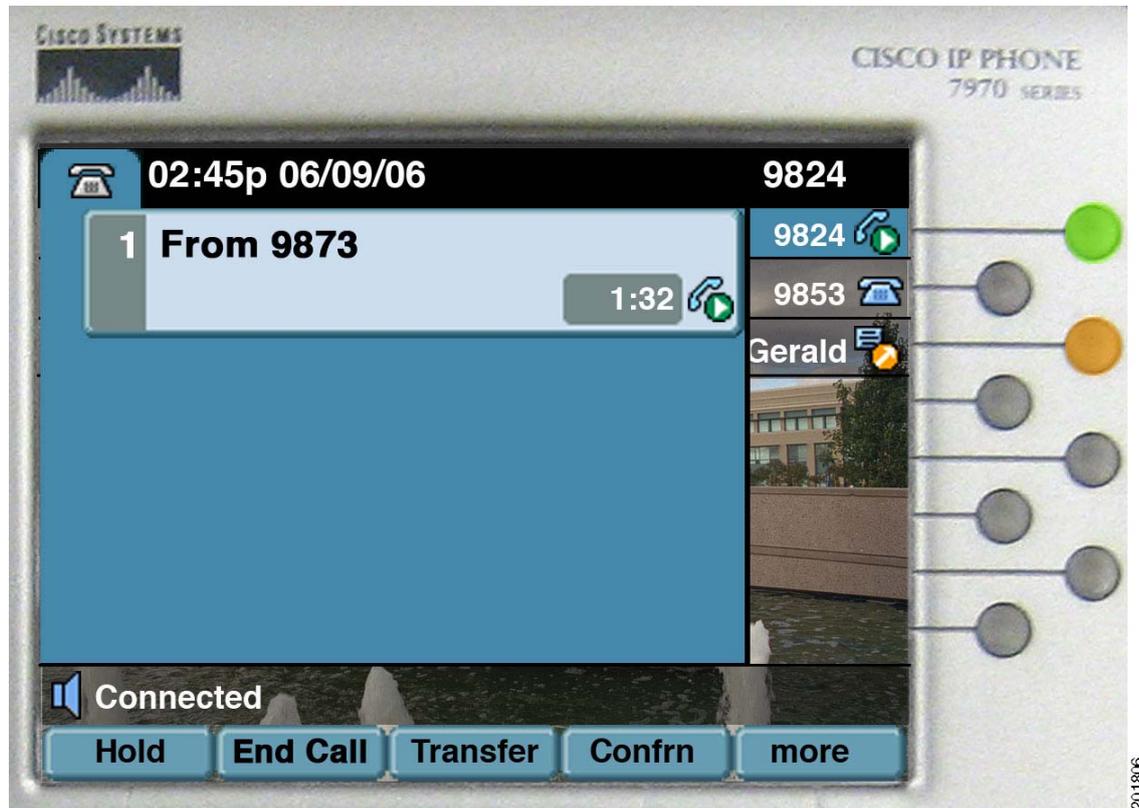
(注)

コールタイマーはリセットされません。

シナリオ 3

アンナが、接続中または保留中のコールが存在するときに、事前設定されたインターコムの発信先であるジェラルドからインターコム コールを受信します。

図 28-6 ウィスパー



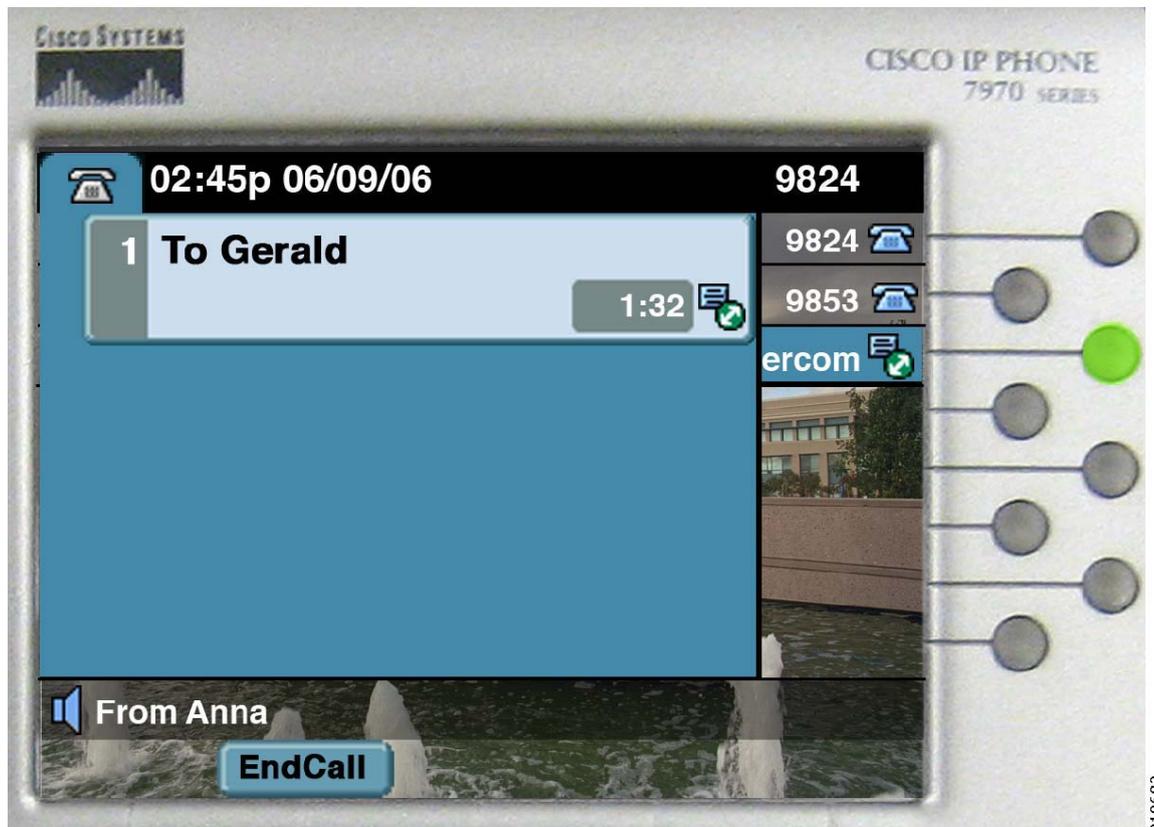
- アンナが電話で会話しているときに、事前設定されたインターコム回線インジケータがオレンジ色に点滅し、ジェラルドがインターコム回線でアンナにコールを発信していることが示されます。
 - 回線キーが緑色に点灯します。
 - インターコム キーがオレンジ色に点灯します。



(注) 自動回線選択が無効（デフォルト）の場合は、現在のコールにフォーカスが保持されます。

- アンナが使用している電話機で、自動応答アラート トーンが再生され、次にジェラルドの音声聞こえます。
- アンナにはジェラルドの音声聞こえますが、ジェラルドには、アンナがインターコムコールに回答するまでアンナの音声は聞こえません。
- アンナに接続されている現在の発信者（電話番号は 9873）には、アンナの音声聞こえますが、ジェラルドの音声は聞こえません。

図 28-7 接続時



- アンナが、インターコム回線キーを押してインターコム コールに応答します。
 - 回線キーが緑色に点滅します。
- インターコム コールにフォーカスが移動し、以前のコールは保留になります。
 - インターコム回線キーが緑色に点灯します。



(注) コール タイマーは、ウィスパー状態と現在の接続時状態の累積コール時間を表します。

シナリオ 4

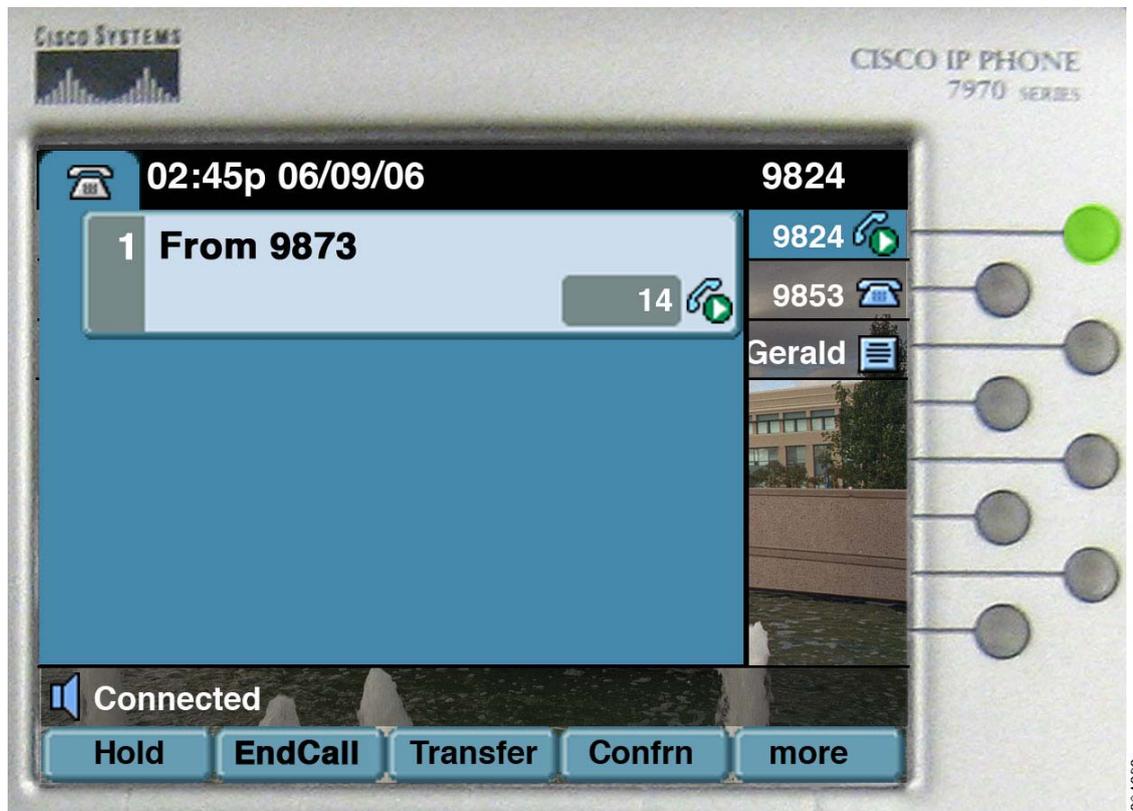
アンナが、ウィスパー状態または接続時状態のインターコム コールが存在するときに、プライマリ回線で新しいコールを受信します。

図 28-8 接続時



- アンナがインターコム回線でジェラルドと会話しているときに、アンナの内線番号である 9824 へのコールが表示されます。インターコム コールにはフォーカスが保持されます。
 - 回線キーがオレンジ色に点滅します。
 - インターコム キーが緑色に点灯します。

図 28-9 アイドル



- アンナが、9824 の回線キーを押してインターコム コールに応答します。
 - 回線キーが緑色に点灯します。
- 着信コールにフォーカスが移動し、コールが接続されます。
- システムがインターコム コールをクリアします。
 - インターコム キーが消灯します。

201298

シナリオ 5

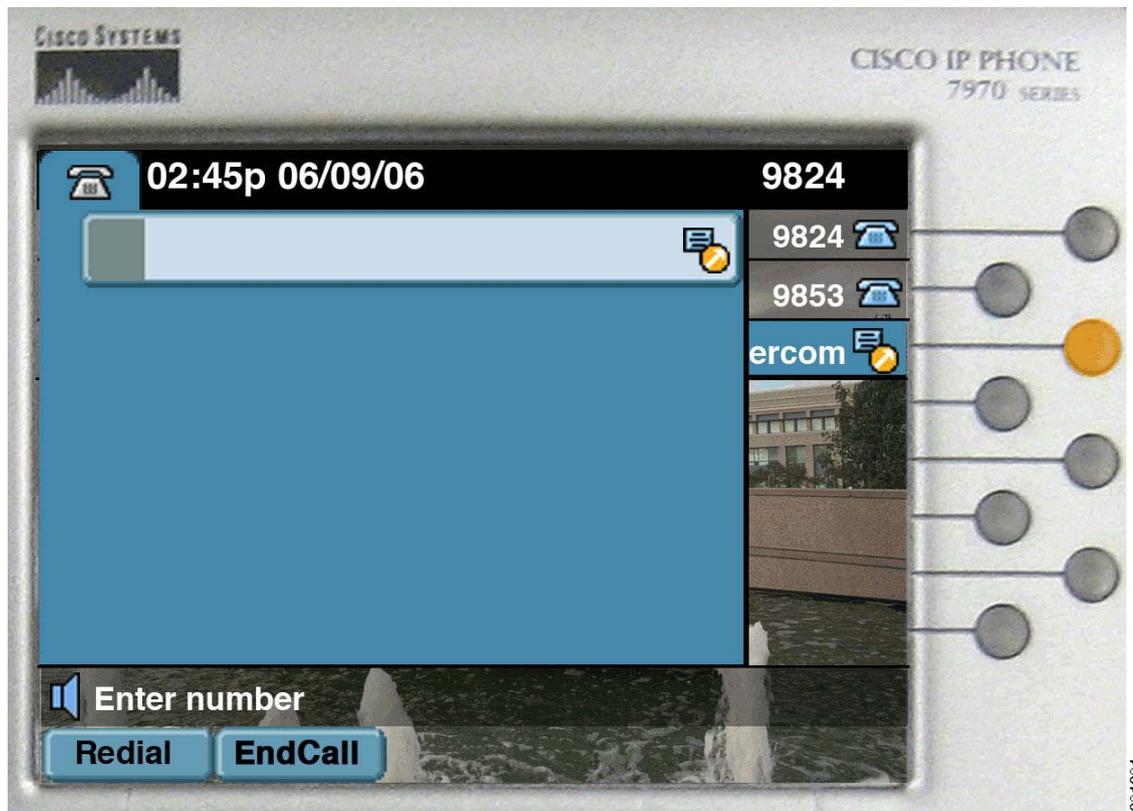
アンナが、アイドル状態のときに、ジェラルドにインターコム コールを発信します。インターコム回線には、発信先が事前設定されていません。

図 28-10 アイドル



- 回線キーはすべて消灯しています。

図 28-11 ダイヤルアウト

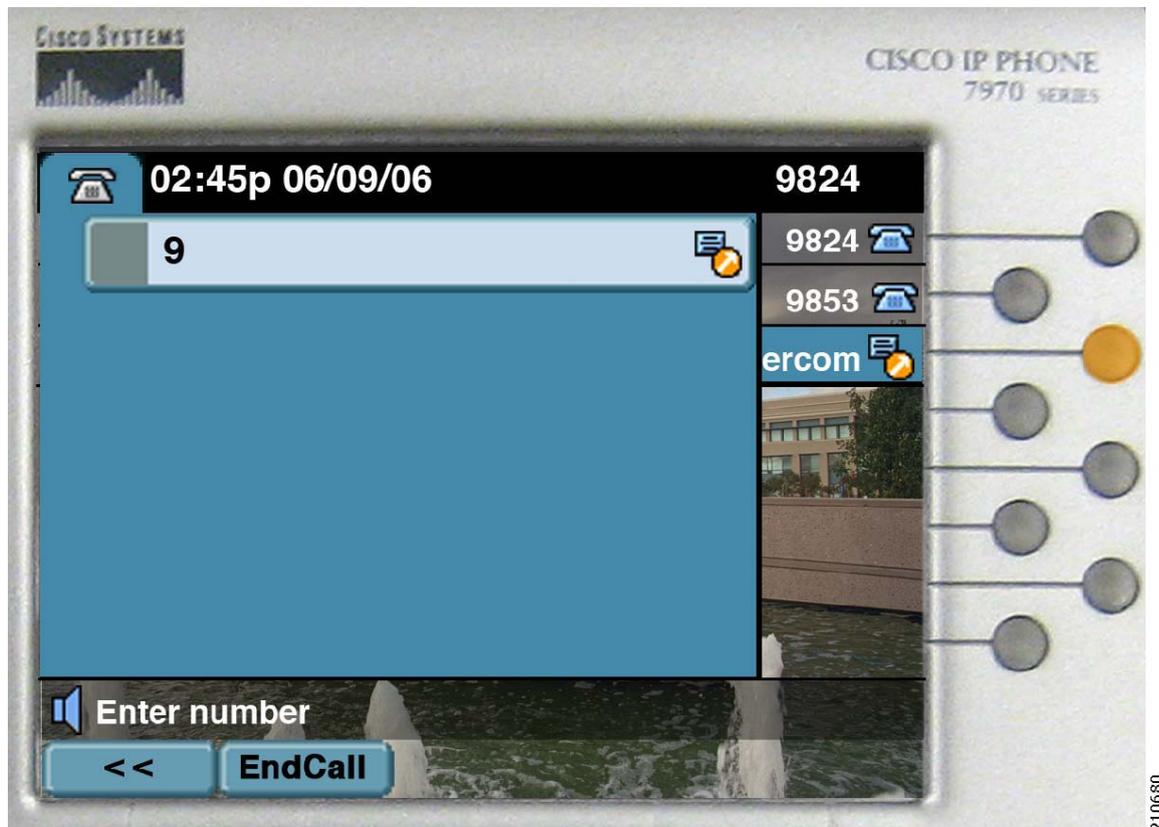


- アンナが回線キーを押します。その結果、ダイヤルアウト状態になります。
 - インターコム キーがオレンジ色に点灯します。
- 電話機が「内部」ダイヤル トーンを受信します。



(注) この時点で、アンナがインターコム番号以外の番号をダイヤルした場合、電話機は速いビジー トーンを受信します。

図 28-12 先頭桁入力後



- アンナがダイヤルを開始します。その結果、先頭桁入力後状態になります。
 - インターコム キーがオレンジ色に点灯します。

図 28-13 ウィスパー



- アンナがインターコム番号をダイヤルすると、ウィスパー状態になります。
 - インターコム キーがオレンジ色に点灯します。
- 電話機で自動応答アラートが再生されます。
- ジェラルドにはアンナの音声聞こえますが、アンナには、ジェラルドがインターコムコールに回答するまでジェラルドの音声は聞こえません。

図 28-14 接続時



- ジェラルドが、インターコム回線キーを押してインターコム コールに応答します。
 - アンナの電話機で、インターコム キーが緑色に点灯します。
- コール タイマーはリセットされず、ウィスパー状態から続行されます。

関連項目

- 「インターコムの設定チェックリスト」 (P.28-1)
- 「インターコムの概要」 (P.28-3)
- 「システム要件」 (P.28-4)
- 「コール状態と回線状態」 (P.28-5)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.28-6)
- 「インターコムのインストールとアクティブ化」 (P.28-8)
- 「インターコムの設定」 (P.28-8)
- 「インターコムの使用方法」 (P.28-43)
- 「インターコムパーティションの設定」 (P.28-9)
- 「インターコムコーリングサーチスペースの設定」 (P.28-17)
- 「インターコムトランスレーションパターンの設定」 (P.28-22)
- 「インターコム電話番号の設定」 (P.28-33)
- 「インターコム回線とスピードダイヤルの設定」 (P.28-42)
- 「インターネットプロトコルバージョン 6 (IPv6)」 (P.29-1)
- 『*Troubleshooting Guide for Cisco Unified Communications Manager*』



CHAPTER 29

インターネット プロトコルバージョン 6 (IPv6)

インターネット プロトコルバージョン 6 (IPv6) は、パケットを使用してデータ、音声、およびビデオトラフィックをデジタルネットワークを通じて交換するインターネット プロトコル (IP) の最新バージョンです。IPv6 では、ネットワーク アドレス ビット数が IPv4 での 32 ビットから 128 ビットに増やされています。Cisco Unified Communications Manager ネットワークでの IPv6 サポートにより、ネットワークはデュアルスタック環境で透過的に動作し、ネットワークに接続されるデバイスに対して追加の IP アドレス空間および自動設定機能が提供されます。

この情報を参照する際は、『*Deploying IPv6 in Unified Communications Networks with Cisco Unified Communications Manager 7.1(x)*』も参照してください。このマニュアルには、Cisco Unified Communications ネットワークに IPv6 を配置するための設計ガイドラインが記載されています。

この章では、Cisco Unified Communications Manager の IPv6 サポートおよびネットワーク内のその他のコンポーネントについて説明します。この章では、次のトピックについて取り上げます。

- 「IPv6 の設定チェックリスト」 (P.29-2)
- 「Cisco Unified Communications Manager の IPv6 の概要」 (P.29-5)
 - 「コンピュータ / テレフォニー インテグレーション (CTI) アプリケーション」 (P.29-6)
 - 「Cisco Unified Communications Manager」 (P.29-6)
 - 「Cisco Unified IP Phone」 (P.29-9)
 - 「DHCPv6」 (P.29-12)
 - 「DNS」 (P.29-12)
 - 「ゲートウェイ」 (P.29-13)
 - 「メディア ターミネーション ポイント」 (P.29-14)
 - 「SIP トランク」 (P.29-15)
 - 「TFTP サーバ」 (P.29-16)
- 「IPv6 のシステム要件」 (P.29-18)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.29-18)
- 「IPv6 のインストールとアクティブ化」 (P.29-23)
- 「IPv6 の設定」 (P.29-23)
 - 「[イーサネット IPv6(Ethernet IPv6)] ウィンドウでの IPv6 CLI コマンドの実行および IPv6 の設定」 (P.29-23)

IPv6 の設定チェックリスト

- 「IPv6 のサービス パラメータとエンタープライズ パラメータの設定」 (P.29-27)
- 「Cisco Unified Communications Manager の管理ページの IPv6 および IPv4 設定項目へのアクセス」 (P.29-29)
- 「エンド ユーザへの情報の提供」 (P.29-35)
- 「IPv6 のトラブルシューティング」 (P.29-35)
- 「関連項目」 (P.29-35)

IPv6 の設定チェックリスト

インターネット プロトコル バージョン 6 (IPv6) は、パケットを使用してデータ、音声、およびビデオ トラフィックをデジタル ネットワークを通じて交換するインターネット プロトコル (IP) の最新バージョンです。IPv6 では、ネットワーク アドレス ビット数が IPv4 での 32 ビットから 128 ビットに増やされています。Cisco Unified Communications Manager ネットワークでの IPv6 サポートにより、ネットワークはデュアルスタック環境で透過的に動作し、ネットワークに接続されるデバイスに対して追加の IP アドレス空間および自動設定機能が提供されます。

この情報を参照する際は、『*Deploying IPv6 in Unified Communications Networks with Cisco Unified Communications Manager 7.1(x)*』も参照してください。このマニュアルには、Cisco Unified Communications ネットワークに IPv6 を配置するための設計ガイドラインが記載されています。

表 29-1 は、ネットワークで IPv6 を設定するためのチェックリストです。表 29-1 と「[関連項目](#)」(P.29-35) を併せて参照してください。

表 29-1 IPv6 の設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 IPv6 を設定する前に、IPv6 関連の文書をすべて確認します。	たとえば、次のマニュアルを確認します。 <ul style="list-style-type: none"> • 『<i>Deploying IPv6 in Unified Communications Networks with Cisco Unified Communications Manager 7.1(x)</i>』 • 『<i>Cisco IOS IPv6 Configuration Library</i>』 • 『<i>Implementing VoIP for IPv6</i>』 • IPv6 に関するこの章
ステップ 2 互換性のあるネットワーク ハードウェアおよび Cisco IOS ソフトウェアが設置、インストール、および設定されていることを確認します。たとえば、ゲートウェイおよび IPv6 用の Cisco IOS Media Termination Point (MTP; メディア ターミネーションポイント) を設定します。	『 <i>Implementing VoIP for IPv6</i> 』 『 <i>Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド</i> 』の「 Cisco IOS メディア ターミネーションポイントの設定値 」 「 メディア ターミネーションポイント 」(P.29-14)

表 29-1 IPv6 の設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
<p>ステップ 3 ローカル IPv6 対応 DNS および DHCP サーバをプロビジョニングします。</p> <p> 注意 Cisco Unified Communications Manager Release 7.0(x) から Release 8.5(1) にアップグレードする前に、IPv6 用の DNS サーバをプロビジョニングできます。ただし、Release 8.5(1) にアップグレードするまで、Cisco Unified Communications Manager の DNS レコードを IPv6 用に設定しないでください。Release 8.5(1) にアップグレードする前に Cisco Unified Communications Manager の DNS レコードを IPv6 用に設定すると、アップグレードが失敗し、リブート後システムが機能しなくなる原因となります。</p> <p>ヒント Cisco Unified Communications Manager サーバでは静的な非リンク ローカル IPv6 アドレスを使用することをお勧めします。Cisco Unified Communications Manager サーバが DHCPv6 サーバから、またはステートレスなアドレス自動設定によって IPv6 アドレスを取得する場合、Cisco Unified Communications Manager サーバが非リンク ローカル IPv6 アドレスを DHCPv6 サーバから 1 つだけ取得するようにします。</p>	<p>お客様の DNS および DHCP サーバをサポートするマニュアルを参照してください (『Cisco Network Registrar User's Guide 6.2』など)。</p>
<p>ステップ 4 Cisco Unified Communications Manager 8.0 をインストールします (またはこのリリースにアップグレードします)。</p> <p>後続のノード (サブスクライバ) をクラスタにインストールする前に、IPv4 サーバ情報を Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [サーバの設定 (Server Configuration)] ウィンドウに追加します。</p> <p> 注意 Cisco Unified Communications Manager Release 7.0(x) から Release 8.5(1) にアップグレードする前に、IPv6 用の DNS サーバをプロビジョニングできます。ただし、Release 8.5(1) にアップグレードするまで、Cisco Unified Communications Manager の DNS レコードを IPv6 用に設定しないでください。Release 8.5(1) にアップグレードする前に Cisco Unified Communications Manager の DNS レコードを IPv6 用に設定すると、アップグレードが失敗し、リブート後システムが機能しなくなる原因となります。</p>	<p>Cisco Unified Communications Manager 8.0 のインストールまたはアップグレードマニュアル</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サーバの設定値」</p>

IPv6 の設定チェックリスト

表 29-1 IPv6 の設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
<p>ステップ 5 IPv6 を Cisco Unified Communications オペレーティング システムで有効にし、Cisco Unified Communications Manager サーバが IPv6 アドレスを取得するようにします。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager サーバでは静的な非リンク ローカル IPv6 アドレスを使用することをお勧めします。</p> <p>ヒント クラスタ内の各サーバに対して、これらの作業を実行します。これらの作業の実行には、サーバのリブートが必要です。</p>	<p>「Cisco Unified Communications Manager」(P.29-6)</p> <p>「[イーサネット IPv6(Ethernet IPv6)] ウィンドウでの IPv6 CLI コマンドの実行および IPv6 の設定」(P.29-23)</p>
<p>ステップ 6 Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ウィンドウで、Enable IPv6 エンタープライズパラメータに対して [True] を選択します。</p> <p>ヒント このエンタープライズパラメータを更新した後、Cisco Unified サービスアビリティで Cisco CallManager、CTIManager、および Certificate Authority Proxy Function サービスを再起動します。</p>	<p>「IPv6 のサービスパラメータとエンタープライズパラメータの設定」(P.29-27)</p>
<p>ステップ 7 Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定しているサーバに対して、[システム (System)] > [サーバ (Server)] を選択し、非リンク ローカル IPv6 アドレスまたは IPv6 アドレスに解決できるホスト名を [IPv6 名 (IPv6 Name)] フィールドに入力します。</p> <p>ヒント クラスタ内の各サーバに対して、この作業を実行します。</p> <p>ヒント 適切な Cisco Unified Communications Manager 名およびアドレス情報を使用して DNS サーバを更新します。</p> <p> 注意 Cisco Unified Communications Manager Release 7.0(x) から Release 8.5(1) にアップグレードする前に、IPv6 用の DNS サーバをプロビジョニングできません。ただし、Release 8.5(1) へのアップグレードが終了するまでは、IPv6 用の Cisco Unified Communications Manager の DNS レコードを設定しないでください。Release 8.5(1) にアップグレードする前に IPv6 用の Cisco Unified Communications Manager の DNS レコードを設定すると、アップグレードが失敗し、リブート後にシステムが機能しなくなります。</p> <p>非リンク ローカル IPv6 アドレスを表示するには、CLI コマンドを実行するか、「[イーサネット IPv6(Ethernet IPv6)] ウィンドウでの IPv6 CLI コマンドの実行および IPv6 の設定」(P.29-23) で説明されているように [イーサネット IPv6(Ethernet IPv6)] ウィンドウで表示します。</p>	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サーバの設定値」</p> <p>「Cisco Unified Communications Manager の管理ページの IPv6 および IPv4 設定項目へのアクセス」(P.29-29)</p>

表 29-1 IPv6 の設定チェックリスト (続き)

設定手順		関連手順と関連項目
ステップ 8	<p>Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、電話機関連および Session Initiation Protocol (SIP) トランク関連の IPv6 設定項目を設定します。</p> <p>たとえば、[共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration)] ウィンドウで [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] および [電話の自動設定を許可 (Allow Auto-Configuration for Phones)] 設定項目を設定します。次に、共通のデバイスプロファイルの設定を電話機および SIP トランクに適用します。</p>	<p>『Cisco Unified Communications Manager の管理ページの IPv6 および IPv4 設定項目へのアクセス』 (P.29-29)</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミネストレーションガイド』の「SIP ルート パターンの設定値」</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミネストレーションガイド』の「トランクの設定」</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミネストレーションガイド』の「共通デバイスの設定値」</p>
ステップ 9	Cisco Unified サービスアビリティで、Cisco CallManager、CTIManager、および Cisco Certificate Authority Proxy サービスを再起動します。	『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』

Cisco Unified Communications Manager の IPv6 の概要

この項は、次の内容で構成されています。

- 「コンピュータ/テレフォニー インテグレーション (CTI) アプリケーション」 (P.29-6)
- 「Cisco Unified Communications Manager」 (P.29-6)
- 「Cisco Unified IP Phone」 (P.29-9)
- 「DHCPv6」 (P.29-12)
- 「DNS」 (P.29-12)
- 「ゲートウェイ」 (P.29-13)
- 「メディア ターミネーション ポイント」 (P.29-14)
- 「SIP トランク」 (P.29-15)
- 「TFTP サーバ」 (P.29-16)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.29-18)

コンピュータ / テレフォニー インテグレーション (CTI) アプリケーション

CTI は IP 情報を JTAPI および TAPI インターフェイスで提供します。これらのインターフェイスは IPv4 および IPv6 アドレスをサポートできます。IPv6 をサポートするには、IPv6 をサポートする JTAPI/TAPI クライアント インターフェイス バージョンをアプリケーションで使用する必要があります。CTI アプリケーションおよび CTI ポートおよびルート ポイントについては、次の情報を考慮します。

- CTI アプリケーションは、IPv4 または IPv6 アドレスを使用して CTI Manager に接続します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで Enable IPv6 エンタープライズ パラメータを [True] に設定した場合、CTI Manager は IPv6 アドレスを使用するアプリケーションからの CTI 接続をサポートできます。
- CTI アプリケーションは、IPv6 または IPv4 アドレスを使用する CTI ポートおよびルート ポイントを登録できます。CTI ポートおよびルート ポイントのメディア イベントを処理する CTI アプリケーションは、デバイスの設定に応じて、デバイスを IPv4 または IPv6 アドレスに登録できます。
- CTI アプリケーションは、IPv6 機能を持つ CTI サポート対象デバイスを監視および制御できます。
- コールが IPv6 を使用する場合、CallingPartyAddress およびメディア IP アドレスを含む IPv6 情報が CTI アプリケーションに渡されます。

Cisco Unified Communications Manager

この項では、Cisco Unified Communications Manager による IPv4、IPv6、または IPv4 と IPv6 を使用するデバイスのサポート方法について説明します。また、デュアルスタック モードでの Cisco Unified Communications Manager の実行方法、Cisco Unified Communications Manager による IPv4 および IPv6 デバイスのコールの処理方法、および Cisco Unified Communications Manager による IPv4 および IPv6 コールの帯域幅の予約および割り当て方法について説明します。

次の項を参照してください。

- 「[Cisco Unified Communications Manager サーバ](#)」 (P.29-6)
- 「[コール処理](#)」 (P.29-8)
- 「[コールアドミッション制御 \(CAC\)](#)」 (P.29-8)



ヒント

このマニュアルでは、デュアルスタック (またはデュアルスタック モード) という用語を使用します。これは、デバイスまたはサーバが IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方を使用することを想定します。

Cisco Unified Communications Manager サーバ

Cisco Unified Communications Manager は、IPv6 だけを使用するデバイスと通信してサポートできますが、Cisco Unified Communications Manager サーバを IPv6 専用として設定することはできません。Cisco Unified Communications Manager は、IPv4 だけ (または IPv4 と IPv6 の両方) をサポートするデバイスおよび機能と通信してサポートする必要があります。Cisco Unified Communications Manager が IPv6 を使用するデバイス (IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方を提供できるデュアルスタック デバイスを含む) をサポートするには、デュアルスタック モードで実行されるように Cisco Unified Communications Manager を設定する必要があります。つまり、Cisco Unified Communications Manager サーバに IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方が設定され、IPv4 だけ、IPv6 だけ、または IPv4 と IPv6 の両方を使用するデバイスと通信してサポートできるようにする必要があります。



ヒント

クラスタ内 Cisco Unified Communications Manager ノード間通信は IPv4 を使用します。

Cisco Unified Communications Manager サーバをデュアルスタック モードで実行する前に、次の作業を実行する必要があります。

1. Cisco Unified Communications Manager サーバで、Cisco Unified Communications オペレーティング システムの IPv6 を有効にします。
2. Cisco Unified Communications Manager サーバがその IPv6 アドレスを取得する方法を決定し、Cisco Unified Communications Manager サーバがその IPv6 アドレスを取得するようにします。

Cisco Unified Communications オペレーティング システムでは、DHCPv6 サーバから非リンク ローカル アドレスを要求するか、Cisco Unified Communications Manager サーバ用の静的な非リンク ローカル IPv6 アドレスを設定するか、またはステートレスなアドレス自動設定によって非リンク ローカル IPv6 アドレスを取得できます (サーバ用の静的な非リンク ローカル IPv6 アドレスをお勧めします)。

Cisco Unified Communications Manager サーバが非リンク ローカル IPv6 アドレスを 1 つだけ取得するようにします。サーバが複数の IPv6 アドレスを取得した場合、Cisco Unified Communications Manager は予想どおりに動作しない場合があります。

Cisco Unified Communications Manager サーバがステートレスなアドレス自動設定によって IPv6 アドレスを取得し、さらにサーバに対して設定された静的な IPv6 アドレスもある場合、Cisco Unified Communications Manager はステートレスなアドレス自動設定によって取得された IPv6 アドレスを無視し、静的なアドレスを使用します。

3. Cisco Unified Communications Manager に対して、Enable IPv6 エンタープライズ パラメータを [True] に設定します。これにより、Cisco Unified Communications Manager はデュアルスタック モードで実行されます。このエンタープライズ パラメータについては、「[IPv6 のサービス パラメータとエンタープライズ パラメータの設定](#)」(P.29-27) を参照してください。



注意

Cisco Unified Communications オペレーティング システムで IPv6 を有効にし、Enable IPv6 エンタープライズ パラメータを [True] に設定する必要があります。これらの作業の両方を実行しない場合、Cisco CallManager サービスは IPv4 で実行され、[IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv6 のみ (IPv6 Only)] に設定された電話機は Cisco Unified Communications Manager に登録できません。

これらの作業をサーバで実行した後、サーバを再起動して変更を有効にする必要があります。

4. Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [サーバの設定 (Server Configuration)] ウィンドウで、[ホスト名 /IP アドレス (Host Name/IP Address)] および [IPv6 名 (IPv6 Name)] フィールドを設定します。これにより、Cisco Unified Communications Manager はデュアルスタック モードで実行されます。Cisco Unified Communications Manager では、[ホスト名 /IP アドレス (Host Name/IP Address)] フィールドは必須と見なされます。つまり、ネットワーク内のデバイスが IPv6 だけをサポートする場合でも、このフィールドを設定する必要があります。ネットワーク内のデバイスが IPv6 だけ、または IPv4 と IPv6 をサポートする場合、[ホスト名 /IP アドレス (Host Name/IP Address)] フィールドに加えて [IPv6 名 (IPv6 Name)] フィールドを設定する必要があります。Cisco Unified Communications Manager の非リンク ローカル IPv6 アドレスを [IPv6 名 (IPv6 Name)] フィールドに入力する必要があります。

電話機は、TFTP 設定ファイルに含まれているこれらのフィールドを使用して Cisco Unified Communications Manager サーバの IP アドレスを取得し、その結果、電話機の登録が行われます。

コール処理

デュアルスタック モードで実行されることにより、Cisco Unified Communications Manager は次の状況でコールを設定できます。

- すべてのデバイスが IPv4 だけをサポートする場合。
- すべてのデバイスが IPv6 だけをサポートする場合。
- すべてのデバイスがデュアルスタック モードで実行される場合。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、シグナリング イベントに対して [シグナリング用の IP アドレッシングモード設定 (IP Addressing Mode Preference for Signaling)] 設定項目の設定を使用し、メディア イベントに対して IP Addressing Mode Preference for Media エンタープライズパラメータを使用します。
- 1 つのデバイスが IPv4 をサポートし、別のデバイスが IPv6 をサポートする場合。この場合、Cisco Unified Communications Manager は IPv4 を IPv6 に変換できる MTP をコールに挿入しようとします。



ヒント

デバイスが複数の IPv6 アドレスをサポートできる場合でも、Cisco Unified Communications Manager が処理する IPv6 アドレスは 1 つだけです。また、デバイスが IPv4 および IPv6 アドレスをサポートする場合、Cisco Unified Communications Manager は両方のアドレスを同時に処理できます。

Cisco Unified Communications Manager による IPv4 および IPv6 コールの処理方法の詳細については、「Cisco Unified IP Phone」(P.29-9)、「メディア ターミネーション ポイント」(P.29-14)、「SIP トランク」(P.29-15)、および「インタラクションおよび制限事項」(P.29-18) を参照してください。

コールアドミSSION制御 (CAC)

IPv6 を使用すると IPv4 よりも 20 バイト大きいデータがヘッダーに必要であるため、IPv6 コールでは同じコーデックおよびメディア ペイロードタイプを使用する同様の IPv4 コールよりも多くの帯域幅が必要になります。たとえば、IPv4 を使用する G.711 コールは 80 kb/s の帯域幅を使用します。一方、IPv6 を使用する G.711 コールは 88 kb/s の帯域幅を使用します。

IPv6 を使用するコールのロケーションベースの帯域幅を予約および調整するために、Cisco Unified Communications Manager は Cisco Unified Communications Manager でサポートされるすべてのコーデックの IPv6 コールに必要な帯域幅を計算できます。コールの設定中に帯域予約のためにデバイスが Cisco Unified Communications Manager に接続した後、Cisco Unified Communications Manager は IP バージョンを識別します。コールが IPv6 を使用する場合、Cisco Unified Communications Manager は IPv6 用の帯域幅を予約し、コールが IPv4 を使用する場合、Cisco Unified Communications Manager は IPv4 用の帯域幅を予約します。コールに使用される IP バージョンを Cisco Unified Communications Manager が識別できない場合、たとえば、コールが SIP トランクで終端する場合やデバイスが両方の IP バージョンをサポートする場合は、Cisco Unified Communications Manager は最初に IPv6 をサポートする帯域幅を予約し、メディア ネゴシエーションの後で帯域幅を調整します。



ヒント

Cisco Unified Communications Manager は一度に 1 つのコール レッグの帯域幅を予約します。そのため、MTP がコールに挿入され、ロケーションベースの CAC が必要な場合、MTP がデバイスの 1 つと同じ場所に配置されるようにします。その結果、ロケーションベースの CAC は、MTP の反対側に基づいて WAN を介して帯域幅を予約します。たとえば、IPv4 から IPv6 デバイスへコールが発生した場合、IPv4 側で MTP の挿入が発生し、Cisco Unified Communications Manager は IPv6 に基づいて WAN を介して帯域幅を予約します。一方、IPv6 を使用するデバイスで MTP が挿入された場合、Cisco Unified Communications Manager は IPv4 に基づいて WAN を介して帯域幅を予約します。

必要な場合は、Call Counting CAC Enabled、Audio Bandwidth for Call Counting CAC、および Video Bandwidth Unit for Call Counting CAC サービス パラメータを Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定できます。コール中に Cisco Unified Communications Manager で帯域幅を予約および調整するのではなく、コールは固定値の帯域幅を使用します。これらのサービス パラメータについては、「[IPv6 のサービス パラメータとエンタープライズ パラメータの設定](#)」(P.29-27) を参照してください。これらのサービス パラメータを設定すると、Cisco Unified Communications Manager によってコールの帯域幅がオーバーサブスクライブまたはアンダーサブスクライブされる可能性があることに注意してください。

Cisco Unified IP Phone

この項では、電話機と Cisco Unified Communications Manager 間の IPv4 および IPv6 コールの使用例について説明します。電話機が IP アドレスやその他のネットワーク設定項目を取得する方法については説明しません。



ヒント

電話機での IPv6 の使用の詳細については、ご使用の電話機モデルおよびこのリリースの Cisco Unified Communications Manager をサポートする『*Cisco Unified IP Phone Administration Guide*』を参照してください。電話機の管理ガイドには、電話機に表示される IPv6 設定項目の説明が記載されています。

次の使用例を参照してください。これらの使用例では、Cisco Unified Communications Manager が適切なポートで受信でき、IP アドレス バージョンを変換するために MTP が使用可能であり、デバイスが適切なアドレス バージョンを持っていることを前提としています。

- 「電話機の [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv4 のみ (IPv4 Only)]」
- 「電話機の [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv6 のみ (IPv6 Only)]」
- 「電話機の [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv4 と IPv6(IPv4 and IPv6)]」



ヒント

電話機は、起動時に常にデュアルスタック モードで起動します。つまり、IPv4 と IPv6 の両方をサポートできます。電話機が TFTP サーバの設定ファイルを処理した後、[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウから [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が電話機に設定されます。[IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] に基づいて、電話機は DHCP または DHCPv6 を無効にでき、その [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] をサポートしないアドレスを解放できます。たとえば、[IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv6 のみ (IPv6 Only)] の場合、電話機は IPv4 アドレスを解放します。

電話機に複数の一意のローカルアドレスまたは複数のグローバルアドレスがある場合、電話機に割り当てられる最初のアドレスによって、シグナリング イベントおよびメディア イベントについて Cisco Unified Communications Manager に送信されるアドレスが指定されます。デュアルスタック モードで実行されている電話機が特定のアドレス タイプを失うと、電話機は Cisco Unified Communications Manager から登録解除され、残りのアドレス タイプを使用して登録します。

メディア ネゴシエーションでは、Cisco Unified Communications Manager はコールに使用する IP アドレスを動的に決定します。つまり、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスが [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] を共有するかどうかを識別します。たとえば、1 つのデバイスの [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv4 と IPv6 (IPv4 and IPv6)] であり、他のデバイスの [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv4 のみ (IPv4 Only)] の場合、Cisco Unified Communications Manager はメディア ネゴシエーションに IPv4 を使用し、IP アドレス バージョンを変換するための MTP を必要としません。コールのデバイスが 1 つの IP アドレス バージョンだけをサポートし、バージョンに互換性がない場合、Cisco Unified Communications Manager はデバイスの IP アドレス バージョンを使用し、IPv4 を IPv6 に変換できる MTP をコールに挿入しようとします。コールのすべてのデバイスが両方の IP アドレス バージョンをサポートする場合、Cisco Unified Communications Manager は IP Addressing Mode Preference for Media エンタープライズ パラメータの設定をメディア ネゴシエーションに使用します。

電話機の [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv4 のみ (IPv4 Only)]

電話機の [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv4 のみ (IPv4 Only)] の場合、電話機は IPv4 アドレスを使用して Cisco Unified Communications Manager に接続します。シグナリングおよびメディア ネゴシエーションは、IPv4 アドレスを使用して行われます。電話機で IPv4 アドレスを使用できない場合、ユーザはコールできません。

電話機の [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv6 のみ (IPv6 Only)]

電話機の [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv6 のみ (IPv6 Only)] で、Enable IPv6 エンタープライズ パラメータを [True] に設定した場合、電話機はグローバル スcope または一意のローカル スcope IPv6 アドレスを使用して Cisco Unified Communications Manager に接続します。シグナリングおよびメディア ネゴシエーションは、この IPv6 アドレスを使用して行われます。電話機で IPv6 アドレスを使用できない場合、ユーザはコールできません。同様に、電話機に対して IPv6 アドレスが設定されていない場合、電話機は Cisco Unified Communications Manager に登録できません。



ヒント

[IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv6 のみ (IPv6 Only)] の電話機では、Cisco Unified Communications Manager によってすべての機能はサポートされません。サポートされない機能のリストについては、「[インタラクションおよび制限事項 \(P.29-18\)](#)」を参照してください。

SIP を実行する電話機の [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] として [IPv6 のみ (IPv6 Only)] を設定する場合、Cisco TFTP サービスによって [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] 設定は上書きされ、設定ファイルで [IPv4 のみ (IPv4 Only)] が使用されます。

電話機の [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv4 と IPv6(IPv4 and IPv6)]

電話機の [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv4 と IPv6(IPv4 and IPv6)] で、Enable IPv6 エンタープライズ パラメータを [True] に設定した場合、Cisco Unified Communications Manager は、コールを接続する前に、電話機の IP アドレス サポートおよび [シグナリング用の IP アドレッシングモード設定 (IP Addressing Mode Preference for Signaling)] 設定項目の設定を考慮します。

電話機で使用できる IP アドレス バージョンが 1 つだけの場合、電話機はシグナリング ネゴシエーション用に Cisco Unified Communications Manager に接続するために使用できるアドレスを使用します。電話機で両方の IP アドレス タイプを使用できる場合、電話機はシグナリング ネゴシエーションに対して [シグナリング用の IP アドレッシングモード設定 (IP Addressing Mode Preference for Signaling)] 設定項目の設定を使用します。



ヒント

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで電話機を設定した後、[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウで電話機の IP アドレスを表示できます。IPv4 アドレスだけ、または IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方を持つ電話機の場合、IPv4 アドレスがウィンドウに表示されます。IPv6 アドレスだけを持つ電話機の場合、[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウの [IP アドレス (IP Address)] カラムに、IP アドレスが 0.0.0.0 として表示されます。電話機の IPv6 アドレスを識別するには、[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウの [デバイス名 (Device Name)] リンクをクリックします。これにより、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。IPv6 だけを持つデバイスの場合、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウには、IPv6 アドレスの上に IP アドレスとして 0.0.0.0 と示された IPv4 アドレスが表示されます。

特定の電話機の [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでは、電話機が使用する IPv4 アドレスと IPv6 アドレスを表示できます (該当する場合)。IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方を持つデュアルスタック モードの電話機の場合、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスをクリックでき、その電話機の Web サーバの IPv4 URL がポイントされます。IPv6 アドレスだけを使用する電話機の場合、電話機の Web サーバは IPv4 だけをサポートするため、IPv6 アドレスはクリックできません。

DHCPv6

DHCPv6 は、IPv6 をサポートする DHCP のバージョンです。DHCPv6 では、電話機をネットワークに接続した後で、IPv6 アドレスおよびその他のネットワーク設定項目を電話機に割り当てることができます。また、DHCPv6 では、IPv6 アドレスを Cisco Unified Communications Manager サーバに割り当てることができます。これは、静的な IP アドレスをサーバに割り当てない場合です（サーバには静的な IP アドレスを割り当てておくことをお勧めします）。

Cisco Unified Communications Manager 7.1 は DHCPv6 サーバ機能を提供しないため、DHCPv6 を使用して IPv6 ネットワーク設定項目を電話機またはサーバに割り当てるときは、ネットワーク内に DHCPv6 サーバを設定する必要があります。電話機がその IP アドレスをステートレスなアドレス自動設定ではなく DHCPv6 で受信できるようにする場合は、[電話の自動設定を許可 (Allow Auto-Configuration for Phones)] 設定項目を [オフ (Off)] に設定します。この設定については、「Cisco Unified Communications Manager の管理ページの IPv6 および IPv4 設定項目へのアクセス」(P.29-29) を参照してください。



(注)

Cisco Network Registrar (CNR; Cisco ネットワーク レジストラ) 6.2 は DNS および DHCP サポートを IPv4 と IPv6 に提供するため、DNS および DHCP サポート用に Cisco ネットワーク レジストラを使用することを検討してください。この製品の詳細については、『Cisco Network Registrar User's Guide 6.2』を参照してください。

必要な場合は、Cisco IOS ルータまたはスイッチを DHCPv6 サーバとして設定できます。たとえば、12.2(46)SE (以降) を実行する Cisco Catalyst 3560 シリーズ スイッチまたは Cisco Catalyst 3750 シリーズ スイッチを DHCPv6 サーバとして設定できます。このルータまたはスイッチを設定する前に、ルータまたはスイッチが IPv6 および DHCPv6 サポートに必要な Cisco ベンダー固有の DHCPv6 情報オプションをサポートするかどうかを確認します。

最上位のスコープ ルールの場合、一意のローカル アドレスだけを電話機に割り当てるように DHCPv6 サーバを設定することを考慮します。グローバルユニキャストアドレスを使用する必要がある場合、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』で説明されているように、Transport Layer Security (TLS; トランスポート層セキュリティ) 接続および SRTP を設定します。



ヒント

DHCP の詳細については、「TFTP サーバ」(P.29-16)、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「Cisco TFTP」、および『Deploying IPv6 in Unified Communications Networks with Cisco Unified Communications Manager 7.1(x)』を参照してください。

DNS

IPv6 では、DNSv6 によって AAAA レコードが処理されます。このレコードは、IPv6 アドレスをマッピングできます。IPv4 では、DNS によって A レコードが処理されます。このレコードは、IPv4 アドレスをマッピングできます。IPv4 および IPv6 では、次のフィールドは DNS に依存します。これは、フィールドのホスト名を設定する場合です。

- [ホスト名 /IP アドレス (Host Name/IP Address)] ([サーバの設定 (Server Configuration)] ウィンドウ) : IPv4 アドレスまたはホスト名を入力できます。
- [IPv6 名 (IPv6 Name)] ([サーバの設定 (Server Configuration)] ウィンドウ) : IPv6 アドレスまたはホスト名を入力できます。

- [接続先アドレス (Destination Address)] (SIP の [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウ) : 有効な V4 ドット付き IP アドレス、Fully Qualified Domain Name (FQDN; 完全修飾ドメイン名)、または [接続先アドレスは SRV(Destination Address is an SRV)] フィールドがオンの場合は DNS SRV レコードを入力できます。
- [接続先アドレス IPv6(Destination Address IPv6)] (SIP の [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウ) : このフィールドで許可される値は、有効な IPv6 アドレス (グローバルユニキャストアドレス、一意のローカルアドレス、またはホスト名)、完全修飾ドメイン名 (FQDN)、または [接続先アドレスは SRV(Destination Address is an SRV)] フィールドがオンの場合は DNS SRV レコードです。

**注意**

Cisco Unified Communications Manager Release 7.0(x) から Release 8.5(1) にアップグレードする前に、IPv6 用の DNS サーバをプロビジョニングできます。ただし、Release 8.5(1) にアップグレードするまで、Cisco Unified Communications Manager の DNS レコードを IPv6 用に設定しないでください。Release 8.5(1) にアップグレードする前に Cisco Unified Communications Manager の DNS レコードを IPv6 用に設定すると、アップグレードが失敗し、リブート後システムが機能しなくなる原因となります。

AAAA レコードまたは A レコードが正しくマッピングされていないと、コールは失敗します。

**(注)**

Cisco ネットワーク レジストラ (CNR) 6.2 は DNS および DHCP サポートを IPv4 と IPv6 に提供するため、DNS および DHCP サポート用に CNR を使用することを考慮してください。この製品の詳細については、『Cisco Network Registrar User's Guide, 6.2』を参照してください。

ゲートウェイ

Media Gateway Control Protocol (MGCP) および H.323 ゲートウェイは、IPv6 をサポートしていません。これらのゲートウェイに接続している IPv6 デバイスと通信するために、Cisco Unified Communications Manager はコール中に IPv4 を IPv6 に変換できる MTP を挿入します。

Cisco ATA 186 および 188 Analog Telephone Adaptor は、IPv6 をサポートしていません。

アナログ電話ゲートウェイは、IPv4 だけ、IPv6 だけ、または IPv4 と IPv6 (デュアルスタックモード) で動作できます。

Cisco IOS SIP ゲートウェイは、IPv6 だけ、IPv4 だけ、または IPv4 と IPv6 をデュアルスタックモードで同時にサポートできます。Cisco Unified Communications Manager がこれらのゲートウェイと通信するには、事前に Cisco Unified Communications Manager の管理ページの SIP の [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウで設定する必要があります。ゲートウェイに関する Cisco Unified Communications Manager の考慮事項については、「SIP トランク」(P.29-15) および「メディアターミネーションポイント」(P.29-14) を参照してください。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでのゲートウェイの設定に加えて、『Implementing VoIP for IPv6』で説明されているように、ゲートウェイを設定する必要があります。

メディア ターミネーション ポイント



(注)

この項では、Cisco Unified Communications Manager による IPv4 から IPv6 への変換を必要とするコールへの MTP の挿入方法について説明します。MTP が IP 変換をサポートできるように Cisco IOS MTP を設定する方法については、『*Implementing VoIP for IPv6*』を参照してください。

Cisco IOS MTP は複数の IPv6 アドレスをサポートできますが、MTP はシグナリング イベントおよびメディア イベントについて、グローバル アドレスまたは一意のローカル アドレスを Cisco Unified Communications Manager に送信します。

Cisco IOS MTP は、IPv4 ネットワークと IPv6 ネットワーク間のメディア相互運用をサポートします。IPv4 から IPv6 へのメディア変換用の Cisco IOS MTP は、デュアルスタック モードだけで動作します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、MTP ([メディアリソース (Media Resources)] > [メディアターミネーションポイント (Media Termination Point)]) および トランスコーダ ([メディアリソース (Media Resources)] > [トランスコーダ (Transcoder)]) の [Cisco IOS Enhanced Media Termination Point] オプションだけが、変換機能をサポートします。つまり、Cisco IP Voice Media Streaming Application のソフトウェア MTP コンポーネントは、IPv4 から IPv6 への変換をサポートしません。



ヒント

Cisco Unified Communications Manager が MTP を割り当てる場合、MTP が同時に複数の機能に使用される場合があります。MTP は複数の機能に使用できるため、Cisco Unified Communications Manager は MTP 割り当てに優先順位を付け、IPv6 および IPv4 がサポートされたから、MTP に依存する他の機能がサポートされるようにします。

次の状況で、Cisco Unified Communications Manager は IPv4 を IPv6 (またはその逆) へ変換できる MTP を挿入します。

- コールのデバイスが同じ IP アドレス バージョンをサポートしていない。
- SIP トランクについて、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスをオンにするか、または [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] を [オン (On)] として設定し、Cisco Unified Communications Manager が IPv6 アドレスを使用するデバイスと通信している。SIP トランクについて [メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスをオンにするか、IPv4 から IPv6 への変換以外の理由で MTP をコールに挿入する必要がある場合、次の考慮事項があります。
 - コールの両方の側が MTP を使用しないで IPv4 をネゴシエートできる場合、Cisco Unified Communications Manager は MTP をコールに挿入しません。
 - SIP トランクについて [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv6 のみ (IPv6 Only)] または [IPv4 と IPv6 (IPv4 and IPv6)] の場合、Cisco Unified Communications Manager は IPv4 を IPv6 (またはその逆) へ変換できる MTP をコールに割り当てます。IP アドレス バージョンを変換できる MTP をコールに対して使用できない場合、Cisco Unified Communications Manager はデュアルスタック モードで設定されている SIP トランクに対して IPv4 をサポートする MTP を割り当てます。[IPv6 のみ (IPv6 Only)] として設定されている SIP トランクの場合、Cisco Unified Communications Manager は Session Description Protocol (SDP) セッション記述のない INVITE メッセージを送信します。

Cisco Unified Communications Manager が MTP と通信するとき、Cisco Unified Communications Manager は IPv4 または IPv6 アドレスを要求します。Cisco Unified Communications Manager が IPv4 アドレスを要求する場合、MTP は IPv4 をサポートする RTP ポートを開きます。Cisco Unified Communications Manager が IPv6 をサポートする場合、MTP は IPv6 をサポートする RTP ポートを開きます。

IPv4 を IPv6 に変換できる MTP の要求が失敗した場合、コールに対して IPv6 が要求されるためにコールが失敗する場合があります。IP アドレス バージョンを変換できる MTP がコールに挿入されると、IPv6 デバイスと MTP の間に挿入される中間メディア デバイスは IPv6 要求を処理する必要があります。Cisco Unified Communications Manager で 2 つの MTP を使用でき、各 MTP が実行できる機能が 1 つだけの場合、Cisco Unified Communications Manager は両方の MTP をコールに挿入しようとします。最初の MTP は IPv4 から IPv6 への変換用、2 番目の MTP は MTP を必要とする他の機能のサポート用です。コールにトランスコーダおよび IPv6 対応 MTP が必要であり、使用可能なトランスコーダが IPv6 をサポートしない場合、Cisco Unified Communications Manager は IPv6 対応 MTP を IPv6 をサポートするコールのログで、トランスコーダを IPv4 をサポートするコールのログで挿入しようとします。この状況では、MTP とトランスコーダ間で IP アドレス機能が一致しない場合、コールは失敗します。



(注) SIP トランク (および MTP) が使用される具体的なコール シナリオについては、『*Deploying IPv6 in Unified Communications Networks with Cisco Unified Communications Manager 7.1(x)*』を参照してください。

SIP トランク

適切に設定すると、SIP トランクは IPv4 だけ、IPv6 だけ、または IPv4 と IPv6 をサポートするデバイスと通信できます。Cisco Unified Communications Manager や他のコンポーネントと同様に、SIP トランクは **Enable IPv6** エンタープライズ パラメータの設定を使用して、IPv6 を使用するデバイスをサポートするかどうかを決定します。次の項を参照してください。

- 「SIP トランクの IPv4 または IPv6 シグナリング」(P.29-15)
- 「SIP トランクの IPv4 または IPv6 メディア」(P.29-16)

SIP トランクの IPv4 または IPv6 シグナリング

次の要因によって、SIP トランクのシグナリング イベントに対して IPv4 を使用するか IPv6 を使用するかが決まります。

- コールの方向
- SIP トランクの [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] ([共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで設定してトランクに適用)
- SIP トランクの [シグナリング用の IP アドレッシングモード設定 (IP Addressing Mode Preference for Signaling)] 設定 ([共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウ (または [エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ウィンドウ) で設定してトランクに適用)
- SIP トランクの設定済み接続先アドレス

1 つの接続先アドレス、つまり IPv4 をサポートする [接続先アドレス (Destination Address)] または IPv6 をサポートする [接続先アドレス IPv6 (Destination Address IPv6)] だけを設定する場合、SIP トランクに対して設定する [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が接続先アドレスに対して設定した IP アドレス タイプと一致するようにしてください。設定が一致しない場合、トランクを介したコールは確立されません。

[接続先アドレス (Destination Address)] と [接続先アドレス IPv6(Destination Address IPv6)] の両方を設定する場合は、トランクがデュアルスタック モードになるように、[IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] を [IPv4 と IPv6(IPv4 and IPv6)] として設定してください。デュアルスタック トランクの場合、SIP トランクに適用した [シグナリング用の IP アドレッシングモード設定 (IP Addressing Mode Preference for Signaling)] 設定によって、SIP トランクを介した発信コールのシグナリング イベントに対して IPv4 が使用されるか IPv6 が使用されるかが決まります。

SIP トランクの IPv4 または IPv6 メディア

次の要因によって、SIP トランクのメディア イベントに対して IPv4 を使用するか IPv6 を使用するかが決まります。

- コールの方向
 - コールが早期オファー コールか遅延オファー コールか
 - SDP オファー内の IP アドレス設定
 - SIP トランクの [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] ([共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで設定してトランクに適用)
 - IP Addressing Mode Preference for Media エンタープライズ パラメータの設定 ([エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ウィンドウで設定)
- デュアルスタック デバイスのメディア ネゴシエーションでは、Cisco Unified Communications Manager はコールに対して使用する IP アドレスを動的に決定します。つまり、コールのデバイスでサポートされる IP バージョンが 1 つだけの場合、その IP バージョンが使用され、IP バージョンを変換できる MTP がコールに挿入されます。コールのすべてのデバイスが両方の IP バージョンをサポートする場合、IP Addressing Mode Preference for Media エンタープライズ パラメータの設定が使用されます。
- [ANAT を有効化 (Enable ANAT)] チェックボックスの設定 (および、INVITE で ANAT が必要またはサポートされているか)
 - 電話機の [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)]



(注) SIP トランク (および MTP) が使用される具体的なコール シナリオについては、『*Deploying IPv6 in Unified Communications Networks with Cisco Unified Communications Manager 7.1(x)*』を参照してください。

TFTP サーバ

TFTP サーバは、IPv4 を使用して Cisco Unified Communications Manager のほとんどのコンポーネント (データベースなど) と通信します。ただし、適切に設定すると、TFTP サーバは IPv4、IPv6、または両方のタイプのアドレスを使用するデバイスと通信できます。

デュアルスタック モードで実行すると、TFTP サーバは IPv4 ネットワークと IPv6 ネットワークの両方からのファイル要求に応答できます。IPv4 ネットワークからの要求の場合、TFTP サーバは IPv4 スタックを使用して応答します。IPv6 ネットワークからの要求の場合、TFTP サーバは IPv6 スタックを使用して応答します。これは、Enable IPv6 エンタープライズ パラメータを [True] に設定した場合です。

IPv6 サポートは、デバイスからの TFTP 要求およびローカル TFTP サーバが代替ファイルサーバとして設定されているクラスタ外 TFTP サーバからの HTTP 要求に適用されます。



ヒント

IPv6 ネットワークで、DHCPv6 サーバは、Cisco ベンダー固有の DHCPv6 情報オプションを DHCPv6 応答メッセージで使用して、TFTP IPv6 アドレスをデバイスに渡します。TFTP サーバが IPv4 を使用して要求を処理しているときに、デバイスが IPv6 アドレスを取得して要求を TFTP サーバに送信した場合、TFTP サーバは IPv6 スタックで要求を受信していないため、その要求を受信しません。この場合、デバイスは Cisco Unified Communications Manager に登録できません。

Cisco ベンダー固有の DHCPv6 情報オプションの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco TFTP」、および『Deploying IPv6 in Unified Communications Networks with Cisco Unified Communications Manager 7.1(x)』を参照してください。

TFTP サーバは、Enable IPv6 エンタープライズ パラメータの設定を使用して電話機との通信方法を決定します。Enable IPv6 エンタープライズ パラメータを [False] に設定した場合、TFTP サーバは IPv4 を使用して電話機と通信します。パラメータを [True] に設定した場合、TFTP サーバは電話機の [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] に応じて IPv4 または IPv6 を使用します。Enable IPv6 エンタープライズ パラメータの設定が変更されると、TFTP サーバは新しい設定に関する変更通知を受け取り、その IPv6 機能を有効または無効にします。Cisco TFTP サービスを再起動する必要はありません。

TFTP サーバが電話機に提供する設定ファイルには、次の設定項目の設定が含まれています。

- [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)]、[シグナリング用の IP アドレッシングモード設定 (IP Addressing Mode Preference for Signaling)]、および [電話の自動設定を許可 (Allow Auto-Configuration for Phones)]
- Cisco Unified Communications Manager サーバの [ホスト名 /IP アドレス (Host Name/IP Address)] (IPv4 設定)
- Cisco Unified Communications Manager サーバの [IPv6 名 (IPv6 Name)] (Enable IPv6 エンタープライズ パラメータを [True] に設定する場合だけ)
- CAPF サーバの IPv6 アドレス (Enable IPv6 エンタープライズ パラメータを [True] に設定し、Cisco Certificate Authority Proxy Function サービスを有効にする場合だけ)



ヒント

SIP を実行する電話機の [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] として [IPv6 のみ (IPv6 Only)] を設定する場合、Cisco Unified Communications Manager の Cisco TFTP サービスによって [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] 設定は上書きされ、設定ファイルで [IPv4 のみ (IPv4 Only)] が使用されます。

IPv6 アドレスを使用する電話機に TFTP サーバが設定ファイルを提供するには、事前に Enable IPv6 エンタープライズ パラメータを [True] に設定する必要があります。このパラメータを [False] に設定した場合、デバイスの [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] を [IPv6 のみ (IPv6 Only)] に設定した場合でも、TFTP サーバは設定ファイルの IPv4 アドレスを使用します。

TFTP サーバは IPv4 および IPv6 アドレスを Cisco Unified Communications オペレーティング システムから取得し、それらのアドレスで電話機からのファイル要求を受信します。

[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、代替 Cisco ファイルサーバ (別のクラスタにある TFTP サーバ) を設定することもできます。これらのパラメータは、IPv4 または IPv6 アドレス、または IP アドレスに解決されるホスト名をサポートし、プライマリ ファイルサーバと代替ファイルサーバ間で通信するために TFTP が使用する IP スタックを決定します。代替ファイルサーバでデュアルスタック モードがサポートされ、これらのパラメータ フィールドで同じサーバに対して IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方を設定する場合は、両方の IP アドレスをフィールドごとに 1 つずつ追加する必要があります。TFTP サーバでは、設定した順序で各アドレスが試行されます。

IPv6 のシステム要件

Cisco Unified Communications Manager には、次の IPv6 のシステム要件があります。

- クラスタ内の各サーバの Cisco Unified Communications Manager 7.1 以降。
- SCCP を実行する次の Cisco Unified IP Phone による IPv6 のサポート : 7906G、7911G、7931G、7942G、7945G、7962G、7965G、および 7975G。
- IPv6 アドレスを発行できる DHCPv6 サーバおよびホスト名を IPv6 アドレスに解決できる DNS サーバ。Cisco Network Registrar (CNR) 6.2 の使用を検討してください。

必要な場合は、Cisco IOS ルータまたはスイッチを DHCPv6 サーバとして設定できます。たとえば、12.2(46)SE (以降) を実行する Cisco Catalyst 3560 シリーズ スイッチまたは Cisco Catalyst 3750 シリーズ スイッチを DHCPv6 サーバとして設定できます。このルータまたはスイッチを設定する前に、ルータまたはスイッチが IPv6 および DHCPv6 サポートに必要な Cisco ベンダー固有の DHCPv6 情報オプションをサポートするかどうかを確認します。

- Cisco Unified Communications Manager 8.5(1) と互換性があり、ゲートウェイおよび Cisco IOS MTP にインストールおよび設定されている Cisco IOS リリース。



ヒント Cisco Feature Navigator を使用すると、特定のソフトウェア リリース、機能セット、およびプラットフォームをサポートする Cisco IOS および Catalyst OS ソフトウェア イメージを判別できます。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、<http://www.cisco.com/go/cfn> に移動します。Cisco Feature Navigator へのアクセスには、Cisco.com のアカウントは必要ありません。

インタラクションおよび制限事項

一部の Cisco Unified Communications Manager 機能は、[IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv6 のみ (IPv6 Only)] のデバイスでは動作しません。デバイスに対して [IPv6 のみ (IPv6 Only)] を設定する前に、IPv6 での Cisco Unified Communications Manager 機能のインタラクションおよび制限事項を記載した次のセクションを確認してください。



注意

Cisco Unified Communications オペレーティング システムで IPv6 を有効にし、Enable IPv6 エンタープライズ パラメータを [True] に設定する必要があります。これらの作業の両方を実行しない場合、Cisco CallManager サービスは IPv4 で実行され、[IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv6 のみ (IPv6 Only)] に設定された電話機は Cisco Unified Communications Manager に登録できません。これらの作業を実行した後、サーバを再起動してください。IPv6 について作業を実行する順序については、「[IPv6 の設定チェックリスト](#)」(P.29-2) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager Release 7.0(x) から Release 8.5(1) へのアップグレードを実行する前に、IPv6 用の DNS サーバをプロビジョニングできます。ただし、Release 8.5(1) にアップグレードするまで、Cisco Unified Communications Manager の DNS レコードを IPv6 用に設定しないでください。Release 8.5(1) にアップグレードする前に Cisco Unified Communications Manager の DNS レコードを IPv6 用に設定すると、アップグレードが失敗し、リブート後システムが機能しなくなる原因となります。

アナンシエータ

アナンシエータは IPv4 をサポートします。[IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv6 のみ (IPv6 Only)] のデバイスにアナンシエータが接続すると、Cisco Unified Communications Manager は IPv4 を IPv6 へ変換できる MTP を挿入します。IP アドレス バージョンを変換できる MTP を使用できない場合、電話機でアナウンスは再生されません。

一括管理ツール

一括管理ツール (BAT) による IPv6 のサポートについては、『*Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド*』を参照してください。

呼詳細レコード

コールに IPv6 が使用される場合、Call Detail Record (CDR; 呼詳細レコード) に IPv6 アドレスを表示できます。CDR の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Call Detail Records Administration Guide*』を参照してください。

Cisco Certificate Authority Proxy Function

IPv6 での Cisco Certificate Authority Proxy Function の機能については、『*Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド*』を参照してください。

Cisco エクステンション モビリティ

Cisco エクステンション モビリティでは IPv4 がサポートされるため、[IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv6 のみ (IPv6 Only)] の電話機は Cisco エクステンション モビリティで使用できません。その電話機で Cisco エクステンション モビリティを使用する場合は、その電話機の [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] を [IPv4 のみ (IPv4 Only)] または [IPv4 と IPv6(IPv4 and IPv6)] に設定します。

Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting

Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting については、『*Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting Administration Guide*』を参照してください。

Cisco Unified Communications オペレーティング システム

「IPv6 の設定チェックリスト」(P.29-2) および 「[イーサネット IPv6(Ethernet IPv6)] ウィンドウでの IPv6 CLI コマンドの実行および IPv6 の設定」(P.29-23) を参照してください。

Cisco Unified サービスアビリティ

ネットワークでの設定に応じて、IPv4 アドレスを報告するアラームが IPv6 アドレスも報告する場合があります。Cisco Unified サービスアビリティでのアラームの設定方法およびアラーム定義の表示方法については、『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』を参照してください。

CISCO-CCM-MIB には IPv6 アドレスや設定などのためのカラムおよびストレージが含まれていますが、SNMP は IPv4 をサポートします。

Cisco Unity Connection および Cisco Unity

Cisco Unity Connection および Cisco Unity は、IPv4 を使用して Cisco Unified Communications Manager と通信します。

Cisco Unified Communications Manager Assistant

Cisco Unified Communications Manager Assistant では IPv6 はサポートされないため、[IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv6 のみ (IPv6 Only)] の電話機は Cisco Unified Communications Manager Assistant で使用できません。その電話機で Cisco Unified Communications Manager Assistant を使用する場合は、その電話機の [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] を [IPv4 のみ (IPv4 Only)] または [IPv4 と IPv6(IPv4 and IPv6)] に設定します。

Real-Time Monitoring Tool

Real-Time Monitoring Tool (RTMT; リアルタイム監視ツール) では、IPv6 アドレスを使用する CTI アプリケーション、CTI デバイス、および CTI 回線を監視できます。CTI アプリケーション、CTI デバイス、または CTI 回線を検索するときは、IPv6 アドレスを入力し、属性ウィンドウで [AppIpv6Addr] チェックボックスをオンにします。

また、IPv6 アドレスを使用する電話機または SIP トランクでデバイス検索を実行できます。[CallManager] > [Device Search] > [Open Device Search] > [Phones] (または [SIP Trunks]) を選択するときは、IPv6 アドレスを指定し、属性ウィンドウで [Ipv6Address] チェックボックスをオンにします。

ネットワークでの設定に応じて、ログ ファイルには IPv4 アドレスおよび IPv6 アドレスが表示されます。

RTMT では、IP6 オブジェクトに対してパフォーマンス モニタリング カウンタが表示されます。

Cisco WebDialer

Cisco WebDialer は IPv4 をサポートします。したがって、CTI Manager に接続するために、Cisco WebDialer は IPv4 アドレスを使用します。Cisco WebDialer は、[IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv4 と IPv6(IPv4 and IPv6)] のデバイスで動作します。

会議

Cisco Unified Communications Manager は、会議ブリッジが IPv6 を使用する場合でも、会議に IPv4 を使用します。会議中、Cisco Unified Communications Manager は、[IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv6 のみ (IPv6 Only)] のデバイスごとに IPv4 を IPv6 に変換できる MTP を 1 つ挿入します。したがって、IPv6 を使用する各電話機は会議に参加できます。

MTP デバイスでセキュリティをサポートするには、MTP を passthru モードで設定する必要があります。これは、コール中に MTP がパケットを変換しないことを意味します。MTP を passthru モードで設定すると、MTP は暗号化されたパケットを 1 つのコール レッグで取得し、同じパケットを別のコール レッグで送信します。セキュアな会議ブリッジと [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv6 のみ (IPv6 Only)] の暗号化されたデバイスによるセキュアな会議のために、会議の一部のデバイスが IPv4 をサポートする場合、Cisco Unified Communications Manager は IPv4 を IPv6 (またはその逆) に変換する MTP を会議に挿入します。MTP を passthru モードで設定した場合、暗号化された IPv6 電話機は SRTP を介して会議ブリッジと通信します。MTP を passthru モードで設定しない場合、メディアは RTP にダウングレードされます。

デバイス モビリティ

デバイス モビリティでは IPv4 アドレスだけがサポートされるため、[IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv6 のみ (IPv6 Only)] の電話機はデバイス モビリティで使用できません。

Differentiated Services Control Point (DSCP)

Differentiated Services Control Point (DSCP) の値は、IPv6 と IPv4 で同じです。

ディザスタ リカバリ システム

ディザスタ リカバリ システムについては、『*Disaster Recovery System Administration Guide*』を参照してください。

H.323 デバイス

H.323 クライアント、ゲートウェイ、および H.225 クラスタ間トランクは IPv6 をサポートしません。これらのゲートウェイに接続している [IPv6 のみ] デバイスと通信するために、Cisco Unified Communications Manager はコール中に IPv4 を IPv6 に変換できる MTP を挿入します。

インターコム

インターコムは、[IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv4 のみ (IPv4 Only)] または [IPv4 と IPv6 (IPv4 and IPv6)] の電話機をサポートできます。インターコム コール中に、トークバック モードにより、発信側がインターコムを開始したときに使用されるメディア ストリームと同じ IP バージョンのメディア ストリームが確立されます。

モバイル コネクトおよびモバイル ボイス アクセス

モバイル コネクトやモバイル ボイス アクセスなどの Cisco Unified Communications Manager の Cisco Unified Mobility 機能は、IPv4 をサポートします。コールで、携帯電話が IPv4 を使用し、別の電話機が IPv6 を使用している場合、Cisco Unified Communications Manager は IPv4 を IPv6 に変換できる MTP をコールに挿入します。

モニタリングと録音

モニタリングと録音では、電話機はお客様からエージェントへのコールの IPv4 メディア ストリームを処理でき、一方で録音とモニタリングの IPv6 メディア ストリームを処理します (またはその逆)。

保留音

IP Voice Media Streaming Application は IPv4 をサポートします。Cisco Unified Communications Manager はマルチキャスト保留音の IPv6 をサポートしないため、[IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv6 のみ (IPv6 Only)] のデバイスはマルチキャスト保留音をサポートできません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は電話の保留時に音ではなくトーンを再生します。ユニキャスト保留音を使用する [IPv6 のみ] デバイスの場合、Cisco Unified Communications Manager は IPv4 を IPv6 (またはその逆) へ変換できる MTP をメディア ストリームに挿入します。

NTP サーバ

互換性、精度、およびネットワーク ジッタに関する潜在的な問題を回避するには、プライマリ ノードに指定した外部 NTP サーバが NTP v4 (バージョン 4) である必要があります。

品質レポート ツール (QRT)

[IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv6 のみ (IPv6 Only)] の電話機のユーザは、電話機の [品質] ソフトキーを押して音声などの問題を報告できません。また、QRT レポートには、[IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv6 のみ (IPv6 Only)] の電話機のストリーミング統計情報は含まれていません。

リソース予約プロトコル (RSVP)

コールアドミッション制御メカニズムとして RSVP をネットワークに配置する場合、IPv6 は配置しないでください。RSVP 機能は IPv6 をサポートしません。RSVP コールは IPv4 をサポートします。RSVP がコールに必要であり、コール内のデバイスが IPv6 アドレス用に設定されているか IPv6 アドレスを使用する場合、Cisco Unified Communications Manager はコールを拒否し、発信側はビジー トーンを受信します。

SDL

SDL TCP 接続は IPv6 をサポートしますが、SDL リンクは IPv4 をサポートします。Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [サーバの設定 (Server Configuration)] ウィンドウでホスト名を設定した場合、SDL は IPv4 が使用されることを指定する DNS A レコードをクエリーします。IP アドレスを指定した場合、IPv4 アドレスが SDL 層に渡されます。

セキュリティ (TLS および SRTP)

IPv6 での TLS および SRTP の機能については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。

SIP 電話機および TFTP

SIP を実行する電話機は IPv6 アドレスをサポートしません。SIP を実行する電話機の [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] として [IPv6 のみ (IPv6 Only)] を設定する場合、Cisco TFTP サービスによって [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] 設定は上書きされ、設定ファイルで [IPv4 のみ (IPv4 Only)] が使用されます。

T.38 ファクス

T.38 ファクス コールが IPv4 を使用するか IPv6 を使用するかは、Cisco Unified Communications Manager の設定およびコール内のデバイスの機能によって決まります。コール内のデバイスの 1 つが IPv6 を使用し、他のデバイスが IPv4 と IPv6 を使用できる場合、コールは Cisco Unified Communications Manager の管理ページのシグナリングおよびメディアのエンタープライズパラメータの設定に関係なく、IPv6 を使用します。

Cisco Unified Communications Manager は、次のタイプの T.38 ファクス コールをサポートします。

- IPv6 を使用する SIP から SIP へのコール
- IPv4 を使用する SIP から SIP へのコール
- IPv4 を使用する SIP から非 SIP へのコール
- SIP デバイスが IPv6 を使用し、非 SIP デバイスが IPv4 を使用する SIP から非 SIP へのコール (IP アドレス バージョンを変換できる MTP を使用)

T.38 ファクス コールの途中で、Cisco Unified Communications Manager は IP バージョンタイプを変換する MTP を挿入しません。MTP はコール内にすでに存在している必要があります。

転送

Cisco Unified Communications Manager の転送コンポーネントは、デバイスの [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] および IP アドレスを使用して転送の処理方法を決定します。コールを転送するときに IP 機能が一致しない場合、Cisco Unified Communications Manager は転送できるように IP バージョンを変換できる MTP を割り当てます。

電話機の Web ブラウザ

Cisco Unified IP Phone では、Web ブラウザの HTTP インターフェイスは IPv4 アドレスをサポートするため、電話機から IPv6 アドレスを使用するサーバへの Web アクセスはできません。

ビデオ

Cisco Unified Communications Manager は、次の場合にビデオ IPv6 コールをサポートします。

- Cisco Unified Video Advantage は IPv6 をサポートしないため、メディア設定が IPv6 の場合、ビデオは IPv4 を使用します。
- コールの音声およびビデオ部分は、初期コールについて同じ IP タイプをネゴシエートします。つまり、音声とビデオの両方を使用するコール内に 2 台のデュアルスタック電話機がある場合、メディア設定が IPv6 の場合でも、コールは初期コールの音声およびビデオ部分の両方に IPv4 を使用します。
- 2 台のデュアルスタック電話機がメディア設定に基づいて音声コールについて IPv6 をネゴシエートし、コール中にビデオが追加された場合、メディア設定が IPv6 の場合でも、コールのビデオ部分は IPv4 を使用します。
- MTP はビデオサポートには割り当てられません。たとえば、2 台のデュアルスタック電話機間で、[IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv6 のみ (IPv6 Only)] の SIP トランクを介してコールが発生します。IPv6 はコールの音声部分についてネゴシエートされ、ビデオ デバイスが IPv6 をサポートしないためビデオは発生しません。コールのビデオ部分をサポートするための MTP は割り当てられません。

IPv6 のインストールとアクティブ化

Cisco Unified Communications Manager 7.1 のインストール後、必要な設定作業を実行すると、ネットワークで IPv6 をサポートできます。実行する必要がある設定作業については、「[IPv6 の設定チェックリスト](#)」(P.29-2) を参照してください。

IPv6 は、Cisco Unified サービスアビリティの Cisco CallManager、CTIManager、および Certificate Authority Proxy Function サービスに影響します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで実行する設定作業に応じて、IPv6 の設定後にこれらのサービスを再起動する必要がある場合があります。

IPv6 の設定

この項は、次の内容で構成されています。

- 「[\[イーサネット IPv6\(Ethernet IPv6\)\] ウィンドウでの IPv6 CLI コマンドの実行および IPv6 の設定](#)」(P.29-23)
- 「[IPv6 のサービス パラメータとエンタープライズ パラメータの設定](#)」(P.29-27)
- 「[Cisco Unified Communications Manager の管理ページの IPv6 および IPv4 設定項目へのアクセス](#)」(P.29-29)



ヒント

IPv6 を設定する前に、「[IPv6 の設定チェックリスト](#)」(P.29-2) を確認してください。

[イーサネット IPv6(Ethernet IPv6)] ウィンドウでの IPv6 CLI コマンドの実行および IPv6 の設定

Cisco Unified Communications オペレーティング システムで IPv6 を有効にし、Cisco Unified Communications Manager サーバが IPv6 アドレスを取得できるようにするには、次の作業のいずれかを実行する必要があります。

- コマンドライン インターフェイスで IPv6 CLI コマンドを実行する。
- Cisco Unified Communications オペレーティング システムの [イーサネット IPv6(Ethernet IPv6)] ウィンドウで IPv6 を有効にし、IPv6 アドレスを設定する。



注意

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで Enable IPv6 エンタープライズ パラメータを [True] に設定する前に、次の手順を実行します。Cisco Unified Communications オペレーティング システムで IPv6 を有効にする前にエンタープライズ パラメータを [True] に設定すると、Cisco CallManager サービスが IPv4 で実行され、[IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv6 のみ (IPv6 Only)] の電話機は Cisco Unified Communications Manager に登録できません。

[表 29-2](#) に、イーサネット IPv6 設定項目および Graphical User Interface (GUI; グラフィカル ユーザ インターフェイス) オプションをサポートする等価の CLI コマンドの説明を示します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications オペレーティング システムで、[設定 (Settings)] > [IP(IP)] > [イーサネット IPv6(Ethernet IPv6)] を選択します。
- [イーサネット IPv6 の設定 (Ethernet IPv6 Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** イーサネットの設定項目を変更するには、適切なフィールドに値を入力します。[イーサネット IPv6 の設定 (Ethernet IPv6 Configuration)] ウィンドウのフィールドの説明については、表 29-2 を参照してください。
- ステップ 3** [リポートを使用した更新 (Update with Reboot)] チェックボックスをオンにします。このウィンドウの IPv6 設定項目を有効にするには、サーバをリポートする必要があります。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。[保存 (Save)] をクリックすると、サーバはすぐにリポートします。
- ステップ 5** クラスタ内の各サーバに対して、この手順を実行します。

表 29-2 IPv6 の CLI コマンドおよびイーサネット IPv6 の設定項目

[イーサネット IPv6(Ethernet IPv6)] ウィンドウでの設定項目	等価の CLI コマンド	説明
[IPv6 を有効化 (Enable IPv6)] チェックボックス	set network ipv6 service enable	これらの設定により、Cisco Unified Communications オペレーティング システムで IPv6 は有効になります。
		 <p>注意 IPv6 を機能させるには、[イーサネット IPv6(Ethernet IPv6)] チェックボックスをオンにするか、等価の CLI コマンドを発行する必要があります。この作業は、Enable IPv6 エンタープライズ パラメータを [True] に設定する前に実行する必要があります。</p>

表 29-2 IPv6 の CLI コマンドおよびイーサネット IPv6 の設定項目 (続き)

[イーサネット IPv6(Ethernet IPv6)] ウィンドウでの設定項目	等価の CLI コマンド	説明
[ルータアドバタイズメント (Router Advertisement)] オプション ボタン	適用なし	<p>ステートレスなアドレス自動設定を使用して Cisco Unified Communications Manager サーバの非リンク ローカル IPv6 アドレスを取得する場合、[ルータアドバタイズメント (Router Advertisement)] オプション ボタンをクリックします。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager サーバの静的な非リンク ローカル IPv6 アドレスを設定しない場合、または DHCPv6 サーバから非リンク ローカル IPv6 アドレスをサーバに発行しない場合に、このオプション ボタンをクリックします。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager サーバが非リンク ローカル IPv6 アドレスを 1 つだけ取得するようにします。サーバに複数の IPv6 アドレスがある場合、Cisco Unified Communications Manager は予想どおりに動作しない場合があります。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager サーバがステートレスなアドレス自動設定によって IPv6 アドレスを取得し、さらにサーバに対して設定された静的な IPv6 アドレスもある場合、Cisco Unified Communications Manager はステートレスなアドレス自動設定によって取得された IPv6 アドレスを無視し、静的なアドレスを使用します。</p>

表 29-2 IPv6 の CLI コマンドおよびイーサネット IPv6 の設定項目 (続き)

[イーサネット IPv6(Ethernet IPv6)] ウィンドウでの設定項目	等価の CLI コマンド	説明
[DHCP(DHCP)] オプション ボタン	set network ipv6 dhcp enable	DHCPv6 サーバから非リンク ローカル IPv6 アドレスを Cisco Unified Communications Manager サーバに発行する場合、[DHCP(DHCP)] オプション ボタンをクリックするか、等価の CLI コマンドを発行します。 Cisco Unified Communications Manager サーバが非リンク ローカル IPv6 アドレスを 1 つだけ取得するようにします。サーバに複数の IPv6 アドレスがある場合、Cisco Unified Communications Manager は予想どおりに動作しない場合があります。
[手動入力 (Manual Entry)] オプション ボタン、[IPv6 アドレス (IPv6 Address)]、[サブネットマスク (Subnet Mask)]	set network ipv6 static_address <addr> <mask>	これらのイーサネット IPv6 設定項目および等価の CLI コマンドを使用すると、Cisco Unified Communications Manager サーバの静的な IPv6 アドレスを設定できます。 静的な非リンク ローカル IPv6 アドレスの設定は、Cisco Unified Communications Manager サーバが IPv6 アドレスを DHCPv6 サーバから、またはステートレスなアドレス自動設定によって取得しないことを想定しています。
[IPv6 アドレス (IPv6 Address)]	show network ipv6 settings	これらの設定を使用すると、Cisco Unified Communications Manager サーバの IPv6 アドレスを表示できます。



ヒント

Cisco Unified Communications オペレーティング システムでイーサネット IPv6 設定項目を設定するのではなく、表 29-2 で説明した CLI コマンドを実行する場合、変更を有効にするにはサーバをリブートする必要があります。CLI コマンドの実行方法および他の IPv6 CLI コマンドについては、『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』を参照してください。

IPv6 のサービス パラメータとエンタープライズ パラメータの設定

表 29-3 に、IPv6 に関して設定できるエンタープライズ パラメータとサービス パラメータの説明を示します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでエンタープライズ パラメータを設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでサービス パラメータを設定するには、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。



ヒント

エンタープライズ パラメータを設定する手順については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンタープライズパラメータの設定」の章を参照してください。サービス パラメータを設定する手順については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サービスパラメータの設定」を参照してください。

表 29-3 IPv6 のエンタープライズ パラメータとサービス パラメータ

パラメータ	説明
Enable IPv6	<p>このエンタープライズ パラメータでは、Cisco Unified Communications Manager が IPv6 を使用してコールをネゴシエートできるかどうか、および電話機が IPv6 アドレスをアドバタイズできるかどうか指定されます。このパラメータを [True] に設定する前に、クラスタ内のすべてのサーバの Cisco Unified Communications オペレーティング システムで IPv6 を有効にしておきます。</p> <p>このパラメータを [True] に設定すると、Cisco CallManager サービスはデュアルスタック モードで実行されます。これは、IPv6 をサポートするデバイスと通信するために必要です。</p> <p>デフォルト値は [False] であり、Cisco Unified Communications Manager は IPv6 を使用してコールをネゴシエートできず、電話機は IPv6 アドレスをアドバタイズできません。</p> <p>このエンタープライズ パラメータを更新した後、Cisco Unified サービス アビリティで Cisco CallManager、CTIManager、および Certificate Authority Proxy Function サービスを再起動します。</p>
IP Addressing Mode Preference for Media	<p>デュアルスタック デバイスだけに適用されるこのエンタープライズ パラメータでは、コールの各デバイスから IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方が使用可能な場合に Cisco Unified Communications Manager がメディア イベントに使用するアドレッシング モードが指定されます。デフォルト値は [Prefer IPv4] です。</p>
IP Addressing Mode Preference for Signaling	<p>デュアルスタック デバイスだけに適用されるこのエンタープライズ パラメータでは、シグナリング イベントに対してデュアルスタック 電話機が Cisco Unified Communications Manager に接続する方法、およびシグナリング イベントに対してデュアルスタック SIP トランクがピア デバイスに接続する方法が指定されます。</p> <p>デフォルト値は [Prefer IPv4] です。</p>
Allow Auto-Configuration for Phones	<p>このパラメータでは、電話機がステートレスな自動設定によってアドレスを取得できるかどうか指定されます。有効な値は、[On] (電話機はルータの設定に応じてルータ アドバタイズメントによって指定されたアドレス (ステートレスまたはステートフル) を取得) または [Off] (電話機は常に DHCPv6 を使用して IPv6 アドレスを取得) です。</p>

表 29-3 IPv6 のエンタープライズ パラメータとサービス パラメータ (続き)

パラメータ	説明
Call Counting CAC Enabled	<p>Cisco CallManager サービスをサポートするこのサービス パラメータでは、Cisco Unified Communications Manager がロケーションベースのコール アドミッション制御 (CAC) 機能の一部としてコール カウントを使用するかどうか指定されます。コール カウントでは、コーデックまたはメディア ペイロードや各コールに使用されるインターネット プロトコル バージョン (IPv6 または IPv4) に関係なく、コールごとの帯域幅の予約および調整に固定値の帯域幅が使用されます。コールの実際の帯域幅に関係なくコールごとに固定値の帯域幅が予約されるため、コール カウントによって帯域幅がオーバーサブスクライブまたはアンダーサブスクライブされる可能性があります。ネットワークでコール カウント機能が必要でないかぎり、このパラメータはデフォルト値の [False] (無効) に設定しておくことをお勧めします。CAC のコール カウントを有効にするには、このパラメータで [True] を選択します。CAC のコール カウントを無効にするには、[False] を選択します。</p> <p>このサービス パラメータは IPv4 および IPv6 コールに適用されます。</p>
Audio Bandwidth For Call Counting CAC	<p>Cisco CallManager サービスをサポートするこのサービス パラメータでは、Call Counting CAC Enabled パラメータを [True] に設定した後、音声コールについて使用可能な帯域幅から差し引かれる帯域幅の量が指定されます。音声コールごとに、コールで実際に使用される帯域幅に関係なく、このフィールドに入力した帯域幅の量が差し引かれます。</p> <p>このサービス パラメータは IPv4 および IPv6 コールに適用されます。</p>
Video Bandwidth For Call Counting CAC	<p>Cisco CallManager サービスをサポートするこのサービス パラメータでは、Call Counting CAC Enabled パラメータを [True] に設定した後、ビデオ コールについて使用可能な帯域幅から差し引かれる帯域幅の単位が指定されます。ビデオ コールごとに、実際の帯域幅使用を反映するのに必要な単位数が、使用可能な帯域幅から差し引かれます。たとえば、このパラメータで帯域幅単位として 512 kb/s を指定し、ビデオ コールが 384 kb/s を使用する場合、1 単位 (512 kb/s) が使用可能な帯域幅から差し引かれます。同様に、このパラメータで 512 kb/s を指定し、ビデオ コールが 768 kb/s をネゴシエートした場合、2 単位の帯域幅 (1064 kb/s) が使用可能な帯域幅から差し引かれます。</p> <p>このサービス パラメータは IPv4 および IPv6 コールに適用されます。</p>
Alternate Cisco File Server	<p>Cisco TFTP サービスをサポートするこれらのサービス パラメータを使用すると、代替 Cisco ファイル サーバ (別のクラスタにある TFTP サーバ) を設定できます。これらのパラメータは、IPv4 または IPv6 アドレス、または IP アドレスに解決されるホスト名をサポートし、プライマリ ファイル サーバと代替ファイル サーバ間で通信するために TFTP が使用する IP スタックを決定します。代替ファイル サーバでデュアルスタック モードがサポートされ、これらのパラメータ フィールドで同じサーバに対して IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方を設定する場合は、両方の IP アドレスをフィールドごとに 1 つずつ追加する必要があります。TFTP サーバでは、設定した順序で各アドレスが試行されます。</p>

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの IPv6 および IPv4 設定項目へのアクセス

表 29-4 に、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの IPv6 および IPv4 設定項目を示します。ただし、表 29-3 で説明されている IPv6 サービス パラメータおよびエンタープライズ パラメータは除きます。表 29-4 の一部の IPv6 設定項目については、IPv4 の等価の設定項目が Cisco Unified Communications Manager の管理ページに表示されます。たとえば、SIP の [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでは、ネットワークでの IP サポートに応じて、[接続先アドレス IPv6(Destination Address IPv6)] または [接続先アドレス (Destination Address)] あるいは両方の設定項目を設定できます。

関連する設定手順については、次の項を参照してください。

- 「IPv6 のサービス パラメータとエンタープライズ パラメータの設定」 (P.29-27)
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サーバの設定値」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「SIP ルート パターンの設定値」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「共通デバイスの設定値」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「トランクの設定」

表 29-4 Cisco Unified Communications Manager の管理ページの IPv6 設定項目

設定項目	説明
[システム (System)] > [サーバ (Server)]	
[ホスト名 /IP アドレス (Host Name/IP Address)]	このフィールドは IPv4 をサポートします。IPv4 アドレスにマッピングできる DNS がネットワークで使用されている場合、Cisco Unified Communications Manager サーバのホスト名を入力できます。使用されていない場合、サーバの完全な IPv4 アドレスを入力する必要があります。 ヒント ネットワークで IPv6 (または IPv4 と IPv6) がサポートされている場合、[ホスト名 /IP アドレス (Host Name/IP Address)] フィールドに加えて [IPv6 名 (IPv6 Name)] フィールドを設定します。

表 29-4 Cisco Unified Communications Manager の管理ページの IPv6 設定項目 (続き)

設定項目	説明
[IPv6 名 (IPv6 Name)]	<p>このフィールドは IPv6 をサポートします。IPv6 アドレスにマッピングできる DNS がネットワークで使用されている場合、Cisco Unified Communications Manager サーバのホスト名を入力できます。使用されていない場合、Cisco Unified Communications Manager サーバの非リンク ローカル IP アドレスを入力します。非リンク ローカル IP アドレスを取得する方法については、「[イーサネット IPv6(Ethernet IPv6)] ウィンドウでの IPv6 CLI コマンドの実行および IPv6 の設定」(P.29-23) を参照してください。</p> <p>SCCP を実行する電話機は、TFTP 設定ファイルに含まれているこのフィールドを使用して Cisco Unified Communications Manager サーバの IPv6 アドレスを取得し、その結果、電話機の登録が行われます。</p> <p>ヒント Cisco Unified Communications Manager Release 7.0(x) から Release 8.5(1) にアップグレードする前に、IPv6 用の DNS サーバをプロビジョニングできます。ただし、Release 8.5(1) にアップグレードするまで、Cisco Unified Communications Manager の DNS レコードを IPv6 用に設定しないでください。Release 8.5(1) にアップグレードする前に Cisco Unified Communications Manager の DNS レコードを IPv6 用に設定すると、アップグレードが失敗し、リブート後システムが機能しなくなる原因となります。</p> <p>ヒント [IPv6 名 (IPv6 Name)] フィールドの設定に加えて、[ホスト名/IP アドレス (Host Name/IP Address)] フィールドも設定する必要があります。そうすることで、Cisco Unified Communications Manager は IPv4 (または IPv4 と IPv6) を使用する機能およびデバイスをサポートできます。</p>
[コールルーティング (Call Routing)] > [SIP ルートパターン (SIP Route Pattern)]	
[IPv4 パターン (IPv4 Pattern)]	<p>ドメイン、サブドメイン、IPv4 アドレス、または IP サブネットワーク アドレスを入力します。</p> <p>ヒント IP サブネットワーク アドレスについては、Classless Inter-Domain Routing (CIDR; クラスレス ドメイン間ルーティング) 表記で、X.X.X.X/Y と入力します。Y は、ネットワーク アドレスとなるアドレスのビット数を示すネットワーク プレフィックスです。</p> <p>ヒント SIP トランクが IPv6 または IPv4 と IPv6 の両方 (デュアルスタック モード) をサポートする場合、[IPv4 パターン (IPv4 Pattern)] に加えて [IPv6 パターン (IPv6 Pattern)] を設定します。</p>
[IPv6 パターン (IPv6 Pattern)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は SIP ルートパターンを使用して、内部コールと外部コールの両方をルーティングまたはブロックします。このフィールドの IPv6 アドレスは、内部コールと外部コールを IPv6 をサポートする SIP トランクにルーティングするための基礎となります。</p> <p>ヒント SIP トランクが IPv4 と IPv6 の両方をサポートする場合、[IPv6 パターン (IPv6 Pattern)] に加えて [IPv4 パターン (IPv4 Pattern)] を設定します。</p>

表 29-4 Cisco Unified Communications Manager の管理ページの IPv6 設定項目 (続き)

設定項目	説明
[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	
[IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)]	<p>デバイス (SIP トランクまたは SCCP を使用する電話機) が Cisco Unified Communications Manager に接続するために使用する IP アドレスのバージョンを選択します。ドロップダウンリスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <p>[IPv4 のみ (IPv4 Only)] : メディア イベントとシグナリング イベントの両方について、デバイスは IPv4 アドレスを使用して Cisco Unified Communications Manager に接続します。デバイスで IPv4 アドレスを使用できない場合、コールは失敗します。</p> <p>このオプションを選択した場合、電話機は IPv6 アドレスを解放します。このオプションを選択した場合、SIP トランクは IPv4 アドレスを使用してピア デバイスに接続します。</p> <p>[IPv6 のみ (IPv6 Only)] : メディア イベントとシグナリング イベントの両方について、デバイスは IPv6 アドレスを使用して Cisco Unified Communications Manager に接続します。デバイスで IPv6 アドレスを使用できない場合、コールは失敗します。</p> <p>このオプションを選択した場合、電話機は IPv4 アドレスを解放します。このオプションを選択した場合、SIP トランクは IPv6 アドレスを使用してピア デバイスに接続します。</p> <p>SIP を実行する電話機は IPv6 をサポートしないため、これらの電話機についてはこのオプションを選択しないでください。SIP を実行する電話機の [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] として [IPv6 のみ (IPv6 Only)] を設定した場合、Cisco TFTP サービスによって [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] 設定は上書きされ、設定ファイルで [IPv4 のみ (IPv4 Only)] が使用されます。</p> <p>[IPv4 と IPv6 (IPv4 and IPv6)] (デフォルト) : IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方を持つことができるデュアルスタック デバイスに対して、このオプションを選択します。メディア イベントとシグナリング イベントの両方について、デュアルスタック デバイスは IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスを使用して Cisco Unified Communications Manager に接続します。</p> <p>デバイスで (両方のタイプの IP アドレスではなく) IPv4 または IPv6 だけが使用可能な場合、デバイスは使用可能な IP アドレスを使用してコールをネゴシエートします。デバイスがメディア イベントとシグナリング イベントの両方について両方の IP アドレスタイプを持つ場合、Cisco Unified Communications Manager は、シグナリング イベントに対して [シグナリング用の IP アドレッシングモード設定 (IP Addressing Mode Preference for Signaling)] 設定項目の設定を使用し、メディア イベントに対して IP Addressing Mode Preference for Media エンタープライズ パラメータを使用します。</p>

表 29-4 Cisco Unified Communications Manager の管理ページの IPv6 設定項目 (続き)

設定項目	説明
[シグナリング用の IP アドレッシングモード設定 (IP Addressing Mode Preference for Signaling)]	<p>IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方をサポートするデュアルスタック電話機の場合、シグナリング イベント中に電話機が Cisco Unified Communications Manager への接続を確立するために使用する IP アドレスのバージョンを選択します。デュアルスタック SIP トランクの場合、シグナリング イベントに対して SIP トランクがピア デバイスに接続するために使用する IP アドレスのバージョンを選択します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [IPv4] : デュアルスタック デバイスは、シグナリング イベント中に IPv4 アドレスで接続を確立します。 • [IPv6] : デュアルスタック デバイスは、シグナリング イベント中に IPv6 アドレスで接続を確立します。 • [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] : エンタープライズパラメータ IP Addressing Mode Preference for Signaling の設定が適用されます。
[電話の自動設定を許可 (Allow Auto-Configuration for Phones)]	<p>このドロップダウン リスト ボックスは、SCCP を実行するデュアルスタック Cisco Unified IP Phone の IPv6 をサポートします。ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オン (On)] : ルータでステートレスなアドレス自動設定によって M ビットがどのように設定されるかに応じて、電話機は Router Advertisement (RA; ルータ アドバタイズメント) でアドバタイズされる IPv6 ネットワーク ID を使用して IPv6 アドレスを自動設定できます。 <p>Cisco Unified Communications Manager に登録するには、電話機に TFTP サーバアドレスも必要です。TFTP サーバアドレスは、電話機のインターフェイスを介して手動で設定するか、DHCPv6 サーバから取得できます。</p> <p>ヒント 他の情報を取得するために DHCPv6 サーバを使用する必要があることを電話機に指示するには、ルータでステートレスなアドレス自動設定によって O ビットが設定されるようにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] : 電話機は、IPv6 アドレスおよび TFTP サーバアドレスを DHCPv6 サーバから取得します。 • [デフォルト (Default)] : Allow Auto-Configuration for Phones エンタープライズパラメータの設定を使用するには、このオプションを選択します。 <p>Cisco Unified Communications Manager はこの設定を使用しませんが、電話機が取得する TFTP ファイルにこの情報が含まれています。</p>

表 29-4 Cisco Unified Communications Manager の管理ページの IPv6 設定項目 (続き)

設定項目	説明
[デバイス (Device)] > [SIP トランク (SIP Trunk)]	
[接続先アドレス (Destination Address)]	<p>IPv4 をサポートする [接続先アドレス (Destination Address)] は、このトランクが通信するリモート SIP ピアを表します。このフィールドで許可される値は、有効な V4 ドット付き IP アドレス、完全修飾ドメイン名 (FQDN)、または [接続先アドレスは SRV(Destination Address is an SRV)] フィールドがオンの場合は DNS SRV レコードだけです。</p> <p>SIP トランクは、設定された [接続先アドレス (Destination Address)] およびこのトランクに関連付けられた [SIP トランクセキュリティプロファイル (SIP Trunk Security Profile)] で指定された着信ポートだけから着信要求を受け入れます。</p> <p>リモートエンドが Cisco Unified Communications Manager クラスタである場合、DNS SRV がこのフィールドで推奨される選択肢です。DNS SRV レコードには、クラスタ内のすべての Cisco Unified Communications Manager が含まれています。</p> <p>ヒント IPv6 または IPv6 と IPv4 (デュアルスタック モード) をサポートできる SIP トランクの場合、[接続先アドレス (Destination Address)] フィールドに加えて [接続先アドレス IPv6(Destination Address IPv6)] フィールドを設定します。</p>
[接続先アドレス IPv6(Destination Address IPv6)]	<p>[接続先アドレス IPv6(Destination Address IPv6)] は、このトランクが通信するリモート SIP ピアを表します。次の値のいずれかをフィールドに入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 有効な IPv6 アドレス (グローバルユニキャストアドレス、一意のローカルアドレス、またはホスト名) 完全修飾ドメイン名 (FQDN) DNS SRV レコード (ただし、[接続先アドレスは SRV(Destination Address is an SRV)] チェックボックスをオンにした場合だけ) <p>SIP トランクは、設定された [接続先アドレス IPv6(Destination Address IPv6)] およびこのトランクに関連付けられた [SIP トランクセキュリティプロファイル (SIP Trunk Security Profile)] で指定された着信ポートだけから着信要求を受け入れます。</p> <p>リモートエンドが Cisco Unified Communications Manager クラスタである場合、このフィールドに DNS SRV レコードを入力することを検討してください。DNS SRV レコードには、クラスタ内のすべての Cisco Unified Communications Manager が含まれています。</p> <p>ヒント デュアルスタック モードで実行される SIP トランクまたは [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv6 のみ (IPv6 Only)] をサポートする SIP トランクの場合、このフィールドを設定します。SIP トランクがデュアルスタック モードで実行される場合、[接続先アドレス (Destination Address)] フィールドも設定する必要があります。</p>

表 29-4 Cisco Unified Communications Manager の管理ページの IPv6 設定項目 (続き)

設定項目	説明
[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [SIP プロファイル (SIP Profile)]	
[ANAT を有効化 (Enable ANAT)]	<p>このオプションを使用すると、デュアルスタック SIP トランクは IPv4 メディアと IPv6 メディアの両方を提供できます。</p> <p>[ANAT を有効化 (Enable ANAT)] チェックボックスと [メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスの両方をオンにすると、Cisco Unified Communications Manager はデュアルスタック MTP を挿入し、2 つの M 回線 (IPv4 用と IPv6 用) を持つオファーを送信します。デュアルスタック MTP を割り当てることができない場合、Cisco Unified Communications Manager は SDP のない INVITE を送信します。</p> <p>[ANAT を有効化 (Enable ANAT)] チェックボックスをオンにし、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスがオフの場合、Cisco Unified Communications Manager は SDP のない INVITE を送信します。</p> <p>[ANAT を有効化 (Enable ANAT)] チェックボックスと [メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスの両方がオフの場合 (または、MTP を割り当てることができない場合)、Cisco Unified Communications Manager は SDP のない INVITE を送信します。</p> <p>[ANAT を有効化 (Enable ANAT)] チェックボックスをオフにするが [メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスをオンにする場合、MTP を割り当てることができることを前提とする次の情報を考慮します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv4 のみ (IPv4 Only)] の SIP トランクの場合、Cisco Unified Communications Manager は SDP で IPv4 アドレスを送信します。 • [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv6 のみ (IPv6 Only)] の SIP トランクの場合、Cisco Unified Communications Manager は SDP で IPv6 アドレスを送信します。 • デュアルスタック SIP トランクの場合、Cisco Unified Communications Manager は IP Addressing Mode Preference for Media エンタープライズパラメータの設定に基づいて、SDP で送信する IP アドレスタイプを決定します。

エンド ユーザへの情報の提供

IPv6 のメニュー オプションが電話機に表示されますが、電話機の (エンド) ユーザに対する特別な考慮事項はありません。ただし、ネットワークで IP アドレス サポートを適切に設定しないと、電話機でコールを発信または応答しようとするときにユーザがビジー トーンや沈黙時間などを受信する場合があります。



ヒント

電話機での IPv6 の使用の詳細については、ご使用の電話機モデルおよびこのバージョンの Cisco Unified Communications Manager をサポートする『Cisco Unified IP Phone Administration Guide』を参照してください。

IPv6 のトラブルシューティング

IPv6 のトラブルシューティングについては、Cisco Unified Communications Manager Troubleshooting Guide を参照してください。

関連項目

- 「IPv6 の設定チェックリスト」 (P.29-2)
- 「Cisco Unified Communications Manager の IPv6 の概要」 (P.29-5)
- 「[イーサネット IPv6(Ethernet IPv6)] ウィンドウでの IPv6 CLI コマンドの実行および IPv6 の設定」 (P.29-23)
- 「IPv6 のサービス パラメータとエンタープライズ パラメータの設定」 (P.29-27)
- 「Cisco Unified Communications Manager の管理ページの IPv6 および IPv4 設定項目へのアクセス」 (P.29-29)
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「サーバの設定値」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「エンタープライズ パラメータの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「サービス パラメータの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「Cisco IOS メディア ターミネーション ポイントの設定値」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「SIP ルート パターンの設定値」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「トランクの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「共通デバイスの設定値」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco TFTP」

参考資料

- 『*Deploying IPv6 in Unified Communications Networks with Cisco Unified Communications Manager 7.1(x)*』
- 『*Cisco Unified IP Phone Administration Guide*』
- 『*Cisco IOS IPv6 Configuration Library*』
- 『*Implementing VoIP for IPv6*』
- 『*Cisco Network Registrar User's Guide, 6.2*』
- 『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド*』
- 『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』
- 『*Cisco Unified Communications Manager Call Detail Records Administration Guide*』
- 『*Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting Administration Guide*』
- 『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide*』
- 『*Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド*』
- 『*Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド*』
- 『*Troubleshooting Guide for Cisco Unified Communications Manager*』



CHAPTER 30

ライセンス

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでライセンスを使用することにより、SIP を実行するサードパーティ電話機も含め、Cisco Unified Communications Manager に接続されたデバイスの数を正確に追跡でき、その数と購入したユニットライセンスの数を比較できます。

ライセンスは、Cisco Unified Communications Manager ライセンスの管理と、Cisco Unified Communications Manager アプリケーションのライセンスおよびデバイスの数の順守に役立ちます。

ライセンスは、要求された Cisco Unified Communications Manager ノード (Cisco Unified Communications Manager クラスタ内のサーバ) およびそれらのノードに関連付けられたデバイスに対して生成されます。ライセンスには、プロダクションライセンスとスターターライセンスの 2 種類があります。Cisco Unified Communications Manager のプロダクションライセンスは、シスコから購入したデバイスおよびノードのライセンスで構成されます。ライセンスデバイスのタイプには、IP Phone などの物理デバイスと IP Communicator などのアプリケーションがあります。

新規インストールの Cisco Unified Communications Manager には、スターターライセンスが含まれています。このライセンスは、プロダクションライセンスファイルがアップロードされたときに置き換えられます。スターターライセンスは、アップグレードまたは移行の場合は提供されません。

この項は、次の内容で構成されています。

- 「ライセンスのチェックリスト」 (P.30-2)
- 「Cisco UCS B シリーズ ブレードサーバ上の VMware で稼動する Cisco Unified Communications Manager のライセンス」 (P.30-3)
- 「ライセンスについて」 (P.30-3)
 - 「ライセンスの用語について」 (P.30-4)
 - 「ライセンス関連のウィンドウについて」 (P.30-5)
 - 「ライセンスファイルの内容について」 (P.30-6)
 - 「電話機に関するライセンス機能について」 (P.30-8)
 - 「付加ライセンスの機能について」 (P.30-9)
 - 「アプリケーションに関するライセンス機能について」 (P.30-10)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.30-12)
- 「ライセンスの操作」 (P.30-13)
 - 「必要なライセンスユニット数の計算」 (P.30-13)
 - 「ライセンスファイルの取得」 (P.30-15)
 - 「ライセンスマネージャサービスが動作していることの確認」 (P.30-17)

■ ライセンスのチェックリスト

- 「ライセンス ファイルのアップロード」 (P.30-18)
- 「ライセンス ユニット レポートの生成」 (P.30-19)
- 「ライセンス機能割り当ての設定値」 (P.30-20)
- 「ライセンス機能割り当ての検索」 (P.30-21)
- 「1 人のユーザに対する機能割り当ての設定」 (P.30-22)
- 「複数ユーザに対する機能割り当ての設定」 (P.30-23)
- 「ライセンスのトラブルシューティング」 (P.30-24)
- 「関連項目」 (P.30-25)

ライセンスのチェックリスト

表 30-1 に、サーバをインストールまたはアップグレードする場合のライセンスの手順を示します。



(注) サーバを交換する場合は、『*Replacing a Single Server or Cluster for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。



(注) Cisco UCS B シリーズ ブレード サーバ上の VMware で稼動する Cisco Unified Communications Manager のライセンスの詳細については、『*Installing Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

表 30-1 ライセンスのチェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 ライセンスに関する資料を確認します。	「ライセンス」 (P.30-1)
ステップ 2 ご使用の Cisco Unified Communications Manager システムに必要なライセンスおよびデバイス ライセンス ユニットの数を判別します。	「必要なライセンス ユニット数の計算」 (P.30-13)
ステップ 3 ライセンスを取得します。	「ライセンスについて」 (P.30-3) 「新しい Cisco Unified Communications Manager ノードおよびデバイスのライセンスの取得」 (P.30-15) 「ソフトウェア機能ライセンスの取得」 (P.30-16)
ステップ 4 クラスタ内でサーバのインストールまたはアップグレードを実行します。	『 <i>Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide</i> 』 『 <i>Installing Cisco Unified Communications Manager Release 8.5(1)</i> 』

表 30-1 ライセンスのチェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 5 Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、ライセンスをアップロードします。([システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [ライセンスファイルのアップロード (License File Upload)])	「 ライセンス ファイルのアップロード 」 (P.30-18)
ステップ 6 ライセンスのアップロード後、Cisco CallManager サービスが以前アクティブであったすべてのノード上で動作していることを確認します。動作していない場合は、サービスを再起動します。([Tools] > [Control Center—Feature Services])	『 <i>Cisco Unified Serviceability Administration Guide</i> 』

Cisco UCS B シリーズ ブレード サーバ上の VMware で稼動する Cisco Unified Communications Manager のライセンス

Cisco UCS B シリーズ ブレード サーバ上の VMware で稼動する Cisco Unified Communications Manager のライセンスの詳細については、*Installing Cisco Unified Communications Manager* を参照してください。

ライセンスについて

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでライセンスを使用することにより、SIP を実行するサードパーティ電話機も含め、Cisco Unified Communications Manager に接続されたデバイスの数を正確に追跡でき、その数と購入したユニットライセンスの数を比較できます。

ライセンスは、Cisco Unified Communications Manager ライセンスの管理と、Cisco Unified Communications Manager アプリケーションのライセンスおよびデバイスの数の順守に役立ちます。

ライセンスは、要求された Cisco Unified Communications Manager ノード (Cisco Unified Communications Manager クラスタ内のサーバ) およびそれらのノードに関連付けられたデバイスに対して生成されます。

ライセンスの用語について

表 30-2 に、ライセンスに関して一般に使用される用語を示します。

表 30-2 ライセンスの用語

用語	説明
付加ライセンス / 付加デバイス	付加ライセンスを使用すると、Cisco IP Communicator、Cisco Unified Personal Communicator、Cisco Unified Mobile Communicator などの付加（セカンダリ）デバイスをプライマリ デバイスとして機能する Cisco Unified IP Phone とともに使用する場合に、これらの付加デバイスに対して消費される Device License Unit (DLU; デバイスライセンスユニット) が少なくなります。付加ライセンスを機能させるには、付加デバイスがプライマリ デバイスと同数以下の DLU を消費する必要があります。
デバイス ライセンス ユニット (DLU)	デバイス ライセンス ユニットは、Cisco Unified Communications Manager に接続されている各デバイスに割り当てられています。各デバイスには、そのデバイスのタイプおよび機能に基づいて、ユニット番号が割り当てられています。複雑でハイエンドな機能を持つデバイスになるほど、より大きな番号が割り当てられます。
製品認可キー (PAK)	シスコのデバイスを注文されると、シスコから Product Authorization Key (PAK; 製品認可キー) が提供されます。PAK を使用すると、1,000 台以上のデバイス ライセンスユニットのバンドルを購入した場合に、複数のクラスタにライセンスを分割できます。 たとえば、1 回の注文で 20 台の Cisco Unified Communications Manager ノードと 20000 台の電話ユニットを要求したとします。要求が承認されると、PAK が発行されます。この PAK を使用して、お客様はライセンスを複数のクラスタにまたがって分割でき、1 つのライセンス ファイルには 15 台の Cisco Unified Communications Manager ノードと 15000 台の電話ユニットが含まれ、もう 1 つのライセンス ファイルには 5 台の Cisco Unified Communications Manager ノードと 5000 台の電話ユニットが含まれるようにすることができます。
プロダクション ライセンス	Cisco Unified Communications Manager のプロダクション ライセンスは、シスコから購入したデバイスおよびノードのライセンスで構成されます。
スターター ライセンス (デモ ライセンスとも呼ばれる)	Cisco Unified Communications Manager では、プロダクション ライセンスをインストールする前に Cisco Unified Communications Manager の新規インストールを開始できるように、スターター ライセンスが提供されています。スターター ライセンスは、使用可能な数は限られていますが、有効期限はありません。スターター ライセンスを使用できるのは、新規インストールに限られます。以前のリリースからアップグレードまたは移行する場合には、スターター ライセンスを使用できません。スターター ライセンスがサポートするのは、単一ノードの Cisco Unified Communications Manager で最大 50 のデバイス ライセンス ユニットです。 プロダクション ライセンスを入手し、アップロードすると、スターター ライセンスは上書きされます。

ライセンス関連のウィンドウについて

表 30-3 の設定ウィンドウを使用して、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでライセンス機能を実行できます。

表 30-3 Cisco Unified Communications Manager の管理ページのライセンス ウィンドウ

ウィンドウ	説明
メイン ウィンドウ	<p>Cisco Unified Communications Manager の管理ページにログインすると、Cisco Unified Communications Manager 用ライセンスの現在の状態を示すメッセージが表示されることがあります。たとえば、Cisco Unified Communications Manager では、次のような状況を識別します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager は現在スターター ライセンスで動作しているため、適切なライセンス ファイルをアップロードする必要があります。 • Cisco Unified Communications Manager でライセンス数が不足しているため、追加のライセンス ファイルをアップロードする必要があります。 • Cisco Unified Communications Manager で、現在、正しいソフトウェア機能ライセンスが使用されていない。この場合、Cisco CallManager サービスは停止し、適切なソフトウェア バージョンライセンスをアップロードして Cisco CallManager サービスを再起動するまで開始されません。
[システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [ライセンスユニットレポート (License Unit Report)]	<p>このウィンドウには、使用可能なライセンスの合計数、および使用中のライセンスの数が表示されます。Cisco Unified Communications Manager によって、使用可能なライセンスの合計数を示したレポートが生成されます。ライセンス ユニット レポートには、Cisco Unified Communications Manager サーバにインストールされたソフトウェア ライセンス バージョンも表示されます。</p> <p>このウィンドウには、ライセンス ファイルのステータスが表示されます。たとえば、各ライセンス タイプの [ステータス (Status)] カラムには、[デモ (Demo)]、[見つかりません (Missing)]、[無効 (Invalid)]、または [アップロード済み (Uploaded)] と表示されます。</p>
[システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [ライセンスユニット計算 (License Unit Calculator)]	<p>このウィンドウでは、電話機モデルまたはアプリケーションに必要なデバイス ライセンス ユニットの数を計算できます。</p>
[システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [ライセンスファイルのアップロード (License File Upload)]	<p>このウィンドウでは、取得したライセンス ファイルをアップロードできます。また、このウィンドウには、ライセンス ファイルをアップロードすると、その機能のスターター ライセンスが削除されることを伝えるメッセージが表示されます。また、このウィンドウで、ライセンス ファイルを表示することもできます。</p>

表 30-3 Cisco Unified Communications Manager の管理ページのライセンス ウィンドウ (続き)

ウィンドウ	説明
[システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [機能割り当て (Capabilities Assignment)]	このウィンドウによって、ライセンスに対するトリガーが発生し、Cisco Unified Presence (CUP) ユーザおよび Cisco Unified Personal Communicator (CUPC) ユーザ用にデバイス ライセンス ユニットが消費されます。
[ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)]	このウィンドウには、[モビリティの有効化 (Enable Mobility)] チェックボックスが表示されます。このチェックボックスによって、ライセンスに対するトリガーが発生し、Cisco Unified Mobility 用にデバイス ライセンス ユニットが消費されます。詳細については、 「Cisco Unified Mobility のライセンス」 (P.30-10) を参照してください。
[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]	このウィンドウには、「デバイスはアクティブ (Device Is Active)」というメッセージが表示されます。このメッセージによって、ライセンスに対するトリガーが発生し、電話機用にデバイス ライセンス ユニットが消費されます。 このウィンドウには、Cisco IP Communicator、Cisco Unified Mobile Communicator、Cisco Unified Personal Communicator、および Client Services Framework 用の [プライマリ Phone (Primary Phone)] ドロップダウン リスト ボックスが表示されます。[プライマリ Phone (Primary Phone)] を設定すると、ライセンスに対するトリガーが発生し、アプリケーションはプライマリ デバイスではなく付加デバイスとなるため、より少ないデバイス ライセンス ユニットがアプリケーション用に消費されます。

ライセンス ファイルの内容について

[ライセンスファイルのアップロード (License File Upload)] ウィンドウに表示されるライセンス ファイルには、次の情報が含まれています。

- ライセンス取得済み Cisco Unified Communications Manager ノードの数：これは、クラスター内でお客様にライセンスが付与されている Cisco Unified Communications Manager サーバの数を示します。
- サポートされている Cisco Unified Communications Manager のバージョン。
- ライセンス取得済み電話ユニットの数：このシステムでは、電話機タイプごとに別個のライセンスを作成するのではなく、ライセンス ユニットという概念を採用しています。電話機タイプごとに固定数のライセンス ユニットが消費されます。



(注) デバイスごとに必要となるライセンス ユニットの数を判別するには、[システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [ライセンスユニット計算 (License Unit Calculator)] の順に選択します。このウィンドウには、各デバイス タイプで必要となるライセンス ユニットの数が表示されます。

- ライセンス ファイルをインストール可能なサーバの MAC アドレス。

ライセンス ファイルの例

以降の例（例 30-1、例 30-2、および例 30-3）では、それぞれ、永続的な IP Phone ライセンス、永続的な Cisco Unified Communications Manager ノード ライセンス、およびソフトウェア機能ライセンスのライセンス ファイルについて説明します。

例 30-1 永続的な IP Phone ライセンス

```
INCREMENT PHONE_UNIT cisco 6.0 permanent uncounted \

VENDOR_STRING=<Count>1000</Count><OrigMacId>000BCD4EE59D</OrigMacId><LicFileVersion>1.0</LicFileVersion> \
HOSTID=000bcd4ee59d OVERDRAFT=50 \
NOTICE="<LicFileID>20050826140539162</LicFileID><LicLineID>2</LicLineID> \
<PAK></PAK>" SIGN="112D 17E4 A755 5EDC F616 0F2B B820 AA9C \
0313 A36F B317 F359 1E08 5E15 E524 1915 66EA BC9F A82B CBC8 \
4CAF 2930 017F D594 3E44 EBA3 04CD 01BF 38BA BF1B"
```

上記のライセンス ファイルには、次の情報が含まれています。

- キーワード **permanent** が示すとおり、このライセンスは無期限に有効です。
- このライセンス ファイルは、1000 の PHONE_UNIT ライセンスを提供します。
- OVERDRAFT=50 は、1000 のうち 5% の数量超過が許可されていることを示します。OVERDRAFT の値はシスコが決定します。
- シスコ独自のフィールド LicFileID は、このライセンス ファイルを識別するものです。
- ライセンス ファイルでは、同一の機能（電話ユニット ライセンスまたはノード ライセンス）に対して複数の INCREMENT 行を追加することで、ライセンスの数を増やすことができます。まったく同一の INCREMENT 行は記述できず、それぞれの行が一意の署名を持っている必要があります。
- Cisco Unified Communications Manager 6.0(1) 以降で 5.0 のデバイス ライセンスを使用するには、ご使用のシステムで実行している Cisco Unified Communications Manager のバージョンに応じて、ソフトウェア機能ライセンスを取得する必要があります。

例 30-2 永続的な CCM_Node ライセンス

```
# Optional usage agreement, legal language, tracking information
# Some other comments

INCREMENT CCM_NODE cisco 6.0 permanent uncounted \
VENDOR_STRING=<Count>2</Count><OrigMacId>000e7feeebbd</OrigMacId><LicFileVersion>1.0</LicFileVersion> \
HOSTID=000e7feeebbd \
NOTICE="<LicFileID>20060309193216861</LicFileID><LicLineID>1</LicLineID> \
<PAK></PAK>" SIGN="1375 87CA 021E 6ABD C2EF C1D2 1E1A 9A08 \
6A0C 6624 1F21 E5CC 8D83 E154 202F 0A2A 4F75 00D6 C102 E5B9 \
5DA2 A3F9 AE38 CD9A CC86 3F14 9455 28F9 CBC8 31CC"
```

上記のライセンス ファイルには、次の情報が含まれています。

- キーワード **permanent** が示すとおり、このライセンスは無期限に有効です。permanent は、ライセンス ファイルが一時的なものではないことを示します。一時的なライセンスの場合は、ここに日付が記述されます。
- このライセンス ファイルでは、機能 CCM_NODES のバージョン 5.0 のライセンス 2 つが提供されます。
- OrigMacId は、最初のライセンス ファイル発行対象となった MAC ID です。

- HOSTID は、パブリッシャ サーバの MAC ID です。このフィールドが OrigMacID と異なる値になるのは、ライセンス ファイルに再ホスト手順が実行された場合だけです。
- シスコ独自のフィールド LicFileID は、このライセンス ファイルを識別するものです。
- SIGN は、FlexLM が生成する署名を表しています。この署名を FlexLM 検証パッケージが Cisco Unified Communications Manager で使用して、ライセンス ファイルの改ざんが発生していないかどうかを検出します。
- ライセンス ファイルでは、同一の機能に対して複数の INCREMENT 行を追加することで、ライセンスの数を増やすことができます。同一の INCREMENT 行が存在せず、それぞれの行が一意的な署名を持つようにする必要があります。

例 30-3 ソフトウェア機能ライセンス

```
INCREMENT SW_FEATURE cisco 6.0 permanent uncounted \

VENDOR_STRING=<Count>1</Count><OrigMacId>111222333444</OrigMacId><LicFileVersion>1.0</LicFileVersion> \
  HOSTID=111222333444 \
  NOTICE="<LicFileID>20070911134257196</LicFileID><LicLineID>1</LicLineID> \
  <PAK></PAK>" SIGN="15CF FEF2 BB28 3A61 014F AEC1 7F18 8F8D \
  6EC8 7BA7 8ACE 0267 BA34 DE1D BF94 0230 96A6 6DA6 83B6 D0CC \
  1E53 E091 1304 9246 C7A3 CCEB 12E6 6FA3 E95C 6C92"
```

上記のライセンス ファイルには、次の情報が含まれています。

- キーワード `permanent` が示すとおり、このライセンスは無期限に有効です。
- `INCREMENT SW_FEATURE` 行は、このライセンスが Cisco Unified Communications Manager 6.0 の機能サポートを提供することを示します。
- Cisco Unified Communications Manager 6.0(1)以降で 5.0 のデバイス ライセンスを使用するには、ご使用のシステムで実行している Cisco Unified Communications Manager のバージョンに応じて、ソフトウェア機能ライセンスを取得する必要があります。

電話機に関するライセンス機能について

電話機タイプごとに固定数のデバイス ライセンス ユニットが必要です。たとえば、Cisco Unified IP Wireless Phone 7920 にはデバイス ライセンス ユニットが 4 つ必要であり、Cisco Unified IP Phone 7970 にはデバイス ライセンス ユニットが 5 つ必要です。4 台の 7920 電話機と 4 台の 7970 電話機用にライセンスが必要な場合は、36 のデバイス ライセンス ユニットが必要になります。

電話機を [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで設定する前に、次の点を考慮してください。

- Cisco Unified Communications Manager のデータベースに、一括管理ツール (BAT; 一括管理ツール) で作成されるダミー MAC アドレスではなく電話機の実際の MAC アドレスが格納される場合、電話機がデータベースに追加されると、ライセンスによってすぐに電話機のデバイス ライセンス ユニットが消費されます。
 - 実際の MAC アドレスを持つ電話機がデータベースに追加されるのは、使用中のデバイス ライセンス ユニットと保留中のデバイス ライセンス ユニットの数が、使用可能なデバイス ライセンス ユニットの総数を超えていない場合です。
 - 使用中のデバイス ライセンス ユニットと保留中のデバイス ライセンス ユニットの数が、使用可能なデバイス ライセンス ユニットの総数を超えている場合、実際の MAC アドレスを持つ電話機はデータベースに追加されません。

- 電話機のデバイス ライセンス ユニットが消費され、電話機を Cisco Unified Communications Manager に登録できる場合は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウに「デバイスはアクティブ (Device Is Active)」というメッセージが表示されます。

BAT で作成されるダミー MAC アドレスではなく、実際の MAC アドレスを使用している電話機の場合、「デバイスはアクティブ (Device Is Active)」というメッセージが表示されません。これは、電話機がデバイス ライセンス ユニットを使用しており、Cisco Unified Communications Manager に登録可能であることを示します。

BAT で作成されるダミー MAC アドレスを使用している電話機の場合、「デバイスはアクティブ (Device Is Active)」というメッセージは表示されません。[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでダミー MAC アドレスを実際の MAC アドレスに手動で変換すると、設定を保存した後に「デバイスはアクティブ (Device Is Active)」というメッセージが表示されます。この操作によって、電話機を Cisco Unified Communications Manager に登録できるようになり、電話機のデバイス ライセンス ユニットが消費されます。

- Cisco Unified Communications Manager では、BAT を利用することで、ダミー MAC アドレスを使用して電話機をプロビジョニングできます。ただし、使用中のデバイス ライセンス ユニットと保留中のデバイス ライセンス ユニットの数が、使用可能なデバイス ライセンス ユニットの総数を超えないことが前提です。
- Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool (TAPS) を使用して、自動登録された電話機に BAT のダミー設定を関連付けると、Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool は自動登録された電話機をデータベースから削除します。削除された電話機のデバイス ライセンス ユニットは、ライセンスに使用できるようになります。Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool によって、ダミー MAC アドレスを使用している電話機にデバイス名が適用されると、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウに「デバイスはアクティブ (Device Is Active)」というメッセージが表示されます。ライセンスによって電話機のデバイス ライセンス ユニットが消費され、電話機を Cisco Unified Communications Manager に登録できる状態になります。ただし、使用中のデバイス ライセンス ユニットの数が、使用可能なデバイス ライセンス ユニットの総数を超えていないことが前提です。
- Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool を使用できるように電話機を自動登録すると、その電話機はデータベースに登録されます。ただし、使用中のデバイス ライセンス ユニットの数が、使用可能なデバイス ライセンス ユニットの数を超えていないことが前提です。
- 保留中、使用中、および使用可能なデバイス ライセンス ユニットの数は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページにある [ライセンスユニットレポート (License Unit Report)] および [ライセンスユニット計算 (License Unit Calculator)] で確認できます。

付加ライセンスの機能について

付加ライセンスを使用すると、Cisco IP Communicator、Cisco Unified Personal Communicator、Cisco Unified Mobile Communicator などの付加（セカンダリ）デバイスをプライマリ デバイスとして機能する Cisco Unified IP Phone とともに使用する場合に、これらの付加デバイスに対して消費される Device License Unit (DLU; デバイス ライセンス ユニット) が少なくなります。付加ライセンスを機能させるには、付加デバイスがプライマリ デバイスと同数以下の DLU を消費する必要があります。

たとえば、Cisco IP Communicator を Cisco Unified IP Phone 7970 のセカンダリ デバイスとして設定した場合、Cisco IP Communicator は 1 つの DLU だけ消費します。Cisco Unified IP Phone 7970 が 5 つの DLU を消費するのに対して、Cisco IP Communicator は 3 つの DLU を消費するので、付加ライセンスが機能します。

一方、Cisco IP Communicator を Cisco Unified IP Phone 7906 のセカンダリ デバイスとして設定した場合、Cisco Unified IP Phone 7906 は 2 つの DLU を消費し、Cisco IP Communicator は 3 つの DLU を消費するため、付加ライセンスは機能しません。たとえば、Cisco IP Communicator などのアプリケーションを付加デバイスとして設定し、付加デバイスに必要な Device License Unit (DLU; デバイス ライセンス ユニット) が Cisco Unified IP Phone 7906 などのプライマリ デバイスよりも多い場合、エラーが発生します。

Cisco Unified Communications Manager が、Cisco IP Communicator、Cisco Unified Personal Communicator、および Cisco Unified Mobile Communicator を付加 (セカンダリ) デバイスとして扱うようにするには、Cisco IP Communicator、Cisco Unified Personal Communicator、および Cisco Unified Mobile Communicator の [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで [プライマリ Phone(Primary Phone)] を設定します。

[ライセンスユニット計算 (License Unit Calculator)] ウィンドウで、付加デバイスとして動作するアプリケーションの隣に (Adjunct) と表示されます。

アプリケーションに関するライセンス機能について

Cisco IP Communicator などの特定タイプのアプリケーションは、プライマリ デバイスまたは付加デバイスとしてデバイス ライセンス ユニットの消費します。付加デバイスとは、エンド ユーザがデスクの電話機に加えて使用するデバイスまたはアプリケーションです。たとえば、Cisco IP Communicator は、エンド ユーザがデスクトップの電話機と Cisco IP Communicator の両方を使用する場合、付加デバイスとなります。エンド ユーザがデスクの電話を使用しない場合、Cisco IP Communicator はプライマリ デバイスとなります。

特定のアプリケーション用のライセンスに関する詳細については、次の項を参照してください。

- 「Cisco IP Communicator のライセンス」 (P.30-10)
- 「Cisco Unified Mobility のライセンス」 (P.30-10)
- 「Cisco Unified Mobile Communicator のライセンス」 (P.30-11)
- 「Cisco Unified Personal Communicator のライセンス」 (P.30-11)

Cisco IP Communicator のライセンス

Cisco IP Communicator をエンド ユーザのプライマリ デバイスとして設定する場合は、3 つのデバイス ライセンス ユニットが消費されます。[電話の設定 (Phone Configuration)] の [プライマリ Phone(Primary Phone)] フィールドで電話を選択して、付加デバイスとして設定された場合、1 つのデバイス ライセンス ユニットが消費されます。

Cisco Unified Mobility のライセンス

[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウの [モビリティの有効化 (Enable Mobility)] チェックボックスをオンにすると、ライセンスに対するトリガーが発生し、モバイルコネクタのデバイス ライセンス ユニットが消費されます。消費されるデバイス ライセンス ユニットの数は、エンド ユーザに Cisco Unified Mobility 専用の付加デバイス (たとえば、デスクの電話機) を割り当てるかどうかによって異なります。エンド ユーザに Cisco Unified Mobility 用の付加デバイスを割り当てるには、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウの [モビリティ情報 (Mobility Information)] ペインの [プライマリユーザデバイス (Primary User Device)] ドロップダウン リスト ボックスからデバイスを選択します。同じウィンドウの [デバイスの割り当て (Device Association)] ボタンをクリックするものではありません。

モバイル コネクトを使用可能にする前に、次の情報を考慮してください。

- Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、Cisco Unified Mobility 用に同じデバイスを複数のユーザに割り当てることはできません。
- 設定を計画するときに、ユーザがデスクの電話機と携帯電話の両方を使用するのかどうかを確認してください。ユーザが携帯電話とデスクの電話機の両方を使用する場合は、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウでモバイル コネクトを使用可能にした後で、ユーザに付加デバイスを必ず割り当ててください。

割り当てたデバイスは、付加デバイスとして機能します。つまり、ユーザが Cisco Unified Mobility 用の携帯電話に加えて使用するデバイス（デスクの電話など）として機能します。

- モバイル コネクトを使用可能にし、エンドユーザに Cisco Unified Mobility 用の付加デバイスを割り当てなかった場合は、4 つの DLU が消費されます。これは、[ライセンスユニット計算 (License Unit Calculator)] ウィンドウの [モビリティ有効エンドユーザ (Mobility Enabled End Users)] 行に示されます。
- モバイル コネクトを使用可能にし、エンドユーザに Cisco Unified Mobility 用の付加デバイスを割り当てた場合は、2 つの DLU が消費されます。これは、[ライセンスユニット計算 (License Unit Calculator)] ウィンドウの [Mobility Enabled End Users (Adjunct)] 行に示されます。
- モバイル コネクトを使用可能にし、エンドユーザにこの機能用の付加デバイスを割り当てることを後で決定した場合は、2 つの DLU が与えられます。これは、[ライセンスユニット計算 (License Unit Calculator)] ウィンドウの [モビリティ有効エンドユーザ (Mobility Enabled End Users)] 行に示されます。

たとえば、モバイル コネクトを使用可能にし、エンドユーザにこの機能用の付加デバイスを割り当てることを忘れて [保存 (Save)] をクリックすると、4 つの DLU が消費されます。その後、エンドユーザにこの機能用の付加デバイスを割り当てて、[保存 (Save)] をクリックすると、2 つの DLU が与えられます。

- モバイル コネクトを有効にした後に Cisco Unified Communications Manager の管理ページでデバイスを削除するか、割り当てを削除した場合は、デバイスまたは割り当ての削除後、2 つの DLU が消費されます。これは、[ライセンスユニット計算 (License Unit Calculator)] ウィンドウの [モビリティ有効エンドユーザ (Mobility Enabled End Users)] 行に示されます。

Cisco Unified Mobile Communicator のライセンス

Cisco Unified Mobile Communicator では、ユーザがデスクの電話機を使用する場合は 1 つの Device License Unit (DLU; デバイス ライセンス ユニット) が消費され、デスクの電話機を使用しない場合、つまり Cisco Unified Mobile Communicator をプライマリ デバイスとして使用する場合は 3 つの DLU が消費されます。Cisco Unified Mobile Communicator を [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで設定するときに、Cisco Unified Mobile Communicator が付加（セカンダリ）デバイスである場合は、プライマリ Phone を [プライマリ Phone (Primary Phone)] ドロップダウンリストボックスから選択します。

Client Services Framework のライセンス

Client Services Framework を [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで設定するときに、Client Services Framework が付加（セカンダリ）デバイスである場合は、プライマリ Phone を [プライマリ Phone (Primary Phone)] ドロップダウンリストボックスから選択します。

Cisco Unified Personal Communicator のライセンス

ライセンス機能割り当て設定を Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定すると、ライセンスに対するトリガーが発生し、Cisco Unified Personal Communicator 用にデバイスライセンスユニットが消費されます。「[ライセンス機能割り当ての設定値](#)」(P.30-20) を参照してください。

インタラクションおよび制限事項

ライセンスには、次のインタラクションと制限事項があります。

- Microsoft Outlook を電子メールクライアントとして使用して、ライセンスを取得することを強く推奨します。他の電子メールクライアントを使用してライセンス ファイルを取得すると、追加の文字がライセンス ファイルに表示される場合があります。
- Cisco Unified Communications Manager の管理ページでライセンス ファイルをアップロードする前に、Cisco License Manager サービスが動作していることを Cisco Unified サービスアビリティで確認してください。

ライセンス マネージャ サービスによって、購入され、使用されるライセンスが追跡されます。このサービスでは、ライセンスのチェックインとチェックアウトを制御するプロセスを参照し、各電話機およびアプリケーション タイプで必要となるライセンス ユニットの数を追跡します。ライセンス マネージャは、ライセンスの発行と再要求、およびライセンス超過が発生しているかどうかの検出を行います。

- Cisco Unified Communications Manager 6.0(1) から 6.1(1) へのアップグレードなど、一連のソフトウェア リリースの範囲内でアップグレードする場合は、新しいライセンスを取得する必要はありません。
- 8.5(1) へのアップグレードの後に、Cisco CallManager サービスがアクティブになっていることが Cisco Unified サービスアビリティに表示されても、Cisco CallManager サービスは自動的に実行されません。Cisco Unified Communications Manager 8.5(1) へのアップグレードが完了したら、すぐに Cisco Unified Communications Manager の管理ページで Cisco Unified Communications Manager 8.5(1) に必要となるソフトウェア機能ライセンスをアップロードし、Cisco Unified サービスアビリティで Cisco CallManager サービスを再起動します。これらの作業を実行するまでは、デバイスを Cisco Unified Communications Manager 8.5(1) に登録できません。
- ライセンス ファイルをアップロードした後は、Cisco Unified サービスアビリティで Cisco CallManager サービスを再起動する必要があります。
- Cisco Unified Communications Manager は、ソフトウェア ライセンス バージョンを追跡します。このバージョン確認は、Cisco CallManager サービスが再起動するときに毎回実行されます。(ライセンス ファイルが見つからないなどの理由で) Cisco Unified Communications Manager がロードに失敗した場合は、サービス マネージャは Cisco CallManager サービスの再起動を 3 回試行します。再起動のたびにライセンス ファイル確認が実行され、アラームが syslog に書き込まれます。

ソフトウェア ライセンス バージョンは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ライセンスユニットレポート (License Unit Report)] ウィンドウに表示されます。

- ライセンス ファイルがデータベースにアップロードされるのは、ライセンス ファイル内に指定されているバージョンが、クラスタの内部で動作している Cisco Unified Communications Manager のバージョンよりも新しいか、一致している場合だけです。このバージョン チェックに合格しなかった場合は、アラームが生成されます。その場合、適切なバージョンを含む新しいライセンス ファイルを取得する必要があります。このバージョン チェックは、メジャー リリース番号だけに基づいています。
- DNS について、ダミー ノードを含むすべてのサーバの IP アドレスを DNS サーバでホスト名にマッピングしたことを確認してください。この作業を行っていない場合、Cisco Unified Communications Manager は License Manager サービスがダウンしているというアラームを生成します。
- Cisco Unified Communications Manager の管理ページでライセンス ファイル名を削除することはできません。ライセンス ファイル名を削除する方法については、『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』を参照してください。

- 受信するライセンス ファイルの形式は、CCM<タイムスタンプ>.lic です。 .lic 拡張子を保持していれば、ライセンス ファイルの名前を変更してもかまいません。ファイルの内容に何らかの変更を加えると、ライセンスは使用できなくなります。
- Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウに「デバイスはアクティブ (Device Is Active)」というメッセージが表示された場合は、電話機のデバイス ライセンス ユニットが消費され、電話機を Cisco Unified Communications Manager に登録できることを示します。このトピックの詳細については、「[電話機に関するライセンス機能について](#)」(P.30-8) を参照してください。
- サーバを交換する場合は、ライセンスの処理方法に関する考慮事項について、『*Replacing a Single Server or Cluster for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

ライセンスの操作

この項は、次の内容で構成されています。

- 「必要なライセンス ユニット数の計算」(P.30-13)
- 「ライセンス ファイルの取得」(P.30-15)
- 「ライセンス マネージャ サービスが動作していることの確認」(P.30-17)
- 「ライセンス ファイルのアップロード」(P.30-18)
- 「ライセンス ユニット レポートの生成」(P.30-19)
- 「ライセンス機能割り当ての設定値」(P.30-20)
- 「ライセンス機能割り当ての検索」(P.30-21)
- 「1 人のユーザに対する機能割り当ての設定」(P.30-22)
- 「複数ユーザに対する機能割り当ての設定」(P.30-23)
- 「アラーム、アラート、およびライセンス ステータス通知」(P.30-24)

必要なライセンス ユニット数の計算

シスコのデバイスを注文されると、シスコから Product Authorization Key (PAK; 製品認可キー) が提供されます。PAK を使用すると、1,000 台以上のデバイス ライセンス ユニットのバンドルを購入した場合に、複数のクラスタにライセンスを分割できます。

たとえば、1 回の注文で 20 台の Cisco Unified Communications Manager ノードと 20000 台の電話ユニットを要求したとします。要求が承認されると、PAK が発行されます。この PAK を使用して、お客様はライセンスを複数のクラスタにまたがって分割でき、1 つのライセンス ファイルには 15 台の Cisco Unified Communications Manager ノードと 15000 台の電話ユニットが含まれ、もう 1 つのライセンス ファイルには 5 台の Cisco Unified Communications Manager ノードと 5000 台の電話ユニットが含まれるようにすることができます。

Cisco Unified Communications Manager をインストールまたはアップグレードした後に各デバイスで必要となるライセンス ユニット数を判別するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[システム (System)] [ライセンス (Licensing)] > [ライセンスユニット計算 (License Unit Calculator)] の順に選択します。[ライセンスユニット計算 (License Unit Calculator)] ウィンドウを使用して、ある電話機タイプを使用した特定の構成で必要となる、電話ユニット ライセンスの数と各タイプの電話機の数とを計算します。デバイス ライセンス ユニットとは、各電話機タイプに対応した一定数のライセンス ユニットの事です。たとえば、

Cisco Unified IP Wireless Phone 7920 の場合はライセンスユニットが 4 つ必要であり、Cisco Unified IP Phone 7970 の場合はライセンスユニットが 5 つ必要です。4 台の 7920 電話機と 4 台の 7970 電話機を追加する場合は、36 の電話機ライセンスユニットが必要です。

表 30-4 に、Cisco Unified Communications Manager でのプライマリ ライセンスユニットと付加ライセンスユニットの計算方法の例を示します。

表 30-4 特定のデバイス用に消費されるデバイス ライセンスユニットの例

設定するデバイスのタイプ	デバイス ライセンス ユニットの数
Cisco Unified IP Phone 7961	4
Cisco IP Communicator	3
Cisco Unified Personal Communicator	3
Cisco IP Communicator または Cisco Unified Personal Communicator を既存のデバイス (Cisco Unified IP Phone 7961 など) に関連付ける	デバイス ライセンス ユニットの数は、Cisco IP Communicator または Cisco Unified Personal Communicator に対して与えられます。関連付けられたデスクの電話に対して与えられるものではありません。 Cisco IP Communicator が Cisco Unified IP Phone 7961 に関連付けられた場合、Cisco IP Communicator の DLU は 3 から 1 に減少します。Cisco Unified IP Phone 7961 の DLU は変わりません。

電話機タイプの数、および電話機タイプごとの電話機の合計数を入力して、必要となる電話機ライセンスの数を計算する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [ライセンスユニット計算 (License Unit Calculator)] の順に選択します。
- [ライセンスユニット計算 (License Unit Calculator)] ウィンドウが表示されます。デバイス 1 台ごとに消費されるライセンスユニットの数が、ノードまたはデバイスごとに表示されます。
- ステップ 2** [デバイス数 (Number of Devices)] カラムで、必要となる各ノードまたは電話機のデバイス数を更新します。
- ステップ 3** [計算 (Calculate)] をクリックします。
- Cisco Unified Communications Manager ノードライセンスユニットと電話機ライセンスユニットの合計数が表示されます。
-

追加情報

「関連項目」(P.30-25) を参照してください。

ライセンス ファイルの取得

ライセンスは、Cisco Unified Communications Manager ライセンスの管理と、Cisco Unified Communications Manager アプリケーションのライセンスおよびデバイスの数の順守に役立ちます。この項では、新しくインストールする Cisco Unified Communications Manager システムおよびデバイスのライセンスのほか、さまざまなリリースからアップグレードした Cisco Unified Communications Manager ノードのライセンスを取得する方法について説明します。



(注) Cisco Unified Communications Manager 6.0(1) から 6.1(1) へのアップグレードなど、一連のソフトウェア リリースの範囲内でアップグレードする場合は、新しいライセンスを取得する必要はありません。

ライセンスを取得するには、状況に応じて次のいずれかの項を参照してください。

- 追加のデバイス ライセンス ユニットを必要とする新しい Cisco Unified Communications Manager サーバまたはデバイスをインストールする場合は、「[新しい Cisco Unified Communications Manager ノードおよびデバイスのライセンスの取得](#)」(P.30-15) を参照してください。
- Cisco Unified Communications Manager 6.x のサポート対象バージョンからアップグレードする場合は、「[ソフトウェア機能ライセンスの取得](#)」(P.30-16) を参照してください。

新しい Cisco Unified Communications Manager ノードおよびデバイスのライセンスの取得

新しい Cisco Unified Communications Manager ノード (サーバ) のノード ライセンス ファイルを取得する手順、および追加のデバイス ライセンス ユニットを必要とする新しいデバイスのデバイス ライセンスを取得する手順は、次のとおりです。

クラスタ内の各ノードでは、1 つのノード ライセンス ユニットが必要になります。各デバイス タイプでは、タイプに応じて、一定数のライセンス ユニットが必要になります。たとえば、Cisco Unified IP Phone 7920 の場合はライセンス ユニットが 4 つ必要であり、Cisco Unified IP Phone 7970 の場合はライセンス ユニットが 5 つ必要です。4 台の Cisco Unified IP Phone 7920 電話機と 4 台の Cisco Unified IP Phone 7970 電話機用にライセンスが必要な場合は、36 の電話機 ライセンス ユニットが必要です。

Cisco Unified Communications Manager には、Cisco Unified Communications Manager の新規インストールを開始するときに使用できるスターター ライセンスが含まれています。パーマネント ライセンスを取得してアップロードすると、スターター ライセンスは上書きされます。

必要なパーマネント ライセンスを取得するには、製品に付属の Product Authorization Key (PAK; 製品認可キー) を使用します。次の手順を参照してください。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager に付属の (または電話で注文した) Product Authorization Key (PAK; 製品認可キー) を、<http://www.cisco.com/go/license> にある License Registration Web ツールに入力します。
- ステップ 2** [送信 (Submit)] をクリックします。

- ステップ 3** システム プロンプトの指示に従います。Cisco Unified Communications Manager クラスタの最初のノードに搭載されている Ethernet 0 NIC の MAC アドレスを入力する必要があります。有効な電子メール アドレスと、ライセンスを取得するノードおよびデバイス ライセンス ユニットの数も入力する必要があります。



(注) システム内のデバイスで必要になるデバイス ライセンス ユニットの数を計算する方法については、「必要なライセンス ユニット数の計算」(P.30-13) を参照してください。

入力した電子メール ID 宛てに電子メールでライセンス ファイルが送信されます。ライセンス ファイルの形式は、CCM<タイムスタンプ>.lic です。.lic 拡張子を保持していれば、ライセンス ファイルの名前を変更してもかまいません。ファイルの内容に何らかの変更を加えると、ライセンスは使用できなくなります。



(注) 1 つのライセンス ファイルがクラスタ内の複数のノードに適用される場合があります。ライセンス ファイルの解釈方法については、「ライセンス ファイルのアップロード」(P.30-18) を参照してください。

- ステップ 4** ライセンス ファイルは、ステップ 3 で入力した MAC アドレスを持つサーバにアップロードする必要があります。「ライセンス ファイルのアップロード」(P.30-18) を参照してください。このサーバは、ライセンス マネージャの役割を果たします。



(注) ライセンス ファイル内に指定されているライセンスを使用できるのは、ライセンス ファイルをアップロードしたクラスタの内部だけです。

追加情報

「関連項目」(P.30-25) を参照してください。

ソフトウェア機能ライセンスの取得

ソフトウェア機能ライセンスは、指定されたライセンス バージョンに応じて、システムの機能をアクティブにします。以前のデバイス ライセンス バージョンをこのバージョンの Cisco Unified Communications Manager で使用する場合は、システムで動作している Cisco Unified Communications Manager のバージョンに対応したソフトウェア機能ライセンスを取得する必要があります。

ソフトウェア機能ライセンスを取得する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** <http://www.cisco.com/go/license> にある License Registration Web ツールに移動します。
- ステップ 2** Cisco Unified Communications Manager アップグレードに付属の Product Authorization Key (PAK; 製品認可キー) を入力します。
- ステップ 3** [送信 (Submit)] をクリックします。

- ステップ 4** システム プロンプトの指示に従います。Cisco Unified Communications Manager クラスタの最初のノードに搭載されている Ethernet 0 NIC の MAC アドレスを入力する必要があります。有効な電子メール アドレスも入力する必要があります。
- 入力した電子メール アドレス宛てに電子メールでライセンス ファイルが送信されます。ソフトウェア機能ライセンスの内容を表示するには、「[ライセンス ファイルの内容について](#)」(P.30-6) を参照してください。
- ステップ 5** ソフトウェア ライセンス ファイルは、[ステップ 4](#) で入力した MAC アドレスを持つサーバにアップロードする必要があります。「[ライセンス ファイルのアップロード](#)」(P.30-18) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.30-25) を参照してください。

ライセンス マネージャ サービスが動作していることの確認

ライセンス ファイルのロード先となる Cisco Unified Communications Manager サーバは、ライセンス マネージャの役割を果たします (ライセンス ファイルは、最初のノードだけにロードされます)。ライセンス ファイルについては、「[電話機に関するライセンス機能について](#)」(P.30-8) を参照してください。

ライセンス マネージャは、購入され、使用されるライセンスを追跡する論理コンポーネントとして機能します。これは、ライセンスのチェックインとチェックアウトを制御するプロセスです。各電話機およびアプリケーション タイプで必要となるライセンス ユニットの数を追跡します。ライセンス マネージャは、ライセンスの発行と再要求、およびライセンス超過が発生しているかどうかの検出を行います。

ライセンス マネージャ サービスを開始するには、Cisco Unified サービスアビリティを使用します。この項では、サービスを開始、停止、または再起動する手順について説明します。



(注) ライセンス マネージャはネットワーク サービスであるため、Cisco Unified Communications Manager のインストール後に自動的に開始され、動作します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified サービスアビリティで、[Tools] > [Control Center - Network Services] の順に選択します。
- [Control Center - Network Services] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [Servers] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。
- ステップ 3** **Cisco License Manager** に対応するオプション ボタンをクリックします。
- ステップ 4** ライセンス マネージャ サービスを開始する場合は、[Start] をクリックします。
- ステップ 5** ライセンス マネージャ サービスを停止する場合は、[Stop] をクリックします。
- ステップ 6** ライセンス マネージャ サービスを再起動する場合は、[Restart] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.30-25) を参照してください。

ライセンス ファイルのアップロード

ライセンス ファイル要求時に入力した MAC アドレスを持つ Cisco Unified Communications Manager サーバに対して、ライセンス ファイルをアップロードする手順は、次のとおりです。ライセンス ファイルの取得については、「[電話機に関するライセンス機能について](#)」(P.30-8)を参照してください。ライセンス ファイルのロード先となる Cisco Unified Communications Manager サーバは、ライセンス マネージャの役割を果たします。

[ライセンスファイルのアップロード (License File Upload)] ウィンドウに、ライセンス ファイルのアップロードによって、その機能のスターター (デモ) ライセンスが削除されることを示すメッセージが表示されることがあります。

互換性のある Cisco Unified CM 6.x リリースから Cisco Unified Communications Manager 8.5(1) へのアップグレードを実行後、Cisco CallManager サービスがアクティブになっていることが Cisco Unified サービスアビリティに表示されても、Cisco CallManager サービスは自動的に実行されません。Cisco Unified Communications Manager 8.5(1) へのアップグレードが完了したら、すぐに Cisco Unified Communications Manager の管理ページで Cisco Unified Communications Manager 8.5(1) に必要となるソフトウェア機能ライセンスをアップロードし、Cisco Unified サービスアビリティで Cisco CallManager サービスを再起動します。これらの作業を実行するまでは、デバイスを Cisco Unified Communications Manager 8.5(1) に登録できません。



(注) ライセンス ファイルは Cisco Unified Communications Manager クラスタの最初のノードでだけアップロードしてください。

手順

ステップ 1 [システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [ライセンスファイルのアップロード (License File Upload)] の順に選択します。

[ライセンスファイルのアップロード (License File Upload)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [既存ライセンスファイル (Existing License Files)] ドロップダウン リスト ボックスに、サーバにすでにアップロードされているライセンス ファイルが表示されます。



(注) 既存ファイルの内容を表示するには、ドロップダウン リスト ボックスからファイルを選択し、[ファイルの表示 (View File)] をクリックします。

ステップ 3 アップロードする新しいライセンス ファイルを選択するには、[ライセンスファイルのアップロード (Upload License File)] をクリックします。

[ファイルのアップロード (Upload File)] ポップアップ ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 サーバにアップロードするには、[参照 (Browse)] をクリックして、ライセンス ファイルを選択します。



(注) 受信するライセンス ファイルの形式は、CCM<タイムスタンプ>.lic です。.lic 拡張子を保持していれば、ライセンス ファイルの名前を変更してもかまいません。ファイルの内容に何らかの変更を加えると、ライセンスは使用できなくなります。

ステップ 5 [アップロード (Upload)] をクリックします。

アップロード プロセスが完了すると、[アップロード結果 (Upload Result)] ファイルが表示されます。

ステップ 6 [閉じる (Close)] をクリックします。

ステップ 7 [ライセンスファイルのアップロード (License File Upload)] ウィンドウに、アップロードしたファイルのステータスが表示されます。Cisco Unified サービスアビリティで、Cisco CallManager サービスを再起動します。



(注) ライセンス ファイルがデータベースにアップロードされるのは、ライセンス ファイル内に指定されているバージョンが、クラスターの内部で動作している Cisco Unified Communications Manager のバージョンよりも新しいか、一致している場合だけです。このバージョン チェックに合格しなかった場合は、アラームが生成されます。その場合、適切なバージョンを含む新しいライセンス ファイルを取得する必要があります。このバージョン チェックは、メジャー リリース番号だけに基づいています。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.30-25) を参照してください。

ライセンス ユニット レポートの生成

ライセンス ユニット レポートは、使用可能なライセンスの合計数、および使用中のライセンスの数を表示するために使用します。このツールを実行すると、使用可能なライセンスの合計数を示したレポートが生成されます。ライセンス ユニット レポートには、Cisco Unified Communications Manager サーバにインストールされたソフトウェア ライセンス バージョンも表示されます。



(注) ライセンスの要求の詳細については、「[ライセンス ファイルの取得](#)」(P.30-15) を参照してください。

ユニット ライセンスとは、各電話機タイプに対応した一定数のデバイス ライセンス ユニットのことで、たとえば、Cisco Unified IP Wireless 7920 の場合はデバイス ライセンス ユニットが 4 つ必要であり、Cisco Unified IP Phone 7970 の場合はデバイス ライセンス ユニットが 5 つ必要です。4 台の 7920 電話機と 4 台の 7970 電話機をプロビジョニングする場合は、36 の電話機ライセンス ユニットが必要です。

ライセンス ファイルに含まれているライセンス取得済みユニットの数は、購入したすべての電話機タイプのユニット ライセンスの数に対応しています。

[ライセンスユニットレポート (License Unit Report)] ウィンドウには、ライセンス ファイルのステータスが表示されます。たとえば、各ライセンス タイプの [ステータス (Status)] カラムには、[デモ (Demo)]、[見つかりません (Missing)]、[無効 (Invalid)]、または [アップロード済み (Uploaded)] と表示されます。ステータスが無効である場合は、正しいライセンス MAC を使用してライセンス ファイルが取得されていること、つまり、コマンドライン インターフェイスで `show status cli` コマンドを発行してライセンス MAC を取得していることを確認し、[ライセンスファイルのアップロード (License File Upload)] ウィンドウに表示される値を、ライセンス ファイルの内容で表示される値と比較します。これらの値が一致しない場合は、正しいライセンス MAC のライセンス ファイルを取得し、[ライセンスファイルのアップロード (License File Upload)] ウィンドウでアップロードします。cli コマンドの詳細については、『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』を参照してください。



(注)

各デバイスで必要となるライセンス ユニットの数を調べるには、[システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [ライセンスユニット計算 (License Unit Calculator)] の順に選択します。このウィンドウには、各デバイス タイプで必要となるライセンス ユニットの数が表示されます。

使用可能なライセンスの数についてレポートを生成する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [ライセンスユニットレポート (License Unit Report)] の順に選択します。

ステップ 2 [ライセンスユニットレポート (License Unit Report)] ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、電話機ライセンスとノードライセンスの数、およびソフトウェアライセンスのバージョンが表示されます。使用可能な電話機ライセンスとノードライセンスは、次の項目別に表示されます。

- [認証済みユニット数 (Units Authorized)]
- [使用済みユニット数 (Units Used)]
- [残りユニット数 (Units Remaining)]

ソフトウェアライセンスバージョンには、次の項目が表示されます。

- ライセンスサーバ名
- Cisco Unified Communications Manager ソフトウェアバージョン

追加情報

「[関連項目](#)」(P.30-25) を参照してください。

ライセンス機能割り当ての設定値

機能割り当てによって、システム管理者はユーザに対して Cisco Unified Presence (CUP) 機能および Cisco Unified Personal Communicator (CUPC) 機能を有効にできます。CUP および CUPC のライセンスが利用可能であることを確認する必要があります。

ライセンス機能割り当ては、既存のユーザに対して行います。開始する前に、[ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] の順に選択し、[検索 (Find)] をクリックして、システムにそのユーザが存在することを確認してください。

ユーザに対する機能割り当ての設定を開始する前に、[ライセンス (Licensing)] > [ライセンスユニット計算 (License Unit Calculator)] を選択して、システムに必要な CUP (サーバおよびクライアント) ライセンスと CUPC ライセンスの数を決定します。[ライセンス (Licensing)] > [ライセンスファイルのアップロード (License File Upload)] を使用して、必要なライセンスを取得します。[ライセンス (Licensing)] > [ライセンスユニットレポート (License Unit Report)] を使用して、合計ライセンスを確認してください。

表 30-5 では、ライセンス機能割り当ての設定値について説明します。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.30-25) を参照してください。

表 30-5 ライセンス機能割り当ての設定値

フィールド	説明
[ユーザ情報 (User Information)]	
[ユーザ ID (User ID)]	機能割り当てを有効にするユーザの名前を表示します。
[機能割り当て情報 (Capabilities Assignment Information)]	
[CUP (Cisco Unified Presence) を有効にする (Enable CUP (Cisco Unified Presence))]	このユーザに対して CUP を有効にするには、[CUP (Cisco Unified Presence) を有効にする (Enable CUP (Cisco Unified Presence))] チェックボックスをオンにします。
[CUPC (Cisco Unified Personal Communicator) を有効にする (Enable CUPC (Cisco Unified Personal Communicator))]	ユーザに対して CUPC を有効にするには、[CUPC (Cisco Unified Personal Communicator) を有効にする (Enable CUPC (Cisco Unified Personal Communicator))] チェックボックスをオンにします。CUP と CUPC の両方を有効にできますが、CUPC が必要な場合は、CUP も有効にする必要があります。

ライセンス機能割り当ての検索

ネットワーク内にはユーザに対していくつかのライセンス機能割り当てが存在することがあるので、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、固有の条件を指定して、特定の機能割り当てを見つけることができます。機能割り当てを検索する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、機能割り当ての検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしないかぎり、機能割り当ての検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [機能割り当て (Capabilities Assignment)] の順に選択します。

[機能割り当ての検索と一覧表示 (Find and List Capabilities Assignment)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空になっていることを確認し、[ステップ 3](#) に進みます。

特定のレコードをフィルタリングまたは検索するには、次の操作を実行します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスで、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索文字を入力します。



(注)

別の検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加した場合は、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして、最後に追加された条件を削除するか、または [フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加されたすべての検索条件を削除します。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

すべてのレコードまたは条件に一致するレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスで別の値を選択すると、各ページに表示される項目数を変更できます。

ステップ 4 表示されたレコード リストから、目的のレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順を逆にするには、リストのヘッダーにある上矢印または下矢印をクリックします (使用可能な場合)。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.30-25) を参照してください。

1 人のユーザに対する機能割り当ての設定

Cisco Unified Communications Manager データベースにユーザの機能割り当てを追加する手順、およびデータベース内の機能割り当てを更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

機能割り当てを設定する前に、[システム (System)] メニューの [ライセンスファイルのアップロード (License File Upload)] を使用して、シスコシステムズからライセンスを取得する必要があります。

手順

ステップ 1 [システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [機能割り当て (Capabilities Assignment)] の順に選択します。

[機能割り当ての検索と一覧表示 (Find and List Capabilities Assignment)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 新しい機能割り当てを追加するか、既存の機能割り当てを更新する場合は、該当する機能割り当てを見つけて (「ライセンス ファイルのアップロード」(P.30-18) を参照)、**ステップ 3** に進みます。

[機能割り当ての設定 (Capabilities Assignment Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切なチェックボックスをオンにします (表 30-5 を参照)。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックして、機能割り当て情報をデータベースに保存します。

追加情報

「関連項目」(P.30-25) を参照してください。

複数ユーザに対する機能割り当ての設定

Cisco Unified Communications Manager データベースに複数ユーザの機能割り当てを追加する手順、およびデータベース内の機能割り当てを更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

機能割り当てを設定する前に、[システム (System)] メニューの [ライセンスファイルのアップロード (License File Upload)] を使用して、シスコシステムズからライセンスを取得する必要があります。



(注) 一括割り当て機能を使用する場合は、最大 250 ユーザに対してライセンスを割り当てることができます。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [機能割り当て (Capabilities Assignment)] の順に選択します。
[機能割り当ての検索と一覧表示 (Find and List Capabilities Assignment)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 新しい機能割り当てを追加するか、既存の機能割り当てを更新する場合は、該当する機能割り当てを見つけて ([「ライセンス ファイルのアップロード」 \(P.30-18\)](#) を参照)、[ステップ 3](#) に進みます。
- ステップ 3** 複数ユーザに対して新しい機能割り当てを有効にするか、既存の機能割り当てを更新するには、そのユーザの横にあるチェックボックスをオンにするか、[すべてを選択 (Select All)] ボタンをクリックします。
- ステップ 4** [一括割り当て (Bulk Assignment)] ボタンをクリックします。
[機能割り当ての設定 (Capabilities Assignment Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** 適切なチェックボックスをオンにします ([表 30-5](#) を参照)。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックして、機能割り当て情報をデータベースに保存します。

追加情報

[「関連項目」 \(P.30-25\)](#) を参照してください。

ライセンスのトラブルシューティング

この項は、次の内容で構成されています。

- 「アラーム、アラート、およびライセンス ステータス通知」(P.30-24)

アラーム、アラート、およびライセンス ステータス通知

Cisco Unified Communications Manager は、ライセンスが失われているかどうか、デモ ライセンスかどうか、無効なライセンスかどうか、アップロードされたライセンスかどうかなど、ライセンスの状態を識別します。さらに、Cisco Unified Communications Manager の管理ページには、Cisco Unified Communications Manager が現在スターターライセンスで動作しているか、ライセンス数が不足しているか、不正なソフトウェア機能ライセンスで動作しているかについての警告が表示されます。このトピックの詳細については、「[ライセンス関連のウィンドウについて](#)」(P.30-5) を参照してください。



ヒント

ステータスが無効である場合は、正しいライセンス MAC を使用してライセンス ファイルが取得されていること、つまり、コマンドライン インターフェイスで `show status cli` コマンドを発行してライセンス MAC を取得していることを確認し、[ライセンスファイルのアップロード (License File Upload)] ウィンドウに表示される値を、ライセンス ファイルの内容で表示される値と比較します。

ライセンスについて、次のアラームが生成されます。

- CiscoLicenseManagerDown
- CiscoLicenseOverDraft
- CiscoLicenseRequestFailed
- CiscoLicenseDataStoreError
- CiscoLicenseInternalError
- CiscoLicenseFileError



ヒント

これらのアラームを検索するには、Cisco Unified サービスアビリティで JavaApplications Alarm Catalog にアクセスします。アラームの詳細については、『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager が適切なライセンス ファイルを保有していない場合は、アラートが生成されます。アラートについては、『*Cisco Unified Real Time Monitoring Tool Administration Guide*』を参照してください。

DNS について、ダミー ノードを含むすべてのサーバの IP アドレスを DNS サーバでホスト名にマッピングしたことを確認してください。この作業を行っていない場合、Cisco Unified Communications Manager は License Manager サービスがダウンしているというアラームを生成します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.30-25) を参照してください。

関連項目

- 「ライセンスのチェックリスト」 (P.30-2)
- 「ライセンスについて」 (P.30-3)
 - 「ライセンスの用語について」 (P.30-4)
 - 「ライセンス関連のウィンドウについて」 (P.30-5)
 - 「ライセンス ファイルの内容について」 (P.30-6)
 - 「電話機に関するライセンス機能について」 (P.30-8)
 - 「付加ライセンスの機能について」 (P.30-9)
 - 「アプリケーションに関するライセンス機能について」 (P.30-10)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.30-12)
- 「ライセンスの操作」 (P.30-13)
 - 「必要なライセンス ユニット数の計算」 (P.30-13)
 - 「ライセンス ファイルの取得」 (P.30-15)
 - 「ライセンス マネージャ サービスが動作していることの確認」 (P.30-17)
 - 「ライセンス ファイルのアップロード」 (P.30-18)
 - 「ライセンス ユニット レポートの生成」 (P.30-19)
 - 「ライセンス機能割り当ての設定値」 (P.30-20)
 - 「ライセンス機能割り当ての検索」 (P.30-21)
 - 「1 人のユーザに対する機能割り当ての設定」 (P.30-22)
 - 「複数ユーザに対する機能割り当ての設定」 (P.30-23)
- 「ライセンスのトラブルシューティング」 (P.30-24)
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「SIP を実行しているサードパーティ製の電話機用のライセンス」
- 『Replacing a Single Server or Cluster for Cisco Unified Communications Manager』
- 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』
- 『Cisco Unified Real Time Monitoring Tool Administration Guide』
- 『Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions』



CHAPTER 31

ローカル ルート グループ

この章では、ローカル ルート グループに関する次の情報を提供します。

- 「ローカル ルート グループの設定チェックリスト」 (P.31-2)
- 「ローカル ルート グループの概要」 (P.31-4)
- 「ローカル ルート グループでのルーティング」 (P.31-6)
- 「単純なローカル ルーティング」 (P.31-7)
- 「テール エンド ホップ オフ」 (P.31-10)
- 「着信側トランスフォーメーション」 (P.31-12)
- 「ローカル ルート グループのシステム要件」 (P.31-14)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.31-14)
- 「ローカル ルート グループのインストールとアクティブ化」 (P.31-17)
- 「ローカル ルート グループの設定」 (P.31-17)
- 「ローカル ルート グループのサービス パラメータの設定」 (P.31-17)
- 「関連項目」 (P.31-17)

ローカル ルート グループの設定チェックリスト

ローカル ルート グループ機能は、多数のロケーションを使用する集中型の Cisco Unified Communications Manager 構成でのプロビジョニングに関して、複雑さやメンテナンスの労力を軽減するのに役立ちます。ローカル ルート グループ機能の根本的な進歩によって、ゲートウェイへのアクセスに使用されるルート パターンから PSTN ゲートウェイのロケーションを切り離せるようになりました。

ローカル ルート グループ機能には、Cisco Unified Communications Manager の実装にプロビジョニングされるべきルート リストおよびルート パターンの数を削減する機能があります（この実装では、N 個のサイトそれぞれが、その他の N-1 個のリモートサイトのローカル ゲートウェイにアクセスできる必要があります）。このようなシナリオの 1 つの例として、Tail End Hop Off (TEHO; テール エンド ホップ オフ) があります。

表 31-1 に、ローカル ルート グループ機能を設定するタスクの一覧を示します。ローカル ルート グループ機能の詳細については、「ローカル ルート グループの概要」(P.31-4) および「関連項目」(P.31-17) を参照してください。

表 31-1 ローカル ルート グループの設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 この機能のインタラクションと制限事項を確認します。	「インタラクション」(P.31-14) 「制限事項」(P.31-16)
ステップ 2 まだ実行していない場合は、Cisco Unified サービスアビリティで Cisco CallManager サービスをアクティブにします。	『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』
ステップ 3 Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート / ハント (Route/Hunt)] > [ルートリスト (Route List)] メニュー オプションを使用して、標準のローカル ルート グループが含まれているローカル ルート リストをルート リストのメンバとして設定します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルート リストの設定」
ステップ 4 Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [システム (System)] > [デバイスプール (Device Pool)] メニュー オプションを使用して、Cisco Unified Communications Manager 実装におけるデバイス プールに対してローカル ルート グループを設定します。設定する各デバイス プールに対して、そのデバイス プールのローカル ルート グループとして使用するルート グループを指定します。 また、ユーザは各デバイス プールに対して、そのデバイス プールのデバイスの着信側トランスフォーメーション CSS を設定できます。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「デバイス プールの設定」

表 31-1 ローカル ルート グループの設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
<p>ステップ 5 ダイアル プランがグローバル化されておらず、またローカル ルート グループが着信側のトランスフォーメーション パターンを使用する必要がある場合には、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] および [デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)] メニュー オプションを使用して、各ロケーションのゲートウェイおよびトランクを設定します。</p> <p>ローカル ルート グループ機能を設定する各デバイスに対しては、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [着信側トランスフォーメーション CSS(Called Party Transformation CSS)] : CSS を選択して、デバイスの着信側番号のローカライズを許可します。 • [デバイス プールの着信側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Called Party Transformation CSS)] : デバイスが属するデバイス プールによって指定されている着信側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスがオフになっている場合は、デバイスに対して指定されている着信側トランスフォーメーション CSS が使用されます。 	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ゲートウェイの設定」</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「トランクの設定」</p>
<p>ステップ 6 Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [コールルーティング (Call Routing)] > [トランスフォーメーションパターン (Transformation Pattern)] > [着信側トランスフォーメーションパターン (Called Party Transformation Pattern)] メニュー項目を使用して、コールがゲートウェイを介してルーティングされる前に、番号に関する着信側トランスフォーメーションパターンを設定します。</p>	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「着信側トランスフォーメーションパターンの設定」</p>
<p>ステップ 7 標準ローカルルートグループを使用するように設定されたルートリストを使用するため、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ルートパターン (Route Pattern)] メニュー項目を使用して、ルートパターンを設定します。</p>	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルートパターンの設定」</p>
<p>ステップ 8 Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [コールルーティング (Call Routing)] > [ルートプランレポート (Route Plan Report)] メニュー オプションを使用して、実装に関するルートプランレポートを生成および表示します。</p> <p>実行したプロビジョニングがローカル ルート グループの設定に対して正しいかどうかを確認するには、このルートプランレポートをチェックします。</p>	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルートプランレポート」</p>

ローカル ルート グループの概要

ローカル ルート グループ機能は、多数のロケーションを使用する集中型の Cisco Unified Communications Manager 構成でのプロビジョニングに関して、複雑さやメンテナンスの労力を軽減するのに役立ちます。ローカル ルート グループ機能の根本的な進歩によって、ゲートウェイへのアクセスに使用されるルート パターンから PSTN ゲートウェイのロケーションを切り離せるようになりました。

Cisco Unified Communications Manager では、発信側デバイスのローカル ルート グループ用デバイス プールの設定にそれぞれ基づいてプロビジョニングされたルート グループにバインドできる、特別なローカル ルート グループを導入しています。そのため、電話機など、別個のロケーションにある複数のデバイスで、同一のルート リストおよびルート パターンを使用できます。ただし、Cisco Unified Communications Manager は、それ自体のローカル エンドに対して正しいゲートウェイを選択します。



(注)

このマニュアルでは、管理者が Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート / ハント (Route/Hunt)] > [ルートグループ (Route Group)] メニュー オプションを使用して設定するルート グループを指して、**プロビジョニングされたルート グループ**という用語を使用します。

ローカル ルート グループ機能には、Cisco Unified Communications Manager の実装にプロビジョニングされるべきルート リストおよびルート パターンの数を削減する機能があります (この実装では、N 個のサイトそれぞれが、その他の N-1 個のリモートサイトのローカル ゲートウェイにアクセスできる必要があります)。このようなシナリオの 1 つの例として、テール エンド ホップ オフ (TEHO) があります。

単純なローカル ルーティングの場合、プロビジョニングは N 個のルート パターンおよびルート リストから、1 個のルート パターンおよびルート リストへと削減されます。テール エンド ホップ オフ (TEHO) の場合は、ローカル ルート グループによって、 N^2 個のルート パターンおよびルート リストの代わりに、N 個のルート パターンおよびルート リストの設定が可能になります。現在では、より大規模な実装のために N の値が 1000 をはるかに上回る値に達しているため、結果として、スケーラビリティのための非常に大きな削減につながります。

以前は、Cisco Unified Communications Manager はゲートウェイを、複数のパターンの割り当て先デバイスとして扱っていました。ゲートウェイと、Cisco Unified Communications Manager がゲートウェイを関連付けるパターンとの間には、厳密で柔軟性にやや欠けるバインドが存在していました。コールが発信されると、Cisco Unified Communications Manager は状態を、「発信者 X がある番号をダイヤルした。その数字はパターン Y に一致する。パターン Y はルート リスト、ルート グループ、およびゲートウェイ A、B および C に直接関連付けられている」と見なしました。

次の各項では、ローカル ルート グループのプロビジョニングに関して詳細に説明し、その使用例を示します。

- 「ローカル ルート グループ」 (P.31-5)
- 「コール中に、プロビジョニングされたルート グループをローカル ルート グループにバインド」 (P.31-5)
- 「ローカル ルート グループでのルーティング」 (P.31-6)
- 「着信側トランスフォーメーション」 (P.31-12)

追加情報

「関連項目」 (P.31-17) を参照してください。

ローカル ルート グループ

管理者は、新しいルート グループをルート リストに追加すると、選択対象であるすべての使用可能なルート グループを [ルートリストの設定 (Route List Configuration)] ウィンドウで確認できます。このリストには、[標準ローカルルートグループ (Standard Local Route Group)] と名付けられた特別なルート グループが、リストの最初のメンバとして含まれています。このローカル ルート グループは、仮想ローカル ルート グループを示します。

ローカル ルート グループは、プロビジョニングされたルート グループには静的にバインドされません。ローカル ルート グループは [ルートグループの検索と一覧表示 (Find and List Route Groups)] ウィンドウには表示されないため、削除や変更を行うことはできません。ただし、ローカル ルート グループを任意のルート リストに追加することは可能です。この追加が行われると、ローカル ルート グループはプロビジョニングされたルート グループのプレースホルダとして機能します。プロビジョニングされたルート グループはその後、コールの設定時にローカル ルート グループに動的にバインドされます。

ローカル ルート グループをルート リストに追加すると、後でそのローカル ルート グループをリストから削除したり、またはプロビジョニングされた任意のルート グループと同様に、リスト内における検索順序の場所を変更したりできるようになります。

追加情報

「関連項目」(P31-17) を参照してください。

コール中に、プロビジョニングされたルート グループをローカル ルート グループにバインド

プロビジョニングされたルート グループのローカル ルート グループへのバインドをコール設定時まで保留すると、プロビジョニングされた目的のルート グループが、コールを発信しているデバイスに対してローカルなグループになります。このため、ロケーション X にあるデバイスはロケーション X の PSTN のゲートウェイを含むプロビジョニングされたルート グループを使用し、ロケーション Y にあるデバイスはロケーション Y の PSTN のゲートウェイに関する別のプロビジョニングされたグループを使用します。

システムの各デバイスがそのローカル ルート グループを認識するためにプロビジョニングされているということを、確認する必要があります。何千ものデバイスが存在する可能性があるため、各デバイスの設定ウィンドウでこの情報を特定せずにはすむよう、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して、デバイスのデバイス プール内で情報を特定できます。これは、デバイス プールが共通のサイト特有の情報を指定するためです。

[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [ローカルルートグループ (Local Route Group)] フィールドには、使用可能なすべての (プロビジョニングされた) ルート グループを一覧表示するドロップダウンリストボックスがあります。このリストには、特別な標準ローカル ルート グループの名前は表示されません (デバイス プールでは、プロビジョニングされたルート グループだけが設定されるためです)。ただし、このリストには、最初の (デフォルトの) 選択肢を示す <NONE> という特別な名前が表示されます。バインドを必要としない場合は、<NONE> を選択します。

デフォルトの値である <NONE> がデバイス プールに対して選択されている場合、ローカル ルート グループである標準ローカル ルート グループを含むルート リストを使用するコールは常に、標準ローカル ルート グループがリストに存在しないかのようにルーティングされます。

このメカニズムに基づき、特別な標準ローカル ルート グループを含むルート リスト上のデバイスから発信されるコールは、次のように動作します。

1. ルート リストのアルゴリズムによって、未使用のトランクが見つかるまで、含まれているルート グループのリストが指定の順序で検索されます（以前および現在の実装に違いはありません）。
2. 検索によって特別な標準ローカル ルート グループが検出されると、このルート グループは自動的に、発信側デバイスに対してプロビジョニングされているローカル ルート グループの名前に置換されます。ただし、検索結果が次のいずれかである場合は例外です。
 - プロビジョニングされたルート グループが <NONE> を示している場合、標準ローカル ルート グループは完全にスキップされます。
 - 標準ローカル ルート グループがこのようにスキップされることによって検索が終了すると（つまり、標準ローカル ルート グループがルート リスト内の最後または唯一のルート グループとなった場合）、ルーティングは中断し、ユーザはリオーダー音（または同等の通知）を受信します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.31-17) を参照してください。

ローカル ルート グループでのルーティング

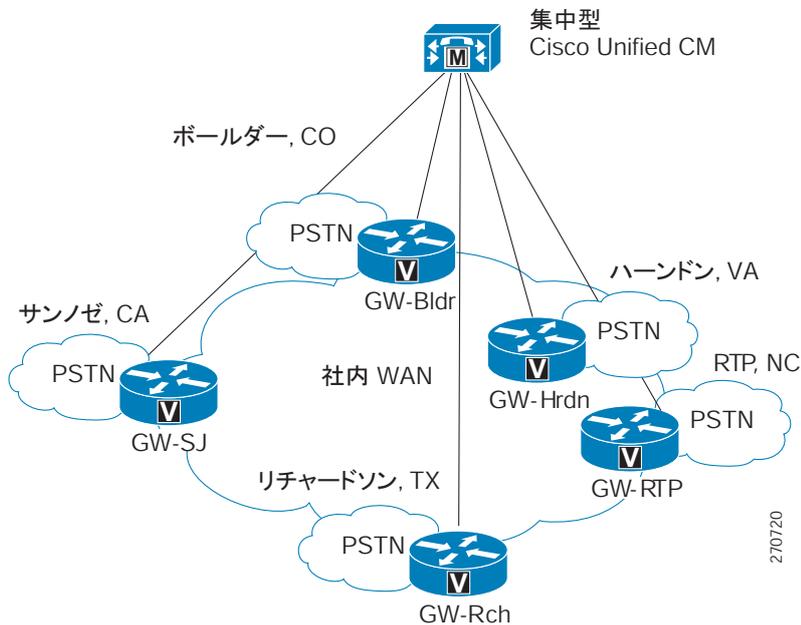
ローカル ルート グループのマッピングによって、Cisco Unified Communications Manager はゲートウェイをサービスのよう扱うことができます。お客様はこのソリューションによって、ルート プランをプロビジョニングおよびメンテナンスするための労力を省けるという利点が得られます。

例

この例では、[図 31-1](#) に示すように、5 つの管理対象サイトを持つ集中型コール モデルを想定しています。以降の項では、このコール モデルを使用して、ローカル ルート グループ機能に関する次の 2 種類の現象を示します。

- 各サイトがオフネット コールをローカル ゲートウェイにルーティングする必要がある、単純なローカル ルーティングのケース。
- より複雑なテールエンド ホップ オフ (TEHO) のケース。

図 31-1 集中型モデルでのローカル オフネット アクセスの管理



ローカル ルート グループ機能を使用する Cisco Unified Communications Manager の構成では、目的の接続先に必ず到達するように、着信側トランスフォーメーションによってコールされた番号を正規化する必要があります。

追加情報

「関連項目」(P.31-17) を参照してください。

単純なローカル ルーティング

単純なローカル ルーティングは、各サイトがそのローカル ゲートウェイにオフネット コールをルーティングすることが必要なケースに対応します。ルート パターンおよびルート リストのプロビジョニングについては、N 個のルート パターンおよびルート リストを設定する手間を、1 個のルート パターンおよびルート リストだけの設定に減らすことができます。

このケースではさらに、ある特定のサイトをホームとしている電話機すべてが、そのサイトに固有の単一の Calling Search Space (CSS; コーリング サーチ スペース) に属していると仮定します。たとえば、ボールドラー サイトにある電話機は、CSS-Bldr コーリング サーチ スペースに属しています。その他のサイトも同様にそれぞれ CSS に属しています。図 31-2 は、ローカル ルート グループ機能を使用しない状態で、このシステムで発生し得るプロビジョニングを示しています。つまり、9 をダイヤルし、続けて 7 桁、10 桁、または 11 桁のパターンをダイヤルしてオフネット コールを発信する場合には、電話機はサイトに関係なく、常にそのローカル ゲートウェイを優先します。さらに多くのサイトが追加されると、それぞれの行は新しいエントリ (行) を含める必要があります。N 個のサイトが存在する場合は、N 個のルート リスト、ルート パターン、パーティション、およびコーリング サーチ スペースが必要となります。

ローカル ルート グループの概要

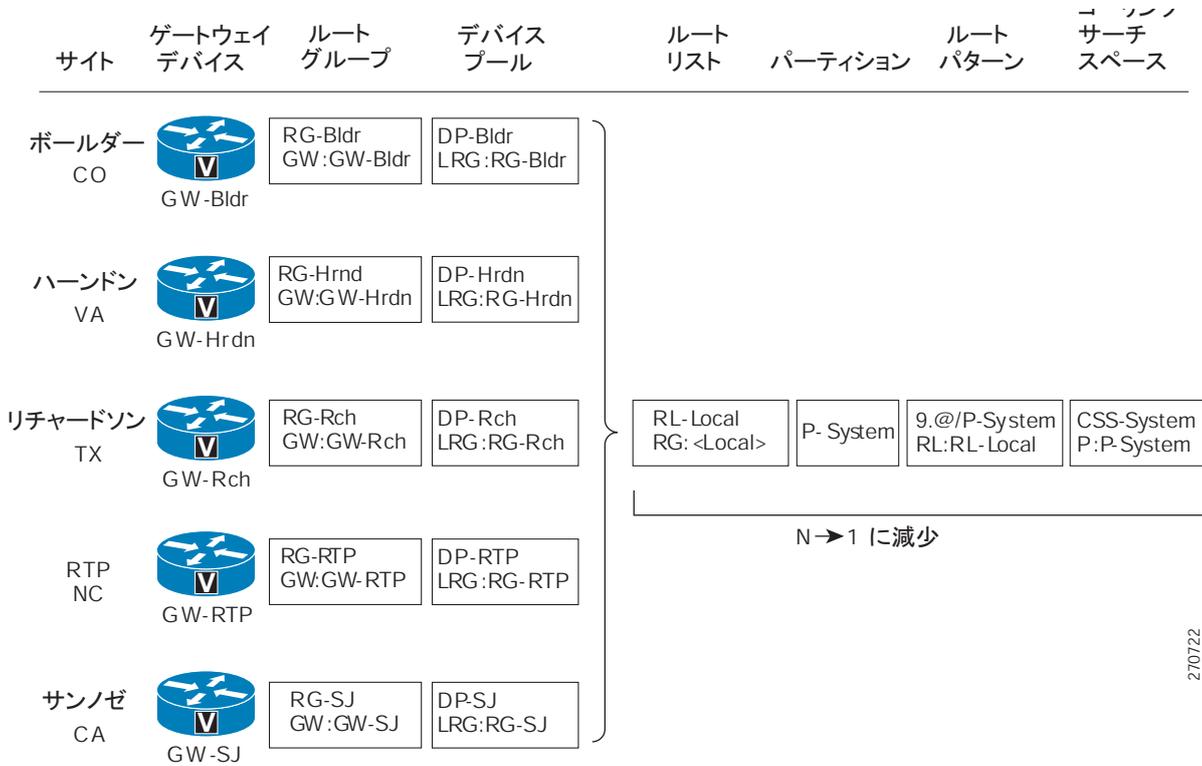
図 31-2 ローカル ルート グループを使用しないローカル オフネット アクセスのプロビジョニング

サイト	ゲートウェイ デバイス	ルート グループ	デバイス プール	ルート リスト	パーティション	ルート パターン	コーリング サーチ スペース
ポールダー CO	 GW-Bldr	RG-Bldr GW:GW-Bldr	DP-Bldr	RL-Bldr RG:RG-Bldr	P-Bldr	9./P-Bldr RL:RL-Bldr	CSS-Bldr P:P-Bldr
ハードン VA	 GW-Hrdn	RG-Hrdn GW:GW-Hrdn	DP-Hrdn	RL-Hrdn RG:RG-Hrdn	P-Hrdn	9./P-Hrdn RL:RL-Hrdn	CSS-Hrdn P:P-Hrdn
リチャードソン TX	 GW-Rch	RG-Rch GW:GW-Rch	DP-Rch	RL-Rch RG:RG-Rch	P-Rch	9./P-Rch RL:RL-Rch	CSS-Rch P:P-Rch
RTP NC	 GW-RTP	RG-RTP GW:GW-RTP	DP-RTP	RL-RTP RG:RG-RTP	P-RTP	9./P-RTP RL:RL-RTP	CSS-RTP P:P-RTP
サンノゼ CA	 GW-SJ	RG-SJ GW:GW-SJ	DP-SJ	RL-SJ RG:RG-SJ	P-SJ	9./P-SJ RL:RL-SJ	CSS-SJ P:P-SJ

270721

同じ実装でローカル ルート グループ機能を使用すると、サイトの数に関係なく、単一のルート リスト、パーティション、ルート パターン、および CSS を設定できるようになります。
 図 31-3 を参照してください。

図 31-3 ローカル ルート グループを使用するローカル オフネット アクセスのプロビジョニング



この場合、次の設定が適用されます。

- すべての電話機が、単一の CSS-System コーリング サーチ スペース、および単一の P-System パーティションに属する。
- 所定のサイトのすべての電話機が、そのサイトに固有である 1 つのデバイス プールに属する。
- 各デバイス プールの [ローカルルートグループ (Local Route Group)] フィールドが、そのサイトの特定のルート グループを識別する。この例では、ボールドーは RG-Bldr、リチャードソンは RG-Rch となる。

このため、このケースでのルート リスト、ルート パターン、パーティション、およびコーディング サーチ スペースは、それぞれ N 個から 1 個に減少します。ゲートウェイ、ルート グループ、およびデバイス プールの数は、N 個のサイトに対して N 個のままです。

すべてのサイトから 9.@ パターンにアクセスするため、新しいパーティション P_System、および新しいコーディング サーチ スペース CSS_System が追加されます。コーディング サーチ スペース CSS_Boulder は、他のサイトの CSS と同様に、P_Boulder および P_System も含めることができます。

追加情報

「関連項目」(P.31-17) を参照してください。

テール エンド ホップ オフ

テール エンド ホップ オフ (TEHO) とは、VoIP ネットワークを越えて長距離電話をルーティングし、それらのコールをリモートのゲートウェイで市内電話として公衆電話交換網 (PSTN) にドロップすることを指します。TEHO を使用する場合、 N^2 個のエンティティを設定する代わりに N 個のエンティティを設定するだけでよく、設定上の複雑さを軽減できます。TEHO に関しては、次の状態を前提としています。

- 各サイトには、他の $N-1$ 個の各サイトに対する個別のルート パターン、およびルート リストが存在する。
- 所定のサイト S に関して、別の (リモート) サイトに対する $N-1$ 個の各ルート リストは、その別サイトにとってローカルな 1 つまたは複数のゲートウェイのルート グループを第 1 優先として持ち、次に、 S にとってローカルなルート グループを第 2 優先として持つ。したがって、十分なランキング リソースが使用可能で、第 1 優先となり得る場合、長距離電話はリモート サイトでゲートウェイを使用してオフネットとなるため、通話料金の課金対象になりません。十分なランキング リソースが使用可能でない場合、コールはデフォルトのローカル ゲートウェイに戻り、通話料金の課金対象となります。

この場合もやはり、Cisco Unified Communications Manager は、すべてのサイトに対して同じルーティング ポリシーを持ちます。第 2 優先項目として、サイトのローカル PSTN でコールをルーティングすると (システムがリモートの PSTN でコールを市内電話としてドロップしなかった場合)、お客様はサイトごとにすべてのルーティング情報に関する別個のインスタンスをプロビジョニングするように強制されます。図 31-4 を参照してください (この図では、一部のサイトの構成を示しています)。各サイトには、他の $N-1$ 個の各サイトに対するルート パターンおよびルート リストの固有のセット、およびリモートのアクセス コードがカバーしていないその他すべてのコールに関する汎用のローカル ルート リストがあります。この要件は、一般的なケースに関する $N*(N-1)+N$ 個、つまり N^2 個のルート リストおよびルート パターンを必要とします。

図 31-4 ローカル ルート グループを使用しない TEHO のプロビジョニング

サイト	パーティション	コーリング サーチ スペース	ルートパターン	ルートリスト
ポールダー CO	P-Bldr	CSS-Bldr P: P-Bldr	9.1.703.XXX.XXXX/ P-Bldr RL: RL-Bldr-Hrdn	RL-Bldr-Hrdn RG: RG-Hrdn RG-Bldr
			9.1.972.XXX.XXXX/ P-Bldr RL: RL-Bldr-Rch	RL-Bldr-Rch RG: RG-Rch RG-Bldr
			9.1.919.XXX.XXXX/ P-Bldr RL: RL-Bldr-RTP	RL-Bldr-RTP RG: RG-RTP RG-Bldr
			9.1.408.XXX.XXXX/ P-Bldr RL: RL-Bldr-SJ	RL-Bldr-SJ RG: RG-SJ RG-Bldr
			9.@/P-Bldr RL-Bldr-Local	RL-Bldr-Local RG: RG-Bldr
ハートン VA	P-Hrdn	CSS-Hrdn P: P-Hrdn	9.1.303.XXX.XXXX/ P-Hrdn RL: RL-Hrdn-Bldr	RL-Hrdn-Bldr RG: RG-Bldr RG-Hrdn
			9.1.972.XXX.XXXX/ P-Hrdn RL: RL-Hrdn-Rch	RL-Hrdn-Rch RG: RG-Rch RG-Hrdn
			9.1.919.XXX.XXXX/ P-Hrdn RL: RL-Hrdn-RTP	RL-Hrdn-RTP RG: RG-RTP RG-Hrdn
			9.1.408.XXX.XXXX/ P-Hrdn RL: RL-Hrdn-SJ	RL-Hrdn-SJ RG: RG-SJ RG-Hrdn
			9.@/P-Hrdn RL-Hrdn-Local	RL-Hrdn-Local RG: RG-Hrdn
リチャードソン TX	P-Rch	CSS-Rch P: P-Rch	9.1.303.XXX.XXXX/ P-Rch RL: RL-Rch-Bldr	RL-Rch-Bldr RG: RG-Bldr RG-Rch
			9.1.703.XXX.XXXX/ P-Rch RL: RL-Rch-Hrdn	RL-Rch-Hrdn RG: RG-Hrdn RG-Rch
			9.1.919.XXX.XXXX/ P-Rch RL: RL-Rch-RTP	RL-Rch-RTP RG: RG-RTP RG-Rch
			9.1.408.XXX.XXXX/ P-Rch RL: RL-Rch-SJ	RL-Rch-SJ RG: RG-SJ RG-Rch
			9.@/P-Rch RL-Rch-Local	RL-Rch-Local RG: RG-Rch

270723

ローカル ルート グループ機能を使用する場合、リモート サイトに必要な $N*(N-1)$ 個のルートパターンおよびルートリストは N 個に減少し、 N 個のローカル ルート パターンおよびローカル ルート リストは 1 個に減少します。全体的には図 31-5 のように、ルート リストおよびルートパターンの合計数は N^2 から $N+1$ に減少し、コーリング サーチ スペースおよびパーティションは N 個から 1 個に減少します。

図 31-5 ローカルルートグループを使用する TEHO のプロビジョニング

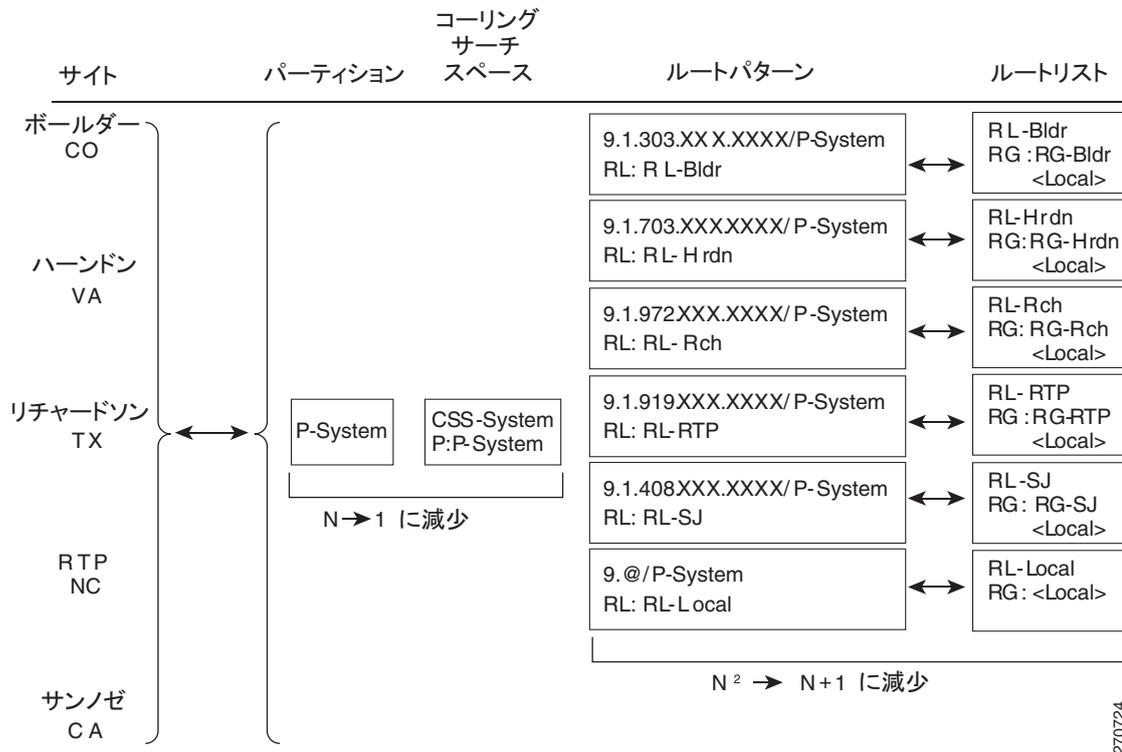


図 31-5 では、重要なエレメントが、各ルートリストの 2 番目の選択肢として標準ローカルルートグループを使用していることに注目してください。発信側デバイスのデバイスプールの設定によって、特定のコール中に使用される、実際のプロビジョニングされたルートグループが動的に決定されます。

追加情報

「関連項目」(P.31-17) を参照してください。

着信側トランスフォーメーション

エンタープライズ番号とルートグループおよびゲートウェイとの間で疎結合が発生している最中には、ルートグループおよびゲートウェイと PSTN が予想するパターンとの間に極度の密結合が発生します。選択されたゲートウェイが 7 桁のダイヤリングロケーションに存在する場合は、PSTN は 7 桁を予想します。選択されたゲートウェイが 10 桁のロケーションに存在する場合は、PSTN は 10 桁を予想して市内番号にアクセスします。

例 1

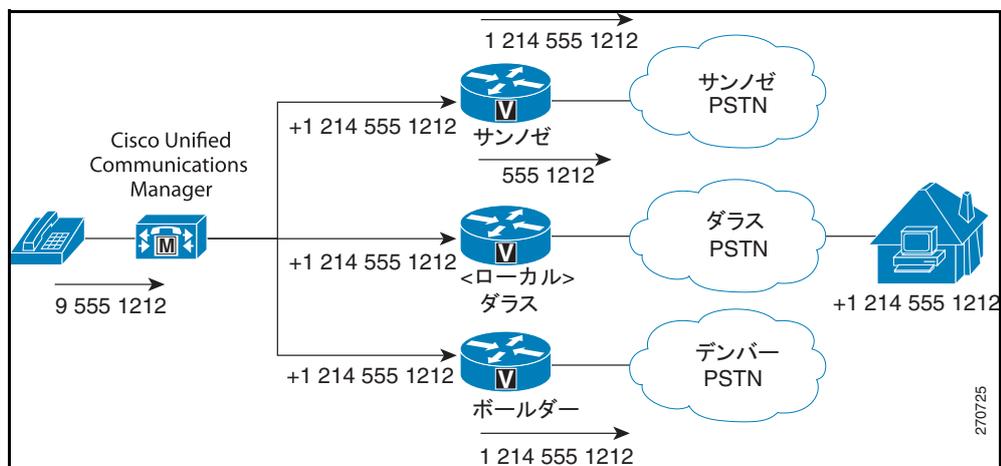
コールがダラスから発信された場合、その着信番号は 9.5551212 を示します。ダラスのローカルゲートウェイがビジネスマルチアクセス不能である場合は、サンノゼのゲートウェイが選択されることを想定して、9.5551212 を、サンノゼのゲートウェイがダイヤルアウトする 1 214 555 1212 に変換する必要があります。

ローカルルートグループのケースに関する同じ例では、コールがダラスから発信されます。着信番号は 9.5551212 を示しているため、システムは次のアクションを実行します。

1. 発信者がダイヤルしたとおりの番号を使用して、PreDot を破棄し、プレフィックス +1 214 を挿入します。
2. コールの番号を、グローバルに一意である E.164 スtring (+1 214 555 1212) に変換します。サンノゼのゲートウェイが選択された場合、システムはグローバル スtring である +1 214 555 1212 を 1 214 555 1212 に変換します。ダラスのゲートウェイが選択された場合、システムはグローバル スtring を 214 555 1212 に変換します。

この例の図については、[図 31-6](#) を参照してください。

図 31-6 コールされた番号の変換



例 2

コールが RTP から発信された場合、その着信番号は 5551212 を示します。RTP のローカルゲートウェイがビジーまたはアクセス不能である場合は、サンノゼのゲートウェイが選択されることを想定して、5551212 を、サンノゼのゲートウェイがダイヤルアウトする 1 919 555 1212 に変換する必要があります。

ローカルルートグループのケースに関する同じ例では、コールが RTP から発信されます。着信番号は 9.5551212 を示しているため、システムは次のアクションを実行します。

1. ダイヤルしたとおりの番号を使用して、PreDot を破棄し、プレフィックス 91919 を挿入します。
2. 着信番号を、グローバルなダイヤリング スtring (9 1 919 555 1212) に変換します。サンノゼのゲートウェイが選択された場合、システムはグローバル スtring である 91 919 555 1212 を 1 919 555 1212 に変換します。RTP ゲートウェイが選択された場合、システムはグローバル スtring を 555 1212 に変換します。

追加情報

着信側トランスフォーメーションの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ルートプランの概要」にある「着信側番号トランスフォーメーション設定値」の項を参照してください。

国際エスケープ文字+の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ルートプランの概要」にある「国際エスケープ文字+の使用」の項を参照してください。

また、「関連項目」(P.31-17) も参照してください。

ローカル ルート グループのシステム要件

ローカル ルート グループ機能には、次のシステム要件があります。

- Cisco Unified Communications Manager 7.0(1) 以降

追加情報

「関連項目」(P.31-17) を参照してください。

インタラクションおよび制限事項

次の項では、ローカル ルート グループにおけるインタラクションおよび制限事項について説明します。

- 「インタラクション」(P.31-14)
- 「制限事項」(P.31-16)

追加情報

「関連項目」(P.31-17) を参照してください。

インタラクション

次の各項では、ローカル ルート グループが Cisco Unified Communications Manager の他の機能およびアプリケーションとどのように通信するかについて説明します。

- 「サポートされるデバイス」(P.31-14)
- 「自動転送」(P.31-15)
- 「その他の補足サービス」(P.31-15)
- 「ルート プラン レポート」(P.31-16)
- 「Cisco Unified Mobility」(P.31-16)

追加情報

「関連項目」(P.31-17) を参照してください。

サポートされるデバイス

コールを発信することが可能な Cisco Unified Communications Manager のデバイス タイプはすべて、ローカル ルート グループ機能をサポートします。これには次のデバイスが含まれます。

- Skinny デバイス
- H.323 デバイス
- SIP デバイス
- MGCP デバイス (すべての PRI バリエーション、BRI、および MGCP 電話機を含む)
- CTI デバイス

自動転送

自動転送されたコールに関しては、Cisco Unified Communications Manager は、プロビジョニングされているローカル ルート グループを検索するために、転送先に関連付けられたデバイス プールの設定においてプロビジョニングされているローカル ルート グループを使用します。したがって、電話機 A が（ローカルの）電話機 B にコールし、電話機 B がそのコールを（リモートの）電話機 C に転送する場合、電話機 B ではなく、電話機 A のデバイス プールのローカル ルート グループ値が使用されます。

その他の補足サービス

多くの補足サービスは、コールを発信できます。このように発信されたコールでは、ローカル ルート グループはスキップされます。

コールを発信できるのは、次の機能です。

- 折返し
- MWI
- モビリティ（フォローミー）
- パス置換

標準ローカル ルート グループがスキップされることによって検索が終了すると（つまり、標準ローカル ルート グループがルート リスト内の最後または唯一のルート グループとなった場合）、ルーティングは中断します。

コールを転送できるのは、次の機能です。

- 割り込み
- 折返し
- コール パーク
- 会議
- ダイレクト コール パーク
- 自動転送
- 即時転送
- ミートミー会議
- コール ピックアップ

「[自動転送](#)」(P31-15) で説明したとおり、Cisco Unified Communications Manager は、プロビジョニングされているローカル ルート グループを検索するために、転送先に関連付けられたデバイス プールの設定においてプロビジョニングされているローカル ルート グループを使用します。

ルート プラン レポート

ルート プラン レポートには、ルート リスト、関連するルート グループ、およびトランクやゲートウェイなどのルートに関する詳細が示されます。特別な標準ローカル ルート グループも示されます。次はその一例です。

ローカル ルート グループを使用しないルート パターンに対するルート プラン レポートの表示例

BoulderRouteList

```
|_ BoulderRG
    |_ BoulderGW1
    |_ BoulderGW2
```

ローカル ルート グループを使用するルート プラン レポートの表示例

SystemRouteList

```
|_ 標準ローカル ルート グループ
```

Cisco Unified Mobility

リモート接続先に対するシングル ナンバー リーチ コールでは、発信側のデバイス プールによって標準ローカル ルート グループの選択が決まります。

制限事項

ローカル ルート グループを設定する前に、次の制限事項を確認してください。

- 「[混合されたルート リスト](#)」 (P.31-16)

混合されたルート リスト

SIP ルート グループ、および Q.SIG ルート グループを、同時に 1 つのルート リストに挿入することはできません。ローカル ルート グループ機能を使用する場合、混合されたルート リストの規則はプロビジョニング中には実施されません。これは、コールの設定中に、標準ローカル ルート グループと、プロビジョニングされたルート グループとの間にバインドが動的に発生するためです。このため、一部の Q.SIG 関連機能が利用できなくなる場合があります。標準ローカル ルート グループから Q.SIG ルート グループへのバインドは避けてください。

追加情報

「[関連項目](#)」 (P.31-17) を参照してください。

ローカル ルート グループのインストールとアクティブ化

Cisco Unified Communications Manager リリース 7.0(1) 以降をインストールすると、ローカル ルート グループを設定できるようになります。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.31-17) を参照してください。

ローカル ルート グループの設定

この項は、次の内容で構成されています。

- 「[ローカル ルート グループのサービス パラメータの設定](#)」(P.31-17)



ヒント

ローカル ルート グループを設定する前に、「[ローカル ルート グループの設定チェックリスト](#)」(P.31-2) を確認してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.31-17) を参照してください。

ローカル ルート グループのサービス パラメータの設定

ローカル ルート グループ機能は、追加のサービス パラメータの設定を必要としません。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.31-17) を参照してください。

関連項目

- 「[ローカル ルート グループの設定チェックリスト](#)」(P.31-2)
- 「[ローカル ルート グループの概要](#)」(P.31-4)
- 「[ローカル ルート グループ](#)」(P.31-5)
- 「[コール中に、プロビジョニングされたルート グループをローカル ルート グループにバインド](#)」(P.31-5)
- 「[ローカル ルート グループでのルーティング](#)」(P.31-6)
- 「[着信側トランスフォーメーション](#)」(P.31-12)
- 「[ローカル ルート グループのシステム要件](#)」(P.31-14)
- 「[インタラクションおよび制限事項](#)」(P.31-14)
- 「[ローカル ルート グループのインストールとアクティブ化](#)」(P.31-17)
- 「[ローカル ルート グループの設定](#)」(P.31-17)
- 「[ローカル ルート グループのサービス パラメータの設定](#)」(P.31-17)

- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルートリストの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「デバイスプールの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ゲートウェイの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「トランクの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「着信側トランスフォーメーションパターンの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「発呼側トランスフォーメーションパターンの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルートパターンの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルートプラン レポート」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルートグループの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「コーリングサーチスペースの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「パーティションの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「Cisco Unified Communications Manager 音声ゲートウェイの概要」
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「ルートプランの概要」
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「パーティションおよびコーリングサーチスペース」
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「システムレベルの設定」



CHAPTER 32

論理パーティション

論理パーティション機能により、テレフォニー システムで許可または拒否の設定に基づいてコールおよび機能を制御できます。一般的なテレフォニー システムでは、Voice over Internet Protocol (VoIP) および Public Switched Telephone Networks (PSTN; 公衆電話交換網) へのアクセスを提供して、設定によりアクセスを制御できます。

この章は、次の内容で構成されています。

- 「論理パーティションの設定チェックリスト」 (P.32-2)
- 「論理パーティションの概要」 (P.32-4)
- 「論理パーティション アーキテクチャの概要」 (P.32-8)
- 「論理パーティション用のエンタープライズ パラメータ」 (P.32-11)
- 「論理パーティションのシステム要件」 (P.32-23)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.32-24)
- 「論理パーティションの設定」 (P.32-41)
- 「以前のリリースからのアップグレード時の論理パーティション設定」 (P.32-50)
- 「論理パーティションのトラブルシューティング」 (P.32-50)
- 「関連項目」 (P.32-50)

論理パーティションの設定チェックリスト

論理パーティションを使用すると、Cisco Unified Communications Manager システムを次のように設定できます。異なる位置情報間でコールが発生したときに VoIP リソースと PSTN リソースを混在させることができるよう 1 回線、複数回線、アナログの各電話機を設定して、コールの制限を回避できます。電話機には、位置情報 ([電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウ) と、位置情報フィルタ ([デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウ) だけを設定できます。

表 32-1 は、論理パーティションを設定するためのチェックリストです。論理パーティションの詳細については、「[関連項目](#)」(P.32-50) を参照してください。

表 32-1 論理パーティションの設定チェックリスト

設定手順		手順と関連項目
ステップ 1	Enable Logical Partitioning エンタープライズパラメータの値を [True] に設定して、論理パーティションを有効にします。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 エンタープライズパラメータの設定 」 「 論理パーティション用のエンタープライズパラメータ 」(P.32-11)
ステップ 2	新しい [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] ウィンドウで一連の位置情報を定義します。	「 位置情報の設定 」(P.24-10)
ステップ 3	デバイスプール、デバイス、トランク、ゲートウェイ、または MGCP ポートに位置情報を割り当てます。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 デバイスプールの設定値 」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 ゲートウェイの設定値 」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 電話機の MAC アドレスの表示 」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 トランクの設定値 」
ステップ 4	Default Geolocation エンタープライズパラメータで指定されたデフォルト位置情報に位置情報を割り当てます。	「 位置情報の設定 」(P.24-10) 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 エンタープライズパラメータの設定 」 「 論理パーティション用のエンタープライズパラメータ 」(P.32-11)

表 32-1 論理パーティションの設定チェックリスト (続き)

設定手順		手順と関連項目
ステップ 5	<p>論理パーティションのデフォルト ポリシーを定義します。関連する位置情報ポリシー レコードの [論理パーティションポリシーの設定 (Logical Partitioning Policy Configuration)] ウィンドウで、ポリシーの許可 / 拒否が明示的に設定されていない場合は、このポリシーに従って、有効な位置情報および位置情報フィルタに関連付けられているデバイス間で PSTN コールを許可するか、拒否するかが決定されます。</p> <p>[エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ウィンドウを使用して、Logical Partitioning Default Policy エンタープライズパラメータの値を設定します。</p>	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンタープライズパラメータの設定」</p> <p>「論理パーティション用のエンタープライズパラメータ」 (P.32-11)</p>
ステップ 6	<p>論理パーティションポリシー チェックに参加していないデバイスについては、位置情報を未指定として定義するか、または未定義のままにしておきます。</p> <p>(注) 位置情報または位置情報フィルタに関連付けられていないデバイスは、論理パーティションポリシー チェックに参加しません。この関連付けないという設定は、個々のデバイス レベル、デバイスプール レベル、またはエンタープライズパラメータ レベルで定義できます。</p>	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「デバイスプールの設定値」</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ゲートウェイの設定値」</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話機の MAC アドレスの表示」</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「トランクの設定値」</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンタープライズパラメータの設定」</p> <p>「論理パーティション用のエンタープライズパラメータ」 (P.32-11)</p>
ステップ 7	<p>新しい [位置情報フィルタの設定 (Geo Location Filter Configuration)] ウィンドウで一連のフィルタ規則を定義します。</p>	<p>「位置情報フィルタの設定」 (P.24-18)</p>
ステップ 8	<p>デバイスプール、トランク、クラスタ間トランク、ゲートウェイ、または MGCP ポートに位置情報フィルタを割り当てます。</p>	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「デバイスプールの設定値」</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ゲートウェイの設定値」</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「トランクの設定値」</p>

表 32-1 論理パーティションの設定チェックリスト (続き)

設定手順	手順と関連項目
ステップ 9 Logical Partitioning Default Filter エンタープライズ パラメータに指定されているデフォルトのフィルタに位置情報フィルタを割り当てます。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンタープライズ パラメータの設定」 「論理パーティション用のエンタープライズ パラメータ」(P.32-11)
ステップ 10 新しい [論理パーティションポリシーの設定 (Logical Partitioning Policy Configuration)] ウィンドウで一連の論理パーティション ポリシー レコードを定義します。	「論理パーティションポリシーの設定」(P.32-42)
ステップ 11 位置情報ポリシー レコード デバイス タイプ ペア間で一連のポリシーを定義します。 <pre>{{Geolocation Policy1, devType1}, {Geolocation Policy2, devType2}, policyValue}</pre>	「論理パーティションポリシーの設定」(P.32-42)
ステップ 12 異なるクラスタのデバイスを論理パーティション ポリシー チェックに参加させるには、次のようにロケーション伝達をオンにします。 <ul style="list-style-type: none"> ローカル クラスタの Intercluster Trunk (ICT; クラスタ間トランク) または SIP トランクで [位置情報の送信 (Send Geolocation Information)] チェックボックスをオンにします。 リモート クラスタの ICT または SIP トランクで [位置情報の送信 (Send Geolocation Information)] チェックボックスをオンにします。 	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「トランクの設定値」 「ロケーション伝達の設定チェックリスト」(P.24-4)

論理パーティションの概要

論理パーティションでは、Cisco Unified Communications Manager で提供するコール制御機能を指定します。これにより、VoIP エンティティの次のペア間の通信を制御できます。

1. VoIP 電話機と VoIP ゲートウェイ
2. VoIP ゲートウェイと別の VoIP ゲートウェイ
3. クラスタ間トランクと VoIP 電話機
4. クラスタ間トランクと VoIP ゲートウェイ

Cisco Unified Communications Manager の設定に関するオプションがあるため、このような各種 VoIP デバイスが相互に通信できるようにしたり、デバイスを 1 つのデバイスまたは 1 つのデバイス グループに制限したりできます。エンドポイントには、論理パーティション ポリシー ロジックは存在しません。

基本コールの確立時だけでなく、コール中機能の動作時にも、このような通信を制御するには、論理パーティションが必要になります。

Cisco Unified Communications Manager 基本ルーティング ポリシーは、コーリング サーチ スペースおよびパーティションで構成されています。禁止されている基本コールが確立されないようにするにはこのポリシーだけで十分ですが、禁止されているコールがコール中機能によって確立されないようにするには十分とは言えません。Cisco Unified Communications Manager では、このようなコール中機能は、参加やリダイレクトに影響を与えるために内部で使用されることが多いことから、一般に参加機能やリダイレクト機能と呼ばれます。

論理パーティションは、このようなコール中シナリオを処理するように Cisco Unified Communications Manager を拡張します。論理パーティションの設定は補足機能とは独立しています。補足機能の場合は、補足機能に参加またはリダイレクトされるデバイスに基づいてポリシーチェックが実行されます。



(注)

論理パーティションポリシーチェックは、コール処理中、番号分析 / コーリングサーチスペース / パーティションロジックより後に実行されます。

論理パーティションソリューションは、次の要素で構成されています。

- 識別子：デバイスごとに一意の識別子を関連付けるためのフレームワーク。
- ポリシー：管理者は、Cisco Unified Communications Manager システムの 2 つのデバイス (VoIP 電話機およびゲートウェイ) 間の相互接続を決定する規則またはポリシーを定義できます。設定したポリシーは、デバイス ペア間で双方向に機能します。
- ポリシーチェック：コール処理だけでなく、転送、ピックアップ、アドホック会議などの機能が、定義されたポリシーをチェックし、その内容に従って参加者間のコールまたは機能を許可します。

識別子

識別子は、Cisco Unified Communications Manager 論理パーティションソリューション内のデバイス (要素) ごとにデバイスタイプを表します。デバイスタイプにより、すべての要素が内部とボーダーの 2 つのタイプに分類されます。表 32-2 に、各デバイスタイプに関連付けられている Cisco Unified Communications Manager デバイスを示します。

表 32-2 デバイスタイプおよび関連付けられた Cisco Unified Communications Manager デバイス

デバイスタイプ	Cisco Unified Communications Manager デバイス
ボーダー	ゲートウェイ (たとえば、H.323 ゲートウェイ) クラスタ間トランク (ICT)。ゲートキーパーによる制御とゲートキーパー以外による制御の両方 H.225 トランク SIP トランク MGCP ポート (E1、T1、PRI、BRI、FXO)
内部	電話機 (SCCP、SIP、サードパーティ) CTI ルート ポイント VG224 アナログ電話機 MGCP ポート (FXS) Cisco Unity ボイスメール (SCCP)



(注)

Cisco Unified Communications Manager 要素の分類は編集できません。ボーダーおよび内部だけを指定できます。特定のデバイスを分類するには、表 32-2 に示すスキームに従う必要があります。たとえば、SIP トランクはボーダー要素にだけ分類できます。

詳細については、「位置情報識別子」(P.24-9) を参照してください。位置情報識別子の例については、「位置情報の例」(P.24-8) を参照してください。

許可ポリシーおよび拒否ポリシー

VoIP ネットワーク トポロジのシステム要件に基づいて、論理パーティションに次のデフォルトシステム ポリシーを提供するように Cisco Unified Communications Manager を設定できます。

- 拒否：(前に挙げた) タイプ 1～4 の VoIP デバイス参加者間でコールまたは機能がブロックされます。

VoIP 通信を許可するには、論理パーティション設定によって許可ポリシーを設定します。

- 許可：(前に挙げた) タイプ 1～4 の VoIP デバイス参加者間でコールまたは機能が許可されます。

VoIP 通信を拒否するには、論理パーティション設定によって拒否ポリシーを設定します。

追加情報

「関連項目」(P.32-50) を参照してください。

インド通信規制の適用

Telecom Regulatory Authority of India (TRAI) の規制では、エンタープライズ データ ネットワークおよび公衆電話交換網 (PSTN) 経由の音声トラフィックを厳密に区別し、トールバイパス目的でこの 2 つのネットワーク間のコールを混在させてはならないと規定されています。

次に、制限される (つまり、許可されない) 基本シナリオを示します。

- PSTN ゲートウェイをパススルーするコールが、WAN を使用して、地理的に異なる場所にある VoIP 電話機または VoIP PSTN ゲートウェイに直接接続されます。
 - インドに PSTN ゲートウェイが存在する場合でも、このシナリオは厳しく制限されます。PSTN はインド以外の国、VoIP 電話機はインドにあって、接続した結果インドの通信サービス プロバイダーの収益が低下する場合、この接続は制限の対象となります。

次に、許可される基本シナリオを示します。

- 地理的に異なる場所にある 2 つの VoIP 電話機を直接結ぶコール
- 地理的に同じ場所にある VoIP 電話機から PSTN ゲートウェイへのコール

PSTN ゲートウェイをパススルーするコールが、IP テレフォニーを使用して、異なるサイトまたは地理的場所 (位置情報) にある VoIP 電話機または VoIP PSTN ゲートウェイに直接接続しないようにする必要があります。

配置要件

TRAI 規制を順守し、トールバイパスを回避しつつ、推奨される設定ガイドラインに従って、1 回線電話機が VoIP (Closed User Group [CUG; 非公開ユーザ グループ]) または PSTN ネットワークの外部に達することができるようにする必要があります。



(注)

トールバイパスを回避するには、論理パーティションを有効にします。

利用可能な Cisco Unified Communications Manager サポート

Cisco Unified Communications Manager では、論理パーティション機能の実装に先立って、次のサポートが提供されます。

- 複数の電話機が、同じ回線を使用して、VoIP ネットワークまたは PSTN ネットワークに達することができます。
- 既存の Calling Search Space (CSS; コーリングサーチスペース) およびパーティションのメカニズムにより、基本コール専用ネットワークをパーティション化できます。

1 回線の制限

論理パーティション機能の設定なしで（または設定前に）1 回線を使用するときには、次の制限があります。

- コール中の参加：転送などの補足機能の呼び出し時に、WAN 上の VoIP ネットワークに接続するコールと PSTN ネットワークに確立される別のコールがともに参加することがあります。
- リダイレクト：自動転送などの補足機能の呼び出し時に、WAN 上の VoIP ネットワークを流れるコールが PSTN ネットワークにリダイレクトされることがあります。

論理パーティション機能が有効になっていないと、制限の対象となるシナリオを呼び出さないように補足機能を設定することができません。

論理パーティションを使用する前の既存の配置

インドなどの国では、電話機の分割回線を使用して、VoIP (CUG) ネットワークと PSTN ネットワークを分けています。この実装はこれまで、低コストのアナログ電話機と 1 回線の VoIP 電話機を使用できないようになっていました。

2 回線の電話機を使用する配置の場合、Join Across Lines (JAL; 回線をまたいで参加) や Direct Transfer Across Line (DTAL; 回線をまたいで直接転送) などの補足機能呼び出すと、TRAI 規制で制限されるシナリオとなることがあります。このような配置を TRAI 規制に準拠させるには、論理パーティション機能が必要です。

追加情報

「関連項目」(P.32-50) を参照してください。

これまでの経緯

従来、インドの規制では、VoIP システムを PSTN 相互接続システムとは物理的に分けるよう規定されていました。ユーザは、局間電話コール専用 VoIP システムで電話を使用していましたが、PSTN と相互に通信する必要があるコールは PSTN システムを使用して確立する必要がありました。2008 年時点の TRAI 規制では、単一のシステムで両タイプのコールをサポートすることが許可されています。ただし、禁止されているコールは完了しないようにシステムを設定できる場合だけです。Cisco Unified Communications Manager システムでは、論理パーティションという用語がこの機能を指しています。

リリース 7.1(x) よりも前の Cisco Unified Communications Manager リリースを使用してインドでエンタープライズ VoIP を実装する場合は、VoIP 接続と PSTN 接続のいずれにも同じ Cisco Unified IP Phone を使用します。Cisco Unified Communications Manager では、参加者が VoIP ドメインまたは PSTN ドメインに存在する 1 回線から補足機能呼び出すときには、VoIP トラフィックと PSTN トラフィックの混在を制御するための特定の設定はサポートされていません。規制に準拠するために、これまでインドに VoIP を実装する場合は、PSTN コールおよび VoIP コールに VoIP 電話機の分割回線を使用していました。

Cisco Unified Communications Manager では、各回線の設定にパーティションおよびコーリングサーチスペース (CSS) という概念を導入しています。このため、VoIP ドメインと PSTN ドメインの制御が別々になっており、1 回線の電話機では転送などの機能を実行できません。このような機能呼び出すと、PSTN ネットワークで VoIP の参加が可能になるためです。

この制限があるため、インドではシスコシステムズの装置を使用してエンタープライズ VoIP を配置しても、少なくとも 2 回線を備えた電話機を使用するという制限が引き続き存在し、ほとんどのカスタマーにとっては経済的なソリューションとなりません。また、この制限のため、仕様により 1 回線となっている低コストのアナログ電話機を使用するソリューションも、VG224/VG248 ゲートウェイを使用するソリューションも実現できません。

これらの制限に対処するために、Cisco Unified Communications Manager ソリューションでは管理者ポリシーによって Cisco Unified IP Phone で 1 回線の論理パーティションを設定できるようになっています。ただし、参加者の属性タグまたは位置情報に基づいて、コール参加またはコールの転送を制御する必要があることに注意してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.32-50) を参照してください。

論理パーティション アーキテクチャの概要

論理パーティション ソリューションには、次の要素のプロビジョニングが必要です。

- 位置情報識別子の設定
 - 管理者は、位置情報セット (住所) を定義できます。
 - 管理者は、これらの位置情報を VoIP 電話機、VoIP ゲートウェイ、IP トランク、デバイスプール、およびエンタープライズパラメータに割り当てることができます。
 - 管理者は、位置情報からフィールドのサブセットを選択し、VoIP ゲートウェイ、IP トランク、デバイスプール、およびエンタープライズパラメータに関連付けるフィルタを定義できます。
- ポリシーの設定
 - 管理者は、位置情報ポリシーレコードを定義し、接続を許可するか拒否するかを示すポリシーを位置情報ポリシーレコードのマトリクスに含めることができます。設定したポリシーは、デバイスペア間で双方向に機能します。
- クラスタ間での位置情報の伝達
 - コールの確立時だけでなく、コール中の参加およびリダイレクト時にも、クラスタ間で位置情報を伝達できます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.32-50) を参照してください。

論理パーティションでの位置情報および位置情報フィルタの使用

Cisco Unified Communications Manager 管理者は、次の項目を定義する必要があります。

- 論理パーティションを使用するデバイスごとの **位置情報**。詳細については、「**位置情報の特徴**」(P.24-7) を参照してください。
- 論理パーティションを使用するデバイスごとの **位置情報フィルタ**。詳細については、「**位置情報フィルタについて**」(P.24-17) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager 管理者は続いて、位置情報および位置情報フィルタをデバイスに割り当てます。

Cisco Unified Communications Manager クラスタ 内の次のエンティティに位置情報と位置情報フィルタの値を割り当てることができます。

- デバイス プール
- CTI ルート ポイント
- 電話機 (オプション)
- CTI ポート



(注) 電話機の場合、電話機に位置情報フィルタを関連付けるためのドロップダウン リスト ボックスは指定しません。

- SIP トランク
- クラスタ間トランク (ICT)
- H.323 ゲートウェイ
- T1、E1、PRI、FXO タイプの MGCP ポート

Media Termination Point (MTP; メディア ターミネーション ポイント)、Conference Bridge (CFB; 会議ブリッジ)、アナンシエータ、Music On Hold (MOH; 保留音) サーバなどのメディア デバイスは、位置情報および位置情報フィルタに関連付ける必要はありません。

Cisco Unified Communications Manager のデバイス層には、コール処理で使用される位置情報の値が内部的に関連付けられます。次に、一連の処理を示します。

1. デバイスがデバイス レベルまたはデバイス プール レベルでの設定用に GeolocationPkid および GeolocationFilterPkid を読み取ります。
2. デバイスは、コール シグナリング時に CC (たとえば、CcRegisterPartyA) および PolicyAndRSVPRegisterReq メッセージでこの Pkid と deviceType の情報を伝達します。
3. コール処理およびコール機能層が、この情報を使用して、論理パーティション ポリシーをチェックします。

位置情報の標準レコードは **未指定** です。位置情報をデバイスに関連付ける必要がない場合は、この値を使用します。デバイスの場合、位置情報を **未指定** にするか、または位置情報フィルタに [なし (None)] を指定すると、識別子が作成されず、そのデバイスは論理パーティション ポリシー チェックに参加しません。

[エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ウィンドウのドロップダウン リスト ボックスから、Default Geolocation エンタープライズ パラメータおよび Logical Partitioning Default Filter エンタープライズ パラメータを設定できることに留意してください。

位置情報および位置情報フィルタの例

位置情報の例については、「[位置情報およびロケーション伝達](#)」の章の表 24-4 を参照してください。

位置情報フィルタの例については、「[位置情報およびロケーション伝達](#)」の章の表 24-6 を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.32-50) を参照してください。

シェアドラインおよびルートリストでの論理パーティション位置情報の使用

着信側がグループ デバイスの場合、グループ内のデバイスごとに別個の位置情報を適用できます。早期在席シナリオの場合、実際に接続されるデバイスはデバイスが応答するまでわかりません。そのため、デバイスが応答するまで、位置情報は集約されます。

- コール制御および機能の層は、デバイスが応答するまで、一時位置情報（「MixedDevice」）を受信します。
- デバイスが応答し、デバイスの実際の位置情報が使用可能になるまで、機能層または LPSession プロセスの論理パーティション ポリシー チェックは無視されます。
- この動作は、応答時まで論理パーティション ポリシー チェックを遅らせることによって、早期在席転送機能および早期在席会議機能に影響を及ぼします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.32-50) を参照してください。

論理パーティションでの位置情報識別子の使用

位置情報識別子は、位置情報、位置情報フィルタ、および Cisco Unified Communications Manager デバイスのデバイス タイプで構成されます。

詳細については、「[位置情報およびロケーション伝達](#)」の「[位置情報識別子](#)」(P.24-9) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.32-50) を参照してください。

論理パーティション用のエンタープライズ パラメータ

論理パーティションの設定には、次のエンタープライズ パラメータを使用できます。

- **Enable Logical Partitioning** : このパラメータは、論理パーティション機能を有効にするかどうかを決定します。論理パーティション ポリシーは、コールだけでなく、転送、自動転送や、ミートミーをはじめとする会議などの補足機能を制限するために使用します。有効な値は、[True] (論理パーティションを有効にする) または [False] (論理パーティションを有効にしない) です。このパラメータを [False] に設定すると、コールは論理パーティションポリシーに照らして検証されません。これは必須フィールドです。デフォルト値は [False] に設定されています。
- **Default Geolocation** : このパラメータは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページに位置情報が指定されていないすべてのデバイスおよびデバイス プールのデフォルトの位置情報設定を決定します。有効な値には、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] ウィンドウに設定されているすべての位置情報の名前などがあります。デフォルトの位置情報は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [デバイス設定 (Device Configuration)] ウィンドウまたは [デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウで、デバイスごとおよびデバイス プールごとに上書きできます。これは必須フィールドです。デフォルトの値は未指定です。
- **Logical Partitioning Default Policy** : このパラメータは、位置情報間でコールを許可または拒否するためのデフォルトのポリシーを決定します。位置情報間のコールを許可して処理を続行する前に、Cisco Unified Communications Manager は Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [論理パーティションポリシーの設定 (Logical Partitioning Policy Configuration)] ウィンドウの設定に基づいて、指定した位置情報間でコールが許可されていることを確認します。[論理パーティションポリシーの設定 (Logical Partitioning Policy Configuration)] ウィンドウで [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] が指定されている場合、このパラメータの値によってコールの許可または拒否が決定されます。有効な値は、[許可 (Allow)] (コールの続行を許可) または [拒否 (Deny)] (コールの続行を拒否) です。これは必須フィールドです。デフォルト値は [拒否 (Deny)] に設定されています。
- **Logical Partitioning Default Filter** : このパラメータは、論理パーティション機能における位置情報のデフォルトのフィルタを指定します。フィルタを位置情報に適用すると、[位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] ウィンドウで、その位置情報に属するデバイスおよびデバイス プールに適用されるフィールドの数を削減できます。このパラメータのフィルタを選択するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [位置情報フィルタの設定 (Geo Location Filter Configuration)] ウィンドウにすでにフィルタが設定されていることを確認する必要があります。有効な値には、[なし (None)] (位置情報フィールドを含めない) や、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [位置情報フィルタの設定 (Geo Location Filter Configuration)] ウィンドウに設定されているすべてのフィルタの名前などがあります。デフォルト値は [なし (None)] です。

追加情報

「[関連項目](#)」 (P.32-50) を参照してください。

論理パーティションポリシー

次のエンティティ間に必須の相互接続動作には、論理パーティションポリシーを設定します。

- PSTN ゲートウェイと VoIP 電話機
- PSTN ゲートウェイと PSTN ゲートウェイ
- クラスタ間トランク (ICT) と VoIP 電話機
- ICT と VoIP ゲートウェイ

System Default Policy エンタープライズパラメータ (デフォルト値 = DENY) は、設定済みのポリシーが見つからない場合のデフォルトのポリシーです。

許可ポリシーと拒否ポリシーを設定します。設定の詳細については、「[許可ポリシーおよび拒否ポリシー](#)」(P.32-6) を参照してください。

[論理パーティションポリシーの設定 (Logical Partitioning Policy Configuration)] ウィンドウ (Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [コールルーティング (Call Routing)] > [論理パーティションポリシーの設定 (Logical Partitioning Policy Configuration)] メニュー オプション) で、管理者は位置情報に設定されているフィールドのサブセットから位置情報ポリシー レコードを作成する必要があります。Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して論理パーティションポリシー レコードを作成する方法の詳細については、「[論理パーティションポリシーの設定](#)」(P.32-42) を参照してください。

論理パーティションポリシーは、位置情報ポリシー レコードとデバイス タイプのペア間に設定します。

論理パーティションポリシーの例

```
{geolocpolicy1, devType1}, {geolocpolicy2, devType2}, Allow)
```

次の表に、位置情報、デバイス タイプ、およびポリシー タイプ間の論理パーティションポリシーの構造を示します。

まず、次の位置情報ポリシー レコードがあるとします。

位置情報ポリシー	レコード データ
BLRBLD1GeolocPolicy	(country=IN、A1=KA、A3=Bangalore、LOC=BLD1)
BLRBLD2GeolocPolicy	(country=IN、A1=KA、A3=Bangalore、LOC=BLD2)
MUMBLD1GeolocPolicy	(country=IN、A1=MH、A3=Mumbai、LOC=BLD1)
blankGeolocPolicy	() : 全フィールド空白

これらのレコードから、次のサンプルの論理パーティションポリシーを設定できます。システム デフォルト ポリシーは DENY です。

ソース		ターゲット		ポリシー
DevType1	GeolocationPolicy1	DevType2	GeolocationPolicy2	
Border	BLRBLD1GeolocPolicy	Interior	BLRBLD1GeolocPolicy	許可
Border	BLRBLD1GeolocPolicy	Border	BLRBLD1GeolocPolicy	許可
Border	BLRBLD2GeolocPolicy	Interior	BLRBLD2GeolocPolicy	許可
Border	BLRBLD2GeolocPolicy	Border	BLRBLD2GeolocPolicy	許可

ソース		ターゲット		ポリシー
DevType1	GeolocationPolicy1	DevType2	GeolocationPolicy2	
Border	MUMBLD1GeolocPolicy	Interior	MUMBLD1GeolocPolicy	許可
Border	MUMBLD1GeolocPolicy	Border	MUMBLD1GeolocPolicy	許可

最初の論理パーティションポリシーは次のようになっています。

Border	BLRBLD1GeolocPolicy	Interior	BLRBLD1GeolocPolicy	許可
--------	---------------------	----------	---------------------	----

BLRBLD1GeolocPolicy に一致するゲートウェイと BLRBLD1GeolocPolicy に一致する VoIP 電話機の間すべてのトラフィックを許可しています。

さらに詳細なポリシーが必要である場合は、位置情報 NAM フィールドを使用すると、建物内のデバイスの名前を指定できます。

例

- バンガロールの BLD1 にある固定電話機とゲートウェイ 1 の間
Interior: (country=IN、A1=KA、A3=Bangalore、LOC=BLD1、NAM=deskphone)
Border: (country=IN、A1=KA、A3=Bangalore、LOC=BLD1、NAM=gateway1) = 許可
- バンガロールの BLD1 にある Cisco IP SoftPhone と ICT1 の間
Interior: (country=IN、A1=KA、A3=Bangalore、LOC=BLD1、NAM=softphone)
Border: (country=IN、A1=KA、A3=Bangalore、LOC=BLD1、NAM=ICT1) = 許可

位置情報フィールドが上記のポリシーに一致するデバイスは、ポリシーに従って互いに通信できます。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して論理パーティションポリシーを設定する方法の詳細については、「[論理パーティションポリシーの設定](#)」(P.32-42)を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.32-50)を参照してください。

LPPolicyManager およびポリシー ツリー

LPPolicyManager は、データベースとのインターフェイスとなって、コール処理のポリシーを論理パーティションポリシー ツリー形式で保持する単一プロセスです。Cisco Unified Communications Manager サービスの起動中、LPPolicyManager はデータベース テーブルからポリシーを読み取り、論理パーティションポリシー ツリーを構築します。

データベースでポリシーの追加 / 削除 / 更新を行うと、LPPolicyManager に変更内容が通知され、その変更が論理パーティションポリシー ツリーに反映されます。

コール処理は、LPPolicyManager とのインターフェイスとなって、デバイスの位置情報ポリシー レコードに対応する論理パーティションポリシーを読み取ります。

LPPolicyManager は、次の検索タイプのユーティリティ機能を備えています。

- デバイス ペアの位置情報
- 既存のデバイスと新規参加者の位置情報
- 既存のデバイスの位置情報と新規参加者のリスト

ポリシー ツリーの例

ここでは、ポリシー ツリーの例を示します。

図 32-1 に、論理パーティションポリシーのポリシー ツリーの例を示します。バンガロールにあるゲートウェイ (BLD1、BLD2) とバンガロールにある VoIP 電話機 (BLD1、BLD2) の位置情報ポリシー レコード間に存在するインド クラスタのポリシーです。



(注)

通常、特定のソース位置情報ポリシー レコードと特定のターゲット位置情報ポリシー レコード間にポリシー ペアが 1 つだけ設定されます。

ポリシー ツリーは、ペア化されたポリシーがツリーのソース部分とターゲット部分となるように構築されます。

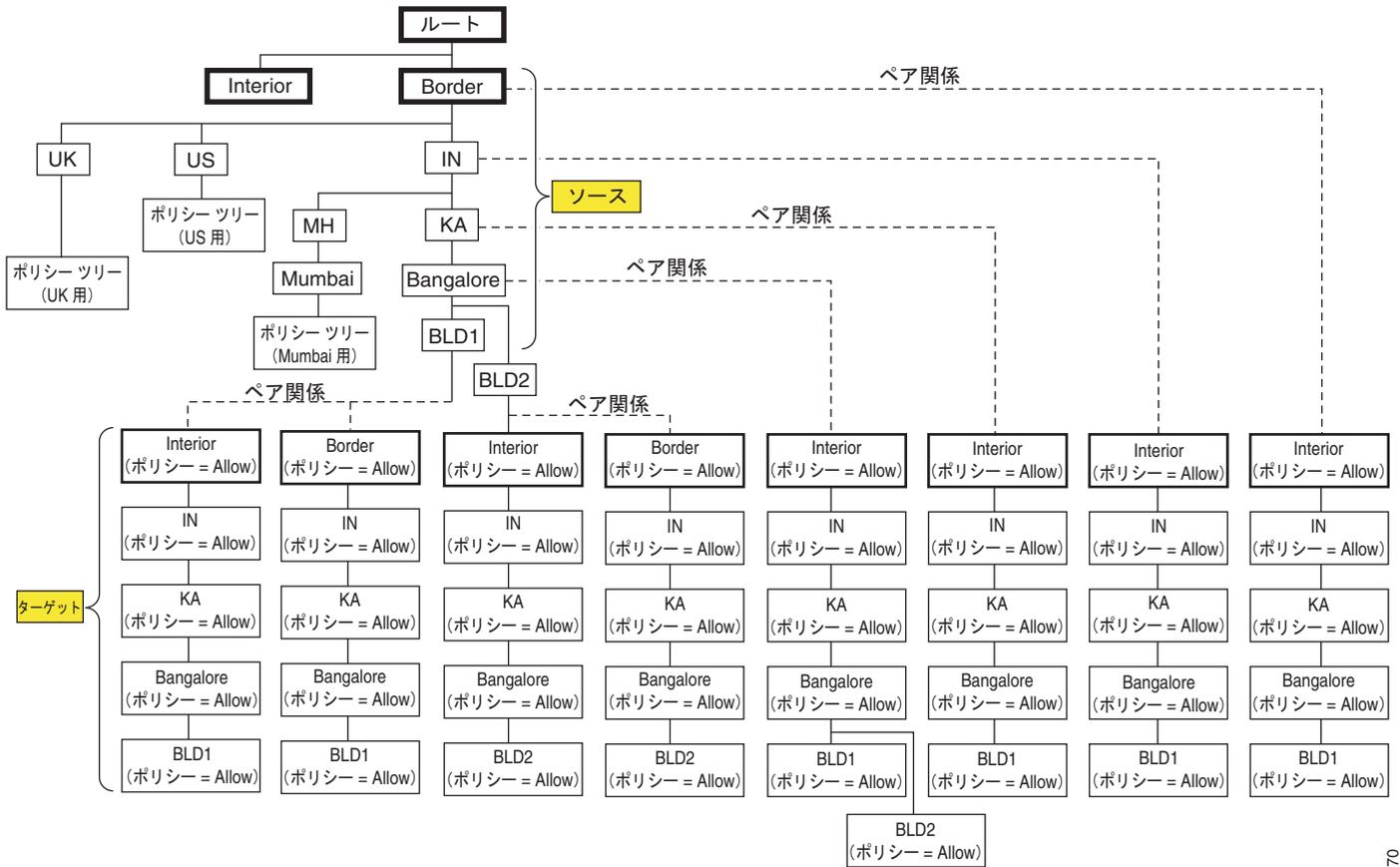
たとえば、データがソース = Border:IN:KA:Bangalore:BLD1 およびターゲット = Interior:IN:KA:Bangalore:BLD1 で、許可ポリシーが設定されたポリシー レコードが、次のノードに関連付けられています。

- ソース部分の Border、IN、KA、Bangalore、BLD1
- ターゲット部分の Interior、IN、KA、Bangalore、BLD1

この例の場合、許可ポリシーがターゲット部分のリーフノードに設定されます。

この図は、ツリーのターゲット部分ではレベルごとにポリシーが設定可能であることを示しています。つまり、各ノード (Interior、IN、KA、Bangalore、および BLD1) にポリシーを設定できます。

図 32-1 インドクラスタに適用される論理パーティション ポリシーのポリシー ツリーの例



251270

ポリシー ツリー内を検索するための論理パーティション ポリシー検索アルゴリズムについては、「[論理パーティション ポリシー検索アルゴリズム](#)」(P.32-16) を参照してください。表 32-3 (P.32-17) に、このポリシー ツリーでポリシーが見つかった場合の置換をすべて記載したリストを示します。

ポリシー ツリーの構築

ポリシー ツリーの構築は、決められたアルゴリズムに従います。ポリシー ツリーにはソース部分とターゲット部分が含まれています。

1. [GLP_X Border GLP_Y Interior] ポリシーが追加されます。構築には GLP_X Border のソース部分と GLP_Y Interior のターゲット部分が必要です。
2. [GLP_Y Interior GLP_X Border] ポリシーが追加されます。構築には GLP_X Border のソース部分と GLP_Y Interior のターゲット部分が必要です。

したがって、Border-to-Interior ポリシーは、Border 部分が必ずツリーのソース部分から始まります。リーフノードにポリシーが追加されます。

3. [GLP_X Border GLP_Y Border] ポリシーが追加されます。

最初に、ソース部分の GLP_X を追加するか、またはソース部分の GLP_Y を追加するかどうかが決まります。

既存のポリシーが（他の GLP ポリシーにより）GLP_X または GLP_Y のいずれのトークンにも一致しない場合、ツリーの構築には GLP_X Border のソース部分と GLP_Y Border のターゲット部分が必要です。

既存のポリシーがソース部分の一部のトークンに一致する場合、ソース部分はその GLP から取得されます。

例 1 : GLP_Y Border GLP_X Interior は常に設定されます。

GLP_Y はソース部分ですでに使用されているので、[GLP_X Border GLP_Y Border] ポリシーを追加するために GLP_Y がソース部分に追加されます。

例 2 : 2 つのポリシー [GLP_X Border GLP_Y Interior] と [GLP_Y Border GLP_X Interior] が存在する場合は、Border で始まる 2 つのソース ブランチが存在します。

GLP_B は（GLP_Y と比較して）GLP_X と重複するトークンが多いこと、および GLP_A は Border ブランチとは一致しないことを前提としています。

[GLP_A Border GLP_B Border] ポリシーを追加するため、GLP_A または GLP_B が既存のソース ブランチに一致するかどうかについて、ポリシーが検索されます。

GLP_B が GLP_X のトークンに一致すると、ツリーの一部が GLP_X と共有されます。

Border:IN:KA:BLR:BLD1 と Border:IN:MH:MUM:BLD1 が存在することを前提としています。

Border:IN:MH:Pune:BLD1 を Border:IN:KA:BLR:BLD2 ポリシーに追加する場合は、Border:IN:KA:BLR のソース部分を使用されます。このとき、ソース ツリーのリーフには BLD2 が追加され、Border:IN:MH:Pune:BLD1 のターゲット部分が追加されます。

したがって、Border-to-Border ポリシーの場合、ポリシー ツリーは既存のソース ブランチおよびターゲット ブランチに最も一致するように構築されます。できるだけ多くのノードを共有するように考慮してください。

追加情報

「関連項目」(P.32-50) を参照してください。

論理パーティション ポリシー検索アルゴリズム

ここでは、論理パーティション ポリシー検索アルゴリズムについて説明します。

論理パーティション ポリシー検索アルゴリズムは、次のように機能します。

- コール制御時または機能のインタラクション時にポリシーが検索されます。
- 実行時にツリー走査を使用して設定済みのポリシーを検索する場合には、設定済みのポリシー ツリーが使用されます。
- ソース (A) デバイスおよびターゲット (B) デバイスの位置情報（つまり、位置情報、位置情報フィルタ、およびデバイス タイプ）を使用して、デバイス ペア間でポリシーが検索されます。

基本操作

位置情報および位置情報フィルタ情報から名前 / 値のペア（つまり、pairList1 および pairList2）を構築します。

例 : pairList = "Country=IN:A1=KA:A3=Bangalore:LOC=BLD1"

検索の入力は {pairList1, devType1} および {pairList2, devType2} です。

ポリシーの検索では、次の手順が実行されます。

-
- ステップ 1** devType1=Border および devType2=Interior の場合は、{devTypeA=devType1, pairListA= pairList1} および {devTypeB=devType2, pairListB= pairList2} を設定します。

- ステップ 2** devType1=Interior および devType2=Border の場合は、{devTypeA=devType2, pairListA= pairList2} および {devTypeB=devType1, pairListB= pairList1} を設定します。
- ステップ 3** ポリシー ツリーのノードを検索して、完全一致ペアを照合します。{devTypeA, pairListA} の値を使用し、ツリーのソース ブランチを探します。
- ステップ 4** {devTypeB, pairListB} の値を使用し、ツリーの（ペア化された）ターゲット ブランチを探します。
- ステップ 5** ツリーで完全一致が見つかり、ポリシーが設定されている場合は、リーフノードに設定されているポリシー データを使用し、ポリシー値を返します。
- ステップ 6** 完全一致が見つからない場合は、pairListB 入力からカラムを 1 つ除去して一致を検索します（つまり、ポリシー ツリーの（ペア化された）ターゲット ブランチで 1 つ上のレベルに進み、対応するノードにポリシー データが設定されているかどうかを確認します）。
- ステップ 7** 一致が見つかった場合、ポリシー値を返します。見つからない場合、引き続きポリシー ツリーのペア化されたブランチを上に進み、ポリシー データが設定されているかどうかを確認します。
- ステップ 8** ポリシーが見つからない場合、pairListA に対応するソース ブランチで 1 つ上のレベル（ノード）に進みます。
- ステップ 9** ポリシーが見つかるか、またはルート ノードに達するまで、**ステップ 4** から**ステップ 8**を繰り返します。
- ステップ 10** devType1=Border および devType2=Border の場合は、走査を行って完全一致を検索します。{devTypeA=devType1, pairListA= pairList1} および {devTypeB=devType2, pairListB= pairList2} を使用します。見つからない場合は、走査を行って {devTypeA=devType2, pairListA= pairList2} および {devTypeB=devType1, pairListB= pairList1} を使用します。



(注) ツリー レイアウトには、管理者がポリシーを追加した方法に基づいて任意の順序を指定できます。したがって、両方の組み合わせを使用してツリーを検索する必要があります。

ポリシーが次のデータで検索されるとします。

(devTypeA = "Border", pairListA = "Country=IN:A1=KA:A3=Bangalore:LOC=BLD1", devTypeB = "Interior", pairListB = "Country=IN:A1=KA:A3=Bangalore:LOC=BLD1")。

表 32-3 に、考えられるポリシーの置換をすべて示します。どの値も照合されます。検索アルゴリズムは、表に指定されている順に、設定済みのポリシーを探します。

最初に一致したエントリに対応する設定済みポリシーが使用されます。

表 32-3 ポリシー設定のさまざまなポリシーおよびポリシーの検索順序の例

GeolocationValueA	GeolocationValueB	ポリシー
Border:IN:KA:Bangalore:BLD1	Interior:IN:KA:Bangalore:BLD1	許可 / 拒否
Border:IN:KA:Bangalore:BLD1	Interior:IN:KA:Bangalore	許可 / 拒否
Border:IN:KA:Bangalore:BLD1	Interior:IN:KA	許可 / 拒否
Border:IN:KA:Bangalore:BLD1	Interior:IN	許可 / 拒否
Border:IN:KA:Bangalore:BLD1	Interior	許可 / 拒否
Border:IN:KA:Bangalore	Interior:IN:KA:Bangalore:BLD1	許可 / 拒否
Border:IN:KA:Bangalore	Interior:IN:KA:Bangalore	許可 / 拒否
Border:IN:KA:Bangalore	Interior:IN:KA	許可 / 拒否
Border:IN:KA:Bangalore	Interior:IN	許可 / 拒否

表 32-3 ポリシー設定のさまざまなポリシーおよびポリシーの検索順序の例 (続き)

GeolocationValueA	GeolocationValueB	ポリシー
Border:IN:KA:Bangalore	Interior	許可 / 拒否
Border:IN:KA	Interior:IN:KA:Bangalore:BLD1	許可 / 拒否
Border:IN:KA	Interior:IN:KA:Bangalore	許可 / 拒否
Border:IN:KA	Interior:IN:KA	許可 / 拒否
Border:IN:KA	Interior:IN	許可 / 拒否
Border:IN:KA	Interior	許可 / 拒否
Border:IN	Interior:IN:KA:Bangalore:BLD1	許可 / 拒否
Border:IN	Interior:IN:KA:Bangalore	許可 / 拒否
Border:IN	Interior:IN:KA	許可 / 拒否
Border:IN	Interior:IN	許可 / 拒否
Border:IN	Interior	許可 / 拒否
Border	Interior:IN:KA:Bangalore:BLD1	許可 / 拒否
Border	Interior:IN:KA:Bangalore	許可 / 拒否
Border	Interior:IN:KA	許可 / 拒否
Border	Interior:IN	許可 / 拒否
Border	Interior	許可 / 拒否

位置情報識別子のペアを指定したものの、設定済みのポリシーが見つからない場合は、論理パーティション デフォルト システム ポリシーが使用されます。

追加情報

「関連項目」(P.32-50) を参照してください。

ポリシー マッチング

次の場合にポリシー チェックが行われます。

- コールが PSTN ゲートウェイと VoIP 電話機を接続する場合。
- コールが、PSTN ゲートウェイと VoIP 電話機を接続する補足サービス (転送や会議など) を呼び出す場合。
- ポリシーに基づいて、制限されているすべてのコールおよび接続が拒否される場合。

追加情報

「関連項目」(P.32-50) を参照してください。

ポリシー拒否の処理

論理パーティションポリシーに従ってコールが拒否されると、次の処理が発生します。

- Cisco Unified Communications Manager が送信するリオーダー音とともに基本コールがクリアされます。
 - 原因コード = 63 "Service or option not available." を使用して、Q.850 準拠のデバイス (SCCP、H323、MGCP) がクリアされます。
 - SIP ステータス コード = 503 "Service unavailable." を使用して、SIP 回線または SIP トランクがクリアされます。
- 機能が、個々の機能に基づいて処理されます。
 - コールのクリアが伴う場合、原因コード = 63 または SIP ステータス コード = 503 が使用されます。
 - 機能ベースのメッセージが、VoIP 電話機に送信されて状況表示行に表示されます。
 - 機能を呼び出すアナログ電話機の場合、転送の結果、両方のコールがクリアされます。会議は、セカンダリ コールをクリアして、アナログ電話機のリオーダー音を再生します。

追加情報

「関連項目」(P.32-50) を参照してください。

LPSession インフラストラクチャおよびポリシー チェック

LPSession は、集中型ポリシー チェック インフラストラクチャを提供するように Cisco Unified Communications Manager Resource Reservation Protocol (RSVP) インフラストラクチャを拡張するインフラストラクチャです。



(注)

RSVP インフラストラクチャの拡張は、ペア化された同じような論理パーティションポリシー チェック動作を土台としています。論理パーティションが RSVP のポリシー チェックに影響を及ぼすことはありません。その逆も同じです。

次の操作では、ポリシー チェックに LPSession インフラストラクチャを使用しています。

- 基本コール
- リダイレクト (たとえば、自動転送、リダイレクト機能、およびパーク復帰)
- 分割 / 参加プリミティブ

よく使用される次の機能では、分割 / 参加または転送の前に、機能層で論理パーティションポリシー チェックが実行されます。

- 転送
- アドホック会議
- ミートミー会議
- ピックアップ
- コールパークとダイレクトコールパーク

それ以外の分割 / 参加機能および類似機能は、分割 / 参加プリミティブ レベルのポリシー チェックを LPSession インフラストラクチャに依存しています (たとえば、Cisco Unified Mobility の場合は MKI)。

追加情報

「関連項目」(P.32-50) を参照してください。

基本コール用の論理パーティション処理

ここでは、基本コールの論理パーティション処理について説明します。

動作

発信側デバイスおよび着信側デバイスの位置情報ポリシー レコード間で、論理パーティションポリシーがチェックされます。

設定

発信側デバイスおよび着信側デバイスのいずれにも、位置情報および位置情報フィルタが関連付けられます。

処理される状況

次の状況では、論理パーティションの処理が行われます。

- VoIP 電話機と PSTN ゲートウェイ、PSTN ゲートウェイと別の PSTN ゲートウェイ、ICT と PSTN ゲートウェイ、または ICT と別の ICT 間での基本コールの間。
- 番号分析の事後処理の間（コールをルーティングするために設定済みのコーリング サーチスペースおよびパーティションが使用される）。
- Cisco Unified Communications Manager が、着信側および発信側の Cisco Unified Communications Manager デバイスに関連付けられている位置識別子情報を使用して、論理パーティションポリシー チェックを実行する場合。
- 設定済みの論理パーティションポリシーが発信 Cisco Unified Communications Manager デバイス層に戻され、そのポリシーに従ってアクションが実行される場合。

処理されない状況

次の状況では、論理パーティションの処理は行われません。

- 発信側と着信側の両方のデバイスが、VoIP 電話機（DevType = Interior）である場合。
- 位置情報と位置情報フィルタがどのデバイスにも関連付けられていない場合。

拒否処理

論理パーティションは、次のようにコールの拒否を処理します。

- コールが、リオーダー音とともに拒否されます。
- コールは、電話、ゲートウェイ、およびクラスタ間トランクに延長されません。
- Number of Basic Call Failures パフォーマンス モニタリング（perfmon）カウンタが増分されます。

追加情報

「関連項目」(P.32-50) を参照してください。

論理パーティションと、SIP トランクおよびクラスタ間トランクをまたぐ位置情報伝達とのインタラクション

論理パーティションが複数クラスタ環境に適用される場合は、ロケーション伝達を設定します。

ロケーション伝達設定は単一クラスタ環境の論理パーティション設定と同じ設定を必要としますが、デバイスがリモート クラスタに属する場合には追加の設定が必要です。

ロケーション伝達を必要としないシステムの論理パーティションを設定する方法の詳細については、「[論理パーティションの設定チェックリスト](#)」(P.32-2) を参照してください。

参加者がクラスタをまたぐ論理パーティション シナリオをサポートするには、SIP トランクおよびクラスタ間トランクから次のサポートが必要です。

- クラスタ間で位置情報およびデバイス タイプ情報が送信される。
- コール確立時にも、コール中の参加とリダイレクト時にも、この情報が送信される。
- トランクに位置情報フィルタが設定される。
 - この設定では、位置情報識別子の作成が許可されます。これらの位置情報識別子に基づいて、論理パーティション ポリシー チェック用にポリシー レコードを設定できます。

SIP トランクまたはクラスタ間トランクの設定で [位置情報の送信 (Send Geolocation Information)] チェックボックスがオンになっている場合には、位置情報がクラスタ間で送信されます。

- デバイスの位置情報が設定されている場合、SIP トランクまたはクラスタ間トランクのインタラクションでは、位置情報がトランクをまたいでコール シグナリングで送信されます。



(注) ロケーション伝達は、どの論理パーティション設定にも依存しません。

詳細については、「[SIP トランクおよびクラスタ間トランクの間での位置情報の伝達](#)」(P.24-23) を参照してください。

「[ロケーション伝達の設定チェックリスト](#)」(P.24-4) に、ロケーション伝達の設定に関する詳細なチェックリストを示します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.32-50) を参照してください。

取得した位置情報の論理パーティション処理

受信側クラスタが論理パーティションに対して有効になっている場合、受信側クラスタは取得した PIDF-LO 位置情報を使用して、Cisco Unified Communications Manager のデバイスの論理パーティション ポリシーをチェックします。

詳細については、「[受信された位置情報の処理](#)」(P.24-25) を参照してください。

また、ポリシー チェックに位置情報を使用する機能のリストについては、「[インタラクション](#)」(P.32-24) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.32-50) を参照してください。

論理パーティション機能とコール中位置情報変更とのインタラクション

論理パーティションが有効になっている場合、次の手順が実行されます。

- SIP トランクまたはクラスタ間トランクが、論理パーティション ポリシーをチェックし、設定済みポリシーに基づいてアクションを実行します。
- 会議やミーティングなどの機能層が、トランク デバイスの最新の位置情報に基づいて、論理パーティション ポリシーを再チェックします。

コール中位置情報の変更を伴う機能のインタラクションについては、「[コール中に位置情報が変更された場合の機能インタラクション](#)」(P.24-25) を参照してください。

また、ポリシー チェックに位置情報を使用する機能のリストについては、「[インタラクション](#)」(P.32-24) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.32-50) を参照してください。

ダイナミック SIP トランク

Cisco Intercompany Media Engine (IME)、Service Advisement Framework (SAF)、または Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ (EMCC) などのダイナミック SIP トランクの場合、ターゲット クラスタは指定された宛先によって異なります。これらのトランク上で設定できるデバイスレベルの位置情報および位置情報フィルタには、宛先に応じて設定を変更する柔軟性がない場合があります。このような SIP トランクは、これらのトランクからのトラフィックが許可または拒否されるように、適切に設定する必要があります。ロケーション伝達機能を使用することをお勧めします。この機能を使用すると、実際の位置情報をクラスタ間に適用でき、正確な論理パーティション ポリシーのチェックに役立ちます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.32-50) を参照してください。

論理パーティションの SIP トランクまたはクラスタ間トランク設定要件

論理パーティションが有効になっているクラスタは、一般に次のように動作します。

1. VoIP 電話機と SIP トランク (またはクラスタ間トランク [ICT]) 間のトラフィックが許可されます。
2. SIP トランク (または ICT) と PSTN ゲートウェイ間のトラフィックがブロックされます。
3. SIP トランク (または ICT) と SIP トランク (または ICT) 間の VoIP 専用トラフィックが許可されます。

これらの動作を実現するには、論理パーティション ポリシーを設定する必要があります。

非ロケーション伝達クラスタとのインタラクション

動作 1 および 3 を実現するには、その動作ごとにポリシーを 1 つ設定する必要があります。デフォルト ポリシーが DENY である場合は、動作 2 のポリシーは必要ありません。

動作 1 および 3 については、ロケーション伝達が存在しないため、論理パーティション クラスタはトラフィックが VoIP 専用であるのか、リモート クラスタのゲートウェイから発信されているのかを特定できません。つまり、一般に SIP トランク (または ICT) から VoIP 電話機または他の SIP トランク (または ICT) に発信されるすべてのトラフィックを許可する必要があります。

ロケーション伝達クラスタとのインタラクション

動作 1 の場合、SIP トランク（または ICT）をコールする VoIP 電話機には、そのトランクでのコールの延長を許可するポリシーが必要です。これは、リモート クラスタからロケーション伝達情報を受信する前に発生します。

SIP トランク（または ICT）からの着信 VoIP コールの場合、発信側 VoIP 電話機のポリシーは必要ありません。SIP トランク（または ICT）からのトラフィックを他の ICT または PSTN ゲートウェイに許可する必要がある場合は、対応するポリシーが必要です。

例

バンガロールから RCDN クラスタを指す SIP トランクは次のように設定します。

位置情報 = "IN:KA:Bangalore:ICTToRCDN"

位置情報フィルタ = "UseCountry, UseA1, UseA3, UseNam"

この設定では、SIP トランクの位置情報識別子を次のように指定します。

```
{"IN:KA:Bangalore:ICTToRCDN", devType=Border}
```

論理パーティション ポリシーを次のように設定します。

"Border:IN:KA:Bangalore:ICTToRCDN" to Interior = 許可

結果：バンガロール クラスタのすべての VoIP 電話機が Richardson と通信できます。

"Border:IN:KA:Bangalore:ICTToRCDN" to "Border:IN:KA:Bangalore:ICTToRCDN" = 許可

結果：ICT が通信できます。

これらのポリシーは、動作 1 および 3 の要件を満たしています。

ロケーション伝達シナリオの場合、クラスタをまたぐデバイスの位置情報設定およびデバイスタイプに基づいて、ポリシーを設定します。

追加情報

「関連項目」(P.32-50) を参照してください。

論理パーティションのシステム要件

論理パーティションには、次のソフトウェア コンポーネントが必要です。

- Cisco Unified Communications Manager 7.1 以降
- クラスタ内の少なくとも 1 台のサーバ上で稼動している Cisco CallManager サービス
- 英語以外の電話ロケール、または国に固有のトーンを使用する場合は、Cisco Unified Communications Manager Locale Installer
- Microsoft Internet Explorer 7、Microsoft Internet Explorer 8、Firefox 3.x、Safari 4.x のいずれか

追加情報

「関連項目」(P.32-50) を参照してください。

インタラクションおよび制限事項

次の項では、論理パーティションのインタラクションおよび制限事項について説明します。

- 「インタラクション」 (P.32-24)
- 「制限」 (P.32-39)

追加情報

「関連項目」 (P.32-50) を参照してください。

インタラクション

次の項では、論理パーティションおよび補足機能と、次に挙げるコール処理 エンティティとのインタラクションについて説明します。



(注)

Logical Partitioning Default Policy エンタープライズ パラメータを設定し、[コールルーティング (Call Routing)] > [論理パーティションポリシーの設定 (Logical Partitioning Policy Configuration)] メニュー オプションを使用して対応する論理パーティション ポリシーを設定します。

- 「自動転送」 (P.32-25)
- 「コール転送」 (P.32-26)
- 「アドホック会議、参加、回線をまたいで参加 (JAL)」 (P.32-28)
- 「ミートミー会議」 (P.32-29)
- 「コール ピックアップ」 (P.32-30)
- 「コール パークとダイレクト コール パーク」 (P.32-32)
- 「Cisco エクステンション モビリティ」 (P.32-33)
- 「Cisco Unified Mobility」 (P.32-34)
- 「シェアドライン」 (P.32-35)
- 「割り込み、C 割り込み、およびリモート再開」 (P.32-36)
- 「ルート リストおよびハントパイロット」 (P.32-37)
- 「CTI 処理」 (P.32-38)

また、論理パーティションは次の Cisco Unified Communications Manager コンポーネントと通信します。

- 一括管理ツール：一括管理ツール (BAT) による論理パーティションのサポートの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド』を参照してください。
- 呼詳細レコード：論理パーティションで障害が発生した場合、既存のコール終了原因コードおよび新しいシスコ固有のコール終了原因コードが使用されます。CDR の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Call Detail Records Administration Guide』を参照してください。

- Real-Time Monitoring Tool : Real-Time Monitoring Tool には Cisco Call Restriction オブジェクト用に一連のパフォーマンス モニタリング (perfmon) カウンタがあり、論理パーティションで障害が発生した場合に増分されます。また、Real-Time Monitoring Tool は [Call Activity] ウィンドウで Logical Partitioning Failures Total カウンタをトラッキングします。Real-Time Monitoring Tool の詳細については、『Cisco Unified Real Time Monitoring Tool Administration Guide』を参照してください。
- Cisco Unified Reporting : Cisco Unified Reporting 論理パーティション ポリシーに関するレポートを生成します。Cisco Unified Reporting が生成するレポートの詳細については、『Cisco Unified Reporting Administration Guide』を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.32-50) を参照してください。

自動転送

ここでは、論理パーティションと自動転送機能とのインタラクションについて説明します。

動作

コールの発信側デバイスおよびコールの自動転送先デバイスの位置情報識別子間で、論理パーティションポリシーチェックが実行されます。

設定

発信側デバイスおよび転送元デバイスには、位置情報および位置情報フィルタが関連付けられます。

処理される状況

次の状況では、論理パーティションの処理が行われます。

- コールを別のデバイスに転送するデバイスの着信コールを受信すると、自動転送機能が呼び出される場合。
- デバイスの 1 つに、PSTN 参加者が指定されている場合。
- Cisco Unified Communications Manager が、着信側および転送元の Cisco Unified Communications Manager デバイスに関連付けられている位置識別子情報を使用して、論理パーティションポリシーチェックを実行する場合。
- 設定済みの論理パーティションポリシーが転送元 Cisco Unified Communications Manager デバイスに戻され、そのポリシーに従ってアクションが実行される場合。
- この処理は、Call Forward All (CFwdAll; 不在転送)、Call Forward No Answer (CFNA; 無応答時転送)、Call Forward Busy (CFB; 話中転送) など、あらゆる種類の自動転送に適用される。

処理されない状況

次の状況では、論理パーティションの処理は行われません。

- 発信側と転送元の両方のデバイスが VoIP 電話機 (DevType = Interior) である場合。
- 位置情報と位置情報フィルタがどのデバイスにも関連付けられていない場合。

拒否処理

論理パーティションは、次のようにコールの拒否を処理します。

- 発信側デバイスは、Cisco Unified Communications Manager からリオーダー音を受信します。
 - 原因コード = 63 "Service or option not available." を使用して、Q.850 準拠のデバイス (SCCP、H323、または MGCP デバイスが実行されている電話機) がクリアされます。
 - SIP ステータス コード = 503 "Service unavailable." を使用して、SIP 回線または SIP トランクがクリアされます。

追加情報

「関連項目」(P.32-50) を参照してください。

コール転送

ここでは、論理パーティションとコール転送機能とのインタラクションについて説明します。

動作

転送元として機能するデバイスの位置情報識別子と、転送先として機能するデバイスの位置情報識別子との間で、論理パーティション ポリシー チェックが実行されます。

設定

転送元デバイスおよび転送先デバイスには、位置情報および位置情報フィルタが関連付けられます。

処理される状況

次の状況では、論理パーティションの処理が行われます。

- 電話機が [転送] ソフトキーを使用してコールを転送するとき、[転送] キーをもう一度押すと転送機能が呼び出されて処理される場合。
- 同様に、転送機能の呼び出しを伴う他のメカニズム (たとえば、直接転送、オンフック転送、フック フラッシュ転送、CTI アプリケーション開始転送) が含まれている場合。
- 転送元および転送先、またはそのいずれかが PSTN 参加者である場合。
- Cisco Unified Communications Manager が、転送元および転送先の Cisco Unified Communications Manager デバイスに関連付けられている位置識別子情報を使用して、論理パーティション ポリシー チェックを実行する場合。
- この処理は通常、参加に先立ってプライマリ コールおよびセカンダリ コールを分割する前に実行される。

処理されない状況

次の状況では、論理パーティションの処理は行われません。

- 転送元と転送元の両方のデバイスが VoIP 電話機 (DevType = Interior) である場合。
- 位置情報と位置情報フィルタがどのデバイスにも関連付けられていない場合。

拒否処理

論理パーティションは、次のようにコールの拒否を処理します。

- 「外線転送を制限中」というメッセージを VoIP 電話機に送信します。
- 通常の転送：SCCP が実行されている電話機の場合、プライマリ コールが保留状態となり、打診コールがアクティブなままとなります。SIP が実行されている電話機の場合、プライマリ コールと打診コールの両方が保留状態となり、障害後に手動で再開する必要があります。
- オンフック、フックフラッシュ、およびアナログ電話機開始転送：Cisco Unified Communications Manager からのリオーダー音とともに、原因コード=63 "Service or option not available." を使用して、プライマリ コールとセカンダリ コールの両方がクリアされます。
- Number of Transfer Failures perfmon カウンタが増分されます。

Block OffNet to OffNet Transfer サービス パラメータとのインタラクション

Block OffNet to OffNet Transfer サービス パラメータを使用すると、転送元と転送先の両方がオフネット コールの場合に、転送機能で転送操作をブロックできます。

このサービス パラメータの詳細については、このガイドの「[External Call Transfer Restrictions 機能](#)」の章の「[Block OffNet to OffNet Transfer サービス パラメータの設定](#)」(P.23-8) を参照してください。

論理パーティションが無効になっている Cisco Unified Communications Manager クラスタでは、このサービス パラメータによって指定される所定の動作が保持されます。

論理パーティションが有効なクラスタ

論理パーティションが有効な Cisco Unified Communications Manager クラスタでは、次のようなポリシーを設定して、補足機能の位置情報ポリシー GLPolicyX を使用する複数の音声ゲートウェイ (PSTN) 参加者を許可するようにシステムを設定できます。

GLPolicyX Border GLPolicyX Border Allow

このようなポリシーを Cisco Unified Communications Manager で設定すると、(自動転送、任意転送、アドホック会議などの) すべての機能が、位置情報ポリシー GLPolicyX Border を使用する参加者間で有効になります。たとえば、GLPolicyX Border を使用する側からのコールを GLPolicyX Border を使用する相手側に自動転送できます。

Cisco Unified Communications Manager の導入には、これらの参加者に対して転送機能を除くすべての補足機能が機能することが必要であるとします。このような場合は、論理パーティションポリシーが許可されている場合でも、Block OffNet to OffNet Transfer サービス パラメータによって、オフネット デバイス間の転送をブロックできます。

このサービス パラメータはオフネット間の転送のブロックだけを制御し、その他の補足機能には影響しません。したがって、音声ゲートウェイ間の転送に関するシナリオについては、次の詳細で詳しく説明します。

詳細

1. ボーダー間論理パーティション ポリシーに拒否を指定

この位置情報ポリシーを使用する通話者間の転送操作の場合は、Cisco Unified Communications Manager によって転送が拒否されます。「外線転送を制限中」というメッセージが転送側に表示されます。

Block OffNet to OffNet Transfer サービス パラメータ用の Cisco Unified Communications Manager の設定 ([True] または [False]) は、転送操作には影響を及ぼしません。

論理パーティションの拒否ポリシーが優先され、Cisco Unified Communications Manager は厳密にこのポリシーに従います。

2. ボーダー間論理パーティションポリシーに許可を指定

この位置情報ポリシーを使用する通話者間の転送操作の場合は、許可ポリシーと Block OffNet to OffNet Transfer サービスパラメータの設定が、Cisco Unified Communications Manager によってチェックされます。したがって、このサービスパラメータは、オフネット参加者間の転送に影響を及ぼします。

- a. Block OffNet to OffNet Transfer サービスパラメータに [True] を指定：Cisco Unified Communications Manager は両方の通話者（転送元と転送先）がオフネットかどうかをチェックします。いずれもオフネットである場合、この通話の転送は拒否されます。また、「外線転送を制限中」というメッセージが転送側に表示されます。

サービスパラメータによって転送がブロックされるため、Serviceability の Logical Partitioning Transfer Failures perfmon カウンタは増分されません。

- b. Block OffNet to OffNet Transfer サービスパラメータに [False] を指定：転送に成功します。

デバイスのオフネット/オンネット動作

発信コールの場合は、[ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウの [コールの分類 (Call Classification)] 設定によって、オフネットまたはオンネットの値が決定されます。[ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウの [コールの分類 (Call Classification)] の値は、デバイスレベルの設定または Call Classification サービスパラメータの対応する値よりも優先されます。

着信コールの場合は、デバイスレベルの設定または対応する Call Classification サービスパラメータ値によって、オフネットまたはオンネットの値が決定されます。

追加情報

「関連項目」(P.32-50) を参照してください。

アドホック会議、参加、回線をまたいで参加 (JAL)

ここでは、論理パーティションと、アドホック会議、参加、および JAL 機能とのインタラクションについて説明します。

動作

確立中の会議：アドホック会議に招待されるデバイスの位置情報識別子間で、論理パーティションポリシーがチェックされます。

確立済みの会議：会議にすでに参加しているデバイスと、会議に招待されるデバイスの位置情報識別子間で、論理パーティションポリシーがチェックされます。

設定

参加デバイスには、位置情報および位置情報フィルタが関連付けられます。

会議ブリッジには、位置情報も位置情報フィルタも関連付ける必要がありません。参加者だけに関連付けます。ポリシーチェックは参加者に対して実行されます。

処理される状況

次の状況では、論理パーティションの処理が行われます。

- 電話機が、[会議] ソフトキーを使用して、アドホック会議または CTI アプリケーション開始アドホック会議を確立または延長する場合。
- [会議] キーをもう一度押すと、会議機能が呼び出されて処理される場合。

- Cisco Unified Communications Manager が、参加者位置識別子情報を使用して、ポリシーチェックを実行する場合。
- 確立済みの会議で、コール中の更新のために変更された参加者位置識別子情報に基づいて、再度ポリシーチェックが実行される場合。たとえば、応答へのアラート、保留/リモート再開、転送、コールパーク取得、リダイレクトなど、コール状態の変更時に、ポリシーチェックが実行されます。
- PSTN が参加している場合。

処理されない状況

次の状況では、論理パーティションの処理は行われません。

- すべての参加者が VoIP 電話機（DevType = Interior）である場合。
- 位置情報または位置情報フィルタがデバイスに関連付けられていないと、そのデバイスに対してポリシーチェックが実行されない場合。

拒否処理

論理パーティションは、次のように会議の拒否を処理します。

- 確立中の会議の場合、CFB は割り当てられません。
- SCCP が実行されている電話機または SIP が実行されている電話機の場合、プライマリコールレグが保留になり、打診コールがアクティブなままとなります。プライマリコールレグを再開する必要がある場合、再開は手動で行う必要があります。
- 「会議は使用できません」というメッセージが、会議を開始した VoIP 電話機に送信されます。
- アナログ電話機が会議を開始すると、Cisco Unified Communications Manager からのリオーダー音とともに、原因コード = 63 "Service or option not available." を使用して、セカンダリコールがクリアされます。
- Number of Adhoc Conference Failures perfmon カウンタが増分されます。

追加情報

「関連項目」(P.32-50) を参照してください。

ミーティング

ここでは、論理パーティションとミーティング機能とのインタラクションについて説明します。

動作

ミーティングにすでに参加しているデバイスと、その会議に参加しようとしているデバイスの位置情報識別子間で、論理パーティションポリシーがチェックされます。

設定

参加デバイスには、位置情報および位置情報フィルタが関連付けられます。

会議ブリッジには、位置情報も位置情報フィルタも関連付ける必要がないことに注意してください。参加者だけに関連付けます。ポリシーチェックは参加者に対して実行されます。

処理される状況

次の状況では、論理パーティションの処理が行われます。

- PSTN の参加には要件がある場合。
- 会議参加時のポリシー チェックがサポートされる場合。参加者がミーティング番号をダイヤルしてミーティングに参加するとき、その新規参加者にミーティングへの参加を許可する前に、参加者位置情報を使用してポリシー チェックが実行されます。
- 確立済みのミーティングで、コール中の更新（保留 / 再開、転送、割り込み、C 割り込み、コール パーク 取得など）時に、参加者の更新済みポリシーを使用してポリシー チェックが実行される場合。

処理されない状況

次の状況では、論理パーティションの処理は行われません。

- すべての参加者が VoIP 電話機（DevType = Interior）であるときに、処理が発生しない場合。
- 位置情報または位置情報フィルタがデバイスに関連付けられていないと、そのデバイスに対してポリシー チェックが実行されない場合。

拒否処理

論理パーティションは、次のようにコールの拒否を処理します。

- 「ミーティングは使用できません」というメッセージが VoIP 電話機に送信されます。
- 既存の会議は影響を受けません。
- Cisco Unified Communications Manager からのリオーダー音とともにコールがクリアされます。
 - 原因コード = 63 "Service or option not available." を使用して、Q.850 準拠のデバイス（SCCP、H323、または MGCP デバイスが実行されている電話機）がクリアされます。
 - SIP ステータス コード = 503 "Service unavailable." を使用して、SIP 回線または SIP トランクがクリアされます。
- Number of Meet-Me Conference Failures perfmon カウンタが増分されます。

追加情報

「関連項目」(P.32-50) を参照してください。

コール ピックアップ

ここでは、論理パーティションとコール ピックアップ機能とのインタラクションについて説明します。

動作

発信側デバイスの位置情報識別子と、コールをピックアップするデバイスの位置情報識別子との間で、論理パーティション ポリシーがチェックされます。

設定

ピックアップを試みる発信側デバイスおよび着信側デバイスのいずれにも、位置情報および位置情報フィルタが関連付けられます。

処理される状況

次の状況では、論理パーティションの処理が行われます。

- PSTN デバイスが VoIP 電話機 (A) をコールし、別の VoIP 電話機 (B) にその電話機に対するピックアップグループ関係がある場合 (いずれの電話機も、同じピックアップグループに属しているなど)。
- 電話機 B が [ピック]、[他 Grp]、[グループ ピックアップ]、[BLF ピックアップ] のいずれかのボタンを押してピックアップを試みると、ピックアップ機能が呼び出される場合。
- Cisco Unified Communications Manager が発信側デバイスの位置識別子情報とコールをピックアップするデバイスの位置識別子情報を使用して、ポリシー チェックを実行する場合。
- アラート コールが 1 つだけ発生すると、対応する論理パーティション ポリシーが最後のポリシーとして処理される場合。
- 複数のアラート コールが発生すると、アラート コールごとに論理パーティション ポリシーがチェックされる場合。チェックは最も長いアラート コールから始まり、論理パーティション ポリシーが許可されてコールがピックアップされるまで続きます。最後に処理されたアラート コールに論理パーティション拒否ポリシーがあり、これ以上アラート コールが発生しない場合は、拒否処理アクションが実行されます。

処理されない状況

次の状況では、論理パーティションの処理は行われません。

- 発信者が VoIP 電話機 (DevType = Interior) で構成されているときに、処理が発生しない場合。
- 位置情報または位置情報フィルタがデバイスに関連付けられていないときに、ポリシー チェックが実行されない場合。

拒否処理

論理パーティションは、次のようにピックアップの拒否を処理します。

- 「ピックアップは使用できません」というメッセージが、ピックアップを試みた VoIP 電話機に送信されます。
- アラート コールは影響を受けません。
- アラート コールが複数存在する場合 (許可ポリシーと拒否ポリシーが混在する場合)、拒否ポリシーがあるコールが最初のピックアップに失敗すると、Cisco Unified Communications Manager は次のアラート コールをピックアップして処理を続行します。
- Cisco Unified Communications Manager は、ピックアップを試みた電話機にリオーダー音を送信します。
 - 原因コード = 63 "Service or option not available." を使用して、Q.850 準拠のデバイス (SCCP が実行されている電話機) がクリアされます。
 - SIP ステータス コード = 503 "Service unavailable." を使用して、SIP 電話機がクリアされます。
- Number of Pickup Failures perfmon カウンタが増分されます。

追加情報

「関連項目」(P.32-50) を参照してください。

コールパークとダイレクトコールパーク

ここでは、論理パーティションと、コールパーク機能およびダイレクトコールパーク機能とのインタラクションについて説明します。

動作

コールを取得する側のデバイスの位置情報識別子と、パークされる側の位置情報識別子との間で、論理パーティションポリシーがチェックされます。

設定

取得の場合：パークされる側およびパーク取得を試みる側のデバイスには、位置情報および位置情報フィルタが関連付けられます。

復帰の場合：パークされる側および復帰が発生する側のデバイスには、位置情報および位置情報フィルタが関連付けられます。

処理される状況

次の状況では、論理パーティションの処理が行われます。

- パークされたコールが存在し、デバイスがパーク取得を試みると、パーク取得機能が呼び出される場合。
- パークされたコールが存在し、復帰タイマーの期限が切れると、パーク復帰機能が呼び出される場合。
- 参加者の 1 つが PSTN である必要がある場合。
- パーク取得では、Cisco Unified Communications Manager がパークされる側のデバイスの位置識別子情報と、パーク取得を実行する側のデバイスの位置識別子情報を使用して、ポリシーチェックを実行する場合。
- パーク復帰では、Cisco Unified Communications Manager がパークされる側のデバイスの位置識別子情報と、コールがダイレクトされる側のデバイスの位置識別子情報を使用して、ポリシーチェックを実行する場合。

処理されない状況

次の状況では、論理パーティションの処理は行われません。

- 参加しているデバイスが VoIP 電話機 (DevType = Interior) であるときに、処理が発生しない場合。
- 位置情報または位置情報フィルタがデバイスに関連付けられていないときに、ポリシーチェックが実行されない場合。

拒否処理

論理パーティションは、次のように取得 / 復帰の拒否を処理します。

- 取得の場合、「パークされているコールを取得できません」というメッセージが VoIP 電話機に送信されます。
- Cisco Unified Communications Manager は、取得を試みている電話機にリオーダー音を送信します。
 - 原因コード = 63 "Service or option not available." を使用して、Q.850 準拠のデバイス (SCCP、H323、または MGCP デバイスが実行されている電話機) がクリアされます。
 - SIP ステータスコード = 503 "Service unavailable." を使用して、SIP が実行されている電話機または SIP トランクがクリアされます。

- 復帰の場合、リオーダー音とともに、パークされたコールがクリアされます。
- Number of Park Retrieval Failures perfmon カウンタが増分されます（コールパークとダイレクトコールパークのいずれの取得も拒否される場合）。

追加情報

「関連項目」(P.32-50) を参照してください。

Cisco エクステンション モビリティ

ここでは、論理パーティションと Cisco エクステンション モビリティ機能とのインタラクションについて説明します。

動作

ユーザは、同じ Cisco Unified Communications Manager クラスタ内で Cisco エクステンション モビリティを使用して、VoIP 電話機にログインします。電話機からの着信コールまたは発信コールに対して、論理パーティションポリシーがチェックされます。

設定

Cisco エクステンション モビリティにログインする VoIP 電話機および PSTN アクセス デバイスのいずれにも、位置情報および位置情報フィルタが関連付けられます。

処理される状況

次の状況では、論理パーティションの処理が行われます。

- ユーザが、Cisco エクステンション モビリティを使用してデバイス プロファイルとは異なる位置情報のデバイスにログインし、ユーザ ホーム サイトのゲートウェイを使用して PSTN コールを発信するか、または着信 PSTN コールを取得する場合。
- Cisco Unified Communications Manager が、Cisco エクステンション モビリティにログインしたデバイスと PSTN ゲートウェイ デバイスの位置識別子情報を使用してポリシー チェックを実行する場合。
- 設定済みの論理パーティション ポリシーが発信 Cisco Unified Communications Manager デバイス層に戻され、そのポリシーに従ってアクションが実行される場合。

処理されない状況

次の状況では、論理パーティションの処理は行われません。

- 位置情報または位置情報フィルタが、Cisco エクステンション モビリティにログインする VoIP 電話機にも、発信側と着信側のデバイスにも関連付けられない場合。
- Cisco エクステンション モビリティにログインする VoIP 電話機がコールするか、または VoIP 電話機 (DevType = Interior) からのコールを取得する場合。

拒否処理

論理パーティションは、次のようにコールの拒否を処理します。

- Cisco エクステンション モビリティにログインしている VoIP 電話機が、論理パーティション単位で拒否する必要がある PSTN コールを発信した場合、そのコールはリオーダー音とともに拒否されます。
- Cisco エクステンション モビリティにログインしている VoIP 電話機が、論理パーティション単位で拒否する必要がある PSTN コールを取得した場合、そのコールはリオーダー音とともに拒否されます。

追加情報

「関連項目」(P.32-50) を参照してください。

Cisco Unified Mobility

ここでは、論理パーティションと Cisco Unified Mobility 機能とのインタラクションについて説明します。これらのインタラクションは、モバイル コネクトまたはモバイル ボイス アクセスを必要とするコールに適用されます。

動作

論理パーティションは、次のように Cisco Unified Mobility と通信します。

- **Single-Number-Reach (SNR; シングル ナンバー リーチ) コール**：発信側デバイスと、そのモバイル デバイスに接続する PSTN ゲートウェイとの間で、SNR コールに対して論理パーティション ポリシーがチェックされます。
- **セル ピックアップ**：固定電話からのセル ピックアップ操作は、リモート宛先のモバイル デバイスを接続している PSTN ゲートウェイに、接続済みのコールを参加させようとしています。コールに参加する前に、参加するデバイスの位置情報識別子を使用して、論理パーティション ポリシーがチェックされます。
- **モバイル ボイス アクセス**：着信ゲートウェイの位置情報識別子と着信側デバイスの位置情報識別子との間で、論理パーティション ポリシーがチェックされます。

設定

参加するデバイスおよび PSTN アクセス ゲートウェイには、位置情報および位置情報フィルタが関連付けられる必要があります。

処理される状況

次の状況では、論理パーティションの処理が行われます。

- シングル ナンバー リーチ (SNR) コール

Cisco Unified Mobility がエンタープライズ拡張用に設定され、VoIP 電話機または別の PSTN ゲートウェイから SNR に対するコールが取得される場合。

Cisco Unified Communications Manager が、着信側および発信側の Cisco Unified Communications Manager デバイスに関連付けられている位置識別子情報を使用して、論理パーティション ポリシー チェックを実行する場合。

設定済みの論理パーティション ポリシーが着信側 Cisco Unified Communications Manager デバイス層に戻され、そのポリシーに従ってアクションが実行される場合。

- セル ピックアップ

Cisco Unified Mobility がエンタープライズ拡張用に設定され、VoIP 電話機 (SNR) と別の VoIP 電話機または PSTN ゲートウェイ (接続される側) との間でコールがアクティブである場合。

VoIP 電話機 (SNR) が、モバイルへのセル ピックアップを実行して、携帯電話への到達に使用される PSTN ゲートウェイに、接続される側を参加させようとしている場合。

Cisco Unified Communications Manager が、PSTN ゲートウェイおよび接続される側に関連付けられている位置識別子情報を使用して、論理パーティション ポリシー チェックを実行する場合。

設定済みの論理パーティション ポリシーによって、セル ピックアップの操作が成功するか失敗するかが決定される場合。

- モバイル ボイス アクセス

Cisco Unified Mobility がエンタープライズ拡張用に設定され、携帯電話が PSTN ゲートウェイからエンタープライズ VoIP 電話機にコールする場合。

Cisco Unified Communications Manager が、発信側 PSTN ゲートウェイおよび着信側 VoIP 電話機に関連付けられている位置識別子情報を使用して、論理パーティション ポリシー チェックを実行する場合。

設定済みの論理パーティション ポリシーが着信側 Cisco Unified Communications Manager デバイス層に戻され、そのポリシーに従ってアクションが実行される場合。

処理されない状況

次の状況では、論理パーティションの処理は行われません。

- 位置情報または位置情報フィルタが、参加するデバイスに関連付けられていない場合。
- デュアルモードフォンが使用されるときには、論理パーティションがサポートされない場合。

拒否処理

論理パーティションは、次のようにコールの拒否を処理します。

- SNR およびモバイル ボイス アクセスの場合、リオーダー音とともにコールがクリアまたは拒否されます。
- セルピックアップの場合、接続される側と VoIP 電話機 (SNR) 間の元のコールが復元され、「携帯電話へコールを送信できません」というメッセージが VoIP 電話機に表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.32-50) を参照してください。

シェアドライン

ここでは、論理パーティションとシェアドライン機能とのインタラクションについて説明します。

動作

シェアドラインへのコールまたはシェアドラインからのコールでは、論理パーティション チェックに基本コールと同じ処理が使用されます。

Cisco Unified Communications Manager 上のシェアドライン デバイスは、Remote-In-Use (RIU; リモートで使用) 情報を表示するために、論理パーティション ポリシー チェックを実行します。接続される側の位置情報識別子と、RIU 情報を表示するシェアドライン デバイスとの間で、ポリシーがチェックされます。

設定

シェアドライン デバイスおよび PSTN アクセス デバイス (VoIP ゲートウェイ) には、位置情報および位置情報フィルタが関連付けられます。

処理される状況

基本コールで次の状況が発生した場合、論理パーティションの処理が行われます。

- 異なる位置情報をまたぐ VoIP 電話機のシェアドラインが存在し、いずれかの VoIP 電話機がローカル PSTN ゲートウェイを介して PSTN コールを発信または取得する場合。
- シェアドラインから PSTN ゲートウェイへのコールを完了するために、Cisco Unified Communications Manager が発信側シェアドライン電話機および着信側 PSTN ゲートウェイに関連付けられている位置識別子情報を使用して、論理パーティション ポリシー チェックを実行する場合。

- PSTN ゲートウェイからシェアドラインへのコールを完了するために、Cisco Unified Communications Manager が発信側 PSTN ゲートウェイおよび各着信側シェアドライン電話機に関連付けられている位置識別子情報を使用して、論理パーティション ポリシー チェックを実行する場合。
- 設定済みの論理パーティション ポリシーが着信側 Cisco Unified Communications Manager デバイス層に戻され、そのポリシーに従ってアクションが実行される場合。
- リモートで使用中 (RIU) 情報を表示するかどうかを決定するために、Cisco Unified Communications Manager がシェアドラインに関連付けられている各デバイスの位置識別子情報と、接続される側 (発信側または着信側) の位置識別子情報を使用して、論理パーティション ポリシー チェックを実行する場合。

処理されない状況

次の状況では、論理パーティションの処理は行われません。

- 発信側と着信側の両方のデバイスが VoIP 電話機 (DevType = Interior) であるときに、処理が発生しない場合。
- 位置情報または位置情報フィルタがデバイスに関連付けられていないときに、処理が発生しない場合。

拒否処理

論理パーティションは、次のようにコールの拒否を処理します。

- Cisco Unified Communications Manager は、発信側デバイスで許可されていない位置情報にある着信側シェアドライン デバイスへのコールをドロップします (またはコールを延長しません)。
- リモートで使用中状態のシェアドライン デバイスには、コール インスタンス情報が表示されません。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.32-50) を参照してください。

割り込み、C 割り込み、およびリモート再開

ここでは、論理パーティションと、割り込み、C 割り込み、およびリモート再開機能とのインタラクションについて説明します。

動作

シェアドラインでの割り込み、C 割り込み、またはリモート再開操作は、リモートで使用中 (RIU) 状態でコール インスタンス情報が入手できるかどうか依存します。

シェアドライン インタラクションに適用される同じ論理パーティション ポリシー チェックによって、RIU 情報が入手できるかどうか決定されます。

論理パーティション拒否の場合、制限されているシェアドラインでは RIU コール インスタンスが取り消されます。

設定

シェアドライン デバイスおよび PSTN アクセス デバイスには、位置情報および位置情報フィルタが関連付けられます。

処理される状況

次の状況では、論理パーティションの処理が行われます。

- 異なる位置情報をまたぐ VoIP 電話機のシェアラインが存在し、いずれかの VoIP 電話機がローカル PSTN ゲートウェイを介して PSTN コールを発信または取得する場合。
- リモートで使用中 (RIU) 情報の表示がシェアライン コール シナリオの場合と同じように処理される場合。
- アクティブ コールがシェアライン デバイスによって保留されている間、リモートの [解除] ボタンが使用できない場合。
- [割り込み] ボタンおよび [C 割込] ボタンが使用できないため、これらのシナリオが実行できない場合。

処理されない状況

次の状況では、論理パーティションの処理は行われません。

- 発信側と着信側の両方のデバイスが VoIP 電話機 (DevType = Interior) であるときに、論理パーティション ポリシー チェックが無視される場合。
- 位置情報または位置情報フィルタがデバイスに関連付けられていないときに、処理が発生しない場合。
- 会議やミーティングなどのアクティブな機能のために、接続される側が会議ブリッジとなり、会議に参加するすべてのデバイスに許可される位置情報がアクティブなシェアライン デバイスに関連付けられるときに、リモートで使用中のシェアライン デバイスにコールインスタンス情報が表示される場合。この場合、リモートで使用中の電話機では、許可されない参加者が会議に参加している場合も含め、常に C 割り込み / 割り込み機能を実行できます。C 割り込み / 割り込みの参加者の場合、論理パーティション ポリシー チェックが存在せず、論理パーティション拒否シナリオを防止できません。

拒否処理

論理パーティションは、次のようにコールの拒否を処理します。

- コールインスタンス情報は表示されません。

追加情報

「関連項目」(P.32-50) を参照してください。

ルート リストおよびハント パイロット

ここでは、論理パーティションと、ルート リストおよびハント パイロットとのインタラクションについて説明します。

動作

ルートリストの場合、デバイスから、ルート リストおよびルート グループに属しているゲートウェイまたは MGCP ポートへのコールが、参加する発信側デバイスおよび着信側デバイスの位置情報識別子に基づいて、論理パーティション ポリシーに照らしてチェックされます。

ハント パイロットの場合、PSTN デバイスから、ハント リストまたはハント グループに属している回線デバイスへのコールが、参加する発信側デバイスおよび着信側デバイスの位置情報識別子に基づいて、論理パーティション ポリシーに照らしてチェックされます。

設定

発信側デバイスおよび着信側デバイスには、位置情報および位置情報フィルタが関連付けられます。

処理される状況

次の状況では、論理パーティションの処理が行われます。

- VoIP 電話機または PSTN ゲートウェイからルート リストを経由して PSTN ゲートウェイに至る基本コールが実行される場合。
- PSTN ゲートウェイからハント リストを経由して一連の VoIP 電話機に至る基本コールが実行される場合。
- Cisco Unified Communications Manager が、着信側および発信側の Cisco Unified Communications Manager デバイスに関連付けられている位置識別子情報を使用して、論理パーティション ポリシー チェックを実行する場合。
- 設定済みの論理パーティション ポリシーが発信 Cisco Unified Communications Manager デバイス層に戻され、そのポリシーに従ってアクションが実行される場合。

処理されない状況

次の状況では、論理パーティションの処理は行われません。

- 発信側と着信側の両方のデバイスが VoIP 電話機 (DevType = Interior) であるときに、処理が発生しない場合。
- すべてのデバイスに位置情報と位置情報フィルタの両方を関連付ける必要がある場合。デバイスに位置情報も位置情報フィルタも関連付けられていない場合、処理は発生しません。

拒否処理

論理パーティションは、次のようにコールの拒否を処理します。

- Cisco Unified Communications Manager からのリオーダー音とともにコールがクリアまたは拒否されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.32-50) を参照してください。

CTI 処理

ここでは、論理パーティションと、参加またはリダイレクトを実行するすべての機能との CTI インタラクションについて説明します。

動作

PSTN ゲートウェイへのコール、参加、またはリダイレクトを伴うすべての操作に対して、論理パーティション ポリシーがチェックされ、次の状況で論理パーティションに障害が発生した場合は CTI エラーが生成されます。

- 基本コール
- 転送
- 会議
- パーク取得および類似した機能

設定

参加するデバイスには、位置情報および位置情報フィルタが関連付けられます。

処理される状況

次の状況では、論理パーティションの処理が行われます。

- デバイスの 1 つに、PSTN 参加者が指定されている場合。
- 操作のコンテキストで論理パーティション ポリシーがチェックされる場合。

処理されない状況

次の状況では、論理パーティションの処理は行われません。

- 位置情報または位置情報フィルタがデバイスに関連付けられていないときに、処理が発生しない場合。
- 参加しているすべてのデバイスが VoIP 電話機 (DevType = Interior) であるときに、処理が発生しない場合。

拒否処理

論理パーティションは、次のように操作ベースの CTI 原因コードを生成して、コールの拒否を処理します。

- 基本コール : CTICCMSIP503SERVICENOTAVAILABL
- リダイレクト : CTIERR_REDIRECT_CALL_PARTITIONING_POLICY
- 参加、転送、会議、およびその他 : CTIERR_FEATURE_NOT_AVAILABLE

追加情報

「[関連項目](#)」(P.32-50) を参照してください。

制限

論理パーティションには、次の制限事項があります。

- UPDATE での SIP トランク User Agent Server (UAS; ユーザ エージェント サーバ) ロケーション伝達
UAS は、UPDATE 要求を使用して、着信側の位置情報を User Agent Client (UAC; ユーザ エージェント クライアント) に通知します。これは通常、180 Ringing の後に発生します。この位置情報を受信する論理パーティション対応クラスターで実行される論理パーティションポリシー チェックでは、ポリシーが拒否されると、コールがキャンセルされることがあります。使いやすいエンド ユーザ エクスペリエンスが実現されない可能性があります。
- 会議チェーンで会議をまたぐ参加者に対しては、論理パーティション チェックがサポートされません。
たとえば、ミーティングおよびアドホックの会議チェーンには、論理パーティション拒否の参加者が参加できます。
- Q.SIG クラスター間トランク (ICT) に関する制限
Q.SIG プロトコルが設定された ICT では、発信側デバイスまたは着信側デバイスの位置情報を通知できないことに注意してください。Q.SIG トンネル化プロトコルが選択されたときには、[位置情報の送信 (Send Geolocation Information)] の ICT 設定が無効になります。
- シェアードライン アクティブ コール情報
論理パーティションが制限されるシナリオでは、ある機能によってシェアードライン コールが許可カテゴリに移動される場合でも、シェアードラインはコール期間中にアクティブ コール情報をドロップします。

- C 割り込み / 割り込み

割り込み / C 割り込みは発生しません。接続される側の論理パーティション拒否ポリシーに基づいて、シェアドラインではこれらの機能を試行できないようにしているためです (コールインスタンスはドロップされます)。

ただし、会議やミートミーなどのアクティブな機能のために、接続される側が会議ブリッジとなり、会議に参加するすべてのデバイスに許可される位置情報がアクティブなシェアドラインデバイスに関連付けられるときは、リモートで使用中のシェアドラインデバイスにコールインスタンス情報が表示されます。この場合、リモートで使用中の電話機では、許可されない参加者が会議に参加している場合も含め、常に C 割り込み / 割り込み機能を実行できます。C 割り込み / 割り込みの参加者の場合、論理パーティションポリシーチェックが存在せず、論理パーティション拒否シナリオを防止できません。

- Cisco Unified Communications Manager は、位置情報を H.323 ゲートウェイまたは MGCP ゲートウェイに通知しません。

SIP トランクのチェックボックスに基づいて、SIP ゲートウェイへの通知を無効にすることができます。

- Cisco Unified Communications Manager は、H.225 ゲートキーパー制御によるトランクでは位置情報を通知しません。

シナリオ : Cisco Unified Communications Manager 1 は論理パーティションが有効なままですが、Cisco Unified Communications Manager 2 は論理パーティションが無効なままとなります。

CCM1 の電話機 A が、(ICT トランクまたは SIP トランクを使用して) CCM2 の電話機 B をコールします。

電話機 B が会議を要請し、PSTN を会議に招待します。

制限 : 会議が確立されます。

電話機 B がオンフックになると、電話機 A と Cisco Unified Communications Manager 2 の PSTN 間のコールがリオーダー音とともにクリアされます。

- モビリティセルピックアップ : 携帯電話でコールに応答すると、論理パーティション拒否処理が実行されます。

コールが携帯電話に発信される前に、論理パーティションポリシーチェックは発生しません (基本 SNR コールの場合には発生します)。現在の仕様により、論理パーティションポリシーがチェックされるのは、携帯電話がコールに応答すると実行される SsJoinReq 処理の後だけです。

- Cisco エクステンションモビリティは、位置情報が異なる電話機にログインします。

ローカルルートグループの設定時に、発信 PSTN コールが発生することがあります。

着信 PSTN コールは電話機に対して発信されませんが、リオーダー音を受信します。

- 論理パーティションポリシーでは、BLF SD または BLF ピックアッププレゼンス通知はチェックされません。

現在、通知用には論理パーティションインフラストラクチャが追加されません。

自動転送で障害が発生しても、RTMT Number of Forwarding Failures perfmon カウンタは増分されません。その代わりに、Number of Basic Call Failures perfmon カウンタが増分されます。

- IOS H.323 ゲートウェイおよび SIP ゲートウェイでは、コールの接続がリリースされても、補足機能実行時の論理パーティションポリシーにより、リオーダー音が発生しません。

例

IOS SIP ゲートウェイまたは H.323 ゲートウェイの背後にある Remote Destination (RD; リモート接続先) の電話機が、VoIP 電話機 A をコールします。

認証の完了後、RD 電話機が電話機 C にコールを発信しますが、論理パーティション制限ポリシーにより、コールが拒否されます。

原因コード = 63 "Service or option not available." で RD 電話機へのコールがクリアされますが、その RD 電話機へのリオーダー音は再生されません。



(注) この原因コードは、すべての論理パーティション障害に共通のコードです。

この動作は、CONNECT 状態後はリオーダー音を再生しないという IOS ゲートウェイ側の仕様制限により発生します。CONNECT 状態後に再生される唯一の音は、17 (話し中) または 44 (使用可能な回線なし) です。

同じような制限が、フックフラッシュやオンフック転送などの補足機能に適用されます。

- 論理パーティションで障害が発生した場合にコールをボイスメールに自動転送するための設定は存在しません。
- 論理パーティション拒否で障害が発生しても、アナウンスは発生しません。
- Cisco Unified Communications Manager は、Cisco Unified MeetingPlace または Cisco Unified MeetingPlace Express に関連するコールの論理パーティション機能をサポートしていません。

追加情報

「関連項目」(P.32-50) を参照してください。

論理パーティションの設定

この項は、次の内容で構成されています。

- 「位置情報の設定」(P.32-41)
- 「位置情報フィルタの設定」(P.32-42)
- 「論理パーティションポリシーの設定」(P.32-42)



ヒント

論理パーティションを設定する前に、「論理パーティションの設定チェックリスト」(P.32-2) を確認してください。

追加情報

「関連項目」(P.32-50) を参照してください。

位置情報の設定

位置情報を設定するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションを使用します。

位置情報の設定の詳細については、「位置情報の設定」(P.24-10) を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.32-50) を参照してください。

位置情報フィルタの設定

位置情報フィルタを設定するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [システム (System)] > [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] メニュー オプションを使用します。

位置情報フィルタの設定の詳細については、「[位置情報フィルタの設定](#)」(P.24-18) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.32-50) を参照してください。

論理パーティションポリシーの設定

論理パーティション ポリシーを設定するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [コールルーティング (Call Routing)] > [論理パーティションポリシーの設定 (Logical Partitioning Policy Configuration)] メニュー オプションを使用します。

論理パーティション ポリシーの設定については、次の項を参照してください。

- 「[論理パーティションポリシーの検索](#)」(P.32-42)
- 「[論理パーティションポリシーの設定](#)」(P.32-43)
- 「[論理パーティションポリシー レコードの削除](#)」(P.32-44)
- 「[論理パーティションポリシー ペア設定の削除](#)」(P.32-45)
- 「[論理パーティションポリシー ペア設定の更新](#)」(P.32-45)
- 「[\[論理パーティションポリシーの設定 \(Logical Partitioning Policy Configuration\) \] の設定](#)」(P.32-45)

追加情報

「[関連項目](#)」(P.32-50) を参照してください。

論理パーティションポリシーの検索

ネットワークに複数の論理パーティション ポリシーが存在することがあるため、Cisco Unified Communications Manager では指定した条件に基づいて論理パーティション ポリシーを検索できます。Cisco Unified Communications Manager データベースで特定の論理パーティション ポリシーを検索するには、次の手順に従います。



(注)

ブラウザセッションでの作業中は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで論理パーティションポリシーの検索プリファレンスが保持されます。他のメニュー項目に移動してこのメニュー項目に戻った場合でも、検索を変更するかブラウザを閉じない限り、論理パーティションポリシーの検索プリファレンスは Cisco Unified Communications Manager の管理ページで保持されています。

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [論理パーティションポリシーの設定 (Logical Partitioning Policy Configuration)] を選択します。

[ポリシーの検索と一覧表示 (Find and List Policies)] ウィンドウが表示されます。ウィンドウには、アクティブな (前の) クエリーのレコードが表示される場合もあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空になっていることを確認し、**ステップ 3**に進みます。

特定のレコードをフィルタリングまたは検索するには、次の操作を実行します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスで、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索文字を入力します。



(注) 別の検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加した場合は、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして、最後に追加された条件を削除するか、または [フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加されたすべての検索条件を削除します。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

条件に一致するレコードがすべて表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスで別の値を選択すると、表示される項目数を変更できます。



(注) 適切なレコードの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、データベースから複数のレコードを削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 表示されたレコード リストから、目的のレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順を逆にするには、リストのヘッダーにある上矢印または下矢印をクリックします (使用可能な場合)。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.32-50) を参照してください。

論理パーティション ポリシーの設定

論理パーティション ポリシーを追加または更新するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [論理パーティションポリシーの設定 (Logical Partitioning Policy Configuration)] を選択します。

[ポリシーの検索と一覧表示 (Find and List Policies)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの手順を実行します。

- 新しい論理パーティション ポリシーを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。

[論理パーティションポリシーの設定 (Logical Partitioning Policy Configuration)] ウィンドウが表示されます。

- 論理パーティション ポリシーを更新するには、「[論理パーティション ポリシーの検索 \(P.32-42\)](#)」の説明に従って特定の論理パーティション ポリシーを検索します。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 32-4 を参照)。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

論理パーティション ポリシーを追加した場合は、ウィンドウの一番下にあるリスト ボックスに新しい論理パーティション ポリシーが含まれています。

追加情報

「[関連項目 \(P.32-50\)](#)」を参照してください。

論理パーティション ポリシー レコードの削除

既存の論理パーティション ポリシー レコードを削除するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [論理パーティションポリシーの設定 (Logical Partitioning Policy Configuration)] を選択します。

[ポリシーの検索と一覧表示 (Find and List Policies)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定の論理パーティション ポリシーを検索するには、検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。

検索条件に一致した位置情報フィルタ論理パーティション ポリシーが表示されます。

ステップ 3 次のいずれかの操作を実行します。

- 削除する論理パーティション ポリシーの横のチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
- [すべてを選択 (Select All)] をクリックし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックして、ウィンドウ内のすべての論理パーティション ポリシーを削除します。
- 削除する論理パーティション ポリシー名をリストから選択し、[削除 (Delete)] をクリックします。

確認のダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 [OK] をクリックします。

このレコードに指定した論理パーティション ポリシーおよびすべてのペア ポリシーが削除されます。

追加情報

「[関連項目 \(P.32-50\)](#)」を参照してください。

論理パーティション ポリシー ペア設定の削除

この場合、論理パーティション ポリシー レコードを選択し、そのレコードの設定ウィンドウを表示します。

ポリシーは現在ペアで設定されています。例を示します。

GLP-1 Border GLP-2 Interior Allow

GLP-1 Border GLP-3 Interior Allow

2 つ目のポリシーを削除する必要がある場合は、2 つ目のポリシーを選択し、[デフォルトポリシーの使用 (Use Default Policy)] 設定を選択します。

保存すると、ポリシーの対応するペアがポリシーのマトリクスから削除されます。

GLP-1 レコードには変更が加えられないことに注意してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.32-50) を参照してください。

論理パーティション ポリシー ペア設定の更新

この場合、論理パーティション ポリシー レコードを選択し、そのレコードの設定ウィンドウを表示します。

ポリシーは現在ペアで設定されています。例を示します。

GLP-1 Border GLP-2 Interior Allow

GLP-1 Border GLP-3 Interior Allow

2 つ目のポリシーを更新する必要がある場合は、2 つ目のポリシーを選択し、[ポリシー (Policy)] 設定で [許可 (Allow)] または [拒否 (Deny)] を指定します。

保存すると、ポリシーの対応するペアがポリシーのマトリクスから更新されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.32-50) を参照してください。

[論理パーティションポリシーの設定 (Logical Partitioning Policy Configuration)] の設定

次のエンティティ間に必須の相互接続動作には、論理パーティション ポリシーを設定します。

- PSTN ゲートウェイと VoIP 電話機
- PSTN ゲートウェイと PSTN ゲートウェイ
- クラスタ間トランク (ICT) と VoIP 電話機
- ICT と VoIP ゲートウェイ

System Default Policy エンタープライズ パラメータ (デフォルト値 = DENY) は、設定済みのポリシーが見つからない場合のデフォルトのポリシーです。

[論理パーティションポリシーの設定 (Logical Partitioning Policy Configuration)] ウィンドウ (Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [コールルーティング (Call Routing)] > [論理パーティションポリシーの設定 (Logical Partitioning Policy Configuration)] メニュー オプション) で、管理者は位置情報に設定されているフィールドのサブセットから位置情報ポリシー レコードを作成する必要があります。

論理パーティション ポリシーは、位置情報ポリシー レコードとデバイス タイプのペア間に設定します。

許可ポリシーと拒否ポリシーを設定します。設定の詳細については、「許可ポリシーおよび拒否ポリシー」(P.32-6) を参照してください。

例を含め論理パーティション ポリシーの詳細については、「論理パーティション ポリシー」(P.32-12) を参照してください。

表 32-4 に、論理パーティション ポリシーの設定に使用する設定項目を示します。

表 32-4 [論理パーティションポリシーの設定 (Logical Partitioning Policy Configuration)] の設定

フィールド	説明
論理パーティションポリシーの設定 (Logical Partitioning Policy Configuration)	
[名前 (Name)]	この論理パーティション ポリシーの一意の名前を入力します (1 ~ 50 文字)。 引用符 (")、右山カッコ (>)、左山カッコ (<)、バックslash (\)、アンパサンド (&)、およびパーセント記号 (%) を除くすべての文字を使用できます。
[説明 (Description)]	この論理パーティション ポリシーの説明を入力します。
[国 (Country)]	ドロップダウン リスト ボックスから、この論理パーティション ポリシーの国を選択します。この論理パーティション ポリシーにこのフィールドを指定しない場合は、[なし] (<None>)] にしておくことができます。
A1	ドロップダウン リスト ボックスから、この論理パーティション ポリシーの A1 値を選択します。この論理パーティション ポリシーにこのフィールドを指定しない場合は、[なし] (<None>)] にしておくことができます。
A2	ドロップダウン リスト ボックスから、この論理パーティション ポリシーの A2 値を選択します。この論理パーティション ポリシーにこのフィールドを指定しない場合は、[なし] (<None>)] にしておくことができます。
A3	ドロップダウン リスト ボックスから、この論理パーティション ポリシーの A3 値を選択します。この論理パーティション ポリシーにこのフィールドを指定しない場合は、[なし] (<None>)] にしておくことができます。
A4	ドロップダウン リスト ボックスから、この論理パーティション ポリシーの A4 値を選択します。この論理パーティション ポリシーにこのフィールドを指定しない場合は、[なし] (<None>)] にしておくことができます。
A5	ドロップダウン リスト ボックスから、この論理パーティション ポリシーの A5 値を選択します。この論理パーティション ポリシーにこのフィールドを指定しない場合は、[なし] (<None>)] にしておくことができます。
A6	ドロップダウン リスト ボックスから、この論理パーティション ポリシーの A6 値を選択します。この論理パーティション ポリシーにこのフィールドを指定しない場合は、[なし] (<None>)] にしておくことができます。

表 32-4 [論理パーティションポリシーの設定 (Logical Partitioning Policy Configuration)] の設定

フィールド	説明
PRD	ドロップダウン リスト ボックスから、この論理パーティションポリシーの PRD 値を選択します。この論理パーティションポリシーにこのフィールドを指定しない場合は、[<なし> (<None>)] にしておくことができます。
POD	ドロップダウン リスト ボックスから、この論理パーティションポリシーの POD 値を選択します。この論理パーティションポリシーにこのフィールドを指定しない場合は、[<なし> (<None>)] にしておくことができます。
STS	ドロップダウン リスト ボックスから、この論理パーティションポリシーの STS 値を選択します。この論理パーティションポリシーにこのフィールドを指定しない場合は、[<なし> (<None>)] にしておくことができます。
HNO	ドロップダウン リスト ボックスから、この論理パーティションポリシーの HNO 値を選択します。この論理パーティションポリシーにこのフィールドを指定しない場合は、[<なし> (<None>)] にしておくことができます。
HNS	ドロップダウン リスト ボックスから、この論理パーティションポリシーの HNS 値を選択します。この論理パーティションポリシーにこのフィールドを指定しない場合は、[<なし> (<None>)] にしておくことができます。
LMK	ドロップダウン リスト ボックスから、この論理パーティションポリシーの LMK 値を選択します。この論理パーティションポリシーにこのフィールドを指定しない場合は、[<なし> (<None>)] にしておくことができます。
LOC	ドロップダウン リスト ボックスから、この論理パーティションポリシーの LOC 値を選択します。この論理パーティションポリシーにこのフィールドを指定しない場合は、[<なし> (<None>)] にしておくことができます。
FLR	ドロップダウン リスト ボックスから、この論理パーティションポリシーの FLR 値を選択します。この論理パーティションポリシーにこのフィールドを指定しない場合は、[<なし> (<None>)] にしておくことができます。
NAM	ドロップダウン リスト ボックスから、この論理パーティションポリシーの NAM 値を選択します。この論理パーティションポリシーにこのフィールドを指定しない場合は、[<なし> (<None>)] にしておくことができます。
PC	ドロップダウン リスト ボックスから、この論理パーティションポリシーの PC 値を選択します。この論理パーティションポリシーにこのフィールドを指定しない場合は、[<なし> (<None>)] にしておくことができます。

表 32-4 [論理パーティションポリシーの設定 (Logical Partitioning Policy Configuration)] の設定

フィールド	説明
[設定済みポリシー (Configured Policies)]	
[デバイスタイプ (Device Type)]	<p>この論理パーティションポリシーと別の（または同じ）論理パーティションポリシーとの関係を設定すると、その設定した関係用に新しい行が 1 つ、このペインに表示されます。このカラムには、この関係に現在設定されている論理パーティションポリシーのデバイスタイプが表示されます。</p> <p>(注) このペインには、[デフォルトポリシーの使用 (Use Default Policy)] を指定しない関係だけが表示されます。</p>
[位置情報ポリシー (Geolocation Policy)]	<p>この論理パーティションポリシーと別の（または同じ）論理パーティションポリシーとの関係を設定すると、その設定した関係用に新しい行が 1 つ、このペインに表示されます。このカラムには、この関係の他の位置情報ポリシーが表示されます。</p> <p>(注) このペインには、[デフォルトポリシーの使用 (Use Default Policy)] を指定しない関係だけが表示されます。</p>
[他のデバイスタイプ (Other Device Type)]	<p>この論理パーティションポリシーと別の（または同じ）論理パーティションポリシーとの関係を設定すると、その設定した関係用に新しい行が 1 つ、このペインに表示されます。このカラムには、この関係に設定されている他の論理パーティションポリシーのデバイスタイプが表示されます。</p> <p>(注) このペインには、[デフォルトポリシーの使用 (Use Default Policy)] を指定しない関係だけが表示されます。</p>
[ポリシー (Policy)]	<p>この論理パーティションポリシーと別の（または同じ）論理パーティションポリシーとの関係を設定すると、その設定した関係用に新しい行が 1 つ、このペインに表示されます。このカラムには、この関係に設定されている論理パーティションポリシー値が表示されます。</p> <p>(注) このペインには、[デフォルトポリシーの使用 (Use Default Policy)] を指定しない関係だけが表示されます。</p>
[他の位置情報ポリシーへの関係を設定 (Configure Relationship to other Geo Location Policies)]	
[デバイスタイプ (Device Type)]	<p>この論理パーティションポリシーと他の位置情報ポリシーとの関係を設定するには、ドロップダウンリストボックスから、次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [ボーダー (Border)] : デバイスが PSTN トランク、ゲートウェイ、および MGCP ポートである場合には、このデバイスタイプを選択します。 [内部 (Interior)] : デバイスが VoIP 電話機または内部のエンドポイントである場合には、このデバイスタイプを選択します。 <p>(注) 各デバイスタイプ（ボーダーまたは内部）に関連付けることができる Cisco Unified Communications Manager デバイスのリストについては、表 32-2 を参照してください。</p>

表 32-4 [論理パーティションポリシーの設定 (Logical Partitioning Policy Configuration)] の設定

フィールド	説明
[位置情報ポリシー (Geolocation Policy)]	この論理パーティションポリシーとその位置情報ポリシーとの関係を設定するには、このペインで別の位置情報ポリシーの名前を選択します。
[他のデバイスタイプ (Other Device Type)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、[位置情報ポリシー (Geolocation Policy)] カラムで選択した他の位置情報ポリシーのデバイスタイプを選択します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [ボーダー (Border)] : デバイスが PSTN トランク、ゲートウェイ、および MGCP ポートである場合には、このデバイスタイプを選択します。 [内部 (Interior)] : デバイスが VoIP 電話機または内部のエンドポイントである場合には、このデバイスタイプを選択します。 <p>(注) 各デバイスタイプ (ボーダーまたは内部) に関連付けることができる Cisco Unified Communications Manager デバイスのリストについては、表 32-2 を参照してください。</p>
[ポリシー (Policy)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、この論理パーティションポリシーと [位置情報ポリシー (Geolocation Policy)] カラムで選択した位置情報ポリシーとの間に適用するポリシーを選択します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [デフォルトポリシーの使用 (Use Default Policy)] : Logical Partitioning Default Policy エンタープライズパラメータに指定されているデフォルトのポリシーを適用するには、この値を選択します。 [許可 (Allow)] : この論理パーティションポリシーと他の位置情報ポリシーとの間に許可ポリシーを指定するには、この値を選択します。 [拒否 (Deny)] : この論理パーティションポリシーと他の位置情報ポリシーとの間に拒否ポリシーを指定するには、この値を選択します。

追加情報

「関連項目」(P.32-50) を参照してください。

以前のリリースからのアップグレード時の論理パーティション設定

リリース 7.1(2) よりも前のリリースから Cisco Unified Communications Manager をアップグレードするときは、論理パーティション設定に関連付けられているエンティティに次の値が割り当てられます。

- Enable Logical Partitioning エンタープライズ パラメータは [False] となります。
- Logical Partitioning Default Policy エンタープライズ パラメータは [拒否 (Deny)] となります。
- 位置情報
 - 位置情報テーブルには、設定済みの位置情報レコードが存在しません。
 - Default Geolocation エンタープライズ パラメータは**未指定**です。
 - デバイス プールでは、位置情報の値が [なし (None)] となります。
 - デバイスでは、位置情報の値が [デフォルト (Default)] となります。
- 位置情報フィルタ
 - 位置情報フィルタ テーブルには、設定済みの位置情報フィルタ レコードが存在しません。
 - Logical Partitioning Default Filter エンタープライズ パラメータは [なし (None)] となります。
 - デバイス プールでは、位置情報フィルタの値が [なし (None)] となります。
 - デバイスでは、位置情報フィルタの値が [なし (None)] となります。
- 論理パーティション ポリシー
 - 設定済みの位置情報ポリシー レコードおよびポリシーが、位置情報ポリシー テーブルおよび位置情報ポリシー マトリクス テーブルに存在しません。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.32-50) を参照してください。

論理パーティションのトラブルシューティング

論理パーティションのトラブルシューティングの詳細については、*Cisco Unified Communications Manager Troubleshooting Guide* を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.32-50) を参照してください。

関連項目

- 「[論理パーティションの設定チェックリスト](#)」(P.32-2)
- 「[論理パーティションの概要](#)」(P.32-4)
- 「[インド通信規制の適用](#)」(P.32-6)
- 「[これまでの経緯](#)」(P.32-7)
- 「[論理パーティションアーキテクチャの概要](#)」(P.32-8)

- 「論理パーティションでの位置情報および位置情報フィルタの使用」 (P.32-9)
- 「シェアドラインおよびルートリストでの論理パーティション位置情報の使用」 (P.32-10)
- 「論理パーティション用のエンタープライズ パラメータ」 (P.32-11)
- 「論理パーティション ポリシー」 (P.32-12)
- 「LPPolicyManager およびポリシー ツリー」 (P.32-13)
- 「論理パーティション ポリシー検索アルゴリズム」 (P.32-16)
- 「ポリシー マッチング」 (P.32-18)
- 「ポリシー拒否の処理」 (P.32-19)
- 「LPSession インフラストラクチャおよびポリシー チェック」 (P.32-19)
- 「基本コール用の論理パーティション処理」 (P.32-20)
- 「取得した位置情報の論理パーティション処理」 (P.32-21)
- 「論理パーティションと、SIP トランクおよびクラスタ間トランクをまたぐ位置情報伝達とのインタラクション」 (P.32-21)
- 「論理パーティション機能とコール中位置情報変更とのインタラクション」 (P.32-22)
- 「論理パーティションの SIP トランクまたはクラスタ間トランク設定要件」 (P.32-22)
- 「論理パーティションのシステム要件」 (P.32-23)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.32-24)
- 「インタラクション」 (P.32-24)
- 「自動転送」 (P.32-25)
- 「コール転送」 (P.32-26)
- 「アドホック会議、参加、回線をまたいで参加 (JAL)」 (P.32-28)
- 「ミーティング会議」 (P.32-29)
- 「コール ピックアップ」 (P.32-30)
- 「コール パークとダイレクト コール パーク」 (P.32-32)
- 「Cisco エクステンション モビリティ」 (P.32-33)
- 「Cisco Unified Mobility」 (P.32-34)
- 「シェアドライン」 (P.32-35)
- 「割り込み、C 割り込み、およびリモート再開」 (P.32-36)
- 「ルートリストおよびハント パイロット」 (P.32-37)
- 「CTI 処理」 (P.32-38)
- 「制限」 (P.32-39)
- 「論理パーティションの設定」 (P.32-41)
- 「位置情報の設定」 (P.32-41)
- 「位置情報フィルタの設定」 (P.32-42)
- 「論理パーティションポリシーの設定」 (P.32-42)
- 「[論理パーティションポリシーの設定 (Logical Partitioning Policy Configuration)] の設定」 (P.32-45)
- 「以前のリリースからのアップグレード時の論理パーティション設定」 (P.32-50)
- 「論理パーティションのトラブルシューティング」 (P.32-50)

■ 関連項目

- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[デバイスプールの設定](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[エンタープライズパラメータの設定](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[CTI ルートポイントの設定](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[ゲートウェイの設定](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[Cisco Unified IP Phone の設定](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[トランクの設定](#)」

■ 参考資料

- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』
- 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』
- 『Cisco Unified Communications Manager Call Detail Records Administration Guide』
- 『Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool Administration Guide』
- 『Cisco Unified Reporting Administration Guide』
- 『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド』
- 『Cisco Unified Communications Solution Reference Network Design (SRND) for Cisco Unified Communications Manager』
- 『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』
- 『Cisco Unified Communications Manager Assistant User Guide』



CHAPTER 33

迷惑呼 ID

この章では、迷惑呼 ID 機能に関する次の情報について説明します。

- 「迷惑呼 ID の設定チェックリスト」 (P.33-1)
- 「迷惑呼 ID の概要」 (P.33-3)
- 「迷惑呼 ID のシステム要件」 (P.33-4)
- 「迷惑呼 ID をサポートするデバイス」 (P.33-4)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.33-5)
- 「迷惑呼 ID のインストール」 (P.33-7)
- 「迷惑呼 ID の設定」 (P.33-7)
- 「迷惑呼 ID のトラブルシューティング」 (P.33-11)
- 「関連項目」 (P.33-12)

迷惑呼 ID の設定チェックリスト

Malicious Call Identification (MCID; 迷惑呼 ID) を使用すると、Cisco Unified Communications Manager にネットワーク内の着信コールの発信元を特定し登録するように要求することによって、悪意のあるコールを報告できます。

インターネットワーク サービスである迷惑呼 ID (MCID) を使用すると、ユーザは、悪意のあるコールを受信したときに、一連のイベントを開始できます。悪意のあるコールを受け取ったユーザは、そのコールへの接続中にソフトキーまたは機能ボタンを使用することにより、MCID 機能を呼び出すことができます。MCID サービスはすぐに、そのコールに悪意のあるコールのフラグを設定し、Cisco Unified Communications Manager 管理者にアラームで通知します。MCID サービスは MCID 通知で Call Detail Records (CDR; 呼詳細レコード) にフラグを設定し、悪意のあるコールが進行中だという通知をオフネット PSTN に送信します。

■ 迷惑呼 ID の設定チェックリスト

表 33-1 は、迷惑呼 ID を設定するためのチェックリストです。迷惑呼 ID の詳細については、「迷惑呼 ID の概要」(P.33-3) および「関連項目」(P.33-12) を参照してください。

表 33-1 MCID の設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 CDR サービス パラメータを設定します。	「迷惑呼 ID のサービス パラメータの設定」(P.33-7) 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サービス パラメータの設定」
ステップ 2 アラームを設定します。	「迷惑呼 ID のアラームの設定」(P.33-8) 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』
ステップ 3 ユーザがソフトキーを使用して MCID にアクセスする場合は、ソフトキーテンプレートに Toggle Malicious Call Trace (MCID) ソフトキーを設定します。 (注) Cisco Unified IP Phone 8900 および 9900 シリーズは、機能ボタンのみがある MCID をサポートします。	「迷惑呼 ID 用のソフトキー テンプレートの追加」(P.33-8) 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ソフトキー テンプレートの設定」
ステップ 4 MCID ソフトキー テンプレートを IP Phone に割り当てます。	「ユーザへの迷惑呼 ID 機能の提供」(P.33-9) 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
ステップ 5 ユーザが機能ボタンを使用して MCID にアクセスする場合は、電話ボタンテンプレートに迷惑呼 ID 機能を設定します。	「迷惑呼 ID 用の電話ボタン テンプレートの追加」(P.33-10) 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話ボタン テンプレートの設定」
ステップ 6 MCID 電話ボタン テンプレートを IP Phone に割り当てます。	「ユーザへの迷惑呼 ID 機能の提供」(P.33-11) 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
ステップ 7 迷惑呼 ID 機能が使用可能であることをユーザに通知します。	ユーザが Cisco Unified IP Phone で迷惑呼 ID 機能にアクセスする方法については、電話機のマニュアルを参照してください。

迷惑呼 ID の概要

迷惑呼 ID (MCID) 補足サービスを使用すると、Cisco Unified Communications Manager にネットワーク内の着信コールの発信元を特定し登録するように要求することによって、悪意のあるコールを報告できます。

インターネットワーク サービスである迷惑呼 ID (MCID) を使用すると、ユーザは、悪意のあるコールを受信したときに、一連のイベントを開始できます。悪意のあるコールを受け取ったユーザは、そのコールへの接続中にソフトキーまたは機能コードを使用することにより、MCID 機能呼び出しを呼び出すことができます。MCID サービスはすぐに、そのコールに悪意のあるコールのフラグを設定し、Cisco Unified Communications Manager 管理者にアラームで通知します。MCID サービスは MCID 通知で呼詳細レコード (CDR) にフラグを設定し、悪意のあるコールが進行中だという通知をオフネット PSTN に送信します。

システムは PSTN への PRI 接続を使用する際に、ISDN PRI サービスである MCID サービスをサポートします。MCID サービスには次の 2 つのコンポーネントが含まれています。

- MCID-O : ユーザの要求に応じて機能呼び出し、接続されたネットワークへ呼び出し要求を送信する発信側コンポーネント。
- MCID-T : 接続されたネットワークから呼び出し要求を受信し、サービスを実行できるかどうかを示す成功メッセージまたは失敗メッセージで応答する着信側コンポーネント。



(注) Cisco Unified Communications Manager は、発信側コンポーネントだけをサポートしています。

Cisco Unified Communications Manager での迷惑呼 ID 機能の使用

MCID 機能は、いたずら電話や脅迫電話を追跡する便利な方法を提供します。ユーザがこの種のコールを受信した場合、Cisco Unified Communications Manager システム管理者は、そのユーザの電話機に [迷惑呼] ソフトキーを追加する新規ソフトキーテンプレート割り当てることができます。SCCP ゲートウェイに接続されている POTS 電話機の場合、ユーザはフックフラッシュを使用し、機能コード *39 を入力して MCID 機能呼び出しを呼び出すことができます。

MCID 機能を使用すると、次のアクションが実行されます。

1. ユーザが脅迫電話を受け取り、[迷惑呼] を押します (あるいは、機能コード *39 を入力します)。
2. Cisco Unified Communications Manager は、MCID 通知の受信応答として、デバイスでトーンを再生できる場合はユーザに確認トーンを送信し、電話機にディスプレイがある場合はテキストメッセージを表示します。
3. Cisco Unified Communications Manager は、そのコールの CDR を更新し、そのコールを悪意のあるコールとして登録するという指示を反映させます。
4. Cisco Unified Communications Manager は、イベント情報を持つアラームおよびローカルの syslog エントリを生成します。
5. Cisco Unified Communications Manager は、ファシリティメッセージを使用して、接続されたネットワークへ MCID 呼び出しを送信します。ファシリティの Information Element (IE; 情報要素) は、MCID 呼び出しをエンコードします。
6. この通知の受信後、PSTN またはその他の接続されたネットワークが、当局へのコール情報の提供などのアクションを実行します。

迷惑呼 ID のシステム要件

迷惑呼 ID サービスが機能するには、Cisco Unified Communications Manager 5.0 以降が必要です。次のゲートウェイおよび接続が MCID サービスをサポートしています。

- T1 (NI2) および E1 (ETSI) 接続用に MGCP PRI バックホール インターフェイスを使用する PRI ゲートウェイ
- H.323 トランクとゲートウェイ

Cisco ATA 186 アナログ電話ポートは、機能コード (*39) の使用による MCID をサポートしています。

どの IP Phone が MCID 機能をサポートするかを判断するには、「[迷惑呼 ID をサポートするデバイス](#)」(P.33-4) を参照してください。

迷惑呼 ID をサポートするデバイス

MCID をサポートする IP Phone の完全なリストを作成するには、Cisco Unified Reporting アプリケーションを使用します。そのためには、次の手順に従います。

1. 次のいずれかの方法を使用して、Cisco Unified Reporting を起動します。

Web アプリケーションへのアクセスを許可されるまで、ユーザの認証には Cisco Tomcat サービスが使用されます。アプリケーションには次の方法でアクセスできます。

- Cisco Unified Communications Manager の管理ページのナビゲーションメニューで [Cisco Unified Reporting] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool (RTMT) メニューで [File] > [Cisco Unified Reporting] の順に選択します。
- `https://<サーバ名または IP アドレス>:8443/cucreports/` と入力し、認証済みのユーザ名とパスワードを入力します。

2. ナビゲーションバーで、[System Reports] をクリックします。
3. 左側のカラムに表示されたレポートのリストで、[Unified CM Phone Feature List] オプションをクリックします。
4. [Generate a new report] リンクをクリックして新規レポートを生成するか、または、レポートがすでに存在する場合は、[Unified CM Phone Feature List] リンクをクリックします。
5. MCID がサポートされているすべての IP Phone のレポートを生成するには、各ドロップダウンリストボックスから次の設定を選択し、[Submit] ボタンをクリックします。

[Product] : [All]

[Feature] : [Malicious Call Identification]

[List Features] ペインに、MCID 機能をサポートするすべてのデバイスのリストが表示されます。カラムの見出し ([Product] または [Protocol]) の隣にある上下の矢印キーをクリックして、リストをソートできます。

Cisco Unified Reporting アプリケーションの詳細については、次の URL の『*Cisco Unified Reporting Administration Guide*』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html

インタラクションおよび制限事項

次の項では、迷惑呼 ID におけるインタラクションおよび制限事項について説明します。

- 「[インタラクション](#)」 (P.33-5)
- 「[制限事項](#)」 (P.33-6)

インタラクション

次の各項では、迷惑呼 ID が Cisco Unified Communications Manager アプリケーションおよびコール処理と通信する方法について説明します。

- 「[電話会議](#)」 (P.33-5)
- 「[エクステンション モビリティ](#)」 (P.33-5)
- 「[呼詳細レコード](#)」 (P.33-5)
- 「[アラーム](#)」 (P.33-5)

電話会議

会議に接続されている場合、ユーザは MCID 機能を使用して、コールに悪意のあるコールのフラグを設定できます。Cisco Unified Communications Manager は MCID 指示をユーザに送信し、アラームを生成し、CDR を更新します。ただし、Cisco Unified Communications Manager は、会議に含まれている可能性のある接続されたネットワークへは MCID 呼び出しメッセージを送信しません。

エクステンション モビリティ

エクステンション モビリティのユーザは、ユーザデバイス プロファイルの一部として MCID ソフトキーを持ち、電話機にログインしているときにこの機能を使用することができます。

呼詳細レコード

CDR を使用して悪意のあるコールを追跡するには、Cisco CallManager サービス パラメータで CDR Enabled Flag を [True] に設定する必要があります。コール中に MCID 機能を使用すると、そのコールの CDR の Comment フィールドに「CallFlag=MALICIOUS」と記されます。

アラーム

MCID 機能のアラームを [Local Syslogs] に記録するには、Cisco Unified サービスアビリティでアラームを設定する必要があります。[Local Syslogs] の下で、「Informational」アラーム イベントレベルのアラームを有効にします。

コール中に MCID 機能を使用すると、SDL トレースと Cisco Unified Communications Manager トレースがアラームに記録されます。Alarm Event Log は、Cisco Unified サービスアビリティを使用して表示できます。トレースは次の情報を提供します。

- 日付と時刻
- イベントのタイプ：情報
- 情報：迷惑呼 ID 機能が Cisco Unified Communications Manager で呼び出されました。

- 着信側の番号
- 着信側デバイス名
- 着信側の表示名
- 発信側の番号
- 発信側デバイス名
- 発信側の表示名
- アプリケーション ID
- クラスタ ID
- ノード ID

アラームとトレースの詳細については、『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』を参照してください。

制限事項

迷惑呼 ID には、次の制限事項があります。

- Cisco Unified Communications Manager は、迷惑呼 ID の発信機能 (MCID-O) だけをサポートしています。Cisco Unified Communications Manager は、迷惑呼 ID の着信機能 (MCID-T) をサポートしていません。Cisco Unified Communications Manager が迷惑呼 ID のネットワークから通知を受信した場合、Cisco Unified Communications Manager はその通知を無視します。
- Cisco Unified Communications Manager は MCID-T 機能をサポートしていないため、MCID がクラスタ間トランクにまたがって機能できません。
- Cisco MGCP FXS ゲートウェイは MCID をサポートしていません。フックフラッシュを受け入れて MGCP で機能コードを収集するメカニズムは存在しません。
- MCID は QSIG 標準ではないので、QSIG トランクでは機能しません。
- Cisco VG248 Analog Phone Gateway は MCID をサポートしていません。
- Skinny Client Control Protocol (SCCP) IP Phone は、ソフトキーを使用して MCID 機能を呼び出します。
- MCID は SIP トランクをサポートしません。

設定の詳細については、「[迷惑呼 ID の設定](#)」(P.33-7) を参照してください。

迷惑呼 ID のインストール

システム機能の迷惑呼 ID は、Cisco Unified Communications Manager ソフトウェアに標準で備わっています。MCID は、特にインストールまたはアクティブ化する必要はありません。

迷惑呼 ID の設定

この項の内容は次のとおりです。

- 「迷惑呼 ID のサービス パラメータの設定」 (P.33-7)
- 「迷惑呼 ID のアラームの設定」 (P.33-8)
- 「迷惑呼 ID 用のソフトキー テンプレートの追加」 (P.33-8)
- 「ユーザへの迷惑呼 ID 機能の提供」 (P.33-9)
- 「ユーザからの迷惑呼 ID 機能の削除」 (P.33-10)
- 「迷惑呼 ID 用の電話ボタン テンプレートの追加」 (P.33-10)
- 「ユーザへの迷惑呼 ID 機能の提供」 (P.33-11)



ヒント

迷惑呼 ID を設定する前に、「[迷惑呼 ID の設定チェックリスト](#)」 (P.33-1) を参照してください。

迷惑呼 ID のサービス パラメータの設定

Cisco Unified Communications Manager で MCID インジケータを使用して CDR のフラグを設定できるようにするには、CDR フラグを使用可能にする必要があります。CDR を有効にするには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。
- ステップ 2** Cisco Unified Communications Manager サーバの名前を選択します。
- ステップ 3** [サービス (Service)] フィールドで、[Cisco CallManager] を選択します。[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** CDR がまだ有効になっていない場合は、[System] 領域で [CDR Enabled Flag] フィールドを [True] に設定します。
- ステップ 5** その変更を加える必要がある場合は、[保存 (Save)] をクリックします。

迷惑呼 ID のアラームの設定

MCID アラーム情報が [Local Syslogs] に表示されるようにするには、アラーム イベント レベルを有効にする必要があります。MCID のアラームをアクティブにするには、Cisco Unified サービスアビリティで次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** それには、[ナビゲーション (Navigation)] ドロップダウン リスト ボックスから [Cisco Unified サービスアビリティ (Cisco Unified Communications Manager Administration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。Cisco Unified サービスアビリティ が表示されます。
 - ステップ 2** [Alarm] > [Configuration] を選択します。[Alarm Configuration] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 3** サーバ リストから、Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。
 - ステップ 4** [Configured Services] リスト ボックスで、[Cisco CallManager] を選択します。[Alarm Configuration] ウィンドウが更新され、設定フィールドが反映されます。
 - ステップ 5** [Local Syslogs] の下で、[Alarm Event Level] ドロップダウン リストから [Informational] を選択します。
 - ステップ 6** [Local Syslogs] の下で、[Enable Alarm] チェックボックスをオンにします。
 - ステップ 7** クラスタ内のすべてのノードに対してアラームを有効にするには、[Apply to All Nodes] チェックボックスをオンにします。
 - ステップ 8** 情報アラームをオンにするには、[Update] をクリックします。
-

追加情報

「関連項目」(P.33-12) を参照してください。

迷惑呼 ID 用のソフトキー テンプレートの追加

[迷惑呼] ソフトキーをテンプレートに追加するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] の順に選択します。[ソフトキーテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Softkey Templates)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** [新規追加 (Add New)] ボタンをクリックします。[ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 3** [ベースとするソフトキーテンプレート (Create a softkey template based on)] フィールドで、[Standard User] を選択します。
 - ステップ 4** [コピー (Copy)] をクリックします。[ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウが最新表示され、新しいフィールドが表示されます。
 - ステップ 5** [ソフトキーテンプレート情報 (Softkey Template Information)] の [名前 (Name)] フィールドに、これが MCID ソフトキー テンプレートであることを示す名前を入力します。

- ステップ 6** [説明 (Description)] フィールドに、これが MCID ソフトキー テンプレートであることを示す説明を入力します。
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。[ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウが最新表示され、追加の設定フィールドが反映されます。
- ステップ 8** [ソフトキーレイアウトの設定 (Configure Softkey Layout)] 関連リンク ボックスの横にある [移動 (Go)] ボタンをクリックします。[ソフトキーレイアウト設定 (Softkey Layout Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 9** [コールステートの選択 (Select a call state to configure)] フィールドで、[接続時 (Connected)] を選択します。[選択されていないソフトキー (Unselected Softkeys)] のリストが変更され、このコール状態で使用できるソフトキーが表示されます。
- ステップ 10** [選択されていないソフトキー (Unselected Softkeys)] リストで、[Toggle Malicious Call Trace (MCID)] を選択します。
- ステップ 11** [選択されたソフトキー (Selected Softkeys、位置順)] リストにソフトキーを移動するには、右矢印をクリックします。
- ステップ 12** ソフトキー テンプレートの設定を確定するには、[保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.33-12) を参照してください。

ユーザへの迷惑呼 ID 機能の提供

ユーザに迷惑呼 ID 機能を提供するには、ユーザの IP Phone に MCID ソフトキー テンプレートを割り当てます。



(注)

ソフトキーを使用できる電話機を持っていないユーザに対しては、機能コード情報を与え、機能呼び出す方法を説明します。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 電話機設定を検索するには、適切な電話機検索情報を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3** 更新する電話機を選択します。
- ステップ 4** [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] フィールドに移動し、ドロップダウン リストから、作成した MCID ソフトキー テンプレートを選択します。
- ステップ 5** 変更をデータベースに保存するには、[保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 6** 変更を電話機でアクティブにするため、[リセット (Reset)] をクリックします。
- ステップ 7** 迷惑呼 ID 機能が使用可能であることをユーザに通知します。

追加情報

「関連項目」(P.33-12) を参照してください。

ユーザからの迷惑呼 ID 機能の削除

ユーザから迷惑呼 ID 機能を削除するには、ユーザの IP Phone に別のソフトキー テンプレートを割り当てます。

手順

- ステップ 1 [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2 電話機設定を検索するには、適切な電話機検索情報を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3 更新する電話機を選択します。
- ステップ 4 [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] フィールドに移動し、ドロップダウン リストから、MCID のないソフトキー テンプレートを選択します。
- ステップ 5 変更をデータベースに保存するには、[保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 6 変更を電話機でアクティブにするため、[リセット (Reset)] をクリックします。
- ステップ 7 迷惑呼 ID 機能を使用できなくなったことをユーザに通知します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.33-12) を参照してください。

迷惑呼 ID 用の電話ボタン テンプレートの追加

[迷惑呼] ボタンを電話ボタン テンプレートに追加するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] の順に選択します。[電話ボタンテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Phone Button Templates)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2 [新規追加 (Add New)] ボタンをクリックします。[電話ボタンテンプレートの設定 (Phone Button Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3 [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] ドロップダウン リストで、IP Phone の電話ボタンテンプレートを選択します。
- ステップ 4 [コピー (Copy)] をクリックします。[電話ボタンテンプレートの設定 (Phone Button Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5 [ボタンテンプレート名 (Button Template Name)] フィールドに、これが MCID 電話ボタン テンプレートであることを示す名前を入力します。
- ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。[電話ボタンテンプレートの設定 (Phone Button Template Configuration)] ウィンドウが新しいフィールドで再表示されます。
- ステップ 7 MCID 機能を割り当てる回線ボタン (たとえば、ボタン 3) を選択します。

- ステップ 8** 選択した回線ボタンのドロップダウン リスト ボックスから、[迷惑呼 ID(Malicious Call Identification)] を選択します。
- ステップ 9** [保存 (Save)] をクリックします。[電話ボタンテンプレートの設定 (Phone Button Template Configuration)] ウィンドウが更新されます。

追加情報

「関連項目」(P.33-12) を参照してください。

ユーザへの迷惑呼 ID 機能の提供

ユーザに迷惑呼 ID 機能を提供するには、ユーザの IP Phone に MCID 電話ボタン テンプレートを割り当てます。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 電話機設定を検索するには、適切な電話機検索情報を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3** 更新する電話機を選択します。
- ステップ 4** [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] フィールドに移動し、ドロップダウン リストから、作成した MCID 電話ボタン テンプレートを選択します。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックして、変更内容をデータベースに保存します。
- ステップ 6** 変更を電話機でアクティブにするため、[リセット (Reset)] をクリックします。
- ステップ 7** 迷惑呼 ID 機能が使用可能であることをユーザに通知します。

追加情報

「関連項目」(P.33-12) を参照してください。

迷惑呼 ID のトラブルシューティング

迷惑呼 ID 機能の追跡とトラブルシューティングを支援するために、Cisco Unified Communications Manager SDL トレースおよびアラームを使用できます。

これらのトレースとアラームの使用方法については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.33-12) を参照してください。

関連項目

- 「迷惑呼 ID の設定チェックリスト」 (P.33-1)
- 「迷惑呼 ID の概要」 (P.33-3)
- 「迷惑呼 ID のシステム要件」 (P.33-4)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.33-5)
- 「迷惑呼 ID のインストール」 (P.33-7)
- 「迷惑呼 ID の設定」 (P.33-7)
- 「迷惑呼 ID のトラブルシューティング」 (P.33-11)
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ソフトキーテンプレートの設定」
- 「迷惑呼 ID の設定チェックリスト」 (P.33-1)
- 「迷惑呼 ID のサービス パラメータの設定」 (P.33-7)
- 「迷惑呼 ID 用のソフトキー テンプレートの追加」 (P.33-8)
- 「迷惑呼 ID のアラームの設定」 (P.33-8)
- 「ユーザへの迷惑呼 ID 機能の提供」 (P.33-9)
- 「ユーザからの迷惑呼 ID 機能の削除」 (P.33-10)

参考資料

- 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』
- 『Cisco Unified IP Phone Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager』
- Cisco Unified IP Phone のユーザ資料とリリース ノート (すべてのモデル)



CHAPTER 34

モニタリングと録音

コールセンターでは、コールセンターのエージェントが提供するカスタマー サービスの品質を保証できる必要があります。法的責任から自社を保護するために、コールセンターでは、エージェントとお客様との会話をアーカイブできる必要があります。

サイレント コール モニタリング機能を使用すると、スーパーバイザは、エージェントとお客様との会話を傍受することができます。エージェントにもお客様にも、スーパーバイザの音声は聞こえません。

コール録音機能を使用すると、システム管理者や許可を受けた担当者は、エージェントとお客様との会話をアーカイブできます。

Cisco Unified Communications Manager は、1つのクラスター内でだけ、サイレント コール モニタリング機能とコール録音機能をサポートしています。

サイレント コール モニタリング機能とコール録音機能は、Cisco Unified Communications Manager の一般的な機能です。シスコでは、モニタリングと録音が可能なアプリケーションを利用できるすべての配置またはインストール環境からこれらの機能を使用できるようにしています。このマニュアルの説明では、コールモニタリングとコール録音のセッションに関与する当事者を指すときに、スーパーバイザ、エージェント、およびお客様などの用語を使用します。

次のトピックでは、サイレント コール モニタリングとコール録音について説明します。

- 「モニタリングと録音の設定チェックリスト」 (P.34-1)
- 「モニタリングと録音の概要」 (P.34-3)
- 「モニタリングと録音のシステム要件」 (P.34-60)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.34-61)
- 「モニタリングと録音の設定」 (P.34-65)
- 「関連項目」 (P.34-77)

モニタリングと録音の設定チェックリスト

コールセンターでは、コールセンターのエージェントが提供するカスタマー サービスの品質を保証できる必要があります。法的責任から自社を保護するために、コールセンターでは、エージェントとお客様との会話をアーカイブできる必要があります。

サイレント コール モニタリング機能を使用すると、スーパーバイザは、エージェントとお客様との会話を傍受することができます。エージェントにもお客様にも、スーパーバイザの音声は聞こえません。コール録音機能を使用すると、システム管理者や許可を受けた担当者は、エージェントとお客様との会話をアーカイブできます。

■ モニタリングと録音の設定チェックリスト

表 34-1 の手順は、モニタリングと録音を設定するのに必要なアクションを要約しています。モニタリングと録音の詳細については、「[モニタリングと録音の概要](#)」(P.34-3) および「[関連項目](#)」(P.34-77) を参照してください。

表 34-1 モニタリングと録音の設定チェックリスト

	設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1	モニタリングまたは録音を可能にするために IP Phone の BIB をオンにします。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 Cisco Unified IP Phone の設定 」
ステップ 2	モニタリングまたは録音アプリケーションのユーザを追加します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 アプリケーションユーザの設定 」
ステップ 3	モニタリングと録音が可能なグループにユーザを追加します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 アプリケーションユーザの設定 」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 ユーザグループの設定 」
ステップ 4	オプション。モニタリングまたは録音のトーンを設定します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 サービスパラメータの設定 」
ステップ 5	モニタリング用コーリングサーチスペースの DN を設定します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 電話番号の設定 」
ステップ 6	ラインアピランスに対して録音を有効にします。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 電話番号の設定 」
ステップ 7	録音プロファイルを作成します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 録音プロファイルの設定 」
ステップ 8	オプション。録音用の SIP プロファイルを作成します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 SIP プロファイルの設定 」
ステップ 9	レコーダをポイントする SIP トランクを作成します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 トランクの設定 」
ステップ 10	レコーダ用のルートパターンを作成します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 ルートパターンの設定 」
ステップ 11	レコーダの冗長性を設定します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 トランクの設定 」

モニタリングと録音の概要

次のトピックでは、コールモニタリングとコール録音の概要について説明します。

- 「コールモニタリングとコール録音に関する用語」(P.34-3)
- 「コール録音の概要」(P.34-4)
- 「モニタリングと録音のアーキテクチャ」(P.34-4)
- 「コールモニタリングとコール録音をサポートするデバイス」(P.34-6)
- 「コールモニタリングの概要」(P.34-8)
- 「コール録音の概要」(P.34-16)
- 「モニタリングコールと録音コールのコール特性」(P.34-56)

コールモニタリングとコール録音に関する用語

このマニュアルでは、コールモニタリングとコール録音について説明する際に、次の用語を使用しています。

- エージェント：お客様からのコールを受けるコールセンターの従業員。
- コールモニタリング：Cisco Unified Communications Manager の機能で、監視する側が他の通話者の会話を聞くことや、その会話に参加することを可能にします。
- コール録音：Cisco Unified Communications Manager の機能で、録音デバイスで他の通話者の会話を録音することを可能にします。
- お客様：このマニュアルでは、コールセンターにコールする発信者を指します。
- ローカルストリーム：エージェントからお客様へのメディアストリーム。
- レコーダ：録音する側。
- 録音アプリケーション：録音が可能なアプリケーションのことで、録音セッションを呼び出します。
- リモートストリーム：お客様からエージェントへのメディアストリーム。
- スーパーバイザ：エージェントのスーパーバイザ。スーパーバイザは、エージェントとお客様とのコールを監視できます。
- スーパーバイザデスクトップアプリケーション：モニタリングが可能なアプリケーションのことで、モニタリングセッションを呼び出すときに使用されます。
- サイレントモニタリング：コールモニタリングのモードの 1 つ。Cisco Unified Communications Manager サイレントモニタリング機能を使用すると、監視する側（スーパーバイザ）は、近端側（エージェント）と遠端側（お客様）との会話を聞くことができます。近端側にも遠端側にも、監視する側の音声は聞こえません。

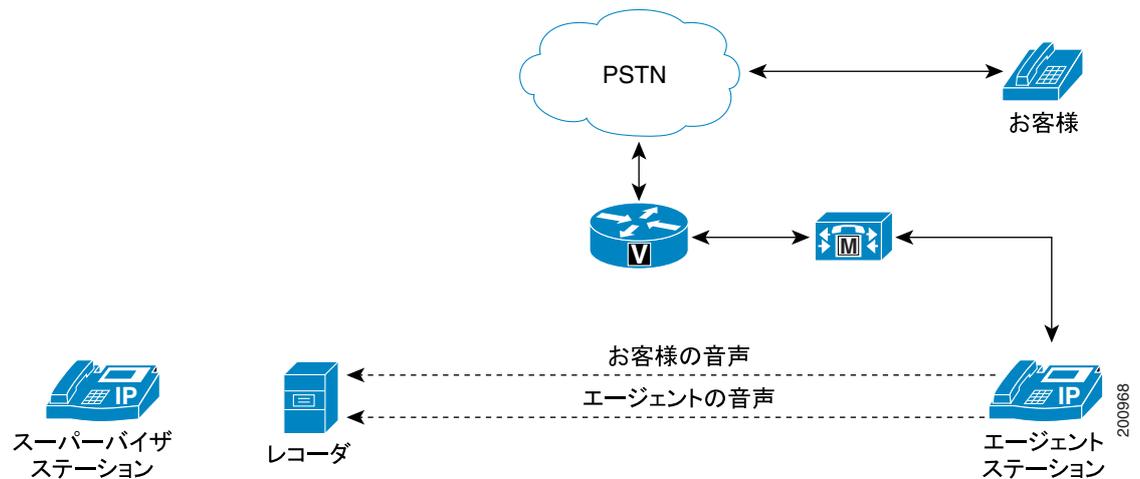
コール録音の概要

コール録音は、コールセンターでエージェントの会話をアーカイブする機能です。コール録音には次の種類が存在します。

- 完全録音：エージェントのすべてのコールが自動的に録音されます。
- 選択録音：エージェントのコールの一部だけが録音されます。

図 34-1 に、コール録音を示します。

図 34-1 コール録音の概要



モニタリングと録音のアーキテクチャ

コールモニタリングとコール録音は、コールセンターの重要な機能です。従来のコールセンターと環境が異なる場合は、企業が直面する法律上または品質上の要件を満たすために、コールモニタリングとコール録音を使用することがあります。

コールモニタリングとコール録音は、さまざまなアーキテクチャによって実現できます。Cisco Unified Communications Manager では、IP Phone ベースのアーキテクチャを使用して、コールモニタリングとコール録音を実現しています。IP Phone ベースのアーキテクチャには、次の機能があります。

- IP Phone ベースのコールモニタリング：エージェントの電話機が、エージェントの音声とお客様の音声を混合して、スーパーバイザの電話機に送信します。
- IP Phone ベースのコール録音：エージェントの電話機が、2つのストリームをレコーダに送信します。1つはエージェントの音声で構成される録音ストリーム、もう1つはお客様の音声で構成される録音ストリームです。

リリース 8.5(1) における SIP ヘッダー拡張の詳細については、「[コール録音用の SIP ヘッダー拡張](#)」(P.34-18) を参照してください。

図 34-2 に、モニタリングと録音に関する IP Phone ベースのアーキテクチャを示します。この図では、青色の線がエージェントの音声ストリームを示し、赤色の線がお客様の音声ストリームを示しています。緑色の線は、お客様の音声とエージェントの音声とが混合されたストリームを示し、このストリームはスーパーバイザに送信されます。

図 34-2 モニタリングと録音に関する IP Phone ベースのアーキテクチャ

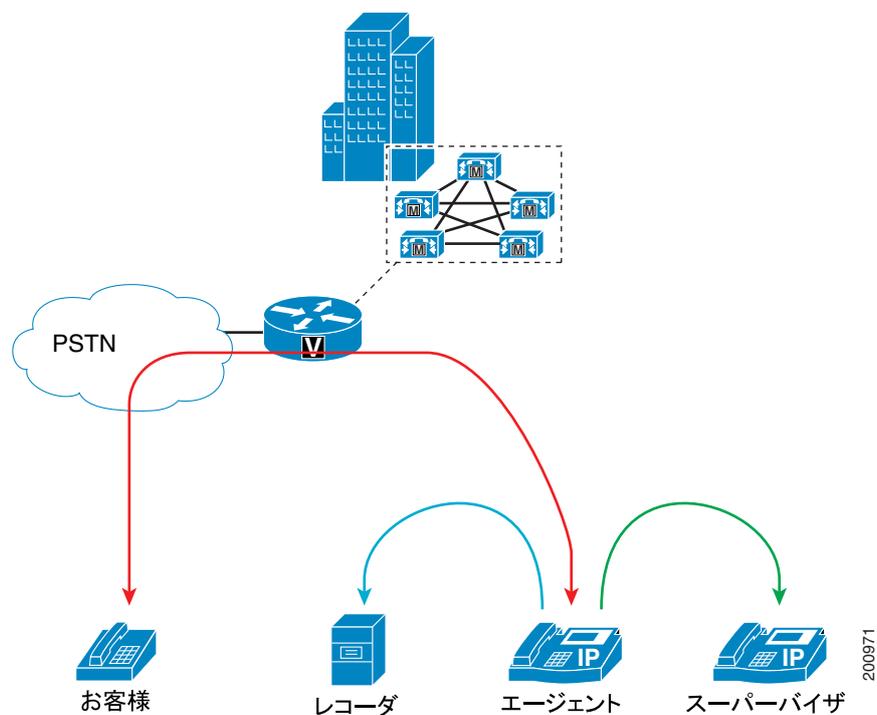
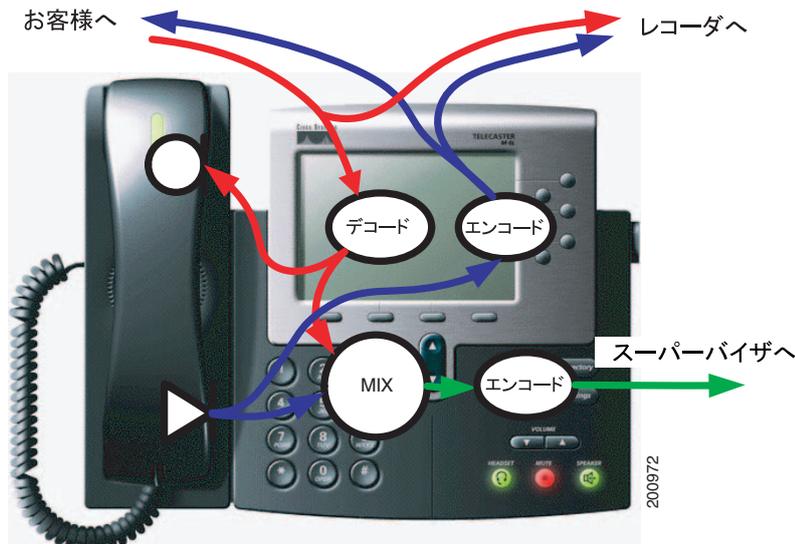


図 34-3 に、エージェントの IP Phone からのストリーミングを示します。この図では、青色の線がエージェントの音声ストリームを示し、赤色の線がお客様の音声ストリームを示しています。緑色の線は、お客様の音声とエージェントの音声とが混合されたストリームを示し、このストリームはスーパーバイザへ送信されます。

図 34-3 IP Phone ベースのモニタリングと録音を使用したエージェントの IP Phone からのストリーミング



コール モニタリング機能とコール録音機能を使用する場合は、次の領域で特定の要件を満たす必要があります。

- CTI/JTAPI/TSP
- コール処理
- Cisco Unified Communications Manager の管理
- Cisco Unified Communications Manager データベース
- IP Phone のファームウェア

コール モニタリングとコール録音をサポートするデバイス

この項では、コール モニタリングとコール録音をサポートする各種のデバイスについて説明します。

エージェントのデバイス

エージェントのデバイスは、モニタリング用にメディアを混合し、録音用にメディアを送信できる必要があります。

モニタリングおよび録音機能をサポートするデバイスのリストは、バージョンおよびデバイスパックごとに異なります。

Cisco Unified Reporting アプリケーションでは、特定のリリースおよびデバイス パックのモニタリングおよび録音機能をサポートするデバイスの全リストを生成できます。そのためには、次の手順に従います。

1. 次のいずれかの方法を使用して、Cisco Unified Reporting を起動します。

Web アプリケーションへのアクセスを許可されるまで、ユーザの認証には Cisco Tomcat サービスが使用されます。アプリケーションには次の方法でアクセスできます。

- Cisco Unified Communications Manager の管理ページのナビゲーション メニューで [Cisco Unified Reporting] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool (RTMT) メニューで [File] > [Cisco Unified Reporting] の順に選択します。
- `https://<サーバ名または IP アドレス>:8443/cucreports/` と入力し、認証済みのユーザ名とパスワードを入力します。

2. ナビゲーション バーで、[System Reports] をクリックします。

3. 左側のカラムに表示されたレポートのリストで、[Unified CM Phone Feature List] オプションをクリックします。

4. [Generate a new report] リンクをクリックして新規レポートを生成するか、または、レポートがすでに存在する場合は、[Unified CM Phone Feature List] リンクをクリックします。

5. モニタリング機能をサポートするすべてのデバイスのレポートを生成するには、対応するドロップダウン リスト ボックスから次の設定を選択し、[Submit] ボタンをクリックします。

[Product] : [All]

[Feature] : [Monitor]

[List Features] ペインに、モニタリング機能をサポートするすべてのデバイスのリストが表示されます。カラムの見出し ([Product] または [Protocol]) の隣にある上下の矢印キーをクリックして、リストをソートできます。

6. 録音機能をサポートするすべてのデバイスのレポートを生成するには、対応するドロップダウン リスト ボックスから次の設定を選択し、[Submit] ボタンをクリックします。

[Product] : [All]

[Feature] : [Record]

[List Features] ペインに、録音機能をサポートするすべてのデバイスのリストが表示されます。カラムの見出し ([Product] または [Protocol]) の隣にある上下の矢印キーをクリックして、リストをソートできます。

Cisco Unified Reporting アプリケーションの詳細については、次の URL の『Cisco Unified Reporting Administration Guide』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html

スーパーバイザのデバイス

スーパーバイザのデバイスは、片方向メディアを受信できる必要があります。

レコーダ

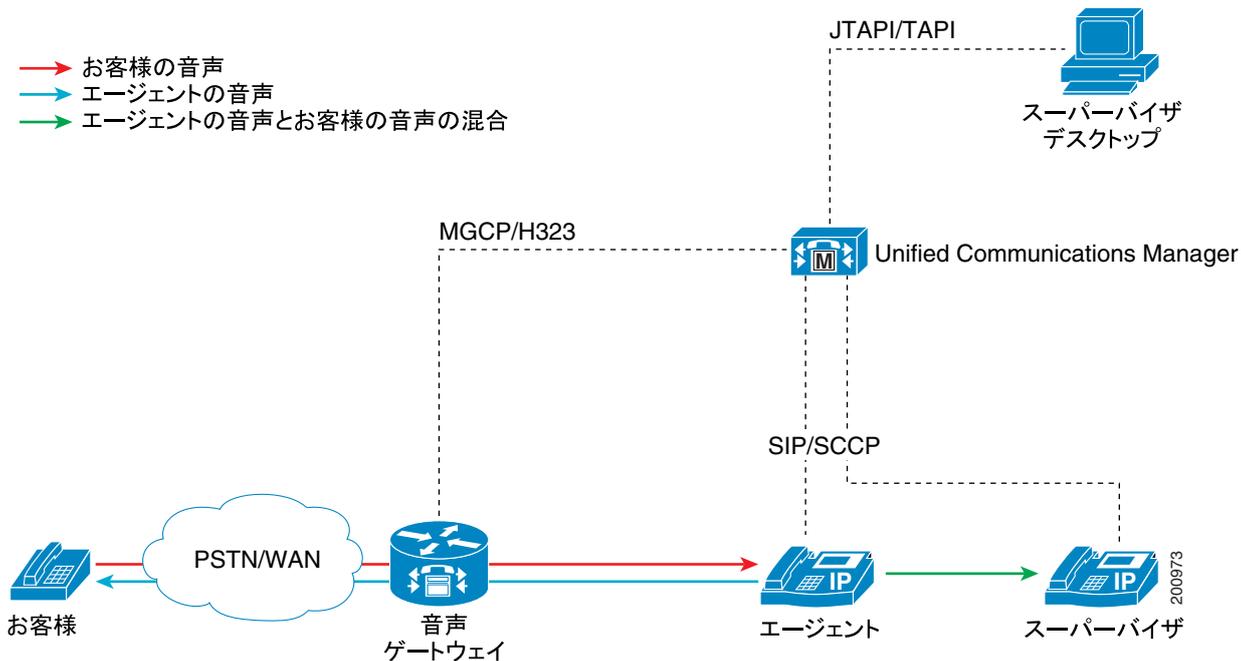
レコーダは、Cisco Unified Communications Manager SIP トランクとのインターフェイスを備えており、録音コールを受信できる必要があります。

Nice と Witness のレコーダはテスト済みです。また、Verint などのサードパーティ ベンダーも適切なレコーダを製造しています。

コール モニタリングの概要

サイレント コール モニタリングを使用すると、スーパーバイザは、品質管理や業績評価のためにエージェント コールを傍受することができます。デフォルトでは、エージェントはモニタリングセッションに気づきません。IP Phone ベースのサイレント コール モニタリングでは、モニタリング ストリームは、混合されたお客様の音声とエージェントの音声で構成されます。モニタリングセッションをトリガーできるのはアプリケーションだけです。図 34-4 に、一般的なモニタリングセッションにおけるフローを示します。

図 34-4 サイレント コール モニタリング セッションのフロー



Cisco Unified Communications Manager の JTAPI または TAPI インターフェイスからモニタリングを呼び出せるのは、アプリケーションだけです。モニタリングには、次の特性があります。

- モニタリングはコール ベースであるため、モニタリング ターゲットに指定できるのは、エージェントのライン アピアランスに示される特定のコールです。
- アプリケーションからのモニタリング開始要求により、スーパーバイザの電話機が自動的にオフフックになり、エージェントにモニタリング コールを発信します。
- エージェントの電話機は、モニタリング コールを自動的に受け入れます。モニタリング コールは、エージェントには表示されません。

Cisco Unified Communications Manager ユーザ インターフェイスおよびアプリケーションは、モニタリングのための認証と許可を制御します。次の要件が適用されます。

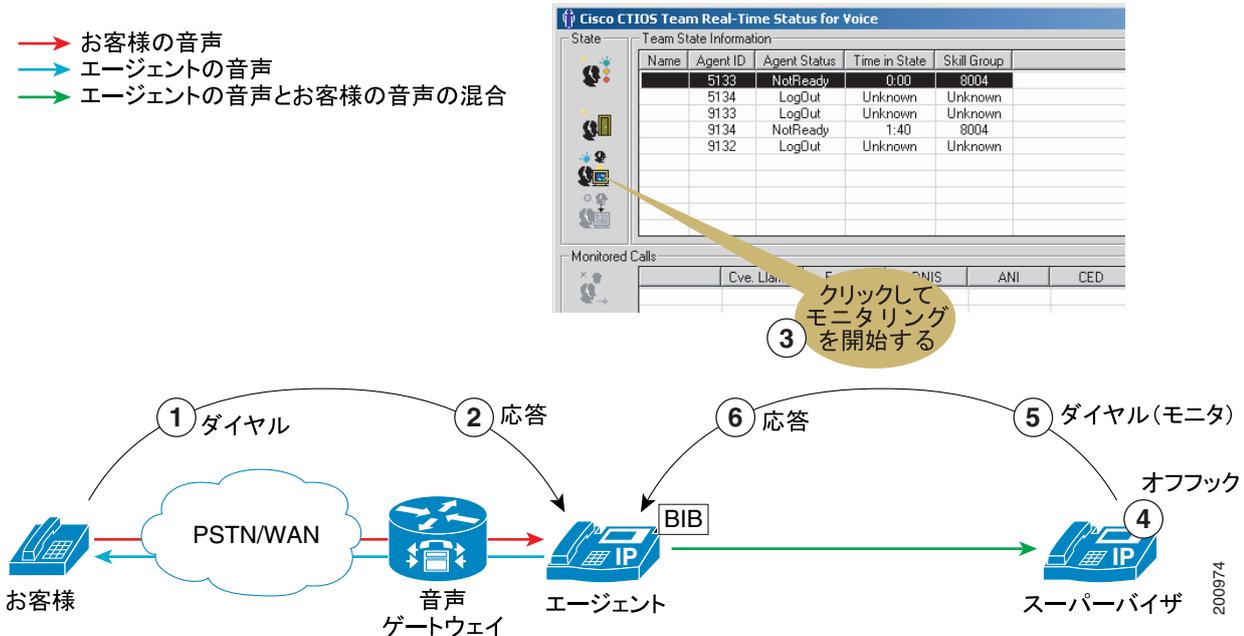
- アプリケーション ユーザは、Standard CTI Allow Call Monitoring ユーザ グループのメンバである必要があります。
- エージェントのデバイスは、アプリケーション ユーザの CTI コントロール リストに含まれている必要があります。

サイレント モニタリング セッションの呼び出し

スーパーバイザは、サイレント モニタリング セッションを開始するには、エージェントがコールに応答した後でデスクトップアプリケーションを使用します。

図 34-5 に、サイレント モニタリング セッションを示します。

図 34-5 サイレント モニタリング セッション



スーパーバイザがモニタリングセッションを開始する場合は、次の手順が行われます。

1. お客様がコールセンターにコールします。コールがエージェントにルーティングされます。
2. エージェントがコールに応答します。エージェントの IP Phone とお客様の間に、双方向メディアストリームが設定されます。
3. スーパーバイザが、デスクトップアプリケーションでエージェントを選択し、[モニタリング]をクリックします。
4. スーパーバイザの電話機が、自動的にオフフックになります。
5. スーパーバイザの電話機が、エージェントにモニタリングコールを発信します。
6. エージェントの電話機の Built-in Bridge (BIB; ビルトインブリッジ) が、モニタリングコールを自動的に受け入れます。エージェントの電話機が、エージェントの音声とお客様の音声に対するメディアの混合を開始し、混合された音声をスーパーバイザの電話機に送信します。

サイレント モニタリング セッションを開始するには、スーパーバイザがエージェントと同じクラスター内に存在する必要があることに注意してください。ただし、モニタリングコールの開始後は、登録先に関係なくモニタリングコールを転送できます。

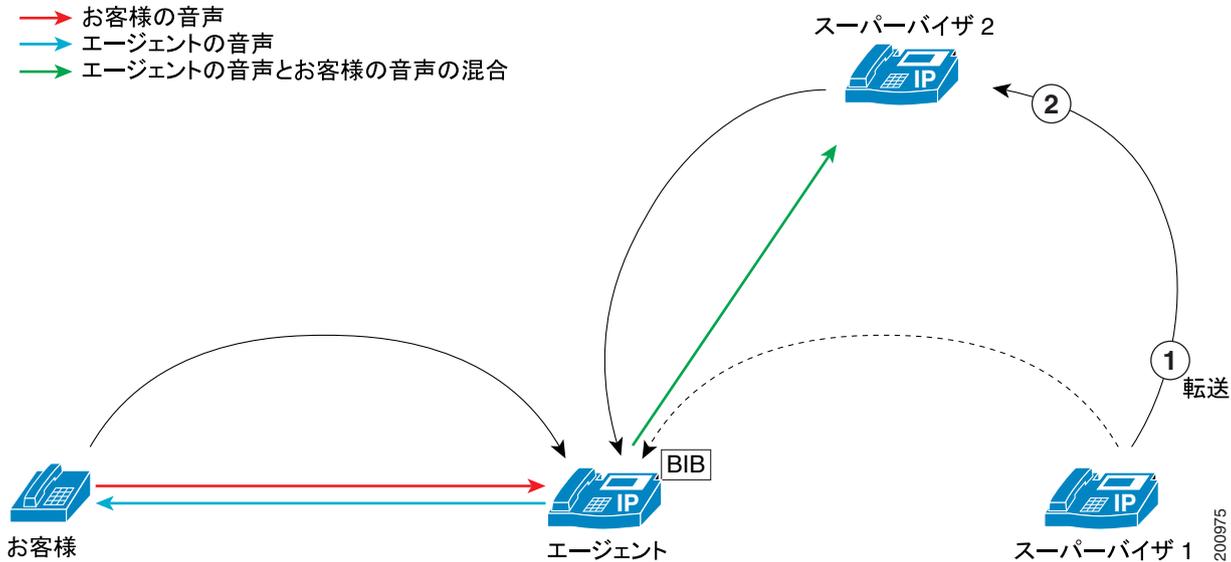
スーパーバイザは、コールの開始後はいつでもモニタリングコールを終了できます。その場合は、アプリケーションから終了するか、または単純に電話を切ります。

スーパーバイザは、モニタリングコールを保留にし (MOH は挿入されません)、同一または別のデバイスからモニタリングコールを再開することができます。

スーパーバイザがモニタリング コールを転送する場合

図 34-6 に、スーパーバイザによるモニタリング コールの転送を示します。

図 34-6 スーパーバイザがモニタリング コールを転送する場合



モニタリング コールの処理中に、スーパーバイザがモニタリング コールを転送する場合は、次の手順が行われます。

1. スーパーバイザ 1 が [転送] ソフトキーを押し、スーパーバイザ 2 の電話番号をダイヤルします。
2. スーパーバイザ 2 がコールに応答します。
3. スーパーバイザ 1 が、[転送] ソフトキーを再度押して、転送を実行します。
4. モニタリング コールがスーパーバイザ 2 に転送されます。スーパーバイザ 2 が、混合されたエージェントの音声とお客様の音声の受信を開始します。

エージェントはモニタリング コールを制御できない

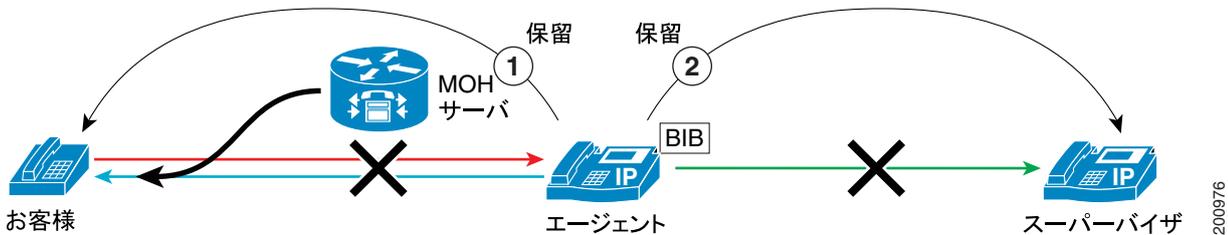
エージェントは、モニタリング コールを直接制御できません。ただし、エージェントがプライマリ コールに対してアクションを実行すると、対応するアクションがモニタリング コールに対して実行されます。

エージェントがお客様を保留にすると、Cisco Unified Communications Manager もモニタリング コールを保留にします（ただし、MOH は挿入されません）。エージェントがお客様との電話を切ると、モニタリング コールも終了します。

図 34-7 に、スーパーバイザがエージェントを監視しているときにエージェントがお客様を保留にする場合のシナリオを示します。

図 34-7 エージェントはモニタリング コールを制御できない

- お客様の音声
- エージェントの音声
- エージェントの音声とお客様の音声の混合



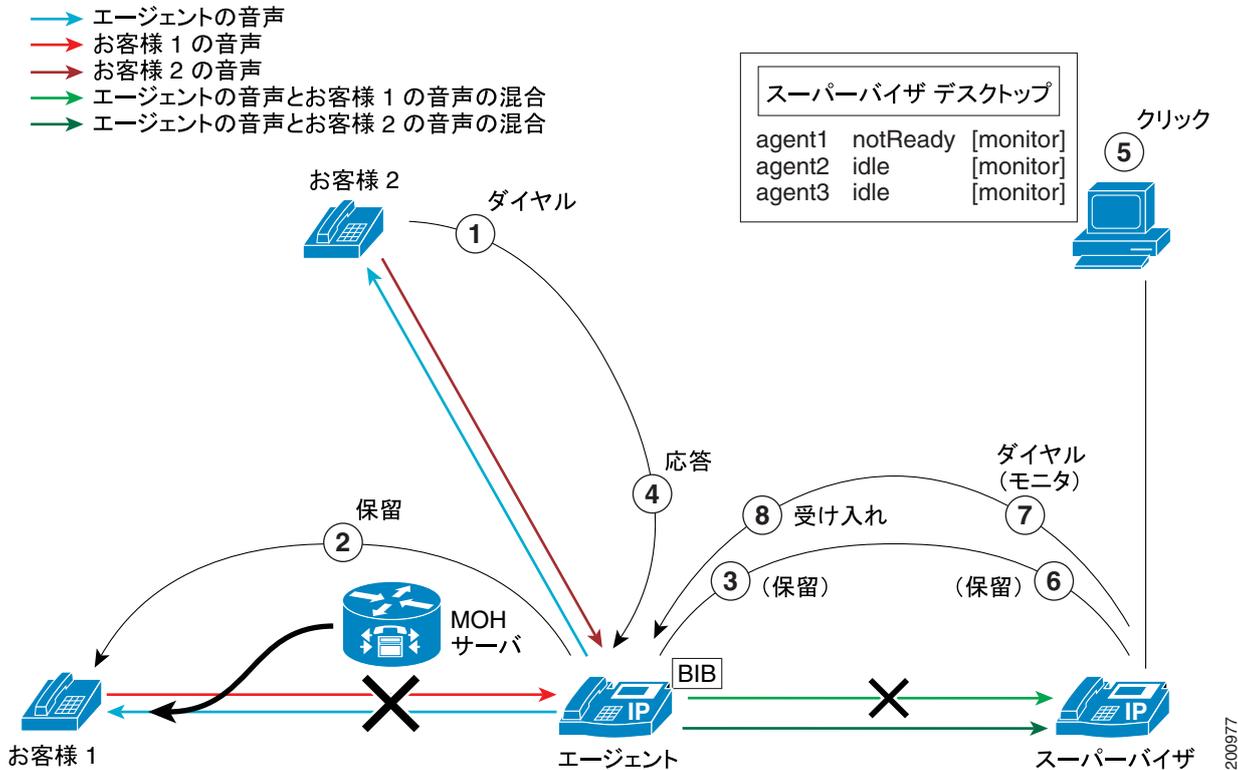
エージェントが監視されているときに、エージェントがお客様を保留にする場合は、次の手順が行われます。

1. エージェントがお客様を保留にします。MOH が挿入され、お客様に再生されます。
2. Cisco Unified Communications Manager が、スーパーバイザを自動的に保留にします。MOH はスーパーバイザには挿入されません。

複数のモニタリングセッション

図 34-8 に、複数のモニタリングセッションにおけるコールフローを示します。

図 34-8 複数のモニタリングセッション



複数のモニタリングセッションでは、次の手順が行われます。

1. エージェントがお客様 1 と通話中で、スーパーバイザがお客様 1 とのエージェント コールを監視しているときに、お客様 2 がエージェントにコールします。
2. エージェントがお客様 1 を保留にします。MOH がお客様 1 に挿入されます。
3. Cisco Unified Communications Manager が、スーパーバイザを保留にします。MOH はスーパーバイザには挿入されません。
4. エージェントがお客様 2 のコールに応答します。
5. スーパーバイザが、お客様 2 とのエージェント コールに対する 2 回目のモニタリング要求を開始します。
6. スーパーバイザの電話機が、最初のモニタリング コールを自動的に保留にします。
7. スーパーバイザの電話機がオフフックになり、エージェントに 2 回目のモニタリング コールを発信します。
8. エージェントの IP Phone (エージェントの IP Phone の BIB) が、モニタリング コールを自動的に受け入れます。混合されたエージェントの音声とお客様 2 の音声、スーパーバイザの電話機に送信されます。

エージェント コールの割り込みまたはモニタリング

エージェント コールが監視されている場合、シェアラインからの割り込みコールは失敗します。エージェント コールが割り込まれた場合、モニタリング要求は No resource エラーにより拒否されます。

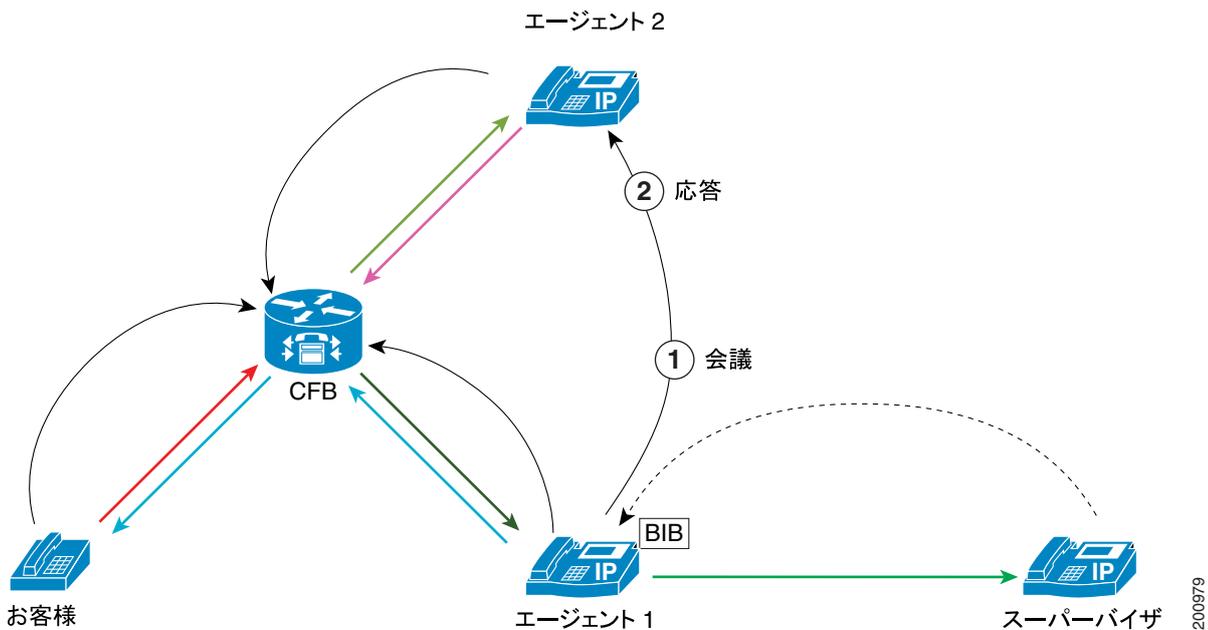
会議中のエージェントのモニタリング

コールセンターのエージェントは、お客様との会話に別の通話相手を参加させることが必要になる場合があります。

図 34-9 に、エージェント 1 がアドホック会議を開始し、お客様との会話にエージェント 2 を参加させるケースを示します。エージェント 1 のスーパーバイザは、お客様との最初のコールを監視しています。

設定の処理中に、モニタリング コールのメディアが一時的に切断されます。会議が実行されると、スーパーバイザには会議の参加者すべての音声聞こえます。

図 34-9 会議中のエージェントのモニタリング



エージェントがスーパーバイザと会議を行う場合

スーパーバイザがエージェントを監視しているときに、そのエージェントがスーパーバイザとの会議を作成する場合があります。

スーパーバイザは、会議に参加する前に、モニタリング コールを保留にする必要があります。

図 34-10 に、このシナリオを示します。

図 34-10 エージェントがスーパーバイザと会議を行う場合

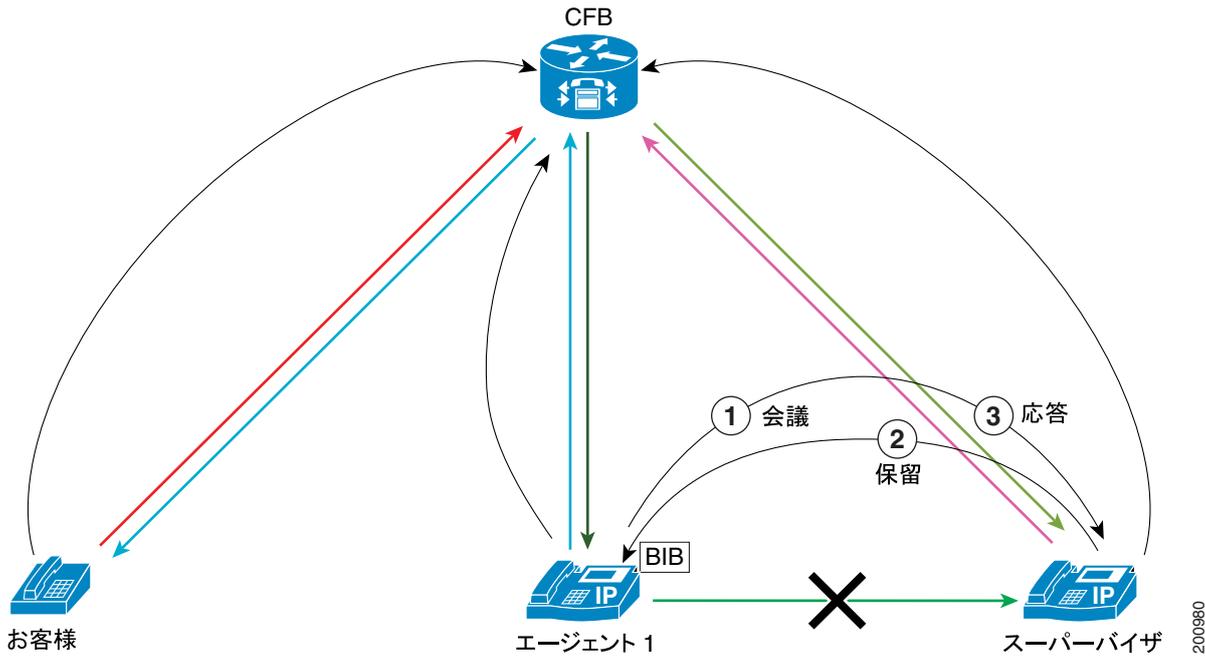


図 34-10 は、スーパーバイザがモニタリング コールを保留にして会議に参加した場合の最終的な接続を示しています。スーパーバイザが会議に参加している間、モニタリング セッションは保留状態になります。スーパーバイザは、会議から退席した後は、モニタリング セッションを再開できます。

スーパーバイザが別のスーパーバイザと会議を行う場合

スーパーバイザは、モニタリングセッションについて、別のスーパーバイザと会議を行うことができます。

スーパーバイザは、お互いの音声を聞いて会話することができます。また、両方のスーパーバイザには、エージェントとお客様との会話が聞こえます。

図 34-11 に、このシナリオを示します。

図 34-11 スーパーバイザが別のスーパーバイザと会議を行う場合

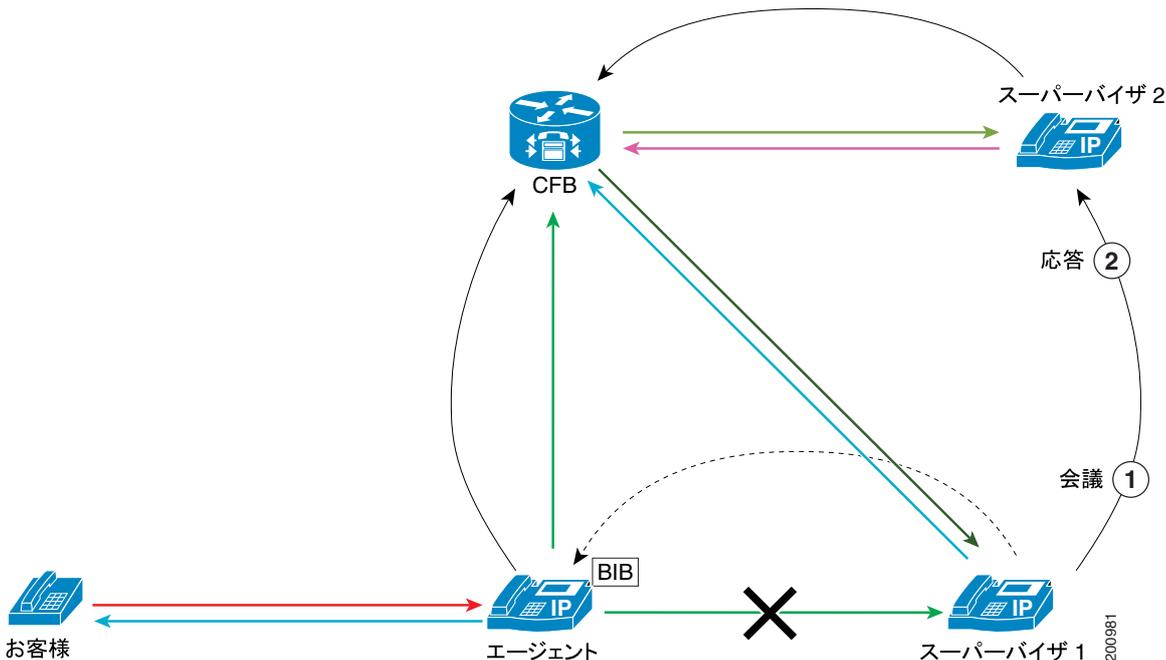


図 34-11 の例では、スーパーバイザ 1 が、エージェントへのコールのモニタリングを開始し、モニタリングコールについてスーパーバイザ 2 と会議を行います。お客様とエージェントは、引き続きお互いの音声を聞くことができますが、スーパーバイザが監視していることには気づきません。スーパーバイザ 1 とスーパーバイザ 2 の両方には、エージェントとお客様との会話が聞こえます。2 人のスーパーバイザには、お互いの音声が聞こえます。

ウィスパー コーチング

ウィスパー コーチングは、サイレント コール モニタリングを拡張し、スーパーバイザがモニタリングセッション中にエージェントと通話できるようにする機能です。この機能を使用すると、アプリケーションでモニタリング対象コールの現在のモニタリングモードをサイレントモニタリングからウィスパー コーチングに変更したり、その逆に変更したりできます。

Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションでウィスパー コーチングを有効にするには、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択し、設定する Cisco Unified IP Phone を探します。[デバイス情報 (Device Information)] ペインまでスクロールし、[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] を [オン (On)] または [デフォルト (Default)] に設定します。[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] を [デフォルト (Default)] に設定した場合は、Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションで、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameter)] を選択し、適切なサーバとサービスを選択します。[Clusterwide Parameters (Device - Phone)] ペインまでスクロールし、Built-in Bridge Enable を [On] に設定します。

コール録音の概要

IP Phone ベースのコール録音では、録音ストリームがエージェントの IP Phone からレコーダに送信されます。この場合、エージェントの音声とお客様の音声は別々に送信されます。

管理者は、Cisco Unified Communications Manager でレコーダを SIP トランク デバイスとして設定します。

この項では、コール録音に関する次の一般的な内容について説明します。

- 「コール録音セッションのフロー」 (P.34-17)
- 「コール録音のモード」 (P.34-17)
- 「コール録音用の SIP ヘッダー拡張」 (P.34-18)
- 「SIP トランク デバイスとしてのレコーダ」 (P.34-19)

この項では、詳細なコール フローを示し、エージェントのデバイスが自動コール録音用に設定されている場合の次の使用例について詳しく説明します。

- 「自動コール録音」 (P.34-19)
- 「ローカル クラスタの遠端側による保留 / 再開」 (P.34-21)
- 「遠端側による、ローカル クラスタ内の別の遠端側へのコール転送」 (P.34-23)
- 「近端側による、ローカル クラスタ内の別の近端側へのコール転送」 (P.34-25)
- 「遠端側による、CFNA が有効になっているユーザへのコール転送」 (P.34-28)
- 「ローカル クラスタ内の遠端側による会議の作成」 (P.34-30)
- 「ローカル クラスタ内の近端側による会議の作成」 (P.34-32)
- 「リモート クラスタ内の遠端側による、リモート クラスタ内の別のユーザへのコール転送」 (P.34-34)
- 「リモート クラスタ内の遠端側による、CFNA が設定されているリモート クラスタ ユーザへのコールのブラインド転送」 (P.34-36)
- 「リモート PBX 内の遠端側による、ローカル クラスタ内の電話機へのコール転送」 (P.34-39)
- 「リモート PBX の遠端側による、パス置換を使用したローカル電話機へのコール転送」 (P.34-41)
- 「遠端側による、DMS ゲートウェイ経由のコール転送」 (P.34-43)
- 「携帯電話コールのデスクトップ ピックアップ」 (P.34-45)
- 「遠端側による、携帯電話ピックアップのための携帯電話へのコール送信」 (P.34-47)
- 「リモート クラスタ内の遠端側による会議の作成」 (P.34-49)

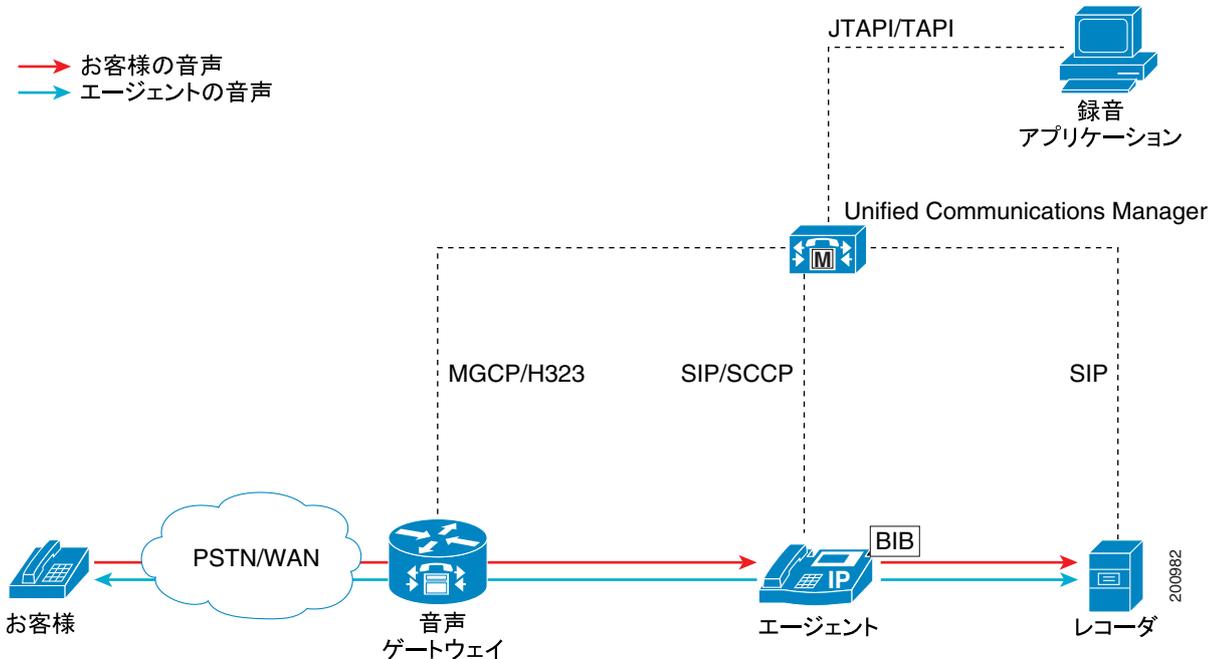
この項では、次のようなその他のコール録音の使用例について説明します。

- 「アプリケーションから呼び出される録音」 (P.34-51)
- 「エージェントがコールを保留にすると録音コールは存続しない」 (P.34-52)
- 「割り込みコールの録音」 (P.34-53)
- 「エージェントの会議の録音」 (P.34-54)
- 「モニタリングと録音の同時実行」 (P.34-55)

コール録音セッションのフロー

図 34-12 に、IP Phone ベースのコール録音セッションのフローを示します。

図 34-12 IP Phone ベースのコール録音



コール録音のモード

コール録音には次のモードが存在します。

- 自動録音：自動録音では、エージェント コールが接続されると、録音セッションが自動的に確立されます。
- アプリケーションから呼び出される録音：アプリケーションから呼び出される録音では、アプリケーションが TAPI または JTAPI API を介してアクティブ コールの録音セッションを呼び出します。
- デバイスから呼び出されるコール録音：デバイスから呼び出されるコール録音は、*監察コール*と呼ばれる特定の外部コール制御コールにのみ適用されます。録音セッションは、監察者の電話機のソフトキーで呼び出します。外部コール制御機能では、このタイプのコール録音が制御されます。詳細については、「*外部コール制御*」の章を参照してください。監察コールによってポリシー サーバが呼び出されます。このソフトキーから呼び出されるコール録音タイプは、一般的には利用できません。



(注)

すべてのコール録音モードにおいて、コール録音が行われるには、あらかじめエージェント コールがアクティブになっている必要があります。

管理者は、エージェントのライン アピランスに対して録音オプションと録音プロファイルを設定します。デフォルトでは、録音オプションは [コール録音が無効 (Call Recording Disabled)] に設定されています。

録音オプションが [自動コール録音が有効 (Automatic Call Recording Enabled)] または [アプリケーションから呼び出されたコール録音が有効 (Application Invoked Call Recording Enabled)] に設定されている場合は、ラインアピランスを録音プロファイルと関連付けることができます。録音プロファイルでは、[録音コーリングサーチスペース (Recording Calling Search Space)] パラメータと [録音接続先アドレス (Recording Destination Address)] パラメータを指定します。

自動録音が有効の場合、アプリケーションの録音要求は拒否されます。

コール録音用の SIP ヘッダー拡張

Cisco Unified Communications Manager のリリース 8.5(1) では、SIP ヘッダーが拡張されています。SIP ヘッダーは、コール録音のコール時にレコーダに送信される SIP メッセージで使用されます。これらの拡張により、次の変更が行われています。

- Cisco Unified Communications Manager は、エージェント（近端側）とお客様（遠端側）の両方のコール情報を、SIP メッセージを使用してレコーダに送信します。メッセージは SIP トランクを通過します（この拡張が導入されるまでは、近端側の情報のみが SIP メッセージを使用して送信されていました。遠端側の情報を取得するには、Cisco Unified Communications Manager への CTI 接続が必要でした）。
- この拡張により、スケーラビリティが向上しています。Cisco Unified Communications Manager への CTI 接続がなくても、レコーダでは遠端側のコール情報を Cisco Unified Communications Manager から取得できるようになりました。
- この拡張では、Open Recording Architecture (ORA) の Cisco Zephyr レコーダを使用した自動録音がサポートされます。これにより、シスコ製品のみを使用した完全なコール録音ソリューションを利用できるようになりました。Cisco Zephyr レコーダは、基本的かつ強力な録音機能を備え、CTI に依存せずに遠端側の情報を取得します。

From ヘッダーには、近端側のコール情報が格納されます。近端側のコール情報には、近端側の refci またはコール ID、近端側のデバイス名、および近端側の電話番号またはアドレスが含まれます。

SIP ヘッダー拡張により、遠端側のコール情報が INVITE メッセージの From ヘッダーに追加されました。遠端側のコール情報には、遠端側の farendRefCI またはコール ID、遠端側のデバイス名、および遠端側の電話番号が含まれます。

以前は、Cisco Unified Communications Manager は SIP INVITE メッセージのみをレコーダに送信していました。現在では、遠端側のコール情報が機能のインタラクションにより変更されると、Cisco Unified Communications Manager は SIP UPDATE メッセージをレコーダに送信します。

From ヘッダーには、エージェントが会議コール中であることを示す *isfocus* インジケータも含まれます。

以前の INVITE メッセージと新しい INVITE および UPDATE メッセージの例を次に示します。

SIP INVITE メッセージの以前の From ヘッダー

```
From: <sip:3005@10.89.81.56;x-nearend;x-refci=25471846;x-nearenddevice=SEP001B535CDC62 >;
```

SIP INVITE メッセージと SIP UPDATE メッセージの新しい From ヘッダー

```
From:
<sip:3005@10.89.81.56;x-nearend;x-refci=25471846;x-nearenddevice=SEP001B535CDC62;x-farendrefci=25471847;x-farenddevice=CFB_2;x-farendaddr=b097865452;isfocus>;
```

新しい From ヘッダーで、**太字のテキスト**は SIP ヘッダー拡張により追加された新しい情報を示しています。

SIP トランク デバイスとしてのレコーダ

SIP トランクは、レコーダを直接ポイントします。多くのレコーダ（Witness や Nice のレコーダなど）は、プロキシ、ロガーまたはストレージ、およびデータベースで構成されています。

レコーダは、SIP を介して Cisco Unified Communications Manager からの録音コールを受け入れます。

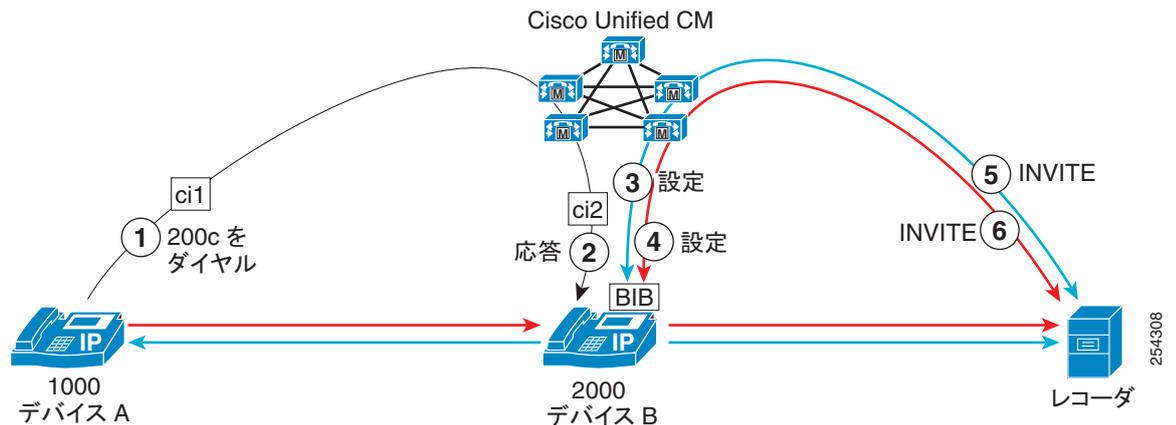
レコーダには電話番号が割り当てられます。また、SIP トランクに対してルートパターンが設定されます。

自動コール録音

自動コール録音では、エージェント コールがアクティブになると、エージェントの電話機の Built-In Bridge (BIB; ビルトインブリッジ) に 2 つのサーバ コールが発信されます。エージェントの電話機が自動的に応答します。次に、2 つのサーバ コールがレコーダにリダイレクトされます。

図 34-13 に、自動コール録音を示します。

図 34-13 自動コール録音



この自動コール録音セッションの例では、次のエンティティがコールに参加しています。

- お客様のコールは、DN 1000 のデバイス A から発信されます。
- エージェントは、DN 2000 のデバイス B でコールを受信します。

自動コール録音セッションでは、次の手順が行われます。

1. お客様であるユーザ A（遠端側、DN 1000）がコールセンターにコールします。
2. エージェントであるユーザ B（DN 2000）にコールがルーティングされます。エージェントがコールに応答します。エージェントの IP Phone が、お客様とのメディアストリームの交換を開始します。
3. エージェントのラインアピアランスが自動録音用に設定されているため、自動的にメディアストリームの録音セッションに対するトリガーが発生します。Cisco Unified Communications Manager は、最初に、エージェントの音声に対する録音コールを、エージェントの IP Phone のビルトインブリッジ (BIB) に発信します。
4. Cisco Unified Communications Manager が、お客様の音声に対する 2 つ目の録音コールを、エージェントの IP Phone の BIB に発信します。

5. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、エージェントの音声に対する録音コール設定メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するエージェントの音声ストリームの送信を開始します。
6. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、お客様の音声に対する録音コール設定メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するお客様の音声ストリームの送信を開始します。

以前のリリースでは、INVITE メッセージには近端側の情報のみが含まれていましたが、お客様の情報は不明でした。お客様の情報を取得するには、Cisco Unified Communications Manager への CTI 接続が必要でした。

2 つの INVITE メッセージがそれぞれ 2 つの異なる音声ストリームに含まれ、それらのメッセージに格納されている近端側と遠端側のコール情報が同じであることに注意してください。2 つの From ヘッダーの違いは、最初の x- パラメータのみです。最初の x- パラメータは、コールが近端側の音声ストリームのコールであるか遠端側の音声ストリームのコールであることを示します。x-nearend は、近端側の音声ストリームを示します。x-farend は、遠端側の音声ストリームを示します。

ここで説明する INVITE メッセージ（もう 1 つの INVITE メッセージが送信されます）には、エージェント録音コールが含まれています。

手順 5 と手順 6 の INVITE メッセージのヘッダー情報に注目してください。SIP ヘッダー拡張により、太字のテキストの情報が INVITE メッセージのヘッダーに追加されています。

手順 5 の INVITE メッセージのヘッダー情報

From:

```
<sip:2000@ucml;x-nearend;x-refci=ci2;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci1;x-farenddevice=deviceA;x-farendaddr=1000>;tag=fromtag1
```

手順 6 の INVITE メッセージのヘッダー情報

From:

```
<sip:2000@ucml;x-farend;x-refci=ci2;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci1;x-farenddevice=deviceA;x-farendaddr=1000>;tag=fromtag2
```

両方のメッセージヘッダーに次の情報が含まれています。

x-farendrefci は、遠端側（お客様）のコールログの発信者 ID を示します。

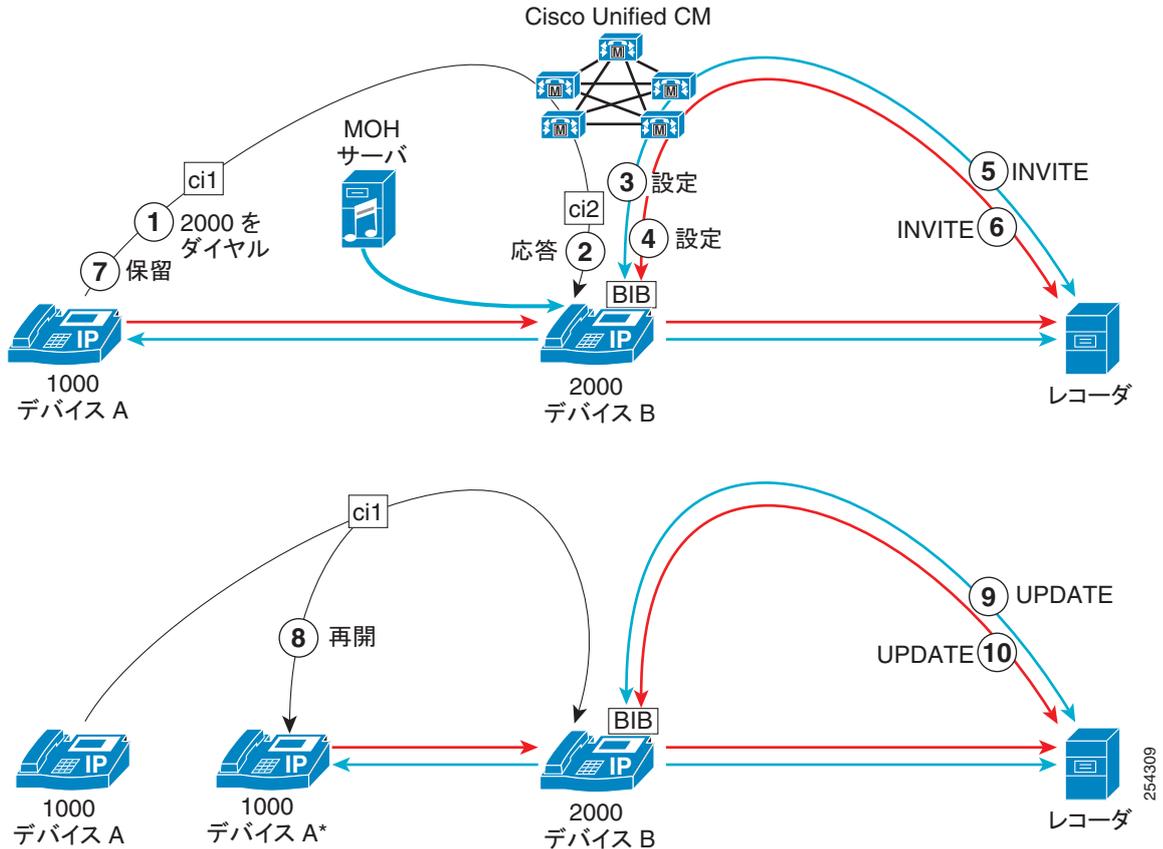
x-farenddevice は、遠端側のデバイス名を示します。

x-farendaddr は、遠端側の DN を示します。

ローカル クラスタの遠端側による保留 / 再開

自動コール録音のこの使用例では、ローカル クラスタに属している遠端側がコールを保留にし、別のデバイスからコールを再開します。図 34-14 に、この使用例を示します。

図 34-14 ローカル クラスタ内の遠端側による、コールの保留および別のデバイスからの再開



この使用例では、次のエンティティがコールに参加しています。

- お客様のコールは、DN 1000 のデバイス A から発信されます。
- エージェントは、DN 2000 のデバイス B でコールを受信します。
- コールを保留にした後、お客様が DN 1000 のデバイス A' からコールを再開します。

ローカル クラスタ内のお客様（遠端側）がコールを保留にして別のデバイスからコールを再開する自動コール録音セッションでは、次の手順が行われます。

1. ユーザ A（遠端側 = ローカル クラスタ内のお客様）がユーザ B（近端側 = エージェント）にコールします。
2. ユーザ B がコールに応答します。
3. エージェントのライン アピランスが自動録音用に設定されているため、自動的にメディア ストリームの録音セッションに対するトリガーが発生します。Cisco Unified Communications Manager は、最初に、エージェントの音声に対する録音コールを、エージェントの IP Phone の Built-In Bridge (BIB; ビルトインブリッジ) に発信します。

4. Cisco Unified Communications Manager が、お客様の音声に対する 2 つ目の録音コールを、エージェントの IP Phone の BIB に発信します。
5. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、エージェントの音声に対する録音コール設定メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するエージェントの音声ストリームの送信を開始します。
6. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、お客様の音声に対する録音コール設定メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するお客様の音声ストリームの送信を開始します。
7. ユーザ A（遠端側 = ローカル クラスタ内のお客様）がコールを保留にします。
8. ユーザ A（遠端側 = ローカル クラスタ内のお客様）が、保留中のコールをデバイス A'（同じ DN を持つ別のデバイス）から再開します。コールが再開され、ユーザ B は新しい遠端側 A' に接続されました。また、遠端側のコール情報が変更されました。
9. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、エージェントの音声に対する録音コール UPDATE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダにエージェントの音声ストリームを送信します。
10. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、お客様の音声に対する録音コール UPDATE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダにお客様の音声ストリームを送信します。

この使用例では、コール処理に次の特徴があります。

- 遠端側がコールを保留にするときに MOH を挿入しても、遠端側は変更されません。
- 回線を共有している別のデバイスがコールを再開すると、SIP UPDATE メッセージは、新しい遠端側デバイス名でレコーダに送信されます。

ここで説明する UPDATE メッセージには、エージェント（近端側）の録音コールが含まれています。お客様（遠端側）の録音コールに対する他の UPDATE には、同じ x-farend 情報が含まれています。

手順 5 の INVITE メッセージと手順 9 の UPDATE メッセージのヘッダー情報に注目してください。SIP ヘッダー拡張により、太字のテキストの情報がメッセージのヘッダーに追加されています。

手順 5 の INVITE メッセージのヘッダー情報

```
From:
<sip:2000@ucm1;x-nearend;x-refci=ci2;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci1;x-farenddevice=deviceA;x-farendaddr=1000>;tag=fromtag1
```

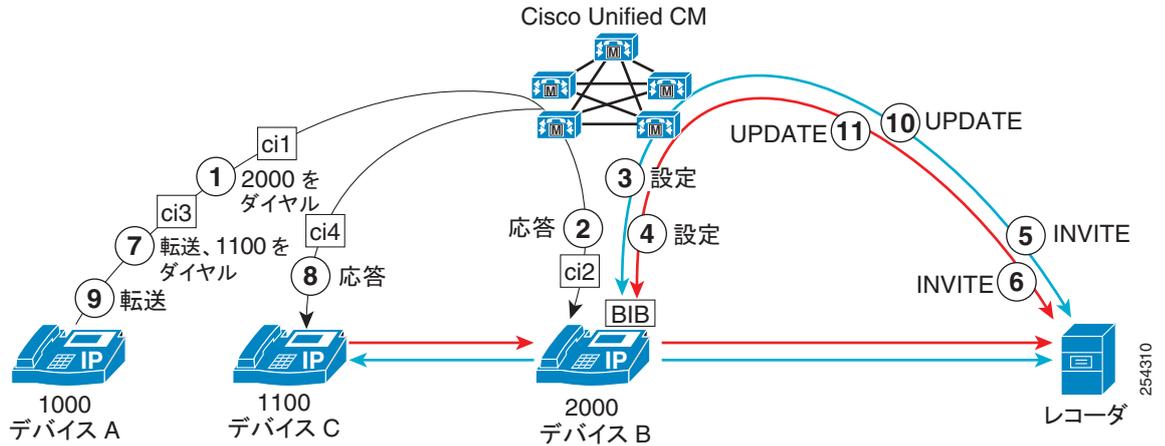
手順 9 の UPDATE メッセージのヘッダー情報

```
From:
<sip:2000@ucm1;x-nearend;x-refci=ci2;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci1;x-farenddevice=deviceA';x-farendaddr=1000>;tag=fromtag1
```

遠端側による、ローカル クラスタ内の別の遠端側へのコール転送

自動コール録音のこの使用例では、ローカル クラスタ内の遠端側が、同じローカル クラスタ内の別の遠端側にコールを転送します。図 34-15 に、この使用例を示します。

図 34-15 ローカル クラスタ内の遠端側による、ローカル クラスタ内の別の遠端側へのコール転送



この使用例では、次のエンティティがコールに参加しています。

- お客様のコールは、ローカル クラスタ内の DN 1000 のデバイス A から発信されます。
- エージェントは、DN 2000 のデバイス B でコールを受信します。
- お客様は、同じローカル クラスタ内の DN 1100 のデバイス C にコールを転送します。

ローカル クラスタ内のお客様（遠端側）がエージェントにコールを発信してからローカル クラスタ内の別の遠端側にコールを転送する自動コール録音セッションでは、次の手順が行われます。

1. ユーザ A（遠端側 = ローカル クラスタ内のお客様）がユーザ B（近端側 = エージェント）にコールします。
2. ユーザ B がコールに応答します。
3. エージェントのライン アピアランスが自動録音用に設定されているため、自動的にメディア ストリームの録音セッションに対するトリガーが発生します。Cisco Unified Communications Manager は、最初に、エージェントの音声に対する録音コールを、エージェントの IP Phone の Built-In Bridge（BIB; ビルトインブリッジ）に発信します。
4. Cisco Unified Communications Manager が、お客様の音声に対する 2 つ目の録音コールを、エージェントの IP Phone の BIB に発信します。
5. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、エージェントの音声に対する録音コール設定メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するエージェントの音声ストリームの送信を開始します。
6. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、お客様の音声に対する録音コール設定メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するお客様の音声ストリームの送信を開始します。
7. ユーザ A（遠端側 = ローカル クラスタ内のお客様）が、ローカル クラスタ内の別のユーザ C（DN 1100）に対するコールの打診転送を開始します。
8. ユーザ C が転送されたコールに応答します。

9. ユーザ A が転送を実行します。
10. ユーザ B が新しい遠端側のユーザ C に接続されたため、Cisco Unified Communications Manager は 2 つの UPDATE メッセージをレコーダに送信します。

レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、エージェントの音声に対する録音コール UPDATE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダにエージェントの音声ストリームを送信します。

11. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、お客様の音声に対する録音コール UPDATE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダにお客様の音声ストリームを送信します。

この使用例では、コール処理に次の特徴があります。

- **転送**キーが最初に押された後、遠端側の情報は変更されないため、Cisco Unified Communications Manager はレコーダを更新しません。
- **転送**キーが 2 回目に押された後、Cisco Unified Communications Manager は、更新された遠端側情報を含む SIP UPDATE メッセージをレコーダに送信します。

この使用例では、コール処理に次の特徴があります。

1. 遠端側がコールを保留にするときに MOH を挿入しても、遠端側は変更されません。
2. 回線を共有している別のデバイスがコールを再開すると、SIP UPDATE メッセージは、新しい遠端側デバイス名でレコーダに送信されます。

手順 5 の INVITE メッセージと手順 10 の UPDATE メッセージのヘッダー情報に注目してください。SIP ヘッダー拡張により、**太字のテキスト**の情報がメッセージのヘッダーに追加されています。

手順 5 の INVITE メッセージのヘッダー情報

```
From:
<sip:2000@ucm1;x-nearend;x-refci=ci2;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci1;x-farenddevice=deviceA;x-farendaddr=1000>;tag=fromtag1
```

手順 10 の UPDATE メッセージのヘッダー情報

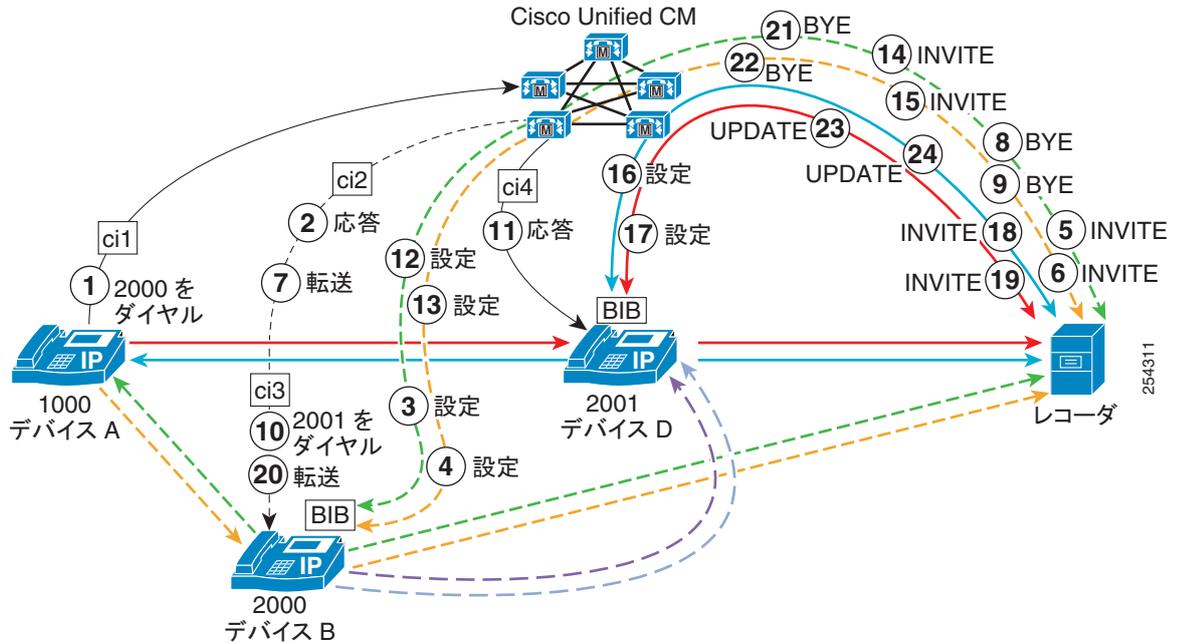
```
From:
<sip:2000@ucm1;x-nearend;x-refci=ci2;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci4;x-farenddevice=deviceC;x-farendaddr=1100>;tag=fromtag1
```

手順 5 の INVITE メッセージのヘッダーと手順 10 の UPDATE メッセージのヘッダーを比較すると、遠端側の値 (farendrefci、farenddevice、およびarendaddr) が転送によりすべて変更されているのがわかります。

近端側による、ローカル クラスタ内の別の近端側へのコール転送

自動コール録音のこの使用例では、近端側が、ローカル クラスタ内の別の近端側にコールを転送します。図 34-16 に、この使用例を示します。

図 34-16 近端側による、ローカル クラスタ内の別の近端側へのコール転送



この使用例では、次のエンティティがコールに参加しています。

- お客様のコールは、DN 1000 のデバイス A から発信されます。
- エージェントは、DN 2000 のデバイス B でコールを受信します。
- エージェントは、DN 2001 のデバイス D にコールを転送します。

コールのエージェントが同じローカル クラスタ内の別ユーザにコールを転送する自動コール録音セッションでは、次の手順が行われます。

1. ユーザ A (遠端側 = ローカル クラスタ内のお客様) がユーザ B (近端側 = エージェント) にコールします。
2. ユーザ B (近端側 = ローカル クラスタ内のエージェント) がコールに応答します。
3. エージェントのライン アピアランスが自動録音用に設定されているため、自動的にメディア ストリームの録音セッションに対するトリガーが発生します。Cisco Unified Communications Manager は、最初に、エージェントの音声に対する録音コールを、エージェントの IP Phone の Built-In Bridge (BIB; ビルトインブリッジ) に発信します。
4. Cisco Unified Communications Manager が、お客様の音声に対する 2 つ目の録音コールを、エージェントの IP Phone の BIB に発信します。
5. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、エージェントの音声に対する録音コール設定メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するエージェントの音声ストリームの送信を開始します。

6. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、お客様の音声に対する録音コール設定メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するお客様の音声ストリームの送信を開始します。
7. ユーザ B が打診転送を開始します。この操作によって、暗黙的にコールが保留になります。
8. Cisco Unified Communications Manager が、SIP トランクを介して BYE メッセージをレコーダに送信することで、エージェントの音声の録音を終了します。
9. Cisco Unified Communications Manager が、SIP トランクを介して BYE メッセージをレコーダに送信することで、お客様の音声の録音を終了します。
10. ユーザ B がユーザ D (別の遠端側 = ローカルクラスタ内のエージェント) にコールします。
11. ユーザ D がユーザ B からのコールに応答します。
12. エージェントのライン アピアランスが自動録音用に設定されているため、自動的にメディア ストリームの録音セッションに対するトリガーが発生します。Cisco Unified Communications Manager は、エージェントの音声に対する録音コールを、ユーザ B の IP Phone の Built-In Bridge (BIB; ビルトインブリッジ) に発信します。
13. Cisco Unified Communications Manager が、お客様の音声に対する 2 つ目の録音コールを、ユーザ B の IP Phone の BIB に発信します。
14. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、ユーザ B (エージェント) の音声に対する録音コール設定メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するエージェントの音声ストリームの送信を開始します。
15. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、ユーザ A (お客様) の音声に対する録音コール設定メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するお客様の音声ストリームの送信を開始します。
16. エージェントのライン アピアランスが自動録音用に設定されているため、自動的にメディア ストリームの録音セッションに対するトリガーが発生します。Cisco Unified Communications Manager は、エージェントの音声に対する録音コールを、ユーザ D の IP Phone の Built-In Bridge (BIB; ビルトインブリッジ) に発信します。
17. Cisco Unified Communications Manager が、お客様の音声に対する 2 つ目の録音コールを、ユーザ D の IP Phone の BIB に発信します。
18. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、ユーザ D (エージェント) の音声に対する録音コール設定メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するエージェントの音声ストリームの送信を開始します。
19. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、ユーザ A (お客様) の音声に対する録音コール設定メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するお客様の音声ストリームの送信を開始します。
20. ユーザ B が転送を実行します。
21. Cisco Unified Communications Manager が、SIP トランクを介して BYE メッセージをレコーダに送信することで、ユーザ B (エージェント) の音声 (打診コール) の録音を終了します。
22. Cisco Unified Communications Manager が、SIP トランクを介して BYE メッセージをレコーダに送信することで、ユーザ A (お客様) の音声の録音を終了します。
23. ユーザ D が新しい遠端側のユーザ A に接続されたため、Cisco Unified Communications Manager は 2 つの UPDATE メッセージをレコーダに送信します。

レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、ユーザ D (エージェント) の音声に対する録音コール UPDATE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダにエージェントの音声ストリームを送信します。

24. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、ユーザ A（お客様）の音声に対する録音コール UPDATE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダにお客様の音声ストリームを送信します。

この使用例では、コール処理に次の特徴があります。

- 近端側 B が転送を押すと、コールは暗黙的に保留になり、ユーザ A との録音セッションが終了します。
- ユーザ B がユーザ D にダイヤルし、ユーザ D が応答すると、ユーザ D に対する新しい録音セッションが開始されます。
- ユーザ B が転送を実行すると、ユーザ D とユーザ A が接続され、レコーダは新しい遠端側 A に関する情報を含む更新を受信します。

通常は、エージェントが録音コールを保留にするたびに、現在の録音セッションが終了します。また、エージェントが転送や保留などの補足サービスを呼び出すたびに、コールは暗黙的に保留になります。遠端側の情報が変更されると、Cisco Unified Communications Manager は SIP UPDATE メッセージをレコーダに送信します。

手順 5、手順 14、手順 18 の INVITE メッセージおよび手順 23 の UPDATE メッセージのヘッダー情報に注目してください。SIP ヘッダー拡張により、太字のテキストの情報がメッセージのヘッダーに追加されています。

手順 5 の INVITE メッセージのヘッダー情報

```
From:
<sip:2000@ucml;x-nearend;x-refci=ci2;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci1;x-farenddevice=deviceA;x-farendaddr=1000>;tag=fromtag1
```

手順 14 の INVITE メッセージのヘッダー情報

```
From:
<sip:2000@ucml;x-nearend;x-refci=ci3;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci4;x-farenddevice=deviceD;x-farendaddr=2001>;tag=fromtag2
```

手順 18 の INVITE メッセージのヘッダー情報

```
From:
<sip:2001@ucml;x-nearend;x-refci=ci4;x-nearenddevice=deviceD;x-farendrefci=ci3;x-farenddevice=deviceB;x-farendaddr=2000>;tag=fromtag2
```

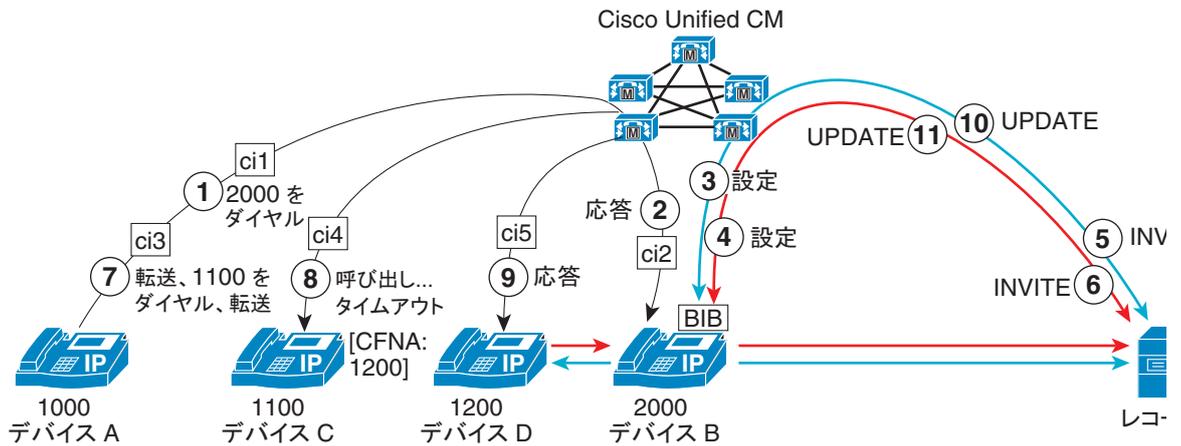
手順 23 の UPDATE メッセージのヘッダー情報

```
From:
<sip:2001@ucml;x-nearend;x-refci=ci4;x-nearenddevice=deviceD;x-farendrefci=ci1;x-farenddevice=deviceA;x-farendaddr=1000>;tag=fromtag2
```

遠端側による、CFNA が有効になっているユーザへのコール転送

自動コール録音のこの使用例では、遠端側が、Call Forward No Answer (CFNA; 無応答時転送) が有効になっているユーザにコールをブラインド転送します。図 34-17 に、この使用例を示します。

図 34-17 遠端側による、CFNA が有効になっているユーザへのコール転送



この使用例では、次のエンティティがコールに参加しています。

- お客様のコールは、DN 1000 のデバイス A から発信されます。
- エージェントは、DN 2000 のデバイス B でコールを受信します。
- お客様は、DN 1100 のデバイス C にコールをブラインド転送します。
- デバイス C は応答しませんが、CFNA が有効になっているため、DN 1200 のデバイス D にコールが転送されます。

コールの遠端側（お客様）が同じローカルクラスタ内の別の遠端側にコールを転送し、その遠端側で CFNA が有効になっているため、コールがローカルクラスタ内の 3 番目の遠端側に転送される自動コール録音セッションでは、次の手順が行われます。

1. ユーザ A（遠端側 = ローカルクラスタ内のお客様）がユーザ B（近端側 = エージェント）にコールします。
2. ユーザ B（近端側 = ローカルクラスタ内のエージェント）がコールに回答します。
3. エージェントのライン アピアランスが自動録音用に設定されているため、自動的にメディアストリームの録音セッションに対するトリガーが発生します。Cisco Unified Communications Manager は、最初に、エージェントの音声に対する録音コールを、ユーザ B（エージェント）の IP Phone の Built-In Bridge (BIB; ビルトインブリッジ) に発信します。
4. Cisco Unified Communications Manager が、お客様の音声に対する 2 回目の録音コールを、ユーザ B（エージェント）の IP Phone の BIB に発信します。
5. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、エージェントの音声に対する録音コール設定メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するエージェントの音声ストリームの送信を開始します。
6. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、お客様の音声に対する録音コール設定メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するお客様の音声ストリームの送信を開始します。

7. ユーザ A が、**転送**を押して DN 1100 のデバイス C にダイヤルし、もう一度**転送**を押します (ブラインド転送を実行します)。
8. Cisco Unified Communications Manager はデバイス C の DN 1100 を呼び出しますが、この DN とデバイスには CFNA が設定されています。呼び出しがタイムアウトし、Cisco Unified Communications Manager はコールを DN 1200 のデバイス D に転送します。
9. デバイス D で DN 1200 の遠端側 D がコールに応答します。
10. ユーザ B が新しい遠端側のユーザ D に接続されたため、Cisco Unified Communications Manager は 2 つの UPDATE メッセージをレコーダに送信します。

レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、ユーザ B (エージェント) の音声に対する録音コール UPDATE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダにエージェントの音声ストリームを送信します。

11. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、ユーザ D (お客様) の音声に対する録音コール UPDATE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダにお客様の音声ストリームを送信します。

この使用例では、コール処理に次の特徴があります。

- ローカルクラスタの転送では、Cisco Unified Communications Manager がレコーダを更新するのは、新しい遠端側が応答する場合だけです。
- ユーザ D が応答すると、更新された遠端側の情報を含む SIP UPDATE メッセージがレコーダに送信されます。

手順 5 と手順 10 の INVITE メッセージのヘッダー情報に注目してください。SIP ヘッダー拡張により、**太字のテキスト**の情報が INVITE メッセージと UPDATE メッセージのヘッダーに追加されています。

手順 5 の INVITE メッセージのヘッダー情報

```
From:
<sip:2000@ucm1;x-nearend;x-refci=ci2;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci1;x-farenddevice=deviceA;x-farendaddr=1000>;tag=fromtag1
```

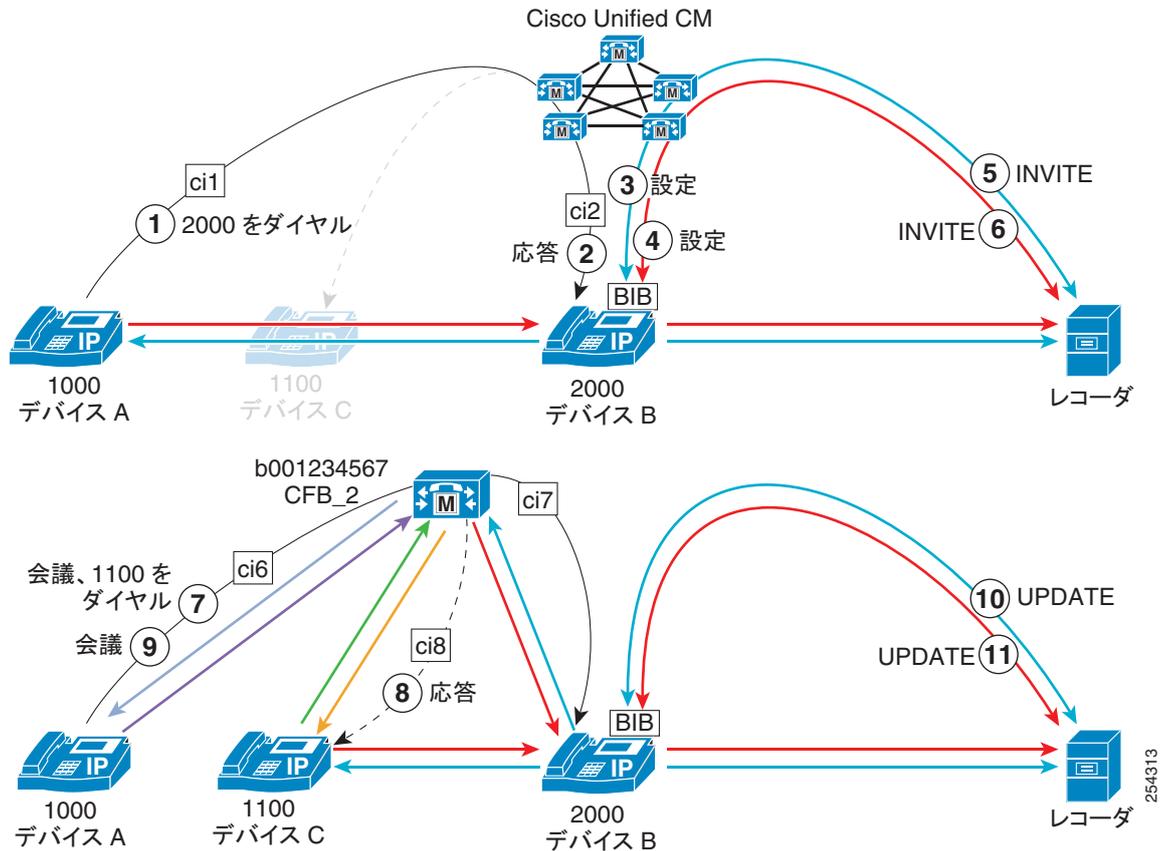
手順 10 の UPDATE メッセージのヘッダー情報

```
From:
<sip:2000@ucm1;x-nearend;x-refci=ci2;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci5;x-farenddevice=deviceD;x-farendaddr=1200>;tag=fromtag1
```

ローカル クラスタ内の遠端側による会議の作成

自動コール録音のこの使用例では、ローカル クラスタ内の遠端側が会議を作成します。
 図 34-18 に、この使用例を示します。

図 34-18 ローカル クラスタ内の遠端側による会議の作成



この使用例では、次のエンティティがコールに参加しています。

- 遠端側のお客様のコールは、DN 1000 のデバイス A から発信されます。
- 近端側のエージェントは、DN 2000 のデバイス B でコールを受信します。
- ユーザ A は、DN 1100 のデバイス C と会議を行うことによって会議を作成します。

ローカル クラスタ内の遠端側（お客様）が他の遠端側をコールに参加させることによって会議を作成する自動コール録音セッションでは、次の手順が行われます。

1. ユーザ A（遠端側 = ローカル クラスタ内のお客様）がユーザ B（近端側 = エージェント）にコールします。
2. ユーザ B（近端側 = ローカル クラスタ内のエージェント）がコールに回答します。
3. エージェントのライン アピランスが自動録音用に設定されているため、自動的にメディア ストリームの録音セッションに対するトリガーが発生します。Cisco Unified Communications Manager は、最初に、エージェントの音声に対する録音コールを、ユーザ B（エージェント）の IP Phone の Built-In Bridge (BIB; ビルトインブリッジ) に発信します。

4. Cisco Unified Communications Manager が、お客様の音声に対する 2 つ目の録音コールを、ユーザ B (エージェント) の IP Phone の BIB に発信します。
5. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、エージェントの音声に対する録音コール設定メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するユーザ B (エージェント) の音声ストリームの送信を開始します。
6. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、お客様の音声に対する録音コール設定メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するユーザ A (お客様) の音声ストリームの送信を開始します。
7. ユーザ A が、**会議**を押し、DN 1100 をダイヤルして会議を開始します。
8. ユーザ C (DN 1100 のデバイス C) がコールに応答します。
9. ユーザ A が、もう一度**会議**を押し、会議を実行します。
10. ユーザ B が新しい遠端側の CFB_2 に接続されたため、Cisco Unified Communications Manager は 2 つの UPDATE メッセージをレコーダに送信します。

レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、ユーザ B (エージェント) の音声に対する録音コール UPDATE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダにエージェントの音声ストリームを送信します。

11. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、CFB_2 (会議ブリッジ) に対する録音コール UPDATE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに会議の音声ストリームを送信します。

この使用例では、コール処理に次の特徴があります。

- 会議が確立されると、遠端側が会議ブリッジ (CFB) に変更されます。
- Cisco Unified Communications Manager は SIP UPDATE メッセージをレコーダに送信します。

手順 5 と手順 10 の INVITE メッセージのヘッダー情報に注目してください。SIP ヘッダー拡張により、**太字のテキスト**の情報が INVITE メッセージのヘッダーに追加されています。

手順 5 の INVITE メッセージのヘッダー情報

```
From:
<sip:2000@ucml;x-nearend;x-refci=ci2;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci1;x-farenddevice=deviceA;x-farendaddr=1000>;tag=fromtag1
```

手順 10 の UPDATE メッセージのヘッダー情報

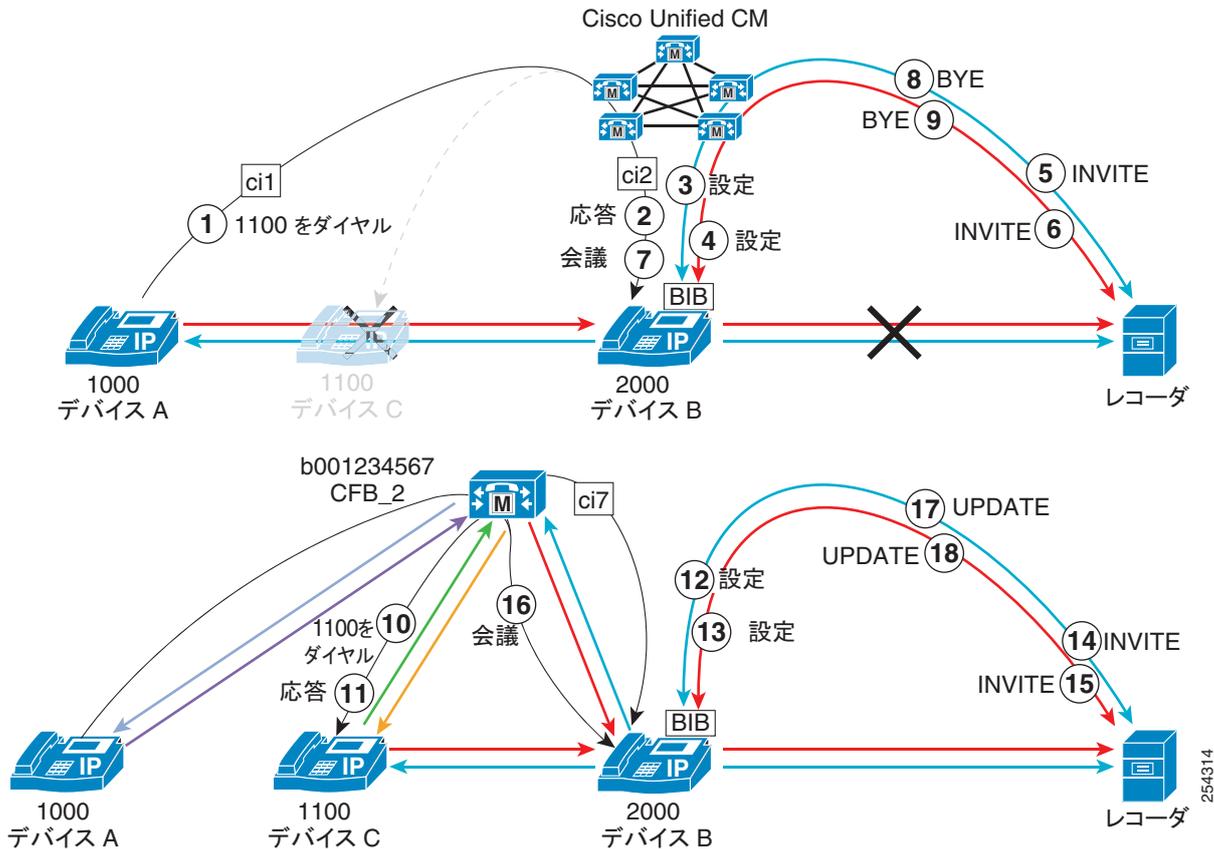
```
From:
<sip:2000@ucml;x-nearend;x-refci=ci2;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci7;x-farenddevice=CFB_2;x-farendaddr=b001234567;isfocus>;tag=fromtag1
```

手順 10 の UPDATE メッセージには、*isfocus* が含まれています。この *isfocus* は、近端側が会議コールに参加していることを示します。UPDATE メッセージには、新しい遠端側のアドレスとして b 番号も含まれています。b 番号は、会議ブリッジ (CFB) の DN を示します。

ローカル クラスタ内の近端側による会議の作成

自動コール録音のこの使用例では、ローカル クラスタ内の近端側が会議を作成します。
 図 34-19 に、この使用例を示します。

図 34-19 ローカル クラスタ内の近端側による会議の作成



この使用例では、次のエンティティがコールに参加しています。

- 遠端側のお客様のコールは、DN 1000 のデバイス A から発信されます。
- 近端側のエージェントは、DN 2000 のデバイス B でコールを受信します。
- ユーザ B は、DN 1100 のデバイス C と会議を行うことによって会議を作成します。

ローカル クラスタ内の近端側（エージェント）が他の遠端側をコールに参加させることによって会議を作成する自動コール録音セッションでは、次の手順が行われます。

1. ユーザ A（遠端側 = ローカル クラスタ内のお客様）がユーザ B（近端側 = エージェント）にコールします。
2. ユーザ B（近端側 = ローカル クラスタ内のエージェント）がコールに回答します。
3. エージェントのライン アピアランスが自動録音用に設定されているため、自動的にメディア ストリームの録音セッションに対するトリガーが発生します。Cisco Unified Communications Manager は、最初に、エージェントの音声に対する録音コールを、ユーザ B（エージェント）の IP Phone の Built-In Bridge (BIB; ビルトインブリッジ) に発信します。

4. Cisco Unified Communications Manager が、お客様の音声に対する 2 つ目の録音コールを、ユーザ B (エージェント) の IP Phone の BIB に発信します。
5. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、エージェントの音声に対する録音コール設定メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するユーザ B (エージェント) の音声ストリームの送信を開始します。
6. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、お客様の音声に対する録音コール設定メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するユーザ A (お客様) の音声ストリームの送信を開始します。
7. 近端側のユーザ B が、**会議**を押して会議を開始します。近端側が会議参加者に対して打診コールを発信すると、近端側のコールは自動的に保留になります。
8. Cisco Unified Communications Manager が、SIP トランクを介して BYE メッセージをレコーダに送信することで、ユーザ B (エージェント) の音声 (打診コール) の録音を終了します。
9. Cisco Unified Communications Manager が、SIP トランクを介して BYE メッセージをレコーダに送信することで、ユーザ A (お客様) の音声の録音を終了します。
10. 近端側のユーザ B が DN 1100 のユーザ C にダイヤルします。
11. ユーザ C がコールに応答します。
12. エージェントのライン アピアランスが自動録音用に設定されているため、自動的にメディアストリームの録音セッションに対するトリガーが発生します。Cisco Unified Communications Manager は、近端側 (エージェント) の音声に対する録音コールを、ユーザ B の IP Phone の Built-In Bridge (BIB; ビルトインブリッジ) に発信します。
13. Cisco Unified Communications Manager が、遠端側 (お客様) の音声に対する 2 つ目の録音コールを、ユーザ B の IP Phone の BIB に発信します。
14. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、ユーザ B (エージェント) の音声に対する録音コール設定メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対する近端側 (エージェント) の音声ストリームの送信を開始します。
15. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、遠端側 (お客様) の音声に対する録音コール設定メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するお客様の音声ストリームの送信を開始します。
16. ユーザ B が、**会議**を押して打診会議を実行します。すべてのユーザが会議ブリッジ (CFB_2) に接続します。
17. ユーザ B が新しい遠端側の CFB_2 に接続されたため、Cisco Unified Communications Manager は 2 つの UPDATE メッセージをレコーダに送信します。

レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、ユーザ B (エージェント) の音声に対する録音コール UPDATE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダにエージェントの音声ストリームを送信します。

18. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、CFB_2 (会議ブリッジ) に対する録音コール UPDATE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに会議の音声ストリームを送信します。

この使用例では、コール処理に次の特徴があります。

- 近端側が会議を作成します。最初の録音セッションは切断されます。
- 打診コールの接続によって録音セッションが再確立されます。
- 遠端側が CFB に変更され、Cisco Unified Communications Manager は SIP UPDATE メッセージをレコーダに送信します。

手順 5 と手順 14 の INVITE メッセージおよび手順 17 の UPDATE メッセージのヘッダー情報に注目してください。SIP ヘッダー拡張により、太字のテキストの情報が INVITE メッセージと UPDATE メッセージのヘッダーに追加されています。

手順 5 の INVITE メッセージのヘッダー情報

```
From:
<sip:2000@ucm1;x-nearend;x-refci=ci2;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci1;x-farenddevice=deviceA;x-farendaddr=1000>;tag=fromtag1
```

手順 14 の INVITE メッセージのヘッダー情報

```
From:
<sip:2000@ucm1;x-nearend;x-refci=ci3;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci4;x-farenddevice=deviceC;x-farendaddr=1100>;tag=fromtag1
```

手順 17 の UPDATE メッセージのヘッダー情報

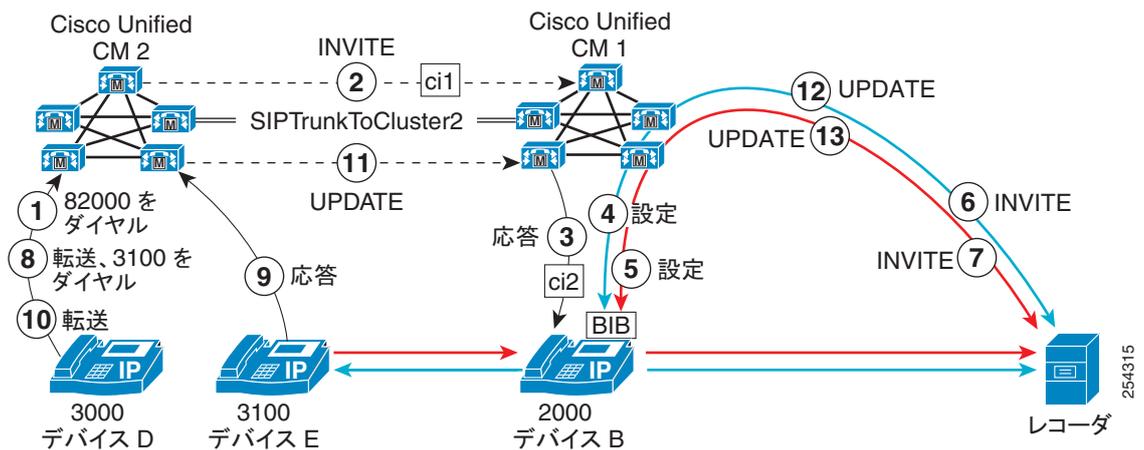
```
From:
<sip:2000@ucm1;x-nearend;x-refci=ci2;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci7;x-farenddevice=CFB_2;x-farendaddr=B001234567;isfocus>;tag=fromtag1
```

手順 17 の UPDATE メッセージには、*isfocus* が含まれています。この *isfocus* は、近端側が会議コールに参加していることを示します。UPDATE メッセージには、新しい遠端側のアドレスとして b 番号も含まれています。b 番号は、会議ブリッジ (CFB) の DN を示します。

リモート クラスタ内の遠端側による、リモート クラスタ内の別のユーザへのコール転送

自動コール録音のこの使用例では、リモート クラスタ内の遠端側が、リモート クラスタ内の別のユーザにコールを転送します。図 34-20 に、この使用例を示します。

図 34-20 リモート クラスタ内の遠端側による、リモート クラスタ内の別のユーザへのコール転送



この使用例では、次のエンティティがコールに参加しています。

- お客様のコールは、クラスタ Cisco Unified CM2 内の DN 3000 のデバイス D から発信されます。
- エージェントは、クラスタ Cisco Unified CM1 内の DN 2000 のデバイス B でコールを受信します。
- エージェント D は、クラスタ Cisco Unified CM2 内の DN 3100 のデバイス E にコールを転送します。

リモート クラスタ内の遠端側（エージェント）がリモート クラスタ内の別のユーザにコールを転送する自動コール録音セッションでは、次の手順が行われます。

1. ユーザ D（遠端側 = リモート クラスタ内のお客様）が、82000 をダイヤルして、ローカル クラスタ内のユーザ B（近端側 = エージェント）にコールします。
2. リモート クラスタ（Cisco Unified CM2）が、SIP トランクを介して INVITE メッセージをローカル クラスタ（Cisco Unified CM1）に送信します。メッセージには、ユーザ D に関する情報が含まれています。
3. ユーザ B（近端側 = ローカル クラスタ内のエージェント）がコールに応答します。
4. エージェントのライン アピアランスが自動録音用に設定されているため、自動的にメディア ストリームの録音セッションに対するトリガーが発生します。Cisco Unified Communications Manager は、最初に、エージェントの音声に対する録音コールを、ユーザ B（エージェント）の IP Phone の Built-In Bridge（BIB; ビルトインブリッジ）に発信します。
5. Cisco Unified Communications Manager が、お客様の音声に対する 2 つ目の録音コールを、ユーザ B（エージェント）の IP Phone の BIB に発信します。
6. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、エージェントの音声に対する録音コール設定メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するユーザ B（エージェント）の音声ストリームの送信を開始します。
7. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、お客様の音声に対する録音コール設定メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するユーザ D（お客様）の音声ストリームの送信を開始します。
8. リモート クラスタ内のユーザ D が、転送を開始し（転送を押し）、DN 3100 のデバイス E にダイヤルします。デバイス E もリモート クラスタ内にあります。
9. ユーザ E がコールに応答します。
10. ユーザ D が転送を押しして転送を実行します。
11. リモート クラスタ（Cisco Unified CM2）が、SIP トランクを介して INVITE メッセージをローカル クラスタ（Cisco Unified CM1）に送信します。メッセージには、ユーザ E に関する情報が含まれています。
12. ユーザ B が新しい遠端側のユーザ E に接続されたため、Cisco Unified Communications Manager は 2 つの UPDATE メッセージをレコーダに送信します。

レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、ユーザ B（エージェント）の音声に対する録音コール UPDATE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダにエージェントの音声ストリームを送信します。

13. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、ユーザ E（お客様）の音声に対する録音コール UPDATE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダにお客様の音声ストリームを送信します。

この使用例では、コール処理に次の特徴があります。

- 遠端側と転送先の両方がリモート（Cisco Unified CM2）クラスタ内にあります。近端側は、2つのクラスタをリンクする SIP トランクを介して遠端側を確認します。
- 転送先が応答すると、レコーダは、遠端側のアドレスを含む UPDATE メッセージを受信します。

手順 6 の INVITE メッセージと手順 12 の UPDATE メッセージのヘッダー情報に注目してください。SIP ヘッダー拡張により、太字のテキストの情報がメッセージのヘッダーに追加されています。

手順 6 の INVITE メッセージのヘッダー情報

```
From:
<sip:2000@ucm1;x-nearend;x-refci=ci2;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci1;x-farenddevice=SIPTrunkToCluster2;x-farendaddr=3000>;tag=fromtag1
```

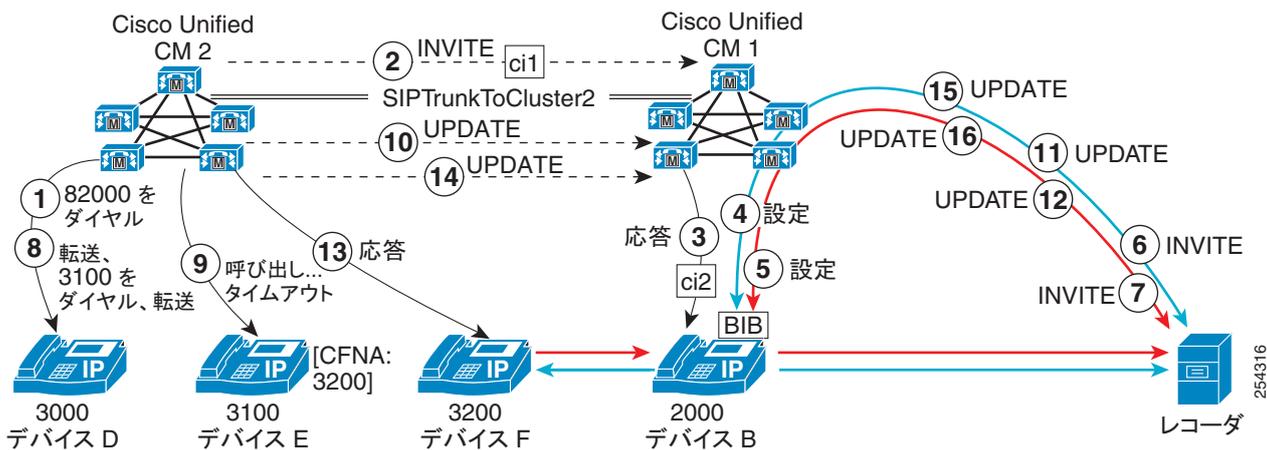
手順 12 の UPDATE メッセージのヘッダー情報

```
From:
<sip:2000@ucm1;x-nearend;x-refci=ci2;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci1;x-farenddevice=SIPTrunkToCluster2;x-farendaddr=3100>;tag=fromtag1
```

リモート クラスタ内の遠端側による、CFNA が設定されているリモート クラスタ ユーザへのコールのブラインド転送

自動コール録音のこの使用例では、リモート クラスタ内の遠端側が、Call Forward No Answer (CFNA; 無応答時転送) が設定されている、応答しないリモート ユーザにコールをブラインド転送します。図 34-21 に、この使用例を示します。

図 34-21 リモート クラスタ内の遠端側による、CFNA が設定されているリモート クラスタ ユーザへのコールのブラインド転送



この使用例では、次のエンティティがコールに参加しています。

- お客様のコールは、クラスタ Cisco Unified CM2 内の DN 3000 のデバイス D から発信されます。
- エージェントは、クラスタ Cisco Unified CM1 内の DN 2000 のデバイス B でコールを受信します。
- エージェント D は、クラスタ Cisco Unified CM2 内の DN 3100 のデバイス E にコールをブラインド転送します。
- エージェント E は応答せず、コールはクラスタ Cisco Unified CM2 内の DN 3200 のデバイス F に転送されます。

リモート クラスタ内の遠端側（エージェント）がリモート クラスタ内の別のユーザにコールをブラインド転送し、2 番目のユーザが応答せず、コールがリモート クラスタ内の 3 番目のユーザに転送される自動コール録音セッションでは、次の手順が行われます。

1. ユーザ D（遠端側 = リモート クラスタ内のお客様）が、82000 をダイヤルして、ローカル クラスタ内のユーザ B（近端側 = エージェント）にコールします。
2. リモート クラスタ（Cisco Unified CM2）が、SIP トランクを介して INVITE メッセージをローカル クラスタ（Cisco Unified CM1）に送信します。メッセージには、ユーザ D に関する情報が含まれています。
3. ユーザ B（近端側 = ローカル クラスタ内のエージェント）がコールに応答します。
4. エージェントのライン アピアランスが自動録音用に設定されているため、自動的にメディア ストリームの録音セッションに対するトリガーが発生します。Cisco Unified Communications Manager は、最初に、エージェントの音声に対する録音コールを、ユーザ B（エージェント）の IP Phone の Built-In Bridge（BIB; ビルトインブリッジ）に発信します。
5. Cisco Unified Communications Manager が、お客様の音声に対する 2 つ目の録音コールを、ユーザ B（エージェント）の IP Phone の BIB に発信します。
6. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、エージェントの音声に対する録音コール設定メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するユーザ B（エージェント）の音声ストリームの送信を開始します。
7. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、お客様の音声に対する録音コール設定メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するユーザ D（お客様）の音声ストリームの送信を開始します。
8. リモート クラスタ内のユーザ D が、転送を開始し（転送を押し）、DN 3100 のデバイス E にダイヤルします。デバイス E もリモート クラスタ内にあります。
9. ユーザ E が応答せず、呼び出しがタイムアウトしたため、Cisco Unified Communications Manager はコールをユーザ F（DN 3200 のデバイス F）に送信します。
10. リモート クラスタ（Cisco Unified CM2）が、SIP トランクを介して UPDATE メッセージをローカル クラスタ（Cisco Unified CM1）に送信します。メッセージには、ユーザ E に関する情報が含まれています。
11. ユーザ B が新しい遠端側のユーザ E に接続されたため、ローカルの Cisco Unified Communications Manager は 2 つの UPDATE メッセージをレコーダに送信します。

レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、ユーザ B（エージェント）の音声に対する録音コール UPDATE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダにエージェントの音声ストリームを送信します。

12. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、ユーザ E (お客様) の音声に対する録音コール UPDATE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダにお客様の音声ストリームを送信します。
13. ユーザ F が転送されたコールに応答します。
14. リモート クラスタ (Cisco Unified CM2) が、SIP トランクを介して UPDATE メッセージをローカル クラスタ (Cisco Unified CM1) に送信します。メッセージには、ユーザ F に関する情報が含まれています。
15. ユーザ B が新しい遠端側のユーザ F に接続されたため、Cisco Unified Communications Manager は 2 つの UPDATE メッセージをレコーダに送信します。

レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、ユーザ B (エージェント) の音声に対する録音コール UPDATE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダにエージェントの音声ストリームを送信します。

16. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、ユーザ F (お客様) の音声に対する録音コール UPDATE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダにお客様の音声ストリームを送信します。

この使用例では、コール処理に次の特徴があります。

- リモート クラスタ内の遠端側 D が、リモート クラスタ内のユーザ E にコールを転送します。リモートの Cisco Unified Communications Manager がレコーダを更新します。
- ユーザ E の CFNA タイマーが切れると、Cisco Unified Communications Manager はコールをユーザ F にリダイレクトします。リモートの Cisco Unified Communications Manager がレコーダを再更新します。
- ローカルの Cisco Unified Communications Manager のコール状態はアクティブのままであるため、Cisco Unified Communications Manager は転送元のリモート デバイスごとにレコーダを更新します。

手順 6、手順 11、および手順 15 の INVITE メッセージのヘッダー情報に注目してください。SIP ヘッダー拡張により、太字のテキストの情報が INVITE メッセージと UPDATE メッセージのヘッダーに追加されています。

手順 6 の INVITE メッセージのヘッダー情報

```
From:
<sip:2000@ucm1;x-nearend;x-refci=ci2;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci1;x-farenddevice=SIPTrunkTocluster2;x-farendaddr=3000>;tag=fromtag1
```

手順 11 の UPDATE メッセージのヘッダー情報

```
From:
<sip:2000@ucm1;x-nearend;x-refci=ci2;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci1;x-farenddevice=SIPTrunkTocluster2;x-farendaddr=3100>;tag=fromtag1
```

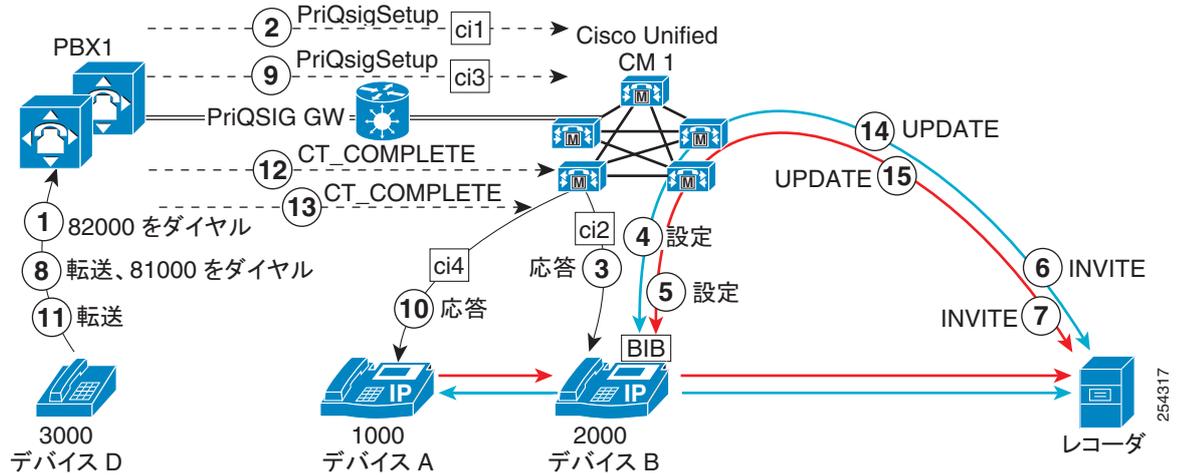
手順 15 の UPDATE メッセージのヘッダー情報

```
From:
<sip:2000@ucm1;x-nearend;x-refci=ci2;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci1;x-farenddevice=SIPTrunkTocluster2;x-farendaddr=3200>;tag=fromtag1
```

リモート PBX 内の遠端側による、ローカル クラスタ内の電話機へのコール転送

自動コール録音のこの使用例では、リモート PBX 内の遠端側が、ローカル クラスタ内の電話機にコールを転送します。図 34-22 に、この使用例を示します。

図 34-22 リモート PBX 内の遠端側による、ローカル クラスタ内の電話機へのコール転送



この使用例では、次のエンティティがコールに参加しています。

- お客様のコールは、PBX1 内の DN 3000 のデバイス D から発信されます。
- エージェントは、クラスタ Cisco Unified CM1 内の DN 2000 のデバイス B でコールを受信します。
- エージェント D は、クラスタ Cisco Unified CM1 内の DN 1000 のデバイス A にコールを転送します。

リモート PBX 内の遠端側（エージェント）がローカル クラスタ内の別のユーザにコールを転送する自動コール録音セッションでは、次の手順が行われます。

1. ユーザ D（遠端側 = リモート PBX 内のお客様）が、82000 をダイヤルして、ローカル クラスタ内のユーザ B（近端側 = エージェント）にコールします。
2. リモート PBX が、PRI QSIG ゲートウェイを介して設定メッセージをローカル クラスタ（Cisco Unified CM1）に送信します。メッセージには、ユーザ D に関する情報が含まれています。
3. ユーザ B（近端側 = ローカル クラスタ内のエージェント）がコールに応答します。
4. エージェントのライン アピアランスが自動録音用に設定されているため、自動的にメディア ストリームの録音セッションに対するトリガーが発生します。Cisco Unified Communications Manager は、最初に、エージェントの音声に対する録音コールを、ユーザ B（エージェント）の IP Phone の Built-In Bridge（BIB; ビルトインブリッジ）に発信します。
5. Cisco Unified Communications Manager が、お客様の音声に対する 2 つ目の録音コールを、ユーザ B（エージェント）の IP Phone の BIB に発信します。
6. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、エージェントの音声に対する録音コール設定メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するユーザ B（エージェント）の音声ストリームの送信を開始します。

7. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、お客様の音声に対する録音コール設定メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するユーザ D (お客様) の音声ストリームの送信を開始します。
8. リモート PBX 内のユーザ D が、打診転送を開始し (転送を押し)、DN 81000 のデバイス A にダイヤルします。デバイス A はローカル クラスタ内にあります。
9. リモート PBX が、PRI QSIG ゲートウェイを介して設定メッセージをローカル クラスタ (Cisco Unified CM1) に送信します。メッセージには、ユーザ D に関する情報が含まれています。
10. ユーザ A がユーザ D からのコールに応答します。
11. ユーザ D が転送を押して転送を実行します。
12. リモート PBX が UPDATE を送信します。
13. リモート PBX が UPDATE を送信します。
14. ユーザ B が新しい遠端側のユーザ A に接続されたため、ローカルの Cisco Unified Communications Manager は 2 つの UPDATE メッセージをレコーダに送信します。

レコーダが、SIP トランクを介してローカルの Cisco Unified Communications Manager から送信された、ユーザ B (エージェント) の音声に対する録音コール UPDATE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダにエージェントの音声ストリームを送信します。

15. レコーダが、ローカルの Cisco Unified Communications Manager から送信された、ユーザ A (お客様) の音声に対する録音コール UPDATE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダにお客様の音声ストリームを送信します。

この使用例では、コール処理に次の特徴があります。

- リモート クラスタ内の遠端側がローカル クラスタ内のユーザにコールを転送すると、Cisco Unified Communications Manager は、転送先のローカル クラスタ ユーザの `farendaddr` を含む SIP UPDATE メッセージを送信します。
- この転送では、ヘアピン転送を指定しています。遠端側のアドレスが UPDATE メッセージでローカルの DN 1000 に変更されています。

手順 6 と手順 14 の INVITE メッセージのヘッダー情報に注目してください。SIP ヘッダー拡張により、太字のテキストの情報が INVITE メッセージと UPDATE メッセージのヘッダーに追加されています。

手順 6 の INVITE メッセージのヘッダー情報

```
From:
<sip:2000@ucm1;x-nearend;x-refci=ci2;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci1;x-farenddevice=PRIQSIGGW;x-farendaddr=3000>;tag=fromtag1
```

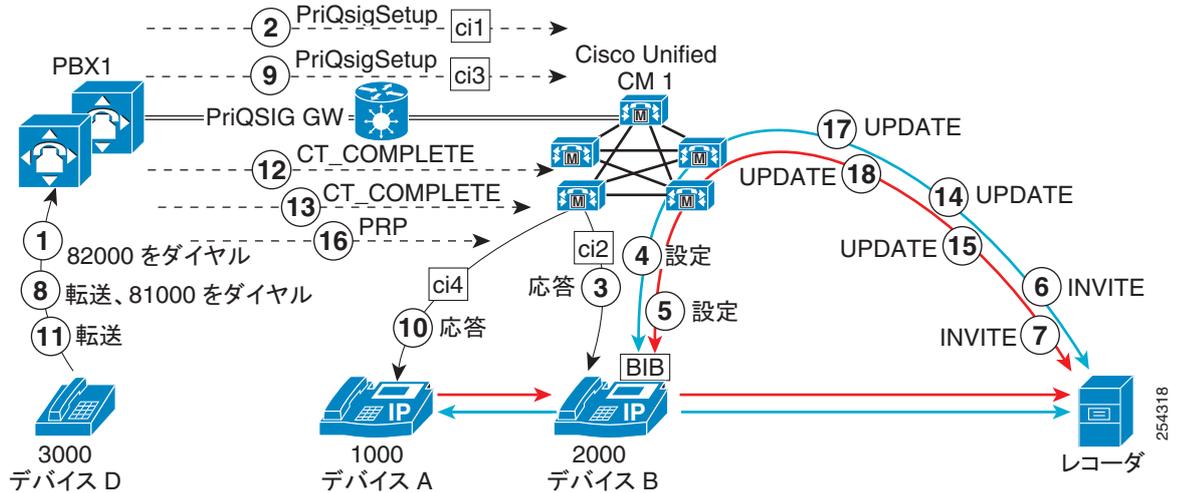
手順 14 の UPDATE メッセージのヘッダー情報

```
From:
<sip:2000@ucm1;x-nearend;x-refci=ci2;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci1;x-farenddevice=PRIQSIGGW;x-farendaddr=1000>;tag=fromtag1
```

リモート PBX の遠端側による、パス置換を使用したローカル電話機へのコール転送

自動コール録音のこの使用例では、リモート PBX の遠端側が、パス置換を使用してローカル電話機にコールを転送します。図 34-23 に、この使用例を示します。

図 34-23 リモート PBX の遠端側による、パス置換を使用したローカル電話機へのコール転送



この使用例では、次のエンティティがコールに参加しています。

- お客様のコールは、PBX1 内の DN 3000 のデバイス D から発信されます。
- エージェントは、クラスタ Cisco Unified CM1 内の DN 2000 のデバイス B でコールを受信します。
- エージェント D は、クラスタ Cisco Unified CM1 内の DN 1000 のデバイス A にコールを転送します。

リモート PBX 内の遠端側（エージェント）がパス置換を使用してローカルクラスタ内の電話機にコールを転送する自動コール録音セッションでは、次の手順が行われます。

1. ユーザ D（遠端側 = リモート PBX 内のお客様）が、82000 をダイヤルして、ローカルクラスタ内のユーザ B（近端側 = エージェント）にコールします。
2. リモート PBX が、PRI QSIG ゲートウェイを介して設定メッセージをローカルクラスタ（Cisco Unified CM1）に送信します。メッセージには、ユーザ D に関する情報が含まれています。
3. ユーザ B（近端側 = ローカルクラスタ内のエージェント）がコールに回答します。
4. エージェントのライン アピランスが自動録音用に設定されているため、自動的にメディアストリームの録音セッションに対するトリガーが発生します。Cisco Unified Communications Manager は、最初に、エージェントの音声に対する録音コールを、ユーザ B（エージェント）の IP Phone の Built-In Bridge（BIB; ビルトインブリッジ）に発信します。
5. Cisco Unified Communications Manager が、お客様の音声に対する 2 回目の録音コールを、ユーザ B（エージェント）の IP Phone の BIB に発信します。
6. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、エージェントの音声に対する録音コール設定メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するユーザ B（エージェント）の音声ストリームの送信を開始します。

7. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、お客様の音声に対する録音コール設定メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するユーザ D (お客様) の音声ストリームの送信を開始します。
8. リモート PBX 内のユーザ D が、打診転送を開始し (転送を押し)、DN 81000 のデバイス A にダイヤルします。デバイス A はローカル クラスタ内にあります。
9. リモート PBX が、PRI QSIG ゲートウェイを介して設定メッセージをローカル クラスタ (Cisco Unified CM1) に送信します。メッセージには、ユーザ D に関する情報が含まれています。
10. ローカル ユーザ A がユーザ D からのコールに応答します。
11. リモート ユーザ D が転送を押し、転送を実行します。
12. リモート PBX が UPDATE を送信します。
13. リモート PBX が UPDATE を送信します。
14. ユーザ B が新しい遠端側のユーザ A に接続されたため、ローカルの Cisco Unified Communications Manager は 2 つの UPDATE メッセージをレコーダに送信します。

レコーダが、SIP トランクを介してローカルの Cisco Unified Communications Manager から送信された、ユーザ B (エージェント) の音声に対する録音コール UPDATE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダにエージェントの音声ストリームを送信します。

15. レコーダが、ローカルの Cisco Unified Communications Manager から送信された、ユーザ A (お客様) の音声に対する録音コール UPDATE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダにお客様の音声ストリームを送信します。
16. ローカルの Cisco Unified Communications Manager が、パス置換プロセスを開始してデバイス A をデバイス B に直接接続し、リモート PBX を介したルーティングが行われないようにします。
17. ユーザ B が新しい遠端側のユーザ A に接続されたため、ローカルの Cisco Unified Communications Manager は 2 つの UPDATE メッセージをレコーダに送信します。

レコーダが、SIP トランクを介してローカルの Cisco Unified Communications Manager から送信された、ユーザ B (エージェント) の音声に対する録音コール UPDATE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダにエージェントの音声ストリームを送信します。

18. レコーダが、ローカルの Cisco Unified Communications Manager から送信された、ユーザ A (お客様) の音声に対する録音コール UPDATE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダにお客様の音声ストリームを送信します。

この使用例では、コール処理に次の特徴があります。

- パス置換は、リモート PBX へのヘアピン コールを置き換えて、リモート PBX を介したルーティングを行わずにユーザ A とユーザ B が直接接続されるようにします。
- 転送が完了すると、遠端側のコール情報が更新されます。
- パス置換が完了すると、遠端側のデバイスも更新されます。

手順 6、手順 14、および手順 17 の INVITE メッセージのヘッダー情報に注目してください。SIP ヘッダー拡張により、太字のテキストの情報が INVITE メッセージと UPDATE メッセージのヘッダーに追加されています。

手順 6 の INVITE メッセージのヘッダー情報

From:
 <sip:2000@ucml1;x-nearend;x-refci=ci2;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci1;x-farenddevice=PriQSIGGW;x-farendaddr=3000>;tag=fromtag1

手順 14 の UPDATE メッセージのヘッダー情報

From:
 <sip:2000@ucml1;x-nearend;x-refci=ci2;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci1;x-farenddevice=PriQSIGGW;x-farendaddr=1000>;tag=fromtag1

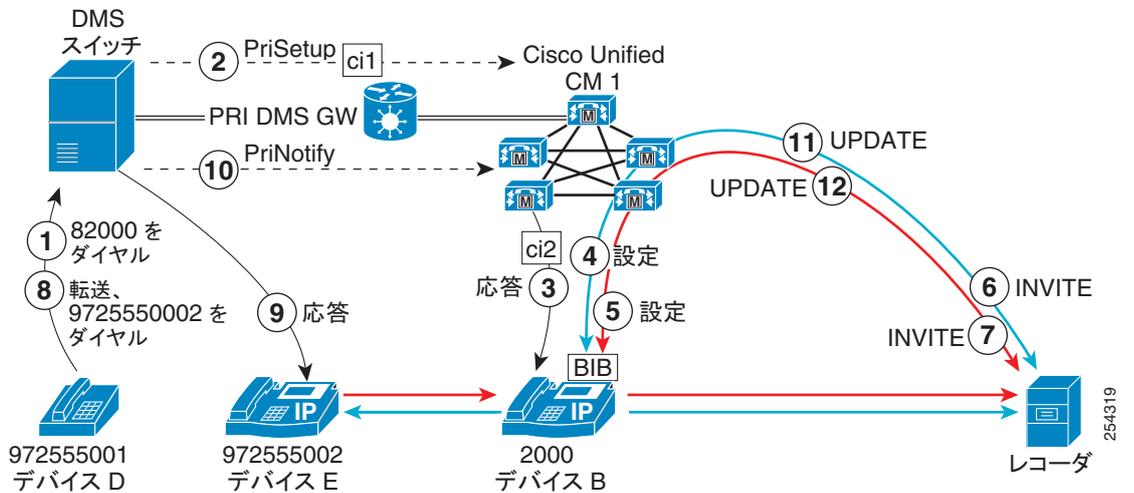
手順 17 の UPDATE メッセージのヘッダー情報

From:
 <sip:2000@ucml1;x-nearend;x-refci=ci2;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci4;x-farenddevice=deviceA;x-farendaddr=1000>;tag=fromtag1

遠端側による、DMS ゲートウェイ経由のコール転送

自動コール録音のこの使用例では、遠端側が DMS ゲートウェイ経由でコールを転送します。図 34-24 に、この使用例を示します。

図 34-24 遠端側による、DMS ゲートウェイ経由のコール転送



この使用例では、次のエンティティがコールに参加しています。

- お客様のコールは、DMS スイッチに接続する DN 9725550001 のデバイス D から発信されます。
- エージェントは、クラスタ Cisco Unified CM1 内の DN 2000 のデバイス B でコールを受信します。
- エージェント D は、DMS スイッチに接続する DN 9725550002 のデバイス E にコールを転送します。

DMS スイッチ経由で接続する遠端側（エージェント）が DMS スイッチ経由で接続する電話機にコールを転送する自動コール録音セッションでは、次の手順が行われます。

1. ユーザ D（遠端側 = DMS スイッチを経由するお客様）が、82000 をダイヤルして、ローカル クラスタ内のユーザ B（近端側 = エージェント）にコールします。
2. DMS スイッチが、PRI DMS ゲートウェイを介して PriSetup メッセージをローカル クラスタ（Cisco Unified CM1）に送信します。メッセージには、ユーザ D に関する情報が含まれています。
3. ユーザ B（近端側 = ローカル クラスタ内のエージェント）がコールに応答します。
4. エージェントのライン アピアランスが自動録音用に設定されているため、自動的にメディア ストリームの録音セッションに対するトリガーが発生します。Cisco Unified Communications Manager は、最初に、エージェントの音声に対する録音コールを、ユーザ B（エージェント）の IP Phone の Built-In Bridge（BIB; ビルトインブリッジ）に発信します。
5. Cisco Unified Communications Manager が、お客様の音声に対する 2 つ目の録音コールを、ユーザ B（エージェント）の IP Phone の BIB に発信します。
6. レコーダが、SIP トランクを介してローカルの Cisco Unified Communications Manager から送信された、エージェントの音声に対する録音コール設定メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するユーザ B（エージェント）の音声ストリームの送信を開始します。
7. レコーダが、SIP トランクを介してローカルの Cisco Unified Communications Manager から送信された、お客様の音声に対する録音コール設定メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するユーザ D（お客様）の音声ストリームの送信を開始します。
8. DMS ゲートウェイを経由するユーザ D が、打診転送を開始し（転送を押し）、DN 9725550002 のデバイス E にダイヤルします。デバイス E も DMS ゲートウェイを経由します。
9. ユーザ E がユーザ D からのコールに応答します。
10. DMS スイッチが、PRI DMS ゲートウェイを介して PriNotify メッセージをローカル クラスタ（Cisco Unified CM1）に送信します。メッセージには、ユーザ E に関する情報が含まれています。
11. ユーザ B が新しい遠端側のユーザ E に接続されたため、ローカルの Cisco Unified Communications Manager は 2 つの UPDATE メッセージをレコーダに送信します。

レコーダが、SIP トランクを介してローカルの Cisco Unified Communications Manager から送信された、ユーザ B（エージェント）の音声に対する録音コール UPDATE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダにエージェントの音声ストリームを送信します。

12. レコーダが、ローカルの Cisco Unified Communications Manager から送信された、ユーザ E（お客様）の音声に対する録音コール UPDATE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダにお客様の音声ストリームを送信します。

この使用例では、コール処理に次の特徴があります。

- 通常、PSTN 側の遠端側がコールを転送した場合、Cisco Unified Communications Manager には転送側と転送先がわかりません。ただし、DMS スイッチまたは PBX で PriNotify がサポートされている場合、Cisco Unified Communications Manager は遠端側が変更されたときに PriNotify メッセージを受信し、レコーダに対して遠端側情報を更新できます。

手順 6 と手順 11 の INVITE メッセージのヘッダー情報に注目してください。SIP ヘッダー拡張により、太字のテキストの情報が INVITE メッセージと UPDATE メッセージのヘッダーに追加されています。

手順 6 の INVITE メッセージのヘッダー情報

From:

```
<sip:2000@ucm1;x-nearend;x-refci=ci2;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci1;x-farenddevice= PriDMSGW;x-farendaddr=9725550001>;tag=fromtag1
```

手順 11 の UPDATE メッセージのヘッダー情報

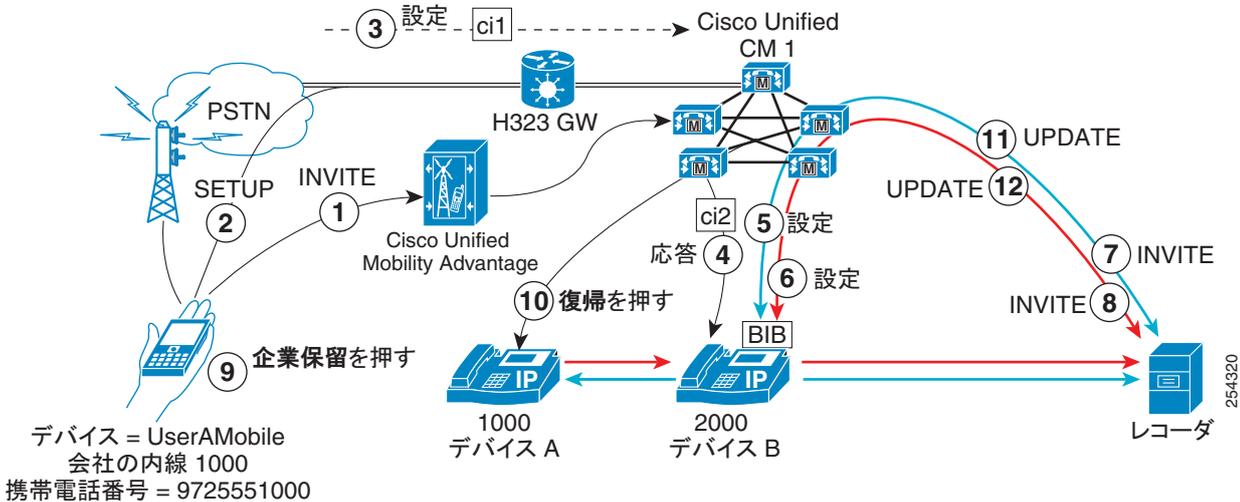
From:

```
<sip:2000@ucm1;x-nearend;x-refci=ci2;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci1;x-farenddevice= PriDMSGW;x-farendaddr=9725550002>;tag=fromtag1
```

携帯電話コールのデスクトップピックアップ

自動コール録音のこの使用例では、携帯電話ユーザがコールをピックアップのために机上の電話機に送信します。図 34-25 に、この使用例を示します。

図 34-25 携帯電話コールのデスクトップピックアップ



この使用例では、次のエンティティがコールに参加しています。

- お客様のコールは、モバイル デバイス UserACell（会社の内線 1000、携帯電話番号 9725551000）から発信されます。
- エージェントは、DN 2000 のデバイス B でコールを受信します。
- お客様は、お客様の会社の電話機（DN 1000 のデバイス A）からコールを再開します。

携帯電話コールのデスクトップ ピックアップが行われる自動コール録音セッションでは、次の手順が行われます。

1. UserACell がユーザ B（DN 2000 のデバイス B）にコールします。
2. Cisco Unified Mobile Communicator クライアントが SETUP メッセージを送信します。
3. SETUP メッセージは H.323 ゲートウェイを通過して、ローカルの Cisco Unified CM1 クラスタに到達します。
4. ユーザ B が UserACell からの着信コールに応答します。
5. エージェントのライン アピアランスが自動録音用に設定されているため、自動的にメディア ストリームの録音セッションに対するトリガーが発生します。Cisco Unified Communications Manager は、最初に、エージェントの音声に対する録音コールを、ユーザ B（エージェント）の IP Phone の Built-In Bridge（BIB; ビルトインブリッジ）に発信します。
6. Cisco Unified Communications Manager が、お客様の音声に対する 2 つ目の録音コールを、ユーザ B（エージェント）の IP Phone の BIB に発信します。
7. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、エージェントの音声に対する録音 INVITE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するユーザ B（エージェント）の音声ストリームの送信を開始します。
8. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、お客様の音声に対する録音 INVITE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するユーザ UserACell（お客様）の音声ストリームの送信を開始します。
9. UserACell が、ユーザ A の携帯電話で**企業保留**を押します。
10. ユーザ A が、ユーザ A の机上の電話機で**復帰**を押します。
11. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、エージェントの音声に対する録音コール UPDATE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダにエージェントの音声ストリームを送信します。
12. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、お客様の音声に対する録音コール UPDATE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダにお客様の音声ストリームを送信します。

この使用例では、コール処理に次の特徴があります。

- 携帯電話では、シェアラインの概念が使用されています。携帯電話コールを保留にし、机上の電話機でコールを再開すると、遠端側が変更されます。Cisco Unified Communications Manager はレコーダに更新を送信します。
- ユーザは、ユーザの机上の電話機からコールをピックアップして、ユーザの携帯電話で開始した会話を継続します。そのためには、Cisco Unified Communications Manager を使用して、携帯電話の D チャネル経由でコールを保留にします（企業保留）。その後、机上の電話機からコールを再開します。

手順 7 と手順 11 の INVITE メッセージのヘッダー情報に注目してください。SIP ヘッダー拡張により、太字のテキストの情報が INVITE メッセージと UPDATE メッセージのヘッダーに追加されています。

手順 7 の INVITE メッセージのヘッダー情報

```
From:
<sip:2000@ucml;x-nearend;x-refci=ci2;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci1;x-farenddevice=UserACell;x-farendaddr=1000>;tag=fromtag1
```

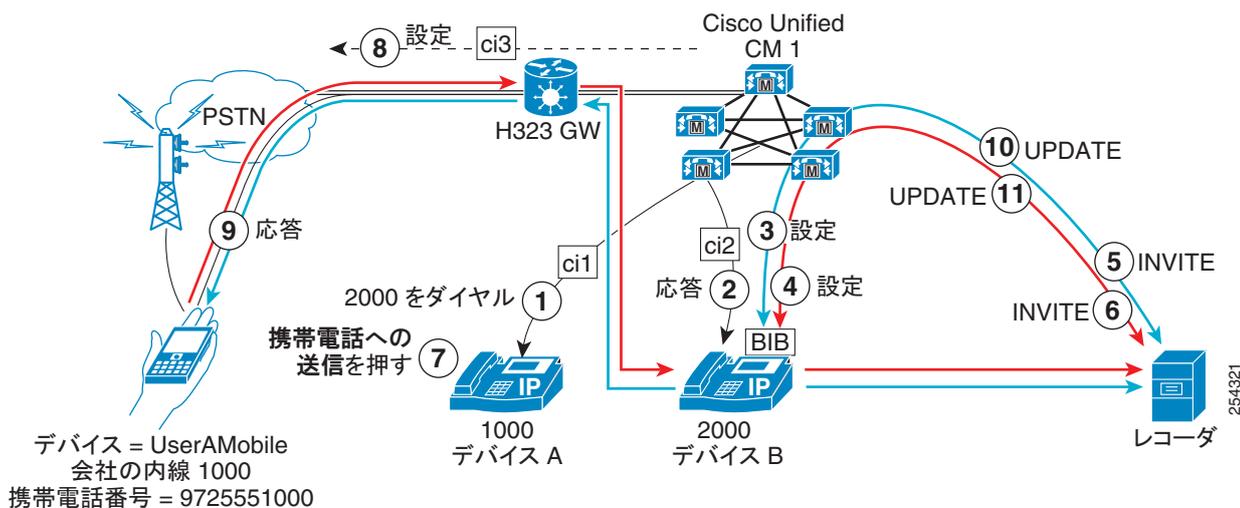
手順 11 の UPDATE メッセージのヘッダー情報

```
From:
<sip:2000@ucml;x-nearend;x-refci=ci2;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci1;x-farenddevice=deviceA;x-farendaddr=1000>;tag=fromtag1
```

遠端側による、携帯電話ピックアップのための携帯電話へのコール送信

自動コール録音のこの使用例では、遠端側が、携帯電話ピックアップのためにユーザの携帯電話にコールを送信します（このシナリオでは、「携帯電話コールのデスクトップピックアップ」(P.34-45) とは逆のシナリオを示します)。図 34-26 に、この使用例を示します。

図 34-26 遠端側による、携帯電話ピックアップのための携帯電話へのコール送信



この使用例では、次のエンティティがコールに参加しています。

- お客様のコールは、DN 1000 のデバイス A から発信されます。
- エージェントは、DN 2000 のデバイス B でコールを受信します。
- お客様は、お客様の携帯電話デバイス UserACell（会社の内線 1000、携帯電話番号 9725551000）からコールを再開します。

企業ユーザが自分の携帯電話にコールを送信する自動コール録音セッションでは、次の手順が行われます。

1. 企業ユーザの遠端側 A が、DN 1000 のデバイス A からユーザ B（DN 2000 のデバイス B）にコールします。
2. ユーザ B の DN 2000 が、遠端側 A からの着信コールに応答します。

3. エージェントのライン アピランスが自動録音用に設定されているため、自動的にメディア ストリームの録音セッションに対するトリガーが発生します。Cisco Unified Communications Manager は、最初に、エージェントの音声に対する録音コールを、ユーザ B (エージェント) の IP Phone の Built-In Bridge (BIB; ビルトインブリッジ) に発信します。
4. Cisco Unified Communications Manager が、お客様の音声に対する 2 つ目の録音コールを、ユーザ B (エージェント) の IP Phone の BIB に発信します。
5. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、エージェントの音声に対する録音 INVITE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するユーザ B (エージェント) の音声ストリームの送信を開始します。
6. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、お客様の音声に対する録音 INVITE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するユーザ A (お客様) の音声ストリームの送信を開始します。
7. ユーザ A が、ユーザ A の机上の電話機で**携帯電話への送信**を押します。
8. Cisco Unified Communications Manager が、ユーザ A の携帯電話に設定メッセージを送信します。
9. ユーザ A が、デバイス UserACell で呼び出し中のコールに応答します。
10. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、エージェントの音声に対する録音コール UPDATE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダにエージェントの音声ストリームを送信します。
11. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、お客様の音声に対する録音コール UPDATE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダにお客様の音声ストリームを送信します。

この使用例では、コール処理に次の特徴があります。

- ユーザ UserACell がコールに応答すると、ユーザ UserACell の情報が SIP UPDATE メッセージに格納されてレコーダに送信されます。

手順 5 と手順 10 の INVITE メッセージのヘッダー情報に注目してください。SIP ヘッダー拡張により、**太字のテキスト**の情報が INVITE メッセージと UPDATE メッセージのヘッダーに追加されています。

手順 5 の INVITE メッセージのヘッダー情報

```
From:
<sip:2000@ucm1;x-nearend;x-refci=ci2;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci1;x-farenddevice=deviceA;x-farendaddr=1000>;tag=fromtag1
```

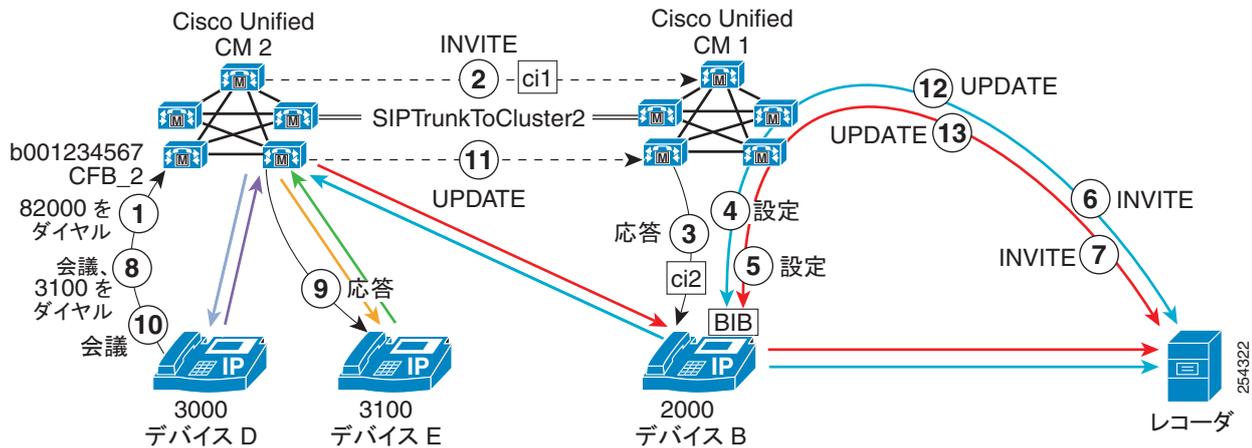
手順 10 の UPDATE メッセージのヘッダー情報

```
From:
<sip:2000@ucm1;x-nearend;x-refci=ci2;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci3;x-farenddevice=UserACell;x-farendaddr=1000>;tag=fromtag1
```

リモート クラスタ内の遠端側による会議の作成

自動コール録音のこの使用例では、リモート クラスタ内の遠端側が会議を作成します。
 図 34-27 に、この使用例を示します。

図 34-27 リモート クラスタ内の遠端側による会議の作成



この使用例では、次のエンティティがコールに参加しています。

- 遠端側のお客様のコールは、DN 3000 のデバイス D から発信されます。
- 近端側のエージェントは、DN 2000 のデバイス B でコールを受信します。
- ユーザ D は、DN 3100 のデバイス E と会議を行うことによって会議を作成します。

リモート クラスタ内の遠端側が会議を作成する自動コール録音セッションでは、次の手順が行われます。

1. ユーザ D (遠端側 = リモート クラスタ内のお客様) が、82000 をダイヤルして、ユーザ B (近端側 = エージェント) にコールします。
2. INVITE メッセージが SIPTrunkToCluster2 SIP トランクを通過します。
3. ユーザ B (近端側 = ローカル クラスタ内のエージェント) がコールに応答します。
4. エージェントのライン アピアランスが自動録音用に設定されているため、自動的にメディア ストリームの録音セッションに対するトリガーが発生します。Cisco Unified Communications Manager は、最初に、エージェントの音声に対する録音コールを、ユーザ B (エージェント) の IP Phone の Built-In Bridge (BIB; ビルトインブリッジ) に発信します。
5. Cisco Unified Communications Manager が、お客様の音声に対する 2 つ目の録音コールを、ユーザ B (エージェント) の IP Phone の BIB に発信します。
6. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、エージェントの音声に対する録音コール設定メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するユーザ B (エージェント) の音声ストリームの送信を開始します。
7. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、お客様の音声に対する録音コール設定メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに対するユーザ D (お客様) の音声ストリームの送信を開始します。
8. ユーザ D が、**会議** を押し、DN 3100 をダイヤルして会議を開始します。

9. ユーザ E (DN 3100 のデバイス E) がコールに応答します。
10. ユーザ D が、もう一度会議を押して会議を実行します。
11. UPDATE メッセージが SIPTrunkToCluster2 SIP トランクを通過します。
12. ユーザ B が新しい遠端側の CFB_2 に接続されたため、Cisco Unified Communications Manager は 2 つの UPDATE メッセージをレコーダに送信します。

レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、ユーザ B (エージェント) の音声に対する録音コール UPDATE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダにエージェントの音声ストリームを送信します。

13. レコーダが、SIP トランクを介して Cisco Unified Communications Manager から送信された、CFB_2 (会議ブリッジ) に対する録音コール UPDATE メッセージを受信し、応答します。エージェントの IP Phone が、レコーダに会議の音声ストリームを送信します。

この使用例では、コールの処理と設定に次の特徴があります。

- 遠端側がリモート クラスタ内で会議を作成した場合、Cisco Unified Communications Manager では表示が制限されます。遠端側のデバイスは、常に 2 つのクラスタをリンクするトランクです。
- リモート会議が確立されると、リモートの Cisco Unified CM2 クラスタは、b 番号 (会議ブリッジ ID) を SIP UPDATE に格納してローカル クラスタ Cisco Unified CM1 に送信します。Cisco Unified CM1 クラスタは、b 番号と *isfocus* インジケータを含む更新をレコーダに送信します。
- この図では、Cisco Unified CM1 クラスタに SIP トランク SIPTrunkToCluster2 が設定されています。この SIP トランクは、Cisco Unified CM1 クラスタを Cisco Unified CM2 クラスタにリンクします。Cisco Unified CM2 クラスタに設定されている、対応する SIP トランクは SIPTrunkToCluster1 です。
- 会議が DN 3000 の遠端側によって作成された場合、会議ブリッジ ID の b001234567 は、デフォルトではクラスタ Cisco Unified CM1 に渡されません。ID が渡されない場合でも、Cisco Unified CM1 クラスタは遠端側の *isfocus* フラグを From ヘッダーに格納してレコーダに送信できます。ただし、遠端側アドレスは空になります。
- 会議ブリッジ ID (会議ブリッジの b 番号) がクラスタ Cisco Unified CM2 からクラスタ Cisco Unified CM1 に渡されるようにするために、管理者は、クラスタ Cisco Unified CM2 に SIP プロファイルを作成し、[会議ブリッジ ID の配信 (Deliver Conference Bridge Identifier)] チェックボックスをオンにして SIP プロファイルをクラスタ Cisco Unified CM2 内の SIPTrunkToCluster1 に割り当てます。管理者は、クラスタ Cisco Unified CM1 にも SIP プロファイルを作成し、この SIP プロファイルをクラスタ Cisco Unified CM1 内の SIPTrunkToCluster2 に割り当てます。
- SIP プロファイルの設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「SIP プロファイルの設定」の章を参照してください。

手順 6 と手順 12 の INVITE メッセージのヘッダー情報に注目してください。SIP ヘッダー拡張により、太字のテキストの情報が INVITE メッセージと UPDATE メッセージのヘッダーに追加されています。

手順 6 の INVITE メッセージのヘッダー情報

From:

```
<sip:2000@ucm1;x-nearend;x-refci=ci2;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci1;x-farenddevice=SIPTrunkToCluster2;x-farendaddr=3000>;tag=fromtag1
```

手順 12 の UPDATE メッセージのヘッダー情報

```
From:
<sip:2000@ucml;x-nearend;x-refci=ci2;x-nearenddevice=deviceB;x-farendrefci=ci1;x-farenddev
ice=SIPTrunkToCluster2;x-farendaddr=b001234567;isfocus>;tag=fromtag1
```

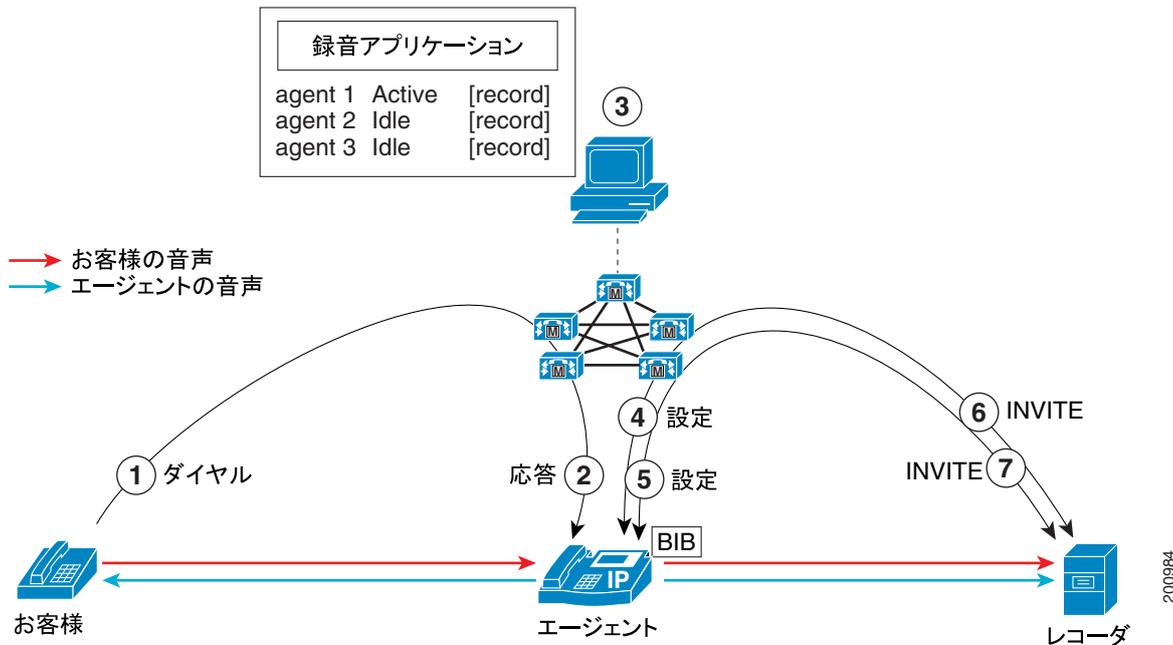
手順 12 の UPDATE メッセージには、*isfocus* が含まれています。この *isfocus* は、近端側が会議コールに参加していることを示します。UPDATE メッセージには、新しい遠端側のアドレスとして b 番号も含まれています。b 番号は、会議ブリッジ (CFB) の DN を示します。

アプリケーションから呼び出される録音

アプリケーションから呼び出される録音では、エージェント コールがアクティブになると、アプリケーションがコールに対する Start Recording コマンドを送信できるようになります。録音コールの設定は、自動録音の設定と同じであることに注意してください。

図 34-28 に、アプリケーションから呼び出される録音を示します。

図 34-28 アプリケーションから呼び出される録音



コールがアクティブになると、スーパーバイザまたは許可を受けた担当者は、アクティブ コールに対するコール録音セッションを開始できるようになります。図 34-28 は、この例を示しています。この場合、スーパーバイザは、エージェントがアクティブ コールを受けていることに気づいたため、録音アプリケーションでコールに対する録音ボタンをクリックします。アプリケーションが、Start Recording コマンドをコール情報と一緒に Cisco Unified Communications Manager に送信します。次に、Cisco Unified Communications Manager が、コールの 2 つの音声ストリームに対する、エージェントの IP Phone からレコーダへの 2 つの録音コールを確立します。

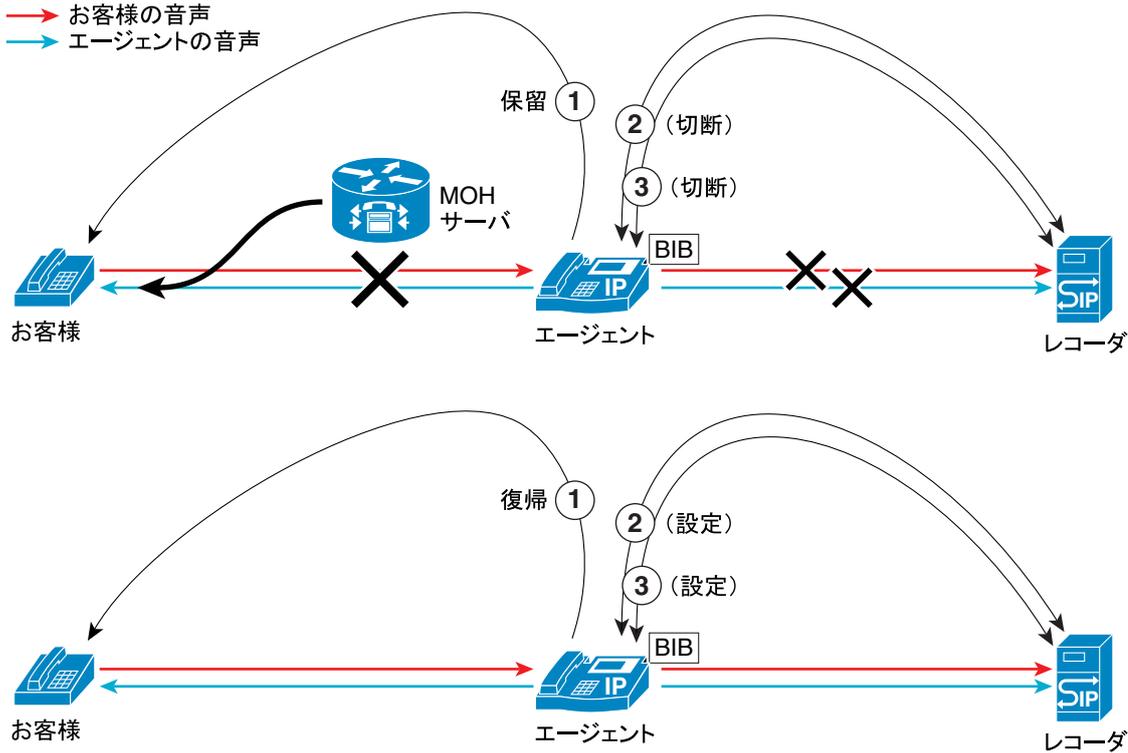
エージェントがコールを保留にすると録音コールは存続しない

エージェントがコールを保留にすると、録音コールは切断されます。また、エージェントがコールを再開すると、録音コールは再度確立されます。

アプリケーションからの Start Recording Request は、コール期間全体にわたって存続します。

図 34-29 に、エージェントがコールを保留にすると録音コールが存続しないシナリオを示します。

図 34-29 エージェントがコールを保留にすると録音コールは存続しない

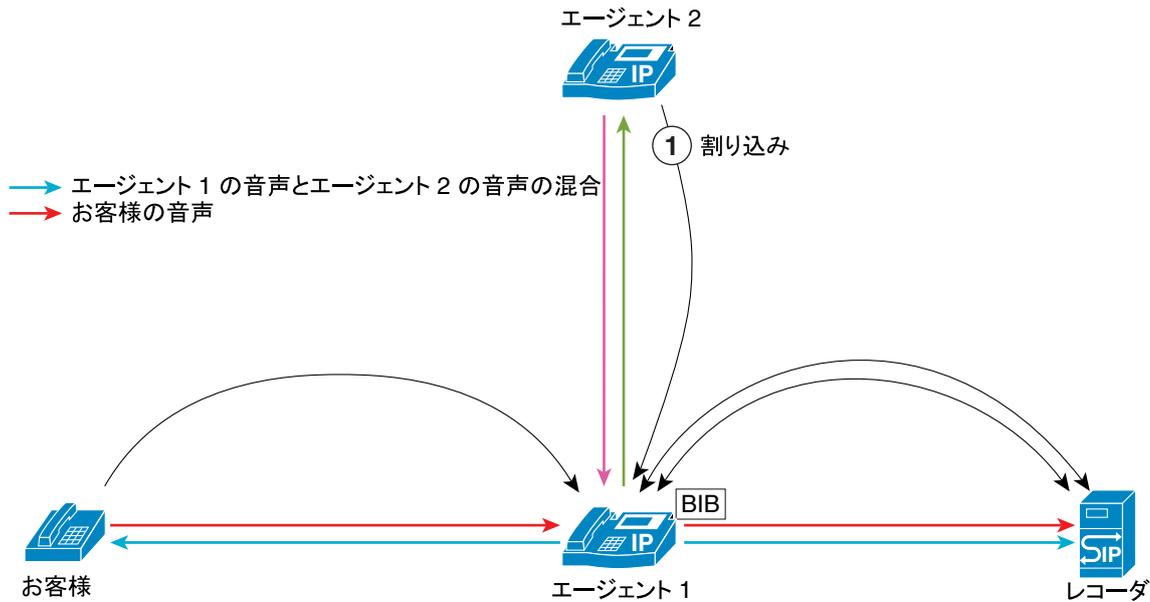


割り込みコールの録音

割り込みコールを録音する場合は、お客様単独の音声と、エージェント 1 およびエージェント 2 の混合音声という 2 つの録音ストリームが発生します。

図 34-30 に、割り込みコールが録音される場合のシナリオを示します。

図 34-30 割り込みコールの録音



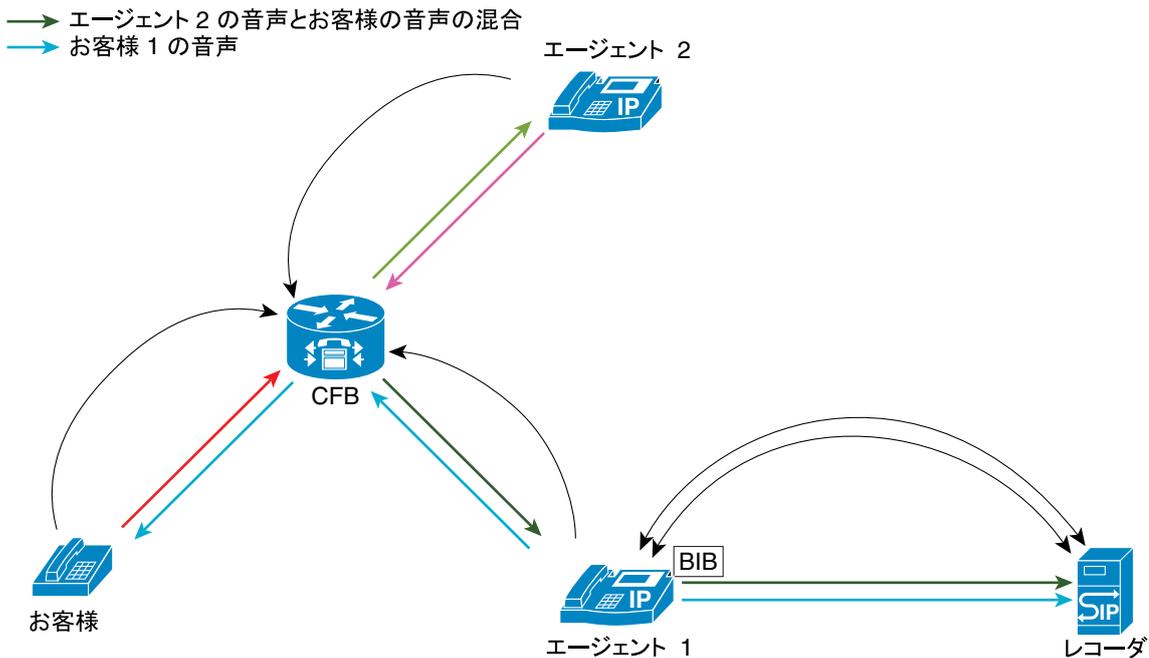
エージェントの会議の録音

会議が録音される場合は、エージェント単独の音声と、残りの会議参加者の混合音声という 2 つの録音ストリームが発生します。

エージェントは、自分が録音されているときに会議を作成する場合があります。会議の設定中に、録音コールが切断され、再度確立されます。

☒ 34-31 に、エージェントの会議が録音される場合のシナリオを示します。

図 34-31 エージェントの会議が録音される



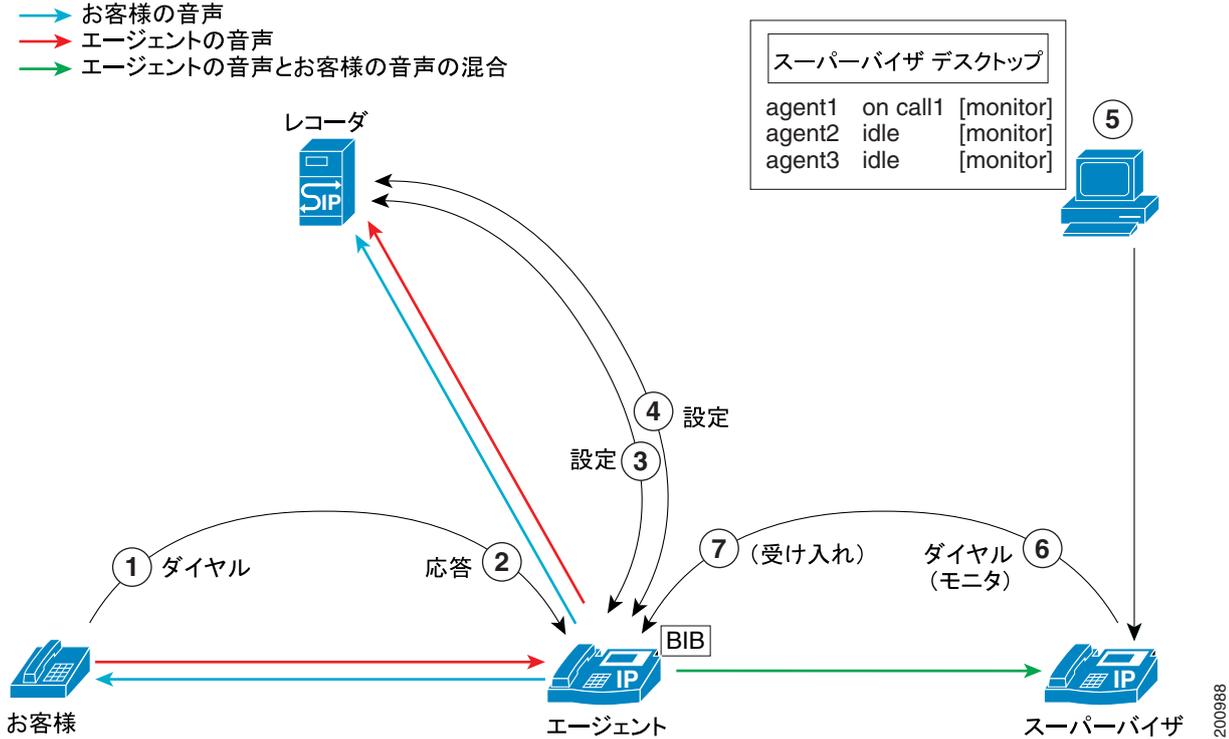
モニタリングと録音の同時実行

録音は、エージェント コールの監視中に実行することもできます。

録音とモニタリングは、相互に独立して設定されます。

図 34-32 に、モニタリングと録音の同時実行を示します。

図 34-32 モニタリングと録音の同時実行



モニタリングと録音が同時に実行される場合、次の手順が行われます。

1. お客様がコールセンターにコールします。
2. コールがエージェントにルーティングされます。エージェントがコールに応答します。エージェントの IP Phone とお客様の間に、双方向メディアストリーミングが設定されます。
3. エージェントの電話機とレコーダの間に、エージェントの音声に対する録音コールが設定されます。
4. エージェントの電話機とレコーダの間に、お客様の音声に対する録音コールが設定されます。
5. スーパーバイザのデスクトップアプリケーションに、エージェントがアクティブコールを受けていることが表示されます。デスクトップアプリケーションで、スーパーバイザが、エージェントの現在のアクティブコールに対する監視ボタンをクリックします。
6. スーパーバイザの IP Phone がオフフックになり、エージェントにモニタリングコールを発信します。
7. エージェントの電話機が、モニタリングコールを受け入れます。エージェントの電話機が、スーパーバイザの IP Phone に対するお客様とエージェントの混合音声ストリームの送信を開始します。エージェントにもお客様にも、スーパーバイザの音声は聞こえません。

モニタリング コールと録音コールのコール特性

この項のトピックでは、モニタリング コールと録音コールのさまざまな特性について説明します。この項は、次の内容で構成されています。

- 「モニタリングと録音の通知トーン」 (P.34-56)
- 「再生トーンの動作」 (P.34-57)
- 「モニタリング コールと録音コールのコーデック」 (P.34-57)
- 「録音コールのコーデックの使用制限」 (P.34-58)
- 「モニタリングと録音は片方向メディアである」 (P.34-58)
- 「片方向メディアとファイアウォール」 (P.34-58)
- 「モニタリングと録音におけるコール保存」 (P.34-59)

モニタリングと録音の通知トーン

地域によっては、エージェントまたはお客様に対して、コールが監視または録音されていることをトーン形式で通知しなければならない場合があります。

デフォルトの再生トーン オプションを設定するには、次のサービス パラメータを使用します。

- Play Recording Notification Tone To Observed Target
- Play Recording Notification Tone To Observed Connected Parties
- Play Monitoring Notification Tone To Observed Target
- Play Monitoring Notification Tone To Observed Connected Parties

また、アプリケーションには、モニタリング要求または録音要求のトーン オプションも用意されています。トーンは、サービス パラメータまたはアプリケーションによってトーンが有効になった場合に再生されます。

図 34-33 に、監視される接続側と監視されるターゲットを示します。

図 34-33 監視される接続側と監視されるターゲット



200989

再生トーンの動作

モニタリング トーンと録音トーンは別々のトーンであり、個別に有効または無効にすることができます。

デフォルトでは、スーパーバイザにはモニタリング トーンも録音トーンも聞こえません。スーパーバイザへの再生をオプションで有効にするには、デバイスの録音トーンを設定します。

表 34-2 に、モニタリング シナリオと録音シナリオにおけるトーンの動作を示します。

表 34-2 再生トーンの動作

再生先	エージェントへの再生	お客様への再生	スーパーバイザのモニタリングストリーム	エージェントの録音ストリーム	お客様の録音ストリーム
なし	なし	なし	なし	なし	なし
エージェント	トーン	なし	なし	なし	なし
お客様	なし	トーン	なし	トーン	なし
両方	トーン	トーン	なし	トーン	なし

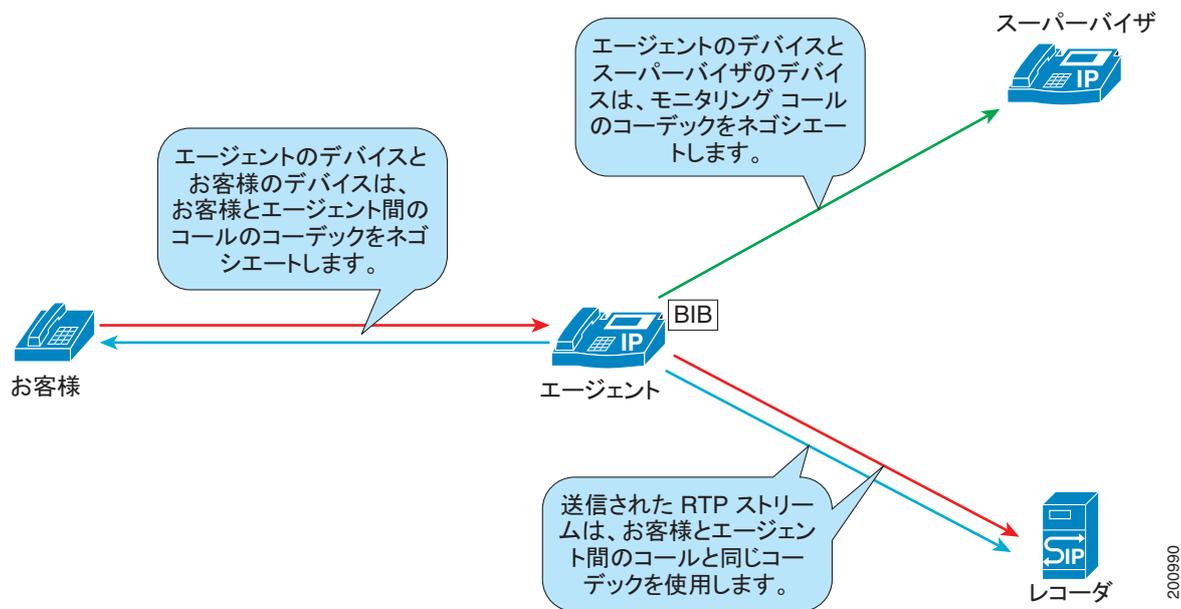
モニタリング コールと録音コールのコーデック

エージェントのデバイスとスーパーバイザのデバイスは、Cisco Unified Communications Manager のリージョン設定に従って、モニタリング コールのコーデックをネゴシエートします。

録音コールのコーデックは、お客様とエージェント間のコールのコーデックと一致します。

図 34-34 に、モニタリング コールと録音コールのコーデックを示します。

図 34-34 モニタリング コールと録音コールのコーデック



録音コールのコーデックの使用制限

録音コールのコーデックはエージェントとお客様間のコールのコーデックと一致するため、一致するコーデックをレコーダがサポートしていない場合は、トランスコーダの挿入が必要になることがあります。

Cisco Unified IP Phone には、Cisco トランスコーダがサポートしていない新しいコーデックが追加されています。

G722 コーデックと iLBC コーデックの使用を有効または無効にするには、次のサービス パラメータを使用します。

- G722 Codec Enabled
- iLBC Codec Enabled

これらのサービス パラメータは、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの [Clusterwide Parameters (System - Location and Region)] セクションにあります。

各サービス パラメータには、次の値を設定できます。

- [Enabled for All Devices]
- [Enabled for All Devices Except Recording-Enabled Devices]
- [Disabled]

モニタリングと録音は片方向メディアである

モニタリング コールは、エージェントの電話機からスーパーバイザの電話機への片方向メディアで構成されます。

録音コールは、エージェントの電話機からレコーダへの片方向メディアで構成されます。

モニタリング コールと録音コールは、通常のコール アドミッション制御に従って送信されます。ただし、レコーダを宛先とする、BIB を離れる各ストリームは、双方向メディアと同じ計算を使用します。

エージェントとスーパーバイザ、またはエージェントとレコーダを分離する NAT は、モニタリング コールまたは録音コールに対して透過的に (Cisco Unified Communications Manager の制限の範囲内で) 動作します。

片方向メディアとファイアウォール

ファイアウォール ソフトウェアは、RTP ストリームのピンホールを空けるときに、宛先 IP アドレス、宛先ポート、および送信元 IP アドレスを認識する必要があります。

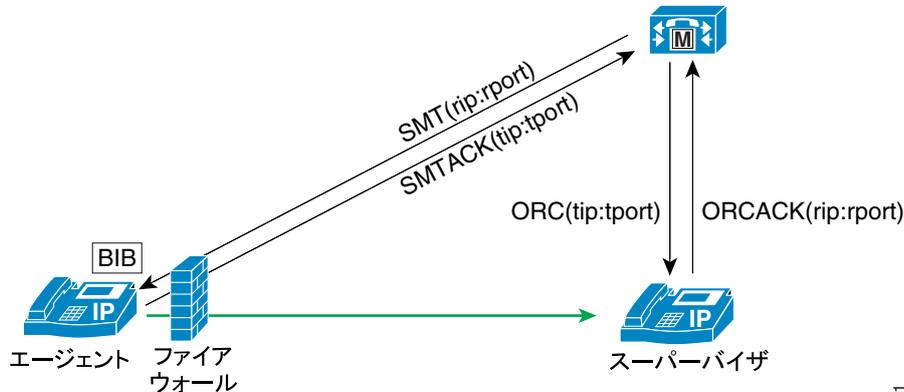
メディアの SCCP メッセージは対称ではないことに注意してください (SIP は問題ありません)。

SCCP バージョン 12 における片方向メディア用の機能拡張では、次の機能が追加されています。

- 伝送 IP およびポートに関する新しい StartMediaTransmissionAck (SMTACK) メッセージ
- 追加の伝送 IP およびポートに関する OpenReceiveChannel (ORC)

図 34-35 に、片方向メディアとファイアウォールに関する問題を示します。

図 34-35 片方向メディアとファイアウォール



200991

モニタリングと録音におけるコール保存

監視または録音されているエージェント コールがコール保存に移行する場合、Cisco Unified Communications Manager は、モニタリング コールまたは録音コールをコール保存モードに移行します。

モニタリング コールまたは録音コールがコール保存モードに移行しても、エージェント コールは影響を受けません。

コール情報とコール表示

ビルトインブリッジ (BIB) は、デバイス層のコンポーネントの 1 つです。BIB では、Cisco Unified IP Phone の DSP リソースが論理的に表現されています。電話デバイス層の BIB に発信されたコールは、ユーザには表示されません。

エージェントへのモニタリング コールと録音コール (サーバ コール) は、エージェントの BIB に対して発信されます。

モニタリング コールの場合、スーパーバイザの電話機には「From Monitoring [agent user name/DN]」と表示されます。

レコーダへの録音コールの場合、SIP INVITE メッセージの「from ヘッダー」にある特殊なタグは、音声ストリームの送信元を示しています。

エージェントの音声の場合

```
From "AgentUserName" <sip:agentDN@ccm;x-nearend;x-refCI=12345;
x-nearenddevice=[agent_devicename]"
```

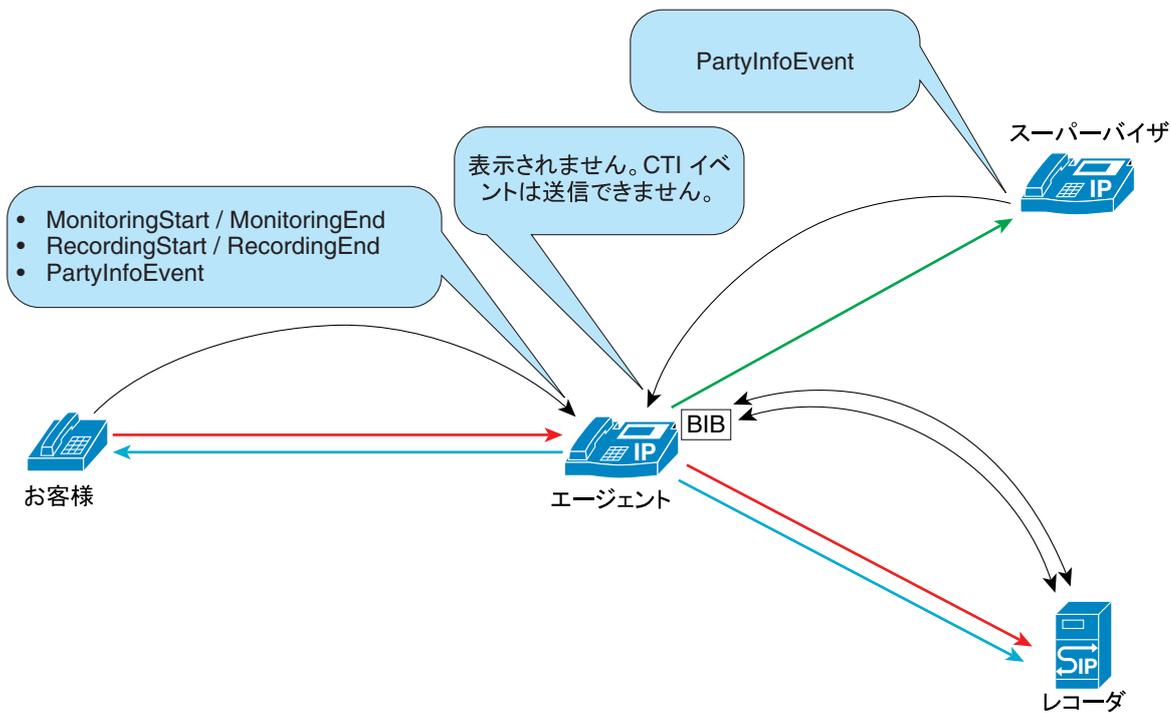
お客様の音声の場合

```
From "AgentUserName"
<sip:agentDN@ccm;x-farend;x-refCI=12345;x-farenddevice=[farend_devicename]"
```

アプリケーションへの CTI イベント送信

CTI イベントは、プライマリ コール レッグ（またはリファレンス コール レッグ）のエージェントに送信されます（図 34-36 を参照）。

図 34-36 アプリケーションへの CTI イベント送信



モニタリングと録音のシステム要件

次の各項では、モニタリングと録音のシステム要件について説明します。

CTI 要件

Computer Telephony Integration (CTI; コンピュータ/テレフォニー インテグレーション) は、コールを個別に監視する機能をアプリケーションに提供します。シスコでは、監視される側としてモニタ ターゲットを定義し、監視する側としてモニタ イニシエータを定義します。

1つのアプリケーションがモニタ ターゲットとモニタ イニシエータの両方を監視する場合、コール イベントがアプリケーションに報告されるため、アプリケーションでは、容易にモニタ ターゲットのコールを識別し、コールを監視できるようになります。別々のアプリケーションがモニタ ターゲットとモニタ イニシエータを監視する場合は、モニタ ターゲットを監視するアプリケーションが、モニタ イニシエータを監視するアプリケーションにコール情報を提供する必要があります。モニタ イニシエータを監視するアプリケーションでは、使用可能なコール情報に基づいて、モニタリング要求を開始できるようになります。モニタ イニシエータまたはモニタ ターゲットでコールが終了すると、モニタリング セッションは停止します。

録音の場合、Cisco Unified Communications Manager は、すべてのコールを自動的に録音する機能を提供します。SIP または SCCP ステーションは、この自動録音を開始し、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの設定に基づいて動作します。管理者は、録音を無効に設定すること、すべてのコールの自動録音を設定すること、またはラインピアランス用のアプリケーション制御を使用したコール単位の録音を設定することができます。CTI では、データベース内の管理者設定を上書きする機能を提供しません。

録音タイプがアプリケーション制御かつコールベースの録音に設定されている場合、アプリケーションはコールごとに録音を開始できます。

録音機能とモニタリング機能またはその他の CTI 機能を呼び出す場合、SIP を実行している電話機に UDP トランスポートが使用されていると、動作が遅延したり、予期しない動作が発生したりすることがあります。

コールを監視または録音するためのアプリケーションでは、アプリケーションが使用するアプリケーション ユーザまたはエンド ユーザに対して、対応するモニタリング特権と録音特権を有効にする必要があります。

便宜上、MonitoringPartyInfo、MonitoredPartyInfo、および RecordPartyInfo はすべて結合され、CallAttributeInfo として CTI からアプリケーションに報告されます。

ハードウェア要件

モニタリング機能と録音機能では、サポートされる電話機および関連デバイスは限られています。詳細については、「[コール モニタリングとコール録音をサポートするデバイス](#)」(P.34-6)を参照してください。

インタラクションおよび制限事項

この項では、モニタリング機能と録音機能のインタラクションおよび制限事項について説明します。次のトピックがあります。

- 「[インタラクション](#)」(P.34-61)
- 「[制限事項](#)」(P.34-62)

インタラクション

モニタリングと録音は、次のアプリケーションおよび機能と通信します。

- 「[CTI および JTAPI/TSP アプリケーション](#)」(P.34-62)
- 「[Cisco Unified Communications Manager の他の機能](#)」(P.34-62)

CTI および JTAPI/TSP アプリケーション

コンピュータ/テレフォニー インテグレーション (CTI)、Java Telephony API (JTAPI)、および TSP は、コールのモニタリングと録音をサポートしています。Cisco Unified Communications Manager システムでは、アプリケーションでこれらのインターフェイスを使用して、コールを監視または録音することができます。

この機能の初期実装には、いくつかの制限があります。モニタリングの場合、アプリケーションでは、監視される回線と、監視する側を開く必要があります。この要件が存在するのは、監視する側が監視されるコールの監視要求を開始するときに、そのコールのコール ID を渡す必要があるためです。この制限を回避するには、たとえば、監視される側の回線を開くアプリケーションと、監視する側の回線を開くアプリケーションという 2 つの調整用アプリケーションを使用し、アウトオブバンド メカニズムを利用して、監視される側のコール ID を渡します。IPCC Enterprise などのアプリケーションでは、後者のアプローチが使用されます。

下位互換性に関する影響はありません。これは、モニタリングと録音は新しい機能なので、既存の機能には影響しないためです。

Cisco Unified Communications Manager の他の機能

次の機能は、モニタリングおよび録音と透過的に連携します。

- Forced Authorization Code (FAC; 強制承認コード) と Client Matter Code (CMC; クライアント識別コード)
- QSIG
- Multilevel Precedence and Preemption (MLPP)
- 外部コール制御

次の機能と他の Cisco Unified Communications Manager コンポーネントは、モニタリングおよび録音と通信します。

- コール転送
- 即時転送 (i-Divert)
- コール パーク
- 割り込み
- 保留音 (MOH)
- 会議
- 一括管理ツール (BAT)

制限事項

モニタリングと録音には、次の制限があります。

- 「モニタリングおよび録音中のコーデックの考慮事項」(P.34-63)
- 「モニタリングと録音におけるセキュリティ処理」(P.34-63)
- 「インターコム」(P.34-63)
- 「録音およびコールの保留と再開」(P.34-63)
- 「録音およびコールのパークと取得」(P.34-63)

- 「録音および無応答時転送 (CFNA)」 (P.34-64)
- 「録音および会議の結合」 (P.34-64)
- 「複数のレコーダに対する、SIP トランクのルート リストまたは複数の接続先アドレスの使用」 (P.34-64)

モニタリングおよび録音中のコーデックの考慮事項

監視または録音されている IP Phone から発信されたコール レッグのコーデックは、コール期間全体にわたって同じままにする必要があります。

モニタリングと録音におけるセキュリティ処理

Cisco Unified Communications Manager を使用すると、スーパーバイザまたは管理者はエージェントとお客様に認識されることなく、両者の会話を監視できます。セキュア コールのモニタリングと録音機能の使用および設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』の、セキュア コールのモニタリングと録音に関する章を参照してください。

インターコム

ウィスパー インターコムとトークバック インターコムのコールに対してモニタリングまたは録音を行うことはできません。インターコム コーリング サーチ スペース (CSS) の設定には、この制限が適用されています。

録音およびコールの保留と再開

Cisco Unified Communications Manager は、遠端側がコールを保留にしても、レコーダを更新しません。レコーダが更新されるのは、別の遠端側がコールを再開した場合のみです。

Cisco Unified Communications Manager は、遠端側のコール情報が変更されるとレコーダを更新します。遠端側のコール情報には、コール ID、電話番号、およびデバイス名が含まれます。これらのパラメータのいずれかが変更されると、遠端側のコール情報が変更されます。

遠端側がコールを保留にして同じデバイスから再開した場合、Cisco Unified Communications Manager はレコーダを更新しません。

録音およびコールのパークと取得

リモート クラスタ内の遠端側がコールをパークすると、Cisco Unified Communications Manager は、リモート クラスタが SIP トランクまたは H323 クラスタ間トランク経由でローカル クラスタに接続する場合に限り、空の遠端側アドレスでレコーダを更新します。Cisco Unified Communications Manager は、遠端側が同じデバイスまたは別のデバイスからコールを取得すると、レコーダを再更新します。コールをパークする遠端側がローカル クラスタ内にある場合、Cisco Unified Communications Manager はレコーダを更新しません。この場合、Cisco Unified Communications Manager がレコーダを更新するのは、コールが別のデバイスから取得されたときだけです。

リモートのコールのパークと取得では、リモートの Cisco Unified Communications Manager がコール パークでの表示名の更新情報を送信します。この更新には、空の電話番号またはアドレスが含まれています。したがって、遠端側アドレスは空に変更されます。遠端側アドレスが変更されたため、ローカルの Cisco Unified Communications Manager は遠端側アドレスが空の更新をレコーダに送信します。

録音および無応答時転送 (CFNA)

リモート クラスタ内の遠端側が、CFNA が有効になっているユーザにコールをブラインド転送すると、Cisco Unified Communications Manager は、リモート クラスタが SIP トランクまたは H.323 クラスタ間トランクを使用してローカル クラスタに接続する場合に限り、遠端側アドレスとして呼び出し側を指定してレコーダを更新します。コールが CFNA ターゲットに転送されると、Cisco Unified Communications Manager はレコーダを再更新します。コールをブラインド転送する遠端側がローカル クラスタ内にある場合、Cisco Unified Communications Manager はレコーダを更新しません。この場合、Cisco Unified Communications Manager がレコーダを更新するのは、CFNA ターゲットがコールに応答するときだけです。

リモート コールがアクティブになった場合、ローカル クラスタでコール状態はアクティブなままです。リモートの遠端側がコールを新しいリモートの遠端側にブラインド転送し、その遠端側で呼び出し音が鳴っても、ローカルの Cisco Unified Communications Manager はコール状態をアクティブと判断します。したがって、リモートの無応答時転送では、コール状態がアクティブであるため、ローカルの Cisco Unified Communications Manager は新しいユーザに対する UPDATE メッセージをレコーダに送信します。

ローカル コールがアクティブになると、コール状態がアクティブから呼び出し状態に変わる場合があります。ローカルの Cisco Unified Communications Manager は現在のコール状態を把握できません。したがって、ローカルの無応答時転送では、新しい遠端側がコールに応答すると、ローカルの Cisco Unified Communications Manager が UPDATE メッセージをレコーダに送信します。

録音および会議の結合

複数の近端側が、結合された複数の会議に参加している場合、Cisco Unified Communications Manager は、使用されているレコーダのみを更新できます。各会議は、異なる会議 ID (b 番号) で識別されます。会議の結合情報は、Call Detailed Record (CDR; 呼詳細レコード) を介して取得できます。

Cisco Unified Communications Manager は、遠端側のコール情報が変更されると UPDATE メッセージをレコーダに送信します。会議の場合、遠端側アドレスは b 番号を示します。遠端側の b 番号が変更されていない場合、Cisco Unified Communications Manager はレコーダに UPDATE メッセージを送信しません。

複数のレコーダに対する、SIP トランクのルート リストまたは複数の接続先アドレスの使用

複数のレコーダに対して、SIP トランクのルート リストまたは複数の接続先アドレスを使用すると、同じ録音セッションの近端側と遠端側の録音コールを別々のレコーダに送信できます。

Cisco Unified Communications Manager 管理者がルート リストに複数の SIP トランクを設定しているため、各 SIP トランクが別々のレコーダをポイントする場合、Cisco Unified Communications Manager は、録音セッションの 2 つの録音コールを同じ SIP トランクまたは同じレコーダに送信できません。2 つの録音コールが同じレコーダに送信される可能性は、ルート グループにプロビジョニングされている選択アルゴリズムに応じて大きく異なる場合があります。同様に、管理者が SIP トランクに複数の IP アドレスをプロビジョニングしたため、各 IP アドレスが別々のレコーダをポイントする場合、Cisco Unified Communications Manager は、2 つの録音コールを同じレコーダに送信できません。この場合、コールは、プロビジョニングされている IP アドレスからランダムに選択されたレコーダに送信されます。

録音セッションをクラスタ内の別のレコーダにリダイレクトできるレコーダ クラスタ設定をサポートするように Cisco Unified Communications Manager を設定するには、ルート リストを設定するか、複数の接続先を録音 SIP トランクにプロビジョニングします。

モニタリングと録音の設定

次の各項では、モニタリングと録音を設定するのに必要な手順の詳細な例を示します。表 34-1 の設定チェックリストでは、手順を 1 つの表に要約し、各メニュー オプションを詳細に説明している Cisco Unified Communications Manager の関連マニュアルを示します。

コール モニタリングとコール録音を設定するには、次のトピックを参照してください。

- 「モニタリングまたは録音を可能にするために IP Phone の BIB をオンにする」 (P.34-66)
- 「モニタリングまたは録音アプリケーションのユーザを追加する」 (P.34-67)
- 「モニタリングと録音が可能なグループにユーザを追加する」 (P.34-68)
- 「モニタリングまたは録音のトーンを設定する (オプション)」 (P.34-69)
- 「モニタリング用コーリング サーチ スペースを設定する」 (P.34-70)
- 「ライン アピランスに対して録音を有効にする」 (P.34-71)
- 「録音プロファイルを作成する」 (P.34-72)
- 「録音用の SIP プロファイルを作成する (オプション)」 (P.34-73)
- 「レコーダをポイントする SIP トランクを作成する」 (P.34-74)
- 「レコーダ用のルート パターンを作成する」 (P.34-75)
- 「レコーダの冗長性を作成する」 (P.34-76)



ヒント

モニタリングおよび録音を設定する前に、「モニタリングと録音の設定チェックリスト」 (P.34-1) を確認してください。

モニタリングまたは録音を可能にするために IP Phone の BIB をオンにする

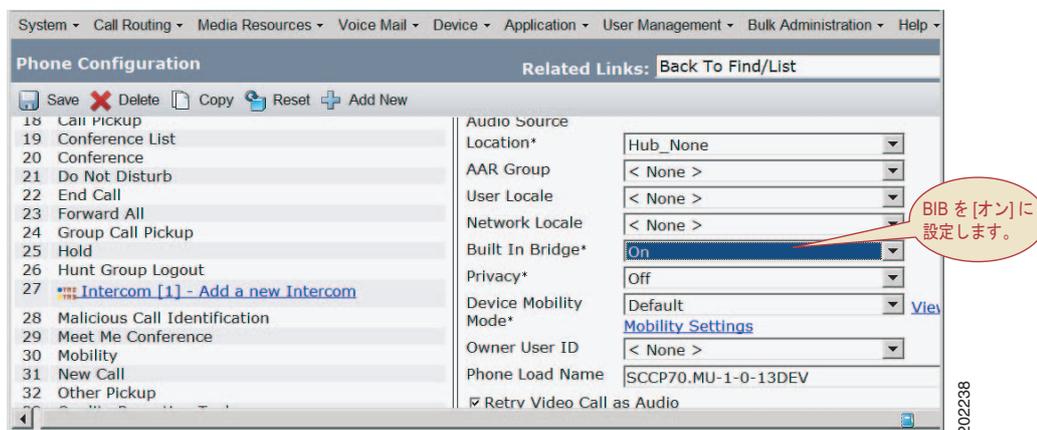
エージェントの電話機のコールを監視または録音できるようにするには、その電話機のビルトインブリッジを [オン (On)] に設定する必要があります。

また、Built-in Bridge Enable サービス パラメータを [On] に設定し、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウ内の [ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] を [デフォルト (Default)] のままにすることもできます。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] メニュー オプションを使用して、必要な設定を実行します。

図 34-37 に、モニタリングまたは録音を可能にするために IP Phone の BIB をオンにする方法を示します。

図 34-37 電話機のビルトインブリッジを [オン (On)] に設定



モニタリングまたは録音アプリケーションのユーザを追加する

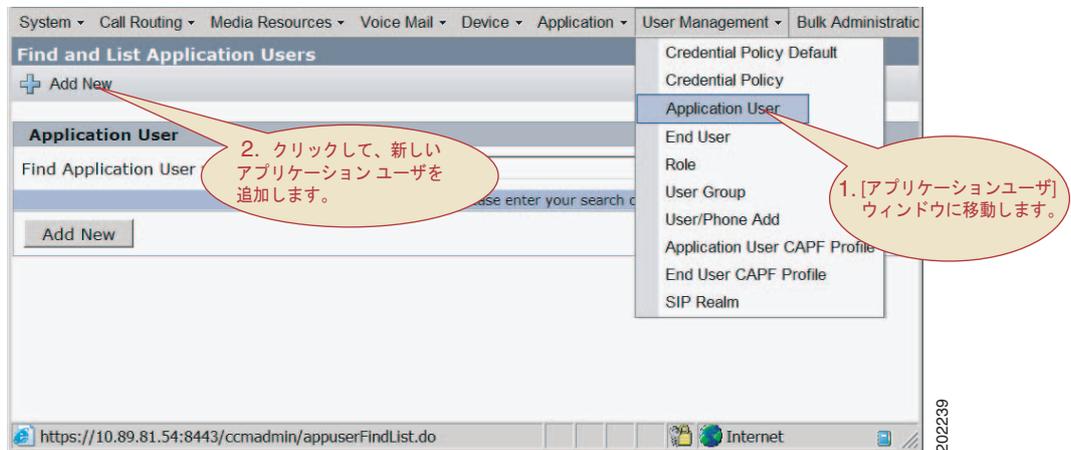
最初に、モニタリングまたは録音を呼び出すことが可能なアプリケーション ユーザを作成します。次に、このアプリケーションユーザを、モニタリング特権と録音特権を持つグループに割り当てる必要があります。

[アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウまたは [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで、アプリケーション ユーザまたはエンドユーザを追加します。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ユーザ管理 (User Management)] > [アプリケーションユーザ (Application User)] メニュー オプションを使用して、必要な設定を実行します。

図 34-38 に、モニタリングまたは録音アプリケーションのユーザを追加する方法を示します。

図 34-38 モニタリングまたは録音アプリケーションのユーザの追加



モニタリングと録音が可能なグループにユーザを追加する

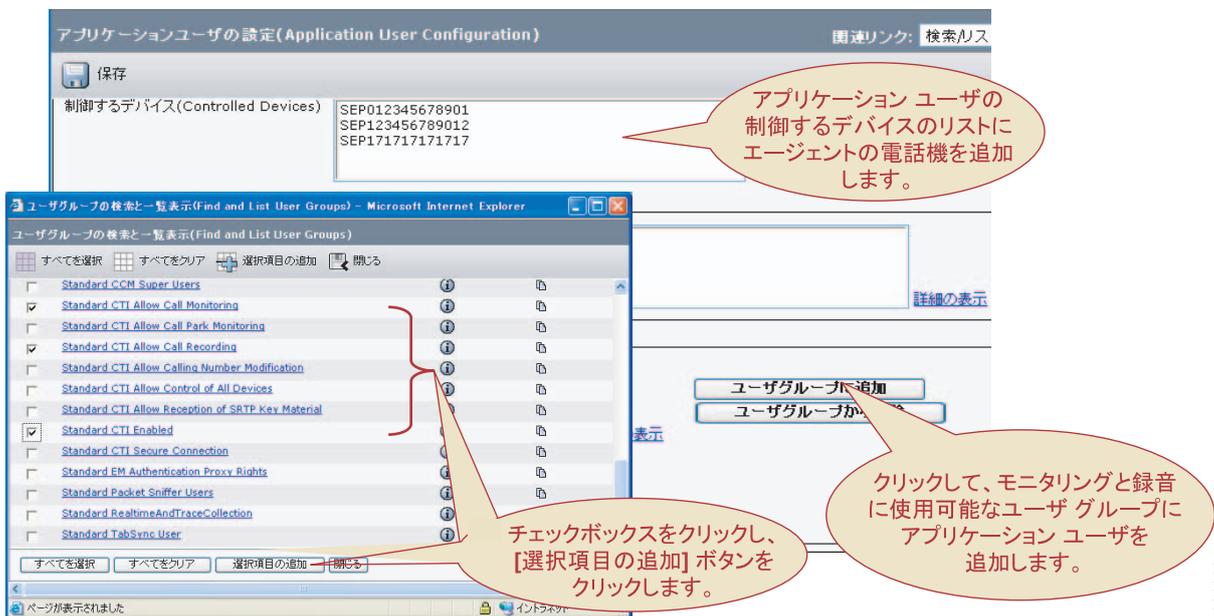
Standard CTI Allow Call Monitoring ユーザ グループと Standard CTI Allow Call Recording ユーザ グループにユーザを追加します。

また、Standard CTI Enabled ユーザ グループにもユーザを追加します。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ユーザ管理 (User Management)] > [アプリケーションユーザ (Application User)] メニュー オプションを使用して、必要な設定を実行します。

図 34-39 に、これらのユーザ グループにユーザを追加する方法を示します。

図 34-39 適切なユーザ グループへのユーザの追加



201000

モニタリングまたは録音のトーンを設定する（オプション）

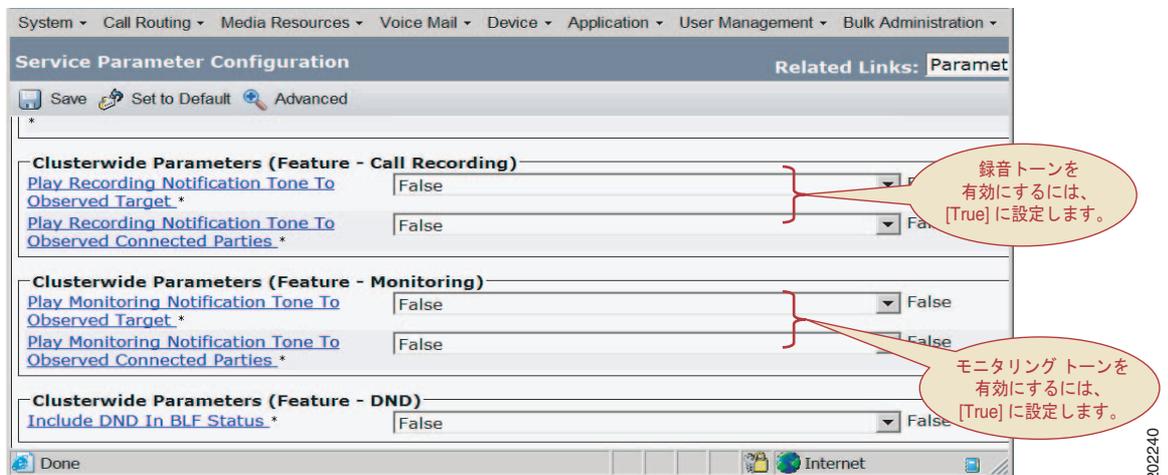
トーンを、エージェントだけ、お客様だけ、またはその両方に再生できるようにするには、トーンの再生に関するサービス パラメータを [True] に設定します。

また、モニタリングまたは録音を呼び出すアプリケーションは、Cisco Unified Communications Manager にトーン再生オプションを渡すことができます。モニタリング トーンまたは録音トーンは、サービス パラメータまたはアプリケーションによってトーン再生オプションが指定されている場合に再生されます。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] メニュー オプションを使用して、必要な設定を実行します。

図 34-40 に、サービス パラメータを使用してトーンを設定する方法を示します。

図 34-40 サービス パラメータを使用したトーンの設定



202240

モニタリング用コーリング サーチ スペースを設定する

エージェントを監視できるようにするには、スーパーバイザのライン アピアランスのモニタリング用コーリング サーチ スペースに、エージェントの回線またはデバイス パーティションを含める必要があります。

スーパーバイザのライン アピアランス ウィンドウで、モニタリング用コーリング サーチ スペースを設定します。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] メニュー オプションを使用して、必要な設定を実行します。電話機の [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを表示するには、[割り当て情報 (Association Information)] ペインで回線 1 などの回線をクリックします (この電話にすでに関連付けられている DN を選択するか、またはこの電話に関連付ける DN を新規に追加できます)。表示される [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで、この電話機のために選択した回線用に [モニタリング用コーリング サーチ スペース (Monitoring Calling Search Space)] フィールドを設定します。

図 34-41 に、モニタリング用コーリング サーチ スペースの設定方法を示します。

図 34-41 モニタリング用コーリング サーチ スペースの DN の設定



ライン アピアランスに対して録音を有効にする

エージェントの録音を有効にするには、エージェントのライン アピアランスの [録音オプション (Recording Option)] を次のいずれかに設定します。

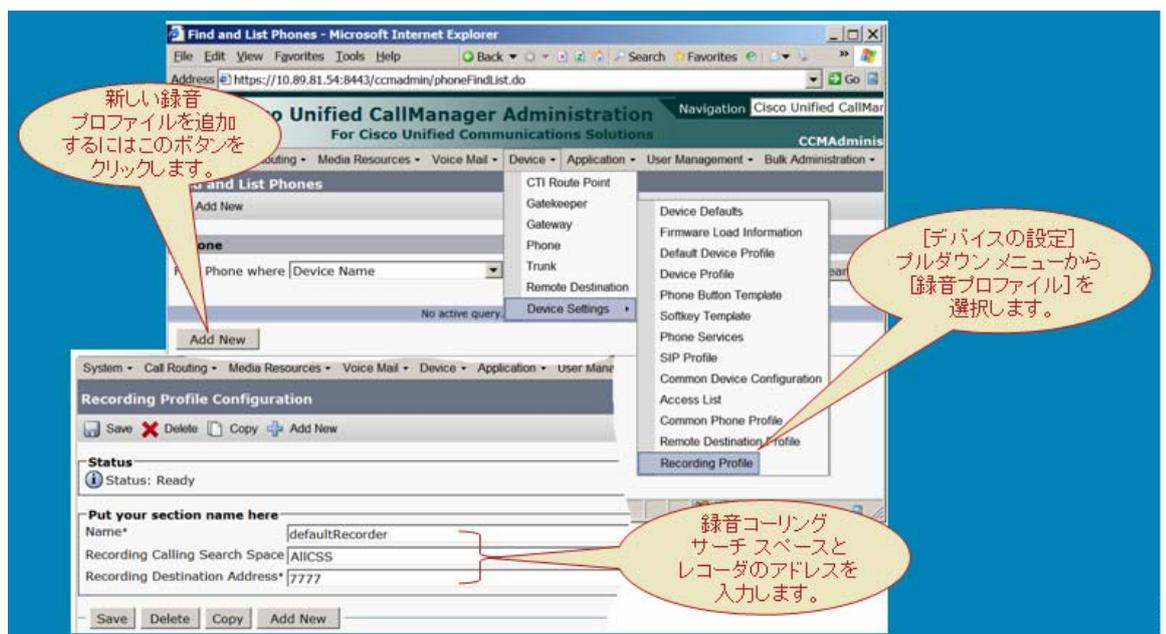
- [自動コール録音が有効 (Automatic Call Recording Enabled)]
- [アプリケーションから呼び出されたコール録音が有効 (Application Invoked Call Recording Enabled)]
- [デバイスから呼び出されたコール録音が有効 (Device Invoked Call Recording Enabled)]

ドロップダウンリストボックスから、作成済みの録音プロファイルを選択します。[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [録音プロファイル (Recording Profile)] の順に選択して、録音プロファイルを設定します。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] メニュー オプションを使用して、必要な設定を実行します。

図 34-42 に、ライン アピアランスに対して録音を有効にする方法を示します。

図 34-42 ライン アピアランスに対する録音の有効化



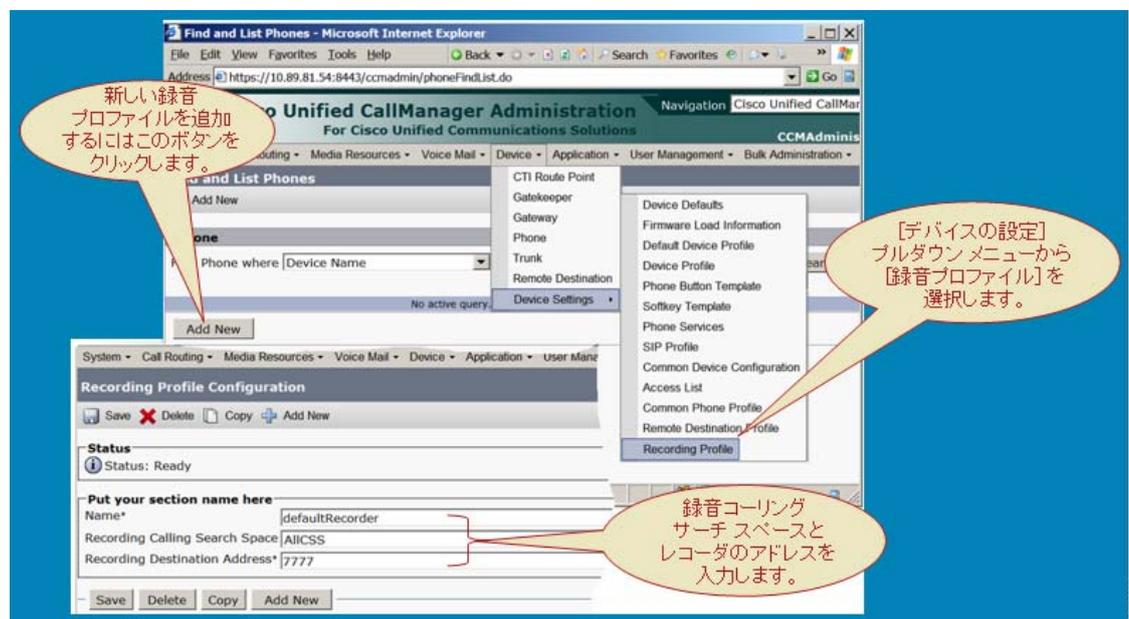
録音プロファイルを作成する

[デバイスの設定 (Device Setting)] プルダウンメニューから、録音プロファイルを作成します。録音プロファイル名、録音コーリング検索スペース、および録音接続先アドレスを入力します。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [録音プロファイル (Recording Profile)] メニューオプションを使用して、必要な設定を実行します。

図 34-43 に、録音プロファイルの作成方法を示します。

図 34-43 録音プロファイルの作成



254324

録音用の SIP プロファイルを作成する（オプション）

録音用の SIP プロファイルを作成します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [SIP プロファイル (SIP Profile)] メニュー オプションを使用して、必要な設定を実行します。

録音用の新しい SIP プロファイルを作成しない場合は、標準 SIP プロファイルを使用できます。

[会議ブリッジ ID の配信 (Deliver Conference Bridge Identifier)] チェックボックスをオンにすると、SIP トランクを介して追加情報（特に、会議ブリッジを識別する b 番号）をレコーダに送信できます。このチェックボックスをオフのままにした場合、リモート会議の遠端側情報は空のままです。

[会議ブリッジ ID の配信 (Deliver Conference Bridge Identifier)] チェックボックスをオンにする場合は、リモート クラスタの SIP プロファイルに対してもオンにします。



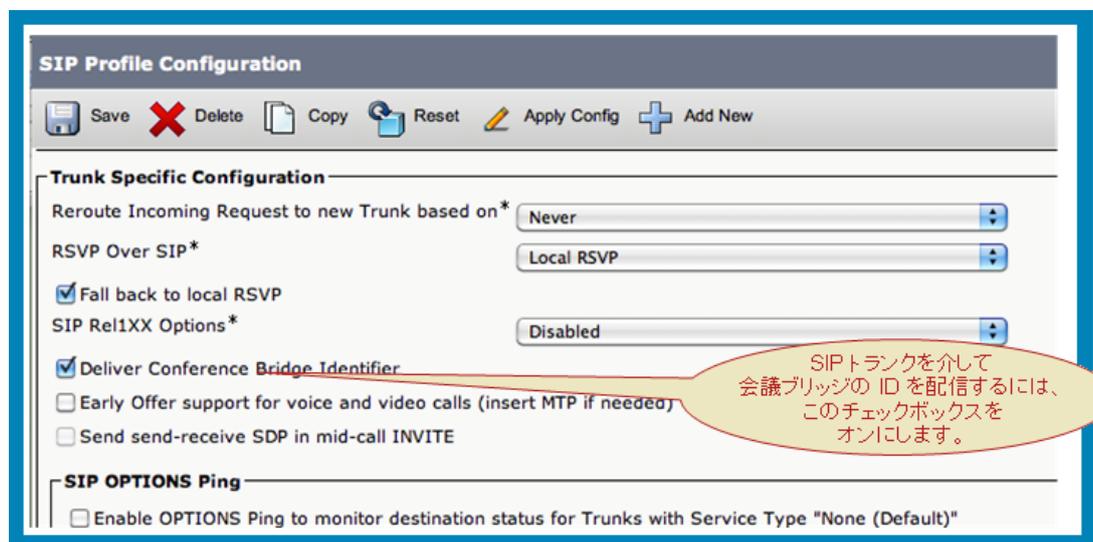
(注)

録音のためにこのチェックボックスをオンにする必要はありませんが、会議ブリッジを使用するコールを録音する場合は、会議ブリッジ ID がレコーダの更新に役立ちます。

SIP プロファイルの設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「SIP プロファイルの設定」の章を参照してください。

図 34-44 に、録音用の SIP プロファイルの作成方法を示します。

図 34-44 録音用の SIP プロファイルの作成



レコーダをポイントする SIP トランクを作成する

レコーダをポイントする SIP トランクを作成します。

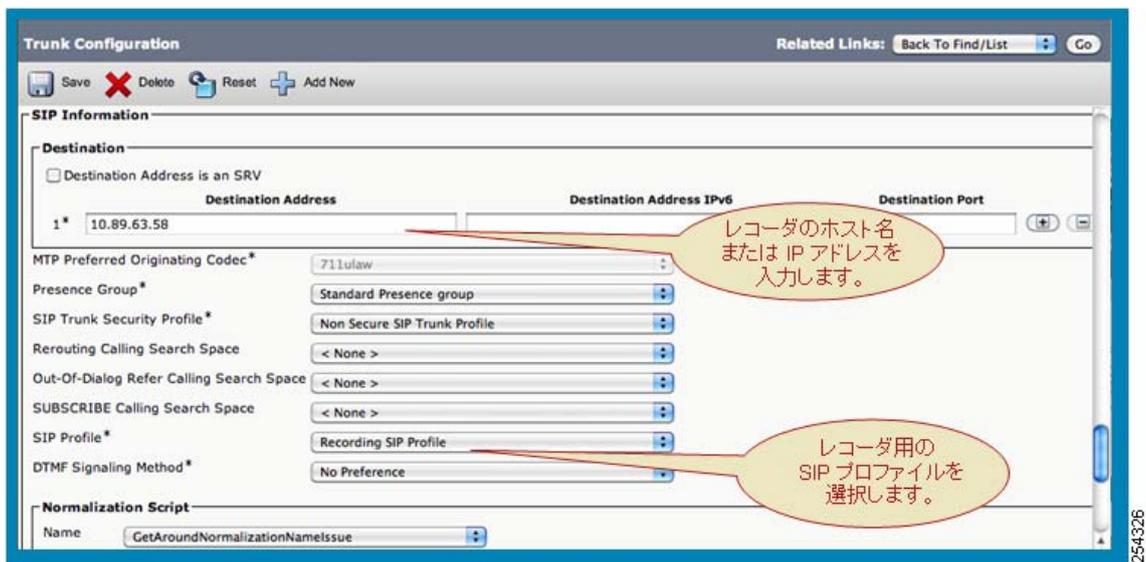
レコーダの DN を入力します。この DN は、SIP トランク用のルートパターン、またはレコーダを含むルートリストと一致する必要があります。

録音用に設定した適切な SIP プロファイルを選択します。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)] メニュー オプションを使用して、必要な設定を実行します。

図 34-45 に、レコーダをポイントする SIP トランクの作成方法を示します。

図 34-45 レコーダをポイントする SIP トランクの作成



254326

レコーダ用のルート パターンを作成する

レコーダの SIP トランク用のルート パターンを作成します。このパターンは、録音プロフィール内の [録音接続先アドレス (Recording Destination Address)] と一致している必要があります。

レコーダをポイントする SIP トランクを選択するか、またはレコーダがメンバになっているルート リストを選択します。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート / ハント (Route/Hunt)] > [ルートパターン (Route Pattern)] メニュー オプションを使用して、必要な設定を実行します。

図 34-46 に、レコーダ用のルート パラメータの作成方法を示します。

図 34-46 レコーダ用のルート パターンの作成

System ▾ Call Routing ▾ Media Resources ▾ Advanced Features ▾ Device ▾ Application ▾ User Management ▾ Bulk Administration ▾ Help ▾

Route Pattern Configuration Related Links:

Save Delete Copy Add New

Pattern Definition

Route Pattern*	7777
Route Partition	< None >
Description	CCBU Recorder
Numbering Plan	-- Not Selected --
Route Filter	< None >
MLPP Precedence*	Default
Resource Priority Namespace Network Domain	< None >
Route Class*	Default
Gateway/Route List*	SIPToCCBURecorder
Route Option	<input checked="" type="radio"/> Route this pattern <input type="radio"/> Block this pattern
Call Classification*	OffNet

Allow Device Override
 Provide Outside Dial Tone
 Allow Overlap Sending
 Urgent Priority

254327

レコーダの冗長性を作成する

多くのレコーダ（たとえば、Nice や Witness のレコーダ）は、組み込みのプロキシ機能と冗長性機能を備えています。

レコーダの冗長性を実現するには、次のメカニズムも使用できます。

- SIP トランクの設定において、レコーダの接続先アドレスに SRV レコードを使用します。
- 冗長性とロードバランスのために複数のレコーダを使用します。レコーダごとに SIP トランクを作成します。また、ルートリストを作成し、個々の SIP トランクがメンバになっているルートグループを含めます。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)] メニュー オプションを使用して、必要な設定を実行します。

図 34-47 に、SIP トランクに対して SRV を有効にする方法を示します。

図 34-47 SIP トランクに対する SRV の有効化

Trunk Configuration (Trunk Configuration) 関連リンク: 検

保存

発信先ホスト名 (Destination Address)

Diversionヘッダー配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Diversion Header Delivery - Outbound)

SIP情報 (SIP Information)

着信先アドレス (Destination Address)* RecorderHostName

着信先アドレスはSRV (Destination Address is an SRV)

着信先ポート (Destination Port) 0

MTP優先発信コーデック (MTP Preferred Originating Codec)

プレゼンスグループ (Presence Group)*

SIPトランクセキュリティプロファイル*

コールリングサーチスペースの再ルーティング (Rerouting Calling Search Space)

アウトオブダイアログREFERコールリングサーチスペース (Out-Of-Dialog Refer Calling Search Space) <なし>

201007

モニタリングと録音のサービスパラメータの設定

次に、コールモニタリング機能とコール録音機能に影響するサービスパラメータを示します。これらのサービスパラメータは、次のタイプに分類されます。

- 「通知」 (P.34-76)
- 「コーデックの使用」 (P.34-77)
- 「ビルトインブリッジ」 (P.34-77)

通知

次のサービスパラメータは、コールモニタリング機能とコール録音機能によって監視または録音される側に通知トーンを再生する方法に影響します。

[Clusterwide Parameters (Feature - Call Recording)]

- Play Recording Notification Tone To Observed Target
- Play Recording Notification Tone To Observed Connected Parties

[Clusterwide Parameters (Feature - Monitoring)]

- Play Monitoring Notification Tone To Observed Target
- Play Monitoring Notification Tone To Observed Connected Parties

これらのサービス パラメータのデフォルト値は、[False] です。特定の通知トーンの再生を有効にするには、各パラメータの値を [True] に変更する必要があります。

これらのサービス パラメータの詳細については、「[モニタリングと録音の通知トーン](#)」(P.34-56) を参照してください。

コーデックの使用

G722 コーデックと iLBC コーデックの使用を有効または無効にするには、次のサービス パラメータを使用します。

[Clusterwide Parameters (System - Location and Region)]

- G722 Codec Enabled
- iLBC Codec Enabled

これらのサービス パラメータの詳細については、「[録音コールのコーデックの使用制限](#)」(P.34-58) を参照してください。

ビルトインブリッジ

次のサービス パラメータは、電話機のビルトインブリッジを有効または無効にします。

[Clusterwide Parameters (Device - Phone)]

- Built-in Bridge Enable

このサービス パラメータの詳細については、「[モニタリングまたは録音を可能にするために IP Phone の BIB をオンにする](#)」(P.34-66) を参照してください。

関連項目

- 「[モニタリングと録音の設定チェックリスト](#)」(P.34-1)
- 「[モニタリングと録音の概要](#)」(P.34-3)
- 「[モニタリングと録音のシステム要件](#)」(P.34-60)
- 「[インタラクションおよび制限事項](#)」(P.34-61)
- 「[モニタリングと録音の設定](#)」(P.34-65)
- 『[Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド](#)』の「[Cisco Unified IP Phone の設定](#)」
- 『[Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド](#)』の「[アプリケーションユーザの設定](#)」
- 『[Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド](#)』の「[ユーザグループの設定](#)」
- 『[Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド](#)』の「[サービスパラメータの設定](#)」

■ 関連項目

- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[電話番号の設定](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[録音プロファイルの設定](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[ルートパターンの設定](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[トランクの設定](#)」
- 「外部コール制御」(P.22-1)



CHAPTER 35

Multilevel Precedence and Preemption

Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) サービスを使用すると、適切に検証されたユーザが優先コールをかけることができます。ユーザは必要に応じて、優先順位の低いコールを差し替えることができます。

優先順位は、コールに関連付けられた優先レベルを意味します。プリエンプションは、優先順位の高いコールがデバイスを使用できるように、現在ターゲット デバイスを使用している優先順位の低いコールを終了させるプロセスを意味します。

認証されたユーザは、宛先ステーションへ、または完全にサブスクライブされた Time-Division-Multiplexing (TDM; 時分割多重) トランクを介して、コールをプリエンプション処理することができます。この機能により、国家の非常事態やネットワークの機能低下など、ネットワークに負荷がかかっている場合に、優先順位の高いユーザが重要な組織や担当者への通信を確実に行うことができます。

この章では、次の情報について説明します。

- [「MLPP の設定チェックリスト」 \(P.35-2\)](#)
- [「MLPP の概要」 \(P.35-4\)](#)
- [「MLPP 補足サービス」 \(P.35-34\)](#)
- [「Multilevel Precedence and Preemption のシステム要件」 \(P.35-39\)](#)
- [「Multilevel Precedence and Preemption をサポートするデバイス」 \(P.35-39\)](#)
- [「インタラクションおよび制限事項」 \(P.35-40\)](#)
- [「MLPP のインストールとアクティブ化」 \(P.35-43\)](#)
- [「MLPP の設定」 \(P.35-43\)](#)
- [「MLPP のエンタープライズ パラメータの設定」 \(P.35-44\)](#)
- [「関連項目」 \(P.35-45\)](#)

MLPP の設定チェックリスト

Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) サービスを使用すると、適切に検証されたユーザが優先コールをかけることができます。ユーザは必要に応じて、優先順位の低いコールを差し替えることができます。

優先順位は、コールに関連付けられた優先レベルを意味します。プリエンプションは、優先順位の高いコールがデバイスを使用できるように、現在ターゲット デバイスを使用している優先順位の低いコールを終了させるプロセスを意味します。

認証されたユーザは、宛先ステーションへ、または完全にサブスクライブされた時分割多重 (TDM) トランクを介して、コールをプリエンプション処理することができます。この機能により、国家の非常事態やネットワークの機能低下など、ネットワークに負荷がかかっている場合に、優先順位の高いユーザが重要な組織や担当者への通信を確実に行うことができます。

表 35-1 に、MLPP を設定するためのチェックリストを示します。MLPP の詳細については、「[MLPP の概要](#)」(P.35-4) および「[関連項目](#)」(P.35-45) を参照してください。

表 35-1 MLPP の設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 MLPP ドメイン、リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメイン、およびリソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメイン リストを設定します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 MLPP ドメインの設定値 」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの設定値 」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 リソース プライオリティ ネームスペース リストの設定値 」
ステップ 2 関連するデバイスが MLPP コールを発信できる共通デバイス設定を設定します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 デバイス プールの設定 」
ステップ 3 エンタープライズ パラメータを設定して、MLPP 表示とプリエンプションを有効にします。個々のデバイスおよび共通デバイス設定内のデバイスで MLPP が [デフォルト (Default)] に設定されている場合、これらのデバイスおよび共通デバイス設定には MLLP 関連のエンタープライズ パラメータが適用されます。	「 MLPP のエンタープライズ パラメータの設定 」(P.35-44) 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 エンタープライズ パラメータの設定 」
ステップ 4 ユーザ (発信側および関連するデバイス) が MLPP を使用して優先コールをかけられるように、パーティションと Calling Search Spaces (CSS; コーリング サーチ スペース) を設定します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 パーティションの設定 」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 コーリング サーチ スペースの設定 」
ステップ 5 MLPP コールの MLPP 優先レベルとルート オプションを指定するルート パターン/ハント パイロットを設定します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 ルート パターンの設定 」

表 35-1 MLPP の設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 6 MLPP コールの MLPP 優先レベルとルート オプションを指定するトランスレーション パターンを設定します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 トランスレーション パターンの設定 」
ステップ 7 MLPP コールの MLPP ドメインを指定するゲートウェイを設定します。次のゲートウェイ タイプが適用されます。 <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Catalyst 6000 24 ポート FXS ゲートウェイ • Cisco Catalyst 6000 E1 VoIP ゲートウェイ • Cisco Catalyst 6000 T1 VoIP ゲートウェイ • Cisco DE-30+ ゲートウェイ • Cisco DT-24+ ゲートウェイ • H.323 ゲートウェイ (注) いくつかのゲートウェイ タイプで、[MLPP 表示 (MLPP Indication)] と [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を設定できます。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 ゲートウェイの設定 」
ステップ 8 MLPP コールの MLPP ドメインを指定する Cisco Unified IP Phone を設定します。 (注) いくつかの電話機タイプで、[MLPP 表示 (MLPP Indication)] と [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を設定できます。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 Cisco Unified IP Phone の設定 」
ステップ 9 MLPP コールをかける電話番号を設定します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 Cisco Unified IP Phone の設定 」
ステップ 10 MLPP コールをかけるユーザのユーザ デバイス プロファイルを設定します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 デバイス プロファイルの設定 」
ステップ 11 MLPP コールをかけるデバイスのデバイス プロファイル デフォルトを設定します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「 デフォルト デバイス プロファイルの設定 」
ステップ 12 MLPP サービスが使用可能であることをユーザに通知します。	ユーザが Cisco Unified IP Phone で MLPP 機能にアクセスする方法については、電話機のマニュアルを参照してください。

MLPP の概要

Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) サービスを使用すると、優先コールをかけることができます。適切に検証されたユーザは、優先順位の低いコールよりも優先順位の高いコールを優先させることができます。認証されたユーザは、宛先ステーションへ、または完全にサブスクライブされた TDM トランクを介して、コールをプリエンプション処理することができます。この機能により、国家の非常事態やネットワークの機能低下など、ネットワークに負荷がかかっている場合に、優先順位の高いユーザが重要な組織や担当者への通信を確実に行うことができます。

次のトピックで、MLPP サービスについて説明します。

- 「MLPP の用語」 (P.35-5)
- 「優先順位」 (P.35-6)
- 「エクゼクティブ オーバーライド優先レベル」 (P.35-7)
- 「プリエンプション」 (P.35-9)
- 「ドメイン」 (P.35-10)
- 「リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメイン」 (P.35-10)
- 「リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメイン リスト」 (P.35-12)
- 「ロケーションベースの MLPP」 (P.35-12)
- 「クラスタ間トランク経由の MLPP」 (P.35-12)
- 「MLPP 優先パターン」 (P.35-12)
- 「MLPP 表示対応」 (P.35-13)
- 「優先コールの設定」 (P.35-13)
- 「Alternate Party Diversion」 (P.35-14)
- 「MLPP プリエンプション対応」 (P.35-16)
- 「プリエンプションの詳細」 (P.35-17)
- 「MLPP アナウンス」 (P.35-23)
- 「優先順位パターン用の MLPP 番号計画アクセス制御」 (P.35-26)
- 「MLPP トランク選択」 (P.35-27)
- 「MLPP 階層設定」 (P.35-30)
- 「サービス パラメータの特別なトレース設定」 (P.35-31)
- 「優先コール用の CDR の録音」 (P.35-31)
- 「回線機能のインタラクション」 (P.35-31)
- 「コール保存」 (P.35-33)
- 「自動代替ルーティング」 (P.35-33)
- 「MGCP と PRI プロトコル」 (P.35-33)
- 「セキュアなエンドポイントとセキュアな通信」 (P.35-33)
- 「MLPP 優先順位と DSCP 値のマッピング」 (P.35-34)

MLPP の用語

MLPP サービスでは次の用語を使用します。

- コール：2 人以上のユーザ間または 2 つ以上のネットワーク エンティティ間の音声、ビデオ、またはデータの接続。これは、番号をダイヤルするか、または定義済みのダイヤルプランに従って宛先にルーティングすることで実現されます。
- 優先順位：コールに関連付けられた優先レベル。
- プリエンプション：優先順位の低い既存のコールを終了させ、優先順位の高いコールにターゲット デバイスを使用させるプロセス。
- 優先コール：最も低い優先レベルよりも高い優先レベルを持つコール。
- MLPP コール：優先レベルが確立された、設定中（つまり、アラート前）のコールまたは設定済みのコール。
- アクティブなコール：接続が確立され、発信側と着信側がアクティブになったコール。
- MLPP ドメイン ID：MLPP 加入者に関連付けられたデバイスとリソースの集合を指定します。特定のドメインに属す MLPP 加入者が、同じドメインに属す別の MLPP 加入者に優先コールをかけると、MLPP サービスは、着信側の MLPP 加入者の既存のコールを優先順位の高いコールに差し替えます。MLPP サービスは、異なるドメイン間では使用できません。
- リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメイン：優先コールの際の SIP トランクの動作を指定するもので、既存コールを差し替えることができます。SIP シグナリングにおけるリソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインは、レガシー TDM MLPP ネットワークで使用されている ISDN 優先の Information Element (IE; 情報要素)、および ISDN User Part (ISUP; ISDN ユーザ部) の優先パラメータに似ています。リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインは、発信コールに含まれており、コールを SIP トランクに転送するトランスレーション パターンまたはルート パターンに基づいています。着信コールに関しては、ネットワーク ドメインがリソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメイン リストに対して検証されます。このリストにネットワーク ドメインが存在しない場合、コールは拒否され、417 メッセージ（認識不能）が返されます。
- リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメイン リスト：設定済みのリソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインのリストで、着信コールの検証に使用します。
- MLPP 表示対応のデバイス：Cisco Unified Communications Manager で、デバイスと Cisco Unified Communications Manager によってデバイス制御プロトコルで優先順位とプリエンプションのシグナリング手順がサポートされ、Cisco Unified Communications Manager システムでそのように設定されているデバイス。
- MLPP プリエンプション対応のデバイス：Cisco Unified Communications Manager で、デバイスと Cisco Unified Communications Manager によってデバイス制御プロトコルでプリエンプションのシグナリング手順がサポートされ、Cisco Unified Communications Manager システムでそのように設定されているデバイス。Cisco Unified Communications Manager は、このインターフェイスでプリエンプションを開始できます。

優先順位

優先順位は、コールに関連付けられた優先レベルを示します。優先順位の割り当てはその場限りのものであり、ユーザは自分がかけようとしているコールに優先レベルを適用するかしないかを選択します。MLPP の優先順位は、コールアドミッション制御または拡張型緊急通報システム (E911) とは関係していません。ユーザは Cisco Unified Communications Manager の管理ページの専用ダイヤルパターンによって MLPP 要求を開始できます。発信側 (デバイスや回線など) に関連付けられたコーリングサーチスペース (CSS) の設定によって、発信側が優先パターンをダイヤルして優先コールを発信できるかどうかは制御されます。

Defense Switched Network (DSN) および Defense Red Switched Network (DRSN) は、初期 MLPP 配置用のターゲットシステムを示します。通常は、優先レベルをコールに割り当てるメカニズムを適用しますが、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、優先ダイヤルパターンやそのパターンへのアクセスを許可または制限するコーリングサーチスペースを定義することによって、任意のダイヤルプランに優先レベルを割り当てることができます。DSN では、ストリングプレフィックス NP を使用して優先コールを要求できるようにダイヤルプランが定義されます。NP の P は優先レベルの要求を示し、N は事前設定された MLPP へのアクセス番号を示します。優先順位は次のとおりです。

- エクゼクティブ オーバーライド
- フラッシュ オーバーライド
- フラッシュ
- 即時
- 優先順位
- ルーチン

優先順位を呼び出さなければ、システムは通常のコール処理と自動転送を使用してコールを処理します。

デフォルトの割り当てまたはエクステンションモビリティでユーザプロファイルが電話機に割り当てられている場合、電話機は、ユーザに関連付けられた CSS を含め、割り当てられたユーザの設定を継承します。ただし、電話機の CSS はユーザプロファイルを上書きできます。Cisco Unified Communications Manager は、パターンが一致した場合に、ダイヤルされたパターンに関連する優先レベルをコールに割り当てます。システムは、割り当てられた優先レベルで、コール要求を優先コールとして設定します。

ある宛先に対して優先コールが発信されると、Cisco Unified Communications Manager は、優先コールの発信元または宛先のいずれかが MLPP 表示対応である場合に、発信元と宛先の両方に優先順位のインジケータを送信します。発信元の場合、このインジケータは、優先順位呼び戻し音と、デバイスで表示がサポートされている場合はコールの優先レベルまたはドメインの表示で示されます。宛先の場合、このインジケータは、優先順位呼び出し音と、デバイスで表示がサポートされている場合はコールの優先レベルまたはドメインの表示で示されます。

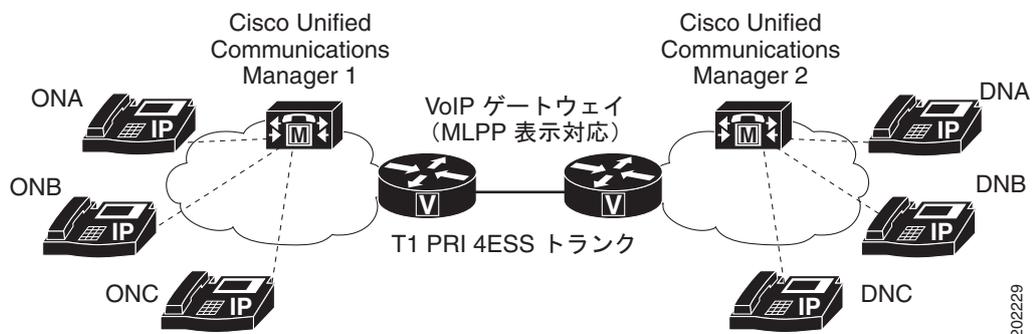
エクゼクティブ オーバーライド優先レベル

最高の優先レベルとしてエクゼクティブ オーバーライド優先レベルが指定されています。エクゼクティブ オーバーライド優先レベルが優先順位の低いコールを差し替えるときに、エクゼクティブ オーバーライド コールはその優先レベルをフラッシュ オーバーライド（次に高いレベル）に変更するため、後続のエクゼクティブ オーバーライド コールは最初の優先コールを差し替えることができます。

エクゼクティブ オーバーライド優先コールの差し替えには、Executive Override Call Preemptable サービス パラメータを [True] に設定する必要があります。このサービス パラメータを [False] に設定すると、エクゼクティブ オーバーライド優先コールはその優先レベルを保持するため、差し替えることができません。

図 35-1 に、2 つのエクゼクティブ オーバーライド優先コールの例を示します。一方は差し替えが可能で、もう一方は差し替えができません。

図 35-1 エクゼクティブ オーバーライド優先コールの例



この例では、Cisco Unified Communications Manager インストール 1 の Executive Override Call Preemptable サービス パラメータには [False] が指定されていますが、Cisco Unified Communications Manager インストール 2 では、Executive Override Call Preemptable サービス パラメータに [True] が指定されています。

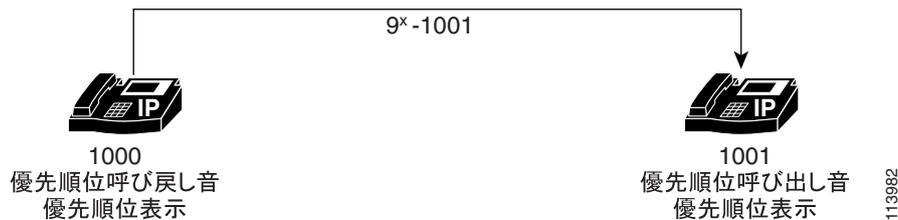
ONA は T1 PRI 4ESS トランクを通して、インストール 1 からインストール 2 の DNA へのエクゼクティブ オーバーライド優先コールを開始します。DNA が応答し、コールが接続されます。

インストール 1 で、ONB がエクゼクティブ オーバーライド優先コールを使用して ONA にコールしようとする、インストール 1 ではエクゼクティブ オーバーライド コールを差し替えることができないため、ONB は BPA (Blocked Precedence Announcement) を受信します。ONB がエクゼクティブ オーバーライド優先コールを使用して DNA にコールしようとする、インストール 2 ではエクゼクティブ オーバーライド コールを差し替えることができるため、ONA と DNA の間のコールは差し替えられます。同様に、エクゼクティブ オーバーライド優先コールを使用して DNB が DNA をコールすると、後続のエクゼクティブ オーバーライド優先コールは ONA と DNA の間のコールを差し替えます。

エクゼクティブ オーバーライド優先コールの設定

図 35-2 に、エクゼクティブ オーバーライド優先コールが行われた場合のイベントの例を示します。

図 35-2 エクゼクティブ オーバーライド優先コールの設定



この例では、電話機 1000 がオンフックになり、9*1001 をダイヤルします（ルートパターン 9*XXXX 設定にはエクゼクティブ オーバーライドが指定されています）。

発信元では、この優先コールが成功すると、Cisco Unified Communications Manager はユーザへの呼び戻し音を再生する信号を Cisco Unified IP Phone に送ります。Cisco Unified IP Phone 1000 が MLPP 表示対応の場合、優先順位呼び戻し音が再生されます。これ以外の場合は、通常の呼び戻し音が再生されます。

優先コールが接続できない場合、Cisco Unified IP Phone 1000 が MLPP 表示対応であれば、Blocked Precedence Announcement (BPA) が再生されます。これ以外の場合は、通常のリオーダー音が再生されます。

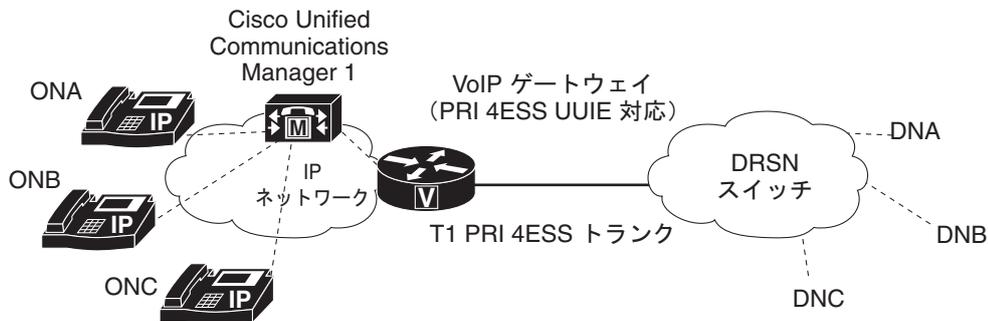
宛先では、エクゼクティブ オーバーライド優先コールが Cisco Unified IP Phone 1001 に正しく提供されると、デバイスで可聴呼び出し音を生成する信号が Cisco Unified Communications Manager によって宛先に送信されます。Cisco Unified IP Phone 1001 が MLPP 表示対応の場合、優先順位呼び出し音が再生されます。これ以外の場合は、通常の呼び出し音が再生されます。

また、電話機 1001 が MLPP 表示対応である場合は、Cisco Unified IP Phone 1001 に優先情報（フラッシュ オーバーライド優先コールアイコンなど）が表示されます。これ以外の場合は、優先情報は表示されません。

PRI 4ESS インターフェイス間のエクゼクティブ オーバーライド優先コール

図 35-3 に、PRI 4ESS インターフェイス間のエクゼクティブ オーバーライド優先コールの例を示します。

図 35-3 PRI 4ESS インターフェイス間のエクゼクティブ オーバーライド優先コール



DRSN = Defense Red Switch Network

202228

Cisco Unified Communications Manager では、PRI 4ESS インターフェイス間のエクゼクティブ オーバーライド優先コールを処理する際、PRI 4ESS UUIE を介した優先レベル以外は、他の優先コールの処理に使用する方法と同じ方法を使用します。

User-to-User を介した優先情報が渡されるのは、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウ上の [User-to-User IE Status] が [True] になっており、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウの [IE を介した優先レベルの通知 (Passing Precedence Level Through UUIE)] が選択されている場合に限られます。

DRSN への PRI 4ES UUIE ベースの MLPP インターフェイス

Cisco Unified Communications Manager は、PRI 4ESS UUIE フィールド経由で MLPP 情報を渡すことができるようになりました。以前のリリースの Cisco Unified Communications Manager は、Defense Switched Network (DSN) スイッチに接続するために、ANSI T1.619a 仕様に従って開発された PRI インターフェイス用の MLPP を提供しました。Defense Red Switch Network (DRSN) スイッチは、ANSI T1.619a ベースの MLPP をサポートしていませんが、UUIE を使用することで PRI 4ESS インターフェイス上の MLPP をサポートしています。

プリエンプション

プリエンプションプロセスは、優先順位の高いコールがデバイスを使用できるように、現在ターゲットデバイスを使用している優先順位の低いコールを終了させます。プリエンプションには、プリエンプション処理されるユーザへの通知とそれに対する受信応答、およびプリエンプションの直後とコールの終了前の共有リソースの予約が含まれます。プリエンプションは、どのメソッドが起動するかに応じて、次のいずれかの形式をとります。

- ユーザアクセスチャネルプリエンプション：このタイプのプリエンプションは、電話機およびその他のエンドユーザデバイスに適用されます。また、着信側のユーザアクセスチャネルを差し替える必要がある場合に、着信側と接続先の両方がプリエンプション通知を受信し、既存の MLPP コールがすぐにクリアされます。着信側は、優先順位の高いコー

ルが実行される前に、プリエンプションに受信応答する必要があります。その後、着信側には新規 MLPP コールが提供されます。着信側がプリエンプションに受信応答しない場合、優先順位の高いコールは 30 秒後に実行されます。

- 共通ネットワーク ファシリティ プリエンプション：このタイプのプリエンプションは、トランクに適用されます。このタイプのプリエンプションは、ネットワーク リソースがコールで混雑しており、このうちの一部のコールの優先順位が、発信側が要求しているコールよりも低くなっていることを意味します。1 つまたは複数の優先順位の低いコールが、優先順位の高いコールに差し替えられます。



(注)

既存のコールを差し替えるためにコールが使用するすべてのデバイスでプリエンプションが有効になっていることを確認してください。発信側と着信側のデバイス（電話機）でプリエンプションが有効になっているだけでは不十分なので、コールに使用されるゲートウェイでもプリエンプションが有効になっていることを確認してください。

ドメイン

MLPP ドメインは、MLPP 加入者に関連付けられたデバイスとリソースの集合を指定したものです。特定のドメインに属す MLPP 加入者が、同じドメインに属す別の MLPP 加入者に優先コールをかけると、MLPP サービスは、着信側の MLPP 加入者の既存のコールを優先順位の高いコールに差し替えます。MLPP サービスは、異なるドメイン間では使用できません。

発信ユーザによる MLPP ドメインへの加入によって、コールのドメインとその接続が決まります。あるドメイン内の優先順位の高いコールだけが、同じドメイン内のコールが使用している接続を差し替えることができます。

管理者は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページにゼロ以上の 16 進数としてドメインを入力します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.35-45) を参照してください。

リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメイン

リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインにより、SIP トランクを使用する Voice over Secured IP (VoSIP) ネットワーク向けのネームスペース ドメインを設定できるようになります。Cisco Unified Communications Manager が SIP シグナル化されたリソースに優先順位を付けることによって、電話回線、IP 帯域幅、およびゲートウェイに緊急事態や輻輳が発生した場合にこれらのリソースが最も効率的に利用されます。エンドポイントは、優先順位やプリエンプションに関する情報を受信します。これは、RFC 4411 および RFC 4412 に基づいて行われます。

SIP シグナリングは、リソース プライオリティ ヘッダーを含みます。リソース プライオリティ ヘッダーは、レガシー TDM MLPP ネットワークで使用されている ISDN 優先の情報要素 (IE)、および ISDN ユーザ部 (ISUP) の優先パラメータに似ています。リソース プライオリティ ヘッダーは、RFC 3261 (Section 20.26) のプライオリティ ヘッダーと関連していますが、同一ではありません。

RFC 3261 プライオリティ ヘッダーは、エンドポイントに対する SIP 要求の重要度を示します。たとえば、このヘッダーには、モバイル デバイスおよびアシスタントへのコール ルーティング、およびコールの接続先がビジネスマンである場合のコール受理に関する決定事項が表示されます。RFC 3261 プライオリティ ヘッダーは、PSTN ゲートウェイまたはプロキシのリソースの使用には影響を及ぼしません。

RFC 3261 プライオリティ ヘッダーでは任意の値がアサートされますが、ネームスペース ネットワーク ドメインの Resource Priority ヘッダー フィールドは認証の対象になります。Resource Priority ヘッダー フィールドは、IP ルータの転送動作、またはパケット転送プライオリティなどの通信リソースの使用に対して、直接的な影響を与えません。

発信メッセージにおける RFC 4411 および RFC 4412 リソース プライオリティ ヘッダーは、コールを SIP トランクに転送するトランスレーション パターンまたはルート パターンに基づいています。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定されたエンドポイントでコールが終端している場合は、着信コールがリソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインのリストで検証されます。

次のメッセージには、Resource Priority ヘッダーが含まれています。

- INVITE
- UPDATE
- REFER

以下は、最優先事項（値は 4）を示すリソース プライオリティ ヘッダーを含む INVITE メッセージの例です。

```
INVITE sip:6000@10.18.154.36:5060 SIP/2.0Via: SIP/2.0/TCP
10.18.154.44;branch=z9hG4bK1636ee4aRemote-Party-ID: "Raleigh - 5001"
<sip:5001@10.18.154.44>;party=calling;screen=yes;privacy=offFrom: "Raleigh - 5001"
<sip:5001@10.18.154.44>;tag=936ad6ec-4d3c-4a42-a812-99ac56d972e1-14875646To:
<sip:6000@10.18.154.36>
Date: Mon, 21 Mar 2005 14:39:21 GMTCall-ID:
1d13800-23e1dc99-4c-2c9a12ac@172.18.154.44Supported: 100rel,timer,replacesRequire:
resource-priorityMin-SE: 1800User-Agent: Cisco-CCM5.0Allow: INVITE, OPTIONS, INFO, BYE,
CANCEL, ACK, PRACK, UPDATE, REFER, SUBSCRIBE, NOTIFYCSeq: 101 INVITEContact:
<sip:5001@10.18.154.44:5060;transport=tcp>Expires: 180Allow-Events: presence, dialog,
kpmlCall-Info:<sip:10.18.154.44:5060>;method="NOTIFY;Event=telephone-event;Duration=500"Resource-Priority: namespace.4
Max-Forwards: 70Content-Type: application/sdpContent-Length: 269v=0o=CiscoSystemsCCM-SIP
2000 1 IN IP4 10.18.154.44s=SIP Callc=IN IP4 10.18.154.45t=0 0m=audio 19580 RTP/AVP 0
101a=rtpmap:0 PCMU/8000a=ptime:20a=rtpmap:101 telephone-event/8000a=fmtp:101 0-15
```

また、デフォルトのリソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインを SIP プロファイルに追加して、誤って設定された着信のネームスペース ネットワーク ドメインを処理する際に使用することもできます。



(注)

トランスレーション パターンとルート パターンの番号分析がサポートされています。

次の補足サービスがサポートされています。

- 優先コール待機
- コール転送
- 自動転送
- 三者通話

次のヘッダー、マッピング、およびキューイングはサポートされていません。

- Accept-Resource-Priority ヘッダー
- PRACK および ACK での RP ヘッダーの包含
- 各ネームスペースにおける優先レベルのマッピング
- コール キューイング、およびその他の MLPP 以外のサービス

リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメイン リスト

リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメイン リストは、許容可能なネットワーク ドメインを含んでおり、SIP プロファイルに追加されます。許容可能なネットワーク ドメインがこのリストに含まれている場合、着信コールはこのリストと比較された上で処理されます。着信コールが有効でない場合は、コールは拒否され、417 エラー応答（不明）が発信側に送信されます。

ロケーション ベースの MLPP

Cisco Unified Communications Manager は、Skinny Client Control Protocol の電話機と TDM (PRI/CAS) トランクでの MLPP をサポートしています。Cisco Unified Communications Manager は、Wide Area Network (WAN; ワイドエリア ネットワーク) リンク上の MLPP もサポートしています。ロケーションベースの Call Admission Control (CAC; コール アドミッション制御) は、Cisco Unified Communications Manager の WAN リンクの帯域幅を管理します。優先順位の高いコールを接続する必要がある場合、拡張されたロケーションでは、コールの優先レベル、および低い優先レベルのコールの差し替えが考慮されます。

ロケーションの拡張とは、優先コールが着信し、そのコールを宛先のロケーションに接続する十分な帯域幅が見つからない場合に、Cisco Unified Communications Manager が優先レベルの最も低い 1 つ以上のコールを探して、コールを差し替え、優先順位の高いコールに利用できる帯域幅を確保することです。差し替え処理を行っても帯域幅の要件を満たすことができないと、新しいコールは失敗します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.35-45) を参照してください。

クラスタ間トランク経由の MLPP

Cisco Unified Communications Manager は、クラスタ間トランク経由の MLPP 優先順位とプリエンプレッションをサポートしています。ダイヤルした数値によって優先レベルを通知します。ロケーション コール アドミッション制御メカニズムは、プリエンプレッションを制御します。アナウンスと MLPP 原因コードも、クラスタ間トランク経由で使用できます。

MLPP 優先パターン

MLPP 優先パターンを設定するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [トランスレーションパターンの設定 (Translation Pattern Configuration)] ウィンドウにアクセスします。このウィンドウでは、次の MLPP 優先パターンを使用できます。

- エクゼクティブ オーバーライド (最高)
- フラッシュ オーバーライド
- フラッシュ
- 即時
- 優先順位
- 標準 (最低)
- デフォルト (優先レベルが変更されないことを意味します)

詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[トランスレーションパターンの設定](#)」の項を参照してください。

MLPP 表示対応

MLPP 表示対応のデバイスには次の特徴があります。

- MLPP 表示対応のデバイスは、プリエンブション トーンを再生できます。
- MLPP 表示対応のデバイスは、アナウンス サーバが生成する MLPP プリエンブション アナウンスを受信できます。
- MLPP 表示対応のデバイスは、プリエンブションを受信できます。

デバイスを設定して MLPP 表示を有効にするには、各デバイスの設定ウィンドウを使用します。各デバイスの [MLPP 表示 (MLPP Indication)] フィールドで、値を [オン (On)] に設定します。

デバイスに対する MLPP 表示の設定の詳細については、次のトピックを参照してください。

- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[デバイスプールの設定](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[ゲートウェイの設定](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[Cisco Unified IP Phone の設定](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[デバイスプロファイルの設定](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[デフォルトデバイスプロファイルの設定](#)」

優先コールの設定

優先コールの設定では、次の一連のイベントが発生します。

1. ユーザが電話機をオフフックにして優先コールをダイヤルします。コールパターンは NP-XXX を指定しています。ここで、N は優先アクセス番号を示し、P はコールの優先レベルを示します。
2. 発信側は、コールの処理中に特別な優先順位呼び戻し音と優先順位表示を受信します。
3. 着信側は、優先コールを示す特別な優先順位呼び出し音と優先順位表示を受信します。

例

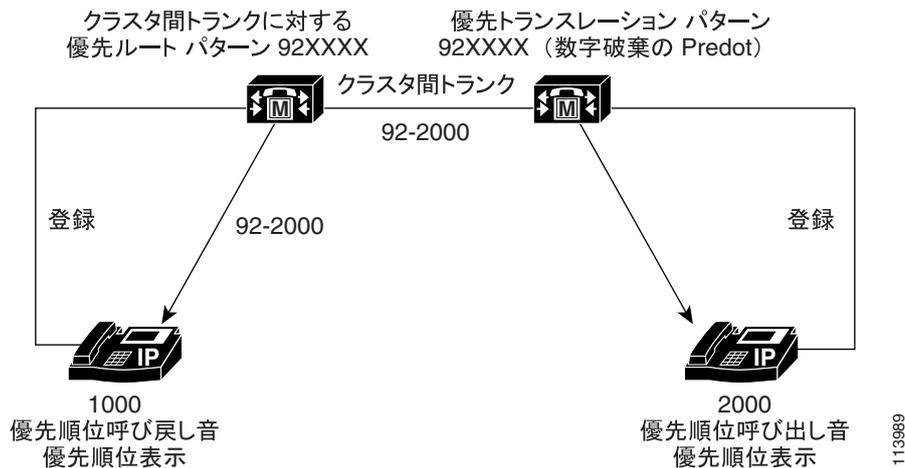
ユーザ 1000 がユーザ 1001 に優先コールをかけます。そのために、ユーザ 1000 は 90-1001 などの優先コールパターンをダイヤルします。

コールが処理されると、発信側の Cisco Unified IP Phone が優先順位呼び戻し音と優先順位表示を受信します。着信側が優先コールに受信応答すると、着信側の Cisco Unified IP Phone は、優先順位呼び出し音（特別な呼び出し音）と優先順位表示を受信します。

クラスタ間トランクの間での優先コールの設定

図 35-4 に、クラスタ間トランクの間での優先コールに使用できる設定例を示します。クラスタ間トランクの間には、優先情報要素のサポートは存在しないため、追加ディジットを転送することで優先情報を送信します。優先情報の送信を実行するには、両方のクラスタ環境でダイヤルプランを適切に設定する必要があります。

図 35-4 クラスタ間トランクの間での優先コールの設定例



この例では、1000 は 92-2000 をダイヤルします。これは両方のクラスタ環境の適切な優先パターンに一致しており、優先コールを設定します。

Alternate Party Diversion

Alternate Party Diversion (APD) は、特別なタイプの自動転送から構成されます。ユーザが APD に設定されている場合は、通話中または応答のない Directory Number (DN; 電話番号) に優先コールがかけられたときに APD が実行されます。

MLPP APD は優先コールだけに適用されます。MLPP APD コールは、優先コールの DN 無応答時転送の設定を無効にします。

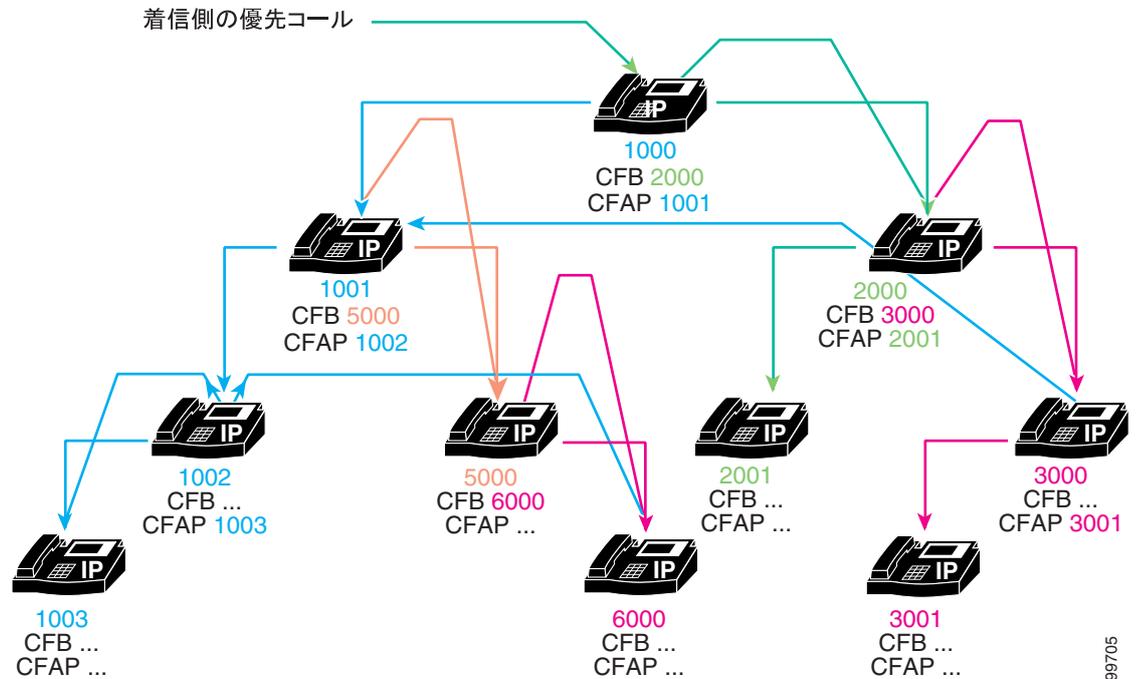
通常、優先コールは、Use Standard VM Handling For Precedence Calls エンタープライズパラメータの値で制御されるので、ボイスメールシステムには転送されません。詳細については、「MLPP のエンタープライズパラメータの設定」(P.35-44) を参照してください。

APD を設定するために、管理者は、MLPP 優先コールのターゲットとなる電話番号の [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで [MLPP 代替パーティの設定 (MLPP Alternate Party Settings)] を設定します。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」の項を参照してください。

例

図 35-5 に、着信側が優先コールを受信し、Alternate Party Diversion の発信先が設定されている場合の Alternate Party Diversion を示します。

図 35-5 Alternate Party Diversion の例



この例では、発信側がユーザ 1000 に優先コールをかけます。着信側の 1000 には Call Forward Busy (CFB; 話中転送) 用に 2000 が設定され、Call Forward Alternate Party (CFAP) 用に 1001 が設定されています。この図には、この例の他のすべてのユーザの CFB 設定と CFAP 設定が示されています。

1000 が優先コールを受信したときに通話中である場合、コールはユーザ 2000 に送信されます。ユーザ 2000 も通話中である場合、コールはユーザ 3000 に送信されます。ユーザ 2000 もユーザ 3000 もコールに回答しない場合、コールはユーザ 1001 に送信されます。つまり、コールは、元の着信側に関連する話中転送ユーザに対して指定された代替パーティではなく、元の着信側に対して指定された代替パーティに送信されます。

同様に、ユーザ 1001 が通話中でコールに回答しない場合、コールはユーザ 5000 に転送されます。ユーザ 5000 が通話中である場合、コールはユーザ 6000 に転送されます。ユーザ 5000 もユーザ 6000 もコールに回答しない場合、コールはユーザ 1001 の代替パーティであるユーザ 1002 に転送されます。ユーザ 1002 が通話中で回答しない場合、コールはユーザ 1002 の代替パーティであるユーザ 1003 に転送されます。

MLPP プリエンプション対応

MLPP プリエンプションを有効にするには、プリエンプション機能のあるデバイスでプリエンプションを明示的に設定します。

プリエンプションの受信

プリエンプションが無効になっているデバイス ([MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] 値が [無効 (Disabled)] に設定されているデバイス) は、MLPP ネットワークで優先コールを受信できますが、そのデバイス自体をプリエンプション処理することはできません。プリエンプションが無効になっているデバイスは (別のデバイスで)、差し替えられたコールに接続できます。この場合、デバイスはプリエンプションを受信します。

プリエンプション対応

デバイスでプリエンプションを有効にするには、デバイスの [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] 値を [強制 (Forceful)] または [デフォルト (Default)] に設定します。デバイスの [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] 値が [強制 (Forceful)] に設定されている場合、システムは、その独自のインターフェイスでデバイスをプリエンプション処理することができます。つまり、デバイスは、優先コールがデバイス リソースについて競合している場合にプリエンプション処理を受けることができます。

デバイスの [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] 設定が [デフォルト (Default)] である場合、デバイスは共通デバイス設定から [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] 設定を継承します。デバイスの共通デバイス設定の [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] 設定が [強制 (Forceful)] である場合や、共通デバイス設定の [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] 設定が [デフォルト (Default)] で MLPP Preemption Setting エンタープライズ パラメータ値が [Forceful Preemption] である場合、デバイスは有効なプリエンプションを継承します。

デバイスを設定して MLPP プリエンプションを有効にするには、各デバイスの設定ウィンドウを使用します。各デバイスの [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] フィールドで、値を [強制 (Forceful)] または [デフォルト (Default)] に設定します。

デバイスに対する MLPP プリエンプションの設定の詳細については、次のトピックを参照してください。

- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[共通デバイス設定](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[ゲートウェイの設定](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[Cisco Unified IP Phone の設定](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[デバイスプロフィールの設定](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[デフォルトデバイスプロフィールの設定](#)」

プリエンブションの詳細

次の種類のプリエンブションが存在します。

- ユーザアクセスプリエンブション
- 共通ネットワークファシリティプリエンブション
- ロケーションベースのプリエンブション

ユーザアクセスプリエンブション

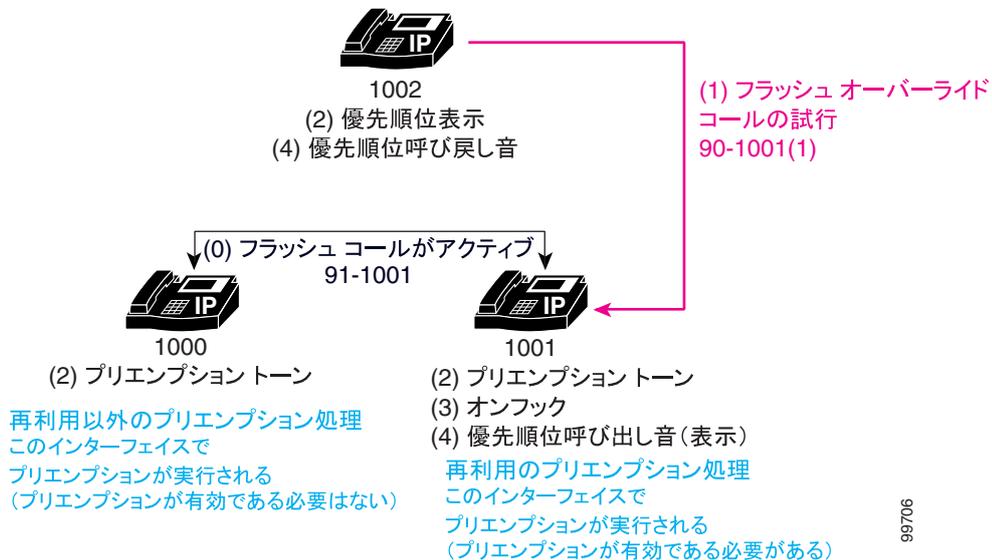
低いレベルの優先コールがすでにアクティブであるユーザに優先コールを行う場合、ユーザアクセスプリエンブションが実行されます。いずれのコールも同じ MLPP ドメインに存在します。このタイプのプリエンブションは、Cisco Unified Communications Manager MLPP システムで Cisco Skinny Client Control Protocol が制御する MLPP 表示対応の電話機に対して使用できます。プリエンブションは、優先コール要求が検証された場合や、要求されたコールの優先順位が宛先の MLPP プリエンブション対応の電話機で接続されている既存のコールの優先順位よりも高い場合に実行されます。コール処理は、プリエンブション トーンを使用して接続先にプリエンブションを通知し、アクティブなコールをリリースします。着信側は電話を切ることによってプリエンブションに応答し、新規 MLPP コールを取得します。

ユーザアクセスプリエンブションで実行される一連のステップを理解するために、次の例を参照してください。

例

図 35-6 に、ユーザアクセスプリエンブションの例を示します。

図 35-6 ユーザアクセスプリエンブションの例



このユーザ アクセス プリエンプションの例では、次の一連のイベントが発生します。

1. ユーザ 1000 がユーザ 1001 に優先レベルがフラッシュ オーバーライドの優先コールをかけ、ユーザ 1001 がそれに応答します。この例では、ユーザ 1000 が優先コールをかけるために 90-1001 をダイヤルします。
2. ユーザ 1002 が 9*-1001 をダイヤルしてユーザ 1001 に優先コールをかけます。このコールの優先レベルはエクゼクティブ オーバーライドであるため、アクティブな優先コールよりも優先順位の高いコールになります。
3. ユーザ 1001 にコールが送信されると、発信側は優先順位表示を受信（つまり、エクゼクティブ オーバーライド表示ではなく、フラッシュ オーバーライド表示）し、既存の優先順位の低いコールのユーザはどちらもプリエンブション トーンを受信します。
4. プリエンプションを実行するために、優先順位の低いコールのユーザ（ユーザ 1000 とユーザ 1001）が電話を切ります。
5. 優先順位の高いコールがユーザ 1001 に送信され、ユーザ 1001 は優先順位呼び出し音を受信します。発信側であるユーザ 1002 は、優先順位呼び戻し音を受信します。

このインスタンスでは別個のプリエンブションが実行されます。優先順位の高いコールの宛先ではないユーザに対しては、再利用以外のプリエンブション処理が実行されます。このインターフェイスではプリエンブションは実行されないため、このデバイスでプリエンブションが有効である必要はありません。優先順位の高いコールの宛先であるユーザに対しては、再利用のプリエンブション処理が実行されます。このインターフェイスではプリエンブションが実行されるため、このデバイスでプリエンブションが有効であることを確認してください。

User Access Channel Nonpreemptable

エンドユーザ デバイスは MLPP 表示対応として設定できますが、MLPP プリエンプション対応としては設定できません。この場合、電話機は（特別なプリエンブション トーンと呼び出し音を使用して）MLPP 表示を生成できますが、Cisco Unified Communications Manager のデバイス制御プロトコルではプリエンブションがサポートされていません。管理者は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページが手順をサポートしている場合でも、電話機でプリエンブション手順を無効にできます。

以前から、ユーザ アクセス デバイス（電話機）では、複数の同時コールを処理するメカニズムが制限されているか、まったくありませんでした。コール待機機能でも、多数の電話機および関連するスイッチには、ユーザが同じ回線で複数のコールを同時に管理できるようなメカニズムはありません。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページは、コール待機機能を効果的に強化し、Cisco Unified IP Phone 7940、7942、7945、7960、7962、7965、および 7975 のユーザにこの機能を提供しています。これらの Cisco Unified IP Phone には、ユーザが Cisco Unified Communications Manager システムとインターフェイスする際に複数の同時コールを適切に制御するためのユーザ インターフェイスが含まれています。この拡張機能を使用すると、ユーザがすでに他のコールを管理している場合でも、これらのタイプの電話機に送信されたすべての優先コールにコール待機機能を適用できます。ユーザが優先コールを受信すると、宛先の電話機のユーザは、優先順位の低いコールを単にリリースするだけでなく、既存のコールをどう処理するかを決定できます。これらのデバイスのユーザに対して、Cisco Unified Communications Manager 管理者は、Cisco Unified Communications Manager でこの機能を利用するために、デバイスを非 MLPP プリエンプション対応として設定できます。

共通ネットワーク ファシリティ プリエンプション

共通ネットワーク ファシリティ プリエンプションは、MLPP システムでトランクなどのネットワーク リソースに適用されます。共通ネットワーク ファシリティでプリエンプションが行われると、既存のコールのユーザすべてがプリエンプションの通知を受信し、既存の接続がすぐに切断されます。新規コールは、新しい着信側への特別な通知なしで、プリエンプション処理されるファシリティを使用して通常どおり設定されます。ターゲット MGCP ゲートウェイプラットフォーム上の PRI トランクと T1-CAS トランクは、Cisco Unified Communications Manager でこのタイプのプリエンプションをサポートします。

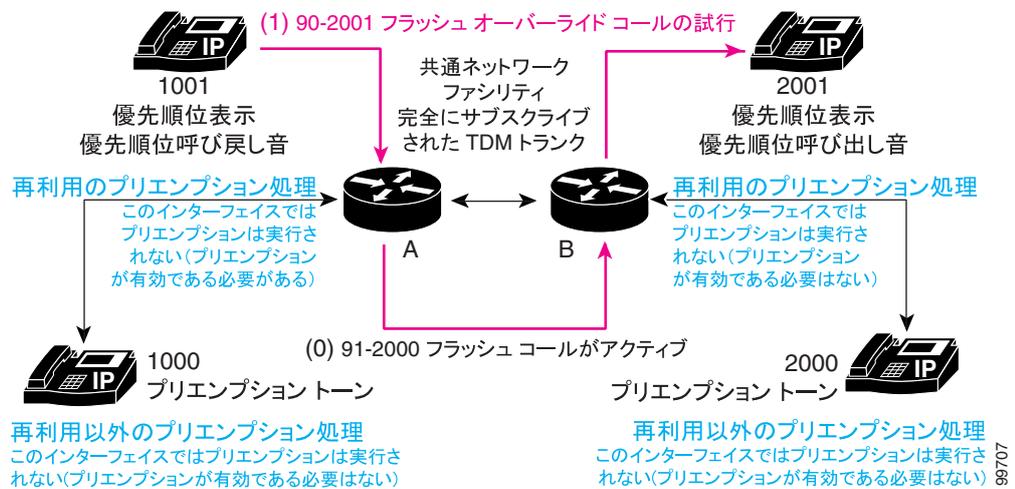
プリエンプションは、優先コール要求が検証された場合や、要求されたコールの優先順位が宛先の MLPP プリエンプション対応のトランクを介した既存のコールの優先順位よりも高く、トランクが完全に使用中である（つまり、コールをそれ以上処理できない）場合に実行されます。コール処理は、優先順位の低いコールを特定し、接続されたユーザに PRI トランク インターフェイスのプリエンプションを通知し、後続の使用のためにチャネルを予約し、選択された優先順位の低いコールを切断します。システムは予約されたチャネルを使用して、プリエンプションを起動した優先コール用にゲートウェイを介して接続を確立します。

共通ネットワーク ファシリティ プリエンプションで実行される一連のステップについては、次の例を参照してください。

例 1

図 35-7 に、共通ネットワーク ファシリティ プリエンプションの例を示します。

図 35-7 共通ネットワーク ファシリティ プリエンプションの例



この共通ネットワーク ファシリティ プリエンプションの例では、次の一連のイベントが発生します。

1. ユーザ 1000 がユーザ 2000 に優先レベルがフラッシュ オーバーライドの優先コールをかけ、ユーザ 2000 がそれに応答します。この例では、ユーザ 1000 が優先コールをかけるために 90-2000 をダイヤルします。優先レベルがフラッシュ オーバーライドのフラッシュ コールはアクティブを指定します。

コールは、2つのゲートウェイが完全にサブスクライブされた TDM を定義する共通ネットワーク ファシリティを使用します。

- ユーザ 1001 は次に、9*-2001 をダイヤルしてユーザ 2001 に優先順位の高い（エクゼクティブ オーバーライド）コールをかけます（フラッシュ コールがゲートウェイ A 上で最も優先順位の低いコールであることと、ユーザ 1000 とユーザ 1001 が同じ MLPP ドメイン内にあることを想定しています）。

ゲートウェイ A でプリエンプションが実行され、ゲートウェイ A が再利用のためプリエンプション処理されます。このインターフェイスではプリエンプションが実行されるので、このデバイスでプリエンプションが有効であることを確認する必要があります。ゲートウェイ B も再利用のためプリエンプション処理されますが、このインターフェイスではプリエンプションは実行されないため、このデバイスでプリエンプションを有効にする必要はありません。

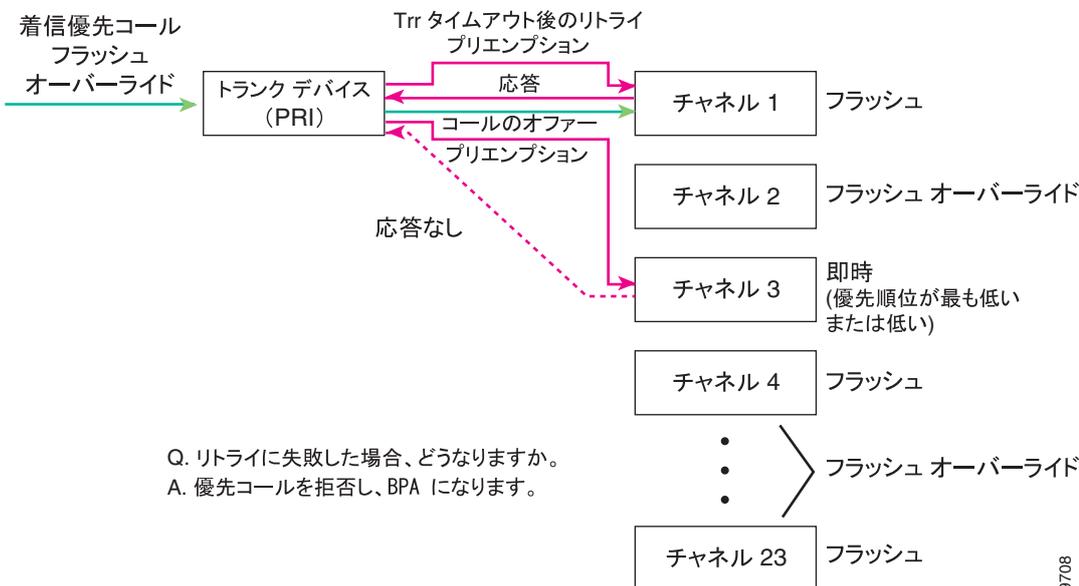
ユーザ 1000 とユーザ 2000 の両方がプリエンプション トーンを受信します。どちらのデバイスも再利用のためのプリエンプション処理はされず、これらのインターフェイスではプリエンプションは実行されないため、これらのデバイスでプリエンプションを有効にする必要はありません。

この例では、ほとんどすべてのイベントが即時に発生します。共通ネットワーク ファシリティ プリエンプションを実行するために、ユーザが電話を切る必要はありません。

例 2

図 35-8 に、リトライ タイマー Trr のある共通ネットワーク ファシリティ プリエンプションの例を示します。リトライ タイマー Trr は、あるチャンネルでプリエンプションが成功しなかった場合に別のチャンネルでプリエンプションを再試行するメカニズムを提供します。このタイマーは、TDM トランクだけに適用されます。

図 35-8 リトライ タイマー Trr のある共通ネットワーク ファシリティ プリエンプション



99708

このリトライ タイマー T_{rr} のある共通ネットワーク ファシリティ プリエンプションの例では、次の一連のイベントが発生します。

1. 優先順位がフラッシュ オーバーライドの着信コールが PRI トランク デバイスに到着します。
着信コールによってチャンネル 3 のプリエンプションが起動しますが、リトライ タイマー T_{rr} で指定された時間内に応答がありません。
2. リトライ タイマー T_{rr} が時間切れになります。
チャンネル 3 でプリエンプションが実行されます。
3. このプリエンプションによって応答が行われ、チャンネル 1 で優先コールが発信されます。

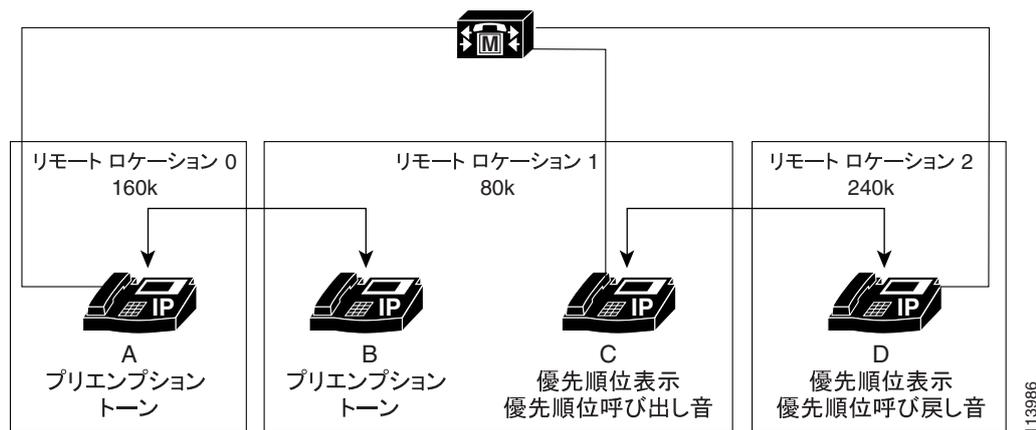
ロケーションベースのプリエンプション

次の例では、ロケーションベースのプリエンプションについて説明します。

例 1

次の例では、別のデバイスで新しいコールとロケーション優先コールが実行されます。この種類のロケーションベースのプリエンプションの例については、[図 35-9](#) を参照してください。

図 35-9 別のデバイスにおけるロケーションベースのプリエンプション



この例では、ロケーションベースのプリエンプションのシナリオについて説明します。この例には、3 種類のロケーションが存在します。

- リモート ロケーション 0 (RL0) には電話機 A があり、160K の帯域幅が使用可能
- リモート ロケーション 1 (RL1) には電話機 B と電話機 C があり、80K の帯域幅が使用可能
- リモート ロケーション 2 (RL2) には電話機 D があり、240K の帯域幅が使用可能

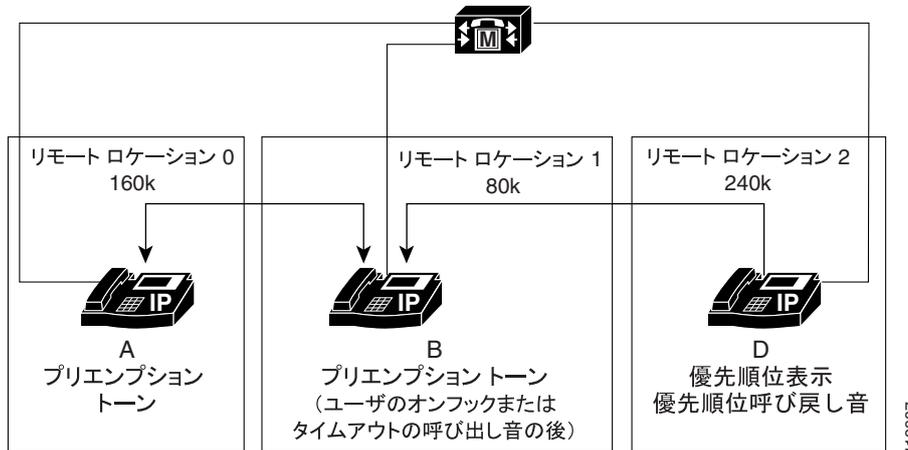
次の一連のイベントが順に発生します。

1. A はプライオリティ優先レベルで B へのコールを行い、このコールがアクティブになります。使用可能な帯域幅として、RL0 では 80K、RL1 では 0K、RL2 では 240K が指定されています。
2. D は、即時優先レベルで C にコールします。RL1 の帯域幅が足りず、D のコールの優先順位が高いため、D のコールは A と B の間のコールを差し替えます。
3. D と C の間のコールが実行されます。使用可能な帯域幅として、RL0 では 160K、RL1 では 0K、RL2 では 160K が指定されています。

例 2

次の例では、同一のデバイスで新しいコールとロケーション優先コールが実行されます。この種類のロケーションベースのプリエンプションの例については、[図 35-10](#) を参照してください。

図 35-10 同一デバイスでのロケーションベースのプリエンプション



この例では、ロケーションベースのプリエンプションのシナリオについて説明します。この例には、3種類のロケーションが存在します。

- リモート ロケーション 0 (RL0) には電話機 A があり、160K の帯域幅が使用可能
- リモート ロケーション 1 (RL1) には電話機 B があり、80K の帯域幅が使用可能
- リモート ロケーション 2 (RL2) には電話機 D があり、240K の帯域幅が使用可能

次の一連のイベントが順に発生します。

1. A はプライオリティ優先レベルで B へのコールを行い、このコールがアクティブになります。使用可能な帯域幅として、RL0 では 80K、RL1 では 0K、RL2 では 240K が指定されています。
2. D は、即時優先レベルで B にコールします。RL1 の帯域幅が足りず、D のコールの優先順位が高いため、D のコールは A と B の間のコールを差し替えます。
3. B はまずプリエンプション トーンを受信して、次に [終了] ソフトキーが表示されます。
4. B は、[終了] ソフトキーを押し、電話を切るか、タイムアウトするまで待ちます。D から B へのコールは B に送信されます。D から B へのコールを実行すると、使用可能な帯域幅は、RL0 では 160K、RL1 では 0K、RL2 では 160K です。

MLPP アナウンス

MLPP 優先コールの試行が失敗したユーザは、優先コールがブロックされた理由を説明する各種のアナウンスを受信します。

次の各項では、特定の MLPP アナウンスについて説明します。

- 「Unauthorized Precedence Announcement」 (P.35-23)
- 「Blocked Precedence Announcement」 (P.35-24)
- 「Busy Station Not Equipped for Preemption」 (P.35-25)
- 「クラスタ間トランクを超えたアナウンス」 (P.35-25)

MLPP アナウンスについては、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「アナウンサー」の章にある「サポートされているトーンおよびアナウンス」を参照してください。Unauthorized Precedence Announcement を生成する Precedence Level Exceeded の条件の設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルートパターンの設定」および「トランスレーションパターンの設定」を参照してください。

追加情報

「関連項目」 (P.35-45) を参照してください。

Unauthorized Precedence Announcement

ユーザは、自分の回線に許可された最高の優先レベルよりも高い優先レベルのコールをかけようとすると、Unauthorized Precedence Announcement を受信します。ユーザは、自分に権限のない発信パターンを使用して優先コールをダイヤルしたときに、Unauthorized Precedence Announcement を受信します。

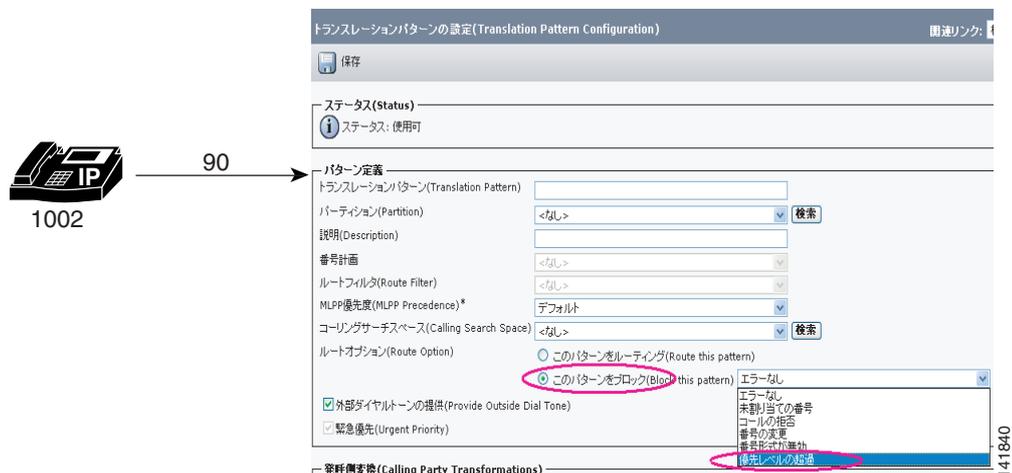
Cisco Unified Communications Manager は、パターンと一致してコールをブロックする理由が示されたコールの試行をブロックするように特定のパターンまたはパーティションが設定されている場合だけ、Precedence Level Exceeded の条件を認識します。

許可された発信パターンを割り当てるには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウまたは [ハントパイロットの設定 (Hunt Pilot Configuration)] ウィンドウと [トランスレーションパターンの設定 (Translation Pattern Configuration)] ウィンドウを使用します。MLPP Precedence Level Exceeded の条件を設定するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウまたは [ハントパイロットの設定 (Hunt Pilot Configuration)] ウィンドウと [トランスレーションパターンの設定 (Translation Pattern Configuration)] ウィンドウの [ルートオプション (Route Option)] フィールドを使用して [このパターンをブロック (Block this pattern)] オプションを選択します。ドロップダウンリストボックスで、[Precedence Level Exceeded] を選択します。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルートパターンの設定」の項および「トランスレーションパターンの設定」の項を参照してください。

例

図 35-11 に、Unauthorized Precedence Announcement を受信するユーザの例を示します。

図 35-11 Unauthorized Precedence Announcement の例



この例では、ユーザ 1002 が優先コールを開始するために 90 をダイヤルします。9 は優先順位アクセス番号を示し、0 はユーザが使用している優先レベルを示します。このユーザはフラッシュ オーバーライド優先コール（優先レベル 0 のコール）を許可されていないので、ユーザは Unauthorized Precedence Announcement を受信します。

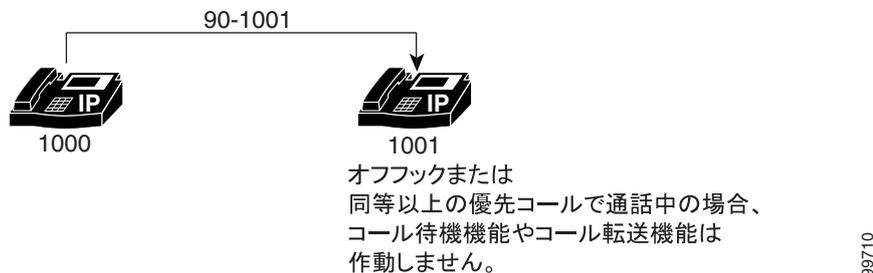
Blocked Precedence Announcement

優先コールの宛先がオフフックである場合や、宛先が同等かそれ以上の優先順位の優先コールで通話中で、コール待機機能も自動転送機能もなく、Alternate Party Diversion (APD) の発信先も指定されていない場合、あるいは共通ネットワーク リソースがない場合、ユーザは Blocked Precedence Announcement を受信します。

例

図 35-12 に、Blocked Precedence Announcement の例を示します。

図 35-12 Blocked Precedence Announcement の例



この例では、ユーザ 1000 が 90-1001 をダイヤルしてユーザ 1001 に優先コールをかけます。ユーザ 1001 は、オフフックまたは同等以上の優先レベルの優先コールで通話中であり、コール待機機能も自動転送機能もなく、Alternate Party Diversion の発信先も指定されていないため、ユーザ 1000 は Blocked Precedence Announcement を受信します。

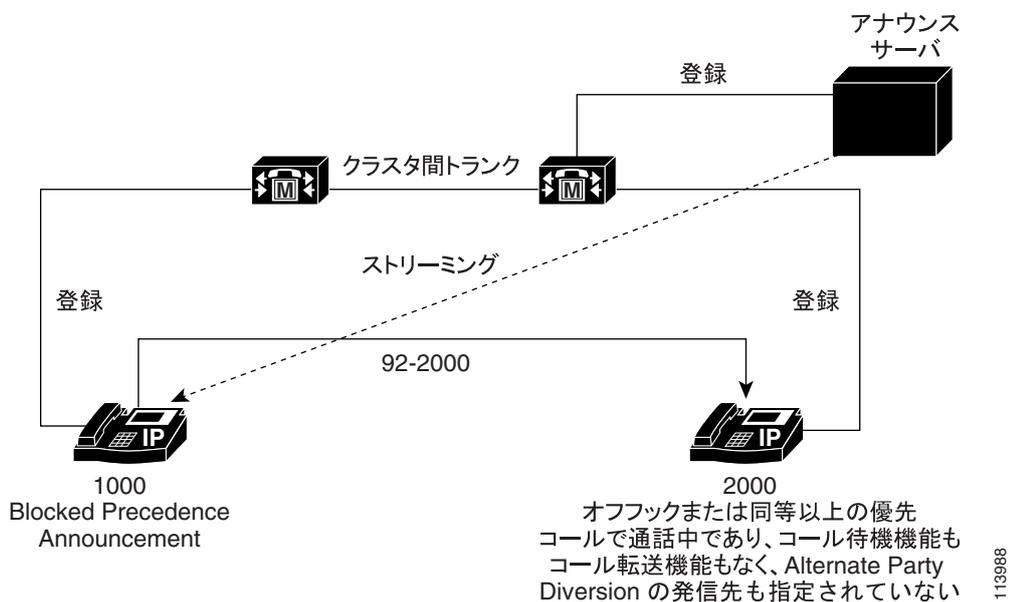
Busy Station Not Equipped for Preemption

ユーザは、ダイヤルした番号がプリエンプション対応ではない場合に、このアナウンスを受信します。つまり、ダイヤルした番号が通話中で、コール待機機能や自動転送機能がなく、Alternate Party Diversion の発信先も指定されていない場合です。

クラスタ間トランクを超えたアナウンス

図 35-13 に、クラスタ間トランクを超えて配信される MLPP アナウンスのインスタンスを示します。

図 35-13 クラスタ間トランクを超えた MLPP アナウンスの例



この例では、クラスタ間トランクが接続する 2 つのクラスタ上に電話機 1000 と 2000 が存在します。ユーザ 2000 には、コール待機や自動転送などの機能は設定されていません。

次の一連のイベントが順に発生します。

1. ユーザ 2000 は、電話機をオフフックしてダイヤルを開始します (ユーザ 2000 のステータスは発信側ビジーとプリエンプション非対応が指定されています)。
2. ユーザ 1000 はクラスタ間トランク経由でユーザ 2000 に優先コールをダイヤルします。ユーザ 2000 は通話中であり、プリエンプション対応ではないため、コールは拒否されます。
3. ユーザ 1000 が優先コールを発信したため、コールは優先処理を受信し、リモート クラスタ上のアナウンス サーバは適切な Blocked Precedence Announcement (BPA) をスイッチ名とクラスタのロケーションとともにユーザ 1000 に送信します。

優先順位パターン用の MLPP 番号計画アクセス制御

MLPP は、ユーザに対して定義されたコーリングサーチスペースとパーティションを使用して MLPP コールを認証および検証し、優先順位パターンにアクセス制御を提供します。

ユーザの最高優先順位は、ユーザ設定時に設定されます。MLPP 機能を備えたすべてのステーションデバイスが、MLPP 対応または MLPP 非対応として設定されます。ユーザプロファイルが適用されるデバイスは、そのデバイスから開始される優先コールに関して、そのユーザの優先レベルを継承します。デフォルトユーザが割り当てられたデバイスは、デフォルトユーザの標準優先レベルを継承します。

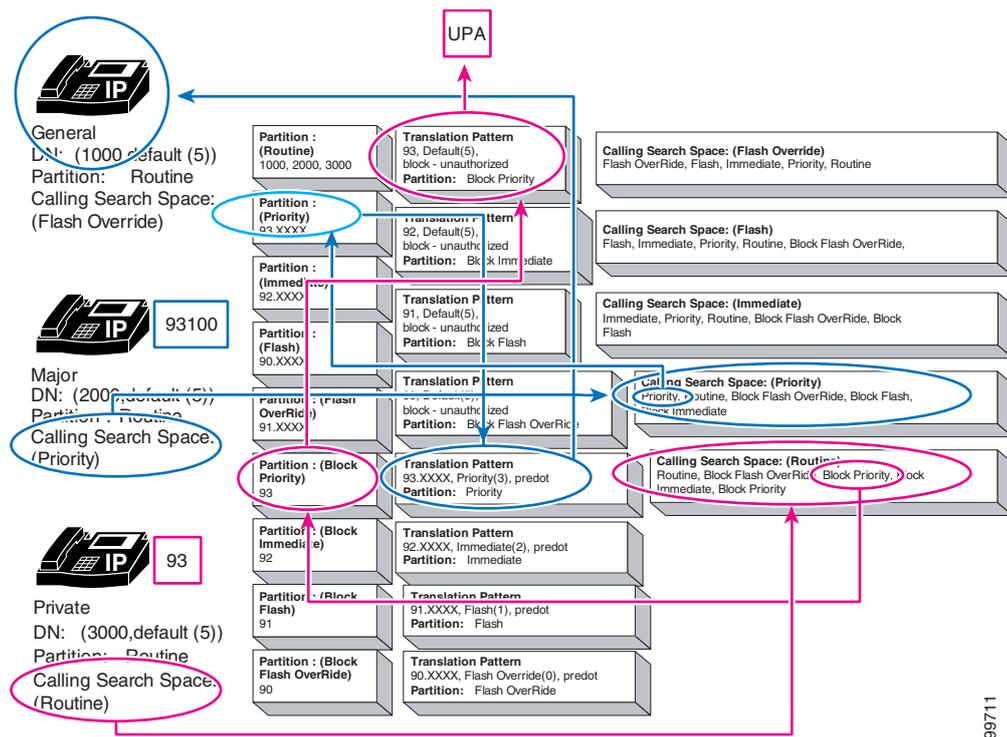
発信側に関連付けられたコーリングサーチスペース (CSS) の設定によって、ユーザが優先パターンをダイヤル (優先コールを発信) できるかどうかは制御されます。Cisco Unified Communications Manager には、許可される最高の優先順位値を明示的に示す設定はありません。

次の例に、第 3 のユーザにプライオリティレベルの優先コールをかけようとする 2 人のユーザについて、優先コールへのアクセスの違いを示します。

例

図 35-14 に、優先順位パターン用の MLPP 番号計画アクセス制御の例を示します。

図 35-14 優先順位パターン用の MLPP 番号計画アクセス制御の例



99711

次の表で、この例の 3 人のユーザを定義します。

ユーザ	電話番号 (DN)	パーティション	コーリング サーチ スペース (CSS)
General	1000	ルーチン	フラッシュ オーバーライド
Major	2000	ルーチン	優先順位
Private	3000	ルーチン	ルーチン

この例では、パーティションとコーリング サーチ スペースを使用して優先コールへのアクセスを制御する方法を示します。

Private 3000 が優先順位パターン 93 をダイヤルして優先コールをかけると、次のイベントが発生します。

- コール処理は、Private 3000 のコーリング サーチ スペースを検索し、Routine CSS を検出します。
- Private 3000 の Routine CSS 内で、コール処理は Block Priority パーティションを検出します。
- Block Priority パーティションで、コール処理はパターン 93 を検出し、トランスレーションパターン 93 に移動します。
- トランスレーションパターン 93 は、優先コールがこのユーザ (DN) に対してブロックされることを決定し、コール処理は Unauthorized Precedence Announcement (UPA) を発行します。

Major 2000 が番号 931000 をダイヤルして優先コールをかけると、次のイベントが発生します。

- コール処理は、Major 2000 のコーリング サーチ スペースを検索し、Priority CSS を検出します。
- Major 2000 の Priority CSS 内で、コール処理は Priority パーティションを検出します。
- Priority パーティションで、コール処理はパターン 93.XXXX を検出し、トランスレーションパターン 93.XXXX に移動します。
- トランスレーションパターン 93.XXXX は、優先コールがこのユーザ (DN) に対して許可されることを決定します。したがって、コール処理は、ユーザ General 1000 へのプライオリティ レベルの優先コールを実行します。

MLPP トランク選択

MLPP トランク選択では、ルート リストとルート グループを使用して使用可能なトランクのハンドが実行されます。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、単一のダイヤルパターンを介して複数のゲートウェイにコールをルーティングし、使用可能なチャネルを検索するようにルート リストおよび関連するルート グループを設定することができます。ルート リストには、ルート リストがコールをルーティングできる多数のトランク リソースがありますが、個々のリソースは多数のゲートウェイに分散している場合があります。

ゲートウェイの集合（つまり、ルート リストとルート グループの設定）で使用可能なトランク リソースを特定できない場合、Cisco Unified Communications Manager は、集合内で優先レベルの低い共有リソースのプリエンプションの開始を試みます。ルート リストとルート グループの設定でプリエンプション対応のチャネルをさらに検索する方法は 2 つあります。

方法 1

ルート リストおよび単一のルート グループを設定します。ルート グループにトランク インターフェイス（ゲートウェイ）を追加し、**Direct Route** ゲートウェイをルート グループ内の最初のゲートウェイとして位置決めします。ルート グループをルート リストに関連付け、**Top Down** 分散アルゴリズムを選択します。この設定を使用して、システムはまずルート グループ内のすべてのゲートウェイでアイドル状態のチャンネルを検索します。ルート グループ内のどのゲートウェイにもアイドル状態のチャンネルがない場合は、次のように、ルート グループ内の最初のゲートウェイ（つまり、**Direct Route** ゲートウェイ）で優先的なトランク選択が開始されます。

- コール処理は、分散アルゴリズムに基づいて集合から現在のルートを選択し、ゲートウェイ デバイスがプリエンプションを開始できるかどうかを判別するために、このゲートウェイ デバイスへコールを発信します。
- 現在のゲートウェイ デバイスが優先コール要求を拒否した場合（つまり、ゲートウェイ デバイスがプリエンプションを開始できない場合）、コール処理は集合内の次のゲートウェイを現在のルートとして選択し、ゲートウェイ デバイスがプリエンプションを開始するか、ルート リストとルート グループの集合内のすべてのゲートウェイ デバイスが検索されるまで、この手順を続行します。

方法 2

使用可能なルート（トランク インターフェイス）ごとに、ルート リストおよび個別のルート グループを設定します。1 つのルート グループを **Direct** ルート グループとして指定し、残りのルート グループを **Alternate** ルート グループとして指定します。**Direct Route** トランク インターフェイス（ゲートウェイ）を **Direct** ルート グループの唯一のメンバとして追加します。**Alternate Route** ゲートウェイを個々の **Alternate** ルート グループに追加します。ルート グループをルート リストに関連付け、**Direct** ルート グループをルート リスト内の最初のルート グループとして設定し、ルート グループの関連付けごとに **Top Down** 分散アルゴリズムを選択します。

この設定を使用して、まず **Direct** ルート グループ内の **Direct** ゲートウェイでアイドル状態のチャンネルが検索されます。**Direct** ゲートウェイ内にアイドル状態のチャンネルがない場合、システムは次のように、この **Direct** ゲートウェイに対して優先的なトランク選択を開始します。

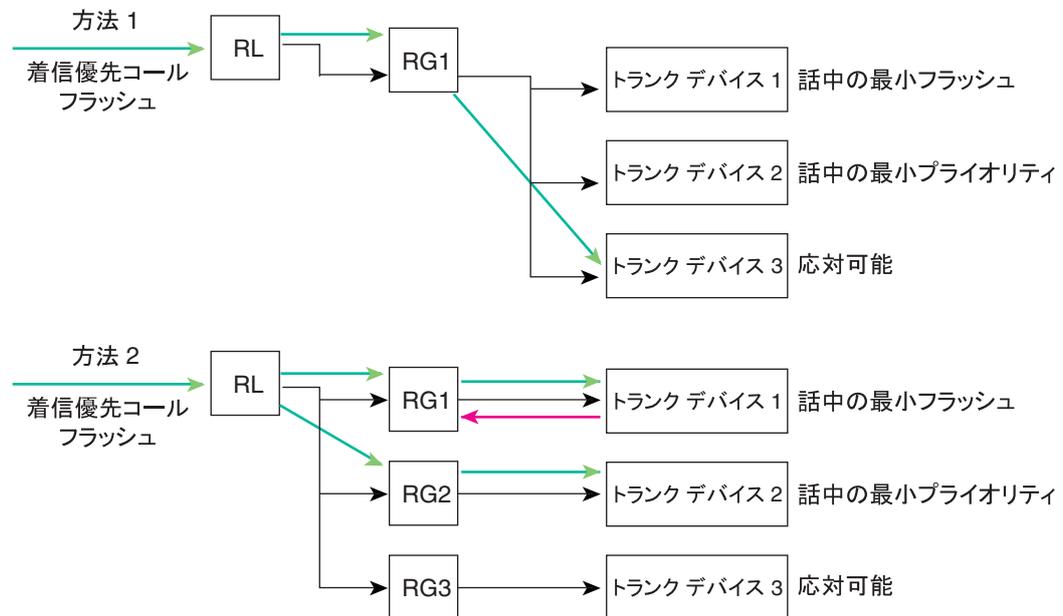
- コール処理は、**Direct** ルートを選択し、このゲートウェイ デバイスにコールを発信して、ゲートウェイ デバイスがプリエンプションを開始できるかどうかを判別します。
- **Direct** ゲートウェイ デバイスが優先コール要求を拒否した場合（つまり、ゲートウェイ デバイスがプリエンプションを開始できない場合）は、ルート リスト内の次のルート グループが現在のルートとして選択されます。現在のゲートウェイでアイドル状態のチャンネルが見つかるか、現在のゲートウェイ デバイスがプリエンプションを開始するか、ルート リストとルート グループの集合内のすべてのゲートウェイ デバイスが検索されるまで、この手順が続行されます。

例

次の例は、フラッシュ レベルの着信優先コールが使用可能なトランク デバイスを探している場合に、使用可能なトランク デバイスを検索する 2 つの方法を示しています。

図 35-15 に、ルート リストとルート グループを使用して使用可能なトランク デバイスをハン トする MLPP トランク 選択の例を示します。

図 35-15 MLPP トランク 選択 (ハン ト) の例



方法 1 の構成でトランク デバイス 3 も通話中の場合は、方法 2 と同じコールフローになります。

157618

方法 1 では、次の一連のイベントが発生します。

1. フラッシュ レベルの着信優先コールがルート リスト RL に到達します。これには、ルート グループ RG1 だけが含まれています。
2. ルート グループ RG1 には 3 つのトランク デバイスが含まれています。
RG1 内の 3 つのトランク デバイスのうち、トランク デバイス 1 とトランク デバイス 2 は通話中なので、システムは使用可能なトランク デバイス 3 にコールを発信します。

方法 2 では、次の一連のイベントが発生します。

1. フラッシュ レベルの着信優先コールがルート リスト RL に到達し、まずルート グループ RG1 へ移動します。ここで、コールはトランク デバイス 1 へ送信されますが、トランク デバイス 1 は通話中です。
トランク デバイス 1 の場合、このデバイスを使用しているコールを差し替えるには、フラッシュよりも優先順位の高いコールである必要があります。
2. コールはルート リスト RL 内で次のルート グループを探し、ルート グループ RG2 を検出します。ルート グループ RG2 にはトランク デバイス 2 が含まれています。これも通話中ですが、プライオリティよりも優先レベルの高い優先コールであれば、トランク デバイス 2 でプリエンプションを実行できます。
このコールの方が優先順位が高いため、トランク デバイス 2 の既存のコールが差し替えられます。

MLPP 階層設定

デバイスの MLPP 設定は次の階層に従っています。

- デバイスの [MLPP 表示 (MLPP Indication)] が [オフ (Off)] に設定されている場合、デバイスは MLPP コールのインジケータを送信できません。デバイスの [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] が [無効 (Disabled)] に設定されている場合、デバイスはコールを差し替えることができません。これらの設定は、デバイスの共通デバイス設定項目を上書きします。
- デバイスの [MLPP 表示 (MLPP Indication)] が [オン (On)] に設定されている場合、デバイスは MLPP コールのインジケータを送信できます。デバイスの [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] が [強制 (Forceful)] に設定されている場合、デバイスはコールを差し替えることができます。これらの設定は、デバイスの共通デバイス設定項目を上書きします。
- デバイスの [MLPP 表示 (MLPP Indication)] が [デフォルト (Default)] に設定されている場合、デバイスはそのデバイスの共通デバイス設定から、MLPP コールのインジケータの送信の設定を継承します。デバイスの [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] が [デフォルト (Default)] に設定されている場合、デバイスは共通デバイス設定から、コールの差し替えの設定を継承します。

共通デバイス設定の MLPP 設定は次の階層に従っています。

- 共通デバイス設定の [MLPP 表示 (MLPP Indication)] が [オフ (Off)] に設定されている場合、共通デバイス設定内のデバイスは MLPP コールのインジケータを送信できません。共通デバイス設定の [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] が [無効 (Disabled)] に設定されている場合、共通デバイス設定内のデバイスはコールを差し替えることができません。これらの設定は、MLPP エンタープライズ パラメータ設定を上書きします。
- 共通デバイス設定の [MLPP 表示 (MLPP Indication)] が [オン (On)] に設定されている場合、共通デバイス設定内のデバイスは MLPP コールのインジケータを送信できます。共通デバイス設定の [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] が [強制 (Forceful)] に設定されている場合、共通デバイス設定内のデバイスはコールを差し替えることができます。これらの設定は、MLPP エンタープライズ パラメータ設定を上書きします。
- 共通デバイス設定の [MLPP 表示 (MLPP Indication)] が [デフォルト (Default)] に設定されている場合、デバイスは MLPP Indication Status エンタープライズ パラメータから、MLPP コールのインジケータの送信の設定を継承します。共通デバイス設定の [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] が [デフォルト (Default)] に設定されている場合、共通デバイス設定は MLPP Preemption Setting エンタープライズ パラメータから、コールの差し替えの設定を継承します。

MLPP Indication Status エンタープライズ パラメータは、エンタープライズ内の共通デバイス設定および共通デバイス設定のインジケータ ステータスを定義しますが、共通デバイス設定および個々のデバイスのデフォルト以外の設定でその値を上書きできます。このエンタープライズ パラメータのデフォルト値は、[MLPP Indication turned off] です。

MLPP Preemption Setting エンタープライズ パラメータは、エンタープライズ内のデバイスおよび共通デバイス設定のプリエンプション機能を定義しますが、共通デバイス設定および個々のデバイスのデフォルト以外の設定でその値を上書きできます。このエンタープライズ パラメータのデフォルト値は、[No preemption allowed] です。

MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータは、MLPP ドメインを指定します。MLPP サービスはドメインだけに適用されます。つまり、特定のドメインに属す加入者と、ネットワークおよびアクセス リソースだけに適用されます。MLPP 加入者からのコールに属す接続とリソースには、優先レベルと MLPP ドメイン識別子のマークが付けられます。同じドメイン内の MLPP ユーザからの優先順位の高いコールだけが、同じドメイン内の優先順位の低いコールを差し替えることができます。

サービス パラメータの特別なトレース設定

MLPP は、トレース用のサービス パラメータを発行します。

詳細については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。

優先コール用の CDR の録音

MLPP 優先コールは、Call Detail Records (CDR; 呼詳細レコード) を生成します。CDR は、優先コールの優先レベルを示します。

通常は、同じ優先レベルのコール レッグが適用されます。転送コールや会議コールでは優先レベルが異なる場合があるので、Cisco Unified Communications Manager CDR はコールの各レッグの優先レベルを示します。

Cisco Unified Communications Manager CDR は、差し替えられたコールの切断のプリエンプション値を記録します。

詳細については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。

回線機能のインタラクション

MLPP は、次の各項で説明しているように、回線機能と通信します。

- 「自動転送」(P.35-31)
- 「コール転送」(P.35-32)
- 「シェアドライン」(P.35-32)
- 「コール待機」(P.35-32)

自動転送

MLPP は、次のリストで説明しているように、自動転送機能と通信します。

- コールの話中転送
 - オプションで、任意の MLPP 対応ステーションに対して事前設定の Precedence Alternate Party ターゲットを設定できます。
 - Cisco Unified Communications Manager は、コールに Precedence Alternate Party Diversion 手順を適用する前に、通常の方法で優先コールを転送する話中転送機能を適用します。
 - 着信優先コールの優先順位が既存のコールの優先順位と同じかそれより低い場合、コール処理は通常の自動転送機能を呼び出します。
 - 優先コールの宛先ステーションがプリエンプション対応ではない場合（つまり、MLPP が設定されていない場合）、コール処理は自動転送機能を呼び出します。
 - システムは、転送された複数のコール間でのコールの優先順位を保存します。
 - 着信優先コールの優先順位が既存のコールの優先順位より高い場合は、プリエンプションが実行されます。優先コールが送信されたステーションの電話が切られるまで、アクティブなコールによって差し替えられるコールの両方のユーザに、連続的なプリエンプション トーンが再生されます。電話を切ると、優先コールが送信されたステーションに優先順位呼び出し音が再生されます。宛先ステーションは、オフフックになると、優先コールに接続されます。

- コールの無応答時転送
 - コールの優先レベルがプライオリティ以上である場合、コール処理は、自動転送プロセスでコールの優先レベルを保存し、転送先のユーザの差し替えを試みます。
 - 優先コールの宛先に対して **Alternate Party** が設定されている場合、コール処理は、**Precedence Call Alternate Party** タイムアウトの期限が切れた後に、優先コールを代替パーティに転送します。
優先コールの宛先に対して **Alternate Party** が設定されていない場合、コール処理は、優先コールを **Call Forward No Answer (CFNA; 無応答時転送)** 設定に転送します。
 - 優先コールは通常、ボイスメールシステムではなくユーザにルーティングされます。管理者は、優先コールがボイスメールシステムに転送されるのを避けるため、**Use Standard VM Handling For Precedence Calls** エンタープライズパラメータを設定します。詳細については、「[MLPP のエンタープライズパラメータの設定](#)」(P.35-44) を参照してください。

コール転送

MLPP は、コール転送機能と通信します。ブラインド転送と打診転送の場合は、コンサルトコールも含め、転送されるコールの各接続が、コールが確立されたときに接続に割り当てられた優先順位を維持します。

シェアライン

MLPP は、シェアラインと通信します。保留中のコールがあるシェアライン アピアランスは、同じ電話番号 (DN) を持つ別の端末への優先順位の高いコールを確立するため、差し替えられる可能性があります。この場合、保留中の元のコールは切断されず、優先コールが接続されます。優先コールが終了すると、ユーザは保留中の元のコールを取得できます。

コール待機

MLPP は、次のリストで説明しているように、コール待機機能と通信します。

- ネットワーク リソースの不足のためコール待機ステータスと MLPP 優先コールの間に競合が発生した場合、コールは差し替えられます。
- コール待機が設定された宛先ステーションに優先コールが発信されると、次のイベントが発生します。
 - 要求された優先順位が既存のコールの優先順位よりも高い場合、既存のコールは差し替えられます。宛先ユーザがプリエンプション対応ではない場合、コール処理は、通常のコール待機機能とアラートを呼び出します。優先コールの優先レベルがプライオリティ以上である場合、宛先ユーザは優先コール待機トーンとケイデンスを受信します。
 - 要求された優先レベルが既存のコールの優先順位と同じである場合、コール処理は、通常のコール待機機能を呼び出します。優先コールの優先順位が標準である場合、コール処理は、標準コール待機トーンで宛先に警告します。優先コールの優先順位がプライオリティ以上である場合、コール処理は、優先コール待機トーンで宛先に警告します。
 - 要求された優先レベルが既存のコールの優先順位より低い場合、コール処理は、通常のコール待機機能を呼び出します。優先コールの優先順位が標準である場合、コール処理は、標準コール待機トーンで宛先に警告します。優先コールの優先順位がプライオリティ以上である場合、コール処理は、優先コール待機トーンで宛先に警告します。
 - デバイスに複数の表示がある場合、宛先ユーザは、優先順位の低いコールを保留にし、優先順位の高いコールに受信応答することができます。優先順位の高いコールが終了すると、宛先ユーザは、保留にした優先順位の低いコールを再開できます。

コール保存

Cisco Unified Communications Manager コール保存機能によって保存される MGCP トランク コールまたは接続は、コール保存機能が呼び出された後、優先レベルと MLPP ドメインを保存します。デバイスが Cisco Unified Communications Manager に登録された後、システムは、保存されたコールを Cisco Unified Communications Manager システムのデバイス層だけに保存します。そのため、保存されたコールは 2 つの半々のコールとして扱われます。これらのデバイスでプリエンブションが実行された場合、一方のレッグだけが他方のレッグへのプリエンブションプロトコルに従うことができます。システムは、RTP ポートのクローズによってしかコールの終了を検知できません。

自動代替ルーティング

AAR の拡張機能である Automated Alternate Routing (AAR) for Insufficient Bandwidth 機能は、ローテーションの帯域幅が不十分で Cisco Unified Communications Manager がコールをブロックした場合に、代替番号を使用し、Public Switched Telephone Network (PSTN) またはその他のネットワークを介してコールを再ルーティングするため、自動的にフォールバックするメカニズムを提供します。この機能を使用すると、発信者は電話を切ったり着信側に再びダイヤルしたりする必要がなくなります。

優先コールの試みが AAR サービスの起動条件と一致した場合、優先コールは AAR 設定の指定に従い、PSTN またはその他のネットワークを介して再ルーティングされます。Cisco Unified Communications Manager は、コールがルーティングされたネットワーク インターフェイスの MLPP 表示対応および MLPP プリエンブション対応の設定に基づいて、コールが最初から PSTN またはその他のネットワークを介してルーティングされた場合と同じように、コールの優先順位を処理します。

自動代替ルーティングの設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[自動代替ルーティングのグループ設定](#)」を参照してください。

MGCP と PRI プロトコル

MLPP は、Cisco Unified Communications Manager が MGCP プロトコルを使用して制御し、MLPP プリエンブション対応として設定されたターゲット Voice over IP ゲートウェイ上の T1-CAS および T1-PRI (北米) インターフェイスに対してだけ、共通ネットワーク ファシリティ プリエンブションをサポートします。

セキュアなエンドポイントとセキュアな通信

従来 of Department of Defense (DOD; 米国国防総省) の TDM ネットワークでは、従来のアナログ STU (secure telephone units) と BRI STE (secure telephone equipment) をセキュアなエンドポイントとして使用しています。これらはセキュアな通信には重要です。新たに開発された IP STE でも、従来の設備の必要性を削減するためのサポートが必要です。Cisco Unified Communications Manager は、これらのデバイスの Skinny Client Control Protocol をサポートしています。モデム リレーは、V.150 プロトコルを使用しており、セキュアな通信を提供しています。

MLPP 優先順位と DSCP 値のマッピング

Cisco Unified Communications Manager は、IP ネットワーク内のコールに優先順位を付けるために、MLPP 優先レベルを IP ヘッダーの ToS フィールドの DSCP 値にマッピングします。次の優先レベルを DSCP 値にマッピングできます。

- エクゼクティブ オーバーライド
- フラッシュ オーバーライド
- フラッシュ
- 即時
- 優先順位

ネットワーク内のすべての Cisco Unified Communications Manager クラスタで同一になるように、MLPP 優先レベルを DSCP 値にマッピングする必要があります。

MLPP 優先レベルを DSCP 値にマッピングするには、サービス パラメータの [Clusterwide Parameters (System-QoS)] セクションで各優先レベルにマッピングする DSCP 値を選択します。変更を保存するには、[保存 (Save)] ボタンをクリックします。

MLPP 補足サービス

Cisco Unified Communications Manager の管理機能は、次の MLPP 補足サービスとエンティティのサポートを提供しています。

- 「複数ライン アピアランスに対する MLPP サポート」 (P.35-34)
- 「自動転送」 (P.35-35)
- 「三者通話」 (P.35-36)
- 「コール転送」 (P.35-36)
- 「コール ピックアップ」 (P.35-37)
- 「ハント パイロットとハント リスト」 (P.35-37)
- 「SCCP ゲートウェイ エンドポイントに対する補足サービス サポート」 (P.35-38)

次のサブセクションでは、各 MLPP 補足サービスについて説明します。補足サービスごとに、サービスの説明、設定情報、推奨事項、およびトラブルシューティング情報を説明します。

複数ライン アピアランスに対する MLPP サポート

コール アピアランスが使用中ではなく、ビジー トリガーが超過していない場合、着信優先コールが表示されます。これによって、アクティブな回線が優先コール待機トーンを受信し、エンドポイント ディスプレイに適切な優先バブルが表示されます。着信コールによって、優先順位呼び出しトーンは再生されません。代わりに、アクティブ アピアランスで優先コール待機トーンが再生されます。

コール アピアランスが使用中で、呼び出されたエンドポイントに自動転送が設定されていない場合、エンドポイントでは、優先順位の高い着信コールによって、低いアクティブ レベルまたは非アクティブのコール アピアランスが差し替えられます。優先順位が同じ場合は、アクティブ アピアランスが差し替えられます。

非アクティブ (保留中の) アピアランスが差し替えられる場合、着信コールはエンドポイント ディスプレイに適切な優先バブルを表示し、アクティブ コール アピアランスに優先コール待機トーンが表示されます。差し替えられた他のユーザ (保留中のコールの相手側) は、コール プリエンプション トーンを受信します。

アクティブ コール アピランスが差し替えられる場合、通常のコール プリエンプションが実行されます (プリエンプション トーンがアクティブ アピランスおよびもう一方のアクティブ回線に表示されます)。既存の非アクティブ (保留中の) コール アピランスは影響されないため、いつでも受け取ることができます。

設定

複数ライン アピランスに対する MLPP サポートを正常に機能させるためには、次の設定が推奨されます。

- 必須ではありませんが、推奨される IP Phone の設定は、最大コール数が 4 で、ビジー トリガー数が 2 です。
- MLPP 補足サービスとのインタラクションでは、複数のパーティションを使用して、同じ DN を同じステーションに 2 回割り当てることはできません。
- 複数のアラート コールが着信したときに、最も優先順位の高いコールに回答できないので、すべての IP Phone の [自動回線選択] オプションを無効にします。

トラブルシューティング

詳細なトレースが設定された CCM トレース ログを使用すると、whatToDo タグを検索することで、着信コールにプリエンプション条件がどのように適用されたかどうかを知ることができます。

自動転送

米国国防総省 (DoD) は、携帯電話などのオフネット エンドポイントに優先コールが自動転送されることを禁止しています。さらに、自動転送されたコールは複数の転送ホップで元の優先順位を維持する必要があります。

Call Forward All (CFA; 不在転送) シナリオでは、優先コールは、元の着信側の MLPP Alternate Party (MAP) ターゲットにただちにルーティングされます。CFA ターゲットは、MLPP コールでは使用されません。

話中転送 (CFB) シナリオでは、優先コールは、「制限事項」(P.35-41) に記述されたホップ数の制限値に従い、着信側エンドポイントのオープン アピランスの状態、設定された CFB の宛先に転送されます。

無応答時転送 (CFNA) シナリオでは、コール処理が元の着信側の CFNA ターゲットに単一の転送ホップを試みます。応答なしタイマーの期限が切れる前にエンドポイントが応答しないと、コールが元の着信側の MAP ターゲットに送信されます。

設定

DoD の MLPP 操作では、すべての MLPP エンドポイントに MLPP Alternate Party (MAP) ターゲットの電話番号が設定されている必要があります。MAP は通常、アテンダントの番号を指定し、転送された MLPP コールの最後の宛先として使用されます。

MAP が必要なときに既定の設定にエンドポイントが従っていない場合、MLPP コール発信者にリオーダー音が聞こえます。これは、着信側の設定に必要な MAP 設定が含まれていないことを示します。この音が再生されるのは、他の転送オプションが使用不可であるか、設定されていない場合に、コールがアテンダントに転送されたときだけです。

例

次に、自動転送の例について説明します。まず、CFNA タイマーが 5 秒に設定された MLPP コールの呼び出し音が鳴ります (フラッシュ オーバーライド優先レベルで 3001 が 3003 にコールします)。タイマーの期限が切れると、コールは元の着信側の CFNA ターゲット (3004) にリダイレクトされます。このプロセス中、コールは優先レベル 1 (フラッシュ オーバーライド) を維持します。

三者通話

Cisco Unified Communications Manager では、三者通話について次の要件が規定されています。

- 三者通話の各接続では、元の優先レベルを維持する必要があります。
- 三者通話の分割操作を実行する電話機は、異なる優先レベルが混在する場合、2つのコールのうち高い方の優先レベルを使用する。

Cisco Unified Communications Manager の MLPP には、会議ブリッジリソースのプリエンプションも含まれます。会議ブリッジが飽和状態になった場合、より高い優先順位の三者通話が新たに設定されたときに、各ストリームが差し替えられます。

設定

Maximum Ad Hoc Conference サービス パラメータを 3 に設定することを推奨します。この設定は、アドホック コールを 3 人の参加者に制限します。Cisco Unified Communications Manager は、アドホック会議機能を使用して、三者通話を実装しています。

Cisco Unified Communications Manager IP Voice Media Streaming アプリケーションを使用して、三者通話を行います。IOS DSP ファームは MLPP のサポートに対応していないので、IOS DSP ファームを使用して会議コールを行わないでください。

プリエンプションが行われるのは、1つのブリッジだけです。

MLPP の三者通話は、Cisco Unified Communications Manager のリリース 4.2 に追加された会議チェーン機能と相互運用しません。

例 1

この例では、A、B、および C 間の三者通話について説明します。A はプライオリティ 4 で B をコールした後に、プライオリティ 2 (フラッシュ) で C をコールして、会議を開始しています。会議はアクティブ状態で、3 人の参加者で進められています。A はフラッシュ優先レベル、B はプライオリティ優先レベル、C はフラッシュ優先レベルです。C が電話を切ると、A と B が同時に通常のコールに参加します。A を、フラッシュからプライオリティにダウングレードする必要があります。

例 2

この例では、会議コールが既存の会議コールを差し替えます。ブリッジを飽和状態にするために、会議ブリッジの最大ストリーム値が 3 に設定されています。最初の三者通話は標準優先レベル (5) で A、B、および C 間で確立されます。その後、電話機 D がユーザ E および F とともにフラッシュ優先レベル (2) で三者通話を確立します。

コール転送

スイッチが同じ優先レベルを持つ 2 つのセグメント間でコール転送を開始する場合、セグメントは転送時にその優先レベルを維持する必要があります。異なる優先レベルのコールセグメント間でコール転送が行われた場合、転送を開始するスイッチは 2 つのセグメント間の高い方の優先レベルの接続にマークを付けます。

Cisco Unified Communications Manager は、転送操作に関わるコールレグの優先レベルをアップグレードすることで、この要件をサポートします。たとえば、ユーザ A がプライオリティ優先レベルでユーザ B をコールします。その後、ユーザ B は C への転送を開始して、ダイヤル時にフラッシュ優先番号をダイヤルします。転送が完了すると、ユーザ A の優先レベルがプライオリティからフラッシュにアップグレードされます。



(注)

優先レベルのアップグレードは、クラスタ間トランク (ICT) または PRI トランクなどのトランク デバイスでは機能しません。

設定

MLPP 転送サービスに、設定要件はありません。この機能は MLPP が有効になったときに自動的に有効になり、電話機は [転送] ソフトキーをサポートします。

コール ピックアップ

Cisco Unified Communications Manager は、次の要件を含む最高の優先レベルの条件をコール ピックアップ アルゴリズムに追加します。

- コール ピックアップ グループに無応答状態のユーザが複数存在し、それらの無応答状態のユーザが異なる優先レベルの場合、そのグループのコール ピックアップの試行では、最も優先順位の高いコールが最初に取得されます。
- 同じ優先レベルの複数のコールの呼び出し音が同時に鳴っている場合、そのグループのコール ピックアップの試行では、呼び出し時間の最も長いコールが最初に取得されます。
- MLPP コールのグループ ピックアップ機能がサポートされています。操作の内容は、通常のコール ピックアップ機能と同じになります。
- MLPP コールでは、他グループ ピックアップはサポートされていません。
- 複数のコールが電話番号 A を呼び出している場合、ダイレクト コール パーク機能を使用して電話番号 A からのコールに回答したユーザは、優先順位が最も高い着信コールに接続されます。これは、このユーザが電話番号 A からのコールに回答するためにダイレクト コール パーク機能を使用するような設定がなされたと判断したためです。

設定

MLPP 機能のコール ピックアップには設定上の特別な考慮事項はありません。一方、MLPP コールでは他グループのピックアップはサポートされていません。

ハントパイロットとハントリスト

Cisco Unified Communications Manager には、ハントパイロット機能の以前の実装に対する変更内容が追加されました。ハントパイロットとの MLPP のインタラクションが次のように変更されました。

- ハントグループ内のすべての回線がビジーになるまで通常のハントアルゴリズムロジックが実行されます。
- すべての回線がビジー状態の場合、最も低い優先コールがプリエンプションに選択されます。
- プリエンプションが実行される場合、通常の回線グループの応答なしタイマーが続行します。このタイマーの期限が切れると、ハントグループ内で次に低いレベルの優先コールがプリエンプションに選択されます。

次のハントアルゴリズムに対して MLPP が実装されます。

- 優先度順
- 最長アイドル時間
- ラウンドロビン

ブロードキャストアルゴリズムが使用中の場合でも、プリエンプションは実行されます。シスコは、ブロードキャストアルゴリズムに対して明示的なサポートを提供していません。

Cisco Unified Communications Manager では、ハントグループで複数の回線グループの設定を行うことができます。現在の実装では、ハントグループで1つの回線グループだけがサポートされています。複数の回線グループが設定されている場合でもプリエンプションは実行されますが、ハントグループに複数の回線グループが設定されている場合には最も低い優先コールをプリエンプションに選択できません。

設定

ハントパイロットとハントリストには、次の設定が必要になります。

- ハントグループに1つのハントリストだけを設定します。プリエンプションは、リスト内の最初のグループだけで実行されます。
- すべてのハントグループオプションを [次のメンバへ、ただし次のグループにはハントしない (Try next member, but do not go to next group)] に設定します。これには、[応答なし (No Answer)]、[話し中 (Busy)]、および [使用不可 (Not Available)] のオプションが含まれます。
- ハントグループアルゴリズムを優先度順、ラウンドロビン、または最長アイドル時間に設定します。シスコは、ブロードキャストアルゴリズムに対するサポートは提供していません。
- ハントパイロットの [個人の初期設定を使用 (Use Personal Preferences)] チェックボックスをオフにします。
- ハントパイロットの MLPP 優先度の設定に [デフォルト (Default)] を指定していることを確認します。
- ハントリスト内のすべてのステーションを1つの MLPP ドメインに設定します。

さらに、次の設定を行うことを強く推奨します。

- Forward No Answer DN ハントパイロットを最後の DN に設定します。
- Forward on Busy DN ハントパイロットを最後の DN に設定します。

SCCP ゲートウェイ エンドポイントに対する補足サービス サポート

これらの更新によって、SCCP ゲートウェイ エンドポイントに対する補足サービス サポートと SCCP ゲートウェイでの基本コールに対する MLPP サポートがまとめられます。



(注) この機能はアナログ電話機でだけサポートされています。

補足サービス サポートの更新によって、次の機能が組み込まれます。

- **コール保留** : SCCP ゲートウェイ上の MLPP とのコール保留インタラクション中に、ユーザは次の機能を利用できます。
 - プリエンプション (新しいコールの優先順位が保留中のコールおよびアクティブなコールの優先順位よりも高い場合)



(注) プリエンプションによって、保留中のコールとアクティブなコールの両方が差し替えられます。

- **優先コール待機**：SCCP ゲートウェイ上の MLPP とのコール待機インタラクション中に、ユーザは次の機能を利用できます。
 - ゲートウェイでの優先コール待機音のサポート。
 - 単一のアクティブ コールの場合、優先コール待機を再生する代わりに優先順位の高い新しいコールのプリエンプション。
 - 優先コールを呼び出し中の電話機では、着信コールが優先順位の低い呼び出し中のコールを差し替えます。



(注)

ユーザがコール中にコール待機キャンセル機能の呼び出しを選択した場合、このことが優先コール待機の設定よりも優先されるのは、そのコールだけとなります。コール待機キャンセル設定はこの設定を呼び出した電話機にだけ適用され、発信先の電話機には影響を及ぼしません。コール待機キャンセル機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』を参照してください。

- **Allow Call Waiting During an In-Progress Outbound Analog Call サービス パラメータ**：Cisco Unified Communications Manager に追加された新しいパラメータです。このパラメータは、発信コールにコール待機対応の SCCP ゲートウェイ アナログ電話機が使用されており、かつ、この電話機がコール待機トーンを再生できない場合に、この電話機に着信コールを表示することが、Cisco Unified Communications Manager によって許可されるかどうかを決定します。アナログ電話機は、発信コールがアラートまたは接続の状態になるまでは、コール待機トーンを再生できない場合があります。有効な値は、[True] または [False] です。
 - [True]：コール待機対応のアナログ電話機は、電話機のコール待機トーン再生機能に関係なく着信コールを受け、標準のコール応答時間制限が適用されます。
 - [False]：Cisco Unified Communications Manager では、これをビジー トリガー コール制限に達する通常のアナログ ライン アピアランスとして処理します。この処理には、転送アクション、トーン、またはトリガーに適用可能なその他の機能が含まれる場合があります。



(注)

サービス パラメータの使用の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サーバ上のサービスに対するサービス パラメータの設定」を参照してください。

Multilevel Precedence and Preemption のシステム要件

MLPP が機能するには、Cisco Unified Communications Manager 4.0 以降が必要です。

Multilevel Precedence and Preemption をサポートするデバイス

MLPP をサポートする IP Phone の完全なリストを作成するには、Cisco Unified Reporting アプリケーションを使用します。そのためには、次の手順に従います。

1. 次のいずれかの方法を使用して、Cisco Unified Reporting を起動します。

Web アプリケーションへのアクセスを許可されるまで、ユーザの認証には Cisco Tomcat サービスが使用されます。アプリケーションには次の方法でアクセスできます。

- Cisco Unified Communications Manager の管理ページのナビゲーション メニューで [Cisco Unified Reporting] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

- Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool (RTMT) メニューで [File] > [Cisco Unified Reporting] の順に選択します。
 - <https://<サーバ名または IP アドレス>:8443/cucreports/> と入力し、認証済みのユーザ名とパスワードを入力します。
2. ナビゲーションバーで、[System Reports] をクリックします。
 3. 左側のカラムに表示されたレポートのリストで、[Unified CM Phone Feature List] オプションをクリックします。
 4. [Generate a new report] リンクをクリックして新規レポートを生成するか、または、レポートがすでに存在する場合は、[Unified CM Phone Feature List] リンクをクリックします。
 5. MLPP のコール優先順位がサポートされているすべての IP Phone のレポートを生成するには、各ドロップダウンリストボックスから次の設定を選択し、[Submit] ボタンをクリックします。

[Product] : [All]

[Feature] : [Call Precedence (for MLPP)]

[List Features] ペインに、MLPP 機能をサポートするすべてのデバイスのリストが表示されます。カラムの見出し ([Product] または [Protocol]) の隣にある上下の矢印キーをクリックして、リストをソートできます。

6. MLPP のコールプリエンブションがサポートされているすべての IP Phone のレポートを生成するには、各ドロップダウンリストボックスから次の設定を選択し、[Submit] ボタンをクリックします。

[Product] : [All]

[Feature] : [Call Pre-emption (for MLPP)]

[List Features] ペインに、MLPP 機能をサポートするすべてのデバイスのリストが表示されます。カラムの見出し ([Product] または [Protocol]) の隣にある上下の矢印キーをクリックして、リストをソートできます。

Cisco Unified Reporting アプリケーションの詳細については、次の URL の『*Cisco Unified Reporting Administration Guide*』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html

インタラクションおよび制限事項

次の項では、MLPP におけるインタラクションおよび制限事項について説明します。

- 「[インタラクション](#)」 (P.35-41)
- 「[制限事項](#)」 (P.35-41)

インタラクション

MLPP は、次の Cisco Unified Communications Manager 機能と通信します。

- Cisco エクステンション モビリティ：ユーザがエクステンション モビリティを使用してデバイスにログインした場合、MLPP サービス ドメインはユーザ デバイス プロファイルとの関連付けを維持します。エクステンション モビリティでは、[MLPP 表示 (MLPP Indication)] 設定と [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] 設定も適用されます。デバイスまたはデバイス プロファイルが MLPP をサポートしていない場合、これらの設定は適用されません。
- 即時転送：即時転送は、コールのタイプ（たとえば、優先コール）に関係なく、ボイスメール メールボックスへコールを転送します。Alternate Party Diversion（コールの優先順位）がアクティブになっている場合は、無応答時転送（CFNA）も非アクティブになります。
- Cisco Unified Communications Manager Assistant（Unified CM Assistant）：MLPP は、次のように Unified CM Assistant と通信します。
 - Cisco Unified Communications Manager Assistant は、MLPP 優先コールを処理する際、コールの優先順位を保持します。
 - Cisco Unified Communications Manager Assistant は、他のすべてのコールと同じように MLPP 優先コールをフィルタリングします。コールの優先順位は、コールがフィルタリングされるかどうかには影響を与えません。
 - Cisco Unified Communications Manager Assistant はコールの優先順位を登録しないので、Assistant Console でコールの優先順位について追加のインジケータを送信することはありません。
- Resource Reservation Protocol（RSVP）：RSVP は最初から MLPP をサポートしています。RSVP がアクティブな場合の MLPP の動作については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Resource Reservation Protocol」の章の「RSVP ベースの MLPP」に説明があります。
- 補足サービス：MLPP は、複数ライン アピランス、コール転送、自動転送、三者通話、コール ピックアップ、およびハント パイロットと通信します。各サービスとのインタラクションについて説明している「MLPP 補足サービス」(P.35-34) および後続の項を参照してください。

制限事項

MLPP には、次の制限事項があります。

- 共通ネットワーク ファシリティ プリエンプションがサポートされるのは、Cisco Unified Communications Manager が MGCP プロトコルを使用して制御し、MLPP プリエンプション 対応として設定されたターゲット Voice over IP ゲートウェイ上の T1-CAS および T1-PRI（北米） インターフェイスに対してだけです。
- User Access Channel がサポートされるのは、次の Cisco Unified IP Phone モデルに対してだけです。これらは、MLPP プリエンプション対応として設定されている必要があります。
 - Cisco Unified IP Phone 7960、7962、7965
 - Cisco Unified IP Phone 7940、7942、7945
- IOS ゲートウェイは、Cisco Unified Communications Manager への SCCP インターフェイスをサポートします。したがって、Cisco Unified Communications Manager でサポート対象の電話機モデルとして表示される BRI とアナログ電話機をサポートします。

- トーンや呼び出し音など、MLPP 関連の通知を生成するのは MLPP 表示対応のデバイスだけです。MLPP 表示対応ではないデバイスで優先コールが終了した場合、優先順位呼び出し音は再生されません。MLPP 表示対応ではないデバイスから優先コールが発信された場合、優先順位呼び戻し音は再生されません。差し替えられるコール（つまり、プリエンプションを開始したコールの相手側）に MLPP 表示対応ではないデバイスが含まれている場合、そのデバイスにプリエンプション トーンは再生されません。
- 電話機の場合、MLPP 表示対応ではないデバイス（つまり、[MLPP 表示 (MLPP Indication)] が [オフ (Off)] に設定されている）でプリエンプションは実行できません。
トランクの場合、MLPP 表示とプリエンプションは別々に機能します。
- Cisco Unified Communications Manager は、Look Ahead for Busy (LFB) オプションをサポートしていません。
- クラスタ間トランク MLPP は、ダイヤルされた数値によって優先順位情報を送達します。ドメイン情報は保存されないため、着信コールのトランクごとに設定する必要があります。
- 729 Annex A をサポートしています。
- さまざまなロケーション帯域幅のプリエンプション制限があります。
- DRSN の場合、CDR は値 0、1、2、3、および 4 の優先レベルを表しており、DSN で使用されているように 0 はエクゼクティブ オーバーライドを示し、4 は標準を示します。このように CDR は DRSN フォーマットを使用していません。
- MLPP 対応デバイスは回線グループではサポートされません。このため、シスコは次のガイドラインを推奨しています。
 - 回線グループ内では MLPP 対応デバイスを設定しないでください。ただし、ルートグループはサポートしています。トランク選択とハンティングの両方の方法がサポートされています。
 - 回線グループまたはルートグループで MLPP 対応デバイスが設定されている場合、プリエンプションイベント中にルートリストがデバイスにロックされていないと、差し替えられたコールはルートリストまたはハントリストの他のデバイスに再ルーティングされる可能性があります。また、どのデバイスもコールを受信できない場合にだけ、プリエンプション インジケータが返されることがあります。
 - ルートリストは、トランク選択および優先コールのハンティングのいずれかのアルゴリズムをサポートするように設定できます。方法 1 では、Preemptive 検索を直接実行します。方法 2 では、最初に一般的な検索を実行します。この検索がうまく行かない場合は、Preemptive 検索を実行します。方法 2 では、ルートリストのデバイス全体に 2 回繰り返す必要があります。
方法 2 にルートリストが設定されている場合、回線グループを含む特定のシナリオでは、ルートリストはデバイス全体を 2 度繰り返して優先コールを検索することになります。
- [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を（エンタープライズパラメータ、共通デバイス設定、またはデバイスレベルで）オンにすると、デバイスの [MLPP 表示 (MLPP Indication)] がオフ（無効）になっていない限り、デバイス上の回線では通常の呼出音設定の動作が無効になります。
- 補足サービス：補足サービスに対する MLPP サポートでは、次の制限事項が指定されます。
 - 現在の MLPP 設計は、他グループピックアップではなく、基本のコールピックアップ機能およびグループコールピックアップ機能だけに対応しています。ダイレクトコールピックアップ機能のサポートは、「コールピックアップ」(P.35-37) の説明のとおり機能します。

- 着信 MLPP コールに対する CFA サポートでは、MAP ターゲットが設定されている場合、コールを常に着信側の MAP ターゲットに自動転送します。設定が正しくない場合（つまり、MAP ターゲットが指定されていない場合）、コールは拒否され、発信側ではリオーダー音が聞こえます。
- 着信 MLPP コールに対する CFNA サポートでは、コールを CFNA ターゲットに 1 回自動転送します。最初のホップの後、コールが無応答状態の場合、MAP ターゲットが設定されていれば、コールは元の着信側の MAP ターゲットに送信されます。設定が正しくない場合（つまり、MAP ターゲットが指定されていない場合）、コールは拒否され、発信側ではリオーダー音が聞こえます。
- 着信 MLPP コールに対する CFB サポートでは、転送ホップに設定されている最大数までコールを自動転送します。最大ホップ数に達した場合、MAP ターゲットが設定されていれば、コールは元の着信側の MAP ターゲットに送信されます。設定が正しくない場合（つまり、MAP ターゲットが指定されていない場合）、コールは拒否され、発信側ではリオーダー音が聞こえます。
- ハントパイロットのサポートでは、ハントグループアルゴリズムが最長アイドル時間、優先度順、またはラウンドロビンを指定している必要があります。ビジー処理、応答なし処理、および未登録処理のハントグループオプションが [次のメンバへ、ただし次のグループにはハントしない (Try next member, but do not go to next group)] に設定されていることを確認します。プリエンブションが行われるのは、1つのハントグループだけです。

設定の詳細については、「[MLPP の設定チェックリスト](#)」(P.35-2) を参照してください。

MLPP のインストールとアクティブ化

システム機能である MLPP は、Cisco Unified Communications Manager ソフトウェアに標準で備わっており、特別なインストールは必要ありません。

MLPP の設定

この項は、次の内容で構成されています。

- 「[MLPP のエンタープライズパラメータの設定](#)」(P.35-44)



ヒント

MLPP を設定する前に、「[MLPP の設定チェックリスト](#)」(P.35-2) を確認してください。

MLPP のエンタープライズパラメータの設定

Cisco Unified Communications Manager には、MLPP に適用されるエンタープライズパラメータとして次のものがあります。MLPP サービスを使用可能にするには、指示に従って MLPP 関連のエンタープライズパラメータを設定してください。

- **MLPP Domain Identifier** : デフォルトではゼロ (0) です。このパラメータは、ドメインを定義するために設定します。MLPP サービスはドメインに適用されるため、Cisco Unified Communications Manager は、指定されたドメイン内の MLPP ユーザからのコールに属す接続とリソースだけに優先レベルのマークを付けます。Cisco Unified Communications Manager は、同じドメイン内の MLPP ユーザからの優先順位の低いコールだけを差し替えることができます。



(注) このパラメータの変更を有効にするには、すべてのデバイスをリセットする必要があります。

- **MLPP Indication Status** : デフォルトでは、[MLPP Indication turned off] です。このパラメータは、デバイスが MLPP 優先コールを示すために MLPP トーンと特別な表示を使用するかどうかを指定します。エンタープライズで MLPP 表示を有効にするには、このパラメータを [MLPP Indication turned on] に設定します。



(注) このパラメータの変更を有効にするには、すべてのデバイスをリセットする必要があります。

- **MLPP Preemption Setting** : デフォルトでは、[No preemption allowed] です。このパラメータは、優先順位の高いコールを接続するためにデバイスがプリエンプションおよびプリエンプションシグナル (プリエンプション トーンなど) を適用するかどうかを指定します。エンタープライズで MLPP プリエンプションを有効にするには、このパラメータを [Forceful Preemption] に設定します。



(注) このパラメータの変更を有効にするには、すべてのデバイスをリセットする必要があります。

- **Precedence Alternate Party Timeout** : デフォルトでは 30 秒です。優先コールで、着信側が Alternate Party Diversion に加入している場合、このタイマーは、着信側がプリエンプションに受信応答しない場合や優先コールに応答しない場合に Cisco Unified Communications Manager がコールを代替パーティに転送するまでの秒数を示します。
- **Use Standard VM Handling For Precedence Calls** : デフォルトでは、[False] です。このパラメータは、優先コールがボイスメールシステムに自動転送されるかどうかを指定します。このパラメータが [False] に設定されている場合、優先コールはボイスメールシステムに転送されません。このパラメータが [True] に設定されている場合、優先コールはボイスメールシステムに転送されます。MLPP では、ボイスメールシステムではなくユーザが常に優先コールに応答する必要があるため、このパラメータを [False] に設定することをお勧めします。

エンタープライズパラメータの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンタープライズパラメータの設定」の章を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.35-45) を参照してください。

関連項目

- 「MLPP の設定チェックリスト」 (P.35-2)
- 「MLPP の概要」 (P.35-4)
- 「MLPP 補足サービス」 (P.35-34)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.35-40)
- 「MLPP のインストールとアクティブ化」 (P.35-43)
- 「MLPP の設定チェックリスト」 (P.35-2)
- 「MLPP のエンタープライズパラメータの設定」 (P.35-44)
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「MLPP ドメインの設定値」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「リソースプライオリティネームスペースネットワークドメインの設定値」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「リソースプライオリティネームスペースリストの設定値」
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「コールアドミッション制御」
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「Resource Reservation Protocol」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「共通デバイス設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンタープライズパラメータの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「自動代替ルーティングのグループ設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「パーティションの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「コーリングサーチスペースの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルートパターンの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「トランスレーションパターンの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「アナンシエータ」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「アナンシエータの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ゲートウェイの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「トランクの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「デバイスプロファイルの設定」

■ 関連項目

- 『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[デフォルトデバイスプロファイルの設定](#)」
- 『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[アナウンサーの設定](#)」
- 『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[ルートパターンの設定](#)」
- 『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[トランスレーションパターンの設定](#)」
- 『*Cisco Unified Communications Manager システムガイド*』の「[ロケーション](#)」

■ 参考資料

- 『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』
- 『*Cisco Unified IP Phone 7960G/7940G Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』



CHAPTER 36

保留音

統合 Music On Hold (MOH; 保留音) 機能を使用すると、ユーザは、ストリーミングソースからストリームされる音楽を使用して、ネット上およびネット外のユーザを保留にできます。保留音機能では、次の2種類の保留を使用できます。

- エンドユーザ保留。
- ネットワーク保留。転送保留、会議保留、およびコールパーク保留が含まれます。

保留音は、録音された音声や生の音声が必要なその他のシナリオもサポートします。

この章では、次の情報について説明します。

- 「保留音の設定チェックリスト」 (P.36-2)
- 「マルチキャストの設定チェックリスト」 (P.36-3)
- 「保留音のパフォーマンス監視の設定チェックリスト」 (P.36-4)
- 「保留音の概要」 (P.36-4)
- 「保留音サーバ」 (P.36-11)
- 「保留音オーディオソース」 (P.36-12)
- 「保留音のシステム要件と制限」 (P.36-17)
- 「保留音のフェールオーバーとフォールバック」 (P.36-19)
- 「保留音オーディオソースの設定」 (P.36-19)
- 「固定保留音オーディオソースの設定」 (P.36-25)
- 「保留音サーバ設定」 (P.36-27)
- 「保留音オーディオファイル管理の設定」 (P.36-34)
- 「関連項目」 (P.36-38)

保留音の設定チェックリスト

統合保留音 (MOH) 機能を使用すると、ユーザは、ストリーミング ソースからストリームされる音楽を使用して、ネット上およびネット外のユーザを保留にできます。保留音機能では、次の 2 種類の保留を使用できます。

- エンドユーザ保留。
- ネットワーク保留。転送保留、会議保留、およびコール パーク保留が含まれます。

保留音は、録音された音声や生の音声が必要なその他のシナリオもサポートします。

表 36-1 は、保留音を設定するためのチェックリストです。保留音の詳細については、「[保留音の概要](#)」(P.36-4) および「[関連項目](#)」(P.36-38) を参照してください。

表 36-1 保留音の設定チェックリスト

設定手順	手順と関連項目
ステップ 1 Cisco IP Voice Media Streaming アプリケーションは、Cisco Unified Communications Manager のインストール時に自動的にインストールされます。MOH サーバを提供するには、Cisco Unified サービスアビリティ アプリケーションを使用して Cisco IP Voice Media Streaming アプリケーションをアクティブにする必要があります。 サーバの追加時に、Cisco Unified Communications Manager は Media Termination Point (MTP; メディア ターミネーション ポイント)、会議ブリッジ、アナンシエータ、および保留音デバイスをデータベースに自動的に追加します。 (注) インストール時に、デフォルトの保留音オーディオ ソースが存在しなかった場合、Cisco Unified Communications Manager によってインストールおよび設定されます。保留音機能は、他に変更を加えることなく、このデフォルトのオーディオ ソースを使用して処理できます。	『 <i>Installing Cisco Unified Communications Manager Release 8.5(1)</i> 』
ステップ 2 保留音オーディオ トランスレータを実行します。  注意 オーディオ トランスレータが、Cisco Unified Communications Manager と同じサーバ上のファイルを変換すると、重大な問題が発生する可能性があります。オーディオ トランスレータは利用可能なすべての CPU 時間を使用しようとします。このため、Cisco Unified Communications Manager にエラーまたは遅延が発生する場合があります。	「 保留音オーディオ ソース 」(P.36-12)
ステップ 3 保留音サーバを設定します。	「 保留音サーバの設定 」(P.36-28)
ステップ 4 オーディオ ソース ファイルを追加して設定します。	「 保留音オーディオ ソースの検索 」(P.36-20)

(注) インストール プログラムは自動的に次の動作を実行します。ユーザが手動で保留音コンポーネントを追加する場合は、必ず、次の手順に従ってください。

マルチキャストの設定チェックリスト

表 36-2 は、さまざまな Cisco Unified Communications Manager サービスを構成してマルチキャストを許可するためのチェックリストです。マルチキャストを利用可能にするには、すべての手順を実行する必要があります。

表 36-2 マルチキャスト設定チェックリスト

設定手順	手順と関連項目
ステップ 1 保留音サーバを設定してマルチキャスト オーディオ ソースを有効にします。  注意 ファイアウォールが存在する状況では、IP アドレスの増分によるマルチキャストを強く推奨します。この方法により、各マルチキャスト オーディオ ソースは一意的な IP アドレスを持つことになり、ネットワークの飽和状態の回避に役立ちます。	「保留音サーバの設定項目」 (P.36-30)
ステップ 2 オーディオ ソースを設定してマルチキャストを許可します。 (注) Computer Telephony Integration (CTI; コンピュータ / テレフォニー インテグレーション) デバイスは、マルチキャスト保留音機能をサポートしていません。CTI デバイスが、そのメディア リソース グループ リストにあるマルチキャスト MOH デバイスで設定されている場合は、コール制御に関する問題が発生する可能性があります。CTI デバイスは、マルチキャスト メディア ストリーミングをサポートしていません。	「保留音オーディオ ソースの設定項目」 (P.36-22)
ステップ 3 メディア リソース グループを作成して、MOH オーディオ でマルチキャストを使用するように設定します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「メディア リソース グループの設定値」
ステップ 4 メディア リソース グループ リストを作成し、1 つのマルチキャスト メディア リソース グループをプライマリ メディア リソース グループにします。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「メディア リソース グループ リストの設定値」
ステップ 5 デバイス プールまたは特定のデバイスに対して、 ステップ 4 で作成したメディア リソース グループ リストを選択します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「デバイス プールの設定」
ステップ 6 必要に応じて、マルチキャスト MOH に影響するサービス パラメータを設定します。	「Multicast MOH Direction Attribute for SIP サービス パラメータ」 (P.36-15) 「Send Multicast MOH in H.245 OLC Message サービス パラメータ」 (P.36-16)

保留音のパフォーマンス監視の設定チェックリスト

保留音のパフォーマンスを監視するには、表 36-3 に示すアクティビティを実行します。

表 36-3 保留音のパフォーマンスの監視

監視アクティビティ	詳細情報
ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager の Real-Time Monitoring Tool (RTMT) を使用して、リソースの使用状況とデバイスの復旧状態を確認します。	『Cisco Unified Real Time Monitoring Tool Administration Guide』 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』には、この情報を表示する別の方法が示されています。
ステップ 2 イベントログで、Cisco IP Voice Media Streaming アプリケーションのエントリを検索します。	『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』
ステップ 3 Cisco IP Voice Media Streaming アプリケーション サービスが動作していることを確認します。	『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』には、この情報を表示する別の方法が示されています。 「関連項目」(P.36-38)
ステップ 4 Media Application トレース (Cisco Cluster Management Suite (CMS)) を検索して、検出されている保留音関連のアクティビティを確認します。	『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』

追加情報

「関連項目」(P.36-38) を参照してください。

保留音の概要

この項では、保留音機能について、定義、サービスの特徴、機能性とその例、およびサポートされる機能を挙げて説明します。

追加情報

「関連項目」(P.36-38) を参照してください。

保留音の定義

最も簡単な例では、電話機 A から電話機 B に通話していて、電話機 A が電話機 B を保留にする場合に保留音が行われます。保留音 (MOH) リソースが利用可能な場合は、電話機 B には保留音サーバからストリームされる音楽が聞こえます。

次の定義は、後の説明で重要となる情報です。

- MOH サーバ：保留音オーディオ ソースを提供し、1 つの保留音オーディオ ソースを複数のストリームに接続するソフトウェア アプリケーション。
- メディア リソース グループ：メディア サーバの論理グループ。メディア リソース グループは、必要に応じて地理的なロケーションまたはサイトに関連付ける場合があります。また、メディア リソース グループを形成して、サーバの使用状況や必要なサービス タイプ (ユニキャストまたはマルチキャスト) を制御することもできます。

- メディア リソース グループ リスト：優先順位を付けられたメディア リソース グループで構成されるリスト。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義されている優先順位に従って、必要なメディア リソースを利用可能なメディア リソースの中から選択できます。
- オーディオ ソース ID：保留音サーバ内のオーディオ ソースを表す ID。オーディオ ソースには、ディスク上のファイルや、ソース ストリーム保留音サーバがストリーミングデータを取得する固定デバイスがあります。MOH サーバは 51 までのオーディオ ソース ID (1 ~ 51) をサポートします。各オーディオ ソース (オーディオ ソース ID で表される) は、必要に応じてユニキャスト モードおよびマルチキャスト モードとしてストリームできます。
- 保留にした側：アクティブな、2 パーティ間のコールで、保留動作 (ユーザ保留またはネットワーク保留) を開始した側。例：A 側が B 側に通話している場合で、A 側が [保留] ソフトキーを押して保留動作を開始した場合は、A 側が保留にした側です。
- 保留にされた側：アクティブな、2 パーティ間のコールで、保留動作を開始しなかったが保留状態になった側。例：A 側が B 側に通話している場合で、A 側が [保留] ソフトキーを押して保留動作を開始した場合は、B 側が保留にされた側です。

次のオーディオ ソース ID 選択規則は、オーディオ ソース ID とメディア リソース グループ リストの選択に適用されます。

- エンドユーザではなく、システム管理者がオーディオ ソース ID を定義 (設定) します。
- システム管理者が、デバイスまたはデバイス プール (複数) に対してオーディオ ソース ID を選択 (設定) します。
- 保留にした側が、保留にされた側に適用するオーディオ ソース ID を定義します。
- Cisco Unified Communications Manager は、4 つのレベルの優先順位を付けられたオーディオ ソース ID を実装しています。レベル 4 が最も高い優先順位で、レベル 1 が最も低い優先順位です。
 - レベル 4 のオーディオ ソース ID が定義されている場合、システムはレベル 4 を選択します。レベル 4 は、電話番号 / 回線ベースです。ゲートウェイなど、回線定義のないデバイスにはこのレベルはありません。
 - レベル 4 のオーディオ ソース ID が定義されていない場合は、システムはレベル 3 の任意の選択されたオーディオ ソース ID を検索します。レベル 3 は、デバイス ベースです。
 - レベル 4 のオーディオ ソース ID も、レベル 3 のオーディオ ソース ID も選択されなかった場合、システムはレベル 2 に定義されているオーディオ ソース ID を選択します。レベル 2 は共通デバイス設定ベースです。
 - すべての上位レベルのオーディオ ソース ID が選択されなかった場合は、システムはレベル 1 のオーディオ ソース ID を検索します。レベル 1 はクラスタ全体のパラメータです。

次のメディア リソース グループ リスト選択規則が適用されます。

- 保留にされた側が、Cisco Unified Communications Manager が保留音リソースの割り当てに使用するメディア リソース グループ リストを決定します。
- 2 つのレベルの、優先順位を付けられたメディア リソース グループ リストが選択できます。
 - レベル 2 のメディア リソース グループ リストは、高い優先順位のレベルを提供します。このレベルは、デバイス ベースです。Cisco Unified Communications Manager は、このようなメディア リソース グループ リストが定義されている場合には、デバイス レベルのメディア リソース グループ リストを使用します。

- レベル 1 のメディア リソース グループ リストは、低い優先順位のレベルを提供します。このレベルは、オプションのデバイス プール パラメータです。Cisco Unified Communications Manager は、そのデバイスのデバイス レベルでメディア リソース グループ リストが定義されていない場合にだけ、デバイス プール レベル メディア リソース グループ リストを使用します。
- メディア リソース グループ リストが定義されていない場合は、Cisco Unified Communications Manager はシステム デフォルト リソースを使用します。システム デフォルト リソースは、既存のメディア リソース グループのどれにも割り当てられていないリソースで構成されます。システム デフォルト リソースは必ずユニキャストです。

追加情報

「関連項目」(P.36-38) を参照してください。

保留音の特徴

統合保留音機能を使用すると、ユーザは、ストリーミング ソースからストリームされる音楽を使用して、ネット上およびネット外のユーザを保留にできます。このソースは、すべてのネット上またはネット外の保留状態のデバイスで音楽を利用可能にします。ネット上のデバイスには、保留状態、打診保留状態、または Interactive Voice Response (IVR; 対話型音声応答) や コール分散によるパーク保留状態のステーション デバイスおよびステーション アプリケーションがあります。ネット外のユーザには、Media Gateway Control Protocol (MGCP) /Skinny ゲートウェイ、Internet Operating System (IOS) H.323 ゲートウェイ、および IOS Media Gateway Control Protocol ゲートウェイを介して接続しているユーザがあります。保留音機能は、IOS H.323/Media Gateway Control Protocol 上の Foreign Exchange Station (FXS) ポートを介して Cisco IP ネットワークに接続する Cisco IP Plain Old Telephone Service (POTS; 一般電話サービス) 電話機でも利用できます。また、Cisco Media Gateway Control Protocol/Skinny ゲートウェイでも利用できます。

統合保留音機能は、メディア サーバ、データベース管理、コール制御、メディア リソース マネージャ、およびメディア制御機能領域を網羅しています。

保留音サーバは、音楽リソース/ストリームを提供します。これらのリソースは、初期化/復旧時に Cisco Unified Communications Manager に登録されます。

データベース管理は、Cisco Unified Communications Manager 管理者がデバイスに保留音機能を設定するためのユーザ インターフェイスを提供します。また、データベース管理は、Cisco Unified Communications Manager コール制御に設定情報を提供します。

コール制御は、保留音シナリオ ロジックを制御します。

メディア リソース マネージャは、保留音サーバからの登録要求を処理します。また、コール制御の要求のもとで、保留音リソースの割り当てと割り当て解除を行います。

メディア制御は、メディア ストリーム接続の確立を制御します。メディア ストリーム接続には、片方向の接続または双方向の接続があります。

終端デバイスで保留音が機能するには、そのデバイスに保留音関連情報がプロビジョニングされていることを事前に確認する必要があります。Cisco Unified Communications Manager を初期化すると、メディア リソース マネージャが作成されます。保留音サーバ (複数) は、メディア リソース マネージャに保留音リソースを登録します。

終端のデバイスまたは機能がコールを保留状態にすると、Cisco Unified Communications Manager は保留にされたデバイスを音楽リソースに接続します。保留にされたデバイスが元に戻ると、保留音リソースから切断され、通常のアクティビティが再開されます。

追加情報

「関連項目」(P.36-38) を参照してください。

保留音の機能性

保留音が機能するためには、次のリストに示す操作を実行する必要があります。

- 保留音サーバを設定する。
- オーディオソースを設定する。後述の例では、「お待ちいただきありがとうございます」と「ポピュラー音楽1」というオーディオソースを設定およびプロビジョニングします。



(注) 特にマルチキャストを使用する場合には、最初にオーディオソースを設定してから、保留音サーバを設定します。ユーザインターフェイスでは、いずれの手順も最初に行うことができます。



(注) オーディオソースがマルチキャストに設定されている場合、デバイスが保留中かどうかにかかわらず、MOHサーバは常にオーディオストリームを伝送します。

- メディアリソースグループを設定する。マルチキャストが必要な場合は、[MOHオーディオにマルチキャストを使用 (Use Multicast for MOH Audio、最低1つのマルチキャストMOHリソースが使用可能な場合)] チェックボックスをオンにします。



(注) CTI デバイスは、マルチキャスト保留音機能をサポートしていません。CTI デバイスが、そのメディアリソースグループリストにあるマルチキャストMOHデバイスで設定されている場合は、コール制御に関する問題が発生する可能性があります。CTI デバイスは、マルチキャストメディアストリーミングをサポートしていません。

- メディアリソースグループリストを設定する。
- メディアリソースグループリストおよびオーディオソースにデバイスプールを割り当てる。
- メディアリソースグループリストおよびオーディオソースにデバイスを割り当てる (デバイスプールの割り当てに上書きします)。
- オーディオソースに回線を割り当てる (デバイス設定に上書きします)。

ここまでの設定操作を実行して、保留音機能を次のように設定すると、後続の例に示すように、ユーザ保留、転送保留、コールパークの保留音機能が動作します。

メディアリソースグループ

MOH は保留音サーバを意味します。MRG はメディアリソースグループを意味します。

- MRG_D は MOH_D を含む。
- MRG_S_D は MOH_S および MOH_D を含む。

メディアリソースグループリスト

MRGL はメディアリソースグループリストを意味します。

- MRGL_D は MRG_D を含む。
- MRGL_S_D は MRG_S_D および MRG_D を含む (優先順位の順)。

ノード

- Dallas ノードは電話機 D および MOH_D を含む。
- San Jose ノードは電話機 S および MOH_S を含む。
- 電話機 D にオーディオ ソース ID 5 (「お待ちいただきありがとうございます」または単なる音楽 (ユーザ保留とネットワーク保留の両方))、および MRGL_D を割り当てる。
- 電話機 S にオーディオ ソース ID 1 (「コンピュータ音楽 I」 (ユーザ保留とネットワーク保留の両方))、および MRGL_S_D を割り当てる。

ユーザ保留の例

電話機 D が電話機 S をコールし、電話機 S が応答します。電話機 D で [保留] ソフトキーが押されます。結果：電話機 S は、MOH_S からストリーミングするアナウンス「お待ちいただきありがとうございます」または単なる音楽を受信します (MOH_S には利用可能なストリームが存在します)。電話機 D で [復帰] ソフトキーが押された場合、電話機 S は音楽ストリームから切断され、電話機 D に再度接続します。

転送保留の例

転送保留は、ネットワーク保留の一例です。

電話機 D が電話機 S をコールし、電話機 S が応答します。電話機 D で [転送] ソフトキーが押されます。電話機 S は、MOH_D からストリーミングするアナウンス「お待ちいただきありがとうございます」または単なる音楽を受信します (MOH_S には利用可能なストリームが存在しませんが、MOH_D には存在します)。電話機 D が転送動作を完了したら、電話機 S は音楽ストリームから切断され、転送先の電話機 X に転送されます。

コールパークの例

コールパークは、ネットワーク保留の一例です。

電話機 D が電話機 S をコールし、電話機 S が応答します。電話機 S で [パーク] ソフトキーが押されます。電話機 D はビープ音を受信します (MOH_D には利用可能なストリームが存在しません)。電話機 X はパーク コールをピックアップします。電話機 S は電話機 X に転送されます (電話機 D と電話機 X が会話をします)。

追加情報

「関連項目」(P.36-38) を参照してください。

サポートされている保留音機能

保留音では、次に示す機能がサポートされます。機能のリストはカテゴリごとに示します。機能のカテゴリには、保留音サーバの特徴、サーバのスケラビリティ、サーバの管理性、サーバの冗長性、データベースのスケラビリティ、およびデータベースの管理性があります。

保留音サーバの特徴

- サーバは、そのディスクに格納されている保留音データ ソース ファイルから保留音を配信します。
- サーバは、外部のオーディオ ソース (たとえば、ループ テープレコーダ、ラジオ、CD) から保留音を配信します。

- 保留音サーバは、すべてのソース ストリームに対して、つまりすべての接続されたストリームに対して単一の保留音データ ソースを使用できます。複数の保留音サーバが必要な場合は、各保留音サーバのローカル サーバに常に保留音データ ソース ファイルを格納しておきます。Cisco Unified Communications Manager は、メディア リソース グループ内の保留音サーバ間で、固定デバイス（ハードウェア）のオーディオ ソースを配布することはサポートしていません。
- 保留音データ ソース ファイルは、すべての保留音サーバで共通の 1 つのファイル名を持ちます。
- 保留音データ ソース ファイルが各 MOH サーバにアップロードされていることを確認する必要があります。
- 各オーディオ ソースは、指定したファイルまたは指定した固定ソース（ラジオ、CD など）のいずれかからの入力を受信します。
- 指定した固定ソースは、有効または無効な単一のデバイスから成ります。
- ローカル マシン上のオーディオ ドライバは、単一の固定ソースを保留音サーバで利用可能にします。
- 保留音サーバは、G.711（a-law および mu-law）、G.729a、およびワイドバンド コーデックをサポートします。
- 保留音サーバは、1 つのプライマリ Cisco Unified Communications Manager サーバに登録します。

サーバのスケラビリティ

- 保留音は、保留音サーバあたり 1 ～ 500 のシンプレックス ユニキャスト ストリームをサポートします。
- 保留音は、シスコが開発した複数のメディア処理アプリケーション、たとえば対話型音声応答（IVR）や Auto-Attendant（AA; 自動アテンダント）をサポートします。Cisco Unified Communications Manager は、このサポートを容易にします。
- 保留音サーバは、同時に 50 までの保留音データ ソース ファイルをソースとしてサポートします。
- 保留音サーバは、ファイル ストリーム ソースに加えて 1 つの固定デバイス ストリーム ソースをサポートします。このソースは固定オーディオ ソースであり、[固定 MOH オーディオソースの設定 (Fixed MOH Audio Source Configuration)] ウィンドウで設定されます。このソースには、Cisco USB 保留音対応のアダプタが別途必要です。

サーバの管理性

- Cisco Unified サービスアビリティ のウィンドウから、保留音サーバ アプリケーションである Cisco IP Media Streaming Application を、任意の標準 Media Convergence Server（MCS; メディア コンバージェンス サーバ）上で、サービスとしてアクティブにできます。
- 保留音アプリケーションは、同じメディア コンバージェンス サーバ（MCS）で別のメディア アプリケーションとしてアクティブにできます。したがって、保留音アプリケーションと他のメディア アプリケーションが MCS 上に共存することになります。
- 保留音サーバ アプリケーションは、1 つのクラスタ内の複数のメディア コンバージェンス サーバ（MCS）にインストールできます。
- Cisco Unified Communications Manager では、Cisco Media Convergence Server（MCS）と Cisco Unified Computing System（UCS）のノードを混在させることができます。外部ソース（USB オーディオ ドングル）で保留音機能を使用する場合は、外部ソースから MOH を提供するノード用に MCS サーバを使用する必要があります。
- 管理者は、サーバが提供する各ソース ストリームのソースを指定できます。
- ストリーム ソースの管理はブラウザを介して行います。

サーバの冗長化

- 保留音サーバは Cisco Unified Communications Manager リストをサポートします。リストの 1 番目のエントリはプライマリ サーバとして機能します。リスト上の後続の Cisco Unified Communications Manager は、優先順位順のバックアップ Cisco Unified Communications Manager として機能します。
- 保留音サーバは、その Cisco Unified Communications Manager リストから Cisco Unified Communications Manager へのプライマリ接続およびバックアップ接続を維持できます。
- 保留音サーバは、クラスタ上の他のサーバや電話機で使用される標準的な手順に従ってバックアップ Cisco Unified Communications Manager を引き継ぐことができます。
- 保留音サーバは、クラスタ上の他のメディア サーバの標準的な手順に従ってプライマリサーバを引き継ぐことができます。

Cisco Unified Communications Manager/ データベース要件

- Cisco Unified Communications Manager がコールを処理していて、コール中の両方の終端を保留にした場合、Cisco Unified Communications Manager は保留にされた終端を保留音に接続できます。この機能は、ネットワーク保留およびユーザ保留にも当てはまります。ネットワーク保留には、転送、会議、コールパークなどが含まれます。
- 保留音用のメディア リソース グループは、すべての接続されたストリーム用に単一の音楽ソース ストリームを持つことをサポートします。
- システムは、リモート サイトに保留音サーバを置かずに、中心のサイトに保留音サーバを置くことをサポートします。保留音サービスが必要なリモート サイトのデバイスは、サービスがローカルで利用できない場合は WAN を介してメディア リソース グループからサービスを取得します。
- 保留音サーバは、クラスタ内のすべてのサイトに分配できます。
- 保留音サーバは、すべてのソース ストリームに対して、つまりすべての接続されたストリームに対して単一の保留音データ ソースを使用できます。複数の保留音サーバが関連する場合は、保留音データ ソースは各サーバ上にローカルに格納される 1 つのファイルです。
- システムは、デバイスに保留音を供給するプライマリ メディア リソース グループにストリームがないときはそれを検出でき、デバイスに指定されたセカンダリまたは三次のメディア リソース グループからストリームを選択できます。
- デバイスを保留音に接続する際、低帯域幅コーデックのサポートが必要な場合には、システムでトランスコーダを挿入できます。

データベースのスケラビリティ

- Cisco Unified Communications Manager は、保留音サーバあたり 1 ～ 500 のユニキャストセッションをサポートします。
- 1 つのクラスタは、1 ～ 20 を超える保留音サーバをサポートします。
- 1 つのクラスタは、1 ～ 10,000 を超える保留音ストリームをクラスタで同時にサポートします。
- 1 つのクラスタは、1 ～ 500 以上の保留音用のメディア リソースグループをサポートします。
- 保留音用の 1 つのメディア リソース グループは、1 ～ 20 以上の保留音サーバをサポートできます。

管理性

- 管理者は、デバイスごとにメディア リソース グループ リストを選択できます。
- 管理者は、デバイス /Directory Number (DN; 電話番号) ごとに保留音ソース ストリームを選択できます。
- 管理者は、デバイス /DN ごとに Music On Consult (ネットワーク保留) ソース ストリームを選択できます。
- 管理者は、指定したメディア リソース グループの一部にする保留音サーバを設定できます。
- 管理者は、メディア リソース グループおよびメディア リソース グループ リストを設定することで、プライマリ、セカンダリ、および三次の保留音 /Consult サーバを各デバイスに対して指定できます。
- 管理者は、複数の保留音サーバをプロビジョニングできます。
- 管理者は、保留音サーバがシステム内で MOH をサービスできるように、システムに登録されている任意のデバイスをプロビジョニングできます。
- 保留音の設定と管理はすべてブラウザを介して行います。
- 管理者は、ユーザ保留およびネットワーク保留のオーディオ ソースを各デバイス プールに対して指定します。これらのデフォルト オーディオ ソースはファイル ベースまたは固定デバイス ベースとして機能します。
- 管理者は、マルチキャストをサポートするリソースが存在する場合は、保留音サーバをユニキャストまたはマルチキャストのどちらかに指定できます。



(注) CTI デバイスは、マルチキャスト保留音機能をサポートしていません。CTI デバイスが、そのメディア リソース グループ リストにあるマルチキャスト MOH デバイスで設定されている場合は、コール制御に関する問題が発生する可能性があります。CTI デバイスは、マルチキャストメディア ストリーミングをサポートしていません。

- 管理者は、すべての保留音サーバをリセットできます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.36-38) を参照してください。

保留音サーバ

保留音サーバは、Cisco Unified Communications Manager との通信に Station Stimulus (Skinny Client) メッセージ プロトコルを使用します。保留音サーバは、Cisco Unified Communications Manager に単一のデバイスとして登録し、サポート可能なシンプレックス ユニキャスト オーディオ ストリームの数をレポートします。保留音サーバはそのメディアのタイプの能力を G.711 mu-law および a-law、G.729a、およびワイドバンドとして Cisco Unified Communications Manager に通知します。Cisco Unified Communications Manager は、保留音サーバに Skinny クライアント メッセージを送信して保留音ユニキャスト ストリームを起動および停止します。

1 つの保留音サーバは、500 までのシンプレックス ユニキャスト オーディオ ストリームを処理します。1 つのメディア リソース グループには、1 つまたは複数の保留音サーバが含まれます。1 つの保留音サーバは 51 のオーディオ ソースをサポートします。1 つのオーディオ ソースは、ローカル コンピュータのオーディオ ドライバを使用する固定デバイスをソースとします。残りのオーディオ ソースは、ローカル保留音サーバ上のファイルをソースとします。

複数の保留音サーバに対して単一のファイルを使用できますが、固定デバイスは 1 つの保留音サーバに対してだけソースとして使用できます。保留音オーディオ ソース ファイルは、ストリーミングに適したフォーマットで格納されます。Cisco Unified Communications Manager は、クラスタ内の保留音サーバ間にシンプレックス ユニキャスト ストリームを割り当てます。

保留音サーバは、メディア コンバージェンス サーバ シリーズのハードウェア プラットフォームを使用します。同一のコンピュータに保留音サーバ アプリケーションとしてインストールされている Cisco USB サウンド アダプタは、外部固定オーディオ ソースを供給します。外部固定オーディオ ソースには、ループ テープレコーダ、ラジオ、CD があります。

保留音サーバが実際に Cisco IP Voice Media Streaming アプリケーションのコンポーネントである場合は、標準の、デバイス復旧およびデータベース変更通知をサポートします。

各保留音サーバは、保留音オーディオ ソース ファイルのコピーをローカルのハードディスクに格納します。各オーディオ ソース ファイルは、そのファイルが Cisco Unified Communications Manager の管理ページのインターフェイスで追加されたときに、サーバに配布されます。



(注)

管理者は、保留音オーディオ ソース ファイルを MOH サーバごとにアップロードする必要があります。

追加情報

「関連項目」(P.36-38) を参照してください。

保留音オーディオ ソース

管理者がオーディオ ソース ファイルをインポートすると、Cisco Unified Communications Manager の管理のウィンドウ インターフェイスがそのファイル进行处理し、保留音サーバで使用可能な形式に変換します。

- オーディオ ソース ファイルとして推奨される形式には、次の仕様があります。
- 16 ビット Pulse Code Modulation (PCM; パルス符号変調) wav ファイル
- ステレオまたはモノラル
- サンプル レートが 48 kHz、32 kHz、16 kHz、または 8 kHz

追加情報

「関連項目」(P.36-38) を参照してください。

オーディオ ソースの作成

次のファイル形式を含めて、ほとんどの標準 wav ファイルは、入力用オーディオ ソース ファイルとして使用できます。

- 16 ビット PCM (ステレオ/モノラル)
- 8 ビット Consultative Committee for International Telegraph and Telephone (CCITT; 国際電信電話諮問委員会) a-law または mu-law (ステレオ/モノラル)



(注)

保留音機能は、MP3 形式をサポートしていません。

オーディオ ソースを作成するときは、次の手順を実行します。

- 管理者がオーディオ ソース ファイルを Cisco Unified Communications Manager 保留音サーバにインポートします。この手順では、ファイルを転送し、保留音サーバで使用可能な形式に変換するために、多少時間がかかります。
- 管理者は、オーディオ ソース ファイルにオーディオ ソース番号を割り当てるために、事前に各クラスタ内の各 MOH サーバにオーディオ ソース ファイルをインポートする必要があります。
- 保留音サーバは、ローカルのオーディオ ソース ファイルを使用します。
- 保留音サーバは、Cisco Unified Communications Manager が必要とする、または要求するファイルをカーネル モードの Real-time Transport Protocol (RTP; リアルタイム転送プロトコル) ドライバを使用して配信します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.36-38) を参照してください。

オーディオ ソース ファイルの格納

Cisco Unified Communications Manager の以前のリリースでは、MOH ファイルの格納領域に制限がありませんでした。MOH アップロード ツールには、アップロードするファイル数やファイルのサイズの制限がありません。変更されたアップロード用の JSP ページでは、既存の MOH ファイルのディスク使用量がチェックされ、十分なスペースがある場合にだけアップロードが許可されます。



(注) クラスタ内の最小のノードにより MOH の容量が決まります。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.36-38) を参照してください。

オーディオ ソースの管理

保留音オーディオ ソースを作成した後、オーディオ ソースの管理はすべて Cisco Unified Communications Manager の管理ページで行います。[メディアリソース (Media Resources)] > [保留音オーディオソース (Music On Hold Audio Source)] を選択して、[保留音オーディオソースの設定 (Music On Hold Audio Source Configuration)] ウィンドウを表示します。このウィンドウを使用して、所定のオーディオ ソースに対して保留音オーディオ ソースの追加、更新、または削除を行います。各オーディオ ソース ファイルに対して、保留音オーディオ ソース番号および保留音オーディオ ソース名を割り当て、このオーディオ ソースが連続して再生するかどうか、マルチキャストを許可するかどうかを決定します。1つのオーディオ ソースに対して、このウィンドウは保留音オーディオ ソース ファイルのステータスも表示します。詳細については、「[保留音オーディオ ソースの検索](#)」(P.36-20) を参照してください。



(注) [保留音オーディオソースの設定 (Music On Hold Audio Source Configuration)] ウィンドウで、特定のサーバだけにオーディオ ソース ファイルをアップロードできます。このウィンドウには、オーディオ ソース ファイルを他のサーバに自動コピーする機能がありません。各サーバ上の Cisco Unified Communications Manager アプリケーションにアクセスして、オーディオ ソース ファイルを加入者サーバに手動でアップロードする必要があります。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.36-38) を参照してください。

マルチキャストとユニキャストのオーディオ ソース

マルチキャスト保留音は、システムリソースを節約します。マルチキャストを使用すると、複数のユーザが同一のオーディオ ソース ストリームを使用して保留音を提供できるようになります。マルチキャスト オーディオ ソースは IP アドレスに関連付けられます。

ユニキャスト保留音は、システムのデフォルトです。各ユーザまたは各接続に対して別個のソース ストリームを使用します。ユーザはある特定のデバイスまたはストリームに接続します。



(注) MOH 機能により、保留にされたどのユーザも、いつ保留状態になったかに関係なく、ストリーム中のオーディオ ソースの同じ箇所を聞くこととなります。

MOH を使用して、ユーザが保留状態になったときにアナウンスを配信している場合、標準の MOH 設定で問題が発生する可能性があります。最初に保留状態になったユーザ以外のユーザは、アナウンスを最初から聞くことができません。これらのユーザは進行中のアナウンス (オーディオ ソース) に途中から加わるようになります。

マルチキャストとユニキャストの両方の設定で、保留にされたユーザに対して同じオーディオ ソースの動作が実行されます。各オーディオ ソースは、1 度使用されるとストリームが内部で分割され、保留にされたユーザに送信されます。この場合、マルチキャストとユニキャストの違いは、データ自体をネットワークで送信する方法だけです。

そのため、基本的な MOH 設定は、ユーザが最初から聞く必要があるアナウンスの再生には適しません。

管理者は、マルチキャストでは、デバイスの管理、IP アドレスの管理、およびポートの管理が必要になります。これに対して、ユニキャストではデバイスの管理だけが必要になります。

マルチキャストでは、管理者は少なくとも 1 つのオーディオ ソースを定義してマルチキャストを許可する必要があります。保留音サーバにマルチキャストを定義するには、まず、サーバにマルチキャストを許可する必要があります。

マルチキャストでは、1 つのアドレスは、1 つの IP アドレスと 1 つのポート番号の組み合わせで構成されます。マルチキャスト用の各オーディオ ソースには、1 組のアドレスが必要です。各 MOH サーバの各フォーマットに 1 つずつ必要です。MOH サーバをマルチキャスト用に設定する場合は、アドレスをポートまたは IP アドレスの増分によって割り当てる必要があるかどうかを指定します。



注意

ファイアウォールが存在する状況でのネットワークの飽和状態を避けるため、ポート番号の代わりに IP アドレスの増分によるマルチキャストを強く推奨します。これに従うことにより、各マルチキャスト オーディオ ソースは一意的な IP アドレスを持つことになり、ネットワークの飽和状態の回避に役立ちます。

[保留音 (MOH) サーバの設定 (Music On Hold (MOH) Server Configuration)] ウィンドウの [最大ホップ (Max Hops)] フィールドは、1 つのオーディオ ソースが経由できるルータの最大数を示します。最大ホップが 0 に設定されている場合は、オーディオ ソースは自身のサブネット内に留まる必要があります。最大ホップが 1 に設定されている場合は、オーディオ ソースはルータを 1 つまで経由して隣接したサブネットに移動できます。最大ホップは 2 に設定することを推奨します。

標準化団体は IP アドレスを予約しています。224.0.1.0 ~ 239.255.255.255 の範囲のアドレスは、マルチキャストのアドレスとして予約されています。ただし、224.0.1.0 ~ 238.255.255.255 の範囲のアドレスは、パブリック マルチキャスト アプリケーションに割り当てられます。パブ

リック マルチキャスト アドレスを保留音マルチキャストに使用しないでください。その代わりに、プライベート ネットワーク上の、管理上制御されるアプリケーション用に予約されている範囲 (239.0.0.0 ~ 239.255.255.255) の IP アドレスを使用することを推奨します。

マルチキャストに有効なポート番号は、16384 ~ 32767 の範囲の偶数です (システムが奇数を予約しています)。

マルチキャストは、メディア リソース グループおよびメディア リソース グループ リストがいずれもマルチキャスト保留音サーバを含むように定義されている場合にだけ機能します。メディア リソース グループでは、マルチキャスト用に設定されている保留音サーバを含む必要があります。これらのサーバには (MOH)[Multicast] というラベルが付けられています。また、メディア リソース グループをマルチキャストに定義する場合は、[MOH オーディオにマルチキャストを使用 (Use Multicast for MOH Audio、最低 1 つのマルチキャスト MOH リソースが使用可能な場合)] チェックボックスをオンにします。

メディア リソース グループ リストがデバイス プールおよびデバイスに関連付けられている場合は、メディア リソース グループ リストを定義して、マルチキャストに設定されているメディア リソース グループがリストの先頭のグループとなるようにします。マルチキャストオーディオ ソースが最初に検索され、デバイスに関する作業が容易になるため、この方法を行うことをお勧めします。

保留音処理では、使用するメディア リソースは、保留にされたデバイス (保留状態になっているデバイス) によって決定されますが、使用するオーディオ ソースは、保留にしたデバイス (保留動作を開始したデバイス) によって決定されます。



(注)

メディア ターミネーション ポイント (MTP) が呼び出された場合、マルチキャスト保留音 (MOH) には次の制限が適用されます。マルチキャスト MOH を使用しているサイトのコールログで MTP リソースが呼び出された場合、発信者に保留音は聞こえず、無音状態になります。このシナリオを回避するには、マルチキャスト MOH の代わりに、ユニキャスト MOH または保留トーンを設定してください。



(注)

CTI デバイスは、マルチキャスト保留音機能をサポートしていません。CTI デバイスが、そのメディア リソース グループ リストにあるマルチキャスト MOH デバイスで設定されている場合は、コール制御に関する問題が発生する可能性があります。CTI デバイスは、マルチキャストメディア ストリーミングをサポートしていません。

Multicast MOH Direction Attribute for SIP サービス パラメータ

Multicast MOH Direction Attribute for SIP サービス パラメータは、Cisco Unified Communications Manager で、マルチキャスト保留音 (MOH) の INVITE メッセージの Session Description Protocol (SDP) の方向属性が sendOnly と recvOnly のどちらに設定されるかを決定します。

Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 で Session Initiation Protocol (SIP; セッション開始プロトコル) 電話ロード 8.4 以前を使用する構成の場合、または Cisco Unified IP Phone 7906、7911、7941、7961、7970、および 7971 で SIP 電話ロード 8.1(x) 以前を使用する構成の場合は、このパラメータを sendOnly に設定します。それ以外の場合は、このパラメータをデフォルト値の recvOnly に設定したままにします。

H.323 クラスタ間トランク経由のマルチキャスト保留音

H.323 クラスタ間トランク経由のマルチキャスト保留音 (MOH) 機能を使用すると、マルチキャスト MOH が H.323 クラスタ間トランク (ICT) 経由で動作するようになります。この機能が実装されるまで、マルチキャスト MOH は同じ ICT を経由する各ユニキャスト MOH の帯域幅を使用しており、帯域幅が浪費されていました。

また、この機能が実装されるまでは、H.323 Open Logical Channel (OLC; オープン論理チャネル) の ACK メッセージで、マルチキャスト MOH 用の IP アドレスおよびポートが伝達されていました。この機能の実装により、H.323 OLC メッセージでマルチキャスト MOH 用の IP アドレスおよびポートが伝達され、Cisco Unified Communications Manager によって情報を処理するメカニズムが H.323 OLC メッセージに組み込まれるようになりました。

クラスタ間トランク経由でコールが接続し、発信側または着信側の片方が [保留] キーを押すと、MOH がクラスタ間トランク経由で配信されます。マルチキャスト MOH が有効で、保留にした側およびトランクがマルチキャスト MOH サーバを使用するように設定されている場合、MOH はマルチキャストで配信されます。このトランク上で保留状態になっているコールの数に関係なく、トランク経由で配信されるマルチキャスト MOH ストリームは 1 つだけです。

Send Multicast MOH in H.245 OLC Message サービス パラメータ

Send Multicast MOH in H.245 OLC Message サービス パラメータは、H.323 クラスタ間トランク経由のマルチキャスト保留音機能を制御します。コールに関わる Cisco Unified Communications Manager の両方のノードで、このパラメータの設定を有効にするために単一送信マルチキャストをサポートしている必要があります。このサービス パラメータは、コールを保留にした側だけに影響し、遠端側がマルチキャスト転送アドレスを伝達する方法には影響しません。このパラメータを無効にしても、コールの保留にされた側に単一送信マルチキャストをサポートする機能がある限り、マルチキャスト MOH は保留にされた側に適用されます。

Cisco CallManager サービスをサポートしているクラスタ全体のサービス パラメータ Send Multicast MOH in H.245 OLC Message を使用してこの機能を設定する場合は、Cisco Unified Communications Manager の管理で [システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。続いて、サーバおよび Cisco CallManager サービスを選択します。Send Multicast MOH in H.245 OLC Message のドロップダウン リストボックスで [True] を選択します。

このサービス パラメータは、H.323 クラスタ間トランクおよびデバイスでのマルチキャスト MOH の動作を制御します。新しいサービス パラメータは、SIP トランク経由のマルチキャスト MOH は制御しません。SIP トランク経由のマルチキャスト MOH では新しい動作が構成されないためです。

Cisco Unified Communications Manager の管理設定のヒント

Cisco Unified Communications Manager のクラスタ間トランク経由で接続するコールは、この機能を使用してマルチキャスト MOH を実現します。Cisco Unified Communications Manager 間のミドルボックスで Terminal Capability Set (TCS; ターミナル機能セット) 内の新しいフィールドおよび OLC メッセージが渡されていない場合、この機能は動作しません。

マルチキャスト MOH を設定するための通常の設定以外に、この新機能に対する追加の設定はありません。この機能は、単一送信マルチキャストをサポートしている Cisco Unified Communications Manager 間だけに適用されます。

デフォルトでは、この機能はアクティブのままになります。この機能を無効にするには、Send Multicast MOH in H.245 OLC Message サービス パラメータの値を [False] に設定します。この機能で発生する可能性がある相互運用性の問題を解決するには、この操作を実行します。



(注) マルチキャスト MOH は、H.323 と SIP プロトコルとの相互運用性をサポートしません。

追加情報

「関連項目」(P.36-38) を参照してください。

保留音のシステム要件と制限

保留音機能には、次に示すシステム要件と制限があります。

- 保留音機能を使用するオーディオストリーミング デバイスはすべてシンプレックス ストリームをサポートします。保留音サーバは最大 500 のシンプレックス ストリームをサポートします。
- 保留音 (MOH) サーバは Cisco IP Voice Media Streaming アプリケーションに含まれ、Cisco Unified Communications Manager とともにインストールされます。MOH サーバをアクティブにするには、Cisco Unified サービスアビリティ アプリケーションを使用します。メディア コンバージェンス サーバでアクティブにできる Cisco IP Voice Media Streaming アプリケーションは 1 つだけなので、サーバごとに有効にできる MOH サーバは 1 つだけです。ただし、Cisco IP Voice Media Streaming アプリケーションは複数のサーバでアクティブにできるので、クラスタ内の複数の MOH サーバに提供できます。
- 1 つの Cisco Unified Communications Manager クラスタでは、最大 50 のオーディオ ソースを定義できます。[Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] ウィンドウでは、各オーディオ ソースのインポート、追加、更新、および削除がサポートされています。保留音サーバは 1 つの固定入力ソースもサポートします。システムは、G.711 a-law/mu-law、G.729a、およびワイドバンドの各コーデックをサポートします。



(注) G.729a コーデックは、スピーチ用であるため、これを保留音の音楽に使用すると、十分な音質を提供できない可能性があります。

- 各クラスタは、ファイルからのオーディオ ソースを 50 まで定義でき、固定オーディオ ソースを 1 つ定義できます。[Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] ウィンドウでは、各オーディオ ソースの追加、更新、および削除がサポートされています。すべてのサーバは、50 以下の同じファイルのローカル コピーを使用します。固定オーディオ ソースは、各 MOH サーバに設定する必要があります。
- 各クラスタには、最大 20 の保留音サーバを定義できます。[Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] ウィンドウでは、保留音サーバを更新できます。MOH サーバは、サーバの追加時に自動的に追加されます。サーバを削除しない限り、MOH サーバは削除できません。このウィンドウで管理者は、各 MOH サーバに対して次の特性を指定できます。
 - 名前
 - ノード (サーバのホスト名)
 - デバイス プール
 - ユニキャストおよびマルチキャストのストリームの最大数
 - マルチキャストへのソース
 - 各マルチキャストのソース : IP アドレス、ポート、存続可能時間 (ルータ ホップの最大数)
- Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、クラスタあたり少なくとも 500 のメディア リソース グループを定義できます。各メディア リソース グループには、少なくとも 20 のメディア リソースの組み合わせを含めることができます。メディア リソースには、保留音サーバ、メディア ターミネーション ポイント、トランスコーダ、会議デバイスがあります。1 つのクラスタ内の保留音サーバは、少なくとも 10,000 の保留音ストリームを同時にサポートします。メディア リソース グループの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソース グループ」を参照してください。

- Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、メディア リソース グループ リストを定義できます。メディア リソース グループ リストの詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[メディア リソース グループ リスト](#)」を参照してください。
- Cisco Unified Communications Manager の管理ページの電話機およびゲートウェイ用のデバイス設定ウィンドウに対する変更では、デバイスのオプションのパラメータとして、メディア リソース グループ リスト、保留ストリーム ソース、打診ストリーム ソースを選択できます。
- Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウに対する変更では、ユーザ保留音源およびネットワーク保留音源を選択できます。
- Cisco Unified Communications Manager の管理ページのサービス パラメータに対する変更では、クラスタ全体の、デフォルトの保留音ストリーム ソース (デフォルトは 1 を指定)、およびデフォルトのメディア リソース グループの種類 (デフォルトはユニキャストを指定) を入力できます。
- 同じ MCS サーバ上でアナンシエータ、ソフトウェア MTP、またはソフトウェア会議ブリッジが使用中の場合は、保留音サーバが使用できるストリームの数が減ることがあります。
- メディア ターミネーション ポイント (MTP) が呼び出された場合、マルチキャスト保留音 (MOH) には次の制限が適用されます。マルチキャスト MOH を使用しているサイトのコールログで MTP リソースが呼び出された場合、発信者に保留音は聞こえず、無音状態になります。このシナリオを回避するには、マルチキャスト MOH の代わりに、ユニキャスト MOH または保留トーンを設定してください。
- CTI デバイスは、マルチキャスト保留音機能をサポートしていません。CTI デバイスが、そのメディア リソース グループ リストにあるマルチキャスト MOH デバイスで設定されている場合は、コール制御に関する問題が発生する可能性があります。CTI デバイスは、マルチキャスト メディア ストリーミングをサポートしていません。
- マルチキャスト MOH は、H.323 と SIP プロトコルとの相互運用性をサポートしません。
- 保留音のコンポーネントである IP Voice Media Streaming アプリケーションは IPv4 をサポートしています。Cisco Unified Communications Manager はマルチキャスト保留音の IPv6 をサポートしないため、[IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv6 のみ (IPv6 Only)] のデバイスはマルチキャスト保留音をサポートできません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は電話の保留時に音ではなくトーンを再生します。[IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv6 のみ (IPv6 Only)] で、ユニキャスト保留音を使用する電話機の場合、Cisco Unified Communications Manager は IPv4 を IPv6 (またはその逆) に変換できる MTP をメディア ストリームに挿入します。IPv6 の詳細については、「[インターネット プロトコル バージョン 6 \(IPv6\)](#)」(P.29-1) を参照してください。
- Cisco Unified Communications Manager が VMware での実行時には USB をサポートしないため、固定保留音デバイスでは Universal Serial Bus (USB) で接続するオーディオ ソースを指定できません。ただし、VMware では内部の保留音はサポートされます。
- Cisco Unified Communications Manager システムでは、Cisco Media Convergence Server (MCS) と Cisco Unified Computing System (UCS) のノードを混在させることができます。外部ソース (USB オーディオ ドングル) で保留音機能を使用する場合は、外部ソースから MOH を提供するノード用に MCS サーバを使用する必要があります。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.36-38) を参照してください。

保留音のフェールオーバーとフォールバック

保留音サーバは Cisco Unified Communications Manager リストをサポートし、ソフトウェア会議ブリッジおよびメディアターミネーションポイントによって実装されたフェールオーバーをサポートします。フェールオーバー中、システムは利用可能な場合はバックアップ Cisco Unified Communications Manager への接続を維持します。

アクティブな保留音セッション中に保留音サーバが故障した場合、Cisco Unified Communications Manager は特別な処理を行いません。保留にされた側は、この時点では何も受信しませんが、この状況は通常のコール機能には影響しません。

追加情報

「関連項目」(P.36-38) を参照してください。

保留音の設定

この項は、次の内容で構成されています。

- 「保留音オーディオソースの設定」(P.36-19)
- 「固定保留音オーディオソースの設定」(P.36-25)
- 「保留音サーバ設定」(P.36-27)
- 「保留音オーディオファイル管理の設定」(P.36-34)
- 「保留音サーバのパフォーマンスの表示」(P.36-37)
- 「サービス状態の確認」(P.36-38)



ヒント

保留音を設定する前に、「保留音の設定チェックリスト」(P.36-2)、「マルチキャストの設定チェックリスト」(P.36-3)、および「保留音のパフォーマンス監視の設定チェックリスト」(P.36-4) を確認してください。

保留音オーディオソースの設定

統合保留音機能には、ストリーミングソースからストリームされる音楽を使用して、ネット上およびネット外のユーザを保留にする機能があります。この機能では、次の動作があります。

- エンドユーザ保留。
- ネットワーク保留。これには、転送保留、会議保留、およびパーク保留が含まれます。

保留音の設定には、保留音オーディオソースの設定と保留音サーバの設定があります。

保留音オーディオソースを設定するには、次のトピックを参照してください。

- 「保留音オーディオソースの検索」(P.36-20)
- 「保留音オーディオソースの設定」(P.36-21)
- 「保留音オーディオソースの削除」(P.36-22)
- 「保留音オーディオソースの設定項目」(P.36-22)

追加情報

「関連項目」(P.36-38) を参照してください。

保留音オーディオ ソースの検索

ネットワーク上には複数の保留音オーディオ ソースが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、指定された条件に基づいて、保留音オーディオ ソースを検索できます。Cisco Unified Communications Manager データベースで特定の保留音オーディオ ソースを検索するには、次の手順を実行します。



(注)

ブラウザセッションでの作業中は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで保留音オーディオ ソースの検索プリファレンスが保持されます。他のメニュー項目に移動してこのメニュー項目に戻った場合でも、検索を変更するかブラウザを閉じない限り、保留音オーディオ ソースの検索プリファレンスは Cisco Unified Communications Manager の管理ページで保持されています。

手順

ステップ 1 [メディアリソース (Media Resources)] > [保留音オーディオソース (Music On Hold Audio Source)] を選択します。

[保留音サーバオーディオソースの検索と一覧表示 (Find and List Music On Hold Server Audio Sources)] ウィンドウが表示されます。ウィンドウには、アクティブな (前の) クエリーのレコードが表示される場合もあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空になっていることを確認し、**ステップ 3** に進みます。

特定のレコードをフィルタリングまたは検索するには、次の操作を実行します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスで、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索文字を入力します。



(注) 別の検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加した場合は、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして、最後に追加された条件を削除するか、または [フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加されたすべての検索条件を削除します。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

条件に一致するレコードがすべて表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスで別の値を選択すると、各ページに表示される項目数を変更できます。



(注) 適切なレコードの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、データベースから複数のレコードを削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 表示されたレコードリストから、目的のレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順を逆にするには、リストのヘッダーにある上矢印または下矢印をクリックします（使用可能な場合）。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.36-38) を参照してください。

保留音オーディオ ソースの設定

保留音オーディオ ソースを追加または更新するには、次の手順に従います。この手順では、既存のオーディオ ソースをオーディオストリーム番号と関連付けたり、新しいカスタム オーディオ ソースをアップロードしたりできます。



(注) 新しいバージョンのオーディオ ソース ファイルを利用可能な場合は、新しいバージョンを使用するためにこの更新手順を実行する必要があります。

手順

ステップ 1 [メディアリソース (Media Resources)] > [保留音オーディオソース (Music On Hold Audio Source)] を選択します。

[保留音サーバオーディオソースの検索と一覧表示 (Find and List Music On Hold Server Audio Sources)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの手順を実行します。

- 新しい保留音オーディオ ソースを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
[保留音オーディオソースの設定 (Music On Hold Audio Source Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- 保留音オーディオ ソースを更新するには、「[保留音オーディオ ソースの検索](#)」(P.36-20) の説明に従って、対象となる保留音オーディオ ソースを検索します。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 36-4 を参照)。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

保留音オーディオ ソースを追加すると、ウィンドウ下部のリスト ボックスに、その新しい保留音オーディオ ソースが表示されます。



(注) [MOH オーディオソースファイル状況 (MOH Audio Source File Status)] ペインでは、追加されたソースに対する MOH オーディオ トランスレーションの状態を知ることができます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.36-38) を参照してください。

保留音オーディオ ソースの削除

既存の保留音オーディオ ソースを削除するには、次の手順に従います。



(注)

削除しても、保留音オーディオ ソース ファイルが削除されるわけではありません。MOH オーディオ ストリーム番号との関連付けが解除されるだけです。

手順

- ステップ 1** [メディアリソース (Media Resources)] > [保留音オーディオソース (Music On Hold Audio Source)] を選択します。
- [保留音サーバオーディオソースの検索と一覧表示 (Find and List Music On Hold Server Audio Sources)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 特定の保留音オーディオ ソースを検索するには、検索条件を入力して [検索 (Find)] をクリックします。
- 検索条件と一致した保留音オーディオ ソースのリストが表示されます。
- ステップ 3** 次のいずれかの操作を実行します。
- 削除する保留音オーディオ ソースの横のチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
 - [すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすることにより、すべての保留音オーディオ ソースを削除します。
 - 削除する保留音オーディオ ソース名をリストから選択し、[削除 (Delete)] をクリックします。確認のダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 4** [OK] をクリックします。
- 選択した保留音オーディオ ソースとオーディオ ストリーム番号の関連付けが削除されます。

追加情報

「関連項目」(P.36-38) を参照してください。

保留音オーディオ ソースの設定項目

表 36-4 に、保留音オーディオ ソースの設定に使用する設定項目を示します。

表 36-4 保留音オーディオ ソースの設定項目

フィールド	説明
[保留音サーバオーディオソース情報 (Music On Hold Server Audio Source Information)]	
[MOH オーディオストリーム番号 (MOH Audio Stream Number)]	この MOH オーディオ ソースに対するストリーム番号を選択するには、このフィールドを使用します。値を設定するには、ドロップダウンの矢印をクリックして、表示されているリストから値を選択します。既存の MOH オーディオ ソースの場合、この値は [MOH オーディオソース (MOH Audio Sources)] タイトルに表示されます。

表 36-4 保留音オーディオソースの設定項目 (続き)

フィールド	説明
[MOH オーディオソースファイル (MOH Audio Source File)]	この MOH オーディオソースに対するファイルを選択するには、このフィールドを使用します。値を設定するには、ドロップダウンの矢印をクリックして、表示されているリストから値を選択します。
[MOH オーディオソース名 (MOH Audio Source Name)]	このフィールドには MOH オーディオソースの一意の名前を入力します。50 文字以内で名前を構成します。有効な文字は、英文字、数字、スペース、ダッシュ、ドット (ピリオド)、およびアンダースコアです。
[連続再生 (Play continuously、繰り返し)]	この MOH オーディオソースの連続再生を指定するには、このチェックボックスをオンにします。 (注) このチェックボックスをオンにすることをお勧めします。オーディオソースの連続再生が指定されていない場合、最初に保留状態になった側だけが MOH オーディオソースを受信し、追加の側では受信されません。
[マルチキャストの許可 (Allow Multicasting)]	この MOH オーディオソースがマルチキャストを許可することを指定するには、このチェックボックスをオンにします。
[MOH オーディオソースファイル状況 (MOH Audio Source File Status)]	このペインでは、選択した MOH オーディオソースのソースファイルに関する情報を表示します。1 つの MOH オーディオソースに対して、次の属性を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • [InputFileName] • [ErrorCode] • [ErrorText] • [DurationSeconds] • [DiskSpaceKB] • [LowDateTime] • [HighDateTime] • [OutputFileList] <ul style="list-style-type: none"> - ULAW wav ファイル名と状態 - ALAW wav ファイル名と状態 - G.729 wav ファイル名と状態 - ワイドバンド wav ファイル名と状態 • MOH オーディオ トランスレーション完了日

表 36-4 保留音オーディオ ソースの設定項目 (続き)

フィールド	説明
[MOH オーディオソース (MOH Audio Sources)]	
(MOH オーディオ ソースのリスト)	追加された各 MOH オーディオ ソースについて、このリストボックスに MOH オーディオ ソース名が表示されます。MOH オーディオ ソース名をクリックして、その MOH オーディオ ソースを設定します。
[ファイルのアップロード (Upload File)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスに表示されていない MOH オーディオ ソース ファイルをアップロードするには、[ファイルのアップロード (Upload File)] ボタンをクリックします。表示された [ファイルのアップロード (Upload File)] ポップアップ ウィンドウに、オーディオ ソース ファイルを指定するパスを入力します。パスとファイル名が不明な場合は、[ファイルのアップロード (Upload File)] フィールドの右側にある [参照 (Browse)] ボタンをクリックして、ファイルを検索します。目的のオーディオ ソース ファイルが見つかったら、[ファイルのアップロード (Upload File)] ボタンをクリックして、ファイルをアップロードします。オーディオ ファイルをアップロードすると、[アップロード結果 (Upload Result)] ウィンドウにアップロードの結果が示されます。[閉じる (Close)] をクリックして、ウィンドウを閉じます。</p> <p>(注) ファイルをアップロードすると、ファイルが Cisco Unified Communications Manager サーバにアップロードされ、オーディオ変換を行って MOH に適したコーデック対応オーディオ ファイルが作成されます。元のファイルのサイズに応じて、この処理には数分かかることがあります。</p> <p>(注) オーディオ ソース ファイルの MOH サーバへのアップロードでは、ファイルは 1 つの MOH サーバだけにアップロードされます。したがって、各サーバ上の Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して、クラスタ内の MOH サーバごとにオーディオ ソース ファイルをアップロードする必要があります。MOH オーディオ ソース ファイルは、自動的にクラスタ内の他の MOH サーバに適用されません。</p>

追加情報

「関連項目」(P.36-38) を参照してください。

固定保留音オーディオ ソースの設定

保留音サーバは、ファイル ストリーム ソースに加えて 1 つの固定デバイス ストリーム ソースをサポートします。このソースは固定オーディオ ソースであり、[固定 MOH オーディオソースの設定 (Fixed MOH Audio Source Configuration)] ウィンドウで設定されます。固定オーディオソースは、ローカル コンピュータのオーディオ ドライバを使用する固定デバイスをソースとします。

各クラスタに 1 つの固定オーディオ ソースを定義できます。固定オーディオ ソースは、クラスタ単位で各 MOH サーバに設定する必要があります。そのためには、別売の Cisco USB MOH サウンドアダプタが必要です。



(注) Cisco Unified Communications Manager が VMware での実行時には USB をサポートしないため、固定保留音デバイスでは Universal Serial Bus (USB) で接続するオーディオ ソースを指定できません。ただし、VMware では内部の保留音はサポートされます。

固定保留音オーディオ ソースを設定するには、次のトピックを参照してください。

- 「固定保留音 (MOH) オーディオ ソースの設定」 (P.36-25)
- 「固定保留音 (MOH) オーディオ ソースの削除」 (P.36-26)
- 「固定保留音 (MOH) オーディオ ソースの設定項目」 (P.36-26)

固定保留音 (MOH) オーディオ ソースの設定

固定保留音オーディオ ソースを設定するには、次の手順に従います。

手順

- ステップ 1** [メディアリソース (Media Resources)] > [固定 MOH オーディオソース (Fixed MOH Audio Source)] を選択します。
[固定 MOH オーディオソースの設定 (Fixed MOH Audio Source Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 固定保留音 (MOH) オーディオ ソースを設定し、有効にするには、表 36-5 の説明に従って適切な設定値を入力します。
- ステップ 3** [保存 (Save)] をクリックします。
[固定 MOH オーディオソースの設定 (Fixed MOH Audio Source Configuration)] ウィンドウが表示され、「更新に成功しました (Update Successful)」というステータス メッセージが表示されます。

追加情報

「関連項目」 (P.36-38) を参照してください。

固定保留音 (MOH) オーディオ ソースの削除

既存の固定保留音オーディオ ソースを削除するには、次の手順に従います。

手順

- ステップ 1** [メディアリソース (Media Resources)] > [固定 MOH オーディオソース (Fixed MOH Audio Source)] を選択します。
- [固定 MOH オーディオソースの設定 (Fixed MOH Audio Source Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 表示された固定 MOH オーディオ ソースが有効 ([有効 (Enable、チェックした場合、名前は必須)] チェックボックスがオン) であれば、その固定 MOH オーディオ ソースを削除できます。この固定 MOH オーディオ ソースを削除するには、[削除 (Delete)] をクリックします。確認のダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 3** [OK] をクリックします。
- 選択した固定保留音オーディオ ソースがデータベースから削除されます。

追加情報

「関連項目」(P.36-38) を参照してください。

固定保留音 (MOH) オーディオ ソースの設定項目

表 36-5 に、固定保留音 (MOH) オーディオ ソースの設定に使用する設定項目を示します。

表 36-5 固定保留音 (MOH) オーディオ ソースの設定項目

フィールド	説明
[固定 MOH オーディオソース情報 (Fixed MOH Audio Source Information)]	
[ソース ID(Source ID)]	このフィールドには、固定 MOH オーディオ ソースのストリーム番号が表示されます。
[名前 (Name)]	このフィールドに固定 MOH オーディオ ソースの一意の名前を入力します。50 文字以内で名前を構成します。有効な文字は、英文字、数字、スペース、ダッシュ、ドット (ピリオド)、およびアンダースコアです。 (注) Cisco Unified Communications Manager が VMware での実行時には USB をサポートしないため、固定保留音デバイスでは Universal Serial Bus (USB) で接続するオーディオ ソースを指定できません。ただし、VMware では内部の保留音はサポートされます。
[マルチキャストの許可 (Allow Multicasting)]	この固定 MOH オーディオ ソースがマルチキャストを許可することを指定するには、このチェックボックスをオンにします。
[有効 (Enable、チェックした場合、名前は必須)]	固定 MOH オーディオ ソースを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。

追加情報

「関連項目」(P.36-38) を参照してください。

保留音サーバ設定

メディア リソース グループの保留音用にサーバを設定できます。保留音サーバを設定するには、次のトピックを参照してください。

- 「保留音サーバの検索」 (P.36-27)
- 「保留音サーバの設定」 (P.36-28)
- 「保留音サーバのリセットまたは再起動」 (P.36-29)
- 「保留音サーバの同期化」 (P.36-29)
- 「保留音サーバの設定項目」 (P.36-30)

どの保留音サーバを設定する場合も、サーバの設定をトレースしてください。詳細については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。

追加情報

「関連項目」 (P.36-38) を参照してください。

保留音サーバの検索

ネットワーク上には複数の保留音サーバが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、特定の条件に基づいて、特定の保留音サーバを検索できます。保留音サーバを検索するには、次の手順に従います。

手順

-
- ステップ 1** [メディアリソース (Media Resources)] > [保留音サーバ (Music On Hold Server)] を選択します。[保留音サーバの検索と一覧表示 (Find and List Music On Hold Servers)] ウィンドウが表示されます。ウィンドウには、アクティブな (前の) クエリーのレコードが表示される場合もあります。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空になっていることを確認し、**ステップ 3** に進みます。
- 特定のレコードをフィルタリングまたは検索するには、次の操作を実行します。
- 最初のドロップダウン リスト ボックスで、検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて、適切な検索文字を入力します。



-
- (注)** 別の検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加した場合は、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして、最後に追加された条件を削除するか、または [フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加されたすべての検索条件を削除します。
-

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

条件に一致するレコードがすべて表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウンリストボックスで別の値を選択すると、各ページに表示される項目数を変更できます。



(注) 適切なレコードの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、データベースから複数のレコードを削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 表示されたレコードリストから、目的のレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順を逆にするには、リストのヘッダーにある上矢印または下矢印をクリックします (使用可能な場合)。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.36-38) を参照してください。

保留音サーバの設定

保留音サーバを更新するには、次の手順に従います。



(注) 保留音サーバの追加および削除はできません。

手順

ステップ 1 [メディアリソース (Media Resources)] > [保留音サーバ (Music On Hold Server)] を選択します。
[保留音サーバの検索と一覧表示 (Find and List Music On Hold Servers)] ウィンドウが表示されます。2つのドロップダウンリストボックスを使用して、保留音サーバを検索します。

ステップ 2 保留音サーバを更新するには、更新する保留音サーバをクリックします。[保留音 (MOH) サーバの設定 (Music On Hold (MOH) Server Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力するか更新します (表 36-6 を参照)。

ステップ 4 この保留音サーバを更新するには、[保存 (Save)] をクリックします。
データベース内の保留音サーバが更新されます。

追加情報

「関連項目」(P.36-38) を参照してください。

保留音サーバのリセットまたは再起動

既存の保留音サーバをリセットするには、次の手順に従います。

手順

-
- ステップ 1 「保留音サーバの検索」(P.36-27) の手順に従って、保留音サーバを検索します。
 - ステップ 2 リセットする保留音サーバをクリックします。
 - ステップ 3 [リセット (Reset)] ボタンをクリックします。
ポップアップ ウィンドウに情報メッセージが表示されます。
 - ステップ 4 メッセージを読んだ後に、[リスタート (Restart)] をクリックして保留音サーバを再起動するか、または [リセット (Reset)] をクリックしてサーバをリセットします。
 - ステップ 5 ポップアップ ウィンドウを閉じるには、[閉じる (Close)] をクリックします。
-

追加情報

「関連項目」(P.36-38) を参照してください。

保留音サーバの同期化

保留音サーバを最新の設定変更内容で同期化するには、次の手順を実行します。これにより、実行可能なもっとも簡単な方法で未適用の設定を適用できます（たとえば、影響を受けるデバイスでリセットや再起動が不要な場合もあります）。

手順

-
- ステップ 1 [メディアリソース (Media Resources)] > [保留音サーバ (Music On Hold Server)] を選択します。
[保留音サーバの検索と一覧表示 (Find and List Music On Hold Servers)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2 使用する検索条件を選択します。
 - ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。
ウィンドウに、検索条件と一致した保留音サーバのリストが表示されます。
 - ステップ 4 同期化する保留音サーバの横のチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内のすべての保留音サーバを選択するには、一致レコード タイトルバーのチェックボックスをオンにします。
 - ステップ 5 [選択項目への設定の適用 (Apply Config to Selected)] をクリックします。
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログボックスが表示されます。
 - ステップ 6 [OK] をクリックします。
-

追加情報

「関連項目」(P.36-38) を参照してください。

保留音サーバの設定項目

表 36-6 に、保留音サーバの構成に使用する設定項目を示します。

表 36-6 保留音サーバの設定項目

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[ホストサーバ (Host Server)]	既存の保留音サーバの場合、このフィールドは表示専用です。
[保留音サーバ名 (Music On Hold Server Name)]	この必須フィールドには保留音サーバの一意の名前を入力します。15 文字以内で名前を構成します。有効な文字は、英文字、数字、スペース、ダッシュ、ドット (ピリオド)、およびアンダースコアです。
[説明 (Description)]	保留音サーバの説明を入力します。50 文字まで入力できます。[説明 (Description)] には、アンパサンド (&)、二重引用符 (")、角カッコ ([])、小なり記号 (<)、大なり記号 (>)、またはパーセント記号 (%) を含めることはできません。
[デバイスプール (Device Pool)]	保留音サーバにデバイス プールを選択するには、この必須フィールドを使用します。ドロップダウンの矢印をクリックして、表示されているリストからデバイス プールを選択します。
[ロケーション (Location)]	<p>ロケーションは、集中型コール処理システムに Call Admission Control (CAC; コール アドミッション制御) を実装する際に使用します。CAC を使用すると、ロケーション間のリンクを経由する音声およびビデオ コールで利用可能な帯域幅の量を制限することによって、音声品質とビデオ アベイラビリティを制御できます。ロケーションは、このロケーションへのコールと、このロケーションからのコールで利用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、この MOH サーバに適したロケーションを選択します。</p> <p>ロケーション設定が <i>Hub None</i> の場合、ロケーション機能は、MOH サーバで消費される帯域幅を追跡しません。ロケーション設定が <i>Phantom</i> の場合、H.323 または SIP プロトコルを使用するクラスタ間トランクの間で適切な CAC を有効にするロケーションが指定されます。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム (System)] > [ロケーション (Location)] メニュー オプションを使用します。</p> <p>ロケーションの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「ロケーションの設定」を参照してください。クラスタ間トランクの間でのロケーションベースの CAC については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコール アドミッション制御」を参照してください。</p>

表 36-6 保留音サーバの設定項目 (続き)

フィールド	説明
[最大半二重ストリーム (Maximum Half Duplex Streams)]	この必須フィールドには、保留音サーバがサポートするユニキャスト保留音ストリームの最大数を入力します。この値は、ある時点でこの保留音サーバからストリームされるユニキャスト保留音を使用できるデバイスの最大数を決定します。有効な値の範囲は 0 ~ 500 です。
[最大マルチキャスト接続 (Maximum Multicast Connections)]	この必須フィールドには、保留音サーバがサポートするマルチキャスト保留音ストリームの最大数を入力します。この値は、ある時点でこの保留音サーバからストリームされるマルチキャスト保留音を使用できるデバイスの最大数を決定します。有効な値の範囲は 1 ~ 999999 です。
[固定オーディオソースデバイス (Fixed Audio Source Device)]	固定オーディオソースデバイスのデバイス名を入力します。このデバイスはサーバ単位のオーバーライドとして機能し、サーバに特別なサウンドデバイスがインストールされている場合に使用されます。

表 36-6 保留音サーバの設定項目 (続き)

フィールド	説明
[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、Cisco Unified Communications Manager が Trusted Relay Point (TRP; 信頼できるリレーポイント) のデバイスをこのメディア エンドポイントで挿入するかどうかについて、有効化または無効化を指定します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] : このデバイスでの TRP の使用を無効にする場合、この値を選択します。 • [オン (On)] : このデバイスでの TRP の使用を有効にする場合、この値を選択します。 <p>信頼できるリレーポイント (TRP) のデバイスとは、「信頼できるリレーポイント」というラベルが付けられている MTP デバイスまたはトランスコーダ デバイスのことを意味します。</p> <p>複数のリソースがエンドポイントに必要な場合 (たとえばトランスコーダや RSVPAgent)、Cisco Unified Communications Manager は関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を選択します。</p> <p>TRP と MTP の両方がエンドポイントに必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されます。コール機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager での TRP の挿入」を参照してください。</p> <p>TRP と RSVPAgent の両方がエンドポイントに必要な場合、Cisco Unified Communications Manager はまず、TRP としても使用可能な RSVPAgent を検索します。</p> <p>TRP とトランスコーダの両方がエンドポイントに必要な場合、Cisco Unified Communications Manager はまず、TRP としても指定可能なトランスコーダを検索します。</p> <p>ネットワーク仮想化および信頼できるリレーポイントの詳細な説明については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」の章の「信頼済みリレー ポイント」の項、およびそのサブトピックを参照してください。</p>
[実行フラグ (Run Flag)]	<p>保留音サーバに対応する実行フラグを選択するには、この必須フィールドを使用します。ドロップダウンの矢印をクリックして、[Yes] または [No] を選択します。[No] を選択すると、保留音サーバが無効になります。</p>

表 36-6 保留音サーバの設定項目 (続き)

フィールド	説明
[マルチキャストオーディオソース情報 (Multicast Audio Source Information)]	
[この MOH サーバでマルチキャストオーディオソースを有効にする (Enable Multicast Audio Sources on this MOH Server)]	<p>この保留音サーバに対応するオーディオソースのマルチキャストを有効または無効にするには、このチェックボックスをオンまたはオフにします。</p> <p>(注) この MOH サーバがマルチキャストメディアリソースグループに属している場合は、この MOH サーバでマルチキャストを有効にするかどうか、この MOH サーバの削除やリストにある各グループのマルチキャスト設定の変更によって指定したメディアリソースグループを更新するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。</p>
[基本マルチキャスト IP アドレス (Base Multicast IP Address)]	<p>マルチキャストサポートが必要な場合は、基本マルチキャスト IP アドレスをこのフィールドに入力します。マルチキャストに有効な IP アドレスは 224.0.1.0 ~ 239.255.255.255 です。</p> <p>(注) 224.0.1.0 ~ 238.255.255.255 の IP アドレスは、パブリックマルチキャストアプリケーションに予約されている IP マルチキャストアドレスの範囲に含まれません。このアドレスを使用すると、インターネット上の既存のマルチキャストアプリケーションと干渉する可能性があります。プライベートネットワーク上の、管理上制御されるアプリケーション用に予約されている範囲 (239.0.0.0 ~ 239.255.255.255) の IP アドレスを使用することを推奨します。</p>
[基本マルチキャストポート番号 (Base Multicast Port Number)]	<p>マルチキャストサポートが必要な場合は、ベースマルチキャストポート番号をこのフィールドに入力します。有効なマルチキャストポート番号は、16384 ~ 32766 の範囲の偶数です。</p>
[マルチキャストの追加 (Increment Multicast on)]	<p>ポート番号のマルチキャストを増やすには、[ポート番号 (Port Number)] をクリックします。</p> <p>IP アドレスのマルチキャストを増やすには、[IP アドレス (IP Address)] をクリックします。</p> <p>(注) ファイアウォールが存在する場合は、IP アドレスの増分によるマルチキャストを優先方式として使用します。この方法により、各マルチキャストオーディオソースは一意的な IP アドレスを持つことになり、ネットワークの飽和状態の回避に役立ちます。</p>

表 36-6 保留音サーバの設定項目 (続き)

フィールド	説明
[選択されたマルチキャストオーディオソース (Selected Multicast Audio Sources)]	
	<p>[マルチキャストの許可 (Allow Multicasting)] チェックボックスがオンになっているオーディオソースだけが、このリストに表示されます。表示されたオーディオソースがない場合は、次のメッセージが表示されます。</p> <p>マルチキャストが選択されている保留音オーディオソースはありません。ページの右上の [オーディオソースの設定 (Configure Audio Sources)] をクリックして、マルチキャストオーディオソースを選択してください。</p> <p>[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスで [オーディオソースの設定 (Configure Audio Sources)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。</p>
[番号 (No.)]	このフィールドは、特定のマルチキャストオーディオソースに関連付けられている保留音オーディオストリーム番号を示します。マルチキャストを許可するように定義されているオーディオソースだけが表示されます。
[オーディオソース名 (Audio Source Name)]	このフィールドは、マルチキャストを許可するように定義されているオーディオソースの名前を示します。
[最大ホップ (Max Hops)]	各マルチキャストオーディオソースに対して、マルチキャストパケットが通過できるルータホップの最大数を入力します。有効な値の範囲は、1 ~ 127 です。
	<p>(注) 大きな値を使用すると、ネットワークの飽和状態が発生することがあります。このフィールドは <i>Time to Live (存続可能時間)</i> としても識別されます。</p>

追加情報

「関連項目」(P.36-38) を参照してください。

保留音オーディオ ファイル管理の設定

保留音機能でオーディオソースとして使用されるオーディオファイルを管理できます。[メディアリソース (Media Resources)] > [MOH オーディオファイル (MOH Audio File Management)] メニュー オプションを使用すると、管理者は次の機能を実行できます。

- システムに格納されている MOH オーディオファイルのリストを表示する。
- 新しい MOH オーディオファイルをアップロードする。
- MOH オーディオファイルを削除する。

保留音オーディオソースのオーディオファイルを管理するには、次のトピックを参照してください。

- 「保留音オーディオファイルの表示」(P.36-35)
- 「保留音オーディオファイルのアップロード」(P.36-35)
- 「保留音オーディオファイルの削除」(P.36-36)

追加情報

「関連項目」(P.36-38) を参照してください。

保留音オーディオ ファイルの表示

システムに格納されている保留音オーディオ ファイルのリストを表示するには、次の手順に従います。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[メディアリソース (Media Resources)] > [MOH オーディオファイル (MOH Audio File Management)] を選択します。
- [保留音オーディオファイル管理 (Music On Hold Audio File Management)] ウィンドウが表示されます。
-

レコードリストのエントリごとに、次の情報が表示されます。

- チェックボックス：オーディオファイルが削除可能な場合は、表示されている最初のカラムにチェックボックスが表示されます。
- [ファイル名 (File Name)]：このカラムには、オーディオファイル名が表示されます。
- [長さ (Length)]：このカラムには、オーディオファイルの長さが分および秒単位で表示されます。
- [ファイル状況 (File Status)]：このカラムには、ファイル状況が表示されます。次の値があります。
 - [Translation Complete]：この状況にあるファイルは正常にアップロードされており、保留音オーディオソースのオーディオファイルとして使用できます。
 - [In Use]：このオーディオファイルを MOH オーディオソースファイルとして使用する保留音オーディオソースを追加すると、このオーディオファイルのファイル状況は [In Use] に変わります。このファイル状況のファイルは削除できません。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.36-38) を参照してください。

保留音オーディオ ファイルのアップロード

保留音オーディオファイルをアップロードするには、次の手順に従います。オーディオファイルをアップロードすると、保留音オーディオソースとして使用可能になります。[メディアリソース (Media Resources)] > [保留音オーディオソース (Music On Hold Audio Source)] メニューオプションを使用して新しいオーディオソースを追加すると、新しくアップロードしたオーディオファイルが [MOH オーディオソースファイル (MOH Audio Source File)] ドロップダウンリストボックスで使用可能になります。

手順

-
- ステップ 1** [メディアリソース (Media Resources)] > [MOH オーディオファイル (MOH Audio File Management)] を選択します。
- [保留音オーディオファイル管理 (Music On Hold Audio File Management)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [ファイルのアップロード (Upload File)] ボタンをクリックします。

[ファイルのアップロード (Upload File)] ポップアップ ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 次のいずれかのオプションを選択します。

- オーディオ ファイルを指定するファイルへのパスがわかっている場合は、[ファイル (File)] フィールドにパスを入力します。
- パスとファイル名が不明な場合は、[ファイル (File)] フィールドの右側にある [参照 (Browse)] ボタンをクリックして、オーディオ ファイルを検索します。オーディオ ファイルを検索したら、目的のオーディオ ファイルをクリックし、[開く (Open)] をクリックします。選択したオーディオ ファイルへのパスが、[ファイルのアップロード (Upload File)] ポップアップ ウィンドウの [ファイル (File)] フィールドに表示されます。

ステップ 4 指定したオーディオ ファイルをアップロードするには、[アップロード (Upload)] をクリックします。

オーディオ ファイルをアップロードすると、[アップロード結果 (Upload Result)] ウィンドウにアップロードの結果が示されます。



(注) ファイルをアップロードすると、ファイルが Cisco Unified Communications Manager サーバにアップロードされ、オーディオ変換を行って MOH に適したコーデック対応オーディオ ファイルが作成されます。元のファイルのサイズに応じて、この処理には数分かかることがあります。



(注) オーディオ ソース ファイルの MOH サーバへのアップロードでは、ファイルは 1 つの MOH サーバだけにアップロードされます。したがって、各サーバ上の Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して、クラスタ内の MOH サーバごとにオーディオ ソース ファイルをアップロードする必要があります。MOH オーディオ ソース ファイルは、自動的にクラスタ内の他の MOH サーバに適用されません。

ステップ 5 [アップロード結果 (Upload Result)] ウィンドウを閉じるには、[閉じる (Close)] をクリックします。

新しくアップロードしたオーディオ ファイルが、[保留音オーディオファイル管理 (Music On Hold Audio File Management)] ウィンドウのオーディオ ファイル リストに追加されます。

追加情報

「関連項目」(P.36-38) を参照してください。

保留音オーディオ ファイルの削除

既存の保留音オーディオ ファイルを削除するには、次の手順に従います。



(注) *In Use* 状態を示す MOH オーディオ ファイルは削除できません。このようなファイルを削除するには、最初に [メディアリソース (Media Resources)] > [保留音オーディオソース (Music On Hold Audio Source)] メニュー オプションを使用して、このオーディオ ファイルを使用する MOH オーディオ ソースを検索します。その MOH オーディオ ソースを削除するか、またはそのオーディオ ソースが別のオーディオ ファイルを使用するように変更します。

手順

ステップ 1 [メディアリソース (Media Resources)] > [MOH オーディオファイル (MOH Audio File Management)] を選択します。

[保留音オーディオファイル管理 (Music On Hold Audio File Management)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 削除する保留音オーディオ ファイルの左にあるチェックボックスをオンにします。



(注) 複数のオーディオ ファイルをクリックすると、複数のオーディオ ファイルを一度に削除できます。また、[すべてを選択 (Select All)] ボタンをクリックすると、すべてのオーディオ ファイルを削除対象に選択できます。選択したオーディオ ファイルを選択解除するには、[すべてをクリア (Clear All)] ボタンを使用します。

ステップ 3 [選択項目の削除 (Delete Selected)] ボタンをクリックします。

このファイルが完全に削除されることを警告するポップアップ ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 削除するには、[OK] をクリックします。

オーディオ ファイルが保留音オーディオ ファイルのリストから削除されます。

追加情報

「関連項目」(P.36-38) を参照してください。

保留音サーバのパフォーマンスの表示

保留音サーバの Perfmon カウンタを表示するには、Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool (RTMT) を使用します。

表 36-7 で、Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool の [Performance] ウィンドウに表示されるパフォーマンス モニタリング カウンタについて詳しく説明します。

表 36-7 保留音のパフォーマンス カウンタ

パフォーマンス カウンタ名	説明
MOHConnectionState	プライマリおよびセカンダリ Cisco Unified Communications Manager を示します。 <ul style="list-style-type: none"> 1 = プライマリ 2 = セカンダリ 0 = 接続されていない
MOHAudioSourcesActive	アクティブなオーディオ ソースの合計数を示します。サポートされている各コーデック タイプを含みます。オーディオ ソース 1 で mu-law および G.729 が有効な場合、このオーディオ ソースのカウントは 2 になります。

表 36-7 保留音のパフォーマンス カウンタ (続き)

パフォーマンス カウンタ名	説明
MOHStreamsActive	アクティブ ストリームの合計数を示します。2つの潜在的なオーバーヘッドストリームが各オーディオソース / コーデック タイプに対して存在します。1つは実際のオーディオソース用であり、もう1つはマルチキャスト用です。
MOHStreamsAvailable	利用可能なシンプレックス ストリームの合計数を示します。合計は、すべてのデバイスのデバイス ドライバで利用可能なストリームの合計数を表します。
MOHConnectionsLost	対応する Cisco Unified Communications Manager への接続が失われた回数の合計を示します。
MOHStreamsTotal	処理されるストリームの合計数を示します。

サービス状態の確認

保留音サービスが動作しているかどうかを確認するには、Performance Management を使用します。

追加情報

「関連項目」(P.36-38) を参照してください。

関連項目

- 「保留音の設定チェックリスト」(P.36-2)
- 「マルチキャストの設定チェックリスト」(P.36-3)
- 「保留音のパフォーマンス監視の設定チェックリスト」(P.36-4)
- 「保留音の概要」(P.36-4)
- 「保留音の定義」(P.36-4)
- 「保留音の特徴」(P.36-6)
- 「保留音の機能性」(P.36-7)
- 「サポートされている保留音機能」(P.36-8)
- 「保留音のシステム要件と制限」(P.36-17)
- 「保留音のフェールオーバーとフォールバック」(P.36-19)
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「メディア リソース グループの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「メディア リソース グループ リストの設定」

保留音オーディオ ソース

- 「保留音オーディオ ソース」(P.36-12)
- 「オーディオ ソース ファイルの格納」(P.36-13)
- 「オーディオ ソースの管理」(P.36-13)

- 「マルチキャストとユニキャストのオーディオ ソース」 (P.36-14)
- 「H.323 クラスタ間トランク経由のマルチキャスト保留音」 (P.36-16)
- 「マルチキャストの設定チェックリスト」 (P.36-3)
- 「保留音オーディオ ソースの検索」 (P.36-20)
- 「保留音オーディオ ソースの設定」 (P.36-21)
- 「保留音オーディオ ソースの削除」 (P.36-22)
- 「保留音オーディオ ソースの設定項目」 (P.36-22)

固定保留音オーディオ ソース

- 「固定保留音オーディオ ソースの設定」 (P.36-25)
- 「固定保留音 (MOH) オーディオ ソースの設定」 (P.36-25)
- 「固定保留音 (MOH) オーディオ ソースの削除」 (P.36-26)
- 「固定保留音 (MOH) オーディオ ソースの設定項目」 (P.36-26)

保留音サーバ

- 「保留音サーバ」 (P.36-11)
- 「サービス状態の確認」 (P.36-38)
- 「保留音サーバ設定」 (P.36-27)
- 「保留音サーバの検索」 (P.36-27)
- 「保留音サーバの設定」 (P.36-28)
- 「保留音サーバのリセットまたは再起動」 (P.36-29)
- 「保留音サーバの同期化」 (P.36-29)
- 「保留音サーバの設定項目」 (P.36-30)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「信頼済みリレー ポイント」

保留音オーディオ ファイル管理

- 「保留音オーディオ ファイル管理の設定」 (P.36-34)
- 「保留音オーディオ ファイルの表示」 (P.36-35)
- 「保留音オーディオ ファイルのアップロード」 (P.36-35)
- 「保留音オーディオ ファイルの削除」 (P.36-36)

参考資料

- 「インターネット プロトコルバージョン 6 (IPv6)」 (P.29-1)
- 『Cisco Unified Real Time Monitoring Tool Administration Guide』
- 『Installing Cisco Unified Communications Manager Release 8.5(1)』
- 『Upgrading Cisco Unified Communications Manager Release 8.5(1)』
- 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』

■ 関連項目



CHAPTER 37

プレゼンス

プレゼンス機能を使用すると、電話番号または SIP URI で別のユーザのリアルタイム ステータスを監視できます。

ここでは、次のトピックについて説明します。

- 「プレゼンスの設定チェックリスト」 (P.37-1)
- 「プレゼンスの概要」 (P.37-4)
- 「プレゼンスと電話機およびトランクの連動について」 (P.37-5)
- 「プレゼンスとルートリストの連動について」 (P.37-7)
- 「プレゼンス グループについて」 (P.37-8)
- 「プレゼンス許可について」 (P.37-11)
- 「SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースの動作について」 (P.37-12)
- 「システム要件」 (P.37-13)
- 「プレゼンス機能のインタラクションおよび制限事項」 (P.37-14)
- 「プレゼンスの設定」 (P.37-15)
- 「関連項目」 (P.37-26)

プレゼンスの設定チェックリスト

プレゼンス機能を使用すると、ユーザ（ウォッチャ）はウォッチャのデバイスから電話番号または SIP URI で別のユーザのリアルタイム ステータスを監視できます。ウォッチャは、次のオプションを使用して、ユーザのステータスを監視できます。

- BLF/ スピードダイヤル ボタン
- ディレクトリ ウィンドウ内の不在履歴、発信履歴、または着信履歴のリスト
- 社内ディレクトリなどの共有ディレクトリ



ヒント

次の説明では、電話機と SIP トランクが Cisco Unified Communications Manager データベースにあることを前提としています。電話機または SIP トランクを追加する方法については、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』を参照してください。

■ プレゼンスの設定チェックリスト

表 37-1 に、プレゼンス機能を設定するために実行する必要があるタスクを示します。

- プレゼンスのためにコール リスト電話機機能を設定するには、**ステップ 2** から **ステップ 7** を実行します。
- プレゼンスのために BLF/ スピード ダイヤル電話機機能を設定するには、**ステップ 3** および **ステップ 6** から **ステップ 10** を実行します。



(注) BLF/ スピード ダイヤルのためにプレゼンス グループまたは Default Inter-Presence Group Subscription パラメータを設定する必要はありません。

- 両方の機能を設定するには、チェックリストのすべての手順を実行します。

表 37-1 プレゼンス設定チェックリスト

設定手順	手順と関連項目
ステップ 1	まだ設定していない場合は、プレゼンス機能で使用する電話機および SIP トランクを設定してください。 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』
ステップ 2	BLF for Call Lists エンタープライズ パラメータを有効にします。 「プレゼンス サービス パラメータとエンタープライズ パラメータの設定」(P.37-15)
ステップ 3	Cisco Unified Communications Manager の管理ページでプレゼンスのためのクラスタ全体のサービス パラメータを設定します。 「プレゼンス サービス パラメータとエンタープライズ パラメータの設定」(P.37-15)
ステップ 4	プレゼンス グループ認証を使用するには、プレゼンス グループと権限を設定します。 「プレゼンス グループについて」(P.37-8) 「プレゼンス グループの検索」(P.37-17) 「プレゼンス グループの設定」(P.37-18) 「プレゼンス グループの設定項目」(P.37-19) 「プレゼンス グループとプレゼンス許可のヒント」(P.37-22)
ステップ 5	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、電話番号、SIP トランク、SIP を実行している電話機、SCCP を実行している電話機、エンド ユーザ、およびアプリケーション ユーザ (SIP トランクを介してプレゼンス要求を送信しているアプリケーション ユーザ) にプレゼンス グループを適用します。 「プレゼンス グループについて」(P.37-8) 「プレゼンス グループの適用」(P.37-21) 「プレゼンス グループとプレゼンス許可のヒント」(P.37-22)

表 37-1 プレゼンス設定チェックリスト (続き)

設定手順	手順と関連項目
<p>ステップ 6</p> <p>SIP トランクからのプレゼンス要求を許可するには、[SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] ウィンドウの [プレゼンスの SUBSCRIBE の許可 (Accept Presence Subscription)] チェックボックスをオンにします。</p> <p>トランク レベルの認証に加えて、SIP トランク アプリケーションに対してアプリケーションレベルの認証を有効にするには、[SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] ウィンドウで次のチェックボックスをオンにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ダイジェスト認証を有効化 (Enable Digest Authentication)] • [アプリケーションレベル認証を有効化 (Enable Application Level Authorization)] <p>(注) [ダイジェスト認証を有効化 (Enable Digest Authentication)] をオンにしないと、[アプリケーションレベル認証を有効化 (Enable Application Level Authorization)] をオンにできません。</p> <p>トランクにプロファイルを適用します。トランクをリセットし、変更を有効にします。</p> <p>[アプリケーションレベル認証を有効化 (Enable Application Level Authorization)] をオンにした場合は、アプリケーションの [アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウの [プレゼンスの SUBSCRIBE の許可 (Accept Presence Subscription)] チェックボックスをオンにします。</p>	<p>「プレゼンス許可について」 (P.37-11)</p> <p>「プレゼンス グループとプレゼンス許可のヒント」 (P.37-22)</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』の「SIP トランク セキュリティプロファイルの設定」</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「アプリケーションユーザの設定」</p>
<p>ステップ 7</p> <p>SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースを設定し、必要に応じて電話機、トランク、またはエンドユーザにコーリング サーチ スペースを適用します。</p>	<p>「SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースの動作について」 (P.37-12)</p> <p>「SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースの設定と適用」 (P.37-16)</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「コーリング サーチ スペースの設定」</p> <p>「プレゼンスとルートリストの連動について」 (P.37-7)</p>
<p>ステップ 8</p> <p>BLF/ スピードダイヤル ボタンの電話ボタン テンプレートをカスタマイズします。</p>	<p>「カスタマイズされた電話ボタン テンプレートでの BLF/ スピードダイヤル ボタンの設定」 (P.37-23)</p>

表 37-1 プレゼンス設定チェックリスト (続き)

設定手順	手順と関連項目	
ステップ 9	<p>まだ設定していない場合は、BLF/スピードダイヤル ボタンを追加する電話機を設定します。BLF/スピードダイヤル回線に対して設定する電話ボタンテンプレートを選択してください。</p>	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
ステップ 10	電話機またはユーザデバイスプロファイルに対して BLF/スピードダイヤル ボタンを設定します。	<p>「プレゼンスの概要」(P.37-4)</p> <p>「プレゼンスと電話機およびトランクの連動について」(P.37-5)</p> <p>「BLF/スピードダイヤル ボタンの設定」(P.37-24)</p> <p>「BLF/スピードダイヤルの設定項目」(P.37-24)</p>

プレゼンスの概要

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでプレゼンスを設定する場合、ウォッチャと呼ばれる関連ユーザは、ウォッチャのデバイスから電話番号または SIP URI のプレゼンスエンティティのリアルタイム ステータスを監視できます。



(注) SIP URI は、`xten3@CompB.cisco.com` または `2085017328@10.21.91.156:5060` のように、`user@host` 形式で構成されるコールの宛先を構成します。

ウォッチャは、次のオプションを使用して、プレゼンス エンティティ (プレゼンティティとも呼ばれる) のステータスを監視できます。

- BLF/スピードダイヤル ボタン
- ディレクトリ ウィンドウ内の不在履歴、発信履歴、または着信履歴のリスト
- 社内ディレクトリなどの共有ディレクトリ

コール リストおよびディレクトリは、既存のエントリの BLF ステータスを表示します。BLF/スピードダイヤル ボタンを設定すると、プレゼンス エンティティが、ウォッチャのデバイスでスピードダイヤルとして表示されます。



ヒント

プレゼンスをサポートし、SIP を実行している電話機では、BLF/スピードダイヤル ボタンとして電話番号または SIP URI を設定できます。プレゼンスをサポートし、SCCP を実行している電話機では、BLF/スピードダイヤル ボタンとして電話番号だけを設定できます。

電話機またはユーザ デバイス プロファイルに対して BLF/スピードダイヤル ボタンを設定します。BLF 値は、クラスタ上にある必要はありません。電話機に表示される Busy Lamp Field (BLF; ビジー ランプ フィールド) ステータス アイコンについては、ご使用の電話機をサポートする Cisco Unified IP Phone のマニュアルを参照してください。ご使用の電話機がプレゼンスをサポートしているかどうかを確認するには、その電話機とこのバージョンの Cisco Unified Communications Manager をサポートする Cisco Unified IP Phone のマニュアルを参照してください。

プレゼンス エンティティのステータスを表示するために、ウォッチャはプレゼンス要求を Cisco Unified Communications Manager に送信します。管理者がプレゼンス機能を設定した後に、ウォッチャのデバイスにリアルタイム ステータス アイコンが表示され、プレゼンス エンティティについて通話中、非通話中、ステータス不明などを示します。

エクステンション モビリティのユーザは、エクステンション モビリティをサポートする電話機で、プレゼンス機能を使用できます。

プレゼンス グループ認証によって、認証されたウォッチャだけが宛先のプレゼンス ステータスにアクセスできます。管理者は、BLF/ スピードダイヤルを設定するときに宛先を監視する権限をウォッチャに与えるので、プレゼンス グループ認証は BLF/ スピードダイヤルには適用されません。



(注)

SIP を実行している電話機の場合は、コール リストに表示される BLF/ スピードダイヤルとして設定された電話番号または SIP URI にもプレゼンス グループ認証が適用されません。

クラスタ外からのプレゼンス要求を許可するには、外部のトランクまたはアプリケーションからのプレゼンス要求を受け入れるように、管理者がシステムを設定する必要があります。プレゼンス グループをクラスタ外のトランクおよびアプリケーションに割り当て、プレゼンス グループ認証を呼び出すことができます。

SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースは、Cisco Unified Communications Manager がトランクまたは電話機からのプレゼンス要求をルーティングする方法を決定します。エンドユーザに関連付けられた SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースは、エクステンション モビリティ コールのために使用されます。

プレゼンスと電話機およびトランクの連動について



ヒント

この項の説明を参照する際には、「[プレゼンス グループについて](#)」(P.37-8)、「[プレゼンス許可について](#)」(P.37-11)、「[プレゼンスとルートリストの連動について](#)」(P.37-7)、および「[SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースの動作について](#)」(P.37-12) も参照してください。この項の説明は、電話機とトランクがプレゼンス エンティティ (プレゼンス グループで設定されている) のステータスを表示する権限を持っていることを前提としています。

Cisco Unified Communications Manager は、クラスタ内かクラスタ外かに関係なく、Cisco Unified Communications Manager ユーザに対するすべてのプレゼンス要求を処理します。

電話機とプレゼンス エンティティが同じ場所に設置されている場合、電話機を介してプレゼンス要求を送信する Cisco Unified Communications Manager ウォッチャに対して、Cisco Unified Communications Manager はプレゼンス ステータスで直接応答します。

デバイスがクラスタ外に存在する場合、Cisco Unified Communications Manager は SIP トランクを介して外部デバイスに照会します。ウォッチャが外部デバイスを監視する権限を持っている場合、SIP トランクは外部デバイスにプレゼンス要求を送信し、ウォッチャにプレゼンス ステータスを返します。

トランクを介してプレゼンス要求を送信する Cisco Unified Communications Manager 以外のウォッチャに対して、Cisco Unified Communications Manager は、そのプレゼンス エンティティをサポートしている場合に、プレゼンス ステータスで応答します。Cisco Unified Communications Manager Cisco Unified Communications Manager がそのプレゼンス エンティティをサポートしていない場合、要求は拒否されます。

次の例は、プレゼンス要求を送受信する権限を持っている電話機およびトランクに対して、プレゼンスがどのように動作するかを示しています。

Cisco Unified Communications Manager ユーザが別の Cisco Unified Communications Manager ユーザの BLF ステータスを照会する

Cisco Unified Communications Manager ユーザが別の Cisco Unified Communications Manager ユーザにコールしましたが、着信側のユーザは電話に出ることができませんでした。電話に出られるようになると、着信側は不在履歴のリストをチェックし、電話機が Cisco Unified Communications Manager に接続されます。Cisco Unified Communications Manager は、着信側が正当なウォッチャであることを検証し、発信側が Cisco Unified Communications Manager プレゼンス エンティティであることを確認します。発信者の BLF ステータスが、着信側のユーザの電話機で更新されます。

Cisco Unified Communications Manager ユーザが Cisco Unified Communications Manager 以外のユーザの BLF ステータスを照会する

Cisco Unified Communications Manager 以外のユーザが Cisco Unified Communications Manager ユーザにコールしましたが、その Cisco Unified Communications Manager ユーザは電話に出ることができませんでした。電話に出られるようになると、Cisco Unified Communications Manager ユーザは不在履歴のリストをチェックし、電話機が Cisco Unified Communications Manager に接続されます。Cisco Unified Communications Manager は、Cisco Unified Communications Manager ユーザが正当なウォッチャであることを検証し、Cisco Unified Communications Manager 以外のユーザがプレゼンス エンティティであることを確認します。SIP トランクは、Cisco Unified Communications Manager 以外のネットワークおよび Cisco Unified Communications Manager と対話し、Cisco Unified Communications Manager 以外のユーザのステータスは、Cisco Unified Communications Manager ユーザの電話機で更新されます。

Cisco Unified Communications Manager 以外のユーザが Cisco Unified Communications Manager ユーザのプレゼンス ステータスを照会する

Cisco Unified Communications Manager 以外のユーザが、Cisco Unified Communications Manager ユーザの状態を照会します。この要求は、Cisco Unified Communications Manager SIP トランクを介して送信されます。Cisco Unified Communications Manager は、その Cisco Unified Communications Manager 以外のユーザが正当なウォッチャであることを検証し、Cisco Unified Communications Manager ユーザが Cisco Unified Communications Manager プレゼンス エンティティであることを確認します。Cisco Unified Communications Manager は、Cisco Unified Communications Manager 以外のユーザの電話機にステータスを送信します。

BLF ステータスを取得するために Cisco Unified Communications Manager が社内ディレクトリにアクセスする

Cisco Unified Communications Manager ユーザは、電話機の社内ディレクトリにアクセスします。ディレクトリ エントリごとに、BLF ステータスが表示されます。

電話機が BLF/ スピード ダイヤルを監視する

管理者がプレゼンス機能と BLF/ スピード ダイヤル ボタンを設定した後に、ユーザはプレゼンス エンティティのリアルタイム ステータスの監視をすぐに開始できます。

プレゼンスとルートリストの連動について



ヒント

この項の説明を参照する際には、「[プレゼンスと電話機およびトランクの連動について](#)」(P.37-5)、「[プレゼンスグループについて](#)」(P.37-8)、「[プレゼンス許可について](#)」(P.37-11)、および「[SUBSCRIBE コーリングサーチスペースの動作について](#)」(P.37-12)も参照してください。

Cisco Unified Communications Manager は、ウォッチャからプレゼンス要求を受信し、プレゼンス エンティティからステータス応答を受信します。ウォッチャとプレゼンス エンティティは、クラスタ内またはクラスタ外に存在できます。

Cisco Unified Communications Manager は、SIP トランクを介した外部着信および発信プレゼンス要求をサポートしています。SIP トランクは、ルートリストのメンバであるルートグループのメンバにすることができます。Cisco Unified Communications Manager が発信 SIP トランクまたはルートグループに関連付けられたプレゼンス要求または通知ステータスを受信した場合、Cisco はその要求またはステータスを SIP トランクに転送します。



(注)

プレゼンス要求および応答は、SIP トランク、または SIP トランクに関連付けられたルートにルーティングする必要があります。MGCP/H323 トランク デバイスにルーティングされるプレゼンス要求は拒否されます。

要求がルートグループまたはリストに転送された場合、そのグループまたはリスト内の SIP トランクはその要求を伝送できます。Cisco Unified Communications Manager は、そのグループまたはリストで次に使用可能か、またはアイドル状態の発信 SIP トランクに要求を転送します。このプロセスは、Cisco Unified Communications Manager が正常な応答を受信するか、処理が失敗するまで繰り返されます。

外部プレゼンティティへのプレゼンス要求が成功した後に、SIP トランクはそのプレゼンティティに対するステータスの変更に基づく通知メッセージを受信し、ウォッチャに通知するためにルートリスト/グループにそのステータスを送信します。異なるウォッチャが、ルートリスト/グループおよび SIP トランクを介して到達される同じプレゼンティティにプレゼンス要求を送信した場合、Cisco Unified Communications Manager は別の登録を作成せずに、プレゼンティティのキャッシュされたステータスを登録者に送信します。

プレゼンティティは、タイムアウトまたはその他の理由のためにいつでも登録を解除できます。SIP トランクが解除ステータスを受信した場合、その解除ステータスはウォッチャに通知するためにルートリストまたはグループに渡されます。

ルートリストの設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[ルートリストの設定](#)」の章を参照してください。

プレゼンス グループについて



ヒント

Cisco CallManager サービスの Default Inter-Presence Group Subscription サービス パラメータは、プレゼンス グループのクラスタ全体の権限パラメータを [Allow Subscription] または [Disallow Subscription] に設定します。この設定により、管理者はシステム デフォルトを設定し、クラスタのデフォルト設定を使用してプレゼンス グループの関係を設定できます。このサービス パラメータの設定については、「[プレゼンス サービス パラメータとエンタープライズ パラメータの設定](#)」(P.37-15) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager では、ウォッチャが監視できる宛先を制御するために、プレゼンス グループを設定できます。プレゼンス グループを設定するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでグループを作成し、同じグループに 1 つ以上の宛先とウォッチャを割り当てます。



(注)

同じプレゼンス グループ内のプレゼンス要求は常に許可されます。

[プレゼンスグループの設定 (Presence Group Configuration)] ウィンドウのドロップダウン リストから、次のいずれかの権限を使用して、その他のプレゼンス グループに対する関係を指定する必要があります。

- [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] : 権限の設定用として Default Inter-Presence Group Subscription サービス パラメータ ([Allow Subscription] または [Disallow Subscription]) 設定を使用するには、グループを選択し、[登録許可 (Subscription Permission)] を [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] に設定します。
- [登録の許可 (Allow Subscription)] : このグループのウォッチャに対して、別のグループのメンバを監視することを許可するには、グループを選択し、[登録許可 (Subscription Permission)] を [登録の許可 (Allow Subscription)] に設定します。
- [登録の拒否 (Disallow Subscription)] : このグループのウォッチャに対して、別のグループのメンバを監視することを禁止するには、グループを選択し、[登録許可 (Subscription Permission)] を [登録の拒否 (Disallow Subscription)] に設定します。



ヒント

新しいプレゼンス グループを追加するたびに、Cisco Unified Communications Manager は初期権限設定としてデフォルトのクラスタ設定を使用して、新しいグループに対するすべてのグループ関係を定義します。別の権限を適用するには、変更する各権限について、新しいグループと既存のグループ間で新しい権限を設定します。

プレゼンス グループに対して設定した権限は、[プレゼンスグループの関係 (Presence Group Relationship)] ペインに表示されます。グループ間の関係に対してシステムのデフォルト権限設定を使用する権限は表示されません。

例：プレゼンス グループ権限の設定

Default Inter-Presence Group Subscription のクラスタ全体の設定が [Disallow Subscription] に設定されているとします。2 つのプレゼンス グループ、グループ A (従業員) とグループ B (マネージャ) を作成します。グループ B のメンバによるグループ A のメンバの監視を許可し、グループ B のメンバによるグループ A のメンバの監視を禁止する場合は、グループ B からグループ A に対して [Allow Subscription] を設定します (システムのデフォルトは [Disallow Subscription] であるため、Default Inter-Presence Group Subscription サービス設定を変更しない限り、グループ A はグループ B に対する登録をすでに禁止されています)。

Cisco Unified Communications Manager は、インストール時に Standard Presence グループを自動的に作成します。このグループは、プレゼンス ユーザのデフォルトグループとして機能します。すべてのプレゼンス ユーザ（アプリケーション ユーザを除く）は、初めに Standard Presence グループに割り当てられます。このグループは削除できません。



(注)

すべてのアプリケーション ユーザが SIP トランクを使用したり、プレゼンス要求を開始したりするわけではないため、アプリケーション ユーザのデフォルト設定は [なし (None)] に指定されています。アプリケーション ユーザを Standard Presence グループに割り当てるには、管理者がこのオプションを設定する必要があります。

作成する各プレゼンス グループに対して、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで次の 1 つ以上の項目に対してプレゼンス グループを適用します（表 37-2 を参照）。

表 37-2 プレゼンス グループの適用

プレゼンス グループの適用先	プレゼンス エンティティまたはウォッチャ	備考
電話番号	プレゼンス エンティティ	SIP または SCCP のいずれかを実行している電話機
トランク	ウォッチャおよびプレゼンス エンティティ	SIP トランク上で接続される SIP トランク、またはプロキシサーバを介してプレゼンス要求を送信する外部プレゼンスサーバ（ウォッチャとして機能） SIP トランクに対する発信プレゼンス要求（プレゼンス エンティティとして機能）
電話機	ウォッチャ	SIP または SCCP のいずれかを実行している電話機
アプリケーション ユーザ	ウォッチャ	SIP トランク上で接続される SIP トランクまたはプロキシサーバを介してプレゼンス要求を送信する外部アプリケーション（たとえば、Web Dial、IPPM、Meeting Place、会議サーバ、プレゼンスサーバ）
エンド ユーザ	ウォッチャ	ユーザディレクトリとコールリスト、およびエクステンションモビリティの設定のため

注 1 : 電話機がウォッチャとして機能します。電話機の回線は、ウォッチャとして機能できません。

注 2 : BLF/ スピードダイヤルのためにプレゼンス グループをプロビジョニングする必要はありません。



ヒント

SIP トランクを介したプレゼンス要求の追加要件については、「[プレゼンス許可について](#)」(P.37-11) を参照してください。

次の例では、電話機またはトランクが異なるプレゼンス グループおよび権限を使用して宛先ステータスを取得する方法を説明します。

BLF/ スピード ダイヤルに割り当てられた電話番号に関するステータスを電話機が要求する場合

電話機 B と同じ場所に設置されている電話機 A には、電話機 B のプレゼンス ステータスを監視するために、BLF/ スピード ダイヤル ボタンとして電話番号 1111 (電話機 B) が設定されています。電話機 A は、電話番号 1111 のリアルタイム ステータスを受信し、BLF/ スピード ダイヤル ボタンの横にステータス アイコンを表示します。プレゼンス グループ認証は実行されません。

コール リストの電話番号に関するステータスを電話機が要求する場合

プレゼンス グループの User Group に設定されている電話機 A の [不在履歴] コール リストには 1111 があります。電話機 B の電話番号 1111 には、プレゼンス グループ Executive Group が設定されています。[プレゼンスグループの設定 (Presence Group Configuration)] ウィンドウには、[プレゼンスグループの関係 (Presence Group Relationship)] ペインでの指定に従って、User Group と Executive Group 間の関係は [登録の拒否 (Disallow Subscription)] であることが示されます。電話機 A は、電話番号 1111 のリアルタイム ステータスを受信できず、[不在履歴] リスト エントリの横にリアルタイム ステータス アイコンを表示しません。

Cisco Unified Communications Manager の電話番号に関するステータスを、SIP トランクに接続された SIP プロキシ サーバが要求する場合

次の例では、異なるプレゼンス グループが SIP トランクおよび電話番号に対して設定された場合に、SIP トランクが電話番号のステータスを取得する方法を説明します。SIP プロキシ サーバ D は、SIP トランク C を使用して、電話番号 5555 のステータスを取得するために Cisco Unified Communications Manager に接続します。これは、電話番号 5555 が、プロキシ サーバに接続し、SIP を実行している電話機 E の BLF/ スピード ダイヤル ボタンとして存在しているためです。SIP トランクは、プレゼンス グループの Administrator Group に設定され、電話番号 5555 は Engineering Group に割り当てられていることを示します。[プレゼンスグループの設定 (Presence Group Configuration)] ウィンドウには、[プレゼンスグループの関係 (Presence Group Relationship)] ペインでの指定に従って、Administrator Group と Engineering Group 間の関係は [登録の許可 (Allow Subscription)] であることが示されます。Cisco Unified Communications Manager は、電話番号のステータスをこのトランクに送信し、このトランクはそのステータスを SIP プロキシ サーバ D に渡します。SIP を実行している電話機 E は、電話番号 5555 のリアルタイム ステータスを受信し、BLF/ スピード ダイヤル ボタンの横にリアルタイム ステータス アイコンを表示します。

プレゼンス許可について



ヒント

この項の説明を参照する際には、「[プレゼンスと電話機およびトランクの連動について](#)」(P.37-5)、「[プレゼンスグループについて](#)」(P.37-8)、および「[SUBSCRIBE コーリング検索スペースの動作について](#)」(P.37-12)も参照してください。

プレゼンス エンティティのステータスを表示するために、ウォッチャはプレゼンス要求を Cisco Unified Communications Manager に送信します。システムでは、これらのメカニズムを使用してプレゼンス エンティティに対するステータス要求を開始することをウォッチャに許可する必要があります。

- ウォッチャのプレゼンス グループには、クラスタ内かクラスタ外かに関係なく、プレゼンス エンティティのプレゼンス グループに関するステータスを取得するための認証が必要です。
- Cisco Unified Communications Manager には、外部プレゼンス サーバまたはアプリケーションからプレゼンス要求を受け入れるための認証が必要です。



(注)

認証処理は、プレゼンス要求に対するコーリング検索スペースルーティングから独立しています。

プレゼンスグループ認証を開始するには、1 つ以上のプレゼンスグループを設定し、適切な権限を割り当てる必要があります。管理者はプレゼンスグループの権限を設定し、ウォッチャのプレゼンスグループが他のグループのメンバのステータスを監視できる場合を指定します。プレゼンス要求を検証するために、Cisco Unified Communications Manager は、設定されたプレゼンスグループに割り当てられた権限を使用して、データベースルックアップを実行します。

プレゼンスグループ認証を使用しないことを選択する場合は、すべてのプレゼンスユーザをデフォルトのプレゼンスグループに割り当てたままにし、追加のグループまたは権限を設定しないでください。ただし、外部プレゼンスサーバまたはアプリケーションから着信プレゼンス要求を受け入れることを Cisco Unified Communications Manager に許可する場合は、SIP トランクまたはアプリケーションに対して権限を設定する必要があります。



ヒント

管理者は、BLF/スピードダイヤルボタンを追加または変更する場合、その宛先を監視する権限をウォッチャに与える必要があります。

管理者は、SIP トランクおよびアプリケーションユーザに対するパラメータを設定し、SIP トランクを介して着信するプレゼンス要求を受け入れるように Cisco Unified Communications Manager システムを設定します。

SIP トランクからの着信プレゼンス要求を受け入れることを Cisco Unified Communications Manager システムに許可するには、[SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] ウィンドウの [プレゼンスの SUBSCRIBE の許可 (Accept Presence Subscription)] チェックボックスをオンにします (SIP トランク上の着信プレゼンス要求を禁止するには、チェックボックスをオフにします)。SIP トランクプレゼンス要求が許可されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、そのトランクに接続する SIP ユーザエージェント (SIP プロキシサーバまたは外部プレゼンスサーバ) からの要求を受け入れます。SIP トランクからのプレゼンス要求を受け入れるように Cisco Unified Communications Manager を設定する場合には、オプションとしてダイジェスト認証を検討してください。



ヒント

SIP トランク上の着信プレゼンス要求でプレゼンス グループ認証を使用するには、トランクに対してプレゼンス グループ（たとえば、External_Presence_Serv_Group1）を設定し、クラスタ内のその他のグループに対して適切な権限を設定します。

SIP トランクに接続する外部アプリケーションからのプレゼンス要求を受け入れることを Cisco Unified Communications Manager システムに許可するには、[SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] GUI の [アプリケーションレベル認証を有効化 (Enable Application Level Authorization)] チェックボックスと、アプリケーションの [アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウの [プレゼンスの SUBSCRIBE の許可 (Accept Presence Subscription)] チェックボックスをオンにします。アプリケーション ユーザからのプレゼンス要求を受け入れるように Cisco Unified Communications Manager システムを設定した場合、Cisco Unified Communications Manager は、SIP トランク上で受信した各プレゼンス要求を受け入れる前に検証します。



ヒント

SIP トランク アプリケーションからの着信プレゼンス要求でプレゼンス グループ認証を使用するには、アプリケーションに対してプレゼンス グループ（たとえば、Presence_User）を設定し、クラスタ内のその他のグループに対して適切な権限を設定します。

SIP トランク プレゼンス要求に対して両方のレベルの認証を設定した場合、SIP トランクのプレゼンス グループは、アプリケーションの着信要求でプレゼンス グループが識別されなかった場合だけに使用されます。

アプリケーション認証が発生する前に、Cisco Unified Communications Manager は、初めにダイジェスト認証を使用して外部アプリケーションを認証する必要があります。[ダイジェスト認証を有効化 (Enable Digest Authentication)] をオンにしないと、[アプリケーションレベル認証を有効化 (Enable Application Level Authorization)] をオンにできません。



(注)

認証はトランクで成功し、アプリケーションで失敗することがあります。プレゼンス許可を設定する場合の追加の検討事項については、「[プレゼンス グループとプレゼンス許可のヒント](#)」(P.37-22) を参照してください。

認証と許可の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。

SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースの動作について

SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースは、Cisco Unified Communications Manager がトランクまたは電話機からのプレゼンス要求をルーティングする方法を決定します。ウォッチャに関連付けられた SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースは、プレゼンス要求のプレゼンス エンティティへのルーティング情報を検索するパーティションのリストを指定します。

特にこの目的のためにコーリング サーチ スペースを設定するには、すべてのコーリング サーチ スペースと同様にコーリング サーチ スペースを設定します ([コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)])。コーリング サーチ スペースの設定方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「[コーリング サーチ スペースの設定](#)」の章を参照してください。

[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] オプションを使用すると、プレゼンス要求に対してコールを処理するコーリングサーチスペースとは別個のコーリングサーチスペースを適用できます。プレゼンス要求に対して異なるコーリングサーチスペースを選択しない場合、[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] はデフォルトで [なし (None)] になります。

SIP トランク、電話機、またはエンドユーザに対して SUBSCRIBE コーリングサーチスペースを適用します。エンドユーザに関連付けられた SUBSCRIBE コーリングサーチスペースは、エクステンション モビリティ コールのために使用されます。

プレゼンスとエクステンション モビリティの連動について



ヒント

この項の説明を参照する際には、「[プレゼンスグループについて](#)」(P.37-8)、「[プレゼンス許可について](#)」(P.37-11)、および「[SUBSCRIBE コーリングサーチスペースの動作について](#)」(P.37-12) も参照してください。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページのユーザ デバイス プロファイルで BLF/ スピードダイヤル ボタンを設定する場合、Cisco エクステンション モビリティをサポートしている電話機は、デバイスにログインした後に、BLF/ スピードダイヤル ボタン上にプレゼンス ステータスを表示できます。ユーザに対して設定された SUBSCRIBE コーリングサーチスペースとプレゼンスグループが適用されます。

エクステンション モビリティ ユーザがログアウトしたときに、Cisco エクステンション モビリティをサポートする電話機は、設定されたログアウト プロファイルに対して BLF/ スピードダイヤル ボタン上にプレゼンス ステータスを表示します。ログアウト プロファイルに対してユーザ デバイス プロファイルが設定されている場合は、そのユーザに対して設定された SUBSCRIBE コーリングサーチスペースとプレゼンスグループが適用されます。



ヒント

デバイス プロファイルの設定の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[デバイス プロファイルの設定](#)」の章を参照してください。

システム要件

Cisco Unified Communications Manager のプレゼンス機能には、次のシステム要件があります。

- クラスタ内の各サーバに Cisco Unified Communications Manager 8.0(2) (以降) が必要です。
- プレゼンスまたは Busy Lamp Field (BLF; ビジー ランプ フィールド) をサポートする Cisco Unified IP Phone モデルを識別するには、Cisco Unified Reporting で Unified CM Phone 機能一覧レポートを生成します。このレポートを生成するには、[BLF Speed Dial]、[BLF Speed Dial with URI]、または [Presence Subscription] を選択します。

プレゼンス機能のインタラクションおよび制限事項

プレゼンス機能には、次のインタラクションと制限事項があります。

- Cisco Unified Communications Manager Assistant は、SIP プレゼンスをサポートしていません。
- Cisco Unified Communications Manager は、ハント リストに関連付けられた電話番号へのインバウンドプレゼンス要求をサポートしています。
- Cisco Unified Communications Manager は、ハント パイロットに関連付けられた電話番号へのプレゼンス要求を拒否します。
- コール リスト機能の BLF は、Cisco Unified IP Phone 7940 および Cisco Unified IP Phone 7960 ではサポートされていません。
- 管理者は、BLF/ スピードダイヤルを設定するときに宛先を監視する権限をウォッチャに与えるので、プレゼンス グループ認証は BLF/ スピードダイヤルには適用されません。SIP を実行している電話機の場合は、コール リストに表示される BLF/ スピードダイヤルとして設定された電話番号または SIP URI にもプレゼンス グループ認証が適用されません。
- 回線が複数ある Cisco Unified IP Phone では、電話機はプレゼンス許可を判断するために、不在履歴と発信履歴の回線電話番号に関連付けられたキャッシュ情報を使用します。このコール情報が存在しない場合、電話機はプレゼンス許可の登録者としてプライマリ回線を使用します。複数の回線がある Cisco Unified IP Phone の BLF/ スピードダイヤル ボタンでは、電話機は登録者として最初に利用可能な回線を使用します。
- SIP を実行している Cisco Unified IP Phone 7960、7940、7905、および 7912 に対して設定された電話番号を監視する場合は、プレゼンティティがオフフックのときに（ただしコール接続状態ではない）、ウォッチャのデバイスに「非通話中」のステータスアイコンが表示されます。これらの電話機は、オフフック ステータスを検出しません。その他のすべての電話機タイプでは、プレゼンティティのオフフック状態に対して、ウォッチャのデバイスに「通話中」のステータスアイコンが表示されます。
- BLF は BAT 電話テンプレートで設定できます。

次の制限事項は、H.323 電話機がプレゼンティティとして機能している場合に、H.323 電話機の DN と Presence BLF のインタラクションに適用されます。

- H.323 電話機が呼び出し状態にある場合、BLF ステータスは「話中」としてレポートされます（SCCP または SIP のいずれかを実行し、呼び出し状態にある電話機のプレゼンティティでは、BLF ステータスは「アイドル」としてレポートされます）。
- イーサネット ケーブルが電話機から外れている場合など、何らかの理由のために H.323 電話機が Cisco Unified Communications Manager に接続されていない場合、BLF ステータスは常に「アイドル」としてレポートされます（SCCP または SIP のいずれかを実行し、Cisco Unified Communications Manager に接続されていない電話機のプレゼンティティでは、BLF ステータスは「不明」としてレポートされます）。

プレゼンスの設定

この項は、次の内容で構成されています。

- 「プレゼンス サービス パラメータとエンタープライズ パラメータの設定」 (P.37-15)
- 「SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースの設定と適用」 (P.37-16)
- 「プレゼンス グループの検索」 (P.37-17)
- 「プレゼンス グループの設定」 (P.37-18)
- 「プレゼンス グループの設定項目」 (P.37-19)
- 「プレゼンス グループの削除」 (P.37-20)
- 「プレゼンス グループの適用」 (P.37-21)
- 「プレゼンス グループとプレゼンス許可のヒント」 (P.37-22)
- 「カスタマイズされた電話ボタン テンプレートでの BLF/ スピード ダイヤル ボタンの設定」 (P.37-23)
- 「BLF/ スピード ダイヤル ボタンの設定」 (P.37-24)
- 「BLF/ スピード ダイヤルの設定項目」 (P.37-24)



ヒント

プレゼンスを設定する前に、「[プレゼンスの設定チェックリスト](#)」 (P.37-1) を確認してください。

プレゼンス サービス パラメータとエンタープライズ パラメータの設定

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでプレゼンス エンタープライズ パラメータ (たとえば、BLF For Call Lists パラメータ) を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。各パラメータの詳細については、[エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ウィンドウに表示される疑問符をクリックするか、パラメータ名のリンクをクリックしてください。

プレゼンス サービス パラメータ (たとえば、Default Inter-Presence Group Subscription パラメータ) を設定するには、次の手順を実行します。



ヒント

Default Inter-Presence Group Subscription パラメータは、BLF/ スピード ダイヤルには適用されません。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。
- ステップ 2** ドロップダウン リスト ボックスから、パラメータを設定するサーバを選択します。
- ステップ 3** [サービス (Service)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Cisco CallManager (Active)] サービスを選択します。
サービスが「Active」と表示されていない場合は、そのサービスを Cisco Unified サービスアビリティ でアクティブにします。
- ステップ 4** プレゼンス機能に対するクラスタ全体のサービス パラメータを探します。



ヒント 各パラメータの詳細については、パラメータ名をクリックするか、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウに表示される疑問符をクリックしてください。

ステップ 5 パラメータ値を更新します。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.37-26) を参照してください。

SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースの設定と適用

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定するすべてのコーリング サーチ スペースは、[トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウまたは[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] ドロップダウンリストボックスに表示されます。

SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースは、Cisco Unified Communications Manager がトランクまたは電話機からのプレゼンス要求をルーティングする方法を決定します。プレゼンス要求に対して異なるコーリング サーチ スペースを選択しない場合、[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] はデフォルトで [なし (None)] になります。

特にこの目的のためにコーリング サーチ スペースを設定するには、すべてのコーリング サーチ スペースと同様にコーリング サーチ スペースを設定します ([コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)])。コーリング サーチ スペースの設定方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[コーリング サーチ スペースの設定](#)」の章を参照してください。

SIP トランク、電話機、またはエンド ユーザに対して SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースを適用するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 次のいずれかの手順を実行します。

- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[Cisco Unified IP Phone の設定](#)」の章の説明に従って、電話機を検索します。
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[トランクの設定](#)」の章の説明に従って、SIP トランクを検索します。
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[エンド ユーザの設定](#)」の章の説明に従って、エンド ユーザを検索します。

ステップ 2 設定ウィンドウが表示されたら、[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] ドロップダウンリストボックスからコーリング サーチ スペースを選択します。

ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 4 [リセット (Reset)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.37-26) を参照してください。

プレゼンス グループの検索

プレゼンス グループの検索と一覧表示のウィンドウでは、プレゼンス グループを検索できます。プレゼンス グループは、プレゼンス機能で認証のために使用されます。プレゼンス グループを検索するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [システム (System)] > [プレゼンスグループ (Presence Group)] を選択します。

[プレゼンスグループの検索と一覧表示 (Find and List Presence Groups)] ウィンドウが表示されます。ウィンドウには、アクティブな（前の）クエリーのレコードが表示される場合もあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空になっていることを確認し、**ステップ 3** に進みます。

特定のレコードをフィルタリングまたは検索するには、次の操作を実行します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスで、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索文字を入力します。



(注) 別の検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加した場合は、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして、最後に追加された条件を削除するか、または [フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加されたすべての検索条件を削除します。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

条件に一致するレコードがすべて表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスで別の値を選択すると、各ページに表示される項目数を変更できます。



(注) 適切なレコードの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、データベースから複数のレコードを削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 表示されたレコードリストから、目的のレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順を逆にするには、リストのヘッダーにある上矢印または下矢印をクリックします (使用可能な場合)。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.37-26) を参照してください。

プレゼンス グループの設定

プレゼンス グループを追加、更新、またはコピーするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager の管理で、[システム (System)] > [プレゼンスグループ (Presence Group)] を選択します。

ステップ 2 次のいずれかの手順を実行します。

- 新しいプレゼンス グループを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#)に進みます。
- 既存のプレゼンス グループをコピーするには、「[プレゼンス グループの検索](#)」(P.37-17) の説明に従って対象のグループを検索し、コピーするプレゼンス グループの横にある [コピー (Copy)] ボタンまたは [コピー (Copy)] アイコンをクリックし、[ステップ 3](#)に進みます。
- 既存のプレゼンス グループを更新するには、「[プレゼンス グループの検索](#)」(P.37-17) の説明に従って対象のグループを検索し、[ステップ 3](#)に進みます。
- プレゼンス グループの名前を変更するには、「[プレゼンス グループの検索](#)」(P.37-17) の説明に従ってグループを検索し、リストのグループに対する [名前 (Name)] リンクをクリックし、表示されたウィンドウに新しい名前を入力して、[ステップ 4](#)に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 37-3 を参照)。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

その他の手順

プレゼンス グループを設定した後に、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、SIP または SCCP のいずれかを実行している電話機、SIP トランク、電話番号、アプリケーション ユーザ (SIP トランクを介してプレゼンス要求を送信するアプリケーション ユーザ)、またはエンド ユーザにそのプレゼンス グループ設定を適用します。「[プレゼンス グループの適用](#)」(P.37-21) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.37-26) を参照してください。

プレゼンス グループの設定項目

プレゼンス許可は、プレゼンス グループと連携して動作します。表 37-3 に、プレゼンス グループの設定項目を示します。これらの設定を設定する前に、「[プレゼンス グループとプレゼンス許可のヒント](#)」(P.37-22)を確認してください。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.37-26)を参照してください。

表 37-3 プレゼンス グループの設定項目

フィールド	説明
[名前 (Name)]	設定するプレゼンス グループの名前を入力します (たとえば、「Executive_Group」)。
[説明 (Description)]	設定するプレゼンス グループの説明を入力します。
[他のプレゼンスグループへの関係を変更 (Modify Relationship to Other Presence Groups)]	選択されたグループに対する指定グループの権限を設定するため、1 つ以上のプレゼンス グループを選択します。
[登録許可 (Subscription Permission)]	<p>選択したプレゼンス グループに対して、ドロップダウン リストボックスから次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] : Default Inter-Presence Group Subscription のクラスタ全体のサービス パラメータ ([Allow Subscription] または [Disallow Subscription]) で権限を設定します。 [登録の許可 (Allow Subscription)] : 指定グループのメンバに対して、選択されたグループのメンバのリアルタイム ステータスの表示を許可します。 [登録の拒否 (Disallow Subscription)] : 指定グループのメンバに対して、選択されたグループのメンバのリアルタイム ステータスの表示を禁止します。 <p>設定した権限は、[保存 (Save)] をクリックしたときに [プレゼンスグループの関係 (Presence Group Relationship)] ペインに表示されます。システムのデフォルト権限設定を使用するグループは、すべて表示されません。</p>

プレゼンス グループの削除

この項では、Cisco Unified Communications Manager データベースからプレゼンス グループを削除する方法を説明します。

始める前に

Cisco Unified Communications Manager の管理ページからプレゼンス グループを削除する前に、そのプレゼンス グループを使用するすべてのデバイスとユーザに別のグループを適用するか、そのデバイスとグループをすべて削除する必要があります。

そのプレゼンス グループを使用しているデバイスまたはユーザを調べるには、検索と一覧表示のウィンドウでそのプレゼンス グループの [名前 (Name)] リンクをクリックし、表示された [プレゼンスグループの設定 (Presence Group Configuration)] ウィンドウで、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

システムで依存関係レコード機能が有効になっていない場合は、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] で Enable Dependency Records を有効にします。依存関係レコードの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** 「[プレゼンス グループの検索](#)」 (P.37-17) の手順を使用して、プレゼンス グループを検索します。
 - ステップ 2** 複数のプレゼンス グループを削除するには、検索と一覧表示のウィンドウの該当するプレゼンス グループの横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンまたは [選択項目の削除 (Delete Selected)] ボタンをクリックします。
 - ステップ 3** 1 つのプレゼンス グループを削除するには、次のいずれかの手順を実行します。
 - 検索と一覧表示のウィンドウで、該当するプレゼンス グループの横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンまたは [選択項目の削除 (Delete Selected)] ボタンをクリックします。
 - 検索と一覧表示のウィンドウで、そのプレゼンス グループの [名前 (Name)] リンクをクリックします。表示された [プレゼンスグループの設定 (Presence Group Configuration)] ウィンドウで、[削除 (Delete)] アイコンまたは [削除 (Delete)] ボタンをクリックします。
 - ステップ 4** 削除操作の確認に対して、[OK] をクリックして削除するか、[キャンセル (Cancel)] をクリックして削除操作を取り消します。
-

追加情報

「[関連項目](#)」 (P.37-26) を参照してください。

プレゼンス グループの適用

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでのプレゼンス グループの設定方法については、「[プレゼンス グループについて](#)」(P.37-8) を参照してください。プレゼンス許可に対する権限の設定方法については、「[プレゼンス許可について](#)」(P.37-11) を参照してください。同じプレゼンス グループのメンバ間のプレゼンス要求は常に許可されます。

電話番号、SIP トランク、SIP を実行している電話機、SCCP を実行している電話機、アプリケーション ユーザ (SIP トランクを介してプレゼンス要求を送信しているアプリケーション ユーザ)、またはエンド ユーザにプレゼンス グループを適用するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 次のいずれかの手順を実行します。

- 『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[トランクの設定](#)」の章の説明に従って、SIP トランクを検索します。
- 『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[アプリケーション ユーザの設定](#)」の章の説明に従って、アプリケーション ユーザを検索します。
- 『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[エンド ユーザの設定](#)」の章の説明に従って、エンド ユーザを検索します。
- 『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[Cisco Unified IP Phone の設定](#)」の章の説明に従って、SCCP または SIP のいずれかを実行している電話機を検索します。



ヒント 表示された [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで [割り当て情報 (Association Information)] ペインの [回線 (Line)] リンクをクリックすると、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウを表示できます。[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで、電話番号のプレゼンス グループを指定します。

管理者は、BLF/ スピードダイヤル ボタンを追加または変更する場合、その宛先を監視する権限をウォッチャに与える必要があります。

ステップ 2 設定ページが表示されたら、[プレゼンスグループ (Presence Group)] ドロップダウン リストボックスからグループを選択します。プロビジョニングのヒントについては、「[プレゼンス グループとプレゼンス許可のヒント](#)」(P.37-22) を参照してください。

ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 4 デバイスに対して、[リセット (Reset)] をクリックする必要があります。

ステップ 5 [ステップ 1](#) に示す項目すべてに対してこの手順を繰り返します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.37-26) を参照してください。

プレゼンス グループとプレゼンス許可のヒント

プレゼンス許可は、プレゼンス グループと連携して動作します。この項では、プレゼンス グループでプレゼンス許可を設定する場合に使用できるヒントを示します。

- 宛先の監視をウォッチャに許可するには、アプリケーション ユーザを含め、要求を発信しているウォッチャに適用されるプレゼンス グループに対して、そのプレゼンス エンティティに適用されるグループを監視する権限を与える必要があります。サポートされるアプリケーションのエンド ユーザ（たとえば、Cisco Unified Communications Manager Assistant エンド ユーザ）も、そのアプリケーションで設定されるプレゼンス エンティティに関するステータスを要求するので、ウォッチャとして機能します。
- SIP トランク アプリケーションからプレゼンス要求を受信してルーティングすることを Cisco Unified Communications Manager に許可するには、[アプリケーション ユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウの [プレゼンスの SUBSCRIBE の許可 (Accept Presence Subscription)] チェックボックスをオンにし、着信 SUBSCRIBE 要求を許可します。アプリケーション ユーザに対してプレゼンス グループが適用されていない場合、Cisco Unified Communications Manager はトランクに適用されるプレゼンス グループを使用します。
- アプリケーション ユーザに対して [プレゼンスの SUBSCRIBE の許可 (Accept Presence Subscription)] チェックボックスをオンにしたが、トランクに適用される [SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] の [プレゼンスの SUBSCRIBE の許可 (Accept Presence Subscription)] チェックボックスをオンにしない場合、そのトランクに接続されている SIP ユーザ エージェントに 403 エラー メッセージが送信されます。
- アプリケーション ユーザに対して [プレゼンスの SUBSCRIBE の許可 (Accept Presence Subscription)] チェックボックスをオンにしたが、トランクに適用される [SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] ウィンドウの [アプリケーションレベル認証を有効化 (Enable Application Level Authorization)] チェックボックスをオンにしない場合、そのトランクに接続されている SIP ユーザ エージェントに 403 エラー メッセージが送信されます。
- SIP トランクに対してダイジェスト認証を設定しない場合、着信登録を受け入れるようにトランクを設定できますが、アプリケーションレベルの認証は開始できず、Cisco Unified Communications Manager はグループ認証を実行する前にすべての着信要求を受け入れます。
- SIP トランクが、[SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] ウィンドウの設定に従ってダイジェスト認証を使用する場合、着信プレゼンス要求では、送信デバイスからの資格情報の認証が必要です。アプリケーションレベルの認証とともにダイジェスト認証が使用される場合、Cisco Unified Communications Manager は、プレゼンス要求を送信しているアプリケーションの資格情報も認証します。
- SIP トランク アプリケーションで許可および認証が成功した後に、Cisco Unified Communications Manager は要求を受け入れる前に、グループ認証を実行して SUBSCRIBE 要求に関連付けられたグループ権限を検証します。
- 管理者は、SIP URI の BLF/ スピード ダイヤル ボタンを追加または変更する場合、その宛先を監視する権限をウォッチャに与える必要があります。システムが SIP URI BLF に到達するために SIP トランクを使用している場合、その SIP トランクに関連付けられたプレゼンス グループが適用されます。
- SIP URI を BLF/ スピード ダイヤル ボタンとして設定する場合は、ルーティング パターンを適切に設定してください。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「SIP ルート パターンの設定」を参照してください。

カスタマイズされた電話ボタン テンプレートでの BLF/ スピード ダイアル ボタンの設定

管理者は、電話機、ユーザ デバイス プロファイル、または自動生成されたデバイス プロファイルに対して BLF/ スピード ダイアル ボタンを設定できます。カスタマイズされた電話ボタン テンプレートで BLF/ スピード ダイアル ボタンを設定し、電話機またはユーザ デバイス プロファイルにそのテンプレートを適用しない限り、[新規 BLF SD を追加 (Add a new BLF SD)] リンクをクリックしても [割り当て情報 (Association Information)] ペインは表示されません。電話機またはデバイス プロファイルにテンプレートを適用した (電話機またはデバイス プロファイル設定を保存した) 後に、[新規 BLF SD を追加 (Add a new BLF SD)] リンクをクリックすると [割り当て情報 (Association Information)] ペインが表示されます。



ヒント

テンプレートが BLF/ スピード ダイアルをサポートしていない場合、[新規 BLF SD を追加 (Add a new BLF SD)] リンクは [割り当てられていない関連項目 (Unassigned Associated Items)] ペインに表示されます。

カスタマイズされた電話ボタン テンプレートで BLF/ スピード ダイアル ボタンを設定するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[電話ボタン テンプレートの設定](#)」の章の説明に従って、デバイスの電話ボタン テンプレートを検索します。
- ステップ 2** 検索と一覧表示のウィンドウが表示されたら、その電話ボタン テンプレートの [コピー (Copy)] ボタンまたは [コピー (Copy)] アイコンをクリックします。
- ステップ 3** [ボタンテンプレート名 (Button Template Name)] フィールドに、「BLF SIP 7970」など、テンプレートの新しい名前を入力します。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 5** 表示された [電話ボタンテンプレートの設定 (Phone Button Template Configuration)] ウィンドウで、BLF/ スピード ダイアル ボタンとして回線を設定する場合は、[機能 (Feature)] ドロップダウンリスト ボックスから [Speed Dial BLF] を選択します。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** 電話機に適用済みの既存のカスタマイズされた電話ボタン テンプレートを更新する場合は、[リセット (Reset)] をクリックします。

BLF/ スピード ダイヤル ボタンの設定

BLF/ スピード ダイヤル ボタンを設定するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで BLF/ スピード ダイヤル ボタンを設定するには、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」の章の説明に従って、電話機を検索します。
- ステップ 2** ユーザ デバイス プロファイルに対して BLF/ スピード ダイヤル ボタンを設定するには、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「デバイス プロファイルの設定」の章の説明に従って、ユーザ デバイス プロファイルを検索します。
- ステップ 3** 設定ウィンドウが表示されたら、[割り当て情報 (Association Information)] ペインの [新規 BLF SD を追加 (Add a New BLF SD)] リンクをクリックします。



ヒント 電話機またはデバイス プロファイルに適用した電話ボタンテンプレートが BLF/ スピード ダイヤルをサポートしていない場合、このリンクは [割り当て情報 (Association Information)] ペインに表示されません。電話ボタンテンプレートが BLF/ スピード ダイヤルをサポートしていない場合、このリンクは [割り当てられていない関連項目 (Unassigned Associated Items)] ペインに表示されます。

- ステップ 4** 表 37-4 の説明に従って設定を行います。管理者は、BLF/ スピード ダイヤル ボタンとして設定された宛先を監視する権限をウォッチャに与える必要があります。
- ステップ 5** 設定を完了したら、[保存 (Save)] をクリックしてウィンドウを閉じます。ペインに宛先または電話番号（あるいはその両方）が表示されます。
-

追加情報

「関連項目」(P.37-26) を参照してください。

BLF/ スピード ダイヤルの設定項目

プレゼンス機能では、ウォッチャはプレゼンス エンティティ (プレゼンティティとも呼ばれる) のステータスを監視できます。BLF/ スピード ダイヤル ボタンを設定すると、プレゼンス エンティティが、ウォッチャのデバイスでスピード ダイヤルとして表示されます。

表 37-4 では、BLF/ スピード ダイヤル ボタンの設定項目を説明します。プレゼンスの詳細については、「関連項目」(P.37-26) を参照してください。

表 37-4 BLF/スピードダイヤル ボタンの設定項目

フィールド	説明
[接続先 (Destination)]	<p>SIP URI または電話番号を BLF/スピードダイヤル ボタンとして設定するには、次のいずれかの作業を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SIP を実行している電話機だけの場合は、SIP URI を入力します。SCCP を実行している電話機では、SIP URI を BLF/スピードダイヤル ボタンとして設定することはできません。 • SCCP または SIP のいずれかを実行している電話機では、このフィールドに電話番号を入力するか、[電話番号 (Directory Number)] ドロップダウン リスト ボックスに移動します。 <p>Cisco Unified Communications Manager 以外の電話番号を BLF/スピードダイヤル ボタンとして設定する場合は、このフィールドにその電話番号を入力します。</p> <p>このフィールドには、数値、アスタリスク (*)、およびシャープ記号 (#) だけを入力します。</p> <p>[接続先 (Destination)] フィールドを設定する場合は、[電話番号 (Directory Number)] ドロップダウン リスト ボックスからオプションを選択しないでください。[接続先 (Destination)] を設定した後で [電話番号 (Directory Number)] ドロップダウン リスト ボックスからオプションを選択した場合、[接続先 (Destination)] 設定は削除されます。</p>
[電話番号 (Directory Number)]	<p>[電話番号 (Directory Number)] ドロップダウン リスト ボックスには、Cisco Unified Communications Manager データベースに存在する電話番号のリストが表示されます。これを設定するのは、[接続先 (Destination)] フィールドを設定しない場合だけです。</p> <p>SCCP または SIP のいずれかを実行している電話機では、6002-Partition 3 のように、ユーザがスピードダイヤル ボタンを押した場合にシステムがダイヤルする番号 (および対応するパーティション (表示されている場合)) を選択します。特定のパーティションなしで表示される電話番号は、デフォルトパーティションに属します。</p>
[ラベル (Label)]	<p>BLF/スピードダイヤル ボタンに表示するテキストを入力します。</p> <p>このフィールドは国際化をサポートしています。電話機が国際化をサポートしていない場合、システムは [ラベル ASCII(Label ASCII)] フィールドに表示されるテキストを使用します。</p>
[ラベル ASCII(Label ASCII)]	<p>スピードダイヤル ボタンに表示するテキストを入力します。</p> <p>ASCII ラベルは、[ラベル (Label)] フィールドに入力したテキストの非国際化バージョンを表します。電話機が国際化をサポートしていない場合、システムはこのフィールドに表示されるテキストを使用します。</p> <p>ヒント [ラベル (Label)] フィールドとは異なるテキストを [ラベル ASCII(Label ASCII)] フィールドに入力した場合、Cisco Unified Communications Manager の管理ページは、テキストが異なっても両方のフィールドの設定を受け付けます。</p>

関連項目

- 「プレゼンスの設定チェックリスト」 (P.37-1)
- 「プレゼンスの概要」 (P.37-4)
- 「プレゼンスと電話機およびトランクの連動について」 (P.37-5)
- 「プレゼンスとルート リストの連動について」 (P.37-7)
- 「プレゼンス グループについて」 (P.37-8)
- 「プレゼンス許可について」 (P.37-11)
- 「SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースの動作について」 (P.37-12)
- 「プレゼンス機能のインタラクションおよび制限事項」 (P.37-14)
- 「プレゼンス サービス パラメータとエンタープライズ パラメータの設定」 (P.37-15)
- 「SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースの設定と適用」 (P.37-16)
- 「プレゼンス グループの検索」 (P.37-17)
- 「プレゼンス グループの設定」 (P.37-18)
- 「プレゼンス グループの設定項目」 (P.37-19)
- 「プレゼンス グループの削除」 (P.37-20)
- 「プレゼンス グループの適用」 (P.37-21)
- 「プレゼンス グループとプレゼンス許可のヒント」 (P.37-22)
- 「カスタマイズされた電話ボタン テンプレートでの BLF/ スピード ダイヤル ボタンの設定」 (P.37-23)
- 「BLF/ スピード ダイヤル ボタンの設定」 (P.37-24)
- 「BLF/ スピード ダイヤルの設定項目」 (P.37-24)

関連マニュアル

- 『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』の「ダイジェスト認証」
- 『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』の「許可」
- ご使用の電話機とこのバージョンの Cisco Unified Communications Manager をサポートしている電話機管理マニュアル
- Cisco Unified IP Phone、または SIP を実行している電話機のユーザ資料
- ご使用の電話機のファームウェア リリース ノート



CHAPTER 38

品質レポート ツール

Quality Report Tool (QRT; 品質レポートツール) は、Cisco Unified IP Phone の音声品質や一般的な問題に関するレポート ツールで、1 つのサービスとして動作し、IP Phone のオーディオおよびその他の一般的な問題を簡単かつ正確にレポートすることができます。QRT は、Cisco Unified Communications Manager のインストールとともに自動的にロードされます。また、Cisco Extended Functions (CEF) サービスによってサポートされています (Cisco Extended Functions サービスの詳細については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください)。

システム管理者は、ソフトキー テンプレートの作成、設定、および割り当てによって、ユーザの IP Phone に [品質] ソフトキーを関連付けることで QRT 機能を使用可能にできます。QRT を使用するユーザ インタラクションの量に応じて、2 つの異なるユーザ モードを選択できます。



(注)

システムは、QRT を設定し、レポートを表示するための権限として管理者特権をユーザに与えます。

この章では、QRT 機能の設定および使用に関する次の情報を説明します。

- 「QRT の設定チェックリスト」 (P.38-2)
- 「品質レポート ツールについて」 (P.38-3)
- 「QRT のシステム要件」 (P.38-6)
- 「Cisco Extended Functions サービスの依存関係」 (P.38-7)
- 「CTI へのセキュアな TLS 接続」 (P.38-8)
- 「QRT の使用」 (P.38-9)
- 「インタラクションおよび制限事項」 (P.38-15)
- 「QRT 機能のインストールとアクティブ化」 (P.38-16)
- 「QRT 機能の設定」 (P.38-16)
- 「QRT Viewer の使用」 (P.38-26)
- 「ユーザへの QRT 機能の情報提供」 (P.38-31)
- 「QRT 機能のトラブルシューティング」 (P.38-31)
- 「関連項目」 (P.38-32)

QRT の設定チェックリスト

Quality Report Tool (QRT; 品質レポート ツール) は、Cisco Unified IP Phone の音声品質や一般的な問題に関するレポート ツールで、1 つのサービスとして動作し、IP Phone のオーディオおよびその他の一般的な問題を簡単かつ正確にレポートすることができます。QRT は、Cisco Unified Communications Manager のインストールとともに自動的にロードされます。また、Cisco Extended Functions (CEF) サービスによってサポートされています (Cisco Extended Functions サービスの詳細については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください)。

システム管理者は、ソフトキー テンプレートの作成、設定、および割り当てによって、ユーザの IP Phone に [品質] ソフトキーを関連付けることで QRT 機能を使用可能にできます。QRT を使用するユーザ インタラクションの量に応じて、異なるユーザ モードを選択できます。

表 38-1 に、Cisco Unified Communications Manager で QRT 機能を設定する手順を示します。詳細については、「関連項目」(P.38-32) を参照してください。

表 38-1 QRT 設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 Standard User ソフトキー テンプレートのコピーを作成し、次のコール状態に対して [品質] ソフトキーを追加します。 <ul style="list-style-type: none"> • オンフック • 接続時 	「品質ソフトキーを含むソフトキー テンプレートの作成」(P.38-17) 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ソフトキー テンプレートの設定」
ステップ 2 新しいソフトキー テンプレートを共通デバイス設定に追加します。	「共通デバイス設定での QRT ソフトキー テンプレートの構成」(P.38-20) 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「共通デバイスの設定値」
ステップ 3 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを使用して、新しいソフトキー テンプレートをユーザの電話機に追加します。 (注) ソフトキーに共通デバイス設定を使用する場合は、共通デバイス設定を電話機の設定に割り当てることができます。または、各電話機に個別にソフトキーを追加することもできます。	「電話機の設定における QRT ソフトキー テンプレートの追加」(P.38-20) 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ソフトキー テンプレートの設定」
ステップ 4 Cisco Unified サービスアビリティ ツールの Service Activation を使用して、Cisco Extended Functions サービスをアクティブにします。	「QRT を使用する場合の Cisco Extended Functions サービスのアクティブ化」(P.38-22) 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』
ステップ 5 Cisco Unified サービスアビリティで、QRT のアラームとトレースを設定します。	「QRT のアラームおよびトレースの設定」(P.38-22) 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』
ステップ 6 QRT の Cisco Extended Functions サービス パラメータを設定します。	「QRT の Cisco Extended Functions サービス パラメータの設定」(P.38-24)
ステップ 7 QRT Viewer にアクセスして、IP Phone の問題レポートを作成、カスタマイズ、および表示します。	「QRT Viewer の使用」(P.38-26) 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』

品質レポート ツールについて

Cisco Unified Communications Manager をインストールすると、Cisco Extended Functions サービスがインストールされ、Cisco Unified Communications Manager サーバ上に QRT 機能がロードされます。

システム管理者は、ソフトキー テンプレートを使用することで QRT 機能を使用可能にします。次にシステム パラメータを設定し、Cisco Unified サービスアビリティ ツールをセットアップすることによって、システムにおけるこの機能の動作を定義します。これで QRT Viewer アプリケーションを使用して、電話機の問題のレポートを作成、カスタマイズ、および表示できます (システムには、QRT Viewer アプリケーションが Real-Time Monitoring Tool の一部として含まれています)。詳細については、「[QRT Viewer の使用](#)」(P.38-26) を参照してください。

QRT アベイラビリティは、最大で 4 種類の異なるコール状態に対して設定でき、2 種類の異なるユーザ モードを選択できます。ユーザ モードは、QRT が使用可能なユーザ インタラクションのレベルを決定します。また、詳細な音声品質レポート、またはより一般的な電話機の問題のレポート、および関連統計情報を使用できます (詳細については、「[拡張メニューの選択肢](#)」(P.38-10) を参照してください)。

ユーザの IP Phone に問題が発生した場合は、接続時コール状態の間に Cisco Unified IP Phone の [品質] ソフトキーを押すと、この機能を起動できます。

サポートされているコール状態で、適切な問題分類カテゴリを使用することで、IP Phone に発生している問題に最も当てはまる原因コードを選択できます。問題カテゴリ、原因コード、およびサポートされているコール状態の詳細については、「[問題分類カテゴリと原因コード](#)」(P.38-12) を参照してください。

品質レポート ツールは、複数の重要なコンポーネントによって構成されています。次の項では、これらのコンポーネントに関する情報と、QRT 機能のアーキテクチャについて説明します。

- 「[QRT のコンポーネント](#)」(P.38-3)
- 「[QRT アーキテクチャの概要](#)」(P.38-4)

追加情報

「[関連項目](#)」(P.38-32) を参照してください。

QRT のコンポーネント

多層構成で Web ベースのアプリケーションである QRT には、次の重要なコンポーネントが含まれています。

- クライアント コンポーネント
 - エンドユーザ インターフェイスとしての IP Phone ブラウザ
 - 機能およびツールの設定とビューア アプリケーション用の、Cisco Unified Communications Manager の管理ページのウィンドウ
- サーバ コンポーネント
 - Cisco Extended Functions サービス
 - Skinny メッセージ用の Cisco Unified Communications Manager
 - QBE メッセージ用の CTIManager
 - 構成データおよびデバイス データ用のデータベース
 - 実行時のデバイス関連情報を収集する Cisco RIS Data Collector

- アラーム インターフェイス
- System Diagnostic Interface (SDI; システム診断インターフェイス) トレース
- サービス : ユーザ レポートを収集および管理するための Cisco Extended Functions サービス。また IP Phone 上のユーザ インターフェイスの処理や、Cisco RIS Data Collector へのアラート通知や SNMP トラップの発行も行います。
- ビューア アプリケーション : Real-Time Monitoring Tool (RTMT) のトレース収集機能に含まれる QRT Viewer アプリケーション。生成されたレポートのフィルタリング、形式設定、および表示を行うことができます。QRT 情報が含まれたトレース ファイルを表示すると、レポートが自動的に QRT Viewer で開かれます。

追加情報

「関連項目」(P.38-32) を参照してください。

QRT アーキテクチャの概要

QRT 機能は、Cisco Extended Functions サービスを使用します。このサービスは、次のインターフェイスによって構成されています。

- 「Cisco CTIManager インターフェイス (QBEHelper)」(P.38-5)
- 「Cisco Unified Communications Manager データベース インターフェイス (DBL ライブラリ)」(P.38-5)
- 「スクリーン ヘルパーとディクショナリ」(P.38-5)
- 「Redundancy Manager」(P.38-6)
- 「DB Change Notifier」(P.38-6)
- 「SDI トレースおよびアラーム」(P.38-6)

Cisco Extended Functions サービスは、Skinny プロトコル (Cisco Unified IP Phone と Cisco Unified Communications Manager の間で使用するプロトコル) および Quick Byte Encoding プロトコル (Cisco CTIManager と TSP/JTAPI の間で使用するプロトコル) を介した XML サービス インターフェイス (XSI) を使用して電話機と接続します。

ユーザが [品質] ソフトキーを押すと、QRT によってデバイスが開かれ、最大 4 つの異なる画面に問題カテゴリと関連する原因コードが表示され、ユーザのフィードバックを取得できます。

問題を最も適切に説明するオプションをユーザが選択すると、システムはフィードバックを XML ファイルに記録し、Cisco RIS Data Collector にアラートと SNMP トラップを生成するように通知するアラームを発行します。ユーザのインタラクションが完了したことを QRT が検出すると、デバイスが閉じられます。

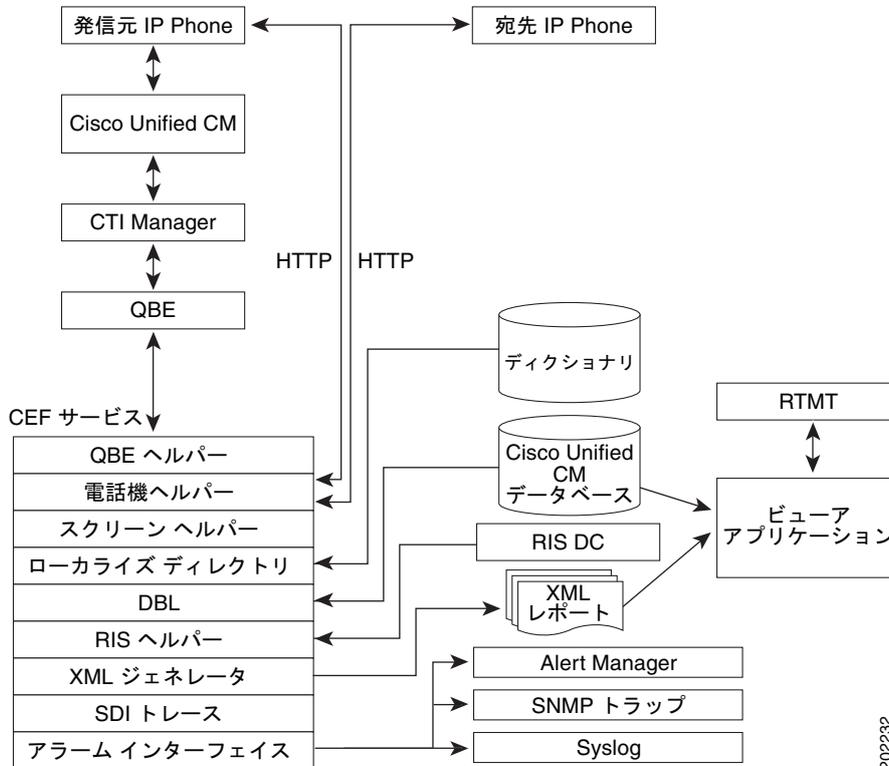


(注)

実際にログに記録される情報は、ユーザの選択、および宛先デバイスが Cisco Unified IP Phone であるかどうか依存します。

図 38-1 に、Cisco Extended Functions サービスのアーキテクチャを示します。

図 38-1 Cisco Extended Functions サービスのアーキテクチャの使用



Cisco CTIManager インターフェイス (QBEHelper)

QBEHelper ライブラリによって、CEF サービスと、構成済みの Cisco CTIManager との通信を可能にするインターフェイスが提供されます。

Cisco Unified Communications Manager データベース インターフェイス (DBL ライブラリ)

DBL ライブラリによって、Cisco Unified Communications Manager データベースで構成および登録された各種デバイスで Cisco Extended Functions サービスがクエリーを実行するためのインターフェイスが提供されます。

スクリーンヘルパーとディクショナリ

Cisco Extended Functions サービスのスクリーンヘルパーは、Cisco Extended Functions サービスを起動したときに、XML ディクショナリファイルを読み取り、インストールされたすべてのローカルのドキュメントオブジェクトモデル (DOM) オブジェクトを作成します。システムは、この DOM オブジェクトを使用して、Cisco Unified IP Phone で必要な XSI スクリーンを構築します。

Redundancy Manager

1 つの Cisco Unified Communications Manager クラスタ内で複数の Cisco Extended Functions がアクティブになっている場合、Redundancy Manager は、アルゴリズムを使用して、アクティブ CEF とバックアップ CEF を判断します。Redundancy Manager は、CEF サービスを実行しているサーバの最も小さな IP アドレスをアクティブ サービスとして使用します。その他の CEF サービスは、バックアップ サービスとして機能します。

DB Change Notifier

DB Change Notifier は、サービス パラメータの変更、トレース パラメータの変更、アラーム設定の変更、クラスタ内の他の Cisco Extended Functions サービスのステータス変更など、データベースの変更に関するすべての通知を処理し、それらの変更を CEF サービスにレポートします。

SDI トレースおよびアラーム

Cisco Extended Functions サービスは、SDI トレース ライブラリとアラーム ライブラリを使用します。このライブラリは、イベント ビューアへのトレースとアラームを生成します。アラーム ライブラリは、CEF サービスに関する情報を Syslog、SNMP、および Cisco RIS Data Collector サービスに送達します。トレースおよびアラームの詳細については、『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.38-32) を参照してください。

QRT のシステム要件

QRT 機能が動作するには、次のソフトウェア コンポーネントが必要です。

- Cisco Unified Communications Manager
- Cisco Real-Time Monitoring Tool

QRT 機能は、次の機能を持つ任意のモデルの IP Phone でサポートされています。

- ソフトキー テンプレートのサポート
- IP Phone サービスのサポート
- CTI による制御が可能であること
- 内部 HTTP サーバ



(注)

詳細については、ご使用のモデルの IP Phone に適合する Cisco Unified IP Phone のガイドを次の URL で参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/hw/phones/ps379/tsd_products_support_series_home.html

追加情報

「関連項目」(P.38-32) を参照してください。

Cisco Extended Functions サービスの依存関係

Cisco Extended Functions サービスは、次のサービスに依存しています。

- Cisco CallManager：クラスタ内で少なくとも 1 つの Cisco CallManager サービスが実行されている必要がありますが、CEF と同じサーバで実行する必要はありません。
- Cisco CTIManager：クラスタ内で少なくとも 1 つの Cisco CTIManager サービスが実行されている必要がありますが、CEF と同じサーバで実行する必要はありません。
- Cisco Database Layer Monitor：1 つの Cisco Database Layer Monitor サービスが CEF と同じサーバで実行されている必要があります。
- Cisco RIS Data Collector：1 つの Cisco RIS Data Collector サービスが CEF と同じサーバで実行されている必要があります。



(注)

Cisco Database Layer Monitor と Cisco RIS Data Collector は同一のサーバで実行されている必要があります。Cisco Unified Communications Manager クラスタでは、複数の CEF サービスを実行できます。

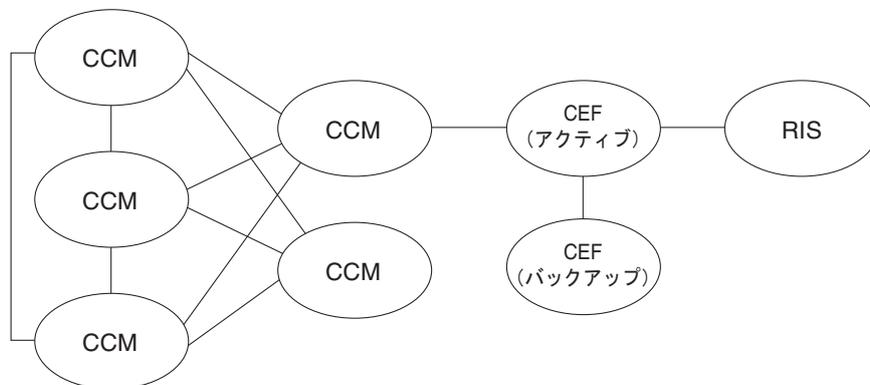


ヒント

サーバ 1 台で構成される Cisco Unified Communications Manager システムの場合は、そのサーバにすべてのサービスをインストールします。

図 38-2 に、一般的な Cisco Extended Functions サービスの設定を示します。

図 38-2 Cisco Extended Functions サービスの依存関係（一般的な設定）



CCM = Cisco CallManager
 CTI = Cisco CTI Manager
 CEF = Cisco Extended Functions (QRT)
 RIS = Cisco RIS Data Collector

202234

追加情報

「関連項目」(P.38-32) を参照してください。

1 つのクラスタ内に複数の Cisco Extended Functions アプリケーションがある場合

1 つの Cisco Unified Communications Manager クラスタ内で複数の Cisco Extended Functions サービスがアクティブになっている場合、CEF はアルゴリズムを使用して、アクティブにするサービスと残りのバックアップ用のサービスを判断します。最も小さな IP アドレスの CEF アプリケーションがアクティブになります。その次に小さな IP アドレスのサービスが、アクティブなサービスのバックアップになります。その他のサービスも、IP アドレスが小さい順に、互いのバックアップとして機能します。新しいサービスをクラスタに追加した場合、CEF はアルゴリズムを再起動し、アクティブにするサービスを判別します。



(注)

クラスタ内で Cisco Extended Functions サービスを起動すると、最も下位の IP アドレスを持つ CEF サービスがアクティブになります。このプロセスによって、約 2 分間サービスが中断する場合があります。

Cisco CTIManager に対するディレクトリ ステータスおよび Cisco Extended Functions サービスの登録ステータスを確認するには、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) を使用します。使用方法については、『Cisco Unified Real Time Monitoring Tool Administration Guide』を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.38-32) を参照してください。

CTI へのセキュアな TLS 接続

QRT は、CTI へのセキュアな Transport Layer Security (TLS) 接続をサポートしています。セキュアな接続を確立するには、次の手順の説明のように、「CCMQRTSecureSysUser」アプリケーション ユーザを使用します。



(注)

[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウからセキュリティを有効にした場合、QRT は、Application CAPF プロファイルを使用して CTI Manager へのセキュアな接続を確立します。セキュアな接続を行うには、「CTI Manager Connection Security Flag」と「CAPF Profile Instance Id for Secure Connection to CTI Manager」の両方のサービス パラメータを設定する必要があります。「[QRT の Cisco Extended Functions サービス パラメータの設定](#)」(P.38-24) を参照してください。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[アプリケーション ユーザ CAPF プロファイルの設定](#)」および「[サービス パラメータの設定](#)」を参照してください。



(注)

CTI へのセキュアな TLS 接続を確立するには、セキュリティ サービス パラメータ Cluster Security Mode CAPF Phone Port の値を 1 に設定する必要があります。これは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [システム (Systems)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] で行います。『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[エンタープライズパラメータの設定](#)」を参照してください。

アプリケーション ユーザを設定するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[ユーザ管理 (User Management)] > [アプリケーションユーザ (Application User)] を選択します。
- [アプリケーションユーザの検索と一覧表示 (Find and List Application Users)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3** [アプリケーションユーザの検索と一覧表示 (Find and List Application Users)] ウィンドウで、[CCMQRTSecureSysUser] または [CCMQRTSysUser] をクリックします。



(注) CAPF プロファイルを設定する場合、概要については『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「アプリケーションユーザ CAPF プロファイルの設定」を参照し、詳細については『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.38-32) を参照してください。

QRT の使用

QRT を正しくインストールして設定すると、[品質] ソフトキーを特定のモデルの Cisco Unified IP Phone 上に設定できます。QRT をサポートしている IP Phone のモデルについては、「QRT のシステム要件」(P.38-6) を参照してください。



(注) Cisco Unified Communications Manager Standard User テンプレートには、[品質] ソフトキーは含まれていません。QRT 機能を有効にし、ユーザが [品質] ソフトキーを使ってこの機能を使用できるようにする必要があります。これには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページから [品質] ソフトキーの作成、設定、および割り当てを行います。ソフトキーテンプレートの設定方法については、「QRT 機能の設定」(P.38-16) を参照してください。

次の項では、QRT を使用したユーザ インタラクション機能を説明します。

- 「ユーザ インターフェイス」(P.38-10)
- 「拡張メニューの選択肢」(P.38-10)
- 「問題分類カテゴリと原因コード」(P.38-12)

ユーザ関連情報の詳細については、ご使用の電話機モデルに適合する Cisco Unified IP Phone のガイドを次の URL で参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/hw/phones/ps379/tsd_products_support_series_home.html

追加情報

「関連項目」(P.38-32) を参照してください。

ユーザ インターフェイス

QRT ユーザ インターフェイスには、次に示す複数のコンポーネントが含まれています。

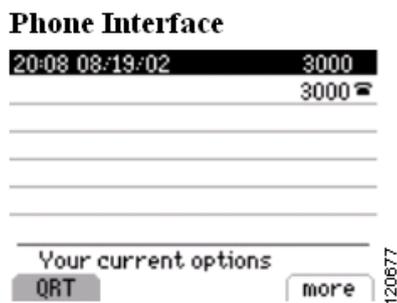
- 電話スクリーン：共通デバイス設定内のすべての IP Phone で使用できます。[品質] ソフトキーは設定済みで、電話スクリーンは複数のロケールをサポートしています。

次の各コンポーネントには、Cisco Unified Communications Manager 管理者だけがアクセスできます。

- Serviceability：「Cisco Unified サービスアビリティ機能の設定」(P.38-21) を参照してください。
- アラート設定：「QRT のアラームおよびトレースの設定」(P.38-22) を参照してください。
- サービス パラメータ：「QRT の Cisco Extended Functions サービス パラメータの設定」(P.38-24) を参照してください。
- ビューア アプリケーション：「QRT Viewer の使用」(P.38-26) を参照してください。

図 38-3 に、Cisco Unified IP Phone に表示された [品質] ソフトキーの例を示します。

図 38-3 QRT Phone Interface の表示



追加情報

「関連項目」(P.38-32) を参照してください。

拡張メニューの選択肢

拡張メニューを選択することで、ユーザは QRT と対話し、レポートする電話機の問題に関する詳細を入力できます。ユーザが送信する情報の量によって、拡張メニューの選択肢を有効にするか、またはより受動的なインターフェイスをユーザに提供するかを選択できます。

Cisco Unified Communications Manager の [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウでは、次のオプションを使用して QRT のユーザ インターフェイス モードを設定できます。

- サイレントモード：このモードでは、ユーザに拡張メニューの選択肢は表示されません。ユーザが [品質] ソフトキーを押すと、システムはストリーミングの統計情報を収集し、ユーザ インタクションを追加せずにレポートを記録します。

システムがサイレントモードをサポートするのは、IP Phone のコール状態が接続時の場合だけです。

図 38-4 に、サイレントモードの QRT の表示例を示します。

図 38-4 サイレントモードでの音声品質のフィードバックの送信

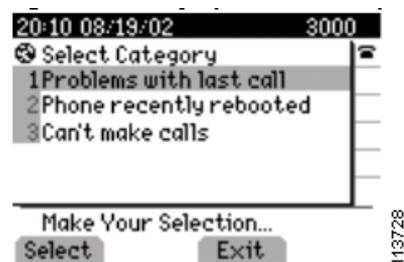


- 対話モード：このモードでは、ユーザに拡張メニュー選択肢が表示され、IP Phone の音声品質に関連するユーザ入力を追加することができます（適用可能な原因コードについては、「問題分類カテゴリと原因コード」(P.38-12) を参照してください)。このモードでは、ユーザは電話機をリブートする場合や電話をかけることができない場合など、オーディオ以外の問題についてもレポートできます。

システムが対話モードをサポートするのは、IP Phone のコール状態が接続時またはオンフックの場合だけです。

図 38-5 は、電話機がオンフックで対話モードになっている状態で [品質] ソフトキーを押した場合の QRT 表示の例です。

図 38-5 QRT Phone Interface : オンフック、対話モードの表示



(注) [品質] ソフトキーは、サポートされているコール状態だけに設定されていることを確認してください。



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの [Display Extended QRT Menu Choices] フィールドで、ユーザが拡張メニューの選択肢にアクセスできるかどうかを設定します。詳細については、「QRT の Cisco Extended Functions サービスパラメータの設定」(P.38-24) を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.38-32) を参照してください。

問題分類カテゴリと原因コード

次の表に、ユーザが IP Phone に関する問題のレポートを作成する際に選択可能な問題カテゴリと対応する原因コードを示します。

- 拡張メニューの選択肢を設定すると、追加オプションを使用できるようになります。
- ユーザは 1 つの問題について 1 つのカテゴリと 1 つの原因コードだけを選択できます。
- 各問題カテゴリは、IP Phone がサポートしているコール状態になっている場合だけ使用可能になります。

表 38-2 に、[現在のコールに問題がある] カテゴリで使用可能な、サポートされているコール状態および原因コードを示します。

表 38-2 問題カテゴリ : [現在のコールに問題がある]

問題カテゴリ	サポートされているコール状態	原因コード	統計情報
現在のコールに問題がある	<ul style="list-style-type: none"> • 接続時 	<ul style="list-style-type: none"> • [エコーが聞こえる] • [相手側でエコーが聞こえる] • [音声がかたかたになる] • [音声が機械的になる] • [遅延時間が長い] • [相手側からの音声が小さい] • [相手側で聞こえる音声が小さい] • [相手側からの音声が聞こえない] • [相手側でこちら側の音声が聞こえない] 	<p>システムは、発信元デバイスと宛先デバイスからストリーミング統計情報を収集します。</p> <p>(注) 発信元デバイス / IP Phone とは、[品質] ソフトキーが押されたデバイスのことです。たとえば、この場合の「発信元」と「宛先」は、接続されたコールの発信側と着信側を指していません。</p>

図 38-6 に示す例は、IP Phone の状態が接続時のときに [品質] ソフトキーを押した場合の電話機の表示です。このメニューを使用すると、ユーザは追加の詳細を入力してから現在のコールに関する問題を送信できます。

図 38-6 [現在のコールに問題がある] のレポート



表 38-3 に、[直前のコールに問題がある] カテゴリで使用可能な、サポートされているコール状態および原因コードを示します。

表 38-3 問題カテゴリ : [直前のコールに問題がある]

問題カテゴリ	サポートされているコール状態	原因コード	統計情報
直前のコールに問題がある	<ul style="list-style-type: none"> オンフック 	<ul style="list-style-type: none"> [エコーが聞こえた] [相手側でエコーが聞こえた] [音声が切れ切れになる] [音声が機械的になる] [遅延時間が長い] [相手側からの音声が小さい] [相手側で聞こえるこちら側からの音声が小さくなる] [相手側からの音声が聞こえなかった] [相手側でこちら側からの音声が聞こえなかった] [コールが終了された] 	システムは、発信元デバイスからストリーミング統計情報を収集します。

図 38-7 に示す例は、ユーザが [直前のコールに問題がある] カテゴリを選択した場合の電話機の表示です。このメニューを使用すると、ユーザは追加の詳細を入力してから最後のコールに関する問題を送信できます。

図 38-7 [直前のコールに問題がある] のレポート



表 38-4 に、[最近、電話機の電源を切って入れ直した] カテゴリで使用可能な、サポートされているコール状態を示します。このカテゴリに関連付けられている原因コードはありません。

表 38-4 問題カテゴリ : [最近、電話機の電源を切って入れ直した]

問題カテゴリ	サポートされているコール状態	原因コード	統計情報
最近、電話機の電源を切って入れ直した	<ul style="list-style-type: none"> オンフック 	なし	

図 38-8 に示す例は、ユーザが [最近、電話機の電源を切って入れ直した] カテゴリを選択した場合の電話機の表示です。ユーザのフィードバックはシステムによって記録されます。

図 38-8 [最近、電話機の電源を切って入れ直した] の問題のレポート

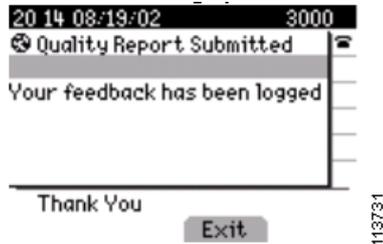


表 38-5 に、[コールできません] カテゴリで使用可能な、サポートされているコール状態および原因コードを示します。

表 38-5 問題カテゴリ : [コールできません]

問題カテゴリ	サポートされているコール状態	原因コード	統計情報
コールできません	<ul style="list-style-type: none"> オンフック 	<ul style="list-style-type: none"> [ビジー音が聞こえる] [早いビジー音が聞こえる] [番号をダイヤルした後にダイヤルトーンが聞こえる] [番号をダイヤルした後に何も聞こえない] [ダイヤルトーンが聞こえない] 	

図 38-9 に示す例は、ユーザが [コールできません] カテゴリを選択した場合の電話機の表示です。

図 38-9 [コールできません] の問題のレポート



(注) QRT は、発信元の IP Phone、宛先の IP Phone、Cisco RIS Data Collector、Cisco Unified Communications Manager データベース、およびユーザなど、さまざまなソースから情報を収集します。この場合の「発信元」と「宛先」は、接続されたコールの発信側と着信側を指していません。電話機の問題レポートに含まれるフィールドの詳細については、「[QRT レポート](#)」(P.38-26) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.38-32) を参照してください。

インタラクションおよび制限事項

次のインタラクションおよび制限事項は、Cisco Unified Communications Manager で QRT 機能を使用する場合に適用されます。

- Cisco Extended Functions、Cisco CallManager、CTI Manager、および Cisco RIS Data Collector の各サービスが実行されており、完全に動作していることを確認してください。
- IP Phone で [品質] ソフトキー機能を使用するには、システム管理者がソフトキー テンプレートの作成、設定、および割り当てを行う必要があります。
- [品質] ソフトキーは、サポートされているコール状態だけに設定されていることを確認してください。
- 拡張メニューの選択肢は、Display Extended QRT Menu Choices サービス パラメータが [True] に設定されている場合だけ使用可能になり、[現在のコールに問題がある] カテゴリをサポートします。
- ユーザが QRT とインタラクションを行っている間に、他のアプリケーション機能 (Cisco Call Back または Cisco Unified Communications Manager Assistant) または機能キー ([設定]、[ディレクトリ]、または [メッセージ]) が起動されるか、あるいはユーザが QRT 選択を完了しない場合、システムは QRT 表示を上書きします。この場合、システムはデバイスに待機状態を強制するため、QRT によるインタラクションの完了が妨げられてデバイスが終了します。



(注) 無人のデバイスは大量のリソースを消費し、CTI のパフォーマンスに影響を与えるため、システムは QRT がオープンなデバイスを定期的にチェックするように設定しています。これらのシステム設定は変更できません。

- TCP ではなく UDP をトランスポートとして使用するよう設定されており、SIP を実行している電話機は、「デバイス データ パススルー」機能をサポートしません。QRT ではパススルー機能が必要なため、QRT はこのような UDP 設定の SIP 電話機をサポートしません。
- 品質レポート ツールは、デバイスが [IPv4 のみ (IPv4 Only)] または [IPv4 と IPv6 (IPv4 and IPv6)] (デュアル スタック モード) の [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] を使用する場合、IPv6 をサポートします。[IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv6 のみ (IPv6 Only)] の電話機のユーザは、電話機の [品質] ソフトキーを押して音声などの問題を報告できません。また、QRT レポートには、[IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv6 のみ (IPv6 Only)] の電話機のストリーミング統計情報は含まれていません。IPv6 の詳細については、「[インターネット プロトコル バージョン 6 \(IPv6\)](#)」(P.29-1) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.38-32) を参照してください。

QRT 機能のインストールとアクティブ化

QRT は Cisco Extended Functions サービス内の機能であるため、Cisco Unified Communications Manager インストールの一部として自動的にインストールされます。

インストールが完了したら、次の手順を実行してユーザに対する QRT 機能を使用可能にし、管理レポート機能を設定してください。

1. Cisco Unified IP Phone のユーザ用に QRT 機能を正しく設定します。「[QRT 機能の設定](#)」(P.38-16) を参照してください。
2. Cisco Unified サービスアビリティで Cisco Extended Functions サービスを有効にし、QRT とともに使用するアラームとトレースを設定します。詳細については、「[Cisco Unified サービスアビリティ機能の設定](#)」(P.38-21) および『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』を参照してください。
3. Cisco Extended Functions サービスに適用可能なサービス パラメータを設定して、システム内でどのように QRT が動作するかを定義します。「[QRT の Cisco Extended Functions サービス パラメータの設定](#)」(P.38-24) を参照してください。
4. QRT Viewer アプリケーションを使用して、電話機の問題レポートを作成、カスタマイズ、および表示します。「[QRT Viewer の使用](#)」(P.38-26) を参照してください。



(注)

QRT 機能 (ソフトキーや IP Phone に表示されるメッセージ) を英語以外の言語で表示する必要がある場合は、QRT を設定する前に、ロケールインストーラがインストールされていることを確認します。詳細については、『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide*』を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.38-32) を参照してください。

QRT 機能の設定

QRT 機能を正しく設定するには、表 38-1 に示す QRT 設定チェックリストの手順を確認します。次に設定するための要件を実行し、Cisco Extended Functions サービスをアクティブにしてからサービス パラメータを設定します。

ここでは、QRT を有効にするための設定情報を説明します。

- 「[品質ソフトキーを含むソフトキー テンプレートの作成](#)」(P.38-17)
- 「[共通デバイス設定での QRT ソフトキー テンプレートの構成](#)」(P.38-20)
- 「[電話機の設定における QRT ソフトキー テンプレートの追加](#)」(P.38-20)
- 「[QRT を使用する場合の Cisco Extended Functions サービスのアクティブ化](#)」(P.38-22)
- 「[QRT のアラームおよびトレースの設定](#)」(P.38-22)
- 「[QRT の Cisco Extended Functions サービス パラメータの設定](#)」(P.38-24)
- 「[関連項目](#)」(P.38-32)



ヒント

QRT 機能を設定する前に、「[QRT の設定チェックリスト](#)」(P.38-2) を確認してください。

品質ソフトキーを含むソフトキー テンプレートの作成

次の手順に従って、[品質] ソフトキーを含むソフトキー テンプレートを作成します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします (または、[検索 (Find)] ボタンをクリックして、使用可能なソフトキー テンプレートのリストを表示する方法もあります)。
- [新規追加 (Add New)] ボタンをクリックした場合は、[ベースとするソフトキーテンプレート (Create a softkey template based on)] ドロップダウン リストから Standard User ソフトキーテンプレートを選択します。
 - [検索 (Find)] ボタンをクリックし、使用可能なソフトキー テンプレートのリストを表示した場合は、ソフトキー テンプレートのリストから Standard User ソフトキー テンプレートを選択します。
- ステップ 3** [コピー (Copy)] ボタンをクリックします。
[ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウに、新しい情報が表示されます。
- ステップ 4** [ソフトキーテンプレート情報 (Softkey Template Information)] の [名前 (Name)] フィールドに、「QRT Standard User」など、テンプレートの新しい名前を入力し、説明を追加します。
図 38-10 に、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウの例を示します。ここで、ソフトキーテンプレートをコピーします。

図 38-10 [ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウ

The screenshot shows the 'Softkey Template Configuration' window. At the top, there is a navigation menu with items like System, Call Routing, Media Resources, Voice Mail, Device, Application, User Management, Bulk Administration, and Help. Below the menu, the title 'Softkey Template Configuration' is displayed, along with 'Related Links' and a 'Back' button. The main content area is divided into sections: 'Status' (Ready), 'Softkey Template Information', and a 'Save' button. The 'Softkey Template Information' section contains three fields: 'Name*' (Standard User), 'Description' (Standard Softkey Template for CallManager only), and 'Applications*' (Cisco CallManager). A legend at the bottom indicates that '*' indicates a required item.

図 38-11 コピー後の [ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウ

System ▾ Call Routing ▾ Media Resources ▾ Voice Mail ▾ Device ▾ Application ▾ User Management ▾ Bulk Administration ▾ Help ▾

Softkey Template Configuration Related Links: [Back](#)

Status: Ready

Softkey Template Information

Name*

Description

Applications*

*- indicates required item.

2022306

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

[ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウに、新しい情報が再表示されます。

ステップ 6 アプリケーションを追加するには、[アプリケーションを追加 (Add Application)] ボタンをクリックします。手順の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「非標準ソフトキー テンプレートへのアプリケーション ソフトキーの追加」の項を参照してください。

ステップ 7 [品質] ソフトキーをテンプレートに追加するには、[ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウで [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスから [ソフトキーレイアウトの設定 (Configure Softkey Layout)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

[ソフトキーレイアウト設定 (Softkey Layout Configuration)] ウィンドウが表示されます。



(注) [品質] ソフトキーは、接続時およびオンフックのコール状態に追加する必要があります。

ステップ 8 [品質] ソフトキーをオンフック コール状態に追加するには、コール状態のドロップダウン リスト ボックスから [オンフック (On Hook)] を選択します。

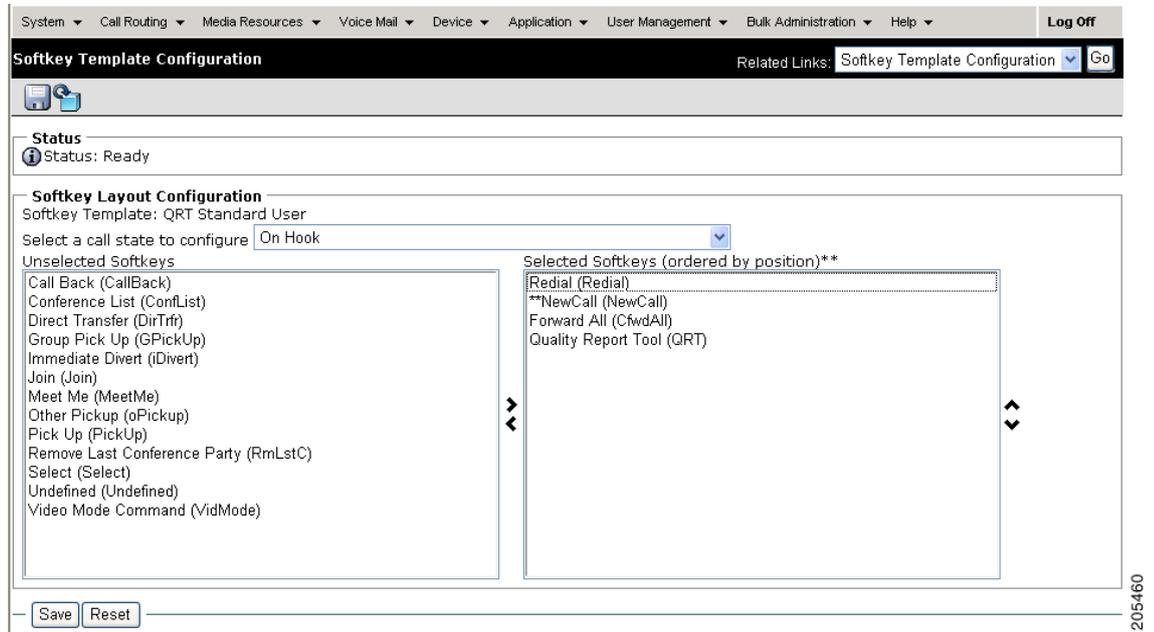
[ソフトキーレイアウト設定 (Softkey Layout Configuration)] ウィンドウが再表示され、[選択されていないソフトキー (Unselected Softkeys)] リストと [選択されたソフトキー (Selected Softkeys、位置順)] リストが表示されます。

ステップ 9 [選択されていないソフトキー (Unselected Softkeys)] リストで [Quality Report Tool (QRT)] ソフトキーを選択し、右矢印をクリックして [選択されたソフトキー (Selected Softkeys、位置順)] リストにソフトキーを移動します。

上下の矢印キーを使用し、[選択されたソフトキー (Selected Softkeys、位置順)] リスト内の項目に優先順位を付けることができます。

図 38-12 に、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ソフトキーレイアウト設定 (Softkey Layout Configuration)] ウィンドウの例を示します。

図 38-12 QRT [ソフトキーレイアウト設定 (Softkey Layout Configuration)] ウィンドウ



ステップ 10 [保存 (Save)] をクリックして保存し、処理を続けます。

ステップ 11 [品質] ソフトキーを接続時コール状態に追加するには、各コール状態に対して **ステップ 8** ~ **ステップ 10** を繰り返します。



(注) サポートされているコール状態だけに [品質] ソフトキーを設定していることを確認し、入力が完了するごとに [保存 (Save)] ボタンをクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」 (P.38-32) を参照してください。

共通デバイス設定での QRT ソフトキー テンプレートの構成

次の手順に従って、QRT ソフトキー テンプレートを共通デバイス設定に追加します。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] を選択します。
- ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3** 表示された作成済みの共通デバイス設定のいずれかを選択します。
テンプレートは、QRT 機能のユーザ用にカスタマイズした任意の共通デバイス設定に追加できます。
- ステップ 4** [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] フィールドのドロップダウン リスト ボックスから、[品質] ソフトキーを含むソフトキー テンプレートを選択します (このテンプレートをまだ作成していない場合は、「品質ソフトキーを含むソフトキー テンプレートの作成」(P.38-17) を参照してください)。



(注) この共通デバイス設定の一部である IP Phone はすべて、このソフトキー テンプレートを継承するため、複数の電話機へのソフトキー テンプレートの割り当てが容易になります。ソフトキー テンプレートを個々の IP Phone に関連付ける方法については、「電話機の設定における QRT ソフトキー テンプレートの追加」(P.38-20) を参照してください。

-
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.38-32) を参照してください。

電話機の設定における QRT ソフトキー テンプレートの追加

次の手順に従って、QRT ソフトキー テンプレートをユーザごとの電話機に追加します。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** ソフトキー テンプレートを追加する電話機を検索します。『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」の章の「電話機の設定値」の項を参照してください。
- ステップ 3** [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] フィールドのドロップダウン リスト ボックスから、[品質] ソフトキーを含むソフトキー テンプレートを選択します (このテンプレートをまだ作成していない場合は、「品質ソフトキーを含むソフトキー テンプレートの作成」(P.38-17) を参照してください)。
この方法の代わりに [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] フィールドから共通デバイス設定内のソフトキー テンプレートを設定した場合は、新しいソフトキー テンプレートが含まれた共通デバイス設定を選択します。

図 38-13 に、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの例を示します。

図 38-13 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウ

The screenshot shows the 'Phone Configuration' window in Cisco Unified Communications Manager. The top navigation bar includes 'System', 'Call Routing', 'Media Resources', 'Voice Mail', 'Device', 'Application', 'User Management', 'Bulk Administration', 'Help', and 'Log Off'. The main content area is divided into several sections:

- Status:** Status: Ready
- Association Information:** A list of 11 items with icons for adding or modifying items.
 - Line [1] - 5002 (no partition)
 - Line [2] - Add a new DN
 - Add a new SD
 - Unassigned Associated Items
 - Add a new SD
 - Add a new SURL
 - Add a new BLF SD
 - Privacy
 - None
- Phone Type:**
 - Product Type: Cisco 7960
 - Device Protocol: SCCP
- Device Information:**
 - Registration: Unknown
 - IP Address: Unknown
 - MAC Address*: 003094C39850
 - Description: SEP003094C39850
 - Device Pool*: Default
 - Phone Button Template*: Standard 7960 SCCP
 - Softkey Template: QRT Standard User
 - Common Phone Profile*: Standard Common Phone Profile
 - Calling Search Space: < None >
 - AAR Calling Search Space: < None >
 - Media Resource Group List: < None >
 - User Hold Audio Source: < None >

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.38-32) を参照してください。

Cisco Unified サービスアビリティ機能の設定

Cisco Extended Functions サービスは、次の Cisco Unified サービスアビリティ機能を使用します。

- Service Activation : Cisco Unified サービスアビリティ の [Tools] ウィンドウで設定します。
- SDI Trace : Cisco Unified サービスアビリティ の [Trace Configuration] ウィンドウで設定します。
- Alarm Interface : Cisco Unified サービスアビリティ の [Alarm Configuration] ウィンドウで設定します。
- Real-Time Monitoring Tool (RTMT) : QRT および CTIManager の稼動状態を監視するために使用します。RTMT の詳細については、『Cisco Unified Real Time Monitoring Tool Administration Guide』を参照してください。

この項では、QRT を使用する場合に、Cisco Unified サービスアビリティ機能をどのようにアクティブにし、設定するかについて説明します。内容は、次のとおりです。

- 「QRT を使用する場合の Cisco Extended Functions サービスのアクティブ化」(P.38-22)
- 「QRT のアラームおよびトレースの設定」(P.38-22)

Cisco Unified サービスアビリティの詳細については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。

QRT を使用する場合の Cisco Extended Functions サービスのアクティブ化

QRT 機能を使用する場合に、Cisco Extended Functions サービスをアクティブにする手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページのウィンドウの右上隅にある [ナビゲーション (Navigation)] ドロップダウン リスト ボックスから [Cisco Unified サービスアビリティ (Cisco Unified Serviceability)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- Cisco Unified サービスアビリティのウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** Cisco Extended Functions サービスをアクティブにするには、[Tools] > [Service Activation] を選択します。
- [サーバ (Server)] ドロップダウン リスト ボックスが表示されます。
- ステップ 3** [Server] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Extended Functions サービスをアクティブにする Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。
- ステップ 4** [Cisco Extended Functions] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
- CEF アクティブ化の状態が無効から有効に変化します。



ヒント Cisco Extended Functions サービスのアクティブ化の状態を確認するには、Cisco Unified サービスアビリティで [Tools] > [Control Center - Feature Services] を選択します。[Cisco Extended Functions] を確認します。Cisco Extended Functions サービスがアクティブになっている場合は、「Activated」と表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.38-32) を参照してください。

QRT のアラームおよびトレースの設定

Cisco Unified サービスアビリティを使用してアラームと SDI トレースを設定するには、次の手順を実行します。

手順：アラーム設定

-
- ステップ 1** Cisco Unified サービスアビリティのウィンドウで、[Alarm] > [Configuration] を選択します。
- [Server] ドロップダウン リスト ボックスが表示されます。
- ステップ 2** [Server] ドロップダウン リスト ボックスから、アラームを設定する Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。
- ステップ 3** [Service Group] ドロップダウン リスト ボックスから、[CM Services] を選択します。
- ステップ 4** [Service] ドロップダウン リスト ボックスから、[Cisco Extended Functions] を選択します。
- ステップ 5** [Local Syslogs] と [SDI Trace] の両方について [Enable Alarm] チェックボックスをオンにします。

ステップ 6 このドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択し、[Local Syslogs] と [SDI Trace] の両方に [Alarm Event Level] を設定します。

- [Emergency]
- [Alert]
- [Critical]
- [Error]
- [Warning]
- [Notice]
- [Informational]
- [Debug]

デフォルト値は [Error] に設定されています。

ステップ 7 [Save] をクリックします。

手順：トレース設定

ステップ 1 Cisco Unified サービスアビリティのウィンドウで、[Trace] > [Configuration] を選択します。
[Server] ドロップダウン リスト ボックスが表示されます。

ステップ 2 [Server] ドロップダウン リスト ボックスから、トレースを設定する Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。

ステップ 3 [Service Group] ドロップダウン リスト ボックスから、[CM Services] を選択します。

ステップ 4 [Service] ドロップダウン リスト ボックスから、[Cisco Extended Functions] を選択します。

ステップ 5 次の各チェックボックスをオンにします。

- **[Trace On]**
- **[Cisco Extended Functions Trace Fields]**

ステップ 6 このドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択し、[Debug Trace Level] を設定します。

- [Error]
- [Special]
- [State Transition]
- [Significant]
- [Entry_exit]
- [Arbitrary]
- [Detailed]

デフォルト値は [Error] に設定されています。



(注) トラブルシューティングのためには、このセクションにあるすべてのチェックボックスをオンにするようにしてください。

ステップ 7 [Save] をクリックします。

アラームおよびトレースの設定の詳細については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。

QRT の Cisco Extended Functions サービス パラメータの設定

Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して Cisco Extended Functions のサービス パラメータを設定するには、次の手順を実行します。



(注) Cisco Technical Assistance Center (TAC) の指示があった場合を除き、デフォルトのサービス パラメータ設定の使用をお勧めします。

手順

- ステップ 1** ディスプレイに Cisco Unified サービスアビリティのウィンドウが表示されている場合は、ウィンドウの右上隅にある [ナビゲーション (Navigation)] ドロップダウンリストボックスから [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 2** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] ウィンドウが表示されます。[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。
- ステップ 3** [サーバ (Server)] ドロップダウン リスト ボックスが表示されます。QRT アプリケーションが存在する Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。
- ステップ 4** [サービス (Service)] ドロップダウン リスト ボックスが表示されます。Cisco Extended Functions サービスを選択します。
- ステップ 5** QRT に関する次の Cisco Extended Functions サービス パラメータを設定します。
- a. **Display Extended QRT Menu Choices** : 拡張メニュー選択項目をユーザに表示するかどうかを決定します。次のいずれかの設定オプションを選択できます。
 - このフィールドを [True] に設定すると、拡張メニュー選択項目が表示されます (対話モード)。
 - このフィールドを [False] に設定すると、拡張メニュー選択項目が表示されません (サイレントモード)。
 - 推奨するデフォルト値として [False] (サイレントモード) が設定されています。
 - b. **Streaming Statistics Polling Duration** : ストリーミング統計情報のポーリングに使用する間隔を決定します。次のいずれかの設定オプションを選択できます。
 - このフィールドを -1 に設定すると、コールが終了するまでポーリングが行われます。
 - このフィールドを 0 に設定すると、ポーリングはまったく行われません。
 - このフィールドを任意の正の値に設定すると、その秒数の間、ポーリングが行われます。コールが終了すると、ポーリングは停止します。
 - 推奨するデフォルトの値として、-1 (コールが終了するまでポーリングを行う) が設定されています。

- c. Streaming Statistics Polling Frequency (秒) : 各ポーリングの間に待機する秒数を指定します。
 - 値の範囲は、30 ~ 3600 です。
 - 推奨するデフォルトの値として 30 が設定されています。
- d. Maximum No.of Files : ファイルの最大数を指定します。この数を超えると、ファイルカウントが最初から始まり、古いファイルが上書きされます。
 - 値の範囲は、1 ~ 10000 です。
 - 推奨するデフォルトの値として 250 が設定されています。
- e. Maximum No.of Lines per File : 各ファイルでの行の最大数を指定します。この数を超えると、次のファイルが始まります。
 - 値の範囲は、100 ~ 2000 です。
 - 推奨するデフォルトの値として 2000 が設定されています。

ステップ 6 CTI へのセキュアな TLS 接続を設定するには、次のサービス パラメータを設定します。

- a. CAPF Profile Instance Id for Secure Connection to CTI Manager : アプリケーション ユーザ CCMQRTSysUser の Application CAPF プロファイルのインスタンス ID を指定します。Cisco Extended Function サービスは、これを使用して CTI Manager へのセキュアな接続を確立します。CTI Manager Connection Security Flag が有効な場合は、このパラメータを設定する必要があります。



(注) CTI Manager Connection Security Flag サービス パラメータを有効にし、必ずセキュリティをオンにしてください。変更を有効にするには、Cisco Extended Functions サービスを再起動する必要があります。

Application CAPF プロファイルの設定方法については、「[CTI へのセキュアな TLS 接続](#) (P.38-8) を参照してください。

- b. CTI Manager Connection Security Flag : Cisco Extended Functions サービスの CTI Manager 接続のセキュリティを有効にするか、無効にするかを指定します。有効にした場合、Cisco Extended Functions は、アプリケーション ユーザ CCMQRTSysUser のインスタンス ID について設定された Application CAPF プロファイルを使用して、CTI Manager へのセキュアな接続を確立します。
 - 選択可能な値は、[True] と [False] です。
 - CTI へのセキュアな接続を有効にするには、[True] を選択する必要があります。

ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.38-32) を参照してください。

QRT Viewer の使用

QRT Viewer を使用すると、品質レポート ツールが生成する IP Phone の問題レポートを表示できます。QRT Viewer では、ツールによって生成された電話機の問題レポートをフィルタリング、フォーマット、および表示できるため、必要な特定の情報が提供されます。

- QRT Viewer アプリケーションを表示するには、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) プラグインをインストールする必要があります。このプラグインには、トレース収集機能が含まれています。
- このトレース収集機能を使用すると、ログ ファイルの収集と表示ができます。QRT Viewer は、そのトレース収集機能に含まれています。



(注) RTMT とトレース収集機能のインストールと設定に関する詳細、および IP Phone 問題のレポートに利用する QRT Viewer のアクセス、設定、使用、およびカスタマイズの詳細については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』および『Cisco Unified Real Time Monitoring Tool Administration Guide』を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.38-32) を参照してください。

QRT レポート

QRT は、発信元の IP Phone、宛先の IP Phone、Cisco RIS Data Collector、Cisco Unified Communications Manager、およびユーザなど、さまざまなソースから情報を収集します（システムは、ゲートウェイまたは他のデバイスから情報を収集しません）。この場合の「発信元」と「宛先」は、接続されたコールの発信側と着信側を指していません。



(注) QRT レポートの詳細については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』の QRT Viewer に関する章を参照してください。

次に、QRT レポートのフィールドをカテゴリごとにセグメント化して示します。

発信元デバイスから収集される情報

- 発信元デバイスの電話番号（複数回線デバイスの場合は、最初のプライマリ電話番号の情報だけが表示されます）
- 発信元デバイスのタイプ（CP-7960、CP-7940 など）
- 発信元のストリーム 1 ポート番号
- 発信元のコーデック（G.711u など）
- 発信元のパケット（2、45、78 など）
- 発信元の rcvr パケット（12、45、78 など）
- 発信元の rcvr ジッタ（0 0 など）
- 発信元の失われた rcvr パケット（0、21 0、21 など）
- 発信元の暗黙的なサンプリング タイムスタンプ（12:30、13:00、13:30、14:00 など）
- 宛先デバイス名（IP）
- 宛先のストリーム 1 ポート番号



(注)

パケット、ジッタ、失われたパケットなどをサンプルとして収集する数は、サンプリングの間隔とポーリングの頻度によって異なります。ストリーミング情報は、1 回のコールについて一度だけ収集されます。たとえば、電話機 A が電話機 B にコールし、電話機 A と電話機 B の両方が同一のコールについて複数のレポートを送信した場合は、最初のレポートだけにストリーミング データが含まれます。また、[直前のコールに問題がある] カテゴリについては、これらの値は電話機に保存されたストリーミング統計情報の最後のスナップショットだけを反映します。

宛先デバイスから収集される情報

宛先デバイスが、同一の Cisco Unified Communications Manager クラスタ内にあるサポート対象の Cisco Unified IP Phone である場合は、次の情報が収集されます。宛先デバイスが IP Phone ではない場合、収集される情報は IP アドレス、デバイス名、およびデバイス タイプだけです。

- 宛先デバイスの電話番号（複数回線デバイスの場合は、最初のプライマリ電話番号の情報だけが表示される）
- 宛先デバイスのタイプ（CP-7960、CP-7940 など）
- 宛先のコーデック
- 宛先のパケット
- 宛先の rcvr パケット
- 宛先の rcvr ジッタ
- 宛先の失われた rcvr パケット
- 宛先のサンプリング タイムスタンプ（暗黙的）



(注)

パケット、ジッタ、失われたパケットなどをサンプルとして収集する数は、サンプリングの間隔とポーリングの頻度によって異なります。ストリーミング情報は、1 回のコールについて一度だけ収集されます。たとえば、電話機 A が電話機 B にコールし、電話機 A と電話機 B の両方が同一のコールについて複数のレポートを送信した場合は、最初のレポートだけにストリーミング データが含まれます。QRT は、[現在のコールに問題がある] カテゴリの場合だけ、宛先の IP Phone から情報を収集しようとします。

RIS Data Collector から収集される情報

- 発信元デバイスの所有者（現在 IP Phone にログインしているユーザの名前。明示的にログインしているユーザがない場合、このフィールドはヌルになる）
- 発信元デバイスの IP アドレス
- 発信元デバイスに登録されている Cisco Unified Communications Manager の名前
- 発信元デバイスのタイプ（デバイスが、サポートされている IP Phone でない場合。たとえば、RISCLASS_PHONE、RISCLASS_GATEWAY、RISCLASS_H323、RISCLASS_CTI、RISCLASS_VOICEMAIL）
- 発信元デバイスのモデル（DBLTypeModel::MODEL_TELECASTER_MGR、DBLTypeModel::MODEL_TELECASTER_BUSINESS など）
- 発信元デバイスのプロダクト（DBLTypeProduct::PRODUCT_7960、DBLTypeProduct::PRODUCT_7940 など）
- 宛先デバイスの名前

- 宛先デバイスのタイプ (デバイスが、サポートされている IP Phone でない場合。たとえば、RISCLASS_PHONE、RISCLASS_GATEWAY、RISCLASS_H323、RISCLASS_CTI、RISCLASS_VOICEMAIL)
- 宛先デバイスのモデル (DBLTypeModel::MODEL_TELECASTER_MGR、DBLTypeModel::MODEL_TELECASTER_BUSINESS など)
- 宛先デバイスのプロダクト (DBLTypeProduct::PRODUCT_7960、DBLTypeProduct::PRODUCT_7940 など)
- 宛先デバイスに登録されている Cisco Unified Communications Manager の名前
- 宛先デバイスの所有者 (現在 IP Phone にログインしているユーザの名前。明示的にログインしているユーザがない場合、このフィールドはヌルになる)

Cisco Unified Communications Manager/CTIManager から収集される情報

- 発信元デバイスの名前 (MAC アドレス)
- CallingPartyNumber (コールの発信側。転送されたコールについては、転送されたユーザが発信側になる)
- OriginalCalledPartyNumber (数字の変換が行われた後の元の着信側)
- FinalCalledPartyNumber (このフィールドによって、転送されたコールについては最終的にコールを受信する側が指定され、転送されないコールについては元の着信側が指定される)
- LastRedirectDn (このフィールドによって、転送されたコールについてはコールを転送する最後の着信側が指定され、転送されないコールについては転送または会議経由で最終的にコールを転送する着信側が指定される)
- globalCallID_callManagerId (CDR Analysis and Reporting (CAR) 用のコールを区別する)
- globalCallID_callId (CAR のコールを区別する)
- CallState (接続時、オンフック)

Cisco Unified Communications Manager データベースから収集される情報

- サンプリング間隔: サービス パラメータ (50 秒など)
- サンプリング頻度: サービス パラメータ (30 秒など)
- クラスタ ID: エンタープライズ パラメータ

ユーザから収集される情報

- カテゴリ
- 原因コード
- タイムスタンプ (明示的)

表 38-6 に、サポートされているカテゴリごとに使用可能なフィールドを示します。



(注)

QRT レポートの各フィールド (Source Model、Source Product、Destination Model、Destination Product、および CallState) には、該当する電話機モデルと製品名 (たとえば、SCCP を実行している電話機) が表示されます。

表 38-6 サポートされているカテゴリごとの QRT フィールド

情報ソース	現在のコールに問題がある	直前のコールに問題がある	最近、電話機の電源を切って入れ直した	コールできません
Source Device Name	X	X	X	X
DN of Source Device	X	X	X	X
IP Address of Source Device	X	X	X	X
Source Device Type	X	X	X	X
Source Device Owner	X	X	X	X
Registered Cisco Unified Communications Manager for Source Device	X	X	X	X
Source Model	X	X	X	X
Source Product	X	X	X	X
Source Stream 1 Port Number	X	X		
Source Codec	X	X		
Source Packets	X	X		
Source Rcvr Packets	X	X		
Source Rcvr Jitter	X	X		
Source Rcvr Packet Lost	X	X		
Source Sampling Timestamp	X			
Destination Device Name	X	X		
DN of Destination Device	X	X		
IP Address of Destination Device	X	X		
Destination Device Type	X	X		
Destination Stream 1 Port Number	X			
Destination Codec	X			
Destination Packets	X			
Destination Rcvr Packets	X			
Destination Rcvr Jitter	X			
Destination Rcvr Packet Lost	X			
Destination Sampling Timestamp	X			
Destination Device Owner	X	X		
Registered Cisco Unified Communications Manager for Destination Device	X	X		
Destination Model	X	X		
Destination Product	X	X		
Calling Party Number	X			
Original Called Party Number	X			

表 38-6 サポートされているカテゴリごとの QRT フィールド (続き)

情報ソース	現在のコールに問題がある	直前のコールに問題がある	最近、電話機の電源を切って入れ直した	コールできません
Final Called Party Number	X			
Last Redirect DN	X			
globalCallID_callManagerId	X			
globalCallID_callId	X			
Sampling Duration	X	X	X	X
Sampling Frequency	X	X	X	X
Cluster ID	X	X	X	X
Category	X	X	X	X
Reason Code	X	X		X
TimeStamp When Report is Submitted	X	X	X	X
sProtocol (注) sProtocol は、電話機のソースプロトコルを表します。このプロトコルの値は、SCCP を実行している電話機の場合は 1、SIP を実行している電話機の場合は 2、UNKNOWN の場合は 0 です。	X	X	X	X
dProtocol (注) dProtocol は、電話機の宛先プロトコルを表します。このプロトコルの値は、SCCP を実行している電話機の場合は 1、SIP を実行している電話機の場合は 2、UNKNOWN の場合は 0 です。	X	X		

追加情報

「関連項目」(P.38-32) を参照してください。

ユーザへの QRT 機能の情報提供

Cisco Unified IP Phone のガイドには、Cisco Unified IP Phone 上で QRT 機能を使用するための手順が記載されています。詳細については、ご使用の電話機モデルに適合する Cisco Unified IP Phone のガイドを次の URL で参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/hw/phones/ps379/tsd_products_support_series_home.html

追加情報

「関連項目」(P.38-32) を参照してください。

QRT 機能のトラブルシューティング

Cisco Unified サービスアビリティには、Cisco Unified Communications Manager の問題のトラブルシューティングを支援する Web ベースのツールがあります。Cisco Unified サービスアビリティの Trace Configuration、Alarm Configuration、および Real-Time Monitoring Tool を使用して、QRT に関する不具合をトラブルシューティングします。詳細については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。

Trace ツールと Alarm ツールは連携して動作します。Cisco CallManager サービスのトレースとアラームの設定値を指定すると、ローカル Syslogs またはシステム診断インターフェイス (SDI) ログ ファイルにアラームを送信できます (SDI ログ ファイルは、テキスト形式でだけ表示できます)。

Cisco CallManager サービスのトレースは、デバッグ レベル、特定のトレース フィールド、および電話機やゲートウェイなどの Cisco Unified Communications Manager デバイスに対して設定できます。また、SDI トレース ログ ファイルに送信されるアラームのトレースを実行することもできます。

問題をトラブルシューティングするには、トレース収集機能を使用してトレース ファイルを収集し、トレース データを分析します (トレース収集機能には QRT Viewer が含まれます)。

トレース収集機能には、次の 3 つの機能があります。

- トレース パラメータの設定
- トレース ファイルの収集
- 問題をトラブルシューティングするためのトレース データの分析



(注)

Trace を有効にするとシステムのパフォーマンスが低下するため、Trace はトラブルシューティングを行う場合だけ有効にしてください。Trace の使用方法についての支援が必要な場合は、Cisco TAC にご連絡ください。

トラブルシューティングのヒント

以下の例で、QRT のシナリオをトラブルシューティングする際の一般的な問題と推奨処置をいくつか示します。

問題 [品質] ソフトキーを使用できない。

ソリューション QRT 機能を使用するには、ソフトキー テンプレートの作成、設定、および割り当てを行う必要があります。

問題 [品質] ソフトキーが機能しない。

ソリューション Cisco Extended Functions サービス、Cisco CallManager サービス、Cisco CTIManager サービス、および Cisco RIS Data Collector サービスが動作しているかどうかを確認します。

問題 QRT レポートにデータが含まれていない。

ソリューション システムは、ユーザ、発信元 IP Phone、宛先 IP Phone、RIS Data Collector、Cisco Unified Communications Manager、および Cisco Unified Communications Manager データベースなど、さまざまなソースからデータを収集します。宛先デバイスが、サポートされている IP Phone であることを確認してください。ゲートウェイなどのサポートされていないデバイスの場合、システムは宛先デバイスからデータを収集しません。



(注)

Cisco Unified サービスアビリティ ツールの詳細については、『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager のトラブルシューティングについては、『*Troubleshooting Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.38-32) を参照してください。

関連項目

- 「QRT の設定チェックリスト」(P.38-2)
- 「品質レポート ツールについて」(P.38-3)
- 「QRT のシステム要件」(P.38-6)
- 「Cisco Extended Functions サービスの依存関係」(P.38-7)
- 「CTI へのセキュアな TLS 接続」(P.38-8)
- 「QRT の使用」(P.38-9)
- 「インタラクションおよび制限事項」(P.38-15)
- 「QRT 機能のインストールとアクティブ化」(P.38-16)
- 「QRT 機能の設定」(P.38-16)
- 「QRT Viewer の使用」(P.38-26)
- 「ユーザへの QRT 機能の情報提供」(P.38-31)
- 「QRT 機能のトラブルシューティング」(P.38-31)
- 「インターネット プロトコルバージョン 6 (IPv6)」(P.29-1)
- 『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「ソフトキー テンプレートの設定」
- 『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「デバイスプールの設定」
- 『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「Cisco Unified IP Phone」

- 『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[デバイス デフォルトの設定](#)」
- 『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[サービス パラメータの設定](#)」
- 『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「[Cisco Unified IP Phone の設定](#)」

参考資料

- 『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』
- 『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』
- 『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』
- 『*Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド*』
- 『*Troubleshooting Guide for Cisco Unified Communications Manager*』
- 『*Cisco Unified IP Phone Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』
- Cisco IP Telephony Locale Installer の使用方法
- 適切な Cisco Unified IP Phone のガイド

■ 関連項目



CHAPTER 39

シングルサインオン

シングルサインオン機能を使用すると、エンドユーザは Windows ドメインの Windows クライアントマシンにログインし、再度サインオンすることなく特定の Cisco Unified Communications Manager アプリケーションを使用できます。

シングルサインオン機能の詳細については、シスコのホワイトペーパー「*A complete guide for installation, configuration and integration of CUCM8.5 with Open Access Manager and Active Directory for SSO*」を参照してください。

この章では、Cisco Unified Communications Manager のシングルサインオン機能について説明します。この章では、次のトピックについて取り上げます。

- 「シングルサインオンの設定チェックリスト」 (P.39-2)
- 「Cisco Unified Communications Manager 用のシングルサインオンの概要」 (P.39-3)
- 「シングルサインオンのシステム要件」 (P.39-3)
- 「シングルサインオンのインストールとアクティブ化」 (P.39-4)
- 「シングルサインオンの設定」 (P.39-4)
- 「関連項目」 (P.39-8)

シングル サインオンの設定チェックリスト

シングル サインオン機能を使用すると、エンドユーザは Windows クライアント マシンにログインし、再度サインオンすることなく特定の Cisco Unified Communications Manager アプリケーションを使用できます。

表 39-1 は、ネットワークでシングル サインオンを設定するためのチェックリストです。表 39-1 と「関連項目」(P.39-8) を併せて参照してください。

Cisco Unified Communication Interface for Microsoft Office Communicator でのシングル サインオンの設定については、Cisco Unified Communication Interface for Microsoft Office Communicator のマニュアルを参照してください。

表 39-1 シングル サインオンの設定チェックリスト

設定ステップ	関連項目と資料	
ステップ 1	ご使用の環境が、「 シングル サインオンのシステム要件 」(P.39-3) で説明する要件を満たしていることを確認します。	
ステップ 2	Active Directory で OpenAM サーバをプロビジョニングし、keytab ファイルを生成します。 (注) ご使用の Windows バージョンに keytab ファイルを生成するための ktpass ツールが含まれていない場合は、そのツールを別途入手する必要があります。	Microsoft Active Directory のマニュアル
ステップ 3	OpenAM サーバ証明書を Cisco Unified Communications Manager tomcat 信頼ストアにインポートします。	「Cisco Unified Communications Manager への OpenAM 証明書のインポート」 (P.39-4)
ステップ 4	Active Directory および OpenAM に Windows シングル サインオンを設定します。	「Active Directory および OpenAM への Windows シングル サインオンの設定」 (P.39-5)
ステップ 5	シングル サインオンに対応するようにクライアントのブラウザを設定します。	「シングル サインオンに対応するためのクライアントのブラウザの設定」 (P.39-5)
ステップ 6	Cisco Unified Communications Manager でシングル サインオンを有効にします。	「シングル サインオン用の CLI コマンドの実行」 (P.39-6)

Cisco Unified Communications Manager 用のシングルサインオンの概要

シングルサインオン機能を使用すると、エンドユーザは Windows にログインし、再度サインオンすることなく次の Cisco Unified Communications Manager アプリケーションを使用できます。

- User Options Pages
- Cisco Unified Communication Interface for Microsoft Office Communicator

シングルサインオンのシステム要件

Cisco Unified Communications Manager には、次のシングルサインオンシステム要件があります。

- クラスタ内の各サーバの Cisco Unified Communications Manager リリース 8.5(1)。

この機能には、次のサードパーティアプリケーションが必要です。

- Microsoft Windows Server 2003 または Microsoft Windows Server 2008
- Microsoft Active Directory
- ForgeRock Open Access Manager (OpenAM) バージョン 9.0

シングルサインオン機能は、Active Directory および OpenAM を併用して、クライアントアプリケーションへのシングルサインオンアクセスを提供します。

これらのサードパーティ製品は、次の設定要件を満たす必要があります。

- Active Directory は、単に LDAP サーバとしてではなく、Windows ドメインベースのネットワーク構成に配置する必要があります。
- ネットワーク上のすべてのクライアントシステムおよび Active Directory サーバが OpenAM サーバにアクセスできる必要があります。
- Active Directory (ドメインコントローラ) サーバ、Windows クライアント、Cisco Unified Communications Manager、および OpenAM は、同じドメインに存在する必要があります。
- ドメインで DNS を有効にする必要があります。
- Cisco Unified Communications Manager サーバには、サードパーティ製品をインストールしません。
- SSO に参加するすべてのエンティティのクロックを同期する必要があります。

サードパーティ製品の詳細については、それぞれのマニュアルを参照してください。

シングルサインオンのインストールとアクティブ化

Cisco Unified Communications Manager 8.5(1) のインストール後、必要な設定作業を実行すると、ネットワークでシングルサインオンをサポートできます。実行する必要がある設定作業については、「[シングルサインオンの設定チェックリスト](#)」(P.39-2) を参照してください。

シングルサインオンの設定

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- 「[OpenAM の設定](#)」(P.39-4)
- 「[Active Directory および OpenAM への Windows シングルサインオンの設定](#)」(P.39-5)
- 「[シングルサインオンに対応するためのクライアントのブラウザの設定](#)」(P.39-5)
- 「[シングルサインオン用の CLI コマンドの実行](#)」(P.39-6)



ヒント

シングルサインオンを設定する前に、「[シングルサインオンの設定チェックリスト](#)」(P.39-2) を参照してください。

OpenAM の設定

OpenAM を使用して、次のタスクを実行します。

- OpenAM に次のものに関するポリシーを設定します。
 - CUCM ユーザおよび UDS Web アプリケーション
 - クエリーパラメータ
- Policy Agent 3.0 用の J2EE Agent Profile を設定します。
- Windows Desktop SSO ログイン モジュール インスタンスを設定します。
- PA 用の「Login Form URI」および「OpenAM Login URL」を設定します。
- ローカル ユーザ プロファイルを無効にします。

Cisco Unified Communications Manager への OpenAM 証明書のインポート

Cisco Unified Communications Manager と OpenAM 間の通信がセキュアであるため、OpenAM セキュリティ証明書を手入手して Cisco Unified Communications Manager tomcat 信頼ストアにインポートする必要があります。5 年間有効になるように OpenAM 証明書を設定します。

証明書のインポートについては、『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide*』を参照してください。

Active Directory および OpenAM への Windows シングル サインオンの設定

この項では、Active Directory および OpenAM に Windows シングル サインオンを設定する方法について説明します。この手順に従うと、Cisco Unified Communications Manager を Active Directory で認証できます。

手順

-
- ステップ 1** Active Directory で、OpenAM Enterprise ホスト名（ドメイン名なし）をユーザ ID（ログイン名）として、新規にユーザを作成します。
- ステップ 2** Active Directory サーバに keytab ファイルを作成します。
- ステップ 3** 作成した keytab ファイルを OpenAM システムにエクスポートします。
- ステップ 4** OpenAM で、次の設定で新規に認証モジュールのインスタンスを作成します。
- タイプは、Windows Desktop SSO です。
 - レルムのアトリビュートは次のように設定します。
 - [Service Principal] : keytab ファイルを作成するときに使用したプリンシパル名を入力します。
 - [Keytab File Name] : keytab ファイルのインポート先のパスを入力します。
 - [Kerberos Realm] : ドメイン名を入力します。
 - [Kerberos Server Name] : Active Directory サーバの FQDN を入力します。
 - [Authentication level] : **22** を入力します。
-

シングル サインオンに対応するためのクライアントのブラウザの設定

ブラウザベースのクライアントアプリケーションでシングル サインオンを使用するには、Web ブラウザを設定する必要があります。

次の各項では、シングル サインオンを使用するようにクライアントのブラウザを設定する方法について説明します。

- 「[シングル サインオンに対応するための Internet Explorer の設定](#)」 (P.39-5)
- 「[シングル サインオンに対応するための Firefox の設定](#)」 (P.39-6)

シングル サインオンに対応するための Internet Explorer の設定

シングル サインオン機能は、Internet Explorer バージョン 6.0 以降を実行している Windows クライアントをサポートします。シングル サインオンを使用するように Internet Explorer を設定するには、次のタスクを実行します。

- 統合 Windows 認証オプションを選択します。
- 次のように設定したカスタムのセキュリティ レベルを作成します。
 - [ローカルイントラネット (Intranet Zone)] オプションで [イントラネットゾーンでのみ自動的にログオンする (Automatic Logon Only)] を選択します。

- サイトに関するオプションをすべて選択します。
- OpenAM をローカルゾーンにまだ追加していない場合は追加します。
- Windows 7 で Internet Explorer 8.0 を実行している場合には、次のタスクを実行します。
 - 保護モードを無効にします。
 - レジストリ キー HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Control¥LSA¥で、DWORD 値として SuppressExtendedProtection - 0x02 を追加します。

シングル サインオンに対応するための Firefox の設定

シングル サインオン機能は、Firefox バージョン 3.0 以降を実行している Windows クライアントをサポートします。

シングル サインオンを使用するように Firefox を設定するには、ブラウザと SPNEGO 認証の連動を許可する信頼できるドメインと URL を network.negotiate-auth.trusted-uris プリファレンスに入力します。

シングル サインオン用の CLI コマンドの実行

次の各項では、シングル サインオンを設定する CLI コマンドについて説明します。

- 「[utils sso enable](#)」 (P.39-6)
- 「[utils sso disable](#)」 (P.39-7)
- 「[utils sso status](#)」 (P.39-8)

utils sso enable

このコマンドは、シングル サインオンを有効にして設定します。

コマンド構文

```
utils sso enable
```

使用上のガイドライン

このコマンドは、シングル サインオン設定ウィザードを開始します。表 39-2 で説明する情報の入力を要求されます。各入力要求に応答し、Enter キーを押して続行します。



注意

シングル サインオンを有効にすると、Cisco Unified Communications Manager Web サーバ (Tomcat) が再起動されます。

このコマンドは、クラスタ内のすべてのノードで実行する必要があります。

表 39-2 シングル サインオン設定ウィザードの入力要求

入力を要求される情報	説明
Open Access Manager (OpenAM) サーバの URL	OpenAM サーバ用に設定した URL。
Policy Agent の配置先となる相対パス	Policy Agent の配置先となる Cisco Unified Communications Manager 上のパスを入力します。このパスは、「agentapp」ディレクトリを起点としたものとなります。 このパスは、Policy Agent 3.0 用に J2EE Agent Profile に設定したパスに一致する必要があります。
この Policy Agent 用に設定したプロファイルの名前	OpenAM にこの Policy Agent 用に作成したプロファイルの名前。
プロファイルのパスワード	—
Windows Desktop SSO 用に設定されたログイン モジュール インスタンス名	OpenAM に設定した Windows Desktop SSO 用のログイン モジュール インスタンスの名前。

例

```
admin:utils sso enable
      ***** W A R N I N G *****
This command will restart Tomcat for successful completion.
This command needs to be executed on all the nodes in the cluster.
Do you want to continue (yes/no): yes
Enter URL of the Open Access Manager (OpenAM) server:
https://ssoserver.cisco.com:8443/opensso
Enter the relative path where the policy agent should be deployed: agentapp
Enter the name of the profile configured for this policy agent: CUCMUser
Enter the password of the profile name: *****
Enter the login module instance name configured for Windows Desktop SSO: CUCMUser
Validating connectivity and profile with AM Server:
https://ssoserver.cisco.com:8443/opensso
Valid profile
Enabling SSO ... This will take upto 5 minutes
SSO Enable Success

Please make sure to execute this command on all the nodes in the cluster.
```

utils sso disable

このコマンドは、シングル サインオンを無効にします。

コマンド構文

```
utils sso disable
```

使用上のガイドライン**注意**

シングル サインオンを無効にすると、Cisco Unified Communications Manager Web サーバ (Tomcat) が再起動されます。

このコマンドは、クラスタ内のすべてのノードで実行する必要があります。

utils sso status

このコマンドは、シングル サインオンのステータスおよび設定パラメータを表示します。

コマンド構文

`utils sso status`

関連項目

- 「シングル サインオンの設定チェックリスト」 (P.39-2)
- 「Cisco Unified Communications Manager 用のシングル サインオンの概要」 (P.39-3)
- 「シングル サインオンのシステム要件」 (P.39-3)
- 「シングル サインオンのインストールとアクティブ化」 (P.39-4)
- 「シングル サインオンの設定」 (P.39-4)



INDEX

A

AAR

「自動代替ルーティング (AAR)」を参照

Alternate Party Diversion (APD)

説明 [35-14](#)

例 (図) [35-15](#)

B

BLF

ダイレクト コール パークの設定 [5-28](#)

ダイレクト コール パークの設定項目 [5-28](#)

BLF/ スピード ダイヤル

設定 [37-23](#)

設定項目 (表) [5-28, 37-25](#)

ボタン [37-24](#)

C

Call Display Restrictions

Cisco エクステンション モビリティ [9-16](#)

インタラクション

エクステンション モビリティ [4-6](#)

会議 [4-6](#)

会議リスト [4-6](#)

コール パーク [4-5](#)

ボイスメール [4-6](#)

リスト [4-5](#)

概要 [4-1, 4-2, 4-3](#)

関連項目 [4-15](#)

コール フローの例 (図) [4-14](#)

システム要件 [4-4](#)

シナリオ [4-4](#)

接続先番号の表示に関するサービス パラメータ [4-15](#)

設定 [4-7](#)

設定チェックリスト (表) [4-1](#)

設定例

ゲートウェイ [4-11](#)

コーリング サーチ スペース [4-10](#)

コール パーク [4-14](#)

デバイス [4-11](#)

トランスレーション パターン [4-11](#)

リスト [4-9](#)

電話の設定 [4-9](#)

トランスレーション パターン [4-7](#)

トランスレーション パターンの設定 [28-30](#)

有効化 [4-3](#)

CDR

優先コール用の録音 [35-31](#)

CEF

「Cisco Extended Functions」を参照

Channel Nonpreemptable [35-18](#)

Cisco Customer Response プラットフォーム

コンポーネント [13-4](#)

Cisco Extended Functions

DB Change Notifier [38-6](#)

DBL ライブラリ [38-5](#)

QBEHelper [38-5](#)

QRT のサービス パラメータ [38-24](#)

QRT を使用する場合のアクティブ化 [38-22](#)

Redundancy Manager [38-6](#)

SDI トレースおよびアラーム [38-6](#)

クラスタ内の複数のアプリケーション [38-8](#)

サービスのアーキテクチャ [38-4](#)

- サービスのアーキテクチャ (図) [38-5](#)
- サービスの依存関係 [38-7](#)
- サービスの依存関係 (図) [38-7](#)
- スクリーンヘルパーとディクショナリ [38-5](#)
- Cisco IPMA
 - 「Cisco Unified Communications Manager Assistant」を参照
- Cisco IP Manager Assistant サービス
 - 概要 [11-7, 12-7](#)
- Cisco Mobile クライアント [16-1](#)
- Cisco Unified Communications Manager
 - IPv6 [29-19](#)
 - MOH サーバ [36-10](#)
- Cisco Unified Communications Manager Assistant
 - Assistant Console アプリケーションのインストール [12-31](#)
 - Assistant Console ダイアログ オプション [11-46, 12-33](#)
 - Cisco IP Manager Assistant サービスの開始 [11-30, 12-21](#)
 - Cisco Unified IP Phone サービス、設定のヒント [11-30](#)
 - Cisco Unified IP Phone のインターフェイス [11-10, 12-9](#)
 - IPMASecureSysUser [11-30, 12-21](#)
 - IPv6 [11-14, 12-13](#)
 - Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) [11-16](#)
 - Time-of-Day ルーティング [11-16](#)
 - アーキテクチャの概要 [11-6, 12-6](#)
 - アシスタント コンソール インターフェイス [11-9, 12-8](#)
 - アシスタント情報の更新 [11-42, 12-30](#)
 - アシスタント情報の削除 [11-42, 12-29](#)
 - アシスタントのインターフェイス [11-11, 12-10](#)
 - アシスタントのシェアドラインと着信インターネット回線の設定 [12-27](#)
 - アシスタントの電話機の設定、ヒント [11-33](#)
 - アシスタント プロキシおよび着信用インターネット回線の設定 [11-40](#)
 - 一括管理ツール [11-14, 12-12](#)
 - インストールとアクティブ化 [11-18, 12-16](#)
 - インターコム [11-17, 12-15](#)
 - インターコム の使用方法 [28-7](#)
 - インタラクション [11-13](#)
 - エクステンション モビリティ [11-14, 12-13](#)
 - コーリング サーチ スペースとパーティション、設定のヒント [11-23](#)
 - サービス パラメータの設定 [11-25, 12-17](#)
 - サポートされるデバイス [11-12, 12-11](#)
 - シェアドライン サポート [12-1](#)
 - シェアドライン サポートの設定チェックリスト (表) [12-2](#)
 - シェアドラインでのシステム要件 [12-11](#)
 - シェアドライン用のマネージャの設定とアシスタントの割り当て [12-24](#)
 - 詳細情報 [12-34](#)
 - スケラビリティ [11-28, 12-19](#)
 - 制限事項 [11-13, 11-17, 12-15](#)
 - セキュリティ [11-30, 12-21](#)
 - ソフトキー [11-11, 12-10](#)
 - ダイヤル ルール の設定 [11-43, 12-31](#)
 - データベース アクセス アーキテクチャ、概要 [11-10, 12-9](#)
 - 電話機、設定のヒント [11-35, 12-23](#)
 - 発信側の正規化 [11-14, 12-13](#)
 - プロキシ回線サポート [11-1](#)
 - プロキシ回線サポートでのシステム要件 [11-12](#)
 - プロキシ回線サポートの設定チェックリスト (表) [11-2](#)
 - プロキシ回線でのシステム設定 [11-19](#)
 - プロキシ回線用の設定ウィザード [11-19](#)
 - プロキシ回線用のマネージャの設定とアシスタントの割り当て [11-36](#)
 - マネージャおよびアシスタント管理用のインターフェイス [11-12, 12-11](#)
 - マネージャおよびアシスタントの設定 [12-23](#)
 - マネージャおよびアシスタントの電話機の設定 [11-31, 12-21](#)
 - マネージャおよびアシスタントへの情報提供 [11-44, 12-31](#)
 - マネージャ情報の更新 [11-39, 12-27](#)
 - マネージャ情報の削除 [11-38, 12-26](#)

- マネージャ対応のプライマリ回線および着信用
インターコム回線の設定 [11-36, 12-24](#)
- マネージャのインターフェイス [11-10, 12-9](#)
- マネージャの設定 [11-46, 12-33](#)
- マネージャの電話機の設定、ヒント [11-32](#)
- メッセージ受信インジケータ [11-16](#)
- ルート ポイント設定のヒント [11-25](#)
- レポート ツール [11-15, 12-13](#)
- Cisco Unified Communications Manager
Auto-Attendant
 - Cisco Unified Communications Manager と CRS
Engine [13-6](#)
 - インストール [13-5](#)
 - 概要 [13-3, 13-4](#)
 - 管理 [13-6](#)
 - コンポーネント [13-4](#)
 - 設定チェックリスト (表) [13-2](#)
 - 説明 [13-1](#)
- Cisco Unified IP Phone
 - Cisco エクステンション モビリティへの登録
[9-34](#)
- Cisco Unified IP Phone サービス
 - Cisco Unified Communications Manager
Assistant
 - 設定のヒント [11-30](#)
- Cisco Unified Mobile Communicator
 - Cisco Unified Mobility
 - 設定チェックリスト (表) [15-7](#)
 - 設定の詳細 [15-8](#)
 - 説明 [15-6](#)
 - 統合の概要 [15-1](#)
- Cisco Unified Mobility
 - 2 段階ダイヤリング [14-14](#)
 - Cisco Unified Mobile Communicator
 - 概要 [15-1](#)
 - 制限事項 [15-18](#)
 - 説明 [15-6](#)
 - Cisco Unified Mobility Advantage
 - Cisco Unified Mobile Communicator の設定
チェックリスト (表) [15-7](#)
- Cisco Unified Mobile Communicator の設定
の詳細 [15-8](#)
- Dial-via-Office リバース コールバック
[15-10](#)
 - 概要 [15-1, 15-4](#)
 - 機能のリスト [15-5](#)
 - システム要件 [15-19](#)
 - 制限事項 [15-18](#)
 - 設定 [15-20](#)
 - 設定チェックリスト (表) [15-2](#)
 - 定義 (表) [15-4](#)
- Cisco Unified MobilityManager からの移行
[14-40](#)
- Dial-via-Office 転送 [15-11](#)
- DTMF でのコール中のエンタープライズ機能の
サポート [14-14](#)
- DTMF を介したダイレクト コール パーク
[14-17](#)
- IPv6 [29-21](#)
- MVA 用の電話番号の設定 [14-56](#)
- SIP URI ダイヤル [14-19](#)
- Time-of-Day アクセス
 - 設定チェックリスト (表) [14-15](#)
 - 説明 [14-14](#)
 - 特記事項 [14-17](#)
- アクセス リストの設定 [14-41](#)
- アクセス リストの設定項目 (表) [14-41](#)
- アクセス リスト メンバの詳細の設定項目 (表)
[14-43](#)
- アンカー遅延 [15-16](#)
- インタラクション
 - サポートされるコールの数 [14-34](#)
 - 自動コール ピックアップ [14-32](#)
 - セッション ハンドオフでのインテリジェント
セッション制御 [14-33](#)
 - ライセンス [14-33](#)
 - リスト [14-32](#)
 - ローカル ルート グループ [14-34, 31-16](#)
 - インタラクションおよび制限事項 [14-32, 15-18](#)
 - インテリジェント セッション制御 [14-20](#)
 - 概要 [14-5, 15-4](#)

- 関連項目 [14-70](#), [15-21](#)
- 機能のリスト [14-7](#)
- 機能の利点 [14-9](#)
- 携帯電話へコールを送信 [14-12](#)
- システム要件 [14-39](#)
- 使用例
 - Dial-via-Office 転送 [15-13](#), [15-16](#)
 - Dial-via-Office リバース コールバック [15-16](#)
 - DTMF を介したダイレクト コール パーク [14-27](#)
 - Time-of-Day アクセス [14-25](#)
 - インテリジェント セッション制御 [14-27](#)
 - モバイル コネクト [14-25](#)
 - モバイル ボイス アクセス [14-25](#)
 - リスト [14-24](#), [15-16](#)
- 制限事項
 - リスト [14-34](#)
- 設定 [14-40](#)
- 設定チェックリスト (表) [14-3](#)
- 説明 [14-1](#)
- ソフトキーの設定 [14-69](#)
- 定義 (表) [14-5](#)
- デスクトップ コール ピックアップ [14-12](#)
- 電話番号とリモート接続先プロファイルの関連付け [14-49](#)
- ハンドオフ モビリティの設定
 - 設定 (表) [14-65](#)
- モバイル コネクト [14-9](#)
- モバイル ボイス アクセス [14-13](#)
- モバイル ボイス アクセスの設定項目 (表) [14-56](#)
- モビリティ エンタープライズ機能の設定
 - 設定 (表) [14-64](#)
- モビリティ プロファイルの設定
 - 設定 (表) [14-66](#)
- 利点 [14-9](#)
- リモート接続先
 - 設定 [14-50](#)
- リモート接続先の設定項目 (表) [14-50](#)
- リモート接続先プロファイル
 - 設定 [14-44](#)
- リモート接続先プロファイルの設定項目 (表) [14-45](#)
- 論理パーティションとのインタラクション [32-34](#)
- Cisco Unified Mobility Advantage
 - 統合の概要 [15-1](#)
- Cisco Unified MobilityManager
 - Cisco Unified Mobility への移行 [14-40](#)
- Cisco Unity
 - IPv6 [29-19](#)
- Cisco Unity Connection
 - IPv6 [29-19](#)
- Cisco WebDialer
 - IPv6 [29-20](#)
 - 「WebDialer」を参照
- Cisco エクステンション モビリティ
 - Cisco エクステンション モビリティ サービスの追加 [9-20](#)
 - インストール [9-18](#)
 - インターコムのインタラクション [28-7](#)
 - インタラクション
 - Call Display Restrictions [9-16](#)
 - Cisco Unified Communications Manager Assistant [9-15](#)
 - IPv6 [9-16](#), [29-19](#)
 - 一括管理ツール [9-15](#)
 - インターコム [9-16](#)
 - 同じサーバ上で動作するサービス [9-15](#)
 - プレゼンス [37-13](#)
 - リスト [9-15](#)
 - インタラクションおよび制限事項 [9-15](#)
 - 概要 [9-1](#), [9-5](#)
 - 各 Cisco Unified IP Phone タイプのデフォルトデバイス プロファイルの作成 [9-27](#)
 - 関連項目 [9-38](#)
 - サービス パラメータの設定 (表) [9-21](#)
 - システム要件 [9-14](#)
 - 使用 [9-37](#)

制限事項 [9-17](#)
 設定 [9-18](#)
 設定チェックリスト (表) [9-2](#)
 設定のガイドライン [9-18](#)
 設定の例 [9-19](#)
 説明 [9-6](#)
 デバイス プロファイル
 概要 [9-6](#)
 デフォルト [9-6](#)
 ユーザ [9-6](#)
 電話機の登録 [9-34](#)
 等価機能 [9-12](#)
 ユーザ デバイス プロファイル、関連付け [9-33](#)
 ユーザの情報 [9-37](#)
 ユーザのデバイス プロファイルの作成 [9-30](#)
 例 (図) [9-7](#)
 ログアウトのコール フロー [9-11](#)
 ログインおよびログアウトの動作 [9-9](#)
 ログインのコール フロー [9-10](#)
 論理パーティションとのインタラクション [32-33](#)

Cisco クラスタ間のエクステンション モビリティ
 「クラスタ間のエクステンション モビリティ」を参照

Code Yellow 状態 [7-1](#)

CTI
 インターコムのインタラクション [28-7](#)
 セキュア TLS 接続 [38-8](#)
 モニタリングと録音のイベント送信 (図) [34-60](#)
 モニタリングと録音の要件 [34-60](#)
 論理パーティションとのインタラクション [32-38](#)

CTI ルート ポイント
 Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定のヒント [11-25](#)

Customer Response Solutions、インストール [13-5](#)

C 割り込み
 PLAR のサポート [1-15](#)
 共有会議ブリッジでのアクティブ化 [1-18](#)

ソフトキー [1-10](#)
 パーティ参加トーン [1-10](#)
 論理パーティションとのインタラクション [32-36](#)

D

DHCP

IPv6 [29-12](#)

Dial-via-Office 転送

Cisco Unified Mobility [15-11](#)

Dial-via-Office リバース コールバック

Cisco Unified Mobility [15-10](#)

DND

SCCP のステータス通知 [21-3](#)

SIP デバイスのステータス通知 [21-3](#)

アーキテクチャの概要 [21-3](#)

インストールとアクティブ化 [21-8](#)

インターコムの使用方法 [28-7](#)

インタラクション

 MLPP と CER [21-6](#)

 エクステンション モビリティ [21-7](#)

 折返し [21-6](#)

 パーク復帰 [21-6](#)

 ハント リスト [21-7](#)

 ピックアップ [21-6](#)

 ピックアップ通知 [21-7](#)

 保留復帰とインターコム [21-6](#)

 リスト [21-5](#)

エラーに関するトラブルシューティング (表) [21-19](#)

概要 [21-2](#)

関連項目 [21-20](#)

機能キー [21-9](#)

共通の電話プロファイルへの追加 [21-12](#)

サービス パラメータ [21-8](#)

シェアラインで DND の呼出音オフが有効になっている場合の高優先順位のコール (図) [21-16](#)

シェアラインで DND の呼出音オフが有効になっている場合の通常優先順位のコール (図)
21-15

システム要件 **21-4**

使用 **21-13**

使用例 **21-13**

制限事項 **21-7**

設定 **21-8**

設定チェックリスト **21-2**

説明 **21-1**

ソフトウェア要件 **21-4**

ソフトキー **21-9**

着信呼警告の設定 **21-3**

デバイス パラメータ (表) **21-10**

トラブルシューティング **21-17**

ハードウェア要件 **21-4**

非シェアラインで DND の呼出音オフが有効になっている場合の通常優先順位のコール (図)
21-14

DNS

IPv6 **29-12**

DSCP

コール優先順位のマッピング **35-34**

E

EMCC

「クラスタ間のエクステンション モビリティ」を参照

External Call Transfer Restrictions

Block Offnet to Offnet Transfer サービス パラメータ **23-8**

Call Classification サービス パラメータ **23-7**

アクティブ化 **23-6**

インストール **23-6**

インタラクション **23-5, 23-6**

外部のユーザへの外部コールの転送 (図) **23-4**

外部のユーザへの外部コールの転送をブロック (図) **23-5**

概要 **23-1, 23-3**

関連項目 **23-10**

ゲートウェイの設定 **23-8**

コールの分類の設定項目 (表) **23-8**

サービス パラメータ **23-7**

システム要件 **23-5**

制限事項 **23-5, 23-6**

設定 **23-7**

設定チェックリスト (表) **23-2**

トランクの設定 **23-8**

ルートパターンの設定 **23-9**

H

H.323

IPv6 **29-20**

H.323 ゲートウェイ

エンタープライズ機能アクセスの設定

オプション **14-58**

システム リモート アクセスの設定

ヘアピンングなし **14-58**

ヘアピンングの使用 **14-60**

I

IPMA、Cisco

「Cisco Unified Communications Manager Assistant」を参照

29-29

IPv6

Cisco Certificate Authority Proxy Function **29-19**

Cisco Unified CM の管理の設定項目 (表) **29-29**

Cisco Unified Communications Manager Assistant **29-19**

Cisco Unified Communications Manager サーバ **29-6**

Cisco Unified IP Phone **29-9**

Cisco Unified Mobility **29-21**

Cisco Unity **29-19**

Cisco Unity Connection **29-19**

Cisco WebDialer [29-20](#)
 Cisco エクステンション モビリティ [29-19](#)
 CLI コマンド [29-23](#)
 CTI [29-6](#)
 DHCPv6 [29-12](#)
 DNS [29-12](#)
 DSCP [29-20](#)
 H.323 デバイス [29-20](#)
 RSVP [29-21](#)
 SDL [29-21](#)
 SIP 電話機 [29-21](#)
 SIP トランク [29-15](#)
 T.38 ファクス [29-22](#)
 TFTP サーバ [29-16](#)
 アクティブ化 [29-23](#)
 アナライザー [29-18](#)
 イーサネット IPv6 の設定項目 (表) [29-23](#)
 インストール [29-23](#)
 インターコム [29-21](#)
 インタラクション [3-17, 29-18](#)
 エンタープライズ パラメータ (表) [29-27](#)
 会議 [29-20](#)
 概要 [3-5, 22-5, 29-5](#)
 関連項目 [3-47, 29-35](#)
 ゲートウェイ [29-13](#)
 コール アドミッション制御 [29-6](#)
 コール処理 [29-6](#)
 呼詳細レコード [29-19](#)
 サービス パラメータ (表) [29-27](#)
 参考資料 [29-36](#)
 システム要件 [29-18](#)
 制限事項 [3-17, 29-18](#)
 設定チェックリスト (表) [29-2](#)
 デバイス モビリティ [29-20](#)
 転送 [29-22](#)
 電話機の Web ブラウザ [29-22](#)
 トラブルシューティング [29-35](#)
 ビデオ [29-22](#)
 品質レポート ツール (QRT) [29-21](#)

保留音 [29-21](#)
 メディア ターミネーション ポイント (MTP) [29-14](#)
 モニタリングと録音 [29-21](#)
 リアルタイム監視ツール (RTMT) [29-20](#)

L

LPPolicyManager

論理パーティション [32-13](#)

LPSession インフラストラクチャ

論理パーティション [32-19](#)

M

Max List Box Items エンタープライズ パラメータ

コーリング サーチ スペース [28-41](#)

MCID

「迷惑呼 ID」を参照

MGCP

MLPP [35-33](#)

MLPP

CDR の録音 [35-31](#)

DSCP のマッピング [35-34](#)

MGCP [35-33](#)

PRI [35-33](#)

アクティブ化 [35-43](#)

アナウンス

許可されていない優先順位 [35-23](#)

許可されていない優先順位 (図) [35-24](#)

説明 [35-23](#)

通話中のステーション [35-25](#)

ブロックされた優先コール [35-24](#)

ブロックされた優先コール (図) [35-24](#)

インストール [35-43](#)

インタラクション [35-40, 35-41](#)

エンタープライズ パラメータ [35-44](#)

回線機能のインタラクション [35-31](#)

階層設定 [35-30](#)

- 概要 [35-4](#)
 - コール待機 [35-32](#)
 - コール転送 [35-32](#)
 - コール保存 [35-33](#)
 - サービス パラメータ [35-31](#)
 - シェアドライン [35-32](#)
 - 自動代替ルーティング (AAR) [35-33](#)
 - 自動転送 [35-31](#)
 - 制限事項 [35-40, 35-41](#)
 - 設定チェックリスト (表) [35-2](#)
 - 説明 [35-1](#)
 - ドメイン [35-10](#)
 - トランク選択
 - 説明 [35-27](#)
 - 例 (図) [35-29](#)
 - 番号計画
 - 説明 [35-26](#)
 - 例 (図) [35-26](#)
 - 表示 [35-13](#)
 - プリエンブション
 - User Access Channel Nonpreemptable [35-18](#)
 - 共通ネットワーク ファシリティ [35-19](#)
 - 共通ネットワーク ファシリティの例 (図) [35-19](#)
 - 受信 [35-16](#)
 - 詳細 [35-17](#)
 - 説明 [35-9](#)
 - 対応 [35-16](#)
 - ユーザ アクセス [35-17](#)
 - ユーザ アクセスの例 (図) [35-17](#)
 - リトライ タイマー T_{rr} のある共通ネットワーク ファシリティの例 (図) [35-20](#)
 - 補足サービス
 - 概要 [35-34](#)
 - コール転送 [35-36](#)
 - コール ピックアップ [35-37](#)
 - 三者通話 [35-36](#)
 - 自動転送 [35-35](#)
 - ハントパイロットとハントリスト [35-37](#)
 - 複数ライン アピアランス [35-34](#)
 - 優先
 - Alternate Party Diversion (APD) [35-14](#)
 - Alternate Party Diversion の例 (図) [35-15](#)
 - コールの設定 [35-13](#)
 - 説明 [35-6](#)
 - パターン [35-12](#)
 - 優先パターン
 - 説明 [35-26](#)
 - 例 (図) [35-26](#)
 - 用語 [35-5](#)
 - MOH
 - 「保留音 (MOH)」を参照
 - MTP
 - IPv6 [29-14](#)
 - Multilevel Precedence and Preemption
 - 「MLPP」を参照
 - サポートされるデバイス [35-39](#)
 - システム要件 [35-39](#)
-
- ## N
- Nonpreemptable User Access Channel [35-18](#)
-
- ## P
- perfmon カウンタ
 - MOH サーバの表示に使用 [36-37](#)
 - カウンタの説明 (表) [36-37](#)
 - PIDF-LO
 - 例 [24-25](#)
 - PLAR
 - 割り込み、C 割り込み、ワンボタン割り込み [1-15](#)
 - Privacy on Hold
 - アクティブ化 [1-18](#)
 - インストールとアクティブ化 [1-17](#)
 - インタラクションおよび制限事項 [1-14](#)
 - 関連項目 [1-20](#)

サービス パラメータ [1-19](#)
 システム要件 [1-12](#)
 設定 [1-18](#)
 設定チェックリスト (表) [1-4](#)
 説明 [1-12](#)
 PRI と MLPP [35-33](#)

Q

QRT

CEF サービスのアクティブ化 [38-22](#)
 Cisco Extended Functions サービス [38-7](#)
 IP Phone のサポート [38-6](#)
 IPv6 [29-21](#)
 Phone Interface (図) [38-11](#)
 Phone Interface の表示 (図) [38-10](#)
 QRT Viewer [38-26](#)
 アーキテクチャの概要 [38-4](#)
 アクティブ化 [38-16](#)
 アラームおよびトレース [38-22](#)
 インストール [38-16](#)
 インタラクション [38-15](#)
 音声品質のフィードバック (図) [38-11](#)
 概要 [38-1](#)
 拡張メニューの選択肢 [38-10](#)
 関連項目 [38-32](#)
 共通デバイス設定でのソフトキー テンプレートの構成 [38-20](#)
 原因コード (表) [38-12](#)
 コールできない (図) [38-14](#)
 コールできない (表) [38-14](#)
 コピー後のソフトキー テンプレートの設定ウィンドウ (図) [38-18](#)
 コンポーネント [38-3](#)
 サービスアビリティ機能 [38-21](#)
 サービス パラメータの設定 [38-24](#)
 最近、電話機の電源を切って入れ直した (図) [38-14](#)
 最近、電話機の電源を切って入れ直した (表) [38-13](#)

システム要件 [38-6](#)
 使用 [38-9](#)
 制限事項 [38-15](#)
 セキュア シグナリング接続 [38-8](#)
 設定 [38-16](#)
 設定チェックリスト (表) [38-2](#)
 説明 [38-3](#)
 ソフトキー [38-17](#)
 ソフトキー テンプレートの作成 [38-17](#)
 ソフトキー テンプレートの設定ウィンドウ (図) [38-17](#)
 ソフトキー レイアウト設定 (図) [38-19](#)
 直前のコールに問題がある (表) [38-13](#)
 電話機へのソフトキー テンプレートの追加 [38-20](#)
 電話の設定 (図) [38-21](#)
 トラブルシューティング [38-31](#)
 問題カテゴリ (表) [38-12](#)
 ユーザ インターフェイス [38-10](#)
 ユーザへの情報 [38-31](#)
 レポート
 サポートされているカテゴリごとのフィールド [38-29](#)
 説明 [38-26](#)
 レポート、現在のコールに問題がある (図) [38-12](#)
 レポート、直前のコールに問題がある (図) [38-13](#)

R

Redirector サブレット
 設定 [17-12](#)
 Ringlist.xml ファイル形式 [19-2](#)
 RSVP
 IPv6 [29-21](#)

SSAF [3-1](#)

SCCP

DND のステータス通知 [21-3](#)

SIP

Cisco Unified Mobility での URI ダイアル [14-19](#)DND ステータス通知 [21-3](#)SIP トランク デバイスとしてのレコーダ [34-19](#)

トランク

レコーダをポイントするための作成 (図) [34-74](#)

SIP トランク

IPv6 [29-15](#)ロケーション伝達 [24-23](#)論理パーティションと位置情報伝達とのインタラクション [32-21](#)論理パーティションとのインタラクション [32-22](#)論理パーティションの設定要件 [32-22](#)

SRST

インターコムの使用方法 [28-7](#)**T**

T.38 ファクス

IPv6 [29-22](#)

TEHO

ローカル ルート グループ [31-10](#)

TFTP

IPv6 [29-16](#)

Time-of-Day アクセス

Cisco Unified Mobility

設定チェックリスト (表) [14-15](#)説明 [14-14](#)特記事項 [14-17](#)TLS、CTI へのセキュアな接続 [38-8](#)Trr リトライ タイマーのあるプリエンブションの例 (図) [35-20](#)**U**

URI

Cisco Unified Mobility でのダイアル [14-19](#)**W**

WebDialer

Cisco Unified Communications Manager の標準エンドユーザ グループへのユーザの追加 [17-13](#)Microsoft Internet Explorer のロケール設定 (図) [17-11](#)Redirector サブレットの設定 [17-12](#)アクティブ化 [17-5](#)アプリケーション ダイアル ルールの設定 [17-12](#)インストール [17-5](#)インタラクション [17-5](#)インタラクションおよび制限事項 [17-5](#)概要 [17-1, 17-2](#)関連項目 [17-16](#)言語の設定 [17-10](#)サービス パラメータ [17-7](#)

サブレット

Redirector [17-3](#)Webdialer [17-2, 17-6](#)システム要件 [17-4](#)冗長性 [17-4](#)制限事項 [17-5](#)セキュアな TLS 接続 [17-9](#)設定 [17-6](#)設定チェックリスト (表) [17-1](#)トレースの設定 [17-15](#)パーティションのサポート [17-11](#)プロキシ ユーザの作成 [17-13](#)

- あ**
- アクセス制御
- MLPP 番号計画
 - 説明 [35-26](#)
 - 例 (図) [35-26](#)
 - 優先パターン
 - 説明 [35-26](#)
 - 例 (図) [35-26](#)
- アクセス、パーティションによる制限 [6-23](#)
- アクセス リスト
- 設定 [14-41](#)
 - 設定項目 (表) [14-41](#)
 - メンバの詳細の設定項目 (表) [14-43](#)
- アドホック会議
- 論理パーティションとのインタラクション [32-28](#)
- アナウンス
- MLPP [35-23](#)
 - 許可されていない優先順位 [35-23](#)
 - 許可されていない優先順位 (図) [35-24](#)
 - 通話中のステーション [35-25](#)
 - ブロックされた優先コール [35-24](#)
 - ブロックされた優先コール (図) [35-24](#)
- アナンシエータ
- IPv6 [29-18](#)
- アプリケーション ダイアル ルール
- WebDialer 用の設定 [17-12](#)
- アプリケーション ユーザ
- WebDialer 用の設定 [17-9](#)
- アラート、コール ピックアップ [6-23](#)
- アンカー遅延
- Cisco Unified Mobility [15-16](#)
- インタラクション [24-10](#)
- 概要 [24-1](#), [24-6](#)
 - 関連項目 [24-27](#)
 - クラスタ間トランクでのロケーション伝達関連のエラー処理 [24-24](#)
 - 検索 [24-11](#)
 - 削除 [24-12](#)
 - シェアドライン [24-8](#)
 - 識別子 [24-9](#)
 - 論理パーティションの使用法 [32-10](#)
 - 設定 [24-10](#), [24-12](#)
 - 設定項目 (表) [24-13](#)
 - 設定チェックリスト (表) [24-2](#)
 - ソース情報 [24-7](#)
 - 特徴 [24-7](#)
 - ルート リスト [24-8](#)
 - 例 [24-8](#)
 - 例 (表) [24-8](#)
 - ロケーション伝達の機能インタラクション [24-25](#)
 - 論理パーティション機能とコール中変更とのインタラクション [32-22](#)
 - 論理パーティション処理 [32-21](#)
 - 論理パーティションの使用 [32-9](#)
- 位置情報フィルタ
- 概要 [24-1](#), [24-17](#)
 - 関連項目 [24-27](#)
 - 検索 [24-18](#)
 - 削除 [24-20](#)
 - 設定 [24-18](#), [24-20](#)
 - 設定項目 (表) [24-21](#)
 - 設定チェックリスト (表) [24-3](#)
 - 例 (表) [24-18](#)
 - 論理パーティションの使用 [32-9](#)
- インターコム
- Cisco Unified Communications Manager Assistant [11-17](#)
 - Cisco Unified Communications Manager Assistant の使用法 [28-7](#)
 - Cisco エクステンション モビリティ [9-16](#)
- い**
- 位置情報
- SIP トランクでのロケーション伝達関連のエラー処理 [24-24](#)

Cisco エクステンション モビリティとのインタラクション **28-7**

CTI とのインタラクション **28-7**

DND の使用方法 **28-7**

IP Phone でサポート **28-4**

IPv4 **28-8**

IPv6 **28-8, 29-21**

SRST の使用方法 **28-7**

インストールとアクティブ化 **28-8**

インタラクション **28-6**

概要 **28-3**

コーリング サーチ スペース

検索 **28-17**

削除 **28-21**

設定 **28-18**

設定項目 (表) **28-19**

設定の概要 **28-17**

コール保存 **28-7**

システム要件 **28-4**

使用 **28-43**

制限事項 **28-6**

設定 **28-8**

設定チェックリスト (表) **28-1**

説明 **28-1**

電話番号

検索 **28-33**

設定 **28-35**

設定項目 (表) **28-36**

設定の概要 **28-33**

トランスレーション パターン

検索 **28-22**

削除 **28-32**

設定 **28-24**

設定項目 (表) **28-25**

設定の概要 **28-22**

パーティション

検索 **28-10**

コーリング サーチ スペースの制限 (表) **28-14**

削除 **28-15**

設定 **28-12**

設定項目 (表) **28-13**

割り込みの使用方法 **28-7**

インターコム電話番号

適切なデバイスに設定を同期化する **28-42**

インターコム パーティション

適切なデバイスに設定を同期化する **28-15**

え

エージェント コール

割り込みまたはモニタリング **34-13**

エクステンション モビリティ

Call Display Restrictions とのインタラクション **4-6**

エンタープライズ機能アクセス

2 段階ダイヤリング **14-62**

H.323 設定

オプション **14-58**

エンタープライズ パラメータ

MLPP **35-44**

プレゼンス **37-15**

論理パーティション **32-11**

エンドユーザ

WebDialer の標準エンドユーザ グループへの追加 **17-13**

お

オーディオソース

MOH **36-12**

MOH 用に格納 **36-13**

MOH 用に管理 **36-13**

MOH 用に作成 **36-12**

設定 **36-19**

マルチキャスト **36-14**

ユニキャスト **36-14**

折返し

- SIP を実行する電話機での折返し通知に関する追加情報 [2-8](#)
- インタラクションおよび制限事項 [2-7](#)
- 概要 [2-1, 2-3](#)
- サービス パラメータの設定 [2-13](#)
- システム要件 [2-6](#)
- 自動転送機能、即時転送機能、およびボイスメールシステム機能とのインタラクション [2-8](#)
- 設定チェックリスト [2-1](#)
- 説明 [2-3](#)
- ソフトキー テンプレート [2-9](#)
- 中断 / 再開機能 [2-6](#)

か

会議

- IPv6 [29-20](#)

会議リスト

- Call Display Restrictions とのインタラクション [4-6](#)

回線、MLPP とのインタラクション [35-31](#)

回線をまたいで参加

- 論理パーティションとのインタラクション [32-28](#)

外部コール制御 [22-1](#)

カスタム電話呼び出し音

- PCM ファイルの要件 [19-3](#)

概要 [19-1](#)作成 [19-3](#)

- ファイルのカスタマイズ [19-2](#)

カスタム呼び出し音タイプ用の PCM ファイルの要件 [19-3](#)

き

機能

- Call Display Restrictions [4-1](#)
- Cisco Unified Communications Manager Assistant

Cisco Unified IP Phone サービス [11-30](#)Cisco Unified IP Phone のインターフェイス [11-10, 12-9](#)Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) [11-16, 12-15](#)Time-of-Day ルーティング [11-16](#)アーキテクチャについて [11-6, 12-6](#)アシスタント コンソール インターフェイス [11-9, 12-8](#)アシスタントのインターフェイス [11-11, 12-10](#)一括管理ツール [11-14, 12-12](#)インターコム [11-17, 12-15](#)エクステンション モビリティ [11-14, 12-13](#)コーリング サーチ スペースとパーティション [11-23](#)ソフトキー [11-11, 12-10](#)データベース アクセス アーキテクチャについて [11-10](#)データベースおよびディレクトリ アクセス アーキテクチャについて [12-9](#)電話機 [11-35, 12-23](#)発信側の正規化 [11-14, 12-13](#)プロキシ回線サポートの設定チェックリスト (表) [11-2](#)マネージャおよびアシスタント管理用のインターフェイス [11-12, 12-11](#)マネージャのインターフェイス [11-10, 12-9](#)メッセージ受信インジケータ [11-16](#)ルート ポイント [11-25](#)レポート ツール [11-15, 12-13](#)

Cisco エクステンション モビリティ

一括管理ツール [9-15](#)External Call Transfer Restrictions [23-1](#)

Multilevel Precedence and Preemption (MLPP)

Cisco Unified Communications Manager Assistant での使用 [12-15](#)QRT [38-1, 38-16](#)WebDialer [17-1](#)コール パーク [5-1](#)シングル サインオン [39-1](#)即時転送 [27-1](#)

- ダイレクト コール パーク [5-1](#)
- デバイス モビリティ [20-1](#)
- プライバシー [1-1](#)
- プレゼンス [37-1, 37-4](#)
- 保留復帰 [25-1](#)
- 迷惑呼 ID (MCID) [33-3](#)
- 割り込み [1-1](#)
- 機能セーフ
 - Cisco エクステンション モビリティ [9-12](#)
- 強制承認コード
 - BAT の使用方法 [18-6](#)
 - CAR の使用方法 [18-6](#)
 - CTI、JTAPI、および TAPI の使用方法 [18-6](#)
 - インストール [18-7](#)
 - インタラクション [18-4](#)
 - システム要件 [18-7](#)
 - 制限事項 [18-4](#)
 - 設定項目 (表) [18-10](#)
 - 説明 [18-4](#)
 - ユーザ情報 [18-11](#)
 - 要件 [18-7](#)
 - ルート パターンでの有効化 [18-11](#)
- 共通ネットワーク ファシリティ プリエンプション
 - 説明 [35-19](#)
 - リトライ タイマー Trr のある例 (図) [35-20](#)
 - 例 (図) [35-19](#)
- 共有会議ブリッジと C 割り込み [1-18](#)
- 拒否処理
 - 論理パーティション [32-19](#)
- 制限事項 [18-4](#)
- 設定項目 (表) [18-7](#)
- 説明 [18-3](#)
- ユーザ情報 [18-11](#)
- 要件 [18-7](#)
- ルート パターンでの有効化 [18-9](#)
- クラスタ間のエクステンション モビリティ
 - EMCC 機能設定
 - 設定 [10-42](#)
 - アクティブ化 [10-42](#)
 - インストール [10-42](#)
 - インタラクション [10-39](#)
 - エンド ユーザの情報 [10-51](#)
 - 概要 [10-1, 10-13](#)
 - 関連項目 [10-55](#)
 - システム要件 [10-38](#)
 - 制限事項 [10-39](#)
 - 設定 [10-42](#)
 - 設定チェックリスト [10-2](#)
 - トラブルシューティング [10-51](#)
- クラスタ間トランク
 - ロケーション伝達 [24-23](#)
 - 論理パーティションと位置情報伝達とのインタラクション [32-21](#)
 - 論理パーティションの設定要件 [32-22](#)
- グループ コール ピックアップ
 - 設定チェックリスト (表) [6-1](#)
 - 説明 [6-12](#)
- グローバル化、発信側番号の
 - BAT のサポート [8-12](#)
 - CAR のサポート [8-13](#)
 - Cisco Unified Communications Manager Assistant のサポート [8-12](#)
 - Cisco Unity Connection のサポート [8-13](#)
 - Cisco Unity のサポート [8-13](#)
 - Cisco エクステンション モビリティのサポート [8-13](#)
 - アクティブ化 [8-15](#)
 - インストール [8-15](#)
 - インタラクション [8-11](#)

<

クライアント識別コード

- BAT の使用方法 [18-6](#)
- CAR の使用方法 [18-6](#)
- CTI、JTAPI、および TAPI の使用方法 [18-6](#)
- インストール [18-7](#)
- インタラクション [18-4](#)
- システム要件 [18-7](#)

エンドユーザの情報 **8-29**
 関連項目 **8-29**
 グローバル番号と対応するローカル番号のマッピング **8-9**
 ゲートウェイのサポート **8-6**
 呼詳細レコードのサポート **8-12, 8-13**
 サービス パラメータ **8-16**
 システム要件 **8-11**
 自動転送 **8-12**
 制限事項 **8-14**
 設定 **8-15**
 設定チェックリスト **8-1**
 説明 **8-5**
 デバイス モビリティのサポート **8-13**
 転送 **8-11**
 電話機のサポート **8-11**
 発呼側番号タイプ **8-18**
 例 **8-5**

け

ゲートウェイ
 IPv6 **29-13**

こ

コーデック
 モニタリング コールと録音コール (図) **34-57**
 コーリング サーチ スペース
 Cisco Unified Communications Manager Assistant
 設定のヒント **11-23**
 SUBSCRIBE (プレゼンス) **37-12, 37-16**
 ドロップダウン リスト ボックスの表示設定 **28-41**
 パーティションの制限 **28-20**
 コールされた番号の変換 (図) **31-13**
 コール スロットリング
 概要 **7-1**

関連項目 **7-3**
 トラブルシューティング **7-3**
 コール制御ディスカバリ **3-1**
 コール待機
 MLPP の通信 **35-32**
 コール転送
 MLPP の通信 **35-32**
 論理パーティションとのインタラクション **32-26**
 コールの分類の設定項目 (表) **23-8**
 コール パーク
 Call Display Restrictions とのインタラクション **4-5**
 MOH の例 **36-8**
 インストールとアクティブ化 **5-11**
 インタラクション **5-8**
 概要 **5-1, 5-5**
 サービス パラメータの設定 **5-11**
 システム要件 **5-8**
 使用例 **5-5**
 制限事項 **5-10**
 設定 **5-11**
 設定項目 (表) **5-14**
 設定チェックリスト (表) **5-2**
 ダイレクト
 Cisco Unified Mobility での DTMF を介した **14-17**
 番号の検索 **5-12**
 番号の削除 **5-15**
 番号の設定 **5-13, 5-25**
 論理パーティションとのインタラクション **32-32**
 コール ピックアップ
 アクセスの制限 **6-23**
 アクティブ化 **6-28**
 インストール **6-28**
 インタラクション
 依存関係レコード **6-27**
 コーリング サーチ スペース **6-26**
 コール アカウンティング **6-26**

- 時刻 [6-26](#)
 - パーティション [6-26](#)
 - リスト [6-26](#)
 - ルート プラン レポート [6-26](#)
 - インタラクションおよび制限事項 [6-25](#)
 - 応答なし [6-20](#)
 - 概要 [6-1, 6-11](#)
 - 関連項目 [6-37](#)
 - グループ コール ピックアップ
 - 説明 [6-12](#)
 - コール ピックアップ グループ
 - 他グループ コール ピックアップの
ピックアップ グループの定義 [6-35](#)
 - 電話番号への割り当て [6-36](#)
 - サービス パラメータ [6-28](#)
 - システム要件 [6-24](#)
 - 自動
 - Cisco Unified Mobility との
インタラクション [14-32](#)
 - 説明 [6-19](#)
 - 制限事項
 - リスト [6-27](#)
 - 設定 [6-28](#)
 - 設定チェックリスト (表) [6-1](#)
 - 帯域幅なし [6-20](#)
 - ダイレクト
 - 設定チェックリスト (表) [6-6](#)
 - 例 [6-14](#)
 - 他グループ
 - 説明 [6-13](#)
 - 通知 [6-23](#)
 - 電話機の機能の説明 [6-12](#)
 - パーティションで使用 [6-23](#)
 - ビジー [6-20](#)
 - ビジー ランプ フィールド
 - 設定チェックリスト (表) [6-8](#)
 - 説明 [6-17](#)
 - 論理パーティションとのインタラクション
[32-30](#)
 - コール ピックアップ グループ
 - 検索 [6-29](#)
 - 削除 [6-34](#)
 - 設定 [6-29, 6-30](#)
 - 設定項目 (表) [6-31](#)
 - コール保存
 - MLPP [35-33](#)
 - インターコム [28-7](#)
 - コール モニタリング
 - 「モニタリング」を参照
 - コール録音
 - 「録音」を参照
 - 固定オーディオソース
 - 削除 [36-26](#)
 - 設定 [36-25](#)
 - 設定項目 (表) [36-26](#)
-
- さ
- サービス
 - Cisco エクステンション モビリティ サービスの
追加 [9-20](#)
 - MLPP の補足 [35-34](#)
 - サービス パラメータ
 - CDR [33-7](#)
 - Cisco エクステンション モビリティ (表) [9-21](#)
 - External Call Transfer Restrictions [23-7](#)
 - MLPP [35-31](#)
 - Privacy on Hold [1-19](#)
 - WebDialer [17-7](#)
 - コール ピックアップ [6-28](#)
 - プライバシー [1-19](#)
 - プレゼンス [37-15](#)
 - モニタリングと録音 [34-76](#)
 - 録音とモニタリング (図) [34-69](#)
 - 割り込み [1-19](#)
 - サイレント
 - 「DND」を参照

参加

論理パーティションとのインタラクション
32-28

し

シェアドライン

MLPP の通信 35-32

位置情報 24-8

論理パーティション位置情報の使用 32-10

論理パーティションとのインタラクション
32-35

システム要件

コール ピックアップ 6-24

システム リモート アクセス

H.323 設定

ヘアピニングなし 14-58

ヘアピニングの使用 14-60

自動コール ピックアップ

Cisco Unified Mobility とのインタラクション
14-32

説明 6-19

自動代替ルーティング (AAR)

MLPP の通信 35-33

自動転送

MLPP の通信 35-31

ローカル ルート グループ 31-15

論理パーティションとのインタラクション
32-25

冗長性

MOH サーバ 36-10

WebDialer 17-4

レコーダ用の作成 (図) 34-76

処理されたダイレクト コール パーク 5-30

シングル サインオン

Active Directory および OpenAM での Windows
シングル サインオンの設定 39-5

CLI コマンド 39-6

Firefox の設定 39-3, 39-6

Internet Explorer の設定 39-5

OpenAM 証明書のインポート 39-4

OpenAM の設定 39-4

utils sso disable CLI コマンド 39-7

utils sso enable CLI コマンド 39-6

utils sso status CLI コマンド 39-8

インストールおよびアクティブ化 39-4

概要 39-1

関連項目 39-8

クライアントのブラウザの設定 39-5

設定 39-4

設定チェックリスト (表) 39-2

せ

正規化、発信側の

BAT のサポート 8-12

CAR のサポート 8-13

Cisco Unified Communications Manager
Assistant のサポート 8-12

Cisco Unity Connection のサポート 8-13

Cisco Unity のサポート 8-13

Cisco エクステンション モビリティのサポート
8-13

アクティブ化 8-15

インストール 8-15

インタラクション 8-11

エンドユーザの情報 8-29

関連項目 8-29

グローバル化の説明 8-5

グローバル番号と対応するローカル番号のマッピ
ング 8-9

コールの転送 8-11

呼詳細レコードのサポート 8-12, 8-13

サービス パラメータ 8-16

システム要件 8-11

自動転送 8-12

制限事項 8-14

設定 8-15

設定チェックリスト 8-1

デバイス モビリティのサポート **8-13**
 電話機のサポート **8-11**
 発呼側トランスフォーメーション CSS **8-28**
 発呼側番号タイプ **8-18**
 ローカライズ、説明 **8-8**

セキュリティ

Cisco Unified Communications Manager
 Assistant **11-30, 12-21**
 IPMASecureSysUser **11-30, 12-21**
 プレゼンス許可 **37-11**
 モニタリング機能 **34-63**
 録音機能 **34-63**

そ

即時転送

インストールとアクティブ化 **27-12**
 インタラクション
 MLPP **27-9**
 会議 **27-9**
 呼詳細レコード **27-9**
 自動転送 **27-9**
 ハントリスト **27-10**
 リスト **27-9**
 インタラクションおよび制限事項 **27-9**
 概要 **27-1, 27-3**
 関連項目 **27-13**
 コール処理要件 **27-4**
 サービス パラメータの設定 **27-12**
 システム要件 **27-4**
 シナリオ **27-6, 27-8**
 使用 **27-6**
 制限事項 **27-10**
 設定 **27-12**
 設定チェックリスト (表) **27-1**
 ソフトキー要件 **27-4**
 着信コールの要件 **27-5**
 電話機表示メッセージ **27-6**
 発信コールの要件 **27-6**

ソフトキー

C 割り込み **1-10**
 MCID のテンプレート **33-8, 33-10**
 モビリティの設定 **14-69**
 割り込み **1-8**

た

帯域幅不足、MLPP の AAR **35-33**
 ダイレクト コール パーク
 BLF/ ダイレクト コール パーク ボタンの設定
 5-28
 BLF の設定項目 **5-28**
 DTMF を介した
 Cisco Unified Mobility **14-17**
 インストールとアクティブ化 **5-23**
 インタラクション **5-21**
 概要 **5-1, 5-19**
 サービス パラメータの設定 **5-24**
 システム要件 **5-20**
 使用例 **5-19, 5-20**
 制限事項 **5-22**
 設定項目 (表) **5-26**
 設定チェックリスト (表) **5-3**
 適切なデバイスに設定を同期化する **5-29**
 番号の検索 **5-24**
 番号の削除 **5-30**
 論理パーティションとのインタラクション
 32-32
 ダイレクト コール ピックアップ
 基本的な完了 (図) **6-14**
 基本的な設定 (図) **6-14**
 拒否 (図) **6-15, 6-16**
 設定チェックリスト (表) **6-6**
 説明 **6-14**
 複数コールの完了 (図) **6-17**
 複数コールの設定 (図) **6-17**
 他グループ
 設定チェックリスト (表) **6-4**

他グループ ピックアップ

- 設定チェックリスト (表) [6-4](#)
- 説明 [6-13](#)

ち

着信側

- トランスフォーメーション
ローカル ルート グループ [31-12](#)

て

データベースのスケラビリティ [36-10](#)

テール エンド ホップ オフ (TEHO)

- ローカル ルート グループ [31-10](#)

デバイス プロファイル

- Cisco エクステンション モビリティ [9-6](#)
- Cisco エクステンション モビリティ のデフォルト [9-6](#)
- Cisco エクステンション モビリティ のユーザ [9-6, 9-33](#)
- Cisco エクステンション モビリティ のユーザ用に作成 [9-30](#)

デバイス モビリティ

- IPv4 [20-9](#)
- IPv6 [20-9, 29-20](#)
- インストール [20-11](#)
- 概要 [20-1, 20-3](#)
- 機能のインタラクション [20-9](#)
- 機能の制限事項 [20-9](#)
- システム要件 [20-10](#)
- 詳細情報 [20-23](#)
- 設定 [20-11](#)
- 設定チェックリスト [20-2](#)
- 設定のヒント [20-12](#)
- 動作 [20-4](#)
- ネットワークの検討事項 [20-8](#)
- 発信側の正規化 [8-13, 20-9](#)
- 有効化 / 無効化 [20-13](#)

ローミング パラメータの表示 [20-23](#)

デバイス モビリティ グループ

- 検索 [20-16](#)
- 削除 [20-19](#)
- 設定 [20-18](#)
- 設定項目 (表) [20-18](#)

デバイス モビリティ 情報

- 検索 [20-19](#)
- 削除 [20-22](#)
- 設定 [20-21](#)
- 設定項目 (表) [20-21](#)

デフォルト デバイス プロファイル

- Cisco Unified IP Phone タイプごとの作成 [9-27](#)

転送

- Cisco Unified Mobility での Dial-via-Office [15-11](#)

- External Call Transfer Restrictions [23-1](#)

- IPv6 [29-22](#)

転送保留、MOH の例 [36-8](#)

テンプレート、ソフトキー

- MCID [33-8, 33-10](#)

電話機

- Call Display Restrictions [4-9](#)
- IPv6 と Web ブラウザ [29-22](#)
- カスタム呼び出し音
PCM ファイルの要件 [19-3](#)
- 概要 [19-1](#)
- 作成 [19-1, 19-3](#)

- プレゼンスとのインタラクション [37-5](#)

- ライセンス [30-8](#)

電話番号

- インターコム
設定の概要 [28-33](#)
- コーリング サーチ スペースの一覧 [28-41](#)
- コール ピックアップ グループの割り当て [6-36](#)

と

ドメイン、MLPP

MLPP の識別子 **35-10**

トランク

IPv6 と SIP トランク **29-15**

MLPP の選択

説明 **35-27**例 (図) **35-29**プレゼンスとのインタラクション **37-5**

トランスフォーメーション

ローカル ルート グループでの着信側 **31-12**

トランスレーション パターン

Call Display Restrictions **4-7**トレース設定、WebDialer **17-15**

は

パーク モニタリング **5-16**サービス パラメータの設定 **5-16**[電話番号の設定 (directory number configuration)] ウィンドウ **5-18**

パーティ参加トーン

割り込み、C 割り込み、ワンボタン割り込み
1-10

パーティション

WebDialer のサポート **17-11**アクセスの制限 **6-23**コール ピックアップの使用 **6-23**発呼側トランスフォーメーション パターン **8-8**

パラメータ、サービス

CDR **33-7**

番号計画

MLPP アクセス制御 **35-26**MLPP (図) **35-26**

ハントパイロット

論理パーティションとのインタラクション
32-37

ひ

ビジョ ランプ フィールド コール ピックアップ

設定チェックリスト (表) **6-8**説明 **6-17**例 **6-18**

ビデオ

IPv6 **29-22**表示対応 **35-13**ビルトイン会議ブリッジ、割り込み **1-18**

ビルトインブリッジ

「BIB」を参照

品質レポート ツール (QRT)

「QRT」を参照 **38-1**

ふ

ファイアウォールと片方向メディア (図) **34-58**ファイル形式、Ringlist.xml **19-2**付加ライセンス機能 **30-9**復帰コール **25-6**

物理ロケーション

検索 **20-14**削除 **20-16**設定 **20-15**設定項目 (表) **20-15**

プライバシー

アクティブ化 **1-18**インストールとアクティブ化 **1-17**インタラクションおよび制限事項 **1-14**概要 **1-1**関連項目 **1-20**サービス パラメータ **1-19**システム要件 **1-12**設定 **1-18**設定チェックリスト (表) **1-4**説明 **1-11**

プリエンブション

User Access Channel Nonpreemptable **35-18**

共通ネットワーク ファシリティ **35-19**
 共通ネットワーク ファシリティの例 (図) **35-19**
 受信 **35-16**
 詳細 **35-17**
 説明 **35-9**
 対応 **35-16**
 ユーザ アクセス **35-17**
 ユーザ アクセスの例 (図) **35-17**
 リトライ タイマー Trr のある共通ネットワーク
 ファシリティの例 (図) **35-20**
 プレゼンス
 BLF/ スピード ダイアル
 設定 **37-23**
 設定項目 (表) **5-28, 37-25**
 ボタン、設定 **37-24**
 Cisco エクステンション モビリティとのインタラ
 クション **37-13**
 SUBSCRIBE コーリング サーチ スペース
 37-12, 37-16
 概要 **37-1, 37-4**
 機能のインタラクションおよび制限事項 **37-14**
 許可 **37-11**
 グループ
 インタラクションの例 **37-10**
 設定項目 (表) **37-19**
 設定の例 **37-8**
 説明 **37-8**
 適用 **37-21**
 詳細情報 **37-26**
 設定チェックリスト (表) **37-1**
 電話機およびトランクとのインタラクション
 37-5
 プレゼンス グループとプレゼンス許可のヒント
 37-22
 要求の例 **37-6**
 ルート リストとのインタラクション **37-7**
 プロキシ ユーザ、WebDialer 用の作成 **17-13**

へ

変更、ファイルの **19-2**

ほ

ボイスメール

Call Display Restrictions とのインタラクション
4-6

補足サービス

概要 **35-34**

コール転送 **35-36**

コール ピックアップ **35-37**

三者通話 **35-36**

自動転送 **35-35**

ハント パイロットとハント リスト **35-37**

複数ライン アピアランス **35-34**

ホットライン

Cisco Unified CM の管理での設定 (表) **26-10**

アクティブ化 **26-8**

インストール **26-8**

エンタープライズ パラメータ (表) **26-8**

概要 **26-4**

関連項目 **26-13**

コールと受信の設定 **26-4**

コールのスクリーニング **26-5**

 CSS およびパーティションの使用 **26-5**

 発呼側番号ルーティングの使用 **26-5**

サービス パラメータ (表) **26-8**

サポートされるデバイス **26-7**

システム要件 **26-7**

設定チェックリスト (表) **26-2**

ポリシー

さまざまなポリシー設定 (表) **32-17**

チェック

 論理パーティション **32-19**

マッチング **32-18**

論理パーティション

 検索 **32-42**

- 設定 [32-43](#)
- 設定項目 (表) [32-45](#)
- 説明 [32-12](#)
- 例 [32-12](#)
- レコードの削除 [32-44](#)
- 論理パーティションの設定 [32-42](#)
- ポリシー検索アルゴリズム
 - 論理パーティション
 - 説明 [32-16](#)
 - 例 (表) [32-17](#)
- ポリシー ツリー
 - 論理パーティション [32-13](#)
 - 論理パーティション (図) [32-14](#)
- 保留音
 - IPv6 [29-21](#)
- 保留音 (MOH)
 - オーディオソース
 - 検索 [36-20](#)
 - 削除 [36-22](#)
 - 設定 [36-19, 36-21](#)
 - 設定項目 (表) [36-22](#)
 - 説明 [36-12](#)
 - オーディオソースの格納 [36-13](#)
 - オーディオソースの管理 [36-13](#)
 - オーディオソースの作成 [36-12](#)
 - オーディオ ファイル
 - アップロード [36-35](#)
 - 管理 [36-34](#)
 - 削除 [36-36](#)
 - 表示 [36-35](#)
- 概要 [36-4](#)
- 機能 [36-7](#)
 - 管理性 [36-11](#)
 - サーバの管理性 [36-9](#)
 - サーバの冗長化 [36-10](#)
 - サーバのスケラビリティ [36-9](#)
- コール パークの例 [36-8](#)
- 固定オーディオソース
 - 削除 [36-26](#)
- 設定 [36-25](#)
- 設定項目 (表) [36-26](#)
- 説明 [36-25](#)
- サーバ
 - perfmon カウンタ [36-37](#)
 - 管理性 [36-9](#)
 - 検索 [36-27](#)
 - 冗長性 [36-10](#)
 - スケラビリティ [36-9](#)
 - 設定 [36-27, 36-28](#)
 - 設定の同期化 [36-29](#)
 - 説明 [36-11](#)
 - データベース要件 [36-10](#)
 - 特徴 [36-8](#)
 - リセット [36-29](#)
- サーバの設定項目 (表) [36-30](#)
- サポートされている機能 [36-8](#)
- 設定チェックリスト (表) [36-2](#)
- 説明 [36-1](#)
- 定義 [36-4](#)
- データベースのスケラビリティ [36-10](#)
- 転送保留の例 [36-8](#)
- 特徴 [36-6](#)
- トピック一覧 [36-1](#)
- パフォーマンスの監視
 - 概要 (表) [36-4](#)
 - サービス状態 [36-38](#)
- フェールオーバーとフォールバック [36-19](#)
- ユーザ保留の例 [36-8](#)
- 要件と制限事項 [36-17](#)
- 保留復帰
 - アラート動作 (表) [25-4](#)
 - インストール [25-12](#)
 - インタラクション
 - CTI アプリケーション [25-11](#)
 - MLPP [25-11](#)
 - コール パーク [25-10](#)
 - 保留音 [25-10](#)
 - リスト [25-10](#)

概要 [25-1, 25-3](#)
 コールのフォーカス動作 [25-5](#)
 コールのフォーカス優先度 [25-13](#)
 コールのフォーカス優先度の設定 [25-15](#)
 サポートされるデバイス [25-9](#)
 システム要件 [25-9](#)
 詳細情報 [25-18](#)
 制限事項 [25-11](#)
 設定 [25-12](#)
 設定チェックリスト (表) [25-1](#)
 設定のヒント [25-14](#)
 説明 [25-4](#)
 タイマー [25-13](#)
 タイマーの無効化 [25-6](#)
 トラブルシューティング [25-17](#)
 復帰コールの取得 [25-6](#)
 保留復帰タイマーの設定 [25-16](#)
 ユーザへの情報の提供 [25-17](#)
 例 [25-4, 25-7](#)

ま

マルチキャスト
 MOH のオーディオソース [36-14](#)
 設定チェックリスト (表) [36-3](#)
 説明 [36-14](#)

み

ミーティング
 論理パーティションとのインタラクション [32-29](#)

め

迷惑呼 ID
 MCID 機能の削除 [33-10](#)
 アラームの設定 [33-8](#)
 インストール [33-7](#)

インタラクション
 アラーム [33-5](#)
 エクステンション モビリティ [33-5](#)
 会議コール [33-5](#)
 呼詳細レコード [33-5](#)
 リスト [33-5](#)
 概要 [33-3](#)
 関連項目 [33-12](#)
 機能コード [33-3](#)
 サービス [33-1, 33-3](#)
 サービス パラメータの設定 [33-7](#)
 サポートされるデバイス [33-4](#)
 システム要件 [33-4](#)
 使用 [33-3](#)
 制限事項 [33-6](#)
 設定チェックリスト (表) [33-1](#)
 説明 [33-3](#)
 ソフトキー テンプレートの追加 [33-8, 33-10](#)
 トラブルシューティング [33-11](#)
 ユーザへの MCID の提供 [33-9, 33-11](#)

も

モニタリング
 BIB [34-59](#)
 CTI イベント送信 (図) [34-60](#)
 CTI および JTAPI/TSP アプリケーションとの
 インタラクション [34-62](#)
 CTI 要件 [34-60](#)
 IPv6 [29-21](#)
 アーキテクチャ (図) [34-4](#)
 アプリケーションのユーザの追加 (図) [34-67](#)
 インタラクションのリスト [34-61](#)
 エージェントがスーパーバイザと会議を行う場合
 (図) [34-14](#)
 エージェント コール [34-13](#)
 エージェントの IP Phone からのストリーミング
 (図) [34-6](#)
 エージェントはモニタリング コールを制御できな
 い (図) [34-11](#)

会議中のエージェント (図) [34-13](#)
 概要 [34-3, 34-8](#)
 片方向メディア [34-58](#)
 片方向メディア (図) [34-58](#)
 可能にするために IP Phone の BIB をオンにする (図) [34-66](#)
 関連項目 [34-77](#)
 グループへのユーザの追加 (図) [34-68](#)
 コーリング サーチ スペースの設定 (図) [34-70](#)
 コール情報 [34-59](#)
 コール特性 [34-56](#)
 コールのコーデック (図) [34-57](#)
 コール保存 [34-59](#)
 サービス パラメータ [34-76](#)
 再生トーンの動作 [34-57](#)
 サポートされるデバイス [1-13, 20-10, 21-4, 34-6](#)
 システム要件 [34-60](#)
 スーパーバイザが別のスーパーバイザと会議を行う場合 (図) [34-15](#)
 スーパーバイザがモニタリング コールを転送する場合 (図) [34-10](#)
 制限事項
 インターコム [34-63](#)
 セキュリティ [34-63](#)
 リスト [34-62](#)
 セッション (図) [34-9](#)
 セッションのフロー (図) [34-8](#)
 セッションの呼び出し [34-9](#)
 設定 [34-65](#)
 設定チェックリスト (表) [34-1](#)
 説明 [34-1](#)
 通知トーン [34-56](#)
 トーンの設定 (図) [34-69](#)
 ハードウェア要件 [34-61](#)
 ファイアウォール (図) [34-58](#)
 複数のセッション (図) [34-12](#)
 他の機能とのインタラクション [34-62](#)
 用語 [34-3](#)
 録音と同時 (図) [34-55](#)

モニタリングと録音の通知トーン [34-56](#)
 モバイル コネクト
 MLPP [14-32, 15-18](#)
 概要 [14-5](#)
 関連項目 [14-70, 15-21](#)
 機能のインタラクション [14-32, 15-18](#)
 制限事項 [14-32, 15-18](#)
 モバイル ボイス アクセス
 概要 [14-5, 15-4](#)
 関連項目 [14-70, 15-21](#)
 設定項目 (表) [14-56](#)
 電話番号 [14-56](#)
 モビリティ ソフトキー
 設定 [14-69](#)

ゆ

ユーザ保留、MOH の例 [36-8](#)
 優先
 Alternate Party Diversion (APD)
 説明 [35-14](#)
 例 (図) [35-15](#)
 CDR の録音 [35-31](#)
 許可されていない [35-23](#)
 許可されていない (図) [35-24](#)
 コールの設定 [35-13](#)
 説明 [35-6](#)
 通話中のステーション
 パターン [35-25](#)
 MLPP (図) [35-26](#)
 アクセス制御 [35-26](#)
 セットアップ [35-12](#)
 ブロック [35-24](#)
 ブロック (図) [35-24](#)
 ユニキャスト
 MOH のオーディオソース [36-14](#)
 説明 [36-14](#)

よ

要件

- Cisco Unified Mobility [14-39](#)
- Cisco Unified Mobility Advantage [15-19](#)
- Cisco エクステンション モビリティ [9-14](#)
- 折返し [2-6](#)
- デバイス モビリティ [20-10](#)
- 保留復帰 [25-9](#)

ら

ライセンス

- Cisco IP Communicator [30-10](#)
- Cisco Unified Mobile Communicator [30-11](#)
- Cisco Unified Mobility [30-10](#)
- Cisco Unified Mobility とのインタラクション [14-33](#)
- アプリケーション [30-10](#)
- アラーム [30-24](#)
- 概要 [30-1](#)
- 計算 [30-13](#)
- 詳細情報 [30-25](#)
- ステータス通知 [30-24](#)
- ソフトウェア機能ライセンスの取得 [30-16](#)
- 電話機 [30-8](#)
- 付加デバイス [30-9](#)
- ライセンス ファイル
 - アップロード [30-18](#)
 - 取得 [30-15](#)
 - ライセンス ファイルの例 [30-7](#)
- ライセンス マネージャ サービスの開始 [30-17](#)
- ライセンス ユニット レポート
 - 生成 [30-19](#)
- ライセンス機能割り当て
 - 1 人のユーザに対する設定 [30-22](#)
 - 検索 [30-21](#)
 - 設定値 (表) [30-20](#)
 - 複数ユーザに対する設定 [30-23](#)

り

- リトライ タイマー Trr の例 (図) [35-20](#)
- リバース コールバック
 - Cisco Unified Mobility での Dial-via-Office [15-10](#)
- リモート再開
 - 論理パーティションとのインタラクション [32-36](#)
- リモート接続先
 - インテリジェントセッション制御 [14-20](#)
 - 設定 [14-50](#)
 - 設定項目 (表) [14-50](#)
- リモート接続先プロファイル
 - 設定 [14-44](#)
 - 設定項目 (表) [14-45](#)
 - 電話番号の関連付け [14-49](#)

る

- ルーティング
 - ローカル ルート グループでの単純なルーティング [31-7](#)
- ルート グループ
 - ローカル
 - インストールとアクティブ化 [31-17](#)
 - インタラクション [31-14](#)
 - 概要 [31-4](#)
 - コールされた番号の変換 (図) [31-13](#)
 - 混合されたルートリストの制限事項 [31-16](#)
 - サポートされるデバイス [31-14](#)
 - システム要件 [31-14](#)
 - 自動転送 [31-15](#)
 - 使用しない TEHO のプロビジョニング (図) [31-11](#)
 - 使用しないローカル オフネット アクセスのプロビジョニング (図) [31-8](#)
 - 使用する TEHO のプロビジョニング (図) [31-12](#)
 - 使用するローカル オフネット アクセスのプロビジョニング (図) [31-9](#)

- 制限事項 [31-16](#)
 - 説明 [31-5](#)
 - 着信側トランスフォーメーション [31-12](#)
 - プロビジョニングされたルート グループのバインド [31-5](#)
 - 補足サービス [31-15](#)
 - ルーティング [31-6](#)
 - ルート プラン レポート [31-16](#)
 - ローカル ルート グループへのバインド [31-5](#)
 - ルート パターン
 - レコーダ用の作成 (図) [34-75](#)
 - ルート プラン レポート
 - ローカル ルート グループ [31-16](#)
 - ルート リスト
 - 位置情報 [24-8](#)
 - プレゼンスとのインタラクション [37-7](#)
 - 論理パーティション位置情報の使用 [32-10](#)
 - 論理パーティションとのインタラクション [32-37](#)
-
- ろ**
- ローカライズ、発信側番号の
 - BAT のサポート [8-12](#)
 - CAR のサポート [8-13](#)
 - Cisco Unified Communications Manager Assistant のサポート [8-12](#)
 - Cisco Unity Connection のサポート [8-13](#)
 - Cisco Unity のサポート [8-13](#)
 - Cisco エクステンション モビリティのサポート [8-13](#)
 - アクティブ化 [8-15](#)
 - インストール [8-15](#)
 - インタラクション [8-11](#)
 - エンドユーザの情報 [8-29](#)
 - 関連項目 [8-29](#)
 - グローバル番号と対応するローカル番号のマッピング [8-9](#)
 - 呼詳細レコードのサポート [8-12, 8-13](#)
 - システム要件 [8-11](#)
 - 自動転送 [8-12](#)
 - 制限事項 [8-14](#)
 - 設定 [8-15](#)
 - 設定チェックリスト [8-1](#)
 - 説明 [8-8](#)
 - デバイス モビリティのサポート [8-13](#)
 - 転送 [8-11](#)
 - 電話機のサポート [8-11](#)
 - 発呼側トランスフォーメーション CSS [8-28](#)
 - 発呼側トランスフォーメーションパターン [8-8](#)
 - 例 [8-8](#)
 - ローカル オフネット アクセス
 - 集中型モードでの管理 (図) [31-7](#)
 - ローカル ルート グループ
 - Cisco Unified Mobility [31-16](#)
 - Cisco Unified Mobility とのインタラクション [14-34](#)
 - TEHO [31-10](#)
 - インストールとアクティブ化 [31-17](#)
 - インタラクション [31-14](#)
 - インタラクションおよび制限事項 [31-14](#)
 - 概要 [31-1, 31-4](#)
 - コールされた番号の変換 (図) [31-13](#)
 - 混合されたルート リストの制限事項 [31-16](#)
 - サポートされるデバイス [31-14](#)
 - システム要件 [31-14](#)
 - 自動転送 [31-15](#)
 - 使用しない TEHO のプロビジョニング (図) [31-11](#)
 - 使用しないローカル オフネット アクセスのプロビジョニング (図) [31-8](#)
 - 使用する TEHO のプロビジョニング (図) [31-12](#)
 - 使用するローカル オフネット アクセスのプロビジョニング (図) [31-9](#)
 - 制限事項 [31-16](#)
 - 説明 [31-5](#)
 - 単純なローカル ルーティング [31-7](#)
 - 着信側トランスフォーメーション [31-12](#)

- プロビジョニングされたルート グループの
バインド **31-5**
- 補足サービス **31-15**
- ルーティング **31-6**
- ルート プラン レポート **31-16**
- ログアウトのコール フロー
 - Cisco エクステンション モビリティ **9-11**
- ログインのコール フロー
 - Cisco エクステンション モビリティ **9-10**
- 録音
 - BIB **34-59**
 - CTI イベント送信 (図) **34-60**
 - CTI および JTAPI/TSP アプリケーションとの
インタラクション **34-62**
 - CTI 要件 **34-60**
 - IPv6 **29-21**
 - SIP トランク デバイスとしてのレコーダ **34-19**
 - アーキテクチャ (図) **34-4**
 - アプリケーションから呼び出される **34-17**
 - アプリケーションから呼び出される (図)
34-51
 - アプリケーションのユーザの追加 (図) **34-67**
 - インタラクションのリスト **34-61**
 - エージェントがコールを保留にするとコールは
存続しない (図) **34-52**
 - エージェントの IP Phone からのストリーミング
(図) **34-6**
 - エージェントの会議 (図) **34-54**
 - 概要 **34-3, 34-16**
 - 概要 (図) **34-4**
 - 片方向メディア **34-58**
 - 片方向メディア (図) **34-58**
 - 可能にするために IP Phone の BIB をオンにする
(図) **34-66**
 - 関連項目 **34-77**
 - グループへのユーザの追加 (図) **34-68**
 - コーデックの使用制限 **34-58**
 - コーディング サーチ スペースの設定 (図) **34-70**
 - コール情報 **34-59**
 - コール特性 **34-56**
 - コールのコーデック (図) **34-57**
 - コール表示 **34-59**
 - コール保存 **34-59**
 - サービス パラメータ **34-76**
 - 再生トーンの動作 **34-57**
 - サポートされるデバイス **1-13, 20-10, 21-4,
34-6**
 - システム要件 **34-60**
 - 自動 **34-17**
 - 自動 (図) **34-19**
 - 制限事項
 - インターコム **34-63**
 - セキュリティ **34-63**
 - 制限事項のリスト **34-62**
 - 設定 **34-65**
 - 設定チェックリスト (図) **34-1**
 - 説明 **34-1**
 - 通知トーン **34-56**
 - トーンの設定 (図) **34-69**
 - ハードウェア要件 **34-61**
 - ファイアウォール (図) **34-58**
 - プロファイル
 - 作成 (図) **34-72**
 - 他の機能とのインタラクション **34-62**
 - モード **34-17**
 - モニタリングと同時 (図) **34-55**
 - 用語 **34-3**
 - ライン アピアランスに対する有効化 (図)
34-71
 - レコーダの冗長性の作成 (図) **34-76**
 - レコーダ用のルート パターンの作成 (図)
34-75
 - レコーダをポイントする SIP トランクの作成
(図) **34-74**
 - 割り込みコール (図) **34-53**
 - ロケーション伝達
 - PIDF-LO の例 **24-25**
 - SIP トランク間 **24-23**
 - SIP トランクでの位置情報関連のエラー処理
24-24

- 概要 [24-1](#), [24-23](#)
- 関連項目 [24-27](#)
- クラスタ間トランクでの位置情報関連のエラー処理 [24-24](#)
- クラスタ間トランクの間 [24-23](#)
- コール中に位置情報が変更された場合の機能インタラクション [24-25](#)
- 受信された位置情報の処理 [24-25](#)
- 設定 [24-26](#)
- 設定チェックリスト (表) [24-4](#)
- 論理パーティション
 - LPPolicyManager [32-13](#)
 - LPSession インフラストラクチャ [32-19](#)
 - SIP およびクラスタ間トランクをまたぐ位置情報伝達とのインタラクション [32-21](#)
 - SIP またはクラスタ間トランク設定要件 [32-22](#)
 - TRAI 規制
 - 適用 [32-6](#)
 - 履歴 [32-7](#)
 - アーキテクチャの概要 [32-8](#)
 - アップグレード時の設定 [32-50](#)
 - 位置情報および位置情報フィルタの使用 [32-9](#)
 - 位置情報識別子
 - 使用方法 [32-10](#)
 - 位置情報の設定 [32-41](#)
 - 位置情報フィルタの設定 [32-42](#)
 - インタラクション
 - Cisco Unified Mobility [32-34](#)
 - Cisco エクステンション モビリティ [32-33](#)
 - CTI 処理 [32-38](#)
 - アドホック会議、参加、回線をまたいで参加 [32-28](#)
 - コール転送 [32-26](#)
 - コール パークとダイレクト コール パーク [32-32](#)
 - コール ピックアップ [32-30](#)
 - シェアドライン [32-35](#)
 - 自動転送 [32-25](#)
 - ハント パイロット [32-37](#)
 - ミーティング会議 [32-29](#)
 - リスト [32-24](#)
 - ルート リスト [32-37](#)
 - 割り込み、C 割り込み、リモート再開 [32-36](#)
 - エンタープライズ パラメータ [32-11](#)
 - 概要 [32-4](#)
 - 関連項目 [32-50](#)
 - 基本コール用の処理 [32-20](#)
 - 許可ポリシーおよび拒否ポリシー [32-6](#)
 - 拒否処理 [32-19](#)
 - コール中に位置情報が変更された場合の機能インタラクション [32-22](#)
 - シェアドラインおよびルート リストでの位置情報の使用方法 [32-10](#)
 - 識別子 [32-5](#)
 - システム要件 [32-23](#)
 - 受信された位置情報の処理 [32-21](#)
 - 制限 [32-39](#)
 - 設定 [32-41](#)
 - 設定チェックリスト (表) [32-2](#)
 - 説明 [32-1](#)
 - デバイス タイプおよび関連付けられている Cisco Unified CM デバイス (表) [32-5](#)
 - 動的 SIP トランクとのインタラクション [32-22](#)
 - トラブルシューティング [32-50](#)
 - ポリシー
 - 検索 [32-42](#)
 - 設定 [32-43](#)
 - 設定項目 (表) [32-45](#)
 - 説明 [32-12](#)
 - 例 [32-12](#)
 - レコードの削除 [32-44](#)
 - ポリシー検索アルゴリズム
 - 説明 [32-16](#)
 - 例 (表) [32-17](#)
 - ポリシー チェック [32-19](#)
 - ポリシー ツリー
 - 説明 [32-13](#)
 - 例 (図) [32-14](#)

- ポリシーの設定 [32-42](#)
- ポリシー マッチング [32-18](#)

わ

割り込み

- PLAR のサポート [1-15](#)
- インストールとアクティブ化 [1-17](#)
- インターコム の使用方法 [28-7](#)
- インタラクションおよび制限事項 [1-14](#)
- 概要 [1-1](#)
- 関連項目 [1-20](#)
- サービス パラメータ [1-19](#)
- システム要件 [1-12](#)
- 設定 [1-18](#)
- 設定チェックリスト (表) [1-2](#)
- ソフトキー [1-8](#)
- パーティ参加トーン [1-10](#)
- ビルトイン会議ブリッジでのアクティブ化 [1-18](#)
- ビルトイン会議ブリッジと共有会議ブリッジの違い (表) [1-6](#)
- 論理パーティションとのインタラクション [32-36](#)

ワンボタン割り込み

- PLAR のサポート [1-15](#)
- パーティ参加トーン [1-10](#)

